



新約聖書

セミナー教師用手引き



新約聖書

セミナー教師用手引き

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会

ユタ州ソルトレーク・シティー

ご意見やご提案をお待ちしています。誤りのご指摘も含め、以下までお送りください。

Seminaries and Institutes of Religion Curriculum Services

50 East North Temple Street

Salt Lake City, Utah 84150-0008

USA

Email: ces-manuals@ldschurch.org

あなたのお名前、住所、ワード名とステーク名をご記入ください。

手引きの題名を必ず明記してください。その後、ご意見・ご提案をお書きください。

© 2016 Intellectual Reserve, Inc.

All rights reserved.

印刷：アメリカ合衆国

英語版承認：2015年2月

翻訳承認：2015年2月

原題：*New Testament Seminary Teacher Manual*

Japanese

12339 300

目次

はじめに 『新約聖書セミナー教師用手引き』についてvi	
わたしたちの目的vi	
レッスンの準備vi	
デイリークラス教師用手引きを活用するviii	
デイリーセミナープログラム (リリースタイムおよび早朝)x	
家庭学習クラスのレッスン用資料を活用するxii	
家庭学習セミナープログラムxiii	
その他の参考資料xiv	
デイリークラスのレッスンと家庭学習クラスのレッスン	
第1課 新約聖書の紹介 1	
第2課 救いの計画 5	
第3課 学習者の役割 9	
第4課 聖文の研究 13	
第5課 新約聖書の背景と概要 17	
家庭学習クラスのレッスン—	
救いの計画—新約聖書の紹介とその背景 (単元1) 21	
マタイによる福音書への導入 23	
第6課 マタイ1-2章 24	
第7課 マタイ3章 28	
第8課 マタイ4章 32	
第9課 マタイ5:1-16 36	
第10課 マタイ5:17-48 40	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ1-5章 (単元2) 44	
第11課 マタイ6章 46	
第12課 マタイ7章 50	
第13課 マタイ8-10章 54	
第14課 マタイ11-12章 58	
第15課 マタイ13:1-23 61	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ6:1-13:23 (単元3) 64	
第16課 マタイ13:24-58 66	
第17課 マタイ14章 70	
第18課 マタイ15章 74	
第19課 マタイ16章 78	
第20課 マタイ17章 82	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ13:24-17:27 (単元4) 86	
第21課 マタイ18章 88	
第22課 マタイ19-20章 92	
第23課 マタイ21:1-16 96	
第24課 マタイ21:17-22:14 101	
第25課 マタイ22:15-46 105	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ18:1-22:26 (単元5) 109	
第26課 マタイ23章 112	
第27課 ジョセフ・スミス訳—マタイ;マタイ24章 116	
第28課 マタイ25:1-13 120	
第29課 マタイ25:14-46 124	
第30課 マタイ26:1-30 128	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ23:1-26:30 (単元6) 132	
第31課 マタイ26:31-75 134	
第32課 マタイ27:1-50 138	
第33課 マタイ27:51-28:20 142	
マルコによる福音書への導入 147	
第34課 マルコ1章 148	
第35課 マルコ2-3章 152	
家庭学習クラスのレッスン—	
マタイ26:31-マルコ3:35 (単元7) 156	
第36課 マルコ4-5章 158	
第37課 マルコ6章 162	
第38課 マルコ7-8章 166	
第39課 マルコ9:1-29 170	
第40課 マルコ9:30-50 174	
家庭学習クラスのレッスン—	
マルコ4-9章 (単元8) 178	
第41課 マルコ10章 181	
第42課 マルコ11-16章 185	
ルカによる福音書への導入 189	
第43課 ルカ1章 190	
第44課 ルカ2章 194	
第45課 ルカ3-4章 198	
家庭学習クラスのレッスン—	
マルコ10章-ルカ4章 (単元9) 202	
第46課 ルカ5章 205	
第47課 ルカ6:1-7:18 209	
第48課 ルカ7:18-50 213	
第49課 ルカ8-9章 217	
第50課 ルカ10:1-37 221	
家庭学習クラスのレッスン—	
ルカ5:1-10:37 (単元10) 225	
第51課 ルカ10:38-12:59 228	
第52課 ルカ13-14章 232	
第53課 ルカ15章 236	
第54課 ルカ16章 240	
第55課 ルカ17章 244	
家庭学習クラスのレッスン—	
ルカ10:38-17:37 (単元11) 248	
第56課 ルカ18-21章 251	
第57課 ルカ22章 254	
第58課 ルカ23章 257	
第59課 ルカ24章 261	
ヨハネによる福音書への導入 265	
第60課 ヨハネ1章 266	
家庭学習クラスのレッスン—	
ルカ18章-ヨハネ1章 (単元12) 270	

第61課	ヨハネ2章	272	第99課	ローマ1-3章	441
第62課	ヨハネ3章	276	第100課	ローマ4-7章	446
第63課	ヨハネ4章	280	家庭学習クラスのレッスン—		
第64課	ヨハネ5章	284	使徒20章-ローマ7章(単元20)	450	
第65課	ヨハネ6章	288	第101課	ローマ8-11章	453
家庭学習クラスのレッスン—			第102課	ローマ12-16章	457
ヨハネ2-6章(単元13)		292	コリント人への第一の手紙への導入	461	
第66課	ヨハネ7章	295	第103課	1コリント1-2章	462
第67課	ヨハネ8:1-30	298	第104課	1コリント3-4章	466
第68課	ヨハネ8:31-59	302	第105課	1コリント5-6章	470
第69課	ヨハネ9章	306	家庭学習クラスのレッスン—		
第70課	ヨハネ10章	310	ローマ8章-1コリント6章(単元21)	474	
家庭学習クラスのレッスン—			第106課	1コリント7-8章	477
ヨハネ7-10章(単元14)		313	第107課	1コリント9-10章	481
第71課	ヨハネ11章	315	第108課	1コリント11章	485
第72課	ヨハネ12章	319	第109課	1コリント12章	488
第73課	ヨハネ13章	323	第110課	1コリント13-14章	492
第74課	ヨハネ14章	327	家庭学習クラスのレッスン—		
第75課	ヨハネ15章	331	1コリント7-14章(単元22)	496	
家庭学習クラスのレッスン—			第111課	1コリント15:1-29	498
ヨハネ11-15章(単元15)		335	第112課	1コリント15:30-16:24	502
第76課	ヨハネ16章	338	コリント人への第二の手紙への導入	506	
第77課	ヨハネ17章	341	第113課	2コリント1-3章	507
第78課	ヨハネ18-19章	345	第114課	2コリント4-5章	511
第79課	ヨハネ20章	349	第115課	2コリント6-7章	515
第80課	ヨハネ21章	353	家庭学習クラスのレッスン—		
家庭学習クラスのレッスン—			1コリント15章-2コリント7章(単元23)	519	
ヨハネ16-21章(単元16)		357	第116課	2コリント8-9章	521
使徒行伝への導入		360	第117課	2コリント10-13章	525
第81課	使徒1:1-8	361	ガラテヤ人への手紙への導入	529	
第82課	使徒1:9-26	365	第118課	ガラテヤ1-4章	530
第83課	使徒2章	369	第119課	ガラテヤ5-6章	533
第84課	使徒3章	373	エペソ人への手紙への導入	537	
第85課	使徒4-5章	377	第120課	エペソ1章	538
家庭学習クラスのレッスン—			家庭学習クラスのレッスン—		
使徒1-5章(単元17)		381	2コリント8章-エペソ1章(単元24)	542	
第86課	使徒6-7章	384	第121課	エペソ2-3章	544
第87課	使徒8章	388	第122課	エペソ4章	548
第88課	使徒9章	392	第123課	エペソ5-6章	552
第89課	使徒10-11章	396	ピリピ人への手紙への導入	557	
第90課	使徒12章	400	第124課	ピリピ1-3章	558
家庭学習クラスのレッスン—			第125課	ピリピ4章	562
使徒6-12章(単元18)		403	家庭学習クラスのレッスン—		
第91課	使徒13-14章	406	エペソ2章-ピリピ4章(単元25)	566	
第92課	使徒15章	410	コロサイ人への手紙への導入	568	
第93課	使徒16章	414	第126課	コロサイ	569
第94課	使徒17章	418	テサロニケ人への第一の手紙への導入	572	
第95課	使徒18-19章	422	第127課	1テサロニケ1-2章	573
家庭学習クラスのレッスン—			第128課	1テサロニケ3-5章	576
使徒13-19章(単元19)		426	テサロニケ人への第二の手紙への導入	580	
第96課	使徒20-22章	428	第129課	2テサロニケ	581
第97課	使徒23-26章	432	テモテへの第一の手紙への導入	585	
第98課	使徒27-28章	436	第130課	1テモテ	586
ローマ人への手紙への導入		440			

はじめに『新約聖書セミナー教師用手引き』について

わたしたちの目的

宗教教育セミナー・インスティテュートの目的

「わたしたちの目的は、以下のことができるよう、青少年とヤングアダルトを助けることです。イエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため、自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。」『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手引き』1)

この目的を達成するために、わたしたちは生徒に、聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。これらの教義と原則を、生徒が理解し強化されるような方法で教えます。わたしたちは、生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助けます。また、福音を他の人々に教える備えができるように彼らを助けます。

これらの目的を達成するため、あなたとあなたが教える生徒は、聖文とともに研究するときに次の福音を教え学ぶときの基本を取り入れるように勧められています。

- 御霊によって教え、学ぶ。
- 愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る。
- 毎日聖文を研究し、コースの聖典を読む。〔新約聖書全体をどこまで読んだかを追跡するための表は、LDS.org および store.lds.org にある新約聖書マスター聖句カード(アイテム番号 10480)にあります。〕
- 聖典と預言者の言葉の背景と内容を理解する。
- 福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、応用する。
- 福音の教義と原則を説明し、分かち合い、証する。
- 重要な聖句と基本的教義に精通する(『福音を教え学ぶ』10)。

これらの目的を達成することに加え、あなたは、生徒たちがイエス・キリストの福音に忠実であり、真実と誤りを識別することを学ぶよう彼らを助けなければなりません。生徒たちには、教会の教義、歴史、または社会的問題に対する見解についての質問があるかもしれませんが、あなたは、「研究によって、また信仰によって学問を求め[る]」(教義と聖約 88 : 118) よう生

徒たちを助けること、および si.lds.org の Seek Truth (真理を探求する) というセクションにある参考資料を活用することによって、そのような疑問に対処するために彼らを備えることができます。

この教師用手引きは、これらの目的を達成する助けとして作成されたものです。

レッスンの準備

主は、主の福音を教える人々に、「『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えるように命じられました(教義と聖約 42 : 12)。さらに、「信仰の祈りによって……与えられる」これらの真理を「御霊に導かれるままに」教えるべきであると指示しておられます(教義と聖約 42 : 13 – 14)。それぞれのレッスンを準備するときは、聖文と、聖文に含まれている教義と原則を理解する助けとして、よく祈って御霊の導きを願い求めてください。同様に、生徒たちが聖文を理解し、聖霊から教えを受けることを学び、学んだ事柄を応用したいという気持ちを感じるよう彼らを助ける方法を計画するときにも、御霊の促しに従ってください。

このコースで、あなたが準備し教えるときの最も重要なテキストは新約聖書です。教える章または節を、よく祈って研究してください。話の筋、人物、場所、出来事を含む、聖句ブロックの背景と内容を理解するように努めてください。各聖句ブロックの背景と内容についてよく分かるようになったら、そこに含まれている教義と原則を見つけ、その中で生徒が理解し応用すべき最も重要な真理はどれかを判断します。焦点を当てる事柄を見つけたら、その聖句に含まれる神聖な真理を生徒が学び応用するのに最も役立つ教え方、採り上げ方、活動を決めます。

この手引きは、あなたがそのようなプロセスを踏めるように助けることを意図したものです。教える聖句ブロックに応じて注意深くレッスン資料を検討してください。聖句ブロックに関する教え方の提案を全て使うか、それとも一部だけ使うか、自分で決めることができます。あるいは、生徒の必要と状況に合わせて、提案されている教え方に工夫を加えることもできます。

生徒が各レッスンの聖句ブロックの全体を学べるように助けることが大切です。そうすることによって、生徒は聖文の記録者が伝えようとしているメッセージの全容を理解することができます。しかし、レッス

ンを準備する段階で、あなたは手引きの中にある全ての教え方の提案を使う時間がないことに気づくでしょう。生徒が、福音の真理が真実であり重要であると感じ、それらを生活に応用するように助けるため、聖句ブロックのどの部分を強調すべきかを決める時、御霊の導きを求め、生徒の必要をよく祈って深く考えてください。時間が足りない場合は、節のまとまりを短く要約したり、次の節のまとまりに移る前に生徒が原則や教義を素早く見つけるように導くことで、レッスンを部分的に変更する必要があるかもしれません。

レッスン資料にどのような工夫を加えるか考えるときは、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の勧告に従ってください。

「パッカー会長は度々、まず基本に従い、次に状況に合わせて変えるようにと教えてくれました。指定されているレッスンに十分精通していれば、その後、御霊に従って変えることができます。」(“A Panel Discussion with Elder Dallin H. Oaks” からの “4.3.4 Decide through Inspiration” [宗教教育セミナー・インスティテュート衛星放送、2012年8月7日]、LDS.org)

教える準備をするときは、特別な必要を抱えている生徒に配慮してください。彼らが成功できるように、活動や期待を調整します。親や指導者と連絡を取ることは、生徒の必要を理解するために役立ち、また生徒に有意義で教化される経験を提供する助けにもなります。

レッスンを準備するときは、LDS.org (モバイルデバイスの場合は福音ライブラリー) にあるメモおよび日記ツールを使用してもよいでしょう。これらのツールは、聖典、大会説教、教会機関誌の記事、およびレッスンに印をつけるために使うことができます。レッスン中に使用するメモを追加して保存することもできます。これらのツールの使用方法についての詳細は、LDS.org のメモおよび日記のヘルプページを参照してください。

この手引き内の資料の一部は、New Testament Student Manual (教会教育システム手引き、2014年) からの内容を編集したものです。



マスター聖句

新約聖書からの25のマスター聖句は、それらが取り上げられるレッスンの文中で強調されています。これらの各レッスンには、マスター聖句のための教え方のアイデアも含まれています。マスター聖句を一貫して教える助けとして、手引きの随所にマスター聖句の復習活動が記載されています。マスター聖句の教え方のその他のアイデアについては、この手引きの付録、またはLDS.orgのセミナー生徒用資料を参照してください。

余白

印刷版の教師用手引きにある余白は、聖霊の促しを感じることに、メモ、原則、経験、その他のアイデアを書き留めることを含む、レッスン準備のために使用することができます。

注釈と背景情報

レッスンによっては、歴史的な背景、特定の概念、聖句についての理解を深めるための追加の引用と説明が、レッスンの終わりに付け加えられています。この箇所にある情報は、質問に答える準備をしたり、教えるときにさらなる洞察を加えるために使用してください。その他の注釈は、LDS.org、または福音ライブラリアプリにあるこの手引きのデジタル版で見つけることができます。

教えるためのその他のアイデア

教えるためのその他のアイデアは、一部のレッスンの終わりに記載されています。これは、レッスン内容の本文中に示されていないか、強調されていない教義と原則を教えるための提案です。また、DVDプレゼンテーション、およびLDS.orgビデオなどの映像メディアを使用することについての提案が記載されている場合もあります。その他の教え方のアイデアは、LDS.org、または福音ライブラリアプリにあるこの手引きのデジタル版で見つけることができます。

第 59 課

📖 マスター聖句—ルカ 24:36–39

生徒たちがルカ 24:36–39 を暗記できるように、クラスを4つのグループに分けます。聖文の中から別々の聖句を割り当て、各グループごとに割り当てられた聖句を記憶するように伝えます。数分たった後、それぞれのグループに、割り当てられた聖句を聖句の順番通りに暗唱してもらいます。どの生徒も聖句全体に親しむまで、次のレッスンから数回にわたって、繰り返し暗唱する時間を持つとよいでしょう。

マタイ 27:1–50

注釈と背景情報

マタイ 27:26 鞭打たれるとはどういう意味か

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は鞭打たれることの意味について次のように説明しています。

「この十字架刑の前の野蛮な習慣は善物をはぎ取ること、受刑者を柱か木枠に縛りつけて、鉛や骨で重みを付けた皮の鞭で体を打つことから成っていました。これは拷問にかけられて苦しんでいる者が流血し、衰弱し、時には死ぬまで放置されま

した。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻 (1965–1973年), 第1巻, 807)

別の話で、マッコンキー長老は、繰り返し次のように話しました。「多くの人々はこの鞭打ちだけで死んでしまいます。しかし主はこの苦痛から立ち上がり、カルバリにおける残虐かつ屈辱的な十字架上の死へと向かわれます。」(「ゲツセマナの清めのカ」[リアホナ] 2011年4月号, 17)

マタイ 14 章

は病気に苦しんでいた人々を主のもとに連れて来ました。多くの人々が主の衣のふさに触っただけで癒やされました。

最後に、自分たちが受けた印象に従って行動することにより、このレッスンで学んだ事柄を応用するよう生徒を励まします。

教えるためのその他のアイデア

📺 マタイ 14:28–31 ビデオプレゼンテーション—「登るべき山」

困難を経験しているときに主を呼び求める大切さを生徒が理解する助けとなるよう、ビデオ「登るべき山」(5分5秒)を

見せてもよいでしょう。このビデオはLDS.orgで閲覧可能です。生徒には、主がわたしたちをどのように困難から引き上げてくださるのかを見るように言います。

デイリーセミナリープログラム (リリースタイムおよび早朝)

この手引きには、デイリークラスの教師のために、次の項目が含まれています—デイリークラスを教えるための160のレッスン、教え方のヒント、各書への導入、マスター聖句と基本的教義を教えるための補助資料。

各書への導入

各書への導入は、聖典各書の最初のレッスンの前に記載されています。これには、この書を研究する理由、誰がこの書を書いたのか、いつどこで書かれたか、誰のためになぜ書かれたのか、この書の特徴は何か、という質問に答えることによって、各書の概要が提供されています。また、各書の内容も短く概説されています。教師は、各書への導入からの文脈および背景情報を、必要に応じてレッスンに組み込むようにしてください。

デイリークラスのレッスン

レッスンの構成

この手引きの各レッスンでは、特定の概念、教義や、原則ではなく、聖句ブロックに焦点が当てられています。この構成は、あなたと生徒が配列順に聖文を研究し、聖典の本文から自然に浮かび上がってくる教義と原則について話し合うために役立ちます。生徒は聖文の背景を学んで教義や原則を見つけるとき、その真理に対する理解を深めることができます。生徒はさらに、靈感を受けた聖文の記録者が伝えようとしたメッセージの全容をもっとよく知り、理解することができるようになります。この方法で聖文を教えることは、生徒が個人の聖文研究を通して永遠の真理を見出し、それを応用する方法を学ぶ助けとなります。

各レッスンで、聖句ブロックの全てが強調されるわけではありません。靈感を受けた記録者のメッセージ全体に照らしてそれほど重要ではない場合、あるいは生徒の状況に当てはまらない場合、その聖句ブロックを強調することはありません。あなたには、生徒の必要と関心に応じて、これらの資料に工夫を加える責任があります。あなたはレッスン資料の中の特定の教義や原則を強調したり、手引きの中で詳しく扱われている聖句ブロックのセグメントをそれほど強調しない選択をすることによって、この手引きのレッスンアイデアに工夫を加えることができます。レッスンを準備し、教えるときは、このような変更を行う助けとして聖霊の導きを求めてください。

教義と原則

レッスン内容の本文中には、重要な教義と原則が太字で強調されている箇所が幾つかあります。これらの教義と原則が教科課程の中で明確にされているのは、次の理由によります。(1) 聖句ブロックの中心となるメッセージを反映している。(2) 生徒の必要と状況に特によく当てはまっている。(3) 生徒が主との関係を深めるために役立つ重要な真理である。ただし新約聖書には、教科課程の中で明確にされている真理よりもはるかに多くの真理が教えられているということに留意してください。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、聖文には「さまざまな状況でさまざまな人の必要に適合する真理の組み合わせが無限に」とあり、教えています。 (“The Great Plan of Happiness” [教義と聖約／教会歴史に関するCESシンポジウム、1993年8月10日]、si.lids.org。『セミナリーを教える』69、LDS.orgも参照)

教えるときには、聖文にある教義と原則を見つける機会を絶えず生徒に与えてください。生徒は見つけた真理について述べる時、教義や原則についてこの手引きの中で述べられている表現とは違う言葉を、しばしば用いるかもしれません。また、教科課程の中で明確にされていない真理を指摘するかもしれません。生徒が答えを述べる時に用いた言葉が手引きで使われている言葉と違っている、あるいは教科課程の中に述べられていない真理に言及したと

いう理由で、生徒の答えは間違っていると思わせないように気をつけてください。ただし、生徒の言葉が教義的に正しくない場合、あなたには、愛と信頼の雰囲気を保ちながら、生徒が自分の言葉を訂正できるように優しく助ける責任があります。そうすることによって、クラスの生徒たちに大切な学習経験を与えることができます。

学習進度

この手引きには160のレッスンが載せられています。このコースを教える年度の長さを考慮し、必要に応じてレッスンと進度に工夫を加えるとよいでしょう。学習進度ガイドの例については、この手引きの付録を参照してください。学習進度ガイドは、1学年36週(180日)に基づいて作成されていて、20回の「フレックスデー」があります。フレックスデーは、日々のレッスンに手を加えたり、生徒が重要な聖句や基本的教義に精通するのを助けたり、以前学んだ資料を復習したり、必須の理解度調査の実施と復習をしたり、スケジュールを調整するために活用することができます。

補習

デイリーセミナリープログラムで生徒に補習用課題を与える際に、『新約聖書 家庭学習セミナリー生徒用学習ガイド』を使用することができます。家庭学習用の学習ガイドは、この手引きに述べられているレッスンの内容と一致しています。欠席が多い生徒には、学習ガイドの中からクラスで受けられなかった内容に相当する課題を行うよう割り当てることが可能です。割り当てはLDS.orgから印刷できるため、補習課題が必要な生徒のために手引き一冊全体を提供する必要はありません。『新約聖書 家庭学習セミナリー生徒用学習ガイド』





ド』に関する情報は、この手引きの「家庭学習セミナープログラム」の項に詳しく述べられています。

教え方のヒント

この手引きのページの左右の余白には、「教え方のヒント」が記載されています。そこには、あなたと生徒が新約聖書を研究する際に、「福音を教え学ぶときの基本」をどのように応用できるかが説明されています。また、さまざまな教授法、技術、採り上げ方の効果的な活用法に関する提案も記されています。ここに挙げられている原則が分かるようになったら、教える際に絶えずそれを実行し応用する方法を探すようにしてください。

マスター聖句と基本的教義

生徒が永遠の真理を心に大切に蓄える助けとして、また聖文から学び教えることについて自信を増すために、宗教教育セミナー・インスティテュート (S&I) は、それぞれの学習コースで生徒が精通すべき幾つかの聖句を選んでいきます。さらに、生徒がセミナーの4年間に、またその後の生涯で、理解し、信じ、従って生活する必要がある重要な教義を強調するため、基本的教義のリストが挙げられています。各コースの手引きは、生徒が配列順に聖文の研究を継続する中で、基本的教義が現れるたびにそれを強調するよう作成されています。マスター聖句の多くは基本的教義を念頭に置いて選ばれているので、生徒にマスター聖句を教えるときは、同時に基本的教義も教えることとなります。

生徒がその思いと心の中に永遠の真理を大切に蓄えるとき、聖霊は、必要なときにこれらの真理を生徒の記憶から呼び起こし、信仰をもって行動する勇気をお与えになります (ヨハネ 14:26 参照)。ハワー

ド・W・ハンター大管長は次のように教えています。

「皆さんに切にお勧めします。教えるときに聖文を使ってください。また、生徒が聖文を使い、聖文を使い慣れるように、皆さんのできる範囲で全てのことをして生徒を助けてください。若い人々が聖文を信頼するようになってほしいのです。……

……生徒が聖文の力と真理を信頼し、天の御父が実際に聖文を通じて自分に語りかけておられるという確信と、聖文を調べれば自分の問題と祈りに対する答えが見つかるという確信を持ってほしいと、わたしたちは思っています。……

……適切な聖句を探し出せるほどよく聖文を知らないために必要な助けを得られず、びくびくしながら、またはばつの悪い思いで、あるいは恥ずかしい気持ちで教室を後にする生徒が一人もいないようにと、わたしたちは願っています。」(“Eternal Investments” [CES 宗教教育者への講話, 1989年2月10日], 2, si.lds.org。『セミナーを教える』20, LDS.org も参照)

マスター聖句と基本的教義に関する詳細については、この手引きの付録を参照してください。

家庭学習クラスの レッスン用資料を 活用する

家庭学習レッスンの要約

この要約は、その週に生徒が生徒用学習ガイドを使って研究した聖句の背景ならびに教義と原則について、あなたが精通するのに役立ちます。

はじめに (レッスンの紹介)

「はじめに (レッスンの紹介)」は、あなたがレッスンで聖句ブロックのどの部分を強調したらよいかを知るのに役立ちます。

節のまとめ (セグメント) と背景の要約

聖句ブロックは、背景や内容が変わる場所に合わせて「節のまとめ (セグメント)」に分けられます。節のまとめ (セグメント) の表示には、それらの節のまとめに記されている出来事や教えの簡単な要約が伴います。

レッスン内容

レッスン内容には、あなたが研究し、教えるための指針が提供されています。これには、質問、活動、引用文、図、表などを使った教え方のアイデアが提案されています。

教義と原則

聖文の研究から自然に引き出される教義や原則が太字で表示されているので、あなたはそれらを容易に見つけ、生徒との話し合いの中で強調することができます。

次の単元の紹介

各レッスンの最後の段落には、次の単元に関する簡潔な説明が提供されています。生徒がこれから1週間の聖文研究を楽しむに役立つとして、各レッスンの最後にこの段落を紹介しています。

家庭学習クラスのレッスン

マルコ 4-9 章 (単元 8)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマルコ 4-9 章 (単元 8) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部的を教えたものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖書の促しに従ってください。

第1日 (マルコ 4-5 章)

生徒たちは、悩みや恐れを抱いているときに主の助けを求めるならば、主がわたしたちに平安をもたらしてくださいことを学びました。また、救い主の力を生活の中で経験するときに、救い主の祝福と憐れみについて、人々に証を述べることも学びました。マタイの娘と長血をわづらっていた女の話から、生徒たちは、イエス・キリストのみもとに近づく努力を通して主への信仰を示すときに、主はわたしたちを完全にしてくださること、イエス・キリストへの信仰を動かせるには、不安なときに主を信頼し続ける必要があることを学びました。

第2日 (マルコ 6-8 章)

5,000人以上に食べ物を与えられた奇跡から、救い主にわたしたちの全てをささげるとき、救い主は御自分の目的を達成するために、わたしたちのささげものを大いなるものとして下さることを生徒たちは学びました。また生徒たちは、人々の必要を知りその必要を満たすために助けることで、救い主の模範に従うことができるとも学びました。

第3日 (マルコ 9:1-29)

救い主が少年の体から悪霊を追い出された奇跡から、生徒たちは、イエス・キリストを信じるなら、悪霊を追い出すことができることを学びました。

はじめに

このレッスンは、正しいと分かっていることをするよりも人々を喜ばせようとするのは、誤った選択、苦しみ、後悔につながることを理解する助けとなります。

教えるための提案

マルコ 6:1-29

イエス、ナザレで拒まれ、十二使徒を遣わされる；バプテスマのヨハネの死についての詳しい記述

間違っていると分かっていることをせざるを得なかったときのことを、生徒たちに考えてもらうことで、レッスンを始めます。

次の言葉をホワイトボードに書きま (この言葉は「正しい選択をする」「聖徒の道」1995年1月号、42にあります)。

「悪いことをする人々があなたを仲間に入れようとするのは、他の人も同じことをやればそれだけ安心するからです。」(リチャード・G・スコット長老)

・悪いと分かっていることを誰かがあなたにさせようとしむける例には、どのようなものがありますか?

マルコ 6 章を研究しながら、生徒たちに、仲間からの不義の圧力に屈しないための助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マルコ 6:17-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデがバプテスマのヨハネにどのようなことをしたかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

・ヘロデはヨハネにどのようなことをしたでしょうか。また、それはなぜですか?

ヘロデは妻を離縁し、兄弟弟子の妻ヘロデヤをめぐりました。この行為はユダヤ教の律法に露骨に違反するものであり (レビ 18:16 参照)、バプテスマのヨハネはそれに対する非難の言葉を口にした。この結婚に対するヨハネの反対はヘロデヤを怒らせ、ヘロデは彼女をなだめようとした。

家庭学習クラスのレッスン

わたしたちは、しるしを求めることで重きな真理を受けることはない。

マタイ 16:5-12 のまとめとして、救い主が、パリサイ人とサドカイ人の偽りの教えについて、弟子たちに警告されたことを説明します。

マタイ 16:13-20

ペテロ、イエス・キリストについての証を述べ、天の王国の鍵を約束される

パリサイ人とサドカイ人がしるしを求めたことを叱責された後、イエスは真理の証を受ける方法について、弟子たちに教えられました。一人の生徒に、マタイ 16:13-14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが尋ねられた質問と弟子たちの答えを見つけてもらいます。

- ・ 救い主は弟子たちにどんな質問をなさいましたか。弟子たちは何と答えましたか。(エリヤとエレミヤは、旧約聖書の預言者エリヤと、エレミヤであることを説明するとよいでしょう。)
- ・ 弟子たちの答えから、イエスの務めのこの時点で、人々はイエスがどのような御方であるということ、どれくらい理解していたかについて、何が分かるでしょうか。

注— 第4日のレッスンでは、生徒はマスター聖句 (マタイ 16:15-19) を学びました。そのマスター聖句を生徒たちと復習する時間を数分取りとよいでしょう。

一人の生徒に、マタイ 16:15-17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がなされた二番目の質問を見つけてもらいます。

- ・ 救い主がなされた二番目の質問はどのような質問だったでしょうか。ペテロはどのように答えましたか。
- ・ 17 節によると、ペテロはどのようにしてイエスが神の御子であることを知ったのでしょうか。(天の御父が聖霊によってこの真理をペテロに明らかにされていたことを説明します。)

- ・ どうしたらイエス・キリストの証を得ることができるかについて、これらの聖句からどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけてくれるでしょう。わたしたちは、聖霊による啓示を通してイエス・キリストの証を得る。)
- ・ 別の方法で証を得るのではなく、聖霊の啓示によって証を得ることがなぜ大切だと思いますか。

救い主の証を得られるようわたしたちを助ける聖霊の役割について生徒が理解できるように、一人の生徒に、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「人の霊に語りかける神の御霊は、天界の存在と接して真理が与えられる場合よりも、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っています。聖霊によって真理は体の骨髄にしみ込み、忘れ去ることができないものとなるのです。」(歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス) 169)

- ・ わたしたちが聖霊によって啓示を受けられるよう、自らを備えるためにどのようなことができるでしょうか。
- ・ どのようにして、あなたはイエス・キリストが神の御子であり、救い主であることを知りましたが、聖霊からその証を受けるために、あなたはどのような備えをしましたか。

生徒たちに、どうしたら自分の証を強められるか、または聖霊を通して証を得るためにする必要のあることを考えてもらいます。受けた印象に従って行動するように生徒を励ましてください。

次の単元 (マタイ 18:1-22:26)

生徒に、人を赦すことが難しかったときのことを考えてもらいます。次の質問を考えてもらいます。その人を赦さない自分を正当化できると感じたのはなぜでしょうか。ある人を赦さない自分を正当化できると感じるときでも、その人の過ちを赦すべきなのはなぜでしょうか。明日からの一週間引き続き学習を続けるうえで、これらの質問の答えを見つけてくれるよう生徒に言います。

家庭学習セミナー プログラム

距離やその他の要因（障がいなど）のために生徒がデイリークラスに出席できない場所においては、地元の神権指導者とS&I代表者の指示の下で家庭学習セミナークラスを組織することができます。早朝やリリースタイムとして（週日の）デイリークラスが行われている場所では、一般的に家庭学習セミナークラスは行われません。

家庭学習プログラムでは、生徒が個人レッスンの課題を家庭で行うことによって、週日のクラスに出席しなくても、セミナーの単位の取得が認められます。これらのレッスンは、『新約聖書 家庭学習セミナー生徒用学習ガイド』と呼ばれる別の手引きに収録されています。週に1回、生徒はセミナー教師とともに集まり、課題を提出し、教室でのレッスンに参加します。生徒用学習ガイドと週1回の教室でのレッスンの詳細は下記のとおりです。

家庭学習セミナー 生徒用学習ガイド

『新約聖書 家庭学習セミナー生徒用学習ガイド』は、家庭学習の生徒が、週日のクラスに出席している生徒と同じように新約聖書を研究する経験を得られるようにすることを意図して作られています。したがって、生徒用学習ガイドの進度と強調される教義と原則は、この手引きの資料と一致しています。生徒用学習ガイドには、マスター聖句に関する指示も含まれています。マスター聖句は、聖文に出てくるとおりの文脈の中で取り上げられ、その聖句が含まれているレッスンの中でしばしば筆記課題が与えられます。

家庭学習セミナーの生徒は、毎週、生徒用学習ガイドから4つのレッスンを終了し、セミナー教師が行う週1回のレッスンに参加しなければなりません。生徒は学習ガイドからの番号が付された課題を、聖典学習帳を使って完成します。聖典学習帳は2冊持っておき、1冊を教師に提出して

いる間、もう1冊を使って研究を続けられるようにしなければなりません。毎週クラスで教師に会うときに、生徒は家庭学習クラスの教師に聖典学習帳を1冊提出し、前回提出していた別の1冊を次週のレッスンで使うために教師から返してもらいます。（例えば、ある週、生徒は聖典学習帳1を使って課題を完成します。生徒はその聖典学習帳をクラスに持って行き、教師に提出します。それから一週間、生徒は聖典学習帳2を使って課題を完成します。次に生徒が聖典学習帳2を提出すると、教師は聖典学習帳1を生徒に返します。その後、生徒は聖典学習帳1を使って次の週の課題を完成します。）

セミナーの生徒は皆、毎日聖文を研究し、そのコースの聖典を読み終えるように奨励されています。さらに、家庭学習の生徒は、各単元にある週ごとの4つの家庭学習レッスンそれぞれを毎日30分から40分かけて学び、また週1回の家庭学習レッスンに出席する必要があることを理解しておかなければなりません。

週1回の家庭学習クラスのレ ッスン

『新約聖書 家庭学習セミナー生徒用学習ガイド』の各単元は、デイリークラスの教師用手引きにある5つのレッスンに対応しています。この手引きでは、5つのデイリーレッスンごとにそれに続けて週1回の家庭学習クラスのレッスンが掲載されています。家庭学習クラスのレッスンは、生徒がその週の間生徒用学習ガイドのレッスンを終了して学んだ教義と原則を復習し、理解を深め、応用する助けとなります。これらのレッスンでは、生徒用学習ガイドに述べられていない真理を取り上げることがもできます。（レッスンのスケジュールを計画する助けとして、この手引きの最後の付録にある「家庭学習クラスの教師のための学習進度ガイド」を参照してください。）

家庭学習クラスの教師として、あなたは生徒が家庭で研究している事柄を十分に理解しておき、生徒とともに集まるときに、質問に答え、また有意義な話し合いを持

てるようにしておかなければなりません。レッスン時に参照できるように、週1回のクラスには各自の聖典と聖典学習帳、生徒用学習ガイドを持参するよう生徒たちに伝えておきます。あなたが教える生徒の必要に応じて、また聖霊の導きに応じて、レッスンを工夫してください。レッスンを準備し、教えるときに、この手引きにあるデイリークラスの教師用レッスンを参考にすることもできます。デイリークラスで使われる教え方のヒントと教授法を学んでおくと、週1回のレッスンの教え方を向上させる助けとなります。生徒が特別に必要なとしていることを考慮してください。例えば、文章を書くことが難しい生徒がいる場合、録音機器の使用を認めたり、その生徒の答えを書く手伝いができる家族や友人に、その生徒の考えを書き留めてもらいます。

週1回のレッスンの最後に、毎回、生徒の聖典学習帳を集め、研究を継続するように生徒を励まします。上記の「家庭学習セミナー生徒用学習ガイド」の項で説明されているように、次の週の課題を行えるよう生徒に聖典学習帳を渡します。（ステーク〔で召された〕セミナー教師は、神権指導者と両親の指導の下で、家庭学習セミナーに登録したセミナーの生徒と電子機器を使って通信をすることができます。）

生徒たちの聖典学習帳の課題を読むときは、短いメモを書き入れたり、次に会ったときに感想を伝えたりして、定期的に生徒の努力を評価します。また、励ましと有意義なフィードバックを提供するための他の方法を検討してもよいでしょう。これは、あなたが生徒の努力に関心を持っているということを生徒たちが理解する助けとなり、彼らが真剣に答えを書く動機づけにも役立ちます。

重要な聖句に精通するための取り組みの大半は、生徒が家庭学習レッスンを修了していく中で行われます。家庭学習の教師は、単元のその週の聖文研究の中で出てきたマスター聖句を暗唱や復習するように勧めることによって、生徒が家庭学習をするために払った努力をフォローアップすることができます。

その他の参考資料

LDS.org

『新約聖書セミナー教師用引き』（nttm.lds.org）および『新約聖書家庭学習セミナー生徒用学習ガイド』は、LDS.org（モバイルデバイスの場合は福音ライブラリー）で利用できます。教師用引きのデジタル版には、紙面の制約上この印刷版引きには記載されていない追加の注釈と背景情報、教えるためのその他のアイデア、メディアリソースが含まれています。

si.lds.org

教師は、レッスンの準備の助けとして、およびその他の教授アイデアを探すために、宗教教育セミナー・インスティテュートのウェブサイト（si.lds.org）にアクセスすることができます。

メモおよび日記ツール

教師と生徒は、レッスンの準備や、聖典を学習するときに、これらの手引きのデジタル版に印をつけたりメモを追加するためにオンラインとモバイル版のメモや日記ツールを使用することができます。教師用引きと、生徒用学習ガイドは、LDS.org からその他の形式（PDF、ePub、mobi [Kindle] ファイルなど）でダウンロードすることができます。

その他の項目

以下の参考資料は、オンラインや、スーパーバイザー、教会の地元の教会配送センター、教会のオンラインストア（store.lds.org）を通じて入手することができます。



『新約聖書 DVD プレゼンテーション 1 - 25』（アイテム番号 54014）



『真理を守る—福音の参考資料』（アイテム番号 36863）



LDS.org の「メディアライブラリー」



LDS.org の「福音のテーマ」



『福音の視覚資料集』（アイテム番号 06048）



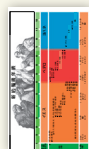
『若人の強さのために』（アイテム番号 09403）



『聖典学習帳』（アイテム番号 09591）



New Testament Student Manual (教会教育システム手引き, 2014年) (アイテム番号 10734)



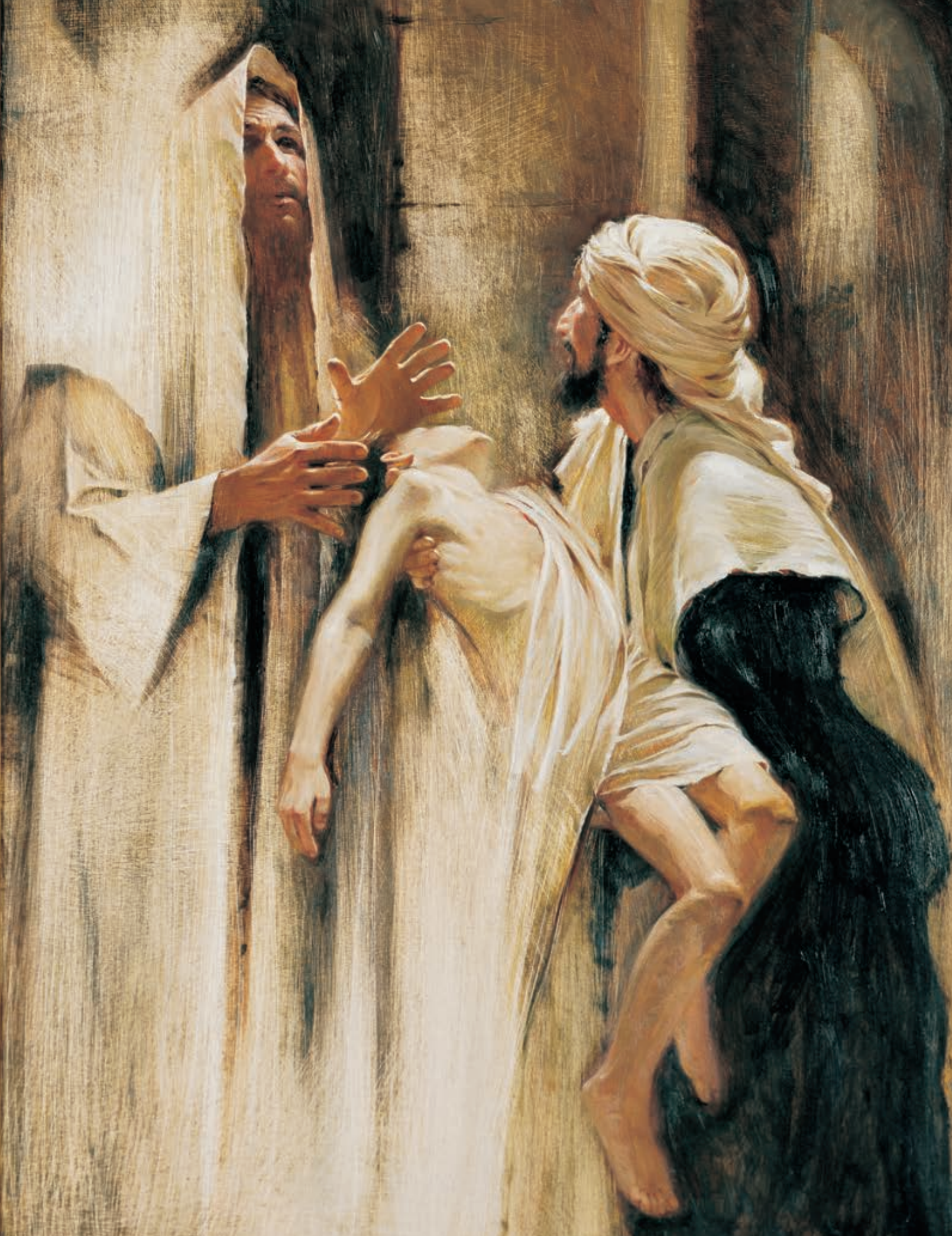
『新約聖書しおり』（アイテム番号 10460）



セミナーフォルダー（生徒が配付物やその他の資料を保管するためのもの）(アイテム番号 09827 : 英語のみ)



『新約聖書マスター聖句カードおよび聖文読書進度表』（アイテム番号 10480）





第1課 新約聖書の紹介

はじめに

新約聖書には、イエス・キリストの現世での生涯、教え、および贖罪、イエス・キリストの教会の設立、そして昇天後も引き続きイエスが導かれた初期の弟子たちの教導の業がおもに記録されています。このレッスンでは、イエス・キリストと主の古代の使徒の教えに見いだせる2つの主要なテーマを紹介する

ことにより、新約聖書を研究するために生徒を備え、動機づけをすることを意図しています。2つの主要なテーマとは、「わたしのもとに来なさい」という救い主の度重なる招きと、同じことを行うよう他の人々を助ける主の弟子たちの責任です。

教えるための提案

新約聖書はわたしたちがイエス・キリストのもとへ来る助けとなる

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます—わたしたちの時代に、青少年が経験する困難な重荷にはどのようなものがあるでしょうか。

空の箱またはバックパック、そしてそれらに入れる何か重いもの（例えば大きな石や本）をクラスに持参します。一人の生徒に前に来てもらい、空の箱を持つかバックパックを背負ってもらいます。他の生徒には、ホワイトボードに書いてある質問に答えてもらい、別の生徒に生徒の答えをホワイトボードに書いてもらいます。答えるごとに、その箱またはバックパックがいっぱいになるまで重いものを詰めていきます。

- この重荷を一日中背負わなければならないとしたら、どでしょうか。

ホワイトボードに挙げられた幾つかの重荷が原因で生じる可能性がある難題または困難を生徒に説明してもらいます。

新約聖書は、主の教え、奇跡、贖いの犠牲、および初期の教会の弟子たちを訪れられたことを含む、イエス・キリストの現世と復活後における教導の業について教えていることを説明します。主の教えと他の人々との交わりの至るところに、わたしたちの背負う重荷を軽くすることができる真理が繰り返されています。

マタイ 11 章には、生徒が今年度の新約聖書の研究でよく目にするようになるこの主要テーマの例が記されていることを説明します。一人の生徒に、マタイ 11:28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、困難な重荷を背負う人々に対する救い主の招きを見つけてもらいます。

- 重荷を負って苦労しているとはどのような意味だと思いますか。
- 救い主は、救い主の休息を受けるには何をしなければならないと言われましたか。（生徒の言葉で、次の原則をホワイトボードに書きます。重荷を負ってイエス・キリストのもとに来るとき、主はわたしたちを休ませてくださる。）
- イエス・キリストのもとに来るとはどのような意味だと思いますか。

生徒がキリストのもとに来るという意味を理解できるように、一人の生徒に、マタイ 11:29 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主のもとに来ることを願っている人々に対する救い主の指示を見つけてもらいます。

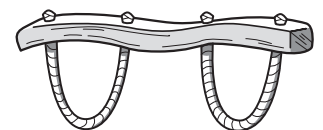
- これらの節によると、わたしたちは主のもとに来るために何をしなければなりませんか。

ホワイトボードに雄牛のくびきの絵を描くか、くびきの写真を見せます。

くびきとは、2頭の牛やその他の動物をつなぐ、または一対にするための横木で、一緒に荷を引けるようにするためのものであることを説明します。

- くびきの目的や利点は何でしょうか。（くびき自体も負担であり重荷ではあるものの、両方の動物がそれぞれの力と強さを統合することができるため、生産性は向上されます。）
- 救い主のくびきを負うとはどういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがどのように救い主のくびきを負うか、またそうすることによって受けることができる祝福を見つけてもらいます。





「くびきをつけられた動物は横に並ぶので、作業を行うために一緒に動くことができるのです。

『わたしのくびきを負〔い〕なさい』という、主の個人的な招きについて考えてください。聖約を交わし守ることにより、人は主イエス・キリストとつながります。人が最善を尽くしても主の力には及ばず、比較にすらなりません。にもかかわらず、救い主は御自分に頼って一緒に荷を引くように招いておられます。現世の旅で主を信頼し、主とともに荷を引くなら、確かに主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いのです。

わたしたちは独りではなく、独りでいる必要もありません。日々、天の助けを受けながら力強く進むことができます。救い主の贖罪によって、『自分が持つ以上の』能力と強さを得ることができます（「われ主を愛して」『賛美歌』134番。）（「容易に重荷に耐えられるように」『リアホナ』2014年5月号, 88）

- わたしたちを救い主イエス・キリストに「つなげる」ものは何でしょうか。
- ベドナー長老によると、救い主につながっていることによる祝福とは何でしょうか。

マタイ 11:28 - 29 にある「休み」という救い主の約束は、必ずしも主がわたしたちの問題や難題を取り除いてくださるという意味ではないことを指摘します。しばしば、救い主は、わたしたちが試練を克服したり耐えるために必要な平安と強さを与えてくださることで、わたしたちの重荷を軽くしてくださいます。わたしたちが現世における難題の中で忠実であるならば、わたしたちが受ける究極の安息は、神とともに昇栄することです（教義と聖約 84:23 - 24 参照）。

主のもとに来た人々に対して救い主がどのように休息をお与えになったかについて、生徒に深く考えてもらいます。何人かの生徒に経験を分かち合ってもらいます。あなた自身の経験を一つ話してもよいでしょう。

生徒に、新約聖書を研究するこの一年を通して、イエス・キリストのもとに来ることができする方法に関する具体的な目標を設定するように勧めます。それぞれの目標に、毎日聖典を研究し、今年中に新約聖書を全て読むことを含めるよう生徒を励まします。

イエス・キリストの弟子は他の人々が主のもとに来ることを助ける責任を持つ

これまでで、経験したこと、または見たり、読んだり、聞いたりしたことについて誰かに話したくてしかたがなかった時のことを生徒に考えてもらいます。何人かの生徒に、誰かに話したくてしかたがなかったことについて話してもらいます。

新約聖書には、主によって強くされ、教えられ、または祝福された後で、主について他の人々に伝えたいという願いを感じた人たちの多くの例が記載されていることを説明します。数人の生徒に、順番に、ヨハネ 1:37 - 42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、バプテスマのヨハネがイエスについて証するのを聞いたヨハネの2人の弟子たちが何をしたかを見つけてください。

- アンデレは、イエスと話したときにイエスについて何を知りましたか。
- イエスがメシヤであることを知った後で、アンデレは何をしましたか。
- アンデレが彼の兄弟であるシモン・ペテロにこの知らせを伝えたくてたまらなかったのはなぜだと思いますか。

ヨハネ 1:43 - 44 の要約として、救い主がピリポという名の人を救い主の弟子となるように招いたことを話します。一人の生徒に、ヨハネ 1:45 - 46 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがメシヤであることを知った後でピリポが何をしたかを見つけてもらいます。

- ピリポはナザレのイエスについてナタナエルに何と言いましたか。
- イエスがメシヤであるというピリポの証に対して、ナタナエルはどのように応えましたか。
- ピリポのナタナエルに対する招きはどのようなものでしたか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—わたしたちがイエス・キリストのもとに来るとき、_____。

- 新約聖書のこれらの例に基づくと、わたしたちが主のもとに来るときにどのような願いを持つようになるでしょうか。（生徒たちが答えるとき、ホワイトボードの文章を完成させて次の原則を示します。わたしたちがイエス・キリストのもとに来るとき、主のもとに来よう他の人々を招く願いをより強く持つようになる。）

毎日の聖文研究を奨励する

新約聖書を個人的に研究するための時間を毎日取るように生徒を励まします。適切にフォローする方法（この手引きの付録にある読書進度表を参照）を提供することによって、生徒たちが毎日の研究を記録する援助をすることができます。生徒が個人の聖文研究で学んでいる事柄、および研究中に感じたことを他の生徒と分かち合う機会を定期的に提供してください。自分で聖文を研究することが難しい生徒が恥ずかしい思いをしたり、落胆しないように気をつけてください。

生徒がこの原則をよりよく理解することを助けるため、ホワイトボードに次の図を書き写します。

- わたしたちが主のもとに来るときに、キリストのもとに来るよう他の人々を招く願いをより強く持つようになるのはなぜだと思いますか。

大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、イエス・キリストのもとに来るよう他の人々を招くときに受けるすばらしい祝福について教えていることを説明します。一人の生徒に、次の話を声に出して読んでもらいます。

「最善を尽くして人々をキリストのもとに招くなら、自分の心も変わります。……人々が主のもとに来るのを助けることにより、あなた自身も主のもとに来たことを悟るでしょう。」(「キリストのもとに来なさい」『リアホナ』2008年3月号, 52)

- イエス・キリストのもとに来るよう他の人々を招くとき、わたしたちの生活には何が起るでしょうか。

次の図と同じように、ホワイトボードの絵にもう一つの矢印を付け足します。

- キリストのもとに来るよう他の人々を招くことが、わたしたちが主に近づく助けにもなるのはなぜだと思いますか。
- あなたを救い主と救い主の福音のもとに来るよう招いたのは誰でしたか。その結果、あなたの人生はどのようなに祝福されてきましたか。

生徒たちに、誰をイエス・キリストのもとに来るよう招くことができるかよく祈って考えるように励まします。

- 他の人を主のもとに来るように招くには何ができるでしょうか。

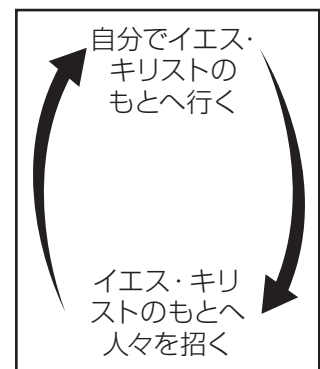
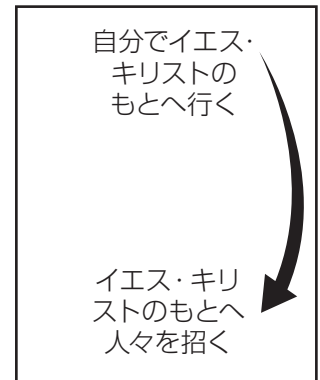
イエス・キリストはどのような御方で、主の福音がどのように人々の生活を祝福するのか「きて見[る]」ように、生徒が他の人々を招くための一つの方法は、友人やクラスメートをセミナーに出席するよう招くことであると説明します。

一人の生徒に、ヨハネ1:47-50を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ナタナエルが救い主に会ったときにどのような経験をしたかを見つけてもらいます(「偽りが無い」という言葉は、うそやごまかしが無いという意味であることを説明します)。

- 救い主は、ナタナエルにイエスは神の子であると宣言させたのは何であったと言われましたか。
- 50節によると、ナタナエルが信じたために救い主が約束されたことは何ですか。

ナタニエルが、アンデレ、ペテロ、ピリポ、およびその他の弟子たちとともにイエスの使徒の一人となったことを説明します。これらの使徒たちはイエス・キリストのもとに来るという招きを聞き入れたため、イエス・キリストの奇跡と教え、およびキリストの復活と昇天を含む、数多くの「もっと大きなこと」を目の当たりにしました(50節)。

生徒たちが今年新約聖書を研究しながら、主のもとに来るようという救い主の心からの招きを何度も感じるはずであることを証してレッスンを終えます。今年1年を通して学ぶ教義と原則を応用するとき、生徒たちはそれぞれの重荷に対して主の助けを受け、古代の使徒たちのように、他の人々もキリストに近づくように助けたいという願いで満たされるでしょう。



注釈と背景情報

マタイ 11:29 – 30 「わたしのくびきを負【い】なさい」

ハワード・W・ハンター大管長は、わたしたちがキリストのくびきを負うときにもたらされる祝福について次のように教えています。

「聖書の時代に、くびきは畑を耕す者にとって非常に助けとなる道具でした。くびきを使えば、畑を耕したり荷車を引いたりするときに荷重を分散させながら、2頭の動物が力を合わせて働くことができました。1頭ではとても負いきれない荷重でも、くびきでつながれた2頭が一緒になれば、それぞれ同じ力で難なく引くことができるのです。主のくびきを負うには、大きな、熱心な努力を必要とします。しかし、心から改心し

た人々にとって、そのくびきは負いやすく、荷は軽くなるのです。

キリストはお尋ねになります。『なぜ独りで人生の重荷に立ち向かおうとするのですか。なぜ一時的な解決にしかならないこの世的な力に頼ろうとするのですか。』重荷を負っている人のために、キリストのくびきがあります。それは神の傍らにいて得られる力と平安であって、それにより、さまざまなチャレンジに立ち向かい、この死すべき世の硬い土壌を掘り起こす仕事に耐える支えとバランスと力が与えられるのです。] (“Come unto Me,” *Ensign*, 1990年11月号, 18。くびきの絵と、その使用と機能についてのより詳しい説明については、“Take My Yoke upon You” [*Ensign*, 2013年9月号, 22 – 23] も参照) ヨハネ 1:39, 46 「きてごらんなさい」

第2課

救いの計画

はじめに

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は宗教教育者たちに対し、各年度の初めには、救いの計画の全体像を教えるべきであると話しています。

「『幸福の計画』の全体像を簡潔にまとめたものが最初に示され、また度々確認できるなら、それは生徒たちにとって非常に価値あるものとなるでしょう。」（“The Great Plan of Happiness”〔CES 宗教教育者に向けての説教, 1993 年

8月10日〕 si.lds.org。 *Teaching Seminary: Preservice Readings*〔教会教育システム手引き, 2004年〕, 68–74も参照)

このレッスンでは救いの計画の簡単な概要を示すとともに、救いの計画におけるイエス・キリストの中心的な役割と主の贖罪に焦点を当てます。

教えるための提案

前世でのイエス・キリストの役割

ディボーショナルの一環として、「救い主、われ信ず」（『賛美歌』72）の1番と4番、または救い主についての別の賛美歌をクラス全員で歌ってもよいでしょう。次の質問をしてレッスンを始めます。

- あなたにとってなぜイエス・キリストが大切なのかと誰かに尋ねられたら、どのように答えるでしょうか。

今日のレッスンでは、天の御父の救いの計画におけるイエス・キリストの役割について学ぶことを説明します。生徒には、今日聖文を研究するときに、イエス・キリストへの信仰を強める助けとなる真理を見つけるように勧めます。

ホワイトボードに以下の表を書き写します。配付資料として生徒に配ってもよいでしょう。（配付資料を配る場合は、ホワイトボードの表と同じようにそれぞれの表を完成させてもらいます。）

イエス・キリストは天の御父の救いの計画の中心を成す

前世	現世	来世

天の御父の計画は、次の3つの主な段階で構成されていることを指摘します。（1）前世—肉体的な誕生に先立つ段階、（2）地上における現世、（3）来世—肉体的な死に続く段階。

一人の生徒に、次の言葉を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、前世でわたしたちが経験した制限を見つけてもらいます。

「わたしたちは地上に生まれる前、天のお父様の霊の子供として生活していました。けれども、わたしたちは天のお父様のようではありませんでした。お父様のようになって、お父様が持つておられる全ての祝福を受けるには、体を持って、この世での生活を体験しなければなりませんでした。」

神様の大きな目的（神様の業と栄光）は、わたしたち一人一人が、神様の全ての祝福を受けられるようにすることです。神様は、この目的を果たすために、完全な計画を用意されました。わたしたちは、地上へ来る前に、この計画を理解し、受け入れました。……

効果的なディボーショナルにより御霊を招く

クラスの初めに行う簡単なディボーショナルは、教師と生徒が御霊を感じ、学ぶ準備をする助けとなります。ディボーショナルには通常、賛美歌、祈り、および聖文からの簡単なメッセージが含まれます。ディボーショナルは、生徒が証を述べ、個人で聖典を学習したときの気持ちや洞察について分かち合うときに最も効果的なものとなります。1年を通して全ての生徒が参加する機会を得るため、どのようにディボーショナルを計画するか考えてください。

わたしたちは皆、成長して、神様のようになるために、体を受けなければなりません。そして、地上での試しの時期に、試練を受けなければなりません。】(『わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動のガイド』48-49 参照)

- わたしたちは前世でどのような制限を経験しましたか。

天の御父が幸福の計画を発表されたとき、その計画を遂行するには救い主が必要であることを知りました。天の御父の霊の子供の1人であるルシフェルは、天の御父の計画に背きました。ルシフェルは「サタン」として知られるようになりました。この言葉はヘブライ語で「敵」を意味します。

一人の生徒に、モーセ4:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サタンが天の御父に要求した事柄を見つけてもらいます。

- サタンは天の御父に何を要求したでしょうか。
- 2節によると、天の御父はイエス・キリストについてどのようにおっしゃいましたか。
- イエス・キリストは何をするために選ばれましたか。(生徒が答えた後、次の真理をホワイトボードの「前世」の下に書きます。イエス・キリストは、人類の贖い主となるために前世で選ばれていた。)

天の御父の救いの計画を実行するべくイエス・キリストが選ばれた後、わたしたちが肉体を得て、経験を積むことのできる地球を創造する必要があったことを説明します。

一人の生徒に、ヘブル1:1-2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、地球の創造におけるイエス・キリストの役割を見つけてもらいます。

- 地球の創造におけるイエス・キリストの役割は何でしたか。(ホワイトボードの「前世—」の下に次の教義を書きます。イエス・キリストは、天の御父の指示のもとで地球を創造された。)

地球の美しさについて生徒に考えてもらいます。地球の美しさを示す写真や絵をいくつか掲示してもよいでしょう。

- イエス・キリストがこの地球と、地球に似た何百万もの星々を創造されたと知ることは、主に対する気持ちにどのような影響を与えますか。

現世でのイエス・キリストの役割

わたしたちは現世で、天の御父のようになってみもとに帰ることを妨げるより多くの制限や障害を経験することを説明します。一人の生徒に、次の言葉を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、現世でわたしたちが経験する二つの障害を見つけてもらいます。

「わたしたちはこの世で、肉体の死と霊の死を避けられません。神様は、完全で、栄光を受けた、不死不滅の体を持っておられます。骨肉でできた体です。神様のようになり、神様のもとに帰るためには、わたしたちも骨肉でできた、完全で、不死不滅の体を得なければなりません。しかしアダムとエバの墮落により、地上の全ての人、不完全で、いつかは死ぬ体を持つことになりました。ですから、最後には必ず死にます。もし救い主イエス・キリストがおられなかったら、将来、天のお父様のもとに帰るといふ望みは、死によって失われます。

肉体の死と同様に、罪もわたしたちの望みを妨げる大きな障害です。天のお父様のように、みもとへ帰りたいたいという願いを妨げます。この世で生活していると、誘惑に負れたり、神様の戒めを破ったり、罪を犯したりすることがよくあります。……罪を犯している人が、幸せそうに見える場合もあります。でも、罪は必ず不幸をもたらします。罪を犯すと、罪悪感や、恥じる気持ちを感じるようになります。わたしたちは罪があるままでは、天のお父様のもとへ戻って、お父様とともに住むことはできません。そのためには、罪の赦しを受けて清くならなければなりません。

……わたしたちは肉体の死から逃れられません。それと同じように、自分の犯した罪の結果から、自分の力で逃れることはできません。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』50)

イエスが地球にお生まれになる前、マリアが子供を身ごもっていることをヨセフが知ったときに、ヨセフの夢の中に天使が現れたことを説明します。一人の生徒に、マタイ1:21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天使はヨセフに何と告げたかを見つけてもらいます。

- 天使はイエスが何をされると言いましたか。(生徒が答えた後、ホワイトボードの「現世」の下にイエス・キリストは、わたしたちを罪から救うために来られたという教義を書きます。)
- イエス・キリストは、わたしたちが罪から救われるようにするために何をされましたか。



「女よ、なぜ泣いているのか」© 2015 Simon Dewey. アルタス・ファイン・アート社 (altusfineart.com) の許可を得て使用しています。

視覚資料「ゲツセマネで祈られるイエス」「十字架へのはりつけ」および「マリヤと復活されたイエス・キリスト」を見せます（『福音の視覚資料集』56, 57, 59。LDS.orgも参照）。イエス・キリストの苦しみ、死、復活は、総称して「贖罪」と呼ばれていることを生徒に思い出してもらいます。

- イエス・キリストの贖罪を通して罪から救われるためにわたしたちがしなければならないことは何ですか。（使徒 2：38 参照）

来世でのイエス・キリストの役割

亡くなった人のことを生徒に考えてもらいます。しばらくしてから、次の質問をします。

- 救いの計画に対するあなたの理解によると、亡くなった人々はどこにいますか。（死に当たり、全ての人の霊は霊界に入ります。生徒の理解を深めるため、一人の生徒にアルマ 40：11 - 14 を読んでもらってもよいでしょう。）

絵「イエスの埋葬」を見せます（『福音の視覚資料集』58。LDS.orgも参照）。一人の生徒に、1ペテロ 3：18 - 20；4：6 を声に出して読んでもらいます。その後、次の質問をします。

- イエス・キリストは亡くなられた直後に何をされましたか。

一人の生徒に、教義と聖約 138：18 - 19, 30 - 32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、霊界の全ての人に福音が宣べ伝えられるようにするためにイエス・キリストが行われたことを見つけてもらいます。

- 霊界の全ての人に福音が宣べ伝えられるようにするため、イエス・キリストは何をなさいましたか。
- これらの取り組みは、全ての人々に対する天の御父とイエス・キリストの愛をどのように表していますか。

「マリヤと復活されたイエス・キリスト」の絵（『福音の視覚資料集』59。LDS.orgも参照）を指して、クラス全員に次の質問をします。

- 救い主がお亡くなりになってから 3 日目に何が起こりましたか。（復活された。）
- 復活されたとはどういう意味でしょうか。（人の霊と肉体は再び結び合わされ、決して再び分離することがなくなる〔教義と聖約 138：17 参照〕。）

一人の生徒に、1コリント 15：20 - 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたち一人一人に対するイエス・キリストの復活の影響を見つけてもらいます。

- イエス・キリストの復活によってわたしたちはどのような影響を受けているのでしょうか。（生徒が答えた後、ホワイトボードの「来世」の下に次の教義を書きます。イエス・キリストの復活のおかげで、全ての人が復活する。）

一人の生徒に、黙示 20：12 を声に出して読んでもらいます。その後、次のように尋ねます。

- わたしたちが復活した後、わたしたちには何が起こりますか。

命の書とは、この世での個人の考えや行動を示すものであるとともに、義人についての天の記録でもあることを説明します（『聖句ガイド』『命の書』参照）。わたしたちは、自分たちの行いだけでなく、思い、言葉、心の望みによっても裁かれることを強調します（モーサヤ 4：30；アルマ 12：14；41：3；教義と聖約 137：9 参照）。

生徒たちに、黙示 20：12 の近くの空白部分に、「ヨハネ 5：22」と書くよう勧めるとよいでしょう。生徒に、ヨハネ 5：22 を黙読して、誰がわたしたちを裁くのかを見つけてもらいます。

- 誰がわたしたちを裁くのでしょうか。（生徒が答えた後、ホワイトボードの「来世」の下に次の教義を書きます。イエス・キリストが全人類を裁かれる。）

天の御父の計画の究極的な目的は、神の子供全てに永遠の命、すなわち昇栄の機会を与えることであることを生徒に思い出してもらいます。これは、わたしたちが天の御父のようになり、天の御父と永遠の家族としてともに住むことです。あなたの家族の写真を見せて、自分にとって天の御父と家族とともに永遠に暮らせるようになることが大切である理由を説明するとよいでしょう。

一人の生徒に、ヨハネ 3：16 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、永遠の（または永遠に続く）命を受けるには何をしなければならないかを見つけてもらいます。



「イエスの埋葬」カカール・ハインリッヒ・プロッホ画。デンマーク・ヒレズにあるフレズレクスボー城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載。複写は禁じられています。

- 永遠の命を受けるには何をしなければならないでしょうか。(神の独り子を信じるとは、イエス・キリストへの信仰を实践して主の福音に従って生活することを意味し、これには神殿の儀式を受けることが含まれることを説明します。)
- あなたなら、ヨハネ3:16を原則としてどのように要約しますか。(生徒が答えた後、ホワイトボードの「来世」の下にイエス・キリストへの信仰を働かせ、主の福音に従って生活するなら、わたしたちは永遠の命を授かるという原則を書きます。)

レッスンの最初に尋ねた質問を生徒に思い出してもらいます。「あなたにとってなぜイエス・キリストが大切なのかと誰かに尋ねられたら、どのように答えるでしょうか。」今日学んだことに基づいて、どのようにこの質問に対する答えを、さらに発展させるかを生徒に説明してもらいます。何人かの生徒に、イエス・キリストと天の御父の計画におけるイエスの役割についての証を分かち合ってもらってもよいでしょう。レッスンのまとめとして、あなたも同様に証を分かち合ってもよいでしょう。

第3課 学習者の役割

はじめに

聖霊、教師、学習者は、福音を学習するうえでそれぞれ重要な役割を持っています。このレッスンは、生徒たちが学ぶ努力をする中で成果を挙げることができるように、それぞれの役割について理解するための助けになります。生徒が福音学習

におけるそれぞれの責任を思い出すことができるように、このレッスンで教えられている原則を定期的に繰り返す必要があるでしょう。

教えるための提案

福音学習における聖霊、教師、学習者の役割

一人の生徒に、次の話を声に出して読んでもらいます。

ある若い女性は、セミナーに出席すると靈感を受け、教化されます。彼女はそこで聖霊の影響を感じ、学ぶ事柄に対して感謝の気持ちを持っています。もう一人の若い女性も同じセミナーのクラスにいます。しかし、彼女はしばしば退屈になり、レッスンからはほとんど何も得るものはないと感じています。

- 同じセミナーのクラスに出席しながら、これらの二人の若い女性が異なる経験がこれほど異なるのは、どのような理由があると思いますか。（次のような答えが挙げられるでしょう。最初の若い女性はレッスンにもっと積極的に参加している。最初の若い女性は現在学んでいる事柄の土台となるような霊的な学習を体験したことがある。2番目の若い女性は他の問題に気を取られているのかもしれない。）

今日のレッスンで、セミナーにおける生徒の役割を果たし、イエス・キリストの福音に対する証を強める助けとなる教義と原則を見つけるよう生徒に勧めます。

セミナーのような福音の学習環境においては、聖霊、教師、学習者のそれぞれがきわめて重要な役割を担っていることを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 14：26 を、別の生徒に、ヨハネ 16：13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖霊の役割を幾つか見つけてもらいます。

- これらの節から、聖霊の役割についてどのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな答えを挙げられると思いますが、必ず次の教義を見いだすようにしてください。聖霊は真理を教えてください。）
- 聖霊が真理を教えてくださいとき、それをどのように知ることができますか。（生徒に、教義と聖約 8：2-3 を参照してもらおうとよいでしょう。）

一人の生徒に、教義と聖約 50：13-14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福音の教師の役割を見つけてもらいます。生徒が読む前に、これらの節の内容が福音を教えるよう聖任された初期の教会員たちに与えられたものであることを説明します。

- 福音の教師の役割とは何ですか。（教義と聖約 42：14 も参照してください。）

一人の生徒に、2ニーファイ 33：1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖霊の力によって真理が教えられるときに、聖霊はわたしたちに何をしてくださるのかを見つけてもらいます。

- この節によると、聖霊はわたしたちのために何をしてくださいますか。

生徒の心に真理を伝えてくださるよう聖霊を招く方法を彼らが理解する助けとなるように、一人の生徒に、教義と聖約 88：118 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが学問を求めるときの方法を見つけてもらいます。

- 学問を求めるときの方法はどのようなものですか。（研究と信仰によって。）

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが信仰によって学問を求めるとき、何が起きることを可能にするのかを見つけてもらいます。

「教師は大いなる御霊の力を用いて効果的に説明し、論証し、説得し、証することができます。しかし、結局は生徒の側で心に取り込もうとしなければ、教えの内容も、聖霊による証も

愛と敬意に満ちた 学習環境を作る

コースを始めるにあたり、愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る方法を見つけてください。お互いの名前を覚え、それぞれの興味、才能、抱えている課題、および能力を知ることによって、生徒たちが互いに、またあなたに対して親しみを持つことができるように助けます。この種の環境を作る一つの方法は、生徒に個人の聖文研究での経験や洞察をお互いに分かち合ってもらうことです。

彼らの心にしみ込みません。信仰によって学ぶことによって、心の扉が開くのです。」(「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号, 17)

- この話から、わたしたちが信仰によって学問を求めるときに起きることについてどのような原則を学ぶことができますか。(次の原則を生徒が理解できるように助けます。信仰によって学ぶことを求めるなら、わたしたちの心に聖霊を招き、聖霊が真理を教え、証される。この真理をホワイトボードに書くといいでしょう。)

信仰とは行動の伴わない信念をはるかに超えるものであることを指摘します。わたしたちは行動を通して信仰を表します。

- 信仰によって学ぶとはどういう意味だと思いますか。

信仰によって学ぶという意味を説明するために、一度もサッカーをしたことがない生徒にボランティアになってもらいます。(この活動は、バスケットボールをしたことがない、楽器を演奏したことがない、お手玉をしたことがない、ネクタイを結んだことがない生徒などに参加してもらうように工夫してもよいでしょう。)そのボランティアに、サッカーチームで十分プレーできるほど上手になるようにサッカーのプレー方法を教えるつもりであることを伝えます。ボランティアに、あなたの教える能力や自分の学ぶ能力について信仰を持っているかどうか尋ねます。その後、サッカーボールをドリブルする方法を説明し実際にやってみせますが、ボランティアにはそれをやってもらいません。サッカーボールのパスする方法を説明します。その後、ボールをボランティアに実際にパスしますが、ボランティアにボールのパスを返してもらうかわりに、ボールを取りに行きます。ボールがラインの外に出た後のスローインの方法も同様にします。その後、ボランティアに次の質問をします。

- サッカーチームの入団試験を受けるために、どの程度準備できていると感じますか。それはなぜでしょうか。
- サッカーについて学んだり、サッカーをしているのを見ることは役に立ちますが、サッカーで成功するために必要な技術を身につけたいと思うなら、何をしなければならないでしょうか。
- これは信仰によって学ぶことにどのように関連しているでしょうか。(御霊が教えてくれることを信じ、頼るだけでは十分ではありません。神の真理の知識を得るには、わたしたちも学ぶ努力をし、学んだことを応用しなければなりません。)

一人の生徒に、ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、信仰によって学ぶことについてベドナー長老が教えている事柄を見つけてもらいます(生徒のためにこの話のコピーを作り、見つけたことに印をつけてもらってもよいでしょう)。



「正しい原則に従って行動することによって選択の自由を働かせる学習者は、聖霊に心を開きます。そして聖霊からの教え、聖霊による証の力、そして聖霊による確認の証の力を受けることができます。信仰によって学ぶ望みを持つには、外からの影響を受けるだけでなく、霊的、精神的、肉体的な努力が必要です。信仰に促されて行動し、真心を込めて努力し続けるとき、わたしたちは聖霊から教えを受けて学びたいという意欲を天の御父とその御子イエス・キリストに示しているのです。…

…教師が講義や論証や実験を行っただけでは、生徒が信仰によって学習できるようにはなりません。むしろ、自分で知識を得るために生徒自身が信仰を働かせ、主体的に学ばなければならないのです。」(「信仰によって学ぶ望みを持つ」20)

- 真理を教え証してくださる御霊を招くために、わたしたちにできる霊的、精神的、肉体的な努力にはどのようなものがあるでしょうか。

注 — ここは、教義と聖約 88 : 122 を読み、クラスにおける秩序と敬意の重要性について話し合うのに適切な時です。

- セミナリーのクラスで、聖霊がわたしたちに真理を教えてくださることを阻むような態度や行動にはどのようなものがあるでしょうか。
- 信仰によって学ぶことを求める生徒のセミナリーの経験は、そうでない生徒の経験とどのように違うでしょうか。

生徒に、マタイ 4 章を開いてもらいます。信仰によって学ぶことを求めるということは、真理を教え証してくださる聖霊をわたしたちの心に招き入れることであるという模範を、使徒ペテロの経験から見いだすことができることを説明します。一人の生徒に、マタイ 4 : 18 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロとアンデレに対する救い主の勧めを見つけてもらいます。

- 救い主はペテロとアンデレに何をしよう勧められましたか。

- 信仰によって学ぶことを求める模範に対する二人の反応はどうでしたか。

イエス・キリストに従うというペテロの行動により、ペテロは主の現世での教導の業の間、救い主とともにいることができるようになりました。主に従うという救い主の召しを受け入れることにより、ペテロは常に救い主の教えを聞き、多くの奇跡を目撃する特権を得ました。ペテロは、救い主の招きに応じて海の上さえも歩きました（マタイ 14:28 – 29 参照）。

あるとき、イエスは弟子たちに一つの質問をしたことを生徒に説明します。一人の生徒に、マタイ 16:13 – 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が何をお尋ねになったかを見つけてもらいます。

- 救い主は弟子たちに何をお尋ねになりましたか。
- 弟子たちはどのように答えましたか。

一人の生徒に、マタイ 16:15 – 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが救い主の次の質問にどのように答えたのかを見つけてもらいます。

- 救い主の質問に対するペテロの答えはどのようなものでしたか。
- ペテロがその知識をどのように得たかについて、救い主は何と説明しておられますか。
- ペテロの経験は、このレッスンで見いだした真理をどのように表しているでしょうか。

生徒に、以下の質問の答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます（これらの質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう）。

- 信仰によって学ぶことを求めたのはどのようなときでしたか。そのとき、聖霊はどのように福音の学習における役割を果たされましたか。（イエス・キリストについてさらに学ぼうとしたときに得た、以前の学習体験を思い出してもらってもよいでしょう。）

もし生徒が発表してもよいと思うなら、数人の生徒に、今書いた経験を話してもらいます。また、話し合った真理に関して、教師自身の経験や証を話してもらいましょう。

生徒たちに、信仰によって学び、真理を教え、証してくださる聖霊を自分の心に招くために行おうと思う事柄を一つか二つ考えてもらいます。生徒たちにそれを書き出してもらいます。

トーマス・S・モンソン大管長が述べた次の言葉を紹介してレッスンを終わります。

「若人の皆さん、わたしは皆さんにセミナーに参加するようお招きします。毎日、聖文を研究してください。教師の言葉に注意深く耳を傾けてください。そして、学んだことをよく祈って実践してください。」（“Participate in Seminary,” 2011年8月12日, seminary.lds.org）

注釈と背景情報

敬虔さが啓示をもたらす

敬虔な態度や行動は信仰によって学ぶことの一環となり、真理を教え証してくださる御霊を招き入れることができます。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、敬虔さと啓示の関係について次のように教えています。

「過去数年間、わたしたちは教会内で敬虔な人とそうでない人と、さまざまな人を見てきました。ほむべき人が多いことは確かですが、道を外れている人もいます。わたしたちが深く憂慮するのはそれなりの根拠があるからです。

世の中はますます騒がしくなっています。……

騒音や興奮、争いが増え、慎みや気品、規律が減るということは、偶然起きたのでもなく、無害でもありません。

軍隊が敵を侵略するとき、司令官が出す最初の命令は、征服しようとする敵の通信連絡網を破壊することです。

敬虔さを失わせることは、まさしくサタンのもくろみなのです。知性と霊性の両方における啓示の伝達経路を妨害することになるからです。……

敬虔さは啓示をもたらすということを、指導者は教えてください。」（「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号、24）

中央初等協会会長のマーガレット・S・リファース姉妹は、教会の集会における敬虔さについて次のように教えています。姉妹の教えはセミナリーのクラスにも関連するものです。

「神の御言葉や音楽、証、祈りを通して御霊が福音の真理を証してくれるのは、敬虔なときだけです。……

教会の集会で電子メールをやりとりすることは、不適切であるだけでなく、迷惑で、周囲の人への敬意を欠いています。ですから、わたしたちは集会に参加し、話に耳を傾け、シオンの賛美歌をともに歌うことによって、敬虔さの模範を示すのです。」（「敬意と敬虔さ」『リアホナ』2009年5月号、13）

セミナリーに参加するようという預言者の呼びかけ

トーマス・S・モンソン大管長は、セミナリーに参加することについて次のようなメッセージを述べています。

「セミナリーは何十万もの末日聖徒の青少年の人生を祝福してきました。わたしはわたし自身のセミナリーの経験を覚えています。わたしのセミナリーは、わたしの高校の向かい側にあった小さな家で朝早く行われました。先生がそれだけ早く起きられるなら、わたしもそれくらい早く起きられるだろう、と思いました。

セミナリーは、イエス・キリストの教えと贖罪を理解し、それに頼る助けとなります。聖文を愛することを学ぶとき、皆さんは主の御霊を感じるでしょう。自分自身を神殿参入と伝道活動のために備えることができるでしょう。

若人の皆さん、わたしは皆さんにセミナリーに参加するようお勧めします。毎日、聖文を研究してください。教師の言葉に注意深く耳を傾けてください。そして、学んだことをよく祈って実践してください。」（“Participate in Seminary,” 2011年8月12日、seminary.lds.org）クラスに参加する。

第4課 聖文を研究する

はじめに

このレッスンは、生徒たちが毎日聖文を研究すること、およびこのコースの研究の一環として新約聖書を全て読むことの重要性を理解するために役立ちます。また、生徒は聖文の研究を向上させる方法も学ぶことができます。

教えるための提案

効果的な毎日の聖文研究の必要性

それぞれの生徒に、次のアンケートのコピーを配付します。生徒たちには、それらの文について考えてから、線上の回答部分にしるしをつけてもらいます。答えを発表させることはないことを生徒に伝えます。

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらかという とそう思う	そう思う
1. 聖文はわたしにとって大きな価値がある。	-----			
2. この数週間、わたしは毎日聖文を研究した。	-----			
3. 聖文研究の時間は有意義だと感じている。	-----			
4. 聖文研究から学んだことを日頃から生活に応用している。	-----			

© 2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.

生徒がアンケートを終えたら、レッスンの間、聖文研究をどのように向上させるかについて深く考えるように勧めます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の話を読んでもらいます。



「聖典にはキリストの言葉が記されています。聖典は、すぐ手の届く所にある、いつまでもたっぷり飲み続けることのできる、生ける水の源です。……」


わたしたちは毎日普通に生活しているだけで、肉体の大部分を占める水分を大量に失います。渇きとは細胞が水分を要求しているということであり、わたしたちは毎日肉体に水分を補給しなければなりません。水分補給をたまにしか行わず、その間は長い間脱水状態で生きていくということは、現実には不可能です。霊にも同じことが言えます。霊が渇くのは生ける水が不足するからです。絶えず生ける水を飲むことは、ときどき飲むよりはるかに良いのです。」(「生ける水の源」[CES ファイヤサイド, 2007年2月4日] 1, 7, broadcast.lds.org)

毎日聖文を研究するように生徒を励ます

聖文から学び、聖文を愛し、毎日聖文を研究するように生徒たちを助ける以上に、教師の行動が生徒の生活に力強く長続きする良い影響を与えるものはほとんどありません。教師は日々の聖文研究の模範を示すことができます。一貫性と進捗状況を示す、適切なフォローをする方法を使うことによって、生徒たちがそれぞれの毎日の聖文研究に責任を持つよう助けることもできます。

- 毎日の聖文研究から受けられるものについて、ベドナー長老の話からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちは、おそらく次のような原則を見つけるでしょう。毎日聖文を研究する時に、わたしたちが必要とする「生ける水」を受ける。ホワイトボードにこの原則を書いてください。)

わたしたちの時代における聖典の価値

 生徒がわたしたちの時代における聖典の価値と重要性について理解するのを助けるために、ビデオ「聖文の祝福」(3分5秒)を見せてもよいでしょう。このビデオはLDS.orgで視聴可能です。このビデオで、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は、さらに多くの人々が聖書を読めるようにするために一人の男性が払った犠牲について話しています。このビデオを見せる場合、クリストファーソン長老が「……何を理解していたのでしょうか。それはわたしたちも理解すべきことです。」と尋ねるところ(タイムコード1:56)で一時停止し、長老の質問にどのように答えるか、生徒たちに尋ねてもよいでしょう。その後、ビデオの続きを見ます。ビデオが終わったら、「ビデオを見た後で……」で始まる段落からレッスンを続けます。

このビデオを見せない場合は、4人の生徒に前に出て来てもらい、クリストファーソン長老による話の次の部分を読んでもらいます。



1.「1536年10月6日、痛々しい姿の人物が、ベルギーのブリュッセル近郊にあるビルボールデ城の地下牢から連れ出されました。1年半近く、暗くじめじめした独房の中で孤独な日々を強いられていました。城壁の外に連れ出された囚人は木製のくいに縛りつけられ、最後の祈りを口にしました。『主よ、イングランド国王の目をお開きください。』その後、彼は絞殺され、遺体はその場で焼かれました。この男性は何者だったのでしょうか。どのような違法行為のために、……非難されたのでしょうか。」「(聖文の祝福』『リアホナ』2010年5月号, 32)

2.「その人の名前は、ウィリアム・ティンダル、罪状は、聖書を英語に翻訳し出版したことでした。

……聖文を一般民衆の手に渡すべきではないと主張する聖職者との激しい論争の中で、ティンダルはこう誓いました。『神がわたしの命を守ってくださるならば、数年の間に、すきを引いて畑を耕す少年を、あなたよりも聖書に精通するようにしましょう。』……

多くの国、多くの言語で神の御言葉を暗黒からもたらすために、死をもいとわぬ犠牲を払った人は、ウィリアム・ティンダルの前後にも存在しました。……彼らは聖文の大切さについて何を知っていたのでしょうか。それはわたしたちも知る必要のあることです。莫大な費用をかけ、命の危険を冒してまで聖書を手に入れようとした16世紀のイングランドの人々は、何を理解していたのでしょうか。それはわたしたちも理解すべきことです。」「(聖文の祝福』32)

生徒に次の質問をします。

- 人々が聖文を手に入れるためにこれほど大きな犠牲を払ったのはなぜだと思いますか。

3番目の生徒にクリストファーソン長老のお話を続けて読んでもらいます。

3.「ティンダルの時代、聖文に無知な人が多かったのは、聖書、とりわけ自分たちの言語で理解できる聖書がなかったためでした。今日、聖書などの聖典はすぐ手に入りますが、それを読もうとしないために聖文に無知な人の数が増えています。そうした人々は、結果として彼らの祖父母が知っていたことを忘れてしまっているのです。」「(聖文の祝福』33)

生徒に次の質問をします。

- 今の時代、読むべき聖文を読まない人がいるのはなぜだと思いますか。

4番目の生徒にクリストファーソン長老のお話を続けて読んでもらいます。

4.「聖書に加え、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠など900ページにも上る聖文を与えられていることがどれほど大きな祝福か考えてください。……主が、この祝福を与えることによって、わたしたちが常に聖文を用いる必要性が以前のどの時代と比べても高いと語っておられることも確かです。」「(聖文の祝福』35)

ビデオを見た後で（または4番目の生徒がクリストファーソン長老の話を読み終わった後で）、聖文を研究する必要性についてクリストファーソン長老が話していることで、生徒自身も信じていることを説明してもらいます。生徒たちが答えた後、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちが聖文を用いる必要性は、以前のどの時代と比べても高い。

- これまでのどの時代よりも、現在、聖文に対する必要性が増しているのはなぜだと思いますか。

この時代において、聖文研究がわたしたちにどのような益をもたらすかを生徒が理解することを助けるために、使徒パウロが末日の世の状態について述べた手紙を書いたことを説明します。一人の生徒に、2テモテ3:1-5, 13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの時代によくある罪や態度を見つけてもらいます。（これらの節に難しい言葉や語句があれば、生徒がそれらの意味を定義するのを助けるとよいでしょう。）

- これらの節に挙げられた罪や態度のうち、今日の社会であなたが目にしたものは何ですか。

一人の生徒に、2テモテ3:14-17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、これらの苦難の時代に安全を見いだす方法を見つけてもらいます。

- これらの苦難の時代に、どのようにして平安を見いだせるでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—聖文を研究するとき、_____を受け、_____。

- 2テモテ3:15-17によると、聖文を研究し、その教えに従って生活するとき、どのような祝福を得ることができるでしょうか。（生徒たちが答えた後、ホワイトボードの文章を次のように完成させます。聖文を研究するとき、わたしたちを救いに導く知恵や指示を受け、間違いを正すことができる。）

ホワイトボードに書いてある言葉は、原則の例であることを説明します。イエス・キリストの福音の原則と教義は、不変の真理であり、わたしたちの生活に導きを与えるものです。聖文の主要な目的の一つは、福音の教義と原則を教えることです。教義と原則を探し、その意味を深く考え、自分たちの生活に当てはめることで、わたしたち個人の聖文研究をより意義深いものにすることができます。

ホワイトボードに書いた原則をもう一度見直します。

- 聖文を研究するとき知恵や指示を受け、間違いを正すことができるとは、どのような意味だと思いますか。
- 聖文を研究した結果として、知恵や指示を受け、間違いを正すように感じたのはどのようなときですか。（あなたの経験について話すのもよいでしょう。）

新約聖書を毎日読む

このセミナー学習コースで期待されていることの一つは、生徒が新約聖書を全て読むことであると説明します。これはセミナーの修了証書を得るための必要条件です。

新約聖書全体を読むには継続的な努力が必要ですが、努力する価値があることを説明します。これを具体的に説明するため、水（またはソフトドリンク）を入れた2個の透明のコップを見せます。二人の生徒に各コップの横に立ってもらいます。一人の生徒に1本のストローを渡します。もう一人の生徒には、7本のストローをテープでひとまとめにしたものを渡します。ストローを使ってできるだけ早く水を全て飲んでもらいます。（1本のストローを使っている生徒は着実に水を飲むことができるので最初に飲み干し、もう一人の生徒は水を全て飲み終わるのに苦労するはずです。）二人に席に着いてもらい、クラス全員に次の質問をします。

- この活動は、このコースで新約聖書を全て読むという目標とどのような関係があるでしょうか。（7本のストローを使った生徒は、一度に聖典の大部分を読もうとする人に似ています。1本のストローを使った生徒は、毎日少しずつ聖典を読む人に似ています。）

このコースのテキスト、つまり聖典を読むよう生徒を励ます

標準聖典とは、福音の教義と原則を含む靈感による文書です。これらには、神と全人類との関わりが説明されており、イエス・キリストの贖罪について教えられています。これらはそれぞれが重要であり、全体を通して天の御父によって備えられた福音と救いの計画に対する理解をより深くすることができます。生徒と教師は、このコースで新約聖書を全て読み、研究するべきです。

少しずつ継続的に読むことによって、新約聖書全体を読み通す方法を生徒が理解する助けとなるように、このコースの最終日までの合計日数で新約聖書のページ数（日本聖書協会口語訳聖書では409ページ）を割ってもらいます。例えば、もしこのコースが1年度280日で教えられている場合、このコースの終了までに新約聖書を読み終えるために、生徒は毎日およそ1.5ページずつ読む必要があることになります。

新約聖書を熱心に研究するときに、生徒にもたらされる祝福について証します。生徒は聖文から知恵や指示を受け、間違いを正され、聖霊を伴侶とする祝福を受けます。

ホワイトボードに書かれた原則をもう一度見直し、日々の聖文研究によって、生徒が2テモテ3：15－17でパウロが説明している祝福を経験することを証します。個人の聖文研究のために毎日時間を取り、新約聖書を全て読み終えるという目標を立てるよう、生徒を励まします。生徒に、聖典学習帳に自分の目標を書くように勧めます。

第5課

新約聖書の背景と概要

はじめに

このレッスンでは、多くのユダヤ人がイエスをメシヤまたは救い主として拒んだ理由なども含めて、新約聖書の歴史的、文化的背景について学びます。また、生徒は新約聖書の構造についても学びます。

教えるための提案

新約聖書の背景

紙やその他の材料を使ってステパノ（青い帽子の男性）以外は全て覆った状態で絵「神の右にイエスを見るステパノ」（『福音の視覚資料集』63。LDS.orgも参照）の一部分だけを見せます。

生徒たちにその絵の内容を説明してもらいます。その男性が地に倒れ、手を伸ばしている理由を生徒に尋ねます。生徒たちが答えた後、その絵の残りの部分を見せます。

- その絵の全部を見ることは、その内容を理解するためにどのように役立ちますか。

この絵はイエス・キリストの弟子であるステパノが石で打たれて死のうとしているときに、神の右側にイエスが立たれているのを見たことを表現していることを生徒が理解できるように、使徒7:56-59を生徒に読んでもらいます。

- 聖典を理解することをどのように絵の覆いを取ることに例えることができますか。

この活動が聖文の背景を理解することの重要性を表していることを説明します。「背景」とは、聖句や出来事、物語を取り巻く状況のことです。新約聖書の歴史的、文化的背景の知識が深まるにつれて、そこから学ぶ教えをさらに理解し、当てはめることができるようになります。

救い主が教導の業を行われた時代のユダヤ人宗教指導者たち

一人の生徒に、2ニーファイ10:3-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、預言者ヤコブが救い主の教導の業における一部のユダヤ人の霊的な状態について説明するために使った言葉や表現を見つけてもらいます。

- 預言者ヤコブは、一部のユダヤ人の霊的な状態について説明するために、どのような言葉や表現を使いましたか。（5節にある「偽善売教」という言葉は、神の民の幸いよりも「利益と世の誉れ」を求めめるために福音を宣べ伝えることを指すと説明します〔2ニーファイ26:29〕。偽善売教を行っていた者たちは、おもにユダヤ人の間の邪悪な宗教指導者であり、人々を迷わせていました。）

一人の生徒に、マタイ23:16, 24を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が御自分の教導の時代のユダヤ人宗教指導者をどのように説明しておられるかを見つけてもらいます。

- 救い主はこれらのユダヤ人宗教指導者をどのように説明しておられますか。
- これらの指導者を「盲目な案内者」と呼ぶことによって、救い主は何をお教えになりましたか。

モーセの律法への追加とその他の誤った哲学

宗教指導者がどのように人々を道に迷わせたかを生徒がもっとよく理解できるように、ホワイトボードに円を描き、その円の中心に「モーセの律法」と書きます。最初の円の周りにもう一つ円を描き、それに「口伝律法」と書きます。

預言者がいなかったとき、ユダヤ人の教師や指導者たちが律法に独自の規則や解釈を加えたことを説明します。口伝律法、口承、および長老たちの言い伝えとして、さまざまな形で知られているこれらの追加された規則や解釈は、神の律法に反する行為を防ぐことが目的でした。これらの規則の一つを実演するため、二人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。二人に、結び目が一つついたロープを1本ずつ渡します。一人の生徒には片手だけを使って結び目をほどくように言い、もう一人の生徒には両手を使って結び目をほどくように言います。二人がこれを試した後、席に戻ってもらいます。

視覚資料を使用する

地図や表を含む実物や写真は、特にその視覚資料が話し合いを活発にするときに、生徒が聖典を視覚化し、分析して理解するための効果的な援助となります。生徒が教室に入るときに実物や絵を掲示しておくことにより、学習意欲をかきたて、興味を持たせることができます。



口伝律法によると、安息日に両手を使って結び目をほどくことが禁じられていたことを説明します。そうすることは労働とみなされ、それゆえ安息日に反していると考えられたのでした。しかし、片手だけを使って結び目をほどくことは許されていました。

- 人が作った規則を神の戒めに加えることにはどのような危険があるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老が特定のユダヤ人宗教指導者に関して述べた次の話を読んでもらいます。



「ユダヤ人は、純粋な宗教の中から分かりやすく簡単な教えを選び、自分たちの勝手な解釈を加えました。多くの儀式典礼を付け足し、飾り立てたのです。礼拝から幸福と喜びを奪い、儀式典礼による制約的で縮小された、よどんだ制度へと変質させたのです。主の律法の持つ生き生きとした精神はユダヤ人の手で塗り変えられ、形骸化したユダヤ人特有の儀式主義に陥ったのです。」
(*The Mortal Messiah*, 全4巻〔1979 - 1981年〕, 第1巻, 238)

- マッコンキー長老によると、ユダヤ人の宗教指導者たちは独自の解釈を加えることによって、神の律法をどのようなものにしてしまったのでしょうか。

イエスの時代のユダヤ人は背教の状態にあったことを指摘します。アロン神権の権能と儀式は彼らの中で存続しましたが、多くのユダヤ人は神がモーセに明らかにされた宗教の真の実践から道を外れてしまっていました(教義と聖約 84:25 - 28 参照)。長老たちの言い伝えが、純粋な宗教と記された神の言葉よりも優先されてしまっていたのです。

一人の生徒に、マタイ 12:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがパリサイ人の権威と口承の一部を尊重しなかったために、パリサイ人がイエスに対して行おうと望んでいた事柄を見つけてもらいます。

- これらの宗教指導者たちはイエスに何をしようと共謀しましたか。

ユダヤ人の背教的な伝統に加え、その他の偽りの哲学が、イエス・キリストの復活の後に人々がイエス・キリストを拒絶することに影響を与えたと説明します。例えば、ギリシャ文化の拡大は、人々が肉体的な復活の現実性を否定することに繋がりました(1コリント 15:12 参照)。このため、救い主の十字架での死後、使徒たちが復活された救い主について証をしたとき、多くの人々がその証を拒むことになりました。

外国の律法とイスラエルを救うメシヤへの期待

ホワイトボードに次のような言葉を書きます—バビロン、ペルシャ、マケドニア(ギリシャ)、ローマ

- ユダヤ人に関して、これらの古代帝国の共通点は何でしょうか。(ユダヤを征服し、ユダヤ人を支配した。)

生徒を複数のグループに分け、それぞれのグループに次の配付資料を配ります。

独立していた一時期を除き、新約聖書の時代までユダヤ人は500年以上にわたって支配された民として暮らしていました。ユダヤ人愛国者の一家であるマカベア家が率いた反乱は、キリスト降誕のおよそ160年前にユダヤの独立につながりました。しかし、キリスト降誕までには、ローマがイスラエルを征服していました。マカベア家と婚姻関係にあったヘロデ王(ヘロデ大王としても知られる)は、ローマによってイスラエルを支配するよう任命されました。ローマの支配に反感を持っていたユダヤ人は、ローマ人から救い出してくれると彼らが信じていた約束されたメシヤを熱心に待ち望んでいました。多くのユダヤ人は外国の支配から救ってくれるメシヤを期待していたため、自分たちの救い主としてのイエス・キリストを拒みました。

生徒に、配付資料を読んで次の質問をグループで話し合ってもらいます(これらの質問をホワイトボードに書くとよいでしょう)。

- 多くのユダヤ人が来るべきメシヤに期待していたことは何だったでしょうか。
- この誤った期待が、メシヤとしてのイエスを拒絶するように、多くのユダヤ人を導いたのはなぜだと思いますか。

あるユダヤ人たちはキリストを拒みましたが、中には謙虚で霊的に敏感であったユダヤ人もいて、主をメシヤや救い主として認めていたことを説明します。

数人の生徒に、順番にルカ 2:25 - 33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨセフとマリヤが幼いイエスを神殿に連れて来たときに、シメオンという名の義人が何を行い、何と言ったかを見つけてもらいます。

- 30 - 32 節によると、イエスがこの地球に遣わされたのはなぜですか。(生徒は異なる言葉を使うかもしれませんが、おそらく次の真理を認識するはずで、イエス・キリストは全ての人々に救いをもたらすために遣わされた。)
- 全ての人々が救われるようにするため、イエス・キリストがなされたことは何でしたか。

レッスンの最初に見せたステパノの絵を見せます。新約聖書を研究するときに、レッスンで話し合った文化のおよび歴史的な背景を思い出すよう生徒を励まします。そうすることによって、生徒は救い主と使徒たちの教えをさらによく理解するでしょう。(新約聖書の歴史のおよび文化的背景についての追加情報に関しては *New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 1-3] の “The Intertestamental Period” および “The New Testament Setting” を参照してください。) この資料には、サマリヤ人、パリサイ人、サドカイ人、サンヒドリン、および律法学者などのグループの簡単な説明が記載されています。

新約聖書の簡単な展望

ある絵を 10 秒間見せるので、その後、見たものについての詳しい説明を書いてもらおうと生徒に伝えます。生徒に「ベテスダで病人を癒すキリスト」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』42。LDS.org も参照)。10 秒後、絵をしまつて、生徒に説明を書いてもらいます。十分な時間を取った後、何人かの生徒に書いた内容を発表してもらいます。

- 全員が同じ絵を見たにも関わらず、その説明が異なっているのはなぜですか。
- ある出来事に複数の証人を立てることが役に立つのはなぜですか。

ホワイトボードに四福音書の筆者の名前を書きます—マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ。イエス・キリストの弟子であるこの 4 人のそれぞれが、救い主の生涯の出来事と教えを記録したことを説明します。彼らの記録は福音書と呼ばれています。「福音」という言葉は、「良い知らせ」を意味します。ジョセフ・スミス訳は各福音書の表題を「マタイの証」のように、「証」と変更していることを指摘します。

- イエス・キリストの生涯や教えについて複数の福音書または証が存在することが役立つのはなぜですか。

四福音書は詳細や視点が幾らか異なりますが、それら全てに救い主の生涯の出来事と、ユダヤ人の間におけるこの世での教導の業が記述されていることを説明します。四福音書は全て、イエス・キリストが神の御子であり、世の救い主であることを証しています(『聖句ガイド』「福音書」参照)。

このレッスンの最後にある「イエス・キリストの現世での生涯早見表」の簡略版のコピーを生徒に配ってもよいでしょう。この表の完全版は、この手引きの付録にあります。生徒に、この表を使って救い主の現世での教導の業における幾つかの主要な出来事を確認するように勧めます。

- この表によると、救い主の現世での教導の業の期間はどれくらいでしたか。
- 救い主はたいていどこで教導の業を行われましたか。

新約聖書を研究するとき、四福音書の背景をよりよく理解するためにこの表を使うよう生徒に勧めます。

生徒たちに、聖書の目次を開いてもらいます。四福音書は救い主の教導の業についての記述であることに対し、使徒行伝から黙示録までの書は主の十字架での死、復活、昇天後のキリストの古代の使徒たちの務めが記録されていることを説明します。これらの使徒たちは、福音を宣べ伝え、教会の支部を設立しながらイスラエルの地とローマ帝国の全地を旅しました。これらの使徒たちの行動や記述を研究することによって、わたしたちは救い主への信仰を強め、贖罪の祝福を授かる方法を学ぶことができます。また、末日聖徒イエス・キリスト教会がどれほど古代のイエス・キリストの教会と酷似しているかを知ることができます。

あなたが新約聖書から見いだした真理について証してもよいでしょう。今年新約聖書を研究するときに、生徒たちを祝福してくれる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。



ガリラヤ

- カペナウム
- ナザレ

サムリヤ

- サムリヤ

ペレヤ

- ユダヤ
- エルサレム
- ベツレヘム

成長される

水をぶどう酒に変えられる

弟子を召される

海上を静められる

水の上を歩かれる

山上の垂訓

5,000人以上に食べさせられる

変貌の山

ガリラヤ全土で教え、癒される

王国のたとえを教えられる

いどのそばで女を教えられる

サムリヤとペレヤで教え、癒される

降誕

バプテスマ

最初の宮清め

エジプトへ逃れられる

ラザロをよみがえらせる

勝利の入場と2度目の宮清め

最後の晩餐

ゲツセマネ

十字架

復活

昇天

教導の業の1年目

教導の業の2年目

教導の業の3年目

最後の週と贖罪

家庭学習クラスのレッスン

救いの計画 — 新約聖書の紹介とその背景 (単元 1)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

以下は、単元 1 の 4 つの家庭学習レッスンを学習して学んだ出来事、教義、原則の要約です。生徒が研究してきた事柄を知ることが、あなたがクラスの準備をするために役立つでしょう。この要約はレッスンの一部ではなく、生徒に紹介することを意図するものではありません。あなたが単元 1 で教えるレッスンは、この要約に記載されている教義と原則の一部だけに焦点を当てるため、時には御霊の促しや生徒の必要に応じてその他の箇所を見直したり、話し合う必要を感じる場合があるかもしれません。

第 1 日 (救いの計画)

救いの計画についての研究で、生徒はイエス・キリストが人類の贖い主となるように前世で選ばれ、天の御父の指示の下でこの地を創造されたことを学びました。また、生徒は以下の真理についても学びました。イエス・キリストはわたしたちを罪から救うために来られた。イエス・キリストが復活されたので、全ての人が復活するようになった。イエス・キリストが全人類を裁かれる。イエス・キリストへの信仰を实践し、主の福音に従って生活するなら、わたしたちは永遠の命を授かることができる。

第 2 日 (学習者の役割)

生徒は、聖霊が真理を教えてくださいと学びました。また、もしわたしたちが信仰によって学ぼうとするならば、真理を教え証してくださる聖霊をわたしたちの心に招き入れることも確認しました。

第 3 日 (聖文を研究する)

生徒は新約聖書全体を読み、毎日聖文を研究することの重要性を学びました。さらに生徒は、今日、聖文の必要性がかつてのどの時代よりも増していることや、わたしたちが聖文を研究するときに、わたしたちを救いに導く知恵、光、真理、指示を受け、間違いを正すことができることも知りました。また、毎日聖文を研究することによって、わたしたちが必要とする「生ける水」、つまり霊的な栄養を受けることも確認しました。

第 4 日 (新約聖書の紹介とその背景)

生徒は、新約聖書の歴史のおよび文化的な背景に精通するとき、その教えをさらによく理解して、応用できることを学びました。また、イエス・キリストが全ての人々に救いをもたらすために遣わされたこと、そしてわたしたちがイエス・キリストのもとに来るとき、他の人々を主のもとに来るように招く願いをより強く持つようになることも学びました。

はじめに

このレッスンは、イエス・キリストと主の古代の使徒たちの教えに見いだせる主要テーマを紹介することにより、新約聖書を研究するために生徒を備え、励ますことを意図しています。新約聖書を研究するとき、生徒は「わたしのもとに来なさい」という救い主の度重なる招きに応える方法と、生活において主の助けと導きを受け取る方法について学びます。

教えるための提案

新約聖書の紹介

新約聖書はわたしたちがイエス・キリストのもとへ来るよう助ける

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます — わたしたちの時代に、青少年が経験する困難な重荷にはどのようなものがあるでしょうか。

空の箱またはバックパック、そしてそれらに入れる何か重いもの (例えば大きな石や本) をクラスに持参します。一人の生徒に前に来てもらい、空の箱を持つ、またはバックパックを背負ってもらいます。他の生徒には、ホワイトボードに書いてある質問に答えてもらい、別の生徒に生徒の答えをホワイトボードに書いてもらいます。答えるごとに、箱またはバックパックがいっぱいになるまで重いものを詰め込みます。

- この重荷を一日中持ち歩かなければならないとしたら、どう感じるでしょうか。

生徒に、ホワイトボードに挙げられた幾つかの重荷が、誰かの難題や困難となり得ることを説明してもらいます。

新約聖書は、主の教え、奇跡、贖いの犠牲、および初期の教会の弟子たちを訪れられたことを含む、イエス・キリストの現世と復活後における教導の業について教えていることを説明します。主の教えと他の人々との交わりの至るところに、わたしたちの背負う重荷を軽くすることができる真理が繰り返されています。

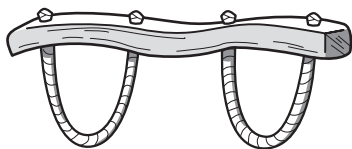
マタイ 11 章には、今年度の新約聖書の研究において生徒たちが頻りに目にするこの主要テーマの例が含まれていることを説明します。一人の生徒に、マタイ 11:28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、困難な重荷を背負う人々に対する救い主の招きを見つけてもらいます。

- 重荷を負って苦勞しているとはどのような意味だと思いますか。
- 救い主は、救い主の休息を受けるには何をしなければならぬと言われましたか。(生徒の言葉で、次の原則をホワイトボードに書きます。重荷を負ってイエス・キリストのもとに来るとき、主はわたしたちを休ませてくださる。)
- イエス・キリストのもとに来るとはどのような意味だと思いますか。

生徒がキリストのもとに来るという意味を理解できるように、一人の生徒に、マタイ 11:29 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主のもとに来ることを願っている人々に対する救い主の指示を見つけてもらいます。

- これらの節によると、わたしたちは主のもとに来るために何をしなければなりませんか。

ホワイトボードに雄牛のくびきの絵を描くか、くびきの写真を見せます。



くびきとは、2頭の牛やその他の動物をつなぐ、または一対にするための横木で、一緒に荷を引けるようにするためのものであることを説明します。

- くびきの目的や利点は何かですか。(くびき自体も負担であり重荷ではあるものの、両方の動物がそれぞれの力と強さを統合することができるため、生産性は向上されます。)
- 救い主のくびきを負うとはどういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがどのように救い主のくびきを負うか、またそうすることによって受けることができる祝福を見つけてもらいます。

「くびきをつけられた動物は横に並ぶので、作業を行うために一緒に動くことができますのです。

『わたしのくびきを負〔い〕なさい』という、主の個人的な招きについて考えてください。聖約を交わし守ることにより、人は主イエス・キリストとつながります。人が最善を尽くしても主の力には及ばず、比較にすらなりません。にもかかわらず、救い主は御自分に頼って一緒に荷を引くように招いておられます。現世の旅で主を信頼し、主とともに荷を引くなら、確かに主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いのです。

わたしたちは独りではなく、独りでいる必要もありません。日々、天の助けを受けながら力強く進むことができます。救い主の贖罪によって『自分が持つ以上の』能力と強さを得ることができます(「われ主を愛して」『賛美歌』134番。)(「容易に重荷に耐えられるように」『リアホナ』2014年5月号, 88)

- わたしたちを救い主イエス・キリストに「つなげる」ものは何でしょうか。
- ベドナー長老によると、救い主につながっていることによる祝福とは何でしょうか。

マタイ 11:28-29にある「休み」という救い主の約束は、必ずしも主がわたしたちの問題や難題を取り除いてくださるという意味ではないことを指摘します。しばしば、救い主は、わたしたちが試練を克服したり耐えるために必要な平安と強さを与えてくださることで、わたしたちの重荷を軽くして下さいます。わたしたちが現世における難題の中で忠実であるならば、わたしたちが受ける究極の安息は、神とともに昇栄することです(教義と聖約 84:23-24 参照)。

主のもとに来た人々に対して救い主がどのように休息をお与えになったかについて、生徒に深く考えてもらいます。数人の生徒に経験を分かち合ってもらいます。

生徒に、新約聖書を研究するこの一年を通して、イエス・キリストのもとに来ることができる方法に関する具体的な目標を設定するように勧めます。それぞれの目標に、毎日聖典を研究し、今年中に新約聖書を全て読むことを含めるよう生徒を励まします。

新約聖書の概要

新約聖書の各書は、イエス・キリストが神の御子であり救い主であることを証する

ホワイトボードに四福音書の筆者の名前を書きます — マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ。イエス・キリストの弟子であるこの4人のそれぞれが、救い主の生涯の出来事と教えを記録したことを説明します。彼らの記録は福音書と呼ばれています。「福音」という言葉は、「良い知らせ」を意味します。ジョセフ・スミス訳は各福音書の表題を「マタイの証」といったように、「証」と変更していることを指摘します。

- イエス・キリストの生涯や教えについて複数の福音書または証が存在することが役立つのはなぜですか。

四福音書は詳細や視点が幾らか異なりますが、それら全てに救い主の生涯の出来事と、ユダヤ人の間におけるこの世での教導の業が記述されていることを説明します。四福音書は全て、イエス・キリストが神の御子であり、世の救い主であることを証しています。単元1-第4日のレッスンの最後にある「イエス・キリストの現世での生涯早見表」を生徒に参照してもらいます。生徒に、この表を使って救い主の現世での教導の業における幾つかの主要な出来事を確認するように勧めます。

- この表によると、救い主の現世での教導の業の期間はどのくらいでしたか。
- 救い主はたいていどこで教導の業を行われましたか。

新約聖書を研究するとき、四福音書の背景をよりよく理解するためにこの表を使うよう生徒に勧めます。

生徒たちに、聖書の目次を開いてもらいます。四福音書は救い主の教導の業についての記述であることに対し、使徒行伝から黙示録までの書は主の十字架での死、復活、昇天後のキリストの古代の使徒たちの務めが記録されていることを説明します。これらの使徒たちは、福音を宣べ伝え、教会の支部を設立しながらイスラエルの地とローマ帝国の全地を旅しました。これらの使徒たちの行動や記述を研究することによって、わたしたちは救い主への信仰を強め、贖罪の祝福を授かる方法を学ぶことができます。また、末日聖徒イエス・キリスト教会がどれほど古代のイエス・キリストの教会と酷似しているかを知ることができます。

新約聖書についての自分の証を述べるとよいでしょう。次に、生徒に、新約聖書でイエス・キリストと主の使徒たちの生涯と教えを研究するとき祝福を与えてくれる真理を見つけてもらいます。

次の単元(マタイ1-5章)

次の単元では、生徒は神の御子の降誕にまつわる詳細の幾つかを研究することを説明します。また、この世で真に幸せになる方法、および天の御父のように完全になる方法についてのイエス・キリストの教えも研究していきます。

マタイによる福音書

への導入

なぜこの書を研究するのか

イエス・キリストによる山上の垂訓、多くのたとえ話や教え、奇跡など、聖書の中で最も愛されている聖句の数々がマタイによる福音書に収められています。この福音書を研究することで、生徒はイエス・キリストの教え導く業と御言葉に親しみ、世の救い主として、また全ての聖なる預言者たちによって語られた約束のメシヤとしてのイエス・キリストへの証を強めることができます。

誰がこの書を書いたのか

アルパヨの子レビとして知られた、マタイがこの書を記しました。マタイは取税人でしたが、イエス・キリストから御自身に従うよう招きを受け、その招きに応じたマタイの人生は永遠に変わりました(マタイ 9:9; マルコ 2:14; ルカ 5:27-28; 『聖句ガイド』「マタイ」参照)。マタイは改宗した後、救い主の十二使徒の一人となりました(マタイ 10:2-4 参照)。使徒であったマタイは、自身が記録した多くの出来事を実際に目にしました。このことは、ジョセフ・スミス訳においてマタイの福音書に、「マタイの証」という題がつけられていることから分かります。

いつ、どこで書かれたか

マタイによる福音書が記された正確な年代は不明ですが、おそらく紀元1世紀の後半に記されたと考えられます。マタイがどこでこの福音書を書いたかは分かっていません。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

マタイは、イエス・キリストがメシヤに関する旧約の預言を成就したことを示すために、ユダヤ人の聴衆に向けて書いたと思われます(『聖句ガイド』「マタイ」参照)。マタイはイエス・キリストの生涯、御言葉、行いを記述するときに、頻繁に旧約の預言に言及し、「……と言われたことが、成就するためである」という言葉を使いました(例: マタイ 4:14; 8:17; 13:35; 21:4 参照)。

この福音書において、マタイは、イエス・キリストがダビデ王の正当な王位継承者であることと、メシヤに関する預言の成就の証として「ダビデの子」という言葉を12回使いました。マタイによるイエス・キリストの系図は、イエスの血統がダビデ、ユダ、アブラハムをたどっていることをはっきりと示しており(マタイ 1:1-3 参照)、イスラエルを統治なさるイエスの権利と、イ

スラエルに対する神の約束の成就におけるイエスの役割を表しています。

この書の特徴は何か

マタイが記述した事柄の多くは、マルコ、ルカにも見られますが、マタイの福音書の42パーセントは、この福音書独自のものです。マタイの福音書の主なテーマは、地上に神の王国を築くためにイエス・キリストが来られたということです。マタイは、「天の王国 (the kingdom of heaven)」という言葉は何度も使っており、「教会」について述べられたイエスの教えを福音書に記録したのはマタイだけです(マタイ 16:18; 18:17 参照)。

また、マタイの福音書では、モーセの生涯とイエス・キリストの生涯の類似点を見ることができます。例えば、幼少時代に王に殺されそうになる所で二人は救われており(出エジプト 2:1-10; マタイ 2:13-18 参照)、エジプトを脱出し、山の上で神の律法を宣べ伝え(出エジプト 19-20 章; マタイ 5-7 章参照)、民を解放するために来られました。

概要

マタイ 1-4 章 マタイ、イエス・キリストの誕生と系図を説明する。博士たちはユダヤ人の王を捜し求める。夢の中で導きを受けたヨセフは、マリヤと幼いイエスを連れてエジプトに行き、その後ナザレに行く。バプテスマのヨハネは、悔い改めの福音を説き、イエス・キリストにバプテスマを施す。救い主、荒れ野で誘惑を受けられる。救い主、教えと癒やしにより地上での教え導く業を始められる。

マタイ 5-7 章 イエス・キリスト、山上の垂訓を行われる。

マタイ 8-12 章 救い主、重い皮膚病にかかった人を癒やし、嵐を静め、悪霊を追い出し、ヤイロの娘を生き返らせ、目の不自由な者に視力を与えられる。イエス・キリスト、御自身が行ったように行う権威を十二使徒に与え、出て行って福音を宣べ伝えるよう命じられる。イエス、バプテスマのヨハネが預言者以上の者であると述

べられる。救い主、安息日に人々を癒やされる。

マタイ 13-15 章 イエス、たとえ話を用いて教えられる。バプテスマのヨハネが処刑される。5,000 人の人々に食物を与えられた後、イエスとペテロはガリラヤの海の上を歩かれた。律法学者とパリサイ人はイエスに質問する。

マタイ 16-18 章 ペテロがイエスはメシヤであると証した後、救い主は神の王国の鍵をペテロと十二使徒に与えることを示唆される。イエス・キリスト、山の上で姿を変えられ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは神権の鍵を受ける。イエス、教会を導く方法を弟子たちに指導され、わたしたちが人を赦さなければ、神はわたしたちを赦されないことを教えられる。

マタイ 19-23 章 救い主、結婚の永遠性について教えられる。救い主、エルサレムに入城されて、神殿を清め

られる。イエス、たとえ話を用いてイエスに反対するユダヤ人指導者たちの悪意を暴かれる。救い主、イスラエルの将来の滅亡を嘆き悲しまれる。

マタイ 24-25 章 **ジョセフ・スミス-マタイ** イエス・キリスト、エルサレムの滅亡を預言される。主、弟子たちに主の再臨に備える方法を教えられる。

マタイ 26-27 章 イエス、弟子たちと過越の食事をなさり、聖餐を設けられる。主、ゲツセマネの園で苦しまれ、裏切られ、捕らえられ、ユダヤ人とローマの役人の前で裁かれ、十字架につけられる。イエスが亡くなられ、葬られる。

マタイ 28 章 復活された救い主、弟子たちに御姿を現される。イエス、使徒たちに地の果てまで福音を宣べ伝えるように命じられる。

第6課

マタイ 1-2 章

はじめに

マタイは、イエス・キリストの系図を記述し、天使はヨセフに、イエスが神の御子であることを伝えました。東から博士たちがイエスを探して旅をし、幼いイエスを拝しました。ヨセフ

は夢の中で、ヘロデによるベツレヘムの子供たちの虐殺から逃れるために、家族をエジプトに連れて行くよう告げられました。

教科課程の活用

レッスンを準備するために聖句ブロックを研究するときには、よく祈って教科課程資料の検討をします。そうするときに、生徒の必要に合わせたレッスンができるよう聖霊が助けてくださいます。聖句ブロックの教え方の提案を全てまたは一部だけ活用してもよいですし、提案されたアイデアをクラスの必要や状況に適応させてもよいでしょう。

教えるための提案

マタイ 1:1-17

イエスの系図

自分の両親の写真を見せ、何か両親から受け継いだ特徴を見つけられるかどうか生徒に尋ねます。何人かの生徒に両親の写真を持って来てもらい、他の生徒に誰の親か当ててもらってもよいでしょう。生徒に、両親から受け継いだ特徴について互いに話し合うように言います（例えば、目の色、髪の色、背の高さなど）。

生徒たちに、マタイ 1-2 章を研究しながら、救い主の両親についての真理と、主が親から受け継いだ特徴を見つけてもらいます。この活動は、イエス・キリストがマリヤと天の御父の間に生まれた神聖な御子であられることと、主は肉において御父の独り子であられるという真理を生徒が理解する備えとなるでしょう。

マタイ 1:1-17 には、救い主の先祖が列挙されていることを説明します。1 節は、イエス・キリストがダビデとアブラハムの子孫であったことが述べられていることを指摘します。

旧約聖書の預言は、メシヤはダビデの子孫であること（サムエル下 7:12-13；イザヤ 9:6-7；エレミヤ 23:5-6 参照）、そして「地のもろもろの国民」が祝福を受けるアブラハムの子孫である（創世記 22:18。アブラハム 2:11 も参照）ということを宣言していることを説明します。マタイは読者に、イエスがメシヤに関する旧約聖書の預言を成就したということを知ってほしいと思っていました（マタイ 1:22-23；2:5, 15, 23；26:55-56 参照）。マタイ 1:1-17 にある系図は、イエスが約束されたメシヤであり、ダビデの王位の正当な継承者であられることを示しています。

一人の生徒に、マタイ 1:16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスに与えられた称号を見つけ、それを発表してもらいます。

「キリスト」という言葉は、アラム語の「メシヤ」という言葉のギリシャ語表記であり、「油注がれた者」という意味であることを説明します。

- 前世で、イエス・キリストはどのようなことをするよう油注がれ、選ばれたのでしょうか。（主は天の御父によって「預言者、祭司、王、救い主」となるよう油注がれました〔『聖句ガイド』「メシヤ」、scriptures.lds.org】。）

マタイ 1:18-25

天使、ヨセフにイエスが神の御子であることを告げる

マタイ 1:16 は、マリヤがヨセフの妻であることも述べられていることを指摘します。マタイ 1:18 によると、ヨセフとマリヤは婚約していました。これは、彼らがいいはずけであり、法律的には互いに結ばれているものの、まだ夫と妻として一緒に暮らしてはいなかったことを意味しています。しかし、婚礼の前に、ヨセフはマリヤが妊娠していることを知りました。一人の生徒に、マタイ 1:19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨセフがどうしようとしていたか見つけてもらいます。

- ヨセフはマリヤが妊娠していることを知ったとき、どうしようとしていたでしょうか。（「ひそかに離縁しよう」というのは、ヨセフはマリヤに公の場で恥をかかせたり、石を投げられるような罰に遭わせることなく、内密に婚約を取り消そうとしていたという意味であることを説明します。）
- この聖句は、ヨセフの性格についてどのようなことを教えていますか。

一人の生徒に、マタイ1:20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨセフがマリヤとの婚約を破棄することを考えていたときに何があったかを見つけてもらいます。

- なぜこの天使はヨセフに、心配しないでマリヤとの結婚を進めるように言ったのでしょうか。

「聖霊によって」、「聖霊による」(マタイ1:18, 20)という言葉の意味を生徒が理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読んでもらいます。



「イエスは文字通りマリヤの息子であると同時に、永遠の父なる神御自身の文字通りの御子なのです。……マタイの『聖霊によって身重になった』という言葉は、適切に翻訳すれば、『聖霊の力によって身重になった』であるべきでした(マタイ1:18)。……アルマは、次のように預言することで主の受胎と誕生を完全に説明しています。キリストは『マリヤからお生まれになる。……マリヤは聖霊の力により覆われて身ごもり、男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであって、尊い、選ばれた器である。』(アルマ7:10)」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻[1965-1973年], 第1巻, 82)

- これらの教えから、イエスの血統についてどのようなことが学べるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うことが予想されますが、おそらく次の教義を見つけるでしょう。イエス・キリストは天の御父とマリヤの神聖な御子である。生徒たちがマタイ1:18-25のそばの余白に、この教義を書くように提案してもよいでしょう。)

自分の両親の写真を見せて、両親から受け継いだ特徴をもう一度述べます。一人の生徒に、十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。イエスが天の御父とマリヤの神の御子であることを理解するのはなぜ重要なのか、ということに注意して聞くよう生徒に言います。



「マリヤから生まれる子供は『永遠の父なる神、エロヒム』の御子で〔あった。〕……〔御子は〕、生まれながらに神の力と人間としての能力を兼ね備えていた。……この幼子イエスは、その両親、すなわち不死不滅の身をもついと高き栄えに上られた神と、地上の女である母の特色、言い換えれば、あらゆる肉体的特質と、精神的特質と、霊的特質と性向と能力とを生まれながらにお持ちになるのであった。」(『キリスト・イエス』第3版, 78)

- イエスが御父から受け継いだ特質は何でしたか。イエスが母親から受け継いだ特質は何でしたか。

イエスは不死不滅の御父と死すべき体を持つ母親の御子なので、永遠に生きることを選ぶことも、死を選ぶこともおできになったことを説明します。この神から受け継いだ特質により、主ただお一人だけが、わたしたちの罪のために苦しみを受けられること、十字架上で死を経験されること、そして復活されることがおできになったのです。

マタイ2:1-12

博士たち、イエスのところへ導かれる



3つの包装された贈り物を全員の前で見せるか、ホワイトボードに3つの贈り物の絵を描きます。

- 救い主がお生まれになった後、誰が主に贈り物を持ってきたでしょうか。

マタイによる福音書はこの博士たちの話を載せている唯一の福音書であることを説明します。次の簡単な質問を書いた配付資料を配るか、レッスンの前にホワイトボードに質問を書いておきます。生徒に少しの時間を与えて、質問を読み、答えを書いてもらいます。

博士たちについてどれくらい分かっていますか。

1. 博士たちはメシヤがお生まれになったことを、どうして知りましたか。
2. 博士たちがメシヤを見つけたいと思ったのはなぜでしょうか。
3. 祭司長と律法学者たちは、メシヤがお生まれになる場所をどのように知ったのでしょうか。
4. ヘロデは、博士たちがイエスを見つけた後、博士たちにどうしてほしかったのでしょうか。
5. 博士たちはそうする代わりにどうしたのでしょうか。

時間を十分に取ってから、生徒に、マタイ 2:1-12 を黙読して質問に対する答えを見つけてもらいます。

何人かの生徒に、この博士たちについて新しく学んだことを発表してもらいます。11 節から 16 節に述べられている詳細は、博士たちが聖なる家族に導かれたのが、イエスの降誕後、2 年ほどたった頃であると示唆しています（博士たちはかいばおけではなく家におられるイエスを見つけたのであり、イエスは乳飲み子ではなく「幼な子」だった）。ヘロデが博士たちにメシヤを見つけた場所を報告するよう望んだ理由は、それによってメシヤを殺せると思ったからだということを指摘します（マタイ 2:13 参照）。

- 博士たちはどうやってメシヤを見つけ出したのでしょうか。
- 救い主を捜し求める博士たちの模範から何を学べるでしょうか。（生徒の答えはさまざまですが、次の原則を見つけるよう助けます。誠実かつ熱心に救い主を求めるならば、わたしたちは救い主のもとに導かれる。）
- どうしたら救い主を熱心に求めることができますか。
- 救い主を見つけてから、博士たちはどうしたのでしょうか。それはなぜですか。（救い主に贈り物をささげる目的の一つは、主を礼拝することだった。）
- 救い主に贈り物をささげる博士たちの模範から何を学べるでしょうか。（生徒は異なる言葉を使うでしょうが、おそらく次の真理を見つけるはずで、わたしたちは、意義のある贈り物を主にささげることで、主を礼拝することができる。）

意義のある贈り物を主にささげるにはどうしたらよいかを生徒が理解する助けとなるように、一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を読んでもらいます。



「昔の民は、主を礼拝し、祝福を求めるときに、しばしば贈り物を持って来ました。……」

皆さんには清くない思いやふさわしくない思いがありますか。もしもそれを捨てるなら、救い主への贈り物になります。良い習慣または性質が欠けていますか。それを取り入れ、人格の一部とするなら、主への贈り物になります。難しいときもあるでしょうが、悔い改めと従順の贈り物が簡単だとしたら、贈り物に値するでしょうか。（「あなたが改心したときには」『リアホナ』2004 年 5 月号, 12）

- わたしたちは意味のある贈り物として何をささげることができるでしょうか。

生徒に、クリストファーソン長老の話进行深入考え、救い主にささげるべきだと感じる贈り物は何かをよく考えてもらいます。生徒がアイデアを書くための紙を用意します。生徒に、イエス・キリストにこれらの贈り物をどのようにささげるか計画してもらいます。

マタイ 2:13-23

ヨセフ、マリヤ、イエスはエジプトに逃げる

マタイ 2:13-23 に記録されているように、ヘロデは、博士たちがメシヤの居所を自分に知らせずに「自分の国へ帰っていった」（マタイ 2:12）ことに腹を立てたことを説明します。メシヤを殺すことを望んだヘロデは、ベツレヘムとその付近の地方にいる 2 歳以下の子供をことごとく殺すよう命じました。

マタイ 2:13-14 を声に出して読みます。他の生徒には、聞きながら、ヨセフがどのようにして自分の家族の安全を守るためにすべきことを知ったのかを見つけてもらいます。分かったことを発表してもらいます。

- ヨセフはマリヤとイエスをどこに連れて行ったのでしょうか。

マタイ2:15-23の要約として、ヨセフ、マリヤ、イエスの三人はヘロデが死ぬまでエジプトにとどまっていたことを説明します。神は夢を通してヨセフに、家族を連れてイスラエルに戻るよう指示されました。そして彼らはナザレの町に行き住みました。

- ヨセフの霊的な事柄に対する感受性は、周囲の人々の生活をどのように祝福しましたか。
- ヨセフからどのような原則を学べるでしょうか。(生徒は異なる言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけられるでしょう。わたしたちが御霊の導きに敏感であるならば、啓示と導きを受けることができる。)

生徒に、さらに御霊の導きに敏感となるためにできることについて深く考えてもらいます。受けた促しに従って行動するという目標を立てるよう励まします。

はじめに

バプテスマのヨハネは、ユダヤで教えを説き、バプテスマを施しました。イエス・キリストは、ガリラヤからヨルダン川へ行き、バプテスマのヨハネによってバプテスマを受けられました。

父なる神は、イエスが愛する御子であられることを証されました。

セミナーの目的

セミナーの目的は、「次のことを行えるように青少年……を助けることです。すなわち、イエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため、自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。」(「宗教教育セミナー・インスティテュートの目的」, si.lds.org) レッスンを準備する際は、毎日、この目標を達成する助けとなる方法を、よく祈って決定します。

教えるための提案

マタイ 3:1-12

バプテスマのヨハネ、ユダヤで教えを説く

クラスの生徒全員に、もしクラスの生徒の一人が立ち上がって他の生徒の持ち物を取り上げ始めたとしたら、どのように感じるか想像するように言います。それぞれの持ち物を取り上げた後、その問題を起こした生徒は謝罪しますが、別の生徒たちから持ち物を取り上げ続けていると想像してもらいます。以下を質問します。

- この生徒の謝罪についてどのように思うでしょうか。
- この生徒の行動は不誠実に悔い改めをしようとしているのとどのように似ているでしょうか。

生徒たちに、マタイ 3 章を研究しながら、真の悔い改めをするには何をしなければならないのか理解する助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マタイ 3:1-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、救い主の教え導く業に人々を備える助けになる、どのようなことが起こっていたかを見つけてもらいます。

- バプテスマのヨハネとはどのような人でしたか。(ヨハネは、ザカリヤと、マリヤの親戚であるエリサベツとの息子でした。アロン神権の鍵を持っていました〔教義と聖約 13 章; 84:27-28 参照〕。)

- ヨハネは、どのようなことをしていましたか。
- ヨハネは自分の教えに耳を傾ける人々に何をしよう熱心に勧めましたか。

40:3; マラキ 3:1; 1 ニーファイ 10:7-10 参照)。ヨハネは悔い改めを宣言し、水によるバプテスマを施すことで、メシヤ(イエス・キリスト)のために道を備えました。

- 悔い改めを宣言し、水によるバプテスマを施すことは主の道を備えるのをどのように助けたと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 3:5-6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人々がヨハネから言われたことにどのように応じたかを見つけてもらいます。

- 人々はヨハネから言われたことに、どのように応じましたか。(人々は自分たちの罪を告白してバプテスマを受けました。自分の罪を天の御父に、必要ならば、神権指導者に進んで告白することは、悔い改めるために不可欠であることを説明します〔『真理を守る—福音の参照資料』 65-66 参照〕。)

一人の生徒に、マタイ 3:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが教えを説いた人々を見つけてもらいます。

- これらの聖句によれば、ヨハネは誰に対して話していましたか。

パリサイ人はユダヤ教の一派であり、その名には「分離された者」という意味があることを説明します。彼らはモーセの律法に厳格に従っていることを誇りとしており、口伝律法として知られる、人が付け加えた伝承もモーセの律法それ自体と同等に重要であると信じていました(『聖句ガイド』「パリサイ人」参照)。サドカイ人はユダヤ人の中では少数派でしたが政治的には有力な党派であり、モーセの律法に文字どおり従うことを信条としていました。彼らは復活と永遠の命の教義を信じていませんでした(『聖句ガイド』「サドカイ人」参照)。

- ヨハネはパリサイ人とサドカイ人を何と呼んでいましたか。



パレスチナのまむし

© taviphoto/Shutterstock.com

可能であれば、パレスチナのまむしの写真を見せ、イスラエルで最も広く知られる毒へびであることを説明します。まむしは夜行性で、身を隠して獲物に忍びより、しとめるのが特徴です。まむしは脅威を感じると、とぐろを巻き、シューと音を立てて、敵に襲い掛かります。

- ヨハネは、なぜパリサイ人とサドカイ人をまむしと呼んだと思いますか。(ヨハネがパリサイ人とサドカイ人の邪悪な影響力と誤った教えから多くの人々を離れさせたことで、彼らはヨハネに脅威を感じていたことを指摘するとよいでしょう。)

ジョセフ・スミス訳には、ヨハネがパリサイ人とサドカイ人に対して語った追加の言葉が含まれていることを説明します。生徒に、次にあるジョセフ・スミス訳マタイ3:34-36を渡し、声に出して読んでもらいます。これらの節はマタイ3:8-9の翻訳であることを説明するとよいでしょう。「なぜ、神から送られた方の説えを受け入れないのか。もし、それを心を受け入れていないなら、わたしを受け入れていない。そしてわたしを受け入れていないなら、わたしが証するために遣わされたその御方をおまえたちは受け入れていない。おまえたちは自分の罪を隠すことはできない。だから、悔い改めよ。そして悔い改めにふさわしい実を結べ。自分たちはアブラハムの子孫であり、自分たちだけが父アブラハムのために子孫を設けることができるなどと心の中で思ってもみるな。あなたがたに言う、神はこれらの石ころからでもアブラハムの子孫を起こすことができになるのだ。」

- ヨハネによると、パリサイ人やサドカイ人がヨハネの教えを拒むならば、誰のことも拒むことになるでしょうか。
- ヨハネの彼らへの言葉をどのようにまとめることができるでしょうか。

ホワイトボードに「悔い改めにふさわしい実を結べ」という語句を書きます。

生徒がこの言葉を理解するのを助けるため、聖文では、人々は良い実か悪い実のいずれかを結ぶ木に象徴されることがあると指摘します。一個の果物を見せるか絵を描き、それがわたしたちの欲望や行いを象徴していることを説明します。「ふさわしい」という言葉は「値する」という意味であることを説明するとよいでしょう。

レッスンの最初に想像してもらった状況を全員に思い出してもらいます(他の生徒からの個人的な持ち物を取り上げる生徒が、謝罪した後で、まだそれをし続けるという状況です)。

- その生徒は自分の望みや行動を通して悔い改めの原則を適切に示したでしょうか。なぜ示していないと言えるでしょうか。(その生徒は謝罪した後も、別の生徒の持ち物を取り上げ続けた。)
- 「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」とはどういう意味か、あなたはどのように要約しますか(マタイ3:8)。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけるはず。主の教えに従うため自分の望みや行いを変えるときに、わたしたちは主に対して真の悔い改めを示す。)
- どのような望みや行いが、わたしたちが真に罪を悔い改めていることを示すでしょうか。

生徒がこの真理を理解するのを助けるために、次の例をホワイトボードに書き出します—「学校でカンニングする」「きょうだいに意地悪をする」「他の生徒に対して思いやりがないまたはいじめる」「悪い言葉を使う」「ポルノグラフィを見る」。これらの罪を悔い改めた人はどのように考え行動するかを、生徒に説明するように言います。

マタイ3:10を声に出して読みます。他の生徒には、聞きながら、真の悔い改めをしない場合の結果を見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。「ことごとく切られて、火の中に投げ込まれる」とは、悔い改めない人は神の御霊の影響力を失い、最終的には日の栄えの王国の祝福を失うことを意味することを説明します。

生徒に、真に悔い改めるために変える必要がある望みや行いについて深く考えてもらいます。神の教えに従っていない望みや行いを変えることにより、真の悔い改めを示すよう生徒を励まします。

生徒に、マタイ3:11を黙読し、バプテスマのヨハネは、救い主が何をされると言っているか見つけてもらいます。

- 11節によると、イエスは、バプテスマのヨハネができないどのようなことをされるのでしょうか。(イエスは「聖霊と火によって」バプテスマを施される。ヨハネは、聖霊の賜物を受けること、すなわちバプテスマの聖約と儀式の後半の部分の部分を指していたことを説明します。聖霊はあたかも火によるかのように、わたしたちの魂を聖別し、精錬します〔2ニーファイ31:13-14, 17〕。)

12節の要約として、それはイエス・キリストを受け入れる義人(麦)と、主を拒む邪悪な人(もみ殻)がどうなるかを象徴的に述べていることを説明します。

マタイ 3:13-17

イエス・キリストはバプテスマを受けられ、御父はイエス・キリストを御自分の愛する子であると証される

バプテスマを受けた生徒に、自分のバプテスマについてよく考えるように言います。数人の生徒に、覚えていることを分かち合ってもらいます。

マタイ 3:13-17 には、救い主のバプテスマが詳しく述べられていることを説明します。これらの聖句を研究しながら、生徒たちに、自分のバプテスマと、救い主のバプテスマの類似点を見つけてもらいます。

ホワイトボードに次の質問を書きます。

誰によって

どのように

なぜ

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に、マタイ 3:13-17 を順番に声に出して読んでもらい、これらの3つの質問の答えを見つけてもらいます。十分に時間を取ってから、次の質問をします。

- 誰がイエスにバプテスマを施しましたか。(ホワイトボードの「誰によって」の横に、「バプテスマのヨハネ」と書きます。)
- なぜイエスはバプテスマのヨハネによってバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダン川に行かれたのでしょうか。(ヨハネはアロン神権の鍵を持っており、当時バプテスマの儀式を執行する権能を持っていた唯一の人だったことを生徒に思い起こしてもらいます。ホワイトボードの「バプテスマのヨハネ」の横に、「正しい権能」と書きます。)
- 16節のどの言葉が、イエスがどのようにバプテスマを受けられたかを示しているのでしょうか。(イエスはバプテスマを受けるとすぐ「水から上がられた」ということは、主は水に沈めるバプテスマを受けられたこと、すなわち水によって完全に浸されたことを意味していると生徒が理解していることを確認します。ホワイトボードの「どのように」の横に、「全身を水に沈められて」と書きます。)

生徒たちに、イエスがバプテスマを受けに来られたとき、自分はヨルダン川にいたと想像してもらいます。

- なぜヨハネは最初、救い主にバプテスマを施す気持ちになれなかったのでしょうか。(ヨハネは、イエスの立場や権能は自分自身よりも大きかったことを知っていました。)
- 15節によると、イエスが、御自分はバプテスマを受ける必要があると言われたのはなぜでしょうか。(「すべての正しいことを成就する」ため。ホワイトボードの「なぜ」の横に、この語句を書きます。)
- この言葉はどういう意味だと思いますか。

「すべての正しいことを成就する」とは、わたしたちが再び天の御父とともに暮らすことができるよう、御父がわたしたちに求められている全てのことを行うことを意味していると説明します。これは、イエスを含め、神がその子供たち全てに求めておられる、救いの儀式を受けることを含みます。バプテスマを受けることによって、イエスはわたしたちが従うべき完全な模範を示し、謙遜を行動で示し、御父の戒めに従い、永遠の命を受けるために必要な儀式を受けられたのです(2 ニューフェイス 31:4-11 参照)。

生徒たちに、ホワイトボードの3つの質問に対する答えを使って、マタイ 3:13-17 から学ぶことのできる教義を見つけるように言います。生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次の教義を見つけるでしょう。権能を持つ者による水に沈めるバプテスマは救いに不可欠である。

- あなたのバプテスマは、救い主がわたしたちのために示された模範とどのような点で似ているのでしょうか。

マタイ 3:16-17 も神会についての教義を学ぶ助けとなることを説明します。生徒に、これらの聖句をもう一度黙読し、御父、御子、聖霊についてどのようなことが教えられているか見つけてもらいます。

- 神会の御三方は救い主のバプテスマの際にどこにいらしたのでしょうか。(イエス・キリストはヨルダン川におられ、聖霊は鳩のように主のうえに下り、天の御父は天から語られました。聖霊は実際に鳩に姿を変えていたのではないことを説明するとよいでしょう。正しくは、鳩は聖霊がイエスのうえに降りていたということを示すしるしや象徴でした。)

- これらの聖句は、神会についてどのような教義をわたしたちに教えていますか。(生徒の表現は異なっているかもしれませんが、おそらく次の教義を見つけられるでしょう。御父と御子と聖霊は、それぞれに独立した別々の存在であられる。)

多くの人々は、神会の正しいまたは完全な知識を持っていないことを指摘します。わたしたちは神会の本質を理解すればするほど、より一層御三方に対する愛を感じ、御三方について他の人々に教え、証する準備がよくなるようになります。

生徒が神会のそれぞれの御方の特質をさらによく理解するのを助けるために、生徒を三人一組のグループに分け、『聖句ガイド』の「神；神会」を調べるように言います。各グループごとに、3人の生徒それぞれに神会の御一方を割り当てます。生徒に、その前文を読んでもらい、割り当てられている御方についての情報を見つけてもらいます。十分に時間を取ってから、生徒たちが学んだ事柄を自分のグループで教え、それらの真理を知ることがわたしたちにとってなぜ重要なのかを説明してもらいます。

レッスンを終えるために、生徒に、御父と御子と聖霊についての証をクラスで分かち合ってもらってもよいでしょう。

マタイ4章

はじめに

バプテスマの後、イエスは荒野で40日間断食し、天の御父と言葉を交わされました。この経験の後、悪魔はイエスを誘惑しました。聖文を用いて、イエスはそれぞれの誘惑に立ち向かわれました。救い主はガリラヤへ行かれ、ベテロとその他の

弟子たちを御自分について来るよう招かれ、巡り歩きながら教え、福音を宣べ伝え、人々を癒やされました。

レッスンの時間 配分を決める

レッスンの前半に時間を使いすぎて後半に急いで教えなければならないのを避けます。準備をする際、選択した教授法を用いてレッスンをを行うのに、各セクションにどれくらいの時間がかかるかを見積もります。ほとんどの場合、教えるための時間に収まらないほど多くの教えるための資料があるので、聖書ブロックのどの部分を強調し、どの部分を要約するかを決定します。

教えるための提案

マタイ4:1-11

イエス、悪魔の誘惑に立ち向かわれる

一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。その生徒に、30秒間よそ見をしないで部屋の中のある物に注目してもらいます。一旦生徒が注目し始めたら、その品物から注意をそらさせようと試みます。例えば、鮮やかな色の品物を見せる、大きな音を鳴らす、または生徒に食べ物を渡してもよいでしょう。30秒たってから、生徒に次の質問をします。

- どうでしたか。注目し続けることができたり、できなかつたりしたのはなぜでしょうか。
- 30秒間、どのようなことを考えましたか。

他の生徒たちに次の質問をします。

- この経験は、天の御父の戒めに従うことに集中し続けるわたしたちの努力に、どのように似ているでしょうか。この生徒の気をそらす試みはどのようなことを表しているでしょうか。（わたしたちに罪を犯すよう誘惑する力。）
- サタンがわたしたちに罪を犯すよう誘惑するのはなぜでしょうか。（2ニーファイ2:17-18, 27参照）

サタンがわたしたちに罪を犯すよう誘惑する方法について考えるよう生徒に言います。マタイ4章を研究しながら、誘惑に負けないよう応用できる原則を見つけるよう生徒に言います。

御自身のバプテスマの後、救い主は地上での教導の業に御自身を備える助けとなる経験をされました。一人の生徒に、マタイ4:1-2のジョセフ・スミス訳を、聖書の聖句との違いに注意を払いながら読んでもらいます。（「さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。神とともにいるためである。そして、四十日四十夜、断食をし、神と交わられたのち、空腹になられた。そして、一人残され悪魔に試みられた。」）他の生徒には、聞きながら、イエスが荒野で経験されたことを見つけてもらいます。（この文脈における「交わる」という言葉は、ともにいるまたは密接で霊的な交流を持つという意味であることを説明する必要があります。）

- 断食し天の御父と交わることは、どうしてイエスが地上での教導の業に備える助けとなるのでしょうか。
- イエスが断食し天の御父と交わられた後、サタンはどうしようとしたでしょうか。生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に次の表のコピーを配るか、クラスノートか聖典学習帳に書き写すように言います。

マタイ4:1-11

	サタンがイエスを誘惑してさせようとしたこと	イエスはどのように誘惑に応えられたか
マタイ4:3-4		
マタイ4:5-7		
マタイ4:8-11		

生徒に、二人一組で、割り当てられた聖句を読んで表を完成してもらいます。この活動を始める前に、ジョセフ・スミス訳ではマタイ4:5, 8の言葉が修正され、悪魔ではなく、御霊が、これらの聖句で説明されている別の場所に救い主を連れて行ったことを説明します（『聖句ガイド』内の「聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）」参照。ルカ4:5；ルカ4:9も参照）。

生徒が表を完成したら、幾つかの組に、それぞれの空欄に書いたことを発表してもらいます。次の質問をするとよいでしょう。

- 断食していたイエスに対して、サタンが石をパンにするよう誘惑したとき、どのような欲望に訴えようとしたのでしょうか。（サタンは食欲を満たしたいという肉体的な欲求に訴えようしました。）
- イエスにこの世の王国を与えようというサタンの申し出については、どのような偽りがありましたか。（サタンは、自分のものでもなく、与えられもしない褒美を約束しました。）
- この話は、わたしたちに罪を犯すよう誘惑する悪魔の策略について、他にどのようなことを示しているのでしょうか。（サタンはわたしたちの最も弱い部分または最も傷つきやすい部分を対象として、わたしたちを繰り返し誘惑します。）

ゆくゆくは、イエスが御自分の空腹を満たされることも、さらには地上の物質を食べ物に変えることさえもなさることを指摘します（ヨハネ2:1-11参照）。主はその教導の業に関して神からの確認と支援も授かり（マタイ17:1-5；ルカ22:41-44参照）、いつの日か世界を治められます（ゼカリヤ14:9；黙示11:15）。そのようなことがおできになりながらも、適切な時期や適切な方法を待たずにサタンの誘惑に乗り欲望を満たすことは、イエスにとって救い主の力を身勝手に乱用することでした。イエスは、サタンの誘いではなく、天の御父の御心に合わせた方法で神の御子としての神性な特質を確立されます。（ジェフリー・R・ホランド「メシヤへの道」『聖徒の道』1989年3月号、19-24参照）

- それぞれの誘惑に対する救い主の対応に関する類似点はどのようなことでしたか。（イエスは聖文を引用してサタンのそれぞれの誘惑に対応されました。）

生徒に、二人一組になって、悪魔の誘惑に立ち向かわれた救い主の模範から学ぶことができる原則を書いてもらいます。何人かの生徒に、見つけた原則をホワイトボードに書いてもらいます。生徒が見つけた原則を発表する際、次の原則を強調します。聖典で教えられた真理を思い出して応用するとき、わたしたちは悪魔の誘惑に立ち向かうことができる。生徒が発表した原則の中にこの真理が明らかに示されていない場合は、ホワイトボードにこの文章を追加します。

救い主はそれぞれの誘惑に対する正しい振る舞い方を明らかにする聖文を思い出しただけでなく、それらの聖文で教えられている真理を応用されたことを指摘します。

- 聖文で教えられている真理を思い出して応用する力について、わたしたちが確認した原則を考えた場合、定期的に聖文を研究することはなぜ重要なのでしょうか。

生徒の各組に紙を一枚渡し、その上に3つの列を作るよう生徒に言います。最初の列には、自分と同じ年頃の青少年が犯すように誘惑される可能性がある罪を3つ書いてもらいます。2番目の列には、1列目に書いたそれぞれの罪を犯すようサタンが誰かを誘惑しようとする方法を記述してもらいます。生徒に、その紙を別の組と交換するように指示します。それから、受け取った紙に記載されているそれぞれの罪を犯すように誘惑されたときに、思い出して応用できる真理を教えている特定の参照聖句を見つけるよう生徒に言います。（生徒に、次のマスター聖句を参照してもらおうとよいでしょう。例えば、創世39:9；ヨハネ14:15；教義と聖約10:5。）生徒に、この参照聖句を3番目の列に書いてもらいます。

数分後、各組から一人の生徒に、紙に書かれた誘惑の一つについて見つけた参照聖句を発表してもらいます。その誘惑を経験したときに、その聖句はどのようにわたしたちを助けることができるか説明するよう生徒に言います。

- 聖文で教えられている真理を思い出し応用することによって、強められ、誘惑に耐えられたのはどのようなときでしたか。（あまり個人的なまた私的な経験を話すべきでないことを、生徒に思い出してもらいます。）

生徒が次に罪を犯すよう誘惑されたときに、思い出して応用する参照聖句をクラスノートまたは聖典学習帳に書いてもらいます。選んだ聖句を暗記するように励まします。

マタイ4:12-17

イエス、ガリラヤに住まわれる

マタイ4:12-15の要約として、荒野での経験の後、救い主はガリラヤに行って、カペナウムの町に住まわれたことを説明します。マタイは、ガリラヤでの主の教導の業が、イザヤの

預言（イザヤ 9：1－2 参照）の成就であると述べました。生徒に、マタイ 4：16 を黙読してもらいます。イザヤが起こると預言した事柄に印をつけるように勧めるとよいでしょう。この預言から、イエス・キリストは暗黒の中にいる人々に光をもたらされることが学べることを指摘します。救い主がその教導の業を通して、どのようにこのことを行われたかを見つけるよう生徒に勧めます。

マタイ 4：17 の要約として、救い主は、人々の間に打ち立てられようとしている天の王国に備えて、悔い改めを説き始められたことを説明します。

マタイ 4：18－22

イエス、ペテロやその他の弟子たちを御自身に従うよう招かれる



絵「漁師への召し」を見せます（『福音の視覚資料集』37 番。LDS.org も参照）。舟の前方にいる二人の男性がペテロとその兄弟のアンデレであることを指摘します。

• 二人は網で何を行っているのでしょうか。

人々がおそらくペテロとアンデレを普通の漁師として見ていた一方で、イエス・キリストは二人の大きな可能性を見、二人がどのような人物になり得るかを知っておられたことを説明します。

• わたしたちはどのような点でペテロとアンデレに似ているのでしょうか。

生徒たちに、マタイ 4 章の研究を続けながら、主が望まれる通りの者となれるようわたしたちがなすべきことを見つけてもらいます。

数人の生徒に、マタイ 4：18－22 を、順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主と何人かの漁師との間のやり取りを見つけてもらいます。

• 救い主はペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネにどうするよう招かれましたか。「人間をとる漁師」とはどういうことですか（19 節）。

• これらの男性が救い主に従い、主の御業を助けるために犠牲にすることは何でしょうか。このことが難しいのはなぜだと思いますか。

もし自分がこれらの男性の一人だとしたら、どのように応じていたか深く考えるよう生徒に言います。

• これらの男性の対応について、どのようなことに気づきましたか。救い主の招きに対する彼らの迅速な対応は、彼らの性格についてどのようなことを表しているのでしょうか。

• これらの男性が生涯の中でより多くの善をなすのは、漁師としてでしょうか、それとも「人間をとる漁師」としてでしょうか。それはなぜですか。

• この話で示されているように、主について来るようにという救い主の招きにすぐに応えるならどうなるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の原則に必ず気づかせてください。従ってきなさいという救い主の招きにすぐに応えるなら、主はわたしたちが自分の力でなし得る以上に、わたしたちの生活を実りあるものにしてくださる。）

一人の生徒に、エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を読んでもらいます。クラス全員に、わたしたちが主に従うときに、主はどのようにわたしたちの生活をさらに実りあるものにしてくださるかに注意して聞くように言います。



「自分たちの生活を神に委ねる男性と女性は、自分の力でなし得る以上に、神が彼らの生活を実りあるものにしてくださることを見いだすでしょう。神は彼らの喜びを深め、視野を広げ、思考力を活気づけ、筋肉を強化し、霊を高揚させ、祝福を増し、好機を増やし、魂を慰め、友人を増やし、平和を注がれます。神の奉仕において自分の命を失う者は誰でも永遠の命を見いだすことでしょう。」（“Jesus Christ – Gifts and Expectations,” *Ensign*, 1988 年 12 月号, 4）

• あなたやあなたの知人がこれまでに、救い主に従うためにこの世的な関心事を捨てたことで同様の祝福を経験してきたのはどのようなときですか。

• 救い主に従うことによって授けられる祝福を考えると、従ってきなさいという救い主の招きにすぐに応えることが重要なのはなぜだと思いますか。

クラスノートまたは聖典学習帳に、次の質問の答えを書いてもらいます。

• 従ってきなさいという救い主の招きに、もっとよく応えるにはどうしたらよいでしょうか。

生徒に書いたことを応用するよう励まします。

マタイ4：23－25

イエス、ガリラヤに行き、教え、宣べ伝え、癒やしをされる

生徒たちに、マタイ4：23－25を黙読して、主の行動を見つけてもらいます。見つけた箇所印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。救い主が教え、宣べ伝え、人々を癒やされた具体的な例を福音書全体で研究することを説明します。

最後に、生徒がこのレッスンで学んだ真理について証を述べます。

第9課

マタイ 5:1-16

はじめに

マタイ5-7章には、救い主が御自身の教導の業の初めにお与えになった説教が記録されています。この説教は、山上の垂訓として知られるようになりました。マタイ5:1-16に

は、幸福に導く原則についての救い主の教えが記録されています。救い主はまた、弟子たちに義の模範を示すよう命じられました。

福音を教え学ぶ ときの基本

セミナーにおける聖文を基としたそれぞれのレッスンでは、特定の概念、テーマ、教義、原則よりも聖句ブロックに焦点を当てています。教師と生徒がこれらの聖句ブロックを配列順に研究するとき、背景と内容を理解すること、福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であると感じ、それらを応用することなど、「福音を教え学ぶときの基本」の多くを実践することができます。

教えるための提案

マタイ 5:1-12

救い主は「至福の教え」を説き、山上の垂訓を述べ始められる

ホワイトボードに次の質問を書いてください—あなたは幸せですか。なぜそう思いますか。

生徒に、これらの質問にどのように答えるか深く考えて（あるいは、クラスノートまたは聖典学習帳に書いて）もらいます。（自分の答えをクラスで発表する必要はないということを生徒に話すとよいでしょう。）

一人の生徒に、大管長会のデーター・F・ワークトドルフ管長の次の話を読んでもらいます。



「自分の手の届かないところにある何かが幸福をもたらしてくれる、という幻想にとらわれることがよくあります。もっと良い家族関係、もっと良い経済状況、大変な試練が終わることなどです。

……表面的な状況はそれほど重要ではなく、わたしたちの幸福を決めるものでも〔ありません。〕

……わたしたちが自分の幸福を決めるのです。』（「後悔と決意について」『リアホナ』2012年11月号、23）

• 「わたしたちが自分の幸福を決めるのです」という言葉には、どのような意味があると思いますか。このことはなぜ重要でしょうか。

救い主がその教導の業を始められたとき、主はガリラヤの海の近くで説教をされたことを説明します。この説教はしばしば「山上の垂訓」と呼ばれており、マタイ5-7章に記録されています。この説教の中で、救い主は、外部の状況に関係なく、本当に幸せになるためにわたしたちが行うことのできる事柄について説明されました。

マタイ5:3-11に目を通し、それぞれの聖句の中で繰り返し使われている言葉を見つけるように言います。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

• 「さいわいである」とはどういう意味でしょうか。

「blessed」（さいわいである）という言葉は、ラテン語の幸運または幸福を意味する「beatus」（「ビアタス」）という言葉から翻訳されているため、これらの聖句は一般的に「至福の教え」（the Beatitudes）と呼ばれていることを説明します。

生徒全員に次の表のコピーを配ります。マタイ5章の「至福の教え」を含む聖句に加え、この表には3ニューファイの2つの参照聖句が含まれていることを指摘します。これらの参照聖句は、イエス・キリストがその教導の業の最中にニューファイ人の間でお与えになった説教の一部で、山上の垂訓に似ています。3ニューファイの参照聖句は、マタイ5章の該当聖句の理解をさらに深めてくれます。

至福の教え

マタイ 5:3;
3ニューファイ
12:3

心が貧しいとは、謙遜で、「〔わたしたち〕が主に頼らなければならないことを、感謝の思いをもって認めること、すなわち〔わたしたち〕が常に主の支えを必要としていることを理解することです。謙遜とは、〔わたしたち〕の才能や能力が神から与えられた賜物であると認めることです。』（『真理を守る—福音の参照資料』78）

マタイ5:4	悲しんでいるとは、悲しみを感じたり、悲しみを表していることです。人は愛する人の死を含め、現世での困難や試しを悲しむことがあります。同様に、人は罪を悔やんで嘆くこともあります。
マタイ5:5	「ウェブスターの辞書によると、柔和とは『忍耐と我慢強さを示すこと。侮辱に腹を立てずに耐えること』とあります〔Webster's Third New International Dictionary (1976年), "meek", 1403〕。柔和は弱さではありません。クリスチャンらしい勇気のしるしです。』（「クリスチャンらしい勇気-弟子としての犠牲」『リアホナ』2008年11月号, 73）
マタイ5:6; 3ニーファイ 12:6	義に飢え渴いているとは、神の御心を知りそれを行いたいという強い願望を意味します。
マタイ5:7	「憐れみとは、人に対して、本人が受けるに値しないほど思いやり深い行いをする事です。」（「憐れみ」『福音のテーマ』lds.org/topics）わたしたちは、イエス・キリストの贖罪によって天の御父の憐れみを受けることができます（アルマ33:11参照）。
マタイ5:8	「心の清い人たちは、主を愛し、主に従い、主の戒めを守るために努め、高潔な生活をし、最後まで忠実に堪え忍ぶ努力をしている人々のことです。心の清い人たちは、自分の思いを制御して、不道德な空想や行いのない状態に保つ人々です。」（シエルドン・F・チャイルド, "Words of Jesus: Chastity," <i>Ensign</i> , 2003年1月号, 44）
マタイ5:9	「他の人々が相違点に目を向けるときに、共通の基盤を見つけられるようにするのが平和を作り出す人々の賜物です。」（ヘンリー・B・アイリング「神権によって学ぶ」『リアホナ』2011年5月号, 63）
マタイ5: 10-12	「義のために迫害される」とは、わたしたちがそうすることで嘲笑されたり虐待されたりする可能性がある場合でも、イエス・キリストと主の教えに喜んで従い、それを守ることを意味します。

生徒を8つのグループに分け、各グループに表に記載されている至福の教えのいずれかを割り当てます（8つのグループを作るのに十分な人数の生徒がいない場合、一つのグループに複数の至福の教えを割り当てればよいでしょう）。生徒に、割り当てられた至福の教えについての短いプレゼンテーションを準備してもらいます。プレゼンテーションには以下の活動を含めるようにします（これらの指示をホワイトボードに書くか、参照用の配付資料を作成してもよいでしょう）。

1. 一人のクラスメートに、その聖句を声に出して読んでもらい、その至福の教えに添って生活することに対して約束されている祝福を見つけてもらいます。
2. 聖句と表の中の情報を使って、その祝福を受けるにはどうしなければならないか説明します。
3. クラス全員に、この至福の教えに従って生活することができる具体的な方法を提案してもらいます。
4. この至福の教えに従って生活することによって、どのように幸福がもたらされるか説明します。あなたが教えた真理を説明する経験とともに、その真理についての自分の証を分かち合ってもよいでしょう。

十分に時間を取ってから、それぞれの組に、割り当てられた至福の教えのプレゼンテーションをしてもらいます。

生徒のプレゼンテーションが終わったら、至福の教えは、イエス・キリストの属性について教えていることと、それに従って生活することで、わたしたちはさらに主のようになることができると指摘します。

- マタイ5章で学んだことに基づくと、これらの、そしてその他のキリストのような属性を育むと、わたしたちはどうなるのでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく

次の原則を見つけるでしょう。わたしたちがキリストのような属性を伸ばすとき、幸福が増し加えられていることに気づく。この原則をホワイトボードに書きます。)

救い主についての自分の証を述べるとよいでしょう。レッスンの最初に深く考えた幸せに関する質問を思い出してもらいます。至福の教えに列挙されている属性のいずれかを選択し、その属性を育むための目標を設定することで、より大きな幸福を追求するよう生徒に言います。

マタイ 5:13-16

イエス・キリスト、弟子たちに義の模範を示すよう教えられる

家族や友人など、彼らの知っている人で、天の御父に近づくことによって祝福されると思う人のことを、生徒に考えてもらいます。生徒たちが、マタイ5章の研究を続けながら、その人を助けようとするときに導きとなる原則を見つけてもらいます。

容器に入った塩を見せて、ボウルに少量を注ぎ入れます。

- 塩はどのような点で役に立ちますか。

一人の生徒に、七十人のカーロス・E・エイシー長老の次の話を読んでもらいます。生徒たちに、塩の利用法に耳を傾けるように言います。

「[良い塩]……は清潔で、混じり気がなく、汚染されておらず、有用性があります。このような状態であれば、塩は保存する、味付けする、治癒の効果を発揮する他、それ以外にもさまざまな使い道があります。(「地の塩一人の味、人々の救い手」『聖徒の道』1980年9月号、66参照)

生徒たちに、マタイ5:13を黙読して、救い主は誰を塩にたとえたのか見つけてもらいます。

- 救い主は誰を塩になぞらえたのでしょうか。(主の弟子たち。)
- イエス・キリストの弟子たちは、どのような点で良い塩と同じ特質を示しているのでしょうか。
- 13節によれば、塩はその味を失ったらどうなるのでしょうか。

「味」という言葉は、塩の味だけではなく、癒やしたり保存したりする働きをする特質のことも示していることを説明します。

- 塩がその塩気を失ったらどうなると思いますか。(他の材料と混ざり、純粋でなくなったときに、塩はその塩気を失う。)

ボウルに、土など、他の材料を入れて、塩とそれらを一緒に混ぜ合わせます。

- 他の材料と混ぜ合わされたとき、塩の有用性はどうなるのでしょうか。
- イエス・キリストの弟子として、わたしたちの塩気を失わせるもの、あるいは他の人々を祝福することのできるキリストのような良い特質を失わせるものにはどのようなものがあるのでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。世の罪により汚染されることで、わたしたちは周りの人を祝福することができなくなってしまふ。ホワイトボードにこの原則を書きます。)
- 塩気を保つ、または塩気を回復するために、わたしたちはどのようなことができるのでしょうか。

ろうそくを見せませ(ろうそくに火はつけません)。一人の生徒に、マタイ5:14-16を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主は弟子たちをどのようにあかりにたとえられたかを見つけてもらいます。

- キリストの弟子たちは、自らの光を使ってどうすることが求められているのでしょうか。
- あなたがたの光を輝かす、とはどういう意味でしょうか。(3 ニーフай 18:24 参照)
- わたしたちの善い行いは、他の人々がどうするように導くのでしょうか。

何よりも、「天にいますあなたがたの父をあがめる」(16節)という言葉は、言葉や行いを通して賛美と名誉を神に帰すことを意味していると説明します。

- 14-16節から、わたしたちの義の模範がどのように人々に影響を与えるかについて、どんな原則を学べるでしょうか。(生徒は他の言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。わたしたちの義の模範は、他の人々が天の御父に近づくよう励ますことができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)
- 誰かの義の模範でああなたがたの天の御父に近づく助けとなったのは、どのようなときでしたか。

マタイ 5:14-16

16は、マスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。マスター聖句についての説明や、これらの聖句を暗記するのを助ける活動のリストは、この手引きの巻末の付録を参照してください。

家族や友人へのより良い模範となるためにできることについて、深く考えるよう生徒を励まします。

このレッスンで見つけ、ホワイトボードに書いた原則を復習します。ホワイトボードに「始める、やめる、続ける」と書きます。生徒に、自分たちの生活を見直して、生活の中でこれらの原則を応用するために始めることができることを一つ、やめることができることを一つ、続けることができることを一つ選んでもらいます。

マスター聖句-マタイ 5:14-16

マタイ 5:14-16 を含め、生徒は年間を通して 25 個のマスター聖句に重点的に取り組むことを説明します。これらの聖句は、生徒が福音の基本的な教義を理解し、説明するのに役立ちます。25 個のマスター聖句の参照は、新約聖書用セミナーのしおりの裏面に記載されています。マスター聖句を「マスターする」ことには、聖句を見つけ、理解し、応用し、暗記することができるようになることが含まれることを説明します。

生徒がこの聖句を暗記するのを助けるため、何回か聖句を心の中で暗唱し、それからクラスメートに声を出して言うよう生徒に言います。明日から一週間、各クラスの最初または最後に、全員で声を出してこの聖句を暗唱してもよいでしょう。

第10課

マタイ 5:17-48

はじめに

救い主は、ガリラヤの山上で説教を続けておられるとき、御自身がモーセの律法を廃するためではなく、成就するために来られたことを述べられました。救い主はまた、天の御父のよう

に完全になるために弟子たちが従わなければならない戒めも与えられました。

背景と内容を理解する

福音の教授と学習の基本の一つは、聖文の背景や内容を理解することです。背景には、特定の聖句や出来事、話に関わる状況や背景となる状況も含まれます。内容には、聖文を構成している話の筋、人物、出来事、説教、靈感に基づく説明が含まれます。生徒が聖句の背景と内容を理解するよう助けるとき、生徒は靈感を受けて記録した人々の根底にあるメッセージを認識するよう備えられます。

教えるための提案

マタイ 5:17-48

イエス・キリスト、弟子たちに天の御父のように完全になる方法を教えられる

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書きおきます。「どの戒めが人々にとって最も守るのが難しいと思いますか。」クラスを始めるとき、生徒にこの質問に答えてもらいます。ホワイトボードに答えを列挙します。

一人の生徒に、マタイ 5:48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、守るのが難しい戒めを見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳マタイ 5:48 「だから、天におられるあなたがたの父が完全であられるように、あなたがたも完全になるように命じられている。」も読むとよいでしょう。

- 完全な者となりなさいという戒めをどのように感じますか。
- 完全とはどういう意味だと思いますか。

生徒に、『聖句ガイド』の「完全」の項を黙読し、「完全」という言葉の意味を調べて、見つけたことを発表するように言います。完全になる、または完全に発達するとは天の御父のようになることであることを説明します。

生徒たちが、マタイ 5 章にある救い主の山上の垂訓の研究を続けながら、天の御父のように完全になることを目指して成長するために従う必要がある原則を見つけてもらいます。

マタイ 5:17-20 の要約として、救い主は、モーセの律法を廃するためではなく成就するために来られたのであり、モーセの律法にある永遠の真理のいずれも取り除くことはなさらないと教えられたことを説明します。イエス・キリストは、邪悪と背教のために失われていた完全な福音を回復され、誤った教えを正し、旧約聖書の預言者によって行われた預言を成就されました。完全な福音の回復の一環として、結果的に、割礼や動物の犠牲など、モーセの律法の幾つかの部分は廃されました。

マタイ 5:21-48 には、モーセの律法の下にユダヤ人が作り上げ、追加したさまざまな律法や慣習について話されました。イエス・キリストはそれらの律法の真の意味を説明されながら、より高い義のあり方を教えられました。主の王国の一員は、このより高い律法に従って生活しなければなりません。これらのより高い律法は、イエス・キリストの弟子たちが神の戒めを破ることを避ける助けとなる導きを与えました。

生徒が、怒りについての救い主の教えを研究する備えができるよう、誰かに対して腹を立てていたときのことを考えてもらいます。

- 怒りをコントロールできないと、どのような危険がありますか。

一人の生徒に、マタイ 5:21-22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、モーセの律法が暴力や怒りについて教えていたことと、主がより高い律法の一部として怒りについて教えられたその他の真理を見つけてもらいます。

- 救い主は暴力や怒りについてどのように教えられましたか。(22 節の「愚か者」[英文では「Raca」]という言葉は、悪意に満ちた軽蔑や愚弄の言葉であったことを説明します。)
- これらの聖句によると、怒りをコントロールすることを身につけないとどうなるでしょうか。

ジョセフ・スミス訳マタイ 5:22 では、「理由もなく」という言葉が省かれています。(訳注-英語の聖書には次のように「理由もなく」という言葉が入っている。「しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して理由もなく怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。

兄弟にむかって愚か者と言うものは、議場に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。])

- ジョセフ・スミス訳で(または日本語版の聖書で)、この聖句から「理由もなく」という語句が省かれているのは、なぜ重要なのでしょう。
- 怒りをコントロールすることは、わたしたちが完全を目指して成長するために、どのような助けになるのでしょうか。

ホワイトボードに次の言葉を書きます。「だから、あなたはわたしのもとに来るとき、またはわたしのもとに来たいと思うとき……」

ジョセフ・スミス訳は「あなたはわたしのもとに来るとき、またはわたしのもとに来たいと思うとき」という言葉を23節の初めに加えており、そのため23節は次のようになっていることを説明します。「だから、あなたはわたしのもとに来るとき、またはわたしのもとに来たいと思うとき、祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいただいていることを、そこで思い出したなら」(ジョセフ・スミス訳マタイ5:25)

一人の生徒に、マタイ5:23-24を、ジョセフ・スミス訳による追加を含めて読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主のもとに来ることを願うなら、人々に対する怒りをどのようにしなければならぬと救い主は教えられているのか見つけてもらいます。

- 「その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行って」という言葉はどのような意味でしょうか。(人々は主に犠牲をささげる前に、まず他の人との関係を修復する必要があります。)
- 24節によると、キリストのもとに来ることを望むならば、何をしなければなりません。(生徒はさまざまな言葉を使うことで、必ず次の真理を見つけられるようにします。キリストのもとに来ることを望むならば、まず相手と和解するために自分のなすべきことをしなければなりません。)
- 誰かと和解するとはどのような意味ですか。(争いを解決する、または仲の良い関係に回復すること。これには、わたしたちに対して思いやりのない人々や、わたしたちの方で思いやりを持ってない人々が含まれています。)
- キリストのもとに来るために、他の人々との争いを解決する必要があるのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、マタイ5:25-26を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、他の人々と和解するために行うことができると主が言われたことを見つけてもらいます。

- あなたを訴える者と早く仲直りをしなさいとはどのような意味だと思いますか。(生徒が助けを必要としている場合には、「仲直りする」とは、新約聖書の原典であるギリシャ語では「ただちに思いやりを持つまたは好い感情を抱く」という意味であることを説明します。)
- 誰かに対して思いやりを向けるようにすることは、わたしたちが争いを解決したり、その人との損なわれた関係を修復したりするのをどのように助けることができるのでしょうか。

生徒たちに、他の人との争いを解決したり、その結果として主のもとに近づくことができたりしたときのことを考えてもらいます。一人か二人の生徒から、あまりに個人的なものでなければ、自分の経験を発表してもらってもよいでしょう。天の御父のように完全になることを目指して成長することができるように、他の人々との争いを解決するよう生徒を励まします。

生徒に、雑草(または雑草の写真)を見せます。

- 庭から雑草を抜かなかつたらどうなるのでしょうか。
- 雑草はどのような点で罪に似ているのでしょうか。

一人の生徒に、マタイ5:27-28を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が警告しておられる罪と、弟子たちが生活するうえで従ってほしいと主が期待しておられるさらに高い律法を見つけてもらいます。

- 肉欲的な思いや望みを抱く人々について、救い主は何と教えられていますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うことが予想されますが、肉欲的な思いや望みを抱くことを選択した場合、それは心の中で姦淫を犯すようなものであると明確に理解していることを確認します。)

わたしたちは心に入る不純な思いを常に防ぐことはできませんが、その思いがそこに留まるのを防ぐことはできるということを説明します。

一人の生徒に、マタイ5:29-30を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が不純な思いを取り除くことについて教えられたことを見つけてもらいます。



- 不純な思いを取り除くためには、わたしたちはどうしなければならないと救い主は言われたでしょうか。
- これらの聖句の、目を抜き出さないとか手を切りなさいとは、どのような意味だと思いませんか。

ジョセフ・スミス訳マタイ 5:30 では次の文章がこの節の最後に加えられていることを説明します。「さて、今わたしはこのことを告げる。これはあなたがたの罪についてのたとえである。それゆえに、切り倒されて地獄に投げ込まれないように、これらのことを断ちなさい。」ジョセフ・スミス訳はこれらの聖句の目を抜き出さない、また手を切りなさいという意味を理解するうえで、どのような助けとなるのかを生徒に見つけてもらいます。気づいたことを分かち合うよう彼らに勧めます。

- マタイ 5:29 - 30 で主が教えられたことに基づくと、わたしたちの生活から罪を取り除かないとどうなるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。生活から罪を取り除かないなら、その罪はわたしたちを霊的に破壊してしまう。)
- 生活から罪を取り除くために、わたしたちはどうすることができるでしょうか。
- 生活から罪を取り除き、決して再びそのような罪を犯さないために、わたしたちはどうしなければならないでしょうか。

自分たちの生活から取り除きたい罪について考え、それから悔い改めと義の行いでそれを置き換えることによって罪を取り除く目標を設定するよう生徒を励まします。

マタイ 5:31 - 37 の要約として、主は離婚、結婚、誓いについて教えられたことを説明します。

生徒たちに、学校の友人が自分たちについてひどく思いやりのないことを言うのを想像するように言います。生徒たちに、どのように対応できるか尋ねます。

一人の生徒に、マタイ 5:38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、罪や過ちに対して個人を罰することについて、モーセの律法が教えていることを見つけてもらいます。生徒に、見つけたものを発表してもらいます。「目には目を、歯には歯を」という表現は、モーセの律法の下では、刑罰は犯罪の深刻さに相応している必要があったことを意味していると説明します。

生徒を二人一組にします。それぞれの組の一人の生徒に、マタイ 5:39 - 42 を読んでもらい、他方の生徒に、マタイ 5:43 - 47 を読んでもらいます。生徒たちに、より高い律法を見つけてもらいます。十分に時間を取ってから、パートナーと以下の質問について考えるよう生徒に言います(質問はホワイトボードに書いておくか、配付資料にして配れるようにしておくといよいでしょう)。

救い主によれば、より高い律法とは何でしょうか。

より高い律法はわたしたちを怒らせる人々にどう対応すべきかについて、どのようなことを教えているのでしょうか。

時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

一人の生徒に、マタイ 5:45 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが敵を愛し、わたしたちを憎む者に善をなしたらどうなるのか見つけてもらいます。

- わたしたちが敵を愛し、わたしたちを憎む者に善をなしたらどうなるでしょうか。
- わたしたちは全員神の霊の子供であることを知っていますが、この聖句の「天にいますあなたがたの父の子となる」とは、どのようなことを意味していると思いませんか。(神のようになり、神の王国を受け継ぐ者になることを意味する。)
- 救い主はその生涯の間に、敵を愛し、隣りに善をなすことについてどのような模範を示されましたか。

生徒に、天の御父のように完全になるために必要な事柄についてマタイ 5 章で学んだことを思い返してもらいます。

- 天の御父のように完全になるために行う必要があることには、どのようなものがあるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うでしょうが、おそらく次のような原則を見つけるはずです。わたしたちが救い主の教えと戒めに従うなら、天の御父のように完全になることができる。)

イエス・キリストを通し、主の恵みによってのみ、わたしたちが完全になることができることを生徒に思い出してもらいます(モロナイ 10:32 参照)。

生徒たちが完全になる過程を理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老の以下の言葉を読んでもらいます。

「完成を目指す熱心な努力が、今は困難で果てしないように感じられるかもしれませんが。しかしわたしたちは、がっかりする必要はありません。完成とは途絶えることのない過程です。それは復活の後だけに、主を通してだけ完全にもたらされるのです。これは主を愛し、主の戒めを守る人全てに用意されています。」(「完成への道」『リアホナ』1996年1月号, 98)

- ネルソン長老によれば、わたしたちはいつ完全に達するのでしょうか。
- この言葉は、自分の不完全さに圧倒され、落胆を感じている人をどのように助けるでしょうか。

最終的に天の御父のようになることができるように、神の戒めに従い続けるよう生徒を励まします。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ 1-5 章 (単元 2)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ 1-5 章 (単元 2) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要を考えながらに合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マタイ 1-2 章)

生徒が救い主の系図について学習したことで、イエス・キリストは天の御父とマリヤの間に生まれた神の御子であることを学びました。イエスを拝みに来た博士たちの経験から、わたしたちが誠意を持って熱心に救い主を探し求めるならば、救い主がおられる所に導かれることを生徒は学びました。ヨセフがどのように靈感を受けて、安全を求め、家族を連れてエジプトへ逃れたのかを読んで知ったので、生徒はわたしたちが御霊の導きに敏感であるならば、啓示や導きを受けることができるとわかりました。

第 2 日 (マタイ 3 章)

生徒は、バプテスマのヨハネについて、またイエス・キリストのバプテスマについて読んだことで、次の真理を学びました。わたしたちが、主の教えに従うために心の望みと行いを変えるときに、主に対して真の悔い改めを示すことができます。権能を持つ者による、水に沈めるバプテスマは、救いのために不可欠である。御父と御子と聖霊は独立した別々の御方である。

第 3 日 (マタイ 4 章)

生徒は、悪魔の誘惑に対する救い主の対応について読んだことで、わたしたちが聖文で教えられている真理を思い出し、応用するとき、悪魔の誘惑に立ち向かうことができることを学びました。また、暗闇の中にいる人々の生活に、イエス・キリストが光をもたらすことも学びました。ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネについて読んだときに、次の真理がわかりました。救い主が御自分に従うように招かれたときに、わたしたちがすぐに応じるならば、主はわたしたちの生活を、自分の力で行う以上に実りあるものにしてくださる。

第 4 日 (マタイ 5 章)

このレッスンでは、生徒は救い主による山上の垂訓の一部を読みました。この垂訓から、生徒は次の真理を学びました。わたしたちがキリストのような属性を育むときに、さらなる幸福を見いだすことができます。わたしたちがこの世の罪で汚れてしまうと、周りの人へ祝福をもたらすことができなくなってしまう。わたしたちの義の模範は、周りの人が天の御父に近づくよう励ますことができる。また、生徒たちは、イエス・キリストが弟子たちに教えたより高い律法についても学びました。

はじめに

このレッスンでは、生徒たちが天の御父のように完全になるために、わたしたちがしなければならぬことについて理解する助けとなります。さらに、主が教えられたより高い律法についてもう一度考えることで、生徒たちは、主の戒めにどのように従うべきなのか、改善する方法を考えることができます。

教えるための提案

マタイ 5 : 17 - 48

イエス・キリスト、弟子たちに天の御父のように完全になる方法を教えられる

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます。人にとって守るのが最も難しい戒めはどの戒めだと思えますか。授業が始まったら、生徒にこの質問に答えてもらいます。答えをホワイトボードに書き出します。

一人の生徒に、マタイ 5 : 48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、守るのが難しい戒めを見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳マタイ 5 : 48 「だから、天におられるあなたがたの父が完全であられるように、あなたがたも完全になるように命じられている。」も読んでもらってもよいでしょう。

- 完全になりなさいという戒めを聞いて、どう感じますか。
- 完全になるとはどういう意味だと思えますか。

『聖句ガイド』「完全」の項を黙読してもらい、見つけたことを発表してもらいます。完成されて欠点がない、また余すところなく成長するとは、天の御父のようになることを意味していると説明します。

生徒たちが、マタイ 5 章にある救い主による山上の垂訓の学習を続ける際に、天の御父のように完全になることを目指して進歩するために、従う必要のある原則を見つけてもらいます。

マタイ 5 : 17 - 20 のまとめとして、救い主が来られたのは、モーセの律法の永遠の真理に対し、それを破棄したり、排除したりするためではなく、成就するためであると教えられたことを説明します。イエス・キリストは邪悪と背教によって失われた完全な福音を回復し、誤った教えを正し、旧約の預言者たちによる預言を成就されました。完全な福音の回復の一環として、最終的には、割礼や動物の犠牲など、モーセの律法の一部は廃止されました。

マタイ 5:21-48 には、モーセの律法のもとでユダヤ人が習慣として作りだしたり、追加したりしたさまざまな律法や言い伝えについての救い主の教えが書かれていることを説明します。イエス・キリストが律法の真の意味を説明された時、イエスは義にかなうより高い方法を教えられました。主の王国の会員たちは、このより高い律法に従って生活しなければなりません。これらのより高い律法によって、イエス・キリストの弟子たちが、神の戒めを破るのを防ぐための導きを与えられました。

生徒が家庭学習レッスンでより高い律法について学んだ事柄を思い出せるように、次の文章をホワイトボードに書くとよいでしょう—あなたは殺してはならない。あなたは姦淫してはならない。

イエス・キリストがこれらの律法について弟子たちに何を教えたか、生徒に説明してもらいます。(生徒が思い出せない場合は、それぞれに関してマタイ 5:21-26, マタイ 5:27-30 を参照してもらいます。)

- わたしたちが自分の怒りを制することができないと、どのような危険がありますか。
- わたしたちの思いを制することはなぜ大切なのでしょうか。

マタイ 5:31-37 のまとめとして、主が、離婚、結婚、誓いを立てることについて教えられたことを説明します。

生徒たちに、学校で同級生が自分たちについて、ひどく傷つくような思いやりのないことを言っていると想像してもらいます。それにどのように応えるか、生徒たちに尋ねます。

一人の生徒に、マタイ 5:38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、モーセの律法が罪や過ちを犯した人を罰することについてどう教えているかを見つけてもらいます。生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。「目には目を、歯には歯を」という表現は、モーセの律法の下では、処罰は罪の深刻さにつりあったものでなければならないという意味だったことを説明します。

生徒を二人一組にします。組の一人の生徒にマタイ 5:39-42 を読んでもらい、もう一人の生徒にはマタイ 5:43-47 を読んでもらいます。より高い律法を見つけてもらいます。十分な時間を与えてから、パートナーと次の質問について話し合ってもらいます(質問をホワイトボードに書いたり、プリントにして配るとよいでしょう)。

救い主によると、より高い律法とはどのようなものなのでしょうか。

より高い律法は、わたしたちを怒らせる者に対してどのように行動すべきかについて、どのようなことを教えているのでしょうか。

時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

一人の生徒に、マタイ 5:45 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが敵を愛し、迫害する者に善を行うとどうなるかを見つけてもらいます。

- わたしたちが敵を愛し、迫害する者に善を行うとどうなりますか。
- わたしたちは全て神の霊の子供であると知っているのに、この聖句の天の御父の子になるというのはどういう意味だと思いますか。(それは天の御父のようになり、御父の王国を受け継ぐ者になることを意味します。)
- 救い主は、その生涯において、敵を愛し、周囲の人たちに善を行うことについて、どのように模範を示されましたか。

わたしたちが天の御父のように完全になるために、どのようなことをしなければならぬかについて、マタイ 5 章で学んだ事柄を生徒にもう一度考えてもらいます。

- 天の御父のように完全になるために、わたしたちがしなければならぬことには、どのようなものがありますか。(生徒はさまざまな言葉で答えることが予想されますが、おそらく次のような原則を見つけられるでしょう。**わたしたちが救い主の教えと戒めに従うとき、天の御父のように完全になることができる。**)

イエス・キリストとその恵みによってのみ、わたしたちは完全になれることを生徒に思い出してもらいます(モロナイ 10:32 参照)。

生徒たちが完全になる過程を理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老の次の言葉を読んでもらいます。



「完成を目指す熱心な努力が、今は困難で果てしないように感じられるかもしれませんが、しかしわたしたちは、がっかりする必要はありません。完成とは途絶えることのない過程です。それは復活の後のみに、主を通してだけ完全にもたらされるのです。それは主を愛し、主の戒めを守る人全てに用意されています。」(「完成への道」『聖徒の道』1995年11月号、98)

- ネルソン長老によると、わたしたちはいつ完全に到達するのでしょうか。
- この言葉は、自分の不完全さに圧倒され、落胆している人にとって、どのような助けとなるのでしょうか。

生徒たちが最終的には天の御父のようになれるように、神の戒めを守り続けるよう励ましてください。

次の単元(マタイ 6:1-13:23)

生徒が次の単元に備えられるように、次の質問について考えてもらいます。黄金律とは何ですか。人を裁くことについて主はどんなことを教えられましたか。二人の主人に仕えようと、どのようなことになるのでしょうか。救い主に癒やされるために、人々はどのようなことをしなければならなかったのでしょうか。次の単元では、これらの質問の答えを見つける機会があること、また救い主が使徒たちに与えた責任について学ぶことを説明します。

マタイ6章

はじめに

イエスは山上の垂訓を続けられました。主は、献身的な義の行いは、正しい理由のために行われるべきであることを教え、天の御父に喜んでいただくために行われるべきであることを強

調されました。主はまた、まず神の王国を築くことを求めるよう弟子たちに教えられました。

教えるための提案

マタイ6:1-18

救い主、弟子たちに義の働きをするよう教えられる

ささやかなご褒美をクラスに持参します(例えばキャンディー数個など)。生徒が来たときに彼らの善い行い(自分の聖典を取り出す、誰かを温かく迎える、デイポーショナルの計画を助けるなど)を見たら、彼らに褒美を与え、クラスでその善い行いを発表します。一部の生徒は、自分のご褒美をもらうために他の生徒の善い行いをまねるかもしれません。クラスが始まるまで、ご褒美をあげ続けます。

クラスを始めるに当たり、あなたのご褒美をあげたその善い行いをなぜしたのか、生徒に尋ねます。マタイ6章に記されているとおり、救い主は山上の垂訓を続け、人が義の行いをする動機は異なっていることについて教えられたことを説明します。生徒たちが、マタイ6章を研究しながら、正しい理由で義の行いをする助けとなる原則を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マタイ6:1-2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誤った理由で義の行いをする事について主が言われたことを見つけてもらいます。(施しとは、例えば貧しい人々に与えるなどの信心深い献身的な行いであることを指摘します[『聖句ガイド』『施し』参照])

- これらの聖句によれば、ある人々はどんな理由で施しをするのでしょうか。
- 救い主はこれらの人々を何と呼ばれましたか。(「偽善者たち」と訳されているギリシャ語は、いかにも善人らしく見せかけている人のことをいうことを指摘してもよいでしょう。英語版の聖書の脚注では「役者」「見せかける、芝居がかって表現する、おおげさに演じてみせる人」を意味するとあります。)
- 「彼らはその報いを受けてしまっている」という言葉には、どのような意味があると思いますか。

一人の生徒に、マタイ6:3-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主の弟子たちはどのように義の行いをするべきかについて主が教えられたことを見つけてもらいます。

- 主が弟子たちに奉仕の行いは「隠れて」するように望まれているのはなぜだと思いますか。
- 隠れて義の行いをする事は、それらを行う人の動機についてどんなことを示唆しているのでしょうか。(その人は周囲の人々から注目を浴びることよりも、天の御父に喜んでいただくこと、人々に仕えることを望んでいる。)
- 救い主は正しい理由で義の行いをする人々に対してどんなことを約束されたのでしょうか。
- 献身的な行いをする事についての救い主の教えからどのような原則が学べるのでしょうか。(生徒が次の原則を見つけられるよう助けます。わたしたちが人の注目を集めるためではなく、天の御父を喜ばせるために献身的な行いをするならば、天の御父は公に報いてくださる。この原則をホワイトボードに書きます。)
- 天の御父が公に報いてくださることは、あなたにとってどのような意味がありますか。

生徒を二人一組に分けます。それぞれの組の一人の生徒に、マタイ6:5-6を読んでもらい、他方の生徒に、マタイ6:16-18を読んでももらいます。それぞれの生徒に、天の御父が喜んでくださる義の行いをする原則について、救い主が教えるために用いられた例を見つ

生徒が教義や原則を見つけられるようになるのを助ける

聖文を研究する主な目的の一つは福音の教義と原則を学ぶことです。聖文から教義と原則を見つけることは、福音を教え学ぶ基本です。それらを見つける方法を学ぶには、思慮深く努力し、実行する必要があります。生徒が教義と原則を見つけるのを助ける際、彼らがこれらの真理を理解していると確信するため、それらをはっきりと簡潔に言えるよう助けてください。

けるように言います。学んだことを互いに分かち合ってもらいます。その後、次の質問をします。

- これら二つの聖句において、どちらの宗教的行為を隠れて行うべきだとイエスは強調されましたか。

隠れて行われていないという理由だけで、公の祈りが間違っているわけではないことを生徒が理解しているか確認します。誠実さや献身をもって行われている場合、祈りやその他の宗教的行為は公に行うことができます。

- 今学んだこれらの聖句によれば、なぜ偽善者は祈ったり断食をしたりするのでしょうか。

16節の「陰気な顔つき」と「自分の顔を見苦しくする」という言葉は、自分自身に注意を引くために、断食していることを外に表す人を指していることを説明するとよいでしょう。

ホワイトボードの原則に再び注意を促します。天の御父に喜んでいただくために、祈りや断食などの献身的な行いをしたときのことを生徒たちに考えてもらいます。心からの礼拝に対してどのような祝福を感じたかを深く考えるように言います。数人の生徒に、彼らがそうしてもよいと感じるならば、受けた祝福を発表してもらってもよいでしょう。

マタイ6:7-15の要約として、救い主は正しい祈り方の指示とひな形を与えられたことを説明します。主御自身の祈りの模範は、「主の祈り」として知られています。生徒に、これらの節をもう一度簡単に見直してもらい、主の模範から祈りについて学べることを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。（この話し合いの一環として、「くどくど」祈ることに対する主の警告は、必ずしも、同一または類似の言葉を祈るたびに使うことを禁止しているわけではないことを説明するとよいでしょう。主はまた、心のもっていない、口先だけの、または形だけの祈りに対しても警告しておられます。わたしたちの祈りは、謙遜に、心を込めて、そして信仰をもって表されるべきです。）

マタイ6:19-24

イエス・キリスト、天に宝を蓄えるよう群衆に教えられる

宝箱の写真を見せます。宝とはわたしたちにとって非常に価値のある全てのものだと言明します。

- あなたが宝であると考えられるものは何ですか。

一人の生徒に、マタイ6:29-31を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が宝について教えられた事柄を見つけてもらいます。

- 救い主は弟子たちにどのような種類の宝を求めよう教えられたのでしょうか。
- 救い主は、地上に蓄える宝と天に蓄える宝にはどのような違いがあると言われたのでしょうか。

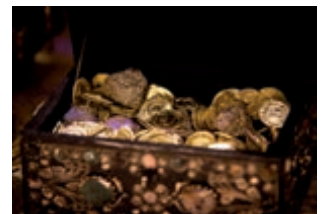
ホワイトボードに次のように書きます。

地上の宝 天の宝

生徒たちにホワイトボードのところに来てもらい、地上の宝と天の宝の例を書き連ねてもらいます。

一人の生徒に、マタイ6:22-24を読んでもらい、それからクラス全員に、わたしたちが天に宝を蓄える助けとなるよう、救い主が教えられた事柄を見つけてもらいます。

- 22節で、わたしたちが天に宝を蓄える助けとなるものについて、救い主はどのように教えていらっしゃいますか。（22節のジョセフ・スミス訳は、「だから、あなたが神の栄光にひたすら目を向けるならば」〔『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」マタイ6:22〕と書いてあることを指摘します。神の業と栄光とは「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」であることを、生徒に思い出してもらおうとよいでしょう〔モーセ1:39〕。）
- 神の栄光にひたすら目を向け続けるためには、どのようなことができるのでしょうか。
- 救い主は24節の終わりで、わたしたちが天に宝を蓄えるのを覚える助けとなるものについて、どのような真理を教えられていますか。（生徒たちはおそらく次の真理を見つけるはずで、わたしたちは神と富とに兼ね仕えることはできない。「富」という言葉は貪欲を指していることを説明します。）
- 富に「仕える」とはどういう意味でしょうか。（神からわたしたちを離れさせるこの世的なものに心を向けること。）



マタイ6:24で生徒が見つけた真理を説明するため、2本のストローの上部付近をテープで留めて一つにします。およそ半分水を入れたコップを見せ、1本のストローを水の中に差し入れ、もう1本のストローはコップの外に出るようにします。一人の生徒に、そのストローを2本一緒にくわえて水を飲んでもらいます。（この実物を使ったレッスンがうまくいくように、その生徒には、必ず両方のストローから同時に吸い込んでもらいます。）その後、その生徒に尋ねます。

- なぜ効率的に水が飲めなかったのでしょうか。

他の生徒たちに次の質問をします。

- ストローがわたしたちを表している場合、水は何を表すでしょうか。（神に仕えるためのわたしたちの努力。）
- わたしたちが神と富とに同時に仕えることができないのはなぜだと思いますか。（ヤコブの手紙1:8も参照）
- 水を飲むためにはストローをどうしなければならないのでしょうか。これは神に仕えるための努力にどのように関連していますか。

生徒に、次の質問に対する答えを深く考えてもらいます。生徒に、クラスノートか聖典学習帳に、自分の答えを記録するように勧めるとよいでしょう。

- 生活の中でこの世的なことに心を向けることは、神に仕え、天に宝を蓄えることからどのようにあなたを離れさせるのでしょうか。

マタイ6:25 - 34

救い主、弟子たちに、まず神の王国を求めようように教えらる

マタイ6:25 - 34の要約として、救い主は、基本的に必要なものを備えることについて心配し過ぎないよう、弟子たちに教えられたことを説明します。マタイ6:25 - 27のジョセフ・スミス訳は、救い主は特に主の福音を宣べ伝えるために出て行く人々に向けて話されたことを理解する助けとなります。

一人の生徒に、マタイ6:31 - 34を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が生活の中でまずどのようなことを求めるよう、弟子たちに教えられたかを見つけてもらいます。（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳 [抜粋]」マタイ6:38も読むようにします。）

- 救い主は、生活の中でまずどのようなことを求めるよう弟子たちに教えられたでしょうか。
- イエス・キリストは、この世の物を得ることを求めるよりも、神の王国（すなわち御自身の教会）を築くことを求める人々に、どのようなことを約束されたでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。まず神の王国を築くことを求めるなら、神が御存じであるわたしたちの必要なものを祝福してください。）

生徒がこの原則を理解できるように、一人の生徒に、エズラ・タフト・ベンソン大管長による次の言葉を読んでもらいます。



「わたしたちは生活の中で、神を何よりも先に置かなければなりません。……

神を第一に考えれば、他の全てのものは正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです。主の愛は感情の欲求や時間の要求、興味、物事の優先順位をコントロールします。

わたしたちは生活の中で、神を全てのものよりも先に置かなければなりません。」（『偉大な戒め-主を愛する』『聖徒の道』1988年6月号、4参照）

- 生活の中で神を第一に置こうと努めたときに、天の御父の祝福を経験したのはどのようなときでしたか。

生活の中で神を第一に置くことによってもたらされた祝福について、あなたの証を分かち合おうとよいでしょう。

どのようにこの世的なものに熱中するよう誘惑されるのか、少しの時間生徒にもう一度考えてもらいます。クラスノートまたは聖典学習帳に、生活の中で天の御父を第一に置こうと努めるための一つの方法を書くことによって、この誘惑に打ち勝つ目標を立てるよう生徒に勧めます。

注釈と背景情報

マタイ6:22 「だから、あなたの目が澄んでおれば」

「この聖句で使われている『澄んでいる』という言葉は、ギリシャ語の、堅実、健全、純粹、誠実という意味の言葉です。この定義を知ることが、施し、祈り、断食に関する救い主の教えを理解する助けとなります。これらは全て、天の御父またはそれを受け取る人に焦点を当てて純粹かつ誠実に行われるべきです。次のような質問を検討してもよいでしょう。貧しい人々に施すとき、わたしは神に栄光をもたらすことを願っているだろう

か、それとも自分自身に栄光をもたらすことを願っているだろうか。主に仕えるとき、わたしは主に認めていただくためにそうするのだろうか、それとも人々に認められるためにそうするのだろうか。人前で祈るとき、わたしは神に向けて述べているのだろうか、それとも集まっている人々に聞いてもらうために述べているのだろうか。(2 ニーファイ2:30; 教義と聖約88:67-68; モーセ4:2; ジョセフ・スミス—歴史1:46 参照) (New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014年], 29)

第12課

マタイ7章

はじめに

イエス・キリストは、義にかなった裁きをするよう弟子たちを教えることで、山上の垂訓を続けられました。主はまた、弟子

たちに個人的な啓示を受け、天の御父の御心を行うことを教えられました。

教えるための提案

マタイ7：1－5

山上の垂訓の一部として、イエス・キリストは義にかなって裁くことについて弟子たちに教えられます

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます。「わたしたちは人を裁くべきでしょうか、それとも裁くべきではないでしょうか。」クラスを始めるとき、生徒にこの質問に答えてもらいます。



「山上の垂訓」カール・ハインリッヒ・ブロッホ画。デンマーク・ヒレズにあるフレズレクスボー城内にある国立歴史博物館の厚意により掲載複製は禁じられています。

絵「山上の垂訓」を見せます（『福音の視覚資料集』39番；LDS.orgも参照）。イエスは山上の垂訓を続け、弟子たちに裁くことについて教えられたことを説明します。

一人の生徒に、マタイ7：1を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、裁くことについて救い主が教えられた事柄を見つけてもらいます。1節は、しばしば、わたしたちが決して裁いてはいけないという意味に誤解されていることを指摘します。一人の生徒に、『聖句ガイド』にある「聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）」のマタイ7：1－2を声に出して読んでもらいます。

- 救い主は裁くことについてどのように教えられましたか。
- 義にかなって裁くとはどういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、マタイ7：2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが他の人々を裁くときの裁き方によって、どうなるのか見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- わたしたちが他の人々を義にかなって裁くと、どうなりますか。（生徒が答えたら、次の原則を見つかるよう助けます。他の人々を義にかなって裁くなら、神はわたしたちに同じ憐れみと公平を示してください。）

可能であれば、それぞれの生徒に、『真理を守る』から次の言葉をコピーした資料を配ります。一人の生徒に、それを声に出して読んでもらいます。クラスの半数の生徒には、聞きながら、わたしたちがすべき、またはすべきでない裁きの種類を見つけてもらいます。残りの半数の生徒には、義にかなって裁く方法を見つけてもらいます。

「時として、どのような形であれ、人を裁くのは間違っていると感ずることがあります。確かに、人を非難したり、不当に裁いたりしてはなりません、考え方や状況、人物に関しては生涯にわたって判断を下す必要があります。……

判断を下すことは、選択の自由を行使する重要な機会ですが、人について判断を下すときは特に細心の注意を払う必要があります。判断するときには必ず義にかなった標準に基づいて判断しなければなりません。人を最終的に裁くことができるのは、その人の心を熟知しておられる神だけだということを忘れてはなりません（黙示20：12；3ニーファイ27：14；教義と聖約137：9参照）。……

できるかぎり、その人自身を裁くというよりはむしろ、その人の置かれた状況を裁くようにしてください。状況が許すかぎり、事実関係についての十分な情報を得るまでは、判断を差し控えてください。あなたの決定に導きを与えることができなくなる聖霊の促しにいつも敏感であってください。」（『真理を守る — 福音の参照資料』160－161）

- わたしたちがすべきなのはどのような裁きですか。
- どうすれば義にかなった裁きをすることができるでしょうか。

小さな細い木片と、長くて厚い木材を見せます。救い主が裁くことについて弟子たちに教えられたとき、主は小さな細い木片を「ちり」として、大きな木材を「梁」として述べられたことを説明します。一人の生徒に、マタイ7:3を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が他の人々を裁くことについて教えられたことを見つけてもらいます。

- ちりと梁は、救い主のたとえにおいて何を表しているのでしょうか。
- 3節にある救い主の教えを、あなたの言葉で言うとうなりますか。

二人の生徒に前に出てきてもらいます。一人の生徒に、自分の両目が隠れるように梁を持ってもらいます。二人目の生徒に次の質問をします。

- 梁があるクラスメートに、あなたの目から木くずを取り除いてほしいと思いますか。なぜ、そうして欲しくないのでしょうか。

梁を持っている生徒に尋ねます。

- クラスメートの目から木くずを取り除けるほど十分はつきり見るためには何をする必要がありますか。

梁を持っている生徒に、大管長会のディーター・F・ワークトドルフ管長が述べた次の言葉を読んでもらいます。

「この梁とちりの話は、自分をしっかり見詰める力のないわたしたちと密接に関係があるように思われます。自分の問題を知るのには苦勞することが多いのに、他の人々の問題をとてもよく分析して解決法を提言できるのはなぜか、わたしには分かりません。」(「主よ、それはわたしですか」『リアホナ』2014年11月号, 56)

二人の生徒に着席してもらいます。一人の生徒に、マタイ7:4-5を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が誰の過ちについて心配すべきだとおっしゃっているのか見つけてもらいます。

- わたしたちの関心や矯正は、他の人々の過ちに焦点を当てるべきでしょうか、それとも自分自身の過ちに焦点を当てるべきでしょうか。それはなぜでしょうか。
- これらの聖句から、他の人々を不正に裁くのを避けるのに役立つどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけられるでしょう。自分自身の罪や弱点を取り除くことに焦点を当てているなら、わたしたちは他の人々を不当に裁きにくくなる。)
- 他の誰かの欠点を見るとき、この原則はどのようにわたしたちに役立つでしょうか。

この原則を生徒に思い出してもらうために、生徒に小さい木片を与えてもよいでしょう。生徒たちに、自分の生活の中から取り除くことのできる罪や弱点について深く考えてもらいます。他の人々を不正に裁くのではなく、自分の欠点を取り除くための助けを主に求めるよう生徒を励まします。

マタイ7:6-14

救い主、個人の啓示を求めることについて教えられる

マタイ7:6の要約として、この聖句のジョセフ・スミス訳は、イエス・キリストが、世界に出て行き福音を宣べ伝えるように弟子たちを召したことを理解する助けとなることを説明します。弟子たちは悔い改めを教えるものの、王国の奥義は自分自身にとどめておくことになっていました。言い換えれば、神聖な事柄について受け入れる備えのない人々とは、それらの事柄については話し合わなかったのです。(ジョセフ・スミス訳マタイ7:9-11 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」] 参照)

ジョセフ・スミス訳によれば、マタイ7:7は「彼らに言いなさい。神を求めよ」という言葉で始まっていることを説明します。一人の生徒に、この言葉を始めにつけて、7節を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が弟子たちに何を教えるよう言われたかを見つめるように言います。

- 神から知識を授かりたいと思う人々に対して、弟子たちは何を語るべきでしょうか。
- 7節から、わたしたちが神からの神聖な知識を理解できるようになる方法についてどのような原則を学べるでしょうか。(生徒が答えたら、次の原則を見つけられるよう助けます。わたしたちが真理を見いだすために求め、捜し、門をたたくとき、天の御父は個人の啓示によって答え、祝福してくださる。)
- 「求め、捜し、門をたたく」という言葉は、個人の啓示を受けるために何をしなければならないと教えているのでしょうか。

数人の生徒に、求め、捜し、門をたたいたことで個人的な啓示を受けたときのことを話してもらいます。

マタイ7:9-11の要約として、愛情深い父親が、息子がパンや魚を求めるときに石や蛇を与えないのと同じように、天の御父は個人の啓示の賜物を求める子供たちに対して、それを拒まれることはないということを、救い主は教えられたことを説明します。

個人の啓示と福音の理解を授かるよう、求め、捜し、門をたたくことによって信仰を行使するよう生徒を励まします。信仰と忍耐をもってこれを行うときに、天の御父が答えを与えてくださることを証します。

一人の生徒に、マタイ7:12-14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が弟子たちに教えるようにと言われたその他の真理を見つけてもらいます。分かったことを発表してもらいます。

マタイ7:15-27

救い主、御父の御心を行う人々に救いを約束される

生徒たちに、世間では一般的に受け入れられているものの、天の御父の計画には反している考えを幾つかホワイトボードに列挙してもらいます。

- 個人またはグループが、天の御父の計画に反する考えを勧めているかどうか見分けることができるのは、なぜ大切なのでしょう。

一人の生徒に、マタイ7:15を声に出して読んでもらいます。その後、次の質問をします。

- 主は弟子たちにどのようなことを警告されましたか。主は、これらの偽預言者はどのように人を欺く可能性があるとおっしゃいましたか。



M・ラッセル・バラード長老は現代における偽預言者について次のように警告しています。「自分勝手に教会の教義を説く……男女」また「神の真の預言者に反することを語り、それを公表する人々や、自分たちがそそのかそうとしている人々の永遠の幸福については関心を示そうとしない熱心な伝道者たちにも気をつけてください。」(「偽預言者と偽教師を警戒しなさい」『リアホナ』2000年1月号, 74参照)

一人の生徒に、マタイ7:16-20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ある人が偽預言者や偽教師であるかどうかを見分けることができる一つの方法を見つけてもらいます。

- 人が偽預言者や偽教師であるかどうかを見分けることができる一つの方法とはどのようなことでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちは、その実によって偽預言者を見分けることができる。)

生徒に2種類の果実を示します。生徒たちに、それぞれの果実はどちらの植物の実なのか尋ねます。その果実によって植物を識別するように、わたしたちは偽預言者と偽教師の教え、行い、考えによって彼らを識別することができることを説明します。

- この真理に基づいて考えると、気をつける必要がある個人やグループをどのように認識することができるでしょうか。
- ホワイトボード上の考えのリストは、この真理にどのように関連していますか。

マタイ7:21-23の要約として、イエス・キリストへの信仰を宣言している誰もが神の王国に入るわけではなく、天の御父の御心を行い、神を知るようになる人々が天の王国に入ることを説明します。

岩と一盛り of 砂を見せます。岩の上と砂の上と、どちらの上に家を建てたいと思うか、生徒に尋ねます。なぜそう思うのか説明してもらいます。

一人の生徒に、マタイ7:24-27を声に出して読んでもらいます。

- 24節によれば、救い主は、どのような行いで岩の上に建てた賢い人のようになると言っておられますか。
- 26節によれば、救い主は、どのような行いで砂の上に建てた愚かな人のようになると言っておられますか。
- 雨、洪水、風はこれらのたとえで何を表していると思いますか(27節参照。ヒラマン5:12も参照)。
- これらのたとえから、主の教えに基づいて行動することについてどのような原則を学べるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけるはずで

教義と原則の意味を理解する

生徒が聖文にある教義と原則を見つけるとき、彼らがこれらの真理を分析し、その意味をより一層理解するのを助けるような話し合いを通して、生徒を導くことができます。生徒が福音の教義や原則を理解するという事は、彼らが見つけた真理を理解すること、その真理と主の計画における他の教義や原則との関係を理解すること、そして、その真理を自分たちの生活に応用することができる状況を理解することを意味します。

す。主の教えを聞き、それに基づいて行動するなら、主は試練に耐えるようわたしたちを強めてくださる。主の教えを聞いてもそれに従わないなら、試練が来たとき、必要な支えを与えられない。

生徒に、山上の垂訓で主が教えられたことについて考えてもらいます（マタイ5-7章参照）。救い主が教えられた原則に基づいて行動することを決意することによって賢い人になるよう生徒に言います。生徒に、このレッスンまたはこれまでの3回のレッスンから学んだ原則を一つ以上、どのように応用するか書くための時間を与えるとよいでしょう。

第13課

マタイ 8－10 章

はじめに

イエス・キリストはガリラヤを通して旅をなさりながら、多くの奇跡を行われました。主はまた、十二使徒を召され、彼らに権限と指示を与えられ、人々を教え導くために遣わされました。

福音書を配列順 に研究する

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネは、それぞれ自分の記録特有の、救い主の生涯における出来事と詳細を記しました。しかし、マタイ、マルコ、ルカの福音書は同じ内容も数多く含んでいます。より詳細に教えるべき出来事が分かるよう、手引き内のさまざまな箇所にて教師への注意書きが載っています。例えば、マタイ 8 章と 9 章に記録された奇跡は、マルコ 1－5 章のレッスンでさらに掘り下げられています。

教えるための提案

マタイ 8：1－9：34

イエス、多くの奇跡を行われる

レッスンの始めに、次の質問に答えてもらいます。

- もし救い主が今日あなたの町に来られることを知ったら、主に癒やしていただくために誰を連れて行くでしょうか。それはなぜでしょうか。

ホワイトボードに次の聖句の参照箇所を写します。「マタイ 8：1－4；マタイ 8：5－13；マタイ 8：14－15；マタイ 8：23－27；マタイ 8：28－32；マタイ 9：1－8；マタイ 9：18－19，23－26；マタイ 9：20－22；マタイ 9：27－31；マタイ 9：32－33」各生徒に、これらの聖句を一つずつ割り当てます。（小規模クラスの場合は、一部の生徒が複数の聖句を読む必要があるでしょう。）

生徒に、割り当てられた聖句を読み、イエスが行われた奇跡を見つけてもらいます。十分に時間を与えた後で、生徒たちが学んだことを簡単に発表してもらいます。（注－生徒はこれらの奇跡についてマルコ 1－5 章でさらに深く研究します。）

一人の生徒に、マタイ 8：16－17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストがこれらの奇跡を行ったことで成就した預言を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- これらの奇跡についての記述から、イエス・キリストについてどのような真理を学べるでしょうか。（生徒は異なる言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけていることを確認します。イエス・キリストは、わたしたちのわずらいや病を癒やすことができになる。「わずらい」とは、病気や、精神的または肉体的弱さのことであることを説明する必要があるかもしれません。）
- 今日救い主は、わたしたちの間を実際に巡り歩かれていないのに、どのようにしてわたしたちを癒やしたり、弱点を強めたりすることができになるのでしょうか。（主の贖罪を通して。アルマ 7：11－13 参照）

マタイ 9：35－10：8

イエス、十二使徒を召される

大管長会を含め、現在の教会の使徒たちの写真を見せます。（そのような画像は LDS.org [Meet Today's Prophets and Apostles 参照] や、『リアホナ』の総大会号で見つけることができます。）

- 今日の地上の全ての人々の間で、どのような点でこれらの人は特別なのでしょうか。

マタイ 9－10 章を研究しながら、使徒たちの役割と、使徒たちが自分の生活にもたらす祝福についての真理を見つかるよう生徒に言います。

一人の生徒に、マタイ 9：35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々を癒やされたことの他に何をなされたかを見つけてもらいます。

- 人々を癒やされたことの他に、イエスはその教導の業において何をされたのでしょうか。

イエスが福音を宣べ伝え、ユダヤ中で奇跡を行われるにつれ、主に従い、主を求める人々の数が増えていったことを説明します。

一人の生徒に、マタイ9:36-38を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主に従う全ての人々に対する主の教導の業を助けるために、主はどのような人が必要であると言われたのかを見つけてもらいます。

- 37-38節によると、御自分に従う人々に気を配る助け手として、イエスはどのような人が必要だと言われたのでしょうか。

一人の生徒に、マタイ10:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々の必要を満たすために何をされたのかを見つけてもらいます。

- イエスは御自分に従う群衆を助けるために何をされたのでしょうか。
- これらの聖句から、地上の人々に仕えるためのイエス・キリストの一つの方法について、どのような教義を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の教義を見つけるようにします。イエス・キリストは使徒を召され、彼らに御自身の権能を与えられた。生徒に、マタイ10:1-4のそばの余白にこの教義を書くように勧めるとよいでしょう。)

一人の生徒に、マタイ10:5-8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストが使徒たちにどのようなことをするようお命じになったかを見つけてもらいます。

- イエスは使徒たちに、どのようなことをするようお命じになりましたか。

「使徒」という言葉は、遣わされた者という意味のギリシャ語の言葉から来ていることを説明します。初めに使徒たちは、イスラエルの家の人々の間にだけ遣わされました。その後、復活された救い主は、福音が異邦人の間で、またはイスラエルの家系でない人々にも宣べ伝えられるようお命じになりました。

- イエスがなさった御業と、主が使徒たちに行うようお命じになった業には、どのような類似点がありますか。
- この聖句から、イエス・キリストがどのようなことを行うために使徒たちを召されたのかについて、どのような真理が学べるでしょうか。(生徒は次のような内容の真理を見つけましょう。主は御自身の福音を宣べ伝え、御業を行うために使徒たちを召される。この真理をホワイトボードに書くといよいでしょう。)

現在の使徒たちの写真に再び注意を向けます。生徒に、現在の使徒たちが、イエス・キリストがここにいらっしゃるかのように福音を宣べ伝え、務めを果たしている模範の例を挙げてもらいます。

彼らが見つけた先述の原則の重要性を生徒が感じるのを助けるため、現代の使徒によって与えられた青少年に関連する最近のお話の一部を読むか見せるかします。その文章を読んだり、ビデオクリップを見たりした後、次のように尋ねます。

- 使徒たちはイエス・キリストによって主の業を行うよう召されたことを理解することは、使徒たちが教え、行うよう勧告していることにわたしたちがどう応えるかについて、どのような影響を与えるでしょうか。
- 現代の使徒たちの働きとメッセージは、あなたの生活にどのような影響を与えてきましたか。

主がお選びになった使徒たちの言葉に耳を傾け、研究し、応用する機会を、信仰をもって求めるよう生徒に言います。

マタイ 10:9-42

イエス、福音を宣べ伝えるよう遣わす前に十二使徒を指導される

マタイ10:9-16の要約として、主は、福音を宣べ伝えるために旅するとき、天の御父が必要なものを与えてくださることに信頼を置くよう使徒たちに教えられたことを説明します。救い主はまた、使徒たちを受け入れ、家に招き入れた人々を祝福するようにも教えられました。

生徒たちに、今までで別の宗教を信じる誰かが福音について難しい質問をしてきたり、教会に関して論争の的となっていることについて尋ねてきたりしたときのことを考えてもらいます。

- そのような状況で言うべきことを知っているという自信が、どれほどありましたか。それはなぜでしょうか。

生徒に、マタイ10章の残りの部分で、福音を説明したり証を分かち合ったりする必要があるときに助けとなる、使徒たちに対するイエスの教えの中の原則を見つけてもらいます。

教義と原則が真実であり重要であると感じられるように生徒を助ける

生徒が聖典の中にある福音の原則と教義を見つけ理解しても、御霊を通してそれらが真実であり重要であると感じ、さらにその原則を生活に取り入れる、ある程度の緊急性を自覚するまでは、それらを応用しないかもしれません。生徒がこれを行うのを助ける最も効果的な方法の一つは、それらの真理に関連した個人的な経験を振り返り、分かち合うよう生徒を励ますことです。

数人の生徒に、マタイ 10:16 - 20 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちが旅をし、福音を宣べ伝えるときに直面するとイエスが述べられたさまざまな困難を見つけてもらいます。

- イエスは、使徒たちが福音を宣べ伝えるために出て行くときにどのような困難に直面すると述べられたでしょうか。
- 19 - 20 節によると、使徒たちはこれらの困難な状況で言うべきことをどのように知りましたか。「心配しないがよい」という言葉は「不安になって思い煩うことはない」という意味であることを説明する必要があるかもしれません。
- わたしたちが主のために奉仕しているとき、人々に言うべきことについて、これらの聖句からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけるはずで、わたしたちが主に仕えるとき、主は必要なときに、言うべきことを靈感によって授けてくださる。)
- 主から靈感を授けられて、誰かに言うべきことが分かったと感じたのはどのようなときですか。(この質問に答えてもらう前に、生徒に考える時間を与えるとよいでしょう。)

マタイ 10:21 - 42 の要約として、イエス・キリストは、使徒たちが直面するであろう困難について指示、警告、慰めを与え続けられたことを説明します。生徒がマタイ 10:37 - 39 の救い主の言葉を研究するのを助けるため、生徒を二人一組か小さなグループに分け、それぞれの組かグループに付属の配付資料のコピーを配ります。生徒に、配付資料の指示に従い、割り当てられた聖句と一緒に研究し、質問に対する答えを話し合ってもらいます。

マタイ 10:37 - 39

二人一組または小さなグループで、割り当てられた聖句と一緒に研究し、質問に対する答えを話し合います。

マタイ 10:37 - 38 を読み、わたしたちが主の弟子として進んで払わなければならないと救い主がおっしゃった犠牲を見つけます。これらの聖句の「わたしにふさわしく」という言葉は、主の代理人としてふさわしくあること、また主の祝福を受けるに値することを意味します。

- イエス・キリストの弟子たちにとって、自分の家族も含め、他の全てのことよりも主を愛する必要があるのはなぜだと思いますか。

38 節に述べられている十字架は、イエス・キリストが背負って歩き、御父の御心を果たすために上げられた実際の十字架のことを言っています。比喩的に、イエス・キリストは同様に「自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と弟子たちに求めていらっしゃいます(マタイ 16:24)。

『聖句ガイド』の中の「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」にあるマタイ 16:26 を読み、自分の十字架を負って、イエス・キリストに従うということの意味を見つけてもらいます。

マタイ 10:39 を読み、イエス・キリストが犠牲について教えられた原則を見つけます。ジョセフ・スミス訳はこの聖句の始まりを次のように明確にしています。「自分の命を救おうと求める者は……」この文脈では、「自分の命を救[う]」とは、神や神の子供たちに仕えようとするよりも、むしろ自分本位に生きるという意味です。

- 自分自身の意思と自分本位な願いを重視する人々は、どのような点で結果的に自分の命を「失う」と思いますか。

読んだことに基づいて、次の原則を完成させてください。

もし自分の命を求めるならば _____。

39 節にある、主のために自分の命を失う人々に対する救い主の約束に印をつけるとよいでしょう。主のために自分の命を失うことは、主のために進んで死ぬこと以上のものです。それは主とわたしたちの周りの人々に奉仕するために、毎日自分自身を喜んでささげることが意味します。

- 主のために自分の命を失っている者は、それを得るとは、どのような意味だと思いますか。

読んだことに基づいて、次の原則を完成させてください。

イエス・キリストのために自分の命を失うなら、_____。

トーマス・S・モンソン大管長の以下の言葉を読んでから、それに続く質問に対する答えを話し合います。





「救い主が言っておられるのは、自分を捨てて人に奉仕しなければ、自分自身の人生の目的などほとんどないということだとわたしは信じています。自分自身のためにだけ生きる人は、ついには枯渇してしまい、比喩的に言えば、命を失ってしまいます。一方、自分を捨てて人のために奉仕する人は、成長し、繁栄して、実際に自分の命を救うのです。」(「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85)

- イエス・キリストのために自分の命を失うことを選んだ人を誰か知っていますか。その決断はその人にどのような影響を与えましたか。

生徒が配付資料に記入し終えたら、何人かの生徒に、学んだことを、クラス全員を代表して要約してもらうとよいでしょう。

イエス・キリストのために自分の命を失うことに関して生徒が見つけた原則について、あなたの証を述べるとよいでしょう。クラスノートか聖典学習帳に、今日または近い将来にイエス・キリストと周囲の人々に奉仕することで、自分の命を捨てるためにできることを列挙するよう生徒に言います。生徒に、目標を立て、その目標に基づいて行動するよう言います。

マタイ 11 – 12 章

はじめに

イエス・キリストは、バプテスマのヨハネが御自身の前に道を備えるために遣わされたことを証され、御自身のもとに来る全ての人を休ませてくださると約束されました。イエスの力は

悪魔から来ているという、パリサイ人の主張に答えられました。主は、誤った非難をすることや、しるしを求めるパリサイ人に警告を寄せられ、空き家のたとえ話を教えられました。

教えるための提案

マタイ 11 章

イエス・キリスト、バプテスマのヨハネが御自身の前に道を備えるために遣わされたことを証される

生徒に、警察官、医者、イエス・キリストの写真を見せます。

- これらの人々が本当にその外見通りの人であることを見極めることはなぜ大切なのでしょうか。これらの人々がその外見通りの人であることをどのようにして知ることができますか。

イエス・キリストのこの世で御業を行われている間、多くの人々は主が彼らの見た通りの人であるかどうか知ろうとしていたことを説明します。マタイ 11 章を研究しながら、イエス・キリストがどのような御方であるかという、自分自身の証を育む助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

ヘロデ王はバプテスマのヨハネを捕え、投獄したことを説明します。一人の生徒に、マタイ 11:2-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが弟子たちを遣わしてイエスに尋ねた質問を見つけてもらいます。

- ヨハネが遣わした弟子たちは、イエスにどのようなことを尋ねましたか。

3 節の質問で、ヨハネの弟子たちがイエスはメシヤなのかと主に尋ねていることを指摘します。バプテスマのヨハネは、イエスがメシヤであることを既に知っていたことを、生徒に思い出してもらいます (マタイ 3:11, 13-14; ヨハネ 1:29-34 参照)。

- バプテスマのヨハネは、イエスがどなたであることを既に知っていたのに、なぜイエスがメシヤなのかどうか知るために弟子たちを遣わしたのだと思いますか。(ヨハネは弟子たち自身にイエス・キリストについての証を得てもらいたかった。)

一人の生徒に、マタイ 11:4-5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがどのように彼らの質問に答えられたのかを見つけてもらいます。

- イエスは御自身がメシヤであるという確証を与えるよりはむしろ、バプテスマのヨハネの弟子たちに何をしてほしかったのでしょうか。

イエスがヨハネの弟子たちに、御自身はメシヤであることを教えられるのは容易なことだったと説明するとよいでしょう。その代わりに、主は彼らに主の業を自分で「見聞きし」(4 節)、よく考え、それからバプテスマのヨハネのもとへ戻り、自分たちが見聞きしたイエスが行われていることについて証するように言われました。

- 主が単に御自身がどなたであることをヨハネの弟子たちに伝えられた場合よりも、イエスの答えは、彼らが救い主についてより力強い証を受けるためにどのような助けとなったのでしょうか。
- この話から、救い主についての証を強める方法について、わたしたちはどのような原則を学べるのでしょうか。(生徒は他の言葉を使うでしょうが、おそらく次の真理を見つけるでしょう。イエス・キリストについて学ぼうと努め、主について証するとき、主についてのわたしたち自身の証は強められる。)

生徒たちに、イエス・キリストが神の御子であることを、自分で知るにはどうしたらよいのかを書き留めてもらいます。書いたことを何人かの生徒に、クラスで分かち合ってもらおうとよいでしょう。

マタイ 11:7-27 の要約として、弟子たちが去ってから、イエスは群衆に、バプテスマのヨハネはメシヤに道を備えるために選ばれた預言者であると語られたことを説明します。イエ

スはバプテスマのヨハネを拒んだ人々だけでなく、主の神性の明らかな証拠をその目で見ているが主を拒んだ人々もとがめられました。(注-これらの聖句にあるバプテスマのヨハネについてのイエスの教えは、ルカ7:18-35のレッスンでより詳細に話し合われます。)

イエスはその後、メシヤとして主を受け入れる全ての人々に約束を与えられました。第1課で紹介したマタイ11:28-30を生徒が復習するのを助けるため、一人の生徒にこの聖句を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、主がわたしたちに行うよう言われたことを見つけてもらいます。

- 主はわたしたちに何をしよう招いておられるでしょうか。その代わりに、主は何を約束しておられるでしょうか。(生徒たちが答えを発表したら、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちがイエス・キリストのもとに来るならば、主はわたしたちの重荷を負いやすくし、休ませてくださる。)
- このマスター聖句の真理について理解することは、今年あなたにとってどのような助けとなりますか。

マタイ 12:1-42

イエス・キリスト、パリサイ人が誤った非難をしていることとしるしを求めていることを叱責される

(注-マタイ12:1-21の出来事は、マルコ2-3章のレッスンでさらに深く教えられます。)

マタイ12:1-30の要約として、イエスが安息日に一人の男を癒やされた後、一部のパリサイ人がイエスを陥れようと企て始めたことを説明します。パリサイ人たちは、主が悪霊につかれた人を癒やされたとき、悪霊の力によってそれらの業を行っているのだと言って主を非難することで、人々の前で主の評判を落とそうとしました。イエスは彼らの思いを見抜かれ、その反対に、悪霊を追い出すことによって、御自身がメシヤであり、神の王国を築いているのだということを示されました。生徒に、マタイ12:30を黙読し、主の味方でない者についてイエスが教えられたことを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 30節によると、神の王国の一員となることを望むならば、どうしなければならないでしょうか。(生徒が自分の答えを発表するとき、必ず次の真理を強調してください。神の王国の一員となることを望むならば、イエス・キリストに完全に忠実でなければならない。)
- イエス・キリストへの完全な献身を示すために、どのような方法があるでしょうか。

マタイ12:31-42の要約として、イエスは御自分の善い業は、御自分が悪魔からではなく神から来たという証拠であると再び断言されたことを説明します。主はまたパリサイ人たちに、神は彼らの非難の言葉の責任を問われるであろうと警告されました。律法学者やパリサイ人の幾人かは、そのときしるしを求めました。するとイエスは、彼らがしるしを求め、主がこれまでのどの預言者やイスラエルの王よりも偉大であることがわからずにいることを叱責されました。

マタイ 12:43-50

イエス、空き家のたとえと、御父の御心を行う者は神の家族の中に数えられることを教えられる

友人の一人が、捨てようとしている罪に戻るのを避ける方法について、助言を求めていると想像するよう生徒に言います。

- 誘惑に立ち向かうのを助けるために、あなたなら友人に何と助言しますか。

マタイ12:43-45には、ある人から追い出された汚れた霊についてのたとえが含まれていることを説明します。生徒に、このたとえの中から、友人が誘惑に打ち勝つのを助けることができる原則を見つけてもらいます。一人の生徒に、マタイ12:43-44を読んでもらい、それからクラス全員に、汚れた霊がその人から追い出された後にどうしたかを見つけてもらいます。

- 汚れた霊はどこにも休み場を見つけれなかった後、どうしたでしょうか。
- 汚れた霊が戻ったとき、その「家」またはその人の状態は、どのような言葉で説明されていますか。

別の生徒に、マタイ12:45を読んでもらい、それからクラス全員に、汚れた霊がその「家」またはその人が空いていることを知ってからどうしたか見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

マタイ 11:28-30

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

マスター聖句についての説明や、これらの聖句を暗記するのを助ける活動のリストは、この手引きの巻末の付録を参照してください。

- その人が悪霊を追い出してから、このたとえの人はどんなことをしなかったために汚れた霊が戻るのを許してしまったのでしょうか。（その人は悪に替わる、正しい思い、感情、言葉、行動を入れなかった。）
- このたとえの人の経験は、罪を悔い改め、誘惑に立ち向かおうとする人をどのように表しているでしょうか。

生徒が答えた後、一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「罪を捨てるに当たって、状況が改善するのを漫然と待ってはいけません。そのような状況を作らなければなりません。……

彼がいつもしていたこと、楽しんでいたこと、彼の思いを独占していたことはなくなりましたが、より善いものがまだその透き間を埋めていないのです。これはサタンが狙う絶好のチャンスです。」(The Miracle of Forgiveness [1969年], 171 - 172, 強調付加)

- このたとえ話から、わたしたちの生活から邪悪な影響を取り除いた後、それを継続して寄せつけないようにする方法を知る助けとなるどのような原則を学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけられるでしょう。わたしたちの生活から邪悪な影響を取り除いた後、それを義に置き換えることにより、再び寄せつけないようにすることができます。）

この真理について生徒の理解を深めるために、一人の生徒に、次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、単に生活から罪を取り除くだけでは不十分である理由に耳を傾けるように言います。

「悪に打ち負かされないよう努力したり、自分の生活から罪を取り除こうと努力したりするだけでは不十分です。義に満ちた生活を送り、霊的な力をもたらしてくれる活動に参加しなければなりません。……

全てに従順な人の生活には、弱点を克服するためのさらに大きな力を含む福音の完全な力が注がれます。この従順には、例えば、集会への出席、什分の一を納めること、奉仕、他の人々に対する赦しなど、悔い改めとは関係ないと最初は思うかもしれない行為も含まれます。」(『真理を守る－福音の参照資料』66 - 67)

- わたしたちが悔い改めるとき、罪に戻らないように、わたしたちの生活を義で満たすために行うことができることにはどのようなものがあるでしょうか。（一人の生徒に、生徒たちの答えをホワイトボードに書いてもらってもよいでしょう。）
- これらの事を行うことは、どのようにわたしたちの生活により大きな霊的な力をもたらし、邪悪な影響を克服する力を与えてくれるでしょうか。

生活を義で満たすことは、悪を寄せつけないためのより大きな力を与えてくれることを証します。より多くの義で自分たちの生活を満たし、深く考えるときに受ける靈感に従うにはどうしたらよいのかを、生徒に深く考えるよう励まします。

マタイ 12 章の残りの部分の要約として、イエスが教えられているときに、家族が主と話したがっていると誰かが告げたことを説明します。すると主は、御父の御心を行う全ての人が神の家族の中に数えられることを教えられました。

📖 マスター聖句－マタイ 11:28 - 30

生徒がマタイ 11:28 - 30 を暗記するのを助けるため、全員に、それぞれの聖句の単語や語句を表す動作を考えて、その動作をしながらその聖句を暗唱してもらいます。生徒が聖句を覚えて暗唱できるようになるまで、数日間、レッスンの始めに暗唱する練習をしてもらいます。

第15課

マタイ 13:1-23

はじめに

救い主がガリラヤにおられたとき、大勢の群衆が主のもとに集まってきました。救い主は種まきのたとえ話をはじめとして、たとえを用いて人々を教えられました。

教えるための提案

マタイ 13:1-17

救い主、たとえ話で教え始められる

生徒に、土を詰めた小さな容器を見せます。

- 肥えた土の特徴にはどのようなものがあるでしょうか。痩せた土はどうでしょうか。

マタイ 13:1-23 には、救い主が、土壌の種類を人々の心の素直さや霊的な感受性とえられたことが記されていることを説明します。これらの聖句を研究し、今の自分の心の状態に最も似ている土壌の種類をよく考えるよう生徒に言います。

一人の生徒に、マタイ 13:1-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがどのようにガリラヤの群衆に教えられたかを見つけてもらいます。

- イエスは、群衆にどのように教えられたでしょうか。（たとえで。）

生徒に、『聖句ガイド』の「たとえ」という項目を黙読してもらいます。

- たとえとは何でしょうか。

たとえとは、「霊的な真理や原則を説明したり、教えたりするのに使われる簡単な物語。ありふれた事物を真理になぞらえたもの」であることを説明します（『聖句ガイド』「たとえ」, scriptures.lds.org）。

- マタイ 13:3 では、救い主のたとえは何についてのものでしたか。（「種をまく」とは、種を散布する、または植えるという意味であることを説明します。）

数人の生徒に、マタイ 13:4-9 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、種まきの種が落ちた4種類の土壌を見つけてもらいます。

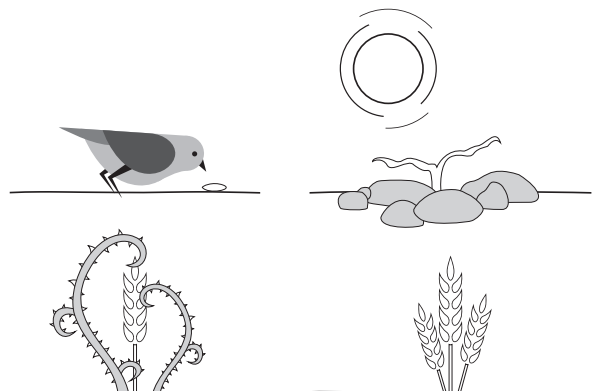
- 種まきの種はどのような種類の土壌に落ちたでしょうか。

4種類の土壌を描いた絵をホワイトボードに描き、生徒に、クラスノートかあなたが配る紙に同様の絵を描いてもらいます。

道ばたとは、その上を人が歩くことで硬くなった、野原に近い道のことで説明します。道ばたの硬さは、種が土壌に根を張れないようにします。石地は薄い土の層で覆われた岩の表面です。種は浅く根を張ることができますが、表面のすぐ下にある岩は根が深く張る妨げとなります。いばらの地は肥沃な土壌ですが、茂ったいばらが光、水、および必要な栄養素を奪い、その植物をだめにしてしまいます。良い地は肥沃な土壌で、十分な深さに丈夫な根を張ることができます。

マタイ 13:10-13 の要約として、救い主の弟子たちは、なぜ主がたとえで教えられるのかを尋ねたことを説明します。救い主は、たとえは、霊的に準備ができていない人々にその意味を隠しながら、それを受け入れる準備ができていない人々には天国の奥義や真理を明らかにするという説明されました（New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014年], 45 参照）。

一人の生徒に、マタイ 13:14-15 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が教えられた真理を理解する妨げとなるものを見つけてもらいます。



- 救い主は、御自分が教えられた真理を見る、聞く、理解することを妨げるものはどのようなものと言われましたか。（「この民の心は鈍くなり」という言葉は、人々の心がかたくなで鈍感になっているという意味だと説明します。）

ホワイトボードの道ばたの土壌の絵の横に、次の不完全な言葉を書きます — もしわたしたちが心をかたくなにするなら、_____。

- 15節によると、心をかたくなにするなら、どのような祝福を失うでしょうか。（生徒たちが答えたら、次の原則を示すために、ホワイトボードの文章を完成させます。もしわたしたちが心をかたくなにするなら、神の言葉を悟らず、悔い改めて癒やされることはない。）
- 悔い改めて癒やされるとはどのような意味でしょうか。（信念、心、そして生活が天の御父の御心と調和し、罪の重荷から解放されるために、主の贖罪により変わり、清められること。）

マタイ 13:16 - 17 の要約として、イエスが、主の弟子たちの目は見ており、耳は聞いているのでさいわいであると語られたことを説明します。

マタイ 13:18 - 23

救い主、種まきのたとえの解き明かしをされる

ホワイトボードの道ばたの絵に再び注意を向けます。一人の生徒に、マタイ 13:18 - 19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がマタイ 13:4 で述べられた、種、道ばた、鳥を何にたとえておられるかを見つけてもらいます。

- 種は何を表しているでしょうか。（種の絵に「神の御言葉」と書きます。）
- 道ばたはどのような心を表しているでしょうか。（道ばたの絵に「真理を理解しない〔かたくなな心〕」と書きます。）
- 鳥は何を表しているでしょうか。「悪い者」とは誰でしょうか。（鳥の絵に「サタンとその僕」と書きます。）
- 救い主の道ばたについての教えは、もし心をかたくなにするなら、神の御言葉を悟らず、悔い改めて癒やされることがないという原則をさらに理解するために、どのような助けとなるでしょうか。

ホワイトボードの石地の絵に注意を向けます。

数人の生徒に、マタイ 13:20 - 21 とルカ 8:13 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、石地についての救い主の解き明かしを見つけてもらいます。

- 石地に生えた植物は何を表しているでしょうか。（石地の植物の絵に「深く根を張っていない証」と書きます。）
- 日の熱さは何を表しているでしょうか。（浅い根の植物の絵の上に「困難、迫害、誘惑」と書きます。）

ホワイトボードの石地の絵の横に次のような未完成の文章を書きます — 証を深める努力をしないと_____。

- マタイ 13:20 - 21 とルカ 8:13 から学んだことを基にして、どのようにこの文章を完成させますか。（生徒たちが答えたら、次の原則を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。証を深める努力をしないと、困難、迫害、誘惑を堪え忍ぶために必要な力を失う可能性がある。）

ホワイトボードのいばらの地の絵に注意を向けます。生徒に、マタイ 13:22 を黙読して、いばらが表しているものを見つけてもらいます。

- いばらは何を表しているでしょうか。（いばらの絵に「世の心づかい」と書きます。）
- 「世の心づかい」の例として、どのようなものがありますか。（この世的な事柄、貪欲、神からわたしたちを引き離すような現世の気を散らすもの。）
- この聖句から、世の心づかいがわたしたちの信仰や証に与える影響について、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒が答えた後に、次の原則をホワイトボードのいばらの地の絵の横に書きます。世の心づかいは、わたしたちの心を主からそらし、主への思いを失わせ、神の御言葉に対する信仰と証を枯れさせる。）

ホワイトボードの良い地の絵に注意を向けます。一人の生徒に、マタイ 13:23 を読んでもらい、ジョセフ・スミス訳では「悟る」とは「悟り、堪え忍ぶ」と訳されていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、良い地はどのようなことを表しているか見つけてもらいます。

ジョセフ・スミス訳マタイ13:21にある「堪え忍ぶ」という言葉の重要性を生徒が理解するのを助けるために、良い地の植物も石地で枯れた植物と同じ日の熱さ（苦難、迫害、誘惑を表しています）にさらされたことを指摘します。

- あなたは、良い地が表している事柄をどのように要約しますか。（良い地の絵に「神の御言葉を聞き、理解し、苦難、迫害、誘惑を堪え忍ぶ人」と書きます。）
- マタイ13:15で学んだことを基にすると、23節で述べられている実はどのようなことを表しているのでしょうか。（イエス・キリストへに帰依すること。）
- 良い地についての救い主の教えから、どのような原則が学べるでしょうか。（生徒が答えた後に、次の原則をホワイトボードの良い地の絵の横に書きます。神の御言葉を受け入れ、それを理解し、苦難、迫害、誘惑を堪え忍ぶとき、わたしたちは救い主に帰依するようになる。）

生徒が見つけた原則をさらに理解する助けとなるよう、4人の生徒に、次の状況の一つずつ読んでもらいます。それぞれが読んでから、他の生徒たちに、その状況が表している原則を説明してもらいます。

1. ある若い男性は、有名大学に合格するために、ほとんどの時間を勉強に費やしています。勉強していないときは、忙しく働いています。彼は聖典を読んだり、祈ったり、教会に出席したりするための時間はないと、自分に言い聞かせています。
2. ある若い女性は、毎週日曜日に教会に通うのが大好きでした。ところが、成長するにつれて、友人たちが彼女の標準についてからかい始めました。その若い女性は戒めの幾つかを破り始めるようになりました。教会での居心地が悪くなってしまい、教会に集おうとする気持ちが失せてしまいました。
3. ある若い男性は、教会に定期的に通っていますが、あまり参加することはない、聖霊の影響に対して心を開いていません。ウェブサイトで教会の重要な教義に対する異論を読んで、福音が真実だと信じるかどうか迷っています。
4. ある若い女性は、聖霊の促しを受けることができるように教会に通って静かに祈っています。御霊の促しを受けたときに、それに従って行動します。彼女は、主を身近に感じて、誘惑に打ち勝つための靈感を受けてきたことに感謝しています。

土壌のように、心は変えられ、向上することができることを生徒に説明します。次の質問をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒に渡します。生徒に、二人一組になってその質問を読み、話し合ってもらいます。

健全で実り豊かな植物を成長させるために好ましい場所になるよう、それぞれの土壌を変えたり、維持したりするためにはどうすればよいですか。

それぞれの土壌を改善することを、神の御言葉をもっと受け入れやすくなるためにわたしたちができることに、どのようにたとえることができますか。

時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

- 神の御言葉を受け入れ理解するよう努力することは、どのようにあなたが救い主に対してさらに深く帰依する助けとなりましたか。

どの土壌が現在の自分の心の状態を一番よく表しているか、生徒に深く考えてもらいます。生徒に、神の御言葉をさらによく受け入れて理解し、苦難、迫害、誘惑を堪え忍ぶために行うことに関して、目標を立ててもらいます。時間が許せば、クラスノートか聖典学習帳に、自分の目標を書くよう生徒に言います。

生徒に答えを書いてもらう

生徒がクラスで考えを発表する前に、質問に対する答えを書いてもらうと、自分の気持ちをまとめ、聖霊からの影響を受けるための時間を与えることとなります。生徒は、最初に自分の考えを書いておくと、それを分かち合おうとする傾向があり、その分かち合ったことがさらに有意義なものになることがよくあります。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ6:1-13:23(単元3)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ6:1-13:23(単元3)を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部を絞ったものにします。生徒の必要を考えながら聖霊の促しに従うべきです。

第1日(マタイ6-7章)

生徒は引き続き山上の垂訓を学習することによって、次のことを学びました。わたしたちが人の注目を集めるためだけでなく、天の御父を喜ばせるために献身的な行いをするならば、天の御父は公に報いてくださる。神と富とに兼ね仕えることはできない。わたしたちが真理の探究のために、求め、捜し、門をたたくときに、天の御父は個人の啓示によってわたしたちに答え、祝福してくださる。わたしたちは偽預言者をその実によって見分けることができる。

第2日(マタイ8-10章)

このレッスンで、生徒は、イエスはわたしたちのわずらいや病を癒やすことができになること、使徒を召して、彼らに御自身の権能を授けられたことを学びました。また、わたしたちが主に仕えるとき、必要なときに何を言うべきか靈感を与えてくださること、わたしたちがイエス・キリストのために、自分の命を失う(時間をささげる)なら、わたしたちの生活に目的を見いだすことも知りました。

第3日(マタイ11-12章)

生徒たちは、わたしたちがイエス・キリストについて学ぶ努力をし、イエス・キリストについて証するときに、わたしたちの主への証が強められること、またわたしたちがイエス・キリストのみもとに来るならば、主はわたしたちの重荷を軽くしてくださり、休ませてくださることを学びました。さらに、生徒たちは、神に完全に献身することと、生活における悪の影響を善の影響に置き換えることについて学びました。

第4日(マタイ13:1-23)

生徒は種まきのたとえを学習したときに、この世の心づかいが、わたしたちの心を惑わし、主に焦点を当てなくなり、神の御言葉への信仰と証を枯らしてしまうことを学びました。そのようなことが起こるのを防ぎ、救い主に帰依するためには、わたしたちは神の御言葉を受け、証を強める努力をしなければなりません。

はじめに

マタイ7章にあるように、イエス・キリストは、弟子たちに義にかなって裁くよう教え、山上の垂訓を続けられました。また、個人の啓示を受けて、天の御父の御心を行うことについても教えられました。

教えるための提案

注 — 単元1の家庭学習レッスンと今週の第3日のレッスンで、生徒はマタイ11:28-30のマスター聖句を学びました。数分を割いてそのマスター聖句を生徒たちと復習するとよいでしょう。

マタイ7:1-5

山上の垂訓の中で、イエス・キリストは、義にかなって裁くことについて弟子たちに教えられます

クラスが始まる前に、ホワイトボードに以下の質問を書きおきます。「わたしたちは人を裁くべきでしょうか、それとも裁くべきではないでしょうか。」授業の始めに、生徒たちにこの質問に答えてもらいます。

「山上の垂訓」(『福音の視覚資料集』39番。LDS.orgも参照)の絵を見せてください。イエス・キリストが山上の垂訓を続ける中で、義にかなって裁くことについて弟子たちに教えられたことを説明します。

一人の生徒に、マタイ7:1を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が裁くことについて何を教えられたかを見つけてもらいます。1節は、わたしたちは決して裁いてはいけないという意味に誤解されることがよくあると説明します。一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳マタイ7:1-2(『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」)を読んでもらいます。

- 救い主は裁くことについて、どんなことを教えられましたか。
- 義にかなって裁くとは、どういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、マタイ7:2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人を裁く方法によって、どのようなことになるかを見つけてもらいます。見つけた言葉を発表してもらいます。「あなたがたの量るそのはかりで」という言葉は、あなたが評価する、または裁く方法のことを意味すると説明するとよいでしょう。

- わたしたちが人を義にかなって裁くと、どうなるでしょうか。(生徒が答えした後で、生徒たちが次の原則を見つけられるように助けます。わたしたちが人を義にかなって裁くなら、神はわたしたちに同じ哀れみと公正さを示してください。)

可能であれば、『真理を守る』の次の言葉をコピーした資料を各生徒に配ります。一人の生徒に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがすべきでない裁きについて、また、どうしたら義にかなって裁くことができるかを見つけてもらいます。

「時として、どのような形であれ、人を裁くのは間違っていると感じる場合があります。確かに、人を非難したり、不当に裁いたり

してはなりません、考え方や状況、人物に関しては生涯にわたって判断を下す必要があります。……

判断を下すことは、選択の自由を行使する重要な機会ですが、人について判断を下すときは特に細心の注意を払う必要があります。判断するときには必ず義にかなった標準に基づいて判断しなければなりません。人を最終的に裁くことができるのは、その人の心を熟知しておられる神だけだということを忘れてはなりません（黙示 20：12；3 ニーファイ 27：14；教義と聖約 137：9 参照）。…

…できるかぎり、その人自身を裁くというよりはむしろ、その人の置かれた状況を裁くようにしてください。状況が許すかぎり、事実関係についての十分な情報を得るまでは、判断を差し控えてください。わたしたちの決定に導きを与えることがおできになる聖霊の促しにいつも敏感であってください。』（『真理を守る－福音の参考資料』、160－161）

- どのような裁きをわたしたちはすべきでしょうか。
- どうすれば義にかなった裁きができるでしょうか。
- 人が義にかなった裁きをする必要があるときとは、どのようなときでしょうか。

短く細い木片と長く太い木材を見せます。救い主が裁きについて弟子たちに教えられたときに、小さな木片を「ちり」にたとえ、大きな木材を「梁」にたとえたことを説明します。一人の生徒に、マタイ 7：3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が人を裁くことについて何を教えられたかを見つけてもらいます。

- 救い主のたとえでは、ちりと梁は何を表しているでしょうか。（大小の欠点、弱点、罪を表しています。）
- 3 節の主の教えをどのように言い換えることができるでしょうか。

二人の生徒に前に出てきてもらいます。一人の生徒に、目の前で梁を持ってもらいます。もう一人の生徒に次の質問をします。

- 梁を持っている生徒にあなたの目に入った木片を取ってほしいですか。なぜですか。

梁を持っている生徒に質問します。

- クラスメートの目から木片を取り除けるぐらいはっきりと見るためには、どうする必要がありますか。

二人の生徒に着席してもらいます。一人の生徒に、マタイ 7：4－5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がわたしたちに気にするべきであると言われたのは誰の欠点についてかを見つけてもらいます。

- わたしたちが関心をもち正そうとする気持ちは、人の欠点に向けられるべきでしょうか、それとも自分自身の欠点でしょうか。それはなぜですか。
- 不義に人を裁くことを避ける助けとなるどのような原則を、これらの聖句から学ぶことができますでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で答えることが予想されますが、おそらく次のような

真理を見つけるでしょう。自分自身の罪や弱点を取り除くことに目を向けていれば、不義に人を裁いてしまわないようになる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）

- 誰かの欠点が分かっているときに、この原則はどのような助けとなるでしょうか。

この原則を覚えているように、小さな木片を生徒に与えてもよいでしょう。生徒たちに、自分たちの生活から取り除けそうな罪や弱点を考えてもらいます。人を不義に裁くのではなく、自分自身の欠点を取り除けるよう主に助けを求めることを生徒たちに勧めます。

マタイ 7：24－27

救い主、御父の御心を行う者に救いを約束される

石と一握りの砂を見せます。生徒に、自分の家を岩の上に建てたいか、砂の上に建てたいか尋ねます。その理由を説明してもらいます。

一人の生徒に、マタイ 7：24－27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、岩の上に家を建てるとはどのようなことか、砂の上に建てるとはどのようなことか、イエスが言われたことを見つけてもらいます。

- 24 節によると、どのような行いが、岩の上に建てた賢い人のようであると救い主は言われましたか。
- 26 節によると、どのような行いが、砂の上に建てた愚かな人のようであると救い主は言われましたか。
- これらのたとえでは、雨、洪水、風（27 節；ヒラマン 5：12 参照）は何を表していると思いますか。
- これらのたとえから、主の教えに基づいて行動することについて、どのような原則を学べるでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で答えることが予想されますが、おそらく次のような原則を見つかるはずで、もしわたしたちが主の教えを聞き、それに基づいて行動するならば、試練に堪えられるよう主はわたしたちを強めてくださる。もし主の教えを聞いてもそれに従わなければ、試練が訪れたときに必要な助けを得ることはできない。）

イエスが教えられた原則に従うと決心することで、賢い人のようになるよう生徒に勧めます。このレッスンまたは山上の垂訓の残りの部分から生徒が学んだ原則を一つ以上、どのように応用するか書き留める時間を与えてもよいでしょう。

次の単元（マタイ 13：24－17：27）

次の週は、バプテスマのヨハネを死に追いやった邪悪な企てについて読むことを生徒に伝えます。また、次の質問への答えも学ぶこととなります。なぜヘロデはヨハネの首を切らせたのでしょうか。なぜペテロはうまく水の上を歩いた後に、沈んでしまったのでしょうか。生徒たちに、親友や家族が亡くなる時、どのような気持ちになるか考えてもらいます。次の単元を学習するときに、愛する者の死に救い主がどのように対処されたか、また変貌の山で何が起きたかに注目してもらいます。

マタイ 13:24 - 58

はじめに

救い主は、天の王国、末日における教会の回復と発展、義人の集合、また御自身の再臨のときの悪人の滅亡についてたとえ話をういて教えられました。

教えるための提案

マタイ 13:24 - 30, 36 - 43

救い主、麦と毒麦のたとえ話を教え、説明される

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます。

世の中に非常に多くの悪がはびこっていることで、失望したり腹を立てたりしたことがありますか。

なぜ主は、わたしたちの周りの悪をただ取り除いてくださらないのでしょうか。

自分の周りの一部の人は彼らの不義の選択による当然の報いを受けていないように見えるのに、なぜわたしは義人であることを選ぶべきなのでしょう。

レッスンの初めに、ホワイトボードに書かれた質問について深く考えるよう生徒に言います。それから、生徒に自分の考えを発表してもらいます。生徒たちがマタイ 13:24 - 30, 36 - 43 を研究しながら、邪悪な世の中で義にかなって生活するように努めながら、安らぎを見いだす助けとなる真理を見つけてもらいます。

麦と毒麦の絵を示すか、麦と毒麦をホワイトボードに描きます。毒麦は有毒な雑草の一種であることを説明します。麦と毒麦は発芽したときはほとんど見分けがつかせませんが、成長するとその違いが明らかになります。

救い主は麦と毒麦についてのたとえを教えられたことを説明します。何人かの生徒に、マタイ 13:24 - 30 とジョセフ・スミス訳マタイ 13:29 の一部分（「まず麦の方を集めて倉に入れ、次に毒麦を集めて束にして焼くばかりにしておけ。」）を順番に読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、麦と毒麦がどうなったか見つけてもらいます。



- 麦と毒麦はどのようになりましたか。（両方ともまかれ〔植えられ〕て、ともに成長した。その後、麦は集めて倉に入れられ、毒麦は束にして焼かれた。）
- 良い種をまいた人が僕に麦と毒麦を「収穫まで、……育つままに」しておくよう言ったのはなぜだと思いますか。（刈り込む人が、麦と毒麦が成長する前に毒麦を抜き取ろうとすれば、多くの麦も刈り取ってしまうかもしれない。）
- ジョセフ・スミス訳マタイ 13:29 によれば、麦と毒麦のどちらが先に集められたのでしょうか。

救い主が麦と毒麦のたとえ話を話された後、主の弟子たちはその意味を説明して下さるよう主に求めたことを説明します。数人の生徒に、マタイ 13:36 - 43 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、このたとえについての救い主の説明を見つけるように言います。

- 良い種をまいた、あるいは植えたのは誰でしょうか。（救い主。）
- 毒麦をまいた、あるいは植えたのは誰でしょうか。（悪魔。）

生徒たちが聖句の内容を理解できるように助ける

生徒たちに、聖句の内容を分析し理解するのに役立つ質問をします。例えば、生徒たちが次の事柄を行ううえで助けとなるような質問をするとよいでしょう。（1）一つの聖句を別の聖句や福音の原則と照らし合わせて、意味を考える。（2）語句や表現の意味を明らかにする。（3）さらに深い意味を見つけるために、話の筋の詳細を分析する。生徒がそのような質問に答えるとき、教義や原則を見つけるよい備えになるでしょう。

- 麦と毒麦は何を表しているのでしょうか。(義人と悪人。悪人とは悔い改めを選ばない人々であることを説明します〔教義と聖約 29:17 参照〕。)

ジョセフ・スミス訳は、39 節で述べられている「収穫」または「世の終り」が、救い主の再臨のときの悪人の滅亡を指していることを明らかにしています。またジョセフ・スミス訳のマタイ 13:39 - 44 では、終わりの日に、主は悪人から義人を分けられるよう天使や御使いたちを遣わされるということが分かります。

- このたとえによれば、終わりの日に義人と悪人に起こることについて、どのようなことを教えているのでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。主は終わりの日に義人を集め、その後再臨の時に悪人を滅ぼされる。生徒の言葉を使って、この真理をホワイトボードに書きます。)
- 邪悪な世の中に生きるわたしたちに、この真理はどのように平安をもたらしてくれるのでしょうか。(主は最終的に地から邪悪なものを一掃し、忠実な者に報いてくださる。)

わたしたちには選択の自由があるので、義人とともに集うのか、悪人とともに苦しむのかは、わたしたちが自分の選択によって決めるのだということを生徒に説明します。

- 主によって集められるためには、どのようなことを行わなければならないのでしょうか。

主によって集められるためにはどのようなことをしなければならないのか、生徒たちが理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を読んでもらいます。



「主は御自分の民が、主を受け入れ、その戒めを守るときに民を集められます。……

主は御自分の民が、礼拝し、教会を築き、守られ、勧告と指示を受けるように集められます。……

預言者ジョセフ・スミスは、全ての時代において、集合の神聖な目的は、主の子供たちが崇高な儀式を受けて永遠の命を得るために神殿を築くことであると宣言しました〔『歴代大管長の教え-ジョセフ・スミス』〕 416 - 417 参照〕。 (“The Spirit and Purposes of Gathering” [ブリガム・ヤング大学アイダホ校ディボーションナル, 2006 年 10 月 31 日], byui.edu)

- ベドナー長老によれば、わたしたちが主のもとに集められるには何をする必要がありますか。
- 主に集められたものとして、あなたの生活にもたらされている祝福について深く考えてください。

写真 「宣教師：長老たち」；「宣教師：姉妹たち」；「ソルトレーク神殿」を見せてください (『福音の視覚資料集』 109 番, 110 番, 119 番。LDS.org も参照)。

- 天の御父の子供たちを集めることにおいて、救い主の助けとなるために、わたしたちはどのようなことができるのでしょうか。
- 伝道活動や神殿での奉仕を通して、救い主が義人を集めるのを助けたことで、どのような祝福を受けてきましたか。

わたしたちは誰でも間違いを犯すので、義人として集められるために悔い改めるよう、救い主が勧めておられることを生徒に明確に伝えます。自分自身、家族、隣人を救い主と主の教会に集めるためにできることについて、生徒に深く考えてもらいます。受けた促しに従って行動するよう生徒に言います。

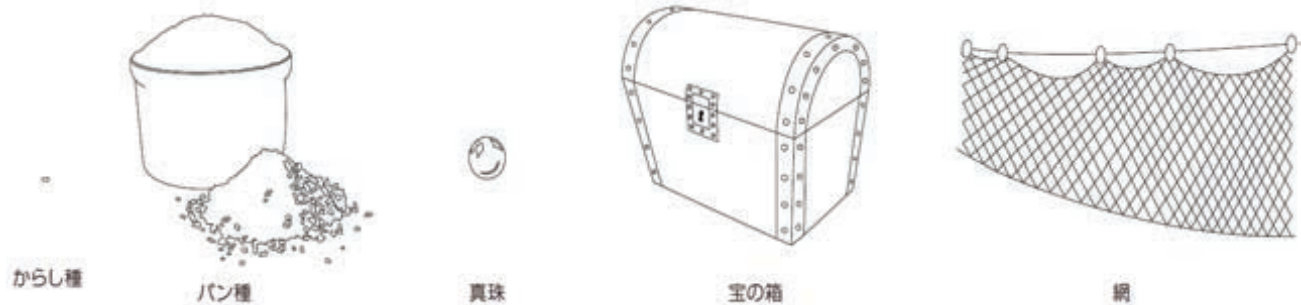
マタイ 13:31 - 35, 44 - 52

イエス、たとえ話を用いて人々に天の王国について教えられる

以下の品物の写真を見せるか、ホワイトボードに絵を描きます。からし種、イーストまたはパン種 (またはパン。イーストは、料理に使用されるもので、焼く前にふくらませるためパン生地に入れるものであることを説明します)、真珠、小さな宝箱、網。

幾つかの異なるたとえの中で、救い主はこれらの品物を天国になぞらえられたことを説明します。天国は救い主の教会と福音を表していることを生徒に思い出してもらいます。ホワイトボードに次の参照聖句を書きます。「マタイ 13:31 - 32; マタイ 13:33; マタイ 13:44; マタイ 13:45 - 46; マタイ 13:47 - 50」生徒を二人一組か小さなグループに分け、ホワイトボードの参照聖句の一つを各組またはグループに割り当てます。各組またはグループに、次の活動を完成してもらいます (この活動のリストを載せた配付資料を配ってもよいでしょう)。





1. 割り当てられた聖句を一緒に読む。
2. 救い主はどのようなものを主の教会と福音にたとえられたかについて話し合う。
3. 救い主は御自分の教会と福音について、どのような真理をこのたとえで教えられたと思うか話し合う。その真理をクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

時間を十分に取ってから、パン種のたとえを割り当てられた生徒と、からし種のたとえを割り当てられた生徒に、それぞれのたとえを読んでもらいます。

何人かの生徒に、自分が書き留めた真理を読んでもらいます。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次のような真理を見つけるようにします。イエス・キリストの回復された教会は、最初は小さいが成長して全地を満たす。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、ジョセフ・F・スミス大管長の次の言葉を読んでもらいます。スミス大管長は、イエス・キリストの弟子たちをどのようにパン種にたとえることができるか教えています。

「世の中の人々に比べたらわたしたちはほんの一握りだと言われますし、それはある意味で本当かもしれません。しかし、救い主が話されるパン種のたとえのように、わたしたちは最終的に全地を満たすのです。」(Gospel Doctrine, 第5版〔1939年〕, 74)

- わたしたちは末日聖徒として、救い主の教会が成長するのを助けるために、何ができるでしょうか。

畑に隠してある宝のたとえを割り当てられた生徒と、高価な真珠のたとえを割り当てられた生徒と、網のたとえを割り当てられた生徒に、それぞれのたとえを読んでもらいます。何人かの生徒に、自分が書き留めた真理を読んでもらいます。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次のような真理を見つけるようにします。福音の祝福は永遠に価値があるので、あらゆる犠牲を払う価値がある。生徒の言葉を使って、この真理をホワイトボードに書きます。)

生徒がこの原則を理解するのを助けるために、次の見出しをホワイトボードに書きます。

福音の祝福

祝福を得るための犠牲

福音の祝福を幾つか挙げるよう生徒に言います(例としては、聖文からの知識、生ける預言者からの導き、救いの儀式、永遠の結婚などが含まれます)。挙げられたそれぞれの祝福に対して、その祝福を得るためにはどのような犠牲を払わなければならないか、生徒に説明するように言います。ホワイトボードに生徒の答えを書きます。

ホワイトボードに列挙された祝福の一つを選び、その祝福を得るために犠牲を払うことにはなぜ価値があるかを説明するよう生徒に言います。

- あなたやあなたの知人が、福音の祝福を受けるために何かを犠牲にしたのはどんなときでしたか。

次の質問をホワイトボードに書き、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に答えを書いてもらいます。

どのような福音の祝福を得たいと願っていますか。

その祝福を願うのはなぜですか。

その祝福を受けるにはどのような犠牲を払わなくてはならないと思いますか。

マタイ 13:53 - 58

イエスはナザレで教えられ、御自分の民に拒まれる

マタイ 13:53 - 58 の要約として、ナザレの人々は救い主と主の教えを拒んだことを説明します。彼らの不信仰のゆえに、救い主は彼らの中では奇跡をあまり行われませんでした (モロナイ 7:37 も参照)。

マタイ 14章

はじめに

バプテスマのヨハネの死を知った後、イエスは独りになることを望まれましたが、多くの群衆が後を追いました。主は彼らを哀れまれ、病人を癒やし、奇跡的に5千人以上に食物を与えら

れました。その夜、イエスは、ガリラヤの海で強い嵐にもまれていた弟子たちの方へ向かって水の上を歩かれました。

教えるための提案

マタイ 14:1-21

イエス、独りでいることを望まれ、その後5,000人以上の群衆に食物を与えられる

大きな悲しみを経験したときのことを考えるよう生徒に言います。生徒に、その悲しみを堪え忍び、克服するために行ったことをよく考えてもらいます。

- 人々が悲しみを堪え忍び、克服しようとするときにとる方法にはどのようなものがあるでしょうか。

生徒に、マタイ14章を研究しながら、悲しみ、試練、疑問を堪え忍び、克服できる方法を見つけてもらいます。

マタイ14:1-11の要約として、新しい妻（ヘロデヤ）に熱心に勧められて、ヘロデ王は不当にもバプテスマのヨハネを投獄していたことを説明します。妻の娘（サロメ）が王の前で踊り、ヘロデは「彼女の願うものは、なんでも与えよう」と列席した人たちの前で約束しました（マタイ14:7）。その娘は母と相談した後、バプテスマのヨハネの首を望みました。その結果、ヘロデはヨハネの首を切らせました。

バプテスマのヨハネは、イエス・キリストの友人であり親戚であり、メシヤに道を備えるために神によって選ばれた預言者であったことを生徒に思い出してもらいます。

- バプテスマのヨハネの親しい友人であることを想像します。ヨハネの不当な死を聞いたなら、あなたならどのように受け止めたでしょうか。

一人の生徒に、マタイ14:12-13を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがヨハネの死について聞いたときにどうされたかを見つけてもらいます。

- イエスはヨハネの死について聞いたときにどうされたでしょうか。（「寂しい所」とは、独りだけの場所を指していることを説明するとよいでしょう。）
- イエスが独りになろうとされたとき、どのようなことがありましたか。
- あなたが悲しく、独りになりたいと思っているのに、他の人々があなたの注意を引こうとしたら、どのように感じますか。

一人の生徒に、マタイ14:14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自分について来る群衆を見たときに、どのように応じられたかを見つけてもらいます。

- 救い主はわたしたちが悲しみを経験したときに従うべき、どのような模範を示されたでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。自分が悲しいときであっても人々に哀れみを示すことによって、わたしたちはイエス・キリストの模範に従うことになる。）
- わたしたち自身がつらい経験をしているときに、隣人に哀れみを示すことが難しいのはなぜでしょうか。
- わたしたち自身がつらい経験をしているときに、隣人に哀れみを示すことは、どんな助けになるでしょうか。
- あなたやあなたの知り合いが、大きな悲しみを経験しながらも他の人々に哀れみを示したのはどんなときでしたか。他の誰かに奉仕することはどのような点で助けとなるでしょうか。

生徒が教義や原則を見つける助けとなる質問をする

生徒が聖文の背景と内容への理解力を育むとき、そこに含まれている教義と原則をさらによく見つけることができるようになります。分析が必要な質問は、生徒が結論を導きだし、研究している聖文の中にある教義と原則を明確に述べる助けとなります。

数人の生徒に、マタイ14:15-21を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストがどのように群衆に哀れみを示し続けられたのかを見つけてもらいます。(注-マタイ14:15-21に記録されている奇跡は、マルコ6:35-44を扱うレッスンでさらに深く教えられます。)

- イエス・キリストはどのように御自分に従う群衆に哀れみを示し続けられたでしょうか。

マタイ14:22-36

イエス、嵐の中で海の上を歩かれる

イエス・キリストに従いながらも疑いや恐れを経験するかもしれない状況について生徒が考えることができるように、二人の生徒に、次の状況を声に出して読んでもらいます。

1. ある若い女性は不治の病で苦しむ母を見て希望を失っています。彼女は、天の御父が自分の家族の苦しみを御存じなのかどうか疑いを持ち始めました。彼女は神様を信じたいと必死に願っていますが、疑いの気持ちに圧倒されそうになります。
 2. ある若い男性は最近教会に入りました。古くからの友人の多くは、彼が教会に入ると決めたことをあからさまに批判しています。彼はそのまま教会に活発で忠実な会員であり続けることに疑問を感じ始めています。
- イエス・キリストに従おうとしているときに、人々が疑いや恐れを経験するかもしれない状況には他にどのようなものがあるでしょうか。

マタイ14章の残りの部分を研究しながら、恐れ、疑い、落胆を克服する助けとなる真理を見つけよう生徒に言います。

マタイ14:22の要約として、それからすぐ、救い主は群衆を解散させておられる間に、弟子たちに舟でガリラヤの海の向こう岸へ行くよう指示されたことを説明します。一人の生徒に、マタイ14:23を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスは群衆を解散させてから、一旦どこに行かれたのか見つけてもらいます。生徒が見つけたことを分かち合ってもらいます。

一人の生徒に、マタイ14:24-25を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、弟子たちがガリラヤの海を渡っている最中にどのようなことあったのか見つけてもらいます。

- 弟子たちがガリラヤの海を渡っている最中にどのようなことがあったでしょうか。
- 「逆風が吹いていた」とは、どういう意味でしょうか。(24節)(目的地とは反対の方向に風が吹いていた。)

23節によれば、イエスが独りで山に登られ、弟子たちがガリラヤの海を渡っていたのは夕方でした。ガリラヤの海を横断する距離は約5マイル(約8キロ)で、天気の良い日なら2,3時間で横断可能であったはずで。

- 25節によれば、救い主が水上の弟子たちのもとにいらしたのはいつだったでしょうか。(「四時ごろ」というのは午前3時から午前6時までのことでした。)
- 弟子たちはガリラヤの海を横断するために、どのくらいの時間、風に悩まされていたのでしょうか。(およそ9時間から12時間。)

生徒にマルコ6:47-48を黙読してもらい、マルコがこの出来事について付け加えた詳細を見つけるように言います。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- イエスはもっと早く弟子たちを困難からお救いになれたでしょうか。救われる前に、弟子たちをいっとき困難な状況のままにしておかれた目的は何でしょうか。
- 弟子たちがガリラヤの海を渡ろうとしていたこの話から、わたしたち自身の困難についてどのような真理が学べるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、おそらく次の真理を見つけるでしょう。神はいつもわたしたちを困難から救ってくださるわけではないとしても、神はわたしたちが経験していることを御存じであり、神御自身の定められた時に、わたしたちを助けてくださる。)
- 主によって試練からすぐに救われるよりも、しばらくは、困難な状況にあることで、どのようなよいことがもたらされるでしょうか。
- 主はわたしたちの困難を御存じであることを知ることは、主がすぐにわたしたちを救ってくださらないときであっても、わたしたちの主に対する信仰をどのように強めることができるでしょうか。

夜中に釣り舟に乗り、何時間も強い風と波に翻弄されてから、誰かが水の上を歩いているのを見たところを心に思い浮かべるよう生徒に言います。

生徒が聖文の話を心に思い浮かべるのを助ける

生徒が聖文に書かれていることが実際に起こっている様子を心に思い描くうちに、ありありとした映像が浮かぶようになります。ありありとした映像を思い浮かべることは、聖文の中の出来事が生徒にとって一層生き生きとした実感を伴うのを助けます。

- このような状況にいたとしたら、あなたならどのようなことを考えたり感じたりするでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 14:26 - 27 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちがイエスを見たときの反応を見つけてもらいます。

- 弟子たちはイエスを見たときどのように反応したでしょうか。
- イエスは彼らの恐れに対してどのように応えられたでしょうか。

別の生徒に、マタイ 14:28 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、ペテロが主の声を聞いたときにどうすることを望んだのかを見つけてもらいます。

- ペテロは主の声を聞いたときにどうすることを望んだでしょうか。

教室の前にイエスの絵を掲げ、自分が舟の中のペテロだと想像するよう生徒に言います。二人の生徒に、マタイ 14:29 - 30 を順番に声に出して読んでもらいます。聖句を読み終えてから、自分がペテロだったらどのようなことを考えたり感じたりするだろうか生徒に尋ねます。

- なぜペテロはおぼれかけたのでしょうか。
- この話の中の風と波は、わたしたちの生活において恐れや疑いを引き起こす、どのようなものを表しているのでしょうか。
- 恐れや疑いに打ち負かされるのを避ける方法について、ペテロの経験からどのようなことを学べるでしょうか。(生徒たちは異なる言い方をしますが、次のことを必ず明らかにします。イエス・キリストにしっかりと目を向け、主に対する信仰を保つなら、わたしたちは恐れや疑いに打ち負かされることはない。)

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主に対する信仰を保てなくなる危険性についてよく聞きとるように言います。



「個人、家族、地域社会、そして国として、ペテロのようにイエスにしっかりと目を向けているなら、『不信仰という荒波』に打ち勝ってその上を歩き、『疑いという激しく吹きすさぶ嵐の中にあってもひるむことはない』と、わたしは固く信じています。しかし、もしわたしたちが信じるべきキリストから目をそらしたら、どうなるでしょうか。それはたやすく起こり得ることです。この世にはそのような誘惑があふれています。わたしたちを助け、救う力のある御方ではなく、周囲に渦巻く破壊的で恐ろしい嵐の猛威に目を奪われたら、争い、悲しみ、絶望の海の中に沈んでいくに違いないのです。」(『平和な港の光』『聖徒の道』1993年1月号, 22)

- どのようにしたら、ペテロが最初にしていたように、イエス・キリストに「しっかりと目を向けている」ことができると思いますか。
- イエス・キリストへの信仰によって、恐れや疑いに打ち負かされるのを避けることができた人を見たのは、どのようなときでしたか。

イエス・キリストに「しっかりと目を向け」、主に対する信仰を保つとき、わたしたちは困難に立ち向かう希望と勇気を見いだすことを証します。イエス・キリストにさらに目を向け、主に対する信仰を保つために、生活の中で変えられることについて考え、変えるための目標を立てるよう生徒に言います。

ペテロのように、わたしたちは、イエス・キリストへの信仰を保てなくなり、恐れ、疑い、落胆に負けてしまうことがあることを説明します。

水の上を歩かれるイエスの絵を見せます(『福音の視覚資料集』43番参照。LDS.orgも参照)。一人の生徒に、マタイ 14:30 - 32 を声に出して読んでもらいます。

- 30節によれば、ペテロは自分が沈み始めたことに気づいて、何をしましたでしょうか。
- この話から、わたしたちの信仰が薄れているときに主の助けを求めるなら、主はどうされるかについて、どのようなことを学ぶことができるでしょうか。(生徒は異なる言葉を使うでしょうが、おそらく次の原則を見つけるはずで、わたしたちの信仰が薄れているときに神の助けを求めるならば、神は恐れや疑いからわたしたちを引き上げてくださる。)
- 神はわたしたちをどのような方法で恐れや疑いから引き上げてくださるのでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 14:33 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスとペテロが舟に乗ってから、舟の中にいた弟子たちがどのように反応したかを見つけてもらいます。

マタイ 14:33 - 36 の要約として、この出来事後、イエスと弟子たちは旅を続け、ガリラヤの遠い海岸に到着したことを説明します。イエスがそこにいらしたことを知ったとき、人々



は病気に苦しんでいた人々を主のもとに連れて来ました。多くの人々が主の衣のふさに触っただけで癒やされました。

最後に、自分たちが受けた印象に従って行動することにより、このレッスンで学んだ事柄を応用するよう生徒を励まします。

教えるためのその他のアイデア

マタイ 14:28 – 31 ビデオプレゼンテーション「登るべき山」

困難を経験しているときに主を呼び求める大切さを生徒が理解する助けとなるよう、ビデオ「登るべき山」(5分5秒)を

見せてもよいでしょう。このビデオは LDS.org で閲覧可能です。生徒には、主がわたしたちをどのように困難から引き上げてくださるのかを見るように言います。

はじめに

ガリラヤにおられたとき、イエスは、弟子たちが食事の前に自分を清める儀式的な言い伝えに従わない理由を説明されました。それから地中海の海岸を巡り歩かれて、異邦人の女の娘

を癒やされました。イエスはガリラヤに戻られ、そこで多くの人々を癒やされ、奇跡的に4,000人以上の人々に食物を与えられました。

教えるための提案

マタイ 15:1-20

律法学者とパリサイ人たち、イエスの弟子たちが食べる前に手を洗わない理由を尋ねる

3人の生徒に、次の状況を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、その状況に共通している事柄に耳を傾けるように言います。

1. ある若い女性は、学校のダンスのために教会の標準にそぐわない服を着て行くよう友人から勧められています。その若い女性は、一般的にそのような衣装を身に着けることは地元文化では受け入れられているものの、その服が慎みについての主の標準を満たしていないことを知っています。
2. ある若い男性の家族は皆教会員で、スポーツの試合観戦が大好きです。人気のあるスポーツの試合がテレビで放送されると、その家族は家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べ、または日曜日に教会に行くことを後回しにします。
3. ある若い男女は結婚の準備をしています。彼らは婚前交渉が広く認められている場所に住んでいます。彼らが結婚するまで性的な関係を持つのを待っていることで、一部の人々は彼らを時代遅れで変わり者だと言っています。

- これらの状況に共通することは何でしょうか。（それぞれの状況は、神の戒めに従うことと、伝統や慣習に従って行動することの葛藤を示している。）

伝統や慣習には、住んでいる地域の文化や、家族、友人たちの間での考え方や行いを意味していることを説明します。

神の戒めに従うことを妨げる伝統や慣習を一つ以上挙げるよう生徒に言います。マタイ15章から、神の戒めに従うか、言い伝えや慣習に倣うかのいずれかを選択しなければならないときに、自分の助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マタイ15:1-2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、律法学者とパリサイ人がイエスに尋ねた言い伝えを見つけてもらいます。

- イエスの弟子たちはどのような言い伝えに従わなかったのでしょうか。

律法学者とパリサイ人が言う手を洗うとは、決まりごとになっていた清さのための手洗いの儀式であり、衛生上の目的の手洗いを意味していたものではありません。

一人の生徒に、マタイ15:3を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、律法学者とパリサイ人の質問に対するイエスの反応を見つけてもらいます。

- 救い主は、律法学者とパリサイ人は言い伝えに倣うことでどのようなことをしたと言っておられるでしょうか。

マタイ15:4-6の要約として、イエスは、律法学者やパリサイ人たちが彼らの言い伝えに倣うことで神の戒めをどのように破っているか、その例を示されたことを説明します。彼らは、自分たちのお金は神への供え物または「コルバン」(マルコ7:10-12参照)として取ってであると宣言することによって、年老いた両親の世話をする義務を果たさなくても「よろしい」(6節)と人々に教えていました。しかし、イエスは、そうすることで、彼らは自分の父と母を敬えという戒めに背いたと教えられました。

一人の生徒に、マタイ15:7-9を読んでもらいます。他の生徒には、律法学者とパリサイ人たちが神の戒めに従わない言い訳としてその言い伝えを利用することで、人々にどうするようにと導いていたのか見つけてもらいます。

- 律法学者とパリサイ人たちは人々にどうするようにと導いていましたか。
- 神に近づきたいなら行わなければならないことについて、これらの聖句からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉を使うでしょうが、次のような原則を見つけてください。神に近づきたいと望むならば、あらゆる伝統や慣習よりも神の戒めを優先させなければならない。)

レッスンの始めに話した話をもう一度生徒に読んでもらいます。それぞれの状況を読み終わったら、次の質問をします。

- それぞれの話に出てくる人たちは、神の戒めに従うために何ができたでしょうか。
 - それを行うことは、その人たちが神に近づくためのどのような助けとなるでしょうか。
- それぞれの状況を話し合った後、生徒に次の質問をします。
- 一般に受け入れられている伝統や慣習に倣うよりも神の戒めに従うことを選んだのはどのようなときでしたか。それは、天の御父に近づこうとどのようない助けとなりましたか。(あなた自身の経験も紹介するとよいでしょう。)

生徒たちに、先に挙げた伝統や慣習について考えてもらいます。神に近づくことができるように、これらの伝統や慣習に従うのではなく、神の戒めに従うことを選択するよう生徒を励まします。

律法学者とパリサイ人は、洗っていない手で食べることは人を汚す、またはその人を霊的に汚れさせると信じていたことを生徒に思い出してもらいます。一人の生徒に、マタイ15:10-11を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちを本当に汚すものは何だと救い主が言っておられるか見つけてもらいます。

- 救い主はわたしたちを汚すものは何だと言っておられますか。

救い主は「口から出るものが人を汚すのである」と言われたことを指摘します(11節)。弟子たちに、主の言葉に腹を立てたパリサイ人たちについて気に留めないよう語られた後(マタイ15:12-16参照)、主はわたしたちを本当に汚すものについてさらに説明されました。

数人の生徒に、マタイ15:17-20を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が「口から出るものが人を汚すのである」と言われたときに、どのような意味で言われたのか見つけてもらいます(11節)。

- 救い主が「口から出るものが人を汚すのである」と言われたときに、どのような意味で言われたのでしょうか。

聖文の中では、心は、多くの場合、わたしたちの思いや欲望を表していることを指摘します。ホワイトボードに次の言葉を書きます—もしわたしたちが悪い思いや望みを抱くならば、

- 19-20節に記録されている救い主の教えを基にして、この原則をどのように完成させますか。(次の真理を伝えられるよう、生徒たちの言葉を使ってこの原則を完成してもらいます。もしわたしたちが悪い思いや望みを抱くならば、それらの悪い考えや欲望がわたしたちを汚す。)
- 悪いまたは不適切な思いや欲望を抱くことを選択した場合、どのような点でわたしたちは神聖さを汚したり霊的に汚れたりするのでしょうか。
- わたしたちの行動だけでなく、わたしたちの口から出る言葉は、どのような点でわたしたちの心の思いや欲望を反映しているのでしょうか。

この原則を証し、純粋な思いや願いを保つことを選択するよう生徒に勧めるとよいでしょう。

マタイ15:21-28

救い主、異邦人の女の娘を癒やされる

生徒たちにホワイトボードのところに来てもらい、自分たちの義にかなった願いを一つ以上上げるよう言います。

マタイ15章から、義にかなった望みを持つためにしなければならないことを理解する助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

生徒に、『聖書の地図』の地図11、「新約の時代の聖地」を開くように言います。生徒に、地図上でツロとシドンの町を見つけるように言います。イエスはガリラヤからツロとシドンの地方に旅をしたとき、カナンの女に会われたことを説明します。その地方の多くの人々と同様、この女は異邦人、つまりユダヤ人ではありませんでした。その時点では、イエスと弟子たちはユダヤ人にだけ福音を宣べ伝えており、まだ異邦人には伝えていませんでした（マタイ10:5-6参照）。異邦人が救いのメッセージを授かるための扉は後に開かれることになります（使徒10章参照）。

生徒に、マタイ15:21-27を順番に声に出して読んでもらいます。聞きながら、次の質問の答えを見つけるように言います（これらの質問をホワイトボードに書くとよいでしょう）。

- カナンの女はどのような義にかなった望みを持っていましたか。
- この女性は、イエス・キリストを信じる信仰をどのような行いと言葉で示しましたか。

生徒に、答えを発表してもらいます。

- このたとえに対するこの女性の受け応えは、彼女のイエス・キリストを信じる信仰をさらにどのように示しましたか。

一人の生徒に、マタイ15:28を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がこの女性になさったことを見つけてもらいます。

- 救い主がこの女性になさったのは、どのようなことでしたか。なぜそうされたのでしょうか。
- この話から、わたしたちがイエス・キリストへの信仰を行使するときにどうなるかについて、わたしたちはどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の原則を見つけるはずで、わたしたちがイエス・キリストへの信仰を行使するときに、義にかなった望みに応じて祝福を受ける。）
- 義にかなった願いに応じて祝福してくださるよう忠実に主に願い求めることに加えて、イエス・キリストへの信仰を行使するために他にどのようなことを行えるでしょうか。

イエス・キリストへの信仰を行使するためにできることについて生徒が理解を深められるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の次の言葉を読んでもらいます。



「主イエス・キリストへの信仰があるなら、イエス・キリストを信頼しなければなりません。わたしたちは、主はわたしたちに最良の事柄を御存じであるという確信の下に、安心して主の御心を受け入れるまでに、主を信頼しなければなりません。……

どれほど強い信仰であっても、神の御心に反する結果を生じさせることはできません。……主の御心と主御自身の時期の判断に対する完全な信頼がなければ、主への真の信仰を持つこと[はできません。]」（『主イエス・キリストへの信仰』『聖徒の道』1994年7月号、108-109）

- イエス・キリストへの信仰を実践するとはどういう意味なのかというオークス長老の説明は、主がわたしたちの義にかなった願いに応じてすぐに祝福してくださらないときに、どのようにわたしたちを助けてくれるのでしょうか。

生徒に、ホワイトボード上の義にかなった願いのリストを確認し、そのような願いを得るよう努めるとき、イエス・キリストへの信仰を行使するためにどのようなことができるか説明してもらいます。

- あなた（またはあなたの知人）がイエス・キリストへの信仰を行使したとき、（主の御心と時に応じて）義にかなった願いがかなえられたのはどのようなときでしたか。

生徒たちに、主から義にかなった願いがかなえられるよう努めるとき、イエス・キリストへの信仰を行使するためにどのようなことを行うか、クラスノートや聖典学習帳に書くように勧めます。書き出した事柄に基づいて行動するよう生徒を励まします。

マタイ15:29-39

イエス、7つのパンと少しの魚で4,000人以上の群衆に食物を与えられる

マタイ15:29-39の要約として、イエスはガリラヤに戻られたことを説明します。主がそこにおられた間に、4,000人以上の人々が主のもとに集まり、さまざまな身体的な病気や障がい、苦しんでいた人々を連れて来ました。救い主は彼らを癒やされ、人々は主とともに3日間過ごした後、主はわずか7つのパンと少しの小さな魚で、それら全ての人々に食物を与

生徒たちが教義と原則を理解する助けとなる質問をする

教義と原則を見つけた後、有意義にそれらに応用するためには、生徒はまずそれらを理解しなければなりません。生徒が教義と原則を理解する助けとなるよう、その意味をより明確に理解することにつながるような、また現代の状況の中でそれについて考えるよう生徒を励ますような、あるいは、それについて生徒が理解していることを自分で説明するよう導くような質問をします。

えられるというもう一つの奇跡を行われました。(注- 4,000人に食物を与えるという奇跡は、マルコ8章のレッスンでさらに詳しく採り上げます。)

マタイ15章で見つけた真理や原則について証を分かち合うことによって、レッスンを終わるとよいでしょう。

はじめに

イエス・キリストは、主の神性のしるしを求めることに対し、パリサイ人とサドカイ人を叱責されました。ペテロは、イエスはキリストであると証し、天の王国の鍵を約束されました。イ

エスは弟子たちに、自分の十字架を負って、主に従って来るよう教えられました。

教えるための提案

マタイ 16:1-12

パリサイ人とサドカイ人、救い主にしるしを求める

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の言葉を書いておきます。

天使の現れを通して

聖霊を通して

友人や家族の言葉を信じることを通して

奇跡を目撃することを通して

レッスンを始めるに当たり、ホワイトボードに書かれた言葉の中から、福音についての証を生徒がどのように受けたいかを最もよく説明しているものを選ぶように言います。数人の生徒に、選んだ言葉を発表し、なぜそれを選んだかを説明してもらいます。

生徒たちに、マタイ 16 章を研究しながら、福音についての証を受け、それを強化するために、主はわたしたちをどのように助けてくださるかという真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マタイ 16:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人とサドカイ人がイエスに求めたものを見つけてもらいます。

- パリサイ人とサドカイ人はイエスにどのようなことを求めたでしょうか。
- パリサイ人とサドカイ人がイエスにしるしを求めた際、イエスを「試み」とあるのは、どのような意味だと思えますか。

数人の生徒に、マタイ 16:2-4 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人とサドカイ人に対する救い主の対応を見つけてもらいます。

- 主はどのようなしるしを与えたとおっしゃいましたか。

イエスは、「大いなる魚」に飲み込まれた、旧約聖書の預言者であるヨナについて述べられたことを説明します（ヨナ 1:17）。ヨナが魚の腹の中に「葬られ」たことと、そこから 3 日後に出て来たことは、イエス・キリストの死、墓に葬られたこと、そして 3 日目の墓からの復活を象徴しています。

- 救い主はパリサイ人とサドカイ人を叱責されてから何をされましたか。
- 霊的な真理を求める際のふさわしくない方法について、この経験からどのようなこと学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。わたしたちはしるしを求めることによって霊的な真理を受けることはない。）

マタイ 16:5-12 の要約として、救い主はパリサイ人とサドカイ人の誤った教えについて弟子たちに警告されたことを説明します。（注-この出来事は、マルコ 8 章のレッスンでより詳細に採り上げられます。）

マタイ 16:13-20

ペテロはイエス・キリストについて証し、天国の鍵を約束される

イエスは、パリサイ人とサドカイ人がしるしを求めたことを叱責された後、弟子たちに真理の証を授かる方法を教えられたことを説明します。一人の生徒に、マタイ 16:13-14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが尋ねた質問と弟子たちが述べた答えを見つけてもらいます。

- 救い主は弟子たちに何とお尋ねになったでしょうか。弟子たちはどのように答えましたか。(エリヤとエレミヤとは、旧約聖書の預言者エリヤとエレミヤであることを説明する必要がありますか。)
- 弟子たちの返答は、主の教導の業のこの時点で、イエスがどなたであるかを人々がどの程度理解していたかについて、どのようなことを教えているのでしょうか。
一人の生徒に、マタイ16:15-17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が尋ねた二つ目の質問を見つけてもらいます。
- 救い主が尋ねた二つ目の質問は、どのようなことだったでしょうか。ペテロはどのように答えましたか。
- 17節によれば、ペテロはどのようにしてイエス・キリストが神の御子であると知ったのでしょうか。(天の御父が聖霊によってこの真理をペテロに明らかにされていたことを説明します。)
- これらの聖句から、イエス・キリストについての証はどうしたら得ることができるかについて、わたしたちはどのような真理を学べるでしょうか。(生徒の答えは、おそらく次の真理をもたらすはずで、わたしたちは聖霊からの啓示を通してイエス・キリストについての証を得る。)
- 聖霊からの啓示を通して証を受けることが、他の方法によるよりも大切なのはなぜだと思いますか。

救い主についての証を得る助けとなる聖霊の役目を生徒がさらに理解できるよう、一人の生徒に、次のジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉を読んでもらいます。



「人の霊に語りかける神の御霊は、天界の存在者と接して真理が与えられる場合より、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っておられます。聖霊によって真理は体の骨髄にしみ込み、忘れ去ることができないものとなるのです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス』169)

- 聖霊を通して啓示を受けるよう自分自身を備えるために、どのようなことができるでしょうか。
- あなたは、イエス・キリストが神の御子であり、あなたの救い主であることを、どのようにして知るようになりましたか。聖霊からその証を受けるために、あなたはどのような備えをしたでしょうか。

生徒に、救い主についての証を深く考えてもらいます。どうしたら自分の証を強めることができるか、また聖霊を通して証を受けるために何を行う必要があるか、クラスノートや聖典学習帳に書くよう生徒に勧めます。

二人の生徒に教室の前に来て、ロールプレーをしてもらいます。一人の生徒に自分自身を演じてもらいます。もう一人の生徒には教会員ではない友人の役を演じてもらいます。教会員ではない友人の役を演じる生徒に、以下の二つの質問が書かれた紙を渡します。その生徒に、その質問を一度に一つ読み上げてもらい、もう一人の生徒が答えるよう言います。(質問に答えている生徒に、ありえそうな答えを提案するよう、クラスの生徒たちに勧めてもよいでしょう。)

1. わたしはあなたの教会が、イエス・キリストの唯一まことの教会であると主張していると聞きました。あなたもそう信じているのですか。
2. わたしの教会もイエス・キリストを信じているのですが、なぜあなたはあなたの教会が唯一まことの教会であると思うのですか。

ロールプレーをしてくれたことを生徒に感謝し、席に戻ってもらいます。

生徒に、マタイ16章の研究を続けながら、末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における主の教会として他の教会とはどのように違うのかを理解し、それを他の人々に説明する助けとなる真理を見つけてもらいます。

イエスが弟子たちに、御自分が何者であるかについて尋ねられたとき、彼らはピリポ・カイザリヤと呼ばれる地方にいたことを生徒に思い起こしてもらいます(マタイ16:13参照)。可能であれば、ピリポ・カイザリヤの画像を見せます(『聖句ガイド』の中の聖書の写真26「ピリポ・カイザリヤ」参照)。この写真の川や木の後ろに何があるか見つけるよう生徒に言います。救い主が弟子たちとの対話を続けられたとき、ピリポ・カイザリヤの大きな岩の形状は意味のある場面設定であったことを説明します。

一人の生徒に、マタイ16:18-20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が御自身の教会の土台を説明するために、岩の象徴をどのように用いられたかを見つけてもらいます。

マタイ 16:15

—19はマスター

聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。



ピリポ・カイザリヤ

- 「この岩の上に」御自身の教会を建てようと言われたとき、救い主はどのような意味で言われたのだと思いますか（18節）。

生徒がこの語句を理解できるようにするため、一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスによる次の言葉を読んでもらいます。



「イエスはその教えの中で次のように言っておられます。『わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。……』〔マタイ 16：18〕何の岩でしょうか。それは啓示です。』（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』195）

「聖文によると、神のまことの教会が常にそうであったように、末日聖徒イエス・キリスト教会は、直接の啓示を土台として築られました（アモス 3：7；使徒 1：2）。』（『歴代大管長の教え—（ジョセフ・スミス』195）

- 18節にある御自身の教会についての救い主の教えを、あなたならどのように要約しますか。（生徒は次の原則と同じようなことを見つけるでしょう。イエス・キリストの教会は、神からの啓示の上に建てられている。ホワイトボードにこの真理を書きます。）
- 末日聖徒イエス・キリスト教会が神からの啓示の上に建てられていることを知ることは、福音についての証をどのように強めることができるでしょうか。
- 19節によれば、救い主はペテロに何を与えると約束されたでしょうか。
- 救い主がペテロに与えられた約束から、わたしたちはどのような教義を学ぶことができるでしょうか。（生徒が必ず次の真理を見つけるようにします。イエス・キリストは御自身が選ばれた預言者や使徒たちに主の王国〔天国〕の鍵を委ねられる。）
- 王国の鍵とは何ですか。（地上の神の王国、またはイエス・キリストの教会を管理するために必要な指示を与える力、権利、権能。）

神権の鍵について生徒が理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「『神権の鍵とは、地上における神権の行使について指示を与え、支配し、統治するために神が神権〔者〕に与えられた権能である。』（『手引き 第2部—教会の管理運営』（2010年）2.1.1）教会で執り行われる全ての行為や儀式は、その職務に関する鍵を持っている人の直接的なあるいは間接的な承認の下で行われます。』（『神権の鍵と権能』『リアホナ』2014年5月号、49）

- 与えられることになる鍵によって、ペテロは何を行うことができるとイエスはおっしゃいましたか。

救い主がペテロに約束した鍵は、結び固めの力の鍵だったことを説明します。この力は、教会指導者の権能の下で行われる儀式を天でも有効にすることができるものです。また、家族を永遠に結び固めるためにも用いられます。現代では、結び固めの力は、大管長会と十二使徒定員会によって保持されています。

- 主が預言者と使徒たちに神権の鍵をお与えになる理由を、あなたならどのように要約しますか。（生徒は次のような内容の真理を見つけるはずですが、神権の鍵は、地上における主の教会を管理運営するために必要である。）

一人の生徒に、ロールプレーの質問を声に出して読んでもらいます。生徒に、マタイ 16：18 - 19 の中で見つけた真理を用いて、どのようにこれらの質問に答えるか説明してもらいます。また、生徒に、これらの真理についての証を述べてもらってもよいでしょう。

現在の管長会と十二使徒定員会の写真を見せ（LDS.org〔例えば、Meet Today's Prophets and Apostles〕および『リアホナ』の総大会号参照）、古代にペテロとその他の十二使徒に与えられたのと同じ鍵が、今日、主の生ける預言者と十二使徒によって保持され、用いられていることを証するとよいでしょう。

マタイ 16：21 - 28

イエス、御自分について来るとはどのような意味なのかを教えられる

マタイ 16：21 - 28 の要約として、イエスは御自分の贖いの犠牲について語られたことを説明します。主はまた、弟子たちに、進んで生まれながらの人（モーサヤ 3：19）を避け、従順であり、主に喜んで従うために犠牲をささげなければならないと教えられました。

 **マスター聖句-マタイ 16 : 15 - 19**

生徒に、マタイ 16 章から学んだことを家族に話すよう勧めます。今後数日間、クラス全体として暗記するために、マタイ 16 : 15 - 19 から一部分を選ぶとよいでしょう。暗記するためのアイデアは、この手引きの付録にあります。

マタイ 17章

はじめに

イエス・キリスト、モーセ、エリヤは、変貌の山でペテロ、ヤコブ、ヨハネに神権の鍵を授けました。その山から下った後、イエスは少年から悪魔を追い出されました。カペナウムで、イエ

スは驚くべき方法で、御自分とペテロのために宮の納入金を用意されました。

教えるための提案

マタイ 17:1-13

モーセとエリヤがペテロ、ヤコブ、ヨハネに現れる

運転免許証を掲げて見せるか、運転免許証を持っている生徒にそれを他の生徒に見せてもらいます。

- 運転免許証を持っていることは、人に何をやる権限を与えていますか。車の鍵の写真を見せます。
- 運転免許証を持っていることに加えて、車の鍵を利用できることがなぜ重要なのでしょうか。
- 車の運転をするための運転免許証と車の鍵を、神の業を導くために必要な神権の権能と鍵にどのようにたどることができるでしょうか。（運転免許証を持っている人が運転する権限を与えられているのと同じように、多くの男性は神権の権能を持っています。しかし、車の鍵が一人の運転者に一台の車両の運転だけを可能にするのと同じように、神権の鍵は一人の神権者が特定の範囲内で神の業を行う、または指示するための権限を与えます。教会の大管長は、地上の全ての主の業を管理し指示するために、神権の鍵を複数保持し使用しています。）

マタイ 16:19 で、主はペテロに天国の鍵、または地上で神の業を指揮する権能を与えることを約束されたことを生徒に思い出してもらいます。そのとき、ペテロと他のそれぞれの使徒たちは、既に神権の権能を与えられていましたが、まだ王国の鍵を与えられてはいませんでした。

今日聖文を学ぶときに、ペテロはどのようにして王国の鍵を授かったのか、また後に、現代においてこれらと同じ鍵がどのようにしてジョセフ・スミスとその他の人々に与えられたのかを見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、マタイ 17:1-2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神権の鍵を受けようペテロ、ヤコブ、ヨハネを備えるために、救い主は彼らをどこに連れて行かれたかを見つけてもらいます。救い主は、御自身の復活と昇天の後にペテロ、ヤコブ、ヨハネが教会の大管長会として奉仕することになるので、御自身とともに来るよう彼らをお選びになっておられたことを指摘するとよいでしょう、(ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻 [1954-1956年], 第3巻, 152 参照)。

- イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネをどこに連れて行かれましたか。
- 山の上で救い主はどのようにになりましたか。
- 姿が変わったとはどういう意味でしょうか。

「変貌」とは「天におられる御方の臨在や栄光に堪えられるように外見や肉体の性質が一時的に変えられた人の状態。つまり、霊的に高い水準に変えられた状態」(『聖句ガイド』「変貌」 scriptures.lds.org) であることを生徒が理解するよう助けます。ペテロ、ヤコブ、ヨハネもこのとき変貌しました(教義と聖約 67:11-12 参照)。

ホワイトボードに次の見出しを書きます。「変貌の山にいた人々」。この見出しの下に「イエス・キリスト、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ」と書きます。

一人の生徒に、マタイ 17:3 を読んでもらいます。それからクラス全員に、山の上でイエスと使徒たちに誰が現れたかを見つけてもらいます。

- 山の上で誰が現れたのでしょうか。（「エリヤ」とは旧約聖書のエリヤを指すことを説明します。）

ホワイトボードのリストに「モーセ」と「エリヤ」と書き足します。

生徒がモーセとエリヤがこの山に現れた理由を理解できるようにするため、一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスによる次の言葉を読んでもらいます。

「救い主とモーセとエライアス〔エリヤ〕は、山で、ペテロとヤコブとヨハネが救い主の前で変貌したとき、彼らに〔神権の〕鍵を授けました。」（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』104）

- ジョセフ・スミスによると、なぜモーセとエリヤはこの山に現れたのでしょうか。（ペテロ、ヤコブ、ヨハネに神権の鍵を授けるため。モーセとエリヤは神権の鍵を回復するため、1836年4月3日にカートランド神殿に現れたことを説明するとよいでしょう。モーセはイスラエルの集合の鍵を回復し〔教義と聖約110：11参照〕、エリヤは結び固めの力に伴う鍵を回復しました〔教義と聖約110：13-16参照〕。カートランドでのこれら方々の現れは、変貌の山で何が起こったのかを理解するための手がかりを与えています。）

聖書のジョセフ・スミス訳は、ヘロデに殺されたバプテスマのヨハネもその山に現れたことを明確にしていることを説明します（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」マルコ9：3参照。『聖句ガイド』『エライアス』も参照）。ホワイトボードのリストに「バプテスマのヨハネ」と書き足します。

数人の生徒に、マタイ17：4-9を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、変貌の山には他に誰がいたか見つけてもらいます。

- 変貌の山には他に誰がいたのでしょうか。（ホワイトボードのリストに「父なる神」と書き足します。）

福音の神権時代とは、天の御父が、御自分の権能を授けた僕を通して神権の権能や儀式、神の救いの計画に関する知識を地上の人々に授けられる時代であることを、少しの時間生徒に思い出してもらいます。一人の生徒に、ホワイトボードの前に来てもらい、ホワイトボードに列挙された方々のうち、預言者ジョセフ・スミスに現れたそれぞれの方の横に星印を書いてもらいます。（その生徒はホワイトボードに列挙された方全員の隣に星印を書くはずでず。）

生徒に、これらの訪れがそれぞれいつ起きたのか、またその目的について説明するように言います。（生徒が説明するとき、次の絵を見せてもよいでしょう。「最初の示現」；「アロン神権を授けるバプテスマのヨハネ」；「メルキゼデク神権の回復」；「カートランド神殿に現れるエリヤ」〔福音の視覚資料集〕90番、93番、94番、95番；LDS.orgも参照）

- それぞれの神権時代における神権の鍵の授与に関するこれらの出来事から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なる言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけるよう助けます。それぞれの神権時代において、地上で神の業を導くことができるように、神は選ばれた僕に神権の鍵をお授けになる。）
- イエス・キリストの時代に神権の鍵を授与するときに行われた方法で、わたしたちの時代に預言者ジョセフ・スミスに神権の鍵が授与されたということを知っているのはなぜ重要なのでしょう。
- 現代の預言者と使徒たちは、ジョセフ・スミスが受けたのと同じ鍵を持っているのでしょうか。（はい。）どのようにしてそれらの鍵を受けたのでしょうか。（その鍵は、ジョセフ・スミスからブリガム・ヤングを通してその後の預言者たちに受け継がれた。）

イエス・キリストの現世における教導の業の間にあったのと同じように、現代の神権時代に与えられた神権の権能と鍵を持っていることの祝福について、自分が感じていることを生徒と分かち合うとよいでしょう。

マタイ 17：14 - 23

イエス、少年から悪魔を追い出される

マタイ17：14-23の要約として、ある父親が救い主に癒やしてもらうために息子連れで来たことを説明します。イエスがその子供を癒やされた後、主は弟子たちに、一部の祝福は祈りと断食によってのみ得られることを教えられました。主はまた、御自分の死と復活について預言されました。（注—この出来事は、マルコ9：14-29の教えるためのアイデアでさらに深く話し合われます。）



天の御父とイエス・キリスト、ジョセフ・スミスに御姿を現される



バプテスマのヨハネ、アロン神権を回復する



ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、メルキゼデク神権を回復する



エリヤ、カートランド神殿で結び固めの鍵を回復する

マタイ 17:24 - 27

イエス、驚くべき方法で御自身とペテロのために宮の納入金を用意される

生徒たちにマタイ 17:24 - 27 を研究しながら、わたしたちの模範がどのように他の人々に影響を与えるかを理解する助けとなる真理を見つけてもらいます。

生徒がこの聖句の背景を理解する助けとなるよう、モーセの律法の下では 20 歳以上の全てのイスラエル人の男性は、「宮の納入金」と呼ばれる税を毎年神殿に支払う義務があったことを説明します（出エジプト 30:13 - 16 参照）。このお金は神殿の運営に関連する費用に充てるために使用されました。一部の祭司とラビは、この税金を支払うことを評議会によって免除されました。

一人の生徒に、マタイ 17:24 - 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、取税人たちとイエスがペテロに尋ねられた質問を見つけてもらいます。

- 取税人はペテロに何と尋ねましたか。ペテロはどのように答えたのでしょうか。
- イエスはペテロにどのようなことを尋ねられましたか。ペテロはどのように答えたのでしょうか。

この聖句の「ほかの人たち」という言葉は、王の子供ではない王国の人全てを指していることを説明します。「ほかの人たち」は税を払わなくてはなりませんが、王の子供たちは免除されます。イエスは、御自身が神の御子であり、神殿は御父の宮であるので（マタイ 17:25 - 26；ヨハネ 2:16 参照）、この税を払う必要はなく、払わないことも選べるということをペテロに教えておられます。しかし、取税人はイエスとその税を払うことを期待していました。なぜなら、彼らは主がどのような御方なのか理解していなかったからです。

生徒に、マタイ 17:27 を黙読し、イエスがペテロに、次にどうするよう指示されたのか見つけてもらいます。

- 救い主はペテロにどうするよう指示されましたか。
- イエスはなぜその税を払うと言われたのでしょうか。

ホワイトボードに「つまずかせる」という言葉を書き、この文脈において、「彼らをつまずかせないために」という語句は、おそらく救い主は他の人々を霊的につまずかせる可能性があることは何もされなかったという事実を指しています。（主が税金を払わなかった場合、一部のユダヤ人は、主とその弟子たちのことを好意的に見なくなり、福音をあまり受け入れなくなった可能性があります。）

- 救い主の模範から、どのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なった表現をすることもできませんが、次の原則を見つけるはずですが、他の人々を霊的につまずかせる可能性がある行動を避けることによって、わたしたちは救い主の模範に従うことができます。ホワイトボードにこの原則を書きます。）
- この真理が、正しい選択をするようわたしたちを導いてくれる状況には、他にどのようなものがあるでしょうか。
- 救い主の模範に従い、他の人々を霊的につまずかせる可能性がある行動を避けるよう努めることによって、わたしたちはどのように祝福されてきましたか。

クラスノートか聖典学習帳に、これまでに見つけた原則に従ってよりよい生活をするために行うことを書くよう生徒に言って、レッスンを終えます。

📖 マスター聖句の復習

マスター聖句を簡単に見つけることができるようになると、生徒はさらに自信を持って、聖文を学習し、福音の原則を生活の中にあてはめ、聖文から教えることができるようになります。

手引き全体にマスター聖句を復習する活動があり、生徒がマスター聖句を定期的に復習できるようにさまざまな方法が紹介されています。追加の復習活動は、この手引きの終わりの付録に掲載されています。

クイズは、生徒が学んだことを覚える助けとなる他、学習の程度を測定することができます。生徒に、本書で既に紹介した 3 つのマスター聖句を読んでもらいます。新しい聖句をいくつか含んでもよいでしょう。（これらの聖句に印をつけるように勧めるとよいでしょう。）生徒が読んだら、その聖句からのキーワードを与えるか、セミナーのしおりから語句を読むか

気持ちと証を促す質問をする

生徒が聖典で教えられた教義や原則を理解した後、その教義や原則に関連する過去の霊的な経験を思い出すことのできる質問をします。これらの質問は、生徒が自分の生活の中で、その福音の真理が真実であり重要であることをより深く感じる助けとなることができます。多くの場合、それらの感情はより忠実に福音の原則に従って生活することへの強い願いを生むでしょう。

して、クイズを出します。その後、生徒に自分の聖典の中で正しい聖句を見つけてもらいます。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ 13:24 – 17:27 (単元 4)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ 13:24 – 17:27 (単元 4) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要を考えながらに合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マタイ 13:24 – 58)

麦と毒麦のたとえから、生徒は、主は終わりの日に義人を集め、その後再臨の時に悪人を滅ぼされることを学びました。他のたとえでは、回復されたイエス・キリストの教会が地の果てまで満ちること、また、イエス・キリストの福音を得るために犠牲を払う者にもたらされる永遠の祝福について学びました。

第 2 日 (マタイ 14 章)

マタイ 14 章から、生徒は、わたしたちが悲しみの中にあっても、人に憐れみを示すことで、イエス・キリストの模範に従っていることを理解しました。また、わたしたちの信仰が弱まるときに神の助けを求めるならば、神がわたしたちを恐れや疑いから引き上げてくださることも理解しました。

第 3 日 (マタイ 15 章)

救い主が律法学者とパリサイ人に教えられたことから、生徒たちは、わたしたちが神に近づこうと望むならば、わたしたちの中のあらゆる言い伝えや習慣よりも神の戒めを最優先しなければならないことを学びました。また、わたしたちが邪悪な、またふさわしくない思いや望みを抱くことを選ぶならば、そのような思いや望みがわたしたちを汚すこと、さらに、イエス・キリストへの信仰を働かせるならば、わたしたちの義になかった望みに応じて祝福を受けることも学びました。

第 4 日 (マタイ 16 – 17 章)

マタイ 16 – 17 章から、生徒はイエス・キリストの教会は神から与えられる啓示の上に建てられていることを学びました。また、主の僕たちが地上で主の教会を管理運営できるように、神権の鍵が昔と同様に現在も授けられていることも学びました。

はじめに

イエス・キリストは、イエスの神性について天からのしるしを求めたパリサイ人とサドカイ人を叱責されました。ペテロはイエスがキリストであるという証を述べ、天の王国の鍵を約束されました。次の教えるための提案は、生徒が自身の証を強める方法を理解する助けとなります。

教えるための提案

マタイ 16:1 – 12

パリサイ人とサドカイ人、救い主からしるしを求める

レッスンが始まる前に、ホワイトボードに次の言葉を書いておきます。

天使の訪れによって

聖霊によって

友人または家族の言葉を信じることによって

奇跡を目にすることによって

レッスンを始めるにあたって、福音の証を受けるときに自分が望む方法に最も近いものをホワイトボードに書いた選択肢から選んでもらいます。数人の生徒に、どれを選んだか、またなぜその方法を選んだのか説明してもらいます。

マタイ 16 章を学習するときに、生徒たちに、わたしたちが福音の証を受け、その証を強めるのを主が助けてくださる方法に関する真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マタイ 16:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人とサドカイ人がイエスにどのようなことを求めたのかを見つけてもらいます。

・パリサイ人とサドカイ人は、イエスに何を求めましたか。

数人の生徒に、マタイ 16:2 – 4 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人とサドカイ人への救い主の対応を見つけてもらいます。

・どのようなしるしを与えると主は言われましたか。

イエスは、「大いなる魚」(ヨナ 1:17) に飲み込まれた旧約聖書の預言者ヨナについて述べられていたことを説明します。ヨナの魚の腹への「埋葬」と三日後に吐き出されたことは、イエス・キリストの死、埋葬、三日目の復活を象徴していました。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコスキー長老は、預言者ヨナのしるしについて次のように教えています。「ヨナが『大いなる魚』の中に葬られ、そこから出てきたこと(ヨナ 1:15 – 17:2 章)は、キリストの死、埋葬、復活を象徴しています。(Mormon Doctrine, 第 2 版 [1966 年], 711 – 712)

・救い主はパリサイ人とサドカイ人を叱責された後、どうされましたか。

・霊的な真理を求めるための誤った方法についての話から、何を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけれられるようになります。)

わたしたちは、しるしを求めることで霊的な真理を受けることはない。)

マタイ 16:5 - 12 のまとめとして、救い主が、パリサイ人とサドカイ人の偽りの教えについて、弟子たちに警告されたことを説明します。

マタイ 16:13 - 20

ペテロ、イエス・キリストについての証を述べ、天の王国の鍵を約束される

パリサイ人とサドカイ人がしるしを求めたことを叱責された後、イエスは真理の証を受ける方法について、弟子たちに教えられました。一人の生徒に、マタイ 16:13 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが尋ねられた質問と弟子たちの答えを見つけてもらいます。

- 救い主は弟子たちにどんな質問をなさいましたか。弟子たちは何と答えましたか。(エリヤとエレミヤは、旧約聖書の預言者エリヤと、エレミヤであることを説明するとよいでしょう。)
- 弟子たちの答えから、イエスの務めのこの時点で、人々はイエスがどのような御方であるということを、どれくらい理解していたかについて、何が分かるでしょうか。

注 — 第 4 日のレッスンでは、生徒はマスター聖句 (マタイ 16:15 - 19) を学びました。そのマスター聖句を生徒たちと復習する時間を数分取るとよいでしょう。

一人の生徒に、マタイ 16:15 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がなされた二番目の質問を見つけてもらいます。

- 救い主がなされた二番目の質問はどのような質問だったでしょうか。ペテロはどのように答えましたか。
- 17 節によると、ペテロはどのようにしてイエスが神の御子であることを知ったのでしょうか。(天の御父が聖霊によってこの真理をペテロに明らかにされていたことを説明します。)

- どうしたらイエス・キリストの証を得ることができるかについて、これらの聖句からどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけられるでしょう。わたしたちは、聖霊による啓示を通してイエス・キリストの証を得る。)

- 別の方法で証を得るのではなく、聖霊の啓示によって証を得ることがなぜ大切だと思いますか。

救い主の証を得られるようわたしたちを助ける聖霊の役割について生徒が理解できるように、一人の生徒に、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「人の霊に語りかける神の御霊は、天界の存在と接して真理が与えられる場合よりも、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っておられます。聖霊によって真理は体の骨髄にしみ込み、忘れ去ることができないものとなるのです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス』169)

- わたしたちが聖霊によって啓示を受けられるよう、自らを備えるためにどのようなことができるでしょうか。
- どのようにして、あなたはイエス・キリストが神の御子であり、救い主であることを知りましたか。聖霊からその証を受けるために、あなたはどのような備えをしましたか。

生徒たちに、どうしたら自分の証を強められるか、または聖霊を通して証を得るためにする必要のあることを考えてもらいます。受けた印象に従って行動するように生徒を励ましてください。

次の単元 (マタイ 18:1 - 22:26)

生徒に、人を赦すことが難しかったときのことを考えてもらいます。次の質問を考えてもらいます。その人を赦さない自分を正当化できると感じたのはなぜでしょうか。ある人を赦さない自分を正当化できると感じるときでも、その人の過ちを赦すべきなのはなぜでしょうか。明日からの一週間引き続き学習を続けるうえで、これらの質問の答えを見つけるよう生徒に言います。

はじめに

イエス・キリストは、御自身が昇天された後、弟子たちが教会を導くことができるよう、その助けとなる原則を教えられました。

イエスは、赦しについてのペテロの質問に答えるために無慈悲な僕のとえをお与えになりました。

教えるための提案

マタイ 18:1-20

イエス・キリストは、御自身の昇天後、主の教会を導く助けとなる原則を弟子たちに教えられる

ホワイトボードに次の罪を書きます。「うそをつく」「何かを盗む」「友人を裏切る」。生徒に、それぞれの罪を1から10までの段階で静かに評価するように言います。その際、最も赦しやすいものを1、最も赦し難いものを10とします。発表してもいいという何人かの生徒に、それぞれの罪をどのように評価したか紹介してもらいます。

赦すのが難しいときであっても、他の人々を赦すべき理由について、生徒に深く考えてもらいます。

生徒たちに、マタイ 18 章を研究しながら、他の人々を赦すべき理由を理解する助けとなる真理を見つけてもらいます。

マタイ 18:1-14 の要約として、イエスは弟子たちに、自分自身を謙遜にし、幼な子のようにならなければならないと指導されたことを説明します。主はまた、幼な子を「つまずかせる」者、道を迷わせる者、または信仰においてつまずかせる原因となる者は、神の裁きの対象となることを説明されました（6-7 節参照。『聖句ガイド』「つまずく；つまずかせる」を含む）。救い主はその後、生活の中から自分たちをつまずかせるようなものや、つまずく原因となるものを取り除くよう弟子たちに勧告されました（9 節参照）。（注-マタイ 18:1-14 にある救い主の教えは、マルコ 9 章とルカ 15 章のレッスンでさらに深く話し合われます。）

救い主は、生活の中からつまずく原因となるものを取り除くよう弟子たちに勧告された後、誰かが自分に対して過ちを犯したり、罪を犯したりする場合、その人はどうすべきかについて語られました。主はまた、使徒たちに教会の規律の原則も教えられました。

一人の生徒に、マタイ 18:15 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誰かが自分に対して過ちを犯した場合、イエスは弟子たちにどうするようにと教えられたかを見つけてもらいます。

- 誰かが自分に対して過ちを犯した場合、わたしたちはどうすべきかについて、この聖句からどのようなことを学ぶことができますか。

マタイ 18:16-17 の要約として、救い主は御自分の使徒たちに、もし人が自分の不正行為を認め、自分の罪を告白することを拒否した場合、二人以上の証人がその人に対して証言しているなら、その人は教会から絶たれることになることと話されたことを説明します。今日では、ある人が教会から絶たれるべき、すなわち破門されるべきかどうかに関して、そのような決定が行われる教会宗紀評議会を管理する人々が、主の御心を常に求めているということと説明するとよいでしょう。

一人の生徒に、マタイ 18:18-20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちがどのような権能を授かったのか見つけるように言います。

- 使徒たちはどのような権能を与えられたのでしょうか。（救い主は使徒たちに、ペテロの指示の下、結び固めの儀式を執行し、罪を犯した人が教会員として残るかどうかを含め、教会に関する拘束力のある決定を下す権能をもたらし、神権の鍵を授けられたことを説明します〔マタイ 16:19 参照〕。）
- 19-20 節で、主は使徒たちにどのようなことを約束されたのでしょうか。（20 節の約束に印をつけるよう生徒に勧めるとよいでしょう。）

マタイ 18:21 - 35

主、無慈悲な僕のたとえをお与えになる

一人の生徒に、トーマス・S・モンソン大管長により述べられた、生後2か月の赤ん坊を亡くした家族についての次の話を読んでもらいます。



「家具職人であった父親は、大切な子どもの体に合う美しいひつぎを作りました。葬儀の日はどうも曇り空で、子どもを失った家族の悲しみを反映しているかのようでした。父親が小さなひつぎを抱え、家族で礼拝堂に向かって歩いていくと、わずかばかりの友人が集まって来ました。しかし、礼拝堂のドアには鍵がかかっていました。忙しいビショップが葬儀のことを忘れていたのです。連絡を取ろうとしましたが、無駄でした。途方に暮れた父親は、ひつぎを腕に抱え、家族を伴って、雨でびしょぬれになりながら、歩いて帰宅したのです。」(「隠れたくさび」『リアホナ』2002年7月号, 20)

- もしあなたがその家族の一員だったとしたら、ビショップが葬儀に現れなかったとき、どのように感じたでしょうか。
- そのビショップを赦すのが難しいのはなぜでしょうか。

救い主が使徒たちに指示を与えられた後、ペテロは主に赦しについての質問をしました。一人の生徒に、マタイ 18:21 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロの質問を見つけてもらいます。


- ペテロは救い主に何と尋ねたでしょうか。

ペテロの時代の一部の宗教指導者は、人は誰かを3回以上赦してあげる必要はないと教えていたことを説明します。主に尋ねたとき、ペテロは、もし誰かを7回赦したならば、自分は寛大であると思っていた可能性があります(ブルース・R・マッコンキー, The Mortal Messiah, 全4巻 [1979 - 1981年], 第3巻, 91 参照)。生徒たちに、マタイ 18:22 を黙読して、救い主のペテロに対する答えを見つけてもらいます。

- わたしたちに対して不快な思いをさせたり、罪を犯したりする人々を何回赦すべきであると救い主はおっしゃいましたか。(「七たびを七十倍するまで」という言い方は、わたしたちは他の人々を赦す回数に制限を設けるべきではないということだと説明します。)
- 他の人々を赦すことについて、救い主からどのような真理が学べるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。主は、わたしたちを傷つけた人や罪を犯した人を赦すよう命じられた。)
- 他の人々を赦すとはどういう意味でしょうか。(他の人々を赦すとは、自分を怒らせたり傷つけたりした人に愛をもって接し、その人に対して悪い感情を持たないことだと説明します [『聖句ガイド』「赦し」, scriptures.lds.org; 教義と聖約 64:9 - 11 参照]。赦しとは、誰かが自分を傷つけることを続けさせておくことや、罪を犯した人が、法律的にまたその他の方法で、自分の行動に責任を問われるべきではないという意味ではありません。)

ペテロの質問にお答えになった後、救い主は、わたしたちが他の人々を赦すべき理由を理解する助けとなるたとえを弟子たちに教えられたことを説明します。

生徒を二人一組に分け、それぞれの組にマタイ 18:23 - 35 を一緒に読み、わたしたちが他の人々を赦すべき理由を見つけてもらいます。十分な時間を取った後で、生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。

 生徒にマタイ 18:23 - 35 を読んでもらう代わりに、ビデオ “Forgive Every One Their Trespasses: The Parable of the Unmerciful Servant” (「赦すことが求められる」) [6分6秒] (「教義と聖約/教会歴史 DVD プレゼンテーション」10) を見せてもよいでしょう。生徒がビデオを見る際、わたしたちが他の人々を赦すべき理由を見つけるよう生徒に言います。ビデオの後で、生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。このビデオは LDS.org で閲覧可能です。

生徒がこのたとえの理解をさらに深めるのを助けるために、次の言葉をホワイトボードに写します。

王	僕	仲間

- 僕は王に幾ら負債があったでしょうか。（「僕」の下に「王に1万タラントの負債」と書きます。）

次のことを説明します。イエスの時代には、「1万タラントとは1億デナリ〔ローマの通貨〕と同じでした。1デナリは、普通の労働者の一般的な一日分の賃金でした。」（ジェイ・A・バリーとドナルド・W・バリー、Understanding the Parables of Jesus Christ [2006年], 95）1億デナリを365日で割って、その僕がこの負債を完済するためには何年かかるか計算するよう生徒に言います（ $100,000,000 / 365 = 273,973$ ）。ホワイトボードの「王に1万タラントの負債」の下に「273,973年」と書きます。

- 仲間は僕に幾ら負債があったでしょうか。（「仲間」の下に「僕に100デナリの負債」と書きます。）

仲間は、およそ100日分の仕事の価値、あるいは年収の3分の1近くをその僕に負っていたこととなります。ホワイトボードの「僕に100デナリの負債」の下に「100日」と書きます。

- 僕が仲間の負債を赦さなかったことで、王はこの僕を悪い僕だと言ったのはなぜだと思いますか。

このたとえで三人はそれぞれ誰を表していると思うか、生徒に尋ねます。生徒に答えてもらった後、以下の可能な表現をホワイトボードに書きます。「王=天の御父、僕=わたしたち、仲間=わたしたちを怒らせた人」

- わたしたちが他の人々を赦すべきである理由について、救い主は御自分の弟子たちにどのような原則を教えようとされていたと思いますか。（生徒は次のような内容の原則を見つけるでしょう。もしわたしたちが神から赦されたいと思うなら、他の人々を進んで赦さなければならない。ホワイトボードにこの原則を書きます。）
- 誰かを赦すのに苦勞している場合、その人は何ができるでしょうか。

他の人々をさらに進んで赦すために何ができるかを、生徒が理解する助けとなるよう、一人の生徒に大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長による次の言葉を読んでもらいます。可能であれば、一人一人の生徒に配付資料を作ります。



「まず怒りの感情があることを知り、そして認める必要があります。それには謙虚さが求められます。しかし、ひざまずき、赦したいと思えるように願うなら、天の御父は助けてくださいます。主はわたしたち自身の益のために『すべての人を赦す』よう求めておられます〔教義と聖約 64:10〕。『憎しみは霊的成長を妨げる』からです〔オーソン・F・ホイットニー、Gospel Themes (1914年), 144〕。……わたしたちも、憎しみや苦々しい思いを捨て去るときに初めて、主によって心の安らぎを得ることができるのです。……」

悲劇が起こったときに、個人的な復讐を求めてはなりません。むしろ正義に任せるようにしてください。……込み上げる怒りを心から払いのけるのは簡単ではありません。贖いを通して、救い主は全人類にかけがえのない平安を約束してくださいましたが、怒り、恨み、あるいは復讐などの否定的な感情をわたしたちが進んで捨て去らなければ、その平安は得られないのです。たとえ重大な犯罪であっても『わたしたちに対して過ちを犯す者』を赦す全ての人は、贖いによって必要な平安と慰めを受けるのです。（ジェームズ・E・ファウスト「赦しのもたらす癒しの力」『リアホナ』2007年5月号, 69）

- ファウスト管長は、わたしたちが他の人々を赦す助けとなるようなどんなことをするようと言ったのでしょうか。
- ファウスト管長によれば、わたしたちが他の人々を赦すとどうなると言っているのでしょうか。

生徒に、このレッスンの始めに紹介したモンソン大管長の話思い出してもらい、その話の結末を読むように言います。

「もしその家族がもっと人格の低い人々だったとしたら、ビショップを非難し、悪感情を抱いていたことでしょう。ビショップはその悲劇を知るとすぐにこの家族を訪れ、謝りました。父親の表情からは心に受けた傷がありありと見て取れましたが、目に涙を浮かべながら、謝罪を受け入れました。二人は理解の精神をもって抱き合いました。」（「隠れたくさび」『リアホナ』2002年7月号, 20）

- あなたに対して罪を犯したり、不快な思いをさせたりした人を赦すに当たって、主からどのような助けを受けてきましたか。

- あなたが他の人々を赦す助けとなったのは、どのようなことでしたか。(生徒に、この質問に対する答えをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらってもよいでしょう。)

赦せずにいる人がいないか、深く考えるよう生徒に勧めます。イエス・キリストが御自身の贖罪を通して平安と慰めを感じさせることができるように、赦したいという願いと、心の傷や怒りをぬぐい去る能力を求めて祈るよう生徒に勧めます。

質問し、応用を促す勧めをする

福音を教える目的は、生徒が聖典に見いだされる原則と教義を生活に応用し、改心するようになり、忠実で従順な人々に約束された祝福を受けるよう助けることです。生活に応用するよう促す質問と勧めは、生徒が現在と将来の状況の中で、これらの原則と教義をどのように応用すればよいかを理解する助けとなります。

マタイ 19 – 20 章

はじめに

イエス・キリストは結婚の神聖さについて教えられました。主は世俗的な富に勝る永遠の命を選ぶことの重要性を強調し、ぶどう園の労働者のたとえを教えられました。イエスはまた、

御自身の死を予告し、人々に奉仕するよう弟子たちに教えられました。

生徒の必要としていることや感情を気遣う

結婚と離婚についての救い主の教えについて話し合う際、両親や家族の誰かの別居または離婚のために辛い思いや心配をしている生徒がいなか気遣ってください。準備し、教えるときに、聖霊の導きを祈り求め、従います。生徒が質問をするときや、思いや気持ちを分かち合うときには注意して耳を傾けることを忘れないでください。

教えるための提案

マタイ 19 : 1 – 12

救い主、結婚の神聖さについて教えられる

神殿で結び固めを受けた、幸せな結婚をしている夫婦の写真を見せます。結婚と離婚に関する主の教義は、一般社会の考え方とは異なることを指摘します。

- 結婚と離婚について、一般社会の考え方にはどのようなことがあるでしょうか。(注-例えば同性結婚など、本筋からそれた話に時間を使いすぎて、このレッスンにおける重要な原則を学ぶ時間が足りなくなることがないようにしてください。)

生徒たちには、マタイ 19 : 1 – 12 を学習しながら、救い主の結婚と離婚についての教えを見つけ、それらに対する教えの重要性について考えてもらいます。

一人の生徒に、マタイ 19 : 1 – 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人がイエスに尋ねた質問を見つけてもらいます。見つけたことを発表してもらいます。

「何かの理由で、……その妻を出す」(マタイ 19 : 3) という言葉は、些細な、または利己的であっても、何らかの理由で妻と離婚する男性のことを示しています。

一人の生徒に、マタイ 19 : 4 – 6 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が結婚と離婚について教えられたことを見つけてもらいます。

- パリサイ人に対する救い主の答えから、わたしたちは結婚についてどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒は幾つかの真理を見いだすかもしれませんが、次のことを必ず強調してください。男女の間の結婚は、神によって計画され定められた神聖な関係である。)

一人の生徒に、マタイ 19 : 7 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人が救い主に尋ねた別の質問を見つけてもらいます。

- パリサイ人は救い主に何と尋ねたでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 19 : 8 – 9 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の答えを見つけてもらいます。

- 救い主によると、モーセはなぜイスラエルの民の中で離婚を許したのでしょうか。(人々の心がかたくなだったから。)

この教えが現代にどのように関係しているかを生徒が理解する助けとなるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「昇栄を目指す結婚には、離婚は想定されていません。結婚生活は永遠に存続すると信じ、互いに神のようになることを目標としているからです。二人は主の神殿において永遠に結婚します。しかし、ある結婚はそうした理想に向かって進みません。『[わたしたち]の心が、かたくななので』[マタイ 19 : 8] 主は日の栄えの標準に基づく結果を、今は強要なさいません。主は離婚した人も、より高い律法で定められている不道德の染みがないものとして、再び結婚することを認められるのです。』(「離婚」『リアホナ』2007年5月号, 70)

結婚は、男女の間の神聖な関係として神によって計画され定められたという証を分かち合うよう、生徒に促してもよいでしょう。



マタイ 19:13 - 30; 20:1 - 16

イエス、永遠の命を教え、ぶどう園の労働者のたとえを語られる

一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。もし腕立て伏せを10回できれば、ささやかなご褒美(小さなキャンディー 10個など)がもらえるとその生徒に伝えます。生徒が腕立て伏せを10回したら、その生徒にご褒美を与え、その後、別の生徒に頼みます。二番目の生徒に腕立て伏せを1回やってもらい、その後、生徒たちに、この生徒はどのようなご褒美を受けるべきか、そしてそれはなぜかと尋ねます。その二人の生徒には自分の席に戻ってもらいます。二番目の生徒は、レッスンの後半になったら、聖典で学習した内容に基づいて報酬を受け取ることにすると全員に伝えます。

マタイ 19:13 - 27 の要約として、イエスは弟子たちに、この世の富よりも永遠の命を求めよう励まされたことを説明します。ペテロは、弟子たちが救い主に従うためにこの世の財産を捨てたことで、自分たちは何がもらえるのかと尋ねました。(注-これらの聖句で話されている事柄は、マルコ 10 章のレッスンで詳細に教えられます。)

一人の生徒に、マタイ 19:28 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロに対する救い主の答えを見つけてもらいます。

- 29 節によると、救い主に従うために全てを捨てる人は何を受け継ぐでしょうか。

救い主は、御自分の子供たち全てに永遠の命を受ける機会を与えたいという天の御父の願いを理解する助けとなるように、そのとき弟子たちにたとえを教えられたことを説明します。このたとえの中で、ある人は自分のぶどう園で働いてもらうために一日を通して異なる時間に労働者を雇います。新約聖書の時代の通常の労働時間は、季節によって多少長さが異なりますが、およそ午前 6 時から午後 6 時まででした。

次の表をホワイトボードに書き写すか、配付資料として生徒に渡します。

労働者(開始時刻)	合意した賃金	働いた時間	支払われた金額
早朝(午前 6 時)			
3 時間後(午前 9 時)			
6 時間後(午後 12 時)			
9 時間後(午後 3 時)			
11 時間後(午後 5 時)			

生徒たちに、小さなグループになって調べてもらいます。グループでマタイ 20:1 - 7 を読み、労働者の各グループが何時間働き、賃金はいくらだと合意したのかを見つけてもらいます。「1 デナリ」は一人の労働者の一日当たりの賃金とほぼ同等のローマの硬貨でした。

十分な時間を与えてから、数人の生徒にホワイトボードの前まで来て、表の最初の 2 つの列に記入するように言います(または配布したプリントに記入してもらいます)。

- 誰が一番多く支払われるべきだと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 20:8 - 10 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それぞれの労働者のグループが受け取った賃金を見つけてもらいます。

- それぞれの労働者のグループが受け取った賃金はいくらでしたか。(生徒たちが答えた後で、「支払われた金額」と書かれた列のそれぞれの空欄に「1 デナリ」と書きます。)
- もしあなたが一日中働いた労働者の中にいた場合、たった 1 時間働いた人々と同じ賃金を受けたときに、どのような思いや気持ちを持ったと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 20:11 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、一日中働いた人々がぶどう園の主人に何と云い、主人はどう答えたのかを見つけてもらいます。

- 一日中働いた労働者たちの不満は何でしたか。
- ぶどう園の主人は何と答えたでしょうか。
- ぶどう園の主人は一日中働いた人々に対してどのように正当(または公正)だったのでしょうか。

生徒がこのたとえから真理を見つけられるよう助けるため、マタイ 19:29 で述べられているように、1 デナリの賃金は永遠の命を表していることを説明します。次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 神は、_____ 全ての人々に永遠の命を与えてくださる。

- このたとえの賃金が永遠の命を表しているのであれば、労働は何を表しているのでしょうか。（生徒はさまざまな答えを述べるかもしれませんが、このたとえの労働は、神との神聖な聖約を交わして守ることを意味していることを強調するようにします。生徒たちが答えた後で、次のように、ホワイトボードの真理を完成させます。神は、神との神聖な聖約を交わして守る全ての人々に永遠の命を与えてくださる。）

この真理は、人生の早い時期に聖約を交わして守ることがない人々、さらに死後までそのようにする機会を持っていない人々に対する天の御父の憐れみを理解するのに役立つことを指摘します（教義と聖約 137:7-8 参照）。

- いつそうなるかに関わりなく、神は、神との神聖な聖約を交わして守る全ての人々に永遠の命を与えてくださることを知るの、なぜ大切だと思いますか。

生徒に、腕立て伏せを1回だけした二番目の生徒のことを思い出してもらいます。

- この生徒は、腕立て伏せを1回したことで、どのようなご褒美を受けるべきだと思いますか。（この生徒には腕立て伏せを10回した生徒に与えたのと同じご褒美を与えます。）

一人の生徒に、マタイ 20:15-16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、他の労働者に対するぶどう園の主人の親切について不満を持つ労働者たちに、彼がどのように答えたかを見つけてもらいます。

- ぶどう園の主人が「わたしが気前よくしているので、ねたましく思うのか」と尋ねたとき、どのような意味で言ったのだと思いますか。（15節）

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はこの質問を次のように言い換えていることを説明します。「わたしが親切にしているからといって、あなたはなぜ妬ましく思うのか。」（「ぶどう園の労働者たち」『リアホナ』2012年5月号、31参照）

- 16節の「召される者は多いが、選ばれる者は少ない」とはどういう意味でしょうか（訳注 — この言葉は口語訳聖書のこの節にはない。しかし、欽定訳聖書〔英文〕のこの節の言葉 many be called, but few chosen に該当する言葉は、口語訳聖書のマタイ 22:14 に記されている）。（「召される」とは、天の御父の業に携わるよう招かれるという意味です。「選ばれる」とは、永遠の命を含め、神の祝福を受けると言う意味です。）
- 16節からどのような原則を学べますか。（生徒たちは次の原則を含む、多くの原則を見つけるかもしれませんが、天の御父が他の人に与える祝福を妬むならば、天の御父がわたしたちに与えようとされている祝福を失ってしまうかもしれない。）

ジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を読み、他の人々に天の御父が与えられる祝福に嫉妬するように、どのように誘惑される可能性があるか、生徒たちに深く考えてもらいます。



「この人生では、ときどき誰か他の人が思わぬ祝福や特別な称賛を受けることがあります。他の人に幸運が訪れても、わたしたちが決して傷ついたり、妬んだりすることがないように祈ります。人に付け加えられても、自分のものが取り去られるものではありません。わたしたちは、豊かさや才能、美しさ、祝福の多さを競っているわけではありません。わたしたちが本当の意味で競っているのは、罪との戦いです。……」

人を妬んでも、すねても、けなしたりしても、自分を高めることはなく、人を落としてても、自分のイメージは上がらないということです。ですから、人に優しく接し、神の優しさに感謝しましょう。それが幸せに生きる道です。」（「ぶどう園の労働者たち」31, 32）

生徒がぶどう園の労働者のたとえを研究するときに見いだす真理についてのあなたの証を分かち合います。

ホワイトボードに次の言葉を書きます。クラスノートか聖典学習帳にその言葉を書き込んで完成させる時間を生徒に与えます—このたとえから学んだことに基づいて、わたしは

十分な時間を与えた後、分かち合ってもよいと感じる生徒数人に、書いたことをクラスで発表してもらいます。

マタイ 20 : 17 - 34

イエス、御自身の死を予告し、弟子たちに、人々に奉仕するよう教えられる

マタイ 20 : 17 - 34 の要約として、エルサレムに戻ったならば、御自身は裏切られ死刑を宣告されると救い主が預言されたことを説明します。主は弟子たちに、地位や権力を得ようと努めるよりも、むしろ主の模範に従い、人々に仕えるべきであることを教えられました。

第23課

マタイ 21:1-16

はじめに

イエスはその生涯の最後の週の初めに、エルサレムに勝利の入城を行われました。そこにいる間、主は二度目の宮清めを行われ、目の不自由な者と足の不自由な者を癒やされました。

教えるための提案

注 — このレッスンの最後に「イエス・キリストの最後の週、贖罪、および復活」という見出しの1ページの視覚資料があります。この救い主の現世の最後の週の概要は、あなたと生徒たちがイエス・キリストの死と復活へとつながる出来事を理解する助けとなります。この概要をマルコ、ルカ、ヨハネでも使うとよいでしょう。

マタイ 21:1-11

イエス・キリスト、エルサレムへの勝利の入城を行われる

食べ物を見せるか、ホワイトボードに食べ物の名前を書きます。生徒たちに、この食べ物を味わったことや、他の人々に勧めたことがあるかどうか発言してもらいます。一人の生徒に、その食べ物を勧めるために教室の前に出て来てもらいます。その生徒に、他には誰もこの食べ物を味わったことがないと想像するように言います。その生徒に、誰かがこの食べ物を試食したいと思わせるようなことを言うか行うかするように言います。終わったら席に戻してもらいます。その後で、クラス全体に質問します。

- 前にこの食べ物を味わっていなかった場合、今どれくらい食べてみたくなったでしょうか。それはなぜですか。

救い主の絵を見せます。多くの人々がイエス・キリストと主の福音についてほとんど知識を持っていないこと、そして、わたしたちは他の人々が主について学ぶ助けとなるという責任を持っていることを説明します。

生徒たちに、誰かがもっとイエス・キリストについて知りたくなるよう助けるためにできることを深く考えてもらいます。マタイ 21:1-11 を研究しながら、他の人々がもっとイエス・キリストについて学ぶよう励ます際に、助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

マタイ 21 章は、救い主のはりつけの 5 日前に起きた出来事を記録していることを説明します。イエスと使徒たちがエリコからエルサレムに向かって旅をしたとき、大勢の群衆が彼らに従ってきたことを生徒に思い出してもらいます（マタイ 20:17-18, 29 参照）。

一人の生徒に、マタイ 21:1-5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが二人の使徒たちに何をしようお命じになったかを見つけてもらいます。

- イエスはこれらの使徒たちに何をしようお命じになりましたか。

マタイ 21:4-5 で述べられている預言は、ゼカリヤ 9:9-10 にあることを説明します。（生徒たちに、5 節のそばに、この参照聖句を書くように提案するとよいでしょう。）この預言は約束されたメシヤ、つまり「油注がれた預言者、祭司、王、救い主」についてのものであり、「ユダヤ人はその訪れを熱望して」いました（『聖句ガイド』『メシヤ』, scriptures.lds.org）。次のことを指摘します。聖書の時代には、ろばは「ユダヤ人の王族の象徴でした。……ろばに乗ってられたことは……柔和で、イエスが軍馬に乗った征服者としてではなく、平和的で『身を低くされた』救い主として来られたことを示していました。」（New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014 年], 64）

- 異なる文化において、敬意をもって王族として認めることを示す行為にはどのようなものがあるでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 21:6-8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがろばに乗ってエルサレムに入って来られたとき、「群衆のうち多くの者」（8 節）は何をしたかを見つけてもらいます。（ジョセフ・スミス訳マタイ 21:5 では、連れて来られてイエスがお乗りになったのは、ただ 1 頭の動物だったことを明らかにしていることを生徒に指摘するとよいでしょう。）



- 群衆はイエスをメシヤとして敬意をもって認めるために何をしましたでしょうか。(ヨハネによる福音書は、群衆は「しゅろの枝」を使ったことを明確に記述していることを指摘してもよいでしょう〔ヨハネ12:13〕。しゅろ(なつめやし)の枝は、ユダヤ人にとって勝利と敵を征服した喜びの象徴でした。群衆が枝や上着を使ってじゅうたんを敷き詰めたかのような道を作ることは、王族や征服者をたたえるために使用される意思表示の行為でした。このように行うことで、群衆はイエスを自分たちの救世主、そして王として認め、歓迎したのです。)

「勝利の入城」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』50番。LDS.orgも参照)。自分がこの絵の中の人々の一人であることを想像するよう生徒に言います。マタイ21:9の最初の部分を声に出して読み、自分たちが群衆の一部であるかのように、この聖句の後半にある群衆の叫びを一齐に声に出して読むよう全員に言います。

- どのような言葉を群衆は繰り返したでしょうか。(ホサナ)

「ホサナ」とは、お救いくださいという意味だと説明します(『聖句ガイド』「ホサナ」)。生徒たちに、この定義を自分の聖典の9節のそばに書くよう提案するとよいでしょう。

群衆の叫びのその部分は、詩篇118:25-26のメシヤに関する預言を成就したことを説明します。生徒に、マタイ21:9のそばにこの参照聖句を書くように勧めるとよいでしょう。王とメシヤの称号である「ダビデの子」(9節)は、ダビデの王位継承者のために取って置かれたものであることを説明します。

- この叫びを上げることによって、群衆はイエスをどなただと宣言していたのでしょうか。
- もしあなたがそのときエルサレムに住んでいたとして、救い主の勝利の入城を目撃したときに、どのような思いや気持ちを持ったと思いますか。

当時のエルサレムにはその他にも数千人の人々が集まり、過越の祭を行っていたことを指摘します。一人の生徒に、マタイ21:10-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エルサレムにおけるその群衆の行動が他の人々に与えた影響を見つけてもらいます。

- その群衆の行動のために、他の人々はどのような質問をしましたでしょうか。
- この話で示されているように、わたしたちが公にイエス・キリストを認め、主について語るならどうなるでしょうか。(生徒は異なる言葉を使うでしょうが、次の原則を見つけるでしょう。わたしたちが公にイエス・キリストを認め、主について語るなら、他の人々が主のことをもっと知りたいという願いを育む助けとなることができる。この原則をホワイトボードに書くといよいでしょう。)
- わたしたちが公にイエス・キリストを認め、主について語るができる場所は、教会の集会以外でどのような状況があるでしょうか。(適切な場合、わたしたちは公式な場で、ソーシャルメディアを通じて、または友人、家族、隣人との会話の中でこれを行うことができることを生徒が理解するよう助けます。)
- わたしたちはどうしたら、他の人々が主についてもっと知りたいと思うよう、公にイエス・キリストを認め、主について語るができるでしょうか。
- イエス・キリストはどのような御方なのかと尋ねられたら、どのように答えますか。

次の質問をホワイトボードに書き、生徒たちに、クラスノートや聖典学習帳にその質問に対する答えを一つ書いてもらいます。

公にイエス・キリストを認め、主について語ろうとする誰かの努力によって、あなたが主についてもっと知りたいと思ったのはどのようなときでしたか。

あなた(またはあなたの知人)が公に主を認め、主について語ることで、誰かがイエス・キリストについてもっと知りたいと思うようになったのはどのようなときでしたか。

十分な時間を与えた後、書いたことを分かち合いたいと思う数人の生徒に発表してもらいます。

イエス・キリストを認め、主について適切に語る機会を見つけ、その機会を逃さないよう生徒に勧めます。

聖典に印をつけ、 注釈を施す

聖典に印をつけ、注釈を施すことは、生徒が学んだ事柄を覚えておくための最も有益な方法の一つです。生徒は、そのために大切な単語や表現に傍線を引いたり、色を塗ったり、要点を書いたりします。生徒はまた、定義、原則、預言者の注解、あるいは個人的な洞察や感想を聖典の余白に書き込むこともできます。



マタイ 21 : 12 - 16

イエス、宮を清め、目の不自由な者と足の不自由な者を癒やされる

あなたが住んでいる場所の近くにある末日聖徒の神殿の写真を見せます。最後に神殿を訪れたときに感じた思いや気持ちについて深く考え、それを説明するよう生徒に言います。もし生徒が神殿に行ったことがない場合、神殿の中ではどのような気持ちかと思うか、話してもらいます。



- 神殿では、どのようなことがこれらの感情を経験させてくれるのでしょうか

「わたしの父の家」(『福音の視覚資料集』52番。LDS.orgも参照)の絵を見せます。救い主がエルサレムに入られた後、主は神殿の庭に行かれたことを説明します。一人の生徒に、マタイ 21 : 12 - 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天の御父とイエス・キリストが不快に思われた、一部の人々がやっていたことを見つけてもらいます。

- 一部の人は神の宮をどのように扱っていたのでしょうか。

過越の祭を祝うためにエルサレムに来た訪問者は、彼らの礼拝の一部として神殿で犠牲としてささげるために動物を購入する必要があったことを説明します。動物を購入することができるように、両替商はローマの通貨や他の通貨を神殿の通貨に両替し、別の商人は動物を売っていました。

- 神殿の敷地内でこのような商売を行うことは、どうして間違っていたのでしょうか。

この商売は必要であり、良い目的で行われていたとしても、商人がそれを取り扱う場所や方法が無礼で不敬であったことを指摘するとよいでしょう。13節は、両替商や商人が神を礼拝したり、礼拝する人々を助けることよりも、金銭上の利益を得ることの方に興味があったことを述べています。

- 救い主の言葉や行動から、わたしたちは神殿についてどのような真理を学ぶことができるのでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。主の宮は神聖な場所であり、主はわたしたちが敬意をもって扱うことを望んでおられる。)
- わたしたちはどのようにして主の家に敬意を表すことができるのでしょうか。
- ふさわしい状態で神殿に参入することは、どうして神殿に対する畏敬の念を示していることになるのでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 21 : 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が宮清めの後、どのようなことをされたかを見つけるように言います。

- 救い主は神殿で主のもとにやって来た目の不自由な者と足の不自由な者にどのようなことをされたのでしょうか。
- この話から、わたしたちが神殿に参入するとき、主はわたしたちにどうしてくださるのかについて、どのようなことが学べるのでしょうか。(生徒が必ず次の真理を見つけるようにします。神殿に参入するとき、主はわたしたちを癒やしてくださる。)
- わたしたちが神殿に参入するとき、肉体的なわずらいに加え、主は他にどのような病や障がい癒やすことができになるのでしょうか。

一人の生徒に、大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長の次の話を読んでもらいます。彼らが見つけた真理についてのファウスト管長の証に耳を傾けるよう生徒に言います。



「主はこの癒やしの力を得るためのたくさんの方法を与えてくださいました。私は、主が神殿の業を回復して下さったことを感謝しています。これは、生者、死者双方の救いにとって大切なものです。神殿は、この世の多くの煩い事から一時的に逃れることのできる聖所です。神殿は平安と静寂の場所です。そしてこの聖所で主は『心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる』のです(詩篇 147 : 3)。(『霊的な癒し』『聖徒の道』1992年7月号、8)

- 主の宮で礼拝することは、なぜ主の癒やしの力を体験する助けとなるのでしょうか。

神殿で礼拝するときに体験する癒やしは、この話で目の不自由な者と足の不自由な者に対してそうだったように、すぐに行われることもあれば、長い期間をかけて行われることもあることを説明します。


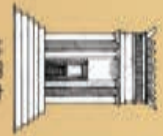











- あなた、またはあなたの知人が、神殿での礼拝によって主の癒やしの力を体験したのはどのようなときでしたか。(あなた自身の経験を話してもよいでしょう。)

マタイ 21:15 - 16 の要約として、祭司長や律法学者たちは、イエスが神殿で行われたことと、そこでもにいた人々が主に「ホサナ」と叫んでいたことを不快に思っていたことを説明します。イエスは、人々が公に主を認めたことで預言が成就したことを指摘されました（詩篇 8:2 参照）。

最後に、このレッスンで話し合った真理について証を述べて、レッスンをまとめます。

イエス・キリストの最後の週、贖罪、復活



<p>週の5日前</p> <p>勝利の入城</p> 	<p>週の4日前</p> <p>神殿を清められる</p> 	<p>週の3日前</p> <p>神殿でリウサイ人を化かし、教えられる</p> 	<p>週の2日前の出来事は不明です。</p> <p>週の平日</p> <p>過ぎ越しの準備</p> 	<p>週の</p> <p>最後の晚餐</p> <p>十二弟子の足を洗われる</p> 	<p>ユダヤ人の安息日</p> <p>豊穡で務めを果たされる1</p> 	<p>日曜日</p> <p>復活して、マグダラのマリヤに御姿を現される</p> 	<p>10人のおとめ、タラント、まど山、羊のたとえを教えられる</p> 	<p>ユダヤ人の指導者たちがイエスのためにユダと共謀する</p> 	<p>ゲツセマネで苦しまれる</p> 	<p>逮捕、裁判、おどけり</p> 	<p>十字架と死</p> 	<p>使徒やその他の人々に御姿を現される</p> 
---	--	--	--	---	---	---	--	--	--	---	--	---

第24課

マタイ 21:17 – 22:14

はじめに

イエスはベタニヤの村で一夜を過ごされた後、神殿に戻られました。その途中、イエスはいちじくの木をのろわれました。ユダヤ人の指導者たちは、神殿におられたイエスのもとに来て、イエスの権威について質問しました。イエスは彼らをとがめら

れて、御自分と御自分の福音を拒むことと受け入れることの結果を示すとえを幾つか教えられました。

教えるための提案

マタイ 21:17 – 32

イエス、いちじくの木をのろい、ユダヤ人の指導者たちを非難される

レッスンが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます—何か、見た目ほどよくないと気づいたのは、どんなときですか。

レッスンを始めるにあたり、ホワイトボードに書かれている質問に対する答えを一人以上の生徒に発表してもらいます。

マタイ 21 章には、イエス・キリストが外見ほど実際は良くなかったものに遭遇したときの話が書かれていることを説明します。生徒たちに、人から見て義にかなっているだけでなく、実際に義にかなった生活をするように導いてくれる真理をマタイ 21 章から見つけてもらいます。

マタイ 21 章の話の背景がわかるように、イエスはエルサレムへの勝利の入城をされ、神殿を清められてから、エルサレムの近くにあるベタニヤと呼ばれる小さな村に滞在されたことを説明します。一人の生徒に、マタイ 21:18 – 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、次の日救い主が、ベタニヤからエルサレムの神殿に帰られる途中で何をされたかを見つけてもらいます。

- 救い主はいちじくの木をどうされましたか。

葉の茂ったいちじくの木の色を見せます。いちじくの木に葉が茂っているときは、普通はその木に実がなっているということだと説明します。イエスが実のついていないいちじくの木を見つけられたのは春でした。いちじくの木はたいいて春に最初の実をつけます。その頃に実がついていない場合は、その年はまったく実がならないことを意味します。この話に書かれている木は、見た目は実がなっている木でしたが、実際には何も実がついていませんでした。救い主がいちじくの木をのろわれた一つの理由は、弟子たちにユダヤ人の腐敗した宗教指導者たちについて教えられていたことが考えられます。

- 救い主の時代のユダヤ人の宗教指導者たちについて学んだことから考えると、彼らの多くはこの話に出てくるいちじくの木に、どのように似ているでしょうか。（彼らは神に従っているように見えても、実際には実をつけていない、つまり義にかなった行いをしていませんでした。）

マタイ 21:23 – 27 をまとめとして、一部のユダヤ人の宗教指導者が神殿にいるイエスに近づき、何の権威によってイエスがエルサレムに勝利の入城を果たし、神殿を清めたのかを尋ねたことを説明します。バプテスマのヨハネのバプテスマ（または教え導く業）の権威は神からきたのか、人から来たのかを尋ねることで、救い主はその質問に応じられました。指導者たちは、自分たちがとがめられることやヨハネを預言者と思っている群集を恐れたために、質問に答えませんでした。救い主も、彼らの質問には答えないとわれ、腐敗したユダヤ人指導者の行いを表す三つのだとえを話されました。1つ目のたとえは、二人の息子が父親に取った異なる対応について説明しています。

一人の生徒に、マタイ 21:28 – 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、二人の息子のうちどちらが、ユダヤ人の指導者に似ているかを見つけてもらいます。

- 二人の息子のうち、ユダヤ人の指導者に似ていたのはどちらでしょうか。どのような点で似ていますか。



いちじくの木

© Jose Ramiro Laguna/Shutterstock.com

一人の生徒に、マタイ 21:31 - 32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、このたとえを通じて主が腐敗したユダヤ人指導者について教えられたことを見つけてもらいます。（「取税人」とは税を集める者であること、「遊女」とは売春婦のことであることを説明する必要があるかもしれませんが。ユダヤ人の指導者たちは、これらの人々を罪人として見下していました。）

- どのような点で、取税人と遊女が、たとえの中の最初の息子に似ているでしょうか。
- 神の国に入る者についての救い主の教えから、どのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、おそらく次のような内容の真理を見つけるでしょう。神の王国に入るためには、単に天の御父に従うと言ったり、従うふりをするのではなく、真に天の御父に従い、罪を悔い改めなければならない。）

この真理の生徒との関連性を理解できるようにするため、一人の生徒に、次の話を声に出して読んでもらいます。

ある若い男性は、教会の活動に行くとき親に伝えながら、実際は友人の家に遊びに行きます。教会の指導者や教師の前では、天の御父の戒めを守っているかのように振る舞っていますが、それ以外のところでは、多くの戒めを知りながらそれらを破っています。

- この若い男性の選択は、どうして神の王国に入るための妨げとなるのでしょうか。
- あなたがこの若い男性の友人だったら、その行いを改める助けとなるようにどのようなことを言えるでしょうか。

別の生徒に、次の話を声に出して読んでもらいます。

ある若い女性は、学校内の一部の女子について友人とうわさ話をしていますが、その女子たちが近くにいると友人であるかのように振る舞っています。この女性はほとんど毎週教会に集って聖餐を取っていますが、集会の最中に友人へ頻繁に周りの人の批判を書いたメールを送信しています。

- どのような点でこの女性は、天の御父の戒めを守っているふりをしているだけと言えるでしょうか。
- これらの例だけでなく、どのような形で、実際に天の御父に従うのではなく、従うふりをしたくなってしまうことがあるのでしょうか。

生徒が引き続きマタイ 21 章を学習するときに、一つも実をつけなかったいちじくの木のようにならないためにできることを見つけてもらいます。

マタイ 21:33 - 22:14

イエス、*邪悪な農夫たちのたとえ*と*王子のための婚宴のたとえ*を教えられる

生徒たちに二人一組になってもらいます。可能であれば、各組に次の表を配ります。生徒に、パートナーと一緒にマタイ 21:33 - 41 を声に出して読んでもらい、最後の三つの象徴が何を表していると思うかを書き込んで、表を完成してもらいます。

邪悪な農夫たちのたとえ

マタイ 21:33 - 41	
象徴	意味
主人	天の御父
農夫	
僕	
主人の息子	

生徒が作業を終えたら、書き込んだことを幾つかの組に発表してもらいます。必要に応じて、農夫たちは腐敗したイスラエルの指導者たち、僕は神の預言者、主人の息子はイエス・キリストを表していることを明確にしてください。

- このたとえを通じて、イエスはどんなことを説明なさっていたのでしょうか。（何世紀もの間、イスラエルの一部の指導者たちは旧約聖書の預言者を拒んでおり、この時代のユダヤの指導者はイエスを殺すつもりでした〔New Testament Student Manual (教会教育システム手引き, 2014年) 65 参照〕。）

一人の生徒に、マタイ 21:43 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の王国（ここではイエス・キリストの教会および福音の祝福を意味する）はユダヤ人の指導者たちが拒んだ後、誰に与えられるかを見つけてもらいます。

- 神の王国は誰に与えられるのでしょうか。

ジョセフ・スミス訳マタイ 21:53（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）では、神の王国を与えられる民は異邦人であると確認していることを説明します。「異邦人」という言葉は、「イスラエルの血統に属さない人々…〔または〕ユダヤ人の血統以外の人々」（『聖句ガイド』『異邦人』, scriptures.lds.org）または完全な神権、儀式、律法、教義を持っていない民を示すことを説明するとよいでしょう。異邦人への王国の引き継ぎは、救い主の死後、使徒によって初めて異邦人に福音がもたらされたことで始まりました（使徒 10 - 11 章参照。マタイ 20:16 も参照）。異邦人の民の間に生まれた預言者ジョセフ・スミスによる福音の回復により、王国の引き継ぎは末日にも続いています。イエス・キリストの教会の会員として、わたしたちも神が王国を与えた民の中に数えられています。

- 43 節によると、イエス・キリストの教会の会員として、わたしたちにはどのようなことをする責任があるのでしょうか。（生徒が、必ず次のような真理を見つけれられるようにします。イエス・キリストの教会の会員として、わたしたちには義の実を結ぶ責任があります。生徒の言葉でこの原則をホワイトボードに書きます。）

生徒にホワイトボードの所に来てもらい、いちじくの木になる実を描いてもらいます。イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちが取るべき義にかなった行いを表す言葉を、生徒にそれぞれの実に書き込んでもらいます。次の質問をして、生徒が書き込んだことを説明してもらいます。

- その実を結ぶことはなぜ大切なのですか。
- そのような義の実の一つを結べるよう努力したことで、どのような祝福を受けてきましたか。

マタイ 21:45 - 46 のまとめとして、祭司長とパリサイ人は、邪悪な農夫たちのたとえが自分たちのことを指していることを悟って腹を立てたことを説明します。しかし、彼らは群衆を恐れてイエスを捕らえることをしませんでした。

イエス・キリストは、マタイ 22:1 - 10 で、福音の祝福のある王が自分の息子のために催した婚宴にたとえられたと説明します。最初に婚宴に招かれた人々（これらの人々は多くのユダヤ人を指し、その指導者たちも含まれる）は、来ようともしませんでした。次に招かれた人々（異邦人を指す）は、婚宴に参加し楽しむことにしました。

一人の生徒に、マタイ 22:11 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、婚宴の席で何があったかを見つけてもらいます。

- なぜこの客は婚宴から放り出されてしまったのでしょうか。

王は、婚宴の席で着るための清潔でふさわしい服を客たちに与えることで、当時の習慣に従っていたことを説明します。しかし、この人は王が与えた礼服を着ようともしませんでした。

- このたとえでは、礼服は何を表していると思いますか。（聖典の中の清い礼服や式服は、イエス・キリストの贖罪によって清められた者の義と純粋さをしばしば象徴することを説明するとよいでしょう〔New Testament Student Manual (教会教育システム手引き, 2014年) 66 参照。3 ニーフアイ 27:19 も参照〕）。

ジョセフ・スミス訳マタイ 22:14 では、婚宴に招かれた人の中には礼服を着ない者もいることが書かれていることを説明します。言い換えれば、イエスを救い主と認め、救い主に召され、王国の一員になる招きを受け入れた者全てが、救い主と天の御父とともに永遠に住むための準備が整い、ふさわしいわけではないということです。一部の者たちは、義の衣をまわっていないために、豊かな祝福を受ける資格を自ら失ってしまいます。

- このたとえは、ホワイトボードに書かれている原則をどのようにさらにわかりやすく表しているのでしょうか。

考え、気持ち、経験を分かち合う

洞察や関連性のある経験を分かち合うことは、教義と原則への生徒の理解を明確にする助けとなります。生徒が自分の経験を分かち合うときに、生徒が言い表そうとしているまさにその考えについて、聖霊はしばしばより深い理解や証へと導いてくださいます。生徒が分かち合う考え、気持ち、経験は、聖霊の力を通して、他の生徒の心や思いに大きな影響を与えることもあります。

わたしたちが受けるよう招かれている永遠の祝福の重要性について証します。福音の全ての祝福を享受するようとの天の御父の招きを受け入れるために、現在どのような努力をしているかを深く考えてもらいます。これらの祝福を受ける備えをすることで、学んできた事柄を生活に応用するように生徒を励まします。

第25課

マタイ 22 : 15 – 46

はじめに

イエスが神殿で教えを続ける中、パリサイ人とサドカイ人は、難しい質問をしてイエスを陥れようとしていました。イエスは彼らの質問に完璧に答えられて、その土地の法律に従うように、また二つの大切な戒めを守るように教えられました。

教えるための提案

マタイ 22 : 15 – 22

パリサイ人、税金を納めることは律法にかなっているかと救い主に尋ねることで、主を陥れようとする

- わたしたちの社会において政府が制定した重要な法律には、どのようなものがありますか。なぜそれが重要だと思いますか。

守るべきであるのにあまり守っていない法律がないか生徒に静かに考えてもらいます。マタイ 22 : 15 – 22 を研究しながら、その土地の法律に従うことについて、イエス・キリストはどのようなことを教えられたかを生徒に見つけてもらいます。

救い主の生涯の最後の週に、主はエルサレムの神殿で毎日教え導かれたことを生徒に思い起こしてもらいます（ルカ 19 : 47 ; 22 : 53 参照）。一人の生徒に、マタイ 22 : 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人が救い主にどのようなことをしようとしていたかを見つけてもらいます。

- 「言葉のわなにかけよう」とはどういう意味でしょうか。

一人の生徒に、マタイ 22 : 16 – 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人がどのように救い主を陥れようとしていたかを見つけてもらいます。17 節の「税金」とは、英文では (tribute) [保護, 平和の代償として他国などへ納める「貢ぎ物」] であること、カイザルとは、当時イスラエルを支配していたローマ帝国の皇帝であることを説明します。

- パリサイ人がイエス・キリストに尋ねた質問は、どのように言葉のわなとなり得るのでしょうか。（救い主が税金はローマ帝国に納めるのが正しいと言われれば、ユダヤ人たちは、イエスを自分の民に不実なローマ帝国の支持者とみなしただろう。もし税金を納めることは正しくないと言われた場合は、パリサイ人はイエスを反逆罪で訴え、ローマ帝国の役人に通報することができた。）

一人の生徒に、マタイ 22 : 18 – 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がパリサイ人の質問にどのように答えられたかを見つけてもらいます。21 節にある「それでは、カイザルのものはカイザルに返しなさい」という言葉は、わたしたちが税金を納めるなど、法律に従うことの義務を述べています。硬貨をかざして、次の質問をします。

- なぜ救い主の答えは、パリサイ人の質問に対する完璧な答えだったのでしょうか。
- 「カイザルのものはカイザルに返す」べきであるという救い主の教えから、どのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次のような真理を見つけるようにします。主は、わたしたちが善良な市民となり、その地の法律に従うことを求めておられる [信仰箇条 1 : 12 も参照]。)
- イエス・キリストの弟子として、わたしたちが善良な市民となり、その地の法律に従うことがなぜ大切なのでしょうか（教義と聖約 58 : 21 参照）。

生徒にマタイ 22 : 22 を黙読してもらい、パリサイ人がイエスの返答にどのように反応したかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

学習過程を通じて生徒を導く

学習過程を通じて導くことによって、生徒が福音の原則をさらによく理解し、自分のものにするよう助けられます。理解を深めるために聖文を調べるよう生徒を励まし、生徒自ら福音の真理を見つけられるよう助けられます。また生徒が自分の言葉で福音を説明したり、生徒たちが知っていることや感じていることを分かち合い、証する機会も与えます。これによって生徒は福音を理解するだけでなく、その真実性を心の中で感じるできるようになります。

マタイ 22:23 - 34

救い主、結婚と復活についてサドカイ人に教えられる

パリサイ人だけでなく、サドカイ人も神殿で教える救い主を言葉のわなにかけようとしたことを説明します。サドカイ人の信条を生徒が理解することができるように、『聖句ガイド』の「サドカイ人」の項を黙読してもらいます。サドカイ人が信じていた事柄、信じていなかった事柄を見つけてもらいます。

- サドカイ人はどのような教えを拒みましたか。

一人の生徒に、マタイ 22:23 - 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サドカイ人がどのように救い主をわなにかけようとしたかを見つけてもらいます。

- サドカイ人が救い主に尋ねた質問をどのようにまとめることができますでしょうか。

サドカイ人は、やもめを養うための旧約聖書の習慣をあえて誤用していたことを説明します(申命 25:5 - 6。〔これは「レビレート婚」と呼ばれ、未亡人が死亡した夫の兄弟または場合により最近親者と結婚する習慣である〕)。彼らは、この習慣を誇張して、復活の教義を信じさせないようにしました。

一人の生徒に、マタイ 22:29 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サドカイ人の質問に対する救い主の答えを見つけてもらいます。

- 救い主は、どのように返答なさったでしょうか。

救い主の答えを生徒に理解してもらうために、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコスキー長老の次の言葉を読んでもらいます。



「〔イエス・キリスト〕は、天において、めとったり、嫁いだりすることがあるという一般概念を否定しているのではなく、限定しているのです。救い主は、『彼ら』(サドカイ人)に関する限り、そして『彼ら』(『この世の子供たち』)に関する限り、家族の単位というものは現在も復活後にも続くものではないと言われているのです。……

『それゆえ、彼ら(永遠の結婚の律法に従わない、従うつもりがない、従えない人々)はこの世の外に去ると、めとることも、嫁ぐこともありません。』〔教義と聖約 132:16 参照〕

つまりイエスがこのとき語りかけていた人々、言い換えれば復活を信じないだけでなく、その他全ての救いの真理を信じない人々……にとっては、天において、めとることも、嫁ぐこともないのです。〕(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 606)

マタイ 22:29 - 30 に書かれた救い主のメッセージを生徒がさらに理解できるように、主は永遠の結婚に関する多くの重要な真理を預言者ジョセフ・スミスに明らかにされたことを説明します。一人の生徒に、教義と聖約 132:15 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が結婚について預言者ジョセフ・スミスに明らかにされたことを見つけてもらいます。

- 主は、誰が復活において「めとることもなく、嫁ぐことも」ない(16節)と言われましたか。
- 救い主は結婚と来世について、どのような真理をマタイ 22:30 と、教義と聖約 132:15 - 17 で教えられましたか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次のような真理を見つけるようにします。現世において、神権の権能によって伴侶に結び固められていない者、または神殿での身代わりの儀式によって結び固められていない者は、その結婚は来世では有効ではない。)

一人の生徒に、マタイ 22:31 - 33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が復活についてサドカイ人に教えられたその他の真理を見つけてもらいます。

- 復活とは現実のものであること示すために、救い主は 32 節で何と言われましたか。
- 救い主が教えられたこれらの教義を聞いた人々は、どのような反応をしましたか。

マタイ 22:34 - 40

救い主、二つの大切な戒めについて教えられる

クラスノートや聖典学習帳に、生徒たちが思いつく戒めをできるだけ多く1分以内に書いてもらいます。幾つの戒めを書きだすことができたか、生徒に報告してもらいます。

ユダヤ教では、モーセの律法には613の戒めがあると教えていることを説明します。一人の生徒に、マタイ22:35-36を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人の一人がこれらの戒めに関して救い主に尋ねた質問を見つけてもらいます。

● パリサイ人は救い主にどのような質問をしましたか。

生徒が救い主による答えを見る前に、前に書き出した戒めの中で「大切な」あるいは最も重要な戒めと思うものを丸で囲んでもらいます。数人の生徒に、どの戒めを丸で囲んだのか、またその理由を答えてもらいます。

一人の生徒に、マタイ22:37-40を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がパリサイ人の質問にどのように答えられたかを見つけてもらいます。

● 最も大切な戒めとは何ですか。二番目に大切な戒めとは何ですか。(これらの二つの戒めはモーセの律法に書かれていることを説明します〔申命6:5; レビ19:18参照〕。また「あなたの隣りを愛せよ」という主の勧告は、わたしたちがどのように他の人に接するかを意味しています。)

● これらの戒めが最も大切な戒めとみなされるのはなぜだと思いますか。

● 40節の、「これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」というのは、どういう意味ですか。(モーセの律法と旧約聖書の預言者を通じて神が明らかにされた全ての戒めは、人々が神と隣人に対して愛を示す助けとなるように作られたことを生徒が理解できるよう助けます。)

● 全ての戒めが二つの大切な戒めを守るようにつくられたのであれば、全ての神の戒めを守ることの重要性について、40節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが心から神を愛し、自分を愛するように隣りを愛するならば、神の全ての戒めを守るよう努力するようになる。)

この原則を説明するために、クラスノートか聖典学習帳に先ほど書き出した戒めのリストを見るように言います。神への愛を示す戒めには星印をつけ、隣り人への愛を示す戒めには四角印をつけてもらいます。(星印と四角印の両方がつく戒めもあるかもしれません。)生徒にリストから戒めの一つを選んでもらい、その戒めに従うことによって、どのようにわたしたちが神への愛、隣り人への愛、またはその両方を示すことができるのかを説明してもらいます。

● 神または誰かに愛を示すために、ある一つの戒めを選んで従おうとしたときに、どんな気持ちになりましたか。

わたしたちが心から神を愛し、自分を愛するように隣りを愛するならば、神の全ての戒めを守ろうとするという原則についての証を述べてください。天の御父または誰かへの愛を示すために、今よりさらに忠実に守るべき戒めを生徒に考えてもらい、そのための目標を設定するよう生徒に勧めます。その目標をクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

マタイ22:41-46

救い主、パリサイ人にキリストをどう思うかとお尋ねになる

パリサイ人とサドカイ人の質問に完璧に答えられた救い主は、パリサイ人に幾つかの質問をされたことを説明します。

一人の生徒に、マタイ22:41-42を読んでもらいます。他の生徒には、救い主がパリサイ人に尋ねられた質問を見つけてもらいます。

● イエス・キリストは、パリサイ人にどのような質問をなさいましたか。

● パリサイ人はどのように答えましたか。

ほとんどのユダヤ人はキリスト、つまりメシヤはダビデ王の子孫であることを知っていたことを説明します。パリサイ人は、かつてのダビデ王がそうであったように、イスラエルの王となるメシヤは、外敵(ローマ帝国など)を打ち負かし自由を獲得するよう助けるものと信じていました。マタイ22:43-46の要約として、パリサイ人の聖文によれば、キリストは単にダビデの息子以上の御方であるだけでなく、神の御子であることを、イエスがパリサイ人に教えられたことを説明します。また、後に愛弟子ヨハネに明らかにされたように、キリストは「ダビデの若枝また子孫」(黙示22:16)、つまりダビデの主であられると同時に、ダビデの子孫であられたことを説明して、マタイ22:43-46をまとめてください。

生徒たちに自分なら「あなたがたはキリストをどう思うか」という質問にどう答えるか考えてもらいます。救い主についての自分の証を述べてレッスンをまとめます。

マタイ22:36

- 39 はマスター

聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

 **マスター聖句—マタイ 22：36－39**

時間を取って、生徒たちに、マタイ 22：36－39 の言葉をカード、または小さな紙に書いてもらいます。その紙を携帯し、一番大切な戒めと二番目に大切な戒めを守ることを思い起こす助けとなるように、一日中定期的にそれに目を向けるようにしてもらいます。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ 18:1 - 22:26 (単元 5)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ 18:1 - 22:26 (単元 5) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要を考えながら合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第1日(マタイ 18 - 20章)

無慈悲な僕のたとえから、生徒は、わたしたちが赦されることを神に望むなら、わたしたちも進んで他の人を赦さなければならないことを学びました。また、結婚の高潔さについても学びました。

第2日(マタイ 21:1 - 16)

救い主のエルサレムへの勝利の入城について学習しながら、生徒は、わたしたちが公にイエス・キリストを認め、イエスについて語るときに、イエスについてさらに知りたいという周囲の人の望みを育てる助けとなることができることを学びました。救い主が神殿を清められた話から、生徒は、主の宮は神聖な場所であり、敬意をもって扱うよう主が望まれていることを学びました。また、わたしたちが神殿に参入するときに、主はわたしたちを癒やしてくださることも学びました。

第3日(マタイ 21:17 - 22:14)

生徒は、救い主がどのようにいちじくの木を呪われたか、またその後神殿で教えられたときに幾つかのたとえを使われたことについて学びました。神の王国に入るには、単に神に従うと言ったり、従うふりをするのではなく、天の御父に従い、罪を悔い改めなければならないことを学びました。生徒が学んだもう一つの真理は、イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは多くの義の実を結ぶ責任があるということでした。

第4日(マタイ 22:15 - 46)

生徒は、イエスが神殿で教えを宣べ続けられ、人々に次のように教えられたことを学びました。主はわたしたちに善良な市民となり、その土地の法律に従うよう求めておられる。救い主は、現世において、神権の権能によってまたは神殿での身代わりの儀式によって伴侶に結び固められていない者は、来世では結婚していないことを教えられました。また、わたしたちが真に神を愛し、自分を愛するように隣人を愛するならば、神の全ての戒めを守るよう努力するようになることも学びました。

はじめに

このレッスンは、神と神聖な聖約を交わし、それを守ることの大切さを理解する助けとなります。また、周囲の人が神によって祝福されるときに、ともに喜ぶことの大切さを学ぶことができます。

教えるための提案

マタイ 19:28 - 20:16

イエス、永遠の命について教え、ぶどう園の労働者たちのたとえ話をされる

一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。その生徒に、もし腕立て伏せが10回できたら、ささやかなご褒美(キャンディーを10個など)をもらえるとします。生徒が10回腕立て伏せができたら、ご褒美をあげ、もう一人にやってもらいたいと言います。二人目の生徒には、腕立て伏せを1回してもらい、生徒たちに、この生徒にはご褒美を幾つあげるべきか、またそれはなぜかを聞きます。二人の生徒に着席してもらいます。二人目の生徒には、レッスンの後半で、生徒たちが聖文から学んだことを基に、ご褒美を与えると生徒たちに伝えます。

ユダヤの海岸でイエスが教えられているときに、この世の財産を捨てて救い主に従ったことで弟子たちは何を頂けるのか、ペテロがイエスに尋ねたことを説明します。

一人の生徒に、マタイ 19:28 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロへの救い主の答えを見つけてもらいます。

- 29節によると、誰でも救い主に従うために一切を捨てた者は、何を受け継ぐことになりませんか。

その後、天の御父は、御自分の全ての子供たちに永遠の命を得る機会を与えたいと望んでおられることを理解するためのたとえを、救い主が弟子たちに教えられたことを説明します。このたとえでは、ある人が一日の間の異なる時間に、ぶどう園で働く労働者たちを雇います。新約聖書の時代においては、季節によって多少変化はあったものの、通常の労働時間はたいてい朝6時から夕方6時までであったことを説明するとよいでしょう。

次の表をホワイトボードに書き写すか、配付資料として生徒に配ります。

労働者 (開始時刻)	合意した 給料	働いた時間	支払われた 金額
早朝 (午前6時)			
3時間後 (午前9時)			
6時間後 (午後12時)			
9時間後 (午後3時)			

労働者 (開始時刻)	合意した 給料	働いた時間	支払われた 金額
11 時間後 (午後 5 時)			

生徒たちに、小さなグループに分かれて作業してもらいます。グループでマタイ 20:1-7 を読んでもらい、それぞれの労働者の一団が何時間働いたか、また合意した給料について見つけてもらいます。(当時のローマの硬貨の「1 デナリ」は、労働者一人の一日の賃金にほぼ等しかったことを説明します。)

十分な時間を与えた後で、数人の生徒にホワイトボードの前まで来て、表の最初の二つの欄に記入してもらいます(または配布したプリントに記入してもらいます)。

• 一番多く給料をもらうべきなのは誰だと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 20:8-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、各時間の労働者にいくら支払われたかを見つけてもらいます。

- 各時間の労働者にいくら支払われましたか。(生徒たちが答えた後、「支払われた金額」の各欄に「1 デナリ」と書き込みます。)
- 一日中働いた労働者の中にあなたがいたとしたら、1 時間だけ働いた人と同じ給料をもらったときに、どんな気持ちでしたか。

一人の生徒に、マタイ 20:11-14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、一日中働いた労働者たちがぶどう園の主人に言ったことと、労働者たちへの主人の答えを見つけてもらいます。

- 一日中働いた者たちはどのような不平を言ったでしょうか。
- それに対してぶどう園の主人は何と答えたでしょうか。
- ぶどう園の主人は、一日中働いた者たちに対して、どのように公正さを保ったのでしょうか。

このたとえから生徒が真理を見つける助けとなるように、1 デナリの収入は、マタイ 19:29 に述べられているように、永遠の命を意味していることを説明します。次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 神は、_____ を選ぶ全ての人々に永遠の命を与えられる。

- このたとえの報いが永遠の命を表しているのであれば、労働は何を表しているでしょうか。(生徒はさまざまな答えを挙げるかもしれませんが、このたとえの労働は、神と聖約を交わし、それを守ることを意味していることを強調するようにします。生徒が答えた後で、ホワイトボードに書いた真理を次のように完成させます。神は、神と聖約を交わし守ることを選ぶ全ての人々に永遠の命を与えられる。)

この真理は、人生の早い時期に聖約を交わして守ることのない者たち、さらには死ぬまでその機会に恵まれない者たちへの天の御父の憐れみについて、わたしたちが理解する助けになることを指摘します(教義と聖約 137:7-8 参照)。

- 神と聖約を交わす時期がいつであろうと、神と聖約を交わし、その聖約を守ることを選ぶ全ての者に、神は永遠の命を与えられることを知ることは、なぜ大切だと思いますか。

生徒たちに腕立て伏せを 1 回だけしかしなかった二番目の生徒を思い出してもらい、次の質問をします。

- その生徒は腕立て伏せを 1 回したことで、どれだけのご褒美を受け取るべきだと思いますか。(腕立て伏せを 10 回した生徒に与えたのと同じご褒美を、二番目の生徒にも与えてください。)

一人の生徒に、マタイ 20:15-16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ぶどう園の主人が他の労働者たちにも親切であったことに不平を言った者たちに対して、主人がどのように答えたかを見つけてもらいます。

- 「わたしが気前よくしているので、ねたましく思うのか」とぶどう園の主人が言ったとき、それはどんなことを意味していたと思いますか(15 節)。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はこの質問を次のように言い換えていることを説明します。「わたしが親切にしているからといって、あなたはなぜ妬ましく思うのか。」(「ぶどう園の労働者たち」『リアホナ』2012 年 5 月号, 31 参照)

- 16 節の「召される者は多いが、選ばれる者は少ない」(訳注— 欽定訳マタイ 20:16 から和訳)とはどういう意味でしょうか。「召される」とは、天の御父の業に携わるよう招かれていることを意味します。「選ばれる」とは、永遠の命の祝福を含む天の御父の祝福を受けることを意味します。教義と聖約 121:34-40 も参照)

- 16 節からどのような原則を学べますか。(生徒たちは、次の原則を含むさまざまな原則を見つけるかもしれませんが、天の御父が他の人に与える祝福を妬むなら、天の御父がわたしたちに与えようとしている祝福を失ってしまうかもしれない。)

ジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読み、天の御父が他の人に与える祝福を、どうしてわたしたちは妬むよう誘惑されることがあるのか考えてもらいます。



「この人生では、ときどき誰か他の人が思わぬ祝福や特別な称賛を受けることがあります。他の人に幸運が訪れても、わたしたちが決して傷ついたり、妬んだりすることがないように祈ります。人に付け加えられても、自分のものが取り去られるものではありません。わたしたちは、豊かさや才能、美しさ、祝福の多さを競っているわけではありません。わたしたちが本当の意味で喜んでいるのは、罪との戦いです…

…人を妬んでも、すねても、けなしたりしても、自分を高めることではなく、人を落としめても、自分のイメージは上がらないということです。ですから、人に優しく接し、神の優しさに感謝しましょう。それが幸せに生きる道です。」(「ぶどう園の労働者たち」31, 32)

ぶどう園の労働者たちのたとえから生徒が学んだ真理についての、あなたの証を述べてください。

ホワイトボードに次の言葉を書きます。クラスノートか聖典学習帳にその言葉を書き込んで完成させる時間を生徒に与えます— このたとえから学んだ事柄に基づいて、わたしは _____ をします。

十分に時間を与えてから、クラスで発表してもよいと感じる生徒数人に、書いたことを分かち合ってもらいます。

次の単元 (マタイ 21:1 – 26:30)

生徒が次の単元に備えられるように、どうしたら主の再臨に自分自身を最もよく備えられるのかを考えるように言います。イエス・キリストが 10 人のおとめ、タラント、羊とやぎのたとえ話を

されたときに、どのような真理が教えられていたのでしょうか。救い主はどのような儀式を超越の代わりとして定められたのでしょうか。明日から一週間学習を続ける際に、これらの質問の答えを見つけるよう生徒に言います。

はじめに

救い主のこの世での務めの最後の週、主は律法学者とパリサイ人の偽善をとがめられ、エルサレムの民が主の愛と守りを受け入れないことを嘆き悲しまれました。

教えるための提案

マタイ 23 : 1 – 12

救い主、律法学者とパリサイ人の偽善をとがめられる

生徒たちに、手元の聖典をお互いに見せ合ってもらい、一番大きな聖典を持っている人を見定めてもらいます。

- 一番大きな聖典を持っている人が一番義にかなった人だと誰かが言ったらどうしますか。
- これが個人の義を定めるうえで無益な方法であるのは、どうしてでしょうか。
- 周りの人の義の度合いを外見で判断した場合、どのようなことになるでしょうか。（さまざまな問題が考えられますが、一部の人に偽善的な行動を取らせてしまうことが考えられます。）
- 偽善とはどのようなことでしょうか。（「この言葉は、一般的に、ある人が義にかなっていないのに、そうであるかのように装うことを意味します。」[Bible Dictionary, “Hypocrite” の項] または、信心深い人がそうでないかのように装うのも偽善者とされることがあります。）

救い主のこの世での務めの最後の週に、エルサレムの神殿で主が最後に公に残された言葉の中で、律法学者とパリサイ人の偽善をとがめられたことを説明します。

マタイ 23 章で、周囲の人が偽善的な振る舞いをしているときにどのように対応するか、また自分の生活で偽善に打ち勝つために何ができるかを知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

数人の生徒に、マタイ 23 : 1 – 7 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのような点で律法学者やパリサイ人が偽善的であるかについて救い主が語られたことを見つけてもらいます。2 節の「モーセの座にすわっている」という言葉は、律法学者とパリサイ人が、教義を説き、律法を解釈して、執行する地位に置かれていたことを意味する言葉であると説明します。また、この言葉は、古代の一部の会堂にあった実際の椅子を意味する場合もあり、その椅子は会堂にいる他の誰よりもふさわしいとされた人のみができる椅子でした。

- どのような点で律法学者とパリサイ人は偽善的だったのでしょうか。

できれば経札（聖句箱とも呼ばれる）を身につけている人の写真を見せます。ユダヤ人の間には経札（革でできた小さな箱で、額と腕に縛ってつける）を身につける習慣があったことを説明します。経札の中には、羊皮紙の巻物が収められており、それにはヘブライ語の聖文の一部が書かれていました。ユダヤ人は、経札を身につけて神の戒めに従うことを忘れないよう努めました（申命 6 : 4 – 9 ; 11 : 13 – 21 ; 出エジプト 13 : 5 – 10, 14 – 16 参照）。経札を身につけていた者たちを主がとがめることはありませんでしたが、経札を偽善的に使用していた者や、注目を集めるため、他者より勝って見えるようにするために箱を大きくしていた者を非難されました。

- マタイ 23 : 5 によると、律法学者とパリサイ人は、なぜ経札を幅広につくり、「その衣のふさを大きく」したのでしょうか。
- 他にどのような方法で、彼らは「すべての人に見せる」（5 節）ため、すなわち世の誉れを得ようとしていたのでしょうか。
- マタイ 23 : 3 にある主の弟子への勧告によれば、周りの人が偽善的な振る舞いをするときや義を装うときに、わたしたちにはどのようにすることができるでしょうか。（生徒はさま



経札をつけているユダヤ人男性

ざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけましょう。(周りの人が偽善的に振る舞っているのが分かって、わたしたちは神の律法に従うことを選ぶことができる。)

- 今日わたしたちがこの真理に従うことはなぜ大切でしょうか。

一人の生徒に、マタイ 23:8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が人々に禁じたことを見つけてもらいます。その後、見つけたことを発表してもらいます。

「あなたがたはみな兄弟なのだから」(8 節) という言葉を指摘し、人は皆主から見れば同じ神の子供であることから、自分たちが他人より優れていると思ってはならないと主が教えられたことを説明します。

マタイ 23:9 - 10 の要約として、天の御父がわたしたちの創造主であり、天の御父に遣わされた方、すなわちキリストは真の主であり、わたしたちに命を与えてくださると救い主が証されていることを説明します。(ジョセフ・スミス訳マタイ 23:6 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」]; マタイ 23:7 参照)。

律法学者とパリサイ人は、地位と身分が彼らを偉大な者にすると考えていたことを説明します。一人の生徒に、マタイ 23:11 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主は神の王国において誰がいちばん偉いと言われたのかを見つけてもらいます。

- 11 節によれば、神の王国でいちばん偉い者はどのような人でしょうか。
- 12 節によれば、わたしたちがパリサイ人のように、他人より自分を「高くする」と、どうなってしまうのでしょうか。(生徒が答えた後に、次の原則を確実に理解するようにします。わたしたちが他人より自分を高くしようとすれば、低くされる。「低くされる」とは、評価が下がる、屈辱を受ける、または尊敬されなくなることを意味することを説明します。)
- 11 - 12 節によると、わたしたちが謙遜で、仕える人であれば、わたしたちはどうなるのでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次のような真理を見つけましょう。わたしたちが謙遜で、人に仕えるならば、主がわたしたちを高くされる。)

「高くされる」(12 節) とは、主がわたしたちを引き上げ、主のようになるよう助けてくださることを意味すると説明します。

マタイ 23 章から学んだ事柄によると、謙遜になるとはどういう意味でしょうか。

次の表をホワイトボードに書きます。生徒に、学校や家庭、教会での自分自身の善い働きについて考えてもらいます。善い働きをするときの動機と謙遜になるための努力に基づいて、自分は表のどの部分に当てはまるかを考えてもらいます。



わたしたちは皆、天の御父の子供であることを生徒が思い起こせるよう励ましてください。これから一か月間、毎日誰かに奉仕するための目標を決めるよう勧めるとよいでしょう。その経験について個人の日記帳に書き留めてもらうとよいでしょう。

マタイ 23:13 - 36

イエス・キリスト、律法学者とパリサイ人にわざわいであると断言される

授業の前に、透明ではないカップを3つ用意します。一つ目のカップにはカップの外側に、二つ目のカップにはカップの内側に泥、または油を塗りつけます。三つ目のカップはきれいなままにしておきます。カップを生徒に見せて、何かを飲むならどのカップを選ぶか尋ねてください。生徒にカップの内側も調べさせて、どのカップを使いたい、またその理由を聞きます。

- 汚れたカップはどのように偽善者を表しているでしょうか。

マタイ 23:13 - 36 のまとめとして、救い主は律法学者とパリサイ人を偽善者だと非難されたことを説明します。これらの聖句に目を通して、複数の節で救い主が繰り返し使われた言葉を見つけてもらいます。生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。これらの聖句で「わざわいである」という言葉に印をつけるように提案するとよいでしょう。「わざわい」とは、不幸、苦悩、悲しみを意味することを説明します。

**学習過程における
生徒の役割を
果たせるよう助ける**

霊的な学習には、学習者の努力と選択の自由の行使が求められます。多くの生徒は、聖典から学ぶ努力することに慣れておらず、難しいように思いがちです。しかし、福音学習における自らの役割を理解し、受け入れ、果たせるように教師が助けることができます。生徒が福音学習における自らの役割を積極的に果たすときに、彼らの心は、聖霊の影響を受ける用意ができています。



ホワイトボードに次の参照聖句と質問を書きます。

マタイ 23 : 23 - 24

マタイ 23 : 25 - 26

マタイ 23 : 27 - 28

マタイ 23 : 29 - 36

どのような点で律法学者とパリサイ人は偽善的なのでしょうか。

わたしたちの生活においてこれに類する偽善にはどのようなものがあるのでしょうか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。組になった生徒に、ホワイトボードに書いた参照聖句を一つずつ読んでもらい、その後ホワイトボードの質問に答えてもらいます。

十分な時間を取った後、答えを生徒に発表してもらいます。

一人の生徒に、マタイ 23 : 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人が偽善を克服するために何をすべきか、救い主が教えられたことを見つけてもらいます。

- 救い主はパリサイ人にどのようにするよう言われましたか。
- 救い主によるパリサイ人への教えによると、わたしたちが内面から霊的に清くなるようと努力するときに、どうなりますか。(生徒が答えた後に、次の原則を理解していることを確認します。わたしたちが内面から霊的に清くなるようと努力するとき、それはわたしたちの外見的选择に反映される。)
- 内面から霊的に清くなるためには、どうしなければならないのでしょうか。
- どのようにしてわたしたちの内面の義が、外見的选择に影響するのでしょうか。

生徒に、どのカップが現在の自分自身を最も表しているかを深く考えてもらいます。ここまですてで学んだ原則の証を述べ、生徒が霊的に清くなるための目標を定めるように励まします。

マタイ 23 : 37 - 39

救い主、みもとに来ようとしないエルサレムの民を嘆かれる

ひなを守るめんどりの絵を見せるか、その絵を描きます。

- なぜめんどりは、そのひなを翼の下に集めるのでしょうか。(危険から守るため。めんどりは、ひなを守るためには自らの命をも犠牲にすることを説明します。)

一人の生徒に、マタイ 23 : 37 - 39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がどのように御自身をめんどりにたとえられたのかを見つけてもらいます。

- 救い主は、どのような点でひなを集めるめんどりに似ているのでしょうか。
- 救い主がわたしたちを集めるとは、どういう意味でしょうか。

38 節の「おまえたちの家は見捨てられてしまう」という言葉を指して、「見捨てられる」とは、空になることを意味することを説明します。人々が進んで救い主に集めていただくことができなかったため、保護を受けられないままになってしまいました。この言葉は、イエスの時代または将来エルサレムが滅亡する時代の人々の霊の状態を表していると考えられます。

- イエスがめんどりとひなについて教えられたことから、救い主が集められるときに進んで応じれば、わたしたちはどのようなことを受けるのでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけるでしょう。救い主が集めようとされるときに、わたしたちが進んで応じれば、主の関心と守りを受ける。)
- 主に集めていただきたいと望んでいることを、わたしたちは主にどのように示せるのでしょうか。(生徒たちの回答をホワイトボードに書きます。)

救い主の御前に集まる方法を生徒が理解できるように、一人の生徒に、ヘンリー・B・アイリング管長が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「救い主は幾度となく、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしたちを集めようと言われました。わたしたちが主の御前に行かなければならないとおっしゃっています。……」

そのように行う一つの方法は、主の教会で聖徒たちとともに集まることです。たとえ難しいと感じても、集会に出席してください。そう決意していれば、主は実行する力を得られるよう助けてくださいます。」「[主の力を受けて]『リアホナ』2004年5月号、18)

- 主に集めていただきたいと望んでいることを主に示すために、わたしたちは何ができるか、アイリング管長は言われていますか。

ホワイトボードに書かれた、キリストに集めていただきたいという気持ちを示すための方法のリストを見てもらいます。それらの方法の一つによって救い主の御前に集まることで、どのように主の愛と保護を受けたか分かち合ってもらいます。

生徒が主の愛と保護をこれからも受けられるよう、救い主の御前に集まるために何をするか決めてもらいます。

第27課

ジョセフ・スミス— マタイ, マタイ 24 章

はじめに

イエス・キリストはエルサレムとその神殿の滅亡を預言されました。再臨のしるしを明らかにされ、それに用心して備えるよう忠実な者たちに教えられました。

教師として成長する

天の御父がお喜びになるような方法で教えるために、あなたが成長したいと望み、絶えず努力するならば、主は、あなたが準備するときに靈感を授け、生徒との絆きずなを強め、その努力を大いなるものとされ、御霊によってあなたを祝福されるでしょう。生徒がイエス・キリストの教えと罪を理解し、それに頼るよう導く方法で教えようと努力するときに、主は、どうしたらあなたが成長できるかがわかるようにしてくださいます。



教えるための提案

ジョセフ・スミス—マタイ 1:1–20

イエス, エルサレムと神殿の滅亡を預言される

「再臨」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』66番。LDS.orgも参照)。イエス・キリストの再臨に関して生徒たちが抱いている疑問について深く考え、その疑問をクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。この時点でその疑問に答えることはしないでください。ジョセフ・スミス—マタイを研究しながら、その答えを見つけるよう生徒に伝えます。

ジョセフ・スミス—マタイとは、マタイ 23:39 とマタイ 24 章のジョセフ・スミス訳であることを説明します。ジョセフ・スミス—マタイ 1:1–3 のまとめとして、エルサレムの神殿でイエス・キリストが教えられたときに、弟子たちは主が再び地上に戻られると理解したことを説明してください。それから、イエスが神殿から出て行かれると、弟子たちが近寄ってきて、いつ神殿が崩されるのかを知りたがりました。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス—マタイ 1:4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちがオリブ山でイエスに尋ねた二つの質問を見つけてもらいます。見つけた答えを生徒に発表してもらい、次の質問をホワイトボードに書きます。

1. エルサレムと神殿が滅亡するのはいつですか。
2. イエス・キリストの再臨と悪人の滅亡のしるしは何ですか。

最初の質問については、5–21 節で、二番目の質問については 21–55 節でイエス・キリストが答えられていることを説明します。生徒に二人一組になってもらいます。二人でジョセフ・スミス—マタイ 1:5–12 を声に出して読み、エルサレムと神殿の滅亡に関連のあるしるしを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- イエスはそのとき弟子たちが苦しみに遭うと言われましたが、「確固としていて打ち負かされない」者については何と言われましたか(11 節)。
- 11 節からどのような原則を学べますか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけられるでしょう。確固としていて打ち負かされなければ、わたしたちは救われる。生徒自身の言葉でこの原則をホワイトボードに書きます。)
- 確固として打ち負かされないとは、どのような意味でしょうか。(「確固とする」とは、動かないこと、頑丈であること、揺るぎないこと、負けないことを意味します。)

生徒が 11 節にある「救われる」という言葉の意味を理解できるように、わたしたちが確固としていれば、苦難から守られないことがあっても、最終的には神の王国に救われるということを説明します。

一人の生徒に、次の段落を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の勧告に従うことに確固としていた人々が、どのようにして滅亡から救われたかを聞きとってもらいます。

ジョセフ・スミス—マタイ 1:13–18 では、イエスは、エルサレムがやがて攻撃を受け、滅ぼされるので、弟子たちは山へ逃げる備えをして、家に戻らないように警告されたことが分かります。それらの日の艱難は、イスラエルがかつて見たことのないほどの最もひどいものになると主は預言されました。これらの言葉をイエスが語られてからおよそ 40 年後の紀元 70 年、ローマ帝国はイスラエルを包囲し、100 万人以上のユダヤ人が殺されました。救い主がすでに預言されていたように、神殿は崩され、石一つでも崩されずに、他の石の上に残る

ことはありませんでした(マタイ 24:2 参照)。しかし、イエスの警告を心に留めていた人々は、エルサレムの北東およそ 50 マイルの位置にあるペラという町に安全に避難していました(Bible Dictionary, “Pella” の項参照)。

- このユダヤ人の経験は、救い主の言葉に確固として従うことの重要性をどのように示していますか。
- 確固として戒めを守ることにより、祝福を受けたのはどのようなときですか。

ジョセフ・スミスーマタイ 1:19 – 20 をまとめとして、ユダヤ人は大きな苦難を受けますが、神と交わした聖約のために彼らは守られることを説明します。

ジョセフ・スミスーマタイ 1:21 – 37

イエス、再臨のしるしを預言される

救い主は、イスラエル滅亡を警告するしるしについて説かれただけでなく、主の再臨のしるしを預言することで、弟子からの二番目の質問に答えられたことを説明します。

一人の生徒に、ジョセフ・スミスーマタイ 1:21 – 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がなぜ再臨のしるしを明らかにされたのかを見つけてもらいます。

- イエス・キリストの弟子たちが主の再臨を知らせるしるしを知ることは、なぜ有益なのでしょう。

一人の生徒に、ジョセフ・スミスーマタイ 1:24 – 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の時に、救い主がどのように御姿を現されるかを見つけてもらいます。

- 再臨の時、救い主はどのように御姿を現されるのでしょうか。
- これを知っておくことは、選民が欺かれないようにするうえでどのように役立つのでしょうか。

生徒にジョセフ・スミスーマタイ 1:27 – 31 を黙読してもらい、再臨の前に起こるしるしを見つけてもらいます。

- 再臨の前に人々はどのような苦難に直面するのでしょうか。
- 27 節と 31 節によると、再臨の前に起こる希望のしるしにはどのようなものがあるのでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で答えるでしょうが、次のような真理を見つけるはずです。イエス・キリストの再臨の前には、主の選民が集められ、福音が全世界で宣べ伝えられる。)
- この預言が成就しつつあることは、どのようなことで分かるのでしょうか。

ジョセフ・スミスーマタイ 1:32 – 36 には、再臨に関連するその他のしるしが書かれていることを説明します。

末日には、偽キリストたちや偽預言者たちが起こって、「真の選民をも惑わそう」とすることを主が警告されたことを、生徒に思い出してもらいます(22 節)。一人の生徒に、ジョセフ・スミスーマタイ 1:37 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どうしたら選民が惑わされずにいられるかを見つけてもらいます。

- 選民は、惑わされるのをどのように防ぐことができるのでしょうか。
- この聖句からどのような原則を学べるのでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけるでしょう。主の御言葉を大切に蓄えるならば、惑わされることはない。この原則をホワイトボードに書きます。)

生徒がこの原則を理解できるように、一人の生徒に十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を読んでもらいます。



「わたしがトロント [カナダ] で伝道部会長をしていた時に一緒に奉仕した素晴らしい宣教師の一人が、数年後にわたしを訪ねてきました。わたしは彼に『長老、わたしに何か御用ですか』と尋ねました

『会長、わたしは証を失いそうです』と、彼は言いました。

わたしは信じられませんでした。どうしてそんなことになったのか、わたしは尋ねました。

『わたしは生まれて初めて反モルモンの本を数冊読みました。』と彼は言いました。『わたしには幾つかの疑問があるのですが、誰も答えてくれません。どうしていいかわかりません。証を失いそうなのです。』 (“When Shall These Things Be?” *Ensign*, 1996 年 12 月号, 60)

生徒自身または友人が、この帰還宣教師と同じようなことを経験したことがあるか考えてもらいます。

- あなたならこのような状況でどのような助言をしますか。それはなぜですか。
一人の生徒に、バラード長老の話の続きを声に出して読んでもらいます。

「わたしがどんな疑問なのかを尋ねると、彼は話してくれました。それはよくある反モルモンによる疑問でしたが、良い答えを出せるように、資料を集める時間が少し必要だと思ったので、10日後にまた会う約束を作り、そのときに彼の疑問に全て答えることを約束しました。彼が立ち去ろうとした時、わたしは彼を呼び止めて言いました。

『長老、今日ここで幾つかの疑問についてわたしに尋ねましたね。そこでわたしも一つお願いがあります』と言いました。

『なんですか、会長。』

『最後にモルモン書を読んだのはいつですか。』と、わたしは尋ねました。

彼は視線を落としました。しばらく床を見つめていました。それからわたしの方を見て、『かなり前です、会長』と、彼は打ち明けてくれました。

『わかりました』とわたしは言いました。『あなたはわたしに課題を出したのですから、わたしからも課題を出さなければ、それは不公平というものでしょう。今から次の約束の日まで毎日少なくとも一時間、モルモン書を読むことを約束してください。』彼は同意してくれました。

10日後彼はわたしのオフィスに戻ってきました。わたしも準備ができていました。彼からの質問に答えるために資料を取り出すと、彼はわたしを止めて言いました。

『会長、その必要はありません。』それから彼は次のように話してくれました。『わたしは、モルモン書が真実の書物であることを知っています。ジョセフ・スミスが預言者であることを知っています。』

『そうですか、それは素晴らしい』と、わたしは言いました。『でもとにかく、あなたの疑問の答えを聞いてもらいますよ。これのためにずいぶん時間をかけたのですから、ちょっとそこに掛けて聞いてください。』

わたしは全ての彼の疑問に答えてから尋ねました。『長老、今回の経験から何が分かりましたか。』

『主のことに時間を費やすことの大切さです。』と、彼は言いました。 (“When Shall These Things Be?” 60)

- この経験はわたしたちが37節で見つけた原則をどのように表しているでしょうか。
- 主の言葉を大切に蓄えることによって、どのように祝福を受けましたか。

ジョセフ・スミス—マタイ 1:38 – 55

イエス、御自身の再臨に備えるよう弟子たちを教えられる

イエスはたとえを通じて、御言葉を大切に蓄え、御自身の再臨に備える方法を弟子たちに教えられました。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組の一人の生徒に、ジョセフ・スミス—マタイ 1:38 – 46 を黙読してもらい、他方の生徒には、ジョセフ・スミス—マタイ 1:47 – 54 を黙読してもらいます。それぞれに割り当てられた聖句の中で、教義と原則を見つけて書きだしてもらいます。

十分に時間を与えた後で、生徒たちそれぞれが読んだたとえをパートナーどうしで簡潔に述べあってもらい、次の質問について話し合ってもらいます。

- どのような真理を見つけることができましたか。
- あなたが読んだ聖句の中で、救い主はその真理をどのように説明されたでしょうか。

何人かの生徒に見つけた真理を発表してもらいます。次のような答えが考えられます。主の再臨がいつ起こるかは天の御父のみが知ることであり、再臨のしるしに注意しながら、主の戒めに従えば、救い主の再臨に備えることができる。

ジョセフ・スミス—マタイで見つけた真理をもう一度考えて、それらの真理は、生徒自身がレッスンの最初に書き出した疑問に答えるために、どのような助けとなるか考えてもらいます。学んだ真理について証してもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます（できれば、プリントにして生徒に配ります）。



「主の再臨が明日だったらどうですか。早すぎる死や, 予期せぬ主の再臨によって, 明日主にお会いすると分かったら, わたしたちは今日何をするでしょう。何を告白するでしょう。どんな習慣を断つでしょう。どのような問題を解決するでしょう。どのような赦しの手を差し伸べるでしょう。どのような証をするでしょう。」

主の再臨のときにそうするのであれば, なぜ今しないのでしょうか。」「(「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号, 8-9)

生徒に, 次の質問に対する答えを書いてもらいます-明日主にお会いすると分かっていたら, わたしは今日何を変えるでしょう。書いたことを自分自身の生活にあてはめるように促します。

マタイ 25 : 1 - 13

はじめに

イエスは、オリブ山で弟子たちにひそかに再臨について教えられたときに、10人のおとめのたとえを教えられました。

物語を使って注意を引き、理解を深める

物語は生徒の注意を引きつけ、あたかも自分自身の経験のように福音を理解するのを助けることができます。福音の教義を現代の状況や、聖文の中の状況で説明することによって、物語はその原則が生徒の生活とどのような関連があるのかを理解するのを助け、生徒はその原則を自分たちに当てはめようとしています。

教えるための提案

マタイ 25 : 1 - 13

イエス、10人のおとめのたとえを教えられる

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が語られた次の話を聞いてもらいます。証会で個人の経験を分かち合った、若い帰還宣教師の話です。生徒にこの話の帰還宣教師が自分だったらどう感じるかを想像してもらいます。



「彼は、18歳で長老に聖任された直後のデートから帰宅したときのことを語りました。自分が誇りにできないこのデートで、何かがあったのです。彼は詳しくは話しませんでした。また、公の場でそうするべきではありません。その日にどのような出来事があったのか、わたしは知りません。しかし、彼にとっては大きなことで、それは彼の霊と自尊心に影響を及ぼしたのです。」

彼が自宅の車庫近くでしばらく車の中にいて、思いにふけり、起こった出来事について心底悲しい気持ちを感じていると、教会員でない母親が、半狂乱の状態からまっすぐに彼の車に向かって走って来ました。そしてすぐさま、この若者の弟が家の中で倒れて頭をひどく打ち、発作かけいれんのような症状を起こしていると告げたのです。教会員でない父親がすぐに救急車を呼びましたが、どう急いでも助けが来るまでに時間はかかりました。

『来て、何とかして』と、母親は叫びました。『こんなときにあなたの教会では何かすることがあるんじゃないの。神権があるでしょう。来て、何とかしてよ。』…

…彼が心から愛していた人にとって自分の信仰と力が必要であったその夜に、この若者は、求めに応じられませんでした。自分の心の葛藤と、それが何であれ、自分は妥協してしまつたという気持ちのために、彼は主の前に行って必要な祝福を求めることができなかつたのです。」「(「ふさわしいという自信」『リアホナ』2014年4月、58-59)

• 自分がこの若い男性と同じ状況にいたら、どのようなことを考えるでしょうか。常に備えていることが、なぜそれほど大切なのでしょう。

「10人のおとめのたとえ」(『福音の視覚資料集』53番。LDS.orgも参照)の絵を見せます。イエス・キリストが弟子とともにオリブ山におられたときに、再臨について教えられたことを生徒に思い出してもらいます(マタイ24章参照)。そこでイエスは、再臨に備える方法について、10人のおとめのたとえをお話しになりました。

一人の生徒に、マタイ25:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、たとえの主要な部分を見つけてもらいます。生徒に分かったことを発表してもらいます。ホワイトボードに次の言葉を書きます。

花婿


思慮深いおとめたちと思慮の浅いおとめたち

あかりと油

ユダヤ人の婚礼の慣習では、花婿は親しい友人に付き添われて、夜に花嫁の家に行き婚礼を行うことを説明します。儀式の後、婚礼の宴が花婿の家で始まります。婚礼に参列する招待客は、あかりやたいまつを持参し、自分たちが婚礼の参列者であることを表すとともに結婚式に華やかさと美しさを添えます。



数人の生徒に、マタイ 25:5-13 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、5人の思慮深い女たちと5人の思慮の浅い女たちが取った行動を見つけてもらいます。

 生徒にマタイ 25:5-13 を声に出して読んでもらうかわりに、10人のおとめのたとえを説明する「思慮深いおとめたち」のビデオの一部（最初から5分46秒まで）を視聴することもできます。このビデオは、「教義と聖約および教会歴史リソース DVD」または LDS.org にあります。ビデオの視聴を始める前に、生徒たちに5人の思慮深い女たちと5人の思慮の浅い女たちが取った行動を見つけてもらいます。

- 5人の思慮深い女たちは何をしましたか。5人の思慮の浅い女たちは何をしましたか。

ホワイトボードに書いたたとえ話の構成要素を参考にします。各要素が何を意味しているか思いついたことを生徒たちに、発表してもらいます。

ホワイトボードに書いた「花婿」の横に「イエス・キリスト」と書きます。「花婿の来るのがおくれたので」(5節)と「夜中に……と呼ぶ声があった」(6節)という言葉は、イエス・キリストの再臨を指していることを説明します。

- これらの聖句から、イエス・キリストの再臨についてどのようなことを学ぶことができますか。

婚宴に招かれた思慮深い女たちと思慮の浅い女たちは、両方とも、教会員を指していることを説明します(ダリン・H・オークス、「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号, 8参照)。ホワイトボードの「思慮深いおとめたちと思慮の浅いおとめたち」の横に「教会員」と書きます。

マタイ 25:8-9 を読み返して、なぜ思慮深いおとめたちは、思慮の浅いおとめたちに油を与えなかったのかを考えてもらいます。一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長が述べた次の言葉を読んでもらいます。クラス全員に、油は何を表しているか、なぜ油を分けることができなかったかについて聞きとってもらいます。



「これは利己心や不親切とは異なります。道を照らし、闇を明るくするのに必要なこの類の油は分けることのできないものです。什分の一の原則に対する従順な態度を分かち合うことができるでしょうか。義にかなった生活を送って得た心の平安、蓄積した知識を分かち合うことができるでしょうか。信仰や証をどうして分け与えることができるでしょうか。また態度や純潔、伝道の経験を分け与えられるでしょうか。神殿で得た特権を分け与えられるでしょうか。この種の油は自分で得なくてはなりません。……

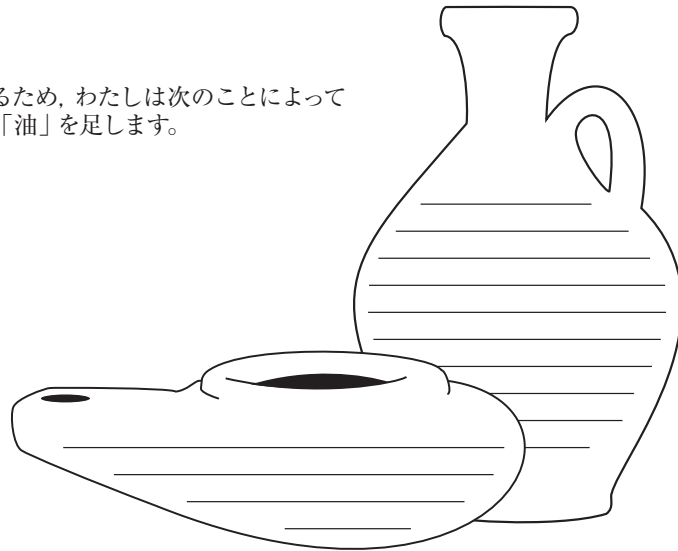
たとえの中に出てくる油は店に行けば買うことができました。しかしわたしたちの生活における準備という油は、義にかなった生活を送ることによって一滴一滴蓄えていくものです。……一つ一つの献身と従順の行いが、油の一滴一滴として蓄えられていくのです。」(Faith Precedes the Miracle [1972年], 255-256)

- たとえの中の油は何を表しているでしょうか。(ホワイトボードの「あかりと油」の横に、「霊的な備え、証、信仰、改心、経験」など、生徒の答えを書き出します。油という象徴にさらに洞察を加えるために、教義と聖約 45:56-57 を読み、マタイ 25:8 と相互参照するよう生徒に提案します。)
- 霊的な備えを借りることについて、このたとえやキンボール大管長の言葉から、どのような真理を学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きまします。霊的な備えを他の人から借りることはできない。)
- 再臨に備える方法について、このたとえからどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次のような真理を見つけられるようにします。日々の義にかなった行いを通して証を強め改心することにより、わたしたちは再臨に備えます。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

添付されている配布資料のコピーを生徒に配ります。生徒が霊的な備えの「油」を確保できる方法を、配布資料に書き出してもらいます。

主の再臨に 備える

再臨に備えるため、わたしは次のことによって「あかり」に「油」を足します。



十分な時間を取った後、何人かの生徒に考えたことを分かち合ってもらいます。

▶ 義になかった生活を通じて油を一滴ずつ蓄えることができるその他の方法を生徒が理解できるように、「思慮深いおとめたち」のビデオの残り部分（5分46秒–8分44秒）を見せてもよいでしょう。ビデオを見ながら、思い浮かんだことをリストに追加してもらいます。

一人の生徒に、マタイ 25:10–12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、花婿が思慮の浅いおとめに言った言葉を見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

ジョセフ・スミス訳マタイ 25:11 では、花婿が「あなたがたはわたしを知らない」と言ったのが分かることを説明します。

- この「あなたがたはわたしを知らない」という言葉は、5人の思慮の浅いおとめについて、わたしたちに何を伝えているのでしょうか。「主を知っている」ということは、単に「主について知っている」ということとどのように違うのでしょうか。
- 主の再臨に備えるために、わたしたちが行わなければならないことについて、この聖句からどのようなことを学ぶことができますか。（生徒が次の原則を見つけられるよう助けます。主の再臨に備え、主のみもとにとどまれるようふさわしくなるためには、主を知るようにならなければならない。）
- 最近あなたはどのような形で、救い主をさらに知るようになりましたか。

このレッスンの始めに話した、必要なときに備えができていなかった若い神権者の話を生徒に思い出してもらいます。この若い男性は、通りを走って下り、同じワードの年配の兄弟の家に駆け込んだことを説明します。その年配の兄弟は、救急医療士が到着するまで、弟の症状が安定するように祝福を与えました。一人の生徒に、ホランド長老が話された若い男性の証を読んでもらいます。



『その夜にわたしが直面したような状況に直面したことのない人には、自分が持っている神権を使うのにふさわしくないという気持ちと、そのことでわたしが感じた恥ずかしさと悲しみは決して分らないでしょう。それはわたしにとって、心の痛みさえも伴う思い出です。なぜなら、わたしを必要としたのが弟であり、こんなに心配し、わたしに多くのことを期待する権利を有していたのが、教会員でない愛する両親だったからです。しかし今日、わたしは皆さんの前に立って、約束できます』と、彼は言いました。『わたしは完全ではありません。しかし、その夜以降、必要なときに自信をもって主の前に行って主の助けを求められないようなことを、わたしは決して行っていません。個人のふさわしさを保つことは、わたしたちが住んでいるこの世界における戦いです。しかし、わたしはその戦いに勝利を取っています。わたしはかつての生活で、罪悪感にさいなまれました。もし自分が神権を使って何でも行えるなら、二

度とそのような思いをするつもりはありません。もちろん、今のわたしは神権を使って全てのことを行えます。』(「ふさわしいという自信」59)

生徒が主の再臨に靈的に備え、主のみもとにとどまるのにふさわしくあるためには何をやる必要があるか考えてもらいます。配付資料に書き出した行いに1つか2つ丸をつけて、生徒が靈的な備えを高めることができるように目標を立ててもらいます。自分の目標を思いだせるように、その配付資料を家に持ち帰ってもらいます。

マタイ 25 : 14 - 46

はじめに

イエス・キリストは、オリブ山で弟子たちに御自身の再臨について教えられたときに、タラントのたとえを話されました。

また、イエスが再び来られるときに、義人と悪人を分けられることも説明されました。

教えるための提案

マタイ 25 : 14 - 30

イエス・キリスト、弟子たちにタラントのたとえを教えられる

レッスンは始まる前に、5枚の硬貨を教室の端に置き、もう一方の端に2枚の硬貨を置きます。他に8枚の硬貨を自分のポケットに入れておきます。

レッスンを始めるにあたり、イエス・キリストが再臨に関する教えの一部として弟子たちに教えられたたとえを演じてもらうために、三人の生徒に前に来てもらいます。

一人の生徒に、マタイ 25 : 14 - 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それぞれの僕が何をもらったか、またそれを使って何をしたかを見つけてもらいます。

- 主人は、僕たちそれぞれに何を与えましたか。（このたとえの中のタラントとは、多額のお金であることを説明します。ポケットから8枚の硬貨を取り出し、5枚の硬貨を一人の生徒に、2枚を二番目の生徒に、1枚を三番目の生徒に渡します。）
- それぞれの僕は、与えられたお金で何をしましたか。

5枚の硬貨を渡された生徒に、さらに5枚の硬貨を教室の端から取ってきてもらいます。2枚の硬貨を渡された生徒に、さらに2枚の硬貨を教室のもう一方の端から取ってきてもらいます。1枚の硬貨を渡された生徒には、その硬貨を隠すか、地中に埋めるふりをしてもらいます。

三人の生徒から硬貨を全て返してもらい、着席してもらいます。たとえの次の要素をホワイトボードに書きます（括弧内の説明は書かないでください）。

僕の主人（主イエス・キリスト）

僕たち（主の弟子たち）

タラント（主が弟子たちに与える才能や能力）

- たとえのそれぞれの要素は何を意味しているのでしょうか。（わたしたちが現世で持っている才能や能力の一部は、前世で受けて生まれたものであることを説明します。それらの才能と、その他の才能を現世で引き続き伸ばすこともできます。）
- マタイ 25 : 15 によると、なぜ主人はそれぞれの僕に異なる額のお金を与えたのでしょうか。（生徒が答えた後に、「それぞれの能力に応じて」という言葉は、神はわたしたち各自の状況に応じて必要な賜物や能力を与えてくださるということを指摘します。）

次の質問を声に出して読み、それらについて生徒に考えてもらいます。

- それぞれの僕（5枚のタラントを与えられた僕、2枚の僕、1枚の僕）のうち、最も自分に似ていると感じるのはどの僕でしょうか。それはなぜでしょうか。
- 一人の生徒に、マタイ 25 : 19 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主人が5枚のタラントを渡した僕に言った言葉を見つけてもらいます。

- 主人は最初の僕に何と言われましたか。

「多くのものを管理」する者とされること、「主人と一緒に喜ぶ」こと（マタイ 25 : 21）は、わたしたちが神のような潜在能力を十分発揮させることと、天の御父とともに住む永遠の命を授かることを意味すると説明します。

- 最初の僕の経験から、どのような原則を学ぶことができますか。（次にあげるのは、生徒が見つけたと思われる一つの原則です。わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使うなら、神のような潜在能力を十分発揮して、永遠の命を授かることができる。）

- わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使う方法には、どんなものがあるでしょうか。

最初の僕が5枚渡されているのに自分は2枚しか渡されないことがわかったときに、二番目の僕は不平を言うことができたことを指摘します。しかし、その僕は与えられたタラントを忠実に使うことにしました。

一人の生徒に、マタイ25:22-23を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、2枚のタラントを受け取った僕に主人が言った言葉を見つけてもらいます。

- 主人は2枚のタラントを受け取った僕に何と言いましたか。
- 主人は最初の二人の僕に異なる金額を渡したにもかかわらず、二人とも主人から同じことを言われたのはなぜだと思いますか。
- 2枚のタラントを渡された僕の経験から、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、おそらく次のような真理を見つけられるでしょう。わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使うなら、授かった物の量やそれが何であるかにかかわらず、主は祝福してください。生徒の言葉を借りて、この原則をホワイトボードに書きます。)

周りの誰かが、自分より多くまたはより優れた賜物や能力を与えられていると感じたことがあるかどうか、クラス全員に考えてもらいます。ホワイトボードに今書いたばかりの原則に注目してもらいます。

- 周りの誰かが、自分より多くのまたはより優れた賜物や能力を授かっていると感じるたびに、この原則を覚えていることはどのような助けとなりますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「才能の伸びの度合いは、個人の成長の度合いを判断する最高の尺度です。……自分と人の祝福を比較すれば、喜びから遠ざかる結果になるのは、まず間違いありません。わたしたちは感謝する心と嫉妬心を同時に持ち合わせることはできません。主の御霊を受け、また喜びや幸せを味わいたいと心から望むならば、わたしたちはまず、自分自身が受けている祝福を喜び、感謝すべきです。」(「喜びなさい」『聖徒の道』1997年1月号, 34)

- わたしたちが主から授かった賜物や能力をどのように認識できるでしょうか。

生徒一人一人に紙を配り、一番上に生徒の名前を書いてもらいます。その紙を隣りに座っている生徒に渡してもらいます。紙に書かれた名前の人が持つ賜物または能力を書き出してもらいます。紙を引き続き隣りの人に回して、紙に書いてある名前の人について、生徒たちが気づいた賜物や能力を書いてもらいます。

数分後に、最初に紙に名前を書いた生徒に紙を戻してもらいます。その紙の持ち主について、周りの生徒が書いてくれた賜物や能力に目を通す時間を与えます。その後、次の質問に対する答えをその紙に書いてもらいます。

- 主の業を進めるために、あなたの賜物を使う一つの方法にはどんなものがありますか。
タラントのたとえには、わたしたちが授かった賜物や能力についての警告が含まれていることを指摘します。数人の生徒に、マタイ25:24-30を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、タラントを地の中に隠した僕に対して主人がどう答えたかを見つけてもらいます。27節を読んでから、「利子」とは、お金を投資したり貸したりすることによって得られる収入を意味することを(必要であれば)説明します。
- なぜ最後の僕は、タラントを隠したのでしょうか。主人はこの僕が行ったことにどのように反応したのでしょうか。
- 主人のお金を少しも減らしていないのに、その僕の行動の何が問題なのでしょうか。
- この僕が2枚のタラントを持ち帰っていたら、主人はどのように反応したと思いますか。
- 主人が僕に与えたタラントはどうなりましたか。(僕から取り上げられ、別の僕に与えられました。)

一人の生徒に、七十人のスターリング・W・シル長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、良いことのためにわたしたちが賜物や能力を使わないと、なぜそれを失うことになるのかを聞き取ってもらいます。

愛と敬意と目的意識に満ちた学習環境を作る

生徒が教師と周りの生徒から自分が愛され、尊重されていることが分かる、もっと喜んでクラスに学びに来るようになるでしょう。自分が受け入れられている、愛されていると感じることが、生徒の心を柔和にし、恐れを押さえ、自分の考え、経験、気持ちをクラスで分かち合うのに必要な、望みと自信を持てるようになっていきます。



「[3番目の僕の]失敗は、彼が何か過ちを犯したということではなく、恐れを感じていたために、何の行動も起こさなかったことです。しかしまさしくそれが、わたしたちへの祝福の多くが失われている理由なのです。……

……ある人が腕の筋肉を使うのをやめたとき、その腕の筋力は喪失します。……わたしたちが能力を向上しなければ、その能力を失うのです。過去の時代の人々が、神権を尊ばなかったとき、神権は取り上げられてしまいました。……地中に埋められていては、霊的、精神的、肉体的ないずれの才能も伸ばすことはできません。」(The Law of the Harvest [1963年], 375)

- タラントを地中に埋めた僕のお話から、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒はさまざまな原則を挙げるのが予想されますが、必ず次の真理を見つけるようにします。人は恐れから、主によって与えられた賜物や能力を使わなくなってしまうことがある。善を行うために自分の霊的な賜物を伸ばしたり使ったりしなければ、それらを失ってしまうことになる。)
- 主によって与えられた賜物や能力を使って善を行うのを、恐れはどのような形で妨げるでしょうか。

生徒たちに、今話し合った原則についての証を述べてもらいます。主の業を進めるために、賜物と能力を使うよう生徒を励まします。

マタイ 25 : 31 - 46

救い主、再臨の時に義人と悪人がより分けられることを預言される

「再臨」の絵を見せませす(『福音の視覚資料集』66番。LDS.orgも参照)。一人の生徒に、マタイ 25 : 31 - 33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の後救い主が地上の民をどうされるかを見つけてもらいます。

- 再臨の後、主は地上の民をどうなさるのでしょうか。
- 邪悪な者たちを表すものとして、主はどの動物を用いられましたか。義になかった者たちはどうですか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。半分の組に、マタイ 25 : 34 - 40 を声に出して読んでもらい、誰が「羊」かを、主が見分けられる方法を見つけてもらいます(マタイ 25 : 32 - 33)。残りの半分の組には、マタイ 25 : 41 - 46 を声に出して読んでもらい、誰が「やぎ」かを、主が見分けられる方法を見つけてもらいます(マタイ 25 : 32 - 33)。

十分な時間を取った後、各組に、違う聖句を読んだ別の組と一緒にグループを作ってもらいます。生徒たちに読んだ事柄をまとめてもらい、それぞれのグループで次の質問について話し合ってもらいます。

- 主は、主を愛する者たち(羊)とそうでない者たち(やぎ)をどのように見分けることができになるのでしょうか。
- これらの聖句からどのような原則を学べるでしょうか。

各グループから生徒一人を選び、そのグループが見つけた原則をホワイトボードに書いてもらいます。生徒は次のような内容の原則を見つけるでしょう。周囲の人を愛し、仕えるときに、わたしたちは主への愛を示す。周囲の人が必要としていることを無視するならば、主を無視することになる。

生徒がこれらの原則を理解できるように、次のような質問をします。

- 主の右にいるような人は、妹から宿題を助けて欲しいと言われたらどうするでしょうか。
- 主の左にいるような人は、クラスメートが廊下で本を落としてしまった時にどうするでしょうか。
- このような原則を理解しておくことは、周りの人との関係を良くするのにどのように役立つでしょうか。

過去 24 時間で周りの人たちにどのように接してきたか生徒に考えてもらいます。今後同じような状況が起きたときに、違う行動を取るか考えてもらいます。周りの人にもっと愛を示し、仕える方法を考えてもらい、その方法に従って行動を起こすよう生徒を促します。次回会うときにこれらのことを生徒ともう一度話し合い、よい経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。



教えるためのその他のアイデア

マタイ 25:35 - 40 ビデオプレゼンテーション「コート」

マタイ 25:35 - 40 にある、助けを必要としている人を助けるという概念を説明するために、ヒーバー・J・グラント大管

長の幼少時代の出来事を描いたビデオ「コート」(2分8秒)を見せるとよいでしょう。このビデオは LDS.org で入手できます。生徒に、ビデオを見せて、その中の男の子は誰に仕えていたかを見つけてもらいます。

マタイ 26 : 1 – 30

はじめに

過越の二日前、ユダはイエスを殺そうとしていたユダヤ人の指導者たちと陰謀を企てました。過越の夜に、イエスは聖餐を定められました。

生徒を念頭に置いて、各レッスンを準備する

教える準備をするときに、レッスンで教える教義や原則を、自分は生徒にどのように応用してもらいたいのかを考えます。トーマス・S・モンソン大管長は「福音を教えることの目的は……クラスの生徒の頭に『情報を注ぎ込む』ことではなく……一人一人が生きた福音の原則について考え、感じ、そして何かを行うよう靈感を与えること」であることを、福音を教える教師たちに思い起こさせました。(大会報告、1970年10月号、107)

教えるための提案

マタイ 26 : 1 – 16

ユダ、イエスを殺そうとするユダヤ人の指導者たちと陰謀を企てる

レッスンの前に、テーブルにテーブルクロスをかけて、その上に平たいパン（またはクラッカー）をいくつかとコップを1つ置きます。開会のお祈りの後、キリストの時代の過越の季節には、このような物が、他の物と一緒に、ユダヤ人のテーブルの上に置かれていたことを説明します。

- 過越の祭の目的は何だったのでしょうか。（過越とは、イスラエルの子らに、滅ぼす天使が自分たちの家を過ぎ越して、エジプトの初子を撃たれたことを思い起こさせるためにモーセの時代に定められたものです〔出エジプト 12 : 21 – 28 ; 13 : 14 – 15 参照〕。過越の一環として、イスラエルの民は子羊をほふり、その血を戸口の柱につけました。この子羊はメシヤ降誕を象徴しており、その贖いの犠牲は人類を死と罪から救うものでした〔『聖句ガイド』「過越」、scriptures.lds.org 参照〕。

一人の生徒に、マタイ 26 : 1 – 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが過越の後に何が起こると言われたかを見つけてもらいます。

- イエスは過越の後に何が起こると言われましたか。

一人の生徒に、マタイ 26 : 3 – 5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、このときイエスを殺す計画を企てていたのは誰かを見つけてもらいます。

- 律法学者と祭司長が、イエスを殺すのを過越の後まで待つことにしたのはなぜですか。

マタイ 26 : 6 – 13 のまとめとして、イエスがベタニアにおられるときに、一人の女がイエスに近寄って、高価な香油をイエスの頭に注ぎかけ、イエスに迫っている死と葬りを知らせたことを説明します。十二使徒の一人であり、会計係であったユダを含む一部の弟子たちは、香油を売って、貧しい人たちに施すことができたと憤って言いました。しかし、ユダは貧しい人々に対する思いやりがあったからではなく、自分のためにそのお金を手に入れたかった盗人だったのです（ヨハネ 12 : 4 – 6 参照）。（注—ベタニアでイエスに香油が注がれたことについては、マルコ 11 – 14 章のレッスンでさらに詳細に話し合います。）

一人の生徒に、マタイ 26 : 14 – 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、不平を言ったユダを救い主がたしなめた後、ユダがどうしたかを見つけてもらいます。

- ユダはどうしましたか。（ユダは祭司長たちと陰謀を企み、イエスの居場所を見つけて、捕らえるのを助けた。）
- イエスを祭司長に引き渡すのに、ユダはいくら受け取りましたか。

「モーセの律法によれば、銀 30 シケルは、奴隷を死なせた場合にその主人に支払われる賠償金の額でした（出エジプト 21 : 32 参照）。……イエスへの裏切りに支払われた金額は、ユダと祭司長がいかに救い主を軽視していたかを表している」たかを説明します。（New Testament Student Manual〔教会教育システム手引き、2014年〕、81）またこれは、ユダによる救い主への裏切りについての旧約聖書の預言を成就させました（ゼカリヤ 11 : 12 参照）。

マタイ 26 : 17 - 25

イエスと弟子たち、過越の食事をされる

鏡を見せて、次の質問をします。

- 鏡はどのような点でわたしたちの生活に役立つでしょうか。

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の話を読んでもらう。



「わたしたちはしばしば、自分の心の中を深く掘り下げて、自分の弱さ、限界、不安を直視するのを避けようとしています。……

しかし、自分をしっかり見詰めることが、霊的な成長と健康にとって不可欠です。……

わたしは皆さんにお勧めします。聖文と総大会で述べられる話を、自分を吟味するために用いる有効な鏡としてください。」(「主よ、それはわたしですか」『リアホナ』2014年11月号、58)

- 聖文や総大会でのお話は、どうして鏡のようだとすることができるでしょうか。

生徒が、マタイ 26 : 17 - 25 を学習するとき、生徒自身の弱点を認識し、それを克服する助けとなる原則を見つけてもらいます。

マタイ 26 : 17 - 19 のまとめとして、イエスが過越の食事のためにエルサレムに部屋を一つ確保するよう弟子たちに言われたことを説明します。

一人の生徒に、マタイ 26 : 20 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストが過越の食事中に使徒たちに言われたことを見つけてもらいます。

- イエスは、使徒たちに何と言われましたか。
- あなたが使徒の一人だったとしたら、そのとき何を考えていたと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 26 : 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの言葉への使徒たちの反応を見つけてもらいます。

- 使徒たちはどのような質問をしましたか。
- 「主よ、まさか、わたしではないでしょう」という言葉は、英語版の聖書では「主よ、それはわたしですか」と翻訳されています。この「主よ、それはわたしですか」という質問は、11人の忠実な使徒たちについてどのようなことを教えているのでしょうか。
- この話から、イエス・キリストの弟子が主の言葉を耳にするとどのように応えるべきかについて、どんな原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの弟子が主の言葉を聞くときには、自分自身の生活を振り返り、その言葉が自分にどう当てはまるかを考える。)

一人の生徒に、ウークトドルフ管長の次の言葉を読んでもらいます。

「弟子たちは主が言われたことは本当かと疑うことも、周囲を見回し他の人を指して『彼でですか』と問うこともしませんでした。

それどころか、『非常に心配して、つぎつぎに「主よ、それはわたしですか」と言い出した』のです。(訳注：この部分は、口語訳聖書では「主よ、まさか、わたしではないでしょう」と訳されていますが、欽定訳聖書〔英文〕の“Lord, is it I?”の本来の意味で訳出しています。)[マタイ 26 : 22]

わたしたちはどうするでしょうか。周囲を見回して心の中でこう言わないでしょうか。『多分ジョンソン兄弟のことだ。いつも彼のことが気になっていた。』あるいは、『ブラウン兄弟がこの場にいてよかった。彼にはこのメッセージが必要だ。』それとも昔のその使徒たちのように、自らを省みて、この意義深い問いかけをしようとするでしょうか。『それはわたしですか』と。(「主よ、それはわたしですか」56)

- わたしたちが、主の言葉は自分には関係ない、別の誰かに向けられたものだと考えたくなるような例にはどんなものがあるでしょうか。

一人の生徒に、ウークトドルフ管長が語った次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが主の言葉を耳にすると、ウークトドルフ管長はわたしたちにどうするよう勧められているかを見つけてもらいます。

「『それはわたしですか』というこの簡潔な言葉は、知恵の初めであり、個人の改心と継続的な変化に通じるものです。……

わたしたちは高慢を捨て、虚栄に目もくれず、謙虚に『主よ、それはわたしですか』と問いかけなければなりません。

主の答えが、『息子(娘)よ、あなたには改善すべきことがある。そしてあなたが克服できるようにわたしが助けられることがある』というものであれば、へりくだってこの答えを受け入れ、罪と欠点を認め、自分を改善することによって行動を変えるようにしてください。](「主よ、それはわたしですか」56, 58)

- 主の言葉を自分の生活にあてはめて、生活を変えるときに、どのように祝福されてきましたか。

生徒が先ほど見つけたその原則について証を述べます。主の言葉を聞いたり読んだりしたときはいつでも、御霊の促しを受けたらすぐに行動しているか、生徒に自分の生活を振り返ってもらいます。

一人の生徒に、マタイ 26:23 - 25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちの質問への救い主の答えを見つけてもらいます。

御自身を裏切るのはユダであるとイエスが言われると、ユダはすぐに出て行ったことを説明します(ヨハネ 13:30 参照)。

マタイ 26:26 - 30

イエス・キリスト、過越の間に聖餐を定められる

「最後の晩餐」(『福音の視覚資料集』54 番。LDS.org も参照)の絵を見せます。救い主が使徒たちとともに過越の食事をされたときに、聖餐の儀式を定められたことを説明します。

生徒に、次の質問に対する各自の答えをノートまたは聖典学習帳に書いてもらいます(これらの質問は授業が始まる前に、ホワイトボードに書いておいてもよいでしょう)。

前回聖餐を取ったとき、あなたはどんなことをしていましたか。何を考えていましたか。どんなことを感じましたか。

テーブルの上に置いてあるカップとパンを手を持って、生徒に見せます。一人の生徒に、マタイ 26:26 - 29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がパンと杯の中身をどうされたか見つけてもらいます。

- 主はパンと杯の中身をどうされましたか。
- これらの聖句によれば、これらの聖餐の象徴は何を表していますか。(生徒はおそらく次の教義を見つけないはずですが。聖餐の象徴は、イエス・キリストがわたしたちのために犠牲にされた体と血を表している。)

ジョセフ・スミス訳ではこれらの聖句にさらなる洞察を与えていることを生徒に説明します。『聖句ガイド』の中にある「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」マタイ 26:22 を生徒に黙読してもらいます。『聖句ガイド』の中にある「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」マタイ 26:24 - 25 も読んでもらいます。これらの聖句の中で靈感を受けて変更された部分はどこかを生徒に見つけてもらいます。それは聖餐会の重要な目的を理解する助けとなります。

- なぜイエス・キリストは、聖餐を定められたのでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストは、御自身と御自身がわたしたちの罪を贖われたことを思い起こすように、聖餐を定められた。)
- イエス・キリストとイエス・キリストの贖罪を思い起こさせてくれる聖餐の目的を確かなものとするために、わたしたちはどのようなことができるでしょうか。
- 救い主とその贖罪を思い起こすよう努めることは、聖餐を受けるときのあなたの気持ちや経験にどのような影響を与えてきたでしょうか。

もう一つの原則を生徒が理解できるように、次の質問をします。

- 27 - 28 節によると、キリストの流された血は、聖餐を受けるときにわたしたちに何を受けさせてくださるのでしょうか。(わたしたちの罪の赦し。)

聖餐の間に、単にパンを食べ、水を飲むだけで自動的に、わたしたちに罪の赦しを受ける資格が与えられるわけではないことを説明します。常に主を覚え、主の戒めを守るよう努力することで、わたしたちはイエス・キリストへの信仰を働かせ、悔い改め、誠実に聖餐を受けなければなりません。ふさわしい状態で聖餐を受けることで、バプテスマで交わした聖約を新たにします。ホワイトボードに次の真理を書きます。わたしたちは悔い改め、誠実に聖餐を受けるときに、罪の赦しを受けることができます。

クラスノートか聖典学習帳に、マタイ 26 章で見つけた聖餐についての真理をどのように自分自身の生活に当てはめるかを書いてもらいます。答えを分かち合ってもよいと感じる生徒がいたら、数人に、答えを発表してもらいます。



一人の生徒に、マタイ26:29を、もう一度声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が次にいつ聖餐を取ると言われたかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

「聖餐は救い主の贖罪を象徴するだけでなく、救い主が栄光のうちに地上に戻られるのを待ち望むことの象徴でもある(1コリント11:26参照)」ことを説明します(New Testament Student Manual, 83)。わたしたちが聖約を守り、最後まで堪え忍ぶならば、将来再び主とともに聖餐を受ける者たちの中に数えられるでしょう(教義と聖約27:4-14)。

今日のレッスンで見つけた真理について証を述べ、レッスンをまとめます。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ 23 : 1 – 26 : 30 (単元 6)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ 23 : 12 – 26 : 30 (単元 6) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要を考えながらに合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マタイ 23 章)

生徒は、イエスがユダヤの指導者たちを叱責されたこと、周りの人が偽善的に振る舞うのを見て、わたしたちは神の律法に従うことを選ぶことができることを学びました。わたしたちは、自分を高くしようとするとときに低くされ、謙遜に人に仕えるときには主が高く上げてくださることを生徒は学びました。また、わたしたちが内面から霊的に清くならうと努力するときに、それはわたしたちが選択する行動に反映されること、また、救い主に集めていただきたいと望んでいるならば、主はわたしたちを心に留め、守ってくださることを学びました。

第 2 日 (マタイ 24 章)

救い主の再臨についての教えから、生徒は次のことを学びました。確固として打ち負かされなければ、わたしたちは救われる。イエス・キリストの再臨の前には、主の選民が集められ、福音が全世界に宣べ伝えられる。主の御言葉を大切に蓄えるならば、わたしたちは惑わされることはない。主の再臨がいつ起こるかはその御父のみが知ることであり、再臨のしるしを待ちながら、主の戒めに従えば、主の再臨に備えることができる。

第 3 日 (マタイ 25 章)

生徒は 10 人のおとめのたとえ話を学習し、霊的な備えは人から借りることはできないこと、また日々の義にかかった行いにより証を強め回心することによって再臨に備えることを学びました。また生徒は、主の再臨に備え、主のみもとにとどまれるようふさわしくなるためには、主を知るようにならなければならないことを学びました。生徒はタラントのたとえ話を学習し、人は恐れから主によって与えられた賜物や能力を使わなくなってしまうことがあること、また、わたしたちが善を行うために霊的な賜物を育てたり、役立てないと、その賜物を失ってしまうことを学びました。

第 4 日 (マタイ 26 : 1 – 30)

生徒はイエス・キリストのこの世での務めの最後の数日について学習し、イエス・キリストの弟子は、主の言葉を耳にすると、自分自身を振り返り、その言葉が自分にどう当てはまるかを考えることを学びました。生徒は聖餐のしるしが、わたしたちのために犠牲になられたイエス・キリストの体と血を表していること、またイエス・キリスト御自身と、御自身の贖罪をわたしたちが覚えているように聖餐を定められたことを学びました。また、わたしたちが悔い改め、誠実に聖餐を受けるときに、罪の赦しを受けることができることを学びました。

はじめに

イエス・キリストは、オリブ山で弟子たちにタラントのたとえ話を通じて再臨について教えられました。

教えるための提案

マタイ 25 : 14 – 30

イエス・キリスト、弟子たちにタラントのたとえ話を教えられる

レッスンが始まる前に、5 枚の硬貨を教室の端に置き、もう一方の端に 2 枚の硬貨を置きます。他に 8 枚の硬貨を自分のポケットに入れておきます。

授業を始めるにあたり、イエス・キリストが再臨について弟子たちに教えられたたとえ話を演じてもらうために、三人の生徒に前に来てもらいます。

一人の生徒に、マタイ 25 : 14 – 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それぞれの僕が何をもらったか、またそれをどうしたかを見つけてもらいます。

- 主人は、僕たちそれぞれに何を与えましたか。(このたとえ話の中のタラントとは、お金であることを説明します。ポケットから 8 枚の硬貨を取り出し、5 枚の硬貨を一人の生徒に、2 枚を二番目の生徒に、1 枚を三番目の生徒に渡します。)
- それぞれの僕は、与えられたお金をどうしましたか。

5 枚の硬貨を渡された生徒に、さらに 5 枚の硬貨を教室の端から取ってきてもらいます。2 枚の硬貨を渡された生徒に、さらに 2 枚の硬貨を教室のもう一方の端から取ってきてもらいます。1 枚の硬貨を渡された生徒には、その硬貨を隠すか、地中に埋めるふりをしてもらいます。

三人の生徒から硬貨を全て返してもらい、着席してもらいます。たとえ話の次の構成要素をホワイトボードに書きます (括弧内の説明は書かないでください)。

僕的主人 (主イエス・キリスト)

僕たち (主の弟子たち)

タラント (主が弟子たちに与える才能や能力)

- ・たとえ話のそれぞれの要素は何を意味しているでしょうか。(必要であれば、それぞれの要素が誰と何を表しているかを生徒が見つけられるように助けます。)それぞれの要素の横に、説明を書きます。わたしたちが現世で持っている才能や能力の一部は、前世で受けて生まれたものであることを説明します。それらの才能と、その他の才能を現世で引き続き伸ばすという選択ができます。
- ・マタイ 25 : 15 によると、なぜ主人はそれぞれの僕に異なる額のお金を与えたのでしょうか。(生徒が答えた後に、「それぞれの能力に応じて」という言葉は、神はわたしたちの状況に応じて、それぞれに必要な賜物や能力を与えてくださっているということだと指摘します。全てのの人に神の御霊によって一つの賜物が与えられています〔教義と聖約 46 : 11 参照〕。与えられている才能の数が、その人の価値を表しているのではないことを説明します。)

次の質問を声に出して読み、生徒に考えてもらいます。

- ・それぞれの僕 (5 枚のタラントを与えられた僕、2 枚の僕、1 枚の僕) のうち、最も自分に似ていると感じるのはどの僕でしょうか。それはなぜですか。
- 一人の生徒に、マタイ 25 : 19 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、5 枚のタラントを受け取った僕に主人が何と言ったかを見つけてもらいます。

- ・主人は最初の僕に何と言いましたか。
- 「多くのものを管理」させること、「主人と一緒に喜ぶ」こと (マタイ 25 : 21) は、わたしたちが神のようになること、天の御父とともに住む永遠の命を受けることを意味することを説明します。

- ・最初の僕の経験から、どのような原則を学ぶことができますか。(以下は生徒が見つけるかもしれない原則の一つです。わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使うなら、神のようになり、永遠の命を受けることができます。)
- ・わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使う方法には、どんなものがあるでしょうか。

二番目の僕は、自分が 2 枚しかタラントを渡されなかったときに、最初の僕が 5 枚渡されているのを見て、不平を言うことができたことを指摘します。しかしながら、その僕は与えられたタラントを忠実に使うことにしました。

一人の生徒に、マタイ 25 : 22 - 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主人が 2 枚のタラントを渡された僕に言った言葉を見つけてもらいます。

- ・主人は 2 枚のタラントを渡された僕に何と言いましたか。
- ・最初の二人の僕は異なる金額を渡されたにもかかわらず、主人から同じことを言われたのはなぜだと思いますか。
- ・2 枚のタラントを渡された僕の経験から、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけてみましょう。わたしたちが主から授かった賜物と能力を忠実に使うなら、授かった物が何であるか、またその量にかかわらず、主から祝福を受ける。生徒の言葉でこの原則をホワイトボードに書きます。)

周りの誰かが、自分より多くまたはより優れた賜物や能力を与えられていると感じたことがあるかどうか、生徒に深く考えてもらいます。今ホワイトボードに書いた原則に注目するよう生徒を促します。

- ・周りの誰かが、自分より多くまたはより優れた賜物や能力を与えられていると感じるときに、この原則を覚えていることはどのような助けとなりますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「才能の伸びの度合いは、個人の成長の度合いを判断する最高の尺度です。……自分と人の祝福を比較すれば、喜びから遠ざかる結果になるのは、まず間違いないでしょう。わたしたちは感謝する心と嫉妬心を同時に持ち合わせることはできません。主の御霊を受け、また喜びや幸せを味わいたいと心から望むならば、わたしたちはまず、自分自身が受けている祝福を喜び、感謝すべきです。」(「喜びなさい」『聖徒の道』1997年1月号、34)

- ・わたしたちは、主から授かった賜物や能力にどのように気づくでしょうか。

生徒一人一人に紙を配り、一番上に生徒の名前を書いてもらいます。その紙を隣りに座っている生徒に渡してもらいます。紙に書かれた名前の人が持っていると思う賜物または能力を書き出してもらいます。紙を引き続き隣りの人に回して、紙に書いてある名前の人について、生徒たちが目にしたことのある賜物や能力を書いてもらいます。

数分後に、最初に紙に名前を書いた生徒に紙を戻してもらいます。その紙の持ち主について、周りの生徒が書いてくれた賜物や能力に目を通す時間を与えます。その後、次の質問に対する答えをその紙に書いてもらいます。

- ・主の業を進めるために、あなたの賜物を使うにはどんな方法がありますか。

タラントのたとえ話には、わたしたちが授かった賜物や能力についての警告が含まれていることを指摘します。数人の生徒に、マタイ 25 : 24 - 30 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、タラントを地の中に隠した僕に対して主人がどう答えたかを見つけてもらいます。

- ・なぜ最後の僕は、タラントを地の中に隠したのでしょうか。主人はこの僕が行ったことにどのように反応したのでしょうか。
- ・主人のお金を失くしていない僕の行動の何が問題なのでしょうか。
- ・この僕が 2 枚のタラントを持ち帰っていたら、主人はどのように反応したと思いますか。

生徒たちに、今話し合った原則についての証を述べてもらいます。主の業を進めるために、賜物と能力を使うよう生徒を励まします。

次の単元 (マタイ 26 : 31 - マルコ 3 章)

生徒に次週はイエス・キリストの贖罪について詳細に学習することを説明します。贖罪は、ゲツセマネの園の主の苦しみに始まり、不法な裁き、あざけり、むち打ち、十字架での死を経て、栄えある復活によって完成しました。

マタイ 26:31 – 75

はじめに

ゲツセマネの園でイエス・キリストは、贖罪の一部として、全ての人の罪を負うことを始められました。ユダは、ユダヤ人の指導者たちにイエスを売り渡しました。その後イエスは不法に大祭司カヤパの前で審問を受け、偽りの罪で訴えられまし

た。その一方、ペテロは、自分をイエス・キリストの弟子の一人だと言った人々に、三度救い主を知らないと言いました。



オリブ山



ゲツセマネの園

教えるための提案

マタイ 26:31 – 46

イエス・キリスト、ゲツセマネの園で苦しみを受けられる

生徒に次の状況について考えてもらいます。ある若い男性は子供の頃から専任宣教師になることは義務だと教えられてきました。十代になると、伝道に出るべきだとは分かっていますが、その決意ができていません。彼は他に興味があることが多くあり、伝道に出るとその経験を逃してしまうのではないかと心配しています。

- 他にどのような状況で、若い男性や女性の望みと天の御父から求められていることが異なることがあるのでしょうか。（生徒たちの回答をホワイトボードに書く。）
- 天の御父がわたしたちに何をしよう望まれているかを知っているが、それを実行することが難しいことがあるのはなぜでしょうか。

生徒が天の御父の御心に従うために悩んでいるときに助けとなる原則をマタイ 26:31 – 46 から見つけてもらいます。

マタイ 26:1 – 30 で、主は使徒たちとともに過越の食事をなさり、聖餐を定められたことを生徒に思い出してもらいます。

数人の生徒に、マタイ 26:31 – 35 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが使徒たちにどのようなことが起こると預言されたかを見つけてもらいます。

- イエスは、その夜使徒たちにどのようなことが起こると言われましたか。

この文脈においては、「つまずく」という言葉は、がっかりする、離れる、見捨てるという意味であることを説明します。

- 救い主が言われたことに、ペテロとその他の使徒たちはどのような反応を示しましたか。

一人の生徒に、マタイ 26:36 – 38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、過越の食事の後、イエスと使徒たちがどこに行かれたかを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

末日聖典合本中の『聖書の地図 写真』11「オリブ山とオーソン・ハイド公園」と12「ゲツセマネの園」を開いてもらいます。ゲツセマネは、エルサレムの城壁のすぐ外、オリブ山にあるオリーブの木が生える庭であったこと、「ゲツセマネ」という名前は、「油搾り」を意味すると生徒に説明します。

- 36 – 38 節のどの言葉が、ゲツセマネに入られた主の気持ちを表しているのでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 26:39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、園に「少し進んで」行かれた後、主が何をされたかを見つけてもらいます。

- 37 – 39 節のどのような言葉が、イエスが経験されていた堪えがたい重荷を表しているのでしょうか。
- イエスは御自身から何を取り去ってくださるよう父に求められましたか。

カップを持ち上げて生徒に見せます。救い主が言われた杯は、贖罪の一部として救い主が経験された激しい苦痛の象徴であることを説明します。ゲツセマネで、イエスは偉大な贖いの犠牲の一部として全ての人々の罪と苦しみを御自身に引き受けられました。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ホランド長老は、イエスが杯を過ぎ去らせてくださいと御父に言われたときに、何を求めておられたのかを説明しています。

「要するに主はこう言われたのです。『別の道があればわたしはその道を行きます。別の方法があれば—何か他の方法がありさえすれば—わたしは喜んでそれに従います。』……しかし、結局それはかないませんでした。』（「教え、宣べ伝え、癒す」『リアホナ』2003年1月号、21）

生徒に、39節の「しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」という言葉に印をつけるよう提案するとよいでしょう。

- イエスは別の方法で御父の目的を果たすことを求められましたが、贖罪を達成するために主はどのようなことをされましたか。（次の真理と似たような内容をおそらく生徒は見つけるはずですが、イエス・キリストは贖罪を達成するために、御自身の意思を天の御父の御心に従わせられました。）
- 壮絶な苦しみに堪え、最後は死に至ることさえ意味した天の御父の御心に従順であったイエスから、わたしたちは何を学ぶことができるでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—わたしたちが_____とき、イエス・キリストの模範に従う。

- マタイ 26 : 39 から学んだ事柄を踏まえて、あなたはどのようにこの文章を完成させるでしょうか。（生徒の言葉を用いて、次の真理が伝わるように文章を完成させます。わたしたちが天の御父の御心に従うことを選ぶとき、イエス・キリストの模範に従う。）

伝道に出ることを躊躇していた若い男性の状況や、その他のホワイトボードに書き出した状況を生徒に思い出してもらいます。

- そのような状況にわたしたちが置かれたときに、救い主の模範はわたしたちをどのように強めてくださるでしょうか。

自分の望みは天の御父の御心とは異なっていたが、最終的に御心に従うことにしたときのことを生徒に考えてもらいます。数人の生徒に、その経験を分かち合ってもらい、なぜその選択をしたのか、それについてどう感じたかを説明してもらいます。

自分自身の意思を天の御父の御心に従わせることで、イエス・キリストの模範に従う具体的な方法を生徒に見つけてもらいます。

マタイ 26 : 37 - 38 を読み返して、救い主がゲツセマネでペテロ、ヤコブ、ヨハネにどのような指示をなさったか見つけてもらいます。

- イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネにどのような指示をされましたか。
- 「一緒に目をさまさない」という指示はどんな意味だったと思いますか（38節）。

弟子たちはなぜ一緒に目をさまさないという主の指示を必要としたのかを生徒に理解してもらうために、弟子が園に着くと、「弟子たちはひどく驚き、打ち沈み、『この方はメシヤなのだろうか』と心の中でつぶやき始めた」ことを説明します。（『聖句ガイド』内「ジョセフ・スミス訳（抜粋）」マルコ 14 : 36）弟子たちの主への信仰が試されるので、弟子たちに一緒に目をさまさないという指示することで、油断しないよう警告されていました。

- なぜ弟子たちはイエスが本当にメシヤなのかと心の中でつぶやき始めたのでしょうか。（多くのユダヤ人は、メシヤはローマ帝国を崩壊させることでユダヤ人を解放するであろうと信じていたため、メシヤが苦しみ死なれることを理解していませんでした。）

一人の生徒に、マタイ 26 : 40 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが祈られているときに、三人の使徒たちが何をしていたかを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを分かち合ってもらいます。ジョセフ・スミス訳ルカ 22 : 45 では、「悲しみで満たされていたために」弟子たちが眠っていたことを示しています。

- なぜ使徒たちは悲しみに満たされていたのでしょうか。
- あなたが彼らの立場で、救い主と一緒に目を覚ましているのではなく、眠ってしまったことが分かったらどのように感じたと思いますか。

一人の生徒に、マタイ 26 : 41 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちにどうするよう指示されたかを見つけてもらいます。その後、見つけたことを発表してもらいます。

ゲツセマネでのイエス・キリストの苦しみについての教え

ゲツセマネで起きた出来事については、三つの記録があります。本手引きにおいて、マタイ 26 章のレッスンは、天の御父の御心への救い主の従順に焦点を当てています。マルコ 14 章のレッスンでは、ゲツセマネでイエスがどのような苦しみを受けられたかに焦点を当てています。ルカ 22 章のレッスンでは、主の苦しみの過酷さを強調しています。贖罪をこれら別々の角度で生徒に教えることによって、それぞれの記録を学習するときに、生徒は別々の経験をすることができます。

- これらの使徒たちへの救い主の指示から、わたしたちはどのような原則を学べるでしょうか。(生徒はおそらく次のような内容の原則を見つけるでしょう。わたしたちが目を覚まし常に祈るならば、誘惑に打ち勝つ力を与えられる。)
- 41 節にある「心は熱しているが、肉体が弱いのである」という言葉はどのような意味だと思いますか。このことは誘惑に耐えることとどのようなつながりがあるでしょうか。
- 「目を覚ましている」とは、警戒する、油断がないことを意味することをもう一度生徒に思い出してもらいます。霊的に目を覚ましていることと、祈ることは、わたしたちの弱さを克服し、誘惑に堪えるのにどのような助けとなるでしょうか。

ゲツセマネの使徒たちのように、祈ることと目を覚ましていることを怠ったために、誘惑に負けてしまったことがあるか生徒たちに深く考えてもらいます。その選択がどのような結果をもたらしたかを考えてもらいます。祈ることと目を覚ましていることで、誘惑に堪えることができたときのことを考えてもらいます。

- 霊的に常に目を覚まし、祈るために、どんなことが役立ちましたか。

わたしたちが常に目を覚まし、祈るならば、誘惑に堪えることができることを証します。もっとよく目を覚まし、祈り続けるために、生徒が今後実行することを一つ紙に書き出してもらいます。生徒がその目標を忘れないようにその紙を持ち歩くよう勧めます。

マタイ 26 : 42 - 46 のまとめとして、イエスがゲツセマネの園で三度祈られたことを説明します。祈られるたびに、イエスは天の御父の御心に進んで従う従順さを示されました。

マタイ 26 : 47 - 75

イエス・キリスト、捕らえられて、カヤパの前で審問を受けられる

一人の生徒に、後に七十人に召されたジェラルド・N・ランド長老の次の話を声に出して読んでもらいます。



「その力、その光、その栄光が万物に秩序をもたらすイエス・キリスト、太陽系、銀河、星々を創造されたまさにそのイエス・キリストが邪悪な男たちの前に立ち、何の価値も無い者として裁かれるのを想像してください。」(“Knowest Thou the Condensation of God?” *Doctrines of the Book of Mormon: The 1991 Sperry Symposium* で引用、ブルース・A・バンオルデン、プレント・L・トップ共編 [1992 年], 86)

ホワイトボードに、「マタイ 26 : 47 - 68」と書きます。生徒にこれらの聖句を調べてもらい、邪悪な男たちに不当な扱いを受け、裁かれたときでさえも、イエス・キリストはどのように天の御父に従順であり続けられたかを見つけてもらいます。生徒の必要に応じて、これらの聖句をクラス全体で声に出して読むこともできますし、組に分けて読んでもらうことも、全員に黙読するよう指示することもできます。

▶ マタイ 26 : 47 - 68 を読む代わりに、『イエス・キリストの生涯聖書ビデオ』にある (1) イエス・キリストがユダによって引き渡され、捕えられたことを描いた「ゲツセマネで苦しみもたえる救い主」(5 分 53 秒 - 8 分 30 秒) と (2) イエスがカヤパにより審問され、打たれつばきを吐きかけられたことを描いた「イエスはカヤパの審問を受ける。ペテロはイエスを知らないと言う」(最初 - 1 分 40 秒) のビデオの一部を生徒に見せることもできます。ビデオは LDS.org にあります。

時間を十分に取ってから、次の質問をします。

- 邪悪な男たちに不当な扱いを受け、裁かれたときでもイエス・キリストはどのように天の御父に従順であったでしょうか。

一人の生徒に、マタイ 26 : 53 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、これらの出来事のときにイエス・キリストがおできになっていたであろう事を見つけてもらいます。

- 救い主はどんなことがおできになったでしょうか。
- 天使の軍団やその他の天の力を求めて、御自身を解放されるのではなく、イエスはどうされたのでしょうか。
- このことは、いかなる状況においても天の御父の御心を進んで行う救い主について何を教えているでしょうか。

イエス・キリストは、御自身を鞭打つ者たち、つばきを吐きかける者たちを滅ぼす力をお持ちになっていたにもかかわらず、自ら進んで苦しみに耐えられました (1 ニーファイ 19 : 9 参

照)。指導者たちや兵士たちは、それが天の御父の御心であれば、イエスは無限の力を引き寄せることがおできになることを理解していませんでした。

56 節に記されているように、使徒たちがイエスを見捨てるというイエスの預言が成就したことに注目してもらいます。しかし、このように背を向けたのは一時的なことでした。

マタイ 26:69 - 75 のまとめとして、イエスが捕らえられた後に尋問を受けている間、ペテロはイエスを知らないと言ったことを説明します。(注-ペテロがイエスを知らないと言ったことについては、ルカ 22 章のレッスンでさらに詳細に学びます。)

このレッスンで分かった真理についての証を述べます。

マタイ 27:1-50

はじめに

イエス・キリストを殺す陰謀の一つとして、ユダヤ人の指導者たちは、イエス・キリストをローマ帝国の総督であるポンテオ・ピラトの前に連れて行きました。ピラトは、イエスを鞭打ち、十字架につけるために引き渡しました。イエス・キリストは御

父の御心を成就させるために、苦しみと死に身を任せられました。

教えるための提案

マタイ 27:1-25

イエス、十字架の刑に処されるためにピラトに引き渡される

生徒に次の質問について考えるように言います。

- 聖典の中の出来事の一つ実際に目にすることができるとすれば、どの出来事を選びますか。

何人かの生徒に答えを分かち合ってもらいます。このレッスンでは、世界の歴史の中でも最も重要な出来事の一つを生徒が学ぶことになると説明します。自分がその出来事の日撃者であると、生徒に想像してもらいます。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 今日わたしは _____ を見て _____ と感じました。

未完成の文章を生徒に見せて、マタイ 27:1-50 の学習の中で経験した事柄に基づいて、レッスンの終わりにこの文章を完成させることになると説明します。

イエスが捕らわれたとき、「弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った」(マタイ 26:56) ことを思い出してもらいます。大祭司カヤパと議会は、イエスを神への冒瀆の罪—ユダヤ人の律法では、死刑に値する—で訴えました。しかし、ローマ帝国の支配下では、神への冒瀆の罪で人を死刑に処する権限はユダヤ人にはありませんでした。そのため、ユダヤ人の指導者たちは、ローマ帝国の法律でイエスが死刑に処される罪を見つけようとしていました。

マタイ 27:1-10 のまとめとして、ユダヤ人の指導者たちが、ユダヤの地のローマ帝国総督であったポンテオ・ピラトにイエスを引き渡したことを説明します。ユダがそれを見たとき、イエスを裏切ったことを後悔し、ユダヤ人指導者たちからももらったお金を返そうとしました。それから自ら命を絶ちました。銀貨は「血の代価」(マタイ 27:6) であったために、宮の金庫に入れるのはふさわしくないとされ、ユダヤ人指導者たちは、外国人のための墓地にするために、そのお金で陶器師の畑を買いました。マタイは、この出来事を預言の成就であると述べています。その預言はゼカリヤ 11:12-13 にもあります。

数人の生徒に、マタイ 27:11-14 を声に出して順番に読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピラトの前でユダヤ人指導者たちがイエスについて訴えたことを見つけてもらいます。

- 11 節によると、ピラトはイエスにどんな質問をしましたか。

ユダヤ人指導者たちは、反逆罪、つまりローマ帝国政府を打ち倒そうとしている罪でイエスを訴え、またイエスが自分は王であると宣言し、自分の王国を打ち立てようとしていると主張しました。

- 14 節によると、ピラトはなぜ非常に不思議に思ったのでしょうか。

生徒たちがこの場において、話す機会を与えられていたなら、救い主を弁護するためにどんなことをピラトに言ったと思うか考えてもらいます。何人かの生徒に考えを発表してもらいましょう。

マタイ 27:15-16 のまとめとして、毎年過越の祭のたびごとに、ローマの総督が囚人一人を赦す慣例になっていたことを説明します。群集は釈放すべき囚人を一人選ぶことが許されていました。イエスへの判決が下されるときにいた有名な囚人が、バラバという名の男であり、バラバは強盗、ローマ帝国の権威への反逆者、人殺しとして有罪判決を受けていました。

クラスで一緒に 聖文を読む

聖文をクラスで一緒に読むことは、生徒が研究している聖句に精通し、それをもっとよく理解する助けになり、さらに自分自身で聖文を読むことにもっと自信を持つようになるのに役立ちます。割り当てられた聖句を生徒に順番に声に出して読んでもらうことで、クラスで一緒に聖文を読むことを奨励します。よく読めない生徒や恥ずかしがりの生徒を当惑させないようにします。声に出して読むのを好まない生徒に無理強いしてはなりません。

数人の生徒に、マタイ27:17-25を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピラトが、総督の官邸に集まった群集に何を尋ねたかを見つけてもらいます。

- 17節, 21節によると、ピラトは群集に何を尋ねましたか。
- ピラトが、バラバではなく、イエスを釈放することを提案したのは、どんな理由があったと思いますか。
- なぜピラトは最終的にバラバを釈放し、救い主を十字架にかけるために引き渡したのでしょうか。

マタイ27:26-50

イエス、迫害され、嘲られ、十字架につけられる

一人の生徒にマタイ27:26を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが十字架につけられる前に、人々がどのようなことをしたか見つけてもらいます。

- 鞭打たれるとはどういう意味でしょうか。(繰り返し鞭で打つということです。)

端が鋭くなっていたり、ギザギザになっている小さな石を見せて、鞭打ちに使われた鞭は尖った物(石、金属片、骨など)が複数のひもに組み込まれていたものだったことを説明するとよいでしょう。鞭打ちなどの刑は、通常奴隷に行われるもので、貴族の家柄の人々やローマの自由民は棒で打たれました。重度の外傷を負うために、鞭打ちで命を落とす者が多くいました。

数人の生徒に、マタイ27:27-32を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ローマの兵士たちがイエスに対して行ったことを見つけてもらいます。

- ローマの兵士たちは、イエスを嘲るために何をしましたか。
- なぜ兵士たちはイエスの代わりに十字架を背負う者を見つけたのだと思いますか。(イエスは、想像を超える苦痛を経験し、ゲツセマネでの苦しみと鞭打ちによって多くの血を失っており、肉体的に疲れ果てていたと考えられます。)
- イエスが神の御子であり世の救い主であるとして、あなたがこの場でイエスの十字架を背負うよう強いられたとしたら、どのように感じたと思いますか。

一人の生徒に、マタイ27:33-34を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが十字架につけられる前に拒んだことを見つけてもらいます。

- イエスはどのように拒みましたか。(飲ませようと与えられたものを飲みませんでした。)

この飲み物が差し出されたことは、詩篇69:21にある預言の成就でした。「にがみをまぜた」ぶどう酒(マタイ27:34)または、マルコが記録した「没薬をまぜたぶどう酒」(マルコ15:23)は、死にかけている人の苦しみを和らげるために麻酔薬として与えるのが通例となっていたことを説明するとよいでしょう。その飲み物を拒否したことで、イエスは意図的に感覚を鈍らせないことを選び、まだ待ち受ける贖いのための苦しみの中で意識を失わない決意を表したのです。

数人の生徒に、マタイ27:35-45を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、民がイエスをあざ笑ったり、そそのかしたりするためにどんなことをしたかを見つけてもらいます。

- 民はどのようにイエスをあざ笑い、そそのかさうとしましたか。
- イエスは御自身を解き放つ力をお持ちになっていたにも関わらず、十字架から降りられなかったのはなぜだと思いますか。

生徒たちにマタイ27:46を黙読してもらい、十字架につけられているときにイエスが何と言われたかを見つけてもらいます。

- イエスは何と言われましたか。(「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」)

生徒たちがこの瞬間に起こっていたことをさらによく理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を読んでもらいます。



「わたしは自らの確信に基づいて、……完全な御方である御父はその瞬間に御子をお見捨てにはならなかったことを証します。実際、わたしは、キリストが地上で教え導かれた間を通じて、恐らくこの最後の苦悩のときほど、御父が御子の近くにおられたことはなかったと信じています。それでも、……御父は短い間、御父の霊がもたらす安らぎと、御父御自身の存在による支えをイエスから取り去られたのです。」(「だれも主とともにいなかった」『リアホナ』2009年5月号, 87)

- このとき、天の御父はなぜ御自身の霊をイエスから退けられたのだと思いますか。

46節にある真理を生徒が見つめることができるように、ホランド長老のお話の続きを読みます。

「それは贖いが要求するものであり、確かに贖いの意義に欠かせないものでした。つまり、悪口を言ったことがなく、過ちを犯したことがなく、汚れたものに触れたことのないこの完全な御子は、人類、すなわちわたしたち全員がこれらの罪を犯したときにどのように感じるかをお知りにならなければならなかったのです。無限にして永遠の贖罪を成し遂げるために、イエスは肉体だけでなく霊が死ぬということがどのようなものかを実感し、神の霊が退き、独り残されてこれ以上ないほどの悲惨極まる、絶望的な孤独を感じるということがどのようなことを御自身で理解される必要がありました。」(「だれも主とともにいなかった」87)

- マタイ 27:46 とホランド長老の言葉から、贖罪の一環として救い主が経験された事柄をどのようにまとめることができるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけられるようにします。贖罪の過程の一部で、イエス・キリストは天の御父の霊が退いたのを感じられた。)
- ホランド長老によると、なぜイエス・キリストは神の霊が退かれるのを経験されたのでしょうか。(霊が死ぬとはどういうことなのかを経験されるため。)


わたしたちが罪を犯す時に、霊の死、すなわち天の御父の霊が退かれるのを経験することを説明します。イエス・キリストがゲツセマネの園と十字架上で霊の死を経験されたために、わたしたちが浅はかな選択をして天の御父の霊から離れてしまうときに、助けることができなくなることを証します。わたしたちが孤独を感じるときにも、主は助けてくださいます。

生徒に、マタイ 27:50 とジョセフ・スミス訳マタイ 27:54「イエスはもう一度大声で叫んで、『父よ、終わりました。あなたの御心が行われました』と言われ、ついに息をひきとられた」を読んでもらい、救い主が十字架の上におられたときに、他に何を語られたかを見つけてもらいます。

- このジョセフ・スミス訳によると、なぜイエスはそのような苦しみを全て経験されたのでしょうか。(生徒はおそらく次の真理を見つけるでしょう。イエス・キリストは御父の御心を成就するために苦しみを受けられた。)

生徒たちに前回のレッスンを思い出してもらいます。前回のレッスンでは、マタイ 26 章を学習し、ゲツセマネでの救い主の苦しみ、御自身の御心を天の御父の御心に自ら進んで従わせたことについて学びました。生徒たちにマタイ 27:50 の近くの余白に、相互参照聖句として、マタイ 26:39 と書き込んでもらい、イエスが御自身の約束通りになされたことを思い起こせるようにするとよいでしょう。

- イエスが苦しみを負われるという天の御父の御心は、なぜゲツセマネで始まり、十字架上で最高潮に達したのでしょうか。

 マタイ 27 章から学んだ出来事、教義、原則を生徒が復習し、その真理と重要性を感じ取れるように、モルモンメッセージのビデオ「だれも主とともにいなかった」(4分25秒)を視聴してもよいでしょう。このビデオは、救い主の十字架での死と復活についてであり、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が2009年4月の総大会で述べた「だれも主とともにいなかった」(『リアホナ』2009年5月号, 86-88)の話の一部を映像化したものです。このビデオはLDS.orgで入手できます。

わたしたちのために主が苦しまれたことへの感謝を表す最良の方法の一つは、わたしたちが義にかなった生活を送ることであると説明します。レッスンの始めに教師がホワイトボードに書いた、未完成の文に戻ってもらいます。生徒のクラスノートか聖典学習帳に、この「今日わたしは_____を見て_____と感じました。」という文を完成させる言葉を書いてもらいます。十分な時間を与えた後、数人の生徒に書いたことを発表してもらおうとよいでしょう。

注釈と背景情報

マタイ 27:26 鞭打たれるとはどういう意味か

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は鞭打たれることの意味について次のように説明しています。

「この十字架刑の前の野蛮な習慣は着物をはぎ取ることと、受刑者を柱か木枠に縛りつけて、鉛や骨で重みを付けた皮の鞭で体を打つことから成っていました。これは拷問にかけられて苦しんでいる者が流血し、衰弱し、時には死ぬまで放置されま

した。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 807)

別の話で、マッコンキー長老は、繰り返し次のように話しました。「多くの人々はこの鞭打ちだけで死んでしまいます。しかし主はこの苦痛から立ち上がり、カルバリにおける残虐かつ屈辱的な十字架上の死へと向かわれます。」(「ゲツセマネの清め」『リアホナ』2011年4月号, 17)

マタイ 27:51 – 28:20

はじめに

イエス・キリストが息をひきとられると、神殿の幕が二つに裂けました。ユダヤ人の指導者たちは、イエスの体が横たえられた墓に番人を置くようピラトに申し立てました。イエス・キリストは復活され、使徒たちをはじめとする、多くの人々に御姿を

現されました。イエスは、全世界に福音を宣べ伝えるよう使徒たちに命じられました。

教えるための提案

マタイ 27:51 – 56

イエス・キリストが息をひきとられた後、神殿の幕が二つに裂け、地震が起きる

生徒自身または知り合いが、大切な人を死によって失ったことがあるかを考えてもらいます。その後で、クラス全体に質問します。

- なぜ大切な人を失くすことは、つらいことなのでしょう。

マタイ 27:51 – 28:20 を研究しながら、大切な人がこの世を去るときに慰めを得る助けとなる真理を、生徒に見つけてもらいます。今日のレッスンの背景を知るために、イエス・キリストが捕らえられてから十字架につけられるまでの間に経験された事柄を、生徒に簡潔にまとめてもらうとよいでしょう。

一人の生徒に、マタイ 27:51 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが亡くなられたときに、神殿でどのようなことが起こったかを見つけてもらいます。

- イエスが亡くなられたとき、どのようなことが起こりましたか。

ここに記載された神殿内部の図をホワイトボードに書くといよいでしょう。

イエスの時代には、神殿には聖所と至聖所の二つの部屋があったことを説明します。至聖所は、神のみもとを表していました。これら二つの部屋は、とばり、つまり幕で隔てられていました。一年に一度、贖罪の日に大祭司が聖所から神殿の幕をくぐって至聖所に入りました。そこで大祭司はイスラエルの全会衆の罪の贖いのために燔祭の血を注ぎました（レビ 16 章参照）。イエスが亡くなられて神殿の幕が二つに裂けたことは、偉大なる大祭司であるイエス・キリストが、死の幕を通過してすぐに父なる神のみもとに入られたことの劇的な象徴でした。

幕が裂けたことの重要性を生徒がより深く理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「今や至聖所は全ての人に開かれ、小羊の贖いの血により全ての人が、あらゆる場所の中で最も気高く、最も神聖な場所、すなわち人に永遠の命を得させる王国に入ることができるようになりました。……かつて神殿の幕の内側で行われた儀式は、キリストが行われた贖いの業のひながたであり、主はその業をすでに成し遂げられました。全ての人が幕を通過して主のみもとへ行き、完全な昇栄を受け継ぐことができるようになったのです。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻 [1965 – 1973 年], 第1巻, 830)

- 幕が裂けたことから、イエス・キリストの贖罪について、どのような重要な真理を学ぶことができるのでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの贖罪のおかげで、わたしたちが悔い改め、聖約を守るならば、誰でも神のみもとに入ることができる。)
- イエス・キリストの贖罪はどのようにしてわたしたちが神のみもとに戻ることを可能にしているのでしょうか。



イエス・キリストの贖罪は、わたしたちが神のみもとに戻ることを可能にしていますが、天の御父とともに永遠に住めるようふさわしくなるために、わたしたちにはすべきことがあることを指摘します。

- 天の御父と永遠に住めるようふさわしくなるためには、わたしたちはどうしなければなりませんか。

マタイ 27:52 - 56 のまとめとして、イエス・キリストの復活の後、その前に亡くなっていた多くの義になつた人々も復活し、エルサレムの多くの人々にその姿を現したことを説明します。また、これらの聖句は、イエスの死を目撃したのが、ローマの百卒長と多くの女たちであったことも説明しています。

一人の生徒に、マタイ 27:54 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ローマの百卒長とそこにいた人々が、イエスが十字架で亡くなられた後の出来事を目にして、どのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- ローマの百卒長とそこにいた人々の反応はどのようなものだったでしょうか。
- 彼らはどのようなことを見て、「まことに、この人は神の子であった」と言ったのでしょうか。

マタイ 27:57 - 66

ユダヤの指導者たち、ピラトと共謀してイエスの墓を見張る

マタイ 27:57 - 61 のまとめとして、イエスの死後、アリマタヤのヨセフという名の金持ちの弟子が、「イエスのからだの引取りかたを願った」(58 節) ことを説明します。アリマタヤのヨセフはイエスの体をきれいな亜麻布に包み、彼が所有していた墓に収め、大きな石で墓の入口をふさぎました。

数人の生徒に、マタイ 27:62 - 66 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、祭司長とパリサイ人がピラトにどのようなことを頼んだかを見つけてもらいます。

- 祭司長とパリサイ人はピラトに何を頼みましたか。
- なぜそうしたかったのでしょうか。

マタイ 28:1 - 20

イエス・キリストは復活し、多くの人々にその御姿を現される

週の初めの日(日曜日)の明け方に、マグダラのマリヤともう一人マリヤという名の女が、イエスへの敬愛のしるしとして香料を塗るために墓にやってきました。数人の生徒に、マタイ 28:1 - 6 を順番に声に出して読んでもらいます。

- 墓に近づいた女たちは何を見たでしょうか。(ジョセフ・スミス訳では、女たちが見た天の御使いは一人ではなく、二人であったことを明らかにしていることを説明します。)
- 二人の天の御使いを見たのがあなただったら、どのような反応をしていたと思いますか。番人はどのような反応をしたでしょうか。
- 5 - 6 節によると、御使いは女たちに何と告げたでしょうか。
- これらの聖句からどのような真理を学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストは死からよみがえられた。)

生徒たちが復活の教義を理解できるように、二人か三人のグループに分けて、次の配付資料をグループで完成させるように言います。

「よみがえられたのである」(マタイ 28:6)

『聖句ガイド』にある「復活」という言葉を研究します。その後、次の質問を話し合い、質問の答えを与えられた余白に記入します。

死から生き返ることと復活することの違いは何でしょうか。	
イエス・キリストの復活の結果、人類全てにどのようなことがあるのでしょうか。	
復活の教義を理解することは、愛する人を亡くした人々にどのように慰めをもたらすのでしょうか。	

配付資料を終わらせることで学んだ事柄を、何人かの生徒に発表してもらいます。

一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「復活の朝のあの奇跡、あの最初の復活祭の日曜日は全人類のための奇跡です。それは神の力による奇跡であり、神の愛される御子が全ての人類の贖いのために命をささげられたのです。それは、神のあらゆる息子や娘のための愛の犠牲でした。そうすることによって主は死の縄目を解かれました。……

主がよみがえって墓から出て来られたように、わたしたち一人一人も自分の復活のときに生ける霊の結合体となるために、霊と体の結合を享受できます。

わたしたちは他の多くの人々と同様、人類の歴史上の出来事の中でも最も栄光に満ち、慰めをもたらし、最も確信を与える出来事、すなわちこの死への勝利を思うにつけ、喜びに満たされます。」(「死に対する勝利」『リアホナ』1997年4月号、5-6)

一人の生徒に、マタイ 28:7-10 を声に出して読んでもらいます。

- 7節によると、御使いは女たちにどうするよう命じられましたか。
- 女たちはなぜ「恐れながらも大喜びで」立ち去ったのだと思いますか。
- 女たちが経験したことを弟子たちに知らせるために走って行くと、どうなったのでしょうか。

マタイ 28:11-15 のまとめとして、女たちがイエスの復活の知らせを弟子たちに伝えようと走っている間、祭司長たちは、墓の番をしていた兵士たちから何があったか聞いたことを説明します。ユダヤの指導者たちは人々が真実を知ってしまうのを恐れたため、番人に金を与えて、番人が眠っている間にイエスの弟子たちがイエスの遺体を墓から取り出したという、うそを広めさせました。

一人の生徒に、マタイ 28:16-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ガリラヤに行きなさいという女たちの言葉に従ったときに、11人の使徒たちが受けた祝福を見つけてもらいます。

- 女たちの言葉に従った11人の弟子たちは、どのような祝福を受けましたか。
- 一人の生徒に、マタイ 28:19-20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちが救い主に会ってから、主は使徒たちに何を行うように命じられたかを見つけてもらいます。

- 救い主に会った後、使徒たちはどのようなことを行うよう命じられましたか。
- わたしたちがイエス・キリストの証を得るときに、わたしたちが負う責任について、使徒たちの経験からどのようなことを学ぶことができるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちがイエス・キリストの証を得るとき、わたしたちはイエス・キリストについて周りの人に証する責任を負う。)

生徒たちにホワイトボードのところに来てもらい、自分たちが周りの人にイエス・キリストについて証できる方法を書き出してもらいます。ホワイトボードに書き出したアイデアについて説明してもらったり、例を挙げてもらうとよいでしょう。その後、次の質問をします。

- 20節によると、救い主は使徒たちにどのような約束をなさいましたか。
- あなたが福音を分かち合おうと努めるときに、主はどのような方法であなたと「ともにいる」、またはあなたを助けてくださったのでしょうか。

自分の周囲の人に、イエス・キリストの証を分かち合うよう生徒を励ましてください。生徒が証を分かち合うことができるように、ホワイトボードに書いたアイデアの一つを使って、イエス・キリストと福音について、家族、友人、その他の人に証するための個人の目標を立ててもらいます。立てた目標を、生徒のクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

📖 マタイ 28:19-20

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。マスター聖句についての説明や、これらの聖句の暗記に役立つ活動のリストについては、この手引きの付録を参照してください。

 **マスター聖句-マタイ 28:19-20**

生徒がこのマスター聖句を暗記できるように、クラスを二人一組に分け、各組の一方の生徒に、その聖句を一枚の紙に書いてもらいます。その聖句を幾つかの語句に切り分けてもらいます。切り分けた紙片を混ぜてから、正しい順番になるように（必要に応じて聖典を参考にしながら）並べます。聖典を使わなくてもできるようになるまで、何度も練習してもらいます。紙片を一つ取り除いて、取り除いた部分は思い出して言うように伝えます。一つの紙片を暗記できたら、紙片をもう一つ取り除いて、暗記できた部分と、今取り除いた部分を両方思い出して言えるかやってもらいます。聖句全体を暗唱できるようになるまで、この手順を続けるように言います。

マルコによる福音書

への導入

なぜこの書を研究するのか

マルコによる福音書は、イエス・キリストの教え導く業、死、復活をベースの速い展開で述べ、救い主の力強い御業にしばしば焦点を当てています。その中でも主要なものが贖罪であり、マルコはそれをイエスの久しく待ち望まれた約束のメシアとしての使命の中核として強調しました。救い主がどのように贖いの使命を全うされたかについてのマルコの記述と証を研究することにより、生徒たちは福音により一層改心し、主に従う勇気を見いだすことができます。

誰がこの書を書いたのか

この書の著者は、マルコ（「ヨハネ・マルコ」とも呼ばれる）です。マルコはイエス・キリストの最初の弟子の一人ではありませんでしたが、後に改宗し、使徒ペテロを助けました。マルコはこの福音書をペテロから聞いた話を基にして書いた可能性もあります（『聖句ガイド』「マルコ」参照）。

マルコと彼の母親であるマリヤはエルサレムに住んでおり、彼らの家は最も初期の、一部のキリスト教徒たちが集う場所となっていました（使徒 12：12 参照）。マルコは、バルナバとパウロ（パウロ）の最初の伝道の旅で彼らを助けるため、エルサレムを去りました（使徒 12：25；13：4－6，42－48）。パウロはその後、ローマでマルコが彼に同行していたこと（コロサイ 4：10；ピレモン 1：24 参照）を記し、「彼はわたしの務のために役に立つ」同僚であるとたたえています（2 テモテ 4：11 参照）。ペテロはマルコを「わたしの子マルコ」（1 ペテロ 5：13）と呼んでおり、彼らの親しい関係が伺われます。

いつ、どこで書かれたか

マルコによる福音書が書かれた正確な時期はわかっていません。マルコは、紀元 64 年から紀元 70 年の間、紀元 64 年の使徒ペテロの殉教後の間もない時期にローマでこの福音書を書いたと考えられています。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

マルコによる福音書には詳しい内容が含まれています（アラム語の引用からの翻訳、ラテン語の表現、ユダヤ人の風習の説明など）。記録者はキリスト教に改宗した読者のみならず、ローマ市内やローマ帝国全体に住む読者（その多くはローマ市民や他の異邦の国々の出身者によって構成される）を意識して書いたように思えます。ローマ帝国の各地において多くの教会員に

とって信仰における厳しい試練が目立った時期に、マルコがローマでペテロと共にいたであろうと、多くの人々は考えています。

マルコによる福音書の三分の一には、救い主の教えと、救い主の生涯の最後の週における経験が詳しく述べられています。マルコは、苦しみを受けられた神の独り子が最終的に邪悪、罪、死に打ち勝たれたという証を述べています。この証は、救い主に従う人々は恐れる必要がないことを意味しており、迫害や試練、死に直面するときでさえ、彼らは主に従っていました。彼らは主が助けてくださること、そして終わりには主の約束が果たされることを知っており、確信を持って耐えることができたのです。

この書の特徴は何か

マルコによる福音書は唐突かつ劇的に始まり、早いペースを保ちながら数々の出来事を次々に語っていきます。マルコは、「すぐに」（*straightway* と *immediately*）という言葉を頻繁に使用し、早いペースと動きを感じる効果を与えています。

マルコによる福音書に書かれた内容の 9 割以上はマタイによる福音書やルカによる福音書にも書かれていますが、マルコの記述には、救い主の憐れみと主の周囲の人々の反応をより理解する助けとなるさらに詳しい記述が、しばしば含まれています（マルコ 9：14－27 と マタイ 17：14－18 を比較）。例えばマルコは、主の教え導く業の初期に、ガリラヤやその他の地域で主が幅広く熱狂的に受け入れられたことについて記述しています（マルコ 1：32－33，45；2：2；3：7－9；4：1 参照）。マルコはまた、懐疑心（マルコ 2：6－7 参照）から瞬く間に敵意を募らせ、イエスの殺害を企んだ（マルコ 3：6 参照）律法学者とパリサイ人の否定的な反応についても注意深く語っています。

マルコによる福音書の重要なテーマには、イエスがどなたであって、誰がイエスの真の姿を理解していたかという質問、そして「自分の十字架を負うて、〔イエス〕に従う」（マルコ 8：34）必要があるという弟子の役割があります。さらに、マルコによる福音書は自ら育つ種のとえ（マルコ 4：26－27 参照）、デカポリス地方での耳が聞こえない人の癒やし（マルコ 7：31－37 参照）、ベツサイダでの盲人の段階的な癒やし（マルコ 8：22－26 参照）の記述がある唯一の福音書です。

概要

マルコ 1－4 章 イエスはバプテスマのヨハネからバプテスマを受け、福音を宣べ伝え始めて弟子を召し、奇跡を行われる。イエスへの敵対心が増す中で、イエスはたとえでお教えになる。

マルコ 5－7 章 救い主は引き続き奇跡を行われ、人々への憐れみを示される。バプテスマのヨハネが殺された後、イエスは 5,000 人以上の人々に食物を与え、水の上を歩かれる。イエスは誤った言い伝えに対抗してお教えになる。

マルコ 8－10 章 イエス・キリストは引き続き奇跡を行われる。ペテロはイエスがキリストであることを証する。救い主は、御自身の苦難、死、復活について三度預言されるが、弟子たちは主の言われることの意味をまだ完全に理解していなかった。主は弟子たちに、主の弟子に必要なとされる謙遜と奉仕についてお教えになる。

マルコ 11－16 章 救い主の生涯の最後の週、主はエルサレムに入られ、主の弟子たちに教えを説き、ゲツセマネで苦しまれた後、十字架にかけられる。イエス・キリストが復活される。

第34課

マルコ1章

はじめに

バプテスマのヨハネは、「罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマ」を宣べ伝えていました(マルコ1:4)。ヨハネからバプテスマを受けた後、救い主は福音を宣べ伝え、神の力と権

能によって奇跡を行い始められました。主は汚れた霊を追い出し、重い皮膚病にかかった人を癒やされました。主の名声はガリラヤ中に広まりました。

教えるための提案

マルコ1:1-20

イエス、教え導く業を始められる

レッスンの数日前に、二人の生徒に、レッスンのときにイエス・キリストについての証を簡単に分かち合ってくれるように依頼します。ディボーショナルの後、その二人の生徒に救い主についての証を分かち合ってもらいます。その後、次の質問をします。

- 一人だけから証を聞くよりも、数人の人々から証を聞くことには、どのような価値があるでしょうか。
- これまでマタイの証を研究してきて、今マルコの証を研究することには、どのような価値があると思いますか。

マルコ1:1-4, 9-11に目を通し、マルコが救い主の生涯の記述を始めた出来事を見つけてもらいます。

- マルコはどのような出来事からその記述を始めたのでしょうか。

救い主の生涯についてのマルコの記述が、マタイのものとは異なっていることを説明します。マルコの記述は突然始まり、早いペースで、主の御業と奇跡に焦点を当てることによって、その神性を強調しています。マルコは、おそらく使徒ペテロから学んだ事柄をもとに彼の記述を書いたと思われます。

マルコ1:12-20の要約として、イエスが40日間の断食をなさってから、悪魔の試みに遭われたことを説明します。また、イエスはガリラヤで悔い改めを宣べ伝え、御自分に従うよう弟子たちを召されました。(注—これらの出来事は、マタイ4章のレッスンで深く掘り下げて教えられました。)

マルコ1:21-39

イエス、悪霊を追い出し、病人を癒やされる

ホワイトボードに「敵地」という言葉を書き、敵地で兵士はどのような危険に直面するか生徒に尋ねます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の次の言葉を読んでもらいます。



「……若人の皆さんは今、敵の領域で成長しています。

わたしたちは、天で戦いがあり、反逆者ルシフェルと彼に従う者たちが『地に投げ落とされ[た]』ことを聖文から知っています[黙示12:9]。ルシフェルは天の御父の計画を破壊しようと決意して、全ての人の思いと行いを支配することを求めています。」(「若人への助言」『リアホナ』2011年11月号、16)


- この地上におけるわたしたちの生活は、どのような点で敵地にいることに似ているでしょうか。

今までに自分を取り巻く邪悪な影響や誘惑に圧倒されたことがあれば、生徒たちに手を挙げてもらいます。生徒たちに、マルコ1:21-39を研究しながら、邪悪な影響や誘惑に直面するときに助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マルコ 1:21 - 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがカペナウムでなされたことと、ユダヤ人がどのように反応したかを見つけてもらいます。

- 救い主の教えに対してユダヤ人が驚いたのはなぜでしょうか。
- イエスが「権威ある者のように」教えられたとはどういう意味だと思いますか (マルコ 1:22)。

律法学者はモーセの律法の専門家だとみなされていたことを説明します。彼らは説教するとき、しばしばかつての律法の権威者の言葉を引用しました (*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年] 103 参照)。これとは対照的に、イエスは御父の力と権威をもって、モーセの律法を授けた偉大なエホバとして語られました。

 生徒にマルコ 1:23 - 26 を黙読してもらおうか、「聖書ビデオーイエス・キリストの生涯」から「悪霊につかれた男を癒されるイエス」(1分48秒)を見せます。このビデオは *LDS.org* で視聴できます。生徒に、イエスが会堂で教えられたときに何が起こったかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。「汚れた霊」とは悪霊を指していることを説明します。

- 汚れた霊はイエスについて何を知っていたのでしょうか。
- 汚れた霊はイエスがどのような御方なのか、どうして知っていたのでしょうか。(肉体に取りつくことを求める悪霊はルシフェルに従った者であり、彼らは、天から追われる前は、天の御父とイエス・キリストのみもとに住んでいた。)
- もしあなたがそのときその会堂にいたとしたら、イエスについてどう思ったのでしょうか。

一人の生徒に、マルコ 1:27 - 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが男から汚れた霊を追い出されるのを見た後、人々がどのように反応したか見つけてもらいます。

- 人々はどのように反応したのでしょうか。
- この話から救い主の力について何が分かるのでしょうか。(生徒は次のような内容の真理を見つけるでしょう。救い主は悪魔とそれに従う者を支配する力をお持ちである。)
- この真理を知るとは、自分を取り巻く邪悪な影響や誘惑に圧倒されたときに、どのような助けとなるのでしょうか。

一人の生徒に、大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長の次の話を読んでもらいます。



「[ジョセフ・スミスはこのように] 教えています。『邪悪な霊にも活動の範囲があり、限界があり、支配を受けている律法がある。』[*History of the Church*, 第 4 巻, 576] ですから、サタンとその使いたちは何でもできるというわけではないのです。……

サタンの業は、福音の聖約と儀式に従い、キリストのもとに来る全ての人の働きによって、打ち砕かれます。」「(主に仕え、悪魔に立ち向かう)『聖徒の道』1995 年 11 月号, 9 - 10)

- ファウスト管長によれば、悪魔に抵抗するためのより強い力を得るため、わたしたちは何ができるのでしょうか。
- 28 節によれば、救い主が悪霊を追い出した後、何が起きたのでしょうか。

マルコ 1:29 - 39 の要約として、救い主は熱病であったシモン・ペテロのしゅうとめを癒やし、その他大勢の病人を癒やし、また、多くの悪霊を追い出されたことを説明します。イエスはガリラヤでの宣教を続けられました。

マルコ 1:40 - 45

イエス、重い皮膚病にかかった人を癒やされる

生徒に、マルコ 1:40 に目を通し、ガリラヤで引き続き教えを説かれていた救い主のところに誰が来たかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。前に出てきてもらった生徒が重い皮膚病の患者であると想像するよう残りの生徒に言います。

重い皮膚病とは、皮膚、神経、目、骨、手足を患う慢性疾患であることを説明します。治療しないと、痛みを伴う死に至ります。古代では、重い皮膚病の患者に触れた者は誰でもその病にかかるであろうと信じられていました。前に出てきてもらった生徒に注意を向け、次のように尋ねます。

- もし（その生徒の名前）が古代に生きている重い皮膚病の患者だったとしたら、どのように扱われていたでしょうか。

地域社会の健康と福利を守るため、重い皮膚病の患者は町の外で暮らすことを余儀なくされていたことを説明します。律法は彼らに、「汚れた者！」と叫んで、彼らに近づく者に警告するよう求めていました（『聖句ガイド』「重い皮膚病」；レビ 13：44 - 46 参照）。何人かの生徒に、重い皮膚病の患者役の子供のそばを通り過ぎて、この場面を再現してもらいます。彼らを通り過ぎる際、重い皮膚病の患者役の子供に「汚れた者！ 汚れた者！」と叫ぶように言います。通り過ぎる生徒たちに、このような状況になったらどのような反応を示すか尋ねます。それから生徒に着席してもらいます。

- 重い皮膚病を患っていることはあなたの生活にどのような影響を与えるでしょうか。
- 生徒に、自分がイエス・キリストの時代の重い皮膚病の患者であると想像してもらいます。救い主が近づいていらっしやるのを見たら、どうするか尋ねます。
- マルコ 1：40 によれば、その重い皮膚病の人は救い主を見たときに何をしましたでしょうか。（「願いに来て」という言葉は、請い願う、あるいは懇願するという意味であることを説明します。）
- その重い皮膚病の人はイエス・キリストに対する信仰をどのように示したでしょうか。「みこころのままに」という言葉は、その重い皮膚病の人の信仰をどのように表しているでしょうか。

生徒たちに、マルコ 1：41 - 42 を黙読して、救い主がこの人の嘆願にどのようにお応えになったかを見つけてもらいます。

- その男の懇願に対する救い主の対応のどのような点に、あなたは心を動かされましたか。
- もしあなたがこの重い皮膚病の人だったとしたら、救い主に触っていただくことは、あなたにとってどのような意味を持ったでしょうか。それはなぜですか。
- イエス・キリストがあなたの重い皮膚病を癒やして下さったとしたら、あなたの人生はどのように変わっていたでしょうか。

ホワイトボードに次の言葉を書きます-**重い皮膚病は罪にたとえることができます。**

重い皮膚病は罪にたとえることができる（レビ 14 章）ことを生徒が理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読んでもらいます。

「聖書の時代における重い皮膚病は、その人を惨めにさせる肉体的な影響に加え、罪と汚れの象徴とみなされていました。この邪悪な病が肉体を侵食し滅ぼしたように、罪は人の霊的な側面を侵食し腐敗させるのです。」（*The Mortal Messiah*, 全 4 巻 [1979 - 1981 年], 第 2 巻, 45）

- どのような点で重い皮膚病は罪にたとえることができるでしょうか。（重い皮膚病を罪にたとえる際に、病は必ずしも罪によって引き起こされるわけではないことを生徒に理解させます。）

一人の生徒に、マルコ 1：40 - 42 を声に出して読んでもらいます。その際、「重い皮膚病にかかった人」の代わりに「罪人」と、「重い皮膚病」の代わりに「罪」と読み替えてもらいます。他の生徒には、聞きながら、この患者の癒やしを、どのように罪から清められることにたとえることができるか見つけるように言います。

- この方法で聖句を読んだ場合、どの言葉が赦されたという概念を示しているでしょうか。
- 重い皮膚病の患者が重い皮膚病から清められるために行ったことは、わたしたちが罪から清められるために行く必要があることに、どのように当てはめることができるでしょうか。
- 重い皮膚病の人の癒やしを罪からの清めにたとえることによって、わたしたちはどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つかるようにします。わたしたちが信仰を働かせ、救い主のみもとに来るならば、主はわたしたちを哀れんでくださり、罪から清めてくださる。生徒の言葉を使って、この原則をホワイトボードに書きます。）
- 救い主がわたしたちの罪を赦して下さるために、どのような点でわたしたちは信仰を行使し、救い主のもとに来なければならないのでしょうか。

聖文を自分自身に当てはめる

聖文を自分自身に当てはめるとは、自分自身の生活になぞらえることを意味します。生徒は自分の経験と聖文中の経験の類似点に目を向けるとき、福音の教義と原則を見つかる能力を増すことができますようになります。生徒はまた、これらの教義や原則をどのように生活の中に応用することができるか、もっとよく分かるようになります。

癒やされる前と癒やされた後で、重い皮膚病の患者の生活はどのようなものとなったか、生徒にもう一度よく考えてもらいます。

- 罪から清めていただくためにイエス・キリストのもとに来ることは、人の人生をどのように変えることができるでしょうか。
- 誰かの人生が、イエス・キリストの贖罪の力によって罪から清められた後で変わったのを見たのはどのようなときでしたか。（生徒が個人名を言ったり、過去の罪をあらわにするようなことがないように注意します。）

生徒たちに、清められる必要がある自分の罪について、深く考えるように言います。主にそれらを清めていただくために、祈り、悔い改め、従順であることを通して主に対する信仰を行使することにより、救い主のもとに来るよう生徒たちに勧めます。救い主の贖罪が持つ清めの力に対するあなたの証を述べるとよいでしょう。

数人の生徒に、交代でマルコ1:43 - 45を読んでもらいます。生徒に、救い主がその癒やされた重い皮膚病の人にお命じになったことを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

モーセの律法では、そのように癒やされた重い皮膚病の人は、自分の体を神殿の祭司に見せ、犠牲をささげることが求められたことを説明します。

- その男は、救い主が他の人々に話さないようにと彼に警告されてから、どうしたでしょうか。
- その男が癒やされたことを言い広めたことで、どうなったでしょうか。

マルコ1章に記録されているイエス・キリストの行動について、最も印象に残っていることを生徒に尋ねて、このレッスンを終わるとよいでしょう。

マルコ2-3章

はじめに

イエスは中風の者を赦し、癒やされました。その後、マタイに御自分についてくるよう召されました。主は、安息日について律法学者とパリサイ人たちに教えられました。救い主は引き

続き多くの人々を癒やされ、福音を宣べ伝えるように使徒たちを遣わされました。また、救い主は聖霊を冒瀆する言葉について警告されました。

教えるための提案

マルコ2:1-12

イエス、中風の者を赦され、癒やされる

生徒たちに、愛する誰かが専門的な治療を必要とする健康上の問題に直面していると想像してもらいます。

- 愛する人を助けるために、あなたなら誰を捜し求めますか。それはなぜですか。
- その人を助けられる医者たった一人しかいないのに、その医者との予約を取るのが困難な場合、あなたならどうしますか。

マルコ2:1-4の要約として、ガリラヤのカペナウムの村に「中風の者」(3節)、すなわち、まひした人がいたことを説明します。4人の人がこの人をイエスがいた家に運んできました。群衆のためにその家に入ることができないのを知った彼らは、その家の屋根をはぎ、救い主のおられる所にその中風の人をつり下ろしました。

一人の生徒に、マルコ2:5を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが中風の者に語られたことを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

数人の生徒に、マルコ2:6-12を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、次に何が起きたかを見つけてもらいます。

- 6-7節によると、「幾人かの律法学者」は救い主の言葉にどのように反応したでしょうか。(主が罪の赦しを与えるとされたことで彼らは憤った。)
- イエスは律法学者に何と尋ねたでしょうか。
- 救い主はこの人を癒やされたことによって、どのようなことを示し、教えられたのでしょうか。(生徒が答えた後、次の真理を見つけるよう助けます。イエス・キリストはわたしたちを霊的にも肉体的にも癒やす力を持っておられる。)

律法学者たちは、中風の人が床から起き上がって歩くのを見たとき、イエス・キリストが病を癒やす力を持っておられるという否定の余地のない証拠を目の当たりにし、主が罪を赦すことができるということを御自身で証をされるのを聞いたことを指摘します。しかしながら、これらの人々は、その後、イエスに近づき、自分の罪のために赦しを求めた兆候はありません。

(注 — マルコ2:1-12に記録された出来事は、ルカ5章のレッスンで詳しく採り上げます。)

マルコ2:13-22

イエスは御自身に従ってくるようマタイを召され、取税人や罪人たちと食事をともにされる

生徒を二人一組に分け、それぞれの組に紙を1枚ずつ渡します。生徒たちに、次の質問をそれぞれの組で話し合い、答えをその紙に列挙してもらいます。

- 罪に対する主の赦しを求めようとしない人々がいるのはなぜでしょうか。

何人かの生徒に答えを發表するように言います。答えには次の内容が含まれているでしょう—罪を犯すのをやめたくない。プライドや恥ずかしさから罪を認めたり告白したりしたくない。悔い改めなくても主が赦してくださることを願っている。主が赦す力をお持ちであることを信じながらも、自分の特定の罪を赦してくださるといふ信仰には欠けている。

生徒に、マルコ 2 : 13 - 22 の中から、わたしたちが主の赦しを求めるのに励みとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マルコ 2 : 13 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がまひした人を癒やされた後に何をなさったか見つけてもらいます。

- 救い主はこの人を癒やされた後に何をなさったでしょうか。
- レビは救い主の招きに対してどのように応じたでしょうか。

レビは後にマタイとして知られ、マタイによる福音書を書いたマタイと同一人物であることを説明します。「収税所にすわっている」という言葉 (14 節) は、マタイが取税人であり、「カペナウムでローマ人のための税の取り立てをして……ヘロデ・アンティパスに雇われていたと推測される」(『聖句ガイド』「マタイ」) ことを意味しています。多くのユダヤ人は、取税人が自分と同族の民からローマ人のために金を取り立てる裏切り者であると見なしていたため、取税人を嫌っていました。

- 15 節によれば、マタイは救い主と主の弟子たちのために何をしましたでしょうか。
- 他にはどのような人々がこの食事の席に着いていたでしょうか。

救い主がこの世での教え導く業をされていた頃は、食事を共にすることに、単に一緒に食べたり飲んだりすること以上の意味があったことを説明します。それは友情と平和のきずなが列席した全ての人々の間に存在していたことを示しています。

一人の生徒に、マルコ 2 : 16 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、取税人と食事を共にする救い主を見たときに、律法学者とパリサイ人たちがどのように反応したか見つけるように言います。

- 律法学者とパリサイ人たちは何と言ったでしょうか。
- イエスが取税人や罪人たちと食事を共にすることを彼らが非難したのは、なぜだと思いますか。

一人の生徒に、マルコ 2 : 17 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、律法学者とパリサイ人の非難に対する救い主の反応を見つけてもらいます。

- 救い主は御自身について説明されるのにどのような言葉をお使いになったでしょうか。(「医者」という言葉を用いることで、救い主は霊的にも肉体的にも癒やす力を持っていることを再び明確にしておられることを指摘します。)
- 救い主の対応は、主が取税人や罪人たちと行動を共にする理由を律法学者とパリサイ人たちが理解するうえでどのような助けとなったでしょうか。
- 17 節から、救い主がわたしたちの罪に対してどのように対応されるかについて、どのような真理を学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。救い主は、わたしたちが罪を悔い改め、癒やされるのを助けたいと望んでおられる。)
- イエスはわたしたちが罪を悔い改め、癒やされるのを助けたいと望んでおられると信じることはなぜ大切なのでしょうか。

一人の生徒に、七十人のクレグ・A・カードン長老の次の話を読んでもらいます。



「主は人を愛され、主が赦したいと望んでおられることを理解してほしいと願っておられます。……

薬物乱用やポルノグラフィーなどの常習癖を克服しようとしている人やその周囲の人、そして全ての人は、わたしたちの義にかなった努力を主が御存じであり、悔い改めを完了したときに……優しく赦してくださることを知ることが出来ます。」(「救い主は赦したいと望んでおられます」『リアホナ』2013年5月号、15 - 16)

- 主はわたしたちが罪を悔い改め、赦しを受けるのを助けたいと願っておられるということをして、わたしたちはどのようにして知ることができるでしょうか。

生徒に、自分が取税人と罪人(救い主が必要であることを認め、主のみもとに来る人)のようであるか、または律法学者とパリサイ人(主のみもとに来て主の赦しと癒やしの力を求めなかった人)のようであるかを深く考えてもらいます。

救い主のわたしたちを癒やす力とその願いについて証します。そして、必要であれば、悔い改めを通して主の赦しを求めるよう、生徒を励まします。

マルコ2:18-22の要約として、主が弟子たちと一緒にいる間は、弟子たちが断食をしない理由を教えられたことを説明します。主はまた、一部の人々にとって主の福音を受け入れるのが難しい理由も教えられました。(注—この教えは、ルカ5章のレッスンでさらに深く採り上げられます。)

マルコ2:23-3:6

イエス、安息日についてお教えになる

安息日を聖く保つために、今まで何か活動に参加しない選択をしたことがあるか生徒に尋ねます。数人の生徒に経験を分かち合ってもらいます。

次の質問をホワイトボードに書き、マルコ2-3章を研究しながら、生徒たちにそれを深く考えてもらいます—安息日に行うのにふさわしい活動かどうか、どのようにして分かるでしょうか。

クラスを二つのグループに分けます。一方のグループに、マルコ2:23-28を黙読してもらいます。(ジョセフ・スミス訳は27-28節をより明確にしていることを説明します。「したがって、安息日は休息の日として人に与えられた。人が神を賛美するためであり、食べることを禁じるためではない。それは人の子が安息日を定めたからである。それゆえ、人の子は、安息日にもまた主なのである。」[ジョセフ・スミス訳、マルコ2:26-27])もう一方のグループには、マルコ3:1-6を黙読してもらいます。生徒に、安息日を聖く保つという戒めに反しているとサドカイ人たちが信じた、救い主と弟子たちが行った事柄を見つけてもらいます。

時間を十分に取ってから、次の質問をします。

- 救い主と弟子たちが安息日に行ったことで、パリサイ人たちが律法に反していると信じた事柄は何だったのでしょうか。(穂を摘むことと人を癒やすこと。)
- 安息日に穂を摘むことや人を癒やすことを、パリサイ人たちが神の律法に反していると考えたのはなぜでしょうか。

必要であれば、ユダヤ人の教師たちはモーセの律法に、口伝律法や不文律と呼ばれる、勝手な規則や解釈を加えたことを生徒に思い出してもらいます。これらの追加された規則は、神の律法に背くことを防ぐのが目的でしたが、安息日を聖く保つという戒めを含め、一部の人が特定の戒めの真の目的を理解することを妨げることにもなりました。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—わたしたちは_____によって安息日を清く保つことができる。

- マルコ2-3章にある救い主の教えを基にして、この文をどのように完成させますか。(生徒たちが答えたら、次の真理を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。わたしたちは、神をたたえ、善い業を行うことによって安息日を聖く保つことができる。)
- どのような方法で神の聖日に神をたたえることができるでしょうか。
- 安息日に行う善い業の例として、どのようなものがあるでしょうか。

生徒が、安息日にふさわしい活動を判断する方法を理解する助けとなるよう、一人の生徒に大管長会のジェームス・E・ファウスト管長による次の言葉を読んでもらいます。



「安息日にふさわしいか、ふさわしくないかの境界線は、どこにあるでしょうか。その答えは与えられた指針の中で、一人一人が自分で見いださなければなりません。その指針は、聖典や現代の預言者の言葉の中に書かれていると同時に、わたしたち自身の心の中にも刻み込まれていなければならず、自らの良心によって管理されるべきものなのです。……『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして』主の前にへりくだるなら、安息日を破るようなことはないでしょう(マタイ22:37参照)。

安息日に何がふさわしく、何がふさわしくないかの判断は、主の御前に正直になることによって、一人一人がなすべきことなのです。安息日には、行わなければならない事柄や、なすべき事柄を礼拝の精神を込めて行い、他の活動を制限すべきです。」「(主の日)『聖徒の道』1992年1月号、40)

- 安息日に神を礼拝し、善い行いをしようと努力したときにどのように祝福されたと感じましたか。

生徒に、さらに安息日を聖く保つ一つの方法について深く考え、そのように行う目標をクラスノートか聖典学習帳に書くように励まします。

生徒たちが 教義と原則を理解する 助けとなる質問をする

生徒が教義と原則を見つけて有意義に応用する前に、それらをよく理解しなければなりません。生徒が特定の教義や原則の意味をもっとよく理解するよう導くような質問や、原則を現代の状況に照らして熟考するよう生徒を促す質問をします。また、生徒に、教義や原則について理解したことを説明してもらいます。

マルコ 3:7 - 35

イエスは多くの人々を癒やし、伝道のために使徒たちを送り出し、神への冒瀆について人々に警告される

マルコ 3:7 - 35 の要約として、イエスはガリラヤの海に行かれ、汚れた霊に取りつかれた人を含め、そこまで主について来た多くの人々を癒やされたことを説明します。十二使徒を選ばれた後、イエスは使徒たちを聖任して、福音を宣べ伝え、癒やし、悪霊を追い出すために送り出されました。その後、イエスは聖霊を汚す言葉を述べることに對して律法学者たちに警告し、天の御父の御心を行う者が御自分の家族であると教えられました。

(注 — マルコ 3:7 - 35 に記録された出来事の幾つかは、マタイ 12:22 - 35 のレッスンで詳しく採り上げました。)

レッスンを終えるにあたって、このレッスンで見つけた真理について証を述べるとよいでしょう。

家庭学習クラスのレッスン

マタイ 26:31 – マルコ 3:35 (単元 7)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマタイ 26:31 – マルコ 3 章 (単元 7) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マタイ 26:31 – 75)

ゲツセマネの園でイエスが苦しみを受けられたことを学習したときに、生徒たちは、イエス・キリストが、贖罪を成就するために御自分の御心を、御父の御心に服従させられたこと、そしてわたしたちが天の御父の御心に従うことを選ぶときに、イエス・キリストの模範に従っていることを学びました。ゲツセマネで救い主が使徒たちに教えられたことから、生徒たちは、わたしたちが常に用心して祈るならば、誘惑に耐える力を得ることができると学びました。

第 2 日 (マタイ 27 – 28 章)

救い主の十字架の刑の記述から、生徒たちは、贖罪の一環として、イエス・キリストは天の御父の御霊が離れ去るのを感じられたことを学びました。生徒たちは、イエス・キリストが、マタイ 26 章で約束された通りに、天の御父の御心を成就するために苦しみを受けられたことも学びました。また、救い主の死のときに神殿の幕が真っ二つに裂けたことを学習したときに、イエス・キリストの贖罪のおかげで、わたしたちが悔い改めて戒めを守るならば、誰でも神のみもとに行けるという真理を象徴していることを学びました。

第 3 日 (マルコ 1 章)

イエスが汚れた霊を追い出された出来事から、救い主は悪魔とその僕たちに勝る力をお持ちであることを生徒たちは学びました。生徒はまた、イエスが重い皮膚病にかかった人を哀れみ清められたように、信仰を働かせて救い主に近づくときに、主はわたしたちに哀れみを示され、罪から清めてくださることを学びました。

第 4 日 (マルコ 2 – 3 章)

中風の者を赦し、癒やされたことを生徒が学習したときに、イエス・キリストは、霊的にまた肉体的に癒やす力をお持ちであることを学びました。取税人や罪人たちと食事とともにされたイエスについて学習したときに、救い主の望みは、わたしたちが罪を悔い改めて癒やされるよう助けることだと学びました。安息日を破っているとして、パリサイ人たちがイエスとイエスの弟子たちを責めたときのことを読み、神に栄光を帰し良い働きをすることで、わたしたちが安息日を聖く保つことができると生徒たちは学びました。

はじめに

イエス・キリストは復活されて、使徒たちを含めて多くの人々に御姿を現されました。全ての国々に福音をもたらすよう使徒たちに命じられました。

教えるための提案

マタイ 28 章

イエス・キリストは、復活されて多くの人々に御姿を現される

生徒たち自身か知人の中に、身近な人で亡くなった人がいるかどうか考えてもらいます。その後、次の質問をします。

- 愛する人の死がわたしたちにとってつらいのはなぜでしょうか。

生徒にマタイ 28 章を学習してもらい、大切な人がこの世を去るときに慰めを得る助けとなる真理を見つけてもらいます。

週の初めの日 (日曜日) の明け方に、マグダラのマリヤともう一人のマリヤという名の女が、イエスの遺体が横たわる墓にやってきたことを説明します。

数人の生徒に、マタイ 28:1–6 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、女たちが墓穴に近づいたときに何を見たかを見つけてもらいます。

- 墓穴に近づいた女たちは何を見たでしょうか。(ジョセフ・スミス訳は、女たちが見た天の御使いは一人ではなく、二人であったことを明確にしていることを説明します [ヨハネ 20:12 も参照]。)
- 二人の天の御使いを見たのがあなただったら、どのような反応をしていたと思いますか。
- 4 節によると、見張りをしていた人たちはどのような反応をしましたか。
- 5 – 6 節によると、御使いは女たちに何と告げたでしょうか。
- これらの聖句からどのような真理を学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストは死から復活された。)

生徒たちが復活の教義を理解できるように、二人か三人のグループに分けて、付属の配付資料をグループで完成させてもらいます。

「よみがえられたのである」(マタイ 28:6)

『聖句ガイド』にある「復活」という言葉を研究します。その後、次の質問を話し合い、質問の答えを与えられた余白に記録します。

死から生き返ることと復活することの違いは何でしょうか。	
イエス・キリストの復活の結果、人類全てにどのようなことがあるでしょうか。	
復活の教義を理解することは、愛する人を亡くした人々にどのように慰めをもたらすのでしょうか。	

配付資料を完成して学んだ事柄を、何人かの生徒に発表してもらいます。

一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「最初の復活祭の日曜日、その復活の朝の奇跡は、全人類のための奇跡です。それは、神の愛する御子が全人類の罪を贖うために命をささげられた、神のあらゆる息子と娘に愛の犠牲をささげられた、神の力のなせる奇跡です。その奇跡を行われることで、死の封印を解かれました。……」

まさに主が御自身の肉体を取り戻されて墓からよみがえられたように、わたしたち全ても、その復活の日に、霊と肉体が再び一つになり、生ける者となることのできるのです。

ですから、この最も栄光ある、最も慰めとなる、人類史上最も確かな出来事である、死への勝利を思い起こし、全人類にとって大きな喜びであるこの勝利を、多くの人々とともに大いに喜びましょう。 (“The Victory over Death,” *Ensign*, 1997年4月号, 4)

一人の生徒に、マタイ 28:7-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの墓にいた女たちに何をしようお命じになったかを見つけてもらいます。

- ・ 7 節によると、御使いは女たちにどうするよう命じられましたか。
- ・ 女たちはなぜ「恐れながらも大喜びで」立ち去ったのだと思いますか。(マタイ 28:8)
- ・ 女たちが経験したことを弟子たちに知らせるために走って行く、どうなったでしょうか。

マタイ 28:11-15 の要約として、女たちがイエスの復活の知らせを弟子たちに伝えようと走っている間、祭司長たちが、墓の番をしていた兵士たちから何があったか聞いたことを説明します。ユダヤの指導者たちは人々が真実を知ってしまうのを恐れたため、番人に金を与えて、番人が眠っている間にイエスの弟子たち

がイエスの遺体を墓から取りだしたという、うそを広めさせました。

一人の生徒に、マタイ 28:16-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ガリラヤに行きなさいという女たちの言葉に従ったときに、11人の使徒たちが受けた祝福を見つけてもらいます。

- ・ 女たちの言葉に従った11人の使徒たちは、どのような祝福を受けましたか。(彼らは復活された主にお会いした。)

生徒たちに立ってもらい、マタイ 28:19-20 を一緒に声に出して読んでもらいます。(これがマスター聖句であることを伝えます。)

クラス全員に、19-20 節を読み返して、使徒たちが救い主に会ってから、主は使徒たちに何を行うように命じられたかを見つけてもらいます。

- ・ 救い主にお会いした後、使徒たちはどのようなことを行うよう命じられましたか。
- ・ わたしたちがイエス・キリストの証を得るときに、わたしたちが負う責任について、使徒たちの経験からどのようなことを学ぶことができるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちがイエス・キリストの証を得る時、わたしたちはイエス・キリストについて周りの人に証する責任を負う。)

マタイ 27-28 章の家庭学習レッスンの一環として、イエス・キリストについて周囲の人々に証をする方法を書き出したことを思い出してもらいます(課題 3-単元 7 第 2 日のレッスン)。書いたことを生徒たちに分かち合ってもらい、自分たちの考えを説明して例を挙げてもらいます。生徒たちの答えをホワイトボードに書いてもよいでしょう。

- ・ マタイ 28:20 によると、救い主は弟子たちにどのような約束をなさいましたか。
- ・ あなたが福音を分かち合おうと努めるときに、主はどのような方法であなたと「ともにいる」、またはあなたを助けてくださったでしょうか。

生徒たちに、クラス全体か、小グループまたは二人一組で、イエス・キリストの証を分かち合ってもらおうとよいでしょう。また、あなた自身のイエス・キリストの証を生徒に分かち合うとよいでしょう。生徒たちに、イエス・キリストについて周囲の人たちにどのように証するかという聖典学習帳の課題に、自分の目標も書いたことを思い出してもらいます。何人かの生徒に、自分の目標を分かち合ってもらいます。

次の単元(マルコ 4-9 章)

次の単元で、水の上を歩かれたこと、ある男から悪霊を追い出されたこと、少女を死からよみがえらせたことなど、イエス・キリストが行われた奇跡について、さらに学ぶことを生徒たちに説明します。生徒たちに、激しい嵐にあったことがあるか、またそのときどのように感じたかを尋ねます。自分の人生で、激しい嵐とも言える苦難を経験しているように感じたことがあるかを考えてもらいます。次の週にマルコ 4-9 章を学習するとき、苦難のただ中で平安を見つける方法を見つけるよう生徒に伝えます。

マルコ 4 - 5 章

はじめに

ガリラヤの海辺で、イエスはたとえを使い弟子たちを教えられました。海の上で、救い主は嵐を静められました。イエスは、人から悪霊を追い出すことで、悪霊を超越しておられることを

示されました。カペナウムでの教え導く業の間に、イエスは長血を患う女を癒やし、ヤイロの亡くなった娘をよみがえらされました。

教えるための提案

マルコ 4 章

イエス、たとえを使って神の王国について教えられ、その後、嵐を静められる

生徒に、今までに遭った最もひどい嵐についてよく考えてもらいます。何人かの生徒に、自分の経験を簡単に説明するように言います。

- 人生での困難はどのような点で嵐に似ているでしょうか。

ホワイトボードに次の言葉を書きます（それぞれの言葉の下に余白を残しておきます）。「肉体的、霊的、精神的、社会的」ホワイトボードのそれぞれの言葉に当てはまるよう、次の質問をします。

- 青少年が経験する肉体的（あるいは霊的、精神的、社会的）な嵐の例にはどのようなものがあるでしょうか。（生徒の答えをホワイトボードの関連する言葉の下に列挙します。）

生徒に、マルコ 4 - 5 章を研究しながら、人生の嵐を経験するときに助けとなる原則を見つけてもらいます。

マルコ 4:1 - 34 の要約として、ガリラヤの海辺にいる間、救い主は群衆に対して幾つかのたとえを教えられたことを説明します。

数人の生徒にマルコ 4:35 - 38 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちがガリラヤの海を渡っているときにどのような困難に見舞われたかを見つけてもらいます。

- 救い主と弟子たちがガリラヤの海を渡っている最中にどのような問題が起こったでしょうか。

ガリラヤの海は海拔マイナス 700 フィート（約マイナス 213 メートル）にあり、周りの 3 方が山に囲まれていることを説明します。時折、冷たく乾いた風が山々から吹き下ろして、海上の暖かく湿った空気とぶつかり（時にはわずか数分で）、この比較的小さな水域に大きな波を伴う、突然の激しい嵐を引き起こします。

- 嵐は舟に対してどのような影響を与えていたでしょうか。
- もしあなたがこのような状況で舟の中にいたとしたら、どのような思いや感情を持つでしょうか。
- この恐ろしい時に、弟子たちは誰に助けを求めたでしょうか。弟子たちは救い主に何と願ったでしょうか。
- わたしたち自身の人生の嵐に立ち向かう際、どのような点でわたしたちはイエスの弟子たちが取ったような反応を取ってしまう可能性があるでしょうか。

一人の生徒に、マルコ 4:39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がどのように助けを求める弟子たちの嘆願に応えられたのか見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。「静まれ、黙れ」と「大なぎ」という言葉に印をつけるよう、生徒に勧めるとよいでしょう（39 節）。

- 困難や恐れを抱いているときに主の助けを求めるなら、主はわたしたちのためにどのようなことをしてくださるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。困難や恐れを抱いているときに主の助けを求めるなら、主はわたしたちに平安をもたらしてくださる s• 困難や恐れを抱いているときに、どのようにして主の助けを求めることができるでしょうか。（イエス・キリストの御名により天の御父に祈ることができる。）



ガリラヤ湖とアルベル山

祈りの答えは期待どおりの方法で得られないかもしれない。しかし、主の助けを求めるとき、わたしたちに平安がもたらされる。)

一人の生徒に、マルコ 4:40 - 41 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちがイエスについて疑問に思った事柄を見つけてもらいます。

- 皆さんが弟子たちとともにいたとしたら、41 節の疑問にどのように答えたいでしょうか。
- イエスが「どのような御方であるか」(41 節)を理解することは、どのようにわたしたちの信仰を強め、困難や恐れを抱いているときに主の助けを求めよう促すことができるでしょうか。

可能であれば、生徒に、賛美歌「主よ、嵐すさび」(『賛美歌』59 番)の歌詞を読んでもらいます。イエス・キリストは物理的な嵐だけでなく、個人の心の中の嵐をも静める力をお持ちであることを強調します。

何人かの生徒に、人生の嵐に立ち向かう際に主の平安を求め、主によって不安を軽減し慰めていただいたときのことについて分かち合ってもらいます。

クラスノートまたは聖典学習帳に、困難の最中に主の助けを求めるときに何ができるか書いてもらおうとよいでしょう。

マルコ 5:1 - 20

イエス、人から悪霊を追い出して癒やされる

マルコ 5:1 - 18 のレッスンの時間配分を決める要約として、イエスは「けがれた」または邪悪な霊たちに満たされた男を癒やされたことを説明します。これらの汚れた霊たちがその男から追い出された後、霊どもは豚の大群に入り込み、その後、崖から海へなだれを打って駆け下りました。この男はその後イエスが乗っていた舟に乗り込むことを願いました。

一人の生徒に、マルコ 5:19 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がこの男に行うようお命じになったことを見つけてもらいます。

- 救い主はこの男に何をしようお命じになりましたか。
- この男はどのように反応しましたか。
- 生活の中で救い主の御力を経験したときに、わたしたちは何ができるかについて、この話からどのような原則を学べるでしょうか。(生徒が次の原則を見つけてくれるよう助けます。生活の中で救い主の力を経験したとき、わたしたちは主の祝福や哀れみについて他の人々に証することができる。)

生徒に、主の祝福や哀れみについて証することによって、他の人々を助ける方法を考えてもらいます。

マルコ 5:21 - 43

イエス、長血を患う女を癒やし、ヤイロの亡くなった娘をよみがえらされる

一人の生徒に、七十人のシェーン・M・ボーエン長老の次の話を声に出して読んでもらいます。



「1990 年 2 月 4 日、6 番目の子供である三男が生まれました。タイソンと名付けました。……」

タイソンが生後 8 か月のとき、じゅうたんの上に落ちていたチョークを飲み込んでしまいました。このチョークがのどにつかえて息ができなくなってしまいました。『赤ちゃんが息をしていない。赤ちゃんが息をしていない』と、タイソンの兄が半狂乱に叫びながら、タイソンを抱えて 2 階にきました。わたしたちはすぐに蘇生術を施し、救急車を呼びました。

救急隊員が到着し、急いでタイソンを病院に運びました。待合室で、わたしたちは奇跡を求めて熱心に神に祈り続けました。一生分の時間がたったように思えた後、医師が部屋に入って来て言いました。『申し訳ありません。手は尽くしたのですが。赤ちゃんとゆっくりお別れしてください。』そして部屋を出て行きました。」「わたしが生きるの、あなたがたも生きるからである」『リアホナ』2012 年 11 月号, 16)

- もしタイソンがあなたの弟だとしたら、そのときあなたは何を思うでしょうか。あるいは何をしようか。
- このような経験は誰かの信仰をどのように試すことになるでしょうか。

レッスンの時間配分を決める

レッスンの前半に時間を使いすぎて、後半に急いで教えなければならなくなるのを避けます。準備するときに、自分が選んだ方法を使うとレッスンの各部にどれくらいの時間がかかるかを予測します。ほとんどの場合、教師は教える時間に収まらないほどの多くの教えるための資料があるので、聖書ブロックのどの部分を強調し、何を要約するかを決めます。

一人の生徒に、マルコ5:21-24を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤイロという名の会堂司が、これに似た苦難にどのように立ち向かったかを見つけてもらいます。

- ヤイロはなぜ救い主の助けを求めたのでしょうか。

一人の生徒に、マルコ5:25-26を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、他に誰が救い主の助けを必要としていたか見つけてもらいます。

新約聖書の記述ではその女の「長血」(25節)の本質については詳しく述べられていませんが、それが彼女を個人的に悩ましていたことは分かります。さらにモーセの律法では、長血を患っている人は儀式上、汚れていると考えられていました(レビ15:19-33参照)。このことは、おそらくこの女性が、病気であった12年間、疎外され拒まれていたことを意味しました。彼女が自分の状況について絶望を感じていたことは、医者に治療してもらうために「持ち物をみな費やしてしまった」(マルコ5:26)という事実によって明らかです。

数人の生徒に、マルコ5:27-34を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この女が救い主の助けを受けるために行ったことを見つけてもらいます。

- この女性は、彼女のイエス・キリストを信じる信仰をどのような行いで示しましたか。(「群衆の中にまぎれ込み、うしろから」[27節]という言葉は、救い主を取り囲む群衆を押し分けて近づこうとする彼女の奮闘を示していることを説明してもよいでしょう。)
- 完全になりたいなら行わなければならないことについて、この話からどのようなことを学ぶことができるでしょうか。(生徒が次の原則を見つけていることができるよう助けます。イエス・キリストのみもとへ来る努力を通して主への信仰を示すならば、主はわたしたちを健全にすることがおできになる。)

イエス・キリストへの信仰によって欠点を持つ者から完全になることは、主のもとへ行くために努力することだけでなく、神の時宜と御心にもよることを指摘します。

生徒に、マルコ5:35を黙読し、救い主がこの女を癒やすために立ち止っておられるときにヤイロにもたらされた伝言を見つけてもらいます。

- ヤイロはどのような知らせを受けたでしょうか。
- あなたがヤイロの立場だったとしたら、そのときどのように思い、または感じたでしょうか。

一人の生徒に、マルコ5:36を声に出して読んでもらい、他の生徒には、救い主がヤイロに言われたことを見つけてもらいます。

- ヤイロの信仰を支えたかもしれないどのようなことを、救い主は言われたでしょうか。

この話から信仰について学べることを強調するために、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストへの信仰を働かせるには、不安なときであっても、主を信じ続ける必要がある。

- わたしたちはこの原則をどのように生活に応用できるでしょうか。

数人の生徒に、マルコ5:37-43を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤイロの娘に何が起きたかを見つけてもらいます。

- 救い主はどのような奇跡を行われたでしょうか。

わたしたちを祝福し、癒やしてくださる救い主の力について証を述べるとよいでしょう。時には、救い主はわたしたちが経験している困難や恐れを取り除くことにより、わたしたちの生活の中の嵐を静められることを指摘します。またある時には、ポーエン長老の息子の死についての話で説明されたように、わたしたちの試練を取り除かれなくてもあります。しかしながら、わたしたちがイエス・キリストを信じる信仰を行使するとき、試練の最中にあっても主はわたしたちに平安を与えてくださいます。

自分の個人的な嵐の結果に関わらず、信仰を保ち続ける方法を生徒が理解できるよう、ポーエン長老の次の証を読みます。息子を亡くした後には、長老はどのようにして信仰を保ち続けることができたのか、注意して聞くよう生徒に言います。



「罪悪感や憤り、そして自己憐憫によって押しつぶされそうになったとき、わたしは心が変わるように祈りました。わたしだけの神聖な経験を通して、主は新しい心を与えてくださいました。まだ寂しさと苦しさは残っていましたが、物の見方全体が変わっていきました。忠実であることを証明するならば、何かを奪われたのではなく、大きな祝福が待っていることを知りました。……

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にあるように、『イエス・キリストの贖いに頼るとき、キリストはわたしたちが試練や病気、苦痛に耐えられるよう助けてくださいます。わたしたちは、あふれるばかりの喜び、平安、慰めを受けることができます。人生の中で

経験する全ての不公平なことは、イエス・キリストの贖いによって正される』ことを証します [『わたしの福音を宣べ伝えなさい-伝道活動のガイド』52]。」「(わたしが生きるのに、あなたがたも生きるからである」17)

- あなたやあなたの知人は、ヤイロのように、疑念のあるときでさえイエス・キリストに対する信仰を保ち続けたことはありますか。その結果として、どのような祝福がもたらされたでしょうか。

生徒に、このレッスンで教えられた真理について証を述べてもらってもよいでしょう。

注釈と背景情報

マルコ 5:30 「自分の内から力が出て行った」

マルコ 5:30 の幾つかの訳では、その女が癒やされたときにイエス・キリストから「力」が出て行ったと述べられています。

す。新約聖書の原本となるギリシャ語の文では、「力」に対応する言葉は、「ダイナミス」、すなわち能力や強さを意味する言葉です。

マルコ6章

はじめに

イエスは、御自身の故郷であるナザレで拒まれました。主は、福音を宣べ伝えるために十二使徒を遣わされました。バプテスマのヨハネは、ヘロデ・アンティパスの命令により殺され

ました。イエスは5,000人以上の人々に奇跡的な方法で食物を与え、水の上を歩き、嵐を静め、病人を癒やされました。

教えるための提案

マルコ6:1-29

イエス、ナザレで拒まれ、十二使徒を遣わされる；バプテスマのヨハネの死について詳しく記述される

まず初めに、最近正しくないと分かっていることを行うよう強制されたことについて、生徒に尋ねます。

次の文章をホワイトボードに書きます（この原文は「正しい選択をする」『聖徒の道』1995年1月号、42を参照してください）。

「悪いことをする人々があなたを仲間に入れようとするのは、他の人も同じことをやればそれだけ安心するからです。」（リチャード・G・スコット）

- 間違っていると分かっていることをするよう他の人々があなたにプレッシャーをかけてくる例として、どのようなものがあるでしょうか。

マルコ6章を研究しながら、友人から良くないプレッシャーを与えられるのを避ける助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

マルコ6:1-16の要約として、イエスが御自身の故郷であるナザレで伝道されたことを説明します。しかしながら、人々の不信仰のゆえに、主は彼らの中では奇跡をあまり行われませんでした。そこにとどまっている間、イエスは福音を宣べ伝えるために、十二使徒を二人ずつ送り出されました。福音を宣べ伝えている間、使徒たちは悪霊を追い出し、病人を癒やしました。ヘロデはイエスが行われた数々の奇跡について聞くと、バプテスマのヨハネが死者の中からよみがえって、これらの奇跡を行ったのではないかと恐れしました。

マルコ6:17-29には、バプテスマのヨハネに何が起こったのかについて記されています。一人の生徒に、マルコ6:17-18を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデがバプテスマのヨハネに行ったことを見つけてもらいます。

- これらの節によれば、ヘロデはヨハネに何をしましたでしょうか。また、その理由は何だったでしょうか。

これらの節のヘロデとはヘロデ・アンティパスであることを説明します。彼は父であるヘロデ王の死後、ガリラヤおよびペレア地方を治めていました。ヘロデ・アンティパスはその妻と離婚し、自分の兄弟ピリポの妻、ヘロデヤと結婚しました。この行いはユダヤ人の律法に甚だしく反するものでした（レビ18:16参照）。そこでバプテスマのヨハネはそのことを声に出して非難していたのです。この結婚に対するヨハネの反対はヘロデヤを怒らせました。そこでヘロデは彼女をなだめるためにヨハネを投獄しました。

一人の生徒に、マルコ6:19-20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデヤがバプテスマのヨハネに対して何をしたか見つけてもらいます。

- ヘロデヤはバプテスマのヨハネに対して何をしたか見つけてもらいますか。
- なぜ彼女はヨハネを殺せなかったのでしょうか。（ヘロデがヨハネを恐れ、ヨハネが神の人であることを知っていたから。）

数人の生徒に、マルコ6:21-29を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデがバプテスマのヨハネに行ったことを見つけてもらいます。

- 26節によれば、ヘロデはバプテスマのヨハネを殺すことについてどのように感じていたでしょうか。

- ヘロデは、それが間違っていることを分かっており、それをしたくもなかったのに、なぜヨハネの首をはねたのでしょうか。（「列座の人たちの手前」という言葉に印をつけるように生徒に勧めるとよいでしょう。そこにはヘロデがともに座っていた人々の意見を気にかけていたことが示されています。）
- 正しいことを行う代わりに他の人々を喜ばせようとするとうなるかについて、ヘロデの選択からどのような原則を学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。わたしたちが正しいと分かっていることを行う代わりに他の人々を喜ばせようとするのは、間違った選択や悲しみや後悔につながりかねない。）

この真理を生徒がさらに理解する助けとなるよう、生徒を2つから4つのグループに分け、他の人々を喜ばせることと、自分が正しいと分かっていることを行うことと、青少年がどちらか選ばなければならぬ状況の例を幾つか考えてもらいます。十分な時間を取った後、各グループに発表してもらいます。生徒たちが発表する中で、挙げられた例を幾つかホワイトボードに書きます。

- これらの例のようなプレッシャーに屈服したことで、悲しんだり後悔したりするのを見たのはどのようなときでしたか。
- 他の人々を喜ばせる代わりに正しいことを行う方を選んだ人を見たのは、どのようなときでしたか。
- どのようなことが、他の人々を喜ばせる代わりに正しいと分かっていることを行う方を選ぶ助けとなるでしょうか。

生徒に、これからの1週間について深く考え、他の人々を喜ばせることと正しいことを行うことと、どちらか選ぶ必要があるかもしれない状況を確認してもらいます。もしもこのようなプレッシャーを受けたならどのように対応するか、あらかじめ計画するよう生徒を励まします。

マルコ 6:30 – 44

イエス、奇跡的に5,000人以上に食物を与えられる

生徒に次の状況について考えてもらいます。新しく召された宣教師が、伝道地に向かうことにとっても緊張しています。この人は人前で話をすることや、社交的な場所が苦手です。

- あなたならこの若い宣教師に何を言ってあげるでしょうか。


マルコ 6:30 – 44 を研究しながら、自分は主が求めていることを行うには不十分だと感じるときに、この若い宣教師やわたしたち全てに助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

マルコ 6:30 – 33 の要約として、十二使徒は福音を宣べ伝えることから帰還し、彼らが行ったことや教えたことをイエスに報告したことを説明します。イエスと十二使徒は舟に乗り、人を避けて休める場所に行きました。しかしながら、人々が近くの幾つかの町からイエスが上陸する場所にやって来て、到着するのを待っていました。

一人の生徒に、マルコ 6:34 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主がこの群衆にどのように対応されたかを見つけてもらいます。

- 「飼う者のない羊のようなその有様」という言葉には、どのような意味があると思いますか。

一日中その群衆を教えた後、救い主は偉大な奇跡を行われたことを説明します。生徒がこの奇跡を理解するのを助けるため、生徒を二人一組に分け、それぞれの組に次の配付資料のコピーを配ります。それぞれの組に、二人でマルコ 6:35 – 44 とマタイ 14:18 を読んでもらい、それから時系列順に配付資料の出来事に番号をつけるように言います。

 生徒に聖典からこの出来事を読んでもらう代わりに、もしできるなら「聖書ビデオーイエス・キリストの生涯」からビデオ「5,000人に食物を与える」（2分52秒）を見せ、ビデオで見たことに基づいて時系列順に配付資料の出来事に番号をつけるように言います。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で視聴可能です。

5000人に食物を与えられる

- _____ 救い主は弟子たちが持ってきた物を増やし、必要以上に満たされた。
- _____ 弟子たちは5つのパンと2匹の魚があると言った。
- _____ 弟子たちは人々を解散させ、めいめいに食物を買いに行かせることを提案した。
- _____ 救い主は弟子たちに何を持っているか尋ねられた。
- _____ 救い主は弟子たちに、人々に食物を与えるよう言われた。
- _____ 群衆は食べる物を何も持っていないかった。
- _____ 救い主は弟子たちに、持っている物を御自分に渡すよう言われた。

生徒がこの課題を終える十分な時間を取ってから、クラス全体で答えを確認します。(正しい答えの順番は7, 5, 2, 4, 3, 1, 6です。)

- 何人の人々が食物を与えられたでしょうか。(マルコ6:44のギリシャ語の文では、「5,000人の男」とは5,000人の成人男性であったことを明確にしています。したがって、女性や子供たちもそこにいたことから、食物を与えられた人々はもっと多かったと考えられます〔マタイ14:21も参照〕。)

この奇跡を行われる前に、救い主はまず、持っていた物全て、つまり5つのパンと2匹の魚を救い主に渡すよう弟子たちに言われたことに注目してください。

- この奇跡から、わたしたちが持っているものを全て主にささげるとき、主はどのようなことがおできになるかについて、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒は次のような内容の原則を見つけてください。わたしたちが持っているものを全て救い主にささげるとき、主は御自分の目的を果たすために、わたしたちのささげ物を大いなるものにしてくださる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

生徒がこの原則を理解できるように、先に取り上げられた、神経質になっている新しく召された宣教師の状況を思い出してもらいます。

- この若い男性または女性の弱点にかかわらず、救い主はこの宣教師に何を主のもとへ持って来るよう求めておられるでしょうか。(救い主は、主の目的を果たそうとする全ての人々に、自分の願い、能力、才能、技術、力、賜物、努力を全て主にささげるよう招いておられます〔オムナイ1:26; 2ニーフай25:29参照〕。)
- この宣教師が持っているものを全て救い主にささげたら、どのような結果になるでしょうか。
- この原則を知っていることが役立つような、教会の若い会員が直面するかもしれないその他の状況とは、どのようなものでしょうか。

主の求められることをなすことができるよう、主がどのように生徒たちの努力を尊んで大いなるものとしてくださるかを深く考え、クラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。生徒に差し支えがなければ、数人の生徒に書いた事柄をクラスで発表してもらってもよいでしょう。

わたしたちが持っているものを全て救い主にささげるとき、主は御自分の目的を果たすためにわたしたちのささげ物を尊んで大いなるものとしてくださるというあなたの証を分かち合います。この原則を生活に当てはめるよう生徒を励まします。

マルコ6:45 - 56

イエス、水の上を歩かれ、病人を癒やされる

マルコ6:45 - 56の要約として、5,000人に食物を与えた後、主は弟子たちを舟に乗りこませ、ガリラヤの海の向こう岸に行くよう命じられたことを説明します。その後、主は群衆を去らせられました。その夜、嵐が起き、救い主は弟子たちが舟をこいでいるもののまったく進まずにいるのを山から御覧になりました。そこで主は水の上を歩いて彼らに近づき、嵐を静められたので、彼らは無事にガリラヤの海の向こう岸に着きました。

- この場合、主の力はどのように弟子たちが行うよう命じられたことを果たすのを可能にしましたでしょうか。

ホワイトボードに書く

レッスン時にホワイトボードを効果的に使うと、生徒は学ぶ準備ができ、特に視覚によって学ぶ傾向がある生徒に対しては有意義な参加を促すことができます。ホワイトボードに、レッスンの要点や原則をまとめたり、教義を図解したり、地図を描いたり、フローチャートを描いたり、聖文中の事柄を絵にしたりすることができます。あるいは、学習効果を高めるその他の多くの活動を行えます。

このレッスンの締めくくりとして、今日話し合った真理について感じたことや証を分かち合いたいという生徒に発表してもらおうとよいでしょう。

注釈と背景情報

マルコ 6:35 – 44 5,000 人に食物を与えられる

大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長は、パンと魚を増やした主の力は、わたしたちの努力がほんの幾つかのパンや魚ほどとしか思えなくとも、主の教会で仕えるというわたしたちの忠実な努力を主が尊んで大いなるものとしてくださることを示していると教えています。

「多くの無名の人が、5つのパンと2匹の魚に等しい賜物を用いて、全力を尽くして召しを遂行し、注目や称賛を受けずに、文字どおり数千人の人を養っています。……彼らは、全ての

補助組織や神権定員会の無数の指導者や教師、ホームティーチャー、扶助協会の訪問教師です。また、教会の大勢の謙遜なビショップたちです。専門的な訓練を受けていない人もいますが、全力を尽くして働き、常に学んで、主やワードの人に仕えたいという謙遜な願いを持っています。……

この教会が、設立当初の小さな状態から今日の力を得るまでに発展したのは、謙遜で忠実な数百万の人々の忠誠心と献身があったからです。彼らは自分の5つのパンと小さな2匹の魚を主の御業にささげました。」（「5つのパンと2匹の魚」『聖徒の道』1994年7月号、4–6）

マルコ7-8章

はじめに

イエスは誤った言い伝えについてパリサイ人を叱責されました。それから、主は耳が聞こえず口の利けない人だけでなく、悪霊に取りつかれた子供も哀れみをもって癒やされました。主はガリラヤの海の近くで4,000人の人々に食物を与えられ、

ベツサイダに向かわれました。そこで主は盲人を段階的に癒やされました。

教えるための提案

マルコ7章

イエスはパリサイ人を非難し、悪霊に取りつかれた子供を癒やし、耳の不自由な男を癒やされる

クラスが始まる前に、3人の生徒に次の指示を与えます。生徒1-「わたしが指示を出したら、コートを着ずにクラスの中を歩き回り、震えるふりをしてください。」生徒2-「わたしが指示を出したら、部屋の中を一回りし、逃げた自分の家のベットを見た人がいないか尋ねてください。」生徒3-「わたしが指示を出したら、バックパックのジッパーを開けて、歩くときに中身が落ちそうな状況にしてください。」(この活動を行うとき、生徒の必要に合わせて他の状況を用いてもかまいませんが、時間を取りすぎないよう気をつけます。)

クラスが始まったら、これらの指示を一つずつ完了するよう生徒に指示を与えます。他の生徒には、これら3つの状況に共通している事柄を見つけるように言います。

- これらの状況に共通することは何でしょうか。(これらの状況はそれぞれ、助けの必要な人を表しています。)
- 困っている人を助ける機会はどれほどあるでしょうか。最近あった機会はどのようなものでしょうか。

生徒に、マルコ7-8章を研究しながら、助けの必要な人に気づいたとき、救い主がわたしたちに何をすべきと教えられたか見つけるように言います。

マルコ7:1-30の要約として、救い主は正しくない言い伝えに従っていることに対しパリサイ人を叱責されたことを説明します。主はまた、悪霊に取りつかれていたギリシャ人の女の娘を癒やされました。このとき、救い主の伝道は、異邦人ではなく、イスラエルの家に対して行われていたことを生徒に思い出してもらいます。しかし、主はしつこく懇願するこの異邦人の女を、哀れみをもって助けられました。

生徒に、『聖書の地図』の地図11でツロとシドンの町およびガリラヤの海を見つけるように言います(『聖書の地図』地図11「新約の時代の聖地」参照)。救い主がツロとシドンを去ってから、主はガリラヤの海の東岸、デカポリス地方に向かわれたことを説明します。

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒に、マルコ7:31-37をともに読み、救い主がデカポリスで、ある男に対してどのように哀れみを示されたか見つけてもらいます。十分な時間を取った後、以下の質問をパートナーと話し合うよう生徒に言います。

- この人はどのような状態を癒やしていただこうとしたのでしょうか。
- 救い主はこの人を癒やされる前に何をなさったのでしょうか。

救い主の行動を生徒たちに理解してもらうために、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「主は、言葉を聞くことができず、あるいはその言葉に流ちょうに答えることもできないが、信じる心を持っている人に対応されています。それなら、主が何を行うことができるのか、何をなさろうとしているのかを示すために、この耳が聞こえず口の利けない人が認識し理解できるような一般的なしるしを使うことが最も自然なことではないでしょうか。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 373)

- この状況における救い主の行動は、主の特質についてどのようなことを教えているでしょうか。

救い主は御自分が癒やされた人々に対してこの奇跡を公にしないようにと忠告したにもかかわらず、デカポリス地方の人々は救い主が行われたすばらしい事柄について聞き及び、大勢の群衆が主のもとに集まって来たことを説明します(マルコ7:36 - 37 参照)。

マルコ8:1 - 21

イエス、4,000人以上に食物を与えられる

生徒に、次の質問に対する答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

- あなたが助けを必要としていることに誰かが気づき、助けてくれたことはありますか。
- 自分の経験を分かち合いたいと思う生徒は、このレッスンの後半で、そうする機会があることを説明します。

一人の生徒に、マルコ8:1 - 3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスについて来た群衆のために起こった問題を見つけてもらいます。

- 群衆のためにどのような問題が起こったのでしょうか。その群衆が必要としていることに気づいたのは誰だったのでしょうか。
- 何も食べないまま群衆を家に帰したら、どうなることを救い主は心配されたのでしょうか。
- 2節によれば、救い主は群衆に対してどのような気持ちを感じられたのでしょうか。(「この群衆がかわいそうである」という言葉に印をつけるように生徒に勧めるとよいでしょう。そこでは、救い主がその人々に対して同情と関心を抱かれていることを示しています。)

二人の生徒に、マルコ8:4 - 9を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主の哀れみにより何が起こったかを見つけてもらいます。

- 救い主が群衆のためになさったことは何だったのでしょうか。
- 何人の人々が食物を与えられたのでしょうか。
- この話における救い主の模範からどのようなことが学べるのでしょうか。(生徒が次の原則を見つけられるよう助けます。人々の必要に気づき、その必要を満たすよう助けることによって、わたしたちは主の模範に従うことができます。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

生徒がこの原則を理解する助けとなるよう、中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹が、神の子供たちに仕えるに当たって救い主の模範に従うためには、わたしたちは「まず気づき、それから仕える」必要があると教えたことを説明します(「まず気づき、それから仕える」『リアホナ』2012年11月号, 78)。ホワイトボードに書いた原則の下にこの言葉を書きます。

- どうすれば、他の人々が必要としていることについて、もっと気づけるようになるでしょうか。(必要なことがすぐに明らかにならない場合もあることを指摘するとよいでしょう。しかしながら、わたしたちは祈り、他の人々が必要としていることに気づくよう助けを求めらるなら、自分よりもかえって他の人々に考えを集中することができます。)
- 他の人々が必要としていることに気づき、それらのことを満たすために役立つ能力の妨げになるものは何でしょうか。

何人かの生徒に、自分が助けを必要としていることに誰かが気づき、助けてくれたときのことについて書き留めた経験を分かち合ってもらいます。

思い、感情、経験を分かち合う

洞察や適切な経験を分かち合うことは、教義と原則についての生徒たちの理解を明らかにする助けとなります。生徒が自分の経験を分かち合うことによって、自分が伝えているまさにその考えについてのより深い理解と証を得るよう、聖霊はしばしば導いてくださいます。聖霊の力を通して、生徒が分かち合う考え、感情、経験は、仲間たちの心と思いに大きな影響を与えることもできるのです。

一人の生徒に、次のトーマス・S・モンソン大管長の話を読んでもらいます。



「皆さんはこれまでに何度、人が困っているのを目の当たりにして心を痛めたことがあるでしょうか。助けの手を差し伸べようと思ったことが、幾度あったでしょうか。にもかかわらず、日々の生活に追われて「きっと誰かが助けてくれる」と思い、人任せにしてしまったことが、幾度あったでしょうか。

わたしたちは日常生活の忙しさに埋没しています。でも、少し立ち止まって自分が何をしているかをよく顧みてみると、それほど重要でもないことに没頭していることが分かります。つまり、大きな目で見れば、本当は大して重要ではないことに大半の時間を費やし、もっと重要なことをないがしろにしていることが往々にしてあるのです。」(「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85)

典型的な1日の出来事を心の中に描くよう生徒に言います。例えば両親、きょうだい、仲間など、1日の中で出会う人々で、自分の助けを必要とするかもしれない人々について考えてもらいます。助けの必要な人に気づいたときに助けの手を差し伸べることで救い主の模範に従う決意をするよう、生徒を励まします。

マルコ8:10-21の要約として、奇跡的に4,000人に食物を与えた後、イエスと弟子たちは舟でダルマスタと呼ばれる場所に行かれたことを説明します。そこでパリサイ人たちは主にしるしを示すよう求めました。イエスはそれを断り、御自身の弟子たちに、霊的な盲目の状態に陥るパリサイ人の教義を警戒するよう教えられました。

マルコ8:22-26

イエス、目の不自由な男を段階的に癒やされる

イエスと弟子たちはデカポリス地方を離れ、ベツサイダと呼ばれる場所にやって来たことを説明します。そこに着いたとき、目の不自由な男が救い主に癒やしてもらうために連れて来られました。

数人の生徒に、マルコ8:22-26を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がどのようにこの目の不自由な男を癒やされたか見つけてもらいます。

- 最初に救い主がこの目の不自由な男に手を置かれた後、どうなったでしょうか。(「人が見えます。木のように見えます。歩いているようです」[24節]という言葉は、その目の不自由な男は見えるようになったものの、はっきりとは見えていないことを示していると説明する必要があるかもしれません。)
- 2回目に救い主がこの男に手を置かれた後、どうなったでしょうか。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉のコピーを生徒に配り、一人の生徒に、声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがこの男を徐々に、あるいは段階的に癒やされた理由を見つけるよう勧めます。



「この奇跡は他に類を見ないものです。イエスが一人の人物を徐々に癒やされたということが記録されている唯一の例です。主がこのようにされたのは、まだ弱いとはいえ、強くなりつつあるこの盲人の信仰を強めようとしたためかもしれません。イエスと肉体的に接触するという一連の出来事は、この盲人にとって希望、確信、信仰を増し加える効果があったと思われる。イエスは個人的に(1)この盲人の手を取って村の外に連れ出し、(2)その見えない目に御自身のつばをつけ、(3)按手の儀式を執行し、(4)その盲人の目の上に両手を二度当てられました。

確かに、この癒やしが行われた過程は、人は自身の力と信仰を尽くして癒やしの恵みを求めなければならないということを教えています。そして、部分的な癒やしだけならそれで十分ですが、続けてそれを受けることで、すみずみまで完全になるためのさらなる確信と信仰を得られるものと考えられます。神の計画と目的に調和した生活をするときに、人はしばしば、徐々に、段階的に、霊的な病からも癒やされるのです。」(Doctrinal New Testament Commentary, 第1巻, 379-380)

- 徐々に癒やされることは、イエス・キリストに対する信仰をどのように増すでしょうか。
- 例えば、福音の証を得る、または肉体的あるいは霊的な癒やしを受けるなど、祝福の中にはすぐに全部もたらされるのではなく、徐々に、または段階的にもたらされるものがよくあると理解することは、なぜ重要なのでしょうか。

マルコ 8 : 27 - 38

ペテロ, イエスがキリストであられると証する

一人の生徒に, マルコ 8 : 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には, 聞きながら, 主が弟子たちに尋ねられた質問を見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。生徒たちに, マタイ 16 : 16 に記録されているように, ペテロがこの質問にどう答えたのか思い出してもらいます (この節はマスター聖句の一部です)。生徒が覚えていなければ, 一人の生徒に, マルコ 8 : 29 を声に出して読んでもらいます (この節はペテロの答えを含んでいます)。

マルコ 8 : 30 - 38 の要約として, 救い主は弟子たちに, 御自分がキリスト, またはメシヤであることをまだ公にしないよう言われたことを説明します。主はまた, 近い将来の御自身の苦しみと死について弟子たちに教え始められました。

レッスンを終えるに当たり, このレッスンで研究した聖句から学んだ真理について生徒たちに証してもらいます。

マルコ 9:1 - 29

はじめに

イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネの目の前で変貌されました。それから主は彼らに、メシヤのために道を備えるという、エライアス（訳注 — 日本語の新約聖書では「エリヤ」と訳されている）としてのバプテスマのヨハネの役割について教えられました。

た。イエスが他の弟子たちのもとに戻られてから、群衆の一人が自分の息子から悪霊を追い出してもらおうと主に嘆願しました。イエスはその悪霊を追い出され、弟子たちに祈りと断食の必要性を教えられました。

クラスの時間を無駄にしない

クラスが時間どおりに始まり、無駄な時間はないと生徒が分かる時、生徒は目的意識を感じるでしょう。クラスを効率的かつ効果的に始めることは、生徒がさらに聖典の学習体験をより重視するのに役立ちます。

教えるための提案

マルコ 9:1 - 13

イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネの目の前で変貌し、エライアスについて教えられる

数人の生徒に、教室の前に出て、体力を向上させる活動を簡単に実演してもらいます。

- ある人にとって、体力を向上させる望みや必要があるのはなぜでしょうか。
- 体力は、どのように霊的な力やイエス・キリストに対する信仰と関係があるでしょうか。
- イエス・キリストに対する信仰が試されたり、強められる特別な必要がある状況には、どのようなものがあるでしょうか。（ホワイトボードに生徒の答えを書きます。）

生徒に、マルコ 9:1 - 29 を研究しながら、イエス・キリストに対する信仰を強める助けとなる真理を見つけてもらいます。

マルコ 9:1 - 13 の要約として、そこには変貌の山においてペテロ、ヤコブ、ヨハネの目の前でイエスが変貌された出来事が記されていることを説明します。ジョセフ・スミス訳マルコ 9:10 では、イエスがこれらの使徒たちに、バプテスマのヨハネが預言されたエライアス、あるいは救い主の来臨のために道を備える者としての役割を成就したことを教えられたことを明確にしています。

マルコ 9:14 - 29

イエス、ある人の息子から悪霊を追い出される

一人の生徒に、マルコ 9:14 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が山から他の弟子たちのもとに戻られたときに、遭遇した場面を見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、マルコ 9:16 - 24 に記されている救い主の言葉を、別の生徒には父親の言葉を読んでもらいます（クラスが始まる前にこれらの役を割り当てておき、それぞれのせりふを見つけておいてもらうとよいでしょう）。教師がナレーターの役をするか、他の生徒にやってもらってもよいでしょう。割り当てた生徒たちに、マルコ 9:16 - 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その父親が主の弟子たちに求めたことを見つけてもらいます。

- この父親が息子のためにしてほしかったことは何だったでしょうか。（その息子は、口を利けなくしたり、耳を聞こえなくしたり [マルコ 9:17, 25 参照]、その他の病気を引き起こしたりする悪霊に取りつかれていたことを説明する必要があるかもしれません。悪霊がその息子に取りつくときはいつでも体を震わせ、口から泡を吹き、歯をくいしばり、体をこわばらせてしまいました。）

生徒に、自分がこの父親であると想像し、弟子たちが自分の息子を癒やすことができなかつたとき、救い主とその力に対する信仰がどのように影響を受けた可能性があるか深く考えてもらいます。

割り当てた生徒たちに、続けてマルコ 9:19 - 22 の自分の役の部分を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この父親が救い主と話したとき、どのように感じたのか想像してもらいます。

- この父親が救い主と話したとき、どのように感じたと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の話を読んでもらいます。他の生徒には、この父親の気持ちと嘆願を理解するためにホランド長老が付け加えた事柄に耳を傾けてもらいます。



「他に頼れるものがなくなった父親は、自分の持っている信仰を断言して、世の救い主に嘆願します。『できますれば〔訳注 — 英文では「あなたは何でもおできになるのですから」という意味が込められている〕わたしどもをあわれんでお助けください。』〔マルコ 9:22, 強調付加〕わたしは涙を流さずにこの言葉を読めません。このわたしどもという代名詞は明らかに意識的に使われています。この男性が言わんとしているのは、『わたしたち家族全員が切に願っています。苦労は尽きず、疲れ果てています。わたしたちの息子は水の深みに落ちています。炎の中に落ちています。息子は常に危険な状態にあり、わたしたちは絶えず恐れています。どこから助けが得られるか分かりません。あなたは助けることがおできになりますか。わたしたちは何にでも感謝します。少しの祝福でも、少しの希望でも、この子の母親が日々背負っている重荷が少し軽くなるだけでも』ということなのです。」「(主よ、信じます)『リアホナ』2013年5月号, 93 参照)

救い主の役を割り当てられた生徒に、マルコ 9:23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がこの父親に教えられた事柄を見つけてもらいます。

- この父親は誰を信じる必要があったでしょうか。
- 救い主はこの父親にどのような原則を教えられたでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を必ず見つけられるようにしてください。イエス・キリストを信じるならば、どんな事でもできる。23 節の中で、この原則を教えている言葉に印をつけるよう生徒に勧めるとよいでしょう。)

「どんな事でも」とは、神の御心、目的、時宜に従って与えられる全ての義にかなった祝福を意味していることを指摘します。

- この原則を信じることは、克服することが不可能だと思える困難に直面している人にとってどのような助けとなるでしょうか。

父親の役を割り当てられた生徒に、マルコ 9:24 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が教えられた原則に対する父親の返答を見つけてもらいます。

- そのときのこの父親の信仰をどう説明しますか。

生徒たちに、この父親の返答の二つの部分に留意するように言います。一人の生徒に、ジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、「不信仰」な時代、あるいは疑いや恐怖の時代にわたしたちに何ができるかについて、この父親の宣言はどのようなことを示しているかに耳を傾けるように言います。



「信仰を持つようと言われた父親〔は〕まず自分の強い点を主張し、それから弱い点を認め〔ました。〕彼は最初に肯定的な言葉を、躊躇せずに言います。『主よ、信じます』と。わたしはもっと信仰が欲しいと望む人に申し上げます、この男性を覚えておきなさい、と。恐れや疑いがあるとき、困難なときには、たとえ小さくてもすでに得ている土台にしがみついてください。わたしたち皆がこの世で逃げなければならぬ成長を逃げるために、この子供の病気や、この父親の絶望と同じような経験が一人一人に訪れます。問題が発生したときに、なかなか解決しないときに、既に知っていることに固くしがみついて、新たな知識を得るまで、強くあってください。」「(主よ、信じます) 93 - 94 参照)

- 不信仰の時代にわたしたちができることについて、この父親からどのようなことを学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の文をホワイトボードに書きます〔文の続きは後で追加していきます〕-わたしたちが信じていることにしがみつきます)

- 24節にあるこの父親の言葉の別の部分から、不信仰に対処することについてどのようなことが学べるでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の言葉をホワイトボードの言葉に追加します-主の助けを求めるなら、)

一人の生徒に、マルコ9:25-27を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、父親の嘆願に救い主がどのように応えられたのかを見つけてもらいます。

- 救い主は父親の嘆願にどのように応えられたのでしょうか。
- この話から学んだ事柄を基に、ホワイトボードの言葉をどのように完成させますか。(生徒たちが答えたら、次の原則を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。わたしたちが信じていることにしがみつき、主の助けを求めるなら、主はわたしたちの信仰を強めるために助けてくださる。)

レッスンの最初に話し合った、ホワイトボードに挙げた状況を参照します。

- この原則はそのような状況においてどのように利用できるでしょうか。
 - あなたやあなたの知人が、不信仰の時代に信じ続け、主の助けを求めることで、主から助けを受けたのはどのようなときですか。(あなたの経験について話すのもよいでしょう。)
- 不信仰の時代にこの原則を生活に当てはめるよう生徒を励まします。

この父親は最初、息子を癒やしてもらうためにイエスの弟子たちのもとに連れて来たことを生徒に思い起こしてもらいます。生徒に、自分がその弟子たちであると想像してもらいます。

- その息子の体から悪霊を追い出せなかったとき、あなたならどのように考えたり感じたりするでしょうか。

一人の生徒に、マルコ9:28を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、弟子たちがイエスにした質問を見つけてもらいます。

- 弟子たちはイエスにどんな質問をしましたか。

生徒たちにマルコ9:19を見直し、救い主が弟子たちを含め、その場にいる人々をどのように言い表しておられるか見つけてもらいます。(彼らは「不信仰」である。)ここで言う「不信仰」とは、イエス・キリストに対する信仰が欠けていることを指しています。イエス・キリストに対する信仰は、神権の祝福が有効となるために必要です。

一人の生徒に、マルコ9:29を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちの質問に対する救い主の返答を見つけてもらいます。

- 救い主は弟子たちに何と教えられたのでしょうか。
- 祈りや断食は誰かの信仰にどのように影響を与えるのでしょうか。(生徒が答えたら、次の真理を理解するよう助けます。わたしたちは祈りと断食を通して、イエス・キリストへの信仰を増すことができる。)

一人の生徒に、小冊子『真理を守る』から次の言葉を読んでもらいます。生徒たちに、この真理を応用できる別の状況に耳を傾けるように言います。

「〔イエスがある男の息子から悪霊を追い出したという〕この話は、神権の祝福を与える人およびそれを受ける人が祈りと断食により力を増し加えられることを教えてくれます。またこの話は福音に従った生活を送ろうとするあなたの個人的な努力にも応用できます。自分に弱点や罪があり、その弱点や罪を克服しようと懸命に努力している場合、自分が求めている助けや赦しを受けるために断食し祈る必要があるかもしれません。キリストが追い出された悪魔のように、あなたの問題も祈りと断食を通してのみ解決する性質のものかもしれません。」(『真理を守る-福音の参照資料』141-142)

- この言葉によると、この真理を応用できる状況にはどのようなものがあるでしょうか。
- 祈りと断食がキリストに対する信仰を増す助けとなり、あなたが求めた義にかなった祝福を受けることができたのは、どのような時ですか。

自分自身や他の人々のために、祈りと断食を通してイエス・キリストに対する信仰を増すことによって手に入れることができるかもしれない祝福についてよく考えるよう生徒に言います。生徒に、次の断食安息日にこれらの祝福のために祈りと断食をするという目標を書き留めてもらいます。

マスター聖句の復習

生徒がよく知らない可能性があるマスター聖句を幾つか、あらかじめ見ておくとよいでしょう。生徒にそれらの聖句を読み、印をつけてもらいます。新しいマスター聖句をそれぞれの生徒または二人一組に割り当て、その聖句で教えられている真理を描いた絵を紙に書いてもらうとよいでしょう。描いた絵をクラスの生徒に説明してもらいます。後に参照するときのために、その絵を掲示するとよいでしょう。

(注 — この活動は、時間が許せば、どのレッスンの始めや終わりにも行うことができます。)

マルコ 9:30 – 50

はじめに

イエスは、御自身の死と復活が近づいていることを弟子たちに伝え、神の王国で最も偉いのはどのような人かを教えられました。主は他の人々を罪に導くことによってもたらされる結果

について警告し、弟子たちに罪を犯すように仕向ける影響から自らを切り離すよう指示されました。

教えるための提案

マルコ 9:30 – 37

イエス、御自身の死と復活を予告し、神の王国で誰が一番偉いかを教えられる

生徒が気づくような強い香りを持つ物（例えばスライスしたばかりのオレンジやたまねぎ、または焼きたてのパンなど）をクラスに持参します。クラスが始まる前に、それを教室内の生徒の見えない所に置いておきます。

レッスンを始めるに当たり、生徒に、教室に入ったときに新しい香りに気づいたかどうか尋ねます。

- もしあるとすれば、この香りは皆さんの考えや行いにどのような影響を与えたでしょうか。

香りがわたしたちに影響を与えるのと同じように、わたしたちも他の人々の考えや行動に影響を与えることができることを指摘します。他の人々が生徒に与える影響だけでなく、救い主に従おうとする他の人々の努力に生徒が与える影響について、よく考える助けとなる、マルコ 9:30 – 50 にある真理を見つけてもらいます。

若者から悪霊を追い出した後（マルコ 9:17 – 29 参照）、救い主は弟子たちとともにガリラヤを通して旅をされたことを説明します。一人の生徒に、マルコ 9:31 – 32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が預言された出来事を見つけてもらいます。

- 救い主はどのような出来事を預言されたでしょうか。

マルコ 9:33 – 37 の要約として、イエスがカペナウムに来られたとき、主は弟子たちに神の王国で一番偉い者について教えられたことを説明します。主はまた、子供のように謙遜で主を受け入れる人々を教会に受け入れるよう弟子たちに指示を与えられました。（注 — この教えは、マルコ 10 章のレッスンでさらに深く話し合われます。）

マルコ 9:38 – 50

イエス、他の人々に罪を犯すよう影響を与えることと、邪悪な影響から離れないことに対して警告される

一人の生徒に、マルコ 9:38 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒ヨハネが救い主に語った状況を見つけてもらいます。

- ヨハネは救い主に何と報告したでしょうか。

使徒たちは、この者が十二使徒について来た仲間ではなかったので、悪霊を追い出すことをやめさせたことを説明します。しかしながら、救い主は弟子たちにその者にやめさせないよう語り（彼が権能を持った正しい人であったことを示しています）、主の代理人として人々を助ける者は報いを受けるということを教えられました（マルコ 9:39 – 41 参照）。

一人の生徒に、マルコ 9:42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の警告を見つけてもらいます。この文脈では、「つまずかせる」という言葉は、他の人々をつまずかせたり道に迷わせたりする影響を与える、あるいは誰かに罪を犯させたり信仰を放棄させたりする影響を与えることを意味すると説明します。

- 救い主は、罪を犯させる影響についてどのようなグループの人々に警告されたでしょうか。（「[イエス]を信じる……小さい者」には、あらゆる年齢の、謙遜で主に信頼を寄せてい

る弟子たちだけでなく、例えば青少年や新しい改宗者など、信仰を持ってから日の浅い人々も含まれていることを説明する必要があるかもしれません。)

- 弟子たちに罪を犯すよう影響を与えることに対するイエスの警告はどのようなものだったでしょうか。(主は、他の人々に罪を犯すよう影響を与えるなら、わたしたちが経験することになる激しい苦しみと神からの別離を経験するよりも死ぬ方が良いことを示されました。)
- 42節にある主の警告から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を見つけるはずです。イエス・キリストを信じる人々に罪を犯させるような影響を与えると、神の前でその責任を問われることになる。)

人はどのようにしてイエス・キリストを信じる人々に罪を犯すよう影響を与えるでしょうか。教室の中の香りを思い出してもらい、香りのようにわたしたちは他の人々に肯定的にも否定的にも影響を与えるという事実を生徒に気づいてもらいます。イエス・キリストを信じる人々に対して生徒が与えている影響について深く考えるように言います。

救い主によって教えられた別の原則を生徒が見つめる備えをするために、ひものついた靴を履いている生徒に教室の前に来てもらいます。その生徒に、片手で片方の靴のひもをほどき、また結ぶよう指示を与えます。その生徒がこれを行おうとしている間に、全員に次のように尋ねます。

- 片手がなかったら、どのような困難を経験するでしょうか。
- もしあるとすれば、手を失う価値があるものは何でしょうか。

身体の一部がひどく損傷、感染、または病気となった場合に行われる可能性がある、身体の一部を意図的に除去する切断術というものがあることを説明します。切断とその後の回復には痛みと外傷が伴う場合がありますが、体の他の部分に病気や感染が広がり、さらなる損傷や死の要因となることを防ぎます。

一人の生徒に、マルコ 9:43 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が両手を保つよりも片手を失った方がよい場合について何を教えられたかを見つけてもらいます。

- 両手を保つよりも片手を失った方がよい場合とはどのようなときでしょうか。
- 文字どおりにこの教えを受け取り、わたしたちを「つまずかせる」または罪を犯すよう影響を与える手を切り落とすべきだと思いますか。(救い主は、人々が文字どおり手を切断すべきだと言ってはおられないことを説明する必要があるかもしれません。そうではなく、主が教えていたことの重要性を強調するために比喩的表現を用いられたのです。)

一人の生徒に、ホワイトボードに人の姿を描いてもらいます。生徒が描いている間に、マルコ 9:43 - 48 のジョセフ・スミス訳が、この聖句における救い主の教えへの理解を深めることを説明します。これらの節で、救い主は、罪を犯すようにわたしたちを導く可能性がある生活の中における影響を象徴する手、足、目を用いられたことを学びます。ホワイトボードに人の姿を描いている生徒に、その絵の中の手、足、目を丸で囲むよう指示を与えます。それから席に戻ってもらいます。

何人かの生徒に、ジョセフ・スミス訳マルコ 9:40 - 48 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人を「つまずかせる」または人に罪を犯すよう影響を与える手、足、目を、救い主が何にたとえられたかを見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳マルコ 9:40 - 43 にある「命」という言葉は、永遠の命を指すことを説明する必要があるかもしれません。

- この訳によれば、つまずかせる手、足、目が表していることは何でしょうか。(手はわたしたちの家族や友人を表しています。足はわたしたちの考え方や行動の仕方の模範となる人を表しています。また、目はわたしたちの指導者を表しています。)

ホワイトボードに生徒が描いた姿のこれらの部分にその解釈を記します。

- 不義の影響、または罪を犯すようわたしたちを導く影響に対して、救い主は何を行うよう教えられたでしょうか。
- どのような点で、不義の影響から自らを切り離すことは、手や足を切断することに似ているでしょうか。
- 不義の影響から自らを切り離さなかったらどうなるでしょうか。それはなぜですか。
- これらの聖句の救い主の教えからどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけるはずで、不

生徒の興味を引き、維持する

一部の生徒が注意力を維持できる時間には限度があるので、レッスン中に生徒の興味と熱意を再び引き出す方法を探します。これは、学んでいる聖文に生徒の注意を集中させる方法で行われなければなりません。

義の影響から自らを切り離すことは、最終的に神から切り離されるよりはよい。生徒の言葉を使って、この真理をホワイトボードに書きます。)

一人の生徒に、七十人のウォルター・F・ゴンサレス長老の次の話を読んでもらいます。他の生徒には、自らを切り離すべきその他の影響について耳を傾けるように言います。

「切り捨てることは、友人だけでなく、不適切なテレビ番組、インターネットのサイト、映画、印刷物、ゲーム、音楽など、悪い影響力を持つあらゆるものに当てはまります。この原則を心に刻み込むことにより、悪の影響に屈するようという誘惑に対抗することができます。」(「今がその時です」『リアホナ』2007年11月号, 55)

- 不義の影響から自らを切り離すことによって経験する困難にはどのようなものがあるでしょうか。
- 不義の影響から自らを切り離すための適切な方法をどのように知るのでしょうか。

不義の影響から自らを切り離すことは、他人を無礼に扱ったり、非難したり、忠実な教会員でない人々との交流を拒むことを意味するものではないことを説明します。そうではなく、罪を犯すようにわたしたちを導く人々から離れる、または密接に関わることを避けるべきことを意味します。罪を犯すようにわたしたちを導く可能性がある全ての影響を取り除いたり避けたりすることはできないかもしれませんが、わたしたちができるだけ邪悪な影響から自らを切り離すよう努めたり、完全に排除することはできない影響を避けるために自制心を育むよう努めたりするときに、主はわたしたちを祝福してください。

生徒がこの真理をさらに理解するのを助けるため、二人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。それぞれの生徒に、次の状況から一つを読み、関連する質問を全員にするよう指示を与えます。全員に、マルコ9:43-48の中で見つけた真理に基づき、質問に答えてもらいます。

状況1 わたしには、しばしば神の戒めを破る活動に参加するよう誘う友人がいます。しかしながら、彼らとの時間を過ごすことを続ければ、わたしは彼らに良い影響を与えることができると思います。

- これらの友人から自らを切り離した場合、彼らに良い影響を与えるというわたしの能力を失うことにならないでしょうか。彼らとはどのような種類の関係を持つべきでしょうか。
- これらの友人から自らを適切に切り離すためには、どのようなことを言い、何をすべきでしょうか。

状況2 数年前からある人気バンドのファンです。最近の彼らの音楽やインタビューの中で、彼らは主の標準や教えに反する行動や考えを勧めています。

- それは単なる音楽や発言でしかないでしょう。それなら、彼らの音楽に耳を傾け、ソーシャルメディア上で彼らをフォローし続けることにどんな危険があるのでしょうか。

生徒の助けに感謝し、席に戻ってもらいます。生徒に次の質問をします。

- 罪を犯すようわたしたちを導く影響から自らを切り離すことが時には難しいとしても、この犠牲を通してわたしたちが得られるものは何でしょうか。(永遠の命を含む、多くの祝福。)この報いにかなる犠牲をも払う価値があるのはなぜでしょうか。
- あなたやあなたの知人は、これまでどのようなときに不義の影響から離れることを選んだでしょうか。(きわめて個人的なことについては分かち合う必要はないことを生徒に思い出してもらいます。)その影響から離れることについて困難な点は何だったでしょうか。そうすることで、どのような祝福がもたらされたでしょうか。

罪を犯すように導いている可能性がある影響が生活の中にあるかどうか、深く考えるよう生徒に言います。生徒に、これらの影響から自らを切り離す方法をクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。

マルコ9:49-50の要約として、救い主は弟子たちに、互いに穏やかな関係を持つようお命じになったことを説明します。

このレッスンの最中に受けた促しに従って行動するよう生徒を励ましてレッスンを終えます。

注釈と背景情報

マルコ 9 : 31 「人の子」

「人の子」とは「イエス・キリストが御自身のことを語るときに用いられた呼び名 (ルカ 9 : 22 ; 21 : 36)。それは、聖なる人の子の意味。聖なる人とは、父なる神の名である。イエスは御自身を指して人の子と言い、御父との神聖な関係を公に宣言

された。この呼び名は福音書の中に頻繁に出てくる。末日の啓示は、救い主のこの呼び名が特別な意味を持っており、神聖なものであることを確認している (教義と聖約 45 : 39 ; 49 : 6, 22 ; 58 : 65 ; モーセ 6 : 57)。(『聖句ガイド』「人の子」scriptures.lds.org)

家庭学習クラスのレッスン

マルコ 4 - 9 章 (単元 8)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマルコ 4 - 9 章 (単元 8) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マルコ 4 - 5 章)

生徒たちは、悩みや恐れを抱いているときに主の助けを求めるならば、主がわたしたちに平安をもたらしてくださいことを学びました。また、救い主の力を生活の中で経験するときに、救い主の祝福と憐れみについて、人々に証できることも学びました。ヤイロの娘と長血をわずらっていた女の話から、生徒たちは、イエス・キリストのみもとに近づく努力を通して主への信仰を示すときに、主はわたしたちを完全にくださること、イエス・キリストへの信仰を働かせるには、不安なときにも主を信頼し続ける必要があることを学びました。

第 2 日 (マルコ 6 - 8 章)

5,000 人以上に食べ物を与えられた奇跡から、救い主にわたしたちの全てをささげるとき、救い主は御自分の目的を達成するために、わたしたちのささげものを大いなるものとして下さることを生徒たちは学びました。また生徒たちは、人々の必要を知りその必要を満たすために助けることで、救い主の模範に従うことができることも学びました。

第 3 日 (マルコ 9 : 1 - 29)

救い主が少年の体から悪霊を追い出された話から、生徒たちは、イエス・キリストを信じるならば、わたしたちには全てのことが可能であることを学びました。このレッスンのその他の原則は、次のことが含まれます。わたしたちが信仰を固く保ち、主の助けを求めるならば、主はわたしたちの信仰を強めてくださる。祈りと断食によって、イエス・キリストへの信仰を強めることができる。

第 4 日 (マルコ 9 : 30 - 50)

マルコ 9 : 30 - 50 を研究したとき、生徒たちは、イエス・キリストを信じる人々に罪を犯させるならば、神の御前で責任を問われることを学びました。それらの聖句にある救い主の教えから、生徒は、神から絶たれるよりは不義の影響から自らを切り離す方がよいことを学びました。

はじめに

このレッスンは、正しいと分かっていることをするよりも人々を喜ばせようとするのは、誤った選択、苦しみ、後悔につながることを理解する助けとなります。

教えるための提案

マルコ 6 : 1 - 29

イエス、ナザレで拒まれ、十二使徒を遣わされる；バプテスマのヨハネの死についての詳しい記述

間違っていると分かっていることをせざるを得なかったときのことを、生徒たちに考えてもらうことで、レッスンを始めます。

次の言葉をホワイトボードに書きます (この言葉は「正しい選択をする」『聖徒の道』1995 年 1 月号、42 にあります)。

「悪いことをする人々があなたを仲間に入れようとするのは、他の人も同じことをやればそれだけ安心するからです。」(リチャード・G・スコット長老)

- 悪いと分かっていることを誰かがあなたにさせようとしむける例には、どのようなものがあるでしょうか。

マルコ 6 章を研究しながら、生徒たちに、仲間からの不義の圧力に屈しないための助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マルコ 6 : 17 - 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデがバプテスマのヨハネにどのようなことをしたかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- ヘロデはヨハネにどのようなことをしたでしょうか。また、それはなぜですか。

ヘロデは妻を離縁し、兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめぐりました。この行為はユダヤ教の律法に露骨に違反するものであり (レビ 18 : 16 参照)、バプテスマのヨハネはそれに対する非難の言葉を口にしました。この結婚に対するヨハネの反対はヘロデヤを怒らせ、ヘロデは彼女をなだめるためにヨハネを投獄しました。

一人の生徒に、マルコ 6 : 19 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデヤがバプテスマのヨハネをどのようにしたいと望んだのかを見つけてもらいます。

- ヘロデヤは、バプテスマのヨハネをどうしたいと思っていましたか。
- ヘロデヤはなぜヨハネを殺させることができなかったのですか。(ヘロデはヨハネを恐れており、神の人であることを知っていたから。)

数人の生徒に、マルコ 6 : 21 - 29 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデがバプテスマのヨハネにどのようなことをしたかを見つけてもらいます。

- 26 節によると、バプテスマのヨハネを殺すことについて、ヘロデはどのように感じていたでしょうか。

- ・悪いことだと分かっている、そうしたくもなかったのなら、なぜヘロデはヨハネの首を切らせたのでしょうか。(ヘロデは、列座の人々がどう思うかを気にしていました。)
- ・正しいことをするのではなく、人々を喜ばせようとするかどうかについて、ヘロデの選択からどのような原則が分かりますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を必ず見つけられるようにしてください。正しいと分かっていることをするのではなく人々を喜ばせようとするのは、誤った選択、苦しみ、後悔につながる。)

この真理をさらによく理解できるよう、生徒たちを2つから4つのグループに分けて、青少年が、正しいと分かっていることをすること、人を喜ばせることのどちらかを選択しなければならぬ状況を、幾つか考えてもらいます。十分な時間を取った後、グループごとに発表してもらいます。生徒たちが発表していく中で、それらの幾つかをホワイトボードに書きます。

- ・それらの例のような圧力に屈したために、悲しみと後悔がもたらされた状況を、どのような場面で見ましたか。
- ・人々を喜ばすことではなく正しいことをする方を選んだ人、どのようなときに見ましたか。
- ・人々を喜ばすことではなく、正しいと分かっていることをする方を選ぶ助けとなるのは、どのようなことですか。

正しい決断をすることについての、スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を読み上げます。



「事が起こるずっと前にどうするか決めておけば、いとも簡単に正しい決断をすることができます。疲れたり、大きな誘惑に出遭ったりしても、こうしておけば、分かれ道に行き当たったときに、多くの悩みや苦しみを避けることができます。」(『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』108)

生徒たちに、次の一週間深く考え、周囲の人を喜ばせることと正しいことを行うことの間で選ぶ必要がある状況を、見つけてもらいます。そのような圧力を経験するとき、どう対処するかを計画するように励まします。

イエスがガリラヤで多くの奇跡を行われたことを聞いて、ヘロデはバプテスマのヨハネが死人の中からよみがえり、それらの奇跡を行っているのだと恐れたことを説明します(マルコ6:14-16)。

マルコ7-8章

イエス・キリスト、二人の人を癒やされて、弟子たちをお教える

マルコ7-8章には、救い主が人を癒やされた2つの出来事が含まれていることを説明します。生徒を二人一組にします。それぞれの組の一人の生徒に、マルコ7:31-35を、もう一人には、マルコ8:22-25を読んでもらいます。その後で、これらの節にある癒やしの奇跡について、それぞれのパートナーに話してもらいます。

十分な時間を取った後、救い主はどのようにしてその二人を癒やされたかを説明してもらいます。

- ・盲人が最初は完全に癒やされなかったことから、どのような教訓を学ぶことができるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読んでもらいます。生徒たちに、なぜイエスはそ

の男を徐々に、つまり段階的に癒やされたのかに注意しながら聞いてもらいます。



「この奇跡は独特です。イエスが段階的に人を癒やされた、ただ一つの例だからです。弱いところを強めるだけでなく盲人の信仰を増すために主はこの方法を取られたのでしょ。イエスに何度か直に触れることは、希望、確信、目に見えないものへの信仰を増し加える効果があったと思われます。イエスは(1)盲人の手を取って村の外に連れ出され、(2)盲人の両方の目に御自分のつばきをつけられ、(3)両手を彼に当てるという儀式を行われ、(4)再びその男の目の上に両手を当てられました。

確かに、この癒やしが行われた過程は、人が自らの力と信仰を尽くして癒やしの恵みを求めなければならないということをお教えています。そして、部分的な癒やしだけならそれで十分ですが、続けてそれを受けることで、隅々まで完全になるためのさらなる確信と信仰を得られるものと考えられます。神の計画と目的に調和した生活をするときに、人はしばしば、徐々に、段階的に、霊的な病からも癒やされるのです。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻[1965-1973年], 第1巻, 379-380)

- ・徐々に癒やされることで、イエス・キリストへの信仰がどのように増すでしょうか。
- ・福音の証を得ること、肉体的または精神的な癒やしを得ることなどの祝福は、即座にまたは一度に来るのではなく、徐々に、または段階的に訪れることを理解することが重要なのはなぜでしょうか。

マルコ8:27-28の要約として、イエスは弟子たちに、人々は、御自分を誰であると言っているかと尋ねられたことを説明します。弟子たちは、バプテスマのヨハネだと言う人やもう一人の預言者だと言う人がいると答えました。

一人の生徒に、マルコ8:29を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスについてペテロが宣言したことを見つけてもらいます。

- ・ペテロはイエスを誰だと言いましたか。(「キリスト」という言葉は、ギリシャ語の「メシヤ」に当たります。)

マルコ8:30-31の要約として、イエスは御自分がユダヤ人に拒まれ殺されると、弟子たちに教えられたことを説明します。一人の生徒に、マルコ8:32-33を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロがこの知らせにどのように反応したかを見つけてもらいます。

ユダヤ人の間に広がった勝利者メシヤへの期待から、ペテロにとってまた当時の多くのユダヤ人にとって、メシヤが苦しみを受けて死ぬということは、理解し難く受け入れ難いことだったことを説明します。

- ・ペテロは、マルコ8:22-25で述べられている盲人と、どのように似ているでしょうか。(ペテロは徐々に真理が「見えて」きました。ペテロには救い主への信仰がありましたが、救い主の使命についての理解は少しずつ深まりました。)
- ・あなたやあなたの知人にとって真理が少しずつ明らかになるよう、救い主はどのように助けてくださいましたか。

生徒たちに、毎日の生活の中で主を優先するために、今日のレッスンがどのような助けとなるか深く考えながら、マルコ8:34-38を黙読してもらい、今日のレッスンを終わります。

次の単元 (マルコ 10 章ールカ 4 章)

生徒たちに、マルコによる福音書の研究を終了し、ルカによる記録の研究を始めることを説明します。イエス・キリストの生涯と贖罪の出来事の最終段階について読み返しながら、新たな詳細

を調べてもらいます。また主が十字架につけられていたときに、イエスに向けられたあざけりの言葉に注目してもらいます。ルカによる福音書では、聖書の中で最も広く知られた章の一つールカ 2 章ーと、踏みにじられる者、追い出される者、罪人たちについての記録を読みます。

第41課

マルコ 10 章

はじめに

現世における主の教え導く業の終わりが近づいたとき、救い主はペレアの人々に仕え、教え、導かれました。そこにいらっしやる間、主は結婚の教義を教え、幼い子供たちを御自分のもとに来よう招かれました。救い主はまた、金持ちの若い役人に、自分の持っている物を全部売って、御自分について来るよ

う諭されました。救い主がペレアを去り、現世の最後の時のためにエルサレムに向かって進みながら、主は御自身の死と復活をあらかじめ示し、他の人々に仕えるよう使徒たちに勧告されました。主はエリコで目の不自由な人を癒やされました。

教えるための提案

マルコ 10 : 1 - 16

イエス、結婚の教義を教え、幼い子供たちを御自分のもとに来よう招かれる

生徒に、幼い子供たちの写真を何枚か見せます。

- あなたは、あなたの弟や妹、またはあなたが知っている他の幼い子供たちのどのような資質や特徴をすばらしいと思いますか。(生徒の答えをホワイトボードに書きます。)

マルコ 10 : 1 - 16 を研究しながら、わたしたちが幼い子供たちのようになるべき理由を教えている真理を見つけてもらいます。

教え導く業の終わり間近に、救い主はガリラヤを去り、ペレアと呼ばれる地方に行かれたことを説明します。(生徒に、配付資料「イエス・キリストの現世での生涯早見表」〔第5課参照〕または『聖書の地図』地図 11「新約の時代の聖地」でペレアの場所を見つけてもらってもよいでしょう。) マルコ 10 : 1 - 12 の要約として、ペレアにいらした間、救い主は人々に結婚の大切さについて教えられたことを説明します。

一人の生徒に、マルコ 10 : 13 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がペレアにいらっしやる間に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 人々が救い主のもとに幼い子供たちを連れて来たとき、弟子たちはどのように反応したでしょうか。(13 節にある「たしなめた」という言葉は、弟子たちが、救い主のもとに子供たちを連れて来ることは間違っていると人々に言ったことを示していると説明します。)
- 救い主は弟子たちに対してどのような反応を示されたでしょうか。

一人の生徒に、マルコ 10 : 15 - 16 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、御自分のもとに幼い子供たちが来たとき、救い主は弟子たちに何と教えられたのかを見つけてもらいます。15 節で述べられている「神の国を受け入れる」という言葉は、福音を受け入れることを指していると説明します。

- 「幼子のように」福音を受け入れるとは、どのような意味だと思いますか(15 節)。(生徒の答えをホワイトボードに書き、既にホワイトボードに挙げられているものと比べます。)
- これらの聖句から、わたしたちが幼子のように福音を受け入れるとどうなるかということについて、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒は複数の真理を挙げるかもしれませんが、次のことを必ず明確にしてください。わたしたちが幼子のように福音を受け入れるなら、神の王国に入るために備えられる。)
- 幼子のように福音を受け入れることは、どのような点で神の王国に入る備えとなるでしょうか。(この質問に生徒が答えるのを助けるため、モーサヤ 3 : 19 を参照してもらってもよいでしょう。)

マルコ 10 : 17 - 34

救い主、金持ちの若い役人に、自分の持っている物を売って御自分について来るよう諭される

一人の生徒に、マルコ 10 : 17 - 20 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が幼い子供たちを祝福した後、何が起こったかを見つけてもらいます。

- あなたなら、イエスのもとに来た人をどのように説明しますか。それはなぜですか。
- その人は救い主に何と尋ねたのでしょうか。イエスはどのように答えましたか。

マタイ 19 章にも、救い主のもとに来たこの人の話が述べられていることを説明します。一人の生徒に、マタイ 19:20 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が戒めを幾つか挙げられた後、その人がどのように答えたかに耳を傾けてもらいます。

- 全ての戒めを守っていることを知らせたうえで、その若い人は救い主にどのような質問をしたのでしょうか。（その若い人の質問に印をつけるように生徒に提案するとよいでしょう。）

ホワイトボードに次の質問を書きます—他に何が足りないのでしょうか。

生徒たちに、マルコ 10:21 を黙読して、救い主がその若い人にどのように答えられたかを見つけてもらいます。

- 救い主はこの若い人には何が足りないと言われたのでしょうか。

21 節にある「イエスは彼に目をとめ、いつくしんで」という言葉を指摘します。生徒が聖典のこの部分に印をつけるように提案するとよいでしょう。

- イエスがこの青年に何が足りないかを言われる前に、イエスがこの若者を愛しておられたと知ることが大切なのはなぜでしょうか。

この話からどのような原則を学ぶことができるのでしょうか。（生徒たちは次の原則を含め幾つかの原則を挙げるでしょう。主はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちが主に従うための努力において足りないものを知るのを助けてくださる。主に尋ねるなら、主はわたしたちが永遠の命を受け継ぐために何を必要とするかを教えてください。）

生徒たちに、マルコ 10:22 を黙読して、救い主がその若者に持っている物を全て売るよう勧められたとき、彼がどのように反応したかを見つけてもらいます。

- この若い人はどのように反応したのでしょうか。
- 22 節によると、彼がそのように反応したのはなぜでしょうか。

わたしたちが主に従うために莫大な財産を放棄するように要求されることはないかもしれませんが、主に仕え、主の戒めに従うために他の犠牲を払うよう主は求めておられることを指摘します。

- 主がわたしたちに求めていらっしゃるもの、払うのが難しいかもしれない犠牲にはどのようなものがあるのでしょうか。
- 全ての事柄において主に従わない方を選ぶなら、わたしたちはどのような祝福を受けられないのでしょうか。

一人の生徒に、マルコ 10:23 - 27 を声に出して読んでもらいます。またこの生徒に、次のジョセフ・スミス訳マルコ 10:26 からの抜粋（イエスは彼らを見つめて言われた。「富に信頼を置く人には不可能だが、神に信頼を置き、わたしのために全てを捨てる人には不可能なものはない。そのような人にはこれらは全て可能だからである。」）を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主のために全てを捨てることについてイエスが教えられたことを見つけてもらいます。

- 富やその他、この世の事柄を信頼する人々にとって、神の王国に入るのがそれほど難しいのはなぜだと思いますか。
- 神を信頼する人々には全てのことが可能であるとは、どのような意味だと思いますか。

一人の生徒に、マルコ 10:28 - 31 を声に出して読んでもらいます。またこの生徒に、次のジョセフ・スミス訳マルコ 10:31 の抜粋（「しかし、多くの者が自分を先にするがゆえにあとになり、あとの者は先になるであろう。こう言って主はペテロを叱責された。」）を読んでもらいます。他の生徒には聞きながら、救い主が求められるならわたしたちは何でも喜んで諦めるべきであると教えられたときにペテロが言ったことを見つけてもらいます。

- 28 節によれば、ペテロは何と言ったのでしょうか。
- 主に従うために全てを喜んで諦める人々に対して、救い主はどのような約束をしてくださったのでしょうか。

- 永遠の命を受けるためにわたしたちがしなければならないことについての救い主の教えから、どのような原則が学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。永遠の命を受けるため、わたしたちは主が必要とされるもの全てを進んで手放さなければならない。この原則をホワイトボードに書きます。）
- なぜ永遠の命は求められたもの全てを犠牲にする価値があるのですか。（永遠の命には、義にかなった家族とともに神のもとで永遠に生きることが含まれていることを生徒に思い出してもらおうとよいでしょう。）

マルコ10:32-34の要約として、一行がエルサレムに到着した後、主は弟子たちに、御自身があざけられ、つばきをかけられ、鞭打たれ、ついには殺されること、そして3日目によりみがえられるであろうことを語られたことを説明します。

- どのような点で、救い主は、神が求められるなら何でも喜んで諦めるということの完全な模範でしょうか。

このレッスンで教えられた真理について証をします。「他に何が足りないのでしょうか」という質問についてよく祈って深く考え、主がわたしたちに求めておられる犠牲に関して受ける促しに従うよう生徒を励まします。

マルコ10:35-52

救い主、御自身の死と復活を預言し、他の人々に仕えるよう使徒たちに勧告される

生徒を少人数のグループに分けます。次の配付資料のコピーをそれぞれのグループに配り、完成してもらいます。

証を述べる

レッスンの最後だけがあなただけがあなたの証を述べる時間ではありません。レッスン中でも、教義や原則が見つけれ話し合われる際にはあなたの証を分かち合う機会を持ちます。生徒に同じことをしてもらいます。証を分かち合うとき、聖霊はその証の真実性を生徒の心や思いに証します。

最も偉大な者は誰か

グループでこの配付資料を全て記入し、質問に対する答えを話し合います。

あなたの好きな活動をいくつか挙げます。_____

- それらの活動が本当に上手な人の名前を何人か挙げます。彼らはなぜ上手になったのでしょうか。

マルコ10章の救い主の言葉を続けて研究しながら、何が人を本当に偉大にするかについて主が教えられたことを見つけます。

マルコ10:35-37を読み、エルサレムに上る途中でヤコブとヨハネが救い主に頼んだことを見つけます。

救い主の右と左に座るといふヤコブとヨハネの願いには、彼らが他の使徒たちが受けるよりもさらなる栄光と名誉を神の王国で受けたいと思っていたことが暗に示されていました。マルコ10:38-40には、救い主がヤコブとヨハネに対し、この祝福はそれを受けよう備えられている人々に与えられると説明されたことが記録されています。

マルコ10:41を読み、他の弟子たちがヤコブとヨハネの願いに対してどのように反応したかを見つけてもらいます。

- 他の弟子たちがヤコブとヨハネを不快に思ったのは、なぜだと思いますか。

マルコ10:42-45を読み、救い主が弟子たちに偉い人について教えられたことを見つけます。

救い主が本当に偉い人について教えられたことを基にして、以下の文章を完成させてください。

本当に偉くなるためには、わたしたちは_____をしなければならない_____。

45節にある「仕える」という言葉は、他の人々の世話をし、慰め、援助し、支えることを意味しています。

- (救い主のように)他の人々に仕え、教え、導く人が本当に偉い人とみなされるのはなぜでしょうか。
- 誰かが、あなたやあなたの家族に仕え、世話をしてくれたことはありますか。あなたはなぜその人が本当に偉い人だと思うのでしょうか。

生徒が配付資料を完成したら、何人かの生徒に、マルコ10:42-45に基づいてその文章をどのように完成させたか発表してもらいます。生徒は他の言葉を使うでしょうが、おそら

く次の原則を見つけるはずでず。本当に偉くなるためには、他の人々に仕えるという救い主の模範に従わなくてはならない。

マルコ 10：46 - 52 の要約として、救い主と使徒たちがエルサレムへ向かうためにエリコから出かけられたとき、バルテマイという名前の目の不自由な人が癒やしてほしいと救い主に叫んだことを説明します。群衆はバルテマイに静かにするよう言いましたが、彼はますます大きな声で叫びました。救い主はその叫び声を聞き、彼を哀れみ、癒やされました。（注 — バルテマイの癒やしの話は、ルカ 18 章のレッスンでさらに詳細に教えられます。）

- どのような点で救い主は、他の人々に仕え、教え、導くことについて御自身が教えられた原則の完全な模範なのでしょうか。

天の御父の子供たちに仕え、教え、導くことによって、救い主は本当に偉大であるというあなたの証を分かち合います。生徒に、周りの人々に仕え、世話をするためにできることについて考えてもらいます。他の人々に仕え、教え、導くのに助けとなる目標を立てるよう生徒に勧めます。

第42課

マルコ 11 - 16 章

はじめに

現世での教え導く業の終わり間近に、救い主は貧しいやもめが神殿のさい銭箱にレプタ二つを投げ入れるのを御覧になりました。後に、ベタニヤでの夕食の際、マリヤはイエスに埋葬のしるしとして油を注ぎました。救い主はゲツセマネで苦悶され

ました。主は試され、死刑の判決を下されました。十字架上で亡くなり、復活された後、主は使徒たちに現れ、世界に福音を携えて行くように彼らを任命されました。

教えるための提案

マルコ 11 - 13 章

救い主、神殿で教え、やもめが神殿のさい銭箱にレプタを投げ入れるのを御覧になる

次の状況を声に出して読み、生徒に、それぞれの状況における主に対するささげものの違いに耳を傾けてもらいます。

1. ある女性が断食献金として大金をビショップに渡しました。同じワードに住む別の女性は、断食献金としてほんの少しのお金をビショップに渡しました。
 2. ある男性はステーキ会長として奉仕しています。同じステーキの別の男性は、初等協会の教師として奉仕しています。
- それぞれの状況におけるささげものにどのような違いを見つけましたか。
 - 主に対する自分のささげものが他の人々のささげものと比べて少なく見える場合、どのように感じるでしょうか。

マルコ 11 - 14 章を研究しながら、主が御自分へのささげものをどのように見ておられるかを知る助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

「勝利の入城」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』50番；LDS.orgも参照）。マルコ 11：1 - 12：40 の簡単な要約として、救い主は現世での教え導く業の終わり間近に、エルサレムに勝利の入城をされ、神殿を清め、そこにいた人々を教えられたことを説明します。主が神殿で教えている最中に、救い主の信用を落とそうとして、パリサイ人と律法学者が主に難しい質問をしたことを生徒に思い出してもらいます。救い主は彼らの質問に答えられた後、パリサイ人や律法学者の偽善を非難されました（マタイ 23 章参照）。

イエスは神殿にいた間、神へのささげ物として神殿のさい銭箱にお金を持って来る人々を御覧になったことを説明します。一人の生徒に、マルコ 12：41 - 44 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主がさい銭箱のところで御覧になったことを見つけてもらいます。

- 救い主がさい銭箱の所で御覧になったことは何だったでしょうか。
- 自分の国の通貨における最も小額の硬貨を見せ、「レプタ」とは「ユダヤ人によって使用される最も小額の青銅製の硬貨」であることを説明します（Bible Dictionary, “Money”の項）。
- 神に対してレプタ二つしかささげられないとしたら、その人はどのように感じるでしょうか。
 - 他の人々のささげ物と比べて、そのやもめのささげ物について、救い主は何と言われたでしょうか。
 - 救い主が、彼女のささげ物は他のささげ物よりも「たくさん」だと考えられたのはなぜだと思いますか。
 - そのやもめについて主が言われたことを基にして、主にささげることについてどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の原則を見つけるはずで、持っているもの全てを喜んで主にささげるなら、それが他の人々のものと比べて少なく見えるとしても、主はわたしたちのささげ物を受け入れてくださる。）

ゲツセマネにおける救い主の苦悶についての教え

ゲツセマネで起きた出来事の記述が3つあります。マタイ 26 章のレッスンでは、御父の御心に対する救い主の従順に焦点が当てられています。マルコ 14 章のレッスンでは、ゲツセマネにおけるイエス・キリストの苦悶が採り上げられています。ルカ 22 章のレッスンでは、救い主の苦悶の極みが強調されています。救い主の苦悶を記録しているこの3つの章の異なる観点到焦点を当てることにより、生徒はそれらを研究する際に各章ごとに異なる経験をすることができるでしょう。



マルコ 13 章の要約として、救い主は使徒たちに再臨について教えられたことを説明します。生徒に、これらの教えは、ジョセフ・スミス・マタイで研究したことを思い起こしてもらいます。

マルコ 14 : 1 - 9

マリヤ、救い主に油を注ぐ

救い主が弟子たちに再臨のしるしについて教えられた後、主はエルサレムをたつてベタニヤに向かい、以前に重い皮膚病を患っていたシモンという名の人の家に行かれたことを説明します。

一人の生徒に、マルコ 14 : 3 を声に出して読んでもらいます。別の生徒には、ヨハネ 12 : 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、救い主が食事の席に着いたときに起こったことに耳を傾けるように言います。

- シモンの家で救い主が食事の席に着いたときに何が起こったのでしょうか。（救い主に油を注いだ女は、マルタとラザロのきょうだいのマリヤであったことを説明します〔ヨハネ 12 : 1 - 3 参照〕。）
- マリヤはどのようにして救い主に自分の愛と献身を示したのでしょうか。

救い主の頭と足にナルドの油（高価な香油）を注ぐというマリヤの行動は、王や諸侯にさえまれにしか与えられないほどの尊敬の意を表す行為でした（ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』第 3 版、499 参照）。

数人の生徒に、マルコ 14 : 4 - 9 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、食卓についていた人々の一部がマリヤの行ったことに対してどのように反応したかを見つけてもらいます。ヨハネ 12 : 4 - 5 から、イスカリオテのユダはマリヤの行動について不平を言った者であることが分かりますと説明します。

- マリヤが高価な香油を救い主に注いだことに対して、イスカリオテのユダはどのように反応したのでしょうか。
- 5 節によれば、その香油はどれくらいの価値があったのでしょうか。（300 デナリというのは一般的な労働者が 1 年間で稼ぐことができる金額とほぼ等しいことを説明します。）
- 救い主はユダのマリヤへの非難に対してどのような反応を示されたのでしょうか。

6 節にある「わたしによい事をしてくれたのだ」という言葉を指摘し、それは救い主がマリヤの行ったことに満足しておられることを示していると説明します。8 節にある「この女はできる限りの事をしたのだ」という言葉も指摘し、これはマリヤが主に対して最大の努力を払ったことを表していると説明します。

- これらの聖句から、わたしたちが主に対して最大の努力を払ったとき、救い主はどのようにお感じになるかについてどのような真理を学べるのでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の原則を見つけるはずで、わたしたちが救い主のために最大の努力を払うとき、主はそれを喜ばしく思われる。）

クラスの初めに話した二つの状況を思い出してもらいます。マルコ 12 章と 14 章で見つけた真理を用いて、それぞれの状況にある人々がどのように主を喜ばせることができるか説明するよう生徒に言います。

- これらの真理を信じることは、自分には主にささげられるものがあまりないと感じている人をどのように助けるでしょうか。
- 主に最大の努力を払っている人を見たのはどのようなときですか。

生徒に、自分は現在主に対して最大の努力を払っているかどうか考えてもらいます。自分の生活の中で改善できる点の一つを選び、主に最大の努力を払う助けとなる目標を立てるよう生徒を励まします。

マルコ 14 : 10 - 16 : 20

イエス、ゲツセマネで苦しまれ、贖罪を始められる；イエス、イスカリオテのユダによって裏切られ、ユダヤ人支配者たちのもとへ連れて行かれる

以下の質問を黙読してよく考えるよう生徒に言います。

- 誰もあなたのことや、あなたが経験していることを理解していないと感じたことがありますか。
- 過去の罪を赦してもらえないと感じたことがありますか。

マルコ14章を研究しながら、このような気持ちを感じているかもしれない人の助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

マルコ14:10-31の要約として、マリヤがイエスに油を注いだ数日後、イエスと使徒たちは過越を祝われたことを説明します。その後、救い主はゲツセマネの園に向かわれました。

一人の生徒に、マルコ14:32-34を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がゲツセマネの園でどのような気持ちを感じておられたかを見つけてもらいます。

- 救い主はゲツセマネの園でどのような気持ちを感じておられたでしょうか。

生徒に答えてもらった後、次の言葉をホワイトボードに書きます-恐れおののき、悩みはじめ、悲しみのあまり

これらの言葉は、イエス・キリストが贖罪の一部として経験された苦悶を指していることを説明します。

- これらの言葉は、イエス・キリストの贖罪について何を教えているでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。贖罪の一部として、イエス・キリストはゲツセマネの園で苦しみ、悲しまれた。)

数人の生徒に、マルコ14:35-42を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が激しい苦悶のために行われたことを見つけてもらいます。


- 救い主は激しい苦悶のために何を行われたでしょうか。(イエスの苦悶は、可能であればそれを経験しないで済むようにと願うほどにつらいものであったことを生徒が理解できるように助けます。)

ホワイトボードに次の言葉を書きます-イエス・キリストは_____のために苦しめられた。

その他の聖句もイエス・キリストの苦悶と、主がわたしたちのために喜んで苦しめられる理由を理解する助けとなることを説明します。

に次の参照聖句を書きます。「イザヤ53:3-5;アルマ7:11-13」生徒たちを二人一組にして、その聖句と一緒に読み、救い主が苦しめられたことと、主が苦しめられる理由を見つけてもらいます。生徒たちに、イザヤ53:3-5とアルマ7:11-13で学んだことを用いて、ホワイトボードに書かれた言葉をどのように完成させるか、自分の学習ノートや聖典学習帳に記入するように言います。(アルマ7:12にある「救う」という言葉は、急いで援助を与える、または誰かを支援するために向かうという意味であることを説明する必要があるかもしれません。)

十分な時間を取った後、何人かの生徒に文をどのように完成させたか発表してもらいます。生徒の答えは、次のような内容になるはずです。イエス・キリストは、わたしたちを救う方法を知るために、わたしたちの痛み、苦しみ、誘惑、病気、弱さ、そして悲しみのために苦しめられた。イエス・キリストは、わたしたちの背きを完全に拭い去るために、わたしたちの罪のために苦しめられた。人類の罪のための救い主の苦悶はゲツセマネに始まり、十字架上で終わるまで続いたことを生徒に思い出してもらいます。

 贖罪の一部として、イエス・キリストがゲツセマネの園で苦悶され、悲しまれたという事実の重要性を生徒が感じる助けとなるよう、ビデオ「特別な証人-ホランド長老」(2分38秒)を見せてもよいでしょう。その中で、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はゲツセマネの園における救い主の苦悶について証しています。このビデオはLDS.orgで視聴可能です。

- 救い主が何のために苦悶され、なぜ苦しめられたのかを知ることは、あなたが試練、痛み、苦難に直面しているときにどのような助けとなるでしょうか。
- 救い主が、痛みや病気、悲しみの中にあるあなたを救ってくださったと感じたのはどのようなときでしたか。
- イエス・キリストの贖罪を通してあなたが悔い改め、罪が拭い去られた(あるいは消し去られた)と感じたときに、どのような気持ちを覚えたでしょうか。

マルコ14:43-16:20の要約として、イエス・キリストはサンヒドリン(全議会)の前で違法な裁判にかけられ、死刑を宣告されたことを説明します。十字架上で亡くなり復活された後、救い主は使徒たちに現れ、世界に福音を携えて行くことを委ねられました。

今日、話し合った真理について証を分かち合うことによって、終わるとよいでしょう。

注釈と背景情報

マルコ 14:3-9 マリヤ、イエスに油を注ぐ

ジェームズ・E・タルメージ長老は、マリヤの行動はイエスに対する彼女の大きい愛を示していると説明しています。

「客の頭に油を注ぐことは、その油の質が並のものであってもその客を敬うしるしであった。そして客の足にも油を塗るこ

とは並外れて特別に敬うしるしであった。しかし、客の頭と足に高価なナルドの香油を、しかもこのように多量に塗るとするのは、王や諸候にもまれにしか与えられない、恭しい尊敬の意を表すことであった。マリヤの行為はまことに熱烈な敬慕の表れであって、尊敬と愛情に満ちあふれた心のほとばしりであった。」(『キリスト・イエス』第3版, 499 参照)

ルカによる福音書

への導入

なぜこの書を研究するのか

ルカによる福音書には、マタイとマルコによって記録された多くの真理についてのさらなる証が提供され、独自の内容も記載されています。ルカによる福音書は、イエス・キリストの教えに対する生徒の理解を深め、主の現世における教導の業と永遠の贖罪によって明らかとなった主の全人類への愛と憐れみをさらに十分に理解するために役立ちます。

誰がこの書を書いたのか

この福音書の著者はルカです。ルカは医者であり(コロサイ4:14参照)、「イエス・キリストの御言葉を伝える者」(ジョセフ・スミス訳ルカ1:1)でした。ルカはパウロの「同労者」(ピレモン1:24)の一人であり、パウロの伝道の同僚(2テモテ4:11)でした。ルカは使徒行伝の著者でもあります(『聖句ガイド』「ルカ」参照)。

いつ、どこで書かれたか

ルカによる福音書が正確にいつ書かれたかはわかっていませんが、紀元1世紀後半に書かれたと考えられています。ルカの情報源は、救い主の現世における教え導く業と復活を「最初から親しく見た」(ルカ1:1)人々です。ルカの福音書が書かれた場所はわかっていません。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ルカは、自分の福音書がおもに異邦人によって読まれることを意図しており、イ

エス・キリストをユダヤ人と異邦人両方の救い主として伝えていきます。ルカは、この福音書を特に「テオピロ」(ルカ1:3)に宛てています。テオピロとはギリシャ語で「神の友」または「神に愛される人」という意味です(*Bible Dictionary*, “*Theophilus*”の項参照)。テオピロがイエス・キリストの人生と教えについて予め教えを受けていたことは明らかです(ルカ1:4参照)。ルカは、救い主の使命と教え導く業の系統的な記述を提供することにより、さらに詳しく教えることを望んでいました。ルカは、彼の証を読む人が、神の独り子、そして独り子の憐れみ、贖罪、および復活を「十分に知って」(ルカ1:4)くれることを求めています。

この書の特徴は何か

ルカは4つの福音書のうち最も長く、新約聖書の中でも最長の書となっています。キリスト教世界で最もよく知られている話の幾つかは、ルカの福音書にしか書かれていないものです—バプテスマのヨハネの出生に関わる状況(ルカ1:5–25, 57–80参照)；伝統的なクリスマスの物語(ルカ2:1–20参照)；イエスが12歳のときの神殿での話(ルカ2:41–52参照)；良いサマリヤ人(ルカ10:30–37参照)、放蕩息子(ルカ15:11–32参照)、金持ちとラザロ(ルカ16:19–31参照)などのたとえ；重い皮膚病にかかった10人の話(ルカ17:11–19参照)；復活された主が弟子たちとともにエマオま

での道を歩かれたときの記述(ルカ24:13–32参照)。

これら以外のルカによる福音書の特徴には、他の福音書にはないバプテスマのヨハネの教えが含まれていること(ルカ3:10–14参照)；イエス・キリストの祈りの精神を強調していること(ルカ3:21；5:16；9:18, 28–29；11:1)、七十人の召し、訓練、伝道の働きが含まれていること(ルカ10:1–22)などがあります。さらに、ルカは救い主がゲツセマネで血を流され、天使が救い主を力づけたこと(ルカ22:43–44)を記録した唯一の福音書著者です。

ルカの福音書は神殿で始まり、神殿で終わることから、神が人類と交わりを持たれる主要な場所としての神殿の重要性も示しています(ルカ1:9；24:53)。

概要

ルカ1–3章 バプテスマのヨハネとイエス・キリストの誕生と使命が予告される。証人たちは幼子のイエスがメシヤであると証する。イエスは12歳のときに神殿で教えを説かれる。バプテスマのヨハネは悔い改めを宣べ伝え、イエス・キリストにバプテスマを施す。ルカがイエスの系図を記録する。

ルカ4–8章 イエス・キリストが荒野で試みられる。イエスはナザレで御自分がメシヤであることを宣言され、人々に拒まれる。イエス・キリストは十二使徒をお選びになり、弟子たちをお教えになる。イエスは罪をお赦しになり、多くの奇跡を行われる。

ルカ9–14章 福音を宣べ伝え、人を癒やすために十二使徒が遣わされる。イ

エス・キリストは5,000人以上の人々に食物をお与えになり、山の上で姿を変えられる。イエスは七十人を召し、人々を教えるために彼らを送り出される。イエス・キリストは、弟子となること、偽善、および裁きについての教えを説かれる。イエスは良いサマリヤ人のたとえをお話しになる。

ルカ15–17章 イエス・キリスト、たとえを用いてお教えになる。イエスは、侮辱、信仰、赦しについてお教えになる。イエスは10人の重い皮膚病にかかった人を癒やし、御自身の再臨についてお教えになる。

ルカ18–22章 イエス・キリストは引き続きたとえを使ってお教えになる。イエスは盲人を癒やし、ザアカイをお教えになる。イエスはエルサレムへの勝利の入場をされ、この町のために泣き、神殿を

清められる。イエス・キリストはエルサレムの滅亡を予告され、御自身の再臨に先立つしるしについてお話しされる。イエスは聖餐を定められ、弟子たちに教えを説き、ゲツセマネで苦しみを受けられる。イエスは裏切られ、捕らえられ、嘲弄され、打たれ、尋問される。

ルカ23–24章 イエス・キリストはピラトとヘロデの前で裁かれ、十字架にかけられた後、葬られる。墓に現れた天使、エマオに向かう二人の弟子がイエス・キリストが復活されたことを証する。エルサレムで弟子たちに姿を現された救い主は、使徒たちに神からの力が与えられることを約束され、天に昇られる。

第43課 ルカ1章

はじめに

天使ガブリエルがザカリヤに現れ、ザカリヤと彼の妻、エリサベツは息子をもうけること、そしてその子にヨハネという名前をつける必要があると知らせました。半年後、同じ天使がマリヤに現れ、彼女が神の御子の母親になることを知らせました。

マリヤはエリサベツのもとを訪れ、救い主の降臨を喜びました。3か月後、エリサベツはヨハネを産みました。

教えるための提案

ルカ1:1-4

ルカ、福音書を書くための理由を説明する



次の絵を見せ、それぞれの絵で起きている事柄を説明するよう生徒に言います。「ベツレヘムへ旅するヨセフとマリヤ」(『福音の視覚資料集』29番; *LDS.org* も参照)、「羊飼いに現れる天使」(31番)、「幼な子キリストを崇めるシメオン」(32番)、「神殿における少年イエス」(34番)、「良きサマリヤ人」(44番)、「マリヤとマルタ」(45番)、「重い皮膚病にかかった10人の人」(46番)。これらの絵に描かれていること、そしてその他の多くの出来事は、マタイ、マルコ、ヨハネによる福音書には記録されておらず、ルカによってのみ記録された、救い主の現世での務めにおける出来事と教えであることを指摘します。

ルカによる福音書の簡単な紹介として、ルカはテオピロ(3節)という名の人に宛てた挨拶から書き始めて、また福音書を書く理由を説明したことを説明します。「テオピロ」は「神の友人」という意味です(*Bible Dictionary*, “*Theophilus*”の項)。一人の生徒に、ルカ1:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ルカの福音書を書く理由を見つけてもらいます。

- ルカがこの話を書く理由は何でしょうか。
- ルカ1:4によると、ルカによる福音書を研究することはわたしたちに何をもたらすことができますか。

生徒がルカによる福音書を研究するなら、イエス・キリストについて教えられてきた真理が「確実であることを……知[る]」ようになると断言します(4節)。

ルカ1:5-25

天使ガブリエルがザカリヤにヨハネの誕生を告げ、エリサベツはみごもる

自分が待ち望んでいる神からの祝福や答えについて深く考えるよう生徒に言います。ルカ1章を研究しながら、神からの祝福や答えを待っているときに助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、ルカ1:5-7を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、人生の大半で具体的な祝福を待ち続けていたのは誰かを見つけてもらいます。

- これらの節から、ザカリヤとエリサベツについてどのような詳細を学ぶことができるでしょうか。

ルカ1:8-10の要約として、ザカリヤはエルサレムの聖所で香をたくために任命されたことを説明します。それは人生において、おそらく一度だけ祭司に訪れる名誉でした。

生徒たちに、ルカ1:11-13を黙読し、ザカリヤが聖所に入っている間に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 13節によると、ザカリヤとエリサベツのためにどのような祈りが答えられたのでしょうか。(ザカリヤとエリサベツはおそらく子供に恵まれるよう長年祈っていたことを指摘します。この節の「あなたの祈りが聞き入れられたのだ」という言葉に印をつけるよう生徒に勧めてもよいでしょう。)

著者の意図

聖典から教える際、預言者である記録者が何を伝えようとしていたのを見いだすようにします。福音書を書くに当たってのルカの意図についてさらに詳しく知るには、このレッスンの前にある「ルカによる福音書への導入」を読みます。

- ザカリヤは、自分とエリサベツが「年老いていた」にもかかわらず息子を授かると聞いたとき、どのように感じたでしょうか（7 節）。

ルカ 1:14 - 17 の要約として、天使ガブリエルはザカリヤに、彼とエリサベツは「喜びと楽しみ」を得（14 節）、彼らの息子は多くの人々を主に備えるであろうと語ったことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 1:18 - 20 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、ザカリヤはどのように天使に答えたかを見つけるように言います。生徒に分かったことを分かち合ってもらいます。

- ザカリヤは天使の言葉を信じなかったためにどうなったでしょうか。
- 20 節によれば、天使がザカリヤに語った言葉はとなるとその天使は言ったでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。主の僕を通じて伝えられた主の御言葉は、時が来れば成就する。ホワイトボードにこの真理を書きます。）
- 「時が来れば」という言葉はどのような意味でしょうか。（主の時宜にかなって。）
ホワイトボードの文章に注意を向け、次のように質問します。
- この真理を知ることは、わたしたちが主の約束に応える方法にどのような影響を与えるでしょうか。（生徒たちが答えたら、ホワイトボードの真理を修正して、次の文章を作ります。主の御言葉は時が来れば成就するので、わたしたちは主の約束を信頼することができる。）
- この真理は神の約束が成就するのを待ち望んでいる人をどのように助けることができるでしょうか。

ルカ 1:21 - 24 の要約として、ザカリヤが聖所から出て来たとき、彼は話すことができなかったことを説明します。エリサベツはその後、天使が約束したとおりに、みごもりました。

一人の生徒（若い女性が望ましい）に、ルカ 1:25 のエリサベツの言葉を声に出して読むように言います。生徒たちに、エリサベツが子供を持つ備えをしたときに、どのように感じたか、よく考えてもらいます。主は「人々の間からわたしの恥を取り除」かれたというエリサベツの言葉は、子供がいないことは神からの罰だとする古代の文化に共通の誤った見解によって彼女が経験した恥ずかしい思いを指している可能性があることを説明する必要があるかもしれません。

ルカ 1:26 - 38

天使ガブリエル、来たるべきイエスの誕生をマリヤに告げる

「受胎告知 — マリヤを訪れる天使ガブリエル」（『福音の視覚資料集』28 番；LDS.org も参照）を見せ、突然天使が生徒に現れたらどのように感じると思うか想像してもらいます。ルカ 1:26 - 27 の要約として、エリサベツがみごもってから 6 か月の頃に、天使ガブリエルが、ナザレのおとめであったマリヤのもとに遣わされたことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 1:28 - 33 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神がマリヤに与えられた務めの大切さを彼女が理解するのに助けとなった言葉を見つけてもらいます。

- 神がマリヤに与えられた務めの大切さを彼女が理解するのに助けとなった言葉は何だったでしょうか。
- 「いと高き者の子」（32 節）という称号は何を意味するでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、おそらく次の教義を見つけましょう。イエス・キリストは父なる神の御子である。）

生徒たちに、ルカ 1:34 を黙読し、マリヤの疑問を見つけるように言います。生徒が見つけたことを分かち合ってもらいます。「わたしにはまだ夫がありませんのに」というマリヤの言葉は、彼女が処女であったことを意味していると説明します。

一人の生徒に、ルカ 1:35 - 37 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、マリヤの疑問に対する天使の答えを見つけてもらいます。

どのようにしてイエス・キリストの受胎という奇跡が起こったのか、聖書の中の記述以上のことはわたしたちには分からないことを説明します。わたしたちにはただそれが奇跡的な出来事であったことと、生まれてくる子が神の子であったことだけが伝えられています。

- ルカ 1:37 に記録されているように、天使はこの奇跡的な出来事を説明する助けとなるどのような真理を語ったでしょうか。（生徒たちはおそらく次の真理を見つけるはずで、神



マリヤを訪れる天使ガブリエル

憶測を避ける

救い主が受胎された方法という神聖な事柄について推測しないでください。その代わりに、聖典の中の教えに焦点を当て、キリストの誕生は奇跡であるということと、マリヤは「御子を生む前も生んだ後も、処女と呼ばれてい……た」（エズラ・タフト・ベンソン「キリストにあって得る喜び」『聖徒の道』1986年10月号、3:1 ニーファイ 11:13 - 20; アルマ7:10 も参照）という聖典の中の証を心に留めてください。

には、何でもできないことはない。生徒が聖典のこの部分に印をつけるように提案するとよいでしょう。)

- 自分の望んでいることは不可能だと感じる場合に、マリヤやエリサベツならわたしたちを励ますために何と言うと思いますか。
- あなたはどのような経験を通して、神には何でもできないことはないという信仰を強めてきたでしょうか。

生徒たちに、ルカ 1:38 を黙読して、マリヤが天使にどのように答えたかを見つけてもらいます。

- この節には、マリヤが天使の言葉を信じたことを示すどのような証拠が見られるでしょうか。
- 天使の言葉をマリヤが受け入れたことは、聖所での天使の知らせに対するザカリヤの対応とどのように異なっているでしょうか。

主の助けがあれば、自分自身の生活において主が求めておられることでできないことはないと信じることによって、マリヤとエリサベツの模範に従うよう生徒を励まします。

ルカ 1:39 – 56

マリヤ、エリサベツを訪ね、ともに救い主を証する



マリヤ、エリサベツを訪れる

可能であれば、エリサベツがみごもっている最中にエリサベツを訪れるマリヤの絵を見せます。この絵の中に描かれている人物は誰か、また何が起こっているのか理解できるか生徒に尋ねます。

- マリヤとエリサベツは普通の女性のように見えますが、二人は世界を変えることになる重要な役割を成就しようとしていました。それはどのようなことでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 1:41 – 45 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エリサベツのマリヤに対する証を見つけてもらいます。

- エリサベツはマリヤについて既にどのようなことを理解していたでしょうか。

一人の生徒（若い女性が望ましい）に、ルカ 1:46 – 49 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、マリヤがどのように主に褒めたたえたかを見つけてもらいます。

- マリヤは主が自分になさったことを 49 節に記録されたどのような言葉を使って説明したでしょうか。（「大きな事」）

生徒に、ルカ 1:38, 45 – 46 を黙読し、主に「大きな事」をしていただけるように、マリヤが行ったことを見つけてもらいます。

- 主に「大きな事」をしていただけるようにするためにマリヤが行ったことは何だったでしょうか。

ザカリヤ、エリサベツ、マリヤのそれぞれが神の計画の中で独自の役割を担っていたことと同様に、わたしたちにも主によって備えられた重要な役割があります。

- マリヤの模範によると、主がわたしたちに与えられた役割を果たそうと忠実に努めるなら、自分の生活の中にどのようなことが起こるでしょうか。（生徒が次の原則を見つけられるよう助けます。主が与えてくださる役目を忠実に果たす努力をすれば、主はわたしたちの人生で大きな事を行うことができになる。）
- 主が御自分の計画であなかが果たすよう望んでおられる役割にはどのようなものがあるでしょうか。
- あなたがマリヤがしたように主に応えたなら、あなたの人生にどのようなことが起こるでしょうか。

ルカ 1:57 – 80

バプテスマのヨハネが生まれる

ルカ 1:57 – 80 の要約として、エリサベツの出産後、ザカリヤは子供をヨハネと名付けるべきであることに同意したことを説明します。ザカリヤは同意すると、たちまち口が利けるようになり、イエス・キリストとヨハネの使命について預言しました。

ザカリヤ、エリサベツ、マリヤがしたように、わたしたちも神から与えられた自分の役割を忠実に果たすなら、主はわたしたちに、そしてわたしたちを通して大きな事をなさることがおできになることを証します。主の計画における自分自身の役割を果たすよう生徒を励まします。

注釈と背景情報

ルカ 1:38 「お言葉どおりこの身に成りますように」

マリヤの言葉についてのルカのギリシャ語表現は、彼女の意思決定の強さを反映しています。マリヤは救いの計画における自分の役割にしぶしぶ従ったのではなく、断固たる態度で受

け入れました。あたかも次のように言わんばかりでした。「もちろんです。あなたが言ったようにわたしは主の僕になります。」(マリヤの返答についてのさらなる洞察は、*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014年], 142 にあるルカ 1:38 の項を参照してください。)

第44課

ルカ2章

はじめに

ヨセフとマリヤはベツレヘムに行き、そこでイエスがお生まれになりました。羊飼いたちは、天使の指示に従って生まれたばかりのイエスを捜し当て、それから他の人々にイエスの降誕を知らせました。シメオンは神殿でイエスを祝福し、アンナは

贖い主がお生まれになったことを証しました。イエスは成長され、「知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛されました（ルカ2：52）。

教えるための提案

ルカ2：1－20

イエス、ベツレヘムにお生まれになる

ディボーショナルの時間に、全員で「もろびと、こぞりて」（『賛美歌』116番）か、別のクリスマスの賛美歌を歌ってもよいでしょう。

「ベツレヘムへ旅するヨセフとマリヤ」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』29番；LDS.orgも参照）。救い主の降誕を取り巻く出来事についてどのくらい知っているか考えるよう生徒に言います。

ルカ2：1－20を研究するための準備として、生徒に次の正誤クイズを出します。（クラスが始まる前に、それぞれの生徒のためにクイズのコピーを準備しておきます。）



正誤クイズ（ルカ2：1－20）

- _____ 1. マリヤとヨセフは税金を払うためにベツレヘムに行った。
- _____ 2. マリヤとヨセフは、ナザレからベツレヘムに向かって27マイル（44キロ）の距離を旅した。
- _____ 3. 客間が満員だったので、マリヤは幼子イエスを飼い葉おけの中に寝かせた。
- _____ 4. 羊飼いたちは星に導かれ、イエスが寝ている飼い葉おけまでたどり着いた。
- _____ 5. マリヤとヨセフを除き、記録上、イエスを最初に見たのは羊飼いたちだった。
- _____ 6. 天使は羊飼いたちに、見たことを誰にも言わないようにと伝えた。

ルカ2章を学びながら、このクイズの答えを見つけるように生徒に言います。

一人の生徒に、ルカ2：1－5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨセフとマリヤがベツレヘムに向かった理由を見つけてもらいます。

- ヨセフとマリヤはなぜベツレヘムへ向かったのでしょうか。（カイザルが人々を登録する、または数えることを望んでいたことを指摘します。これは課税の目的で行われました。）

生徒に、『聖句ガイド』にある『聖書の地図』の地図11「新約の時代の聖地」を開いてもらいます。地図上でナザレとベツレヘムを見つけ、縮尺目盛を使って、ヨセフとマリヤが旅をしたおよその距離を測るよう生徒に言います。生徒たちが答えたら、ナザレとベツレヘムの間の85－90マイル（137－145キロ）という距離は、徒歩で少なくとも4日から5日かかるものの、マリヤの状態を考慮すると、ヨセフとマリヤの場合はおそらくもっと長くかかったことを説明します。

世界の創造主であり、救い主である御方の誕生のために最もふさわしい状況とはどのような状況であると思うかを深く考えるよう生徒に言います。

一人の生徒に、ルカ2：6－7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの降誕の状況を見つけてもらいます。

- イエスは肉における神の独り子という他に類を見ない重要な立場にあったにもかかわらず、降誕の状況はどのようなものだったのでしょうか。

聖典研究補助資料を使う

教会は多くの聖典研究補助資料を作成し、幾つかの言語で標準聖典に載せています。参考資料として脚注、索引、写真、地図などがあります。教師と生徒が聖文を研究するときに利用できる最も価値ある資料と言えます。個人の聖文研究でも、利用可能な補助資料を活用するよう生徒に勧めます。

数人の生徒に、ルカ 2:8 - 14 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の降誕はどのように知らされたかを見つけてもらいます。生徒に分かったことを分かち合ってもらいます。「羊飼いに現れる天使」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』31 番；LDS.org も参照）。

- 10 節によると、救い主がお生まれになったことで、わたしたちは何を体験できるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。救い主がこの世にお生まれになったので、わたしたちは大きな喜びを感じることができる。）

生徒たちに、ルカ 2 章の研究をしながら、救い主の降誕の知識が他の人々に喜びをもたらした事例を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ルカ 2:15 - 20 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、羊飼いたちは天使から言われたことにどのように応じたかを見つけてもらいます。

- 羊飼いたちが天使の知らせにどのように応じたかを示す表現はどれですか。（15 節の「さあ、……行って」と 16 節の「急いで行って」という言葉に印をつけるよう、生徒に提案するとよいでしょう。）
- 羊飼いたちはこの知らせを心に留めたことで、何に関する証拠あるいは証を得たでしょうか。
- 羊飼いたちはイエス・キリストについての証を得てから、何を行ったでしょうか。
- 羊飼いたちが、経験したことを他の人々に伝えたのはなぜだと思いますか。
- この話から、わたしたちがイエス・キリストについて自分自身の証を得るときに何が起るのかについて、わたしたちはどのような原則を学べるでしょうか。（自分自身の言葉を使って、生徒は次のような内容の原則を見つけるでしょう。イエス・キリストについての自分自身の証を得たとき、わたしたちは自分の証を他の人々と分かち合いたくなる。）

イエス・キリストと福音についての証を他の人々と分かち合いたいと感じたときのことについて生徒たちに考えてもらいます。その願いの動機について深く考えるよう生徒に勧めます。数人の生徒に、経験したことをクラスで発表してもらいます。

ルカ 2:21 - 39

シメオンとアンナ、イエスを世の救い主であると宣言する

ルカ 2:21 - 24 の要約として、イエスの降誕後、マリヤとヨセフはユダヤ人の律法に従って（出エジプト 13:2 参照）、イエスを神殿に連れて行ったことを説明します。その日、二人の人が神殿で幼子イエスがメシヤであることに気づきました。クラスの若い男性に、ルカ 2:25 - 32 にあるシメオンの話を黙読してもらいます。（25 節で述べられている「イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた」という言葉は、メシヤがおいでになるのを待ち望んでいたことを指していると説明する必要があるかもしれません。）クラスの若い女性に、ルカ 2:36 - 38 にあるアンナの話を読み黙読してもらいます。生徒たちが割り当てられた聖句を読んだ後、次の質問に対する答えを見つけてもらいます。

- 救い主の降誕の知識は、どのようにこの人に喜びをもたらしたのでしょうか。
- 彼らはどのようにイエス・キリストについて証したのでしょうか。

時間を十分に取ってから、一人の若い男性に立ってもらい、読んだ話を要約し、先の質問に対する答えを発表してもらいます。「幼な子キリストを崇めるシメオン」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』32 番；LDS.org も参照）。

ルカ 2:33 - 35 の要約として、シメオンはマリヤとヨセフも祝福したことを説明します。

一人の若い女性に立ってもらい、読んだ話を要約し、先の質問に対する答えを発表してもらいます。

生徒たちに、救い主がお生まれになったことを知ることは、どのようにわたしたちに喜びをもたらすことができるか説明してもらいます。生徒に差し支えがなければ、クラスでイエス・キリストについての証を分かち合ってもらいます。

ルカ 2:39 の要約として、これらの出来事の後、マリヤ、ヨセフ、イエスはナザレに帰ったことを説明します。



ルカ 2:40 – 52

少年イエスは神殿で教えられる

生徒たちに、改善したいと思う分野の一つ、クラスノートか聖典学習帳に書き留めるように言います。差し支えがないと感じる何人かの生徒に、書いたことをクラスで発表してもらいます。（きわめて個人的なことについては分かち合う必要はないことを生徒に思い出してもらいます。）

- イエスが少年だったとき、どのような御方であったか知ることは、青少年である皆さんにとってどのような助けとなるでしょうか。


イエスの青年時代について、ほとんど詳細はありませんが、記録されている事柄は、自分自身を改善しようと努めるとき、わたしたちにとってすばらしい祝福と導きとなることを説明します。生徒たちがルカ 2 章の残りの部分を研究しながら、自分自身を改善しようと努めるとき、わたしたちが焦点を当てるべき分野を知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

「母親とともに祈られるイエス」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』33 番；LDS.org も参照）。一人の生徒に、ルカ 2:40 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ルカがイエスの子供時代をどのように説明しているのか見つけてもらいます。分かったことを発表してもらいます。

数人の生徒に、交代でルカ 2:41 – 47 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが 12 歳のときに何をなさったか見つけてもらいます。

- イエスはなぜ神殿に残っておられたのでしょうか。（生徒に、『聖句ガイド』にある「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」の、ルカ 2:46 を読み、イエスが神殿で何をしておられたかについて、ジョセフ・スミス訳がどのように明確になっているか、またそれによってルカ 2:47 の記述とどのように一貫性がもたらされるかを見つけてもらいます。）

一人の生徒に、ルカ 2:48 – 50 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、マリヤとヨセフがイエスを見つけたときに、主は二人に何と言われたかを見つけてもらいます。

 生徒にルカ 2:48 – 50 を読んでもらう代わりに、「聖書ビデオ — イエス・キリストの生涯」から「神殿で教える少年イエス」（2 分 30 秒）を見せてもよいでしょう。このビデオは LDS.org で視聴できます。

- マリヤとヨセフがイエスを見つけたときに、主は二人に何と言われたのでしょうか。
- この話は、イエスが御自分の本質を御存じであることや、青少年時代の特質についてどのようなことを明らかにしているのでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 2:51 – 52 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがどのように成長されたかを見つけてもらいます。

- 「ますます知恵が加わり」とはどういう意味でしょうか。（知的に成長する。）「背たけも伸び」とはどういう意味でしょうか。（肉体的に成長する。）「神……から愛された」とはどういう意味でしょうか。（霊的に成長する。）「人から愛された」とはどういう意味でしょうか。（社会的に成長する。）
- 52 節に基づくと、救い主の模範に従う際の導きとなる原則をあなたならどう述べますか。（生徒は次のような内容の原則を見つけるはずですが、知恵を得て、肉体的、霊的、社会的に成長することによって、わたしたちはイエスの模範に従うことができます。）
- これら 4 つの分野のそれぞれにおいて成長することはなぜ大切なのでしょう。（バランスの良い人になるため。）
- これらの分野で自分を成長させることによってイエスの模範に従うよう努めたときに、どのように祝福を受けてきましたか。

次の見出しをホワイトボードに書き、クラスノートや聖典学習帳に書き写すよう、生徒に勧めます。「知的」「肉体的」「霊的」「社会的」これらの各分野の下に自分の個人的な成長のための目標を書くよう生徒に言います。これらの目標に添って行動するよう生徒を励まします。最後に、今日のレッスンで見つけた原則について証を述べて、レッスンをまとめます。

（クイズの答えは以下のとおりです — 1. 正；2. 誤；3. 正；4. 誤；5. 正；6. 誤。）



マスター聖句の復習

繰り返すことは、生徒がマスター聖句の場所を覚えるのに役立ちます。マスター聖句のカードを使うか、あるいは、重要な言葉や意味を白紙のカードや紙の片面に書き、反対の面に参照を書くことで、生徒に自分自身のカードを作ってもらいます。生徒たちに二人一組になってもらいます。カードを使ってお互いにクイズを出し合うよう生徒に言います。生徒たちに、これらのカードを使ってしばしば独りであるいはお互いにクイズを行うように言います。カードのヒントを使って聖句探し活動を全員で行ってもよいでしょう（「聖句探し」は本手引きの付録を参照）。

ルカ 3 - 4 章

はじめに

バプテスマのヨハネは、悔い改めを宣べ伝え、来るべきメシヤについて証しました。イエス・キリストはバプテスマのヨハネからバプテスマを受け、その後、荒野で40日間断食されました。ガリラヤに向かわれた後、イエスはナザレで御自分を

メシヤだと宣言されました。ナザレの人々は主を拒み、主はカペナウムに行かれました。そこで主は病人を癒やし、悪霊を追い出されました。

教えるための提案

ルカ 3 : 1 - 22

バプテスマのヨハネ、イエス・キリストについて預言する

事前に、一人の生徒に、列王上 17 : 1 - 16 のエリヤとザレパテのやもめの話について調べるよう、そして別の生徒に列王下 5 : 1 - 15 のナアマンとエリシャの話について調べるように依頼しておきます。二人には、レッスンの後半でこれらの話の簡単な要約を述べてもらうことを説明します。ナアマンとザレパテのやもめが自らの信仰を示すために行ったことを強調し、二人ともが異邦人であった（イスラエルの家の者ではなかった）ことを指摘するよう二人の生徒に言います。

クラスを始めるに当たり、イエス・キリストの回復された福音に従って生活することの結果として、周りの人々との隔たりや疎外感を感じた時のことについて紙に書くよう生徒に言います（生徒がその紙に自分の名前を書かないよう確認します）。十分な時間を取った後、生徒にその紙を提出してもらいます。何人かの生徒の経験を読み上げます。

ルカ 3 : 1 - 22 を研究しながら、福音に従って生活する人々が、時として人々から疎外されていると感じる理由を説明することができる真理を見つけるよう生徒に言います。

モーセの律法では、大祭司はアロン神権の管理役員であり、イスラエル国民の政治的なリーダーとしての役割を担っていたことを説明します。しかしながら、救い主がその務めを果たされる時代までに、大祭司の職は腐敗しました。神によって選ばれる代わりに、大祭司はヘロデやその他のローマの役人によって選ばれました（『聖句ガイド』「大祭司」参照）。

一人の生徒に、ルカ 3 : 2 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神が大祭司の代わりに誰に対してお話しされたのかを見つけてもらいます。

- 主の言葉は大祭司の代わりに誰に対して与えられたのでしょうか。（バプテスマのヨハネとしても知られている「ザカリヤの子ヨハネ」）
- バプテスマのヨハネはどのようなことを教えていたのでしょうか。

ヨハネの時代には、自分たちがアブラハムの子孫であったため、イスラエルの民でない人々よりも優れており、神に愛されていたと考えている人々もいたことを説明します。一人の生徒に、ルカ 3 : 7 - 9 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、神に喜んでいただくためにユダヤ人が行う必要があるとバプテスマのヨハネが教えたことを見つけてもらいます。

- 神に喜んでいただくためにユダヤ人が行う必要があるとバプテスマのヨハネが教えたことは何だったのでしょうか。（「実」とは、わたしたちの選択の結果を象徴していることを説明します。）
- 9 節によれば、「良い実」を結ばない、あるいは義にかなった生活をしない人々は、どうなるのでしょうか。

ルカ 3 : 10 - 15 の要約として、ヨハネはユダヤ人の特定の集団に良い実を結ぶ方法を教えたことを説明します。ヨハネの働きはすばらしいものだったので、ある人々は彼をメシヤではないかと思っていました。

一人の生徒に、ルカ 3 : 16 - 17 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、メシヤが来られたら何をなさるとヨハネが言ったのかを見つけてもらいます。

- ヨハネは、来るべきメシヤは何をなさると言いましたか。

「聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになる」(16節)という言葉は、聖霊の賜物を受けることによる(罪からの)清めと(神聖にする)聖めの効力を指していることを説明します。

生徒が17節をさらに理解する助けとなるよう、一握りの穀粒か小石、幾分かのおがくずか新聞の小片を見せます。穀粒と小石を混ぜ合わせ、浅いトレイにその混合物を置きます。

- どうすれば穀粒と小石を分けることができるでしょうか。

小麦は収穫され、脱穀された後(穀物が植物の他の部分から分離したとき)、もみ殻が吹き分けられることを説明します。もみ殻の吹き分けは、もみ殻(外殻)と穀から小麦の穀粒を分離するために使用される古来の方法です。吹き分ける人は、大きなシャベルまたは木製の鋏(この聖句では「箕」と翻訳されている)を使用し、脱穀された麦を空中に投げ上げます。軽い不要なもみ殻は風に運び去られ、重い麦の穀粒は脱穀場に落ちます。

この概念を説明するために、うちわを見せます(必要に応じて厚紙、ボール紙、または折り畳まれた紙を使用することができます)。一人の生徒に、前に来てもらい、穀粒とおがくずの上でうちわをあおぐように言います。生徒がうちわであおぐとき、空気の流れがおがくずを吹き飛ばして、穀粒がまたトレイに落ちるように、静かに混合物を軽く投げます。生徒に着席してもらいます。

- 麦ともみ殻は何を表しているでしょうか。(麦は義人を表し、もみ殻は悪人を表している。)
- 16 - 17節によれば、誰が義人と悪人を分けるのでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストは邪悪な人々から義にかなう人々を選び分けられる。)
- 義人と悪人の最後の振り分けは審判の日に行われますが、今日、イエス・キリストに従い、福音に従って生活することは、どのような点で主の弟子たちを不義から切り離すことになりませんか。
- イエス・キリストに従い、主の福音に従って生活しようとするのは、わたしたちを他の人々から分ける、あるいは分けられたと感じるようになることを理解する必要があるのはなぜでしょうか。

ルカ 3:18 - 22 の要約として、イエスはバプテスマのヨハネからバプテスマを受けるためにやって来られたことを説明します。後に、バプテスマのヨハネはヘロデにより投獄されました。

ルカ 3:23 - 38

イエスの家系が明らかにされる

ルカ 3:23 - 38 の要約として、ルカはイエスの系図を含めて、「人々の考えによれば」(実際はそうではない)ヨセフが神の御子であるイエスの父であったことを証したことを説明します。

ルカ 4:1 - 13

イエスは荒れ野でサタンの誘惑を受けられる

ルカ 4:1 - 13 には、イエスが荒れ野で40日間断食し、サタンの誘惑を拒まれた話が含まれています。

ルカ 4:14 - 30

イエス、御自分がメシヤであると宣言される

ホワイトボードに「心を痛める」(訳注 — 英語版聖書にはこの言葉があります)「打ちひしがれている」「囚われている」「貧しい」「目が見えない」と書きます。これらの言葉のどれかが自分の気持ちを表していると感じたことはないか深く考えるよう生徒に言います。ルカ 4:14 - 30 を研究しながら、これらの感情から救済される方法を見つけるよう生徒に言います。

ルカ 4:14 - 17 の要約として、イエスは荒れ野から戻られてから、ガリラヤの会堂で教えを説き始められたことを説明します。すぐに、主は御自身の故郷であるナザレに戻られました。そこにいらっしゃる間、主は会堂に立ち、イザヤ書をお読みになりました。

一人の生徒に、ルカ 4:18 - 21 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、メシヤの神聖な使命についてイザヤが教えたことを見つけてもらいます。

- イエスは御自身の故郷であるナザレの人々に対して何と証されたでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。イエスは、心を痛めた人々を癒やし、霊的に囚われた人々を救うために遣わされたメシヤであられる。)
- イエス・キリストが現代においても続けてわたしたちを癒やし、救ってくださっていることを示す経験をしたことがありますか。それはどのような経験だったでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 4:22 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが待ち望んだ救い主であると大胆に宣言されたことに対して、ナザレの人々はどのように反応したかを見つけてもらいます。

- イエスの宣言に対して、民はどのような反応を示したでしょうか。
- 22 節によると、ナザレの人々がイエスはメシヤであると信じるのが困難であったのはなぜだと思いますか。

ルカ 4:23 の要約として、ナザレの人々は、主がカペナウムで行った奇跡を繰り返すことによって、イエスがメシヤであることを証明するよう挑んでくることを主が知っておられたことを説明します。

生徒に、ルカ 4:24 - 27 に目を通し、救い主がナザレの人々に答えられたときに参照した二つの旧約聖書の話を見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

前もってこれらの話を調べるよう頼んでおいた二人の生徒に、ここで要約したものを発表してもらいます。その後、イエスはナザレの人々に、イスラエル人にもやもめや重い皮膚病のかかった人は多くいたものの、奇跡を経験した二人はイスラエル人ではなかった(異邦人だった)ことを教えられたと説明します。

- ナアマンとザレパテのやもめは、どのように信仰を示したでしょうか。
- やもめとナアマンの信仰は、ナザレの人々の信仰とどのように異なっていたでしょうか。

ナザレの人々は概して主に対する信仰に欠けていたため、イエスはそこではほとんど奇跡を行われなかったことを指摘します(マタイ 13:54 - 58; マルコ 6:1 - 6 参照)。

- ナザレの人々をやもめやナアマンと対比すると、信仰についてどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒が次のような内容の原則を見つけるよう助けます。わたしたちがイエス・キリストへの信仰を示すとき、奇跡が起こるのを目にすることができる。)

生徒たちにホワイトボードのところに来てもらい、イエス・キリストはわたしたちの救い主であるという自分の信仰を示す方法のリストを作るように言います。生徒がリストを完成させた後、次の質問をします。

- わたしたちがまず信仰によって行動するときのみ訪れる祝福または奇跡の例にはどのようなものがあるでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 4:28 - 30 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、会堂にいた人々はイエスに対してどのように反応したかを見つけるように言います。分かったことを発表してもらいます。

- この話はどのような点で、イエス・キリストが悪人と義人を振り分ける方法を示しているでしょうか。(ルカ 3:17 参照)

ルカ 4:31 - 44

イエス、悪霊を追い出し、病人を癒やされる

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒に、パートナーとともにルカ 4:31 - 44 を声に出して読み、ナザレの人々が受けた祝福と比較してカペナウムの人々が受けた祝福を見つけてもらいます。生徒が読んだら、パートナーと次の質問の答えを話し合ってもらいます(これらの質問をホワイトボードに書くときよいでしょう)。

- カペナウムの人々は、ナザレの人々と比べて、イエスに対してどのように異なった反応を示しましたか。
- カペナウムの人々は、ナザレの人々が受けた祝福と比べて、どのような祝福を受けましたか。
- これらの話は、イエス・キリストへの信仰を示すときに、わたしたちは奇跡が起こるのを見ることができるという原則をどのように示しているでしょうか。

何人かの生徒に、最後の二つの質問の答えを発表してもらいます。

比較し、対比する

聖句は何か他のものと比較あるいは対比するとき、明確になることがよくあります。生徒が教えや人物、出来事の類似性または相違点に留意するよう助けることで、彼らは福音の真理にさらに集中することができますようになります。

イエス・キリストについて、また主に対する信仰を見せたときに受けた祝福についての証を分かち合ってレッスンを終えます。イエス・キリストに対する信仰を示す方法を幾つかクラスノートや聖典学習帳に書くよう生徒に言います。生徒に、書き留めた事柄を行うという目標を立ててもらいます。

家庭学習クラスのレッスン

マルコ 10 章 - ルカ 4 章 (単元 9)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がマルコ 10 章 - ルカ 4 章 (単元 9) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (マルコ 10 - 16 章)

生徒は、救い主が幼子らをもとに来るよう招かれたことについて研究したとき、わたしたちが幼子のように福音を受け入れるときに、神の王国に入る備えができることを学びました。金持ちの若い役人へのイエス・キリストの勧告について読んだときに、主はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちが主に求めるならば、御自分に従うためにはどのような努力が足りないのかが分かるように、永遠の命を受け継ぐためにすべきことを教えてくださいました。小銭をささげたやもめ女と、救い主に香油を注いだマリヤの記述は、生徒が次のことを学ぶのに役立ちました。わたしたちが持てる物全てを進んで主にささげるならば、たとえ見かけは他の人のささげ物よりもささやかであっても主は受け入れてくださり、またわたしたちが最善のものをささげるときに主は喜んでくださる。

第 2 日 (ルカ 1 章)

このレッスンで、生徒たちは、ザカリヤとエリサベツが男の子を授かることを、天使ガブリエルが告げたことについて研究しました。また、ガブリエルがマリヤは神の御子の母親になると彼女に告げたことも学びました。これらの聖句から、生徒たちは次の真理を学びました。主がその僕を通して語られることは、時にかなって成就される。イエス・キリストは、父なる神の御子である。神には、おできにならないことなど何も無い。主がわたしたちに与えられる役目を忠実に果たすならば、主はわたしたちの生活を大いなるものとされる。

第 3 日 (ルカ 2 章)

生徒たちは、イエス・キリストの降誕について研究したときに、救い主がこの世にお生まれになられたので、わたしたちは大いなる喜びを味わうことができることを学びました。わたしたちが神の教えを心に留めるときに、イエス・キリストについての証を受けることができること、またイエス・キリストの証を受けると、自分の証を他の人々と分かち合いたいと思うようになることを生徒は学びました。生徒たちはイエスの青年期について研究したときに、知恵を得て、肉体的に、精神的に、社会的に成長することで、イエスの模範に従うことができることを学びました。

第 4 日 (ルカ 3 - 4 章)

このレッスンで、生徒たちは、バプテスマのヨハネとイエス・キリストのバプテスマについて学びました。ナザレで、イエスは御自分がメシヤであることを宣言されたことも学びました。これらの記述から、生徒たちは次の真理を学びました。イエス・キリストは、邪悪な者たちから義人を分けられる。イエスは、心を痛めた人々を癒やされ、霊的に囚われた人々を救うために遣わされたメシヤであられる。イエス・キリストへの信仰を働かせるときに、奇跡が起こるのを見ることが出来る。

はじめに

このレッスンは、イエス・キリストが御自分の贖罪の一部として受けられた苦しみの幾つかを、生徒たちが理解する助けとなりませう。さらに、生徒たちは、救い主がわたしたちのために苦しみを受けられた理由の幾つかを理解することになります。

教えるための提案

マルコ 14 : 10 - 16 : 20

ゲツセマネでわたしたちの罪のために苦しみを受けられ、イエスは贖罪を始められる；イエスはイスカリオテのユダに裏切られ、ユダヤ人の指導者たちの前に引き出される

以下の質問について生徒に静かに深く考えてもらいます。

- 誰も自分のことや自分の苦しみを分かってくれないと感じたことはありますか。
- 過去に犯した罪のために、自分は赦されることはないと感じたことがありますか。

マルコ 14 章を研究しながら、このような感情を抱いている人を助けることができる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、マルコ 14 : 32 - 34 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ゲツセマネの園で救い主がどのように感じておられたかを見つけてもらいます。

- ゲツセマネの園で、救い主はどのように感じておられましたか。

生徒に答えてもらった後、次の言葉をホワイトボードに書きます—**恐れおののき、悩みはじめて、悲しみのあまり**

これらの言葉は、贖罪の一部としてイエス・キリストが受けられた苦しみを表していることを説明します。

- これらの言葉はイエス・キリストの贖罪について、どのようなことを教えていますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。**贖罪の一部として、イエス・キリストはゲツセマネの園で苦しみと悲しみを受けられた。**)

生徒たちがこの教義を理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老の次の言葉を読んでもらいます。



「……イエスはゲツセマネで、『恐れおののく』ほどの苦痛を経験されます(マルコ 14 : 33)。ギリシア語でこの『恐れおののく』という言葉は、『畏敬の念に打たれた』や『驚いた』という意味を含んでいます。

この世のみならず多くの世を想像されたエホバが驚かれたのです。想像できるでしょうか。……贖罪がいかなるものか、一部始終は知らされていなかったのです。ですから苦痛が最高潮に達したとき、それはイエスの特別な知力をもってしても想像し得ないものとなりました。御使いが現われてイエスを力づけたのは当然のことです。(ルカ 22 : 43 参照)

……過去、現在、未来の全人類の罪の重荷が、完全で、罪のない、繊細なお方に課せられたのです。……わたしたちの不完全さや病気は、何らかの形で主の贖罪の一部をなしているのです。(アルマ 7 : 11 - 12 ; イザヤ 53 : 3 - 5 ; マタイ 8 : 17 参照) ……

この極限の状態ではイエスは、アブラハムと同じように、雄羊がやぶの中にいることを願ったのでしょうか。わたしには分かりません。……イエスが味わった苦痛は筆舌に尽くせないものであり、十字架上で『わたしをお見捨てになったのですか』という言葉を引き出したほどでした。(マタイ 27 : 46 参照) ……

この驚嘆すべき栄光ある贖罪は、人類史上あらゆるものの中心に位置する出来事です。ちょうどちょうつがいのように、全てが贖罪に、つまり、御父に対するイエスの霊的な従順さに懸かっているのです。」「(喜んで服従する)『聖徒の道』1985年7月号、73 - 74)

数人の生徒に、マルコ 14 : 35 - 42 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主は激しい苦しみのためにどうされたかを見つけてもらいます。


- 激しい苦しみのために、救い主はどうされたでしょうか。(苦しみがとても激しかったので、イエスはそれを経験せずにはむよう訴えられたことを生徒たちが理解できるよう助けます。

ホワイトボードに次の言葉を書きます—**イエス・キリストは_____のために苦しみました。**

他の聖句は、イエス・キリストの苦しみと、主がなぜわたしたちのために進んで苦しみを受けられたのかを理解する助けとなることを説明します。

ホワイトボードに次の参照聖句を書きます。イザヤ 53 : 3 - 5 ; アルマ 7 : 11 - 13 生徒を二人一組に分け、聖句を一緒に読んで、救い主が何を、またなぜ苦しんだのかを見つけてもらいます。クラスノートか聖典学習帳に、イザヤ 53 : 3 - 5 とアルマ 7 : 11 - 13 から学んだことを用いて、ホワイトボードに書いてある文章を完成してもらいます。(アルマ 7 : 12 の「救う」という言葉は、早急に救出するまたは誰かを援助しに行くことを意味すると説明する必要があるかもしれません。)

時間を十分に取ってから、何人かの生徒に文章をどのように完成させたか発表してもらいます。生徒たちの答えは、次のような内容になるはずで、イエス・キリストは、わたしたちを救う方法を知るために、わたしたちの痛み、苦しみ、誘惑、病気、弱さ、そして悲しみのために苦しみました。イエス・キリストは、わたしたちの背きを完全に拭い去るために、わたしたちの罪のために苦しみました。救い主が人類の罪のために受けられた苦しみが、ゲツセマネで始まり十字架上で最高潮に達するまで続いたことを生徒たちに思い起こしてもらいます。

 御自分の贖罪の一部として、イエス・キリストがゲツセマネの園で苦しみと悲しみを受けられたという、真理の重要性を生徒たちが感じる助けとなるように、ビデオ「特別な証人—ホランド長老」(2分38秒)を視聴してもよいでしょう。この中で十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、ゲツセマネの園での救い主の苦しみについて証しています。このビデオは LDS.org で視聴可能です。

- 救い主がどのような苦しみを受けられたのか、なぜ苦しんだのかを知ることは、試練や、苦痛、苦難に直面するとき、どのような助けとなるでしょうか。(教義と聖約 45 : 3 - 5 参照)
- 苦痛、病気、悲しみの中にあるときに、救い主が救ってくださるのを感じたのはどのようなときでしたか。
- 悔い改めて、救い主の贖罪を通して罪が拭い去られた(消された)と感じたときに、どのような感情を経験しましたか。

マルコ 14 : 43 - 16 : 20 の要約として、イエスがサンヒドリン(全議会)の〔ユダヤ人の指導者たちの〕前で不法に審問され、死刑を宣告されたことを説明します。救い主は、十字架上で亡くなられ復活された後、使徒たちに御姿を現され、信じる者にはしるしが伴うことを彼らに約束されて、福音を宣べ伝えるために彼らを遣わされました。(注—マタイ 27 - 28 章を以前に研究したとき、イエス・キリストの死、埋葬、復活についての詳細は網羅されました。)

一人の生徒に、マルコ 16 : 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が使徒たちに与えられた任務を見つけてもらいます。

- 今日から将来にわたり、「世界中に」福音を宣べ伝えるという任務を果たすために、どのようなことができるでしょうか。

今日話し合った真理についての証を述べて締めくくるとよいでしょう。

次の単元 (ルカ 5 : 1 – 10 : 37)

自分の罪は赦されるだろうかと思ったことがあるか、生徒たちに深く考えてもらいます。次の一週間、ルカ 5 : 1 – 10 : 37 を

研究するときに、救い主は快く罪を赦して下さること、そして赦されるために自分たちができることは何かについて学ぶことを伝えます。

第46課

ルカ5章

はじめに

ペテロとヤコブとヨハネは、救い主の助けにより奇跡的におびただしい魚をとった後、救い主に従うため一切を捨てて人をとる漁師となりました。イエスは重い皮膚病にかかった人と中風を患っている人を癒やされました。主はマタイを弟子として

召し、御自分が罪人が悔い改めるよう招くために来られたことを教えられました。またイエスは、古い皮袋の中の新しいぶどう酒を入れるたとえも教えられました。

教えるための提案

ルカ5：1－11

イエス、ペテロとヤコブとヨハネを、人間をとる漁師となるよう召される

ホワイトボードに次の質問を書きます－「行う理由を知らずに、何かを行うよう頼まれたことはありますか。」この質問について深く考えるよう生徒に言い、何人かの生徒に経験を発表してもらいます。

- 行う理由を理解しないで指示に従うのが難しいのはなぜでしょうか。
- 理由を十分に理解していなければ、一部の青少年にとって従うのが難しい戒めや教会指導者からの勧告にはどのようなものがあるでしょうか。（ホワイトボードに生徒の答えを書くといよいでしょう。）

ルカ5：1－11から、主の勧告や戒めになぜ従うのかを完全に理解していないときに助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

数人の生徒に、ルカ5：1－5を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が教えを説き終えられた後、救い主がシモン（ペテロ）に行うよう求められたことを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- シモンはそれまでの漁の取り組みについて救い主に何と言ったでしょうか。
- 救い主が再び網を下ろすように言われたとき、シモン自身の漁経験によって、彼はどのように考えたと思いますか。
- シモンは、主を信頼していることを示す、どのような言葉を発したでしょうか。

一人の生徒に、ルカ5：6－9を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、シモンが主に求められたことを行ったとき、何が起こったかを見つけてもらいます。

- シモンが主に求められたことを行ったとき、何が起こったでしょうか。
- 理由を理解していなかったとしても、主に求められたことを行うというシモンの意欲からどのような原則が学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。わたしたちが理由を理解していないときでさえ主に求められたことを行うなら、主はわたしたちが予想したものよりも大きな祝福を授けてくださる。生徒の言葉を使って、この原則をホワイトボードに書きます。）
- この原則に従って生活することは、どのような点でイエス・キリストを信頼するようわたしたちに求めるでしょうか。

生徒がこの原則を理解できるように、一人の生徒に十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の次の言葉を読んでもらいます。生徒にこの言葉のコピーを配ってもよいでしょう。

生徒が言外の原則を見つけられるよう助ける

多くの原則は、聖文の中で直接に述べられるのではなく、むしろ言外に伝えられます。それはしばしば、「その話の教訓と要点は何だろうか」と尋ねることにより見つけ出すことができます。生徒が、聖典の話に出てくる人や人々の行動、態度、行いを分析し、また祝福やもたらされた結果を見つけるのを助けます。この方法で聖典の話の研究することは、言外の福音の原則がよりはっきりと分かるようになる助けとなります。



「この人生は心からの信頼を基とした経験の場です。つまり、イエス・キリストへの信頼、イエス・キリストの教えに対する信頼、聖なる御霊に導かれるわたしたちの能力への信頼です。聖なる御霊に導かれたわたしたちは、主の教えを通してこの世では幸福を得、永遠の世界では目的のある幸福な至高の存在として生活することができます。信頼とは、結果を知らされないうまま、初めから進んで従うことです（箴言 3：5－7 参照）。そして、好ましい結果を望むのであれば、主への信頼をさらに強く永続するものにするように努め、個人の感情や経験から来る自信は抑えるようにしなければなりません。」（「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号, 17－18）

- わたしたちは、どのようにすれば救い主に対するこのような信頼を育むことができるでしょうか。
- 理由を完全に理解していないときでさえ主の指示に従うことによって、あなたやあなたの家族は、予想したものよりも大きなような祝福を受けたことがありますか。（答えには、なぜ主がそのような指示を与えられたのかを生徒が後から理解するようになるのを助けた経験が含まれるかもしれません。）

家に持って帰ることができる一枚の紙に、そうする理由を完全に理解していないにもかかわらず、より忠実に従うことができる主からの助言や戒めを書き留めるよう生徒に言います。（時間が許せば、生徒たちに『若人の強さのために』『小冊子』を参照してもらってもよいでしょう。）

ルカ 5：10－11 の要約として、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは舟と網を後に残してイエスに従ったことを説明します。

ルカ 5：12－26

イエス、重い皮膚病にかかった人と中風を患う人を癒やされる

次の品物を生徒に見せます（あるいはホワイトボードに絵を描きます）。注射器、包帯、石鹸、氷枕。

- 病気やけがをした人々を癒やすのに、これらの品物はどのような助けとなるでしょうか。
- 病気や肉体的なけがの他に、どのようなことからの癒やしが必要でしょうか。（生徒の答えをホワイトボードに書きます。答えには罪、中毒、絶望、苦痛などが含まれているかもしれません。）

ルカ 5：12－25 を研究しながら、自分自身や他の人々が必要な癒やしを受けるのを助けるために、わたしたちが行うことができる事柄を教える原則を見つけるよう生徒に言います。

次の表をホワイトボードに描きます。そして、生徒にも、クラスノートか聖典学習帳に同じように書き写すように言います。

類似点	相違点

ホワイトボードに次の参照聖句を書きます。「ルカ 5：12－15；ルカ 5：17－25」これらの聖句は救い主が二人の人を癒やされたことに関連していると説明します。そのうちの一人は重い皮膚病にかかった人で、もう一人は中風、すなわち、体のまひした人でした。生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒たちに、それぞれの話をパートナーとともに読み、次の質問について話し合うように言います。

- これらの二つの癒やしの類似点は何でしょうか。異なる点は何でしょうか。
- それぞれの話において信仰はどのような役割を担っていたでしょうか。

生徒に、見つけたことを自分の表に記録してもらいます。十分な時間を取った後、学んだことを発表してもらいます。生徒に、20 節の「イエスは彼らの信仰を見て」という言葉に印をつけてもらうとよいでしょう。救い主のもとに中風の人を連れて来た人々の信仰のおかげで、この人が癒やされたということを生徒が理解していることを確認します。

- わたしたちが癒やされる方法や、他の人々が癒やされるよう助けるために行える事柄について、これらの話からどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。わたしたちが信仰を行使し、救い主のも

とに来るならば、主はわたしたちを癒やしてくださる。わたしたちは他の人々が癒やされるよう、彼らが救い主のもとに来るのを助けることができる。ホワイトボードにこれらの原則を書きます。)

- どのような方法で救い主からの癒やしを受けることができるでしょうか。(救い主はわたしたちから弱さを取り去ってくださるかもしれない、あるいは、わたしたちが自分の弱さに耐えたり克服したりするのに必要な勇気、信仰、慰め、平安を与えてくださるかもしれないことを生徒が理解するのを助けます。)

ホワイトボードに挙げられたことの中から、人々が癒やされることを必要としているかもしれない弱さについてよく考えるよう生徒に言います。

- 主の癒やしの力を受けるために救い主のもとに人々を連れて来る助けをするために、どのようなことができるでしょうか。
- あなたやあなたの知り合いは、救い主に対する信仰を行使したことによって癒やされたことはありますか。(非常に個人的、または内密にすべき経験を分かち合うべきではないことを生徒に思い起こさせます。)
- 救い主の癒やしの力を受けるために、主のもとに他の誰かを連れて来る人を見たのはどのようなときでしたか。

イエス・キリストに対するさらに強い信仰を行使し、癒やしや赦しや慰めを得るためにできること、あるいは、友人や他の誰かを救い主のもとに連れて来るためにできることについて深く考えるよう生徒に言います。受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

ルカ 5:27 – 35

律法学者とパリサイ人、なぜイエスが取税人や罪人たちと食事を共にされるのか尋ねる

一人の生徒に、ルカ 5:27 – 28 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主のレビに対する招きを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- 救い主の招きに対するレビの対応について、どのようなことが印象に残りましたか。

レビはマタイとも呼ばれていたことを生徒に思い出してもらいます(マタイ 9:9 参照)。彼は取税人、すなわち、ローマ政府のために同胞のユダヤ人から税金を集めていました。ユダヤ人は一般的に取税人を嫌っており、彼らをのけ者、罪人、さらにはイスラエルの国民に対する裏切り者とみなしていました。ルカ 5:29 – 35 の要約として、イエスがレビや他の人々と食事をしている最中に、律法学者とパリサイ人が、罪人とともに食事をしているということで主を非難したことを説明します。イエスは、御自分は罪人に悔い改めを叫ぶために来たことを教えられました。

ルカ 5:36 – 39

イエス、古い皮袋の中の新しいぶどう酒のたとえを語られる

救い主はこのたとえを用いて律法学者とパリサイ人を教えられたことを説明します。数人の生徒に、ルカ 5:36 – 39 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がたとえで用いられたものを見つけてもらいます。

- 救い主はどのようなものを用いてたとえを教えられたのでしょうか。

生徒に、新しい布と、穴が開いた古い布を見せます。36 節の「新しい着物」は、まだ縮んでいない布を指していることを説明します。新しい布で古い着物につきを当てることはできません。なぜなら、新しい布が縮むと、以前よりもっと穴がひどくなるからです。同様に、イエス・キリストの福音は、古い信念や慣行につきを当てるだけのものではなく、真理の完全な回復でした。

可能であれば新しい皮と古い皮を生徒に見せます。

- 新しい皮と古い皮の違いは何でしょうか。(新しい革は柔らかくてしなやか。古い革は硬くてもろい。)

新しいぶどう酒は皮袋の中で発酵して、ガスが内部に充満することによって皮を伸ばすことを説明します。ぶどう酒用皮袋が一旦このように伸びたら、その中で新しいぶどう酒が再び発酵すると、皮袋が破裂する危険があります。

このたとえの中では、新しいぶどう酒は救い主の教えと永遠の完全な福音を表し、古いぶどう酒はモーセの律法の下におけるパリサイ人の風習、言い伝え、そして信条を表していません。

- どのような点で「古い皮袋」は律法学者とパリサイ人たちを表しているのでしょうか。（新しいぶどう酒を入れておくには古い皮袋はあまりにも柔軟性がないのと同じように、律法学者とパリサイ人たちは救い主とその教えを受け入れるには頑固で、喜んで変わろうとはしなかった。）
- 「新しい皮袋」は誰を表しているのでしょうか。（救い主とその教えを受け入れるためにへりくだり、喜んで変わろうとする人々。）
- 救い主の福音を授かるためにわたしたちが行う必要があることについて、このたとえから何を学ぶことができるのでしょうか。（生徒は次のような内容の原則を見つけましょう。救い主とその教えを受け入れるためには、わたしたちはへりくだり、喜んで変わろうとしなければならない。生徒たちに、自分の聖典のルカ 5:36 - 39 の横の余白に、この原則を書いてもらうとよいでしょう。）

生徒がこの原則を理解するのを助けるため、ルカ 5 章を復習し、救い主とその教えに対して頑固で厳しい姿勢を取る人の例と、へりくだり、喜んで変わろうとし、救い主に従うことで成長しようとする人の例を見つけてもらいます。数人の生徒に見つけたことを発表してもらいます。

最後に、ルカ 5 章で教えた原則について証を述べて、レッスンをまとめます。

第47課

ルカ6:1-7:18

はじめに

イエスは、安息日を含め、他の人々に善いことを行うことの大切さについて教えられました。夜を徹して祈られた後、主は十二使徒を召し、それから彼らと群衆に教えを説かれました。

主はまた、百卒長の僕を癒やし、やもめの息子を死からよみがえらせられました。

教えるための提案

ルカ6章

イエス、安息日に癒やし、十二使徒を選び、群衆を教えられる

(注 — ルカ6章の内容の多くは、マタイ5-7章; 10:1-4; マルコ3:1-6のレッスンで採り上げられています。このレッスンのこの部分はルカ6:31-38に焦点を当てています。)

日曜日に教会の集会で、近くに住んでいるある家族のための奉仕プロジェクトについての発表を聞いたと想像するよう生徒に言います。発表の後で、4つの異なった反応を小耳にはさみました。4人の生徒に、次の架空の応答を読んでもらいます。

1. 「その家族は最近いろいろと苦労していました。できることを何でもして、喜んで助けます。」
2. 「奉仕の後でリフレッシュメントがあればいいな。もしないなら、行かないよ。」
3. 「本当は行きたくないけど、来週、自分が計画しているプロジェクトで助けが必要かもしれないので、今は助けておくべきだろうね。」
4. 「友達が行くなら行きます。」

- これらの例は、人々が奉仕する理由について何を示唆しているでしょうか。

生徒たちに、奉仕をした機会や、奉仕することについてどのように感じているかよく考えるように言います。ルカ6-7章を研究しながら、より有意義な方法で奉仕するのに助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

ルカ6章の要約として、イエスが初期の教え導く業においてガリラヤにおられた間、安息日に手のなえた人を癒やし、夜を徹して祈られ、十二使徒を召されたことを説明します。イエスはその後、使徒たちと「大群衆」(17節)に天の報いを得る方法を教えられました。

生徒に、ルカ6:19を黙読し、イエスが人々に教え始める前に彼らのために行われたことを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

数人の生徒に、ルカ6:31-35を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちに与えられた勧告を見つけるように言います。

- イエスは弟子たちにどのような勧告を与えられたでしょうか。
- 35節によると、わたしたちは他の人々に善を行うことと引き換えに何を期待できるでしょうか。(生徒に、「何も当てにしないで」という言葉に印をつけるよう勧めるとよいでしょう。)
- 人々は奉仕を提供するとき、どのようなこの世的報いを願っているでしょうか。
- わたしたちが何の見返りも期待せずに他の人々に善を行う場合、主の約束はどうなるでしょうか。(生徒は次のような内容の原則を見つけるでしょう。何の見返りも期待せずに人々のために善い行いをするならば、その報いは大きく、いと高き者の子となる。)

わたしたちは全て神の子ですが、他の人に善を行う人々は、天の御父のようになることで、自分の神聖な可能性を発揮していることを説明します。

- なぜこの約束が、他の人々を愛し、善い行いをする事への最高の報いなのでしょう。

一人の生徒に、ルカ 6:36 - 38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが他の人々に善を行うことができる方法についてイエスが与えられた例を見つけてもらいます。

- 36 - 37 節によると、わたしたちが他の人々に善を行うことができる方法についてイエスが与えられた例はどのようなものだったでしょうか。(これらの方法で善を行う者は、神の憐れみと赦しを受けることになることを説明するとよいでしょう。)

生徒が 38 節を理解するのを助けるため、バケツ、籠または箱、および衣類、食品、水の入った瓶など、その他の品物を幾つかクラスに持って来ます。必ずあなたが持って来た入れ物に収まる以上に多くの品物を持参してください。一人の生徒に、前に来てもらい、それらの品物をできるだけ多くその入れ物に詰めるように言います。生徒が終えたら、次の質問をします。

- 「おし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして」(38 節)という言葉は、この入れ物を満たそうとしたあなたの努力をどのように説明しているでしょうか。(生徒に感謝し、席に戻ってもらいます。)
- これらの言葉は、わたしたちが他の人々に与えるときに天の御父が報いてくださる方法をどのように説明しているでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけましょう。わたしたちが人々に惜しみなく与えるとき、天の御父はそれ以上に惜しみなくわたしたちを祝福してください。)
- どのような方法でわたしたちは他の人々に惜しみなく与えることができるでしょうか。

生徒に、自分や自分の知人が他の人々に惜しみなく与えたときのことを深く考えてもらいます。次の質問を見せ(あるいは生徒にコピーを配り)、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳(または、配付資料)に答えを書いてもらいます。

- あなたやあなたの知人は、惜しみなく与えたことで主からどのように祝福されたでしょうか。
- 他の人々にもっと惜しみなく与えるために、あなたは何をしますか。

十分な時間を与えた後、発表したいと思う生徒がいれば、書いたことを発表してもらってもよいでしょう。他の人々にもっと惜しみなく与えようと努力するときに、主の助けを祈り求めるよう生徒を励まします。

ルカ 7:1 - 10

イエス、百卒長の僕を癒やされる

群衆を教えた後、イエスはカペナウムと呼ばれる町に入れられたことを説明します。

数人の生徒に、ルカ 7:2 - 5 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが町に来られたことを聞いて、主の助けを願った人を見つけてもらいます。

- 誰が主の助けを願ったでしょうか。

百卒長は 50 - 100 人の一団を指揮するローマ軍の将校だったことを説明します。

- 百卒長を悩ましていたのは何だったでしょうか。

百卒長はユダヤ人とその地に対するローマの政治的および軍事的な力を表すものだったため、ユダヤ人は一般的に百卒長を嫌っていたことを指摘します (*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 153 参照)。

- この百卒長はどのような人物だったでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 7:6 - 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この百卒長がイエス・キリストに対する大いなる信仰をどのように示したかを見つけるように言います。

- その百卒長はイエス・キリストに対する大いなる信仰をどのように示したでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 7:9 - 10 を声に出して読むように言います。他の生徒には、聞きながら、この百卒長の信仰がどのように報われたか見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。


- この話からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒たちは次のことを含め幾つかの原則を挙げるかもしれません。イエス・キリストに対する信仰を行使することで、わたしたちは他の人々の生活に祝福をもたらす助けとなることができる。)

ルカ 7 : 11 - 18

イエス、やもめの息子を死からよみがえらされる

救い主は百卒長の僕を癒やされた翌日、別の奇跡を行われたことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 7 : 11 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスと弟子たちがナインと呼ばれる町に近づいたときに遭遇したことを見つけてもらいます。

 生徒にルカ 7 : 11 - 12 を読んでもらう代わりに、「聖書ビデオ — イエス・キリストの生涯」からビデオ「ナインのやもめ」の一部（0 分 0 秒 - 0 分 45 秒）を見せてもよいでしょう。このビデオは LDS.org で視聴できます。

- イエスと使徒たちがその町の入り口に近づいたとき、何を見たでしょうか。
- 12 節によれば、この若者の死がこの女性にとって特に悲劇的だったのはなぜでしょうか。
この女性は一人息子を亡くしただけでなく、それ以前に夫も亡くしていたことを指摘します。彼女が感じたに違いない大きな悲しみに加えて、彼女には財政的に援助する人が誰もいなかったかもしれません。

一人の生徒にルカ 7 : 13 - 15 を声に出して読んでもらいます（ビデオの残りの部分（0 分 45 秒 - 2 分 23 秒）を見せることもできます）。他の生徒には、聞きながら、救い主がこの女性の嘆いているさまを御覧になったとき、何をなさったかを見つけてもらいます。（「棺」とは棺桶、あるいは棺桶を置く台であることを説明するとよいでしょう。）

- 救い主がこの女性になさったことは何でしたか。
- 13 節によると、イエスはなぜこの女性の息子を癒やされたのでしょうか。（このやもめは主に息子を癒やすよう求めませんでした。主は彼女の必要に気づいたので、それが果たされる助けをなさったことを指摘してもよいでしょう。）
- あなたがこのやもめのような状況にあり、救い主があなたの一人息子を死からよみがえらされるのを見たなら、どのような気持ちを感じるでしょうか。
- この話から、イエス・キリストの模範に従う方法について、わたしたちはどのような真理を学べるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。人々に思いやりを示し、口には出さない彼らの必要を満たすことによって、イエス・キリストの模範に従うことができる。）
- 人々が必要としているものを知らせてくれない場合、わたしたちはどのようにしてそれを見定めることができるでしょうか。

生徒は聖霊を伴侶とするよう求めるときに、なかなか気づくことがないような他の人々の必要への応じ方についても促しを受けることができることを説明します。さらに、生徒に、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長がかつて受けた助言について深く考えてもらうとよいでしょう。「誰か人に会ったら、その人が重大な問題を抱えていると考えて接してください。…… 50 パーセント以上はそれで正しいでしょうから。」（「主の力を受けて」『リアホナ』2004 年 5 月号, 16）

生徒が見つけた原則は真実であり重要であると感じるのを助けるために、一人の生徒に、トーマス・S・モンソン大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「救い主の導きと教えの業の中で、ナインのやもめへの主の思いやりの模範ほどわたしに感動を与えるものはありません。……

主はなんという力、何という優しさ、何という思いやりを示されたことでしょうか。わたしたちも、主の模範に従えば、人々に祝福を与えることができるのです。機会はどこにでもあります。必要なのは悲しみを見る目と、物言わぬ失意の声を聞く耳です。そうです。思いやりの心を持つことにより、わたしたちは目と目、口と耳をもってのみならず、救い主に倣い、心と心でさえも意志を伝えられるのです。」（「人生のチャレンジに立ち向かう」『聖徒の道』1994 年 1 月号, 79 - 80）

- あなたやあなたの家族は、あなたがそれを求めていなかったにも関わらず、他の人々から哀れみや奉仕を受けたことがありますか。
- キリストの模範に従うことは、どのように他の人の語られない必要に気づく能力を育む助けとなるでしょうか。

視聴覚資料

視聴覚資料は、聖典に記録された出来事や原則をよりよく理解する助けとなるとき、生徒がもっともよく福音の原則を学び応用するよう支援するものです。視聴覚資料を見たり聞いたりする際、生徒が探すことのできる特定の事柄や考えられる質問をホワイトボードに書くのも良いかもしれません。また、質問をしたり、生徒に役立つ情報を指摘するためにプレゼンテーションを一旦止めることもできます。

もしビデオを見せていないなら、一人の生徒に、ルカ 7:16 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、やもめの息子がよみがえるという奇跡に対して人々はどのように反応したかを見つけてもらいます。

• イエスがやもめの息子をよみがえらされた後、人々はどのように反応したでしょうか。

ナインのやもめの息子の癒やしと、旧約聖書の預言者エリヤとエリシャが死人の中から息子をよみがえらせたときの出来事との間の類似性のために、人々が「大預言者がわたしたちの間に現れた」(16 節) と宣言したと思われるということを説明します (列王上 17:17 - 24; 列王下 4:17 - 22, 32 - 37; *New Testament Student Manual*, 154 参照)。

他の人々の語られない必要に手を差し伸べる機会を見つけるよう生徒に言って、レッスンを終えます。見返りを期待せずに寛大に奉仕をするよう生徒を励まします。

第48課

ルカ7：18－50

はじめに

イエスはバプテスマのヨハネを称賛し、ヨハネが主の教え導く業の備えをしていることを証されました。イエスがパリサイ

人シモンとともに食事をしている最中、悔い改めた女性が救い主に対する彼女の信仰と愛を示しました。

教えるための提案

ルカ7：18－35

イエス、バプテスマのヨハネを称賛し、ヨハネの使命を証される

生徒に二人一組になってもらい、それぞれの組に紙を一枚ずつ渡します。それぞれの組で、一分間でできるだけ多くバプテスマのヨハネに関して覚えている事実を書き留めてもらいます。一分後、その紙に書いた事実を数えるよう生徒に言います。

- バプテスマのヨハネに関する事実を幾つ挙げることができたでしょうか。

生徒に、書き挙げた事実を幾つか発表してもらいます。

可能であれば、背の高いあし（葉の細長い草）や柔らかい着物を見せます。イエスが、バプテスマのヨハネの性質について人々を教えるために、これらの項目を使用していることを説明します。一人の生徒に、ルカ7：24－26を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、あしや柔らかい着物を参照しながら、イエスがバプテスマのヨハネについて教えられたことを見つけてもらいます。

- バプテスマのヨハネは、あしや草の葉とどのように異なっていたでしょうか。（風に揺らいたり吹き飛ばされたりするあしとは異なり、バプテスマのヨハネは自身の証にも、使命を実行することにも揺るぎなく、確固としていました。）

バプテスマのヨハネに付随する絵を見せ、次のように尋ねます。

- バプテスマのヨハネは「柔らかい着物をまとった」人々や「宮殿にいる」人々とどのように異なっていたでしょうか（25節）。（バプテスマのヨハネは荒野野に住み、非常に粗いラクダの毛で作られた服を着ていた。バプテスマのヨハネは、この世的な快適さを求めるよりもむしろ、神の御心を行うように努めた。）
- イエスはバプテスマのヨハネについて26節で何とおっしゃっているでしょうか。

バプテスマのヨハネの特異な役割を生徒が理解する助けとなるよう、イエスは「〔メシヤ〕の前に道を備える」「使者」について述べている数百年前に書かれた預言を引用されたことを説明します（マラキ3：1）。一人の生徒に、ルカ7：27－28を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、バプテスマのヨハネが預言者の中でも特異な理由を見つけるように言います。

- バプテスマのヨハネはどのような特異で重要な役割を予任されていたでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけるでしょう。バプテスマのヨハネは、神の御子のために道を備え、バプテスマを施すよう予任された預言者だった。）
- バプテスマのヨハネは、どのように来るべきイエス・キリストのために道をそなえたでしょうか。

預言者ジョセフ・スミスはルカ7：28に関して次のように話しています。

「イエスは神の王国において誰よりも権利を持たない者、また預言者として誰よりも信じるに値しない者〔のように〕見なされていました。ですから、主は次のように言っておられたのです。『あなたがたの中で最も小さい者と見なされている者は、ヨハネよりも大いなる者である。－それはわたし自身のことである。』（『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』81－82）

ルカ7：29－35の要約として、多くの人々はイエスの教えを信じましたが、その場にいたパリサイ人や律法学者たちは主の教えを拒んだことを説明します。イエスは、御自身とバプテスマのヨハネのどちらが教えたかにかかわらず、彼らが真理を拒んだと説明されました。



教えを説くバプテスマのヨハネ


ルカ 7:36 – 50

イエスがパリサイ人のシモンと食事をしているとき、女がイエスの足を涙で洗う
ホワイトボードに次の質問を書きます—わたしは赦されるでしょうか。

生徒に、自分が赦されたかどうか疑問を抱いたときのことについて考えてもらいます。ルカ 7 章の研究をしながら、この質問の答えとなる真理を見つけるように生徒に言います。

ルカ 7:36 – 50 の背景と内容を生徒が理解できるようにするため、一人の生徒に、次の要約と説明を声に出して読んでもらいます。

シモンという名のパリサイ人が彼の家での食事にイエスを招きました。この種の食事では、招待客は低いテーブルの周りのクッションに体をもたれかけるので、伸ばした足がテーブルから出ます。当時の社会的慣習では、困窮している人々は晩餐の残り物を集めてもよいことになっています。そのため、招かれていない人々が食事の間に家に入って来ることも珍しくありませんでした（ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』第 3 版, 257 参照）。

 生徒がルカ 7:36 – 50 の内容をさらに理解するのを助けるため、ビデオ「わたしのものときなさい」（11 分 34 秒）を見せてもよいでしょう。このビデオは *LDS.org* で視聴可能です。パリサイ人シモンの家で食事をするイエスを描いたビデオの部分（タイムコード 4 分 17 秒から始まる）を再生するとよいでしょう。他の生徒には、聞きながら、招かれていない人が食事のシモンの家に入って来たときに何が起きたかを見つけてもらいます。イエスが「あなたの判断は正しい」と言われた後でビデオを一旦止めます（タイムコード 7 分 24 秒）。

- その女についてルカは、ルカ 7:37 でどのように説明しているでしょうか。
- その女はどのように救い主に対する自分の愛を示したでしょうか。（「香油が入れてある石膏のつぼ」とは、高価な香油で満たされた瓶のことだと説明してもよいでしょう。）
- その女が行っていることを見たとき、シモンはどう思ったでしょうか。

イエスが教えられたたとえを復習するため、一人の生徒に、ルカ 7:40 – 43 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがシモンに教えられたことを見つけてもらいます。

ホワイトボードに以下の表を書き写します。

金貸し= _____	
50 デナリを借りた人= _____	500 デナリを借りた人= _____

金を借りる人は金貸しに返済すること、できなければ刑務所に行くことに同意します。一人の生徒に、このたとえの要約を自分の言葉で述べてもらいます。

- この金貸しは誰を表しているでしょうか。（ホワイトボードの「金貸し」の隣に、「イエス・キリスト」と書きます。）
- どちらの「借りた人」がその女を表し、どちらがパリサイ人シモンを表しているでしょうか。それはなぜでしょうか。（「50 デナリを借りた人」の下に「パリサイ人シモン」と書き、「500 デナリを借りた人」の下に「女」と書きます。）

イエスの時代には、主人は特別に招待した客人を尊重するために、接吻をして挨拶したり、足を洗うための水を用意したり、頭に油を塗ったりするのが慣習だったことを説明します（ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』257 参照）。

タイムコード 7 分 25 秒からビデオを再び再生し、イエスが「安心して行きなさい」と言われた後で止めます（タイムコード 8 分 52 秒）。または、数人の生徒に、ルカ 7:44 – 47 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その女の主に対するもてなし方と比べて、シモンの主に対するもてなし方はどうだったか、また、二人は主に対してどのような気持ちを感じていたか見つけてもらいます。

- 44 – 47 節によれば、シモンの主に対するもてなし方と、その女の主に対するもてなし方にはどのような違いがあったでしょうか。また、二人はイエスに対してどのような気持ちを感じていたでしょうか。（ホワイトボードの表に生徒たちの答えを書きます。）

生徒が見つけたことを発表したら、表は以下のようになるはずです。

金貸し=イエス・キリスト	
50 デナリを借りた人=パリサイ人シモン イエスに足を洗うための水を与えなかった 主に接吻をしなかった 主に油を塗らなかった 主を少ししか愛さなかった	500 デナリを借りた人 = 女 主の足を自分の涙で洗い、自分の髪でふいた 主の足に接吻した 主の足に香油を塗った 主を多く愛した

- その女は救い主からどのような祝福を受けたのでしょうか。

暗黙のうちにシモンを 50 デナリを借りた人と比較することにより、救い主はシモンもまた自身の罪のために赦しを必要としていることを示唆されたことを指摘します。

生徒に、ルカ 7 : 47 - 50 を黙読してもらい、その女が赦しを受けることを可能にしたのはどのようなことか見つけてもらいます。

- この話からどのような原則を学ぶことができますでしょうか。(生徒の言葉を使って、次の原則をホワイトボードに書きます。主に対する愛と献身を表すことによってわたしたちの信仰を行使するとき、主の赦しを受けることができます。主の赦しを受けることによって、わたしたちはより一層主を愛し、主に仕える望みで満たされる。)
- わたしたちが主の赦しを受けると、さらに主を愛し仕えたいと願うようになるのはなぜでしょうか。

3人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老の次の声明を一人一段落ずつ声に出して読んでもらいます。



「人々のふさわしさや義の程度は一人一人異なります。それでも、悔い改めはわたしたち全員にとって祝福です。罪を赦されることによって、誰もが救い主の憐れみの御腕を感じる必要があります。

何年も前のことですが、ある男性と面接をするよう依頼されたことがあります。ずっと以前に、したい放題な生活を送った経験を持つ人でした。悪い選択をした結果、教会の会員資格を失いました。その後教会に戻り、戒めを忠実に守るようになってから長い年月がたっているにもかかわらず、過去の行いのために絶えず心を痛めていました。会ってみると、この男性が一時期の間、聖約を破ったことに恥辱と深い自責の念を抱いているのを感じました。面接の後で、わたしはこの男性の頭に手を置き、神権の祝福を与えました。言葉を発する前に、救い主がこの人を愛し、赦しておられるという強烈な感覚を覚えました。祝福の後、わたしたちは抱き合いました。男性は声を上げて泣きました。

わたしは、どれほど利己的な罪だったとしても、救い主が悔い改める人を憐れみの御腕をもって抱き締め、愛されることに驚嘆しています。救い主がわたしたちの罪をお赦しになれること、そしてぜひとも赦そうとしておられることを証します。完全な福音を知った後で滅びを選んだごく少数の人の罪を除き、赦されない罪はないのです。わたしたちの誰もが罪に背を向けて、キリストのみもとに来ることができるとは何とすばらしい特権でしょう。心の中から罪の意識と痛みを取り去り、代わりに喜びと良心の安らぎを与えてくれる神の赦しは、福音の最も甘い実の一つです。」(「わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい」『リアホナ』2009年11月号、40 - 41)

生徒に、主の赦しを経験したときのことを考えてもらいます。救い主についてどう思い、どのように感じたか、深く考えるよう生徒に言います。

ホワイトボードの質問に注意を向けます。もし誰かが「わたしは赦されるでしょうか」と尋ねてきたら、何と答えるか、説明するよう生徒に言います。

わたしたちがイエス・キリストに対する信仰を行使し、自分の罪を悔い改めるなら、イエス・キリストはわたしたちを赦す力を持っておられることを証し、レッスンを終えます。

生徒が原則を見つけられるように助ける

あなたが教義や原則を生徒に指摘することがあります。時には、教義や原則を生徒自身が発見できるように、あなたは生徒を導き、励ますことでしょう。教義と原則を見つけることにおいて、それを明瞭かつ簡潔に述べることが重要です。見つけた教義や原則をホワイトボードに書くことや、生徒に書き出してもらったり、聖句に印をつけてもらったりすることで、生徒がこれらの真理をはっきりと理解するよう助けることができます。

マスター聖句の復習

この教科課程でこれまで研究してきた 5 つのマスター聖句を生徒が復習するのを助けるため、簡単なクイズを出してもよいでしょう。セミナーのしおりから鍵となる言葉を与え、対応する参照聖句を書き留めるよう生徒に言います。その他のアイデアについては、本手引きの付録を参照してください。

第49課

ルカ8－9章

はじめに

救い主は、引き続きガリラヤで教え導く業を行われ、そこで御自分の死と復活について預言されました。ガリラヤを離れ、イエスは現世の使命を全うするためにエルサレムに向かって旅をされました。サムリヤで、ヤコブとヨハネはイエスを拒んでいたサムリヤ人の村を焼き払ってしまうように、天から火を呼び求めようとしたが、主は弟子たちに、御自身は滅ぼすため

でなく、人を救うために来たことを教えられました。(訳注—英語版の聖書のルカ9:56には、主の教えられたことが書かれていますが、日本語にはありません。)イエスはまた、まことの弟子について教えられました。

教えるための提案

ルカ8:1－9:56

救い主、奇跡を行われ、たとえを用いて教えられ、エルサレムへと旅される

ホワイトボードに次の状況を書くか、別の紙にそれぞれの状況を書きます。3人の生徒に声に出して読んでもらいます。

1. 散らかっている物を片付けるのを手伝うよう弟に丁寧に頼みましたが、弟は無礼な態度で、あなた一人でやるように言います。
 2. 学校の活動を計画しているとき、何人かのクラスメートはあなたが出したアイデアを批判し、笑います。
 3. 友人に福音を分かち合ったら、友人はあなたの信仰は変わっていると言います。
- これらの状況のそれぞれにおいて、あなたはどのように感じるでしょうか。どのように反応しますか。

ルカ8－9章にある救い主の教えを研究しながら、他人の行動や言葉によって不快に感じるとき、自分を導いてくれる真理を見つけるよう生徒に言います。

ルカ8－9章のほとんどの内容は、マタイとマルコのレッスンで詳細に研究したので、このレッスンでは、ルカ9:51－62に焦点を当てることを説明します。

一人の生徒に、ルカ9:51を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主がどこへ行こうと決意されたのかを見つけてもらいます。「天に上げられる」という言葉は、間近に迫った救い主の昇天を指していることを説明します。

- 救い主はどこへ行こうと決意されたのでしょうか。

以前、救い主は、御自身が裏切られ、鞭打たれ、エルサレムで十字架につけられるだろうと弟子たちに預言されました(マタイ20:17－19;ルカ9:44参照)。

- これらの困難があるにもかかわらずエルサレムに行くという救い主の決意は、主の特質についてどのようなことを明らかにしているでしょうか。

エルサレムに向かっている途中で、イエスと弟子たちはサムリヤ人の村に近づいたことを指摘します。何人かの生徒に、ルカ9:52－54を順番に声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスと弟子たちがその村に入ろうとしているのを知ったときのサムリヤ人の反応を見つけるように言います。

- イエスと弟子たちがその村に入ろうとしているのを知ったとき、サムリヤ人はどのように反応したでしょうか。
- ヤコブとヨハネは、救い主に対するサムリヤ人の冷遇と拒絶にどのように反応したでしょうか。
- 現代の人は、他人からの侮辱やその他の無礼に対してどのように過剰に反応しているでしょうか。(レッスンの最初に話した状況を参照し、誰かがこのような状況で過剰反応する可能性のある場合について深く考えるよう生徒に言います。)

一人の生徒に、ルカ 9:55 - 56 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブとヨハネに対する救い主の返答を見つけてもらいます。見つけたことを発表してもらいます。

救い主が「あなたがたは、自分がどのような霊の状態であるか分かっていない。」(55 節〔訳注 — この内容は英語版の聖書にはありますが、日本語の聖書では省かれています〕)と言われたとき、救い主はヤコブとヨハネの要求は神の御霊と調和しておらず、むしろ人々の心に怒りをかき立てるサタンの霊と調和していることを示唆していました(3 ニーフай 11:29 - 30 参照)。

- サマリヤ人の拒絶に対する救い主の反応は、ヤコブとヨハネの反応とどのように異なっているでしょうか。
- 救い主の模範から、無礼なことに直面するときにわたしたちの導きとなるどのような真理を学べるでしょうか。(生徒の言葉を使って、次のような原則をホワイトボードに書きます。忍耐し長く堪え忍んで侮辱に対応することを選ぶとき、わたしたちは救い主の模範に従っている。)

レッスンの始めに話した状況をもう一度生徒に思い出してもらいます。

- これらの状況の一つ一つに対して、怒りをもって対応することを選ぶことにはどのような潜在的な危険があるでしょうか。
- それぞれの状況で、わたしたちはどのように救い主の模範に従うことができるでしょうか。
- わたしたちは忍耐し長く堪え忍んで、侮辱に対応することを選択するときに、どのように祝福されるでしょうか。

生徒に、誰かの言葉や行動によって、気分を害することを選択したときのことをよく考えてもらいます。忍耐し長く堪え忍んで侮辱に対応することを選択することで、救い主の模範に従うよう生徒を励まします。

ルカ 9:57 - 62

イエス、まことの弟子について教えられる

一人の生徒に、前に来てもらい、(ビーズなど) 20 - 30 個の小さな物を見せます。黙ってそれを数えるよう生徒に指示します。そうしてもらっている間、他の生徒には、その生徒のじゃまをして、計算を誤らせることができるかどうか試してもらいます。その生徒のじゃまをしようとするに当たり、手に負えないような状況にならないよう気をつけます。座ったままでいるよう指示し、数えている生徒に何かを投げたり触れたりしないよう生徒に注意します。

- じゃまをされながら物を数えることは、どのような点でイエス・キリストに従う努力をすることに似ているでしょうか。

物を数えた生徒に感謝し、席に戻ってもらいます。生徒たちがルカ 9 章の研究しながら、救い主に従うことをじゃまする、あるいは妨げる可能性のある影響を克服する方法をよく考えてもらいます。

一人の生徒に、ルカ 9:57 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスと弟子たちがエルサレムに向かって旅をしているときに、ある人がイエスに言ったことを見つけてもらいます。

- この人は救い主に何をすると言ったのでしょうか。

ホワイトボードに次の言葉を書きます—イエス・キリストのまことの弟子となるには、……

一人の生徒に、ルカ 9:58 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主に従ってくることを望んだその人に対する救い主の対応を見つけてもらいます。見つけたことを発表してもらいます。

- 「人の子にはまくらす所がない」という言葉は、救い主の生活状況についてどのようなことを示しているでしょうか。(イエスと弟子たちは常に移動していた。その教え導く業は快適でも楽でもなかった。)

生徒たちに、ルカ 9:59 - 60 を黙読して、主に従ってきなさいという救い主の招きに対する二番目の人の返答を見つけてもらいます。

- この人は救い主に従う前に何をしたかったでしょうか。
- まず(59 節)という言葉は、この人についてどのようなことを示しているでしょうか。

虐待は容認されるべきではない

自分に対する悪事について考え、忍耐し長く堪え忍んで対応するよう生徒に言うとき、自分に対するいかなる種類の虐待も続けられるのを許すべきではないことをはっきりとさせます。生徒が虐待の被害者である場合は、彼または彼女はすぐに適切な親、神権指導者、およびその他の当局からの助けを求めべきです。

イエス・キリストは、最愛の人の死を弔うことや、葬儀で敬意を払うことが間違っていると示しているわけではないことを説明します(教義と聖約 42:45 参照)。そうではなく、主はこの人に弟子についての重要な教訓を教えていたのです。

- まことの弟子の優先順位について、60 節に記録されている主の返答からどのようなことを学べるでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 9:61-62 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、三番目の人が救い主に従う前にしたかったことを見つけてもらいます。

- この人は救い主に従う前に何をしたかったでしょうか。
- 救い主はこの人に対してどのような反応を示されたでしょうか。

生徒たちが、手をすきにかかることと後ろを見ないことの類似性を理解できるよう、一人の生徒に、次のハワード・W・ハンター大管長の言葉を読んでもらいます。



「すきを使って、まっすぐなうね〔または溝〕を掘るためには、前方のある一点に目を向けてそらさないようにします。そうすると、まっすぐに進むことができます。しかし、もし後ろを振り返ったりすると、曲がった方向へ進む可能性が強くなります。曲がりくねった不規則なうねになってしまうのです。……わたしたちのエネルギーを、後ろではなく前方に、すなわち永遠の生命と救いの喜びに集中させるなら、確かにそれらを得ることができます。」(『『生ける』教会員』『聖徒の道』1987年7月号, 19)

- イエス・キリストの弟子であることは、手をすきにかけて後ろを見ないこととどのように似ているでしょうか。
- 救い主はどのような点で、62 節に記録されている御自身の教えの模範でしょうか。(主は、天の御父が御自身に与えられた使命を果たすために「エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ〔た。〕」[ルカ 9:51] そして後ろを御覧にならなかった。)

ホワイトボードの未完成の文に注意向けます。

- ルカ 9:57-62 から学んだことを基に、あなたなら、救い主が弟子たちに求めておられる事柄について教えられた真理をどのように要約しますか。(生徒は、さまざまな原則を見つけることでしょ。生徒たちが答えたら、次の真理を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。イエス・キリストのまことの弟子となるためには、主に従うことよりも他のことを優先させてはならない。)
- なぜわたしたちは時折、イエス・キリストの弟子としての責任よりも他のことを優先させてしまうのでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の次の言葉を読んでもらいます。

「サタンは善良な人々を攻撃する強力な武器を持っています。それは混乱という武器です。サタンは善良な人々の生活にいわゆる『良いもの』をいっぱい詰め込んで、必要不可欠なものが入る余地を奪うのです。」(『第一のものを第一に』『リアホナ』2001年7月号, 7)

生徒が、イエス・キリストに完全に従うことを妨げるものについてよく考える助けとなるよう、ホワイトボードに次の表を書き、それをクラスのノートか聖典学習帳に写すよう生徒に言います。

イエス・キリストの弟子の責任	その他の優先事項

生徒たちに二人一組になってもらいます。パートナーと協力して、表の中にイエス・キリストのまことの弟子の責任を挙げるよう生徒に言います(例えば、正直でいる、他の人々に奉仕する、福音を分かち合う、家族歴史や神殿活動を行う、子育てするなどが含まれるでしょう)。表に挙げられたそれぞれの責任について、誰かがその責任よりも優先する可能性がある事柄の例を挙げるよう生徒に言います。

何人かの生徒に挙げたことを発表してもらいます。

賛美歌の活用

音楽、特に教会の賛美歌は、生徒が福音の学習経験で聖霊の影響を感じるのを助ける重要な役割を果たします。レッスン中に追加の洞察を与える助けとして、レッスンに直接関係する賛美歌の一節または複数の節を生徒に歌ってもらうことができます。

次の質問をすることによって、イエス・キリストの弟子の肯定的な例を発表するよう生徒を励まします。

- 救い主に従うために、他の目標や優先していた事柄を脇に置くことを選ぶ人を見たのはどのようなときでしたか。

イエス・キリストとその教えに従うことよりも優先してしまう可能性がある事柄について深く考えるよう生徒に言います。自分の聖典学習帳に、救い主とその福音を高い優先順位にするために行う事柄の目標を一つ書き出してもらいます。

生徒に、賛美歌「われ主を愛して」(『賛美歌』134番)か、救い主とその福音に従うことについての別の賛美歌を歌ってもらい、レッスンを終わるとよいでしょう。

第50課

ルカ 10 : 1 – 37

はじめに

イエスは七十人を召し、教え、遣わされました。七十人は福音を宣べ伝え、病人を癒やし、悪霊を追い出し、その働きについて

報告するために戻りました。イエスは律法学者に良いサマリヤ人のたとえを教えられました。

教えるための提案

ルカ 10 : 1 – 24

主、七十人を召し、力を与え、教えられる

物がいっぱい詰まった入れ物（さまざまな大きさのボウルなど）をクラスを持って来ます。一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。その生徒に、どれも落としたり、下に置いたりしないで、あなたが渡す物を持つように言います。もう持てなくなるまで、あるいはどれかを落とすようになるまで、その生徒に物を渡し続けます。その後、その生徒に尋ねます。

- 物を落とさないようにするには、どのようなことができたでしょうか。

必要であれば、他の生徒の助けを頼むようその生徒に勧めます。その生徒に物を渡し続け、他の生徒に幾つか渡してもよいと言います。それから生徒に着席してもらいます。

- この活動は、教会の指導者がその責任を果たす方法とどのように比較することができるでしょうか。

救い主は十二使徒を召し、主の業を支援するために彼らを遣わされたことを生徒に思い出してもらいます。しかしながら、福音の恵みが全ての人に行き渡ることができるように、仕え、教え、導くために他の人々の助けが必要になりました。

一人の生徒に、ルカ 10 : 1 – 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちが主の業を行うのを助けるために、主はどのような人を任命なさったか見つけてもらいます。

- 主の業において主の助け手とするために、主はどのような人を任命なさったでしょうか。その役割はどのようなものだったでしょうか。

「七十人」（訳注 — 日本語の聖書には間違って「七十二人」と書いてあります）というルカ 10 : 1 の言葉は、メルキゼデク神権の職を指していることを説明します。この同じ職は、今日の回復された教会に存在しています。（可能であれば、最新の『リアホナ』総大会号にある「末日聖徒イエス・キリスト教会の中央幹部と中央役員」という表題のページを見せませす。）現在では、七十人には複数の定員会がありますが、最初の二つの定員会の会員だけが中央幹部と呼ばれます。それぞれの定員会は 70 人までの会員を有することができます。福音を宣べ伝え、教会の諸事を整えるという七十人の働きは、十二使徒定員会と七十人会長会によって指導されています（教義と聖約 107 : 25 – 26, 34 ; 『聖句ガイド』「七十人」scriptures.lds.org）。

- 2 節によれば、収穫するためには何が少なすぎると主は言っておられるでしょうか。
- これらの聖句から主の業についてどのような真理を学ぶことができるでしょうか。（生徒は次のような内容の真理を見つけるはずですが、主は使徒に加えて、主の代理となり、主の業を助けるために働き人を召される。）
- 使徒と七十人に加えて、他に誰が今日の主の業において主の助け手となる責任を持っているでしょうか。（全ての教会員。）

救い主が、救いの収穫をもたらすためにより多くの働き人の必要性を宣言したのと同様に、末日の預言者たちは一貫してより多くの宣教師を求めていることを説明します。一人の生徒に、次のトーマス・S・モンソン大管長の話を読んでもらいます。



「預言者たちが長年教えてきたことを繰り返します。ふさわしく、能力がある全ての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。……」

若い姉妹の皆さん。皆さんには専任宣教師として奉仕するという若い男性と同じ神権の責任はありませんが、宣教師として価値ある貢献ができます。皆さんの奉仕を歓迎します。」（「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号、5-6）

- 専任宣教師として奉仕することを除き、他にどのようにして主の業において主の助け手となることができるでしょうか。
- あなたやあなたの知人は、主の業において主の助け手となることを通してどのように有意義な経験をしたことがあるでしょうか。

ルカ10:3-24の要約として、主は七十人にその責任を果たす方法について指示を与えられたことを説明します。主はまた、主の業を拒んださまざまな町の人々を非難されました。七十人は後に自らの働きをイエスに報告し、主は彼らにさらに教えを授け、彼らとともに喜ばれました。

ルカ10:25-37

イエス、良いサマリヤ人のたとえを教えられる

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の話を読んでもらいます。

「周りの人は完全ではありません。人は人を悩まし、失望させ、怒らせるようなことをします。死すべき世では、それはこれからも変わることはないでしょう。」（「憐れみ深い人たちは憐れみを受ける」『リアホナ』2012年5月号、77）

自分たちを困らせたり、失望させたり、怒らせたりするようなことを行う人を知っているかどうか、クラス全員に深く考えてもらいます。

- このようなことをする人を愛するのが難しいのはなぜだと思いますか。

ルカ10:25-37を研究しながら、愛するのが難しいかもしれない人と交流するときに導きとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、ルカ10:25を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、律法学者が救い主に尋ねた質問を見つけてもらいます。

- その律法学者は救い主に何と尋ねたのでしょうか。

一人の生徒に、ルカ10:26-28を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の答えを見つけてもらいます。それから生徒に見つけたことを発表するように言います。

- 永遠の命を得るために行わなければならないことについて、これらの節からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の原則を見つけるはずで、永遠の命を得るには、神を愛し、自分を愛するように隣り人を愛さなければならない。ホワイトボードにこの原則を書きます。）
- 27節によると、わたしたちはどのように神を愛さなければならないのでしょうか。
- 心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして神を愛するとは、どういう意味でしょうか。

ホワイトボードの「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という言葉を指摘します。自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよとはどういう意味かを生徒が理解できるように、典型的な一日に自分が行うことをホワイトボードに挙げるよう生徒に言います。（答えには、その日のための準備、食事、睡眠、宿題などが含まれるでしょう。）

ホワイトボード上のリストをまとめてから、それらの活動のうち、自分自身に焦点を当てているものが幾つあるか深く考えるよう生徒に言います。

- このことから何を学ぶことができるでしょうか。
- 他の人々の幸福についてもっと頻繁に気にかけ、自分を愛するように他の人々を愛することができるようになる方法にはどのようなものがあるでしょうか。

• どのような方法で、自分のために何かをしている間にも、これを行うことができるでしょうか。(例としては、孤独に見える人たちと一緒に昼食を食べる、学校の活動中に他の人たちを褒めるなどがあります。)

• 神を愛し、自分を愛するように他の人々を愛することは、どのようにわたしたちを永遠の命に向かって向上させると思いますか。

一人の生徒に、ルカ 10:29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、律法学者が救い主に尋ねた二つ目の質問を見つけてもらいます。

• 律法学者の二つ目の質問は何だったでしょうか。

ルカ 10:30 - 35 にある良いサマリヤ人のたとえを演じるために、何人かの生徒に準備してもらいます。一人の生徒にナレーターになってもらい、他の生徒たちは傷を負ったユダヤ人の男性、二人の強盗、祭司、レビ人、サマリヤ人の役を演じてもらいます。(クラスの生徒の人数が少ない場合は、一人が複数の役を演じて構いません。) 名札、ユダヤ人の男からはぎ取るための余分な服、オリブ油とぶどう酒を表す入れ物、動物を表す車椅子、2 枚のレプタを表す硬貨など、幾つかの小道具を用意するとよいでしょう。(注 — ロールプレーが効果的で、適切、かつ安全なものとなるために、レッスンの前に参加者を選択し彼らに具体的な指示を与えるとよいでしょう。)

ナレーターに、ルカ 10:30 - 35 を声に出して読んでもらい、他の役の生徒には、たとえを演じるように言います。残りの生徒には、救い主がわたしたちの隣り人とは誰であると教えられたのかを見つけてもらいます。ロールプレーが済んだら、席に戻ってもらいます。

• サマリヤ人の行動のどれが一番印象に残ったでしょうか。

生徒が祭司、レビ人、サマリヤ人に期待されていたことをさらに理解する助けとなるよう、一人の生徒に、次の説明を声に出して読んでもらいます。

祭司とレビ人はアロン神権を保有し、神殿においても、教師としても、神の律法の模範としても、神とその同胞に仕えるために割り当てられていました。これらの神権者は「あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない」(レビ 19:18) という戒めや、外国人や旅行者の世話をするという戒めを十分に認識していました(レビ 19:34; 25:35 参照)。対照的に、「サマリヤ人は、イスラエル人と異邦人の混血であった。彼らの宗教は、ユダヤ人と異教徒の信仰と慣習の混じり合ったものである。……サマリヤ人がイスラエルの宗教に背を向けていたことで、ユダヤ人が彼らに憎しみを募らせていたことがうかがえる。」(『聖句ガイド』「サマリヤ人」, scriptures.lds.org) ユダヤ人とサマリヤ人のどちらも、一般的にお互いを避けるために回り道をして行きました。

• このたとえでは、祭司、レビ人、サマリヤ人の行動はなぜ驚くべきものなのでしょうか。

• どのような理由で、そのサマリヤ人は傷を負ったユダヤ人を助けられない可能性があったのでしょうか。

• 33 節によれば、傷を負った男を見たとき、そのサマリヤ人はどうしてそのような行動を取ったのでしょうか。

思いやりを持つことは、他の人の必要や苦難に気づき、その人を助けるためにできることは何でもしたいと感じることを意味すると指摘します。

一人の生徒に、ルカ 10:36 - 37 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が次に律法学者について教えられた事柄を見つけてもらいます。

• このたとえは、29 節の「わたしの隣り人とはだれのことですか」という質問にどのように答えているのでしょうか。

このたとえで救い主がサマリヤ人を用いたことは、わたしたちの隣り人とはわたしたちの近くに住んでいる人だけでなく、天の御父の子供たち、すなわち、わたしたちが愛するのが最も難しい人々でもあることを示唆していることを生徒が理解するのを助けます。

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「わたしたちは人を選んで友を作りますが、神はわたしたちの隣り人となる人を選ばれ、至る所に置いておられることを忘れてはなりません。愛には垣根がないはずなのです。……キリストは次のように言われました。『あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるか。そのようなことは取税人でもするではないか。』(マタイ 5:46)」(『主の試金石』『聖徒の道』1987 年 1 月号, 38 参照)

• 37 節によれば、救い主は律法学者に何を行うよう教えられたのでしょうか。

生徒に、前に愛するのが難しいかもしれないと思った人々について、もう一度よく考えてもらいます。

**質問し、応用するよう
促す**

福音を教える目的は、生徒が聖典に見いだされる原則と教義を応用し、改心するようになり、忠実で従順な人々に約束されている祝福を受けるよう助けることです。応用するよう励ます質問をすること、促しをすることは、生徒が現在の状況の中でこれらの原則をどのように応用できるかを知り、また将来どのようにそれらを応用できるかを考える助けとなります。

- 愛するのが難しい人々を愛し、思いやりを持つために、わたしたちには何ができるでしょうか。
- あなたやあなたの知人が「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(ルカ 10:27) という救い主の勧告に従ったときのことを深く考えます。その結果はどうでしたか。

今日のレッスンで教えられた真理について証をします。次の未完成の文をホワイトボードに書き、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に、完成させた文を書いてもらいます — わたしは _____ によって良いサマリヤ人の模範に従います。

家庭学習クラスのレッスン

ルカ 5:1 - 10:37 (単元 10)

家庭学習を行う生徒を教えるための 準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がルカ 5:1 - 10:37 (単元 10) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ルカ 5 章)

救い主が、人間をとる漁師になるようペテロ、ヤコブ、ヨハネを招かれた記述から、たとえ理由は分からなくとも、救い主が言われることに従うならば、主は期待以上の祝福を与えてくださることを生徒たちは学びました。さらに、重い皮膚病にかかった人や中風の者を癒やされたことから、生徒は、救い主に近づこうと信仰を実践するときに、主はわたしたちを癒やされ、わたしたちも周囲の人々が癒やされるよう、救い主のもとに近づく助けとなることができると学びました。生徒はまた、救い主とその福音を受け入れるためには、わたしたちは謙遜になり、進んで変化する必要があることも学びました。

第 2 日 (ルカ 6:1 - 7:17)

見返りを期待せず人々に良い行いをするならば、報いは大きく、いと高き者の子となり、わたしたちが人々に惜しみなく与えるときに、天の御父はわたしたちを惜しみなく祝福してくださることが生徒に分かりました。また、生徒は以下の真理についても学びました。イエス・キリストへの信仰を実践することによって、わたしたちは周囲の人々の生活に祝福をもたらす助けとなることができる。人々に憐れみを示し、暗黙の必要に応えることによって、わたしたちはイエス・キリストの模範に従うことができる。

第 3 日 (ルカ 7:18 - 50)

このレッスンで、生徒たちは、バプテスマのヨハネが予任された預言者であり、神の独り子のために道を整え、御子にバプテスマを施したことを学びました。救い主の足を自分の涙で拭いた女の話から、生徒たちは次のことを学びました。主への愛と献身を示すことで信仰を実践するときに、わたしたちは主の赦しを得ることができる。主の赦しを受けるとき、さらに主を愛し主に仕えたいという思いに満たされる。

第 4 日 (ルカ 8:1 - 10:37)

このレッスンから、生徒たちは、忍耐と辛抱強さで屈辱的で不快な状況に対処するという選択によって、救い主の模範に従うよう励まされました。さらに、イエス・キリストの真の弟子となるために、救い主に従うことを何よりも優先させること、また、永遠の命を得るためには、自分を愛するごとく神を愛し隣人を愛さなければならないことを学びました。

はじめに

ある律法学者が救い主に、「何をしたら永遠の命を受けられるでしょうか」と尋ねました。(ルカ 10:25) 次の教えるための提案は、自分を愛するように神を愛し隣人を愛するとはどのような意味かを学ぶ助けとなります。

教えるための提案

ルカ 10:25 - 37

イエス、良いサマリヤ人のたとえを教えられる

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトルフ管長の次のお話を読んでもらいます。

「周りの人は完全ではありません。人は人を悩まし、失望させ、怒らせるようなことをします。死すべき世では、それはこれからも変わることはないでしょう。」(「憐れみ深い人たちは憐れみを受ける」『リアホナ』2012年5月号, 77)

生徒たちに、自分を悩ませ、落胆させ、怒らせるような人を知っているかどうか、深く考えてもらいます。

• それらのことをする人を愛するのが難しいのはなぜでしょうか。

ルカ 10:25 - 37 を研究しながら、愛することが難しい人々に接するときに導きとなる真理を見つけてもらいます。

また、ルカ 10 章を個人的に研究しながら、何をしたら永遠の命を受けられるかと救い主に尋ねた律法学者について学んだことを、思い出ししてもらいます。

一人の生徒に、ルカ 10:26 - 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の答えを見つけてもらいます。それから見つけたことを発表してもらいます。

• 永遠の命を受けるために、わたしたちが行わなければならないことについて、これらの聖句からどのような原則が分かるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような内容の原則を見つけるはずですが、永遠の命を得るためには、神を愛し、自分を愛するように隣人を愛さなければならない。この原則をホワイトボードに書きます。)

- ・心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして神を愛するとは、どのようなことを意味しているでしょうか。

ホワイトボードに書いた、自分を愛するように隣り人を愛するという言葉に注意を促します。自分を愛するように隣り人を愛するとはどのような意味かを生徒たちが理解する助けとなるように、ある特定の日に生徒たちがしたことをホワイトボードに書き出してもらいます。(それらには、その日のための準備、食事、睡眠、宿題をすることなどが含まれるでしょう。)

ホワイトボードに書き出した後で、それらの活動のうち、自分中心のことが幾つあるかを深く考えてもらいます。(それらの一つ一つについて、自分のためか、誰かのためか、神のためかを確認してもらおうとよいでしょう。)

- ・このことからどのようなことを学ぶことができますか。
- ・周囲の人々の幸福に目を向ける機会を増やしたり、自分を愛するように人々を愛するよう努める方法にはどのようなものがあるでしょうか。
- ・自分のために行動しているときでも、このようにする方法にはどのようなものがあるでしょうか。(例としては、寂しそうにしている人と一緒に昼食をする、または学校の活動で周囲の人を褒めるなどがあるでしょう。)
- ・神を愛し、自分を愛するように隣り人を愛することは、どうして永遠の命を目指して成長する助けになると思いますか。

一人の生徒に、ルカ 10:29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、律法学者が救い主に尋ねた二つ目の質問を見つけてもらいます。

- ・その律法学者の二つ目の質問は何でしたか。

ルカ 10:30 - 35 の、良いサマリヤ人のたとえを演じてくれる数人の生徒を募ります。一人の生徒にナレーターをしてもらい、他の生徒には傷を負ったユダヤ人の男、二人の強盗、祭司、レビ人、サマリヤ人の役になってもらいます。(クラスに生徒が数人しかいない場合は、一人に複数の役をしてもらうとよいでしょう。) 名札、ユダヤ人の男からはぎ取る着物、オリーブ油とぶどう酒を表す入れ物、家畜を表す回転椅子、2 ペンスを表す硬貨 2 枚など、幾つかの小道具を用意するとよいでしょう。(注 — ロールプレーが効果的、適切、安全なものとなるよう、レッスンの前に演じてくれる生徒を選び、具体的な指示を与えます。)

ナレーターに、ルカ 10:30 - 35 を読み上げてもらい、役が割り当てられた生徒たちにたとえの役を演じてもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主はどのような人が隣り人かについて何を教えられたかを見つけてもらいます。ロールプレーが終わったら、席に戻ってもらいます。

- ・サマリヤ人のどの行いが一番印象的ですか。

祭司、レビ人、サマリヤ人にどのようなことが期待されていたかを生徒がさらに理解する助けとなるよう、一人の生徒に、次の言葉を読んでもらいます。

モーセの律法の記録では、祭司とレビ人は、神殿において、また、神の律法の教師であり模範として、神と同胞に仕える役割(および義務)を担っていました。それらの祭司職にある人々は「自分を愛するように隣り人を愛しなさい」という戒めが十分に分

かっていました(レビ 19:18)。実際、レビ人は特に旅人たちを経済的に、そして他の面でも世話をする責任を負っていました(レビ 25:35 - 36 参照)。一方、「サマリヤ人はイスラエル人と異邦人の混血でした。彼らの宗教は、ユダヤ人と異教徒の信仰と慣習の混じり合ったものでした。……サマリヤ人がイスラエルの宗教に背を向けていたことで、ユダヤ人は彼らに対して[憎しみ]を募らせていました。」(『聖句ガイド』『サマリヤ人』*scriptures.lds.org*) ユダヤ人とサマリヤ人は、どちらも概して道をはずれ互いに避け合っていました。

- ・たとえの中で、祭司、レビ人、サマリヤ人の行動はなぜ驚くべきことなのでしょう。
- ・傷を負ったユダヤ人をサマリヤ人が助けないとしたら、それはどのような理由からでしょうか。
- ・ルカ 10:33 によると、傷を負った男を見たときに、サマリヤ人の行いの動機となったのはどのようなことでしょうか。

哀れみとは、他の人の必要や困難に気づき、その人を助けるためにどのようなことでもしたいと感じることであると指摘します。

一人の生徒に、ルカ 10:36 - 37 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、次に主が律法学者に何を教えられたかを見つけてもらいます。

- ・このたとえは、29 節の「わたしの隣り人とはだれのことですか」という質問にどのように答えているのでしょうか。

このたとえの中で救い主がサマリヤ人を用いたのは、わたしたちの隣り人は近くに住んでいる人だけではなく、天の御父のあらゆる子供たち、つまり愛することが難しい人々も含まれていることを示していることを、生徒たちが理解できるように助けます。

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「わたしたちは友を作りますが、神はどこにでも隣り人を作っておられることを忘れてはなりません。愛に境界を定めてはなりません。……キリストは『あなたがたが自分の愛する者を愛したからとて、何の報いがあるか。そのようなことは取税人でもするではないか』と言っておられます。(マタイ 5:46) (『主の試金石』『聖徒の道』1987年1月号, 38 参照)

- ・ルカ 10:37 によると、救い主は、その律法学者にどうするようにと教えられたのでしょうか。

生徒たちに、前に考えた、愛するのが難しい人たちについてもう一度考えてもらいます。

- ・愛するのが難しい人たちに哀れみを抱き、愛するために、どのようなことをすることができるでしょうか。
- ・「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛しなさい」という救い主の勧告に、あなたやあなたの知人が従ったときのことを深く考えます(ルカ 10:27)。その結果はどうでしたか。

今日のレッスンで教えた真理について証を述べます。次の未完成の文をホワイトボードに書き、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に、完成させた文を書いてもらいます — _____ ことで、良いサマリヤ人の模範に従います。

次の単元 (ルカ 10:38 – 17:37)

義人のふりをしながら内心は利己的なパリサイ人たちは、イエスは繰り返しどのように叱責されたかを、次の単元で学ぶことを説明します。パリサイ人のようではなく、謙遜にキリストに従う者

となるにはどうしたらいいかを考えてもらいます。また生徒は、放蕩息子のたとえなど、イエスが教えられたその他のたとえも幾つか研究します。富を得ることに人生をささげ、貧しい人々を無視した金持ちがどのようになったかに注目してもらいます。

第51課

ルカ 10:38 - 12:59

はじめに

救い主は、マルタの家で、マリヤとマルタに教えられました。その後、救い主は祈りについて多くの真理を弟子たちに教えられ、偽善と貪欲について警告されました。

学んだ真理を応用する ように生徒を励ます

福音の原則を学んでも応用しなければ、学び終えたとは言えません。応用するとは、真理を頭と心で理解し、受け入れ、その真理に従って行動することです。学んだ福音の真理を応用するため、御霊の促しに従うよう生徒を励まします。

教えるための提案

ルカ 10:38 - 42

イエス、マルタとマリヤを教えられる

生徒たちに、昨日した選択について考えてもらいます。1分間で、クラスノートか聖典学習帳に、それらの選択をできるだけたくさん書くように言います。何人かの生徒たちに、良い選択の幾つかをクラスで発表してもらいます。

- 二つの良い選択のうちの一つを選ばなければならない状況には、どのようなものがあるでしょうか。

ルカ 10:38 - 42 を研究しながら、救い主がお教えになった原則で、特に幾つかの良い選択があるときに、判断する導きとなる原則を見つけてもらいます。

良いサマリヤ人のたとえを教えられた後に、救い主はベタニヤへ旅されて、マルタという名前の女の家を訪れられたことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 10:38 - 40 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がその家におられた間に、マルタとその妹マリヤがそれぞれ、何をすることを選んだかを見つけてもらいます。

- マリヤは、救い主が家におられる間にどのようなことをしましたか。
- マルタはどのようなことをしましたか。(40 節の「心をとみだし」という言葉は、重荷に感じたことを示していると説明します。)

「マリヤとマルタ」(『福音の視覚資料集』45 番:LDS.org も参照) の絵を見せます。イエスの時代には、もてなしがとても重要だったことを説明します。マルタは、もてなす側に通常期待される事柄をこなそうとしていました。マルタは、食事を用意したりふるまったり、この世的な関心事に集中していたのです。

- 40 節によると、彼女がこの世的なことに心を奪われていたことが、救い主への質問のどこで分かりますか。

一人の生徒に、ルカ 10:41 - 42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主のマルタへの返答を見つけてもらいます。

- 救い主は、どのような意味で「無くてならぬものは……一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ」とおっしゃったと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。

「『多くのことに心を配って思いわずらっていた』マルタは称賛に値しましたが(41 節)、主から福音を学ぶことは『より無くてはならぬもの』だったのです。」「(良いこと、より良いこと、最も良いこと)『リアホナ』2007 年 11 月号, 104)

- 救い主は、どのような意味で、マリヤを選んだ「良い方」は「彼女から取り去ってはならないものである」とおっしゃったと思いますか。(この世的な煩いごとを重視するよりも、救い主の御言葉に耳を傾けることを選んだので、マリヤは永続的な、霊的祝福を受けることになる。)
- 救い主のマルタへの言葉から、どのような原則を学べるでしょうか。(生徒はさまざまな答えを挙げられると思いますが、次の原則を見つけてください。わたしたちがこの世的な関心事よりも、霊的な事柄に献身することを選ぶならば、永続する祝福を受ける。)



- 霊的な事柄に献身しながら、さほど重要ではないけれども「必要な事柄」(ルカ 10:42)にも気を配るには、どうしたらよいでしょうか。

一人の生徒に、オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「さまざまな選択肢を考慮するとき、『良い』というだけでは不十分であることを覚えておく必要があります。『より良い』選択肢もあれば、『最も良い』選択肢もあるのです。……

テレビを見たり、ビデオゲームをしたり、インターネットでさまざまなサイトを閲覧したり、本や雑誌を読んだりするという選択肢に費やす時間をどのように使っているか考えてみてください。もちろん、健全な娯楽を見たり、興味深い情報を得たりすることは良いことです。しかしそのようなこと全てが、そのために費やす時間に値するわけではありません。それより良いことがあり、最も良いこともあるのです。」(「良いこと、より良いこと、最も良いこと」105)

書き出した昨日の選択のリストをもう一度見て、自分なりに「良いこと」、「より良いこと」、「最も良いこと」に分類してもらいます。一人か二人の生徒に、この世的な関心事よりも霊的な事柄を優先したことで、どのように祝福されたかを証してもらいます。

ルカ 11 章

イエスは弟子たちに祈りについてお教えになる

あなたが専任宣教師で、ある求道者を教えていて、その人は何度か祈っては見たものの天の御父が応えてくださらなかったと感じていると想像してもらいます。その求道者は、お祈りをあきらめようとしています。

- 自分自身の経験から、このような懸念には、どのように対応しますか。

生徒たちに、ルカ 11 章を研究しながら、神が祈りに応えてくださっていないと感じる人の助けとなる真理を見つけてもらいます。

ルカ 11:1-4 の要約として、救い主の祈りを聞いた後、弟子たちの一人が祈り方を教えてください。主はそれに応えられたことを説明します。

主は弟子たちに祈り方を教えられた後で、祈りに応えてくださる神の御心を含む、祈りについてのさらなる真理を、たとえを用いて教えられたことを説明します。

生徒たちに、二人一組になってルカ 11:5-13 を研究しながら、主が祈りについてどのようなことを教えられたかを見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳ルカ 11:5-6 には次のように書かれていることを指摘します。「イエスは彼らに言われた。『あなたがたの天の父は、あなたがたが求めるものを与えないことはないであろう。』そしてたとえで語られた、……。また、ジョセフ・スミス訳ルカ 11:14 には次のように書かれていることを指摘します「……天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を通して良い贈り物を下さらないことがあるか。」それから、次の質問をします。

- 5-8 節のたとえで、ある人は自分の友人に何を頼みましたか。それはなぜですか。
- 頼まれた友人は、その人の願いをなぜ聞き入れたと思いますか。(8 節の「しきりに願う」とは、当初友人に断られたのに、嘆願し続けたその人の粘り強さを指していることを説明してもよいでしょう。)
- 嘆願する男がわたしたちを表し、パンを持っている彼の友人が天の御父を表しているとしたなら、必要なときに、わたしたちはどうしなければならないと、救い主は述べておられるでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます-天の御父の助けを必要とするときに、もしわたしたちが必要な時に、天の御父の祝福を粘り強く祈り求めるなら、_____

- 13 節によると、しきりに祈り祝福を求める人々に、天の御父は何をお与えになるでしょうか。
- ルカ 11:5-13 の救い主の教えに基づいて、ホワイトボードに書いてある文をどのように完成しますか。(生徒たちが答えたら、次の真理を示すために、ホワイトボードの文章を完成させます。もしわたしたちが必要な時に、天の御父の祝福を粘り強く祈り求めるなら、わたしたちを最も祝福する方法で祈りに応えてくださる。)

生徒たちに、天の御父の祝福を粘り強く求め続けたことで、祈りに応えていただいたときの経験を、分かち合ってもらおうとよいでしょう。

ルカ 11:14-54 の要約として、イエスは一人の男から悪霊を追い出し、神の御言葉を聞くよう人々に勧め、パリサイ人と律法学者の霊的な無知と邪悪を叱責されたことを説明します。

ルカ 12 章

救い主、偽善と貪欲について警告される

生徒たちに次の質問を読み聞かせ、答えを静かに考えてもらいます。

- 何か欲しくてたまらなくなり、そのことばかりを考えていたことはありますか。
- そのような考えがわたしたちに与える悪い影響として、どのようなことがあるでしょうか。

ルカ 12:1 - 13 の要約として、救い主が群衆の前に立たれたときに、偽善について弟子たちに教えられたことを説明します。また、救い主は彼らに、いつの日か隠された物事の全てが明らかになること、また神が神の子供たちを御存じで見守ってくださることを改めて説かれました。そのとき群衆の一人が、自分の兄弟に、遺産を分けてくれるよう話してもらえないかと救い主に頼みました。

一人の生徒に、ルカ 12:14 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その男に対する救い主の返答を見つけてもらいます。

- 救い主とともにいた人々に対して救い主が与えられた勧告はどのようなものでしたか。

「貪欲」とは、何かを必要以上に願求するという意味だと説明します。ホワイトボードに次の真理を書きます。主はこの世的な所有物をむさぼらないように命じられている。

- 人はなぜ貪欲を避けるべきなのでしょう。この真理は、どうしてわたしたちがさらに幸福に生活する助けとなるのでしょうか。

救い主は弟子たちに貪欲を避けるように言われた後、この戒めの重要性を説明するたとえを話されたことを説明します。生徒たちに、ルカ 12:16 - 19 を黙読しながら、その男が「わたしの」、「自分の」という言葉を何回使っているかを探してもらいます。（注釈 — 英語の聖書では「わたしは」[I]「わたしの」[my] という言葉が頻繁に使われています。）見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- その男が「わたしの」、「自分の」という言葉を使う頻度は、彼の関心事について何を教えていますか。
- わたしたちは、どのような状況でこの人のような気持ちにさせられますか。

一人の生徒に、ルカ 12:20 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その男の貪欲さについて、神が言われたことを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉をホワイトボードに書きます。（この言葉は「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005 年 11 月号、44 からの抜粋です。）

「永続するものこそ最も大切なものなのです。」(M・ラッセル・バラード長老)

- そのたとえの中の金持ちは、どのような点で「もっとも大切なもの」を重視しなかったのでしょうか。
- この男の行動がなぜ愚かだと言えるのでしょうか。

ルカ 12:22 - 30 の要約として、主が、弟子たちはこの世的な必要について気にしすぎる必要がないと強調されたことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 12:31 - 34 を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳ルカ 12:34 には次のように書かれていることを説明します。「だから、まず神の王国を築くことを求めなさい。」他の生徒には、聞きながら、救い主が、自分本位の望みを重視するよりも、何を求めるよう弟子たちに勧められたかを見つけてもらいます。

- イエスは、弟子たちにどのようなことを求めるよう勧められましたか。
- 神の王国を築くことを求めるならば、どのようなことが約束されているのでしょうか。
- ルカ 12:31 - 34 の救い主の教えを、一つの原則としてどのように要約できますか。（生徒はさまざまな答えを挙げると思われますが、次の原則を見つけてください。神の王国と義を築くことを求めるなら、神はわたしたちに必要なものを与え、神の王国にわたしたちの場所を備えてくださる。）
- どのような方法で、神の王国を築くことが求められるのでしょうか。（生徒たちが答える中で、この世の関心事よりも霊的な事柄に献身することについて、初めに見つけた原則を述べるとよいでしょう。）

この世の関心事よりも霊的な事柄を優先しようと努めたときに、どのように祝福されたかを証します。生徒たちに、霊的な事柄とこの世の関心事とどちらを重視するかよく考えてもらいます。クラスノートか聖典学習帳に、霊的な事柄をこの世の関心事よりも優先するために行うことを書いてもらいます。

ルカ 12:35 – 59 の要約として、救い主は、御自分の再臨に備えるよう弟子たちに教えられたことを説明します。主は、弟子たちが「多く与えられた者からは多く求められ」(48 節)ることを理解するよう助け、主の福音が人々の間に大きな分裂をもたらすと説明されました。

ルカ 13 - 14 章

はじめに

イエスは、悔い改めと神の王国についてお教えになり、安息日に人を癒やされました。また、謙遜さと弟子として払う犠牲について教えるためにたとえを用いられました。

教えるための提案

ルカ 13 : 1 - 14 : 14

イエス、安息日に人を癒やされ、謙遜な恵まれない人の世話をすることについて教えられる

次の状況を声に出して読みます。友人たちと昼食を取っているときに、貧しい身なりの生徒が一人で座っていることに皆が気づきました。あなたのグループの一人は、その生徒の見た目について失礼なことを言い、友人たちが笑いました。

生徒たちに、自分ならこの状況でどのように感じるかを深く考えてもらいます。

- この状況であなたにできる幾つかの対応には、どのようなものがありますか。

ルカ 13 - 14 章を研究しながら、自分より恵まれない人にどのように接するかについて、救い主が教えられたことを見つけてもらいます。

ルカ 13 : 1 - 14 : 6 の要約として、救い主は、実がならなければ切り倒されてしまういちじくの木のとえを語られ、それは、わたしたちが悔い改めなければ滅びると教えられていることを説明します。主は安息日に、ある女を癒やされて、神の王国とそこに入ることを許される人々について教えられました。また、エルサレムに迫っている滅亡について悲しまれました。ルカ 14 : 1 - 6 では、救い主が安息日にパリサイ派の頭の一人の家に食事に招かれたことについて読み取りました。食事の前、救い主は水腫（体中が体液でむくんでしまう病気）を患う人を癒やされました。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組の一方の生徒に、ルカ 13 : 15 - 16 を黙読してもらい、もう一方にはルカ 14 : 5 - 6 を黙読してもらいます。生徒たちに、人々を癒やして安息日を破っていると救い主を責めたパリサイ人に対する、主の返答を見つけてもらいます。自分のパートナーに、見つけたことを伝えてもらいます。

時間を十分に取ってから、クラス全員に次の質問をします。

- パリサイ人たちが安息日に、自分の家畜のためにすることについて、どのような言葉が使われているでしょうか。（家畜小屋から解いてやる、落ち込んだ井戸から引き上げてやる。）
- 安息日を尊重し聖く保つことについて、救い主の模範からどのようなことを学ぶことができますか。（助けが必要な人々に仕えることは、安息日にふさわしい。救い主の義の模範は、安息日に人は助けなくても家畜を助けることを正当化していた一部のパリサイ人とは対照的です。）

ルカ 14 : 7 - 11 の要約として、水腫をわずらっていた男を癒やされた後、救い主は、主人に最も近い上座につこうとしている招待客たちをとがめられたことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 14 : 12 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主を食事に招待したパリサイ人にどのようなことを教えられたかを見つけてもらいます。

- そのパリサイ人に救い主はどのような勧告をされましたか。
- 人々が友人と金持ちの隣人を招待する理由には、どのようなものがあるでしょうか。

救い主の時代では、体の不自由な人、足の悪い人、目の見えない人は自給することが難しく、その結果貧しい生活だったことを説明します。パリサイ人の中には、このような人々を見下す人もいました（ルカ 16：14 - 31 参照）。

- 今日、人が他の人を見下す理由にはどのようなことがありますか。
- 自分よりも恵まれない人々を助ける努力をすることについて、ルカ 14：14 からどのような原則が分かりますか。（次にあげるのは、生徒が見つけたと思われる一つの原則です。自分よりも恵まれない人々を助ける努力をするならば、復活のときに主が報いてくださる。）

恵まれない人々を助ける努力をするときに、復活のときに主がわたしたちに報いてくださることに加え、この世でもわたしたちを祝福してくださることを指摘します。

- 自分よりも恵まれない人々を助けるには、どのような方法があるでしょうか。
- あなた自身かあなたの知人が、自分よりも恵まれない人々を助ける努力をしたことで祝福されたのは、どのようなときでしたか。

生徒たちに、自分よりも恵まれない人々を助ける方法について深く考えてもらいます。クラスノートや聖典学習帳に、自分よりも恵まれない人々に奉仕するための目標を書いてもらいます。

ルカ 14：15 - 35

イエス、晩餐会のたとえを話され、弟子の払う犠牲について教えられる

生徒たちに、イエス・キリストの弟子として、犠牲にしたり捨て去ったりするよう求められる事柄の幾つかを、ホワイトボードに書いてもらいます。

- これらの犠牲を払うことを避けるためにしがちな言い訳にはどのようなものがありますか。
- イエス・キリストが弟子たちに求められることを教えている原則を、ルカ 14 章を研究しながら見つけてもらいます。

救い主が、恵まれない人々を食事に招待するようにとパリサイ人に勧告した後、部屋にいた誰かが「神の国で食事をする人は、さいわいです」（ルカ 14：15）と救い主に言ったことを説明します。この言葉に答えられて、救い主は晩餐会のたとえを話されました。

生徒たちに、レッスンの初めに組んだパートナーと一緒に、ルカ 14：16 - 24 を声に出して読んでもらいます。組になっているうちの一方の生徒に、たとえの中の人々が受けた招待について調べてもらいます。もう一方の生徒には、その招きを断った人々の言い訳を調べてもらいます。時間を十分に取ってから、クラス全員に次の質問をします。

- イエス・キリストの福音は、どのような点で晩餐会に似ていますか。（答えには次のようなものが含まれると予想されます。福音はわたしたちのために準備された贈り物である。それはわたしたちの心と必要を満たすことができる。わたしたちはそれにあずかるように招かれている。それにあずかることを受け入れることも拒むこともできる。）
- 晩餐会への招待を受け入れなかった人達は、どのような言い訳をしましたか。
- これらの言い訳は、これらの人々の優先順位についてどのようなことを明らかにしていますか。

24 節によると、主と主の福音よりも他のものを優先することの結果はどのようなものですか。（生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。主と主の福音よりも他のものを優先するならば、受けられるはずの祝福を失うことになる。）

ホワイトボードに書かれた、イエス・キリストの弟子として払うことが求められる犠牲に注目してもらいます。

- これらの犠牲を進んで払わないならば、どのような祝福を失う可能性がありますか。

このたとえをお教えた後、救い主は、御自身が弟子たちに求める事柄について群衆に語られたことを説明します。一人の生徒に、ルカ 14：25 - 27 を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳はルカ 14：25 - 27 をさらに明確にしていることを説明します。「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、あるいは夫、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るのではありません、言い換えれば、わたしのために命をささげるのを恐れる者は、わたしの弟子となることはできない。自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。だから、わたしがあなたがたに教え、命じたことを

聖文研究補助資料を使う

教会は多くの聖文研究補助資料を作成し、幾つかの言語で標準聖典に載せています。研究補助資料として脚注、項目別索引、写真、地図があります。これは、聖文を研究するときに利用できる、価値ある資料です。個人の聖文研究で、この研究補助資料を活用するよう生徒に勧めます。

行うよう、心を決めなさい。」他の生徒には、聞きながら、主が弟子たちに進んで何をするよう言われたかを見つけるように言います。

- 救い主は、弟子たちはどのようなことを進んで行わなければならないと言われたでしょうか。

救い主への献身と比べれば、家族や自分の命でさえも後回しにすることが弟子たちに求められているということを、救い主は説明されました（マタイ 10：37 も参照）。自分の十字架を負うとは、十字架の刑を指しており、わたしたちのために御自分の命をささげられたキリストのために、自分の命を進んでささげることを示しています。

- イエス・キリストの弟子であることについて、これらの聖句からどのような真理が分かるでしょうか。（生徒はさまざまな真理を見つけると思われますが、必ず次のような内容の真理を見つけるようにします。イエス・キリストの弟子は、進んで全てを犠牲にして主に従わなければならない。生徒たちに、この真理をルカ 14：25 - 27 の横の余白に書き込むように言うといいでしょう。）
- イエス・キリストの弟子は、自分の家族や自分の命を含め、他の全てのことよりも救い主を優先する必要があるのはなぜだと思いますか。

「心を決めなさい」（ジョセフ・スミス訳ルカ 14：28）という言葉を書きまします。

- 「心を決めなさい」という言葉は、どのようなことを意味していると思いますか。（ここで言う「決める」とは、決意する、つまり固く決心することを意味すると説明します。）
- 救い主はどのようなことを心に決めてほしいと思われているでしょうか。
- ジョセフ・スミス訳ルカ 14：28（「それであるから、わたしが教え命じたことを行うように、このことをよく心に決めなさい。」）から、どのような原則が分かるでしょうか。（生徒は次のような内容の原則を見つけるはずですが、イエス・キリストがお教えになり、命じられたことを行おうと心に決める時、わたしたちは主の弟子となる。）

七十人のラリー・W・ギボンズ長老の次の言葉をコピーして生徒たちに配ります。一人の生徒に、それを声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その原則に従って生活するために、どのようなことができるかを調べてもらいます。

「人生の優先事項を決める時期が来ています。そこで、覚えておいてほしいのは、人生で本当に安全な唯一の道は戒めに従った生活だということです。……



正直、慎み、純潔、知恵の言葉、神殿結婚に関して、自分が行う事柄と行わない事柄とを人生の早い時点ではっきりと決めることは何とすばらしいことでしょう。

兄弟姉妹の皆さん、まっすぐで狭い道を外れないでください。いいえ、まっすぐで狭い道の真ん中にとどまってください。押し流されないでください。

残念ながら大勢の人が別の場所で幸福を探していますが、幸福は戒めに従って生活するときに得られるものなのです。（「だから、心を決めなさい」『リアホナ』2006年11月号、103 - 104）

- 従おうと強く決意したのはどの戒めでしょうか。その戒めに従う決意をしたことで、どのような祝福を受けてきましたか。

「正直、謙遜、純潔、知恵の言葉、神殿結婚に関してこういうことをしよう、またはするまい」と心に決めるよう、生徒たちを励まします。（クラスノートや聖典学習帳に、自分の思いを記録するよう生徒たちに勧めるといいでしょう。）

弟子となることについてのこれらの原則を教えられた後で、救い主は二つのたとえを述べられたことを説明します。一人の生徒に、ルカ 14：28 - 30 を声に出して読んでもらい、別の生徒に、ルカ 14：31 - 33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それらの二つのたとえがどのようなことを示しているか考えてもらいます。

- それらの二つのたとえは、どのようなことを示していると思いますか。

二つのたとえは、物事を始める前に完遂できるかどうか判断するために、行いに伴う代価を計算する、あるいは判断することの重要性を示していると説明します。救い主は、最後まで主の弟子であり続けるために、何でも必要なことは進んで犠牲にするかどうかを、御自分に従う人々に深く考えてほしいと思われていました。

生徒たちに、ホワイトボードに書き並べた犠牲についてもう一度考えてもらいます。数人の生徒に、イエス・キリストの弟子として、なぜこれらの犠牲を進んで払うのかを説明してもらいます。

この章にある救い主の教えの簡単なまとめとして、33 節に印をつけてもらうとよいでしょう。今日話し合った真理について証します。

ルカ 15 章

はじめに

パリサイ人と律法学者は、救い主が取税人や罪人と親しくされていることをつぶやきました。救い主は、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえで、それに応じられました。

教えるための提案

ルカ 15 : 1 - 10

イエス、迷い出た羊となくした銀貨のたとえをお話しになる

自分にとって価値のあるものをなくしたことがあるか、生徒たちに尋ねることでレッスンを始めます。

- それを見つけるために、どのようなことをしようと思いましたか。それはなぜですか。
- 霊的に「迷う」とはどのような意味だと思いますか。(イエス・キリストの回復された福音をまだ受けていない、あるいは現在福音の教えに従って生活していない人々も示すことを、生徒たちが理解するよう助けます。)

クラス全員に、霊的に迷っていると思われる知人のことを考えてもらいます。生徒たちに、その人についてどのように感じているかを深く考えてもらいます。

ルカ 15 章は、それらの霊的に迷っている人々についての救い主の教えが含まれていることを説明します。霊的に迷っている人々とそれらの人々に対してわたしたちが負っている責任について、天の御父がどのように感じておられるか、ルカ 15 章にある真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ルカ 15 : 1 - 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスのもとに近づいたのはどのような人々か、またパリサイ人と律法学者たちがどのようなことについて不平を言ったかを見つけてもらいます。

- どのような人が救い主のもとに近づいたのですか。パリサイ人と律法学者たちは、なぜつぶやいたのでしょうか。
- この不平は、パリサイ人と律法学者たちについてどのようなことを明らかにしているのでしょうか。

救い主は、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子という、3つのたとえによって、その質問に答えられたことを説明します。これらのたとえは、罪人に希望を与えるとともに、律法学者とパリサイ人たちの偽善と独善を非難するためのものでした。それぞれのたとえの対象がなぜどこかへ行ってしまったのか、またどのようにして探し出されたかに注目してもらいます。

次の表をホワイトボードに書くか、配付資料をコピーして生徒たちに配ります。生徒たちに二人一組になってもらい、それぞれの組の一方にルカ 15 : 3 - 7 を、もう一方にはルカ 15 : 8 - 10 を研究するよう割り当てます。生徒たちに、割り当てられたたとえを読んで、左の欄の質問に対する答えを見つけてもらいます。(3つ目のたとえはレッスンの後半で扱います。)

迷い出た羊, なくした銀貨, 放蕩息子のたとえ

	ルカ 15:3-7	ルカ 15:8-10	ルカ 15:11-32
何がなくなりましたか。			
なぜなくなったのですか。			
どのようにして見つかりましたか。			
見つかったものへの反応は、どの言葉や表現が表しているでしょうか。			

十分に時間を取った後、割り当てられたたとえの説明と、表の中に書かれている質問に対する答えを発表してもらいます。それぞれのグループの生徒たちが二人とも終わったら、ホワイトボードのところまで数人に来てもらい、表に答えを書き込んでもらうか、(ホワイトボードに表を書いてない場合は) 答えを発表してもらいます。

- 羊と銀貨がなくなった経緯の違いは何でしょうか。(羊がいなくなったのはそれ自身に責任はありませんが、銀貨は持ち主の怠慢や不注意からなくなりました [デビッド・O・マッケイ, *Conference Report*, 1945 年 4 月号, 120 - 122 参照]。)
- 7 節と 10 節によると、見つかった銀貨と羊はどのようなことを表しているでしょうか。(それらは悔い改めて神に救いを求める罪人を表しています。)
- なくなった理由に関わらず、なくなったものに対して、わたしたちにはどのような責任があるでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 人々が悔い改めたいという望みを感じるように助けるとき、_____

- 失ったものを見つけたこれらの人達の反応に基づいて、ホワイトボードに書かれた文をどのように完成させますか。(生徒は次のような内容の原則を見つけるはずで、人々が悔い改めたいという望みを感じるように助けるとき、わたしたちは喜びを感じ天も喜ぶ。ホワイトボードに書かれた原則を完成させます。生徒たちの聖典の、ルカ 15:1-10 の横に、この原則を書くように勧めてもよいでしょう。)
- あなたやあなたの知人は、霊的に迷っていて、悔い改めて天の御父に近づきたいと感じている人をどのように助けましたか。誰かがあなたを助けてくれたのはどのようなときでしたか。(あまり個人的なまた私的な経験を話すべきでないことを、生徒に思い出してもらいます。)

ルカ 15:11-32

イエス、放蕩息子のたとえをお教えになる

クラス全員に次の状況について考えてもらいます。ある若い女性は、重大な罪を犯し、祈ることも教会に来ることもやめてしまいました。彼女はまたお祈りをして主の標準に従った生活を始めたいと感じていますが、主は自分が戻ることを望んでおられないのではないかと案じています。


この話の中の人のように感じている人を知っているかどうか、思い起こしてもらいます。ルカ 15 章の 3 つ目のたとえは放蕩(したい放題の生活をして、家の財産などを使い尽くすこと)息子、彼の兄、彼らの父親の話であることを説明します。希望を失うほど迷ってしまったと感じている人々の助けとなるこのたとえを研究しながら、生徒たちに真理を見つけてもらいます。

小グループでの 割り当て

小グループでの割り当ての最中に、生徒は、活動の目的から気をそらしたり、個人的なことを話したり、学ぶ努力をなおざりにすることがあります。生徒が活動を続けて、割り当てから最良のものを得る助けができるように、各グループを回り、学習活動を見ながら積極的に関わりを持ってください。

生徒たちを三人一組のグループに分けます。それぞれのグループに次の配付資料のコピーを配ります。グループ内で、ルカ 15:11 - 32 を声に出して読んでもらいます。一人目の生徒に放蕩息子の観点から、二人目の生徒には父親の観点から、三人目の生徒には兄の観点から、このたとえについて考えてもらいます。

生徒たちが読み終わったら、配付資料の質問についてグループで話し合ってもらいます。

 たとえを読んで話し合う代わりに「聖書ビデオ — イエス・キリストの生涯」から「放蕩息子」(5分35秒)のビデオを見せてもよいでしょう。次の配付資料をそれぞれの生徒に配り、ビデオを見ながら質問に対する答えを見つけてもらいます。このビデオは *LDS.org* で視聴可能です。

放蕩息子のたとえ

放蕩息子

- 自分自身を取り戻す、または自分のひどい状況に気づく助けとなったのは、どのようなことでしたか。
- あなたが家に戻ったときに、父親がどのような態度を見せると思いましたか。
- あなたの父親がこの父親のよう振る舞ったとしたら、あなたはどのように考え感じるでしょうか。

放蕩息子の父親

- 下の息子がいなくなっている間、どのようなことを考え感じていましたか。
- あなたが放蕩息子をこのように喜んで家に迎え入れたのはなぜですか。
- 弟に対するあなたの歓待ぶりに長男が腹を立てたとき、自分の行為を理解してもらうためにあなたは何をしましたか。

放蕩息子の兄

- 弟がいなくなっている間、あなたはどのように考え感じていましたか。
- 弟が家に戻ったことを喜ばなかったのはなぜですか。
- 父親に忠実であったことによって、どのような祝福を受けてきましたか。

ホワイトボードか最初の配付資料の3つ目の欄(ルカ 15:11 - 32)をどのように完成させるか、生徒たちに尋ねます。生徒たちの答えをホワイトボードか、配付資料に書いてもらいます。

- 放蕩息子はなぜいなくなったのでしょうか。(羊と銀貨とは対照的に、放蕩息子は自分自身の反抗心からいなくなりました。)
- このたとえの父親が天の御父を表していることを理解すると、悔い改めて御自分のもとへ戻って来る人々を、天の御父はどのように迎え入れるかについて、何を学ぶことができますか。(生徒は次のような内容の原則を見つけるはずですが、わたしたちが悔い改め、赦しを求めて天の御父のもとに戻るとき、御父は両手を広げてわたしたちを喜び迎えてくださる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)
- この原則は、どのように霊的に迷っている人々の助けになりますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。

「息子を案ずる誠実な父親が息子に走り寄り、接吻するこの心温まる描写は、あらゆる聖文の中で最も感動的で哀れみ深い情景の一つです。道からそれていようといまいと、神は全ての子どもがその御手の守りの中に戻ることをどれほど望まれているか伝えていきます。」(「もう一人の放蕩息子」『リアホナ』2002年7月号, 69)

たとえの放蕩息子の兄を思い出してもらいます。

- 兄はなぜ腹を立てたのだと思いますか。

一人の生徒に、ホランド長老の次の話を読んでもらいます。残りの生徒には、なぜ兄が腹を立てたのかについて耳を傾けるように言います。



「この兄が腹立たしく思っていたのは、弟が帰って来たことよりも、むしろ両親が弟の帰宅を喜んでいることに対してでした。自分は評価されていないと感じ、おそらく自己憐憫以上の感情を抱いた忠実な息子は—彼はこの上なく忠実でした—自分が一度も墮落や絶望、恐れ、自己嫌悪といった気持ちを経験する必要がなかったという事実を一瞬忘れていました。また、すでに牧場の子牛も、クロゼットの着物も、引き出しの中の指輪も全て自分のものであるという事実も一瞬忘れていました。そして忠実であったためにこれまでも報われてきて、今後も報われるという事実も、一瞬忘れていました。……

……兄はまだ、哀れみ、慈悲、そして競争相手が帰って来たわけではないととらえるほどの寛大な視野と度量の広さを備えていませんでした。帰って来たのは自分の弟です。……

確かに、この弟は囚われの身でした。罪と愚かさ、豚小屋に縛られていました。しかし兄もまた、幾分捕らわれていました。兄はこの時点では、まだ自分自身の獄から抜け出せていません。まだ嫉妬という緑色の目をした怪物に捕えられています。」(「もう一人の放蕩息子」70)

- ホランド長老によれば、兄はなぜ腹立たしかったのでしょうか。
- 悔い改めてみもとに戻る人を、神が憐れみ、祝福してくださるときに、わたしたちはどのようなことを思い起こす必要がありますか。
- 天の御父のようになることについて、このたとえからどのような原則を学べるでしょうか。(生徒は次のような内容の原則を見つけるはずです。人々が悔い改めたときに、哀れみと喜びで応じるならば、さらに天の御父のようになれる。)

ルカ 15 章のたとえから、生徒たちが学んだ原則を復習します。生徒たちに、イエスが罪人たちと食事をしたときにつぶやいた、パリサイ人や律法学者たちへの応答に、これらの原則をどのように用いればよいかを説明してもらいます。

レッスンの最初に霊的に迷っていると思った人について思い出してもらいます。その人が悔い改めて天の御父に近づくために、どのように助けられるか、祈りを込めて考えるよう励まします。クラスノートか聖典学習帳に、次の質問への答えを書いてもらいます。

- 今日学んだことを応用する方法には、どのようなものがありますか。

ルカ 16 章

はじめに

イエスは不正な家令のたとえを教えられました。パリサイ人は、イエスの教えを聞いてイエスをあざ笑いました。そこでイ

エスはパリサイ人を叱責し、金持ちとラザロのたとえを教えられました。

教えるための提案

ルカ 16：1－12

イエス、不正な家令のたとえを教えられる

できれば、お金、電子機器、資格証書、おもちゃの車、家の写真など、この世の富と権力を表すものをクラスに持参するとよいでしょう。

次の質問をしてレッスンを始めます。

- 人々が熱望し、手に入れようとするものには、どのようなものがあるでしょうか。（クラスにそのような物を持参した場合は、生徒たちがそれらを挙げるごとに陳列します。あるいは、一人の生徒に、クラスの生徒たちの答えをホワイトボードに書き並べてもらいます。）
- 天の御父がわたしたちに求めてほしいと思われている富とは、どのようなものでしょうか。（一人の生徒に、生徒たちの答えを書き並べてもらいます。その中には、永遠の家族、平和、喜び、日の光栄などが含まれるかもしれません。それらの答えの上に、「永遠の富」という表題を書くよう、その生徒に指示します。）

わたしたちは、この人生で、これらの永遠の富の幾つかを享受することができることを指摘します。生徒たちに、どの永遠の富が自分にとって特に重要かを深く考えてもらいます。生徒たちがルカ 16 章を研究しながら、永遠の富を得る助けとなることを見つけてもらいます。

迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえを教えられた後で、救い主は不正な家令のたとえを教えられました。家令とは、他の人の事業、金銭、財産に関する諸事を管理する人であることを説明するとよいでしょう。

一人の生徒に、ルカ 16：1－2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、たとえの中の金持ちが、家令から学んだことを見つけてもらいます。

- その家令は、金持ちの財産をどうしましたか。
- その家令の浪費の当然の結末として、どのようなことが起こったのでしょうか。（職を失う。）

ルカ 16：3－7 の要約として、家令は、力仕事もできそうになく、物乞いは恥ずかしいと思いい、職を失ったらどうすればよいか心配したことを説明します。その家令は、他の家で職を得る機会にありつけるように、計画を練りました。その金持ちに負債のある二人を訪ね、負債額を破格に割り引いて、彼らに気に入られることを期待しました。

一人の生徒に、ルカ 16：8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、家令の行為を知った金持ちがどのように反応したかを見つけてもらいます。「この世の子」が世俗的な人々で、「光の子」が神に従う人々、つまり霊的な人々であることを説明します。

- 家令の行為を知った金持ちはどのように反応したのでしょうか。金持ちは、何を褒めましたか。（金持ちは、自分に負債のある人々に気に入られようとした家令の利口さを褒めました。金持ちは彼の不正直さを褒めたものではありません。）

十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老の次の言葉をコピーして配ります。一人の生徒に、その言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、不正な家令のたとえを通して、救い主はどのようなことを教えられたかを見つけてもらいます。



「主の目的は、この世の金作りに精を出している人々の注意、用心深さあるいは熱意と、霊的な富を得るために努力していると公言している人々の気合いの入っていないやり方とを対比して見せることであった。……

不正直な者や邪悪な者からも教訓を得なさい。これらの人々が、限られた未来のためだけにそれほど慎重に備えをするならば、永遠の未来を信じているあなたがたは、なおさら慎重に未来のために備えるべきではないか。……不正な家令や富を愛する者を見習いなさい。といっても、これらの人々の不正直やむさぼりや、ただかこの世だけでしか持っていられない富をけちけちと蓄積することではなく、彼らの仕事に対する熱情と先見と将来に対する備えを見習うのである。」(『キリスト・イエス』第3版、453 - 454)

- 救い主は、不正な家令のようにこの世的な心を持った人々から、どのようなことを弟子たちに学んでほしいと思われたのでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—わたしたちが永遠の未来に賢く備えるならば、_____

一人の生徒に、ルカ 16 : 10 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、永遠の富で祝福されるには、どのようなことをしなければならぬと、救い主が言われているかを見つけてもらいます。ここで言う「富」とは、お金、財産、人脈を含む、世の富を指していることを説明します。

- 「小事に忠実」(10 節)とは、どのような意味だと思いますか。(生徒に答えてもらった後、ホワイトボードの文章に次のことを書き加えます—またこの世の富を義にかなった方法で用いるならば、_____)

ホワイトボードに書いてある永遠の富に、生徒たちの注意を促します。

- どのようなことが、これらの「真の富」(11 節)となるのでしょうか。

生徒たちに、ホワイトボードの言葉を完成させて、永遠の富を得るための原則を作ってもらいます。(生徒は次の原則を見つけられるはずですが、わたしたちが永遠の未来に賢く備えるならば、またこの世の富を義にかなった方法で用いるならば、永遠の富で祝福される。)

- 永遠の未来に賢く熱心に備えることは、なぜ時として難しいのでしょうか。
- わたしたちは、どのように義をもって永遠の富を用いればよいのでしょうか。
- この世の富を義にかなった方法で使うことは、永遠の富を任されるふさわしさにどのように反映するのでしょうか。

ルカ 16 : 13 - 31

イエス、パリサイ人を叱責し、金持ちとラザロのたとえをお教えになる

ホワイトボードに書かれたリストに(あるいは、あなたが持ってきたこの世の富を表す物に)生徒たちの注目を促し、この世の富に貪欲であることは、永遠の富を得ることをどのように妨げるかについて深く考えてもらいます。ルカ 16 : 13 - 26 を研究しながら、この質問の答えを見つけるよう生徒に伝えます。

ルカ 16 : 13 - 14 の要約として、救い主は「神と富とに兼ね仕えることはできない」と教えられたことを説明します(13 節)。パリサイ人は救い主の教えを聞いて、救い主を「あざ笑い」(14 節)しました。ルカ 16 : 14 で、パリサイ人を表す言葉を見つけ、彼らが救い主の教えをあざ笑った理由の一つを説明してもらいます。

- パリサイ人について学んだことによると、彼らはどのようなものを貪欲に望んでいたのでしょうか。(この世の富と権力 [マタイ 23 : 2 - 6, 14 参照]。)
- パリサイ人たちの欲深さが救い主をあざ笑う原因となったのは、なぜだと思いますか。

生徒の答えに肯定的な態度で感謝を述べる

生徒の答えにお礼やコメントするなど、必ず何らかの方法で肯定的な態度で感謝を述べてください。そうすることで、生徒たちは聞いてもらい認められていると感じ、自分の答え、考え、経験を気持ちよく分かち合えるようになっていきます。

『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」にある、ジョセフ・スミス訳ルカ 16:16 - 23 は、パリサイ人たちと救い主とのやりとりをさらに深く考えさせてくれることを説明します。一人の生徒に、このジョセフ・スミス訳についての次の概要を声に出して読んでもらいます。

パリサイ人たちは、モーセの律法とその他の預言者の聖文(旧約聖書)が彼らの律法として与えられていると言って、自分たちを裁く者としてのイエスを拒みました。イエスは、モーセの律法と預言者たちは御自分を証していることを述べられました。イエスは、書かれていることを否定することについてパリサイ人を問いただし、「正しい道を曲げる」彼らを叱責されました(ジョセフ・スミス訳ルカ 16:21 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)』])。この世の富と力に執着しているパリサイ人たちの行いとその行く末を理解する助けとなるように、救い主は、ルカ 16:19 - 31 に記録された金持ちにたとえられました。

3人の有志を募り、朗読劇に協力してくれるよう頼みます。1人目に救い主の言葉(ルカ 16:19 - 23)、2人目には金持ちの言葉(ルカ 16:24, 27, 28, 30)、3人目には、アブラハムの言葉(ルカ 16:25, 26, 29, 31)を読んでもらいます。それらの生徒たちに、ルカ 16:19 - 26 のそれぞれの役を声に出して読むように言います。他の生徒には、聞きながら、ラザロという貧しい男と金持ちがどのような経験をしたかを調べてもらいます。

- 金持ちとラザロのこの世での生活は、どのように違っていたのでしょうか。
- 彼らの来世での生活はどのように違っていたのでしょうか。(「アブラハムのふところ」[22節]は霊界のパラダイス、「黄泉」[23節]は霊の獄を示していることを説明する必要があるかもしれませんが[英語の聖書 *Bible Dictionary*, “Abraham’s Bosom,” “Hell” の項, 『聖句ガイド』「パラダイス」「地獄」参照]。)
- どのような点で、金持ちはこの世の富を、義にかなって使うことができませんでしたか。

生徒たちに、このたとえの金持ちは、欲深いパリサイ人たちを表していることを思い起こしてもらいます。

- わたしたちが欲深く、この世の富を、義にかなって使わないならば、わたしたちはどうなるかについて、このたとえからどのようなことを学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。貪欲で、この世の富を義にかなった方法で用いなければ、ついには苦しみと後悔にさいなまれる[教義と聖約 104:18 も参照]。)

生徒たちが、このたとえから他の真理を見つけられるように、救い主の教えに忠実ではない生活をしていて心配な人のことを考えてもらいます。

- その人に悔い改めて生活を変えるよう説得するには、どうしたらよいと思いますか。

役を割り当てた生徒たちに、ルカ 16:27 - 31 の自分の役を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、金持ちの願いを見つけてもらいます。

- その金持ちは、自分の5人の兄弟のためにどのようなことをしてもらいたかったのでしょうか。それはなぜですか。
- 金持ちは、ラザロが自分の兄弟たちに現われたなら、どうなると考えたのでしょうか。

ラザロが自分の兄弟たちに現われたなら、彼らは悔い改めて真理に心を向けると考えたことを説明します。改心とは、「信念や心や生活を変えて神の御心を受け入れ、御心に従って生活するようになること」です(『聖句ガイド』「改宗」, scriptures.lds.org)。

- そのたとえによると、アブラハムはなぜラザロを金持ちの兄弟たちのところへ遣わさなかったのでしょうか。

「モーセと預言者」(ルカ 16:29, 31)と言われることで、救い主は、パリサイ人たちは聖文を信じてそれに従って生活していると主張しながら、実際には拒んでいるという聖文に再び触れられたことを指摘します。ラザロという男が、後に救い主が彼をよみがえらせたときに(ヨハネ 11章)、「死人の中からよみがえってくる者」(31節)となったことを説明します。後に、イエスは、御自身が復活されたときに、死人の中からよみがえられた御方となりました。しかしそれらのどちらの例においても、パリサイ人たちと他の人々は救い主の神性の証を拒み、悔い改めを受け入れませんでした。

- たとえの中で、アブラハムが金持ちに教えたことから、改心の真理について学べることはどのようなことでしょうか。(生徒はさまざまな真理を見つけるかもしれませんが、次の真理を必ず見つけられるようにしてください。改心は預言者の言葉を信じてそれに従うことから生じるのであって、奇跡を目撃したり、天使を見ることによって生じるものではない。)
- 奇跡や天使を見るのではなく、預言者の言葉を心に留めて信じることから改心が生じるのはなぜだと思いますか。

- 人々が預言者の言葉を心に留めて信じるように、どのように助けることができるでしょうか。
- 特に預言者のどの教えが、あなたの改心に影響を与えましたか。

クラスノートや聖典学習帳に、生徒たちが預言者からの一つ一つの教えや勧告をさらに確信し心に留め、自分の改心を強める方法を書いてもらいます。生徒たちに、書いたことを応用するよう励まします。

ルカ 17 章

はじめに

イエスは弟子たちに、人を赦すことの必要性を教えられました。その後で、使徒たちは自分たちの信仰を増してくださるようイエスに願いました。それに応えて、救い主はふつつかな僕のとえを話されました。その後、イエスは重い皮膚病にか

かった10人の人々を癒やされましたが、感謝を告げるために戻って来たのは一人だけでした。パリサイ人の質問に応じられた救い主は、神の王国のおとずれについて教えを説かれました。

生徒が役割を果たすように助けることに焦点を当てる

各レッスンの準備をするとき、クラスで教える事柄だけでなく、教室内の生徒に焦点を当て続けなければなりません。「今日はクラスで何をしようか」あるいは「生徒に何を教えようか」と単に考えるだけでなく、「今日はクラスで、生徒は何をするだろうか」あるいは「生徒が知る必要のあることを見つけるように、どう助けられるだろうか。」と考えながらレッスンの準備を進めなければなりません。

教えるための提案

ルカ 17:1-10

使徒たち、自分たちの信仰を増してくださるようイエスにお願いする

信仰を働かせる必要のある具体的な状況について、生徒たちに考えてもらいます（神権の祝福を求める、什分の一を納める、教会でお話やレッスンをするなど）。数人の生徒たちに考えたことを発表してもらい、それらをホワイトボードに書きます。

以下の質問を黙読してよく考えるよう生徒に言います。

- さらに大きな信仰を求めたことがありますか。そうであれば、どのような経験があなたをそのように感じさせたのでしょうか。

生徒たちに、ルカ 17 章を研究しながら、自分自身の信仰を増す助けとなる原則を見つけてもらいます。

ルカ 17:1-2 の要約として、救い主は、人々が正しい道からそれたり罪を犯したりするよう誘惑する人々は、その責任を問われると警告されたことを説明します。

生徒たちに、ルカ 17:3-4 を黙読してもらい、救い主が弟子たちに与えられた、信仰を必要とする戒めを見つけてもらいます。

- 3 節によると、イエスは、誰かが弟子たちを不当に扱ったときに、どのように行動するよう彼らに戒められましたか。
- 4 節によると、弟子たちは何度赦すことになりますか。（救い主の答えは、その人が悔い改めたなら、何度不当に扱われようとも赦すべきであるという意味であることを説明するとよいでしょう。）
- 繰り返し自分を不当に扱ってきた人を赦すことが難しいのは、なぜでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 17:5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分を傷つけた人を赦すようにと救い主が弟子たちに教えられた後で、使徒たちは救い主にどのようなことを願ったかを見つけてもらいます。

- 使徒たちは救い主にどのようなことを願いましたか。（生徒たちの聖典の、「わたしたちの信仰を増してください」という言葉に、印をつけてもらうとよいでしょう。）
- 主へのさらに深い信仰を求めることは、使徒たちが人々を赦すようにという戒めを守るために、どのような助けとなるでしょうか。

ルカ 17:6 の要約として、救い主はその後、使徒たちに、からし種一粒ほどの信仰が奇跡を起こせることを教えられたと説明します。使徒たちが信仰を増す方法を知る助けとなるように、イエスは主人と僕の間係を表したたとえを話されました。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—わたしたちの信仰が強められるのは、

数人の生徒に、ルカ 17:7-10 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主人は僕にどのようなことを期待したかを見つけてもらいます。

- その主人は僕にどのようなことを期待しましたか。

聖書の時代には、主人が期待した務めを僕が忠実に果たしたとき、主人は僕の生活に必要な物全てを与えたことを説明します。そうすることで、主人は僕の果たした務めに対して特別な謝礼を与えたり借りがあると感じたりする必要はありませんでした。

- 天の御父は、このたとえの中の主人とどのように似ているでしょうか。天の御父は、わたしたちにどのようなことを期待しておられるでしょうか。（わたしたちが、「命じられたことを皆」行うこと〔10 節〕。）

次のように、その言葉をホワイトボードに書いてある文に付け加えます—わたしたちの信仰が強められるのは、天の御父が命じられたことを全て行うよう努力するとき、

生徒たちが、それ以外で自分たちの信仰を増し加えてくれるものを見つけられるように、次の質問をします。

- 10 節によると、主人の命令を守った後で、僕たちはどのように言うべきでしょうか。
- 「ふつつかな僕」とは、どのようなことを意味しているでしょうか。（どんなによく戒めを守ったとしても、わたしたちは常に神に対して負債を追っていることを意味しています。）
- 天の御父に従順に従い義になかった生活をしていたとしても、わたしたちは常に天の御父に負債があるのはなぜでしょうか。（天の御父は常にわたしたちを祝福してくださるので、わたしたちは決してそれを返済することができません〔モーサヤ 2：20 - 26 参照〕。）

次の原則が伝わるように、ホワイトボードに書いてある文を完成させます。わたしたちの信仰が強められるのは、天の御父が命じられたことを全て行うよう努力するとき、そして常に恩義を受けていることを覚えておくときである。生徒たちの聖文にこの原則を書いてもらうとよいでしょう。

- 天の御父が命じられたことを全て行うよう努力することは、わたしたちの信仰をどのように増し加えるでしょうか。

戒めを守り、自分の責任を従順に果たし、その結果信仰が増し加えられたと感じたときのことを、生徒に深く考えてもらいます。クラスノートや聖典学習帳に、自分の考えたことを書き出すように言います。

十分な時間をとってから、書き出したことを別の生徒と互いに分かち合ってもらいます。何人かの生徒に考えを発表してもらいましょう。

ルカ 17：11 - 19

イエス、10 人の重い皮膚病の人々を清められる

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—聖書の時代には、_____なので重い皮膚病を患うことは大きな苦しみでした。

この文章をどのように完成させるかをクラスで話してもらうことで、重い皮膚病についてどのようなことを知っているか、再確認してもらいます。例えば、生徒たちが、重い皮膚病は顔が醜く変形したり死に至ることもあること、周囲の人々をその病気から守るために社会から隔離されたこと、彼らに近づく人がいれば「汚れた者!」と叫んで警告する必要があることなどを言うことが予想されます（『聖句ガイド』『重い皮膚病』参照）。

一人の生徒に、ルカ 17：11 - 12 を声に出して読んでもらいます。エルサレムへ旅をしているときに、イエスはある村に入られて、どのような人々を励まされたかを見つけてもらいます。気づいたことを分かち合うよう彼らに勧めます。

- あなたがそれらの重い皮膚病にかかった人の一人だったなら、イエスを見たときにどのように感じるでしょうか。

一人の生徒に、ルカ 17：13 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、重い皮膚病の人々が救い主に言ったことと、救い主が彼らにどのように応じられたかを見つけてもらいます。

- その重い皮膚病の人々は、どのようなことをイエスに願いましたか。
- イエスは彼らにどのように教えられましたか。

モーセの律法は、重い皮膚病が治った後で、社会に復帰することを認めてもらうために、祭司に体を見せに行くよう定めていたことを説明します（レビ 14 章参照）。

- 重い皮膚病の人々が祭司のところに行くときに、どうなったでしょうか。
- 主の祝福を受けるためにわたしたちが行わなければならないことに関して、14 節からどのようなことを学べるでしょうか。（生徒たちは、次のような真理を見つけるでしょう。主の指示されたことを行うときに、わたしたちは主の祝福を受けることができる。）

生徒たちに、自分が清められた重い皮膚病の人々のうちの一人だったとしたら、どうだろうかと考えてもらいます。

- 重い皮膚病から清められたと分かったならすぐに、自分はどのようなことをすると思いますか。

数人の生徒たちに、ルカ 17:15 - 19 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、重い皮膚病から癒やされた人々のうちの一人の行動は、他の人々とどのように違っていたかを見つけてもらいます。

- 重い皮膚病から癒やされたサマリヤ人は、救い主への感謝をどのように示しましたか。
- 重い皮膚病から癒やされて感謝を表したのはサマリヤ人、すなわちほとんどのユダヤ人が見下していた者であったことを、ルカはなぜ述べたのでしょうか。この詳細によって、この話についての私たちの理解がどのように深まるのでしょうか。
- 重い皮膚病を癒やされて、主に感謝をささげに戻ってきた人から、どのような真理を学ぶことができるのでしょうか。（生徒たちは、次のような真理を見つけるはずです。わたしたちは、頂いた祝福に感謝を表すことが大切である。）
- 頂いた祝福を神に感謝することは、なぜ大切なのでしょうか。
- わたしたちが、時として重い皮膚病の 10 人の内の 9 人であるのは、どうしてでしょうか。

一人の生徒に、次のトーマス・S・モンソン大管長の話を読んでもらいます。

「兄弟姉妹、わたしたちは受けた祝福に感謝することを覚えているでしょうか。心からの感謝は、祝福に気づかせてくれるだけでなく、天の扉を開いて神の愛を感じられるように助けてくれるのです。」（「感謝という神の賜物」『リアホナ』2010年11月号、87）

- 19 節によると、この重い皮膚病から癒やされた人は、自分の行いのおかげでどのようなことがもたらされたと、救い主は言われたのでしょうか。（その人は救われた。）
- 受けた祝福に対して主に感謝をささげることは、どのような点でわたしたちが完全になる助けとなるのでしょうか。

聖典学習帳に、自分たちが天の御父に感謝している具体的な祝福について記録してもらいます。それらの祝福に対して、どのように感謝しながら生活しているかを書いてもらいます。

ルカ 17:20 - 37

イエス、来たるべき神の王国について教えられる

ルカ 17:20 - 37 の要約として、イエスは、御自分の再臨について教えられたことを説明します。（注 — 類似した教えが、マタイ 24 章とジョセフ・スミス・マタイのレッスン資料で採り上げられています。）

このレッスンの中で確認した真理についてのあなたの証を分かち合って、レッスンを終えるといでしょう。生徒たちに、これらの真理を自分の生活にあてはめるように勧めます。

マスター聖句の復習

この活動は、生徒がマスター聖句を暗記する助けとして活用することができます。

クラスを 4 人または 5 人一組のグループに分けます。各グループに 6 面のサイコロ 1 つと鉛筆 1 本を配ります。（サイコロがなければ、代わりに 1 から 6 までの数字が書かれた 6 枚の小さな紙を封筒か入れ物に入れます。）それぞれの生徒には、白紙も一枚必要です。グループごとに、テーブルを囲んで腰かけるか、円になって座ってもらいます。生徒たちに、自分が覚えたい聖句のページを開いてもらいます。この活動の目的は、グループの中で、その聖句を一番速く完全に書き出すことだと説明します。ただし、生徒たちはグループごとに配られた 1 本の鉛筆しか使えません。サイコロを振って、1 の目を出した人（あるいは 1 の数字が書かれた紙を引いた人）に鉛筆を使う資格があります。各グループで、一人ずつ順番に、サイコロを振ってもらいます（あるいは入れ物から 1 枚の紙を引き、またそれを戻してもらいます）。グループの誰かが 1 を出したら、その生徒は鉛筆を取って、聖句を声に出して言いながら紙に書き始めます。その間、グループの他の生徒たちは順番にサイコロを振ります。グループの別の生徒が 1 を出したら、その生徒は前に書き始めた生徒から鉛筆を受け取り、聖句を言いながら書きます。前に書いていた生徒は、サイコロを振るほうに加わります。鉛筆を使う資格を得ても、聖句の一部をすでに書いた場合は、聖句の残りを書く前に、既に書かれている聖句を読まなければなりません。（このように繰り返すことで、生徒たちがその

聖句を暗記する助けとなります。) この活動は、各グループの誰か一人が、そのマスター聖句を完全に書き終えた時点で終了します。

この活動の後で、クラスの生徒に聖句を皆で繰り返すように言います。

家庭学習クラスのレッスン

ルカ 10:38 – 17:37 (単元 11)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がルカ 10:38 – 17:37 (単元 11) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ルカ 10:38 – 12:59)

マルタに対する救い主の返答から、生徒たちは、現世の煩い事よりも霊的な事柄のために献身することを選ぶとき、わたしたちは永続的な祝福を授かることを学びました。またイエスは、わたしたちが熱心に祈り、必要なときに天の御父の祝福を求めるときに、御父は御自分の御心になつた時と方法で、わたしたちの祈りに応えてくださることも教えられました。その他に、生徒たちは次の真理も学びました。主はこの世の財産に執着しないよう戒めておられる。神の王国と義を実現するために努めるならば、神はわたしたちに必要なものを与えてくださり、神の王国にわたしたちの場所を備えてくださる。

第 2 日 (ルカ 13 – 15 章)

これらの章で、生徒たちは次の原則を学びました。自分よりも恵まれない人々を助ける努力をするならば、復活のときに主が報いてくださる。主と主の福音よりも他のことを優先するならば、受けられたであろう福音の祝福を失ってしまう。イエス・キリストの弟子たちは、主に従うために、進んであらゆる犠牲を払わなければならない。人々が悔い改めたいと望むように助けるとき、わたしたちは喜びを感じ、天も喜び。

第 3 日 (ルカ 16 章)

生徒たちは、不正な家令、金持ち、ラザロのたとえから、永遠の未来に賢く備え、この世の富を義のために用いるならば、永遠の富で祝福されることを学びました。また、生徒たちは次の原則についても学びました。わたしたちが貪欲で、この世の富を義のために用いないならば、ついには苦しみと後悔にさいなまれる。改心は預言者の言葉を信じ、耳を傾けることから生じるのであり、奇跡を見たり天使に会ったりすることから生じるのではない。

第 4 日 (ルカ 17 章)

ルカ 17 章で、使徒たちは自分たちの信仰を増してくださるようにイエスに願いました。生徒たちは、天の御父が命じられることを全て行うよう努め、わたしたちには常に天の御父に負債があることを覚えているときに、わたしたちの信仰は増していくことを学びました。また生徒たちは、主がわたしたちに教えられたことを行うときに、主の祝福を授かること、そして授かった祝福に感謝を示すことが大切であることも学びました。

はじめに

救い主は、御自分が取税人や罪人たちと過ごされていたときにパリサイ人たちがつぶやいたことに応えられて、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえを話されました。

教えるための提案

ルカ 15 章

イエス、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子のたとえを話される

自分にとって大切なものをなくしたことがあるか生徒たちに尋ねて、このレッスンを始めます。

- それを見つけるために、まずどのようなことをしましたか。それはなぜですか。
- 人が霊的に「迷っている」とはどのような意味だと思えますか。(それが、イエス・キリストの回復された福音を受けていない人々、また現在その福音の教えに従って生活していない人々も示していることを、生徒たちが理解できるように助けます。)

クラス全員に、霊的に迷っているのではないかと思われる知人のことを考えてもらいます。その人についてどのように感じているか深く考えてもらいます。

ルカ 15 章は、それらの霊的に迷っている人々についての救い主の教えが含まれていることを説明します。霊的に迷っている人々とそれらの人々に対してわたしたちが負っている責任について、天の御父がどのように感じておられるか、ルカ 15 章にある真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ルカ 15:1–2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パリサイ人と律法学者たちがどのようなことについて不平を言ったかを見つけてもらいます。

- パリサイ人と律法学者たちは、なぜ不平を言ったのでしょうか。
- この不平は、パリサイ人と律法学者たちについてどのようなことを明らかにしているのでしょうか。

救い主は、迷い出た羊、なくした銀貨、放蕩息子という、3 つのたとえによって、その質問に答えられたことを説明します。生徒たちに、たとえの中の人や物が、なぜなくなって、どのように見つかったのかに注意してもらいます。

迷い出た羊と失くした銀貨のたとえの中で、羊飼いと銀貨をなくした女がなくなったものが見つかるまで、どれほど熱心に探したかについて救い主が述べられていることを説明します。

一人の生徒に、ルカ 15：4－6、8－9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、羊飼いとその女が、それぞれ羊と銀貨を見つけたときにどのように感じたかを見つけてもらいます。


- ・羊と銀貨の行方が分からなくなった経緯の違いは何でしょうか。(羊は通常の生活の中で迷い出たのであって、それ自身に責任はありませんが、銀貨は持ち主の怠慢や不注意からなくなりました〔デビッド・O・マッケイ、*Conference Report*, 1945年4月号, 120－122 参照〕。)
- ・羊飼いとその女がどのように感じたかを表すために、どのような言葉が用いられていますか。

生徒たちに、ルカ 15：7、10 を黙読してもらい、羊飼いとその女の喜びを、救い主はどのようにたとえられたかを見つけてもらいます。(罪人一人でも悔い改めたときの天の喜び。)

ルカ 15 章の 3 つ目のたとえは放蕩(向こう見ずに浪費すること)息子、彼の兄、彼らの父親の話であることを説明します。

生徒たちを 3 人ずつのグループに分けるとよいでしょう。各グループに次の配付資料のコピーを配ります。グループごとに、ルカ 15：11－32 を声に出して読んでもらいます。一人目の生徒に放蕩息子の観点から、二人目の生徒には父親の観点から、三人目の生徒には兄の観点から、このたとえについて考えてもらいます。

生徒たちが読み終わったら、グループごとに配付資料にある質問について話し合ってもらいます。

 たとえを読んで話し合う代わりに、「聖書ビデオイエス・キリストの生涯」から「放蕩息子」(5分35秒)のビデオを見せてもよいでしょう。次の配付資料をそれぞれの生徒に配り、ビデオを見ながら質問に対する答えを見つけてもらいます。このビデオは LDS.org で視聴可能です。

放蕩息子のたとえ

放蕩息子

- ・自分を取り戻す、あるいは自分のひどい状況に気づく助けとなったのはどのようなことでしたか。
- ・あなたが家に戻ったときに、父親がどのような態度を見せると思いましたか。
- ・あなたの父親がこの父親のように振舞ったとしたら、あなたはどのように考え、感じるでしょうか。

放蕩息子の父親

- ・下の息子がいなくなっている間、どのように考え感じていましたか。
- ・あなたが放蕩息子を喜んで家に迎え入れたのはなぜですか。
- ・弟に対するあなたの歓待ぶりに長男が腹を立てたとき、自分の行為を理解してもらうためにどのようにしましたか。

放蕩息子の兄

- ・弟がいなくなっていた間、あなたはどのようなことを考え感じていましたか。

- ・弟が戻ったことを喜べなかったのはなぜですか。
- ・父親に忠実であったことによって、どのような祝福を受けてきましたか。

- ・放蕩息子はなぜいなくなったのですか。(羊や銀貨とは対照的に、放蕩息子は自分自身の反抗心からいなくなりました。)

- ・このたとえの父親が天の御父を表していることを理解すると、悔い改めて御自分のもとへ戻って来る人々を、天の御父はどのように迎えられるかについて、何を学ぶことができますか。(生徒は次のような内容の原則を見つけます。わたしたちが悔い改め、赦しを求めて天の御父のもとに戻るとき、御父は両手を広げてわたしたちを喜び迎えてください。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

- ・この原則は、霊的に迷っていると感じている人々をどのように助けることができるでしょうか。

たとえの放蕩息子の兄を思い出してもらいます。

- ・兄はなぜ腹を立てたのだと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の話を読んでもらいます。残りの生徒には、なぜ兄が腹を立てたのかについて耳を傾けるように言います。



「恐らく自己憐憫以上の感情を抱いた忠実な息子は—彼はこの上なく忠実でした—自分が一度も墮落や絶望、おそれ、自己嫌悪といった気持ちを経験する必要がなかったという事実を一瞬忘れていました。また、すでに牧場の子牛も、クロゼットの着物も、引き出しの中の指輪も全て自分のものであるという事実も一瞬忘れていました。そして忠実であったためにこれまでも報われてきて、今後も報われるという事実も一瞬忘れていました。……

いいえ、実際全てを所有していて、それらを勤勉さという素晴らしい手段によって手に入れた彼には、欠けているところがありました。それさえ欠けていなければ、あと一步で主の前に完全な人になれるかもしれません。兄はまだ、憐れみ、慈悲、そして競争相手が帰って来たわけではないととらえるほどの寛大な視野と度量の広さを備えていませんでした。帰って来たのは自分の弟です。……

確かに、この弟は囚われの身でした。罪と愚かさ、豚小屋に縛られていました。しかし兄もまた、幾分捕らわれていました。兄はこの時点では、まだ自分自身の獄から抜け出せていません。まだ嫉妬という緑色の目をした怪物に捕えられています。自分は父親におろそかにされていて、弟に特権を奪われたと感じていますが、どちらの間違っています。」「(もう一人の放蕩息子)『リアホナ』2002年7月号, 70)

- ・ホランド長老によると、兄はなぜ腹を立てたのでしょうか。どのような点で兄もまた迷っていましたか。

- ・悔い改めてみもとに戻る人を、神が憐れみ、祝福してくださるときに、わたしたちはどのようなことを思い起こす必要がありますか。

- ・天の御父のようになることについて、このたとえからどのような原則を学べるでしょうか。(生徒は次のような内容の原則を見つけましょう。人々が悔い改めたときに、憐れみと喜びで応じるならば、さらに天の御父のようになる。)

レッスンの最初に霊的に迷っていると思った人について思い出してもらいます。どうしたらその人が悔い改めて天の御父に近づくことができるかを、祈りを込めて考えるよう励まします。どのようなときに、自分自身が迷い、悔い改めて救い主のもとに戻る必要があるかについても考えてもらいます。

次の単元（ルカ 18 章－ヨハネ 1 章）

生徒たちに、誰かが自分を不当に扱ったときのこと、またそのときどのように感じたかについて深く考えてもらいます。次の単元を学習するときに、御自身を不当に扱った人々に対して救い主がどのように対処することを選択されたかについて学ぶことを説明します。ルカの記録では、イエス・キリストのゲツセマネでの苦しみと、復活後にイエスが何を食されたかについて、さらに注目するよう伝えます。

第56課

ルカ 18 - 21 章

はじめに

イエス・キリストは、この世で最後となるエルサレムへの旅の間、人々の間で福音を教え、奇跡を行われました。エルサレム

に勝利の入城をされ、再び宮清めをなさり、そこにいる人々に教えられました。

教えるための提案

ルカ 18 - 21 章

救い主、エルサレムへの途上で教えられる

マタイとマルコの研究で、ルカ 18 - 21 章に記録されている出来事の多くをすでに学んだことを生徒たちに説明します。それらの出来事の二つを復習するために、次の絵を見せます。「キリストと金持ちの若い役人」(『福音の視覚資料集』48番; *LDS.org* も参照) および「勝利の入城」(『福音の視覚資料集』50番) 数人の生徒たちに、クラスを代表してそれらのお話をまとめ、その記述から学んで覚えていることを説明してもらいます。

それらのお話を生徒たちが思い出す助けとなるよう、ルカ 18 - 21 章の次の要約を用いるとよいでしょう。(注 — このレッスンの出来事が救い主の生涯のどの時点で起こったかを生徒たちが理解できるように、この手引きの付録にある図表「イエス・キリストの現世での務め早見表」を生徒たちに見せてもよいでしょう。)

イエス・キリストは、この世で最後となるエルサレムへの旅の間、幾つものたとえを教えられ、多くの人々を癒やされました。主は金持ちの若い役人に、持っている物全てを貧しい人々に与えて御自分について来るよう勧められました。イエスは盲人を癒やされました。エリコで、あざけりにもかかわらず、主は取税人の頭と食事を共にされました。

主はエルサレムに到着し、賞賛の叫びの中を、ろばの子に乗って町に入られました。主は神殿から両替商を再び追い払われ、そこにいた人々を教えられ、祭司長と律法学者たちの質問に答えられました。主は、やもめが神殿のさい銭箱にレプタ二つを入れたことを褒められました。また主は弟子たちに、御自分の再臨について教えられました。

このレッスンで生徒たちが研究する記述のほとんどは、ルカによる福音書特有のことであることを説明します。

生徒たちがこれらの記述を研究する備えとなるように、ホワイトボードに次の質問を書きます。

人が誠実に主のもとへ近づきたいと思っていることを示す行いは、どのようなものでしょうか。

人が主に赦されたい、または主の助けを求めたいと心から思っていることを示す態度は、どのようなものでしょうか。

次のルカの記録を研究するときに、これらの質問について生徒たちに考えてもらいます。

ホワイトボードに次の聖句の参照箇所を書きます。「ルカ 18 : 1 - 8 ; ルカ 18 : 9 - 14 ; ルカ 18 : 35 - 43 ; ルカ 19 : 1 - 10」これらの聖句には、救い主のこの世の生涯でエルサレムへの最後の旅における、たとえと出来事が記されていると説明します。



主イエス・キリストへの敬意を示す

イエス・キリストの威厳を重んじて、教会は絵画や動画での救い主の描写に配慮しています。レッスンにおいても、救い主への敬意を示さなければなりません。敬意を欠いた方法で救い主を描くことを避けます。救い主が話される場所では、聖文の記録通りに言葉だけを用います。

ホワイトボードにある参照聖句をそれぞれの生徒に一つずつ割り当てるか、クラスを4つのグループに分けて、それぞれのグループに参照聖句を一つずつ割り当てます。それぞれの生徒かグループに、割り当てられた参照聖句を読んでもらい、その中にある記述やたとえを動作で表す準備をしてもらいます。(グループに分けないときには、クラス全体でそれぞれの記述を演じてもらいましょう。それらの記録を演じてもらわないことにした場合は、割り当てた参照聖句を次の質問を使って生徒たちに研究してもらい、その後、学んだことをお互いに教え合ってもらいましょう。) クラスまたは各グループの中から一人がナレーターになって聖文の記述を読み、他の生徒たちがそれを演じることを説明します。救い主への敬意として、ルカ 18:35 - 43 とルカ 19:1 - 10 を演じる際には、誰もイエス・キリストを演じないように指示します。ナレーターにイエスの言葉を読んでもらい、演じる生徒たちにはその場面にイエスがいるかのように演じてもらいます。

全てのグループが準備できたなら、次の質問について一緒に話し合い、演じ終えてから答えをすぐに発表できるようにしてもらいます。(次の質問をホワイトボードに書くか、配付資料を配るとよいでしょう。)

- 中心人物(やもめ、取税人、盲人、ザアカイ)はどのようなことを望みましたか。
- 中心人物たちは、自分が誠実に願っていることを示すためにどのようにしましたか。
- 中心人物の信仰深い行為によってどうなりましたか。
- そのお話の中に、どのような原則や教義を見つけましたか。

十分な時間を取った後、それぞれのグループまたはクラス全員に、ナレーターの聖句朗読にあわせて割り当てられた記述を演じてもらいます。他の生徒には、演技を見たり、聖句を聞いたりしながら、主への信仰を働かせることについて、それぞれの記述がどのようなことを教えているかを考えてもらいます。それぞれの演技の後で、クラス全員かグループに、前述の質問に対する自分たちの答えを発表してもらいます。ホワイトボードに、見つけた原則や教義を書き並べてもらいます。

全てのグループが質問に対する答えを発表し終わったなら、次の質問をします。

- それぞれの中心人物の行いについて、どのような類似点に気がつきましたか。(自分の望んでいることがかなえられるよう求めるときに、粘り強さと誠実さを示しました。)
- 主への信仰を働かせることについて、それらの行為はどのようなことを教えていますか。
- それぞれの中心人物が自分の行いの結果として受けたことに、どのような類似点がありますか。(それぞれが救いや憐れみを受けました。)

生徒たちに、記述の類似点から一つの原則を見つけてもらいます。生徒はさまざまな原則を見つけるかもしれませんが、次のことを必ず強調してください。わたしたちが主への信仰を実践するときに誠実かつ根気強くあれば、主の憐れみを受けることができる。この原則をホワイトボードに書きます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を読んでもらいます。クラス全員に、人が主への信仰を働かせるとはどのようなことなのかをよく聞いてもらいます。

「本当の信仰は主イエス・キリストを中心とし、常に義にかなった行動へ導きます。」(「信仰をもって願い求めなさい」『リアホナ』2008年5月号, 95)

レッスンの最初にホワイトボードに書いた質問に注意を促します。生徒たちに、パートナーの方を向いて質問の答えについて話し合ってもらいます。

- 現代において神への信仰を働かせる方法には、どのようなものがあるでしょうか。

一人の生徒に、ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、主の奇跡を経験することはどのような意味があるのかをよく聞いてもらいます。

「主の憐れみはきわめて個人的です。それは主イエス・キリストから、主を通じて、一人一人の必要に応じた祝福、強さ、守り、確信、導き、愛と思いやり、慰め、支え、そして霊的な賜物として注がれます。」(「主の深い憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 99)

クラスノートか聖典学習帳に、次の質問への答えを書いてもらいます。(これらの質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう。)

- あなたやあなたの知人は、どのような方法でイエス・キリストへの信仰を働かせてきましたか。その結果として、あなたやその人たちはどのような憐れみを経験しましたか。
- 自分の生活の中で、どのようにして主の憐れみや助けを求めるかを考えてみます。主の憐れみを受けられるように、主への信仰をどのように働かせますか。

書いたことを分かち合うことに良い気持ちを感じる生徒たちがいれば、数人に分かち合ってもらいます。あまりにも個人的なことは避けることを思い出してもらいます。その原則についてのあなたの経験を分かち合い、またその真理について証を述べるとよいでしょう。

ルカ 22 章

はじめに

現世における教え導く業の終わりに近づくと、イエスは聖餐を定め、人々に奉仕するよう弟子たちに教え、兄弟たちを力づけるようペテロに命じられました。救い主の贖いの犠牲がゲツセマネの園で始まりました。救い主は捕えられ、カヤパの前で

審問されました。救い主が審問されている間、ペテロは救い主を知らないと言いました。

教えるための提案

ルカ 22：1－38

救い主、聖餐を定め、使徒たちを教えられる

生徒たちに、自分と家族の一人が床に座っていることを想像してもらいます（あるいは二人の生徒にこの動作を演じてもらいます）。その家族は立ち上がりたいと思って助けを求めます。

- あなたが床に座ったままだとしたら、どうしたらしっかりと助けてあげることができるでしょうか。
- 自分が先に立ち上がったなら、どのような違いが生じるでしょうか。

このたとえば、人を霊的に助けるためにはどのようにすればよいかを理解する助けとなります。

ルカ 22 章を研究しながら、人を霊的に高める助けとなる方法が分かるような真理を見つけるよう生徒に伝えます。

ルカ 22：1－30 の要約として、現世での務めが終わりに近づいたときに、救い主は過越を行うために使徒たちに会われたことを説明します。その間、救い主は弟子たちの一人が裏切ることを皆に伝え、聖餐の儀式を定め、御自分の記念として行い続けるよう命じ、人々に仕える者が全ての人々の中で最も偉大であることを使徒たちに教えられました。また救い主は、使徒たちが最後まで御自分と一緒にいたことを褒められ、いつか位に座してイスラエルの十二部族を裁くであろうと約束されました。

一人の生徒に、ルカ 22：31－32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がシモン・ペテロにどのようなことを話されたかを探してもらいます。一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ルカ 22：31「シモン、シモン、見よ、サタンは王国の子どもたちを麦のようにふるいにかけることができるように、あなたを欲している。」を声に出して読んでもらいます。

- 救い主はサタンがどのようなことを願ったと言われましたか。（サタンは、ペテロと聖徒たちを麦のようにふるいにかけることを願った。）

麦はふるいにかけて穀粒とその他の部分に分けられることを説明します。

- ペテロがすでに証を持っていたことはどのようなことから分かりますか。（必要であれば、生徒たちに、ペテロはイエスがキリストであり神の御子であられることを証したことを思い起こしてもらいます〔マタイ 16：13－17 参照〕。）
- 32 節によると、ペテロが兄弟たちを力づける前に、まだどのような経験をする必要があったでしょうか。
- 福音の証があることと福音に改心していることとはどのような違いがありますか。（福音の証を持っていることは、聖霊を通して霊的な真理の証を受けていることを意味する〔『聖句ガイド』「証」参照、scriptures.lds.org〕。福音に改心するとは、「神の御心を受け入れ御心に従うために自分の考え、心、生活を変える（使徒 3：19）」ことを意味します〔『聖句ガイド』「改宗」、scriptures.lds.org〕。）
- 救い主がペテロに語られたことによれば、福音に改心するときに、わたしたちにはどのようなことができるでしょうか。（生徒はさまざまな表現をすると思われますが、必ず次の真

理を見つけるようにします。イエス・キリストの福音に改心するとき、わたしたちは人々を力づけることができます。32 節の、この真理を教えている言葉に印をつけてもらおうとよいでしょう。)

一人の生徒に、ルカ 22：33 - 34 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやるようにという救い主の訓戒に、ペテロはどのように応えたかを見つけてもらいます。

- ペテロは救い主の訓戒に対してどのように応えましたか。
- 救い主はペテロがどのようにすると預言なさいましたか。

マタイ 26 章に、この話についてのさらに詳しい記録があることを説明します。一人の生徒に、マタイ 26：35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の預言を聞いた後でペテロが言ったことを見つけてもらいます。

- その預言を聞いた後で、ペテロはどのように応えましたか。
- ペテロが自分の証の強さをどう考えていたかについて、ペテロの応えはわたしたちに何を教えてくれますか。

ルカ 22：39 - 53

救い主はゲツセマネで苦しみを受け、血の汗を流し、ユダの裏切りに遭われる

過越の後で、救い主と使徒たちはゲツセマネに行ったことを説明します。数人の生徒に、ルカ 22：39 - 43 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がゲツセマネに着いてからどのようなことをされたか見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 43 節によると、救い主が天の御父の御心を行えるよう力づけたのは誰でしたか。
- この記述から、天の御父の御心を行おうと努めるときに、御父がしてくださることについてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな真理を見つけられると思われませんが、必ず次の真理を明確にします。わたしたちが進んで天の御父の御心に従うならば、御父は御心を行うための力を与えてくださる。)
- 天の御父がわたしたちを力づけてくださる方法にはどのようなものがあるでしょうか。

天の御父からわたしたちが助けを受けるときは、ほとんどの場合、天使が現われるのではなく、御父がわたしたちのために最善と思われる方法で与えられることを説明します。天の御父の御心を行おうと努めるときに、御父により力づけられたと感じたときのことを深く考えてもらいます。

ゲツセマネでの救い主の苦しみについてのルカの記録には、マタイやマルコの記録にはない重要な詳細が含まれていることを説明します。一人の生徒に、ルカ 22：44 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ゲツセマネでの救い主の苦しみについて、ルカがどのように述べているかを見つけてもらいます。

- ルカは救い主のゲツセマネでの苦しみをどのように述べていますか。(生徒たちに、44 節にある次の真理を教えている言葉に、印をつけてもらおうとよいでしょう。イエス・キリストがゲツセマネの園で苦しみを受けられたときに、血の汗がしたり落ちた。救い主の苦しみの様相については、1 世紀以上も前に預言されていたことを指摘するとよいでしょう [モーサヤ 3：7 参照]。)

救い主がどのようなことを経験されたのかを生徒たちがさらに理解する助けとなるように、教義と聖約 19 章の預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示で、御自身の苦しみを述べられたことを説明します。生徒たちの聖典で、教義と聖約 19：18 とルカ 22：44 を相互参照してもらおうとよいでしょう。一人の生徒に、教義と聖約 19：18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が御自身の苦しみをどのように述べられたかを見つけてもらいます。

- 18 節の救い主御自身の言葉から、救い主の苦しみについてさらにどのような詳細が分かるでしょうか。(イエス・キリストの苦しきは、「苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのもの」でした。)
- あなたのためにイエス・キリストがそれほど苦しまれたことを知って、どのような思いを抱きますか。

ルカ 22：45 - 48 の要約として、ゲツセマネで苦しみを受けられた後、救い主はイスカリオテのユダに裏切られることを説明します。

ゲツセマネでの イエス・キリストの 苦しみについての教え

ゲツセマネでの出来事には 3 つの記述があります。この手引きの中で、マタイ 26 章のレッスンは、御父の御心への救い主の従順に焦点をあてています。マルコ 14 章のレッスンは、ゲツセマネでイエスがどのような苦しみを受けられたかに的を絞っています。ルカ 22 章のレッスンは、救い主の苦しみの激しさに重点を置いています。贖罪についてのそれらの特有の観点を生徒たちに教えることで、それぞれの記録を研究するときに、生徒たちは別々の経験をするることができます。

一人の生徒に、ルカ 22：49 - 51 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、祭司長およびその他の人々が来てイエスを捕えたときに、ペテロがどのようにしたかを見つけてもらいます（ヨハネ 18：10 参照。ここだけが、ペテロが僕の耳を切り落とした使徒であることを記録しています）。

- ペテロは祭司の僕にどのようなことをしたでしょうか。
- その僕に救い主がなされたことについて、注目すべきことはどのようなことでしょうか。

ルカ 22：52 - 53 の要約として、救い主は、祭司長およびその他の人々が、御自分が神殿にいる昼間ではなく、夜中に捕えるのはなぜかと尋ねられたことを説明します。

ルカ 22：54 - 71

イエスは議会で審問を受け、ペテロはイエスを知らないと言う

ルカ 22：54 の要約として、救い主が祭司長の家に連れて行かれて審問を受けるときに、ペテロが後について行ったことを説明します。

生徒たちに二人一組になってもらいます。次の表のコピーをそれぞれの組に配ります（あるいはホワイトボードに書きます）。生徒たちに、表に示された聖句を読んでもらい、パートナーと一緒に表を完成してもらいます。

ルカ 22：54 - 60

	ペテロにどのようなことがありましたか。	ペテロはどのように言いましたか。
ルカ 22：55 - 57		
ルカ 22：58		
ルカ 22：59 - 60		

- ペテロがそれらの人々に、イエスを知らないと言う気になったのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、ルカ 22：61 - 62 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが救い主を知らないと言った後で、どのようなことがあったかを見つけてもらいます。

- ペテロが救い主を知らないと言った後で、どのようなことがありましたか。

可能であれば、カール・ヘンリック・ブロックが描いた絵「聖ペテロの否定」を見せます。この絵は LDS.org で入手することができます。

- あなたがペテロの立場ならば、救い主があなたを見たときに、どのように考え感じたでしょうか。それはなぜですか。
- ペテロの経験は、福音の証があることと福音に改心することの違いを、どのように表しているでしょうか。

ペテロは福音の証を持っていましたが、完全には改心していませんでした。しかし、ペテロは自分の弱さを認識し、完全に改心し、神に仕え福音を分かち合うために自分の生涯を捧げました。

- ペテロの経験からどのような教訓を学ぶことができますか。

ルカ 22：63 - 71 の要約として、救い主は祭司長たちにあざげられ打たれたことを説明します。

生徒たちのクラスノートか聖典学習帳に、イエス・キリストの福音に真に改心する助けとなる幾つかの事柄を書いてもらい、レッスンを終えます。この一週間に、書き出した事柄の一つを行うよう、生徒たちを励まします。



「聖ペテロの否定」カール・ハインリッヒ・ブロック画。デンマーク・ヒレレスの、フレズレクスボー城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載。複製は禁じられています。

第58課

ルカ 23 章

はじめに

救い主は、ポンテオ・ピラトとヘロデ・アンティパスの前で審問を受けられました。二人とも、救い主がユダヤ人たちが訴えているような罪を犯していないと判断しましたが、ピラトは救い主を引き渡し十字架につけさせました。イエスは、御自分を十字架につけたローマ兵たちを赦し、御自分とともに十字架に

つけられていた強盗に話しかけられました。イエスの死後、アリマタヤのヨセフが、イエスの体を墓に納めました。

教えるための提案

ルカ 23 : 1 – 25

救い主、ピラトとヘロデの前で審問を受けられる

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます。

あなたが誰かの言動によって傷つけられたと感じたのは、どのようなときでしたか。

そのような状況においてあなたはどうか対応しましたか。

レッスンの初めに、ホワイトボードの質問について生徒たちに考えてもらいます。

ルカ 23 章を研究しながら、周囲の人から傷つけられたと感じたときに、どうか対応したらよいかを知る助けとなるような真理を見つけてもらいます。

生徒たちに、イエスがゲツセマネで苦しみを受けられた後、祭司長たちに捕えられ、死刑を宣告されたことを思い起こしてもらいます。御自身の死に際して、イエスは次の人々と関わられたことを説明します。ポンテオ・ピラト、ヘロデ・アンティパス、信仰深い女たち、ローマの兵士たち、主の両側で十字架にはりつけられている二人の強盗たち。ポンテオ・ピラトは、エルサレムの首都を含むユダヤの地方のローマ総督であり、ヘロデ・アンティパス（バプテスマのヨハネを殺しました）は、ローマの権威のもとにガリラヤとペレアを治めていました（ルカ 3 : 1 参照）。

生徒たちを二人一組に分け、ルカ 23 : 1 – 11 を一緒に読みながら、ポンテオ・ピラトに対する救い主の返答とヘロデ・アンティパスに対する救い主の返答の違いを見つけてもらいます。ピラトに対する救い主の返答を理解する助けとなるように、ジョセフ・スミス訳マルコ 15 : 4 「あなたがたの言うとおりに、わたしがそれである」も読んでもらいます。）

生徒たちに、次の質問に対する答えを自分のパートナーと話し合ってもらいます。

- ピラトに対するイエスの返答は、ヘロデに対する返答とどのように違いますか。
- ピラトは、なぜ、自分に対する救い主の返答に驚いたのでしょうか。
- ヘロデは、救い主の沈黙になぜ落胆したのでしょうか。

ルカ 23 : 12 – 25 の要約として、ピラトもヘロデもイエスに何の罪も認められなかったのに、イエスに罰を与えて釈放すると群衆に告げたことを説明します。群衆は、バラバを赦してやり、その代わりにイエスを十字架につけるようにとピラトに向かって叫びました。ピラトはバラバを釈放し、イエスを諦めて十字架につけさせました。（注 — ピラトの前でのイエスについての記録は、ヨハネ 18 – 19 章のレッスンでさらに詳しく教えられることになっています。）

ルカ 23:26 - 56

イエス、二人の強盗の間で十字架につけられる

ルカ 23:26 - 31 の要約として、ガリラヤでイエスが御業を行われてからずっとともにいた信仰深い女たちの一団が、十字架刑の場所に連れて行かれるイエスの後に従いながら嘆き悲しんだことを説明します。イエスはその女たちに、御自分のために泣くのではなく、ユダヤ人が御自分を拒んだためにエルサレムに迫っている滅亡のために泣くがよいと告げられました。

一人の生徒に、ルカ 23:32 - 34 を声に出して読んでもらいます。その生徒に、『聖句ガイド』内の「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕にあるジョセフ・スミス訳ルカ 23:35 も読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、十字架にくぎ付けられながら、救い主がなされたことを見つけてもらいます。

- 十字架にくぎ付けられながら、救い主はどのようなことをなさいましたか。(34 節に記録されている救い主の言葉に印をつけるように、生徒たちに提案するとよいでしょう。)
- この瞬間の救い主の祈りが特筆すべきことなのは、なぜでしょうか。
- 誰かが自分を傷つけるときに、どのように対応すればよいかについて、救い主の模範からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を必ず見いだすようにします。自分たちを不当に扱った人々を赦すことで、イエス・キリストの模範に従うことができる。)
- 赦すとは、どのようなことを意味しているのでしょうか。

人を赦すとは、わたしたちに対して罪を犯す人が、自分の行動について責任を問われないという意味ではないことを説明します。また、人々が自分を不当に扱い続けるままにしておくという意味でもありません。むしろ、赦すということは、あなたを不当に扱った人に愛を持って対応し、その人達に対して怒りや憤りの気持ちを抱かないということの意味します(『聖句ガイド』「赦し」参照)。

自分が赦す必要のある人がいるかどうか、生徒たちに静かに考えてもらいます。他の人を赦すことは、時として難しいことがあることを伝えます。一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誰かを赦そうと努力しているならどうすることができるか、その答えを見つけてもらいます。

「赦す力を主に請い求めるように申し上げたいと思います。……主に赦しの力を請うのは容易でないかもしれませんが、その力がすぐに得られるとも限りません。しかし、もし真剣に求め、その望みを育んでいけば赦しの力は得られるでしょう。」(「汝らには赦すことを求めらる」『聖徒の道』1991年11月号, 5)

- ヒンクレー大管長は、わたしたちが誰かを赦そうと努力していたら、どのようなことを行うよう勧告していますか。
- 力を得るために祈ることは、どのように人を赦す助けとなりますか。

生徒たちに、誰かを赦したときのことを考えてもらいます。何人かの生徒に経験を分かち合ってもらいます。(その人の名前を出したり、あまり個人的なことは発表しないように伝えます。)

生徒たちがイエス・キリストの模範に従い、自分たちを不当に扱った人々を赦すように励まします。そのようにするための力や能力を求めて祈るように勧めます。

ルカ 23:35 - 38 の要約として、ユダヤ人の役人たちやローマ人の兵卒たちは、救い主が十字架につけられるときに、救い主を嘲弄したことを説明します。

「十字架へのはりつけ」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』57番。LDS.org も参照)。一人の生徒に、ルカ 23:39 - 43 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主の両側にはりつけにされていた二人の強盗が、それぞれどのように救い主を扱ったかを見つけてもらいます。

- 二人はそれぞれどのように救い主を扱いましたか。
- その強盗が「お互い〔いに〕自分のやった事のむくいを受けている」(41 節)と言ったのは、どのような意味でしょうか。
- その強盗が、神の王国で自分を思い出してくださるよう救い主に頼んだとき、主はどのように応えられたでしょうか。

わたしと一緒にパラダイスにいるであろうと救い主がその強盗に言われたとき、どのようなことを意味していたかを生徒たちがさらに理解できるように、一人の生徒に、次のお話を声に出して読んでもらいます。



「『パラダイス』という言葉は聖文の中で、さまざまなことを意味する言葉として使われています。まず第1に、上記にあるように、バプテスマを受けて終わりまで忠実だった人々のために用意されている、霊界での平安で幸福な場所を指します（アルマ 40：12；モロナイ 10：34 参照）。……

「パラダイス」という言葉のもう一つの用法は、救い主が十字架につけられたときのことを記した、ルカの記録の中にあります。預言者ジョセフ・スミスは、主は実際には盗人に、霊界で御自分とともにいるであろうと言われたのだと説明しています。」（『真理を守る－福音の参考資料』160。History of the Church, 第5巻, 424 - 425 も参照）

- 預言者ジョセフ・スミスによると、その強盗は死後どこに行っただけでしょうか。（霊界〔アルマ 40：11 - 14 参照〕）。
- ともにパラダイスにいるであろうと救い主がその強盗に言われた言葉から、どのような真理を学ぶことができるでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を必ず見つけられるようにしてください。全ての人の霊は、死ぬときに霊界に入る。）

その強盗と強盗のような他の人々に、霊界でどのようなことがあるのかをさらに理解する助けとなるように、別の聖文を説明します。ルカ 23：43 の横の余白に教義と聖約 138：28 - 32, 58 - 59 を相互参照聖句として書き込んでおくことを提案するとよいでしょう。

教義と聖約 138 章には、救い主がジョセフ・F・スミス大管長に、霊界の真理について明らかにされた啓示が載っていることを説明します。これらの真理は、「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」（ルカ 23：43）と言われた救い主の言葉が、どのようなことを意味していたのかを理解する助けとなります。

数人の生徒に、教義と聖約 138：11, 16, 18, 28 - 32 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、霊界に行かれたとき、救い主はどのようなことをされたか見つけてもらいます。

- 救い主は霊界におられたとき、どのようなことをなさいましたか。
- 29 節によると、霊界におられたとき、救い主が行かれることがなかったのはどこでしょうか。
- どのようなことをさせるために、救い主は義人の使者たちを組織されたのでしょうか。
- この聖句からどのような真理が学べますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、おそらく次の原則を見つかるでしょう。イエス・キリストの指示のもとに、義人の使者たちは霊の獄にいる人々に福音を教える。）

一人の生徒に、元地域幹部七十人のアラン・A・ペシオン兄弟の次のお話を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その十字架上の罪人にとって、救い主の御言葉がどのようなものだったかを見つけてもらいます。



「救い主は優しく答えると、希望をお与えになりました。この罪人は霊界で福音が宣べ伝えられることや、霊界において神に従って生活する機会が与えられることを、おそらく理解していなかったと思われます（1ペテロ 4：6；教義と聖約 138：18 - 34）。救い主はまことに、御自分の横ではりつけにされていた強盗に関心を寄せられました。ましてや主を愛し、主の戒めを守るよう努力している人々には、より深い関心を示されるに違いないのです。」（「イエスの言葉－十字架上で語られた言葉」『リアホナ』2003年6月号, 20）

- 教義と聖約 138：29 - 32 の言葉は、福音を知らずに死んだ全ての人々に関して、どのような希望を与えてくれますか。

福音が宣べ伝えられたからといって、自動的にその強盗が神の王国に救われるわけではないことを説明します。

一人の生徒に、教義と聖約 138：58 - 59 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、霊の獄にいたその強盗をはじめ、他の人々が救われるためにしなければならなかったことを見つけてもらいます。

- その強盗、あるいは霊の獄にいたどの霊も、救われるためにはどのようなことをする必要がありましたか。
- 悔い改めて神殿の身代わりの儀式を受け入れる霊たちは、どうなるでしょうか。（「悔い改める霊は、〔神殿〕の儀式に従うことによって贖われ」、贖罪を通して清められ、「その行いに応じて報いを受ける」であろう〔教義と聖約 138：58 - 59〕。）

相互参照聖句

相互参照聖句とは、学んでいる聖句に関する情報と洞察をさらに得ることができる別の聖文参照箇所のことです。相互参照する、すなわちリンクさせるとは、生徒が聖句を理解するのに助けとなる聖文の参照箇所をつなぎ合わせることです。レッスンの一部として分かち合う相互参照は、生徒たちの聖句への理解を増すためであり、すでに見つけた真理を単に繰り返す述べるものではありません。

- その強盗のように贖いが必要な霊を助けるために、わたしたちにできるのはどのようなことでしょうか。(家族歴史の業を完成させ、死者のための神殿の儀式に参加することができます。)

ルカ 23:44 - 56 の要約として、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と言われた後、救い主が十字架の上で息を引きとられたことを説明します。アリマタヤのヨセフは、その後救い主を亜麻布で包み、墓に納めました。

最後に、このレッスンで話し合われた真理について証を述べます。

第59課

ルカ 24 章

はじめに


イエス・キリストの死から3日後、墓にいた天使たちは、主が復活されたことを女たちに告げました。女たちの話を聞いて、弟子たちの中には、救い主の復活を疑った者もいました。2人の弟子たちはエマオへ旅し、復活された主であることを認

識できないまま、ともに語り合いながら歩きました。イエスは使徒やその他の人々に御姿を現され、復活された体をお見せになり、悔い改めを説き勧めて御自分の証人となるよう使徒たちに命じられました。

教えるための提案

ルカ 24 : 1 – 12

天使たちが集まっていた女たちにイエス・キリストの復活を告げる

 「聖書ビデオ — イエス・キリストの生涯」から「イエスは墓に置かれる」の一部を視聴し、女たちに天使が話しかける前で一時停止します（タイムコード 0 分 00 秒 – 2 分 27 秒）。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で視聴可能です。

ビデオを視聴できない場合は、イエスが置かれている墓の前に自分がいて、入り口の石が転がされる場所を見ている場面を想像してもらいます。その場で考えたり、感じたであろうことを想像してもらいます。一人の生徒に、ルカ 24 : 1 – 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、3日後に墓に戻ったときに女たちが見たことを見つけてもらいます。

ビデオの一部分を視聴するか 1 – 4 節を読んだ後で、次の質問をします。

- 女たちは墓で何を見たと見えますか。
- 開けられた墓の前に天使が立っているのを見たら、あなたはどのような反応をしていたと思いますか。

一人の生徒に、ルカ 24 : 5 – 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天使たちは女たちに何を告げたかを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

ルカ 24 : 9 – 10 の要約として、女たちは墓を後にして、自分たちが墓で見たことと聞いたことを、弟子たちに話したことを説明します。

一人の生徒に、ルカ 24 : 11 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、女たちの言葉に対する使徒たちの反応を見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

女たちの話を聞いた後で、ペテロとヨハネは墓へ走って行き、イエスのなきがらがなくなっていることが分かりました（ルカ 24 : 12 ; ヨハネ 20 : 1 – 4 参照）。

ルカ 24 : 13 – 32

よみがえられた主、エマオへ行く途中の二人の弟子たちに語りかけられる


生徒たちに、この話の中の弟子たちのように、福音の教義を信じるのが難しかったときのことを深く考えてもらいます。

ルカ 24 : 13 で、二人の弟子たちがエルサレムをたち「その日のうちに」約 6 – 7.5 マイル（10 – 12 キロメートル）を旅して「エマオという村に」行ったことが分ると説明します。エマオへ行く途中での彼らの経験を研究することは、どのようにしたらイエス・キリストと主の福音への証を強められるかを知る助けとなります。

一人の生徒に、ルカ 24 : 14 – 17 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、歩いて行く二人の弟子たちに誰が加わったのかを見つけてもらいます。

- 旅して行く弟子たちに、誰が加わりましたか。

- 弟子たちはなぜイエスを認識できなかったのでしょうか。（「さえぎられて」〔16 節〕という言葉は、抑制されるまたは覆われるという意味であることを説明します。）

 「聖書ビデオーイエス・キリストの生涯」から「エマオへ続く道に姿を現されるキリスト」を見てもらいます。このビデオは、*LDS.org* で視聴可能です。弟子たちが、どのような御方であるか分からないままイエスとともに歩いていたとき、弟子たちはイエスから何を学んだかに注意するよう、生徒たちに伝えます。ビデオを視聴する前に、ビデオ中の会話はルカ 24：17－33 からのものであることを説明して、生徒たちが聖文を目で追うこともできるようにします。（ビデオを視聴することができない場合は、生徒たちにそれらの聖句を順番に声に出して読んでもらいます。）

このビデオの中には、弟子たちと歩いて行かれるときに、イエスが弟子たちに教えられたことは聞くことができないことを生徒たちに伝えます。一人の生徒に、ルカ 24：27 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちに教えられたことを見つけてもらいます。

- イエスは弟子たちに何を教えられましたか。御自分について教えられるために、どのような方法を用いられましたか。
- ルカ 24：32 によると、聖文を用いた救い主の教えは、二人の弟子たちにどのような影響を与えたでしょうか。
- 「心が内に燃えた」という弟子たちの言葉はどのような意味でしょうか。（聖典にあるイエスについての教えが真実であることを聖霊が証した。）

どのような御方であるかを単に明かされるのではなく、むしろ聖文を用いて教えられたことで、弟子たちがイエスから学んだことについて、生徒たちに深く考えてもらいます。数人の生徒たちに、考えを分かち合ってもらおうとよいでしょう。

- これらの聖句から、自分自身の聖文研究の影響について、どのようなことが学べるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。聖文を研究するとき、イエス・キリストについて教えてくださいよう聖霊を招いている。）
- 聖霊がイエス・キリストを証されるときに、心が内に燃えるだけではなく、他にどのような経験をされるでしょうか。

生徒たちに、イエス・キリストについて聖霊が教えてくださっていると感じた聖文を特定してもらいます。生徒たちに、その聖句と、それを感じたときの印象を分かち合ってもらいます。あなた自身の助けとなった聖句を分かち合ってもよいでしょう。

セミナーの単位習得のために新約聖書を読むことは重要ですが、聖霊が救い主の証を強めてくださるように研究することはさらに重要であることを、生徒たちに思い起こしてもらいます。

十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉が書かれたしおりを配ります（あるいは空白のしおりにその言葉を書いてもらいます）。



「全ての聖文の第一の目的は、わたしたちの心を父なる神と御子イエス・キリストを信じる信仰で満たすことです。……

……信仰は、神の御言葉を聞くときや読むときに、聖なる御霊から心に、すなわち御霊から霊に与えられるのです。そして、信仰は御言葉をよく味わい続けることで成熟していきます。……

注意深く、丹念に聖文を研究してください。聖文について深く考え、祈ってください。聖文は啓示であり、さらなる啓示を与えることでしよう。」（D・トッド・クリストファーソン「聖文の祝福」『リアホナ』2010 年 5 月号, 34, 35）

一人の生徒に、クリストファーソン長老の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、個人の聖文研究を改善する方法を見つけてもらいます。

生徒たちに、イエス・キリストへの信仰や知識が増すよう、聖霊を招くような方法で聖文を研究するための目標を設定してもらいます。聖文研究をするときにその目標を思い出せるよう、しおりの裏にそれを書いておくよう提案するとよいでしょう。

ルカ 24 : 33 - 53

イエスは弟子たちに御姿を現され、御自分の復活した体をお見せになる

二人の生徒に、自分の聖典を持って教室の前の方に来てもらい、宣教師たちが誰かの家の戸口に近づいていく場面を演じてもらいます。ドアをノックするように言います。ドアを開けて彼らを迎えるしぐさをしてもらいます。自己紹介をするように言います。そこまで演じてもらったら、次のようなことを言います。

「一つ質問があります。わたしの知人の多くは、死後の世界を信じていません。イエス・キリストを信じているという人もいますが、肉体を持って復活したことは信じていません。彼らはイエス・キリストは霊として生き続けていると言っています。イエス・キリストの復活についてどのように考えていますか。」

二人の生徒たちに質問に答える時間を与えます。

ルカ 24 : 36 - 39 はマスター聖句であり、イエス・キリストの文字通りの復活について教えるときの助けとなることを指摘します。この聖文の内容がわかるよう、エマオへ行く途中でイエスとともにいた弟子たちは、すぐにエルサレムに戻り、使徒や他の弟子たちに自分たちの経験を語ったことを説明します (ルカ 24 : 33 - 35 参照)。彼らが語り合っているときに、救い主が御姿を現されました (36 節参照)。

役を演じてくれた生徒たちに、ルカ 24 : 36 - 39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが文字通り復活され、骨肉の体を持っておられることの証拠を見つけてもらいます。

- ただの霊ではなく肉体をお持ちであることを理解する助けとなるように、イエスは弟子たちにどのようなことをするよう言われましたか。 (「傷痕をお見せになるイエス」 [『福音の視覚資料集』 60 番。LDS.org も参照] を見せてもよいでしょう。)
- キリストが弟子たちに御姿を現された場にあなたがいたとしたら、どのように感じると思えますか。

役を演じてくれた生徒たちに感謝を述べて、席についてもらいます。一人の生徒に、ルカ 24 : 40 - 43 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスは、手で触れることのできる (すなわち肉体としての) 復活された体を持っておられることを示すため、他にどのようなことをされたか見つけてもらいます。

- 復活された体を持っておられることを示されるために、救い主は他にどのようなことをなさいましたか。
- これらの聖句からどのような教義を学べるでしょうか。 (生徒はさまざまな教義を挙げるかもしれませんが、次のことを必ず強調してください。イエス・キリストは、復活された骨肉の体を持っておられる。ホワイトボードにこの教義を書きます。)
- 理解し信じるために、なぜこの教義は重要なのでしょうか。

一人の生徒に、以下の文章を声に出して読んでもらいます。


「イエス・キリストの贖いを通して、全ての人が肉体の死から救われ、復活します (1 コリント 15 : 22 参照)。復活とは、霊と肉体が完全かつ朽ちることのない状態で再び結合され、病気や死に支配されなくなることです (アルマ 11 : 42 - 45 参照)。……

人生のさまざまな困難、試練、成功を経験するときに、復活について理解し証を持っていれば、希望と展望を持つことができます。救い主が生きておられ、その贖いを通して、『キリストは死の縄目を断ち、墓は勝利を得ず、死のとげは栄光の望みの中にのみ込まれてしまう』という確信に慰めを見いだすことができます (アルマ 22 : 14)。 (『真理を守る - 福音の参考資料』 174)

- 復活への希望が試練に堪える助けとなるという例には、どのようなものがあるでしょうか。何人かの生徒たちに救い主の復活を証してもらい、自分にとってなぜ復活の教義が重要なかを説明してもらいます。


一人の生徒に、ルカ 24 : 44 - 53 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主とともにいた弟子たちの一人であるかのように救い主の言葉に耳を傾け、自分にとってどの教えが最も意義深いかを考えてもらいます。何人かの生徒に、それらの聖句にある教えについての考えを発表してもらいます。

最後に、話し合ってきた真理について証を述べます。


ルカ 24 : 36 - 39

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりがあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。



 **マスター聖句—ルカ 24 : 36 – 39**

生徒たちがルカ 24 : 36 – 39 を暗記できるように、クラスを 4 つのグループに分けます。聖文の中から別々の聖句を割り当て、各グループごとに割り当てられた聖句を記憶するように伝えます。数分たったら、それぞれのグループに、割り当てられた聖句を聖句の順番通りに暗唱してもらいます。どの生徒も聖句全体に親しむまで、次のレッスンから数回にわたって、繰り返し暗唱する時間を持つとよいでしょう。

ヨハネによる福音書

への導入

なぜこの書を研究するのか

キリスト教徒への迫害が激しさを増し、背教が進み、イエス・キリストの本質について論争される中で、使徒ヨハネは救い主についての自分の証を記録しました。ヨハネによる福音書の研究は、生徒たちが神の御子であるイエス・キリストの教え導く業を通して、天の御父を知る助けとなります。ヨハネの記述は、イエス・キリストの教えに従って生活する人々は、永遠の命を含む偉大な祝福にあずかることができると教えています。

誰がこの書を書いたのか

使徒ヨハネがこの福音書を書きました。使徒ヨハネは、この書全体を通して自分自身を「イエスの愛しておられた者」と呼びました(ヨハネ 13:23; 19:26; 20:2; 21:7, 20 参照)。

ヨハネと彼の兄弟ヤコブは漁師でした(マタイ 4:21 参照)。イエス・キリストの弟子および使徒となる前、ヨハネはバプテスマのヨハネに従っていたことが見受けられます(ヨハネ 1:35 - 40; 『聖句ガイド』「ヨハネ(ゼベダイの子)」, scriptures.lds.org 参照)。

いつ、どこで書かれたか

ヨハネがこの福音書を書いた正確な時期は分かっていません。記述の時期は、紀

元 60 年から紀元 100 年の範囲であったと言われています。紀元 2 世紀の初期、キリスト教徒の記録者たちは、この書が小アジアのエフェソス(現在のトルコ)で書かれたことを示唆しました。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ヨハネが書いたものは全ての人に向けてられたものですが、彼のメッセージはより特定の読者に対するものでもあります。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は次のように書いています。「ヨハネの福音は聖徒たちのための記述であり、教会のための卓越した福音書である。」(*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 65) ヨハネは、この書を書く目的が「イエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得る」よう人々に勧めるためであったと述べています(ヨハネ 20:31)。「ヨハネはこの目的を念頭に置いて、イエスの生涯の中のさまざまな出来事を慎重に選び、配列」しました(『聖句ガイド』「ヨハネによる福音書」)。

この書の特徴は何か

ヨハネによる福音書の内容の 92 パーセントは、他の福音書に記録されていないものです。これはおそらく、ヨハネの対象読者、つまりイエス・キリストについての理解

がすでにあった教会員は、マタイ、マルコ、ルカの対象読者とは明らかに異なっていたからだと思います。ヨハネが報告した 7 つの奇跡のうち 5 つは、他のどの福音書にも記録されていません。マタイ、マルコ、ルカはガリラヤにおけるイエスの教え導く業についてかなり多くの情報を記述しましたが、ヨハネはユダヤで起こった数多くの出来事を記録しました。ヨハネの福音書は非常に教義的であり、そのおもなテーマの幾つかには、神の御子としてのイエスの神性、キリストの贖罪、永遠の命、聖霊、再び生まれる必要性、他人を愛することの重要性、そして救い主を信じることの重要性があります。

ヨハネは、イエス・キリストの神の御子としての神性を強調しました。ヨハネはイエスによる御自身の御父についての言及を 100 件以上記録しており、ヨハネ 14 章だけでも 20 件を超えています。ヨハネの大きな貢献の一つは、救い主が捕らえられる前の数時間における弟子たちに対する主の教えを記録したことで、これにはゲツセマネで主が苦しめられた夜にささげられた偉大な執り成しの祈りが含まれています。ヨハネの記述のこの部分(ヨハネ 13 - 17 章)はヨハネによる福音書全体の 18 パーセントを占め、救い主の教義と、救い主が弟子たちに何を期待しておられるかについてのより深い理解を与えます。

概要

ヨハネ 1 章 ヨハネはイエス・キリストの前世における神性と、全ての人類に救いをもたらす使命について証する。ヨハネはイエスのバプテスマや、一部の弟子たちの召しを記録する。

ヨハネ 2 - 4 章 イエス・キリストは水をぶどう酒に変えられる。イエスはニコデモに霊的に再び生まれることについてお教えになり、井戸のそばにいた女性に御自身がキリストであることを証される。イエスは役人の息子を癒やされる。

ヨハネ 5 - 7 章 救い主はベテスダの池で歩けない人を癒やされ、御自身の聖なる力と権限を宣言される。イエスは命のパンについての説教の準備のために 5,000 人に食物をお与えになり、御自分がメシヤであることを宣言し、イエスを受け入れる者のみが永遠の命を受けることを仮庵の祭で言明される。

ヨハネ 8 - 10 章 姦淫を行った女性の経験を通じて、イエスは憐れみと悔い改めについてお教えになる。イエスは御自分がエホバであり、わたしは有るという大いなる者であると宣言される。イエスは生まれつき目が見えない人を癒やされ、御自身について、羊たちを愛し、羊たちのために自らの命をささげる良い羊飼いであると説明される。

ヨハネ 11 - 13 章 イエス・キリストはラザロを死からよみがえらせ、死に打ち勝つ御力をお見せになる。イエスはエルサレムへ勝利の入城をされる。最後の晩餐で、イエスは弟子たちの足を洗い、互いに愛し合うようにお教えになる。

ヨハネ 14 - 16 章 イエスは、愛と従順の関係について弟子たちをお教えになる。イエスは、慰め主(聖霊)を遣わすことや、弟子たちを個人的に教え導かれることを約束される。イエスは、御自分が「まことのぶどうの木」であり、世を克服したことを宣言される。

ヨハネ 17 - 19 章 イエスは弟子たちのため、そして弟子たちが宣べ伝えた事柄を信じる者のために執り成しの祈りをささげられる。イエスは裏切られ、捕らえられ、裁判にかけられて、死を宣告される。イエスは十字架の上で苦しめられた後、亡くなられ、埋葬される。

ヨハネ 20 - 21 章 復活されたイエス・キリストは、園の墓でマグダラのマリヤに御姿を現され、その後エルサレムで数人の弟子たちに御姿を現される。主はガリラヤの海で弟子のうち 7 人に御姿を現され、他人を教え導くことにおいて弟子たちを率いるようペテロに命じられる。

ヨハネ1章

はじめに

愛弟子ヨハネは、前世でのイエス・キリストの役割に関連する重要な教義を記録しました。また、バプテスマのヨハネもイ

エス・キリストについて証し、イエスにバプテスマを施しました。イエス・キリストは、御自分に学ぶよう人々を招きました。

教えるための提案

ヨハネ1:1-18; ジョセフ・スミス訳ヨハネ1:1-19 (『聖句ガイド』内)

ヨハネ、イエス・キリストを神の御子として証する



生徒に二人一組になってもらいます。ホワイトボードにイエス・キリストの絵を貼ります。生徒たちに、イエス・キリストについてほとんど何も知らない人と話していることを想像してもらいます。各組の一方の生徒が、イエスについてほとんど何も知らない想定しているもう一方の生徒に、一分間でイエスについて教えてもらいます。この活動の後、キリストについて教えられた数人の生徒たちに、パートナーが何を教えてくれたかを発表してもらいます。

使徒ヨハネはイエス・キリストについて聖徒たちに知ってもらいたかった事柄を記録したと説明して、ヨハネの福音書を簡単に紹介します。ヨハネは、彼が書き記した多くの記述を実際に目にしました。ヨハネの福音書の内容のほとんどは、イエスが人類のメシヤであり救い主であることをユダヤ人と異邦人が信じる助けとするために書かれたマタイ、マルコ、ルカの福音書には記録されていません。これとは対照的に、ヨハネは特にイエスがキリストであるとすでに信じていた人たちに対して福音書を書きました。

生徒たちに、ヨハネ1章を研究しながら、イエス・キリストに対する彼らの信仰と証を強めることができる救い主についての真理を見つけるよう勧めます。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ1:1-2 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」)を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがイエス・キリストについて教えた真理を見つけてもらいます。

- これらの聖句から、イエス・キリストについてどのような真理を学びますか。(生徒が見つけるはずの一つの真理は、イエス・キリストは初めに神とともにおられたということです。ホワイトボードの救い主の絵の近くにこの真理を書いてください。)

- イエス・キリストが初めに神とともにおられたとはどういう意味ですか。(「初めに」という表現は前世でのことを指していることを説明します。イエス・キリストは霊において御父の長子であられたこと〔教義と聖約93:21参照〕、イエスは「世界が存在する前に」集まった霊の中で神のような御方であったこと〔アブラハム3:22-24参照〕、イエスは初めから御父によって選ばれた御方であったこと〔モーセ4:2参照〕。)

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ1:3 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」)を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、ヨハネが教えたイエス・キリストについてのさらなる真理を見つけてもらいます。

- ヨハネは、イエス・キリストについて他に何を教えましたか。(生徒は次のような教義を見つかるはずで、全てのものはイエス・キリストによって創られた。ホワイトボードの救い主の絵の近くにこの真理を書いてください。)

イエス・キリストが、御父の指示のもとで天と地、そして無数の世界を創造されたことを説明します(モーセ1:33参照)。しかし、天の御父は「二つの創造の業」、すなわち全ての霊の創造(イエス・キリストの霊を含む)と、アダムとエバの肉体の創造は御自身で行われました(ブルース・R・マッコンキー、*A New Witness for the Articles of Faith* [1985年]、63参照。モーセ2:27も参照)。

生徒が基本的教義を理解できるよう助ける

生徒は、聖文を研究してそれについて話し合いながら、また、重要な聖句をマスターしながら基本的な教義を学んでいきます。基本的な教義に焦点を当てるために、配列順に聖文を研究することから離れないようにしてください。むしろ、学習コースに出るときに、基本的な教義を特定し、生徒たちがそれを理解するように援助してください。例えば、このレッスンでは、ヨハネ1章で教えられている内容に関連する神会の教義を強調することができます。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:4 – 5 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがイエスとイエスの福音をどのように説明したかを見つけてもらいます。

- ヨハネは、イエスとイエスの福音をどのように説明しましたか。
- 「この御方の内に福音があった」とはどういう意味ですか。(イエス・キリストは良い知らせであり、福音そのものだった。)
- 「光は世の中で輝いている。そして、世はそれに気づかなかった」とはどういう意味だと思いますか。(ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:5 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」])

使徒ヨハネは、次にバプテスマのヨハネについて教えたことを説明してください。一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:6 – 10 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、バプテスマのヨハネがイエス・キリストについて宣言した事柄を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 9 – 10 節で、使徒ヨハネはイエスについてどのような教義を教えましたか。(生徒は次のような教義を見つけるでしょう。イエス・キリストは世の光であられる。ホワイトボードの救い主の絵の近くにこの真理を書いてください。)
- イエス・キリストは、どのような意味で世の光なのでしょう。(教義と聖約 88:5 – 13 参照。)

ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:11 – 18 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) の要約として、イエス・キリストを信じる者全てが不死不滅と永遠の命を受けるとバプテスマのヨハネが証したことを説明します。

14 節および 16 節では、ヨハネがイエス・キリストを「言葉」として言及していることを指摘します。このイエス・キリストの称号は、聖文の複数の箇所で見受けられることを説明します(ヨハネ 1:1, 14:1; ヨハネ 1:1; ヨハネの黙示録 19:13; 教義と聖約 93:8 – 10; モーセ 1:32 参照)。

わたしたちは、他の人々と交流したり、考え、気持ち、アイデアを伝えるために言葉を使うことを指摘します。

- 「言葉」という称号は、どのような点でイエス・キリストに適切なのでしょうか。

また、ジョセフ・スミス訳がなければ、ヨハネ 1:18 には誰も天の御父を見たことがないと書かれていると誤解される可能性があったことも説明します。一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:19 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。

- ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:19 は、ヨハネ 1:18 をどのように明確にしていますか。

生徒たちに、レッスン最初の活動と同じ二人一組に分かれてもらいます。クラスでジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:1 – 19 から見いだした教義を使い、各組の一方の生徒がパートナーにイエス・キリストについて一分間教えてもらいます。十分な時間を取ってから、次の質問をします。

- 誰かがイエス・キリストについてのこれらの教義を知ることが重要であるのはなぜですか。

ヨハネ 1:19 – 34; ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:20 – 34 (『聖句ガイド』内)

バプテスマのヨハネはイエス・キリストについての証を述べ、イエス・キリストにバプテスマを施す

ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:20 – 28 の要約として、ユダヤ人がバプテスマのヨハネに祭司たちを送り、ヨハネがメシヤであるかどうか尋ねたことを説明します。ヨハネは、自分の役割が、火と聖霊によってバプテスマをお授けになるメシヤについて証言することだと説明しました。次の日、バプテスマのヨハネは、彼が以前にバプテスマを施したイエスを見ました。

一人の生徒に立ってもらい、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:29 – 33 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) にあるバプテスマのヨハネの言葉を、自分がバプテスマのヨハネであるかのように声を出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、バプテスマのヨハネがイエス・キリストについて他の人々に知ってもらいたかった事柄を見つけてもらいます。

ホワイトボードにあるイエス・キリストの絵と真理を指し示します。

- ジョセフ・スミス訳ヨハネ 1:29 - 33 から、他にどのような真理と説明を加えることができますか。(生徒たちの回答をホワイトボードに書きます。)
- バプテスマのヨハネがイエスを「神の小羊」と呼んだのはなぜだと思いますか。

ヨハネ 1:35 - 51

イエス、御自分に学ぶようイエスに従う人々を招かれる

断食証会に参加している青少年がいて、数人の友人たちがイエス・キリストが救い主であると知っているという証を述べるのを聞いているところを、生徒たちに想像してもらいます。この青少年は、友人たちがこれらの事柄についてどのように「知っている」のか不思議に思っています。

- この質問にどのように答えますか。

生徒たちが、ヨハネ 1:35 - 51 を研究しながら、イエス・キリストは救い主であるという自分自身の証を受ける(または強める)ために何ができるかを見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 1:35 - 37 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスにバプテスマを施した次の日にヨハネが何をしたのかを見つけてもらいます。

- イエスを見たとき、ヨハネは何をしましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 1:38 - 39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが二人の弟子たちに言われたことを見つけてもらいます。

- イエスは二人の弟子たちに何をお尋ねになりましたか。
- 彼らの答えは何でしたか。
- イエスは、何をするように二人の弟子たちを招かれましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 1:40 - 42 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、アンデレが救い主の「きてごらんなさい」という招きを受け入れた後で何を学んだかを見つけてもらいます。

- アンデレは、主の「きてごらんなさい」という招きを受け入れることによって何を学びましたか。(イエスがメシヤ、またはキリストであられること。ヨハネ 1:42 のジョセフ・スミス訳 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)』]からは、ペテロが「ケパ〔訳せば、聖見者または石〕』と呼ばれることも学び、これはペテロが教会の聖見者となることを意味すると指摘するとよいでしょう。)

一人の生徒に、ヨハネ 1:43 - 46 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主がピリポに何を行つてうように言われたかを見つけてもらいます。生徒たちに見つけた事柄を発表してもらいます。

- 45 節で、ピリポが救い主に従う主の招きを受け入れた後、イエス・キリストの証を得たことを示している言葉はどれですか。
- その後、ピリポはナタナエルにどうするよう招きましたか。

三人の生徒に、ヨハネ 1:47 - 51 を声に出して読んでもらいます。そのうち一人にナレーターになってもらい、一人はイエスの御言葉、もう一人にナタナエルの言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ナタナエルがイエスの学ぶ招きを受け入れたときに何が起こったかを見つけてもらいます。

- ナタナエルがイエスの学ぶ招きを受け入れた後、何が起こりましたか。
- これらの記述からどのような教義を学べるでしょうか。(生徒たちは次のような原則を見つけるはずで、イエス・キリストに学び、従う招きを受け入れると、わたしたちはイエスについての自分自身の証を受ける。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「わたしたちのこの世の旅の本質と、人生で最も重要な疑問に対する答えは、結局、救い主の地上における業のごく初期に見られる二つのとても簡潔な要素に集約されるようです。1 番目の要素は地上に住む『あなたがたは何を求めているのか。何が欲しいのか』というわたしたち一人一人に対する問いかけです。そして 2 番目の要素は、わたしたちがどう答えるかに関係なく、わたしたちの答えに対する主の反応です。わたしたちがどのような人間で、どのように答えるかに関係なく、主はいつも『したがってきなさい』という答えをなさいます。愛を込めて『わた

しについてきなさい』とおっしゃるのです。どこへ行くにしても、まず来て、わたしのすることを御覧なさい。わたしがどこで、どのように時間を使うかを御覧なさい。わたしに学びなさい。わたしとともに歩き、語り、そして信じなさい。わたしの祈りに耳を傾けなさい。そうすれば、あなた自身の祈りに対する答えを見いだすことでしょう。神があなたがたの魂に休みを与えてくださるでしょう。」「主は、飢えている者を良いもので飽かせなさいます」『聖徒の道』1998年1月号, 73)

生徒たちに、イエス・キリストに学び、従うための自分自身の努力について深く考えてもらいます。

- イエス・キリストへの証は、イエスに学び、従うことによってどのように増しましたか。

救い主の「来て、ご覧なさい」という招きや、主に学び、従うための招きをより完全に受け入れるにはこれからどうするかについて、クラスノートや聖典学習帳に数行書いてもらいます。

クラスで見いだした原則についてのあなたの証を述べて、レッスンを締めくくります。

家庭学習クラスのレッスン

ルカ 18 章 — ヨハネ 1 章 (単元 12)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がルカ 18 章 — ヨハネ 1 章 (単元 12) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせるレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ルカ 18 – 21 章)

このレッスンで、生徒たちは不義な裁判官や、パリサイ人と取税人のたとえについて研究しました。また、主の助けを求めた盲目の人や、ザアカイについても学びました。これらの記述から、生徒たちは、わたしたちが主に対する信仰を働かせるときに誠実で根気強くあれば、主の憐れみを受けられることができると学びました。

第 2 日 (ルカ 22 章)

ベテロに対する主の勧告を読んだ生徒たちは、わたしたちがイエス・キリストの福音に改心するときに、他の人々を強めることができると学びました。また生徒たちは、ゲツセマネにおける主の苦しみについて読んだとき、次の真理を学びました。わたしたちが天の御父に進んで従うならば、御父は御心を行うための力をわたしたちに与えてくださる。イエス・キリストは、ゲツセマネの園で苦しまれたとき、血の汗がしたたり落ちた。

第 3 日 (ルカ 23 – 24 章)

このレッスンでは、生徒たちはイエス・キリストの十字架へのはりつけ、埋葬、復活について読みました。生徒たちは次の真理を学びました。わたしたちを不当に扱う人々を救うことを選ぶことで、イエス・キリストの模範に従うことができます。全ての人の霊は、死を迎える時に豊界に入る。イエス・キリストは、復活した骨肉の体をお持ちである。

第 4 日 (ヨハネ 1 章)

愛弟子ヨハネとバプテスマのヨハネの言葉を研究した生徒たちは、イエス・キリストが初めに神とともにおられたこと、万物がキリストによって創られたこと、キリストが世の光であることを学びました。生徒たちは数人の弟子たちがどのようにイエス・キリストを知るようになったかについて読み、イエス・キリストに学び、従うという招きを受け入れるときに、キリストについて個人の証を得ると学びました。

はじめに

このレッスンは、イエス・キリストについて教えらるる聖霊を招く方法を生徒たちが理解するために役立ちます。さらに、イエス・キリストが骨肉の体を持って復活された御方であることも学びます。

教えるための提案

ルカ 24 : 13 – 32

よみがえられた主、エマオへの道中に二人の弟子たちにお話しになる


生徒たちに、福音のある概念が真実かどうか知るために悩んだことがあるかどうかを深く考えてもらいます。

ルカ 24 : 13 では、一団の女性が空になったイエスの墓を見つけた日と同じ日に、二人の弟子たちがエルサレムを後にしたことを学ぶと説明します。彼らは、「エマオという村へ」約 6 – 7.5 マイル (約 10 – 12 キロ) 旅しました。エマオへの道中での彼らの経験を研究することは、イエス・キリストとキリストの福音に対する証を強める方法をわたしたちが知る助けとなります。

一人の生徒に、ルカ 24 : 14 – 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、二人の弟子たちが歩いていたときに一緒になったのが誰かを見つけてもらいます。

- エマオへの道中で弟子たちと一緒に歩いたのは誰でしたか。
- 弟子たちがイエスであることを認識できなかったのはなぜですか。(ルカ 24 : 16 で使われている「さえぎられた」という言葉は、制限された、または覆われたことを意味すると説明します。)

数人の生徒に、ルカ 24 : 17 – 33 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、一緒に歩いている方がどなたであるか認識しないでイエスと歩いたときに、弟子たちがイエスから学んだ事柄を見つけてもらいます。

 あなたの言語で利用できる場合は、ルカ 24 : 17 – 33 を読むかわりに、LDS.org にある『聖書ビデオイエス・キリストの生涯』からビデオ「エマオまでの道のりで御姿を現されたイエス」(3 分 32 秒) を見てもよいでしょう。生徒たちには、一緒に歩いている方がどなたであるか認識しないでイエスと歩いたときに、弟子たちがイエスから学んだ事柄に注意してもらいます。このビデオを見せる前に、生徒たちが自分の聖典と一緒に読むことができるように (生徒たちが希望する場合)、ビデオの台詞がルカ 24 : 17 – 33 からのものであることを説明します。

このビデオでは、歩きながらイエスが弟子たちに教えられたことは聞こえないことを指摘します。一人の生徒に、ルカ 24 : 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちに教えられた事柄を見つけてもらいます。

- イエスは弟子たちに何を教えるようになりましたか。

- ・ イエスは、御自身について教えるためにどのような手段をお使いになりましたか。（聖文を使った。）
- ・ 32 節にある「お互いの心が内に燃えた」とはどういう意味ですか。（聖文にあるイエスについての教えが真実であると聖霊が証した。）

イエスは御自分が誰であるかを明らかにする代わりに聖文を使って教えられたことから、弟子たちが何を学んだかについて、生徒たちに深く考えてもらいます。何人かの生徒に、それぞれの考えを分かち合ってもらおうとよいでしょう。

- ・ これらの節は、わたしたち自身の聖文研究についてどのような原則を教えてください。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。**聖文を研究するとき、わたしたちはイエス・キリストについて教えられる聖霊を招き入れる。**）
- ・ 心の中が燃える以外で、聖霊がイエス・キリストについて証するときを経験することをどのように説明しますか。

生徒たちにとって聖霊がイエス・キリストについて教えてくださっていると感じる助けとなった聖文を、生徒たちに見つけてもらいます。生徒たちに、それぞれの聖文と、彼らを感じた影響を分かち合ってもらいます。教師は自分自身の助けとなった聖文を分かち合ってもよいでしょう。

セミナーの単位取得のために新約聖書を読むことも大切ですが、それよりも、それぞれの救い主に対する証を強めるために聖霊を招くような方法で聖文を研究することのほうがさらに大切であることを生徒たちに思い起こしてもらいます。

可能な場合は、十二使徒の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉が書かれたしおりのコピーを配る、または、生徒たちに、しおりとして使える白紙の紙や厚紙にその言葉を書いてもらいます。（このレッスンのオンラインバージョンには、複数のしおりが記載された印刷可能な PDF 文書があります。）



「全ての聖文の第一の目的は、わたしたちの心を父なる神と御子イエス・キリストを信じる信仰で満たすことです。……

……信仰は、神の御言葉を聞くときや読むときに、聖なる御霊から心に、すなわち御霊から霊に与えられるのです。そして、信仰は御言葉をよく味わい続けることで成熟していきます。……

……注意深く、丹念に聖文を研究してください。聖文について深く考え、祈ってください。聖文は啓示であり、さらなる啓示を与えてくれることでしょう。」（D・トッド・クリストファーソン「聖文の祝福」『リアホナ』2010年5月号、34－35）

一人の生徒に、クリストファーソン長老の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それぞれの個人の聖文研究を改善する方法を見つけてもらいます。

イエス・キリストへの信仰と知識を増すために聖霊を招く方法で聖文を研究する目標を立てるよう生徒たちに勧めます。聖文研究中の覚え書きとして使えるように、しおりの裏にその目標を書くよう提案するとよいでしょう。

ルカ 24：36－39

イエスは弟子たちに御姿を現され、復活された体をお見せになる

エマオへの道のりでイエスとともにいた二人の弟子たちは、すぐさまエルサレムに戻り、使徒とその他の弟子たちに彼らの経験を語ったことを説明します（ルカ 24：33－35 参照）。

生徒たちに、声を合わせてルカ 24：36－39 のマスター聖句を読んでもらい、二人の弟子たちが他の弟子たちにその経験を報告していたときに何が起こったかを見つけてもらいます。

- ・ 二人の弟子たちがその経験を報告していたときに何が起こりましたか。

「傷跡をお見せになるイエス」（『福音の視覚資料集』60 番。LDS.org も参照）の絵を見せます。

- ・ イエスは、御自分が単なる霊ではなく、肉体をお持ちであることを弟子たちが理解する助けとして、弟子たちに何をしよう勧められましたか。
- ・ これらの節から、どのような教義を学べるでしょうか。（生徒はさまざまな教義を挙げるかもしれませんが、**イエス・キリストが骨肉の体をお持ちの復活された御方であることを強調するよう**にしてください。ホワイトボードにこの教義を書きます。教義と聖約 130：22 も参照してください。）

数人の生徒に、救い主の復活についての証を分かち合ってもらい、もしくは自分にとってこの教義が大切である理由を説明してもらいます。または、単元 12－第 3 日のレッスンの課題 3 でそれぞれの聖典学習帳に書いた事柄を分かち合ってもらいます。イエス・キリストの復活の真実性について証を述べてレッスンを締めくくります。

次の単元（ヨハネ 2－6 章）

ヨハネ 2－6 章を研究するときには、次の質問の答えを学ぶと生徒たちに説明します。イエスが公に行われた最初の奇跡が何でしたか。これがどのようにイエスの母親の助けとなりましたか。イエスが神殿を清められたのはなぜですか。イエスがメシヤであることを最初に宣言された相手は誰でしたか。イエスが女性に明かされた、イエスのみが知り得る彼女の人生についての事柄とは何でしたか。救い主が御自身を生ける水、命のパンと表現されたのはなぜでしたか。生徒たちは、イエス・キリストが尊厳と力を持って仕えられたことについても学びます。

ヨハネ2章

はじめに

救い主はカナで、水をワインに変えることによって、この世での教え導く業における最初の公の奇跡を行われました。イエス・キリストは過越の祭のためにエルサレムに上られました。

イエスは、御父の家を汚す両替人を追い出して宮を清められました。

教えるための提案

ヨハネ2：1－11

イエス、水をぶどう酒に変えられる

生徒たちに、新学期最初の日、初めての仕事、初めて聖霊を感じたときなど、これまでの人生における「初めて」の経験について考えてもらいます。

- わたしたちが、これら、またはその他の人生で「初めて」の経験を重要視することがあるのはなぜですか。

ヨハネ2：1－11を研究しながら、イエスがこの世における教え導く業で行われた奇跡で、最初に記録されたものについて学ぶと生徒たちに説明します。生徒たちに、最初に記録された奇跡が重大である理由を見つけるように勧めます。

イエスがバプテスマをお受けになってからしばらくして、イエスと弟子たちは、イエスの故郷ナザレの近くにある村、カナで行われた婚礼に参列しました。一人の生徒に、ヨハネ2：1－3を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、婚礼でどのような問題が起こったかを見つけてもらいます。

- 婚礼ではどのような問題が起こりましたか。

ぶどう酒が婚礼の祝宴での習慣的な飲み物であったことを説明します。婚礼の祝宴は、時に何日にもわたって続くことがありましたが、ぶどう酒がなくなってしまうのは、祝宴の主催者にとって恥となることでした。マリヤはこの祝宴に何らかの責任を感じていたようで、ぶどう酒がなくなってしまったとき、主催者の家族が恥をかかないよう、息子のところに行き、助けを求めました。イエスの対応には、婚礼で援助の手を差し伸べたいという母親の望みに対する尊敬と憐れみが表れています。

一人の生徒に、ヨハネ2：4とジョセフ・スミス訳ヨハネ2：4（「婦人よ、あなたのために何をするをお望みですか。そのとおりにいたしましょう。わたしの時はまだ来ていませんから。」）を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの母親に対する対応を見つけてもらいます。

- イエスは、母親に対して何と返事なさいましたか。
- イエスの対応は、母親に対する尊敬をどのように表していますか。（イエスは母親に何をすればよいかを尋ねただけでなく、それを進んで行く意志を示された。イエスの時代、「婦人」という呼び方は自分の母親に敬意を示す呼び方であったことを説明する必要があるかもしれません。）
- 「わたしの時は、まだ来ていません」と言われたとき、イエスは何を意味しておられましたか。

一人の生徒に、ヨハネ2：5を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、マリヤが僕たちに言った事を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 僕に対するマリヤの指示は、イエスに対するマリヤの信仰について何を教えていますか。

一人の生徒に、ヨハネ2：6－7を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが僕たちに出された指示を見つけてもらいます。

- イエスは僕たちに何をしよう指示されましたか。

イエスの時代、石でできた水がめは、宗教的な儀式での使用のために儀式上清いとされていたことを説明します。これらの水がめの水を使って手を洗うことによって、食事をする前に自らを儀式的に清めるのがユダヤ人の習慣でした。

• 僕たちはかめに水をどれだけ入れましたか。

かめに入れられた水の量を生徒たちが理解できるようにするため、1リットル入る空の入れ物を見せます。「斗」と訳されている単位は約34リットルだったので、6個のかめには約380から600リットルの水を入れておくことができたと言徒たちに説明します。入れ物に水を入れます。

一人の生徒に、ヨハネ2:8を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが次に何をしよう僕に指示されたかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。生徒たちが発表しているときに、コップで水の入った入れ物から水をくみ、コップをかざします。

• あなたがこれらの僕の一人だったとしたら、コップを祝宴の料理頭に持っていくときに何を考え、感じたと思いますか。

一人の生徒に、ヨハネ2:9-10を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、持ってこられた飲み物を味見してから料理頭が何を言ったかを見つけてもらいます。

• イエスは水に何をされましたか。

• 新しいぶどう酒について、料理がしらは何と言いましたか。(多くの場合、最も良いぶどう酒が祝宴の初めに使われ、祝宴の終わり近くにはそれより質が劣るぶどう酒が使われたことを説明します。)

イエスは、現世における教え導く業で最初に記録された奇跡の意味またはそれが象徴することについての特定の解釈を、一切提供されなかったことを説明します。しかし、最初に記録されたイエスの奇跡についての記述からは、多くの偉大な真理を学ぶことができます。

生徒を2-3人の小さなグループに分けます。各グループに、ヨハネ2:1-11から学ぶことができる真理を、一枚の紙に出来るだけ多く書き出してもらいます。十分に時間を取った後、各グループの一人にグループが見つけた真理を分かち合ってもらいます。一人の生徒に書記になってもらいます。書記に、発表してもらった真理(他と重複する真理は除く)を一つ一つホワイトボードに書いてもらいます。生徒が見いだすと思われる真理には次のようなものがあります。イエス・キリストは物理的な要素を支配する力をお持ちである。救い主は、全うする聖なる使命をお持ちであることを御存じだった。メシヤは、奇跡を通じて御自分の聖なる御力を明らかにされた。神の御子は、母親を愛し、尊敬しておられた。

一人の生徒に、ヨハネ2:11を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、この奇跡がイエスの弟子たちにどのような影響を与えたかを見つけてもらいます。

• この奇跡は、イエスの弟子たちにどのような影響を及ぼしましたか。

ホワイトボードに書かれている生徒たちが見つけ出した真理のリストから、次の真理を丸で囲みます。イエス・キリストは物理的な要素を支配する力をお持ちである。(注-生徒たちがこの真理を挙げなかった場合は、リストの横にこれを書きます。)

• イエスが物理的な要素を支配する力をお持ちであると理解することは、あなたのイエス・キリストに対する信仰をどのように強めますか。

• 新約聖書で研究した記述のうち、イエス・キリストが物理的な要素を支配する力をお持ちであることが説明されている記述は他に何がありますか。(答えには次を含めることができます-パンと魚の二つの奇跡〔5,000人:マルコ6:33-44;4,000人:マルコ8:1-9〕、嵐を静める〔マルコ4:35-41〕、水の上を歩く〔マタイ14:22-33〕。)

ヨハネ 2:12-25

イエスは神殿を清められる

生徒たちに、子供の頃野外で遊んだゲームの名前を挙げてもらいます。ゲームをいくつか挙げてもらった後、次の質問をします。

• これらのゲームは無邪気で楽しいものですが、神殿の敷地内で気兼ねなくこれらのゲームをすることができますか。



イスラエルの新約聖書時代からの石灰石のかめ

生徒たちに二人一組に分かれてもらいます。各グループに、ヨハネ 2:12 - 17 を読んでもらいます。読みながら、グループごとに次の質問の答えを話し合ってもらいます。(ホワイトボードにこれらの質問を書いてください。)

1. イエスは神殿で誰を御覧になりましたか。
2. イエスが憤られたのはなぜだと思いますか。
3. この問題を解決するため、イエスは何をされましたか。



生徒が教義と原則を理解できるように助ける

生徒が教義と原則を理解する助けとして、その意味を分析したり、現代の状況に当てはめるように導く質問をします。教義と原則を理解するとは、生徒が見つけた教義と原則と、それらをどのような状況で生活に応用できるかを生徒が理解するという意味です。教義と原則を理解することは、それらが真実であり重要であると感じ、どのように応用できるかを知るために不可欠です。

十分に時間を取った後、「神殿を清められるイエス」(『福音の視覚資料集』51 番。LDS.org も参照) の絵を見せて、幾つかのグループに答えを発表してもらいます。過越の祭を祝うためにエルサレムを訪れていた何千人もの人々が、礼拝の一環として神殿で犠牲をささげるための動物を買わなければならなかったことを説明する必要があるかもしれません。両替人は、犠牲としてささげる動物を購入することができるように、ローマやその他の貨幣を両替しており、他の商人たちは必要な動物を売っていました。この商取引は必要なものではありませんでしたが、神殿でこのような取引を行うことは冒瀆であり不遜なことでした。

- 16 節にある神殿についてのイエスの描写から、神殿についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は次のような真理を見つけるはずですが、**神殿は神の家である。**)
- 神殿はどのような点で神の家なのでしょう。(生徒の答えはさまざまと思われますが、次のように考えるかもしれません。神殿は、神が来られる所、神の存在と御霊を感じることができる所、神の救いの業に関連する儀式が行われる所である。神殿は、地上で最も聖い礼拝の場である。)

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長による次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神殿から両替人と商人を追い出すイエスの判断が、どのように神殿の神聖さに対する理解に関係しているかを聞き取ってもらいます。



「その怒りの理由は、『わたしの父の家』という言葉に如実に表れています。そこは普通の家ではありませんでした。神の家でした。神を礼拝するために建てられた宮でした。敬虔な心で臨む場所でした。そこは人の苦悩や苦労を癒やす、天への門となるべき場所だったので。……至高者に対するイエスの深い愛が胸に火をつけ、不敬な人々の心を剣のように刺す言葉となって出たのです。」(『御名があがめられますように』『聖徒の道』1978 年 2 月号, 82 参照)

- イエスの行動は、御父の家に対するイエスの敬意をどのように表していましたか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます-わたしたちは、**神殿への敬意を** _____ に よって示します。

生徒を 2 - 3 人のグループに分けます。各グループに、この文を完成させる部分を一枚の紙にできるだけ多く書き出してもらいます。数分後、一つのグループに紙に書いたリストを発表してもらいます。最初のグループが発表している間、他のグループには、発表された内容の中で自分たちのリストにあるものの横にチェックマークをつけてもらいます。次に、別のグループに、最初のグループが発表しなかったものをリストから発表してもらいます。全てのグループが発表するまで、これを繰り返します。

- わたしたちは、どのようにしたら神殿にいないときでも神殿に対する敬意を表すことができるでしょうか。

生徒それぞれに、神殿に対する敬意を表すために出来る限り努力することが大切であると感ずる理由を、クラスノートや聖典学習帳に書くように勧めます。また、神殿に敬意を表すために一つの事柄を行う目標を書くように勧めます。目標を行動に移すように、彼らを励ましてください。

教師が、今日のレッスンで明らかにした原則についての証を述べます。

マスター聖句の復習

この活動は、いくつかのマスター聖句を紹介したり、復習したりするために使うことができます。マスター聖句カードを複数選択して、生徒たちに配る準備をしておきます。（二人以上の生徒たちが同じ聖句を受け取るように、カードごとに複数のコピーを用意しておくようにしてください。各生徒が、二つ、または三つの異なる聖句を持つに十分なカードがあるとよいでしょう。）カードを生徒たちに配ります。生徒たちが各カードにあるマスター聖句、参照、キーワード、背景、教義または原則、応用方法を研究する時間を取ります。ヒント（例えば、マスター聖句からの言葉、キーワード、背景、教義または原則、応用など）をカードから読み上げます。関連するカードを持っている生徒たちは、立ち上がってマスター聖句の参照を声に出して言います。

ヨハネ 3章

はじめに

ある晩、ニコデモという名前のパリサイ人がイエスのところにやってきて、話をしました。イエスはニコデモに、神の王国に入るには、全ての人が再び生まれなければならないとお教えに

なりました。その後、バプテスマのヨハネは、自分の役割がイエス・キリストのための道を備えることだと弟子たちに説明しました。

教えるための提案

ヨハネ 3：1－21

イエス、ニコデモに霊的な真理をお教えになる

生徒たちに、ある日友人たちと宗教について話していると、誰かが「良い人でさえいれば、天国に行ける」と言ったと想像してもらいます。この友人にどう答えるかを生徒たちに深く考えてもらいます。

生徒たちに、ヨハネ 3 章から、神の王国に入るには何をしなければならないかについて見つけるよう励まします。

主の教え導く業の初めごろ、救い主は過越の祭を祝うためにエルサレムに入られたことを説明します。エルサレムの多くの人々が、イエスが行われた奇跡を見てイエスを信じた（ヨハネ 2：23－25）。

一人の生徒に、ヨハネ 3：1－2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがエルサレムにおられた時に何が起きたかを見つけてもらいます。

- イエスを訪れたのは誰ですか。

ニコデモは、「ユダヤ人の指導者」（ヨハネ 3：1）として議会の一員であったことを説明します。議会はパリサイ人とサドカイ人で構成された統治議会で、ユダヤ人の民事および宗教的業務の多くを監督していました。

- ニコデモが夜にイエスを訪れたのはなぜだと思いますか。
- 2 節によると、ニコデモはイエスについて何を認めましたか。

ニコデモがイエスを「神からこられた教師」（2 節）であると認めたのは、ニコデモがイエスから学びたかったことを示唆していると説明します。一人の生徒に、ヨハネ 3：3－5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がニコデモにお教えになった事柄を見つけてもらいます。

- 3 節によると、救い主はニコデモに何を教えるようになりましたか。
- ニコデモは、「新しく生まれる」（3 節）という言葉によって救い主が何を意味しておられたと思ったでしょうか。

新しく生まれるとは、「主の御霊によって心の中に大きな変化が起こり、二度と悪を行おうとは思わず、それよりも神に関わる事柄を求めたいと望むようになること」（『聖句ガイド』「再び生まれる」, scriptures.lds.org 参照）であると説明します（モーサヤ 5：2；アルマ 5：14－15；モーセ 6：59 参照）。

- 5 節によると、神の王国に入るために必要だとイエスがニコデモにお教えになった二つの事柄は何でしたか。「水と霊から生まれ[る]」とはどういう意味だと思いますか。
- 霊的に生まれ変わり、日の栄えの王国に入るために必要であることについて、これらの節が教えている事柄をどのように要約しますか。（生徒たちが答えた後、生徒たちの言葉を使って次の原則をホワイトボードに書きます。霊的に生まれ変わり、日の栄えの王国で昇栄を受けるには、バプテスマを受けて聖霊の賜物を受けることが必要である。）

先ほどの、友人との話を生徒たちに思い出してもらいます。生徒たちに二人一組になってもらいます。各組の一方の生徒に、神の王国に入るために必要なのは良い人であることだけだと思っている友人になってもらいます。もう一方の生徒に、ヨハネ 3：5 を使ってその誤解を解く練習をもらいます。



ニコデモ、イエスを訪れる

ヨハネ 3：5 はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにある教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

ヨハネ 3:6 - 12 の要約として、人が生まれ変わることを可能にするものは何かとニコデモがイエスに尋ねたことを説明します。イエスは、霊的に再び生まれることが必要であること、および霊的に生まれ変わることを可能にするものが何かを知らずに、どのようにイスラエルの宗教的指導者と教師になることができるのかと問うことによって、ニコデモに答えられました。

ヨハネ 3:13 - 21 では、どのようにすれば人が再び生まれることができるかについて、救い主がニコデモに説明されたことが分かります。数人の生徒に、ヨハネ 3:13 - 15 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがどのようにニコデモの質問に答えられたのかを見つけてもらいます。

▶ 生徒たちに、ヨハネ 3:13 - 15 を声に出して読んでもらうかわりに、“*Heavenly Things*”（「天上のこと」）（8分55秒）のビデオの5分30秒から終わりまでを見せてもよいでしょう。このビデオでは、救い主がニコデモに教えているところが描写されています。他の生徒には、聖句を目で追いつながら、イエスがニコデモの質問にどのように答えられたかを見つけてもらいます。このビデオは *LDS.org* で見ることができます。

- 救い主は、ヨハネ 3:13 で御自分について何と言われましたか。（主は、御自分が天から下った神の御子であると証された。）

「モーセと青銅の蛇」（『福音の視覚資料集』16番。*LDS.org* も参照）の絵を見せます。生徒たちに、この絵が表す聖文からの記述について説明してもらいます。もし必要なら、モーセの時代に、イスラエル人が神に対して罪を犯した結果として主が毒蛇を送られたことを説明します。イスラエル人は、蛇に噛まれると体に毒が回りました。主は、さおの上に青銅の蛇を掲げるようモーセに指示され、さおに掛けられた蛇を見るイスラエル人は誰でも癒やされると約束されました。（民数記 21:4 - 9 参照）

- ヨハネ 3:14 によると、イエスは青銅の蛇が表しているものが何であると言われましたか。「十字架へのはりつけ」（『福音の視覚資料』57番。*LDS.org* も参照）の絵を見せます。
- 15節によると、救い主を見る者にはどのような祝福が与えられますか。
- これらの節から、イエス・キリストの贖罪についてどのような教義を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、必ず次の真理を強調するようにしてください。全ての人類は、イエス・キリストの贖罪を通して永遠の命を得られる。この原則をホワイトボードに書きます。）

一人の生徒に、ヨハネ 3:16 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天の御父について学ぶことができる教義を見つけてもらいます。

- 天の御父は、何のために御子を遣わされましたか。
- これらの節から、天の御父についてどのような教義を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉で表現しながら、次の教義を見つかるかもしれません。天の御父は、御自分の子供たちをととても愛しておられるので、彼らの罪のために苦しみを受けるよう御自身の独り子を遣わされた。ホワイトボードにすでに書かれている事柄にこの教義を追加します。）
- 天の御父は、御子イエス・キリストをこの世に遣わされることによって、わたしたちそれぞれに対する御父の愛をどのように示されましたか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、それぞれに対する天の御父の愛を知ることがどのような気持ちにさせるかを考えてもらいます。

「使徒ヨハネが述べた言葉以上に、神の愛には無限の力があり完全であることを立証するものはありません〔ヨハネ 3:16〕。……天の御父が、御子を遣わし、わたしたちの罪のために理解できないほどの苦しみに耐えるようにしたとき、どれほどの悲しみをお感じになったか、考えてみてください。それは、御父がわたしたち一人一人を愛しておられることの最大の証拠です。」（『愛と律法』『リアホナ』2009年11月号、26）

- 天の御父はあなたを非常に愛しておられることから、あなたのために苦しみ、亡くなられるように独り子を遣わされたことを知ってどのように感じますか。
- ヨハネ 3:16 - 17 によると、わたしたちは贖罪によってどのように救われることができますか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに付け加えます。イエス・キリストを信じる（罪を悔い改め、キリストの御言葉に従うことを含む）ならば、キリストの贖罪を通じて永遠の命を得ることができる。）



生徒たちに、ホワイトボードに書き出されているイエスがニコデモにお教えになった真理を見直してもらいます。

- これらの真理はお互いにどのように関連し合っていますか。
- イエス・キリストに対するわたしたちの信仰を示す方法を幾つか挙げてください。

悔い改めてイエス・キリストに従うことによってキリストに対する信仰を示すとき、贖罪を通じて救われ、永遠の命を得ることができることを証します。

ホワイトボードに次の文を書いてください—わたしは、_____によってイエス・キリストへの信仰を示します。生徒たちそれぞれのクラスノートまたは聖典学習帳に、イエス・キリストへの信仰を示すために何をするかを書き加えてこの文を完成してもらいます。

ヨハネ 3:22 – 36

バプテスマのヨハネ、イエスがキリストであることを教える

水がいっぱいに入った透明の容器を見せます。1, 2 滴の食品用着色料を水に加えます。

- 食品用着色料は、他人へのわたしたちの影響にどのようにたとえることができますか。
- 一人の生徒に、デビッド・O・マッケイ大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、他の人々に対するわたしたちの影響について学ぶことができる事柄を見つけてもらいます。



「この世に生を受けた人は皆、善きにつけ悪きにつけ、周囲に影響を与えています。」(『歴代大管長の教え — デビッド・O・マッケイ』 227)

「わたしたちの言葉と行いは、この世で大きな影響を及ぼします。あなたは生活のあらゆる瞬間に、世界全体の生活を多少なりとも変えているのです。」(『歴代大管長の教え — デビッド・O・マッケイ』 227)

生徒たちに、わたしたちがどのように他の人々に影響を与えることができるかについて教えるヨハネ 3:22 – 36 にある原則を見つけてもらいます。

ヨハネ 3:22 – 26 の要約として、バプテスマのヨハネの弟子たちの中には、人々がバプテスマのヨハネではなくイエス・キリストに従っていたことを心配していた弟子もいたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 3:27 – 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、バプテスマのヨハネがイエス・キリストに関連する自分の役割について理解していた事柄を見つけてもらいます。

- バプテスマのヨハネが自分の役割について弟子たちに理解して欲しかった事柄は何ですか。(バプテスマのヨハネは、イエス・キリストのために人々を備えるために、イエスより前に遣わされた。)
- バプテスマのヨハネはどのようなたとえを使いましたか (29 節)。

花婿はイエス、花嫁はキリストのもとに来る人々、花婿の友人はバプテスマのヨハネを表すことを説明します。

- バプテスマのヨハネが「彼は必ず栄え、わたしは衰える」(30 節)と言ったとき、ヨハネは何を意味していたと思いますか。これは、バプテスマのヨハネの特質について何を表していますか。
- 人々のために、バプテスマのヨハネにはできなくて、イエス・キリストがおできになったものとは何ですか。
- 他の人々に良い影響を与えるには何ができるかについて、バプテスマのヨハネの模範から何を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな真理を挙げるかもしれませんが、次のことを必ず明確にしてください。他の人々をイエス・キリストに導くことによって、彼らに良い影響を与えることができる。)
- 他の人々をイエス・キリストに導くために、わたしたちの影響力を生かすことが非常に大切であるのはなぜですか。
- 他の人々を救い主のもとに導く人を見たのは、どのようなときでしたか。

生徒たちに、他の人々を救い主に導くことができる方法について考えてもらいます。そうするために努力するときは、聖霊の導きを求めるよう生徒たちを励まします。

ヨハネ 3:31 – 36 の要約として、イエスが神から遣わされたこと、イエスを信じる者は全て永遠の命を受けるとバプテスマのヨハネが宣言したことを説明します。

 **マスター聖句—ヨハネ 3:5**

生徒たちがヨハネ 3:5 を暗記できるように、聖典学習帳に、その節にある言葉（文節で区切るとよいでしょう）それぞれの最初の文字を書き出してもらいます。最初の文字を使い、必要ならその聖句を見ながら、聖文を声に出して言う練習をするように生徒たちを励まします。最初の文字を使って節全体を言えるようになったら、その節を暗唱する練習をしてもらいます。数日間にわたって、クラスの最初または終わりにこの聖文の暗唱練習を生徒たちにしてもらうことができます。

ヨハネ 4章

はじめに

ガリラヤを旅しておられたとき、イエスはサマリヤをお通りになり、井戸で女性に教えを説かれました。女性は、イエスが

キリストであることを他の人々に証しました。その後、イエスは役人の息子を癒やされました。

教えるための提案

ヨハネ 4:1 - 42

イエス、サマリヤの女性をお教えになる

ホワイトボードに次の質問を書きます。

地球で最も価値のある天然資源は何ですか。

生徒たちにホワイトボードに書かれた質問に答えてもらいます。土、鉄、石炭、石油、金、ダイヤモンドなどの天然資源の絵を見せてもよいでしょう。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の話を読んでもらいます。

「最も価値あるものとしてまず思い浮かぶのは、金や石油、ダイヤモンドでしょうか。実は、地上の全ての鉱物、金属、貴金属、液体の中で最も貴重なものは水です。」（「生ける水の源」〔ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド、2007年2月4日、1、lds.org/broadcasts）

透明のコップに入ったきれいな水を見せます。

- きれいな水にそれほどの価値があるのはなぜですか。（一人、または二人の生徒に、水の大切さを実感する助けとなった経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。）

ヨハネ 4章を研究しながら、生徒たちにイエスが水と何を比較されたかを見つけてもらいます。

ヨハネ 4:1 - 3 の要約として、イエスがユダヤを去り、ガリラヤに向かわれたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 4:4 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスがガリラヤに旅された途中で立ち寄られた場所を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

生徒たちに、「イエス・キリストの現世での生涯早見表」（第5課にあります）でユダヤ、サマリヤ、ガリラヤを見つけてもらいます。または『聖書の地図』の地図 11「新約の時代の聖地」でこれら三つの地域を見つけてもらいます。

- イエスがサマリヤを迂回せずにそこを通られたことが重要である理由は何ですか。（ユダヤ人とサマリヤ人との間に存在した確執のため、ユダヤ人は通常サマリヤを通らずにそこを迂回して旅しました〔ジェームス・E・タルメージ『キリスト・イエス』第3版、169参照。〕）

一人の生徒に、ヨハネ 4:6 - 9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがサマリヤに立ち寄られたときに女性に何を尋ねたかを見つけてもらいます。

- イエスはこの女性に何を頼みましたか。
- イエスが水を飲ませてくれるよう頼んだときに、彼女が驚いたのはなぜですか。

「イエスとサマリヤの女」（『福音の視覚資料集』36番。LDS.orgも参照）の絵を見せま



一人の生徒に、ヨハネ 4:10 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、女性に対するイエスの答えを見つけてもらいます。

- 10 節によると、救い主は女性に何を差し出されましたか。（「神の賜物」という言葉が、この世の救い主としてのイエスを指すことを説明します。）
- 11 節によると、女性はイエスに何を尋ねましたか。

一人の生徒にヨハネ 4:13 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが差し出された水について何と言われたかを見つけてもらいます。

- イエスが差し出される水について、何と言われましたか。

一人の生徒に、デビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、水が何を表すかを聞き取ってもらいます。



「この聖句で言われている生ける水は、主イエス・キリストと主の福音のことで、水は肉体の命を維持するために必要ですが、救い主とその教義、原則、儀式は、永遠の命を得るために不可欠です。皆さんもわたしも、絶えず霊的に成長していくためには、主の生ける水を毎日十分に補給する必要があります。」
（「生ける水の源」2）

- ベドナー長老によると、生ける水とは何を表していますか。
皆に見せた水の入ったコップに、「救い主と主の福音」と書かれたラベルを貼ります。
- 水が救い主と主の福音に適切な象徴であるのはなぜですか。
- 14 節に書かれている救い主の言葉を、原則としてどのように要約することができますか。（生徒は独自の言葉を使うかもしれませんが、次の原則を見つけるはずで、イエス・キリストのみもとに来て、キリストの福音を真剣に受け入れるならば、わたしたちは永遠の命を受けると 一人の生徒に、ヨハネ 4:15 - 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、女性がイエスに求めたことと、救い主がどうお答えになったかを見つけてもらいます。

- 15 節によると、女性はイエスに何を求めましたか。

イエスの答えが、主の差し出される生ける水に対する彼女自身の必要性をこの女性が理解する助けとなったことを説明します。

- 17 - 18 節によると、イエスはこの女性について何を明らかにされましたか。（イエスの答えは、この女性が有意義で長続きする夫婦関係を見いだそうと苦心してはいるが、夫ではない男性とともに住むことによって純潔の律法を破っているということを示していることと指摘します。）
- この女性は、イエスが普通の通りすぎりには知り得ない彼女についての詳細を明らかにされたとき、何を思い、感じたと思いますか。
- 救い主の御言葉は、この女性が主の差し出された生ける水に対する自分自身の必要性を理解するためにどのように役立ったと思いますか。
- これらの節から、救い主についてどのような真理を何を学ぶことができますか。（生徒たちが答えた後、ホワイトボードに次の真理を書いてください。イエス・キリストはわたしたちの罪を御存じであり、それらを克服する助けとするためにキリストの福音をお与えになる。）
- この真理を理解することが大切であるのはなぜですか。

一人の生徒に、ヨハネ 4:19 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この女性がイエスに言ったことを見つけてもらいます。

- この女性が言ったことのうち、イエスに対する彼女の認識が変わりつつあったことを表すものはどれですか。

サマリヤにはゲリジム山という名前の山があることを説明します。救い主の現世における教え導く業から何世紀も前に、サマリヤ人は礼拝の場としてそこに神殿を建てました。しかし、ユダヤ人と違ってサマリヤ人には儀式を行う神権の権能がなく、神の預言者の多くの教えを拒否しました。

数人の生徒に、ジョセフ・スミス訳のヨハネ 4:26 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を含む、ヨハネ 4:21 - 23 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが神を礼拝することについて女性に教えた事柄を見つけてください。

- 真の礼拝者は、天の御父をどのように礼拝しますか。
- ジョセフ・スミス訳によると、わたしたちが神を「霊とまこととをもって」礼拝するときどのような祝福を受けますか。
- これらの聖句からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を見つけるはずです。霊とまこととを持って御父を礼拝するならば、御父はわたしたちを御霊で祝福してください。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、霊とまこととをもって礼拝するという意味を見つけ、それに印をつけてもらいます。



「わたしたちの目的は、真の生ける神を礼拝し、それを御霊の力で、神によって定められた方法で行うことです。真の神に対する承認された礼拝は、救いに繋がります。偽の神にささげられた献身と、永遠の真理に基づかない献身にそのような保証はありません。

真の礼拝には、真理の知識が必要不可欠です。……

……真の完全な礼拝は、神の御子の足跡に従うことにあり、それは、キリストが御父の栄光を受けられたように私たちが御子の栄光を受けるまで、恵みから恵みへと前進するようになるまで戒めを守り、天の御父の御心に従うということです。それは、祈り、説教、歌をはるかに超えるものです。生き、行い、従うことです。偉大な模範〔であるイエス・キリスト〕の生涯を見習うことです。】(“How to Worship,” *Ensign*, 1971年12月号, 129 - 130)

- マッコンキー長老によると、霊とまこととをもって神を礼拝するとはどういう意味ですか。
- あなたが霊とまこととをもって礼拝する努力をしたときに祝福されたのは、どのようなときでしたか。

生徒たちに、霊とまこととをもって御父をより良く礼拝するためには何をすることができるかを考えてもらいます。

- 一人の生徒に、ヨハネ 4:25 - 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自身について女性に明かされた事柄を見つけてもらいます。
- イエスは、御自身について女性に何を明かされましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 4:27 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主と話した後で女性が何をしたかを見つけてもらいます。

- この女性は、救い主と話した後で何をしましたか。
- 彼女が言ったことの中で、イエス・キリストの証を得たことを示すものは何ですか。
- この記述から、イエス・キリストの証を得ることによって何が起るかについてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見つけるはずです。イエス・キリストの証を得るとき、わたしたちはそれを他の人々と分かち合う望みに満たされる。)

31 - 37 節の要約として、イエスの弟子たちが食物を持って戻ったことを説明します。弟子たちがイエスに食物を食べよう勧めたとき、イエスは食べることによってではなく、御父の御心を行うことによって支えられているとお教えになりました。その後、イエスは弟子たちに福音を宣べ伝える機会が豊富にあることを認識するように言われました。

一人の生徒に、ヨハネ 4:39 - 42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、女性の住む町の人々に対する彼女の証の影響を見つけてもらいます。

- 女性の証は、彼女の住む町の人々に対してどのような影響を与えましたか。
- 42 節によると、人々は彼女に何を言いましたか。

救い主を知り、主の生ける水を頂くことによって、わたしたちは主に対する私たちの証を他の人々と分かち合う望みに満たされることを証してください。

沈黙を恐れない

生徒は質問にすぐには返答しないかもしれませんが、この沈黙を心配することはありません。質問された事柄について、また、どのように答えるかについて、時には生徒たちにじっくり考える時間を与える必要があります。このようによく考えることによって、聖霊による教えが促されます。

ヨハネ 4:43 – 54

イエス、役人の息子を癒やされる

ヨハネ 4:43 – 45 の要約として、サマリヤの女性を教えた後、イエスはガリラヤに入れられ、人々に歓迎されたことを説明します。

次の配付資料のコピーを生徒に配ります。生徒たちに、ヨハネ 4:46 – 54 を黙読して、配付資料の質問に答えてもらいます。

ヨハネ 4:46 – 54

1. 誰がイエスのみもとに来ましたか。その人はどのような祝福を救い主に求めましたか。
2. イエスの言われたことに基づくと、イエスがこの男性の求めた祝福をすぐにお授けにならなかったのはなぜですか。
3. この男性は、信じるためにしるしを必要としないことをどのように示しましたか。
4. 51 – 53 節によると、この男性のイエス・キリストに対する信仰はどのように裏付けられましたか。
5. この男性の経験からどのような原則を学べるでしょうか。

十分な時間を取ってから、生徒たちに答えを発表してもらいます。この役人の経験から学んだ原則を生徒たちが発表するときに、彼らが次の真理を見つけるよう助けてください。しるしを必要とすることなくイエス・キリストを信じる時、主はわたしたちの信仰を確認してくださる。

- しるしを必要とすることなくイエス・キリストを信じるのが大切なのはなぜですか。
- わたしたちが主に対する信仰を働かせるときに、主はどのような方法でそれを確認してくださいですか。

信仰を持って主を求めるとき、主はわたしたちの信仰を維持するための証拠によってわたしたちを祝福してくださるという証を述べて、レッスンを終わります。

はじめに

救い主はエルサレムの祭（おそらく過越の祭）に参加され、ベテスダの池で弱った人を癒やされました。イエス・キリストは、御自分が天の御父の代理であることをお教えになり、人々

が神の御子を敬う必要がある理由を説明されました。また、イエスの神性について証した他の証人（または証するもの）についても説明されました。

教えるための提案

ヨハネ5：1－30

イエスは安息日に衰弱した人を癒やされ、イエスと御父の関係を教えられる

割れて破片になったつぼまたは皿の絵を見せます（ホワイトボードに割れた皿の絵を描くこともできます）。

何か大切なもの、または価値のあるものを壊したことがある生徒に手を挙げてもらいます。天の御父の子供として、わたしたちが重要であり、かつ非常に価値のある者であることを説明します。しかし、自分自身の選択や直面する苦難のため、自分が傷ついている、または価値がないと感じることもあります。

- 人が霊的、肉体的、または精神的に傷ついていると感じる場合の例を挙げてください。（生徒たちの回答をホワイトボードに書きます。）

ヨハネ5：1－9を研究しながら、傷ついていると感じるときにわたしたちを慰め、希望を与える助けとなる真理を見つけてもらいます。

ヨハネ5：1の要約として、イエス・キリストがガリラヤで教え導かれた後、イエスはユダヤ人の祭、おそらく過越の祭を守るためにエルサレムに旅されました。エルサレムにおられた時、イエスは神殿の近くの池に行かれました。

一人の生徒に、ヨハネ5：2－4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、池に誰が集まっていたかを見つけてもらいます。

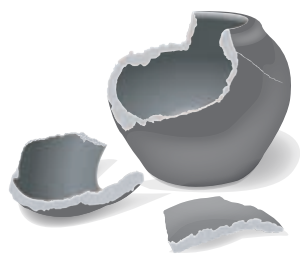
- ベテスダの池にはどのような人たちが集まっていましたか。（「病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者」〔3節〕が、病気にかかっている、衰弱している、体に何らかの障がいがある人を表していることを指摘します。）
- 苦しむ人々は何を待っていましたか。（そこには時折池に流れ込む泉があって、水の表面を泡立たせていた可能性があり、それが人々の病気にいくらか効き目があったのかもしれないことを説明します〔*Bible Dictionary*, “Bethesda”の項参照。〕）

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「ベテスダの池は鉱泉であり、その水に治癒的な効能があったことは間違いない。しかし、天使が来て水を揺らし、その後に最初に池に入った者が癒やされるというのは、まったくの迷信であった。癒やしの奇跡は、そのような方法でもたらされるものではない。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1965－1973年〕, 第1巻, 188）

- 天使が池に最初に入る者が癒やされるようにしたという信心について、マッコンキー長老は何を教えましたか。
- 最初に池に入ることによって癒やされることを望む大勢の人たちがいたその池の光景は、どのようなものであったと思いますか。

数人の生徒に、ヨハネ5：5－7を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが池の近くで寝ているのを御覧になったのが誰だったかを見つけてもらいます。



生徒に「ベテスダで病人を癒すキリスト」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』42番。LDS.orgも参照）。

- これらの節は、救い主が御覧になった人をどのように説明していますか。

生徒たちに、ヨハネ 5:8-9 を黙読してもらい、その人に対する救い主の返答を見つけてもらいます。生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。生徒に、「この人はすぐに癒され」（9節）という表現に印をつけてもらうとよいでしょう。

ホワイトボードに「ベテスダ」という言葉を書きます。「ベテスダ」は、憐れみの家と訳すことができると説明します（*Bible Dictionary*, "Bethesda" の項）。ホワイトボードに書いた「ベテスダ」の横にこの定義を書きます。憐れみとは、思いやりと優しさであると説明します。これまでで最も偉大な憐れみ深い行為は、イエス・キリストの贖罪でした。

- 「ベテスダ」が、特に救い主がこの人を癒やした後で、この場所に適切な名前であったのはなぜですか。
- わたしたちは皆、どのような意味でベテスダの池のふちにいたこの人に似ていますか。
- 主によるこの人の癒やしから、わたしたちはどのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言い回しをしますが、イエス・キリストの御力と憐れみを通じて、わたしたちは癒やされることを強調してください。）

この真理を生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、管理ビショップとして奉仕していたときにメルル・J・ベイトマン長老が話した見解から次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がわたしたちを癒やされる方法を聞き取ってもらいます。

「ベテスダの池にいた足の不自由な人が、癒やされるために自分よりも強い人を必要としたように（ヨハネ 5:1-9 参照）、わたしたちは嘆きや悲しみや罪から癒やされるために、キリストの贖罪の奇跡に頼るのです。……キリストを通して、傷ついた心が癒やされ、不安や悲しみが平安に変わります。」（『内から癒す力』『聖徒の道』1995年7月号、14）

- イエス・キリストの憐れみとキリストの贖罪を通じてわたしたちが癒やされて元気になる方法には何がありますか。（わたしたちは、この世か次の世のどちらかで癒やされることを説明するとよいでしょう。）
- わたしたちは、救い主の贖罪による憐れみと癒やしを受けるために何をしなければなりませんか。

イエス・キリストの御力、憐れみ、思いやりが、霊的、肉体的、精神的に傷ついていたあなた、または誰かの助けとなったのを実際に見たり感じたりしたときのことを深く考えてもらいます。次の未完成の文をホワイトボードに書きます— _____ という理由から、わたしは救い主が憐れみ深く思いやりのある御方だと知っています。

生徒たちに、どのようにこの原則を完成するかを考えてもらいます。数人の生徒に、答えを発表してもらいます。

ヨハネ 5:10-16 の要約として、救い主はその後神殿でその人に会い、「もう罪を犯してはいけない」と勧告された（ヨハネ 5:14）ことを説明します。その人が安息日にイエスによって癒やされたことを知ったユダヤ人の指導者は、救い主を責め、殺そうとしました。

一人の生徒に、ヨハネ 5:17-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人指導者たちがイエスに怒りを感じていた別の理由を見つけてもらいます。

17節に記されているとおり、救い主は、その人を癒やすことによって天の御父の業を行っていたとユダヤ人指導者たちにお教えになりました。その後、救い主は御父との関係について教えられました。

- 18節によると、ユダヤ人指導者たちがイエスに怒りを感じていた別の理由とは何ですか。（神が御父であると言われ、それゆえに御自身が神と同等であるとイエスが主張されたため、イエスに冒瀆の罪があると考えた。）

ホワイトボードに次の質問を書きます。「救い主は、天の御父との関係について何をお教えになりましたか。」生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組に、ヨハネ 5:19-22, 26-27, 30 を一緒に声に出して読んでもらいます。この質問に対する答えを見つけてもらいます。



十分な時間を取った後で、生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。次の真理をホワイトボードに書いて、この質問への生徒たちの答えを要約します。イエス・キリストがなさる全てのことは、天の御父の代理としてであり、御父の御心に従うことを求めておられる。救い主は、わたしたちが同じことをするように勧めておられると説明します。

- イエスがなさること全てにおいて、天の御父の完全な代理人であられることを理解することが大切なのはなぜですか。

ヨハネ 5:31 - 47

イエス、御自身の神性を証する多くの証人について教えられる

殻に入ったままの小さな豆をクラスに持ってきます（ちいさなえんどう豆などでもよいでしょう）。生徒たちに見えないように、その豆を手の中に持ちます。教師のあなたが、これまでに誰にも目撃されたことがなかった物を持っていると説明します。あなたを信じるといふ人に手を挙げてもらいます。それが本当かどうかよくわからない生徒の一人に、あなたの手の中の物を見てもらう数人の生徒を選んでもらいます。これらの生徒たちにその物を見せ、あなたが本当のことを言っているかどうかをクラスに伝えてもらいます。

- あらゆる主張の真実性は、二人以上の証人によってどのように強められますか。

生徒全員に豆を見せ、その中身を実際に見た人はいないことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 5:31 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主と天の御父の関係に対する主御自身の証言について、主が何とおっしゃったかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

ジョセフ・スミス訳が 31 節と 32 節を明らかにしていることを指摘します。「……もし、わたしがわたし自身の証を述べたとしても、わたしの証は真実である。それは、わたしが一人ではないからである。」（ジョセフ・スミス訳ヨハネ 5:32 - 33）。救い主は、ユダヤ人には主の言葉以外にも証人（または証するもの）が存在することをユダヤ人に教えておられたと説明します。

ホワイトボードに次の聖句の参照箇所を書いてください。ヨハネ 5:32 - 35; ヨハネ 5:36; ヨハネ 5:37 - 38; ヨハネ 5:39; ヨハネ 5:45 - 47 それぞれの参照聖句を一人、または数人の生徒に割り当てます。生徒たちにこれらの節を読み、イエスの神性についての他の証人（または証するもの）を見つけてもらいます。ホワイトボードにある割り当てられた参照聖句の横に見つけた証人（または証するもの）を書いてもらい、生徒たちがこれらの証人のリストを作ることができるようになります。

リストを作る

リストとは、一連の関連する概念、教えのことです。教師と生徒にとって、聖文中にリストを探すことは、聖文の中で強調されている要点を明確にするのに役立ちます。

イエス・キリストの証人が数多く存在したにもかかわらず、ユダヤ人指導者たちはイエスの神性を信じませんでした。39 節では、イエスが聖文についてお話しになったとき、イエスは「聖書の中に永遠の命があると思って [いる]」と言われました。

- イエスがユダヤ人に指摘された誤った考えとは何ですか。（イエスの時代、多くのユダヤ人は、聖文を研究するだけで永遠の命を受けられることができると信じていたことを説明します。ユダヤ人は、聖文の目的が彼らをイエス・キリストに向かせることであると理解しませんでした。イエスは本質的に、「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と言われました。）

一人の生徒に、ヨハネ 5:40 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、永遠の命を得るためにユダヤ人がしなければならなかったことを見つけてもらいます。

- ユダヤ人は聖文を研究しましたが、彼らが拒絶した事柄で、永遠の命を受けるためにふさわしくなる助けとなり得たものは何ですか。
- 39 節と 40 節にある救い主の教えによると、わたしたちは永遠の命を受けるために何をしなければなりませんか。（生徒たちが次のような原則を見いだすように助けてください。永遠の命は、イエス・キリストのみもとに来ることによってのみ受けることができる。ホワイトボードにこの原則を書いてください。）

永遠の命には、天の御父のようになること、御父のみもとでふさわしい家族とともに永遠に住むことが含まれることを生徒たちに思い出してもらいます。

- キリストのもとに来るとはどのような意味ですか。（キリストのもとに来るとは、キリストへの信仰を實踐し、罪を悔い改め、キリストの戒めに従うことである。）
- キリストのもとに来ることが、永遠の命を受けることに必要不可欠であるのはなぜですか。

ホワイトボードに書き出した証人は、誰かがキリストのもとに来るためにどのように助けとなるかについて、生徒に考えてもらいます。

- これらのイエス・キリストの証人の誰かが、キリストのもとに来るようにあなたを助けたことはありますか。それはどのようなときでしたか。

永遠の命を受けることができるように、より完全に救い主のもとに来るためにこれから何をするかを、生徒たちに深く考えてもらいます。

ヨハネ 5 章で教えられた真理を証して、レッスンを終わります。

ヨハネ 6 章

はじめに

イエスが5,000人を超える人々に奇跡的に食物をお与えになった翌日、イエスは御自分が命のパンであることをお教えになりました。イエスに従った人々の何人かがイエスの教えを拒

絶し、イエスに背を向けました。これに反し、ペテロはイエスが永遠の命の言葉を教え、神の御子であられることを証しました。

教えるための提案

ヨハネ 6：1－21

イエス、5,000人以上の人々に奇跡的に食物をお与えになり、海の上を歩かれる

エルサレムで御自分の神性について証された後（ヨハネ 5 章参照）、救い主はガリラヤに戻られ、ここで主と使徒たちは福音を教え、多くの人々を癒やしました（マタイ 5－13 章）。イエスはその後、弟子たちとともにガリラヤの海を渡られ、5,000人以上の群衆に奇跡的に食物をお与えになりました（ヨハネ 6：1－13 参照）。

一斤のパンを見せます。生徒たちに、救い主が5個のパンと2匹の小さな魚で5,000人以上の人々に食物をお与えになった記述を要約してもらいます。

- この奇跡が起こったときにその場において、イエスが奇跡的に食物を与える力をお持ちであることを学んだとしたら、何を思ったでしょうか。

一人の生徒に、ヨハネ 6：14－15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々に奇跡的に食物をお与えになった後、彼らが何をしたかったかを見つけてもらいます。

- 人々は何をしたいと思いましたか。

イエスの時代のユダヤ人たちの言い伝えでは、メシヤ、すなわちイスラエルの王が来られたときには、その方は天からのパンを食べさせてくださると言われていたことを説明します。

- 15 節によると、人々によって王とされるかわりに、イエスは何をされましたか。
- イエスが、ユダヤ人の王として認識されたくなかったのはなぜですか。

ヨハネ 6：16－21 を次のように要約します。「救い主は弟子たちをガリラヤの海の向こう岸に送られました。その夜遅く、弟子たちは、強い波と風の中で舟を漕ぐことに難儀していました。そのとき、イエスが海の上を歩いて彼らのもとに来られました。」この出来事のヨハネの記述では、彼らが「喜んで」イエスを舟に迎えると、舟が「すぐ」に彼らの目的地に安全に到着した（21 節）ことが強調されていると指摘します。わたしたちが救い主と主の教えを喜んで受け入れるとき、主は現世における苦勞の最中でわたしたちを安全に導いてくださることを説明します。

ヨハネ 6：22－59

イエスは御自分が命のパンであると教えられる

ヨハネ 6：22－25 には、イエスが奇跡的に食物をお与えになった人々の多くが、イエスを求めてカペナウムに旅したことが記録されています。

一人の生徒に、ヨハネ 6：26－27 とジョセフ・スミス訳ヨハネ 6：26（「イエスは彼らに答えて言われた。『よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしたちを尋ねているのは、わたしの言ったことを守りたいためではなく、しるしを見たためでもなく、パンを食べて満腹したからである。』」）を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々に言われたことを見つけてもらいます。

- 救い主によると、これらの人々が主を求めたのはなぜでしたか。（救い主の御言葉は、彼らをもっと食物をもらうために主に従ったことを示唆しています。）
- 救い主は、彼らが何を求めるべきだとおっしゃいましたか。

「永遠の命に至る朽ちない食物」(27 節) が、救い主の福音の永遠の真理を指すことを説明します。

- これらの節は、イエスがこの群衆に御自分を王とすることをお許しにならなかった理由を理解するために、どのように役立ちますか。

一人の生徒に、ヨハネ 6:28 - 31 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスがメシヤであられることをさらに証明するため、人々がイエスに何を求めていたかを見つけてもらいます。

- 人々はイエスに何をするように求めましたか。(マナとは、イスラエルの子供たちが荒野をさまよっていたときに神が彼らにお与えになった「天よりのパン」[31 節]であることを説明します。)
- 前の日に救い主が行われたことを考えると、この要求は群衆について何を示していますか。
- 今日イエス・キリストに従う者として、この群衆のような態度をとりたくなる場合を幾つか挙げてください。

何人かの生徒に、ヨハネ 6:32 - 35 を順番に読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、しるしを求める人々に対する答えとして救い主が何を教えたかを見つけてもらいます。

- 救い主は、マナ、つまり天よりのパンに言及されたとき、御自身について何を教えたになりましたか。

35 節にある「わたしが命のパンである」という句に印をつけ

- 救い主とその教えは、どのようにパンにたとえることができますか。
- イエス・キリストのみもとに来る人は「決して飢えることがな [い]」とはどういう意味だと思えますか (35 節)。
- 35 節にある救い主の教えから、わたしたちはどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけるはずです。イエス・キリストのみもとに来るならば、イエスはわたしたちを霊的に養ってください。ヨハネ 6:35 の近くの空白部分に、この原則を書くように生徒たちに提案するとよいでしょう。)

ホワイトボードに次の未完成の文を書きます—

わたしたちは _____ によって、 イエス・キリストは _____ によって、
イエス・キリストのみもとに来ま わたしたちを養ってくださいます。
ず。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれのクラスノートまたは聖典学習帳に、イエス・キリストのみもとに来るためにできる事柄や、キリストがわたしたちを霊的に養われる方法のリストを共同で作ってもらいます。何人かの生徒に答えを発表してもらいます。

生徒たちが 35 節で見いだした原則が真実であり、重要であると感じることができるように、救い主のもとに来て霊的な養いを受けたときにどのように感じたかについて、数人の生徒に分かち合ってもらっても考えてください。

ヨハネ 6:36 - 47 の要約として、救い主が御自分について天よりのパンであるとお教えになったことから、文句を言う人がいたことを説明します。

救い主がお教えになったさらなる原則を見いだすよう生徒たちを備えるため、数人の生徒たちにクラスの前に出てもらい、それぞれにパンを一切れずつ渡します。彼らにパンの匂いを嗅いでもらい、どのような味がするかを想像してもらいます。

- このパンの匂いを嗅ぎ、どのような味がするかを想像しながら、それを一日中持ち歩いたとすると、このパンはどれだけ良くあなたを養うことができますか。
- そのパンが提供する益を得るには、何をしなければなりませんか。

数人の生徒に、マタイ 6:49 - 54 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、クラスメートのパンの経験が、これらの節で救い主がお教えになった事柄とどのような関連があるかを見つけてもらいます。

- 命のパンと通常のパンとの違いは何ですか。(少しの間だけわたしたちを満足させるパンとは違い、イエス・キリストは永遠に続く祝福を提供してください。)

注釈を施すよう生徒を励ます聖文に印をつけ

注釈を施すよう生徒を励ますことで、学んだことに注意を払い、忘れないように生徒を助けることができます。印をつけるとは、明示する、区別する、際立たせる、あるいは留意を促すことです。そのために、大切な言葉や語句に傍線を引いたり、色を塗ったり、線で囲んだりします。注釈を施すとは、解説の言葉や論評を書き加えることです。聖典への印と注釈のつけ方や、つけるかどうかも生徒に選ばせてください。印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

51 節の次の句に注目してもらいます。「わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」

- 救い主は、この世の生命のためにどのように主の肉と血を差し出されましたか。
- 53 - 54 節によると、救い主は人々に何をしようお教えになりましたか。

救い主が「食べる」および「飲む」という言葉を象徴的にお使いになったことを説明します。救い主の教えを理解するよう助けるため、パンを食べたい生徒がいないか尋ねて、数人の生徒たちにパンを食べてもらいます。その後、席に戻ってもらいます。

- パンを食べると、そのパンと栄養素はどうなりますか。(ビタミンと栄養が体の一部となり、体に力と健康を提供する。)
- イエス・キリストの肉を食べ、血を飲むとは、何を意味すると思いますか。(キリストの教えと贖罪を取り入れることができるという意味になり得ます。また、後ほど救い主が設けられる聖餐を受けることを表す場合もあります。)
- 54 節によると、イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れる、つまり応用する場合、わたしたちはどのような祝福を受けることができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れる、つまり応用するとき、わたしたちは永遠の命を得ることができます。)

生徒たちに次の質問について深く考えてもらってから、数人にそれぞれの答えを発表してもらいます。

- わたしたちは、イエス・キリストの教えと贖罪をどのように取り入れていますか。(可能な答えには、文字通りの神の御子としてイエス・キリストを受け入れる、毎週聖餐を受ける、戒めを守る、義を持って最後まで耐え忍ぶなどがあります [ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 (1965 - 1973 年), 第 1 巻, 358 参照]。)

永遠の命とは、天の御父と御子イエス・キリストとともに永遠に生き、御父と御子のようになることであると説明します。一人の生徒に、ヨハネ 6:56 - 57 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れるときに、わたしたちがどのように御父と御子のようにになれるかを見つけてもらいます。分かったことを発表してもらいます。

救い主はわたしたちと物理的に住まれるわけではなく、主の聖なる影響がわたしたちとともにあり、より主と天の御父のようになるためにわたしたちを助けてくださるということを説明します。

生徒が見いだした真理について証を述べてください。クラスノートや聖典学習帳に、救い主の贖罪、または主の教えの一つをどのようにより良く取り入れるかについての目標を書くよう生徒たちに勧めます。

ヨハネ 6:60 - 71

ペテロ、イエスが永遠の命の言葉をお持ちであることを証する

ホワイトボードに次の質問を書きます—継続しますか? やめてしまいますか?

生徒たちに、何か難しいことを継続するかやめてしまうかを選択しなければならなかったときのことを考えてもらいます。一人か二人の生徒に、彼らの経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。

イエスがヨハネ 6 章に記録された説教をお教えになった後、イエスの弟子たちも同じような決断に直面したことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 6:60, 66 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの教えに対する多くの弟子たちの反応を見つけてもらいます。

- イエスの弟子たちの多くがイエスに従うことをやめる決断をしたのはなぜですか。(「これは、ひどい言葉だ」[60 節] という句が、従うにはイエスの教えが難しすぎると彼らが感じたという意味であることを説明します。)
- 主の戒めを守ることが難しいと思う人がいるのはなぜですか。
 - 一人の生徒に、ヨハネ 6:67 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストが十二使徒たちに尋ねられたことを見つけてもらいます。
- 救い主は十二使徒たちに何を尋ねられましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 6:68 - 69 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、シモン・ペテロが救い主にどう答えたかを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

- 救い主に従う、または主の教えに従って生活することが難しいときに、信仰を保つための助けとなるどのような真理を、ペテロの返事から学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストへの確固とした証は、救い主に従う、または主の教えに従って生活することが困難な時に忠実であるための助けになる。)
- 救い主への確固とした証は、救い主への確固とした証は、あなたやあなたの知人にとって、福音の教えに従うことが難しいときでさえも忠実であるために、どのような助けとなりましたか。

福音の教えに従って生活することが難しいときは、イエス・キリストについての証に頼るように生徒たちを励まします。イエス・キリストへの確固とした証がないと感じる生徒たちに、イエスの教えと贖罪を取り入れるよう努力することによって彼らの証を強めるように勧めます。

家庭学習クラスのレッスン

ヨハネ 2 - 6 章 (単元 13)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヨハネ 2 - 6 章 (単元 13) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ヨハネ 2 章)

水をワインに変えた救い主の最初の奇跡について読んだとき、生徒たちはイエス・キリストが物理的な要素を構成する力をお持ちであることを学びました。また、救い主が御自分の母を愛し、尊敬しておられたことも学びました。イエスが神殿を清められたという記述を研究したとき、生徒たちは神殿が神の宮であることを学びました。

第 2 日 (ヨハネ 3 章)

救い主のニコデモに対する教えから、生徒たちは次の真理を学びました。霊的に再び生まれて、日の栄えの王国で昇栄を受けるには、バプテスマを受けて聖霊の賜物を受けることが必要である。全人類は、イエス・キリストの贖罪を通じて永遠の命を得ることができる。天の御父は子供たちを非常に愛しておられるので、子供たちの罪の苦しみを引き受けるよう神の独り子を遣わされた。イエス・キリストを信じる (罪を悔い改め、キリストの御言葉に従うことを含む) ならば、キリストの贖罪を通じて永遠の命を得ることができる。バプテスマのヨハネの模範から、生徒たちは他の人々をイエス・キリストに導くことによって、彼らが良い方向に導くことができると学びました。

第 3 日 (ヨハネ 4 章)

井戸で救い主がサマリヤ人の女性に教えた事柄を読んで、生徒たちは次の真理を学びました。イエス・キリストのみもとに来て、キリストの福音を真剣に受け入れるならば、わたしたちは永遠の命を受ける。イエス・キリストはわたしたちの罪を御存じであり、それらを克服する助けとするためにキリストの福音をお与えになる。霊とまことを持って御父を礼拝するならば、御父はわたしたちを御霊で祝福してください。イエス・キリストの証を得るとき、わたしたちはそれを他の人々と分かち合う望みに満たされる。

第 4 日 (ヨハネ 5 - 6 章)

体が衰えた人を癒やされた救い主について読んだとき、生徒たちはイエス・キリストの御力と憐れみを通じて癒やされると学びました。また、永遠の命は、イエス・キリストのみもとに来ることによってのみ受けることができると学びました。生徒たちは、命のパンについての救い主の説教から、イエス・キリストへの確固とした証は、救い主に従う、または主の教えに従って生活することが困難な時に信仰を保つための助けになることも学びました。

はじめに

イエスが 5,000 人を超える人々に奇跡的に食物をお与えになった翌日、イエスは御自分が命のパンであることをお教えになりました。

教えるための提案

ヨハネ 6:22 - 59

イエス、御自分が命のパンであると教えられる

一斤のパンを見せます。一人の生徒に、救い主が 5 個のパンと 2 匹の小さな魚で 5,000 人以上の人々に食物をお与えになった記述を要約してもらいます。

- この奇跡が起こったときにその場において、イエスが奇跡的に食物を与える力をお持ちであることを学んだとしたら、何を思ったでしょうか。

ヨハネ 6:22 - 25 には、イエスが奇跡的に食物をお与えになった人々の多くが、イエスを探してカペナウムに旅したことが記録されていると説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 6:26 - 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々に言われたことを見つけてもらいます。

この内容は、次のジョセフ・スミス訳によって明らかであることを説明します。「イエスは彼らに答えて言われた。『よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたがわたしたちを尋ねているのは、わたしの言ったことを守りたいためではなく、しるしを見たためでもなく、パンを食べて満腹したからである。』」(ジョセフ・スミス訳ヨハネ 6:26)

- 救い主によると、これらの人々が主を求めたのはなぜでしたか。(救い主の御言葉は、彼らももっと食物をもらうために主に従ったことを示しています。)
- 救い主は、彼らは何を求めべきだとおっしゃいましたか。

「永遠の命に至る朽ちない食物」(ヨハネ 6:27) が、救い主の福音の永遠の真理を指すことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 6:28 - 31 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがメシヤでおられることをさらに証明するために人々がイエスに求めた事柄を見つけてもらいます。

- 人々はイエスに何をするように求めましたか。(マナとは、イスラエルの子供たちが荒野をさまよっていたときに神が彼らにお与えになった「天よりのパン」〔ヨハネ 6:31〕であることを説明します。出エジプト 16:14 - 15, 35 参照)

数人の生徒に、ヨハネ 6:32 - 35 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、しるしを求めた人々への答えとして救い主が何を教えたかを見つけてもらいます。

- 救い主が天よりのパンであるマナに言及されたとき、救い主は御自身について何を教えたになりましたか。

ヨハネ 6:35 にある「わたしが命のパンである」という表現に印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

- 救い主と主の教えは、どのようにパンにたとえることができますか。
- イエス・キリストのみもとに来る人は「決して飢えることがな〔い〕」(ヨハネ 6:35) とはどういう意味だと思いますか。(考えられる回答には、キリストが彼らを霊的に養ってくださるなどがあります。)
- 35 節にある救い主の教えから、わたしたちはどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけるはずで**イエス・キリストのみもとに来るならば、イエスはわたしたちを霊的に養ってくださる。**ホワイトボードにこの原則を書きます。)

ホワイトボードに次の未完成の文を書きます—

わたしたちは _____ によって イエス・キリストは _____
イエス・キリストのみもとに によってわたしたちを養って
来ます。 くださいます。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれのクラスノートまたは聖典学習帳に、イエス・キリストのみもとに来るためにできる事柄と、キリストがわたしたちを霊的に養われる方法のリストを共同で作ってもらいます。何人かの生徒に答えを発表してもらいます。

救い主のみもとに来たときに霊的な養いをどのように受けたかを、数人の生徒に分かち合ってもらおうとよいでしょう。

救い主がお教えになったさらなる原則を見いだすよう生徒たちを備えるため、数人の生徒たちにクラスの前に出てもらい、それぞれにパンを一切れずつ渡します。彼らにパンの匂いを嗅いでもらい、どのような味がするかを想像してもらいます。

- このパンの匂いを嗅ぎ、どのような味がするかを想像しながら、それを一日中持ち歩いたとすると、このパンはどれだけ良くあなたを養うことができますか。
- そのパンがもたらす益を得るには、何をしなければなりませんか。

数人の生徒に、マタイ 6:49 - 54 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、クラスメートのパンの経

験が、これらの節で救い主がお教えになった事柄とどのような関連があるかを見つけてもらいます。

- 命のパンと通常のパンとの違いは何ですか。(少しの間だけわたしたちを満足させるパンとは違い、イエス・キリストは永遠に続く祝福を提供してくださる。)

- 53 - 54 節によると、救い主は人々に何をしようお教えになりましたか。

救い主が「食べる」「飲む」という言葉を象徴的にお使いになったことを説明します。クラスが救い主の教えを理解するのを助けるため、希望する数人の生徒たちにパンを食べてもらいます。その後、席に戻ってもらいます。

- パンを食べると、そのパンと栄養素はどうなりますか。(ビタミンと栄養が体の一部となり、体に力と健康を与える。)

- イエス・キリストの肉を食べ、血を飲むとは、何を意味すると思いますか。(キリストの教えと贖罪を取り入れることができるという意味になり得る。また、後ほど救い主が定められることになる聖餐を受けることを表す場合もある。)

- ヨハネ 6:54 によると、イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れる、つまり応用する場合、わたしたちはどのような祝福を受けることができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。**イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れる、つまり応用するとき、わたしたちは永遠の命を得ることができます。**)

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れることができる方法としてマッコンキー長老が語った内容を見つけてもらいます。



「神の御子の肉を食べ、血を飲むということは、まず最初に、何のためらいもなく、永遠の御父の肉体を持つ個人的な御子として、文字通り完全に御子を受け入れること、第二に、御子の福音を受け入れる、御子の教会に加わる、そして従順と義を持って終わりまで耐え忍ぶことによって御子の戒めを守ることです。この過程によって御子の肉を食べて血を飲む者は、永遠の命をもつ、つまり日の栄えの世における最上の天国において昇栄を受けるのです。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 358)

- マッコンキー長老は、イエス・キリストの教えと贖罪をどのように取り入れるよう提案しましたか。

永遠の命とは、天の御父と御子イエス・キリストとともに永遠に生き、御父と御子になることであると説明します。一人の生徒に、ヨハネ 6:56 - 57 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの教えと贖罪を取り入れるときに、どのように御父と御子になれるかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

救い主がわたしたちの中に実際に住まれるわけではなく、主の聖なる影響がわたしたちとともにあり、より主と天の御父のようになるためにわたしたちを助けてくださるということを説明します。

ヨハネ 6:59 - 66 の要約として、イエスの弟子たちの何人がイエスの教えを拒み、イエスに従わなかったことを説明します。

教師は、生徒が見いだした真理について証を述べてください。クラスノートまたは聖典学習帳に、救い主の贖罪、または主の教

えの一つをどのようにより良く取り入れるかについての目標を書くよう生徒たちに勧めます。

次の単元 (ヨハネ 7 - 10 章)

生徒たちに、次の単元では、イエス・キリストが姦淫を犯したことで捕らえられた女性にどのように対応され、彼女を殺そうとしていた群衆を追い払うために何を言われたかを学ぶことを伝えま

す。生徒たちに目を閉じてもらい、目が見えないとはどのようなものであるかを想像してもらおうとよいでしょう。その後、見えないう目を癒やしてもらい、初めて見えるようになったときにどのように感じるかを想像してもらいます。生徒たちは、実際の視力を得ただけでなく、イエスがキリストであり、神の御子であるという霊的な視力も得た盲目の人について読むことになります。また、救い主が御自分を良い羊飼いと呼ばれた理由、および御父からどのような力を受けたとおっしゃったかについても学びます。

第66課

ヨハネ7章

はじめに

イエスはエルサレムで仮庵の祭に参列されました。イエスは神殿に行き、御自分の教えが御父である神からのものであるという証をどのように受けることができるかについて人々をお教えになりました。人々はイエスが誰であるか論争していたの

で、イエスは御自分の神性について証するために水と光の比喩を使われました。また、聖霊についてもお教えになりました。

教えるための提案

ヨハネ7：1－13

イエス、仮庵の祭に参列される

ホワイトボードに次の質問を書きます－イエスには兄弟姉妹がおられましたか。

生徒にこの質問に答えてもらいます。必要に応じて、ヨセフとマリヤには、イエスとともに同じ家庭で育てられることになる、イエスの後に生まれた子供たちがいたことを生徒たちが理解するように助けます。しかし、イエス・キリストは、ヨセフではなく、神である御父とマリヤの文字通りの御子であったため、彼らは異父兄弟でした（マタイ13：55－56参照）。

- イエスと同じ家庭で育つとは、どのようなものであったと思いますか。
- 一緒に育っていたとしたら、イエスを信じるのがもっと簡単だろうと思いますか。なぜそう思うのでしょうか。

ヨハネ7章では、イエスの「兄弟たち」（ヨハネ7：3、5）がイエスについてどのように考えていたかを学ぶことを指摘してください。「兄弟たち」とは、イエスの異父兄弟を指すと思われませんが、他の近親者が含まれていた可能性もあります。

数人の生徒に、ヨハネ7：1－5を順番に声に出して読んでもらいます。

- 5節から、イエス・キリストの兄弟たちについて何を学びますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「キリストの神性と福音の救う力に対する証は、家族だからといって自動的に授けられるわけではない。

……彼らは、同じ家庭で育ち、ヨセフとマリヤの良い影響を受け、イエス御自身の教え、教え導く業、そして奇跡について知っていたにもかかわらず、イエスのこれらの近親者たちは、まだイエスをメシヤとしては受け入れなかった。しかし、その後、彼らは全員改宗したようである（使徒1：14）。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1965－1973年〕, 第1巻, 437）

- イエス御自身の家族が、イエスの教えと奇跡を知っていながら、どうしてイエスをまだ信じていなかったということがあるのでしょうか。

ヨハネ7章には、仮庵の祭がエルサレムで行われていたときの出来事が記録されています（ヨハネ7：2参照）。「最大にして最高に喜ばしい」（*Bible Dictionary*, “Feasts”の項）と考えられていたこの8日におよぶ祭の間、多くのユダヤ人はエルサレムを訪問し、かつてイスラエルの子供たちがエジプトでの奴隷の身分から解放され、荒れ野にとどまり、仮庵（間に合わせのテント）に住んでいたときに神から授けられた祝福を記念しました（レビ23：39－43参照）。ユダヤ人はまた、果物と穀物の毎年の収穫を祝い、感謝しました（出エジプト23：16参照）。

- 3－4節によると、イエスの兄弟たちはイエスに何をするように望みましたか。

ヨハネ7：6－10の要約として、イエスは祭に行くのを遅らせられたが、兄弟たちには祭に行くよう勧められたことを説明します。エルサレムのユダヤ人指導者の一部がイエスを殺したかったこと、また死すべき時がまだ来ていないことを御存じだったイエスは、祭が始まってから、ひそかに祭に行かれました。

背景と内容を理解する

福音を教え学ぶときの基本の一つは、聖句ブロックの背景と内容を理解することです。背景には、特定の聖句や出来事、話に関わる状況あるいは背景となる状況も含まれます。内容とは、話の筋、人物、出来事、説教、靈感に基づく説明です。聖句の背景と内容が分かるよう生徒を助けるとき、生徒は靈感を受けた記録者の告げようとしていることをよく理解する準備ができます。

一人の生徒に、ヨハネ 7:11 - 13 を声に出して読んでもらいます。

- エルサレムでは、あらゆる人々がイエスについて何を言っていましたか。

イエス・キリストの時代と同様に、今の時代にもイエスについて異なる意見があることを指摘します。ある人は、イエスが神の御子であり、全ての人類の救い主であると知っており、それを証します。またある人は、イエスを信じ、イエスの福音が真実であることを望みます。しかし、イエス・キリストの神性とイエスの教えの真実性を疑う人もいます。(生徒が引き続きヨハネ 7 章を研究しながら、イエス・キリストがわたしたちの救い主であり、イエスの教えが真実であることを、どのように知ることができるかを見つけてもらいます。)

ヨハネ 7:14 - 36

イエス、神殿でユダヤ人をお教えになる

一人の生徒に、ヨハネ 7:14 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが神殿で何をされたかを見つけてもらいます。神殿が仮庵の祭の間に行われた祝祭の中心地であったことを説明すると役立つかもしれません。

- イエスは何をなさいましたか。
- ユダヤ人たちは何に驚きましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 7:16 - 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自分の教義や教えが真実かどうかを知るために、実行することができる人々に言われたことを見つけてもらいます。

- 16 節によると、イエスはお教えになっていた教義をどなたから授かりましたか。
- 人は、イエスがお教えになった教義が本当に神からのものであることをどのようにして知ることができますか。
- 天の御父の教えに対する証を受けることができる方法について、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒は自分の言葉を使って、次のような原則を見つけられるでしょう。もしわたしたちが天の御父の御心を行うなら、わたしたちは御父の教義の証を受ける。生徒たちに、この原則を教えている 17 節の言葉に印をつけてもらうとよいでしょう。)

この原則を自分たちの生活にどのように応用できるかを生徒たちが理解するのを助けるため、一人の生徒に、大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長による次の言葉を読んでもらいます。

「福音の原則に対する証は、それに従って生活しようと務めることにより得られます。……祈りの効果に対する証は、真心からの謙虚な祈りを通して得られます。什分の一の証は、什分の一を納めることにより得られます。」(「信じます。不信仰なわたしをお助けください」『リアホナ』2003 年 11 月号, 22)

イエスの兄弟たちは当初イエスを信じませんでしたが、彼らは後に証を得、改宗しました(使徒 1:14)。

- ヨハネ 7:17 で説明されている原則は、どのようにイエスの兄弟たちがイエス・キリストとイエスの教えに対する証を得る助けとなったでしょうか。

生徒たちに、福音についての証で悩んでいる友人がいると想像してもらいます。

- この友人を助けるには、ヨハネ 7:17 にある原則をどのように使うことができますか。

生徒たちが見いだした原則を証し、それが真実であり重要であると感じるよう助けるため、次の文を見せます。

わたしは、_____が真実であることを知っています。なぜなら、それに従って生活したときに、_____からです。

この文をそれぞれのクラスノートまたは聖典学習帳に書き、福音の戒めまたは原則に従って生活する努力をした結果、それらが真実であったと知ることになったものを書き込んで、この文を完成するよう生徒たちを励まします。

何人かの生徒に書いた内容を発表してもらいます。

生徒たちに、より強い証を得たいと思う福音の真理、戒め、教えを書き留めてもらいます。また、ヨハネ 7:17 で学んだ原則を応用することによって、その真理、戒め、教えに対するより強い証を得るために何をするかも書いてもらいます。

ヨハネ 7:19 - 36 の要約として、イエスの教えと奇跡を拒否し、イエスを殺そうとしたユダヤ人指導者たちをイエスが叱責されたことを説明します。多くの人々はイエスがメシヤであるのかどうか疑問に思い、祭司長とパリサイ人は、イエスを捕らえるために下役たちを送り出しました。

ヨハネ 7:37 - 53

イエス・キリスト、聖霊の賜物についてお教えになる

喉が渇いている生徒を見つけて一人クラスの前に出てきてもらいます。その生徒に空のコップを渡して、次の質問をします。

- これで喉の渇きはおさまりますか。
- 他に何が必要ですか。

水が入ったペットボトルまたは水差しなど、コップに水を入れることができるものを見せません。コップに水を入れ、その生徒に飲んでもらいます。その後、生徒に席に戻ってもらいます。

コップに水を入れるために使った水差しまたはペットボトルを見せません。仮庵の祭の 8 日間、割り当てを受けた祭司は毎日金の水差しでシロアムの池から水をくみ、その水を神殿の祭壇の土台にある銀の盆に注いだことを説明します。仮庵の祭の最後の日、祭司が盆に水を注いだ時にイエスが立ち上がり、人々を招かれました。(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 446 参照)

一人の生徒に、ヨハネ 7:37 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、仮庵の祭の最後の日である 8 日に救い主が神殿においでになり、人々に何をしようか招かれたかを見つけてもらいます。

- 主は人々に何をしようか招きになりましたか。
- この祭の日に祭司によって水がくまれ、注がれたことを考えると、ちょうどこの時にイエスが人々を招かれたのはなぜだと思いますか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます。イエス・キリストのみもとに来て、イエスを信じるなら、_____

一人の生徒に、ヨハネ 7:38 - 39 と、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 7:39 (「聖霊はイエスが栄光を受けられた後で、信じる人々に約束されている。」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスのみもとに来てイエスを信じる者にイエスが何を約束されたかを見つけてもらいます。

「その腹から……出る」という句は、生ける水は外から来るのではなく、信じる者の内にあり、その者から流れ出ることを示していると説明します。

- 39 節によると、救い主がお話しになった生ける水とは何を表していますか。

「聖文には何らかの理由で完全に説明されていないが、聖霊はイエスが現世にとどめられた年月の間、ユダヤ人の間で完全に働かれなかった (ヨハネ 7:39:16:7)」(*Bible Dictionary*, “Holy Ghost” の項) と説明します。この神権時代には、救い主が現世での使命を果たすことによって栄光をお受けになるまでは御霊の賜物は授けられませんでした。聖霊の力はそこにあり、救い主と主の弟子たちが教えた真理の証を得よう人々を助けました。

- ヨハネ 7:37 - 39 の教えに基づいて、ホワイトボードの文をどのように完成しますか。(生徒はさまざまな言葉で表現しますが、次の原則を見つけないはず。イエス・キリストのみもとに来て、イエスを信じるなら、聖霊に満たされる。)

聖霊に満たされた人は、他の人に良い影響を与えることができると説明します。聖霊に満たされ、その結果、誰かに良い影響を与えることができたことについて生徒たちに考えてもらいます。数人の生徒に、経験を分かち合ってもらいます。

ヨハネ 7:40 - 53 の要約として、祭司長とパリサイ人が再びイエスを捕らえようとしたことを説明します。夜に救い主を訪ねてきたパリサイ人のニコデモ (ヨハネ 3:1 - 2 参照) は、救い主をかばうためにやってきて、自分たちの法律では、話す機会を与えられるまで人を罰することはできないと同胞のパリサイ人と祭司長に言い聞かせました。

ヨハネ 7 章の研究で生徒たちが見いだした真理について証をして、レッスンを終わります。

ヨハネ 8:1 - 30

はじめに

仮庵の祭のために救い主がエルサレムに滞在されていた間、律法学者とパリサイ人の何人かが姦淫の罪がある女性を主のもとに連れてきて、彼女を石で打ち殺すべきかどうかを尋ねま

した。主は訴えた者たちをうろたえさせ、その女性には憐れみを示されました。イエスはまた、御父がイエスを証されるとお教えになりました。

教えるための提案

ヨハネ 8:1 - 11

姦淫の罪で捕らえられた女性が救い主のもとに連れてこられる

生徒たちに、外見や行動が主の標準にそぐわない人と出会ったり、交流を持ったりしたときのことを考えてもらいます。

- 外見や行動が主の標準にそぐわない人たちと一緒にになったとき、わたしたちはどのような課題に直面しますか。(生徒たちは、そのような人たちを義に反した方法で裁いたり、不親切な態度を取るかもしれないなどの答えを出すでしょう。)

ホワイトボードに次の質問を書きます。

外見や行動が主の標準にそぐわない人たちと一緒にいるような状況で、わたしたちは何をすべきですか。

ヨハネ 8:1 - 11 を研究しながら、この質問に答える助けとなる真理を見つけるよう、生徒たちを励ましてください。

仮庵の祭の後、イエス・キリストはしばらくエルサレムにとどまられ、神殿で人々を教えたことを説明します(ヨハネ 8:1 - 2)。

一人の生徒に、ヨハネ 8:3 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々を教えられたときに起こったことを見つけてもらいます。

- イエスが人々を教えられたときに何が起こりましたか。
- 律法学者とパリサイ人は救い主に何を尋ねましたか。
- 6 節によると、律法学者とパリサイ人の意図は何でしたか。(彼らはイエスを捕らえて殺したかったので、人々の前でイエスの信用を落とし、糾弾する理由を作ろうとした〔ヨハネ 7:1, 32 参照〕。)

もしイエスが女性を石で打ち殺すようにとおっしゃったとすれば、ユダヤ人に評判が悪く、ローマ法では禁止されていた罰を是認することになっていたことを説明します。イエスが女性を石で打ち殺さないようにおっしゃったとすれば、モーセの律法を無視した、または過去に受け入れられていた慣行を不遜に扱ったとして非難されるどころでした。(ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 450 - 451 参照)

一人の生徒に、ヨハネ 8:7 - 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がどのように答えられたかを見つけてもらいます。

- 7 節によると、イエスのお答えは何でしたか。
- 「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」と言われたとき、救い主はこれらの人たちに何を悟って欲しかったのだと思いますか(7 節)。

一人の生徒に、ヨハネ 8:9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がおっしゃったことをパリサイ人と律法学者が考えたとき、何が起こったかを見つけてもらいます。

- 「良心に責められ」という表現には、どのような意味があると思いますか。
- 出て行くことによって、これらの人々は何を認めましたか。
- 他人を非難しないようにするにはどうすればよいかについてのこの記述から、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の原則を見つけるようにしてください。自分自身の欠点を認めることは、他人を非難しないようにする助けとなる。この真理をホワイトボードの質問の下に書いてください。)
- 自分の欠点を認めることは、他人を非難しないようにするためにどのように役立つと思いますか。

この女性には非常に重い罪である姦淫の罪があったことを生徒たちに思い出してもらいます(アルマ 39:3-5 参照)。

- 自分の罪がイエスと大勢の人々の前で公にされたとき、この女性はどのような気持ちでしたと思いますか。

一人の生徒に、ヨハネ 8:10-11 を声に出して読んでもらいます。その生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 8:11 (「……女はそのときから神を賛美し、御名を信じた。」) も声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがこの女性にどう対応されたかを見つけてもらいます。

- 救い主は、どのようにこの女性に愛と憐れみを示されましたか。
- 救い主はこの女性にどのような指示を与えられましたか。

救い主がこの女性の罪を赦されたのではないことを生徒が理解するのを助けるため、一人の生徒にスペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「主がこの女に命じられたのは、『今後はもう罪を犯さないように』であった。主は罪深い女にここから去り、邪悪な生活を捨て、さらなる罪を犯さず、人生を一変させるように指示された。主は、女よ、行きなさい、悔い改めを始めなさいとおっしゃっておられ、罪を捨てるための最初の一步を示されたのである。』(『救しの奇跡』 165)

- 10-11 節から、主についてどのような真理を学べますか。(生徒はさまざまな言葉で表現しますが、次の真理を見つけるはずです。救い主は、悔い改める機会を提供することによってわたしたちに憐れみを示してください。ホワイトボードに次の真理を書きます。)
- この真理を理解することは、わたしたちが罪を犯すときにどのような助けとなりますか。
- わたしたちが見いだした二つの真理は、外見や行動が主の戒めや標準にそぐわない人たちと一緒にあったときの対応について、どのような助けとなりますか。
- ジョセフ・スミス訳の 11 節によると、救い主の憐れみはこの女性にどのような影響を及ぼしましたか。

クラスノートか聖典学習帳に、わたしたちに憐れみを示し、悔い改める機会を与えるという救い主の御心のために、生徒たちが救い主に対して感じている気持ちを書いてもらいます。

ヨハネ 8：12－30

イエス、御父がイエスを証されるとお教えになる

生徒たちに目を閉じてもらい、特定の物の簡単な絵を描いてもらいます。その後、生徒たちに目を開けてもらい、自分の絵を隣の人の絵と比べてもらいます。

- 光を利用することによってより良く行うことができる事柄には何がありますか。

一人の生徒に、ヨハネ 8：12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自身について何を宣言されたかを見つけてもらいます。

- イエスは御自分を何と呼ばれましたか。(ホワイトボードに次の教義を書きます。イエス・キリストは世の光であられる。)

生徒たちに、イエスが仮庵の祭でこれを宣言されたことを思い出してもらいます。8 日間の祭の間、神殿の中庭では非常に大きなメノラと呼ばれる 7 本枝の燭台に毎晩火がともされ、祭のためにエルサレムを訪れていた多くの人々に明かりを提供しました。

- 姦淫の罪のために捕えられた女性と、彼女を責めた人たちに、イエスはどのように光を提供しましたか。
- 12 節の主の言葉から、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の原則を見つけるようにしてください。救い主に従うならば、霊的な暗闇を避け、キリストの光に満たされる。)
- 救い主は、あなたが霊的な暗闇を歩くことのないようにどのように助けてくださると感じますか。

旧約聖書の預言の幾つかが、メシヤは全ての国の光となれることを示していると説明します(イザヤ 49：6；60：1－3 参照)。従って、イエスは御自分を世の光であると宣言することにより、御自分がメシヤであることを宣言されました。

一人の生徒に、ヨハネ 8：13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主の宣言に対してパリサイ人がどのように反応したかを見つけてもらいます。

- パリサイ人は、救い主の宣言にどのように反応しましたか。
- イエスの証明や証が真実ではないとパリサイ人が言ったのはなぜですか。(イエスが御自身について証したため。)

イエスが、モーセの律法において、真実を確立するには少なくとも二人の証が必要であることをパリサイ人に思い出させたと説明します(ヨハネ 8：17；申命記 17：6 参照)。一人の生徒に、ヨハネ 8：18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの他にイエスが約束されたメシヤであられることを証したのがどなたであったかを見つけてもらいます。

- 18 節によると、救い主が主の神性を証する第二の証人として名指しされたのはどなたでしたか。(この声明によって、イエスは御自分と御父が二人の別個の御方であると確証されたことを強調するとよいでしょう。)

一人の生徒に、ヨハネ 8：19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスと御父についてパリサイ人が理解しなかった事柄を見つけてもらいます。

- 19 節によると、パリサイ人が御父を知らなかったのはなぜですか。(パリサイ人は、イエスについて、そしてイエスが実際にどなたであるかを知らなかったため、御父がどなたか分からなかった。)
- 救い主がパリサイ人に言われた事柄によると、わたしたちは天の御父を知るために何をすることができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、イエス・キリストについて学ぶとき、天の御父を知るようになるということを必ず明確にしてください。生徒の言葉でこの原則をホワイトボードに書きます。)

この原則を生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を読んでもらいます。



「救い主は、特に贖罪の苦しみと犠牲によって、また地上に来て、語り、行われた全ての事柄を通して、永遠の父なる神とはどのような御方なのか、御父が、あらゆる時代と国に住む御自身の子供たちをどれほど深く愛しておられるのかを示してこられたのです。御子は言葉と行いにより、御自分の父親であられる天の御父の本質を明らかにし、御父の本質を人が自分で理解できるよう努めておられたのです。……」

キリストは飢えている人に食べさせ、病人を癒やし、偽善者を叱責し、信仰の道を説き勧めることにより、御父がどのような御方であるかを示されたのです。御父はまた、『慈悲と恵みに満ち、怒るに遅く、長く堪え忍び、慈しみ深い』御方です。御自身の生涯、中でも特にその死を通して、キリストはこのように宣言しておられます。『わたしはここに神の哀れみを示す。またこれはわたし自身の哀れみでもある。』（『偉大な神の性質』『リアホナ』2003年11月号, 70, 72）

- ホランド長老によると、イエス・キリストについて学ぶとき、わたしたちは天の御父について何を学びますか。

ヨハネ 8:21 - 24 の要約として、救い主は、主を信じないならば罪のうちに死ぬであろうとパリサイ人に警告されたと説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 8:25 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自身と天の御父についてパリサイ人にお教えになったさらなる真理を見つけてもらいます。見つけた箇所に印をつけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。

- イエス・キリストが御自身と天の御父についてお教えになったさらなる真理とは何ですか。
- これらの節にある救い主の教えは、わたしたちが救い主と天の御父の関係を理解するうえで、どのようにさらなる助けとなりますか。

生徒たちに、数分間、新約聖書にあるイエス・キリストの御言葉と行いについて今年研究した記述（例えば、姦淫の罪で捕らえられた女性など）を振り返り、深く考えてもらいます。『福音の視覚資料集』（LDS.org も参照）から、救い主の現世での教え導く業における出来事を描写する絵を見せてもよいでしょう。数人の生徒たちに、振り返ってみた記述を要約して、それがわたしたちに天の御父について何を教えているかをクラスに説明してもらいます。

天の御父とイエス・キリストの証を分かち合って、レッスンを終えます。

ヨハネ 8:31 - 59

はじめに

救い主は、仮庵の祭の後も引き続き神殿でお教えになりました。主は罪から自由になることについて教えられました。御自

分が偉大なるエホバであるとイエス・キリストが宣言されたとき、ユダヤ人はイエスに石を投げつけて殺そうとしました。

生徒の必要に応じた教授法を探り入れる

教授法と技術は、生徒が学ぶのを助けるための単なる手段であり、それ自体が目的ではありません。生徒が特定の聖句ブロックの内容、教義、原則を理解し、これらの教義と原則を生活に応用するのに最も役立つ方法を選びます。御霊がなければ、最も効果的な教授法を用いたとしても完全な成功は得られないことを覚えておいてください。

教えるための提案

ヨハネ 8:31 - 36

イエス、罪から自由になることをお教えになる

生徒たちが前のレッスンで学んだ事柄を思い出せるように、小さな石を掲げて見せます。生徒たちに、一部の律法学者とパリサイ人が姦淫の罪で捕らえられた女性をイエスのもとに連れてきたときに救い主がどのように応えられたか、そして主がその後何をお教えになったかを要約してもらいます（ヨハネ 8:1 - 30 参照）。（救い主は女性を責めず、「今後はもう罪を犯さないように」〔11 節〕と言われた。その後、イエスは御自分が「世の光」〔12 節〕であり、わたしたちがイエスを信じてイエスの教えに従うことにより、御父を知るようになるとお教えになった。）

• ヨハネ 8:30 によると、イエスの御言葉と行いは、多くのユダヤ人にどのように影響しましたか。

多くのユダヤ人がイエスを信じましたが、一部のユダヤ人は、主の弟子となること、真理、および自由と束縛についてイエスが人々にお教えになったときに、反論し続けました。

次の図をホワイトボードに描きます。



一人の生徒に、ヨハネ 8:31 - 32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自由になるために行わなければならないとイエスが言われた事柄を見つけてもらいます。

生徒たちにホワイトボードに来てもらい、自由になるために行わなければならないとイエスが言われた事柄に基づいて空白を埋めてもらいます。（この図は、次に似た形で完成させるようにしてください。）



- 「〔キリスト〕の言葉のうちにとどまっておる」とはどういう意味ですか。（31 節）
- 31 - 32 節に記録されているイエス・キリストの教えを「原則を表す一文」にするには、どのように要約すればよいでしょう。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、イエス・キリストの御言葉を保ち続けると、わたしたちはキリストの弟子となって真理を知り、これによって自由になるということを必ず明確にしてください。この原則をホワイトボードに書くとよいでしょう。また、ヨハネ 8:36 では、自由になれるのはイエス・キリストのおかげであることが強調されていると指摘するとよいでしょう。）

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の御言葉に従って生活するならば、何から自由になることができるかを見つけてもらいます。

「誤った教義の破滅的な力からの自由、欲求と欲望の束縛からの自由、罪のかせからの自由、あらゆる邪悪で腐敗した影響からの、および抑制し短縮するあらゆる力からの自由、昇栄する者のみが完全に享受する無限の自由へと進む自由である。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965 - 1973年〕, 第1巻, 456 - 457)

一人の生徒に、ヨハネ 8:33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人が彼らを自由にすると信じていたものが何かを見つけてもらいます。

- ユダヤ人が彼らを自由にすると信じていたものは何ですか。(彼らは、単にアブラハムの子孫であり、アブラハムの聖約の相続人であることのみで霊的に自由になる権利を得ると誤解していた。)

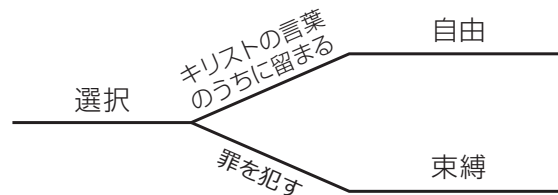
一人の生徒に、ヨハネ 8:34 - 36 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストは、人々が何から自由になる必要があると言われたかを見つけてもらいます。

- 34 節によると、救い主は人々が何から自由になる必要があると言われましたか。

34 節で「犯す」と訳されているギリシャ語の動詞は、悔い改めずに罪を犯し続けるという発想を示唆していると指摘します。

- 34 節からどのような原則を学べますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが罪を犯して悔い改めなければ、罪の奴隷となる。)
- 罪の奴隷となるとはどういう意味でしょうか。

生徒たちが見いだした二つの原則の関連性を思い描いてもらうため、次の図をホワイトボードに書きます。



- 今日、救い主に従うことが束縛となり、罪を犯すことが自由につながると信じることで、これらの真理について混乱している人がいるのはなぜですか。

生徒たちが見いだした二つの原則をさらによく理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「[サタン]の誘惑に屈服することは、選択の余地がまったくなくなるまで選択の幅が次第に狭くなっていくことにつながり、あらがう力を失ってしまう中毒へとつながります。……

……世界はコリホルの観点を通して物事を見ており、神の律法と儀式に忠実であることが『束縛』であると見なします (アルマ 30:24, 27)。……

……全ての光と真理をお持ちになっている結果として、何になるか、何をするかについての究極的な自由を神がお持ちであることを疑う人がいるでしょうか。

同様に、福音の教義と原則に対するわたしたちの理解が深まるにつれて、わたしたちの自由意志も拡大されます。第一に、従うことができるより多くの律法があることから、わたしたちにはより多くの選択肢があり、より多くのことを成し得、より素晴らしい祝福を受けます。……第二に、増し加えられた理解によって、わたしたちは代替案だけではなく、それらから導き得る結果もより明確に知ることができるため、より知的な選択をすることができます。」 (“Moral Agency,” *Ensign*, 2009 年 6 月号, 49 - 51)

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組に、『若人の強さのために』(小冊子)から割り当てられた箇所を研究してもらいます。クラスノートや聖典学習帳に、次の表を描いてもらいます(それをホワイトボードに書いてもよいでしょう)。それぞれの組に、『若人の強さのために』から割り当てられた箇所を一緒に読んでもらい、表を埋めてもらいます。

『若人の強さのために』で説明されている標準	この標準に従って生活することは、どのような形で自由をもたらしますか。	この標準に従って生活しないことは、どのような形で束縛をもたらしますか。

十分な時間を取った後、パートナーを変えて他の組の人と二人一組になり、それぞれが研究した標準について何を学んだかを教えてもらいます。十分な時間を取った後、何人かの生徒に学んだ事柄をクラスで発表してもらいます。

- 『若人の強さのために』で約束されているどのような自由を、個人的に経験しましたか。

生徒たちに、救い主の御言葉に従って生活することによって自由になるために行いたい具体的な方法を書き留めてもらいます。

ヨハネ 8：37－59

イエス、御自分の神性を証される

生徒たちに、以下の質問に簡単に答えてもらいます。

- 父親によく似ている人を知っていますか。

数人の生徒に、ヨハネ 8：37－40、44－45 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主に反対したユダヤ人指導者たちが、彼らが父であると主張する旧約聖書の預言者アブラハムとどのように違っていたかを見つけてもらいます。

- 39 節によると、救い主は、もし彼らがアブラハムの子であったならば何をすると言われましたか。
- 40 節によると、彼らが実行しようとしていた事で、アブラハムなら決して行わないものとは何でしたか。
- 44－45 節によると、イエスは彼らの父が誰であると言われましたか。（悪魔。）彼らはどのような方法で悪魔に従いましたか。

ヨハネ 8：46－50 の要約として、救い主が、神からきた者は主の言葉を受けるとお教えになったことを説明します。ユダヤ人指導者たちは、イエスをサマリヤ人と呼び（一般的に、サマリヤ人はユダヤ人に軽蔑されていた）、悪魔に取りつかれていると主張することでイエスを蔑もうとしました。

一人の生徒に、ヨハネ 8：51－53 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人指導者たちがイエスに尋ねた質問を見つけてもらいます。

- 彼らはイエスに何を尋ねましたか。（53 節にある「あなたは、わたしたちの父アブラハムより偉いのだろうか」という表現に印をつけるよう生徒たちに勧めるとよいでしょう。）

一人の生徒に、ヨハネ 8：56－58 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人の質問に対するイエスの答えを見つけてもらいます。

- 「あなたは、わたしたちの父アブラハムより偉いのだろうか」という質問に対するユダヤ人の答えは何でしたか。（58 節にある「アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」という句に印をつけるよう生徒たちに勧めるとよいでしょう。）

生徒たちに、「アブラハムの生れる前から、『わたしは有る』（出エジ 3：14 参照）のである」という意味であることを説明します。その後、次の質問をします。

- 「わたしは有る」とはどういう意味でしょうか。（この言葉は、アブラハム、イサク、ヤコブの神であられるエホバを特定するものです。次の真理を生徒たちそれぞれの聖典に書き込むように勧めるとよいでしょう。イエス・キリストは、旧約の神であるエホバであられる。）
- 58 節によると、アブラハムよりも偉いのかという質問に対するイエスの答えは何でしたか。

『福音の視覚資料集』（LDS.org も参照）から、旧約聖書に記録された奇跡（25 番の「火の燃える炉の中に投げ込まれた 3 人」、または 26 番の「ししの穴のダニエル」など）を描写する絵を幾つか見せます。

- もしあなたがイエスの前に立っていて、イエスが御自身を旧約聖書に記録された奇跡をもたらした神であると宣言されたとしたら、どのように反応したと思いますか。

一人の生徒に、ヨハネ 8：59 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御自分がエホバであられるというイエスの宣言に対して、ユダヤ人指導者たちがどのように反応したかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけた事柄を発表してもらいます。

- イエス・キリストが旧約聖書の神であるエホバであられることを知ることは、なぜわたしたちにとって大切だと感じますか。

数人の生徒に、イエス・キリストに対する証をクラスで分かち合ってもらおうとよいでしょう。また、教師が証を述べてクラスを終えてもよいでしょう。



マスター聖句の復習

クイズや小問題は、マスター聖句をどれだけ記憶しているかを調べる機会を生徒たちに提供します。ヒントには、キーワードや参照聖句、聖句からの引用、またはその聖句で教えられた真理を描写するシナリオがあります。クイズや小問題は、口頭で行ったり、ホワイトボード、紙面で行うこともできます。生徒たちがクイズや小問題を終えた後、マスター聖句で苦心している生徒を、高得点を取った生徒とペアにすることを検討してください。高得点を取った生徒たちは、点数の低かった生徒たちが学び、向上できるよう助けるためのアドバイザーとなることができます。（これを行う場合は、苦心している生徒たちが恥ずかしい思いをしないような方法で行うようにしてください。）

ヨハネ 9 章

はじめに

イエスは生まれつき目の見えない人を癒やされました。パリサイ人はこの人を詰問し、安息日に癒やした罪人としてイエスを非難することを拒否したために彼を会堂から追い出しました。

救い主はその人を探し出し、彼はイエスを神の御子として礼拝しました。

教えるための提案

ヨハネ 9：1－7

イエス、生まれつき目の見えない人を癒やされる

逆境に直面した人について書かれている新聞記事をクラスに持ってきます。生徒たちにその記事を要約して説明するか、その表題をホワイトボードに書きます。

- この他に、これまでに見たことがある逆境を経験する人々の例を挙げてください。

彼らの人生が逆境によって大きな影響を受けるようなことを、なぜ神がお許しになるのか疑問に思う人がいることを指摘します。

ヨハネ 9：1－5 を研究しながら、生徒たちに、逆境がわたしたちの人生に影響することを神がお許しになる理由をより良く理解する助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 9：1－2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ある人が直面した逆境を見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

- 2 節によると、この人の逆境の原因について、弟子たちは何を尋ねましたか。

今の時代でも信じている人が多少いますが、救い主の時代には、人々が直面する逆境は、本人たちやその両親が犯した罪の結果であると多くの人が信じていました。(弟子たちの質問は、前世の現実性を前提としていることを指摘するとよいでしょう。)

- この考えは正しいと思いますか。なぜそう思うのでしょうか。

一人の生徒に、ヨハネ 9：3－5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この人が盲目であることについての救い主の教えを見つけてもらいます。


- 「ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」とはどういう意味だと思えますか。(3 節)。

- これらの節の救い主の教えから、わたしたちの逆境についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけるはずですが、神は、神の御業と御力を示すためにわたしたちの逆境をお使いになることができます。)

わたしたちの人生の中の逆境には多くの異なる原因があるかもしれませんが、神の義にかなった目的を達成する助けとするために、神はわたしたちの困難を活用することがおできになると説明します。

生徒たちに、これまで直面した、または現在直面している逆境について考えてもらいます。生徒たちがヨハネ 9 章の研究を続けながら、これらの逆境があるために、神が神の御業と御力をお示しになることを可能にした側面について深く考えてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 9：6－7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神がこの盲目の人の経験を通じて神の御業と御力を明らかにされた方法を見つけてもらいます。

 また、『聖書ビデオーイエス・キリストの生涯』からビデオ「イエス、生まれつきの盲人を癒す」の一部〔0 分 00 秒－3 分 37 秒〕を見せることもできます。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で見ることができます。

- 初めて見えるようになることは、この人にとってどのような経験だったと思えますか。
- この人の逆境は、他の人が神の御力を目撃することをどのように可能にしましたか。

- この記述で、この人は視力を得るためにシロアムの池で目を洗わなければなりませんでしたが、神があなたの生活の中で御業と御力をお示しになることを可能にするには、何をする必要がありますか。

ヨハネ 9:8 - 41


イエス、癒やした人がパリサイ人に追い出された後に彼を探し出される

ヨハネ 9:8 - 15 の要約として、盲目の人が癒やされた後、その人が生まれつき盲目であったことを疑う人がいたことを説明します。他の人が、彼がどのように癒やされたのかを不思議に思い、パリサイ人のところに彼を連れて行ったところ、パリサイ人は彼に尋問し始めました。

生徒たちに、救い主が盲目の人を癒やされた日についてヨハネ 9:14 から見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- イエスが安息日にこの人を癒やされたことについて、パリサイ人はどのような反応をしたと思いますか。

数人の生徒に、ヨハネ 9:16 - 38 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、癒やされた人が直面したもう一つの逆境を見つけてもらいます。

 生徒に読んでもらう代わりに、ビデオ「イエス、生まれつきの盲人を癒す」の残り（3分37秒 - 7分47秒）を見せることもできます。生徒たちには、癒やされた人が直面したもう一つの逆境を見つけてもらいます。

尋問を受けるために盲目の人の両親がパリサイ人の前に連れてこられたことを生徒たちに思い出してもらい、この記述から生徒たちが原則を見つけるよう備える助けをします。

- 22 節によると、盲目の人の両親が、息子がどのように見えるようになったかの説明を息子に任せたのはなぜですか。

次のように説明します。「会堂は多くのユダヤ人社会の宗教かつ社交の中心地として機能してきました。会堂では、霊的な指導と礼拝に加え、教育や社交的な機会を利用することができました。会堂はユダヤ人社会にとって欠くことができないものであったため、会堂から追い出される……ことは、宗教社会から破門されて、交わりを絶たれる以上の意味を持っていました。これは、文化のおよび社会的な事柄から締め出されることも意味していたのです。この脅威は、生まれつき盲目だった人の両親が〔息子の癒やし〕の調査に関わりすぎることがないようにするに十分深刻なものでした。」(New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014 年], 230)

- 24 節によると、癒やされた人はどのような圧力を感じていたと思いますか。

生徒たちに、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 9:32 (「神からきた人以外に、生まれつき盲人であった者の目を開けた人があるということは、世界が始まって以来、聞いたことがありません。」) を提示し、それを含めた 30 - 33 節を黙読してもらい、パリサイ人に対するその人の答えを見つけてもらいます。

- この人は、イエスを擁護するためにどのような根拠を使いましたか。(33 節にある彼の言葉に印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。)
- この人は、イエス・キリストについて何を知っていましたか。

盲目の人は、自分を癒やしてくださった方を恐れずに擁護したため、会堂から追い出されたことを伝えます(34 節参照)。

- 会堂から追い出されることになると知っていながら、この人がイエス・キリストについて進んで忠実であろうとしたのはなぜだと思いますか。

この人が会堂から追い出された後、救い主は彼を見つけ、「人の子(訳注-欽定訳[英文]ヨハネ 9:35 では「神の子」となっている)を信じるか」どうかお尋ねになった(35 節)ことを考えてもらいます。一人の生徒に、ヨハネ 9:36 - 38 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、この人の答えを見つけてもらいます。

- この人のイエス・キリストに対する証はどうなりましたか。(彼はイエス・キリストが神の御子であることを知るようになった。)
- 知っている事柄に忠実であることについて、わたしたちはこの人からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな原則を挙げるかもしれませんが、次の原則を理解するようにしてください。敵対するものにもかかわらず知っている事柄に忠実であると、わたしたちの証が強められる。この原則をホワイトボードに書きます。)

生徒たちがこの原則をよりよく理解できるように、一人の生徒に、エテル 12:6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが自らの信仰に敵対するものを経験するときに、主に忠実でいると何が起るかを見つけてもらいます。

- 信仰に敵対するものや信仰の試しに耐えた後、わたしたちの証が強められるのはなぜだと思いますか。
- あなたの信仰は、敵対するものにあつたことによってどのように強められましたか。

生徒たちがこの記述からのもう一つの原則を見いだす助けをするため、補正レンズ（メガネやコンタクトレンズなど）を使っている人がどれだけいるか尋ねます。

- これらのレンズはあなたの視力にどのような働きをしますか。
- イエスが癒やされた後、この人の肉体的な視力はどうなりましたか。
- この人の救い主に対する霊的な視野や理解は、どのように補正または改善されましたか。

生徒たちに、ヨハネ 9:11, 17, 33 を黙読してもらい、イエスがどなたであられるかについてのこの人の視野または理解を説明する表現を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。（答えには、「イエスというかた」、「預言者」、「神からきた人」が含まれているはずで、これらの表現をホワイトボードに書き、生徒たちには各自の聖典でそれらに印をつけてもらいます。）

- これらの表現によると、この人の霊的な視野はどうなりましたか。（補正され、改善された。これらの表現は、この人の霊的な成熟度とイエスの真の本質に対する理解の成長を反映している。）
- 彼の救い主を見る視野と理解が明瞭になったのはなぜだと思いますか。（知っている事柄に対して忠実でいることにより、信仰を働かせた。）

生徒たちに、ヨハネ 9:36 - 38 に目を通して読んでもらい、この人が最終的にどのように救い主を見たかを見つけてもらいます。

- この人は、最終的に救い主をどのように見ましたか。（イエス・キリストが神の御子であることを認識した。）
- この人の視野はどれほど良くなりましたか。

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この人に起こったことについてハンター大管長が何を言ったかを見つけてもらいます。

「この男は 2 度開眼しました。まず生まれつき見えなかった目を、次いで天に昇って永遠の王座に着かれる前の王の王を見る霊の眼（まなこ）を。イエスはこのように、肉体と霊の両方の眼（まなこ）を開かれたのです。」（「くすしきみわざを行われる神」『聖徒の道』1989 年 7 月号, 18）

- この人が肉体的な盲目から癒やされたことは、どのように霊的な盲目から癒やされたことを表していますか。
- この記述からは、イエス・キリストへの信仰を働かせるとき、わたしたちに何が起り得るかについてどのような原則を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような原則を見つければはずです。イエス・キリストに対する信仰を働かせるとき、わたしたちの霊的な視野と理解がより明瞭になる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）
- 霊的な真理をより明瞭に見て理解するために、信仰を働かせることが必要であるのはなぜだと思いますか。

この人がイエスを神の御子として見て礼拝したとき、何人かのパリサイ人が近くに立っていたことを説明します。一人の生徒に、ヨハネ 9:39 - 41 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が盲目について教えられた事柄を見つけてもらいます。

- 救い主がパリサイ人にお教えになった事柄は、どのように要約すればよいでしょうか。

「わたしたちも盲人なのではないか」というパリサイ人の質問に対する答え（40 節）について次のように説明します。「救い主は隠喩を使用して、『盲目』（主がどなたであるかを知らなかった）な人に『罪はな [い]』とお教えになりました（ヨハネ 9:41）。一方、『見える』（救い主と主の神聖な使命に関して十分な確信を受けていたために、主がどなたかを知っているべきであった）人は、彼らの行為に対する責任を負います。パリサイ人は『見える』人たちであったため、『罪がある』のです。霊的な面で言うと、パリサイ人は多くの確信を受けたにもかかわらず、イエスを神の御子として認めることを拒否したため、盲目であることを選びました。」（*New Testament Student Manual*, 231）

レッスンの締めくくりとして、生徒たちにホワイトボードにある二つの原則を見てもらい、自分たちの人生にどちらを応用すべきだと感じるかを深く考えてもらいます（両方を応用しなければならないと感じる場合もあるでしょう）。生徒たちがこの原則をどのように応用するかを、クラスノートや聖典学習帳に書き留める時間を取ります。これを実行する方法についての導きのために祈るよう、生徒たちを励まします。

**生徒が教義と原則を
応用できるように
助ける**

生徒たちが福音の原則をそれぞれの生活に応用するとき、彼らは約束された祝福を受けます。クラスの間は、生徒たちが理解し、感じた事柄について深く考えたり、書き留めたりする時間、原則を応用するために取るべき具体的な行動について考える時間を取ってください。そのような時には、主の導きを求めるよう生徒たちを励まします。

ヨハネ 10 章

はじめに

イエスは、御自分が良い羊飼いであり、御自分の羊たちのために命を捨てるとお教えになりました。また、御父がイエスを死を克服する力をお与えになったことも証されました。一部の

人々は、イエスが御自分を神の御子であると宣言されたために、冒瀆の罪だとイエスを非難しました。

教えるための提案

ヨハネ 10 : 1 - 24

イエスは、御自分が良い羊飼いであり、主の民のために御自分の命を差し出すとお教えになる

一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。生徒に目隠しをしてもらい、その生徒のものを含めた数セットの聖典を集めます。目隠しした生徒にそれぞれの聖典をさわってもらい、どの聖典が自分のものかを当てててもらいます。生徒がこれを試した後、次の質問をします。

- どれが自分の聖典かがわかった（またはわからなかった）のはなぜですか。
- それぞれのクラスメートの顔にさわるように言ったら、何人言い当てることができると思いますか。（実際にはさわらせないでください。）

生徒に目隠しを取って席に戻ってもらいます。ある中東の羊飼いが、彼の羊をどれだけ良く知っているか尋ねられたことを説明します。彼は、「あなたがわたしの目を布で覆い、羊のどれかを連れてきてその顔に手で触れることしか許されなかったとしても、それがわたしの羊かどうかはすぐに分かります」と答えました（G・M・マッキー、*Bible Manners and Customs* [年不明], 35）。

- あなたが羊飼いだったとしたら、この羊飼いと同じようにあなたの群の羊を知るには何が求められると思いますか。

生徒たちに、ヨハネ 10 : 14 を黙読してイエスが御自分を何と呼ばれたかを見つけてもらいます。生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。ホワイトボードに次の言葉を書きます—イエス・キリストは良い羊飼いである。

- 「良い羊飼い」という呼称は、なぜ救い主に適切であると思いますか。

ヨハネ 10 章を研究しながら、救い主がどのようにわたしたちの良い羊飼いでおられるのかを教える真理を見つけるよう、生徒たちを励ましてください。

ヨハネ 10 : 1 - 5 の文化的生徒が文化的背景を理解できるように助ける

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組に、ヨハネ 10 : 1 - 5 を一緒に読んでもらい、良い羊飼いが何をするかを見つけてもらいます。十分な時間を取った後、学んだことを数人の生徒に発表してもらいます。ホワイトボードの、「イエス・キリストは良い羊飼いである」の下に、生徒の答えを書きます。（答えには次の内容が含まれるでしょう。門から入る、羊の名を呼ぶ、羊の先頭に立って行く。）

- 3 節によると、羊飼いは、羊たちを囲いからどのように導き出しましたか。
- 4 - 5 節によると、羊たちがそれらの羊飼いのみに従うのはなぜですか。
- 救い主は、門以外から囲いに入ろうとする者を何と呼ばれましたか。

イエスが話されていた人々の集まりにはパリサイ人がいたことを説明します（ヨハネ 9 : 41 参照）。

- パリサイ人は、どのような面で羊の囲いの中にいる盗人、強盗、見知らぬ人のようだったのでしょうか。

生徒たちに、ヨハネ 10 : 6 を黙読して、救い主の教えに対するパリサイ人の反応を見つけてもらいます。生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。

聖文の著者たちは、
聖霊に導かれる
とおりにこれらを
記しましたが

彼らが使用した言葉や象徴はそれぞれの文化の影響を受けています。生徒たちがこの文化を理解するよう助けることによって、聖文にある象徴、物語、教え、教義、原則を明確にし、生徒たちの理解を深めることができます。背景を生徒たちがより良く理解するのを助けるため、救い主の時代、羊飼いは日中、羊たちを食物や水のあるところや、小屋に率いて行ったことを説明します。夜になると、数人の羊飼いたちが個々の群を共通の囲いに集めました。羊の囲いは、洞窟や石の堀に囲まれた場所です。堀の上には野生動物の侵入を防ぐために鋭いとげが敷かれていました。

ヨハネ10:7-16に記されているとおり、救い主は、御自身とパリサイ人との違いについて引き続きお教えになりました。一人の生徒に、7-10節とジョセフ・スミス訳ヨハネ10:8(「わたしよりも前にきた人で、わたしについて証しなかった人は、みな盗人であり、強盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。」)を提示し、声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、これらの節にあるイエスの教えを見つけてもらいます。

- ジョセフ・スミス訳の8節は、盗人についてどのような洞察を付け加えていますか。
- 救い主が「わたしは羊の門である」(7節, 9節)と言われたとき、主は何を意味しておられたと思いますか。

次を説明します。「イスラエルの羊飼いは羊の囲いの入り口に立ち、囲いに入る羊たちそれぞれを点検して、必要に応じて傷の手当てをしました。夜に備えて羊たちを囲いの中に集めた後、羊飼いはその入り口で横になって眠り、捕食動物や盗人が羊を傷つけることがないように道を塞ぎました。」(New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014年], 231-232)

- これらの羊飼いの行為は、救い主がわたしたちのためにしてくださる事柄とどのように似ていますか。
- 救い主は、主に従う人々に対して、どのように命を「豊かに得させ」(ヨハネ10:10)とくださると思いますか。

一人の生徒にヨハネ10:11-15を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主は良い羊飼いは他に何をするとおっしゃったかを見つけてもらいます。雇人とは、労働の主な目的が金銭を得るだけの人であることを指摘します。

数人の生徒たちにホワイトボードに来てもらい、良い羊飼いについて見つけた追加事項を「イエス・キリストは良い羊飼いである」の下に書いてもらいます。(答えには次の内容が含まれるでしょう。羊のために命を捨てる、羊を知っている、羊によって知られている。)

- 羊飼いが進んで行く事柄で、雇人なら進んで行かないものとは何ですか。
- これらの節から、救い主についてどのような真理を学べますか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見いだすようにしてください。イエス・キリストは、良い羊飼いとしてわたしたちそれぞれを御存じであり、わたしたちのために御自分の命をささげられた。この真理をホワイトボードの「イエス・キリストは良い羊飼いである」の下に書いてください。)

生徒たちに、それぞれの羊をととも良く知っていた中東の羊飼いを思い出してもらいます。

- 救い主は、あなたについてどれほど良く御存じだと思いますか。
- あなたの毎日の過ごし方は、救い主があなたを御存じで、あなたのために進んで命を捨ててくださったと理解することによって、どのように影響されると思いますか。

わたしたちのために命をささげるとお教えになった後、救い主は御自分がなさるもう一つの事柄を示されたと説明します。一人の生徒に、ヨハネ10:16を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が主の羊たち(主の民という意味)のために他に何をなさるとおっしゃったかを見つけてもらいます。

- 救い主は、主の羊たちのために何をなさると言われましたか。
- この節は、主の羊たちがどこにいることを示していますか。

救い主はエルサレムのユダヤ人たちに対して、主が他の地にいる神の子供たちを訪れ、主の福音を教えて、主の囲い(主の教会)に彼らを集めるとお教えになりました。モルモン書がこの節を明らかにしていることを説明します。

数人の生徒に、3ニーファイ15:15-17, 21:16:1-3を順番に読んでもらいます。自分の聖典のヨハネ10:16の横にある余白にこの参照聖句を書き込むように提案するとよいでしょう。

- これらの節は、ヨハネ10:16をより良く理解するためにどのように役立ちますか。(「他の羊」とは、ニーファイ人とイスラエルの失われた十支族を指すもので、異邦人を指しているわけではありません。)

生徒たちに、ヨハネ10:17-18を黙読して、救い主についての教義を見つけてもらいます。生徒が見つけたことを分かち合ってもらいます。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の教義を見つけるでしょう。文字通り神の御子であるイエス・キリストは、御自分の命をささげ、それを再度取り戻す力をお持ちであった。これらの節の中でこの教義を教える言葉に印をつけるよう生徒たちを励まします。)

- 救い主が、死ぬ能力と死んでから復活する能力の両方をお持ちであったのはなぜですか。(イエスは、死すべき体を持つ女性である母マリヤから、死ぬ能力を含む死すべき体を受け継ぎました。御父であるエロヒムからは、不死不滅、つまり永遠に生きる力を受け継ぎました。したがって、イエスは死んで復活する力を受け継がれましたが、これはイエスが贖罪を行われるために必要な力でした。〔マタイ 1-2 章のレッスン参照〕)

ヨハネ 10:19 - 24 の要約として、救い主がこれらのことをお教えになった後、イエスがどなたであるかについて人々の意見が分かれたことを説明します。彼らは神殿でイエスに詰め寄って、御自分の真の身分をキリストとして宣言するよう強要しました。

ヨハネ 10:25 - 42

イエス、御自分が神の御子であると宣言される

別の生徒に教室の前に出て来てもらいます。その生徒に目隠しをして、他の数人の生徒に順番に何かの言葉(「羊飼いな」など)を言ってもらいます。目隠しされている生徒に、それぞれの生徒が言葉を言うのを聞いてから、声を頼りに誰が話しているかを当ててもらいます。

- ある人の声は他の人の声より識別しやすいのはなぜですか。

生徒に目隠しを取って席に戻ってもらいます。一人の生徒に、ヨハネ 10:25 - 30 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、キリストであるかどうか言うよう救い主に求めた人々に対する主の答えを見つけてもらいます。

- 救い主は、主の羊についてどう説明されましたか。(救い主の羊は、主の声を聞き、主に従う。)

- 28 節によると、救い主の声を聞き、主に従う者は何を受けますか。

- これらの節からどのような教義を学べるでしょうか。(生徒たちはさまざまな原則を挙げるかもしれませんが、次のことを強調するようにしてください。良い羊飼いの声を知り、良い羊飼いに従うと、その羊飼いが永遠の命へ導いてくださる。この原則をホワイトボードの「イエス・キリストは良い羊飼いなである」の下に書いてください。ヨハネ 10:27 - 28 の横にある余白にこの原則を書くように生徒たちに提案するとよいでしょう。)

二番目に目隠しされた生徒と、その生徒のクラスメートの声を聞き分ける能力について思い出してもらいます。

- 救い主の声を知るには何をすることができますか。(教義と聖約 18:34 - 36 も参照してください。)

- 救い主の声をより良く知るために、どのようなことをしましたか。

- どのような方法で、わたしたちが救い主に従うことを示すことができますか。

生徒たちが、これまで以上に救い主の声を聞き、主に従うには何をすることができるかを深く考える時間を取ります。聖典学習帳に、(1) 救い主の声をより注意して聞くための目標と、そのための具体的な方法、(2) 救い主の声により良く従うための目標と、それを行うための計画のいずれかを書いてもらいます。

ヨハネ 10:31 - 42 の要約として、救い主と主の御父が一つであると主が証された後、ユダヤ人指導者たちは、冒瀆の罪のために石で主を殺そうとしたことを説明します。しかし、主は詩篇 82:6 を引用して彼らの非難に応えられました。これには、「あなたがたは神だ、あなたがたは皆いと高き者の子だ」と書かれています。その後救い主は、聖文にわたしたちが神の子供であり、神々になれると書いてあるならば、なぜ冒瀆の罪で非難するのか、とユダヤ人にお尋ねになりました。

ヨハネ 10 章で教えられている真理と原則について証し、それらを応用するように生徒たちを励ましてレッスンを終わります。

家庭学習クラスのレッスン

ヨハネ 7 - 10 章 (単元 14)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヨハネ 7 - 10 章 (単元 14) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ヨハネ 7 章)

生徒たちは、仮庵の祭の間におけるエルサレムでのイエスの教えから、わたしたちが天の御父の御心を行うならば、御父の教義についての証を受けると学びました。生徒はまた、もしイエス・キリストのみもとに来て、イエスを信じるならば、聖霊に満たされるという原則を見つけました。

第 2 日 (ヨハネ 8 章)

生徒たちは、姦淫の罪で捕らえられた女性の記述から、自分の欠点を認めることは、他人を非難しないようにする助けとなること、また救い主は悔い改める機会をわたしたちにお与えになることで、わたしたちに憐れみを示されることを学びました。生徒たちは次に、イエス・キリストが世の光であることと、救い主に従うならば、霊的な暗闇を避け、キリストの光に満たされるということを知りました。また、次の原則も学びました。イエス・キリストについて学ぶにつれ、御父を知るようになる。イエス・キリストの御言葉に従い続けるならば、わたしたちはキリストの弟子となって真理を知り、自由がもたらされる。わたしたちが罪を犯して悔い改めなければ、罪の僕となる。イエス・キリストは、旧約聖書の神であるエホバであられる。

第 3 日 (ヨハネ 9 章)

ヨハネ 9 章で、生徒たちはイエスが生まれつき目の見えない人を癒やされたことが分かりました。この記述から、生徒たちは次の真理を学びました。神は、神の御業と御力を示すためにわたしたちの逆境をお使いになることができる。敵対するものに遭っても、知っている事柄に忠実であれば、わたしたちの証が強められる。イエス・キリストに対する信仰を働かせるとき、わたしたちの霊的な視野と理解がより明瞭になる。

第 4 日 (ヨハネ 10 章)

生徒たちはこのレッスンで、イエス・キリストは良い羊飼いとしてみなさんそれぞれを御存じであり、わたしたちのために御自分の命をささげられたことを学びました。文字通り神の御子であるイエス・キリストは、御自分の命をささげ、それを再度取り戻す力をお持ちでした。また、生徒たちは、良い羊飼いの声を知り、良い羊飼いに従うと、その羊飼いが永遠の命への導いてくださるという原則を見つけました。

はじめに

仮庵の祭のために救い主がエルサレムに滞在されていた間、数人の律法学者とパリサイ人が主に姦淫の罪がある女性を連れてきて、彼女を石で打ち殺すべきかどうかを尋ねました。主は訴えた者たちをうろたえさせ、その女性には憐れみを示されました。

教えるための提案

ヨハネ 8 : 1 - 11

姦淫の罪で捕らえられた女性が救い主のもとに連れてこられる

生徒たちに、外見や行動が主の標準にそぐわない人と出合ったり、交流を持ったりしたときのことを考えてもらいます。

- 外見や行動が主の標準にそぐわない人たちと一緒にになったときに、わたしたちはどのような課題に直面しますか。(生徒たちは、そのような人々を義に反した方法で裁いたり、不親切な態度を取るかもしれないなどの答えを出すでしょう。)

ホワイトボードに次の質問を書きます。

外見や行動が主の標準にそぐわない人たちと一緒にいる状況で、わたしたちは何をすべきですか。

ヨハネ 8 : 1 - 11 を研究しながら、この質問に答える助けとなる真理を見つけよう、生徒たちを励ましてください。

仮庵の祭の後、イエス・キリストはしばらくエルサレムにとどまり、神殿で人々を教えられたことを説明します (ヨハネ 8 : 1 - 2 参照)。

一人の生徒に、ヨハネ 8 : 3 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが人々に教えられたときに起こったことを見つけてもらいます。

- イエスが人々を教えられたときに何が起こりましたか。
- 律法学者とパリサイ人は救い主に何を尋ねましたか。
- 6 節によると、律法学者とパリサイ人にはどんな意図がありましたか。(彼らはイエスを捕らえて殺す理由を求めていたので、人々の前でイエスの信用を落とし、糾弾する理由を作ろうとした [ヨハネ 7 : 1, 32 参照]。)

もしイエスが女性を石で打ち殺すようにおっしゃったとすれば、ユダヤ人に評判が悪く、ローマ法では禁止されていた罰を是認することになっていたことを説明します。イエスが女性を石で打ち殺さないようにおっしゃったとすれば、モーセの律法を無視した、または過去に受け入れられていた慣行を不遜に扱ったとして非難されるどころでした。(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973], 第 1 巻, 450 - 451 参照)

一人の生徒に、ヨハネ 8 : 7 - 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がどのように答えられたかを見つけてもらいます。

- 7 節によると、イエスはどのように答えられましたか。

- ・ 救い主が「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」(ヨハネ 8:7)とおっしゃったとき、主はこれらの人たちに何を分かってもらいたかったと思いますか。

一人の生徒に、ヨハネ 8:9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がおっしゃったことをパリサイ人と律法学者が考えたとき、何が起こったかを見つけてもらいます。

- ・ 「良心に責められ」(欽定訳 8:9 から和訳) という表現には、どのような意味があると思いますか。
- ・ 出て行くことによって、これらの人々は何を認めましたか。
- ・ 他の人を非難しないようにするにはどうすればよいかについてのこの記述から、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の原則を見つけるようにします。自分自身の欠点を認めることは、他人を非難しないようにする助けとなる。この真理をホワイトボードの質問の下に書いてください。)
- ・ 自分の欠点を認めることは、他人を非難しないようにするためにどのように役立つと思いますか。

この女性には、非常に重い罪である姦淫の罪があったことを生徒たちに思い出してもらいます(アルマ 39:3-5 参照)。

- ・ 自分の罪がイエスと大勢の人々の前で公にされたとき、この女性はどのような気持ちでしたか。

一人の生徒に、ヨハネ 8:10-11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がこの女性にどう対応されたかを見つけてもらいます。

- ・ 救い主は、どのようにこの女性に愛と憐れみを示されましたか。
- ・ 救い主はこの女性にどのような指示を与えられましたか。

救い主がこの女性の罪を容認していたのではないことを生徒が理解するのを助けるため、一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「主がこの女に命じられたのは、『お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように』であった。主は罪深い女にここから去り、*邪悪な生活を捨て、さらなる罪を犯さず、人生を一変させるように指示された*。主は、女よ、行きなさい、悔い改めを始めなさいとおっしゃっておられ、*罪を捨てるための最初の*一步を示されたのである。」(『赦しの奇跡』 165)

- ・ ヨハネ 8:10-11 から、救い主についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見つけるでしょう。救い主は、悔い改める機会を提供することによってわたしたちに憐れみを示してください。)

- ・ この真理を理解することは、わたしたちが罪を犯すときにどのような助けとなりますか。

- ・ このレッスンで見いだした二つの真理は、外見や行動が主の戒めや標準にそぐわない人たちと一緒にになったときの対応について、どのような助けとなりますか。

ジョセフ・スミス訳から、ヨハネ 8:11 の最後に付け加えられた次の部分を紹介します。「……女はそのときから神を賛美し、御名を信じた。」

- ・ ジョセフ・スミス訳のヨハネ 8:11 によると、救い主の憐れみはこの女性にどのような影響を及ぼしましたか。

クラスノートか聖典学習帳に、わたしたちに憐れみを示し、悔い改める機会を与えるという救い主の御心のために、生徒たちが救い主に対して感じている気持ちを書いてもらいます。生徒たちが書いた内容を発表する時間を取ってもよいでしょう。また、このレッスンで見いだした原則について、教師は証を述べるとよいでしょう。

次の単元(ヨハネ 11-15 章)

ヨハネ 11-15 章を研究しながら、次の質問に対する答えを見つけてよう生徒たちを励まします。誰かが死からよみがえるのを見るのは、どのようなものだったでしょうか。聖文に「イエスは涙を流された」(ヨハネ 11:35)と記録されているのはなぜでしょうか。イエスが使徒たちに対して行われた事柄で、通常は僕の方が行うこととは何でしょうか。救い主が去られた後で弟子たちを慰めるために、彼らが受けると主が約束されたのは何だったでしょうか。

第71課

ヨハネ11章

はじめに

マリヤとマルタは、彼女たちの兄弟、ラザロが病気であることをイエスに伝えました。イエスは旅を延期され、ラザロが死んでから4日後に到着されました。愛と憐れみを持って、イエスはラザロを死からよみがえらされました。神聖な力の劇的

な現れは、イエスが選ばれたメシヤであられ、死に打ち勝つ力をお持ちであることを強調しました。この奇跡を知った後、祭司長とパリサイ人はイエスとラザロを殺す陰謀を企てました。

教えるための提案

ヨハネ11:1-46

イエスはラザロをよみがえらされる

生徒それぞれに小さな紙を渡します。その紙に、自分や知人が経験した試練を書いてもらいます。生徒たちが書いている間、書いたことはクラスに匿名で発表されるため、紙に名前を書かないようにしてもらいます。紙を集め、試練の幾つかを発表します。(特定の試練によってどの生徒が書いたかが分かってしまわないように、生徒の数が少ない場合は、彼らの知人が経験した試練を幾つか列挙してもらいます。)

- 試練を経験するとき、イエス・キリストへの信仰はどのように影響を受けることがありますか。

ヨハネ11章を研究しながら、生徒たちに、試練を経験するときイエス・キリストへの信仰を増す助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ11:1-3を声に出してクラスで長い聖句を読む

- 1節によると、ラザロはどのような試練を経験しましたか。これは、どのようにマリヤとマルタの試練にもなり得ましたか。
- ラザロの病気のため、マリヤとマルタは何をしましたか。この行動は、彼らについて何を示していますか。

イエスが、ベタニヤから約一日かかるペレヤのベタニヤ(ベテアバラ)におられたことを指摘します(ヨハネ1:28;10:40参照)。したがって、誰かがこのメッセージをイエスに伝えるには少なくとも一日かかり、イエスがベタニヤに旅されることでもう一日かかったこととなります。

一人の生徒に、ヨハネ11:4-7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ラザロが病気であることを聞いてからイエスがどうされたかを見つけてもらいます。

- イエスがマルタ、マリヤ、ラザロを愛しておられたのを知っていた弟子たちは、イエスがラザロの病気について聞かれた後で何をなされることを期待したと思いますか。(すぐにベタニヤに行ってラザロを癒やす、または、イエスが役人の息子にされたように〔ヨハネ4:46-53参照〕、遠くから話してラザロを癒やす。)
- イエスは、その代わりに何をされましたか。
- 4節によると、イエスは、ラザロの病気によって何が成されると言われましたか。

ベタニヤは、ユダヤの地のエルサレムから3キロ足らずの場所にあったことを生徒たちに思い出してもらいます(ヨハネ11:18参照)。ヨハネ11:8-10の要約として、ユダヤの地のユダヤ人指導者たちがイエスを殺そうとしたため、弟子の何人かはイエスにユダヤに戻らないよう勧めたと説明します(ヨハネ10:31-39参照)。イエスは、生涯の残りの時間を使って、ためらうことなく御自分の業を成すことを示してお答えになりました。

一人の生徒に、ヨハネ11:11-15を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがラザロの状態について何とおっしゃったかを見つけてもらいます。

- 弟子たちは、イエスがラザロの状態について何を言われたと誤解しましたか。

クラスで長い聖句を読む

生徒に長い聖句を読んでもらうときは、一人の生徒に一節を読んでもらい、その生徒に次の節を読む別の生徒を指名してもらうとよいでしょう。この活動は、レッスン全体で継続することができます。よく読めない人や、非常に恥ずかしがりやの人を当惑させないように気をつけます。声に出して読むのを好まない生徒に無理強いしてはなりません。読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスの数人の友人が経験した試練を見つけてもらいます。

- 15 節によると、イエスがラザロを癒やすために彼のところにいなかったことを喜ばれたのはなぜですか。(生徒たちに、自分の聖典の「それは、あなたがたが信じるようになるためである」という箇所を印をつけるように勧めます。)

救い主は、主がベタニヤで行われることが、弟子たちの主に対する信仰を増す助けとなるとおっしゃっていたことを指摘します。

ヨハネ 11:16 の要約として、使徒トマスが、ともに死ぬことを意味するとしても、イエスとともにユダヤに行こうと仲間の弟子たちを励ましたと説明します。


生徒たちに、ヨハネ 11:17 を黙読してもらい、イエスがベタニヤに来られたときには、ラザロが死んでどれくらいいたっていたかを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ラザロが死んでから 4 日たっていたことの重要性を聞き取ってもらいます。

「腐敗はかなり進んでおり、死が絶対確実なものとなってからずいぶん時間がたっていた。……ユダヤ人にとって、4 日という期間には特別な意義があった。4 日目には魂が死体の周りから最終的かつ決定的に去るということが、ユダヤ人一般に信じられていたからである。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 533)

- ユダヤ人にとって、人が死んでから 4 日たつことにはどのような意義がありましたか。
- あなたがマルタまたはマリヤであったとしたら、ラザロが死んでから 4 日たつまでイエスが到着されなかったときに、何を考え、感じていたでしょうか。

数人の生徒に、ヨハネ 11:18 - 27 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この試練についてマルタがイエスに言ったことを見つけてもらいます。


 生徒たちに聖句を読んでもらうかわりに、『聖書ビデオーイエス・キリストの生涯』からのビデオ “Lazarus Is Raised from the Dead” (「死からよみがえるラザロ」) (2 分 02 秒 - 3 分 35 秒) での救い主とマルタの会話の描写を見せることができます。このビデオは LDS.org で見ることができます。

- 21 - 27 節で、マルタがこの試練の中でイエス・キリストへの信仰を働かせることを選択したことを示す箇所はどこですか。(ビデオを見せた場合は、1 分取って生徒たちにこれらの節を見直してもらってもよいでしょう。)
- マルタが言ったことで、最も印象に残ったものはどれですか。それはなぜですか。
- わたしたちが経験する試練で何をするができるかについて、マルタの模範から何を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。試練のときに、イエス・キリストへの信仰を働かせる選択をすることができる。)

生徒たちに、ヨハネ 11:25 - 26 に注目してもらいます。「いつまでも死なない」(ヨハネ 11:26) という表現は、第二の死、つまり霊的な死、または神のみもとと王国からの別離に言及していると説明します。

- 救い主がマルタに言われたことから、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような真理を見いだすでしょう。イエス・キリストはよみがえりであり命である。イエス・キリストを信じるならば、永遠の命を得ることができる。)


数人の生徒に、ヨハネ 11:28 - 36 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、マリヤがイエスに何を言ったか、そしてイエスがどのように答えられたかを見つけてもらいます。これらの節にある「激しく感動し」とは、深く悲しむ、または悲嘆するという意味で使われていることを説明するとよいでしょう。

 生徒に読んでもらうかわりに、ビデオ “Lazarus Is Raised from the Dead” (「死からよみがえるラザロ」) (3 分 36 秒 - 4 分 50 秒) でこれらの節の描写を見せることもできます。

- 32 節に書かれているマリヤの言葉は、どのようにマリヤの救い主への信仰を表していますか。
- マリヤと彼女と一緒にいた人たちが泣いているのを見て、イエスはどのように反応されましたか。
- イエスが涙を流されたのはなぜだと思いますか。

生徒たちに、ヨハネ 11:37 を黙読してもらい、イエスがラザロのために成し得たことについて、数人が何を疑問に思ったかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

数人の生徒に、ヨハネ 11:38 - 46 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が次に何をなさったかを見つけてもらいます。

 生徒に読んでもらうかわりに、ビデオ “Lazarus Is Raised from the Dead” (「死からよみがえるラザロ」) (4分 51秒 - 7分 51秒) でこれらの節の描写を見せることもできます。

- 40 節で、マルタがラザロの墓を塞ぐ石を取り除くことについて尋ねたとき、イエスがマルタに思い出させたこととは何ですか。
- この約束はどのように成就されましたか。(ラザロは死から復活したのではなく、不死不滅でもなかったことを説明する必要があるかもしれません。ラザロの霊の体は肉体に戻されましたが、彼の肉体は死すべき体のままでした。)

一人の生徒に、ブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ラザロを死からよみがえらせることによって、救い主が果たされた重要な目的を聞き取ってもらいます。

「主は、主の最も偉大な教えを、永久に印象付けるための準備を整えられておられた。その教えは、主がよみがえりであり命であられること、不死不滅と永遠の命が主によってもたらされること、そして主を信じ、主の御言葉に従う者は決して霊的に死ぬことがないということである。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 531)

- この奇跡は、救い主の復活をどのように予告しましたか。
- この奇跡は、不死不滅と永遠の命を提供する主の御力をどのように明らかにしましたか。
- 不死不滅と永遠の命を提供する救い主の御力を理解することによって、わたしたちはどのように祝福されることが出来ますか。

マルタとマリヤは、ラザロが病気になったときに、イエス・キリストに使者を送ることによってイエスへの信仰を示し、ラザロが死んでからもイエスを信じ、信頼し続けたことを生徒たちに思い出してもらいます。次の未完成の文をホワイトボードに書きます—試練のときにイエス・キリストへの信仰を働かせる選択をするならば、_____

- ヨハネ 11 章から学んだ事柄を踏まえて、どのようにこの文章を完成させますか。(生徒たちが答えた後、次のようにホワイトボードの文を完成させます。試練のときにイエス・キリストへの信仰を働かせる選択をするならば、キリストへのわたしたちの信仰が確かにされ、さらに深められる。)

イエスが、ラザロの死をふせぐことができたのではないかと考えた人がいたことを生徒たちに思い出してもらいます (37 節参照)。しかし、イエスはラザロが死んで 4 日たつまでベタニヤに到着するのを待たれました (17 節参照)。

- ラザロが死んでから 4 日後によみがえったことは、救い主に対するイエスの弟子たちや、マルタとマリヤの信仰をどのように確かにし、深めたと思いますか。(4 日後にラザロを死からよみがえらせることによって、イエスは、ユダヤ人が否定したり誤った解釈ができない形で御自分の死に打ち勝つ力をお見せになりました。)
- 試練においてイエス・キリストへの信仰を働かせることを選択したときに、イエスに対する信仰が確かにされたり、深められたりしたのはどのようなときでしたか。

生徒たちに、彼らが経験している、または経験するかもしれない試練のときに、イエス・キリストへの信仰を働かせる選択をするよう自分自身を助けるために何をするかをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。

ヨハネ 11:47 – 57

祭司長とパリサイ人、ともにイエスを殺す相談をする

一人の生徒に、ヨハネ 11:47 – 48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがラザロを死からよみがえらされたという報告に祭司長とパリサイ人がどのように反応したかを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

ヨハネ 11:49 – 57 の要約として、大祭司のカヤパが、ローマ人による彼らの国の破滅をふせぐため、イエスを殺すべきだと主張したことを説明します。彼はまた、イエスの死が神の子供たちに及ぼす結果を無意識に預言しました。ユダヤ人指導者たちはイエスを殺そうと躍起になり、イエスを捕らえるために、イエスの居場所を知っている者はそれを通報するように命令しました。

このレッスンで話し合われた真理について証して、レッスンを終わります。

第72課

ヨハネ 12 章

はじめに

ラザロとマルタの姉妹であるベタニヤのマリヤは、迫り来る主の埋葬の象徴としてイエスの足に香油を塗りました。次の日、イエスはエルサレムへの勝利の入城をし、御自分の死を預言されました。イエスの奇跡にもかかわらず、一部の人々はイ

エスを信じませんでした。イエスは、御自分を信じる、信じないことによる結果についてお教えになりました。

教えるための提案

ヨハネ 12:1-19

マリヤはイエスの足に香油を塗り、イエスはエルサレムへの勝利の入城をなさる

数人の生徒たちに、新約聖書に記録された救い主の奇跡の一つの絵をホワイトボードに描いてもらいます。それぞれの生徒が描き終えたら、描かれた奇跡を他の生徒たちに当ててもらいます。奇跡を描いた生徒に、なぜその奇跡を選んだのかを説明してもらいます。

生徒たちに、これらの奇跡の一つを目撃することが、それぞれの救い主への信仰にどのように影響するかを深く考えてもらいます。ヨハネ 12 章を研究しながら、生徒たちに、救い主の奇跡に対する人々の異なる反応と、これらの反応を理解するために役立つ真理を見つけてもらいます。

ヨハネ 12:1-9 の要約として、過越の祭の 6 日前、イエスがベタニヤで友人たちと食事をされたことを説明します。ラザロとマルタの姉妹であるマリヤは、イエスの足に高価な油を注ぎました。多くの人々がベタニヤにイエスがおられることを聞き、イエスと、以前イエスが死からよみがえらされたラザロに会いに来ました。

一人の生徒に、ヨハネ 12:10-11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、祭司長がラザロをどうしたのかを見つけてもらいます。ラザロをよみがえらせることは、イエス・キリストが死に打ち勝つ力をお持ちであることの揺るぎない証拠であったことを指摘する必要があるかもしれません。

- 祭司長はラザロをどうしようと思っていましたか。それはなぜですか。
- これらの節は、祭司長たちとパリサイ人の邪悪さを理解するためにどのように役立ちますか。（これらのユダヤ人指導者たちが、救い主も殺そうと思っていたことを生徒たちに思い出してもらうとよいでしょう〔ヨハネ 11:47-48, 53 参照〕。）

ヨハネ 12:12-16 の要約として、マリヤがイエスの足に香油を注いだ翌日、イエスがエルサレムへの勝利の入城を果たされたことを説明します。（勝利の入城の当初の詳細は、マタイ 21:1-11 で教えられています。）

一人の生徒に、ヨハネ 12:17-19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がエルサレムへ勝利の入城をされたとき、イエスがラザロを死からよみがえらせたことと聞いた人々が何をしたら見つけてもらいます。

- これらの人々は、救い主がエルサレムへ勝利の入城をされたときに何をしましたか。
- 19 節によると、起こっていることに対してパリサイ人はどのように反応しましたか。

ヨハネ 12:20 - 36

イエス、御自分の死について預言される

ヨハネ 12:20 - 22 の要約として、おそらくユダヤ教の改宗者であった「数人のギリシャ人」(20 節) が過越の祭を祝うためにエルサレムに来て、イエスに会いたいと言ったことを説明します。この願いをお聞きになったイエスは、御自分に迫り来る苦しみ、死、復活についてお教えになりました。生徒たちに、ヨハネ 12:27 - 33 を黙読して、救い主が贖罪について何をお教えになったかを見つけてもらいます。見つけた箇所に印をつけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。

- 27 節によると、「心が騒いで」いたにもかかわらず、イエスが進んでなさろうとしたことは何ですか。(迫り来る苦しみの重みを感じ取られたにもかかわらず、イエスは御自分の目的を果たすために前に進む決心をされた。)
- 28 節によると、イエスは何のために祈られましたか。天の御父はどのようにお答えになりましたか。(「さらにそれをあらわすであろう」という言葉には、神の御子が贖罪を完成させることに対する天の御父の完全な信頼が反映されています。)
- 32 節に記録されているイエスの御言葉は、イエスの贖罪にどのように関連していますか。

イエスの教えを聞いた後、人々は、聖文からメシヤが決して死なないことを学んだと言い、「あげられる」「人の子」とは誰なのかと聞いた(ヨハネ 12:34) ことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 12:35 - 36 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがどのように彼らの質問に答えられたのかを見つけてもらいます。

- 人々の質問に対してイエスは何と答えられましたか。(救い主は御自分を「光」とであると云われた。)

ヨハネ 12:37 - 50

イエスは、御自分を信じることと、信じないことによる結果についてお教えになる

生徒たちの注意を、ホワイトボードに描かれたイエスの奇跡に向けてください。一人の生徒に、ヨハネ 12:11 を、別の生徒に、ヨハネ 12:37 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが行われた奇跡に対する人々のさまざまな反応を見つけてもらいます。

- 人々はイエスの奇跡にどのように反応しましたか。
- これらのさまざまな反応から、奇跡とイエス・キリストへの信仰における関係について、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、奇跡だけでイエス・キリストへの信仰がもたらされるわけではないということが明確になるようにしてください。)
- 奇跡だけではイエス・キリストへの信仰は生まれませんが、それらはイエスへの私たちの信仰にどのように影響しますか。
- イエス・キリストの奇跡を見た、または聞いたことでイエスを信じる人もいれば、信じない人もいるのはなぜだと思いますか。

ヨハネ 12:38 - 41 の要約として、イエスが預言者イザヤによる預言を成就されたことを信じないという選択をする人もいる事実を説明します(イザヤ 6:9 - 10; 53:1 - 3)。救い主の偉大な業にもかかわらず、一部の人はイエスに対して目をくらませ、心をかたくなにすることを選びました。

一人の生徒に、ヨハネ 12:42 - 43 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスを信じたユダヤ人指導者たちの一部がなぜ彼らの信仰を「告白」しない(42 節)、つまり公に認めることをしなかったかを見つけてもらいます。

- 役人たちがイエスに対する信仰を公に認めなかったのはなぜですか。
- 「神のほまれよりも、人のほまれを好んだ」(43 節)とはどういう意味ですか。
- これらの節からどのような教義を学べるでしょうか。(生徒たちが次のような原則を見いだすように助けてください。神よりも人を喜ばせることを気にかけることは、イエス・キリストと主の福音を信じていることを人々の前で認めることを妨げる。)

この原則を生徒たちが理解するのを助けるために、次の質問をします。

- 現代におけるこの原則の例としてどのようなものがありますか。

- イエス・キリストとイエスの福音を信じていることを示す適切な方法には何がありますか。
- イエス・キリストとイエスの福音を信じていることを示すことから、どのような良い結果がもたらされますか。

ヨハネ12:44-46で教えられている原則を見いだすよう生徒たちを備えるため、物理的な暗闇のために何も見ることができなかつたとき(例えば、暗い部屋にいた、夜に野外にいたときなど)のことを考えてもらいます。どのように感じたか、危険にさらされる可能性があったか、光があればどのような助けとなったかを含めて、数人の生徒たちにそれぞれの経験を話してもらいます。

適切な場合は、多少の光が入る状態で部屋の電気を消します。物理的な暗闇は、霊的な暗闇がどのようなものかを理解する助けとなることを指摘します。

- 物理的な暗闇は、霊的な暗闇とどのように似ていますか。
- 霊的な暗闇で生活することは、どのような危険が生じ得ますか。

一人の生徒に、ヨハネ12:44-46を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストを信じる者がどのように祝福されるかについて見つけてもらいます。

- ヨハネ12:46によると、イエス・キリストを信じる者はどのように祝福されますか。(生徒たちが答えた後で、部屋の電気を消していた場合は、電気をつけます。生徒の言葉を使って、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストを信じるならば、わたしたちは霊的な暗闇で生活する必要はない。)
- イエス・キリストはどのような点で光なのでしょう。イエスを信じることは、人の生活からどのように霊的な暗闇を取り除くことができますか。(教義と聖約50:23-25:93:36-39も参照)

イエス・キリストが私たちの生活に光(または方向性や明瞭さ)を提供することによって、どのように霊的な暗闇を一掃して下さるかを生徒たちが理解するのを助けるため、生徒たちを二つか三つのグループに分けます。各グループに次の配付資料のコピーを配ります。

イエス・キリストは、光を提供することによって霊的な暗闇を一掃される

次のそれぞれの話題に関して、次の質問について話し合ってください。

- 霊的な暗闇にいる人は、この話題についてどのようなことを信じてしまう可能性がありますか。
- イエス・キリストの光とイエスの福音は、この話題に対してどのような光を提供しますか。

話題-

- わたしたちの肉体の目的
- 娯楽とメディア
- 平安と幸せを得ること
- 結婚と家族
- 死後の生活

クラス全体で、配付資料に列挙されている話題の一つを、資料にある質問を使って話し合います。その後数分取って、生徒たちにこれらの質問を使って残りの話題を話し合ってもらいます。(これらの話題の幾つかを、生徒にとってより意味のある話題と差し替えてもよいでしょう。)

十分な時間を取った後、各グループの一人の生徒に配付資料の話題の一つを選んでもらい、その話題についてグループで話し合ったことを発表してもらいます。その後、生徒たちに次の質問をします。

- 46節で見いだした原則は、ある特定の話題と問題について、他の人々とは異なる見解を持つ場合がある理由を理解するために、どのように役立ちますか。
- イエス・キリストによって与えられた光と福音は、どのような状況でああなたの助けとなりましたか。

一人の生徒に、七十人のジェリット・W・ゴング長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ここでゴング長老は、イエス・キリストを信じ、従うことを選択することからもたらされる祝福について証しています。

「信仰とは選択です(モーサヤ4:9参照)。……」

小グループ討論と割り当て

小グループ活動によってしばしば、より多くの生徒が参加できるようになり、生徒が互いに気持ちや考え、証を気兼ねなく分かち合える環境を提供します。まず最初に教師がグループで完了すべき課題の例を使ってやり方を教える時、グループ活動を完了するために生徒はもっとよく準備ができるでしょう。

信じることを選ぶとき、わたしたちは物事を違った観点から理解し、見極めます。そのように見極め、生活するとき、わたしたちは福音のみがもたらし得る方法で幸せになり、喜びます。】(“Choose Goodness and Joy,” *New Era*, 2011 年 8 月号, 44)

ヨハネ 12:47 - 50 の要約として、イエスは、イエスの御言葉を信じず、イエスを拒む人が、イエスが話された言葉つまり天の御父がイエスに話すようお与えになった言葉によって裁かれると、お教えになったことを説明します。

イエス・キリストとイエスの福音を信じる選択をすることの結果として経験した祝福について、証を分かち合ってください。生徒たちに、学んだ原則の一つをどのように応用するかをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。イエス・キリストを信じる選択をするように生徒たちを励まします。

第73課

ヨハネ13章

はじめに

過越の祭の食事をされてから、イエスは使徒たちの足を洗い、ユダを裏切り者として示されました。現世における教え導く業の最後の週における混乱にもかかわらず、イエスは御自分

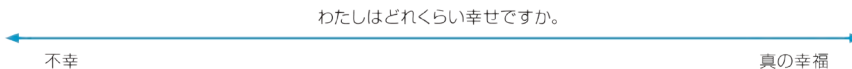
の生涯で明らかにされた属性であり、あらゆる年齢の主の弟子たちの生涯で明らかにされるべき属性である—従順、奉仕、愛についての教えに重点を置かれました。

教えるための提案

ヨハネ13:1-17

イエス、使徒たちの足を洗われる

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の図を書き写しておきます。



次の質問を声に出して読んで、生徒たちにどのように答えるかを深く考えてもらいます（声に出して答える必要はないことを説明します）。

- あなたはこの表のどの辺りにいますか。
- 今よりも幸せになりたいと思いますか。
- もっと幸せになれるように助けたい人を思い浮かべることはできますか。

ヨハネ13章を研究しながら、生徒たちに、もっと幸せになれることを知る助けとなる原則を見つけてもらいます。

ヨハネ13章を生徒たちがよりよく理解するのを助けるため、イエスが使徒たちとともに過越の祭を祝われたことを思い出してもらいます。ヨハネ13:1-3の要約として、イエスは十字架につけられる前に使徒たちと最後の食事をされたとき、もうすぐ殺されて天の御父のもとに戻ると知っておられたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ13:4-5を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが使徒たちと過越の祭の食事を終えた後に何をされたかを見つけてもらいます。4節にある「上着を脱ぎ」という句は、イエスが外衣を脱がれたことを意味しています。これは今の時代でジャケットを脱ぐことと似ています。

- 救い主は弟子たちのためにどのような奉仕をされましたか。

次を説明します。「新約聖書の時代、人々はずつと先の開いたサンダルを履いており、ほとんどが土でできている動物の糞がたまった砂利道を歩きましたが、水浴び場には不定期にしか行けませんでした。彼らの足は非常に汚れており、別の人の足を洗うということは、不快な作業にもなり得ました。……このもてなしの習慣は、通常最も身分の低い使用人が行いました。」(New Testament Student Manual [教会教育システム手引き, 2014年], 242) 最後の晩餐の途中、「キリストは静かに立ち上がり、奴隷あるいは召し使いのように仕度を整え、弟子たちの足を洗うためにひざまずきました。」(ジェフリー・R・ホランド「彼らを最後まで愛し通された」『聖徒の道』1990年1月号, 25)

「使徒たちの足を洗われるイエス」(『福音の視覚資料集』55番。LDS.orgも参照)の絵を見せます。

- イエスが使徒たちの足を洗われたときにその場にいたとして、もしイエスがあなたの足を洗い出したらどのように反応していたと思いますか。
- 使徒たちの足を洗うという行為は、イエスの性質について何を明らかにしていますか。

言葉の力に自信を持つ

教師は、生徒たちが聖文の研究を好きにはならなかったり、毎日聖文を教えても生徒たちの関心を引き続けることはできないと信じたくなることもあるかもしれません。しかし、聖文には「命の言葉」(教義と聖約84:85)が含まれており、その言葉には「剣やそのほか……どのようなことよりも……心に力強い影響を及ぼす」(アルマ31:5)ことを覚えておいてください。



一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 13:8 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がペテロの足を洗い出したとき、ペテロが何を言ったかを見つけてもらいます。

- ジョセフ・スミス訳ヨハネ 13:8 によると、救い主がペテロの足を洗い出したときにペテロは何を言いましたか。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ヨハネ 13:9 - 10 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がおっしゃったことに対するペテロの反応を見つけてもらいます。

- 9 節に記録されている、主のおっしゃったことに対するペテロの答えから、ペテロについて何を学びますか。(ペテロは主を尊敬しており、主に完全に従いたかった。)

使徒たちの足を洗うことによって、救い主は美しい奉仕の業を行われただけでなく、モーセの律法を成就して、神聖な儀式を定められた(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 706 - 709 参照) ことを説明します。この儀式は、預言者ジョセフ・スミスによってわたしたちの神権時代に回復されました(教義と聖約 88:74 - 75, 137 - 141 参照)。

一人の生徒に、ヨハネ 13:11 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが使徒たちについて「みんながきれいなのではない」とおっしゃった理由を見つけてもらいます。

- 使徒たちについて「みんながきれいなのではない」とおっしゃったとき、救い主は誰を指していましたか。(その後間もなく主を裏切るイスカリオテのユダ。)

数人の生徒に、ヨハネ 13:12 - 17 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちの足を洗われた後で、救い主が彼らに何を教えになったかを見つけてもらいます。

- 13 - 16 節によると、救い主はどのような模範を示し、使徒たちに倣うよう勧められましたか。(救い主は「教師、または主」[13 節] であり、誰よりも偉大な御方であったにもかかわらず、他の人に奉仕なさった。)
- 17 節に記録された使徒たちに対する救い主の約束によれば、わたしたちが他の人に奉仕することによって主の模範に従うときに、どのような祝福を受けますか。(生徒は独自の言葉を使って、次のような原則を見つけるはずで、他の人々に奉仕することによって救い主の模範に従うとき、わたしたちはより幸福になる。)
- 救い主が行われたように、わたしたちが他の人に奉仕するときに、より幸せになるのはなぜだと思いますか。

生徒たちに、他の人に奉仕することによって救い主の模範に従ったために、より幸福に感じたときのことを考えてもらいます。何人かの生徒に経験を分かち合ってもらいます。教師が自分自身の経験を分かち合ってもよいでしょう。

この原則を応用できる方法の一つを生徒たちが学ぶのを助けるため、一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を読んでもらいます。



「……毎朝、天の御父に、『神の大切な子供の一人に仕える機会に気づけるよう導いてください』と祈ることで。それから一日を通して、心の中に信仰と愛を満たして、助けの必要な人を探すのです。……これを行うなら、あなたの霊的な感受性は研ぎ澄まされ、今まで自分にできるとはまったく気づかなかった奉仕の機会を見いだすことでしょう。」(『熱心に携わる』『リアホナ』2012 年 11 月号, 31)

- バラード長老によると、わたしたちはどのように他の人に奉仕する機会を見つけることができますか。

他の人に奉仕することによって、救い主の模範に従うように生徒たちを励まします。今後数回のクラスの時間に他の人に奉仕した経験を発表してもらえるように、生徒たちに準備してもらおうとよいでしょう。

ヨハネ 13:18 - 30

イエス、御自分を裏切る者が誰かを示される

ヨハネ 13:18 - 30 の要約として、他の人に奉仕することによってより幸福になることを使徒たちにお教えになった後、イエスは使徒たちの一人が御自分を裏切るとおっしゃいました。誰が裏切るのかをヨハネが尋ねると、イエスは御自分の使徒の一人（ユダ）がイエスを裏切ることを示されました。

ヨハネ 13:31 - 38

イエス、弟子たちに互いに愛し合うようにとお教えになる

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるために、クリスチャンではない、またはイエス・キリストの真の弟子ではないと責められたことがないか生徒たちに尋ねます。手を挙げる生徒がいたら、クリスチャンではないという非難に対してどのように対応したかを尋ねます。誰もこのような経験をしたことがない場合は、次の質問をします。

- あなたはクリスチャンではないと誰かに言われたら、どのように答えますか。
- 一人の生徒に、ヨハネ 13:34 - 35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちがイエス・キリストの弟子であることを他の人に認めてもらうために役立つと救い主が言われた事柄を見つけてもらいます。
- 34 節によると、救い主は使徒たちにどの戒めをお与えになりましたか。
- 35 節によると、イエスが彼らを愛されたように使徒たちがお互いを愛することによって、周りの人は何を知りますか。
- 使徒たちに対する救い主の教えから、わたしたちはどのような原則を学ぶことができますか。（生徒は独自の言葉を使って、次のような原則を見つけたはずで、イエス・キリストがわたしたちを愛するように互いに愛し合うならば、周りの人々はわたしたちが主の弟子であると分かる。）
- イエス・キリストについて今年学んだ事柄から考えると、イエスはどのような方法で人々を愛していることを示されましたか。

先ほど見いだした原則が真実であり重要であると生徒たちが感じることができるよう、一人の生徒に、七十人のポール・E・コーリカー長老が語った次のお話を声に出して読んでもらいます。



「二人の若い宣教師がドアをたたきました。自分たちのメッセージを聞いてくれる人を探していたのです。ドアが開いて、かなり体格のよい男性が、友好的とは言い難い声で出迎えました。『二度とうちのドアをたたくなと言ったはずだ。今度来たら不快な思いをさせると警告しただろう。ほっといとくれ。』男性はただちにドアを閉めてしまいました。」

長老たちがそこを去るとき、より多くの経験を積んできた年上の宣教師が後輩宣教師を慰め、励まそうとして彼の肩に腕を回しました。宣教師たちは知りませんでしたが、男性は宣教師が言われたとおりにするかどうか確かめるために窓から見ていました。男性は、宣教師が自分のそっけない対応を笑い、軽んじるに違いないと思っていました。しかし、宣教師が互いを思いやる姿を見て、男性の心は瞬時に和らげられました。彼はドアを再び開け、戻って来てメッセージを教えてほしいと宣教師に頼みました。

……互いに愛し合い、思いと言葉と行いをキリストに焦点を当てたものとする、この能力を育む原則は、キリストの弟子となり、その福音を教える教師となるうえで重要です。（「主はわたしたちを心から愛しておられる」『リアホナ』2012年5月号、17）

- このお話にある宣教師たちは、互いに愛し合いなさいという主の勧告にどのように従いましたか。

生徒たちに「ともに愛し合え」（『賛美歌』192番）を歌ってもらい、生徒の知人の中から、他の人に示す愛のためにイエス・キリストの弟子であることが容易に認識できる人のことを考えてもらいます。賛美歌を歌った後、生徒たちに考えていた人の名前を分かち合ってもらい、その人たちが他の人に愛を示す具体的な方法を説明してもらいます。教師のあなたも思いついた人について話すといよいでしょう。

生徒たちに、救い主が他の人々を愛されたのと同じように、周りの人をより愛するには何をするかをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。

ヨハネ 13:36 - 38 の要約として、ペテロがイエス・キリストのために命を捨てると宣言した後、イエスは鶏が鳴く前にペテロが3度イエスを否定すると言われた事を説明します。

マスター聖句の復習

聖典から聖句を素早く探し出す練習に役立てるため、生徒たちと、ヒントを使った聖句探しをしてください。ヒントには、キーワード、背景説明、教義と原則、マスター聖句カードからの応用アイデアなどを使うことができます。教師が独自のヒントを作ることもできます。聖句探しを競うこの活動は、生徒たちがマスター聖句の学習に積極的に参加する助けとなります。聖句探しの活動を使用するときは、誰かを傷つけたり、御霊を損なうような形では行わないようにしてください。聖典を不敬に扱ったり、過度に競争的にならないよう生徒たちを助けてください。また、生徒たちがお互いに競争し合うのではなく、基準を設け、それに対して競うことも検討してください。例えば、教師と競争したり、またはクラス全員の何割が指定された時間内に固有の聖句を見つけることができるかを競うことができます。

第74課

ヨハネ 14 章

はじめに

過越の祭の後、イエスは弟子たちに天の御父のみもとに戻る方法と、救い主に対する愛の示し方についてお教えになりました。その後、イエスは別の慰め主を送ると使徒たちに約束されました。

教えるための提案

ヨハネ 14：1－14

救い主、天の御父のみもとに戻る方法について使徒たちにお教えになる

できれば生徒たちが住む町の地図を見せて、各生徒に自宅の場所を見つけてもらいます。地図の上で、生徒たちになじみのある別の場所を見つけます。一枚の紙に、彼らの自宅からその場所に行く方法を書いてもらいます。一人、または二人の生徒に書いた内容を発表してもらいます。

ホワイトボードに、「日の栄えの王国」と書きます。日の栄えの王国に行く方法を知りたい人に教える道順について、生徒たちに考えてもらいます。

ヨハネ 14 章を研究しながら、生徒たちに、天の御父のみもとに戻り、日の栄えの王国に入る方法を知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

ヨハネ 14 章を、生徒たちがより良く理解するのを助けるため、救い主がエルサレムの二階の広間で使徒たちと過越の祭を祝われたことを思い出してもらいます。過越の祭の食事の後、イエスは弟子たちに近々彼らのもとを去ると言われました（ヨハネ 13：33 参照）。

数人の生徒に、ヨハネ 14：1－5 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが使徒たちを慰めるために教えられた事柄を見つけてもらいます。

- 使徒たちを慰めるため、イエスは彼らに何をお教えになりましたか。
- 「わたしの父の家には、すまいがたくさんある」（2 節）という句は、どのような意味だと思いますか。

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を読んでもらいます。



『わたしの父の家には、すまいがたくさんある』……しかしこの聖句は、こうであるべきです。『わたしの父の王国には、王国がたくさんある』……日の栄えの律法に従う人々のために住まいがあります。その律法に従わない人々のために別の住まいがあります。全ての人が自分の位に入ります。』（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 219）

生徒たちに、ヨハネ 14：2 にある「家」と「すまい」という言葉の横に、「王国」と書くよう提案するとよいでしょう。

- ヨハネ 14：1－4 にある教えで、使徒たちの慰めとなったと思われるものはどれですか。
- 5 節によると、使徒たちには天の御父の王国への道がわかっているという救い主の教えについて、トマスはどのように応じましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 14：6 を声に出して

- イエスはトマスの質問にどうお答えになりましたか。

ホワイトボードに道を描きます。その道の一端に「私たち」と書き、反対側に「天の御父の王国」と書きます。その道の下に「道」と書き、この句が一方からもう一方の場所につながる道を指すことを指摘します。

- 救い主の道とはどのようなものですか。（救い主は、神のようになるにはどのように生活すればよいか、または天の御父のみもとに住むにふさわしくするにはどうすればよいかを示してください。といった内容を生徒たちは答えるでしょう。）

ホワイトボードの「道」の下に「真理」、「命」と書きます。

- イエス・キリストは、どのような意味で真理なのでしょう。（キリストは全ての真理の源であり、全ての真理に従って完全に生きられた。）

ヨハネ 14：6

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりがあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、トマスの質問に対するイエスの答えを見つけてもらいます。

- イエス・キリストは、どのような意味で命なのでしょう。（キリストは、わたしたちが肉体的な死を克服し、不死不滅の肉体を持って復活すること、霊的な死を克服して永遠の命を得ることを可能にしてください。キリストは、「万物の中にあり、万物に命を与える光」〔教義と聖約 88：13〕である。）

ホワイトボードに描いた道の下にある「道」という言葉の左右に、それぞれ「イエス・キリストは」「であられる」と書きます。

- 話し合った内容に基づくと、「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」（ヨハネ 14：6）という救い主の御言葉をどのように要約しますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけましょう。イエス・キリストの贖罪を通して、キリストの道に従うことによってのみ、わたしたちは天の御父の王国に入ることができる。）
- 救い主の道以外の道に従おうとすると、わたしたちはどうなるでしょうか。

一人の生徒に、七十人のローレンス・E・コーブリッジ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の道以外の道に従おうとした場合、わたしたちがどうなるかを聞き取ってもらいます。



「幸福と充足感を得る道はただ一つです。主がその道です。他の道は、どのような道であれ愚かな道です。……

……一つは、主に従い、主の力を授かり、平安、光、強さ、知識、確信、導き、愛、喜びを得る道です。もう一つは、どのような道であれ他の方向へ進み、主の支えや力、導きを受けずに、混乱と疑惑、悲痛と絶望の中を孤独に生きる道です。どちらの道がたやすいでしょうか。……

幸福と充足感を得る道はただ一つです。イエス・キリストがその道です。』（「道」『リアホナ』2008年11月号、34、36）

- コーブリッジ長老によると、わたしたちが救い主の道に従わなければどうなりますか。
- 救い主の道に従うとどうなりますか。

生徒たちに、救い主の道に従うことによって祝福を受けた経験について深く考えてもらいます。数人の生徒に、そのときの経験を分かちあってもらいます。

ヨハネ 14：7－14 の要約として、救い主がこの世に来られた理由の一つは、主の御言葉と御業を通じて天の御父の真の本質を明らかにすることであったと、救い主が使徒たちにお教えになったことを説明します。また、救い主は使徒たちに、彼らが偉大な業を行う力を持つようになることと約束されました。

ヨハネ 14：15－31

イエス、御自分への愛の示し方を使徒たちにお教えになる

愛する人のことを生徒に考えてもらいます。

- その人にどのように愛を示しますか。

一人の生徒に、ヨハネ 14：15 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが御自分への愛を示すために何をするよう使徒たちに言われたかを見つけてもらいます。

- イエスが使徒たちにお教えになったことによると、イエス・キリストへの愛を示すには何をすることができますか。（生徒は次の真理を見つけましょう。わたしたちは、イエス・キリストの戒めを守ることによってイエスへの愛を示す。）

戒め（知恵の言葉を守る、什分の一を払う、安息日を聖く保つなど）を書いた紙を数枚クラスに持ってきます。何人かの生徒に教室の前に出て来てもらいます。それぞれの生徒に紙を一枚取ってもらい、戒めを声に出して読んでから、その戒めを守る事がどのようにイエス・キリストへの愛を示すことになるかを説明してもらいます。その後、それぞれの席に戻ってもらいます。

生徒たちに、救い主の戒めを守ることによって、主に対する愛をどれだけよく示しているかを深く考えてもらいます。自分にとって難しい戒めの一つ、または幾つかをよりよく守っていくことによって、救い主への愛を示すための目標を立てるよう生徒たちを励まします。

ヨハネ 14：15

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりがあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

一人の生徒に、ヨハネ14:16-17, 26を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちに対する救い主の約束を見つけてもらいます。

- 救い主は十二使徒たちに何を約束されましたか。

16節にある「別〔の〕助け主」(慰め主)という言葉は聖霊を意味すると説明します。救い主は、現世における教え導く業を行われていた間、使徒たちの慰め主であられたため、主は聖霊を別の慰め主と呼ばれました。

- ヨハネ14:16-17, 26によると、聖霊はわたしたちのために何をすることがおできになりますか。(生徒たちは自分の言葉を使って次の真理を見つけるはずですが、聖霊はわたしたちを慰め、全てについて教え、全てをことごとく思い起こさせてくださる。)

生徒たちに、次の質問に対するそれぞれの答えをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。

- どのようなときに聖霊の慰めを感じましたか。どのようなときに聖霊が教えてくださっているのを感じましたか。どのようなときに物事を思い出すよう聖霊が助けてくださいましたか。

十分な時間を取ってから、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

数人の生徒に、ヨハネ14:18-23を順番に声に出して読んでもらいます。

- 21節と23節によると、戒めを守った場合、どのように祝福を受けますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような原則を見つけるはずですが、戒めを守れば、天の御父とイエス・キリストがわたしたちとともにいてくださる。)
- 天の御父とイエス・キリストがともにいてくださるとはどういう意味だと思いますか。(これは、天の御父とイエス・キリストが個人的に御姿を現されることを指しています〔教義と聖約130:3参照〕。)

預言者ジョセフ・スミスが、聖霊は第一の慰め主であり、イエス・キリストは第二の慰め主であると教えたことを説明します。キリストを第二の慰め主として受けるには、まず最初にキリストに対する信仰を育て、悔い改め、バプテスマを受けて聖霊を受け、義にかなうように努力して、神に仕える必要があります。これらを行うと、いずれは「イエス・キリスト御自身が〔わたしたちと〕ともにいてくださり、時には〔わたしたちに〕御姿を現されます……そして天の示現が〔わたしたちに〕開かれ、主は直接〔わたしたちを〕教えてくださいます」(*History of the Church*, 第3巻, 380-381)。この約束は、主の時期にかなって、御心に従って成就されます(教義と聖約88:68参照)。

生徒たちに、ヨハネ14:27を黙読してもらい、救い主の使徒たちへのメッセージを見つけてもらいます。

- 27節にある救い主のメッセージは、このレッスンで見いだした原則にどのように関連しますか。
- 救い主が与えてくださる平安と、この世がもたらす平安との違いは何ですか。

ヨハネ14:28-30とジョセフ・スミス訳ヨハネ14:30(『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」)の要約として、イエスは使徒たちに対し、御自分が間もなく彼らを去って天の御父のみもとに戻るのだから喜ぶべきだと言われたことを説明します。また、イエスは世に勝たれたため、サタンはイエスに対してまったく力がないとも言われました。イエスは使徒たちに、彼らはまだこの世での業を全うしていないため、サタンの力が引き続き彼らに及び得ると言われました。

生徒たちに、ヨハネ14:31を黙読してもらい、救い主が世の人々に知ってもらいたかった事柄を見つけてもらいます。

- 救い主が世の人々に知ってもらいたかった事柄は何ですか。
- 救い主はどのように天の御父への愛を示されましたか。

日の栄えの王国の神のみもとへ戻ろうとするときに、このレッスンの原則がどのように役立つかについて生徒たちに証してもらい、レッスンを終わります。

 **マスター聖句—ヨハネ 14：6**

生徒たちがヨハネ 14：6 を暗記することができるように、本手引きの付録にあるアイデアの一つを使うことを検討してください。

 **マスター聖句—ヨハネ 14：15**

生徒たちがヨハネ 14：15 を暗記することができるように、この節を紙に書いてもらいます。その節を暗記するまで、それを繰り返して読んでもらいます。その後、主の戒めを守ることによって主への愛を示すことを思い出すことが出来る場所に、その紙を貼っておくよう生徒たちに勧めます。

第75課

ヨハネ 15 章

はじめに

救い主の現世における教え導く業の最後の夜、最後の晩餐の後で、主は御自分がまことのぶどうの木であり、弟子たちは枝であると使徒たちにお教えになりました。主は、弟子たちに

互いに愛し合うように戒め、主との関係のために経験する迫害について警告されました。

教えるための提案

ヨハネ 15:1-11

イエス、御自分がまことのぶどうの木であることを説明される

レッスンの前に、ホワイトボードに「成功、不幸、うれしい、死、価値がある、非生産的、実りが多い、生産的な、豊か、失敗」という言葉を書いておきます。

生徒たちに、60年先に自分の人生を振り返っていることを想像してもらいます。

• これらのどの言葉を使ってあなたの人生を表現したいですか。それはなぜですか。

ホワイトボードにぶどうの木の絵を書きます。生徒たちに、その絵をクラスノートや聖典学習帳に描くように提案するとよいでしょう。弟子たちが実りの多い、生産的で豊かな人生を歩む方法を理解することができるように、イエスがぶどうの木のたとえを使われたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 15:1-5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、このたとえの要素が何を表しているかを見つけてもらいます。

- この木は何を表していますか。(ホワイトボードの木に「イエス・キリスト」と書きます。)
- 枝は何を表していますか。(枝に「イエス・キリストの弟子」と書きます。)
- イエス・キリストがぶどうの木でわたしたちが枝であるとするれば、その実は何を表しますか。(その実は、イエス・キリストの弟子たちがもたらすべき義にかなった働きと行いを表しています。実に「義にかなった働き」と書きます。)

1 節の「農夫」という言葉に注目してもらいます。

- 農夫とは何ですか。(ぶどう園を世話する人。)
- 1-2 節によると、天の御父はどのような点で農夫に似ていますか。(神である御父は、全ての人が栄養を得るまことのぶどうの木〔イエス・キリスト〕をお植えになったと説明する。)

クラスに木からとってきた小さな木の枝を見せ、皆がその枝から実を採って食べることができるのを楽しみにしていると説明します。生徒たちに、いつその枝から実を食べることができるか尋ねます。

- この枝に実がならないのはなぜですか。(木から切り取られており、実が育つための栄養を受けない。)

一人の生徒に、ヨハネ 15:4-5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、枝に実が育つために必要であると救い主が言われたことを見つけてもらいます。

- イエスは、枝に実が育つには何が必要だと言われましたか。(枝が木に「つながって」いなければならない。)
- この枝は、救い主から離れてしまった、または切り離された人にどのようにたどることができますか。

生徒たちに、4-5 節にある「つながって」という言葉それぞれに印をつけることを検討してもらいます。これらの節にある「つながって」という言葉は、イエス・キリストとキリストの教会にしっかりと恒久的につながるという意味であることを説明します。(ジェフリー・R・ホランド、「わたしにつながっていないさい」『リアホナ』2004年5月号、32 参照)



- 5 節によると、救い主にしっかりとつながることによる結果とは何ですか。(イエス・キリストの弟子は実を豊かに結ぶようになる。)

次の未完成の文をホワイトボードに書きます-戒めを守れば、わたしたちは救い主の愛につながって、_____

わたしたちが戒めを守り、イエス・キリストの愛につながってられるように、イエスがわたしたちを助けてくださる一つの方法を生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「主の恵みによって、またイエス・キリストの贖罪に対する信仰と罪の悔い改めを通じて、一人一人が自分の力だけではできないような善い業を行う力と助けを受けます。この恵みは可能にする力であって、誰であろうと最善の努力をするなら、この力によって永遠の命と昇栄を得ることができます。」(Bible Dictionary, “Grace”の項)

- 戒めを守るためにイエス・キリストがわたしたちを強めてくださる方法には何がありますか。

ヨハネ 15:6 - 8 の要約として、救い主につながらない者は切り落とされた枝のようであると主がお教えになったことを説明します。それは枯れ、死んでしましますが、イエス・キリストにつながる人は、神の栄光をたたえる義にかなった働きをします。

- 救い主にしっかりとつながっておくには何をすることができますか。

一人の生徒に、ヨハネ 15:9 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちに行うように教えられたこと、また使徒たちがどのような祝福を受けるかを見つけてもらいます。

- イエスは、弟子たちに何を行うように教えられましたか。
- 戒めを守ることは、わたしたちが救い主の愛につながっておくことをどのように可能にしますか。(御父と御子は完全かつ永遠の愛でわたしたちを愛してくださいますが、御二方の戒めを守ることによって、御二方が愛を込めてわたしたちが受けることを望んでおられる完全な祝福を受けることが可能になると説明します [1 ニーフアイ 17:35; 教義と聖約 95:12; 130:20 - 21 参照]。)
- 11 節によると、イエスにつながり、義にかなった働きをするようにイエスが弟子たちに教えられたのはなぜですか。

生徒たちに、11 節で読んだ事柄に基づく原則として、ホワイトボードに書かれた未完成の文をどのように完成させるか尋ねます。(生徒たちの言葉を使って、次の原則が伝わるようにホワイトボードの文を完成させます。戒めを守れば、わたしたちは救い主の愛につながって、完全な喜びを得る。)

- 救い主につながっていると完全な喜びを受けることができるのはなぜだと思いますか。

知人で、救い主につながっているために喜びを受けている人について考えてもらいます。数人の生徒たちにその人について分かち合ってもらい、その人がなぜこの原則のよい模範なのかを説明してもらいます。また、生徒たちに、救い主につながる事がどのように彼らに喜びをもたらしたかを発表してもらってもよいでしょう。

生徒たちに、救い主にしっかりとつながり、それによってより素晴らしい喜びを受けることができる方法について深く考えてもらいます。

ヨハネ 15:12 - 17

イエス、互いに愛し合うようにと弟子たちにお命じになる

ホワイトボードに、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長の次の言葉を書きます。(この言葉は、「イエス・キリストの使命と教導の業」『リアホナ』2013 年 4 月号, 24 ページにあります。)

「実にわたしたちがイエスを敬っているという最良の証拠は、イエスに倣うことです。」(ラッセル・M・ネルソン会長)

ホワイトボードに書いた言葉の「敬って」と「倣う」に下線を引きます。生徒たちに下線を引いた言葉の意味を説明してもらいます。(「敬う」とは大きな愛と尊敬を持つ、「倣う」とは模範とする、まねるという意味です。)

- イエスに倣うことが、イエスに対する愛と尊敬を表す最良の方法であるのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、ヨハネ 15:12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がどのように主に倣うように言われたかを見つけてもらいます。

- イエスはわたしたちに何をしよう戒められましたか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見つけるはずです。救い主がわたしたちを愛されるように、互いに愛し合うよう戒められた。12 節にあるこの真理に印をつけるように生徒たちを励まします。)
- イエス・キリストがわたしたちを愛してくださるよう誰かを愛するとはどういう意味だと思いますか。

生徒たちに、ヨハネ 15:13 - 17 を黙読してもらい、救い主がどのようにわたしたちを愛してくださったかを見つけてもらいます。十分な時間を取った後、生徒たちに二人一組になってもらい、見つけた事柄をパートナーと話し合ってもらいます。その後、次の質問をします。

- 13 節によると、救い主は何が最も大きな愛の表れであると言われましたか。
- 主は、このような愛をどのように示されましたか。

命を捨てることの意味について生徒たちがよりよく理解できるように、一人の生徒に七十人のクラウドディオ・R・M・コスタ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「[イエス・キリスト]は『人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない』(ヨハネ 15:13) と言い、この上ない愛の模範を示してくださいました。後に、主はわたしたちの全ての罪を贖い、最後にわたしたち皆のために命を捨てられたのです。

わたしたちは愛する者のために命を捨てることができます。それは、家族のために肉体的に死ぬという意味ではなく、家族のために生きることです。時間を割き、いつも一緒にいられるようにし、家族に奉仕をしながら生きるのです。また、思いやりや愛情、真実の愛を家族に、そして救い主が教えられたように全ての人に示しながら生きるのです。」(「今日できることを明日に延ばさない」『リアホナ』2007年11月号, 74)

- コスタ長老によると、他の人のために命を捨てるにはどのような方法がありますか。
- 誰かがあなたのために、それらの方法のいずれかで命を捨ててくれたことはありますか。

生徒たちに、救い主がわたしたちを愛されたように他の人を愛しなさいという救い主の戒めについて深く考えてもらいます。生徒たちが、救い主があなたに愛を示してもらいたいと願っておられると思うのは誰か、そしてどのようにその人に愛を示すかを、クラスノートや聖典学習帳に書く時間を数分取ります。

ヨハネ 15:18 - 27

イエスは、御自分について証する故に経験する迫害について弟子たちに警告される

救い主につながることで、お互いに愛を示すことを弟子たちにお教えになった後、主は、弟子たちが持つ主に対する特別な証や、その証を分かち合う責任のために彼らに起こることについて弟子たちにお教えになりました。

一人の生徒に、ヨハネ 15:18 - 20 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、この世が弟子たちをどのように扱うかについてイエスが教えられたことを見つけてもらいます。(これらの節にある「この世」とは、罪があり、神に反する人々を指すと説明します。)

- イエスは、この世が弟子たちをどのように扱うかについて何を教えになりましたか。

「この世が[救い主の弟子たち]を憎む」ため、生徒たちも反モルモンや憎しみに満ちたメディアやウェブサイト遭遇するであろうことを指摘するとよいでしょう。生徒の中には、仲間はずれ、あざけり、ネットいじめを含む乱暴な脅しに直面する生徒もいるでしょう。

必要に応じて、教会への憎しみに満ちた非難に対する答えを、どのようにどこで見つけるかについて生徒たちを指導することを検討するとよいでしょう。信頼できる大人からの助けを求めることに加え、生徒たちは mormonnewsroom.org、lds.org/topics、seektruth.lds.org でオンラインリソースを見つけることもできます。

ヨハネ 15:21 - 25 の要約として、イエス・キリストが、イエスを憎む者は御父をも憎むこと、また彼らは自分たちの選択の責任を負うことを断言されたと説明します。

生徒が教義と原則を 応用できるように 助ける

生徒は、聖文から見いだした教義と原則が真実かつ重要であると御霊を通じて感じ、それらを自らの生活に取り入れる何らかの緊急性を感じるときに、応用する可能性が高くなります。教義と原則が真実であり重要であると感じられるように生徒を助ける効果的な方法の一つには、学んだ真理を応用する、またはそれらに従って生活する方法を考え、書き出すように勧めることがあります。

救い主に従う人々に対する他の人たちの憎悪と迫害にもかかわらず、イエス・キリストはこの世のためにキリストの証を得る方法を備えてくださったと説明します。生徒たちに、ヨハネ 15:26 - 27 を黙読してもらい、この世に対してイエス・キリストを証する証人を見つけてもらいます。

• 救い主は、誰が主の神性について証すると言われましたか。(聖霊と救い主の弟子たち。)

生徒たちに、このレッスンの原則と真理について深く考えてもらいます。行動に移さなければならないという印象を受けた事柄を振り返り、聖霊から受けた促しに従うよう生徒たちを励まします。

家庭学習クラスのレッスン

ヨハネ 11 - 15 章 (単元 15)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヨハネ 11 - 15 章 (単元 15) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ヨハネ 11 章)

イエスがラザロを死からよみがえらされたことを読んだとき、生徒たちは次の原則を学びました。試練の中で、イエス・キリストへの信仰を働かせる選択をすることができると。イエス・キリストはよみがえりであり命である。イエス・キリストを信じるならば、永遠の命を得ることができると。試練の中で、イエス・キリストへの信仰を働かせる選択をするならば、キリストへのわたしたちの信仰が確かにされ、さらに深められる。

第 2 日 (ヨハネ 12 章)

このレッスンで生徒たちは、ラザロとマルタの姉妹であるマリヤがイエスの足に油を注いだことや、救い主のエルサレムへの勝利の入城について研究しました。また、エルサレムにおける救い主の教えについても研究しました。救い主の教えから、生徒たちは次の真理を学びました。奇跡だけではイエス・キリストに対する信仰は生まれません。神よりも他の人を喜ばせることを気にかけることは、イエス・キリストとキリストの福音へのわたしたちの信仰を公に認める妨げとなり得る。イエス・キリストを信じるならば、霊的な暗闇の中で生活する必要がなくなる。

第 3 日 (ヨハネ 13 章)

救い主が使徒たちの足をお洗いになったことを読み、生徒たちは次の真理を学びました。他の人々に奉仕することによって救い主の模範に従うとき、わたしたちはより幸福になる。イエス・キリストがわたしたちを愛してくださるようにならば、わたしたちが互いに愛し合うなら、周りの人はわたしたちがキリストの弟子であることを知る。

第 4 日 (ヨハネ 14 - 15 章)

このレッスンで生徒たちは、贖罪の犠牲を始められる前に救い主が使徒たちに説かれた教えについて研究しました。生徒たちは、イエス・キリストの贖罪を通して、また、キリストの道に従うことによってのみ、天の御父の王国に入ることができると学びました。また、イエス・キリストの戒めを守ることによってキリストに対するわたしたちの愛を示すことや、御霊がわたしたちを慰め、全てについて教え、全てをことごとく思い起こさせてくださることも学びました。生徒たちは、ぶどうの木と枝について研究したときに、戒めを守れば救い主の愛にとどまって完全な喜びを得ることを学びました。

はじめに

このレッスンは、天の御父のみもとに帰るためにしなければならない事柄を生徒たちが理解する助けになります。さらに、ヨハネ 14 章に記録された主の勧告を見直すとき、生徒たちは救い主の道により良く従うには何が出来るかを考えることもできます。

教えるための提案

ヨハネ 14 : 1 - 14

救い主は天の御父のみもとに戻る方法について使徒たちをお教えになる

できれば生徒たちが住む町の地図を見せて、各生徒に住んでいる場所を見つけてもらいます。地図の上で、生徒たちになじみのある別の場所を見つけます。一枚の紙に、彼らの住所からその場所に行く方法を書いてもらいます。1人か2人の生徒に書いた内容を発表してもらいます。

ホワイトボードに「日の栄えの王国」と書きます。日の栄えの王国に行く方法を知りたいがっている人に教える道順について、生徒たちに考えてもらいます。

毎日の家庭学習レッスンでヨハネ 14 章を研究したときに、天の御父のみもとに戻り、日の栄えの王国に入る方法を知るために役立つ真理を学んだことを思い出してもらいます。このレッスンでは、その真理についてより詳しく学ぶことを説明します。

ヨハネ 14 章を生徒たちがより良く理解するのを助けるため、救い主がエルサレムの二階の広間で使徒たちと過越の祭を祝われたことを思い出してもらいます。過越の祭の食事の後、イエスは弟子たちに近々彼らの元を去ると言われました (ヨハネ 13 : 33 参照)。

数人の生徒に、ヨハネ 14 : 1 - 5 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが使徒たちを慰めるために教えられた事柄を見つけてもらいます。

ジョセフ・スミス訳ヨハネ 14 : 3 には、「わたしが行くとき、あなたがたのために場所を用意しよう。そして、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしがいるところに、あなたがたもいるためである」と書かれています。

- 使徒たちを慰めるため、イエスは彼らに何をお教えになりましたか。
- 「わたしの父の家には、すまいがたくさんある」(ヨハネ 14 : 2) という聖句は、どのような意味だと思いますか。

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、ジョセフ・スミスが説明したこの聖句の意味を聞き取ってもらいます。



「『わたしの父の家には、すまいがたくさんある』しかしこの聖句は、こうであるべきです。『わたしの父の王国には、王国がたくさんある』……日の栄えの律法に従う人々のために住まいがあります。その律法に従わない人々のために別の住まいがあります。全ての人が自分の位に入ります。』(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』219)

生徒たちに、自分の聖典のヨハネ 14 : 2 にある「家」や「すまい」という言葉の横に、「王国」と書くよう提案するとよいでしょう。

- ヨハネ 14 : 1 - 4 にあるどの教えが使徒たちへの慰めとなったでしょうか。
- 5 節によると、使徒たちには天の御父の王国への道がわかっているという救い主の教えについて、トマスはどのように応じましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 14 : 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、トマスの質問に対するイエスの答えを見つけてもらいます。これがマスター聖句であることを生徒たちに思い出してもらいます。

- イエスはトマスの質問にどうお答えになりましたか。

ホワイトボードに道を描きます。その道の一端に「私たち」と書き、反対側に「天の御父の王国」と書きます。その道の下に「道」と書き、この聖句が一方からもう一方の場所につながる道を指すことを指摘します。

- 救い主の道とはどのようなものですか。(生徒たちは、神のようになるにはどのように生活すればよいか、また天の御父のみもとに住むにふさわしくするにはどうすればよいかを、救い主が示してくださるといった内容を答えるでしょう。)

ホワイトボードの「道」の下に「真理」「命」と書きます。

- イエス・キリストは、どのような意味で「真理」なのでしょう。(キリストは全ての真理の源であられる。そして、全ての真理に完全に従って生きられた。)
- イエス・キリストは、どのような意味で命なのでしょう。(キリストは、わたしたちが肉体の死を克服し、不死不滅の肉体を持って復活することや、霊の死を克服して永遠の命を得ることを可能にしてください。キリストは、「万物の中にあり、万物に命を与える光」[教義と聖約 88 : 13] である。)

ホワイトボードに描いた道の下に書かれた「道」の左右に、それぞれ「イエス・キリストは」「であられる」と書きます。

- 話し合った内容や毎日の家庭学習レッスンで学んだ事柄に基づく、「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(ヨハネ 14 : 6) という救い主の御言葉の意味をどのように要約することができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけるはずで、イエス・キリストの贖罪を通して、また、キリストの道に従うことによってのみ、わたしたちは天の御父の王国に入ることができる。)
- 救い主の道以外の道に従おうとすると、わたしたちはどうなるでしょうか。

一人の生徒に、七十人のローレンス・E・コーブリッジ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、救い主の道以外の道に従おうとした場合、わたしたちがどうなるかを聞き取ってもらいます。

「イエス・キリストは道です。光であり、命です。パンであり水です。初めてであり終わりです。よみがえりであり、命です。世の救い主、真理、道です。

幸福と充足感を得る道はただ一つです。主がその道です。他の道は、どのような道であれ愚かな道です。……

主の道は困難ではありません。人生は困難ですが、福音はそうではありません。どこでも、また誰にとっても、『全ての事物には反対のものがなければならない』[2 ニーフアイ 2 : 11] のです。人生は誰にとっても困難ですが、また簡潔でもあります。選択肢が二つあるのみです。一つは、主に従い、主の力を授かり、平安、光、強さ、知識、確信、導き、愛、喜びを得る道です。もう一つは、どのような道であれ他の方向へ進み、主の支えや力、導きを受けずに、混乱と疑惑、悲痛と絶望の中を孤独に生きる道です。どちらの道がたやすいでしょうか。……

幸福と充足感を得る道はただ一つです。イエス・キリストがその道です。」「(『道』『リアホナ』2008年11月号, 34, 36)

- コーブリッジ長老によると、わたしたちが救い主の道に従わなければどうなりますか。
- 救い主の道に従うとどうなりますか。
- 救い主の道とは何ですか。(必要に応じて、救い主の道には、主と御父への信仰を養う、悔い改める、バプテスマや神殿の儀式などの救いの儀式を受ける、信仰と従順さを持って最後まで耐え忍ぶことが含まれることを生徒たちに思い出してもらいます。)

生徒たちに、救い主の道に従うことによって祝福を受けた経験について深く考えてもらいます。何人かの生徒に経験を分かち合ってもらいます。

自分が救い主の道にどれほどよく従っているかを考えるよう、生徒たちに勧めます。生徒たちに、救い主の道によりよく従うための一つの方法を考え、それを行動に移すための目標を立ててもらいます。

ヨハネ 14 : 7 - 14 の要約として、救い主がこの世に来られた理由の一つは、主の御言葉と御業を通じて天の御父の真の本質を明らかにすることであったと、救い主が使徒たちにお教えになったことを説明します。また、救い主は使徒たちに、彼らが偉大な業を行う力を持つようになること約束されました。

次の単元 (ヨハネ 16 – 21 章)

ヨハネの福音書の研究を終えるに当たって、次の質問に対する答えを見つけるよう生徒たちに勧めます。十字架にかけられたとき、イエスは母親に何と言われましたか。イエス・キリストが復活された後で最初に御姿を現された相手は誰でしたか。イエスが

復活されたという他の人々の証を信じようとしなかったのは誰でしたか。救い主や救い主の復活の証人でありながら、福音を宣べ伝えずに昔の仕事に戻ろうと決めた弟子たちに対して、救い主が何と言われたかを想像してみるよう生徒たちに勧めます。救い主がこれらの弟子たちに何を言われたかについて、次の単元で生徒たちに見つけておいてもらいます。

ヨハネ 16 章

はじめに

過越の祭の食事の後、イエス・キリストは引き続き弟子たちを教えられました。イエスは、御自分がまもなく天の御父のもとに行くと言われ、聖霊、つまり慰め主が来て彼らを全ての真

理へと導くと言われました。イエスは、御自分の死と復活を預言され、世に勝ったと宣言されました。

教えるための提案

ヨハネ 16 : 1 - 15

イエス、聖霊の役割について説明される

一人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。その生徒に目隠しをして、見えなくなるようにします。目隠しをしたら、他の生徒たちに各自の聖典を部屋のどこかに置いてもらいます。その後、目隠しされた生徒に、部屋の中で特定の聖典を探して、特定のページを開くのがどれほど難しいか尋ねます。目隠しされた生徒に、自分の聖典まで連れて行ってくれる人がいると助けになるかどうか尋ねます。

目隠しされた生徒に、案内役になってもらう別の生徒を選んでもらいます。選ばれた生徒に、目隠しされた生徒を指定された聖典まで連れて行き、その生徒が聖文のページを探すのを助けてもらいます。これらの指示が完了したら、イエス・キリストがこの地上におられた時、イエスは弟子たちを指導し、お教えになったと説明します。イエスは、お教えになった真理を弟子たちが理解できるように、彼らを個人的に導かれました。

ヨハネ 16 : 1 - 4 の要約として、イエスは、弟子たちとともに過越の食事を終えられてから、人々が弟子たちを憎み、彼らを殺すことが神に仕えることだと信じる時がくると言われたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 16 : 5 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが弟子たちに何を言われたか、また弟子たちがそれについてどう感じたかを見つけてもらいます。

- イエスが去られ、自分たちが迫害されると聞いて、弟子たちはどう感じたでしょうか。

目隠しされた生徒の案内役を務めた生徒に席に戻ってもらいます。目隠しされた生徒に次の質問をします。

- 助けてくれる友人がいなくなって、再び一人になるのはどういう気持ちですか。

目隠しされた生徒に椅子を提供し、その椅子に座ってもらいます（目隠しはしたままにしてください）。

一人の生徒に、ヨハネ 16 : 7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、去られた後に送られるとイエスが約束されたのが誰かを見つけてもらいます。

- イエスは、御自分が去られた後にどなたが来ると約束されましたか。（イエスは聖霊、つまり慰め主をお送りになる。）

7 節で使われている「益になる」という言葉は、役に立つ、または有利になるという意味だと説明します。「イエスが現世にとどまられた年月の間、聖霊はユダヤ人の間で完全には働いていなかった」（ヨハネ 7 : 39 ; 16 : 7）（*Bible Dictionary*, "Holy Ghost" の項）ことを説明します。聖霊が完全に働いていなかった理由を生徒たちが理解できるように、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読みます。

「イエスが自ら弟子たちとともにおられる限り、御霊が常に彼らとともにいることは必要不可欠なことではなかった。これは、イエスが去られた後で必要となる。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 753）

ヨハネ 16 : 8 - 12 の要約として、聖霊の役割の一つが、罪について世の人の目を開くことであったと説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 16 : 13 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、イエスが去られた後での弟子たちの人生において慰め主が果たすもう一つの役割を見つけてもらいます。

- 主が去られた後、聖霊は主の弟子たちの人生でどのような役割を果たされますか。聖霊によって与えられる助けと導きから、弟子たちはどのような利益を得ますか。
- 13 節によると、今の時代、聖霊はわたしたちのために何をすることができますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。聖霊はわたしたちを全ての真理に導き、来るべき事を知らせてくださる。)
- 聖霊は、どのような方法でわたしたちを真理に導いてくださいますか。
- 聖霊は、どのような方法でわたしたちに来るべき事を知らせてくださいますか。(必要に応じて、神は聖霊を通して、将来のための確信、望み、示現、警告、および導きを与えることがおできになると説明します。)

一つの物(褒美)を棚、椅子、または部屋のその他の場所に置きます。目隠しした生徒にそれを見つけてもらいます。別の生徒に、目隠しされた生徒が褒美を見つけるよう案内して助けるように、指示をささやいてもらいます。目隠しされた生徒が褒美を見つけたら、目隠しを取ってもらいます。両方の生徒に席に戻ってもらいます。生徒たちに次の質問をします。

- これまで、どのようなときに聖霊があなたを真理に導いてくださっていると感じましたか。それが聖霊の導きであったことがどのようにわかりましたか。

教師が、自分の人生で聖霊に導かれたときの経験を分かち合ってもよいでしょう。生徒たちが学んだ真理を応用するのを助けるため、自分たちの生活の中に聖霊による導きを招くような方法で生活するよう生徒たちを励まします。

ヨハネ 16 : 13 では、御父と御子の証を述べる役割を持つ聖霊が「自分から語るのではなく、その聞くところを語[る]」とされていることを指摘します。一人の生徒に、ヨハネ 16 : 14 - 15 を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、聖霊がどなたのメッセージをわたしたちに知らせるのかを見つけてもらいます。

- 聖霊はどなたのメッセージをわたしたちに知らせてくださいますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。聖霊は天の御父とイエス・キリストからもたらされる真理と教えを明らかにしてください。)
- 聖霊がわたしたちに語られるとき、天の御父とイエス・キリストの代理として語られることを知ることは、なぜ役に立つのでしょうか。

聖霊から「人の霊に伝えられる情報は、肉体的な感覚を通して得られるいかなる情報よりもはるかに深い確信をもたらす」(『真理を守る』131) ことを生徒に説明します。これは、聖霊が真理を学ぶための最も貴重な導き手であることを意味します。聖霊の影響は、物質的な証拠、他人の意見、この世の理屈よりもずっと価値あるものです。わたしたちと同様に、救い主の弟子たちも、主が実際にともにおられないときの案内役として聖霊に頼ることを学ぶ必要がありました。

ヨハネ 16 : 16 - 33

救い主は、現世から去ることを話され、世に勝ったと宣言される

生徒たちに、家族の誰かや友人に、当分の間さよならを言わなければならなかったときのことを考えてもらいます。

- 別れるとき、お互いを慰めるために何を言いましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 16 : 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが去られることを弟子たちが考えているときに慰めとなった、イエスが弟子たちに言われたことを見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

ヨハネ 16 : 17 - 19 では、イエスが弟子たちのもとを去られるが、また会えるとおっしゃったときに、その意味を弟子たちが理解しなかったことが分かったと説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 16 : 20 - 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が弟子たちのもとを去られるときに彼らが何を感じるか、そして主と再び会うときに何を感じるかについて、主が言われたことを見つけてもらいます。「女が子を産む」という言葉が、妊婦が子供を産む前に陣痛を経験することを指すと説明する必要があるかもしれません。

- イエスが去られたとき、弟子たちはどのように感じるでしょうか。イエスは、その後何が起こると約束されましたか。

関連する経験を分かち合う

教師と生徒は、教義や原則に関する洞察や理解を共有し、それについて個人的に経験したことを伝え合う機会を持つようにしなければなりません。他の人々の生活で見た経験を話すこともできます。しかし教師は、クラスで分かち合うには適さない非常に神聖な経験、あるいは個人的な経験もあることを生徒が理解できるように助ける必要があるかもしれません(アルマ 12 : 9 ; 教義と聖約 63 : 64 参照)。

弟子たちは、イエスが復活された後でイエスに再会すると説明します。イエスの死に対する弟子たちの悲しみは大きくても、イエスの復活で感じる喜びは永遠に続きます。

ヨハネ 16：23 - 32 の要約として、イエスは、御自分（キリスト）の御名によって天の御父に直接祈ることを弟子たちに教え、弟子たちや御自分に対する天の御父の愛を確信させられたと説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 16：33 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、救い主が弟子たちを慰めるために使われた言葉と表現を見つけてもらいます。

- 主は、弟子たちを慰めるためにどのような言葉や表現をお使いになりましたか。
- 33 節によると、苦難と死に満ちた世においてでさえも幸福と平安を得ることができるのはなぜですか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストが世に勝たれたため、私たちは勇気を出し、平安を得ることができます。）
- イエス・キリストが世に勝たれたとはどういう意味だと思いますか。

御父の独り子でいらっしゃるイエス・キリストは、罪のない生涯を送られ、この世的な誘惑の全てを克服されたことを説明します。イエスはまた、全ての苦痛と苦難を経験され、わたしたち全員の罪を贖われました。御自分の命、苦しみと死、復活を通じて、イエスは、わたしたちが清くなり、平安を見だし、天の御父と愛する人たちとともに再び住むための妨げとなる全ての障害を克服されました。

- イエス・キリストが世に勝たれたことを知ることは、どのようにわたしたちが勇気を出し、平安を得るための助けとなりますか。

トーマス・S・モンソン大管長が述べた次の言葉のコピーを生徒に配ります。一人の生徒に、その言葉を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、この世の試練と困難にかかわらず勇気を持つことができる理由についての説明を見つけてもらいます。



「勇気を出して、自分の人生を生きましょう。わたしたちは危険が増す時代に生きていますが、主はわたしたちを愛し、心にかけてくださっています。正しいことをしているかぎり、主は常にわたしたちに味方してください。助けが必要なときに助けてください。……イエス・キリストの教えに従うとき、わたしたちの人生は喜びで満たされます。

主はこう教えておられます。『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。』〔ヨハネ 16：33〕このことを心に留めていれば、すばらしい幸福がもたらされます。主はわたしたちのために生き、わたしたちのために亡くられました。わたしたちの罪の代価を支払ってくださいました。わたしたちが、主の模範に倣うことができますように。主の犠牲を受け入れ、主のみもとに帰っていつの日か主とともに住むにふさわしい生活をするによって、わたしたちの心からの感謝を主にお伝えすることができますように。』（「神よ、また逢うまで」『リアホナ』2012年11月号、110 - 111）

- イエス・キリストが世に勝たれたという知識が、勇気を出し、平安を得るあなたの助けになったのはどのようなときですか。

生徒たちに、勇気を出し、イエス・キリストの福音に従って生活するように勧めます。そうするとき、主の贖罪の犠牲と復活を通じて可能になる平安と希望を感じると証してください。

第77課

ヨハネ17章

はじめに

ゲツセマネで苦しまれる前、救い主は偉大な執り成しの祈りをささげられました。主は、主の弟子たちと主に従う全ての人

が天の御父を知り、永遠の命を得るように祈られ、彼らが主と御父と一つになるように祈られました。

教えるための提案

ヨハネ17:1-8

イエス・キリストは祈りを通して天の御父に呼びかけられる

生徒たちに、彼らが何らかの知識を持っている有名人の名前を挙げてもらいます。その後、彼らの人生の中で最も良く知っている人の名前を挙げてもらいます。

- 誰かについて知識があるのと、その人を実際に知っていることの違いは何ですか。
- 誰かを本当に知るには何をしなければなりませんか。
- もっとよく知ることが大切だと感じる人には誰がいますか。それはなぜですか。

救い主が、天の御父と御自身を知ることの大切さについて教えられたことを説明します。ヨハネ17章を研究しながら、生徒たちに、天の御父とイエス・キリストを知るために役立つ真理を見つけてもらいます。

生徒たちがヨハネ17章の内容を理解するのを助けるため、救い主と弟子たちが最後の晩餐で食事をされたときから、ゲツセマネの園に入られるまでのある時点で、昔から執り成しの祈りとして知られる祈りをイエスがささげられたことを指摘します。「執り成す」という言葉の意味の一つは、別の人物のために誰かに話すことです。この場合、イエス・キリストは、弟子たちのために天の御父に祈り、彼らが永遠の命を受けるよう嘆願されました。

一人の生徒に、ヨハネ17:1-3を声に出して

レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が永遠の命をどのように説明されたかを見つけてもらいます。

- 救い主は、永遠の命をどのように説明されましたか。
- 3節に基づいてまとめると、永遠の命を受けるためにわたしたちがしなければならないことを教える原則は何ですか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、永遠の命を受けるには、天の御父と、神の独り子であられるイエス・キリストを知らなければならないということが明確になるようにしてください。）

神を知ることの意味について生徒たちが理解するのを助けるため、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を読んでもらいます。



「神について知識があることと、神を知ることとは別のものである。神について知るとは、神について学ぶことである。つまり、神は個性を持つ御方でありその御方の御姿に倣って人は創られているということや、神の独り子が神の生き写しであられるということや、御父と御子のどちらもが特定の属性と権能をお持ちであられるということや、御父と御子と同じ事柄を享受し、経験することである。神を知るとは、神がお考えになることを考え、感じられることを感じ、お持ちになる権能を持ち、理解される真理を把握し、行われることを行うということなのである。神を知る者は神のようになり、神のような生活、すなわち永遠の命を得るのである。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻〔1965-1973年〕, 第1巻, 762)

- 御父と御子を知るということは、単に御父と御子について知識があることとはどのように違いますか。
- 神である御父とイエス・キリストを知ることなく永遠の命を得ることができないのはなぜですか。

ヨハネ17:3

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにある教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けます。

- 御父と御子を知ることができる方法には何がありますか。

ヨハネ 17:4-5 の要約として、御父が救い主に与えられた業を終えられたと、主が御父に報告されたことを説明します。主は、前世でお持ちであったものと同じ栄光で御自分を輝かせてくださるよう御父に願われました。

一人の生徒に、ヨハネ 17:6-8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちが救い主を知るために何をしましたかを見つけてもらいます。

- 弟子たちは、救い主を知るために何をしましたか。(8 節にある「それを受け」、「ほんとうに知り」、「信じるに至った」という箇所を印をつけるように励ますとよいでしょう。)

ヨハネ 17:9-19

救い主、弟子たちのために祈られる

一人の生徒に、ヨハネ 17:9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が特に誰のために祈られたかを見つけてもらいます。

- 救い主は、まさに贖罪を行おうとされていたときに、誰のために祈られましたか。
- 救い主が自分たちのために嘆願されるのを聞くことから弟子たちが恩恵を受けたのはなぜだと思いますか。

ホワイトボードに、「ヨハネ 17:11-18」と書きます。生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒たちにパートナーとこれらの節を研究してもらい、弟子たちのためにイエスが何を嘆願されたかを見つけてもらいます。生徒たちが自分の見つけたことに印をつけるよう提案するとよいでしょう。十分に時間を取ってから、幾つかの組に見つけたことを発表してもらいます。

邪悪で弟子たちが憎まれるこの世で彼らが生き続けることについて、救い主が言及されたことを指摘します。

- 14-16 節から、イエス・キリストの弟子としてこの世で生きることについてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの弟子として、わたしたちは世にあって世のものとならない。)
- 世にあって世のものとならないとは、どういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「教会ではよく、『世にあって、世のものとならず』という言い方をします。……

おそらく私たちは、『世にあって、世のものとならず』という言葉に、二つの勧告に分けて考える必要があるでしょう。まず第 1 は『世にありなさい』、つまり積極的に世の事柄と取り組み、よく知りなさいという勧告です。分別を持ち、忍耐強くあり、さまざまに異なった事柄があることを理解しなければなりません。奉仕し、社会に参画して意義ある貢献をしましょう。第 2 は『世のものとならない』という勧告です。誤った道を行ったり、正しくない事柄に譲歩したり、それを受け入れたりしないようにしましょう。……

教会員は周囲に積極的な影響を与える必要があります。罪や悪の潮流に押し流されず、むしろそれを止めるために働かなければなりません。各自がこの世の問題を避けたり無視したりせず、解決に向けて貢献する必要があるのです。」(「テレビの影響力」『聖徒の道』1989 年 7 月号, 83-84)

- 主がわたしたちに、世にとどまりつつも、世のものとならないことを望まれたのはなぜですか。

生徒たちに、再度パートナーと協力して、次の状況において人がどのように世にあって世のものとならないか、その例を考えてもらいます。

1. 学校
2. 友人と一緒にいるとき
3. インターネット

十分な時間を取った後、数人の生徒に考えた例をクラス全員に説明してもらいます。数人の生徒に、彼ら自身や知人が、世にあって世のものとならないことを適切に行動で示した経験を分かち合ってもらいます。

生徒たちに、世にあって世のものとならないことによって、救い主によりよく従う努力をするための具体的な方法を、クラスノートや聖典学習帳に一つ書いてもらいます。

ヨハネ 17:20 – 26

救い主、主の福音を受け入れる全ての人々のために祈られる

一人の生徒に前に出てきてもらい、生徒の手が汚れるような作業をしてもらいます（ホワイトボード用イレーザーをきれいにし、土を入れた容器から何かを掘り出すなど）。それを行うときに、なるべく手をきれいなままにしておくように生徒に伝えます。

生徒がその作業を終えたら、クラスに手を見せてもらいます。

- この活動は、どのように世にあって世のものとならないための努力にたとえることができますか。（最善の努力にもかかわらず、この世に存在する罪と邪悪から完全に清いままであることはありません。）
- 罪から清められることができなければ、わたしたちは最終的にどのような結果を経験しますか。それはなぜですか。（清くないものは神のみもとに住むことができないため、神のみもとから永遠に切り離されてしまう〔1 ニーファイ 15:33 – 34 参照〕。）

その生徒に礼を言って、席に戻ってもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 17:20 – 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストが何について祈られたかを見つけてもらいます。

- イエス・キリストは何を祈り求められましたか。（生徒たちに、20 – 23 節に「一つ」という言葉が出てくるたびに、それに印をつけるように提案するとよいでしょう。）
- わたしたちが御父と御子と一つになることを可能にするものは何ですか。（イエス・キリストの戒めを守ることと、聖霊の賜物によってわたしたちが受けるイエス・キリストの贖罪の祝福。）

ホワイトボードに次の真理を書きます。わたしたちがイエス・キリストのみもとに来て、主の贖罪の祝福を受けることによって、御父と御子と一つになることができる。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「英語の『Atonement』（贖罪）の持つ文字どおりの意味は、そのつづりから容易に分かるように、一つになること（*at-one-ment*）、つまり離れ、疎遠であったものを一つに集めることです。」（『イエス・キリストの贖罪』『リアホナ』2008年3月号、35）

- 天の御父とイエス・キリストについて知っていることから、あなたが御父とイエスと一つになりたいと思うのはなぜですか。

一人の生徒に、大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長の次の話を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天の御父とイエス・キリストと一つになる努力をする人にもたらされる祝福について聞き取ってもらいます。



「わたしたちは主を単に知ろうとするだけでなく、主が招かれたときに主と一つとな……るように熱心に求めなければなりません（ヨハネ 17:21 参照）……」

……苦難と困難の時代が来るからです。しかし、救い主との個人的な関係に確かな慰めを得ているならば、静かな勇気を与えられるでしょう。」（『唯一の、まことの神でいますあなたと、イエス・キリストとを知る』『リアホナ』1999年2月号、3、6）

イエス・キリストと天の御父を知り、イエスと御父と一つとなる努力をすることの大切さについて証します。

生徒たちに、天の御父とイエス・キリストをよりよく知り、御父とイエスとの関係を強めるためにできることについて深く考えてもらいます。

生徒たちに、彼らの考えを聖典学習帳やクラスノートに記録してもらいます。時間を十分に取ってから、発表してくれる数人の生徒に、彼らの考えと気持ちをクラス全員に分かち合ってもらいます。

 **マスター聖句—ヨハネ 17:3**

生徒たちがヨハネ 17:3 を暗記できるように、その節が書かれたマスター聖句カードを次の週ずっと持ち歩くように勧めます。機会があるごとにその節を見直し、暗唱する練習をするように生徒たちを励まします。家族の誰かにその節を暗唱したり、その意味を説明してみよう生徒たちに提案するとよいでしょう。これから数日の間、クラスの初めに、その節の暗記の進み具合について生徒たちに報告してもらいます。

第78課

ヨハネ 18 - 19 章

はじめに

ユダヤ人指導者たちがイエスを捕らえて尋問した後、彼らはイエスを裁き、罪を宣告するためにピラトのもとに連れて行きました。ピラトは、イエスが無実であることを確信しながらも、イエスを十字架にかけることに同意しました。十字架の上で、

救い主は母親の世話を使徒ヨハネに託されました。イエスが十字架の上ではりつけにされた後、イエスの体は墓に納められました。

教えるための提案

ヨハネ 18:1 - 32

イエスはユダヤ人指導者たちに捕らえられて尋問され、ピラトのものに連れ出される

ホワイトボードに次の質問を書きます。

他の人の幸福を気にかけることが最も難しいときはいつですか。

数人の生徒に、ホワイトボードに書かれた質問にどのように答えるかを説明してもらいます。

イエス・キリストとローマ帝国の総督のピラトは、ヨハネ 18 - 19 章に記述された出来事において、それぞれ異なるものを優先した、つまり異なることに価値を置いたと説明します。ホワイトボードの一方に「イエス・キリストの懸念」と書き、反対側に「ピラトの懸念」と書きます。ヨハネ 18 - 19 章を研究しながら、生徒たちに、人生の中でどのような懸念を優先すべきかを知る助けとなる原則を見つけてもらいます。

ヨハネ 18:1 - 3 の要約として、イエスがゲツセマネの園で苦しまれた後で、イスカリオテのユダがイエスを捕らえるために祭司長やパリサイ人から遣わされた下役たちを伴って来たことを説明します。

- 武装した兵士たちがあなたを捕らえ、最終的には殺してしまうためにやってきていると知っていたとしたら、どのように反応したと思いますか。

数人の生徒に、ヨハネ 18:4 - 11 とルカ 22:50 - 51 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その一団が到着したときにイエスがどのように対応されたかを見つけてもらいます。

- イエスを捕らえに来た者たちに対して、イエスは何と言われましたか。(ヨハネ 18:8 にある「この人たち」と、ヨハネ 18:9 にある「人たち」がイエスとともにいた使徒たちであることを説明するとよいでしょう。)
- これらの節によると、イエス・キリストは何を心配しておられましたか。(生徒が答えた後、ホワイトボードの「イエス・キリストの懸念」の下に次の言葉を書きます - 使徒たちを守ること、僕の耳を癒やすこと、天の御父の御心を行うこと)

一人の生徒に、次のヨハネ 18:12 - 32 の要約を声に出して読んでもらいます。

イエスは下役たちがイエスを捕らえることを許された。彼らはイエスをユダヤ人指導者の一人であるアンナスのもとに連れて行き、次にイエスに死刑を宣告することを求めた大祭司のカバヤのもとに連れて行った。ペテロともう一人の弟子がイエスについていった。三人の異なる人がイエスの弟子なのかどうかをペテロに尋ねたとき、ペテロは三度もイエスを知っていることを否定した。カバヤがイエスを尋問した後、ユダヤ人指導者たちは、イエスを裁き、罪を宣告するためにユダヤ地方のローマ帝国総督であったピラトのもとにイエスを連れて行った。エルサレムで死刑を執行する権限を持っていたのはローマ人だけだった。

この裁判は、神殿の近くにあるアントニヤの塔で行われた可能性があると説明します。(『聖句ガイド』内にある『聖書の地図』の地図 12、「イエスの時代のエルサレム」で、生徒たちにアントニヤの塔〔地図上の 3〕を見つけてもらうことを検討するとよいでしょう。)

ヨハネ 18:33 - 19:16

イエス・キリスト、ピラトの前で裁かれる

二人の生徒に、ヨハネ 18:33 - 37 に記録されている救い主とピラトの言葉をそれぞれ声に出して読んでもらいます。(クラスが始まる前に、これらの生徒に読む箇所を見つけておいてもらうとよいでしょう。) あなたがナレーター役をする、または別の生徒にナレーターになってもらうことを検討します。これらの生徒たちがそれぞれの箇所を読むとき、他の生徒には、聞きながら、ピラトがイエスについて何を知らなかったかを見つけてもらいます。

- ヨハネ 18:33 によると、ピラトはイエスについて何を知らなかったのですか。

ユダヤ人指導者たちは、イエスが御自分はユダヤ人の王だと主張されたことを非難したと説明します。これは、イエスが王であると主張された場合、ローマ政府に対する扇動または反逆の罪でイエスを告発し、イエスを死刑に処することができたからです(ヨハネ 19:12 参照)。

- イエスはピラトに何を説明されましたか。(イエスの王国は「この世のものではない」〔ヨハネ 18:36〕こと、イエスは「真理を証する」ためにこの世にこられた〔ヨハネ 18:37〕こと。)

生徒たちに、ヨハネ 18:38 - 40 を黙読してもらい、ピラトがイエスについて出した結論を見つけてもらいます。

- ピラトは、イエスについてどのような結論を出しましたか。(ピラトは、「この人になんの罪も見いだせない」〔38 節〕と言った。)
- 39 節によると、ピラトはイエスを釈放しようとして何をしましたか。

ヨハネ 19:1 - 5 の要約として、ローマ兵がイエスを打ち、あざつけたことを説明します。ピラトは、イエスを人々の前に引き出しました。

生徒たちに、ヨハネ 19:4, 6 を黙読して、ピラトがユダヤ人たちに繰り返し言ったことを見つけてもらいます。(「彼には何の罪も見いだせない」)

- イエスに何の罪も見いだせないというピラトの主張から考えると、ピラトは何をすることが正しいと確信していたと思われませんか。

一人の生徒に、ヨハネ 19:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人指導者たちがイエスについてピラトに言ったことを見つけてもらいます。

ピラトとイエスの言葉を読んだ生徒たちと、ナレーター役の生徒にそれぞれの役を続けてもらい、ヨハネ 19:8 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが御自分を神の御子だと言われたことを聞いたピラトの反応を見つけてもらいます。

- イエスが御自分を神の御子だと言われたことをユダヤ人指導者たちがピラトに伝えた後、ピラトはどのように反応しましたか。
- あなたがピラトの立場にあったとしたら、あなたの総督としての権限についてイエスが言われたことを聞いた後、どのように感じたと思いますか。それはなぜですか。

11 節に記録されている、ユダヤ人指導者たちの罪が「もっと大きい」と述べられたイエスの言葉は、もしもピラトが群衆の要求に屈してイエスを十字架に掛けるように命じるならば、イエスの死を強く求めた者と同罪ではないにせよ、ピラトも罪に定められることを示していたと説明します。

生徒たちに、マタイ 27:19 を黙読してもらい、ピラトの妻がピラトに何をするように勧告したかを見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 19:12 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピラトがイエスについて何をしようと努めたか、そしてユダヤ人がそれにどう反応したかを見つけてもらいます。

- 12 節によると、ピラトは何をしようと努めましたか。
- ピラトがイエスを釈放したがっていると知ったユダヤ人指導者たちは何をしましたか。

カイザルがユダヤの総督としての地位をピラトに与えたローマ皇帝であったことを生徒たちに思い出してもらいます。ピラトは、以前何回もユダヤ人たちを虐殺するようにローマ兵に命じ、ユダヤ人の神聖な宗教的伝統の幾つかを冒瀆したことがありました。ピラトの行為はカイザルに報告され、カイザルはピラトを叱責しました。(ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』第 3 版、629 - 630、第 34 章に関する注釈 7 参照)

- ユダヤ人たちがピラトは「味方」ではない（12 節）とカエザルに報告したら、ピラトはどうなっていたと思いますか。（ピラトが不忠であるとカエザルが疑った場合、カエザルはピラトの総督としての地位と権威を剥奪する可能性がある。）

ピラトは、自分の利益を守ることと、無実だと知っていた救い主を釈放することのどちらかを選ばなければならなかったことを指摘します。

一人の生徒に、ヨハネ 19：16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピラトが選択したことを見つけてもらいます。

- ピラトは何を選択しましたか。
- この選択は、ピラトが何について最も懸念していた可能性があることを示していますか。（生徒が答えた後、ホワイトボードの「ピラトの懸念」の下に次の言葉を書きます—*彼自身、彼の地位と権威*）
- 無実であることを知っていた救い主を釈放するよりも自分の利益を優先するピラトの選択から、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。正しい事柄を行うことよりも自分自身の利益を優先させることは、罪を犯すことにつながる。）
- 正しいことをするよりも自分の利益を優先する誘惑にかられるような状況には、どのようなものがありますか。
- 正しいことをするよりも自分の利益を優先する誘惑を克服するために、何をすることができますか。

イエス・キリストの現世での生涯における最後のときを研究するにあたり、ピラトの特性と比較したキリストの特性について学ぶことができる事柄を生徒たちに見つけてもらいます。

ヨハネ 19：17 - 42

イエス、十字架の上ではりつけにされ、イエスの体は墓に納められる

ヨハネ 19：17 - 24 の要約として、イエスは十字架にかけられることになるゴルゴダまで十字架を背負って行かれたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 19：25 - 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスが十字架につけられたときに誰がそこにいたかを見つけてもらいます。

- イエスが十字架につけられたときに、近くに立っていたのは誰ですか。（生徒が答えた後、「愛弟子」〔26 節〕が愛弟子ヨハネとしても知られている使徒ヨハネであったことを説明します。）
- 26 - 27 節によると、イエスが十字架につけられつつも気に掛けられた人は誰でしたか。イエスはヨハネに何をしよう指示されましたか。（イエスの母を自分の母であるかのように世話すること。ホワイトボードの「イエス・キリストの懸念」の下に、「母親の幸福」と書きます。）

可能な場合、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老が述べた次の言葉をコピーして生徒たちに配ります。一人の生徒に、この言葉を声に出して読んでもらいます。



「品性は、自分が苦しんでいるときに他の人の苦しみを見極める力、自分が飢えているときに他の人の餓えに気づく能力、自分が霊的な苦悩の最中にいるときに他の人の霊的な苦しみに対して手を差し伸べ、思いやりを示す力において明らかになります。それ故に、自然で本能的な反応が自己中心となり、内向的になるときに、品性は自分以外に目を向けて、手を差し伸べることによって示されるのです。そのような能力が実際に人格を測る究極的な尺度であるとすれば、この世の救い主は、そのような矛盾がなく慈悲深い品性の完全な模範であられます。」（*“The Character of Christ”* [ブリガム・ヤング大学アイダホ校宗教シンポジウム, 2003 年 1 月 25 日], 2 - 3）

- ヨハネ 18 - 19 章から学んだ救い主の性質に基づく、わたしたちは主の模範に従うために何をすることができますか。（生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。自分自身が助けを必要としているときにさえも他人を助ける選択をすることによって、救い主の模範に従うことができる。）
- どのように、おもに自分のことだけを心配する欲求を克服し、自分自身が助けを必要としているときにさえも他人を助ける選択をすることができますか。
- 自分自身が助けを必要としているにもかかわらず、他人を助ける選択をして救い主の模範に従っている人を見たのはどのようなときでしたか。

比較し、対比する

教えや人物、出来事の類似点または相違点に留意すると、教義、原則、聖句を明確にし、福音の真理にさらによく集中することができます。

教師は、自分よりも他の人の必要を優先するというイエスの完全な模範とイエス・キリストについて、証を分かち合うとよいでしょう。生徒たちに、救い主の模範に従うために何をするかについてクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

ヨハネ 19：28 - 42 の要約として、イエスが亡くなられた後、アリマタヤのヨセフがイエスの体を引き取りたいとピラトに願い出たことを説明します。その後ヨセフとニコデモは、救い主の体を整えて、ヨセフが寄付した墓に納めました。

第79課

ヨハネ 20 章

はじめに

十字架の刑の後の日曜日、マグダラのマリヤは墓が空になっているのを見つけ、ヨハネとペテロに知らせました。二人は空になった墓に走っていきました。復活したキリストはマグダラのマリヤ、そしてその後弟子たちにも御姿を現されました。

教えるための提案

ヨハネ 20:1-10

マグダラのマリヤ、イエスの墓が空であるのが分かり、それをペテロとヨハネに告げ、二人は墓へと走って行く

ヨハネ 20 章を研究する準備として、生徒たちに愛する人、または誰かの愛する人が亡くなったときのことを考えてもらいます。

- 愛する人が亡くなると、どのような気持ちを感じると思えますか。

生徒たちがヨハネ 20 章の背景を理解することができるように、イエスが金曜日の午後 3 時ごろに亡くなられた後、イエスの体はその午後の遅くに墓に納められて、墓の入り口を閉じるために大きな岩が置かれたことを生徒たちに思い出してもらいます。安息日はその後の日没に始まりました。(イエス・キリストの復活の前、主の聖約の民は金曜日の日没から土曜日の日没までを安息日として守っていたことを説明するとよいでしょう。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その痛ましい金曜日に弟子たちがどのように感じたか想像してもらいます。



「キリストが十字架にかかられた金曜日は、どんなに暗かったことでしょう。その恐ろしい金曜日、地は揺れ、闇に包まれました。恐ろしい嵐が地を襲いました。

主の命をねらった邪悪な者たちは喜びました。イエス亡き今、主に従ってきた人々は、必ずや散り散りになるだろうと思ったのです。その日、邪悪な者たちは勝ち誇りました。

その日、神殿の幕は上から下まで真っ二つに裂けました。

マグダラのマリヤとイエスの母マリヤは、悲しみと失意に押しつぶされそうになりました。二人が愛し、たたえた偉大な人物が十字架上で命を失ったのです。

その金曜日、使徒たちの心は悲しみに深く沈みました。救い主であるイエス—水の上を歩き、死人をよみがえらせたその御方が、悪人の意のままになったのです。使徒たちは、主が敵に打ち負かされるのをどうすることもできずにただ見ていました。

その金曜日、人類の救い主は辱められ、傷つけられ、打たれ、ののしられました。

その金曜日、神の御子を愛し、たたえた人々は心を痛め、人を打ちのめすひどい悲しみが地に満ちました。

世界の歴史が始まって以来、この金曜日ほど暗い日はなかったでしょう。」「(「日曜日は必ずやってくる」『リアホナ』2006年11月号、29-30)

- もしあなたがその金曜日にそこにいた弟子たちの一人だったとしたら、どのような考えや気持ちを感じたと思えますか。

生徒に答えてもらった後、次にあるワースリン長老の言葉を続けて声に出して読みます。

「しかし、その悲しみは続きませんでした。」「(「日曜日は必ずやってくる」30)

ヨハネ 20 章を研究しながら、生徒たちにどのように「悲しみが続かなかった」のかを見つけてもらいます。

生徒が聖文の背景を理解できるように助ける

聖文の背景には、聖句に記録されている出来事に関わる状況が含まれます。この背景を理解することは、靈感を受けた聖文の著者からのメッセージを認識するように生徒を備えます。また、生徒が努めて心の中で各著者の世界に足を踏み入れ、彼らが見たように物事を見る助けになります。

一人の生徒に、ヨハネ 20:1-2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、マグダラのマリヤが週の最初の日、つまり日曜日の早朝にイエスの墓に着いたときに、何を発見したかを見つけてもらいます。

- マリヤは何を発見しましたか。
- 墓の入り口から岩が動かされていたのを見つけたとき、マリヤは何をしましたか。マリヤは何があったと思ったのでしょうか。

数人の生徒に、ヨハネ 20:3-10 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、マリヤの知らせを聞いた後、ペテロと、「もう一人の弟子」(3 節)と呼ばれたヨハネが何をしたかを見つけてもらいます。

- マリヤの知らせを聞いて、ペテロとヨハネは何をしましたか。
- 8 節によると、空の墓を見てヨハネはどのように反応しましたか。彼は何を確信しましたか。

ヨハネは、空の墓の中を見るまで、3 日後に死からよみがえるという救い主の宣言を完全には理解していなかったと説明するとよいでしょう。ヨハネが空の墓を見たとき、彼はそれを思い出し、信じた(ヨハネ 20:8-9 参照)。

ヨハネ 20:11-31

よみがえられた救い主、マグダラのマリヤ、その後弟子たちに御姿を現される

一人の生徒に、ヨハネ 20:11-15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロとヨハネが墓を去った後、マリヤに話しかけたのはどなたであったかを見つけてもらいます。

- 12-13 節でマリヤに話しかけたのは誰でしたか。
- 15 節でマリヤに話しかけたのは誰でしたか。マリヤはイエスが誰だと思いましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 20:16-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、マリアがイエスに気がついたとき、イエスがマリヤに何をしよう指示されたかを見つけてもらいます。

「わたしにさわってはいけない」(17 節)という言葉の意味を生徒たちが理解するのを助けるために、一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「欽定訳聖書では、イエスが『*Touch me not* (わたしにさわってはいけない)』と言われたとされているが、聖書のジョセフ・スミス訳では、『*Hold me not* (わたしをひきとめてはならない)』となっている。ギリシャ語からのさまざまな訳では、この節を『*Do not cling to me* (わたしにすがりついてはならない)』または『*Do not hold me* (わたしを抱きとめてはならない)』となっており、『これ以上すがりつくな』または『これ以上抱きとめるな』といった意味を持たせるものもあれば、イエスに抱きつく、またはすがりつくのを止めることを指すものもあり、マリヤがすでにイエスに抱きついていていたという憶測を与えるものもある。よみがえられた主がマリヤに伝えたお気持ち、『ここにわたしをひきとめることはできない、わたしは父のもとに昇るのだから』というものであったことを支持する正当な理由が存在するのである。』(The Mortal Messiah, 全 4 巻 [1979-1981 年], 第 4 巻, 264)

- 17 節によると、イエスはマリヤに何をしよう指示されましたか。

生徒たちに、自分がマリヤの証言を聞いた弟子たちの一人であったと想像してもらいます。生徒たちに、次の質問に対する答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

- マリヤの言うことを聞きながら、どのような気持ちでしたか。
- あなたならマリヤを信じましたか。それはなぜですか。

十分な時間を与えた後、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。弟子たちの中にはマリヤの証言を信じるのが難しいと感じた者もいたことを生徒たちに思い出してもらいます(マルコ 16:11 参照)。

一人の生徒に、ヨハネ 20:19-20 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、その夜に何が起こったかを見つけてもらいます。

- その夜、弟子たちが集まっていたときに何が起こりましたか。

• マリヤと弟子たちが学んだ重要な教義とは何でしたか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の教義を見つけてください。イエス・キリストは復活によって死を克服された。)

• 20 節によると、弟子たちは、復活された主を見たときにどのように感じましたか。

一人の生徒に、ジョセフ・B・ワースリン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「一瞬にして、とめどなくあふれる涙でいっぱいだった目は乾きました。苦悩と悲嘆の祈りをささやいていた唇は、驚くべきことを賛美する言葉を語り始めました。なぜなら、生ける神の御子イエス・キリストが、よみがえりの初穂として人々の前に立ち、死が新たな驚くべき人生の始まりにすぎないことを証明したからです。」(「日曜日は必ずやってくる」30)

• 愛する人が亡くなったのを悲しむとき、イエス・キリストが復活されたことを知っていることはどのような助けとなり得ますか。(イエス・キリストは復活されたため、この世に住んだ人も全員復活する[1 コリント 15:20 - 22 参照]。)

ヨハネ 20:21 - 23 の要約として、イエスが手とわき腹の傷を弟子たちにお見せになった後、弟子たちに御自分の業を行うよう命じられ、彼らに「聖霊を受けよ」(22 節)と言われたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 20:24 - 25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その神聖な場になかった使徒を見つけてもらいます。


• 他の弟子たちが復活された主を見たときに、その場になかった使徒は誰でしたか。

• 25 節によると、トマスは信じるために何が重要だと言いましたか。

• この節に記録されたトマスの答えは、ヨハネ 20:8 に記録された空の墓を見たときのヨハネの答えとどのように違っていましたか。

• 信じるのがトマスにとって難しかったのはなぜだと思いますか。

数人の生徒に、ヨハネ 20:26 - 29 を順番に声に出して読んでもらいます。イエスが復活されたことを信じないとトマスが言った 8 日後に、トマスが経験したことを見つけてもらいます。

 生徒がこれらの節に記録されたトマスの経験を心に思い浮かべる助けとするため、聖文を読んでもらう代わりに、『聖書ビデオ—イエス・キリストの生涯』から“*Blessed Are They That Have Not Seen, and Yet Have Believed*” (2 分 29 秒) を見せることもできます。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で見ることができます。

• トマスが手とわき腹に触れるのをお許しになった後、イエスはトマスにどのような選択をするように招かれましたか。(信じる者になりなさい。)

• 29 節によると、イエスがトマスに理解するよう望まれたことは何ですか。

• 主の教えからどのような原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストを見ることができなくても、イエス・キリストを信じる選択をすれば祝福される。)

生徒たちを二つまたは三つのグループに分け、次の質問が書かれた配付資料をグループに一枚ずつ配ります。

イエス・キリストを見ることができなくても、イエス・キリストを信じる選択をすれば祝福される

1. 目で実際にイエス・キリストを見たことがないにもかかわらず、イエス・キリストを信じる選択をするのはなぜですか。

2. イエス・キリストを信じる選択をしたことを示すには何をすることができますか。

3. イエス・キリストを信じる選択をすることによって、どのように祝福されましたか。

各グループにこれらの質問について一緒に話し合ってもらい、配付資料か聖典学習帳にそれぞれの答えを書いてもらいます。時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

目に見えなくともイエスを信じることを選べば祝福を受けるとイエスは教えられましたが、イエスはその信仰の基として証人をお与えになると説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 20:30 - 31 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがこれらの出来事を記録した理由を見つけてもらいます。

- ヨハネがこれらの出来事を記録したのはなぜですか。（「命」という言葉〔31 節〕が永遠の命を指していることを説明するとよいでしょう。）
- 使徒と預言者の証について、31 節からどのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけましょう。使徒と預言者は、イエス・キリストが神の御子であることをわたしたちが信じるように、イエス・キリストについて証する。使徒と預言者によるイエス・キリストの証を信じる選択をすることにより、わたしたちは永遠の命を得ることができる。この信仰は、イエスの戒めを守り、その証に忠実に生きることを意味する。）
- 使徒と預言者の証は、あなたのイエス・キリストへの証をどのように強めましたか。

教師がイエス・キリストに対する証を分かち合っってレッスンを終えます。イエス・キリストへの信仰をどのように示すかを決めることによって、ヨハネ 20 章で生徒が見つけた真理を応用するように彼らを励まします。

第80課

ヨハネ 21 章

はじめに

復活された主は、弟子たちが漁をしているときに御姿を彼らに現されました。岸辺で、イエスは弟子たちとともに食事をされ、主の羊たちを養うことによって主への愛を示すようペテロ

を招かれました。イエスは、ペテロの殉教とヨハネが身を変えられることの両方について預言されました。

教えるための提案

ヨハネ 21:1-17

復活された主、テベリヤの海（ガリラヤの海）で何人かの弟子たちに御姿を現される

ホワイトボードに大きなハートを描きます。

何人かの生徒たちにホワイトボードに来てもらい、ハートの内側に彼らが好きな物を2、3個書いてもらいます。好きな物とは人物、持っている物、活動から選ぶことができると説明します。

生徒たちが書き終えたら、教師が好きな物を幾つか書いてもよいでしょう。

ヨハネ 21:1-2 の要約として、復活された主に二度まみえた後、ペテロと他の数人の弟子たちがガリラヤの海（テベリヤの海とも呼ばれていました）の海辺にいたことを説明します。一人の生徒に、ヨハネ 21:3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが行うことに決めた事柄を見つけてもらいます。

- ペテロなら、ホワイトボードに書かれたお気に入りリストにどのような活動を付け加えると思いますか。（生徒に答えてもらった後、ホワイトボードのハートの中に「漁」と書きます。）
- ペテロとその他の弟子たちはどのくらいの間、漁をしていましたか。魚はどれくらい捕れましたか。

生徒たちに、何も捕れずに終わった長い夜の漁の後、ペテロと他の弟子たちがどのような気持ちを感じたと思うかを考えてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 21:4-6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、次の朝に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 海辺におられたのは誰ですか。
- 弟子たちは、すぐにそれがイエスだと気がつきましたか。
- イエスは彼らに何をしよう指示されましたか。
- 彼らがイエスの指示に従うと、何が起こりましたか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「明快な言葉に彼らはすぐ、その人がどなたなのか分かりました。聖文には、ちょうど3年前、同じ人たちがまさにこの海で漁をしていたときも、『夜通し働きましたが、何もとれ[なかった]』（ルカ 5:5）と書かれています。しかし、岸にいた一人のガリラヤ人に、網を降ろすように言われてそのとおりにすると、『おびただしい魚の群れ』が取れたのです（ルカ 5:6）。網が破れそうになるほどの量で、魚をいっぱい積んだ2隻の舟は重みで沈み始めたほどでした。

そして今、また同じことが起きているのです。」（「いちばん大切な、第一のいましめ」『リアホナ』2012年11月号、83）

- 2番目の奇跡的な魚の捕獲は、岸におられたのがどなたかを弟子たちが気づくどのような助けとなりましたか。
- もしあなたが弟子たちとともに舟に乗っていたとしたら、何を考え、感じたと思いますか。



ヨハネ 21:7-14 の要約として、弟子たちが網いっぱいの魚を舟に引き上げようと苦労しているとき、ヨハネは海辺におられる方が主であると宣言したことを説明します。ペテロは勇んで海に飛び込んでイエスのもとに泳いで行き、他の弟子たちは舟で戻りました。弟子たちが岸に着くと、イエスは彼らのために食事を準備しておられました。

ジェフリー・R・ホランド長老は、ペテロと他の弟子たちが救い主と食事をした後、イエスが「傷んだ小舟と、すり切れた網、そして153匹もの大量の魚に目をやりながら」（「いちばん大切な、第一のいましめ」84）、ペテロに話をされたのかもしれないと教えることによって、この記述を詳細に述べました。

一人の生徒に、ヨハネ 21:15-17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがペテロに繰り返しお尋ねになった質問を見つけてもらいます。見つけた箇所印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

- イエスはペテロに三度何とお尋ねになりましたか。
- イエスが「この人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」（15節、訳注-欽定訳〔英文〕ヨハネ 21:15 では「これら以上に、わたしを愛するか」と尋ねられたとき、「この人たち」（英語では『*these* [これら]』）とは何を指していたと思いますか。（イエスは山積みになった魚や、漁師の生活に関連する他の事柄を指しておられたのかもしれませんが。ホワイトボードのハートの近くに次の質問を書いてください—あなたはこれら以上に、わたしを愛するか）
- ペテロはどのように答えましたか。
- あなたがペテロの立場にいて、イエスが三度も「わたしを愛するか」とお尋ねになったとしたら、どのような気持ちになったと思いますか。

イエスがこの質問を三度お尋ねになった理由を生徒たちが理解するのを助けるため、一人の生徒にホランド長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「それに対するイエスの答えは、（またこれも聖文にはない、わたしの想像ですが）このようなものだったでしょう。『ペテロよ、それならなぜあなたはここにいるのか。なぜわたしたちはまたこの同じ岸で、同じ網のそばで同じ会話をしているのか。わたしが魚を欲しければ自分でとれることが明らかなのは、あのときも、また今も同じではないのか。ペテロよ、わたしが必要としているのは、弟子である。永遠に弟子が必要なのだ。わたしの羊を養い、子羊を救う者が必要なのだ。わたしの福音を宣べ伝え、わたしの宗教を守る者が必要なのだ。わたしを愛する者、真に愛する者、そして、天の御父がわたしに託された業を愛する者を必要としている。……ペテロよ、これは2度目であって、恐らくは最後となるが、わたしはあなたにこの全てを捨てることを求めている。この世がわたしにしたのとまったく同じことをあなたにするその日まで、出て行って教え、証し、忠実に働いて奉仕してほしい。』（「いちばん大切な、第一のいましめ」84）

- ペテロの体験から、どのような原則を学べるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが他の何よりも救い主と天の御父を愛するならば、主と御父の羊を養うようになる。）
- 天の御父とイエス・キリストの羊とは誰でしょうか。それらの羊はどのように養えばよいのでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「これは現代のクリスチャン一人一人に対するキリストの呼びかけです。『わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。』すなわち、他の人々、特に自分とは異なる考えや信仰を持つ人々を、鼓舞し、喜ばせ、慰め、励まし、育みながら、年齢を問わずあらゆる人に福音を分かち合うのです。』（「クリスチャンとして、キリストのような特質を高める」『リアホナ』2012年11月、91）

今見いだした原則をどのように応用すればよいかを生徒たちが理解するのを助けるため、三人の生徒たちに、次のシナリオを順番に声に出して読んでもらいます。（これらのシナリオは、生徒たちの必要や関心に依じて調整することができます。）それぞれのシナリオを読んでもらったら、次の質問をします。

1. 昼食の時間になると、男子のグループが一緒に座ろうと一人の少年を誘います。この少年は彼らと友達になりたいと思っています。話していると、グループの一人が別の少年をあからさまにからかいはじめました。

2. サッカーが大好きな若い女性がいます。彼女はサッカーをするために毎週沢山の時間を費やしており、家庭の夕べや個人の聖文研究など、他の事柄に当てる時間があまりありません。
 3. 勉強と課外活動の両方でとても忙しくしている青年がいます。彼は、金曜日の夜に珍しく空いた時間を友人たちと過ごすことをその週ずっと楽しみにしていました。金曜日の夜、彼が友人の一人に電話をしようとしたとたん、ホームティーチングの同僚が電話をかけてきて、担当している家族の急な必要のために一緒に助けに行けないかどうか聞かれました。
- この人にはどのような選択がありますか。
 - この人は、主に対する愛を行動で示すために何をすることができますか。その行動は、主に対する愛をどのように示しますか。

一人の生徒に、ホランド長老の次の言葉を読んでもらいます。

「愛する兄弟姉妹、裁きの日にわたしたちがどのような経験をするのか、わたしには分かりません。しかし、その日の神とのやり取りのどこかで、『わたしを愛するか』とキリストがペテロにお尋ねになったのとまったく同じ質問を神がお聞きにならないとすれば、わたしはとても驚くことでしょう。」（「いちばん大切な、第一のいましめ」84）

教師は、他の何よりも天の御父とイエス・キリストを愛し、御父とキリストの羊を養うことでその愛を示すことの大切さについて、証を分かち合ってください。

ホワイトボードのハートの中に書き出したことと、それらの横に書いた「あなたはこれら以上に、わたしを愛するか」という質問に目を向けます。聖典の「この人たち」に線を引き、余白に、英語では『*these* [これら]』という言葉になっていることを書き込んで、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に次の質問の答えを書いてもらいます。

- イエスがあなたに同じ質問をお尋ねになったとしたら、イエスが言われる「これら」はあなたの生活の中の何を指すと思いますか。
- あなたならイエスの質問にどう答えますか。
- 主に対するあなたの愛をどのように示しますか。

ヨハネ 21 : 18 – 25

イエス、ペテロの殉教とヨハネの身が変えられることについて預言される

ヨハネ 21 : 18 – 21 の要約として、ペテロが年老いるときに「自分の手をのばす」（18 節）ことと、行きたくないところへ連れて行かれるとイエスが預言されたことを説明します。一般的に、ペテロは十字架へのはりつけによって死んだと信じられていますが、ペテロは救い主と同じ形で死ぬには自分がふさわしくないと考えたため、十字架に逆さにはりつけられることを要求したと言われています。（ジョセフ・フィールディング・スミス、*Doctrines of Salvation*, プルース・R・マッコンキー編、全 3 巻 [1954 – 1956 年], 第 3 巻, 151 – 152）

この預言を聞いた後、ペテロは愛弟子ヨハネとしても知られていたヨハネには何が起こるのか尋ねました。一人の生徒に、ヨハネ 21 : 22 – 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がどのようにペテロに答えられたかを見つけてもらいます。

- ペテロはヨハネについて何を学びましたか。

22 節にある「生き残っている」という言葉は、この世で生きてままだることを意味すると説明します。したがって、ヨハネはイエス・キリストの再臨まで、身を変えられた人としてこの世にとどまる事になります。身を変えられた人とは、「復活して不死不滅となるまで、痛みや死を味わうことがないように体の状態を変えられた人」です。（『聖句ガイド』「身を変えられた人」、*scriptures.lds.org*）

- 22 節によると、イエスはペテロに対し、ヨハネに何が起こるかについて関心を持つよりも、何に集中することを望まれましたか。

一人の生徒に、ヨハネ 21 : 24 – 25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが自分の記録を終えるにあたって皆に何を知って欲しかったかを見つけてもらいます。

- ヨハネが彼の記録を終えるにあたって皆に知ってもらいたかったこととは何でしたか。

ホワイトボードに次の質問を書きます。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの記録に書かれた全ての事柄の中で、救い主の現世における教え導く業のどの物語、出来事、教えが最も印象に残りましたか。それはなぜですか。

筆記活動

時折、考えるように促す質問に対する答えを書き留めるように奨励することは、深く考えて、自分の考えをはっきりさせるのに役立ちます。とりわけ、筆記の割り当てによって、個人として参加し、学んだ事柄をどのように応用するかについて靈感を受ける機会が生徒に与えられます。

生徒たちに、これらの質問について深く考えてもらいます。「われに来よ」(『賛美歌』66番)などの賛美歌を静かに流し、学んだ真理を思い出すために、聖典とクラスノートや聖典学習帳を生徒たちに見直してもらおうとよいでしょう。十分な時間を取った後、何人かの生徒にクラスの前に出てきてもらい、質問に対する答えを分かち合ってもらいます。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによって書かれたイエス・キリストの現世での教え導く業と贖罪の記述の真実性を証して、クラスを終えるとよいでしょう。

家庭学習クラスのレッスン

ヨハネ 16 – 21 章 (単元 16)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヨハネ 16 – 21 章 (単元 16) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (ヨハネ 16 章)

最後の晩餐の後でイエスが弟子たちにお教えになった事柄から、生徒たちは、聖霊があらゆる真理にわたしたちを導き、来るべき事柄を示すことがおできになると学びました。また生徒は、聖霊が天の御父とイエス・キリストから来る真理と指示を明らかにしてくださることも学びました。イエス・キリストが世に勝たれたため、私たちは勇気を出し、平安を得ることができます。

第 2 日 (ヨハネ 17 章)

生徒たちは、イエスの執り成しの祈りについて研究したときに、永遠の命を受けるには天の御父と神の御子であるイエス・キリストを知るようにならないといけないことを学びました。また、イエス・キリストの弟子として、わたしたちは世にあって世のものとならないことも学びました。弟子たちがイエスと御父と一つになることができるようイエスがどのように祈られたかについて生徒たちが読んだとき、わたしたちがイエス・キリストのみもとに来て、主の贖罪の祝福を受けることによって、御父と御子と一つになることができると学びました。

第 3 日 (ヨハネ 18 – 19 章)

生徒たちは、ピラトの利己的な例から、正しい事柄を行うことよりも自分自身の利益を優先させることが罪を犯すことに繋がると学びました。生徒たちは、十字架へのはりつけについてのヨハネの記述から、自分自身が助けを必要としているときでさえも他人を助ける選択をすることによって、救い主の模範に従うことができると学びました。

第 4 日 (ヨハネ 20 – 21 章)

このレッスンでは、生徒たちはイエス・キリストの復活についてのヨハネの記述を研究しました。生徒たちは、イエス・キリストが復活によって死を克服されたことを学びました。生徒たちは、トマスの経験から、イエス・キリストを見ることができなくても、イエス・キリストを信じることを選ぶときに祝福されることを学びました。

はじめに

復活された主は、弟子たちが漁をしていたときに姿を現されました。イエスは海辺で弟子たちと食事し、主の羊たちを養うことによって主への愛を示すようにペテロを招かれました。

教えるための提案

ヨハネ 21:1 – 17

復活された主は、テベリヤの海 (ガリラヤの海) で何人かの弟子たちに御姿を現された

ホワイトボードに大きなハートを描きます。

何人かの生徒たちにホワイトボードの前に来てもらい、ハートの内側に彼らが好きな物を 2, 3 個書いてもらいます。好きな物とは人物、持っている物、活動から選ぶことができると説明します。



生徒たちが書き終えたら、教師が好きなものをいくつか書いてもよいでしょう。

ヨハネ 21:1 – 2 の要約として、復活された主に二度まみえた後、ペテロと他の数人の弟子たちがガリラヤの海 (テベリヤの海とも呼ばれていました) の海辺にいたことを説明します。

一人の生徒に、ヨハネ 21:3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが行うことに決めた事柄を見つけてもらいます。

- ペテロなら、ホワイトボードに書かれた好きな事柄のリストにどのような活動を付け加えると思いますか。(生徒に答えてもらった後、ホワイトボードのハートの中に「漁」と書きます。)
- ペテロとその他の弟子たちはどれくらいの間漁をしていましたか。魚はどのくらい捕れましたか。

生徒たちに、何も捕れずに終わった長い夜の漁の後、ペテロと他の弟子たちがどのような気持ちを感じたと思うかを考えてもらいます。

一人の生徒に、ヨハネ 21:4 – 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、次の朝に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 弟子たちの夜を徹した漁が失敗に終わった後、何が起こりましたか。

ヨハネ 21:7 – 14 の要約として、弟子たちが網いっぱいの魚を舟に引き上げようと苦労しているとき、ヨハネは海辺におられる方が主であると述べたことを説明します。ペテロは勇んで海に飛び込んでイエスのもとに泳いで行き、他の弟子たちは舟で戻りました。弟子たちが岸に着くと、イエスは彼らのために食事を準備しておられました。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。



「復活されたイエスとの喜びの再会後、ペテロは救い主と話をしました。この会話は、基本的な使徒の務めのあり方と、そしてもちろんペテロ自身にとっての重要な転換点であったとわたしは考えます。堅固な岩である男性はこの会話で靈感を受け、献身的な奉仕と指導者としての偉大な生涯を送ることになるのです。傷んだ小舟と、すり切れた網、そして153匹もの大量の魚に目をやりながら、イエスは先任使徒に言われました。」（「いちばん大切な、第一のいましめ」『リアホナ』2012年11月号、84）

一人の生徒に、ヨハネ 21：15 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエスがペテロに繰り返しお尋ねになった質問を見つけてもらいます。見つけた箇所を印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

- ・ イエスはペテロに三度何とお尋ねになりましたか。
- ・ イエスが「この人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」（15節、欽定訳〔英文〕ヨハネ 21：15 では「これら以上に、わたしを愛するか」と尋ねられたとき、「この人たち」（英語では『*these* [これら]』）とは何を指していたと思いますか。（イエスは山積みになった魚や、漁師の生活に関連した他の事柄を指しておられたのかもかもしれません。ホワイトボードのハートの近くに次の質問を書いてください—あなたはこれら以上に、わたしを愛するか）
- ・ ペテロはどのように答えましたか。
- ・ あなたがペテロの立場にいて、イエスが三度も「わたしを愛するか」とお尋ねになったとしたら、どのような気持ちになったと思いますか。

イエスがこの質問を三度お尋ねになり、ペテロに答えさせた理由を生徒たちが理解するのを助けるため、一人の生徒に、ホランド長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「それに対するイエスの答えは、（またこれも聖文にはない、わたしの想像ですが）このようなものだったでしょう。『ペテロよ、それならなぜあなたはここにしているのか。なぜわたしたちはまたこの同じ岸で、同じ網のそばで同じ会話をしているのか。わたしが魚を欲しければ自分で取れることが明らかなのは、あのときも、また今も同じではないのか。ペテロよ、わたしが必要としているのは、弟子である。永遠に弟子が必要なのだ。わたしの羊を養い、子羊を救う者が必要なのだ。わたしの福音を宣べ伝え、わたしの宗教を守る者が必要なのだ。わたしを愛する者、真に愛する者、そして、天の御父がわたしに託された業を愛する者を必要としている。……ペテロよ、これは2度目であって、恐らくは最後となるが、わたしはあなたにこの全てを捨てることを求めている。この世がわたしにしたのとまったく同じことをあなたにするその日まで、出て行って教え、証し、忠実に働いて奉仕してほしい。』（「いちばん大切な、第一のいましめ」84）

- ・ 主とペテロの会話から、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが他の何よりも救い主と天の御父を愛するならば、主と御父の羊を養うようになる。）
- ・ 天の御父とイエス・キリストの羊とは誰でしょうか。それらの羊はどのように養えばよいのでしょうか。

天の御父とイエス・キリストの羊をどのように養えばよいかを生徒たちが理解するのを助けるため、一人の生徒に、十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「これは現代のクリスチャン一人一人に対するキリストの呼びかけです。『わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。』すなわち、他の人々、特に自分とは異なる考えや信仰を持つ人々を、鼓舞し、喜ばせ、慰め、励まし、育みながら、年齢を問わずあらゆる人に福音を分かち合うのです。」（「クリスチャンとして、キリストのような特質を高める」『リアホナ』2012年11月、91）

他の何よりも神を愛するという原則をどのように応用すればよいかを生徒たちが理解するのを助けるため、三人の生徒たちに次のシナリオを順番に声に出して読んでもらいます。それぞれのシナリオを読んでもらったら、次の質問をします。

1. 昼食の時間になると、男子のグループが一緒に座ろうと一人の少年を誘います。この少年は彼らと友達になりたいと思っています。話していると、グループの一人が別の少年をあからさまにからかいはじめました。
 2. サッカーが大好きな若い女性があります。彼女はサッカーをするために毎週沢山の時間を費やしており、家庭のタベや個人の聖文研究など、他の事柄に当てる時間があまりありません。
 3. 勉強と課外活動の両方でもとても忙しくしている青年がいます。彼は、金曜日の夜に珍しく空いた時間を友人たちと過ごすことをその週ずっと楽しみにしていました。金曜日の夜、彼が友人の一人に電話をしようとしたとたん、ホームティーチングの同僚が電話をかけてきて、担当している家族の急な必要のために一緒に助けに行けないかどうか聞かれました。
- ・ この人にはどのような選択がありますか。

- ・ この人は、主に対する愛を行動で示すために何をすることができますか。その行動は、主に対する愛をどのように示しますか。
- 一人の生徒に、ホランド長老の次の言葉を読んでもらいます。

「愛する兄弟姉妹、裁きの日にわたしたちがどのような経験をするのか、わたしには分かりません。しかし、その日の神とのやり取りのどこかで、『わたしを愛するか』とキリストがペテロにお尋ねになったのとまったく同じ質問を神がお聞きにならないとすれば、わたしはとても驚くことでしょう。」（「いちばん大切な、第一のいましめ」84）

教師は、他の何よりも天の御父とイエス・キリストを愛し、御父とキリストの羊を養うことでその愛を示すことの大切さについて証を分かち合ってください。

ホワイトボードのハートの中に書き出したことと、それらの横に書いた「あなたはこれら以上に、わたしを愛するか」という質問に目を向けます。聖典の「この人たち」に線を引き、余白に、英語では『*these* [これら]』という言葉になっていることを書き込んで、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に次の質問の答えを書いてもらいます。

- ・ イエスがあなたに同じ質問をお尋ねになったとしたら、イエスが言われる「これら」はあなたの生活の中の何を指すと思いますか。
- ・ あなたならイエスの質問にどう答えますか。

この福音の締めくくりとして、イエス・キリストが神の御子であるということを信じることや、それに対する信仰を強める助けとなった救い主の現世での教え導く業からの物語、出来事、教えについての第4日のレッスンの課題で、それぞれの聖典学習帳に書いた事柄を数人の生徒たちに分かち合ってもらいます。

次の単元（使徒1－5章）

使徒行伝1－5章を研究するときに、次の質問に対する答えを見つけるよう生徒たちに勧めます。救い主が亡くなられ、復活された後で教会を導くことになるのは誰でしたか。他の使徒たちはどのように選出されましたか。五旬節の日にどのような奇跡が起こりましたか。その日の奇跡に対して、聖霊はどのような影響を及ぼしましたか。ペテロが宮でどのような奇跡を起こし、そのためにペテロに何が起こりましたか。彼らの神権指導者に嘘を言ったことから、アナニヤとサツピラに何が起こりましたか。

使徒行伝

への導入

なぜこの書を研究するのか

使徒行伝は、四福音書にあるイエス・キリストの生涯と教えの記録と、イエスの使徒たちの記述や働きとの間の懸け橋となるものです。使徒行伝は、神権の鍵を持つ者に対する聖霊の靈感を通して、救い主がどのように御自身の教会を導き続けられたのかを示しています。聖霊は、使徒たちに真理を明らかにされ、それから使徒たちは教会を導き教えました。使徒たちも、イエス・キリストの名によって奇跡を行いました。この書を研究することによって、生徒はイエス・キリストの教会がどのようにエルサレムから「地のはてまで」(使徒 1:8) 広がって行くかが分かります。また、この書を研究することは、生徒が現代の預言者や使徒たちに従う賢明さを理解する助けともなり、イエス・キリストの証人として大胆に立つための靈感を与えてくれます。

誰がこの書を書いたのか

使徒行伝はルカが書いた「2 部作の 2 番目の書である。1 番目の書は『ルカによる福音書』として知られている。」「(『聖句ガイド』「使徒行伝」, *scriptures.lds.org*。ルカ 1:1 - 4; 使徒 1:1 も参照)

いつ、どこで書かれたか

使徒行伝はルカによる福音書の後で書かれており(使徒 1:1 参照)、紀元 1 世紀後半に書かれたと考えられています。書かれた場所は分かっていません。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ルカは使徒行伝を、テオピロという名前の人に宛てて書きました(使徒 1:1 参照)。

この書の特徴は何か

使徒行伝は、キリスト教の台頭と普及について述べ、ユダヤ地方の首都エルサレムで始まり、帝国の偉大な首都ローマで終わります。使徒行伝に記載された出来事は、約 30 年にわたって起こったもので(およそ紀元 30 - 62 年)、主にペテロ(使徒 1 - 12 章参照)とパウロ(使徒 13 - 28 章参照)の働きに焦点が当てられています。使徒行伝がなければ、教会初期の歴史に関する知識は、新約聖書の書簡によって提供される少量の情報に制限されたことでしょう。加えて、使徒行伝はパウロの書簡

のための貴重な歴史的背景を提供しています。

初期の教会の成長に重要な事柄として、パウロの改宗(使徒 9 章)と彼のその後の伝道; ユダヤ教に改宗していなかった異邦人の教会への受け入れに関してペテロが受けた示現(使徒 10:9 - 16, 34 - 35); エルサレムの会議で教えられた教義(使徒 15 章)などがあります。

ルカ 24:49 に記録されているように、救い主は使徒たちに「上から力を授けられるまで」働きを始めないよう指示されました。使徒行伝は、この力が聖霊によって授かったことを記録し、五旬節の日の何千人もの改宗が始まる、その劇的な結果について述べています(使徒 2 章参照)。使徒行伝全体を通して、ルカは、個人や会衆に対する聖霊の働きを強調しました。「『上から力を授けられる』という表現は、おそらく、使徒たちが『通常、主の神殿でしか与えられない、特定の知識、力、特別な祝福を受ける』ことも意味していたと思われる。」(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 1 巻, 859)

概要

使徒 1 - 2 章 イエス・キリストは復活後、40 日にわたって弟子たちを教え導かれ、その後、天に昇られる。靈感によって、使徒たちは十二使徒定員会の空席を埋めるためにマツヤを召す。五旬節の日に聖霊が注がれる。ペテロは復活された救い主について大胆に証し、およそ 3,000 人が改宗する。

使徒 3 - 8 章 ペテロとヨハネは、生まれつき足の不自由な人を癒やす。ペテロとヨハネは、イエス・キリストの名で福音を宣べ伝え、癒やしを行ったために捕らえられるが、獄から救い出される。使徒たちは、その働きを支援するために 7 人の男性を召す。これらのうちの一人、ステパノは、ユダヤ人議会の前で証し、議員たちはステパノを死刑にする。ピリポはサマリヤ全土で福音を宣べ伝える。

使徒 9 - 12 章 サウロは改宗し、教え導く業を始める。示現を通して、ペテロは福音が異邦人に宣べ伝えられるべきであることを知る。ヘロデ・アグリッパ 1 世は使徒ヤコブ(ヨハネの兄弟)を死刑にし、ペテロを投獄する。

使徒 13 - 15 章 サウロとバルナバが宣教師として召される。二人はユダヤ人からの反対に遭い、一部の異邦人に受け入れられる。教会の指導者たちはエルサレムで会合し、異邦人の改宗者は、教会に加わる際、割礼を受ける(またはモーセの律法を守り続ける)必要がないと決定する。パウロ(これまでサウロと呼ばれていた)は、シラスとともに 2 回目の伝道の旅に出発する。

使徒 16 - 20 章 パウロとシラスは、以前に設立されていたさまざまな教会を強める。アレオパゴスの評議所で、パウロは「われわれは神の子孫なのである」

と教える(使徒 17:29)。パウロは 2 回目の伝道を終え、小アジア全土での 3 回目の伝道に出発する。パウロはエルサレムに戻ることを決断する。

使徒 21 - 28 章 エルサレムで、パウロは捕らえられるが、イエス・キリストについて証し続ける。主が再度パウロに御姿を現される。多くのユダヤ人たちがパウロを殺そうと謀る。カイザリヤで、パウロはペリクス、フェスト、アグリッパの前で証する。パウロはローマへの道中に難破する。パウロはローマでの自宅軟禁下でも福音を宣べ伝える。

第81課

使徒 1:1-8

はじめに

復活後、イエス・キリストは、使徒たちを40日間にわたって教え導かれました。イエスは、地の至る所でキリストの証人となるよう使徒たちを備えられました。

教えるための提案

使徒 1:1-8

イエス、40日間弟子たちを教え導かれる

別の信仰を持っている友人が、教会についてもっとよく知りたいと言って次のように尋ねてきたところを、生徒に想像してもらいます。「あなたの教会を導いているのは誰ですか。」

この質問に対する自分の答えをノートや聖典学習帳に書くように言います。

使徒 1:1-8 を研究しながら、生徒たちに、誰が教会を導いているのかという質問に答える助けとなる真理を見つけてもらいます。

生徒に、使徒行伝を開き、その題名の意味を確認してもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- 題名の意味を考えると、わたしたちはこの書物から何を学べると思えますか。

使徒行伝は新約聖書の中で重要な移り変わりを示していることを説明します。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書では、主の贖罪と復活を含む、救い主の現世における教え導く業について説明しています。使徒行伝は、救い主の昇天後の使徒たちの働きを物語っています。

一人の生徒に、使徒 1:1-2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この書は誰に対して書かれたものかを見つけてもらいます。

- 使徒行伝は誰に対して書かれたものでしょうか。

使徒行伝の著者はルカであり、1節に記された「先〔の〕第一巻」というのは、こちらもテオピロに対して書かれた、ルカによる福音書のことでであると説明します。ルカがこの書を書いた目的は、テオピロに、イエス・キリストについての証を得てもらおうためでした（ルカ 1:1-4 参照）。

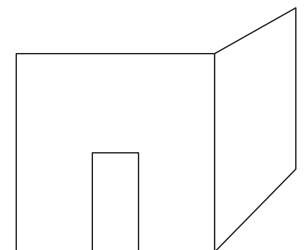
一人の生徒に、使徒 1:2-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストが復活後、どれくらいの期間にわたって使徒たちを直接教え導かれたのかを見つけてもらいます。（3節に記された「苦難」とは救い主の贖いの犠牲を指し、「確かな証拠」とは御自身が復活したというイエスが示された否定できない証拠を指していることを説明するとよいでしょう。）

- イエス・キリストは、復活後、どれくらいの期間にわたって使徒たちと過ごされたのでしょうか。
- その40日間、イエスはどのようなことを教えられたのでしょうか。（神の王国のこと。）

ホワイトボードに家の簡単な線画を描き始めます。（あるいは、ブロックや粘土を使って小さな家を作ってもよいでしょう。）

半分ほど描いたら、一人の生徒に、ホワイトボードの前に来て、残りを描いてもらいます。生徒には、どのように家の線画を書き終えたらよいか非常に具体的な指示を与えます。屋根、幾つかの窓、庭を描き加えるように言ってもよいでしょう。少しの時間一緒に作業してから、教室の反対側に移動し、その生徒への指示を与え続けます。家が描き終わったら、生徒に感謝し、席に戻ってもらいます。

生徒に、その家の線画は地上の神の王国、すなわちイエス・キリストの教会を表していると想像するように言います。



を段落ごとに切って、分割したものを生徒に配ってもよいでしょう。生徒に資料全文またはその段落を黙読してもらい、ホワイトボードに書いた文章をどのように埋めたらよいかを見つけてもらいます。生徒たちが読み終えたら、一人の生徒に、ホワイトボードの前に来て、新聞記者のように振る舞ってもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらい、ホワイトボードの前にいる生徒に彼らの答えをホワイトボードに書くように言います。

- これらの宣言のうちで、あなたにとって特に意義深いのはどれですか。
- 現代の使徒たちの証は、イエス・キリストについてのあなた個人の証にどのような影響を与えるでしょうか。

使徒 1:8 は、特に救い主の特別な証人としての使徒の役割に言及しているものの、わたしたちが世界中でイエス・キリストの証人となるための助けとなる事柄についても教えていることを説明します。

- 使徒 1:8 の使徒たちに対する主の約束に基づく、わたしたちは何によってイエス・キリストの証人であることが可能になるでしょうか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。わたしたちは、聖霊の力を通してイエス・キリストの証人となることができます)。
- 聖霊は、どのような方法でわたしたちが救い主の証人になるのを助けてくださいますか。

他の人々がイエス・キリストについて証を述べた際に、聖霊を感じたときのことを生徒たちに深く考えてもらいます。数分時間を与えてから、生徒たちにその経験を分かち合ってもらいます。分かち合うには神聖すぎる、または私的すぎる経験は話すべきでないことを、生徒に思い出してもらいます。

- イエス・キリストについて他の人々に証するのを聖霊が助けてくださっていると感じたのは、どのようなときでしたか。

他の人々に証を述べる機会を求め、証することの真実性を聖霊が確認して下さるということを信じるよう生徒を励まします。

使徒行伝－ヨハネの黙示録

新約聖書の後半の概要

使徒 1:8 は真理を教えているだけでなく、新約聖書の後半部分の概要も示していることを説明します。

- 使徒 1:8 によれば、救い主は、主の弟子たちがどこで主を証すると預言されましたか。

ホワイトボードに次のように書きます。「使徒 1 - 5 章 = エルサレム；使徒 6 - 9 章 = ユダヤとサマリヤ；使徒 10 - 28 章 = 地の果て」(*Bible Dictionary, "Acts of the Apostles"* の項参照)。

使徒たちは指示されたとおりにイエス・キリストを証し始めたことを説明します。まず、使徒たちはエルサレムで福音を宣べ伝え、次いでユダヤとサマリヤで、その後、地の果てで福音を宣べ伝えました。

生徒に、聖書の目次を開くように言います。生徒たちに、使徒行伝以降の新約聖書の書を見てもらいます。「ローマ人への手紙」から「ヘブル人への手紙」までの書は、使徒パウロによって書かれた書簡(手紙)であることを説明します。パウロの改宗と働きについては使徒 9 章、13 - 28 章で研究します。

生徒たちに、テサロニケ人への第一の手紙を開いてもらいます。テサロニケ人とはテサロニケという都市に住んでいた人々のことであると説明します。生徒に、『聖句ガイド』にある『聖書の地図』の地図 13「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でテサロニケを見つけてもらいます。新約聖書の書簡の多くは、特定の事態に対応するために異なった都市の教会の会衆に向けて書かれたものであったことを説明します。これらの書簡は、新約聖書に時系列で配置されているわけではないことを説明するとよいでしょう。テサロニケ人への第一の手紙はパウロが書いた最初の書簡であると考えられています。

生徒に、目次を見て、聖徒への手紙として書かれた他の書を幾つか見つけてもらいます。

聖徒に向けて書いたことに加え、パウロは、例えばテモテ、テトス、ピレモンなど、個人へも書き送ったことを説明します。

このコースの聖典を読むよう生徒を励ます

新約聖書を全て読むよう生徒に勧めます。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように述べています。「聖文を初めから終わりまで通して読むと、……重要な出来事、福音の教義、永遠の原則〔や〕主な登場人物について知ることができます。一つ一つの出来事や教えのつながり、時代、背景が分かります。」（「生ける水の源」〔ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド、2007年2月4日、2、[lds.org/broadcasts](https://www.lds.org/broadcasts)）

目次のヘブル人への手紙以降にはどのような書があるか見つけるよう生徒に言います。

パウロに加え、その他の使徒や教会指導者も教会の会員に向けて書き送ったことを説明します。ヤコブの手紙からユダの手紙まで、他にも手紙を記した書があります。ヨハネの黙示録には、使徒ヨハネが見た示現が記録されています。

生徒に、自分自身で新約聖書の後半部分を読み続けるように勧めます。新約聖書の使徒たちの教えを研究しながら、聖霊が啓発し、よりよく理解する助けをしてくださるよう、研究する際には祈ることを生徒に奨励します。

第82課

使徒 1:9 - 26

はじめに

イエス・キリストは、弟子たちを40日間お教えになった後、天に昇られました。使徒たちと他の人々は祈りと嘆願で一つになりました。靈感を通して、マツヤが、イスカリオテのユダの

裏切りと死によって空いた十二使徒定員会の欠員を埋めるよう召されました。

教えるための提案

使徒 1:9 - 12

救い主、天に昇られる

ホワイトボードに次の質問を書きます — 正しいか、誤りか。

イエス・キリストの再臨についての次の文章を声に出して読みます。これらの文章が正しいか誤りであるか、生徒たちに示してもらいます。(注—レッスンのこの時点では、生徒はそれぞれの質問の答えを知る必要も、答えについて長時間話し合う必要もありません。)

1. イエス・キリストは、末日に地上に戻って来られる。
2. 主の再臨の際、イエス・キリストは義にかなった人々にだけ姿を現される。
3. イエス・キリストは再び来られる際、姿を変えておられるので、ほとんどの人々は再臨が起こったことに気づかない。

それぞれの文章に対する答えを簡単に確認するとよいでしょう。(1) 正(モーセ7:60参照)；(2) 誤(ジョセフ・スミス — マタイ1:26；教義と聖約101:23参照)；(3) 誤(教義と聖約49:22 - 23参照)。

現世における教え導く業においてイエス・キリストは、末日には主の再臨について偽りの教えを広める人がいるであろうと預言されたことを説明します(ジョセフ・スミス — マタイ1:22 - 25参照)。

- わたしたちは、イエス・キリストの再臨についての特定の教えが、正しいか誤りであるかをどのようにして知ることができるでしょうか。(救い主の言葉と預言者の言葉に耳を傾けるならば、惑わされずに済む[ジョセフ・スミス — マタイ1:37参照]。)

生徒に、使徒1章を研究し続けながら、イエス・キリストの再臨に関する重要な真理を見つけてもらいます。

救い主は復活後、40日にわたって弟子たちを教えられたことを生徒に思い出してもらいます(使徒1:3参照)。イエスの昇天の絵を見せます(『福音の視覚資料集』62番。LDS.orgも参照)。

一人の生徒に、使徒1:9 - 12を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主が御自分の使徒たちを教え終えられた後に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 救い主が御自分の使徒たちを教え終えられた後に何が起こったでしょうか。
- 救い主が天に昇られるのを見たとしたら、あなたはどのように考え、感じたと思いますか。

古代のイスラエルでは、雲は時折、神の存在と栄光の視覚的な描写として用いられていたことを説明します(出エジプト40:34参照)。使徒1:9で述べられた雲は、栄光の雲であり(*Bible Dictionary*, “Cloud”の項参照)、10節で述べられた二人の人は天使のことでした。

- 天使は使徒たちに何と言ったでしょうか。
- イエスが昇天されたのと「同じ有様で」(使徒1:11)再びおいでになるとは、どのような意味だと思いますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。主の再臨の際、救い主は栄光のうちに天から降りて来られる。)

救い主の昇天はオリブ山で起こったことを指摘します(12節参照)。救い主が再びおいでになるとき、主は天から降りて来られ、実際にオリブ山の上に立たれる姿を見ることになると

愛と敬意と目的意識のある環境を作る

常に愛と敬意と目的意識のある学習環境を育む方法を探します。互いの関心事や才能、努力目標、能力について知り合うように勧めることによって、生徒たちが互いに気持ちよく接することができるように助けます。このような環境を作る一つの方法は、生徒に個人の聖文研究での経験や洞察をお互いに分かち合ってもらうことです。



説明します（ゼカリヤ 14：4；教義と聖約 45：47－53；教義と聖約 133：19－20 参照）。このことは、主が世界にその偉大で威厳のある姿を現される前に起こります（イザヤ 40：5 参照）。

- 救い主が戻って来られるようすを知ることは、わたしたちが主の再臨を待っている間、惑わされずに済むためにどのように助けとなるでしょうか。

使徒 1：13－26

十二使徒定員会の空席を埋めるためにマツテヤが選ばれる

使徒たちはエルサレムに戻ってから、イエスの母マリヤを含め、数人の忠実な男女とともに集まり、祈りと礼拝を行ったことを説明します。生徒に、使徒 1：13 を黙読して、そこに挙げられた使徒たちの人数を数えてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- その当時の使徒たちが 11 人だけだったのはなぜですか。（イスカリオテのユダがイエス・キリストを裏切った後、自ら命を絶った [マタイ 27：3－5 参照]。)

使徒 1：15－20 の要約として、ペテロが 120 人の弟子たちの前に立って、イスカリオテのユダの死について話したことを説明します。ユダは十二使徒の一人であったため、弟子たちは新しい使徒を選ぶために集まりました。

生徒に、次の指導者が選ばれるさまざまな方法を説明してもらいます — チームのキャプテン、地方自治体の指導者、王や女王、会社の社長。

- これらの指導者の地位に就くための資格にはどのようなものがあるでしょうか。

生徒に、現在の大管長会と十二使徒定員会の写真を見せ、この一人一人がイエス・キリストの使徒であると証します。イエス・キリストの使徒が選ばれる方法と、使徒として奉仕するためにはどのような資格が必要か、生徒によく考えるように言います。

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒に、パートナーとともに使徒 1：21－26 を読み、イスカリオテのユダの死後、新しい使徒が選ばれた方法を見つけてもらいます。

- 「くじを引いた」(26 節) とは、どういう意味でしょうか。

古代では、くじを引くことは、結果を導く神への信頼を示した、意思決定をするための信仰深い手段であったことを説明する必要があるかもしれません（使徒 1：26 参照。箴言 16：33 も参照）。「彼らがくじを引いたら、それは主がその結果を選ばれたという実例なのでした。しかし、それはおおかた、聖なる使徒職で奉仕するために神が選ばれた人物を支持するために『彼らが投票した』のであり、おそらくは『支持の挙手』だったでしょう。」（ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965－1973 年], 第 2 巻, 32)

- 21－22 節によると、ペテロは、新しい使徒はどのような条件を満たしていなければならないと言ったでしょうか。（イエス・キリストに従ってきた者で、さらに主の教え導く業と復活の証人でなければならない。）
- 24－25 節に記録されている使徒たちの祈りの中で、一番心に残ったのはどの部分ですか。
- 24 節から、イエス・キリストの使徒が召される方法について、どのような真理を学ぶことができるでしょうか。（生徒はさまざまな答えを挙げると思われますが、必ず次のことを強調します。イエス・キリストの使徒は、啓示を通して神によって召される。この真理をホワイトボードに書き、自分の聖典の 24 節の隣にそれを書くように生徒に勧めます。）
- 世界のその他の指導者が選ばれるような方法ではなく、使徒は啓示を通して神によって召されることが重要なのはなぜだと思いますか。

現代の使徒が啓示を通して神によって召される方法を説明するため、一人の生徒に、ヒーバー・J・グラント大管長の生涯から、次の話を声に出して読んでもらいます。



「〔ヒーバー・J・〕グラント大管長は……大管長として教会全体を導くための啓示を受けた。そのような啓示の一つが大管長に召された直後に与えられた。新しく十二使徒定員会会員として誰を指名すべきかについて、主の御心を求めていたときのことであった。この責任について思い巡らしていると、忠実な末日聖徒で、その力量が実証されていた長年の友人リチャード・W・ヤングの名が度々心に浮かんできた。彼を召してはどうかと顧問たちに相談したところ、二

人は大管長の考えに賛成した。最終的にこの方針を心に決めると、グラント大管長は友人の名を紙に書き、それを手にして、毎週神殿で開かれる大管長会と十二使徒定員会の集会に向かった。しかし、幹部の兄弟たちの承認を求めるためにその名を提示しようとしたとき、そうすることができなかった。リチャード・W・ヤングの名を提示する代わりに、彼は、自分がほとんど知らないメルビン・J・バラードの名を提示したのだ。グラント大管長は後にこの経験から受けた衝撃を次のように語っている。

『わたしは生ける神の靈感による導きを受けて自分の務めを果たしてきました。長年の愛する友の代わりに、ほとんど知らない人を十二使徒に選んだその日以来、この地上における神の業を管理するために神の光と靈感と導きを受ける権利を自分が持っていることを知りました。わたしは自分が生きていることを知っているのと同じように、それははっきりと知ったのです。』(『歴代大管長の教え — ヒーパー・J・グラント』181 - 182)

- 使徒 1:24 で教えられている真理が、現代の使徒の召しについてこの話の中でどのように示されているでしょうか。
- 使徒の召しは、救い主が御自身の教会を導き続けていらっしゃることをどのように示しているでしょうか。(使徒 1:2 で教えられている真理、すなわち、イエス・キリストは、聖霊を通して御自身の御心を使徒たちに明らかにすることにより、御自身の教会を導いておられるということを生徒に思い起こしてもらおうとよいでしょう。)

最初に見せた、生ける使徒たちの写真に注意を向けます。生徒がこの使徒たちの名前を知り、あるいは確認できるように、少し時間を取ってもよいでしょう。

ホワイトボードに次の質問を書きます。

生ける使徒たちが神によって召されてきたことをあなたが知るようになる助けとなったのは、どんな経験でしたか。

生ける使徒たちが神によって召されてきたという証を持つことは、あなたにとってなぜ重要でしょうか。

クラスノートか聖典学習帳に、質問の一つに対する答えを書いてもらいます。何人かの生徒に答えを発表してもらいます。

生徒が、使徒 1:9 - 26 で見つけた真理について証を述べて終わります。

📖 マスター聖句の復習

生徒がマスター聖句の最初の 10 個を復習する助けとなるよう、次の参照聖句と対応するキーワードをホワイトボードに書きます(かわりに、表のコピーを生徒に配ることもできます)。

マタイ 5:14 - 16	あなたの光を 輝かせなさい。	ルカ 24: 36 - 39	復活した体は骨と 肉から成る。
マタイ 11:28 - 30	わたしのもと に来なさい。	ヨハネ 3:5	水と霊とから生ま れる
マタイ 16:15 - 19	王国の鍵	ヨハネ 14: 6	道であり、真理であ り、命である。
マタイ 22:36 - 39	主を愛し、隣人 を愛する。	ヨハネ 14: 15	あなたがたがわた しを愛するならば、 わたしの戒めを守 るべきである。
マタイ 28:19 - 20	全ての国民に 教え、バプテスマを 施す。	ヨハネ 17: 3	永遠の命とは、神と イエス・キリストを 知ることである。

生徒たちに二人一組になってもらいます。ホワイトボードに書かれたマスター聖句をパートナーとともに復習するよう生徒に言います。一方のパートナーがマスター聖句からキーワードを声に出して読み、もう一方のパートナーが対応する参照聖句を挙げるよう勧めるとよいでしょう。10 個全ての聖句を復習したら役割を交代するよう生徒に言います。

時間が許せば、生徒にクイズを出してもよいでしょう。数行分の空白に続いてそれぞれのマスター聖句に対するキーワードを記した紙片を生徒に配ります。空白に、対応する参照聖句を書いても構いません。時間を十分に取ってから、クイズを確認します。

第83課

使徒2章

はじめに

五旬節の日、弟子たちは聖霊に満たされ、福音を宣べ伝えたときに異言の賜物で祝福されました。ペテロは、イエスが「主またキリスト」（使徒2：36）であられると宣言し、人々に悔い改め、バプテスマを受けて、聖霊の賜物を受けるよう招きまし

た。その日、約3,000人の人々が改宗してバプテスマを受け、彼らはその後も教会で忠実であり続けました。

教えるための提案

使徒2：1－13

イエス・キリストの弟子たち、五旬節の日に聖霊に満たされる

教会で話をしたり、レッスンを教えたり、誰かと福音を分かち合ったりした、ごく最近の機会について考えるよう生徒に言います。

- イエス・キリストの福音について話したり、教えたり、他の人々に証したりする際、どのようなことが問題になり得るでしょうか。

使徒2：1－13を研究しながら、回復された福音について他の人々に教えたり、証したりすることについて不安や恐れを感じるときに助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

救い主が天に昇られてからおよそ1週間後、多くの国々からユダヤ人たちが五旬節の祭に参加し、神殿で礼拝し、主に感謝をささげるために、エルサレムにやって来ていたことを説明します。この祭りは、過越の祭の50日後にその季節の初穂を祝うために行われました（『聖句ガイド』「五旬節」、scriptures.lds.org 参照）。

一人の生徒に、使徒2：1－3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの弟子たちが五旬節の日に経験したことを見つけてもらいます。

- 弟子たちが五旬節の日に経験したことは何だったでしょうか。（聖霊が注がれたこと。）
- この聖霊が注がれたことはどのように説明されているでしょうか。

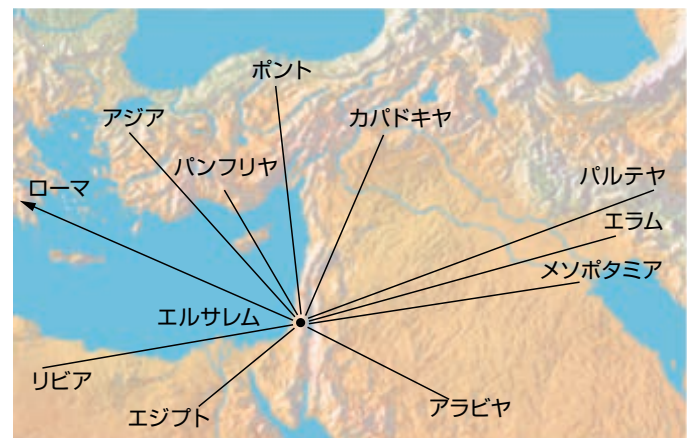
「舌のようなものが……分れて」という表現は（3節）、二つに割れたあるいはフォーク状になった、または炎のような外観を持った、舌のようなものを指していることを説明します。古代では、火はしばしば神の存在や影響を象徴するものでした。これは、使徒たちが、救い主の約束なされた聖霊の賜物を受けたというしるしでした。

一人の生徒に、使徒2：4－8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちが聖霊に満たされたとき、どのようなことが起こったかを見つけてもらいます。

- 4節によれば、弟子たちが聖霊に満たされたとき、どのようなことが起こったでしょうか。（御霊が「語らせるままに」他国の言葉で語れるようになった。）
- 他の国々から来たユダヤ人たちが耳にしたことに驚いたのはなぜでしょうか。

生徒に、使徒2：9－11に目を通し、聖霊の力によって使徒たちが他国の言葉を語るのを聞いた民族や国籍の異なるグループの数を数えてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。これらのユダヤ人たちがどこから来たのかを視覚化する助けとなるよう、生徒に地図を見せるとよいでしょう。

11節によれば、これらの各グループの人々が、弟子たちによって教えられた「神の大きな働き」について自分たちの言語で聞いたことを指摘します。改宗したのはユダヤ教に加わっていた異邦人であったことを説明する必要があら



- 弟子たちが五旬節の日に経験したことで示されているように、わたしたちが他の人々に教えたり証したりするのを助けてくださるのはどなたでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。聖霊に満たされると、聖霊は他の人に教え、証するためにわたしたちを助けてくださる)。

生徒がこの原則を理解できるようにするため、二つの空のコップ、水差し、盆をクラスに持参します。水がこぼれてもいいように、コップを盆の上に置きます。それから、水を注げないように一方のコップの上部を紙や蓋で覆います。もう一方のコップには、ほとんどいっぱいになるように物(例えば石)を詰めます。一人の生徒に、両方のコップを水差しの水で満たしてもらいます。

- もしそのコップがわたしたちで、水が聖霊を表しているなら、紙(または蓋)や石は何を表しているのでしょうか。わたしたちが聖霊に満たされるのを妨げる行動や態度には、どのようなものがあるのでしょうか。
- 他の人々に教え、証するときに、聖霊に満たされ助けていただくために、わたしたちは何をすることができるのでしょうか。
- 聖霊は、他の人々に福音を教えたり、証を分かち合うときにどのように助けてくださいましたか。

ホワイトボードに書かれた原則について証し、他の人々に教えたり証したりするために、聖霊を伴侶とするよう求めることでこの原則を応用するよう生徒に勧めます。

使徒 2:12 - 13 の要約として、ユダヤ人の中には自分が耳にしたことで驚いた人たちもいましたが、一方で、他の人々はぶどう酒を飲みすぎたのだと言いがかりをつけることで弟子たちを嘲笑したことを説明します。



『聖ペテロの否定』カール・ハインリッヒ・ブロッホ画デンマーク・ヒレズにあるフレズレクスボー城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載複写は禁じられています。

使徒 2:14 - 47

ペテロ、イエス・キリストについて証し、救いを得る方法を教える

一人の生徒に、使徒 2:14 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、群衆に教え始めたのは誰かを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

自分がペテロと同じ立場にあり、群衆の前に立っているところを想像するよう生徒に言います。

- もしあなたがペテロの立場ならば、どのような福音の真理を教え、証したでしょうか。それはなぜですか。

使徒 2:15 - 35 の要約として、ペテロは、異言を語る賜物の出来事や、弟子たちの間に起きたその他の御霊の現れは、ヨエルの預言の成就を目的とするものであったと宣言したことを説明します(ヨエル 2:28 - 32 参照)。ペテロはその後、ダビデ王の言葉と詩篇の一部を用いて人々を教え、証しました。

ホワイトボードに次の参照聖句と質問を書きます。

使徒 2:22 - 24, 29 - 33, 36

ペテロが教え、証した、幾つかの重要な真理とは何でしょうか。

ユダヤ人に対するペテロの証の中で一番心に残ったのはどの部分ですか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれのペアに、ホワイトボードにある参照聖句を研究し、次の質問への答えを話し合ってもらいます。時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

ペテロが救い主を否定している場面の絵を見せます(例えば、「聖ペテロの否定」カール・ハインリッヒ・ブロッホ画、LDS.org で入手可能)。救い主が捕らえられた夜にイエスとの関係について尋ねられたとき、ペテロが何と語り、何をしたかを生徒に要約してもらいます(ルカ 22:54 - 62 参照)。

- 五旬節の日のペテロの言葉や行動は、救い主が捕らわれた夜の態度とはどのように異なっているのでしょうか。
- 何がペテロのこの変化に影響を与えたと思いますか。

一人の生徒に、読む使徒 2:37 を声に出してよと言います。他の生徒には、聞きながら、ペテロの言葉がどのように群衆に影響を与えたかを見つけるよと言います。

- ペテロの言葉はどのように群衆に影響を与えたでしょうか。

生徒に、「強く心を刺され」という語句に、印をつけてもらうとよいでしょう。群衆がペテロの証を聞いたとき、聖霊が人々の心を刺したことを説明します。「刺され[た]」という言葉は、ここでは「完全に身に染みた」ことを意味し、ユダヤ人が民として、また国家として自分たちの主、イエス・キリストを十字架につけたために、自責の念にかられたことを示唆しています。ペテロが、五旬節の日に教えていたさまざまな国籍のユダヤ人のグループが、イエス・キリストのはりつけの責任を負う人々であったとほめかしていたわけではありません。

- 37 節によると、その人々はどのような質問をしたでしょうか。
- この質問は、人々の心の中で何が起こっていたことを明らかにしているでしょうか。(人々は心の変化を経験し始めていた。)

一人の生徒に、使徒 2:38 - 41 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが人々に行うよう教えたことを見つけてもらいます。「曲った」とは反抗的、ひねくれた、不正直という意味であると説明します。

- ペテロが人々に行うよう教えたことは何だったでしょうか。
- 41 節によると、ペテロの教えと、悔い改めてバプテスマを受けるようにとの勧めに対する人々の反応はどうだったでしょうか。

次の未完成の文章をホワイトボードに書きます。聖霊の力によって神の言葉を受け入れるとき、_____

数人の生徒に、交代で使徒 2:42 - 47 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会に新しく改宗した人々が聖霊の力によって真理を受け入れ、バプテスマを受けた後に何をしたら見つけてもらいます。「パンをさき」(42 節)という語句は聖餐の儀式に携わることを指し、「いっさいの物を共有にし」(44 節)とは聖徒が一致し、奉獻の律法に従って生活していることを指していると説明します。

- これらの節によると、バプテスマを受けた人々が本当に改宗したことがどのような行動で示されているでしょうか(3 ニューファイ 26:17 - 21 も参照)。(一人の生徒に、生徒たちの答えをホワイトボードに書き出してもらいます。)

そのユダヤ人たちはペテロの言葉を聞き、その言葉に基づいて行動するまで、イエスを自分たちの救い主としては受け入れておらず、主の教えに従ってもいなかったことを生徒に思い起こしてもらいます。どのようにしてその人々が変わったのかを生徒によく考えてもらいます。

- 使徒 2:37 - 47 から、聖霊の力によって神の言葉を受け入れるとどうなるかについて、わたしたちはどのような原則を学べるでしょうか。(生徒の言葉を使って、次の真理を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。聖霊の力によって神の言葉を受け入れるとき、わたしたちの心に変化が生じ、イエス・キリストに帰依する。)
- 聖霊の力によって神の言葉を受け入れるために、わたしたちは何をすることができるでしょうか。

生徒に、ホワイトボードに書き出されたバプテスマを受けて改宗した人々の行動を振り返ってもらいます。

- 福音の真理を学び、それに従って生活するよう努力したとき、聖霊はどのように、あなたが変わり、イエス・キリストに帰依するようになる助けをしてくださったでしょうか。(あなた自身の生活からの経験も紹介するとよいでしょう。)

聖霊の力によって神の言葉や教えをさらに受け入れるために、わたしたちにできることを生徒に深く考えてもらいます。受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

📖 マスター聖句 — 使徒 2:36 - 38

生徒に、使徒 2:36 - 38 と信仰箇条 4 条を比較してもらいます。使徒 2:36 - 38 から、福音の第一の原則と儀式を示す、または教えている言葉を見つけるよう生徒に言います。その後、生徒を二人一組に分け、これらの原則と儀式のそれぞれは、わたしたちが救い主の贖罪の祝福を完全に受けるためにどのような助けとなるか、それぞれのペアで話し合ってもらいます。十分に時間を取ってから、次の質問をします。

- 悔い改めとバプテスマを受けた結果として、人々はどのような祝福を受けることになるかとペテロは言ったのでしょうか。

📖 使徒 2:36 - 38

38 はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

- 使徒 2:38 についての理解に基づくと、聖霊の賜物を受けるために、わたしたちはどのような備えをしなければならないでしょうか。（自分自身の言葉を使って、生徒は次のような内容の真理を見つけるはずで、わたしたちがイエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受けるなら、聖霊の賜物を受ける備えをすることになる。ホワイトボードにこの真理を書きます。）
- 信仰、悔い改め、バプテスマはどのようにして聖霊の賜物を受ける備えとなるでしょうか。

第84課

使徒 3 章

はじめに

ペテロとヨハネは神殿の門で、生まれたときから足の不自由な人を癒やしました。ペテロはその後、この男が癒やされるのを見た人々に教えました。ペテロはイエス・キリストについて

証し、人々に悔い改めるよう勧め、末日の福音の回復を預言しました。

教えるための提案

使徒 3：1－11

ペテロとヨハネ、生まれながらに足の不自由な男を癒やす

(例えば誕生日やクリスマスのプレゼントで)何か特定のものが欲しかったのに、別のものをもらったときのことを生徒たちに考えてもらいます。数人の生徒に、その経験を分かち合ってもらい、欲しかったものをもらえなかったときにどう感じたかを説明してもらいます。

- これらの経験は、祈りを通して天の御父からの祝福を求めることと、どのように比べることができるのでしょうか。(時には、天の御父はわたしたちが期待する方法で祈りに答えたり、わたしたちが求める祝福を与えてはくださらないことがあります。)

期待していたようには天の御父から答えや祝福を受けなかったときの経験について深く考えるよう生徒に言います。

使徒 3 章を研究しながら、主から期待する答えや祝福を授かっていないときに助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、使徒 3：1－3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロとヨハネが神殿の門の所で誰と出会ったのかを見つけてもらいます。

- ペテロとヨハネは神殿の門の所で誰と出会ったのでしょうか。
- この男性が「施しをこうた」とは、どういう意味でしょうか(3 節)。「施し」とは、人々が貧しい人に寄付するものであることを説明するとよいでしょう。

使徒 4：22 から、この足の不自由な男性は 40 歳以上であったことが分かることを指摘します。

- この男性が 40 年間も歩くことができなかったことを考えると、この人の足はどのような状態だったのでしょうか。

自分がその足の不自由な人の立場だったら、どのように感じるかをクラス全員によく考えてもらいます。

- この男性のような境遇にある人に対して、人々がよくしてしまう対応にはどのようなものがあるのでしょうか。

一人の生徒に、使徒 3：4－7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロがこの男性にしたことを見つけてもらいます。

- ペテロがこの男性にしたことは何でしたか。
- ペテロの行動や言葉の中で一番心に残ったのはどの部分ですか。

一人の生徒に、使徒 3：8 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、ペテロが「起してやると」(7 節) その男は何をしたか見つけてもらいます。

▶ 生徒が使徒 3：1－8 に記録された出来事を視覚化できるよう、ビデオ『聖書ビデオ — イエス・キリストの生涯』から、“Peter and John Heal a Man Crippled Since Birth” (3 分 21 秒) を見せてもよいでしょう。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で視聴可能です。

- ペテロが「起してやると」その男性は何をしたのでしょうか。
- どのような点で、この男性は元々求めていた施しよりも大きな祝福を授かったのでしょうか。

生徒に自分自身の言葉で言ってもらおう

生徒が聖文から見つけた教義や原則を述べる時、生徒の答えがこの手引きの言葉遣いと異なっているということで、彼らの答えが間違っていると思わせてはいけません。しかし、生徒の発言が教義的に正しくない場合、あなたにはそれを優しく正す責任があります。そのようにすることで、愛と尊敬の雰囲気を保ちながら、大切な学習経験を与えることができます。

自分が期待していた答えや祝福とは異なった答えや祝福を天の御父から授かった経験を思い出すよう生徒に勧めます。

- 使徒3:1-8から、天の御父から期待している答えや祝福を授からないときに助けとなる、どのような真理を学べるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけるはずです。天の御父はわたしたちが求めたり期待したりする方法で祈りに答えてくださらないことがあるが、それでも、天の御父の答えは常にわたしたちにとってもっと大いに価値あることのためにある。この真理をホワイトボードに書き、自分の聖典の6節の隣の余白にそれを書くよう生徒に勧めてもよいでしょう。)
- 天の御父は、わたしたちが求めたり期待したりする方法とは異なった方法で祈りに答えてくださることがあります。そのような例を挙げてください。(例えば、天の御父は試練を取り除くのではなく、試練に耐えられる力を与えてくださる。または、問題を解決して下さるのではなく、問題を解決するのに役立つ知恵を与えてくださるかもしれない。)

使徒3:1-8に記録された話では、この男性が授かったものは、彼が求めていたものよりもすばらしかったことは明らかであることを説明します。しかしながら、わたしたちが授かったものが、求めていたものよりもすばらしいかどうかははっきりしない場合もあります。

- ホワイトボードに書かれた真理を覚えておくことは、わたしたちが期待していたものとは異なった形で祈りに対する答えを授かったときに、どのような助けとなるのでしょうか。

祈りに対する主の答えが自分の望んだ答えとは異なっていたものの、それがもっと大いに価値あることのためにであったことが判明したという経験について深く考えるよう生徒に言います。数人の生徒にその経験を分かち合ってもらいます。あなた自身の経験を話してもよいでしょう。

一人の生徒に、使徒3:9-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この男が癒やされたのを見て、人々がどのような反応を示したかを見つけてもらいます。

- この人が癒やされたのを見て人々はどのような反応を示したでしょうか。

使徒3:12-26

ペテロ、イエス・キリストについて証し、悔い改めを宣べ伝える

神殿でその足の不自由な男性が癒やされるのを目撃した人々の中に自分もいたと想像するよう生徒に言います。これらの人々は神殿の門をくぐるときに、しばしばこの足の不自由な男性が施しを乞うのを見たことがあったこと、そして癒やされた後、その男が飛び跳ねたり歩いたりしているのを見たことを指摘します。

- もしあなたが神殿でその人々の中にいたとしたら、この奇跡を目撃した後、あなたのペテロとヨハネを見る目はどのように変わったと思いますか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれのペアに、使徒3:12-16をともに声に出して読み、ペテロがこの足の不自由な男の癒やしについて群衆にどのように説明したかを見つけてもらいます。十分な時間を取ってから、次の質問をします。

- ペテロはこの男の癒やしについて自分の手柄にしたでしょうか。
- ペテロは何の力によってその男が癒やされたと言ったでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの僕は、キリストの名を信じる信仰によって奇跡を行うことができる。)

少し前に御自身の民によって死刑を宣告されたものの、復活を通して死を克服されたイエス・キリストについて人々に教えるため、ペテロがこの機会を利用したことを説明します。

一人の生徒に、使徒3:17-21を声に出して読むように言います。その際、次のジョセフ・スミス訳による17節と20節の変更点も読んでもらいます。(17節「さて、兄弟たちよ、あなたがたは、あなたがたの統治者と同様、知らずにあのようなことをしたことをわたしは知っている。」20節「それは、あなたがたが十字架にかけた、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわしてくださるためである。」[ジョセフ・スミス訳使徒3:17, 20から和訳])他の生徒には、聞きながら、人々に対するペテロの勧めを見つけるように言います。

- ペテロが人々に行うよう勧めたことは何だったでしょうか。

使徒3:19-21

19は、マスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

生徒がペテロのメッセージを理解するのを助けるよう、ペテロが話しかけていたのが、イエス・キリストのはりつけを求めた人々やそれに同意した人々であったことを指摘します（使徒 3:14 - 15 参照）。一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「〔ペテロ〕は人々に『悔い改めてバプテスマを受けよ。あなたの罪が赦されるためである』とは言いませんでした。そうではなく、次のように言ったのです。『だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。』〔使徒 3:19〕

……彼らは罪のない者の血を流していたため、彼らは罪の赦しのためにバプテスマを受けることができませんでした。」(History of the Church, 第 6 巻, 253 で引用)

「それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」という語句を指摘します（20 節）。

- この語句は何を指していると思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の話を声に出して読んでもらいます。



「この定められた期間、この慰めの時は、人の子の再臨のとき、すなわち主なる神が地上に再びキリストを送られる日に起こります。

……その日、『地球は更新されて楽園の栄光を受ける』のです（信仰簡条第 10 条）。それは、イザヤが見た『新しい地』の日です（イザヤ 65:17）。邪悪なものが滅び、福千年の到来を告げる、地球が打ち勝つ日なのです。」(Conference Report, 1967 年 10 月, 43)

ホワイトボードに「再臨」の絵を掲げます（『福音の視覚資料集』66 番；LDS.org も参照）。ホワイトボードの絵の近くに「慰めの時」と書きます。

- イエス・キリストの再臨のとき、地球はどのように慰められるのでしょうか。（邪悪なものが清められる。）

「万物更新の時」という表現を指摘します（21 節）。

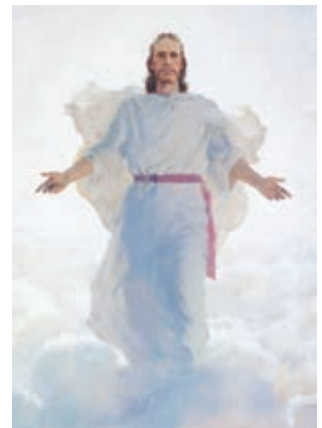
- 「万物更新の時」とは何を指していると思いますか。（これは末日の福音の回復を指していることを生徒が理解するよう助けます。イエス・キリストはその後の背教の時代の間、天にとどまっていたらなければなりませんでしたが、福音に関連する全てのものの更新または回復をもたらすために地上に戻っていたらなくなってしまいました。イエス・キリストが再臨の前に地上を訪れられるときのことについて説明するために、ペテロは「万物更新の時」という表現を使っていることを指摘するとよいでしょう。）
- 末日の福音の回復の一部として、いつイエス・キリストは地球を訪れられたのでしょうか。（生徒は、ジョセフ・スミスの最初の示現に救い主が現れたこと〔ジョセフ・スミス—歴史 1:17 参照〕や、カートランド神殿に現れたこと〔教義と聖約 110:2 - 5 参照〕について話すでしょう。）

ホワイトボードに、「最初の示現」（『福音の視覚資料集』90 番；LDS.org も参照）の絵を掲げます。ホワイトボードの絵の近くに「万物更新の時」と書きます。

- 21 節によると、ペテロの他に誰が末日の福音の回復について語っていたでしょうか。（自分自身の言葉を使って、生徒は次の教義を見つけるはずですが、あらゆる時代の預言者たちが末日の福音の回復を予告した。）

使徒 3:22 - 26 の要約として、ペテロは、モーセと「サムエルをはじめ、その後つづいた」……預言者はみな」（24 節）、イエス・キリストについて語り、キリストを拒絶することの結果について警告したことを証したと説明します（23 節）。

イエス・キリストは末日の福音回復の一部として地に來られたこと、また、主は地球から悪を一掃するために再臨されることを証して、レッスンを終えるとよいでしょう。



📖 マスター聖句 — 使徒 3:19 - 21

伝道中に使徒 3:19 - 21 を利用する方法を、生徒が理解するのを助けるよう、次の状況を示します。ある求道者が次のように尋ねました。「福音が末日に回復されることは聖書のどこに書いてありますか。」

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれのペアに、使徒 3:19 - 21 と少なくとも聖書のその他の聖句を一つ使って、この質問に対する答えを準備するように言います。『聖句ガイド』の「福音の回復」をしてみるよう勧めてもよいでしょう。

時間を十分に取ってから、一人の生徒に求道者役を、一組の生徒に宣教師役のロールプレーをクラスの生徒の前でやってもらいます。宣教師役の一組の生徒には、求道者役の生徒に対して準備した答えを分かち合うように言います。

使徒 4 - 5 章

はじめに

神殿で足の不自由な男を癒やした後(使徒3章参照)、ペテロとヨハネは捕らえられました。サンヒドリンは二人にイエス・キリストの名によって教えることをやめるよう命じました。しかしながら、この使徒たちはイエスの名によって福音を宣べ伝えることや癒やしを行うことを続けました。二人は再び捕らえ

られ、ユダヤ人の指導者の命令に従うことを拒んだためにむちで打たれました。教会員たちは奉獻の律法に従って生活しましたが、その中の二人がペテロと神を欺いた結果、命を落としました。

教えるための提案

使徒 4 : 1 - 31

サンヒドリンの議員たち、ペテロとヨハネにイエス・キリストの名によって教えることをやめるよう命じる

生徒たちに、自分なら次の状況で何を行うかを深く考えてもらいます。

1. 友人がソーシャルメディアに教会について真実でない投稿をした。
2. チームで日曜日に試合を行わなくてはならないトーナメントの予定をコーチが立てた。
3. 友人が、一般的に評判が良く支持されているものの、教会の教えに反している社会問題についてあなたの意見を求めてきた。

十分に時間を取ってから、次の質問をします。

- わたしたちが自分の信仰を分かち合ったり擁護したりする必要のある状況には、他にどのようなものがあるでしょうか。
- 自分の信仰を分かち合ったり擁護したりする際に、難しいのはどのようなことでしょうか。

生徒たちが、使徒4-5章を研究しながら、このような類いの状況で導きとなり得る真理を見つけてもらいます。

生徒に、使徒3章に記録された出来事や教えについて覚えていることを要約してもらいます。必要であれば、足の不自由な男を癒やした後、ペテロとヨハネは神殿で二人のもとに集まってきた人々の一団を教えたことを思い出してもらいます。

一人の生徒に、使徒4:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロとヨハネが神殿で人々を教えたときに起こったことを見つけてもらいます。


- ペテロとヨハネにどのようなことがありましたか。

使徒4:5-6の要約として、ペテロとヨハネは捕らえられ、サンヒドリンと呼ばれるユダヤの最高議会の前に連れて行かれたことを説明します(『聖句ガイド』『サンヒドリン』参照)。サンヒドリンの議員の多くは、救い主が捕らえられ、はりつけにされることに関与していたことを生徒たちに思い起こしてもらいます。

一人の生徒に、使徒4:7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人の指導者がペテロとヨハネにした質問を見つけてもらいます。

- ユダヤ人の指導者はペテロとヨハネに何を尋ねましたか。
- イエス・キリストに従う者だったことを示した場合、ペテロとヨハネはどうなる可能性があったでしょうか。

数人の生徒に、使徒4:8-21を順番に声に出して読んでもらいます。生徒に、ペテロが議会で宣言したことを見つけてもらいます。

 生徒に使徒4:8-21を読んでもらう代わりに、ビデオ『聖書ビデオーイエス・キリストの生涯』から、“Peter and John Are Judged”(2分51秒)を見せてもよいでしょう。このビデオはLDS.orgで視聴可能です。

- 使徒4:10-12によると、ペテロは議会にどのような真理を教えたでしょうか。(生徒は幾つかの真理を見いだすかもしれませんが、次のことを必ず強調してください。イエス・キリストの名前は、それを通してわたしたちが救いを受けることができる唯一の名である。)

毎日の聖文研究を奨励する

新約聖書を個人的に研究するための時間を毎日取るように生徒を励まします。適切な記録方法(本手引きの付録にある聖文読書表参照)を提供することによって、生徒たちが毎日の研究を記録できるようにします。生徒が個人の聖文研究で学んでいる事柄や研究中に感じたことを、他の生徒と分かち合う機会を定期的に提供してください。自分で聖文を研究することが難しい生徒が恥ずかしい思いをしたり、落胆しないように気をつけてください。

- 13 節によると、議会はなぜペテロとヨハネを不思議に思ったのでしょうか。
生徒たちに、使徒 4：8 を黙読してもらいながら、ペテロに影響を与え、議会に対して大胆に話す助けとなったものは何かを見つけてもらいます。
- 聖霊に満たされることで、大胆に福音を教えるペテロの能力にどのような影響を与えたと思いますか。
- 8 節と 13 節に記録されたペテロの模範から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒は自分自身の言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。聖霊に満たされると、わたしたちは大胆に福音を分かち合うことができる。）
生徒たちに、使徒 4 - 5 章の研究を続けながら、この原則に関するさらなる事例を見つけてもらいます。
- 18 節によると、議会はどのような命令をペテロとヨハネに与えたのでしょうか。
- 19 - 20 節によると、ペテロとヨハネは議会の命令にどのように応じたのでしょうか。
使徒 4：23 - 28 の要約として、ペテロとヨハネは解放されてから、他の信者たちと集まり、ともに祈ったことを説明します。
一人の生徒に、使徒 4：29 - 30 を声に出して読んでもらい、それからクラス全員に、信者たちが神に願ったことを見つけてもらいます。
- 信者たちは神に何を願ったのでしょうか。
一人の生徒に、使徒 4：31 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、彼らの祈りの後に起こったことを見つけてもらいます。
- その人々が祈った後に何が起こったのでしょうか。
- これらの聖句に基づくと、大胆に神の言葉を話す助けとなるよう聖霊を招くために、わたしたちには何ができるのでしょうか。
このレッスンの最初で話した状況に注意を向けます。
- どのようにすれば、このような状況の中で福音を大胆に分かち合うことができるでしょうか。
- わたしたちはどのようにして、敬意と礼儀をわきまえながら、他の人々に大胆に福音を分かち合ったり、擁護したりできるでしょうか。
- あなたが大胆に神の言葉を話すのを聖霊が助けてくださったのは、どのようなときでしたか。

使徒 4：32 - 5：11

教会員は奉獻の律法に従って生活するが、アナニヤとサツピラはペテロを欺く
生徒に次の状況について考えてもらいます。

1. 青少年のグループが、神殿で死者のためのバプテスマを行うことを計画している。グループのメンバーの一人は、推薦状をもらうためにビショップの面接を受ける必要があることを知っているものの、犯した罪をまだ告白していないことも自覚している。
2. ある若い男性は伝道の準備をしている。彼は、ビショップが伝道に出るためのふさわしさについて彼に質問することを知っている。彼は犯した過ちについてビショップに伝えることなく、それらの質問に答える方法を考え出そうとしている。

使徒 4：32 - 5：11 を研究しながら、生徒たちに、神の僕に対して正直であることの大切さを理解するのを助ける原則を見つけてもらいます。

一人の生徒に、使徒 4：32 - 35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会員たちが自分の持ち物をどうしていたか見つけてもらいます。

- 教会員たちは自分の持ち物をどうしていたのでしょうか。
- 34 - 35 節によると、彼らはどのような方法で物質的な持ち物を共有していたのでしょうか。
一人の生徒に、使徒 5：1 - 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アナニヤとサツピラという名前の夫婦が土地を売って受け取ったお金で何をしたか見つけてもらいます。
- アナニヤとサツピラの行動の何がそれほど問題だったのでしょうか。
一人の生徒に、使徒 5：3 - 4 を声に出して読んでもらい、他の生徒にはペテロがアナニヤに何と言ったかを見つけてもらいます。
- 4 節によると、アナニヤは最終的に誰を欺いたのでしょうか。

• ペテロの対応から、主の僕を欺くことについてどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は自分自身の言葉を使って次の原則を見つけるはずで、神の僕を欺くのは、神を欺くと同じである。）

• なぜ神の僕を欺くことは神を欺くと同じだと思えますか。

数人の生徒に、交代で使徒 5:5-11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖約を破り、ペテロを欺いた結果としてアナニヤとサツピラの身に起こったことを見つけてもらいます。

• アナニヤとサツピラの身に何が起こりましたか。

• わたしたちやわたしたちの周りの人々で、誰かを欺いたことによってこのような厳しいまたは即時の報いを経験した人はいないかもしれませんが、しかし、主を欺いたり聖約を破ったりした場合、わたしたちが経験するかもしれない結果にはどのようなものがあるでしょうか。

一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。生徒たちに、不正直の結果に耳を傾けるように言います。

「今日では、不正直だからといって、アナニヤやサツピラのように息が絶えるわけではありませんが、心の中にある何か死ぬこととなります。良心は窒息し、人格は傷つき、自尊心は消え失せ、誠実さは死に絶えるのです。」（「われらは正直なるべきを信ず」『聖徒の道』1993年6月号, 5）

• ヒンクレー大管長によれば、欺くことの結果にはどのようなものがあるでしょうか。レッスンのこのセクションの最初に書いてあった状況に注意を向けます。

• これらの状況の人々は、神権指導者を欺いたら自分の身に何が起こるかについて、どのようなことを知る必要があるでしょうか。

• 主の僕に正直であることから、どのような祝福がもたらされますか。

使徒 5:12 - 42

使徒たち、イエス・キリストの名によって癒やしたために投獄される

自分がペテロとヨハネの時代に生きており、新聞記者であると想像するよう生徒に言います。記者たちは、使徒 5:12-32 の部分を研究してから、何が起こったのかを要約した大見出しを書くよう頼まれていると説明します。（これらの聖句の背景を示すため、サンヒドリンがペテロとヨハネにイエス・キリストの名によって教えることをやめるよう命じたことを生徒に思い出してもらいます。）それぞれの聖句に対して以下の指示に従ってもらいます。

1. 使徒 5:12-16（全員でこの聖句を読み、一緒に大見出しを書きます。）
2. 使徒 5:17-23（二人一組でこの聖句を読み、大見出しを書くよう生徒に言います。何組かに自分たちの大見出しを発表してもらいます。）
3. 使徒 5:24-32（独りでこの聖句を読み、大見出しを書くよう生徒に言います。何人かの生徒に、自分の大見出しを発表してもらいます。）

生徒たちが自分たちの大見出しを発表した後で、次の質問をします。

• 29 節によれば、ペテロと他の使徒たちが、議会からの命令にもかかわらず、イエスの名によって福音を宣べ伝え続けていた理由は何だと言ったでしょうか。


次の未完成の文章をホワイトボードに書きます — 人よりも神に従うことを選択するなら、

• 使徒 4-5 章で分かったことから、この文章をどのように完成させることができるでしょうか。（生徒たちが答えた後で、次のように、ホワイトボードの文章を完成させます。人よりも神に従うことを選択するなら、神はわたしたちとともにいてくださる。）

• ペテロとその他の使徒たちが議会よりも神に従ったとき、神はどのような方法で彼らとともにいらっしやいましたか。（神は彼らを聖霊で満たし〔使徒 4:8, 31 参照〕、奇跡を行う力を与え〔使徒 5:12-16 参照〕、彼らを獄から救うために天使を遣わされた〔使徒 5:17-20 参照〕。）

• あなたやあなたの知人は、これまでどのようなときに人よりも神に従うことを選んだでしょうか。神はどのような方法であなたやあなたの知人とともにいることを示されたでしょうか。

数人の生徒に、交代で使徒 5:33 - 42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がペテロとその他の使徒たちとともにいらしたことを示す別の例を見つけてもらいます。

 生徒たちに、使徒 5:33 - 42 を読んでもらう代わりに、使徒 5:12 - 42 の内容を要約したビデオ “*Peter and John Continue Preaching the Gospel*” (5 分 38 秒) を見せてもよいでしょう。このビデオは *LDS.org* で視聴可能です。

使徒 5:33 から、議会はペテロとヨハネを殺そうとしていたことが分かることを指摘します。

- 41 - 42 節によれば、使徒たちはこの脅威に直面していながらどのように主に忠実であり続けたでしょうか。このようなときに、主はどのように彼らとともにいらしたでしょうか。
- わたしたちが福音に従って生活をし、周りの人々に福音を分かち合うとき、このレッスンで見いだした真理はどのようにわたしたちを助けることができるでしょうか。

今日教えられた真理について証を述べます。

家庭学習レッスン

使徒 1－5 章 (単元 17)

家庭学習教師のための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が使徒 1－5 章 (単元 17) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (使徒 1 : 1－8)

生徒は、イエス・キリストが聖霊を通して使徒たちに御自身の御心を明らかにすることによって御自身の教会を導くこと、そして使徒たちはイエス・キリストの証人であり、全世界に主を証するということを学ぶことで使徒行伝の研究を始めました。その後、生徒は聖霊の力を通して、わたしたちもイエス・キリストの証人となることができることを学びました。このレッスンの資料により、生徒は新約聖書の後半の概要も学びました。

第 2 日 (使徒 1 : 9－26)

生徒はイエス・キリストの昇天の話の研究したとき、再臨の際、救い主が栄光のうちに天から降りて来られることを学びました。使徒たちがユダの代わりを選んだ方法について読んだとき、イエス・キリストの使徒は啓示を通して神によって召されることを学びました。

第 3 日 (使徒 2 章)

生徒は、五旬節の日の出来事を研究したとき、次の真理を見つけました。聖霊に満たされると、聖霊はわたしたちが他の人々に教えたり証したりするのを助けてくださる。聖霊の力によって神の言葉を受け入れるとき、わたしたちの心は変わり、イエス・キリストに改心する。わたしたちがイエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受けるなら、聖霊の賜物を受ける備えをすることになる。

第 4 日 (使徒 3－5 章)

ペテロとヨハネが神殿で足の不自由な男性を癒やしたとき、天の御父はわたしたちが求めたり期待したりする方法で祈りに答えてくださらないことがあるが、それでもその答えは常にもっと大いに価値あることのためであることを生徒は学びました。このレッスンで学んだその他の原則には、次のことが含まれます。イエス・キリストの僕は、キリストの名を信じる信仰によって奇跡を行うことができる。あらゆる時代の預言者たちが、末日の福音の回復を予告した。神の僕を欺くなら、それは神を欺くのと同じである。

はじめに

このレッスンは、生徒が福音を分かち合ったり、擁護する機会があるときに、大胆に対応する方法を知るのに役立ちます。

教えるための提案

使徒 4 : 1－31

サンヒドリンの議員たち、ペテロとヨハネにイエス・キリストの名によって教えることをやめるよう命じる

生徒たちに、自分なら次の状況で何を行うかを深く考えてもらいます (レッスンの前にこれらの状況をホワイトボードに書いておくとういでしょう)。

1. 友人がソーシャルメディアに教会について真実でない投稿をした。
 2. チームが日曜日に試合を行わなくてはならないトーナメントの予定をコーチが立てた。
 3. 友人が、一般的に評判が良く支持されているものの、教会の教えに反している社会問題についてあなたの意見を求めてきた。
- 生徒に深く考える時間を十分与えたら、次の質問をします。

• わたしたちが自分の信仰を分かち合ったり擁護したりする必要のある状況には、どのようなものがあるでしょうか。

生徒たちが、使徒 4－5 章を研究しながら、このような類いの状況で導きとなり得る真理を見つけてもらいます。

生徒が使徒 4 章の背景を理解するのを助けるよう、使徒 3 章の出来事や教えについて覚えていることを要約してもらいます。(神殿で、ペテロとヨハネは生まれつき足の不自由な男性を癒やし、イエスについて教えました。)

使徒 4 : 1－6 の要約として、ペテロとヨハネはこれらの行いのために捕らえられ、サンヒドリンと呼ばれるユダヤの最高議会の前に連れて行かれたことを説明します。サンヒドリンの議員の多くは以前に、救い主が捕らえられ、はりつけにされることに関与していたことを生徒たちに思い起こしてもらいます。

一人の生徒に、使徒 4 : 7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人の指導者がペテロとヨハネにした質問を見つけてもらいます。

- ユダヤ人の指導者はペテロとヨハネに何と尋ねましたか。
- イエス・キリストに従う者だったことを示した場合、ペテロとヨハネはどうなる可能性があったでしょうか。

もし自分がペテロかヨハネの立場だったとしたらどのように感じたか、そして、議会に対してどのようなことを言ったかについてよく考えるよう生徒に言います。

数人の生徒に、使徒 4 : 8－21 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、議会に対してペテロが宣言したことを見つけてもらいます。

▶ 生徒に使徒 4：8－21 を読んでもらう代わりに、ビデオ『聖書ビデオーイエス・キリストの生涯』から、“*Peter and John Are Judged*”（2分51秒）を見せてもよいでしょう。このビデオは使徒 4：8－21 の内容を描いています。このビデオは、*LDS.org* で視聴可能です。

・使徒 4：13 によると、議会はなぜペテロとヨハネを不思議に思ったのでしょうか。

生徒たちに、使徒 4：8 を黙読してもらいながら、ペテロに影響を与え、議会に対して大胆に話す助けとなったものは何かを見つけてもらいます。

・聖霊に満たされることは、大胆に福音を教えるペテロの能力にどのように影響を与えたと思いますか。

・8 節と 13 節に記録されたペテロの模範から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒は自分自身の言葉を使うでしょうが、必ず次のような原則を見つけるようにします。聖霊に満たされると、わたしたちは大胆に福音を分かち合うことができます。この原則をホワイトボードに書きます。）

・使徒 4：18 によれば、議会はどのような命令をペテロとヨハネに与えたでしょうか。

・19－20 節によれば、ペテロとヨハネは議会の命令にどのように応じたでしょうか。

使徒 4：23－30 の要約として、ペテロとヨハネは解放されてから、他の信者たちと集まり、ともに祈ったことを説明します。

一人の生徒に、使徒 4：31 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、祈った後に何が起こったかを見つけてもらいます。

・その人々が祈った後に何が起こったでしょうか。

・これらの聖句で学んだことから、大胆に神の言葉を話す助けとなるよう聖霊を招くために、わたしたちには何ができてでしょうか。

レッスンの最初で話した状況に注意を向けます。

・どのようにすれば、このような状況の中で、敬意と礼儀をわきまえながら、福音を大胆に分かち合うことができるでしょうか。（アルマ 38：12 参照。福音を大胆に分かち合うとは、自分が真実だと知っていることを自信をもって証するだけでなく、自分とは違う考え方や感情を持つかもしれない人々に対して謙遜さと敬意をもって証するという意味であることを説明するとよいでしょう。）

・あなたが大胆に神の言葉を話すのを聖霊が助けてくださったのは、どのようなときでしたか。

・聖霊が助けてくださったことをどのようにして気づきましたか。

使徒 5：12－42

使徒たち、イエス・キリストの名によって癒やしたために投獄される

自分がペテロとヨハネの時代に生きており、「エルサレムタイムズ紙」の新聞記者であると想像するよう生徒に言います。記者たちは、使徒 5：12－32 の部分を研究してから、何が起こった

のかを要約した大見出しを書くよう頼まれていると説明します。（これらの聖句の背景を示すため、サンヒドリンがペテロとヨハネにイエス・キリストの名によって教えることをやめるよう命じたことを生徒に思い出ししてもらいます。）それぞれの聖句に対して以下の指示に従ってもらいます。

1. 使徒 5：12－16（全員でこの聖句を読み、一緒に大見出しを書きます。）

2. 使徒 5：17－23（二人一組でこの聖句を読み、大見出しを書くよう生徒に言います。何組かに自分たちの大見出しを発表してもらいます。）

3. 使徒 5：24－32（独りでこの聖句を読み、大見出しを書くよう生徒に言います。何人かの生徒に、自分の大見出しを発表してもらいます。）

生徒たちが自分たちの大見出しを発表した後で、次の質問をします。

・使徒 5：29 によれば、ペテロと他の使徒たちが、議会からの命令にもかかわらず、イエスの名によって福音を宣傳し続けていた理由は何だと言ったでしょうか。

次の未完成の文章をホワイトボードに書きます——人よりも神に従うことを選択するなら、_____

・使徒 4－5 章で分かったことから、この文章をどのように完成させることができるでしょうか。（生徒たちが答えた後で、次のように、ホワイトボードの文章を完成させます。人よりも神に従うことを選択するなら、神はわたしたちとともにいてくださる。）

・ペテロとその他の使徒たちが議会よりも神に従ったとき、神はどのような方法で彼らとともにいらっしゃいましたか。（神は彼らを聖霊で満たし〔使徒 4：8、31 参照〕、奇跡を行う力を与え〔使徒 5：12－16 参照〕、彼らを獄から救うために天使を遣わされた〔使徒 5：17－20 参照〕。）

・あなたやあなたの知人は、これまでどのようなときに人よりも神に従うことを選んだでしょうか。神はどのような方法であなたやあなたの知人とともにいることを示されたでしょうか。

数人の生徒に、交代で使徒 5：33－42 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がペテロとその他の使徒たちとともにいらしたことを示す別の例を見つけてもらいます。

▶ 生徒たちに、使徒 5：33－42 を読んでもらう代わりに、使徒 5：12－42 の内容を要約したビデオ “*Peter and John Continue Preaching the Gospel*”（5分38秒）を見せてもよいでしょう。このビデオは、*LDS.org* で視聴可能です。

使徒 5：33 から、議会はペテロとヨハネを殺そうとしていたことが分かることを指摘します。

・41－42 節によれば、使徒たちはこの脅威に直面していながら、どのように主に忠実であり続けたでしょうか。このようなときに、主はどのように彼らとともにいらしたでしょうか。

・わたしたちが福音に従って生活をするよう努力し、周りの人々に福音を分かち合うとき、このレッスンで見いだした真理はどのようにわたしたちを助けることができるでしょうか。

今日教えられた真理についてあなたの証を分かち合い、自分の生活の中でこれらの真理を応用するよう生徒に勧めます。

次の単元（使徒 6 – 12 章）

どれほど多くの人々が福音のために殉教者として命を落としたと思うか、生徒に尋ねます。次の一週間、生徒に次の質問について考えるように言います。コルネリオに関するペテロの示現は、

教会にとってなぜそれほど重要なのでしょうか。サウロ（パウロとしても知られる）の人生を変える、どのようなことが起こったのでしょうか。サウロはどのようにして目が見えなくなったのでしょうか。また、主は誰にサウロの視力を回復するようお命じになったのでしょうか。

使徒 6－7 章

はじめに

使徒たちは、主の業を助けるために7人の弟子を聖任しました。その選ばれた者の一人、ステパノは、多くの奇跡を行いました。一部のユダヤ人は、神を冒瀆したとしてステパノを非難し、サンヒドリンの前に連れて行きました。そこでステパノは

変貌しました。救い主を拒むことに対してユダヤ人を非難した後、ステパノは天の御父とイエス・キリストを見ました。ステパノはその後、町を追い出され、石で打たれて命を落としました。

教科課程用資料の活用

レッスンを準備する際は、聖句ブロックの研究箇所と並行して教科課程用資料をよく祈って再確認してください。そうするとき、生徒の必要に合わせてレッスンを独自のものにできるよう、聖霊が助けてください。聖句ブロックに関する教え方の提案の全てまたは一部を活用してもよいですし、提案されたアイデアをクラスの必要に適應させてもよいでしょう。

教えるための提案

使徒 6：1－8

7人の弟子、御業において使徒たちを助けるために選ばれる

生徒に、明確な物質的難題や必要性を抱えた家族、ワード、地域社会の誰かのことを考えてもらいます。

- その人とその状況について考えるとき、あなたはどのように感じるでしょうか。
- それらの人たちについて天の御父はどのように感じられると思いますか。

使徒 6：1－8 を研究しながら、主が神の子供たちの必要を満たされる方法を見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、使徒 6：1－2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちに知らされたギリシヤ語を使うユダヤ人の懸念を見つけてもらいます。ギリシヤ語を使うユダヤ人は「ギリシヤ語を話すユダヤ人キリスト教徒」で、ヘブル語を使うユダヤ人は「パレスチナのユダヤ人キリスト教徒」でした (*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 288)。

- ギリシヤ語を使うユダヤ人は、どのような懸念を表明したでしょうか。

当時、教会は急速に成長していたこと、さらにやもめを含む多くの人々の物質的な必要も増していたことを説明します。使徒たちは福音を「すべての国民」に宣べ伝える責任があったため (マタイ 28：19)、教会員の個々の必要全てに直接対応することはできませんでした。

数人の生徒に、交代で使徒 6：3－6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちがこの問題を解決した方法を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 教会の増大する必要に対応するために選ばれた人々は、この召しにふさわしくあるために、どのような資質を持っている必要があったでしょうか。(3 節および 5 節の中で、この資質を説明している語句に印をつけるよう生徒に勧めてもよいでしょう。)
- この手順は、会員の必要を確実に満たすために、今日、主が御自身の教会で行われていらっしゃるのとどのように似ているでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。ふさわしい教会員は、他の人々の必要に応える助けをするために召される。)

何人かの生徒にホワイトボードの所に来てもらい、教会の召しを書き出してもらいます。挙げられた召しの幾つかについて、次のように尋ねます。

- この召しに忠実に仕える人々によって、誰の必要に答えているでしょうか。
- 他の人々の必要に応える助けをするために召された人々が、3 節および 5 節で述べられた資質を持っていることはなぜ重要だと思いますか。

生徒に、使徒 6：7－8 を黙読してもらいます。他の人々の世話をするという、これら7人の弟子の召しから生じた肯定的な成果に印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

使徒 6 : 9 - 7 : 53

ステパノ、サンヒドリンの前に連れて来られ、議員たちがメシヤを拒んだことを証する

何人かの生徒に立ってもらい、次の状況で、誰かが助けを必要としているにもかかわらず、その助けを拒もうとしているようすを実演するように言います — 宿題をする、食事を作る、生活の中の主要な問題を解決する。

- なぜわたしたちは時折、誰かからの助けを拒むのでしょうか。
- 他の人々からの助けを拒むことで、どのような結果がもたらされる可能性があるでしょうか。

天の御父がわたしたちを助ける方法の一つは、聖霊によるということを指摘します。使徒 6 : 9 - 7 : 53 を研究しながら、聖霊に逆らうことの結果を見つけるよう生徒に言います。

使徒 6 : 9 に記録されているとおり、イエス・キリストを信じていなかった多くの人々は、福音を教えたとして、ステパノと議論したことを説明します。一人の生徒に、使徒 6 : 10 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ステパノと議論した人々がステパノに影響された理由を見つけてもらいます。11 節にある「そそのかし」とは、賄賂を渡すことを意味すると説明する必要があるかもしれません。

- ステパノと議論した人々は、その教えにどのように影響されたのでしょうか。
- ステパノは何の罪に問われたのでしょうか。

使徒 6 : 12 - 14 の要約として、ステパノはサンヒドリンと呼ばれるユダヤの最高議会の前に連れて行かれたことを説明します。

一人の生徒に、使徒 6 : 15 を声に出して読むように言います。他の生徒には、聞きながら、議会の前に立っていたとき、ステパノの外観はどのように普通でなかったか見つけてもらいます。

- ステパノが「天使の顔」になったとはどういう意味だと思いますか (15 節)。(ステパノは変貌した。この神聖な変貌は、神がステパノとそのメッセージを承認させたことを人々に示す一つの方法であった [ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 2 巻, 67].)

使徒 7 : 1 - 50 の要約として、自分に対する非難に応じて、ステパノはイスラエルの歴史の一部を詳述したことを説明します。

一人の生徒に、使徒 7 : 35 - 39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、古代のイスラエル人の預言者モーセに対する扱いについてステパノが語ったことを見つけてもらいます。

- 35 節によると、エジプトからイスラエルの子らを救うためにモーセがやって来たとき、人々はどのようにモーセに対応したのでしょうか。
- モーセがイスラエルの民を救った後でさえ、人々はどのようにモーセに対応したのでしょうか (39 節参照)。

イエス・キリストはモーセが預言した預言者であることを生徒に思い出してもらいます (37 節参照)。

一人の生徒に、使徒 7 : 51 - 53 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ステパノは、自分が説明した古代のイスラエル人と、当時のユダヤ人の指導者とをどのように比較したか見つけてもらいます。

- 51 節によると、ステパノが説明した古代のイスラエル人と、当時のユダヤ人の指導者ととはどのように似ていたのでしょうか。(両者とも聖霊に逆らった。「強情で、心にも……割礼のない人たち」とは、ユダヤ人の罪深い高慢と邪悪な心を指していることを説明します。)
- 52 節によると、古代のユダヤ人は聖霊に逆らい、誰を拒み、迫害したのでしょうか。(モーセを含む、預言者たち。)
- ステパノは、ユダヤの議会がどなたを拒んだと言いましたか。(「正しいかた」[52 節], すなわち、救い主。)

ステパノは、古代のイスラエル人が預言者モーセを拒んだと同様に、ステパノの時代のユダヤ人の指導者たちが救い主を拒んだことを示したと説明します。

- 聖霊に逆らうことについてどのような真理が学べるのでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の真理を見つけるでしょう。聖霊に逆らうことは、救い主とその預言者を拒むことにつながる。)

- 聖霊に逆らうことは、どのように救い主とその預言者の教えを拒むことにつながるのでしょうか。(聖霊はイエス・キリストを証し、キリストの言葉とその預言者の言葉の真理を確信させる。そのため、聖霊に逆らうことは、人の証や救い主とその預言者に従う決意を弱める。)

誰かが次の状況で、どのように聖霊に逆らうよう誘惑される可能性があるか、生徒に説明してもらいます。(1) 娯楽やメディアを選択する、(2) デートの際に預言者の勧告に従うかどうか選ぶ、(3) イエス・キリストと主の預言者が教えた悔い改めの原則を適用するかどうか決断する。

- 聖霊の影響に逆らうのではなく、聖霊を快く受け入れるために、わたしたちは何をすることができますでしょうか。

聖霊の影響を受け入れることは、どのように救い主とその預言者を受け入れ、彼らの受け入れることにつながるか、生徒によく考えてもらいます。

これからの一週間、あなたの生活に聖霊の影響を積極的に受け入れるために出来る一つの事柄について深く考えるよう励まします。その目標をクラスノートか聖典学習帳に書いてもらい、その目標を達成できるよう励まします。

使徒 7:54 – 60

ステパノ、石で打たれて命を落とす

「苦難」という言葉をホワイトボードに書き、生徒たちにどのような意味だと思いか尋ねます。生徒に答えてもらった後、以下の定義をその言葉の隣に書きます — 大きな問題や苦しみの原因。

- なぜわたしたちはイエス・キリストの信者として苦難に見舞われることを予期すべきなのでしょう。

生徒たちが、使徒 7:54 – 60 を研究しながら、苦難に見舞われたときに助けとなる原則を見つけてもらいます。

ステパノが邪悪なユダヤ人の指導者たちを叱責した後、彼らは「心の底から激しく」怒りました (54 節)。

一人の生徒に、使徒 7:55 – 56 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ステパノがこの迫害のさなかに経験したことを見つけてもらいます。

- どのような影響がステパノを満たしたのでしょうか。
- ステパノはどなたを見たとでしょうか。

「神の右にイエスを見るステパノ」(『福音の視覚資料集』63 番; *LDS.org* も参照) の絵を見せます。

- ステパノの示現の話から、神会についてどのような基本的教義を学べるのでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の教義を見つけるようにします。天の御父、イエス・キリスト、聖霊は 3 人の別個の独立した御方である。生徒たちが使徒 7:55 – 56 の横の余白に、この教義を書くように提案するとよいでしょう。)

数人の生徒に、交代で使徒 7:57 – 60 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人々がステパノにしたことを見つけてもらいます。生徒が見つけたことを発表してもらいます。

- ステパノの祈りの中で一番心に残ったのはどの部分ですか。
- なゼルカはステパノの悲劇的な死を「彼は眠りについた」という語句で説明しているのだと思いますか (60 節)。(この言い回しは、現世の悩みからの義人の休息や、このような人が現世から来世に移り行く際の平安を指している可能性があることを指摘します [教義と聖約 42:46 参照]。)

生徒に、ステパノが引き出されて殺される前に経験したことをよく考えてもらいます (使徒 7:55 – 56 参照)。

- サンヒドリンでの経験の間、神はステパノをどのような方法で強めたのでしょうか。(ステパノは聖霊に満たされ、救い主が神の右に立っておいでになるのを見た。)
- ステパノの経験から、苦難のさなかにおいてもイエス・キリストへの信仰を続ける助けとなる、どのような原則を学ぶことができますでしょうか。(生徒たちはさまざまな原則を見つけるかもしれませんが、必ず次の原則を理解するようにします。苦難の中にあってもイエス・キリストへの信仰を続けるなら、主はわたしたちとともにいてくださる。)



- 苦難に直面しているとき、どのように主はわたしたちとともにいてくださるのでしょうか。
- ステパノは命を失ったものの、何を得たのでしょうか。

ステパノは一般的にクリスチャンの最初の殉教者だとみなされていることを説明します。さらに、ステパノはキリストの予型のような人物であるとも言えます。ステパノも救い主も、両者ともに議会の前で裁判にかけられ、敵の面前で真理を宣言し、正義のために命をささげ、さらには命を落とす際に同様の表現を口にしました（ルカ 23：33 - 34, 46 参照）。サウロという名前の若者がステパノの殉教の現場にいて、それを目撃したこと、そしてその男は後に使徒パウロとなったことを指摘するとよいでしょう（58 節参照）。

このレッスン全体を通して教えられた真理について証をします。

第87課 使徒8章

はじめに

エルサレムでの教会に対する迫害の結果、教会員はユダヤとサマリア全土に散らされることになりました。ピリポはサマリアで教え導き、ここで多くの人々がイエス・キリストの福音を受け入れました。ペテロとヨハネは新しい改宗者たちに聖霊の賜

物を授けた後、シモンという名前の魔術師が神権を買おうとしました。神はその後、ピリポをエチオピアの高官のもとに導かれ、ピリポは彼にイエス・キリストについて教え、バプテスマを施しました。

福音を教え学ぶときの基本

セミナーの聖典に基づいた各レッスンは、特定の概念やテーマ、教義、原則ではなく、聖句ブロックに焦点を当てて行います。これらのレッスンは「福音を教え学ぶときの基本」の多くを取り入れ、生徒が聖句ブロックの背景と内容を理解すること、福音の教義と原則を見つけ、理解し、それが真実であり重要であることを感じ、応用することを助けます。

教えるための提案

使徒8:1-25

ピリポはサマリアで教え導き、そこで魔術師シモンが神権を買おうとする

お金を幾らか見せませす。生徒たちに、大金を受け取ったところを想像してもらいます。

- あなたはそのお金で何を買いますか。
- 一部の人はお金で何でも買えると信じていることを指摘します。しかし、人生で最も価値のあるものの中にはお金で買えないものもあります。使徒8章を研究しながら、お金で買うことができない神からの贈り物を見つけるよう生徒に言います。
- 使徒7章では、迫害者の手による弟子ステパノの死について学んだことを生徒に思い出してもらいます。数人の生徒に、使徒8:1-5を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会員たちはエルサレムの教会に対する迫害の結果として何をしたか見つけてもらいます。
- 迫害の結果、教会員はどうしたでしょうか。
- 5節5節の「ピリポ」という名前に、生徒たちの注意を促します。ピリポは、教会員の必要に応えるために十二使徒を支援するよう聖任された7人の弟子の一人であったことを生徒に思い出してもらいます（使徒6:5参照）。配付資料「使徒行伝の概要」（本書の付録参照）を参照し、使徒1:8に記録された救い主から委任された務めを見つけるよう生徒に言います。
- 使徒8:5によると、ピリポはどのようにして救い主から委任された務めを果たし始めたでしょうか。
- 一人の生徒に、使徒8:6-8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サマリア人たちがピリポが福音を宣べ伝えたことに、どのような反応をしたかを見つけてもらいます。
- これらのサマリア人たちはピリポが福音を宣べ伝えたことに、どのような反応をしたでしょうか。
- 福音を宣べ伝えることに加えて、ピリポは他にどのような業を行ったでしょうか。
- 一人の生徒に、使徒8:9-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、シモンという名前のサマリア人についての説明を見つけてもらいます。
- これらの節からシモンについて何を学べるでしょうか。（「悪霊の援助や制御から得られる力の行使は『魔術』と呼ばれている」ことを説明します〔ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testamentary Commentary*、全3巻（1965-1973年）、第2巻、82〕。）
- シモンは人々にどのような影響力を持っていたでしょうか。
- 一人の生徒に、使徒8:12-13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、シモンはどのようにピリポの教えに反応したかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。
- 13節によると、シモンはどのように「しるしや……奇跡」に影響されたでしょうか。

使徒 8:14 - 16 の要約として、ペテロとヨハネはサマリヤの人々が神の言葉を受け入れたことを聞いて、そこに来たことを説明します。二人はサマリヤの改宗者たちが聖霊の賜物を受けよう祈りました。

生徒に、使徒 8:17 を黙読し、ペテロとヨハネがサマリヤの新たな教会員のために何をしていたかを見つけてもらいます。

- この話から、聖霊の賜物が与えられる方法についてどのようなことが学べるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の教義をホワイトボードに書きます。聖霊の賜物は、権能を受けた神権者によって按手を通じてバプテスマ後に授けられる。）

一人の生徒に、使徒 8:18 - 19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、シモンがペテロに対して行った申し出を見つけてもらいます。

- シモンがペテロに対して行った申し出は何でしたか。

レッスンの最初に見せたお金を生徒にもう一度見せます。もし自分がペテロの立場だとしたら、シモンにどのように応じていたかをよく考えるよう生徒に言います。

数人の生徒に、使徒 8:20 - 24 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神権を受けることについてペテロがシモンに教えた事柄を見つけてもらいます。

- 20 節に記録されているように、ペテロは神権を受けることについてシモンにどのようなことを教えたでしょうか。
- シモンが神権を授かるのと引き換えにお金を提供すると使徒に申し出たとき、彼は神権について何を理解していなかったのでしょうか。（神権は神に属しているの、神の御心に従ってのみ授けられる。神は神権を得る方法を確立しておられる。）
- 21 - 23 節によれば、シモンがまだ神権を受けられないのはなぜでしょうか。どのような点でシモンの心は「神の前に正しくない」と思いますか（21 節）。
- この話から、神権を受けることについてどんなことが学べるでしょうか。（生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。神権は、神の御心とふさわしさの標準に基づいて授けられる。ホワイトボードにこの真理を書きます。）
- 神権は、神の御心とふさわしさの標準に従ってのみ個人に授けられるということを知ることにはなぜ大切だと思いますか。

使徒 8:25 の要約として、ペテロとヨハネはサマリヤ人の多くの村々で福音を宣べ伝えたことを説明します。

使徒 8:26 - 40

ピリポ、エチオピア人の高官を教え、バプテスマを施す

生徒たちに、過去に誰かに導いてもらう必要があった状況、あるいは将来導いてもらう必要があるかもしれない状況を考えてもらいます。

- また、あなたが他の誰かを導く状況には、どのようなものがあるでしょうか。（生徒に、自分が精通している分野や場所、身につけた特技などについて考えてもらったらいでしょう。）

使徒 8 章の残りを研究しながら、他の人を導くために大事なことは何かを見つけるよう生徒に言います。

一人の生徒に、使徒 8:26 - 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピリポがガザに向かった理由を見つけてもらいます。

- なぜピリポはガザに向かったのでしょうか。
- ピリポが旅をしていた地域に他に誰がいたのでしょうか。（エチオピア人の宦官。宦官とは王や女王の宮廷の役人だったことを説明します [Bible Dictionary, "Eunuch" の項参照]。)
- エチオピア人の高官は馬車の中で何をしていたのでしょうか。（預言者イザヤの書を読んでいた。）

教室の前に椅子を二つ向かい合わせに配置します。二人の生徒に、次の話のエチオピア人の高官とピリポの役を演じてもらいます。（クラスの前にこの役を割り当てておき、二人の生徒には事前に練習してもらおうとよいでしょう。）エチオピア人の高官役の生徒に一つの椅子に座ってもらい、ピリポ役の生徒にはドアの近くに立ってもらいます。もう一人別の生徒に、ナレーター役をしてもらいます。

この 3 人の生徒に、使徒 8:29 - 39 を声に出して読んでもらい、それぞれの箇所を演じてもらいます。他の生徒には聞きながら、ピリポとエチオピア人の高官との間の出来事を見てもらいます。生徒が自分の役割部分を読んで演じたら、次のことを行います。

1. ナレーターが 32 - 33 節を読んだら、自分の聖典の使徒 8:32 - 33 の隣に相互参照として、「イザヤ 53:7 - 8」と書くように勧めます。
2. ナレーターが 35 節を読んだら、ピリポの役を演じている生徒に、この状況の中で救い主についてこれから何を教えるのか、クラスの生徒に説明するように言います。（クラスの生徒にも提案してもらおうとよいでしょう。）
3. ナレーターが 38 節を読むとき、バプテスマの執行は演じないよう生徒に優しく言います。生徒たちがこの活動を終わったら、感謝し、席に戻ってもらいます。
 - 29 節によると、ピリポがエチオピア人の高官の馬車に向かった理由は何でしょうか。
 - 31 節によれば、その高官は、イザヤ書を理解するために何が必要だと言ったのでしょうか。
 - 35 - 38 節によると、ピリポはどのようにしてその高官を導きましたか。
 - 神からの促しに従うことの結果についてのピリポの経験から、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちはさまざまな言葉を使うことが予想されますが、必ず次のことを明確にしてください。わたしたちが神からの促しに従うとき、他の人々をイエス・キリストのもとに導くことを助ける機会が与えられる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）

次の配付資料のコピーを生徒に配ります。生徒に、配付資料の指示に従い、誰かをイエス・キリストのもとへ導く助けをする方法について考えてもらいます。生徒に、書き留めたものをクラスで発表する機会があることを説明します。

他の人々をイエス・キリストのもとへ導く

以下の状況から一つを選びます。

- 友人の若い男性が別のキリスト教の教会に属しています。ある日の昼食時、あなたは教会について彼と話をしようとするのと促しを感じました。
- 学校から家に歩いている間、あなたは泣いている若い女性を見ました。彼女は、数年間まったく教会の集会に出席していないあなたのワードの会員だと分かりました。彼女と話をしようとするのと促しを感じました。彼女を慰めようとする、彼女は自分の疑念について説明し、「なぜわたしは幸せになることすらできないの？」と尋ねました。
- あなたがソーシャルメディアでつながっている若い男性の母親が最近亡くなりました。あなたは、彼が最近行った以下のような投稿に応えるよう促しを感じました。「今とても孤独に感じている。誰かがこの気持ちをわかってくれればいいのに。」

この紙の裏か、クラスノートや聖典学習帳に、イエス・キリストのもとにこの人を導く助けとなるために何を言うのか、何をするのか書きます。説明には、次の質問に対する答えを含むようにします。

- イエス・キリストのもとにこの人を導く助けとなるために、あなたはどの福音の真理を分かち合うでしょうか。
- この人に聖句を一つ研究するよう勧めるとしたら、どの聖句を勧めますか。
- この人に何をしよう勧めますか。

時間を十分に取ってから、生徒を二人一組に分けます。生徒に、自分が書き出したものと、そのように取り組む理由をパートナーに説明してもらいます。それから、何人かの生徒に書き出したものをクラス全員に対して発表してもらいます。最初の二つの状況のいずれかを選択した生徒に、このような状況で何を言い、何をするのか、ロールプレーしてもらってもよいでしょう。その際、彼らが助けようとしている人の役をあなたがします。（そうする場合、あなたとともにその状況をロールプレーしてもらう前に、生徒に準備する時間を与えます。）その後、クラス全員に次の質問をします。

- いつ、どのようにイエス・キリストのもとに誰かを導く助けをしましたか。

- いつ、どのように誰かがあなたをイエス・キリストのもとに導く助けをしましたか。

イエス・キリストのもとに導く助けができる人のもとへ向かえるよう、神からの促しに従うよう生徒に勧めます。生徒に、今後数日間、知人をイエス・キリストのもとに導く助けをするためにできることについて深く考えてもらいます。どのような経験ができたか、後でクラスに報告するよう生徒に勧めます。

使徒9章

はじめに

イエスはダマスコへ向かう途中のサウロに現れられ、サウロは目が見えなくなりました。アナニヤがサウロを癒やした後、サウロはバプテスマを受け、ダマスコで福音を宣べ伝え始めま

した。3年後、サウロはエルサレムに行きましたが、命が脅かされたため、使徒たちは彼をタルソへ送り出しました。ペテロはルダとヨッパで奇跡を行いました。

教えるための提案

使徒9：1－9

イエス、ダマスコへ向かう途中のサウロに御姿を現される

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉をホワイトボードに書きます。(この言葉は「最善はこれからだ」『リアホナ』2010年1月号、19－20にあります。)

「多くの人の心には、自らが犯した間違いであれ人の間違いであれ、その中でも特に過去の間違いを赦し、忘れることのできない性質を持っています。……

悔い改めの機会をあげましょう。成長させてあげましょう。人は変わることができ、良くなることができると信じてください。」(ジェフリー・R・ホランド長老)

一人の生徒に、ホワイトボードの言葉を声に出して読んでもらいます。その後、クラス全体に質問します。

- 他の人々が変わり、改善し、そしてそのようにできると信じられるようにすることが大切な状況には、どのようなものがあるでしょうか。
- わたしたちが変わり、改善できると信じるのが大切である状況には、どのようなものがあるでしょうか。

使徒9章を研究しながら、生徒たちに、変わり、改善した人の経験から学ぶことができる真理を見つけてもらいます。

使徒9章のほとんどの文は、サウロという名前の男性の経験に焦点が当てられていることを説明します。一人の生徒に、次のサウロについての説明を声に出して読んでもらいます。

サウロはギリシャの町、タルソで生まれ(使徒21：39参照)、ローマの市民権を持っていました(使徒16：37参照)。彼はベニヤミンの血統であるユダヤ人で(ローマ11：1参照)、エルサレムでガマリエルによって教育を受けました(使徒22：3参照)。このガマリエルは有名なパリサイ人で、尊敬されたユダヤの律法の教師でした(使徒5：34参照)。サウロはパリサイ人になり(使徒23：6参照)、「ヘブル語」(おそらくアラム語)とギリシャ語を話しました(使徒21：37, 40参照)。後にパウロというラテン語名で知られるようになりました(使徒13：9参照)。(Bible Dictionary, “Paul”の項参照)

サウロはステパノが石で打たれた現場にいたことを生徒に思い出してもらいます(使徒7：58－59参照)。一人の生徒に、使徒8：1－3を声に出して読んでもらい、別の生徒に、使徒9：1－2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サウロはイエス・キリストの信者をどのように扱っていたか見つけてもらいます。

- サウロはイエス・キリストの信者をどのように扱っていたのでしょうか。
- 使徒9：1－2によれば、サウロがダマスコに向かったのはなぜですか。

一人の生徒に、使徒9：3－6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サウロがダマスコに向かう途中で何が起きたかを見つけてもらいます。

- サウロに誰が現れたのでしょうか。

5節と欽定訳聖書の6節の一部を和訳した以下の文を紹介します。(……すると答えがあった、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。とげのあるむちを蹴れば、傷を負うだけである。」)そして、「とげのあるむちを蹴れば」という表現を指摘します。「とげのあるむち」とは突き棒、または動物を動かすために使うとがった棒状の物を指すことを説明し

生徒が文脈と内容を理解できるように助ける

福音を教え学ぶときの基本の一つは、その聖文の文脈(前後関係)や内容を理解することです。文脈には、特定の聖句や出来事、話に関わる状況あるいは背景となる状況が含まれます。内容には、文章を構成している人物、出来事、説教、靈感に基づく説明が含まれます。聖句の背景と内容を理解するよう助けられると、生徒は靈感を受けた記録者の告げようとしていることをよく理解する準備ができます。

ます（可能なら、先のとがった棒を生徒に見せます）。この場合、「とげのあるむちを蹴る」とは神と戦うことを意味します。

生徒たちに、欽定訳聖書の 6 節に記された部分の続き（「そこで、彼はおどろき、おののきながら言った。『主よ、私が何をすることをお望みですか。』そこで主は彼に言われた。……」〔欽定訳使徒 9：6 から和訳〕）を聖典の余白に書いてもらってもよいでしょう。

- サウロの質問は彼について何を教えているのでしょうか。（サウロは主の御心に従うことを望んだ。）

使徒 9：7 - 9 の要約として、サウロの同行者たちは光を見たが、サウロに語りかけるイエスの声は聞かなかったことを説明します（ジョセフ・スミス訳使徒 9：7〔『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳（抜粋）」〕。使徒 22：9 も参照）。示現の後、サウロは肉体的に盲目となりました。サウロはダマスコへ連れて行かれ、3 日間、食べることも飲むこともしませんでした。

- 自分がサウロであることを想像します。あなたが積極的にイエス・キリストの弟子たちを迫害していたら、このとき、何を考え、何を感じていたのでしょうか。

使徒 9：10 - 22

サウロ、ダマスコのアナニヤによって癒やされ、バプテスマを受け、イエス・キリストについて宣べ伝える

一人の生徒に、使徒行 9：10 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主はダマスコの教会員であるアナニヤに何をしよう命じられたかを見つけてもらいます。

- 主はアナニヤに何をしよう命じられましたか。

ダマスコに向かうサウロの本来の目的は、アナニヤのような人々を捕らえることだったことを指摘します。

- あなたがアナニヤで、サウロの評判について知っていたら、主からこのような命令を受けた後、どのように思ったのでしょうか。

一人の生徒に、使徒 9：13 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がサウロについてアナニヤに教えられた事柄を見つけてもらいます。

- 主のサウロについての見識は、アナニヤのサウロについての見識とどのように異なっていたのでしょうか。
- 15 節によると、主はサウロに何になり、何をしよう選ばれたのでしょうか。（「器として、わたしが選んだ者」という表現は、サウロがその務めを予任されていたという事実を指していることを指摘するとよいでしょう。）
- 16 節によると、サウロは主から選ばれた器であるにもかかわらず、どのような経験をするのでしょうか。
- これらの聖句から、主はわたしたちをどのように見ておられるかについてどんな真理を学べるのでしょうか。（生徒はさまざまな真理を見つけるかもしれませんが、次のことを必ず強調してください。主はわたしたちをどのような者になれるかという観点で見ておられる。また、主はその業において主を助けるためのわたしたちの可能性を見ておられる。ホワイトボードにこれらの真理を書きます。）

主の業において主を助けるために、生徒の個々の経歴、性格の特徴、能力をどのように使うことができるかについて深く考えてもらいます。クラスノートか聖典学習帳に、自分の考えたことを書き出すように言います。

一人の生徒に、使徒 9：17 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がサウロの可能性と将来の使命をアナニヤが理解できるようにされた後、アナニヤが行ったことを見つけてもらいます。

- アナニヤがサウロにしたことは何でしたか。
- 20 節によれば、サウロはバプテスマを受け、元気を取り戻した後、「ただちに」あるいはすぐに、何をしたのでしょうか。

サウロの悔い改め、バプテスマ、伝道は、彼のキリストを信じる信仰と主の御心に対する従順を示していることを指摘します。

一人の生徒に、使徒 9：21 - 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人々はサウロの教えにどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- 人々はどのようにサウロの教えに反応したでしょうか。
- サウロの話聞いたとき、人々はなぜ驚いたのでしょうか。
- サウロのように、わたしたちが変わり、主がわたしたちの内に見ておられる可能性を發揮するためには、どのようなことを行わなければならないでしょうか。（生徒の言葉で次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが主の御心に従うなら、わたしたちは変わり、主がわたしたちの内に見ておられる可能性を發揮することができる。）

二人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。一人の生徒には軟らかい粘土を与え、もう一人の生徒には硬い粘土を与えます。（粘土を入手できない場合、この活動を行うところを生徒に想像してもらってから、活動後の質問を尋ねます。）生徒に 30 秒程度を与え、自分の粘土を使用して好きなものを作成してもらいます。もし硬い粘土の生徒が難しいと言ったら、それでも作り続けるよう励まします。

十分に時間を取った後、彼らに作ったものを見せてもらいます。硬い粘土を与えられた生徒に次のように尋ねます。

- その粘土を使って何かを作るのが難しいのはなぜだと思いますか。
生徒に感謝し、自分の席に戻ってもらいます。生徒に次の質問をします。
- 硬い粘土はどのように主の御心に従順でない人にたとえることができますか。
- 軟らかい粘土はどのように主の御心に従順な人にたとえることができますか。
- 主に従うことは、どのようにあなたや他の人々が変わり、主がわたしたちの内に見ておられる可能性を發揮する助けとなったのでしょうか。
エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を読みます。

「〔人〕は生涯、『……主よ、わたしが何をすることをお望みですか』（欽定訳使徒 9:6 から和訳）というパウロが尋ねた質問よりも重要な質問をすることはできないでしょう。」（*“Listen to a Prophet’s Voice,” Ensign, 1973 年 1 月号, 57*）

生徒に、「主よ、わたしが何をすることをお望みですか」という質問について深く考えてもらいます。受けた促しを記録するよう生徒に言います。十分に時間を取った後、ベンソン大管長の次の言葉を読みます。

「〔人〕は、その質問に対する答えに至らせる道を追求し、そしてその答えを実行することよりも大いなる行動を取ることはできません。」（*“Listen to a Prophet’s Voice,” 57*）

この質問に対する答えを求め、受けた促しに従って行動し続けるよう生徒を励まします。

使徒 9:23 – 31

サウロの命はエルサレムで脅かされ、使徒たちは彼をタルソに送り出す

改宗後、サウロはアラビヤに定住し、後にダマスコに戻ったことを指摘します（ガラテヤ 1:17 参照）。使徒 9:23 – 26 の要約として、ダマスコのユダヤ人たちはサウロを殺すために共謀しましたが、教会員はサウロが町を脱出するのを助けたことを説明します。改宗から 3 年後（ガラテヤ 1:18 参照）、サウロはエルサレムに行きましたが、教会員たちは彼がイエス・キリストの弟子になったことを信じず、彼を受け入れるのを恐れました。

- 一部の教会員は、サウロがイエス・キリストの弟子になったことを受け入れるのになぜ消極的だったと思いますか。

使徒 9:27 – 31 の要約として、教会員のバルナバ（使徒 4:36 – 37 参照）がサウロを使徒たちのもとへ連れて行き、サウロの示現やダマスコで大胆に教えを説いたことを話したことを説明します。それ以来、教会員たちはサウロを仲間として歓迎しました。エルサレムのギリシヤ語を使うユダヤ人たちがサウロの命を狙ったので、教会の指導者たちはサウロをタルソに送り出しました。教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリヤで平安を保ち、成長しました。

使徒 9:32 – 43

ペテロ、ルダとヨツパで奇跡を行う

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組の一人の生徒に 9:32 – 35 を、もう一人には 9:36 – 42 を読んでもらいます。生徒に、ペテロが行った奇跡と、人々の反応を見つけてもらいます。「施し」（36 節）とは、貧しい人々に物を提供する行為であると説明します。

十分な時間を取った後、ペテロが行った奇跡と、人々の反応について、ペアで話し合ってもらいます。その後、次の質問をします。

- 35 節と 42 節によれば、ルダの人々とヨッパの人々はペテロの働きにどのような反応をしたでしょうか。
- 他の人々に仕えることにより起こり得る影響について、彼らの反応から何を学ぶことができますか。（生徒の言葉で次の原則をホワイトボードに書きます。他の人に仕えることによって、人々が主に頼り、主を信じる助けをすることができる。）

神権の祝福を受けることは、他の人々に仕える一つの方法であることを説明します。生徒が他の人々に仕えるその他の方法を認識する助けとなるよう、次の質問をします。

- 36 節と 39 節によると、タビタは他の人々にどのように仕えましたか。
- 「数々のよい働き」(36 節) をする人や、他の人々に仕える人は、どのようにして人々を主に向かわせ、主を信じるよう助けることができるのでしょうか。
- 他の誰かの善い働きにより、あなたや他の人々を主に向かわせ、主を信じる助けとなったのはどのようなときでしたか。

このレッスンで教えられた真理について証を述べ、レッスンを終わります。

使徒 10－11 章

はじめに

神は、福音が異邦人に宣べ伝えられるべきであると、示現の中でペテロに明らかにされました。ペテロはコルネリオと彼の家族に福音を教え、その後、異邦人に宣べ伝えられた福音に関

する、ユダヤ人聖徒たちの間における論争を解決しました。迫害にもかかわらず、主の業は前進し続けました。

教えるための提案

使徒 10 章

神は、福音が異邦人に宣べ伝えられるべきであると示現の中でペテロに明らかにされる

生徒たちに、友人の一人が次の質問をすることを想像してもらいます。「1978年にあなたの教会は、人種に関係なく全ての男性が神権を受けられるように、その見解を変更したと聞きました。あなたの教会が神によって導かれていて、神は不変であると信じているなら、どうしてそんなことが可能なのですか。」

生徒に、この友人にどのように答えるか、クラスノートまたは聖典学習帳に書いてもらいます。（注－生徒が、制限されていた神権に対する理由を推測するのではなく、教会の慣例を変更することに対する質問に答えるようにします。また、理由が明らかにされていないので、神権の制限が実施されていた理由を推測しないでください〔公式の宣言二参照〕。）

生徒に、使徒 10－11 章を研究しながら、主がどのように御自身の教会を率い、導き、変更し、管理されるのかについての質問に答える助けとなる教義と原則を見つけてもらいます。

新約聖書のこの時点までは、福音は、若干の例外はあるものの、救い主の指示により、ユダヤ人にだけ宣べ伝えられていました（マタイ 10：5－6 参照）。しかしながら、救い主はまた、聖霊が彼らに降った後、彼らは福音を「地のはてまで」宣べ伝えるであろうと御自身の弟子たちに語られました（使徒 1：8）。使徒 10 章では、教会がこのことを促進するために、運営方法を大幅に変更したことが分かります。

一人の生徒に、使徒 10：1－2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コルネリオという名前の異邦人についての詳細を見つけてもらいます。（コルネリオは「神を敬〔っ〕……ていた」ことを指摘するとよいでしょう〔2 節〕。神を敬う人とは、主を礼拝するものの、ユダヤ教への改宗しておらず、そのため、モーセの律法全てに従って生活していない異邦人のことでした。）

- コルネリオの職業は何でしたか。（ローマ軍の百卒長で、100 人の兵卒に対して責任を負っていた。）

この時点まで、福音はユダヤ人にだけ伝えられていたので、異邦人は、まずユダヤ教に改宗しなければ、キリストの教会に加わることはできませんでした。

- 異邦人であったコルネリオは教会に加われなかったにもかかわらず、どのように自分の神を信じる信仰を示しましたか。

二人の生徒に、使徒 10：3－6 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コルネリオに何が起きたかを見つけてもらいます。]

- 4 節によると、コルネリオの祈りや施しについて天使は何と告げたでしょうか。
- 天使はコルネリオにどうするよう指示しましたか。

使徒 10：7－8 の要約として、コルネリオはペテロを見つけるためにヨッパに 3 人の部下を送り出したことを説明します。（カイザリアがヨッパからどのくらいの位置にあるか生徒が理解できるよう、『聖書の地図』地図 11「新約の時代の聖地」を参照してもらうとよいでしょう。）

3人がヨッパに向けて旅をしている頃、ペテロはシモンという名前の男性の家に滞在しているときに、意外な示現を見たことを説明します。生徒一人一人に、紙を一枚配付します。生徒に、使徒 10:9 - 16 を黙読し、これらの聖句で説明されているペテロの示現の絵を描いてもらいます。十分に時間を取った後、生徒が描いた絵を使って、ペテロの示現で何が起こったかクラスメートに説明してもらいます。この活動の後、次のように質問します。

- その示現の中で、ペテロは何を食べよう命じられたのでしょうか。
- 14 節によれば、この命令に対するペテロの最初の反応はどうだったのでしょうか。（モーセの律法によれば、ユダヤ人は汚れた、または清くないとされた動物を食べることを禁じられていました〔レビ 11 章参照〕。）
- 15 節によると、主は、ペテロに食べるよう命じた清くない動物について何と言われましたか。

一人の生徒に、使徒 10:17 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが示現の意味について深く考えている間に何が起こったかを見つけてもらいます。

- 17 節のどの表現が、ペテロが最初はその示現の意味を理解していなかったことを示しているのでしょうか。
- ペテロが示現について深く考えているときに、誰がやって来たのでしょうか。
- 御霊はペテロに何をしようおっしゃいましたか。

使徒 10:21 - 24 の要約として、3人がペテロにコルネリオの示現について語ったことを説明します。次の日、ペテロと他の弟子たちはコルネリオに会うため 3人に同行しました。

数人の生徒に、使徒 10:25 - 28 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロがコルネリオの家に到着したとき行ったことを見つけてもらいます。

- 28 節によると、ペテロはユダヤ人と異邦人との間の交流について何と言ったのでしょうか。
- 今やペテロは何を理解していましたか。

使徒 10:29 - 33 の要約として、コルネリオはペテロに自分の示現について語ったことを説明します。コルネリオは家族や友人を集めていたので、ペテロは彼らにも教えることができました。

一人の生徒に、使徒 10:34 - 35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが学んだことを見つけてもらいます。

- あなたなら、ペテロが学んだことをどのように要約しますか。

使徒 10:36 - 43 の要約として、ペテロはコルネリオとその家族にイエス・キリストと主の良い働き、十字架の刑、復活について教えたことを説明します。ペテロは、イエス・キリストを信じる者は、罪の赦しが受けられることを証しました。

一人の生徒に、使徒 10:44 - 48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロの教えがこれらの異邦人に与えた影響を見つけるように言います。「割礼を受けている信者」という語句 (45 節) は、ペテロとともにヨッパから来たユダヤ人の弟子たちを指していることを説明します。

- 44 - 46 節によると、ペテロの教えがコルネリオとその家族に与えた影響はどのようなものだったのでしょうか。
- なぜその場にいたユダヤ人たちはこの出来事を見て驚いたのでしょうか。
- 使徒 10 章に記録されているペテロの経験を通して、主は異邦人についてペテロに何を明らかにされたのでしょうか。（福音は異邦人にも宣べ伝えられるべきであり、異邦人もイエス・キリストの教会に入るためにバプテスマを受けることができる。）

使徒 10 章から学んだ教義を生徒が認識するのを助けるため、生徒を 2つか3つのグループに分けます。以下の配付資料のコピーを各グループに配るか、ホワイトボードにこれらの質問を書きます。生徒たちに、グループで協力し、質問に答えてもらいます。

使徒 10 章

- ペテロとコルネリオの話から、主が御自身の教会をどのように導いておられるかについてどんな真理を学べるでしょうか。
- 主はペテロに一度にではなく、徐々に真理を明らかにされたという事実から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができるでしょうか。
- 神が過去に与えられた命令に対しておできになることは何かということについて、この話から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができるでしょうか。

時間を十分に取った後、何人かの生徒に、ホワイトボードに自分たちが見つけた真理を書いてもらいます。生徒が書いたものに以下の真理が反映されていることを確認します —

神は、預言者つまり先任使徒に啓示を与えることによって御自身の教会を導かれる。

主に従順であるにつれ、わたしたちは徐々に啓示と理解力を授かることができる。

神は、その知恵と神の子供たちの必要に応じて、過去に与えられた指示を変更したり、追加されることがある。

一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒たちには、太字で書かれたもののうち 3 番目の真理がクリストファーソン長老の言葉にどのように反映されているかを聞き取ってもらいます。

「この経験と、ペテロが受けた啓示により、主はそれまでの教会の慣例を変え、御自分の弟子たちに教義をさらに完全に示されました。こうして福音を宣べ伝える業が全人類に及ぶようになったのです。」(「キリストの教義」『リアホナ』2012 年 5 月号, 88)

生徒に、友人の質問にどのように答えるかについて書いた事柄を見直す時間を与えます。使徒 10 章を研究して得たその他の洞察も書き留め、それらの洞察をクラスで分かち合うよう生徒を励まします。

神は教会の慣例を変更し、継続的な啓示を通してわたしたちの教義的理解に付け加えることがあります(信仰箇条 1:9 参照)、神の神聖な属性、特性、聖約、教義、計画は決して変わらないことを指摘する必要があるかもしれません。このことを知ることは、わたしたちが神を信じる信仰を持ち、神はその御心と神の子供たちの必要に応じて、御自身の教会を導いてくださるという確信を持つ助けとなります。

使徒 11:1 – 18

ペテロ、異邦人に福音を宣べ伝えることに関するユダヤ人聖徒たちの間における論争を解決する

- ペテロの異邦人との交流について聞いたときに、教会の一部のユダヤ人の会員たちはどのように感じたと思いますか。(ペテロの異邦人との交流は過去の慣例の大幅な変更であった。そして、一部の会員にはこの変更は受け入れ難いものだった。)

一人の生徒に、使徒 11:1 – 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちがペテロが行ったことにどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- 弟子たちはペテロが行ったことにどのような反応をしたでしょうか。

使徒 11:4 – 15 の要約として、ペテロは自分とコルネリオが受けた示現について弟子たちに述べたことを説明します。ペテロは、コルネリオと彼の家族がイエス・キリストの教えを受け入れ、その後、ペテロとその他の弟子たちが経験したのと同じ方法で、聖霊の力が降ったことを伝えました。

一人の生徒に、使徒 11:16 – 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子たちに対するペテロの結びの言葉を見つけるように言います。

- 「わたしのような者が、どうして神を妨げることができようか」と言ったとき、ペテロはどのような意味で言ったのだと思いますか(17 節)。(ペテロは、異邦人にも福音を受け入れ、悔い改め、バプテスマを受ける機会を与えるという神の御心に反対しない。)

生徒たちに、使徒 11:18 を黙読して、ペテロの説明に対する弟子たちの反応を見つけてもらいます。

- ひとたびペテロが神によって導かれたと知ってからの弟子たちの反応はどうだったでしょうか。

生徒が説明し、分かち合い、証する機会を与える

生徒が互いに教え合うようにすると、教義と原則を説明し、洞察と経験を分かち合い、神聖な真理について証する機会が生徒に与えられます。これはまた、教義と原則についての生徒の理解を深め、福音を教える能力を高めることもできます。生徒が説明し、分かち合い、証するとき、聖霊は生徒が表現する真理の証を強めることができになります。

- この話は、わたしたちが教会を管理する人々を支持し、彼らに従う方法についてどのような原則を教えているでしょうか。（生徒はさまざまな原則を見つけるかもしれませんが、次のことを理解していることを確認します。教会を管理する人々が神によって導かれていることを知るとき、わたしたちは確信を持って彼らを支持し、従うことができる。この原則は、管理する神権の鍵を持つ人々に神がその御心を明らかにされることを記録した、末日の聖文でも確認されています〔教義と聖約 28：2, 7；42：11；107：65 - 66 参照〕。）
- あなたは、教会を管理する人々が神によって導かれていることを、どうして知るようになりましたか。
- 預言者が神によって導かれていると知っているために、これまであなたは預言者からのどのような勧告に従うことを選んできましたか。
教会を管理する人々が神によって導かれているというさらに強い証を得るために、目標を立てるよう生徒に勧めます。

使徒 11：19 - 30

迫害にもかかわらず、主の業は前進し続ける

使徒 11：19 - 30 の要約として、迫害のため、何人かの弟子たちはその地域全体に散らされましたが、どこに行っても忠実にイエス・キリストの福音を宣べ伝えたことを説明します。

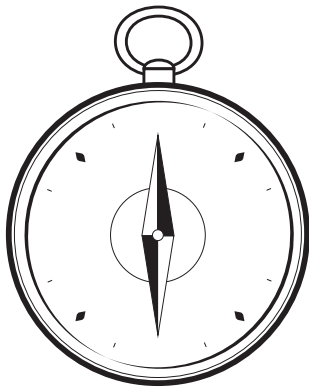
はじめに

ヘロデは使徒ヤコブを殺し、その後、ペテロを捕らえ、投獄しました。ペテロが処刑される日の前夜、ペテロが牢獄から逃げ

るのを天使が助けました。ヘロデは神の使いに打たれ、福音は広まり続けました。

教えるための提案

使徒 12 : 1 - 17



ヘロデ、ヤコブを殺し、ペテロを捕らえるが、ペテロは奇跡的に牢獄から逃れる

方位磁石を用意して見せるか、あるいはその絵を描きます。一人の生徒に、方位磁石がどのように働くのか、何のために使うのか説明してもらいます。

- 方位磁石が常に北を指していることから、方位磁石を使うことは、どのようにわたしたちが行くべき場所について正しい判断を下す助けとなるでしょうか。

方位磁石の近くのどこかに X を描きます（但し、方位磁石が示す北の近くにはしないください）。そして、その X が手に持った磁石を表していると想像するよう生徒に言います。

- この磁石は、方位磁石の針の動きにどのような影響を与えるでしょうか。（それは磁北と干渉するため、針は磁石の近くを指し示す。）
- この磁石はあなたが行くべき方向についての正しい選択をする能力に、どのように影響を与えるでしょうか。

生徒たちが、使徒 12 章を研究しながら、正しい判断を下すためのわたしたちの能力を妨げる可能性がある影響を見つけてもらいます。

使徒 12 章の背景を生徒たちが理解するのを助けるために、ステパノの殉教以来、エルサレムとその周辺のキリスト教徒は増加する迫害を経験していたことを説明します。

一人の生徒に、使徒 12 : 1 - 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、王ヘロデ・アグリッパ 1 世はどのようにこの迫害の一因となっていたかを見つけてもらいます。

- ヘロデが剣で切り殺したのは誰だったでしょうか。
- 3 節 3 節によれば、ヤコブの死を喜んだのは誰でしょうか。

3 節 3 節の「ユダヤ人たち」という語句は、イエス・キリスト教会の迫害を奨励しているエルサレムのユダヤ人の影響力のある指導者を指していることを説明します。ヘロデはこれらのユダヤ人の指導者たちを喜ばせようとした（*Bible Dictionary*, “Herod” の項参照）。ホワイトボードの X の近くに次の未完成の文章を書きます — 神よりも他の人々を喜ばせようとするなら、_____

- ヘロデは、ヤコブの殺害がユダヤ人の指導者たちを喜ばせたことを見た後で、何をしましたか。（ヘロデは公にペテロを処刑するつもりだった。）

ホワイトボードの方位磁石の絵を指して、次のように尋ねます。

- 神よりも他の人々を喜ばせるというヘロデの望みは、ヘロデの人生の方向にどのような影響を与えたでしょうか。
- ヘロデの例から学んだ事柄に基づいて、ホワイトボードに書いた文章を完成するとどのようになりますか。（生徒たちが答えたら、次の真理を示すように、ホワイトボードの文章を完成させます。神よりも他の人々を喜ばせようとするなら、わたしたちはさらに罪の中へ導かれる。）
- 神よりも他の人々を喜ばせようとするのが、いかに人を罪に導きかねないかを示す他の例にはどのようなものがあるでしょうか。

他の人々を喜ばせようとする望みによって、誰かを天の御父から遠ざけてしまうかもしれない事柄について深く考えるよう生徒に言います。

生徒には、使徒 12:5 - 17 の出来事を演じてもらうことを説明します。何人かの生徒に、ペテロ、二人の兵卒、天使、ロダ、マリヤの家にいる弟子を一人か二人、マルコの母親役を演じてもらいます。あなたか、もう一人別の生徒にナレーターをやってもらいます。

- ナレーターに、使徒 12:5 - 6 を声に出して読んでもらい、役を持っている生徒には自分の箇所が読まれたらそれを演技してもらいます。生徒がその内容を理解しやすくするために、それぞれの何節かのまとまりを読んで演技をした後に一旦休止し、それから関連する質問をします。

- このとき、教会員たちは何をしていたでしょうか。

ナレーターに、使徒 12:7 - 10 を声に出して読んでもらい、その間、割り当てられた生徒には読まれた箇所を演技してもらいます。

- ペテロはこの脱出時に、どのような拘束や障壁を乗り越えたでしょうか。

ナレーターに、使徒 12:11 - 15 を声に出して読んでもらい、その間、割り当てられた生徒には読まれた箇所を演技してもらいます。

- 何が起こったのかペテロが気づいたのはいつでしたか。

- ペテロがマリヤの家の門の戸をたたいたとき、どうなったでしょうか。

ナレーターに、使徒 12:16 - 17 を声に出して読んでもらい、割り当てられた生徒には読まれた箇所を演技してもらいます。これらの聖句を読み、演技が終わったら、生徒には席に戻ってもらいます。

- 17 節によれば、ペテロは獄からの脱出がどなたのおかげだと認めていたでしょうか。(17 節に出てくるヤコブとは、イエスの兄弟の一人であることを指摘します [マタイ 13:55 参照])

生徒たちに、使徒 12:5 をもう一度読んで、この節がどのようにペテロに起こったことと関係しているかを見つけてもらいます。

- 「熱心な祈が……ささげられた」という表現は (5 節 5 節)、教会員の祈りの誠実さと熱意について何を示唆していると思いますか。

- この話から、わたしたちの祈りが自分自身や他の人々に与える影響について、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒は次のような内容の原則を見つけるはずですが、心からの熱心な祈りは、わたしたちの生活や他の人々の生活に神の奇跡と祝福をもたらす。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

- 心から熱心に祈るとは、どういう意味でしょうか。

この原則は、わたしたちの祈りが誠実で熱心であれば、自動的に祈りがかなえられることを意味するものではないことを説明します。神の奇跡と祝福を授かる他の要因としては、神の御心や神の時とともに個人の選択の自由があります。

一人の生徒に、声に出して次の文章を読んでもらいます。心からの熱心な祈りが神の御心にどう影響するか耳を傾けるよう生徒に言います。

「祈りは御父の御心と子らの思いを互に通わせることである。祈りの目的は神の御心を変えることではなく、神がわたしたちに与えようと既に備えておられる祝福を、自分のため、また人々のために得ることである。しかし、それを得るには求めなければならない。祝福を受けるに当たっては、何がしかの働きや努力がわたしたちに求められる。祈りは任務の一つであって、至高の祝福を得るために定められた手段である。」(『聖句ガイド』「祈り」)

- この文章によれば、祈りの重要な目的とは何でしょうか。

- 祈りの目的は神の御心を変えることではないということを覚えておくことは、なぜ重要ですか。

クラスノートか聖典学習帳に、次の質問への答えを書いてもらいます。

- 祈りが、あなた自身やあなたが祈ってあげた人々の人生に、神の奇跡と祝福をもたらしたのはどのようなときでしたか。

十分な時間を与えた後、数人の生徒に書いたことを発表してもらうとよいでしょう。生徒が意見を述べた後、神が生徒たちや彼らが祈ってあげている人々に授けようと望んでおられる祝福と奇跡をもたらすために、さらに心から熱心な祈りをするができる方法についてよく考えるよう生徒に言います。

さまざまな教授法を用いる

効果的な教師の多くは、レッスン中や日ごとに、教え方を変えています。新しい方法や取り組みを試すことをいとわないでください。また、もし生徒が興味を失ったり、生徒の行っていることが望ましい結果につながっていない場合は、レッスン中に教授法を変更する準備をしておいてください。

使徒 12 : 18 - 25

ヘロデは神により打たれ、福音は広まり続ける

使徒 12 : 18 - 22 の要約として、次の日、ヘロデはペテロの脱出を知って、ペテロを逃がした責任があるとヘロデが感じた番兵たちを処刑したことを説明します。後に、ヘロデは人々に向けて演説し、人々は彼の演説を称賛しました。

一人の生徒に、使徒 12 : 23 - 24 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘロデに何が起こったかを見つけてもらいます。

- ヘロデに何が起こりましたか。それはなぜですか。
- 教会員は迫害に直面していたにもかかわらず、教会の伝道活動はどうなりましたか。

自分たちが学んだ真理を復習し、それらの真理を生活の中で応用する方法について深く考えるよう生徒に言って、レッスンを終えます。

注釈と背景情報

使徒 12 : 1 - 17 ペテロとヤコブ、神を最優先にする

使徒 12 章は、ペテロとヤコブが罰を受ける可能性があるにもかかわらず、自分たちの生活の中で神を最優先にしたことを示しています。神を愛し、生活の中で神を最優先にすることがそれほど大切なのはなぜでしょうか。七十人会長のリン・G・ロビンズ長老は、生活の中で自分たちが向いている方向の大切さを理解する助けとなった次の経験を説明しています。

「『どちらを向いていますか。』ボイド・K・パッカー会長の謎めいた質問に、わたしは驚いてしまいました。新たに召された七十人として初めての割り当てを受け、パッカー会長の訪問に同行したときのことで。質問の前後関係について何の説明もなく、どう答えてよいか分かりませんでした。パッカー会長はこう続けました。『七十人は、人を代表して預言者に語るのではなく、預言者を代表して人に語ります。どちらを向いているか決して忘れないように。』それは大きな教訓となりました。

神を喜ばせる前に、人を喜ばせようとするのは、一番大切な戒めと二番目に大切な戒めの順番を逆にするということです（マタイ 22 : 37 - 39 参照）。どちらを向くべきかを忘れるということです。しかし、誰もがこの過ちを犯します。人を恐れるからです。イザヤ書で、主は次のように警告しておられます。『人のそしりを恐れてはならない。』（イザヤ 51 : 7。2 ニーファイ 8 : 7 も参照）リーハイの夢では、大きく広々とした建物の中にいる人々からあざけりの指で指されることによって、この恐れが引き起こされます。その結果、大勢の人がどちらを向くべきかを忘れ、『恥じるかのように』命の木から離れて行きます（1 ニーファイ 8 : 25 - 28 参照）。」（『どちらを向いていますか』『リアホナ』2014 年 11 月号、9）

使徒 12 : 5 「熱心な祈が……ささげられた」

トーマス・S・モンソン大管長は、自分と教会の指導者のために祈る人々に対して次のように感謝の意を表明しました。

「どこを訪れてもわたしに示してくださる思いやりに感謝します。わたしのために祈ってくださることを感謝しています。

わたしはそれらの祈りを感じ、心から感謝しています。」（「再び集うとき」『リアホナ』2012 年 5 月号、5）

「わたしは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。皆さんが祈るときに、わたしと中央幹部たちのことを思い出していただけるよう願っています。わたしたちは皆さんと一つとなって、この驚くべき業を推し進めていきます。わたしたちは皆、この業に携わっており、全ての男女と子供がそれぞれに役割を担っています。それぞれの役割をよく果たせるように、神がわたしたちに強さと能力と決意を授けてくださいますように。」（「また逢う日まで」『リアホナ』2011 年 11 月号、109）

ハロルド・B・リー大管長は、並外れた祈りをささげることにに関して次の洞察を示しました。

「あなたは全霊を尽くして強く望まなければなりません。あなたは、持てる限りの全ての強さと、あなたが求めている全世界でこれは最も価値ある事柄だという強い願望を持っていないければなりません。」（*The Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編〔1996 年〕、125）

使徒 12 : 21 - 23 ヘロデ・アグリッパ一世の死

ヘロデ・アグリッパ一世は、バプテスマのヨハネを殺したヘロデ・アンティパスの甥であり、またヘロデ大王の孫でした。彼はユダヤ人の習慣を守るように注意したので、一般的にパリサイ人たちに人気でした。この理由、すなわちユダヤ人の間で人気だった理由は、おそらく、ヤコブの死を命じたことによるものです（使徒 12 : 1 - 2 参照）。アグリッパは紀元 44 年に 54 歳で死にました。ヤコブが殉教したのと同じ年です。ルカは、アグリッパの突然の死を、主の天使によって執行された神の報復であると受け止めました（*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き、2014 年]、302。 *Bible Dictionary*, “Herod” の項も参照）。

家庭学習レッスン

使徒 6 - 12 章 (単元 18)

家庭学習教師のための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が使徒 6 - 12 章 (単元 18) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (使徒 6 - 7 章)

生徒は、ふさわしい教会員は、他の人々の必要に応える助けをするために召されることを学びました。生徒はステパノの言葉と殉教を研究しながら、次の真理を見つけました。聖霊に逆らうことは、救い主と主の預言者を拒むことにつながる。天の御父、イエス・キリスト、聖霊は 3 人の別個の独立した御方である。苦難の中にあってもイエス・キリストへの信仰を持ち続けるなら、主はわたしたちとともにいてくださる。

第 2 日 (使徒 8 章)

使徒 8 章の研究で、生徒たちは次の教義と原則を学びました。聖霊の賜物は、承認された神権者による按手を通じてバプテスマ後に授けられる。神権は神の御心とふさわしさの標準に従って授けられる。神からの促しに従うとき、わたしたちは他の人々をイエス・キリストのもとへ導く助けをする機会を得る。

第 3 日 (使徒 9 章)

使徒 9 章で、生徒は、主はわたしたちをどのような者になれるかという観点で見られること、また、主はその業において主を助けるためのわたしたちの可能性を見られることを学びました。また、生徒は次の原則についても学びました。わたしたちが主の御心に従うなら、わたしたちは変わり、主がわたしたちの内にいておられる可能性を発揮することができる。他の人々に仕えることにより、人々を主に向かわせ、主を信じるよう助けることができる。

第 4 日 (使徒 10 - 12 章)

生徒は、異邦人に福音を宣べ伝えることに関するペテロの示現を研究し、教会を管理する人々は神によって導かれていることを知る時、わたしたちは確信を持って彼らを支持し、従うことができることを学びました。また、生徒は以下の真理についても学びました。神よりも他の人々を喜ばそうとするなら、わたしたちはさらに罪へと導かれる。誠実で熱心な祈りは、わたしたちの生活や他の人々の生活に神の奇跡と祝福をもたらす。

はじめに

神は福音が異邦人に宣べ伝えられるべきであると示現を通してペテロに明らかにされました。ペテロはコルネリオと彼の家族に福音を教え、その後、異邦人に福音が宣べ伝えられることに関するユダヤ人聖徒たちの間における論争を解決しました。

教えるための提案

使徒 10 章

神は、福音が異邦人に宣べ伝えられるべきであると示現の中でペテロに明らかにされる

生徒たちに、友人の一人が次の質問をすることを想像してもらいます。「1978 年にあなたの教会は、人種に関係なく全ての男性が神権を受けられるように、その見解を変更したと聞きました。あなたの教会が神によって導かれていて、神は不変であると信じているなら、どうしてそんなことが可能なのですか。」

生徒に、この友人にどのように答えるか、クラスノートまたは聖典学習帳に書いてもらいます。(注—生徒が、制限されていた神権に対する理由を推測するのではなく、教会の慣例を変更することに対する質問に答えるようにします。また、話し合いの間、理由が明らかにされていない神権の制限が実施されていた理由を推測しないでください [公式の宣言二参照]。)

生徒に、使徒 10 章を研究しながら、主がどのように御自身の教会を率い、導き、変更し、管理されるのかについての質問に答える助けとなる真理を見つけてもらいます。

新約聖書のこの時点までは、福音は、若干の例外はあるものの、救い主の指示により、ユダヤ人にだけ宣べ伝えられていました (マタイ 10 : 5 - 6 参照)。しかしながら、使徒 10 章では、教会が運営方法を大幅に変更したことがわかります。

生徒に、コルネリオという名前の異邦人についての研究から学んだことを要約してもらいます。(コルネリオはローマ軍の将校でした。彼と彼の家族は、神を信じ、神を恐れる人々でした。異邦人であるため、彼はまずユダヤ教に改宗しなければキリストの教会に加わることはできませんでした。)

使徒 10 : 3 - 8 の要約として、コルネリオの忠実さの結果として、天使が彼に現れて、ペテロを見つけるためにヨッパに人々を送り出すよう指示したことを説明します。コルネリオの僕たちがヨッパに向けて旅をしている頃、ペテロはシモンという名前の男性の家に滞在しているときに、意外な示現を見ました。

数人の生徒に、使徒 10 : 9 - 16 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが示現で見たことを見つけてもらいます。(変化をもたらすために、それぞれの生徒に絵を描くための紙を一枚与えてもよいでしょう。生徒に、使徒 10 : 9 - 16 を黙読し、これらの聖句で説明されているペテロの示現の絵を描いてもらいます。十分に時間を取った後、生徒が描いた絵を使って、ペテロの示現で何が起きたかクラスの仲間に説明してもらいます。どちらかの活動の後、次のように質問します。

- その示現の中で、ペテロは何を食べよう命じられたでしょうか。
- 14 節によれば、この命令に対するペテロの最初の反応はどうだったでしょうか。(モーセの律法によれば、ユダヤ人は汚れた、または清くないとされた動物を食べることを禁じられていました〔レビ 11 章参照。〕)
- 使徒 10 : 15 によると、主は、ペテロに食べるよう命じられた清くない動物について何と言われましたか。

使徒 10 : 17 - 28 節の要約として、ペテロは最初はその示現の意味を理解していなかったことを説明します。ペテロがそれについて深く考えているとき、コルネリオの僕たちが到着し、ペテロにコルネリオの示現について語りました。次の日、ペテロと他の弟子たちはコルネリオに会うため彼らに同行しました。ほとんどのユダヤ人は、異邦人と交流したり、異邦人を訪ねたりすることを違法だとみなしていたという事実にもかかわらず、ペテロはコルネリオの家に入りました。

一人の生徒に、使徒 10 : 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが異邦人と交流したり、異邦人を訪ねたりする理由を見つけるように言います。

- ペテロが異邦人と交流したり、異邦人を訪ねたりする理由は何でしたか。

使徒 10 : 29 - 33 の要約として、コルネリオはペテロに自分の示現について語ったことを説明します。コルネリオは家族や友人を集めていたので、ペテロは彼らにも教えることができました。

一人の生徒に、使徒 10 : 34 - 35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが学んだことを見つけてもらいます。

- あなたなら、ペテロが学んだことをどのように要約しますか。(神は国籍や社会的地位などの区別に基づいて人々を特別扱いされませんが、その行いによって全ての人を裁き、神に従う人々を祝福されることを説明する必要があるかもしれません。"Race and the Church: All Are Alike unto God" [mormonnewsroom.org/article/race-church] という記事も有用です。)

使徒 10 : 36 - 43 の要約として、ペテロはコルネリオとその家族にイエス・キリストと主の良い働き、十字架の刑、復活について教えたことを説明します。ペテロは、イエス・キリストを信じる者は、罪の赦しが受けられることを証しました。

一人の生徒に、使徒 10 : 44 - 48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロの教えがこれらの異邦人に与えた影響を見つけるように言います。45 節の「割礼を受けている信者」という表現は、ペテロとともにヨッパから来たユダヤ人の弟子たちを指していることを説明します。

- 44 - 46 節によると、ペテロの教えがコルネリオとその家族に与えた影響はどのようなものだったでしょうか。(45 節にある「聖霊の賜物」という表現は、これらの異邦人のうえに注がれた、聖霊の力を指していることを説明する必要があるかもしれません。これは、バプテスマの後の確認の儀式を通して授けられる聖霊の賜物とは異なるものです〔使徒 8 : 14 - 17 ; 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』97〕。)

- なぜその場にいたユダヤ人たちはこの出来事を見て驚いたのでしょうか。
- 使徒 10 章に記録されているペテロの経験を通して、主は異邦人についてペテロに何を明らかにされたでしょうか。

使徒 10 章から学んだ教義を生徒が認識するのを助けるため、生徒を 2 つか 3 つのグループに分けます。以下の配付資料のコピーを各グループに配るか、ホワイトボードにこれらの質問を書きます。生徒たちに、グループで協力し、質問に答えてもらいます。

使徒 10 章

- ペテロとコルネリオの話から、主は御自身の教会をどのように導いておられるかについてどんな真理を学べるでしょうか。(ペテロは教会の大管長であったことを思い出してください。)
- 主はペテロに一度にではなく、徐々に真理を明らかにされたという事実から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができるでしょうか。
- 神は過去に与えられた命令に対して何を行うことができようになるかについて、この話から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができるでしょうか。

時間を十分に取った後、何人かの生徒に、ホワイトボードに自分たちが見つけた真理を書いてもらいます。生徒が書いたものに、必ず以下の真理が反映されるようにします。

神は、預言者つまり先任使徒に啓示を与えることによって御自身の教会を導かれる。

主に従順であるにつれ、わたしたちは徐々に啓示と理解力を授かることができる。

神は、その知恵と神の子供たちの必要に応じて、過去に与えられた指示を変更したり、追加したりすることができる。

一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、見つけた 3 番目の真理がクリストファーン長老の言葉にどのように反映されているかを見つけてもらいます。

「この経験と、ペテロが受けた啓示により、主はそれまでの教会の慣例を変え、御自分の弟子たちに教義をさらに完全に示されました。こうして福音を宣べ伝える業が全人類に及ぶようになったのです。」(『キリストの教義』『リアホナ』2012 年 5 月号, 88)

生徒に、教会の慣例を変更することに関する友人の質問にどのように答えるかについて書いた事柄を見直す時間を与えます。使徒 10 章を研究する際に得たその他の洞察も書き留め、それらの洞察をクラスで分かち合うよう生徒を励まします。

神は教会の慣例を変更し、継続的な啓示を通してわたしたちの教義的理解に付け加えることがあります(信仰箇条 1 : 9 参照)。神の神聖な属性、特性、聖約、教義、計画は決して変わらないことを指摘する必要があるかもしれません。このことを知ることは、わたしたちが神を信じる信仰を持ち、神はその御心と神の子供たちの必要に応じて、御自身の教会を導いてくださるという確信を持つ助けとなります。

生徒たちに、学んだ真理についての証を述べてもらい、レッスンを終えます。

次の単元 (使徒 13 – 19 章)

使徒 13 – 19 章を研究するとき、以下の質問についてよく考え、答えを見つけるよう生徒に言います。パウロは魔術師エルマに何をしましたでしょうか。自分が神だと信じられているとしたら、あ

なたはどのような反応をしたいと思いますか。パウロとバルナバはなぜ神として歓迎されたのでしょうか。二人はどのように対応しましたか。割礼に関して教会員の間でどのような問題がありましたか。また、なぜその問題が使徒たちの前に持ち出される必要があったのでしょうか。彼らの決定はどのようなものだったのでしょうか。パウロはアテネを訪れたとき、未知の神についてアレオパゴスの評議所で教えを説きました。パウロは人々に何を教えたのでしょうか。

使徒 13 - 14 章

はじめに

(以前はサウロと呼ばれた)パウロは、バルナバを同僚として、彼の最初の伝道の旅に出発しました。彼らは迫害が続く中、福音を宣べ伝え、教会の支部を設立しました。ユダヤ人が

神の言葉を受け入れることを拒んだため、パウロとバルナバは異邦人に福音を宣べ伝えることに集中しました。

教えるための提案

使徒 13:1 - 13

パウロとバルナバ、伝道の旅を開始し、にせ預言者を叱責する

レッスンの前に、「抵抗を受けない」と書いた看板と、「絶えず抵抗を受ける」と書いた看板を用意します。それらを教室の壁に向かい合わせに掲示します。

二つの看板の間の空間は、福音に従って生活しようとするときに遭遇する抵抗の程度を表す尺度であると想像するよう生徒に言います。生徒たちに、二つの看板の間の空間のうち、モーセが経験した抵抗の程度を表すと思う場所に立ってもらいます。数人の生徒にその場所を選んだ理由を説明してもらいます。ジョセフ・スミス、続いてニーファイが経験した抵抗の程度を表す場所に生徒に立ってもらうことで、この課題を繰り返します。数人の生徒にそれぞれの場所を選んだ理由を説明してもらいます。生徒たちに自分の席に戻ってもらいます。

イエス・キリストの全ての弟子は、自分の人生の異なる時期に抵抗に遭遇することを認識します。自分たちが福音に従って生活しようとするときの抵抗の程度は、どの辺りになるかについて考えるよう生徒に言います。使徒 13 - 14 章を研究しながら、義にかなった生活をしようとするに当たり、抵抗に遭遇したときに助けとなる原則を見つけるよう生徒を励まします。

使徒 13:1 - 6 の要約として、特定の預言者や教師がシリアのアンテオケに集まったとき、彼らは(後にパウロとして知られる)サウロがとバルナバと一緒に福音を宣べ伝えるために召されるべきであるという聖霊からの導きを受けたことを説明します。任命後、サウロとバルナバはアンテオケからクプロの島に渡り、サラミスの会堂で教えを説きました。そこから二人は島の反対側にある町、パポスに向かいました。(生徒に、『聖書の地図』の地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でアンテオケとクプロを見つけてもらうとよいでしょう。)

一人の生徒に、使徒 13:6 - 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サウロとバルナバがパポスに到着したときに何が起こったかを見つけてもらいます。

- 7 節によると、サウロとバルナバから福音を聞こうとしたのは誰ですか。(セルギオ・パウロ。彼はローマの地方総督でした。)
- セルギオ・パウロに福音を教えるに当たり、この宣教師たちが直面した抵抗は何でしたか。

使徒 13:9 の初めで、サウロがパウロと呼ばれていることを説明します。一人の生徒に、使徒 13:9 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロは、魔術師と呼ばれた偽預言者エルマの抵抗にどのように対処したかを見つけてもらいます。

- パウロはエルマについて、10 節で何と言ったのでしょうか。(エルマは他の人が救いを受けるのをじゃましようとしていたので、パウロが厳しい言葉を用いたことを説明します。)
- 11 節によれば、パウロは神の力を使ってこのにせ預言者に何をしましたでしょうか。
- 12 節によれば、神の力を目撃したことはどのようにこの総督に影響を与えたのでしょうか。
- この話から、悪魔の力と比べた神の力について、わたしたちは何を学べるのでしょうか。(生徒は異なった言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。神の力は、悪魔の力よりもはるかに偉大である。生徒に、各自の聖典の使徒 13:9 - 12 の横にこの真理を書くように勧めてもよいでしょう。)

神の力が悪魔の力に比べはるかに勝っていると理解することは、生活の中で抵抗に直面するとき、どのようにわたしたちを助けることができるか深く考えるよう生徒に言います。何人かの生徒に感じたことを発表してもらいます。

使徒 13 : 14 - 43

パウロ、イスラエル人の歴史を物語り、イエス・キリストが神の約束の成就にいられたことを証する

過去に戻って消去したいと思うような、自分が犯した間違いについて生徒たちに考えてもらいます。時には、わたしたちが直面している抵抗は、自分自身の罪深い選択のために起きていることを説明します。生徒たちが使徒 13 : 14 - 43 を研究しながら、このような抵抗を克服する助けとなる原則を見つけてもらいます。

使徒 13 : 14 - 37 の要約として、パウロとバルナバはキプロスを去り、パンフリヤ（現在のトルコ内）に渡り、その後同僚の一人であるマルコと呼ばれたヨハネが一行を離れて帰ったことを説明します。パウロとバルナバは続けてピシディアのアンテオケに行きました（彼らが伝道を開始したシリアのアンテオケと混同しないこと）。そこでの安息日に、パウロは会堂で人々の前に立ち、イスラエル人の歴史上の出来事を詳しく述べました。それからパウロは、イエス・キリストが約束されたイスラエルの救い主であることを証しました。

生徒たちに、使徒 13 : 26 - 34 を黙読して、パウロがイエス・キリストについて教えたことを見つけてもらいます。

- パウロがイエス・キリストについて会堂の人々に理解してほしかったことは何でしょうか。
一人の生徒に、使徒 13 : 38 - 39 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがイエス・キリストの贖罪を通じてどのような祝福を受けられることができると教えたかを見つけてもらいます。
- わたしたちはイエス・キリストと主の贖罪によって、どのような祝福を受けられるのでしょうか。（生徒の言葉を使って、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちは、イエス・キリストの贖罪を通して、罪が赦され、義とされる。）
39 節で使われている「義とされる」という言葉は、「罪に対する罰を容赦され〔または赦され〕、罪がないと認められる」という意味であることを説明します（『聖句ガイド』『義認：義とされる』、scriptures.lds.org）。人がイエス・キリストの贖罪を通して義とされると、神とその人との関係は再び正常なものとなります。
- イエス・キリストの贖罪は、どのようにわたしたちの罪を赦し、義とすることができるのでしょうか。

生徒たちがこの教義を理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「イエスは苦しまれ、罪の贖いのために命をささげられました。主の贖罪の力は、わたしたちの内にある罪の影響力を消し去ってくれます。わたしたちが悔い改めるとき、主の贖いの恵みにより、わたしたちは罪のない者となり、清められるのです（3 ニーファイ 27 : 16 - 20 参照）。そして、罪に負け、誘惑に屈した事実がなかったかのようにしてくださるのです。」（『彼らをもわたしたちのうちにおらせるため』『リアホナ』2002年11月号、71 - 72）

- イエス・キリストの贖罪を通して罪が赦され、義とされるために、わたしたちは何をしなければならぬでしょうか。
- イエス・キリストの贖罪を通して罪が赦され義とされた聖典中の人物には誰がいますか。（例えば、パウロ、息子アルマ、エノスらがいます。）

生徒に、賛美歌「主イエスの愛に」（『賛美歌』109番）の1番と2番の歌詞を歌ってもらいます。この賛美歌の作者は、救い主の贖罪と赦しに対する感謝の意をどのように表現したかを考えながら歌うよう生徒に勧めます。

クラスノートか聖典学習帳、または紙に、次の質問への答えを書いてもらいます。

- 主の贖罪があなたの罪を赦すことを可能にする方法について考えるとき、イエス・キリストに対してどのような気持ちを持つでしょうか。

十分な時間を与えた後、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。イエス・キリストの贖罪を通して赦しと義認を受ける助けとなるよう、聖霊から受けたどんな促しにも従うように生徒を励まします。

使徒 13 : 40 - 43 の要約として、パウロの説教の後、多くの異邦人が次の安息日にも再び教えるようパウロに願ったことを説明します。

使徒 13:44 - 52

パウロとバルナバ、増大する迫害にもかかわらず大胆に教えを説く

次の安息日には、町のほとんどの人々が、パウロとバルナバが教える神の言葉を聞きに来たことを説明します（使徒 13:44 参照）。

生徒を二人一組に分け、使徒 13:44 - 52 を一緒に読んでもらいます。各組のうちの一人の生徒に、人々がパウロとバルナバの話の聞きに集まったときのユダヤ人の態度や行動を見つけ、もう一方の生徒には、異邦人の態度や行動を見つけるように指示します。生徒に、ジョセフ・スミス訳使徒 13:48（「異邦人たちはこれを聞いてよるこび、主の御言葉をほめたたえてやまなかった。そして、信じた者はみな、永遠の命にあずかるように定められた。」）〔ジョセフ・スミス訳使徒 13:48 から和訳〕をよく聞くように勧めます。読み終わったら、それぞれのペアの生徒に、ユダヤ人の態度や行動と異邦人の態度や行動を比較し、対比させるよう勧めます。

- パウロとその同僚の話に喜んで耳を傾けた人々にはどのような祝福がもたらされたでしょうか。

使徒 14 章

パウロとバルナバ、迫害が続く中で福音を宣べ伝えながら奇跡を行う

ホワイトボードに次の質問を書きます — なぜ主は、善良な人々が困難な試練を経験することを許されるのでしょうか。

使徒 14 章を研究しながら、生徒たちに、この質問に答えるための方法を理解するのに役立つ原則を見つけてもらいます。

使徒 14:1 - 21 は、パウロとバルナバが教え続けるなかで堪え忍んだ苦難について幾つか述べていることを説明します。何人かの生徒に、次の聖句を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、宣教師が直面した苦難を見つけるように言います。

1. 使徒 14:1 - 2（信じなかったユダヤ人たちはパウロとバルナバに反対するよう異邦人たちをそそのかした。）

2. 使徒 14:8 - 18（パウロが足の不自由な人を癒やした後、ルステラの人々はパウロとバルナバをギリシャの神々だと思い、犠牲をささげようとした。）

3. 使徒 14:19 - 20（パウロは石で打たれたが生き返る。）

- パウロとバルナバはどのような苦難を堪え忍んだでしょうか。
- このような試練の間、あなたがパウロとバルナバとともにいたとしたら、どんなことを考えたと思いますか。

一人の生徒に、使徒 14:22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが苦難について教えたことを見つけてもらいます。

- この聖句でパウロはどのような原則を教えているのでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次のような原則を見つけるはずでです。忠実に苦難を切り抜けたとき、わたしたちは日の栄えの王国に入るために備えられる。）

- 忠実に苦難を堪え忍ぶことは、どのような点で日の栄えの王国に入る備えになると思いますか。

忠実に苦難を切り抜けたとき、自分や自分が知人にもたらされた祝福について深く考えるよう生徒に言います。数人の生徒に、経験したことを発表してもらいます。あまりに神聖な、または個人的な経験を話すべきでないことを、生徒に思い出してもらいます。この原則をよく表すことができるあなた自身の個人的な経験を分かち合い、その真理について証を述べるのもよいでしょう。

生徒が教義と原則を見つけるのを助ける

聖文が書かれた目的の一つは福音の教義と原則を教えることです。聖文にある教義と原則を見つけることは、「福音を教え学ぶときの基本」の一つです。それらを見つける方法を学ぶには、思慮深く努力し、実践する必要があります。教義と原則を見つけたら、確実に生徒の心にこれらの真理をはっきりと刻みつけるよう、それを必ず明瞭かつ簡潔に述べるようにしてください。

使徒 13 章と 14 章から見つけた真理について深く考え、試練の中にあって最も自分を助けてくれるものを選ぶよう生徒に勧めます。一人一人の生徒に小さなカードや紙を配り、選んだ原則をカードに記してもらいます。試練に直面したときに強さと励ましをもたらすよう、よく見える所（鏡、学校のロッカーなど）にそのカードを貼っておくよう生徒に勧めます。

使徒 15 章

はじめに

ユダヤからの一部の教会員は、アンテオケの異邦人の改宗者たちに、救われるためには割礼を受ける必要があると語りました。パウロとバルナバはこの問題をエルサレムの使徒たちのもとへ伝えに行きました。エルサレムの会議と呼ばれる出来事の間（およそ紀元 49 - 50 年）、ペテロは、割礼されたかどうか

に関係なく、神は忠実なユダヤ人と異邦人を救われることを証しました。使徒たちは、割礼は救いには必要ではないことを説明する手紙を教会員に送りました。パウロは宣教師の同僚としてシラスを選び、彼の二回目の伝道を開始しました。

教えるための提案

使徒 15 : 1 - 29

靈感された評議を通し、ペテロと他の使徒たちは割礼がもはや主によって求められていないと決定する

生徒に、現在および将来、決定を下す必要のある重要な事項のリストをホワイトボードに書いてもらいます。

- 重要な決定を下す必要がある場合には、誰に話しますか。なぜその人に話すのですか。
- 決定を下す前に神の助けを求めるのが賢明なのはなぜでしょうか。

使徒 15 章を研究しながら、自分に対する神の御心を知ろうとするときに導きとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

パウロとバルナバがアンテオケにいる聖徒らを訪れている間、キリスト教に改宗したユダヤ出身の一部のユダヤ人たちは、異邦人の改宗者たちが救われるために行う必要がある事柄について主張したことを説明します。

一人の生徒に、使徒 15 : 1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤから来たこれらの人たちは、異邦人の改宗者たちが救われるためには何をする必要があると主張したのかを見つけてもらいます。

- これらの人たちは、異邦人の改宗者たちが救われるためには何をする必要があると主張したのでしょうか。

アブラハムと交わされた聖約の一部として、神は聖約に入った全ての男性が割礼をすることを命じられたことを説明します。「割礼では男の幼児また成人の『前の皮』を切る。」（『聖句ガイド』「割礼」, scriptures.lds.org）割礼は人々が神と交わした聖約のしるし、またはそれを思い出させるものとして制定されました。

一人の生徒に、使徒 15 : 2 - 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、これらの人たちが異邦人の改宗者たちは割礼をする必要があると主張するのをパウロとバルナバが聞いた後に、何が起きたかを見つけてもらいます。

- 2 節によると、これらの人たちが教会の改宗者たちは割礼をする必要があると言ったとき、何が起きたのでしょうか。
- アンテオケの教会員は何をすべきだと決定しましたか。

一人の生徒に、使徒 15 : 4 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロと他の人々がエルサレムに到着したとき何が起こったかを見つけてもらいます。

- パウロとバルナバが異邦人に福音を分かち合ったという経験について述べた後、改宗したパリサイ人うちの一部分の人々は、異邦人の改宗者たちが救われるためには何を行う必要があると信じていたのでしょうか。
- 6 節によると、使徒たちと長老たちは集まって何をしましたか。

次の質問をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒に渡します。

使徒 15:7-11

1. 誰が立って話しましたか。
2. 神は「われわれ〔改宗したユダヤ人〕と彼ら〔改宗した異邦人〕との間に、なんの分けへだてもなさらなかった」と言ったとき、ペテロはどのような意味で言ったのだと思いますか。
3. 8, 9, 11 節のどの表現が、異邦人の改宗者たちが救われるためには割礼を受ける必要がないということを示しているでしょうか。

クラスの生徒に、二人一組になってもらいます。生徒たちに、パートナーと使徒 15:7-11 を読み、挙げられた質問の答えを見つけてもらいます。生徒が読む前に、7 節の「激しい争論があった後」という語句は、使徒たちが割礼の問題を激しく議論していたことを意味していると説明します。

時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。生徒が最初の質問に答えたら、ペテロは地上における先任使徒であったこと、また、そのため、主に代わって話す権限を与えられていたことを生徒に思い出してもらいます。

- わたしたちが主の御心を知ることができる一つの方法は何でしょうか。(生徒たちは、次のような真理を見つけるはずですが、わたしたちは、主の生ける預言者と使徒たちを通して主の御心を知ることができます。ホワイトボードにこの真理を書きます。)
- 生ける使徒たちが受けた啓示をわたしたちが知るにはどのような方法があるでしょうか。

一人の生徒に、使徒 15:12-15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、割礼は救いのためには必要ではないというペテロの宣言に群衆はどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- ペテロの宣言に群衆はどのような反応をしたでしょうか。
- 異邦人は割礼を受ける必要がないというペテロの宣言を確認するために、パウロとバルナバは何をしましたか。
- 15 節によると、誰の言葉がペテロの(シメオンの)宣言と一致しているとヤコブは言ったのですか。

ペテロがその会議で議長を務め、ヤコブもそこで重要な役割を持っていたと思われることを説明するとよいでしょう。ヤコブはイエス・キリストの異母兄弟であり、エルサレムの教会の最初のビショップでした。使徒 15:16-18 の要約として、ヤコブはアモス 9:11-12 を引用し、聖文に記録されているとおり、ペテロの宣言が預言者たちの言葉と一致していることを示したことを説明します。

- ヤコブの教えたことに基づくと、わたしたちが主の御心を知ることができる別の方法は何でしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の真理を見つけるでしょう。わたしたちは聖文研究を通して主の御心を知ることができる。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、使徒 15:19-20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが教会指導者たちに行うよう勧めたことを見つけてもらいます。19 節の「意見」という言葉は、提案や推奨を意味することを説明します(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻〔1965-1973 年〕, 第 2 巻, 143 参照)。

- ヤコブが、異邦人のために教会指導者たちにするよう勧めたことは何でしょうか。(ヤコブは教会指導者に「〔異邦人に〕わずらいをかけてはいけない」〔19 節〕,あるいは改宗した異邦人にとって福音に従って生活するのを難しくしてはいけない,そして、彼らが教会に加わる前にモーセの律法の儀式を行う必要はないと忠告した。こう言うことで、ヤコブはペテロが以前に下した決定を支持した。)
- 20 節によると、異邦人の改宗者たちがモーセの律法をまだ守る必要があると、ヤコブが思ったのはどの部分でしょうか。(偶像に供えて汚れた物と、不品行と、絞め殺したものと、血とを避けるという部分。)

数人の生徒に、使徒 15:22-27 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、評議会の決定を見つけてもらいます。

- 使徒たちは何をすることを決定したでしょうか。(割礼は救いには必要ではないことを宣言する書簡を教会員に送る。)

生徒が教義と原則の意味を理解するのを助ける

ひとたび生徒が聖典にある原則と教義を見つけたら、生徒がそれらをよりよく理解するのを助ける方法で、これらの真理について話し合う時間を取ります。これらの話し合いの中で、見つけた真理と他の福音の原則との関係を検討するよう生徒に勧めます。生徒たちは、これらの真理を自分の生活に当てはめる方法も見つけるべきです。

- 使徒たちはなぜ手紙を届けるためにパウロとシラスのような教会の指導者を派遣することを決定したと思いますか。（生徒はさまざまな反応をするかもしれませんが、一つの理由は、その宣言が使徒たちの合意によってもたらされたことを立証するためです。大管長会と十二使徒定員会は、教会員に靈感された導きを提供するために、今日でもこれらと同じ慣例に従っていることを指摘します。）
- この話から、教会指導者が困難な問題に関して靈感を受ける方法について、わたしたちはどのような真理を学べるでしょうか。（生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。ともに評議し、神から啓示を求めることによって、教会指導者たちは難しい問題についての靈感を受ける。）

この真理が現代の教会にどのように関係しているかを生徒が理解するのを助けるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「これと同じ規範が、今日、回復されたイエス・キリストの教会でも守られています。大管長は自分に与えられる啓示を基に、教義を宣言あるいは解釈します（例として、教義と聖約 138 章参照）。また、教義の説明は、大管長会と十二使徒定員会が合同で評議して行う場合もあります（例として、公式の宣言二参照）。評議の場では、標準聖典や教会指導者の教え、過去の慣例がしばしば検討されます。しかし最終的な目的は、新約聖書の時代の教会と同様、単に評議会の会員の意見が一致することではなく、神から啓示を受けることです。評議は、主の思いと望みを知るために理性と信仰の両方を働かせて行う過程なのです。」（「キリストの教義」『リアホナ』2012年5月号, 88）

- 神から啓示を求めるとき、しばしばともに評議することが教会指導者にとって重要なのは、なぜだと思いますか。

一人の生徒に、使徒 15:28 - 29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、使徒たちと長老たちが教会員に対する書簡に何と書いたかを見つけるように言います。

- 使徒たちと長老たちは教会員に対する書簡に何と書いたでしょうか。
- 28 節にある、「次の必要事項のほかは、どんな負担をも、あなたがたに負わせないことに決めた」という表現はどのような意味でしょうか。（人々は、神からではなく人からもたらされた必要以上の要件には、いかなるものにも従う必要はない。）
- 28 節によると、使徒たちは、改宗した異邦人のための要件に関する神の御心をどのように知ったのでしょうか。

使徒たちがともに評議したとき、聖霊が使徒たちに靈感を与えられたことを指摘します。聖霊はまた、使徒たちの決定が正しいことの確認の証を与えられます。

- 28 節に記録されているように、教会指導者が主の御心を知った方法に基づく、わたしたちはどのようにして主の御心を知ることができるでしょうか。（生徒たちはさまざまな言葉を使うかもしれませんが、必ず次のことを理解するようにします。わたしたちは、聖霊からの靈感を通して主の御心を知ることができる。ホワイトボードにこの真理を書きます。）

生徒にホワイトボードに書かれている真理を見てもらいます。

- 重要な決定をする必要があるとき、これらの真理はどのようにわたしたちを助けることができるでしょうか。
- これらの真理によれば、わたしたちが主の御心を知るにはどのようなことをする必要がありますか。
- これらの真理に従った際に、主の御心を知るようになったと感じたのはどのようなときでしたか。

現代の預言者の言葉や聖文を研究するよう生徒を励まします。生徒がそれを行うとき、重要な決定を行う際に聖霊を通して主の御心を知ることができることを説明します。

使徒 15 : 30 – 41*パウロと他の者たち, アンテオケの会員に使徒たちの書簡を届ける*

使徒 15 : 30 – 41 の要約として、何人かの教会の指導者がアンテオケの教会の会員に使徒たちの書簡を届けたことを説明します。アンテオケで教えを説いた後、パウロはバルナバに、二人が福音を宣べ伝えた全ての場所を訪問するために自分と一緒に行くよう頼みました。バルナバはマルコと一緒に連れて行くことを望みましたが、パウロは拒否しました。教会指導者であるこの二人は少々論争をした後、バルナバがマルコを連れて行くことにしたので、パウロは伝道の同僚としてシラスを選び、彼の二回目の伝道に出発しました。他の人々と意見が合わないことは罪とはみなされないことを説明します。しかしながら、論争になる代わりに、わたしたちは一緒に意見の相違の解決策を見いだすようにすべきです。(2 テモテ 4 : 11 で、パウロとマルコの間の問題は後に解決したことが分かります。)

生徒が使徒 15 章で見つけた真理について、あなたが証を述べてレッスンを終えます。

使徒 16 章

はじめに

聖霊はマケドニヤ（ギリシャ北部）で福音を宣べ伝えるためにパウロと彼の同僚たちを導かれました。ルデヤという名前の女性がパウロらのメッセージを受け入れ、バプテスマを受けました。パウロが女奴隷から悪霊を追い出した後、パウロとシラ

スはむち打たれて投獄されました。その夜、二人は奇跡的に牢獄から解放されました。その後、二人は獄吏と彼の家族にバプテスマを施しました。

教えるための提案

使徒 16 : 1 – 15

パウロと同僚たち、マケドニヤで福音を宣べ伝える

トーマス・S・モンソン大管長による次の言葉をホワイトボードに書きます。（この言葉は「霊は人を生かす」『聖徒の道』1997年6月号、5にあります。）

「決して、御霊のささやきに従うのを引き延ばしてはな〔りません〕。」（トーマス・S・モンソン大管長）

- 「ささやき」とは、何かを言ったり、行ったりするように促す、聖霊から受ける感情や印象を指しています。誰かがささやきによる促しに従うのを後回しにしたらどうなるでしょうか。

使徒 16 章を研究しながら、生徒たちに、聖霊の促しに従うことの重要性をさらに理解するのを助ける原則を見つけてもらいます。

使徒 16 : 1 – 5 の要約として、パウロ、シラス、テモテという名前の異邦人改宗者が、教会全体に影響を与え、教会員の信仰を強めることになるエルサレムの教会指導者の下した決定を発表するために、教会の幾つかの支部へ旅したことを説明します。

一人の生徒に、使徒 16 : 6 – 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロと彼の同僚たち（おそらくルカを含む）は、旅の最中、どのようにして行くべき場所を知ったのかを見つけてもらいます。

- パウロと彼の同僚たちは、どのようにして行ってはならない場所を知ったのでしょうか。彼らはどのようにして行くべき場所を知ったのでしょうか。
- パウロは示現で何を見たのでしょうか。
- パウロと彼の同僚たちは、パウロの示現にどのように対応したのでしょうか。

使徒 16 : 11 – 13 の要約として、パウロとシラスはマケドニヤの町であるピリピに来るまで、何日も旅をしたことを説明します。（生徒に、『聖書の地図』地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でピリピを見つけてもらうとよいでしょう。）安息日に、彼らは町を出て川のほとりの祈り場に行き、そこに集まってきた婦人たちに話をしました。

一人の生徒に、使徒 1 : 14 – 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ルデヤという名前の婦人がどのようにパウロの教えに反応したかを見つけてもらいます。（「紫布の商人」〔14 節〕という語句は、ルデヤが非常に高価だった紫色の染料を販売していたという事実を指しており、そしてそれはおそらく、ルデヤが裕福で影響力のある女性だったことを示していることを説明するとよいでしょう。）

- ルデヤはどのようにパウロの教えに反応したのでしょうか。
- 使徒 16 : 14 で、ルデヤに福音を受け入れる準備が出来ていたことを示す表現はどれですか。
- わたしたちが啓示に従うときに何が起こるかについて、パウロの経験から、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちはさまざまな言葉を使うでしょうが、次のことを理解していることを確認します。神からの啓示に従うとき、わたしたちは福音を受け入れる準備ができて人々のもとへ導かれる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）

啓示に従うことによって、わたしたちはまた、他の人々が福音を受け入れる準備に至る過程を始めたり、それを続けたりするのを助けることができることを指摘します。

生徒がこの原則をさらに理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福音を受け入れる準備ができていない人々のもとへ導かれるためにわたしたちが行わなければならない事柄に耳を傾けてもらいます。



「今準備のできている人、主が今日わたしたちを通して助けの手を差し伸べようとしておられる人に対して、わたしたちが神の御手に使われる者となるには、主の助けと指示を祈り求めなければなりません。それから、どのような方法で進めたらよいか告げる神の御霊の促しによく注意して耳を傾け、従わなければなりません。

これらの導きは必ず与えられます。数え切れないほどの多くの人々の証から、わたしたちは主が御自身の方法と時に従って、福音を受け入れる人々を備えておられることを知っています。これらの人々は福音を探し求めています。そしてわたしたちが彼らを見いだそうと努力するときに、主はわたしたちの祈りに答えをお与えになり、それによって彼らの祈りに答えられるのです。望みを持ち続けている人々、どのような方法で、いつ、どこで、誰に福音を分かち合ったらよいかについて心から導きを求めている人々に、主は促しと導きをお与えになります。」(「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号, 8)

- オックス長老によれば、福音を受け入れる準備ができていない人々のもとへ導かれるためにわたしたちが行わなければならない事柄は何でしょうか。

御霊の促しに従うことで、あなたがどのように福音を受け入れる準備ができていない人のもとへ導かれたか、また他の人が御霊の促しに従うことで、どのように福音を受け入れる準備ができていたあなたのもとへ導かれたかについて、あなた自身の経験を分かち合うとよいでしょう。何人かの生徒に、彼らや彼らの知人が福音を受け入れる準備ができていない人のもとへ導かれた経験を分かち合うように言います。

生徒たちに、どのように、どこで、いつ、誰と福音を分かち合うことができるかについて深く考えてもらいます。受けた促しを記録して、導きを祈り続けるよう生徒を励まします。

使徒 16 : 16 – 40

パウロとシラス、投獄され、後に解放される

数人の生徒に、使徒 16 : 16 – 19 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが悪霊に取りつかれた「女奴隷」(16 節)、あるいは使用人の女に出会ったときに行ったこと見つけてもらいます。「占い」とは、迷信的手段を用いて将来を予告すること、あるいは予告しようとするのでありと説明するとよいでしょう。

- パウロは最終的にこの女性に取りついていた悪霊に何をしましたでしょうか。
- パウロがその女性から悪霊を追い出した後、その町の、女性の主人たちはどのような問題を抱えたでしょうか。

使徒 16 : 20 – 24 の要約として、その女性から利益を得られなくなった人たちがパウロとシラスを「長官たち」(20 節)、すなわち地元の権力者の前に連れて行き、パウロとシラスはローマの律法に従うべきではないと人々に教えたことと主張したことを説明します。長官たちの命令により、パウロとシラスは、その後、むち打たれ、投獄され、そして足かせをかけられたので、歩くこともできませんでした。

生徒が使徒 16 : 25 – 36 の内容を理解するのを助けるため、生徒を二人一組に分け、それぞれのペアに紙を一枚配ります。次の表をホワイトボードに書き写し、それぞれのペアにその表を紙に書き写してもらいます。

小グループでの 割り当て

クラスを小グループに分けることで、より多くの生徒が参加できるようになります。生徒が活動で何を行うべきかについて、明確な指示を与えます。時間制限を設けることも、グループで活動を続けるのに役立ちます。グループ活動の時間が長いと、しばしば、終わる時間がまちまちとなり、秩序が失われる可能性があります。各グループを回りながら学習活動を見ることによって、生徒がその活動を続けて、その割り当てから最良のものを得るよう助けられます。

使徒 16 : 25	使徒 16 : 26	使徒 16 : 27 – 28
使徒 16 : 29 – 30	使徒 16 : 31 – 32	使徒 16 : 33 – 34

それぞれのペアに表の聖句を声に出して読んでもらってから、その 6 つの聖句それぞれを表す簡単な絵を順番に描いてもらいます（ペアの一方の生徒に 3 つの聖句を表す絵を描いてもらい、もう一方の生徒に他の 3 つの聖句を表す絵を描いてもらいます）。時間を十分に取ってから、生徒に、自分の描いた絵をペアのもう一方の生徒に、あるいはクラス全体に見せ、簡単に説明してもらいます。

生徒たちが、使徒 16 : 25 – 36 をより深く理解できるように、次の質問をします。

- 自分が救われる方法についての獄吏の質問に、パウロとシラスはどのように答えたでしょうか。
- その獄吏はイエス・キリストに対する信仰を示すために何をしましたでしょうか。
- わたしたちが救いを得るために行わなければならないことについて、使徒 16 : 31 – 33 からどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。救いにはイエス・キリストを信じる必要があります、わたしたちはバプテスマを受けることにより、主に対する信仰を表す。）

「救い」とは、「肉体の死と霊の死から救われること」という意味であることを説明します（『聖句ガイド』「救い」, scriptures.lds.org）。

- バプテスマを受けることは、イエス・キリストを信じる信仰をどのように示すでしょうか。
- バプテスマを受けることに加え、イエス・キリストへの信仰を示すことができる方法には他に何かありますか。

使徒 16 : 35 – 40 の要約として、長官たちは獄吏にパウロとシラスを釈放するよう伝言を送ったことを説明します。パウロはローマ市民としての権利を知っており、自分の扱いが不当であることも知っていたので、釈放されることを拒否しました。裁判も行わずに、ローマ市民をむち打ちにすることは違法でした。長官たちはパウロとシラスがローマ人だったことを知り、恐れしました。なぜなら、もし自分たちが行ったようにローマの市民を扱ったことが彼らの上官に発覚すると罰せられ、処刑にさえなるかもしれないことを彼らは知っていたからです。長官たちは牢獄にやって来て、パウロとシラスを釈放し、町から立ち去るよう彼らに頼みました。

最後に、使徒 16 章で教えられた真理について証を述べます。

マスター聖句の復習

添付の表を使い、今年度、これまでに生徒が研究したマスター聖句を復習します。表の左側の列にある質問や懸念を声に出して読み、答えとなるマスター聖句を見つけるよう生徒に言います（答えは表の右側の列に設けられています）。質問や懸念を順不同で読んでもよいでしょう。生徒が聖句を見つけたら、そのマスター聖句がその懸念を持つ人をどのように助けることができるか尋ねます。

わたしは自分が信じていることに従って生活することを恐れています。わたしは他の人々が自分のことをどう思うのか心配です。	マタイ 5 : 14 – 16
わたしは自分の試練と難題に圧倒されています。	マタイ 11 : 28 – 30
預言者が教会全体のための啓示を受けることができるのはなぜですか。	マタイ 16 : 15 – 19

わたしは天の御父を愛していますが、現在、ある友人を愛するのに苦勞しています。神はわたしがその人を愛することを本当に期待していらっしゃるでしょうか。	マタイ 22 : 36 – 39
神権者として、わたしは主が召されるならどこの伝道部でも奉仕する義務があることを知っていますが、知り合いから遠く離れて孤独になることを心配しています。	マタイ 28 : 19 – 20
わたしたちはどのようにしてイエス・キリストが本当に復活され、骨肉の体をお持ちであることが分かるでしょうか。	ルカ 24 : 36 – 39
バプテスマは神とともに暮らすために本当に必要でしょうか。	ヨハネ 3 : 5
一部の人は、わたしがイエス・キリストに従おうと、他の誰かに従おうと問題ではないと言います。わたしは善い人であるかぎり、天国に行きます。	ヨハネ 14 : 6
わたしが主を愛していることを主に示すための最善の方法は何でしょうか。	ヨハネ 14 : 15
天の御父とイエス・キリストを知ることはなぜ重要なのでしょうか。	ヨハネ 17 : 3
聖霊の賜物を受けるためにわたしたちは何をしなければならぬでしょうか。	使徒 2 : 36 – 38
聖書の時代に住んでいた誰もが、末日に福音の回復があることを知り、預言したのでしょうか。	使徒 3 : 19 – 21

使徒 17 章

はじめに

ピリピを離れた後、パウロとシラスはテサロニケとベレヤで福音を教えました。これらの町における不信者からの迫害により、パウロはアテネに逃げることを余儀なくされました。アテ

ネのアレオパゴスの評議所でパウロは神の本質について人々に教えました。

教えるための提案

使徒 17：1－15

テサロニケの一部のユダヤ人、パウロが福音を宣べ伝えることを阻止しようとする

以下の状況にある人々に、どのような助言を与えるかを生徒に説明してもらいます。

1. 教会の会員である若い男性は、十二使徒定員会の会員が天の御父の計画における結婚と家族の重要性について話すのを聞きました。この若い男性の友人の中には、この使徒の教えに同意しないと言っている人もいます。この若い男性は使徒の教えが真実であるかどうか、自分自身で知りたいと思っています。
2. ある若い女性は、安息日を聖く保つことの大切さについて疑問を持っています。彼女の友人のほとんどは日曜日を買い物と睡眠で過ごし、教会に行こうともしません。彼女の母親は日曜日に主を敬うことからもたらされる祝福について説明しましたが、この若い女性はまだ安息日を聖く保つことが大切であると信じることに苦心しています。

使徒 17 章を研究しながら、主の僕たちから受けるメッセージの真実性を自分自身で知る助けとなる原則を見つけるよう生徒に言います。

パウロとシラスはテサロニケに向かい、ユダヤ人の会堂で教えたことを説明します。（生徒に、『聖書の地図』地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でテサロニケを見つけてもらうとよいでしょう。）一人の生徒に、使徒 17：1－3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロがユダヤ人たちを教えるために使ったものを見つけてもらいます。

- ペテロがユダヤ人たちを教えるために使ったものは何だったでしょうか。

「論証」（3 節 3 節）とは、立証するまたは断言するという意味だと説明します。パウロは聖文を用いてイエスがキリストであることを断言したり、立証したりしました。

一人の生徒に、使徒 17：4－5 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、テサロニケの人々がパウロの教えにどのような反応をしたかを見つけてもらいます。「ならず者」とは邪悪な者という意味であることを説明するとよいでしょう。

- パウロの教えに対する人々の反応はどのように違っていたでしょうか。

使徒 17：6－9 の要約として、不信者の暴徒がパウロとシラスを見つけようとしたことを説明します。二人を見つけることができなかった暴徒は、テサロニケの支配者の所に行き、パウロの教えがカイザルの権威を脅かしていると主張しました。

一人の生徒に、使徒 17：10－12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロとシラスがどこに逃れたかを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 12 節によると、ベレヤのユダヤ人たちはパウロの教えにどのような反応をしたでしょうか。ホワイトボードに以下の未完成の方程式を書き写します。

_____ + _____ = 信仰

- 11 節によると、パウロの教えを信じるようになるために、この人々はまず何を行ったでしょうか。（生徒が答えた後に、次の言葉をホワイトボードの方程式の最初の部分に書きます — 彼らは心からパウロの教えを受け入れた。）

生徒が「心から教えを受け入れ」ることの意味をさらに理解するのを助けるため、ボールをクラスに持参し、二人の生徒に教室の前に出て来てもらいます。一人の生徒にはボールを受け取る準備をするように言い、もう一人の生徒には、ボールを最初の生徒に投げるように言います。その後、どうして最初の生徒がボールを受け取る準備ができていたことが分かったか、生徒全員に尋ねます。

次に、最初の生徒にボールを受け取る準備をしないでもらい、もう一人の生徒が再びボールを投げる間、そのままでもらいます。もう一人の生徒にボールを投げるように言います（けがをしないように注意してもらいます）。どうして最初の生徒がボールを受け取る準備ができていなかったことが分かったか、生徒全員に尋ねます。その二人の生徒には自分の席に戻ってもらいます。

生徒たちに、神の僕の教えを受け入れる準備ができているように見えるようにしてもらいます。その後、生徒たちに、神の僕の教えを受け入れる準備ができていないように見えるようにしてもらいます。（例えば、聖典を閉じる、隣の人とおしゃべりする、電子機器に気を取られるなど。）

- 外観は別として、福音のメッセージを受け入れる準備ができている人の心や思いの中では何が起きているでしょうか。

ホワイトボードの方程式の二つ目の空欄に生徒たちの注意を向けます。

- 11 節によると、パウロの教えを信じるようになるために、この人々は他に何を行ったでしょうか。（生徒が答えた後に、次の言葉をホワイトボードの方程式の二つ目の部分に書きます。「彼らはパウロの教えを理解するために、日々聖書を調べていた。」）
- 使徒 17:10 - 12 から、神の僕の教えに対する信仰を強めるどのような原則を学べるでしょうか。（生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるにします。神の僕の言葉を心から受け入れて、日々聖文を探求すると、神の僕の言葉に対する信仰が強められる。）

レッスンの初めに説明した 2 つの状況を復習します。

- この原則は、どのようにこれらの状況にある人々の助けになりますか。
- どのような点で、日々の聖文研究は、真理を信じる能力に影響を与えるでしょうか。

生徒に、この原則の真実性を目にしたときのことについて考えてもらいます。数人の生徒に、経験を分かちあってもらってもよいでしょう。

「心から」預言者、指導者、教師、両親の教えを受け入れ、日々聖文を読むよう生徒に勧めます。

使徒 17:13 - 15 の要約として、テサロニケのユダヤ人たちはパウロがベレヤで福音を宣べ伝えていることを聞き、ベレヤの人々を扇動するようになったことを説明します。パウロは再び恐れざるを得なくなり、アテネに向かいました。

使徒 17:16 - 34

パウロ、アレオパゴスの評議所で福音を宣べ伝える

生徒に、『聖句ガイド』にある聖典中の場所の『写真』の写真 29、「アテネ」を開いてもらいます。この写真は、偽りの神々を礼拝するために使用されたアテネの幾つかの神殿の一つを示していることを指摘します。これらの神殿の内部には、人間が作り出したこれらの神々の彫像がありました。外部には、これらの偽りの神々に犠牲をささげた祭壇がありました。

使徒 17:16 - 21 の要約として、パウロはアテネの偶像礼拝について深く心配し、その会堂や市場で教えたことを説明します。哲学者たちは、その後、アレオパゴスの評議所で司法評議会に対し「新しい教[え]」（19 節）を説明するようパウロを招きました。

一人の生徒に、使徒 17:22 - 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロはアテネの祭壇の一つで何に気づいたかを見つけてもらいます。

- パウロはアテネの祭壇の一つで何を見たでしょうか。

22 節には、パウロがアテネの人々のことを「すこぶる宗教心に富んで [いる]』と言って褒めたことが記録されています。すなわち、彼らは「最も信心深い」または「神事に注意を払っている」という意味です。「知られない神に」（23 節）という祭壇は、不可知の神または名前でも知られていない神をなだめるためのアテネの人々の試みでした。見たところ、彼らはいかなる神でも怒らせたり無視したりしたくないようでした。

使徒 17:23 の最後の文章を指摘し、次の質問をします。

- なぜパウロはこの「知られない神に」という祭壇を引き合いに出したのでしょうか。(パウロは真の神、天の御父、彼らの知らない神についての概念を紹介するためにそれをを用いました。)

生徒を二人一組か小人数のグループに分けます。それぞれのグループに、使徒 17:24-31 を調べ、アテネの人々に知られていなかった神についての真理をできるだけ多く見つけてもらいます。生徒が研究している間に、それぞれの節の数字(24-31)をホワイトボードに書き出します。時間を十分に取った後、何人かの生徒に、自分たちが見つけた真理を、ホワイトボードのその真理を見つけた節の数字の隣に書いてもらいます。(生徒が使徒 17:27 から真理を見つかる助けとなるよう、この節のジョセフ・スミス訳では「そして、熱心に心から主を見いだそうとするなら、人々は捜し求めるべきである。神はわれわれ一人びとりから遠く離れておいでになるのではないからである。」と記されていると説明します。

また、これらの聖文にあるそれぞれの真理に生徒が印をつけることを提案するとよいでしょう。生徒がホワイトボード上に書き出す真理は、次のようなものを含むことでしょう。

24 節: 神は世界を創造された。

25 節: 神は全てのものに命を与えられた。

26 節: 神は全ての命を治めておられる。

27 節: もし神を熱心に求めるなら、神は遠く離れておいでになるのではないことが分かる。

28 節: わたしたちは神の子孫である。

29 節: わたしたちは神の形に創造された。

30 節: 神は全ての人に悔い改めるよう命じておられる。

31 節: 神はわたしたちを裁かれる。神は全ての人々を死人の中からよみがえらされる。

生徒に、ホワイトボードの真理から自分にとって意味のあるものを一つ選んでもらいます。数人の生徒に、選んだ真理と、それが自分にとって意味のある理由を発表してもらいます。

「わたしたちは神の子孫である」という教義を指摘します。

- 神の「子孫」とはどのような意味でしょうか。(わたしたちは天の御父の霊の子供である。)
- この教義を理解することはなぜそれほど大切なのでしょうか。(天の御父にとってのわたしたちの無限の価値と、神のようになるというわたしたちの可能性を認識する助けとなる。)
- この教義を理解しないことで、どのような問題または混乱が生じるのでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが何よりもまず自分自身を神の子供として見ることを覚えておく必要がある理由に耳を傾けてもらいます。



「自分自身をどのように特徴づけているかに注意してください。この世的な性質によって自分自身を特徴づけたり、定義したりしないでください。わたしたちを特徴づけるただ一つの性質は、わたしたちは神の息子や娘であることです。その事実は、人種、職業、肉体的な特徴、名誉、あるいは宗教を含む、他の全ての性質を超越しています。」(“How to Define Yourself,” *New Era*, 2013 年 6 月号, 48)

- 何よりもまずわたしたちが何よりもまず神の子供であるということを覚えておくことは、なぜ重要ですか。

次の原則を参照します。「もし神を熱心に求めるなら、神が遠く離れておいでになるのではないことが分かる。」

- どのような方法で、わたしたちは神を知ろうと求め、神に近づくことができるのでしょうか。
- わたしたちと神との関係を理解することは、神を求めるわたしたちの願いにどのような影響を与えるのでしょうか。
- 天の御父が自分の近くにいらっしゃると感じたのはどのようなときでしたか。

教える事柄を決める

レッスンでどの教義と原則を強調するか決めるときは、聖霊からの導きを求め、霊感された著者の意図を見いだすよう努め、どの真理が基本的な教義であり改宗を促す原則であるのか深く考え、生徒の必要を考慮します。

教義と原則が 真実であり重要であると 感じられるように 生徒を助ける

生徒が聖文の中に福音の教義と原則を見つけ、理解すると、御霊を通してそれらが真実であり重要であると感じることができません。生徒がこれを行うのを助ける一つの方法は、その教義や原則に関する個人の経験についてよく考え、分かち合うよう生徒を励ますことです。

使徒 17:32 - 34 の要約として、アテネの人々はパウロが「死人のよみがえり」(32 節) について述べたことにさまざまな反応を示したことを説明します。彼らのうちの何人かはパウロをあざ笑い、他の人々はまた聞こうと言い、何人かの人々は信じました。

神が多くの人々には知られていなくても、生徒たちは神について知り、理解するようになることをあなたが証するとよいでしょう。生徒に、紙やカードに「人知で知り得る神へ」と書き込み、神とのつながりを求め、それを育む方法を書き出すように言います。自分の目標を思い出せるよう、目につく場所にこの紙を貼るよう生徒に勧めます。

使徒 18 - 19 章

はじめに

パウロはコリントのユダヤ人の多くに拒否されましたが、異邦人の中で成功を収めました。義になかった夫婦、アクラとプリスキラは、アポロが神の道を理解するのを助けました。パウ

ロは聖霊について教えを説き、奇跡を行い、エペソの劇場で手に負えない群衆を避けました。

教えるための提案

使徒 18 : 1 - 17

パウロ、コリントで教えを説く

次の質問を声に出して読み、生徒に自分の答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

- どのような形で主の業に携わったことがありますか。
- 主の業に携わろうとしたときに、どのような困難を経験したことがあるでしょうか。

数人の生徒に答えを発表するように言います。使徒 18 章を研究しながら、生徒たちに、主の業を行おうとするときに助けとなる原則を見つけてもらいます。

使徒 18 : 1 - 4 の要約として、パウロはアテネを離れコリントに向かい、そこでイエス・キリストについて会堂で教えたことを説明します。(生徒に、『聖書の地図』地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でアテネとコリントを見つけてもらうとよいでしょう。)

一人の生徒に、使徒 18 : 5 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがイエス・キリストについてコリントのユダヤ人たちを教えたときに経験した困難を見つけてもらいます。

- パウロはどのような困難を経験したでしょうか。
- 会堂でユダヤ人たちはパウロのメッセージを拒んだため、パウロは何をすることにしましたか。

一人の生徒に、使徒 18 : 7 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロに励ましを与えるようなどんなことが起きたかを見つけてもらいます。

- パウロに励ましを与えるようなどんなことが起きたでしょうか。
- 10 節によれば、パウロが福音を宣べ伝える場合に、主はどのようなことを約束なさったでしょうか。
- これらの聖句から、ふさわしい状態で主の業を行う人々のために主がしてくださることに、どのような原則が学べるでしょうか。(生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。わたしたちがふさわしく生活すれば、主の業を行うときに主がともにいてくださる。)
- 主の業を行うときに主がともにいてくださると知ることは、なぜ大切なのでしょうか。

一人の生徒に、トーマス・S・モンソン大管長の次の言葉を読んでもらいます。

「さて皆さんの中には、生まれつき内気だとか、自分には召しを積極的に果たすだけの力がないと考えている人もいるでしょう。忘れないでください。この業は……主の業なのです。わたしたちは主の用向きを受けて働くときには、主の助けを頂く特権があります。忘れないでください。主は重荷に耐えられるようにわたしたちの肩を強くしてくださいませ。」(「学び、行い、人格を築く」『リアホナ』2008年11月号、62参照)

- 主の業を行う際に主がともにいてくださったのはどのようなときでしたか。主がともにいてくださることをどのようにして知りましたか。

使徒 18 : 11 - 17 の要約として、パウロは 1 年半の間、コリントで福音を宣べ伝え続けたこと（そしておそらくこの期間にテサロニケに書簡を書きました）を説明します。パウロがコリントにいた間、特定のユダヤ人たちは、パウロが教えていたことのために彼を裁判にかけようとしたのですが、総督は審議を拒否しました。

使徒 18 : 18 - 28

アクラとプリスキラ、アポロが神の道を理解するのを助ける

使徒 18 : 18 - 23 の要約として、アクラとプリスキラの夫婦がエベソまでパウロに同行したことを説明します。エベソにその夫婦を残し、パウロはエルサレムの地方へ向かい、その後、アンテオケに向けて北上しました。アンテオケで、パウロは二回目の伝道の旅を終えました。この伝道は 3 年間続き、約 3,000 マイル（約 4,828 キロメートル）にわたりました。しばらくしてから、パウロはアンテオケを出発して 3 回目の伝道の旅を始め、以前に設立した支部を歴訪し、会員たちを力づけました。

一人の生徒に、使徒 18 : 24 - 25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがエベソを離れてから何が起こったかを見つけてもらいます。

- パウロがエベソを離れてから何が起こったのでしょうか。
- アポロは「イエスのこと」について既に何を知っていたのでしょうか（25 節）。
- アポロはどのような知識に欠けていたのでしょうか。（「ただヨハネのバプテスマしか知っていなかった」〔25 節〕ため、アポロは救い主の完全な福音の理解に欠けていた。）

一人の生徒に、使徒 18 : 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アクラとプリスキラがアポロの教えを聞いたときに何をしたかを見つけてもらいます。

- アクラとプリスキラはアポロの教えを聞いたときに何をしましたでしょうか。
- 彼らが「さらに詳しく神の道を解き明かした」とはどのような意味でしょうか（26 節）。（アクラとプリスキラはアポロにイエス・キリストとその福音をさらに教え、それによってアポロの知識と理解が増した。）

一人の生徒に、使徒 18 : 27 - 28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アポロが神の道をさらに完全に理解できるようアクラとプリスキラが助けた証拠を見つけてもらいます。

- これらの聖句のどの表現が、アポロが神の道をさらに完全に理解できるようアクラとプリスキラが助けたことを示しているのでしょうか。

使徒 19 : 1 - 20

パウロ、聖霊の賜物を授け、奇跡を行う

パウロはさまざまな場所を旅した後、エベソに戻ったことを説明します。一人の生徒に、使徒 19 : 2 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エベソの人々が神の道をさらに完全に理解するようにパウロが助けた方法を見つけてもらいます。

- パウロはエベソの弟子たちがどの教義を完全に理解するよう助けたのでしょうか。

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの指示の下に発行された次の言葉を声に出して読んでもらいます。残りの生徒には、これらの人々が再びバプテスマを受ける必要があった理由に耳を傾けるように言います。

「ユダヤ人のある宗派では〔バプテスマの〕ヨハネのようにバプテスマを授けていましたが、火と聖霊によるバプテスマを授けるためにイエス・キリストの名によって行うことを知らせていなかったようです—最初に受けたバプテスマが律法にのっとっていなかったことが、これらの改宗者たちに示されました。そして、彼らがこれを聞いたとき、彼らは喜んでバプテスマを受け、彼らの上に手が置かれた後、彼らは約束に従って、賜物を授かったのです。」〔「バプテスマ」*Times and Seasons*, 1842 年 9 月 1 日付, 904 の社説に掲載。ジョセフ・スミスは定期刊行物の編集者であった。）

- エベソの一部の人々が再びバプテスマを受ける必要があったのはなぜでしょうか。
- 使徒 19 : 2 - 6 から、バプテスマについてどのような真理を学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なる言葉を使うでしょうが、次の真理を見つけるよう助けます。バプテスマは権能を受けた神の僕によって施されなければならない。バプテスマを完全なものとするためには、それに伴って聖霊を受けなければならない。）

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「もし罪の赦しと聖霊を受けることを考慮せずにバプテスマを施すのであれば、人に施すのも砂の袋に施すのも同じです。水によるバプテスマはバプテスマの半分にすぎず、残りの半分、すなわち、聖霊のバプテスマがなければ、何の役にも立たないのです。」(『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』 95)

使徒 19:7-10 の要約として、パウロはエペソで 2 年以上にわたり福音を宣べ伝え続けたことを説明します。

一人の生徒に、使徒 19:11-12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがエペソに滞在中、そこでどのような奇跡が起きたかを見つけてもらいます。

- 神はパウロを通してどのような奇跡を起こされたのでしょうか。
- この話から、神がその権能を受けた僕を通して行われることについて、わたしたちはどのような真理を学べるのでしょうか。(自分自身の言葉を使って、生徒は次のような内容の真理を見つけるはずで、神が御自分の力を現される一つの方法は、神の権能を受けた僕を通して行われることである。)

一人の生徒に、使徒 19:13-16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが行っているように、一部のユダヤ人たちが悪霊を追い出そうとしたとき何が起こったかを見つけてもらいます。

- 祭司長の 7 人の息子たちが悪霊を追い出そうとしたとき何が起こったのでしょうか。
- 悪霊は誰を認識していたのでしょうか。悪霊は誰を認識していなかったのでしょうか。
- 悪霊がスケワの息子たちを認めなかったのはなぜでしょうか。(彼らはイエス・キリストの名により働く権能を受けていなかったから。)

一人の生徒に、使徒 19:17-20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、多くの人たちがこの出来事を知ってから何をしたかを見つけてもらいます。「魔術」(19 節)とは魔法やその他の邪悪な行いを指すことを説明します。

- 多くの人々は、自分たちがイエス・キリストを信じる信仰を持ったことを示すために、この出来事の後何をしましたか。(彼らは自分たちの邪悪な行いを告白し、それらの行いに関連した本を燃やすことによって、邪悪な行いを捨てた。)
- イエス・キリストを信じる信仰を表す方法について、これらの聖句からどのような原則を学べますか。(生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。邪悪な行いを告白し、それを捨てることによって、わたしたちはイエス・キリストを信じる信仰を表す。)
- 告白した罪を捨てるためには、どのような犠牲を払う必要がありますか。

自分の罪を告白するだけでなく、それらの罪に戻るようにする可能性がある事柄を全て捨てることによって、イエス・キリストを信じる信仰を表すことの重要性を証します。

主がわたしたちに捨ててほしいと思っておられる事柄が生活の中にあるかどうか、深く考えるよう生徒に勧めます。このレッスン中に受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

生徒が教義と原則を 応用できるように 助ける

生徒が自分自身の状況について深く考え、その原則や教義を応用できる具体的な方法を考える機会を生徒に与えます。生徒が原則を自分に当てはめる方法を思い巡らし、考える時間を持つとき、御霊は彼らに導きを与えます。

使徒 19:21 - 41

偽りの女神アルテミスの礼拝者、パウロに反論し、町で騒ぎを起こす

使徒 19:21 - 41 の要約として、エペソにおける経済の一部が偽りのローマの女神であるアルテミスの崇拝により動かされていたことを説明します。偽りの神々への礼拝に反するパウロの教えは、アルテミスの宮や偶像を作っていた職人たちが、人々をパウロに敵対させる原因となりました。人々は混乱と騒動の中、2万4,000人まで収容できる町の劇場に集まりました。パウロは群衆と話すことを望みましたが、劇場には入らないよう、何人かの弟子たちや政府の指導者たちによって説得されました。市の書記役は、最終的に群衆を静め、解散させました。パウロが保護されたことは、邪悪な抗議にさらされてさえ、神の業が止まることはないかを示す事例であることを指摘します。（この出来事は、パウロがエペソで第1コリントを書いた、およそ紀元57年に起こりました。）

このレッスンで教えられた真理について証を述べ、レッスンを終わります。

家庭学習レッスン

使徒 13 - 19 章 (単元 19)

家庭学習教師のための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が使徒 13 - 19 章 (単元 19) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (使徒 13 - 14 章)

生徒がパウロとバルナバの魔術師とのやり取りについて研究するとき、彼らは、神の力は悪魔の力よりもはるかに偉大であるということを知りました。パウロが救い主と苦難について教えたとき、生徒は以下の原則を見つけました。イエス・キリストの贖罪を通して、罪が赦され、義とされる。忠実に苦難を切り抜けるとき、わたしたちは日の米えの王国に入るために備えられる。

第 2 日 (使徒 15 章)

教会指導者たちがともに決定を下した方法を研究したとき、生徒は、主の生ける預言者と使徒たちを通して、聖文研究を通して、さらには聖霊からの靈感を通して、主の御心を知ることができることを学びました。また、ともに評議し、神から啓示を求めることにより、教会の指導者は困難な問題について靈感を受けることも学びました。

第 3 日 (使徒 16 - 17 章)

パウロとシラスの伝道についての話から、生徒たちは次の真理を学びました。神から与えられた啓示に従うとき、わたしたちは福音を受け入れる準備ができていない人々のもとへ導かれる可能性がある。救いにはイエス・キリストを信じる必要があり、わたしたちはバプテスマを受けることにより、主に対する信仰を表す。心から神の僕の教えを受け入れ、日々聖文を調べるなら、その教えに対する信仰が強められる。

第 4 日 (使徒 18 - 19 章)

パウロがコリントの人々に不満を感じたときの主の約束を通して、生徒たちは、わたしたちがふさわしく生活すれば、主の業を行うときに主がともにいてくださることを学びました。エペソでのパウロの教えと癒やしについて研究したとき、生徒は次のことを学びました。バプテスマは権能を受けた神の僕によって施されなければ有効ではない。バプテスマを完全なものとするためには、それに伴って聖霊を受けなければならない。神がその力を現される一つの方法は、神の権能を受けた僕を通してである。邪悪な行いを告白し、それを捨てることによって、わたしたちはイエス・キリストを信じる自分の信仰を表す。

はじめに

アテネのアレオパゴスの評議所で、パウロは神の本質について人々に教えました。このレッスンは、天の御父の特質と、生徒と神との関係について生徒たちが理解する助けとなります。

教えるための提案

使徒 17 : 16 - 34

パウロ、アレオパゴスの評議所で福音を宣べ伝える

生徒に、『聖句ガイド』にある聖典中の場所の『写真』の写真 29、「アテネ」を開いてもらいます。この写真は、偽りの神々を礼拝するために使用されたアテネの幾つかの神殿の一つを示していることを指摘します。神殿の内部には、人間が作り出したこれらの神々の彫像がありました。外部には、これらの偽りの神々に犠牲をささげた祭壇がありました。

テサロニケのユダヤ人の敵対グループからパウロを保護するため、教会員がパウロをアテネに送ったことを説明します (使徒 17 : 13 - 15 参照)。使徒 17 : 16 - 21 には、パウロがアテネの偶像礼拝について深く心配し、アテネの会堂や市場で教えたことが記されています。哲学者たちは、その後、アレオパゴスの評議所で司法評議会に対し「新しい教」(使徒 17 : 19) を説明するようパウロを招きました。

一人の生徒に、使徒 17 : 22 - 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがアテネの祭壇の一つで何に気づいたかを見つけてもらいます。

- パウロがアテネの祭壇の一つで何を見たでしょうか。

使徒 17 : 22 には、パウロがアテネの人々のことを、彼らが最も心深いまたは神事に注意を払っているという意味で「すこぶる宗教心に富んで [いる]」と言って褒めたことが記録されていることを説明します。「知られない神に」(使徒 17 : 23) という祭壇は、人知では知り得ない神または名前でも知られていない神をなだめるためのアテネの人々の試みでした。見たところ、彼らはいかなる神でも怒らせたり無視したりしたくないようでした。

使徒 17 : 23 の最後の文章を指摘し、次の質問をします。

- なぜパウロはこの「知られない神に」という祭壇を引き合いに出したのでしょうか。(パウロは真の神、天の御父、彼らの知らない神についての概念を紹介するためにそれを引用しました。)

生徒を二人一組か、小人数のグループに分けます。それぞれのグループに、使徒 17 : 24 - 31 を調べ、アテネの人々に知られていなかった神についての真理をできるだけ多く見つけてもらいます。生徒が研究している間に、それぞれの節の数字 (24 - 31) をホワイトボードに書き出します。

時間を十分に取った後、何人かの生徒に、自分たちが見つけた真理を、ホワイトボードのその真理を見つけた節の数字の隣に書いてもらいます。(生徒が使徒 17 : 27 から真理を見つける助けとなるよう、この節のジョセフ・スミス訳では「そして、熱心に心から主を見いだそうとするなら、人々は捜し求めるべきである。神はわれわれ一人ひとりから遠く離れておいでになるのではない

からである。」と記されていると説明します。〔ジョセフ・スミス 訳使徒 17：27 から和訳〕

また、これらの聖文にあるそれぞれの真理に生徒が印をつけることを提案するとよいでしょう。生徒がホワイトボード上に書き出す真理は、次のようなものを含むことでしょう。

24 節：神は世界を創造された。

25 節：神は全てのものに命を与えられた。

26 節：神は全ての命を治めておられる。

27 節：もし神を熱心に求めるなら、神は遠く離れておいでになるのではないことが分かる。

28 節：わたしたちは神の子孫である。

29 節：わたしたちは神の形に創造された。

30 節：神は全ての人に悔い改めるよう命じておられる。

31 節：神はわたしたちを裁かれる。神は全ての人々を死人の中からよみがえらされる。

生徒に、ホワイトボードの真理から自分にとって意味のあるものを一つ選んでもらいます。数人の生徒に、選んだ真理と、それが自分にとって意味のある理由を発表してもらいます。

「わたしたちは神の子孫である」という使徒 17：28 にある真理を指摘します。

- 神の「子孫」とはどのような意味でしょうか。（わたしたちは天の御父の霊の子供である。）
- この教義を理解することはなぜそれほど大切なのでしょうか。（天の御父にとってのわたしたちの無限の価値と、神のようになるというわたしたちの可能性を認識する助けとなる。）
- この教義を理解しないことで、どのような問題または混乱が生じるでしょうか。



可能な場合、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉をコピーして生徒たちに渡します。一人の生徒に、声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが何よりもまず自分自身を神の子供として見ることを覚えておく必要がある理由を見つけてもらいます。

「自分自身をどのように特徴づけているかに注意してください。この世的な性質によって自分自身を特徴づけたり、定義したりしないでください。わたしたちを特徴づけるただ一つの性質は、わ

たしたちは神の息子や娘であることです。その事実、人種、職業、肉体的な特徴、名誉、あるいは宗教を含む、他の全ての性質を超越しています。」（*How to Define Yourself*, New Era, 2013 年 6 月号, 48）

- 何よりもまずわたしたちが何よりもまず神の子供であるということ覚えておくことは、なぜ重要ですか。

使徒 17：27 にある次の真理を参照します。「もし神を熱心に求めるなら、神が遠く離れておいでになるのではないことが分かる。」

- どのような方法で、わたしたちは神を知ろうと求め、神に近づくことができるでしょうか。
- わたしたちと神との関係を理解することは、神を求めるわたしたちの願いにどのような影響を与えるでしょうか。
- 天の御父が自分の近くにいらっしゃると感じたのはどのようなときでしたか。

使徒 17：32 – 34 の要約として、アテネの人々はパウロが「死人のよみがえり」（使徒 17：32）について述べたことにさまざまな反応を示したことを説明します。彼らのうちの何人かはパウロをあざ笑い、他の人々はまた聞こうと言い、何人かの人々は信じました。

神が多くの人々には知られていなくても、生徒たちは神について知り、理解できるようになれることをあなたが証するとよいでしょう。生徒に、紙やカードに「人知で知り得る神へ」と書き込み、神とのつながりを求め、それを育む方法を書き出すように言います。自分の目標を思い出せるよう、目につく場所にこの紙を貼るよう生徒に勧めます。

次の単元（使徒 20 章－ローマ 7 章）

次の単元では、以下の質問に対する答えを見つけることになることと生徒に説明します。「パウロが死からよみがえらせたのは誰でしたか。」「この人の死を取り巻く状況はどのようなものでしたか。」生徒に、無実の罪で捕らわれ、島に漂着し、その後、毒蛇にかまれたところを想像してもらいます。このような試練からどのようなことが学べると思うか、生徒に尋ねます。生徒に、裁判中、パウロに次のように言った王に注目するように言います。「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている。」（使徒 26：28）生徒が使徒行伝の残りの部分を研究するとき、困難がどのようにわたしたちが救い主のもとに近づく助けとなるのかに注目するよう勧めます。生徒はまた、使徒パウロがローマの教会員に宛てて書いた手紙の一部も読むことを伝えます。

使徒 20 – 22 章

はじめに

パウロは、小アジア（現在のトルコ）で福音を宣べ伝え、エペソに近い町であったミレトにいる間、将来の背教について警告し、教会員を教化するよう神権指導者に勧めました。パウロはその後エルサレムに向かい、そこで迫害され、捕らわれました。

パウロは、アントニヤの塔（ローマ軍が滞在する駐屯地）の階段に立ち、自分の改宗談を述べました。

教えるための提案

使徒 20：1 – 21：40

パウロ、小アジアで教え、エルサレムに向かい、そこで打たれ捕らえられる

生徒たちに、数日、数週、数か月間、自分が気にかけている家族、友人、その他の人々と離れなければならなかったときのことを考えてもらいます。

- あなたやあなたがともにいた人々は、あなたが去る前、どのような気持ちを感じたでしょうか。
- 別れる前に、互いにどのようなことを言いましたか。

3 回目の伝道の旅の間、パウロはマケドニア、ギリシャ、小アジアで時間を過ごしたことを説明します。この旅の間、パウロはエルサレムに戻るべきだという印象を受けました。旅をしながら、パウロは途中足を止めては教会員たちに教えを説き、別れを告げました。トロアスを出発する前の夜、新しい安息日（日曜日）に、パウロと弟子たちは聖餐を取るために集まりました（使徒 20：7 参照）。パウロはその後、聖徒と夜中まで語り合いました。

一人の生徒に、使徒 20：9 – 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの説教の最中に寝入ってしまったユテコという名前の若者に何が起きたのか見つけてもらいます。

- ユテコに何が起こりましたか。
- パウロはこの若者に対する愛と関心を示すために何をしましたでしょうか。
- パウロの行動はどのように救い主の教え導く業と重なるのでしょうか。

3 回目の伝道の旅の一環として、パウロはエペソの人々の間で約 3 年間過ごし、働いたことを説明します。使徒 20：13 – 17 の要約として、エルサレムへ向かう途中で、パウロはエペソのすぐ近くのミレトに立ち寄り、自分に会いに来ようエペソの教会指導者に伝言を送ったことを説明します。

一人の生徒に、使徒 20：18 – 23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自分の伝道活動について説明したことを見つけてもらいます。

- パウロは自分の伝道活動についてどのように説明したでしょうか。
- 「すべてあますところなく」（20 節）教えたというパウロの言葉はどのような意味でしょうか。
- 23 節によると、主の僕として、パウロはどのようなことに直面する心の準備ができていたのでしょうか。

パウロは、イエス・キリストの福音を宣べ伝えることに尽力しているために、彼を裏切り者と見なしているユダヤ人の指導者たちがいるエルサレムでは特に身の危険が迫っていたことを説明します。

- 22 節によると、パウロはなぜエルサレムに行く心の準備ができていたのでしょうか。

数人の生徒に、使徒 20：24 – 27 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロは主の僕として何を行う備えができていたか見つけてもらいます。

- 24 節によると、パウロは主の僕として何を行う備えができていたのでしょうか。

**生徒が聖文の内容を
理解するのに
役立つ質問をする**

生徒が聖句を分析するのに役立つ質問をすることは、聖文に対する生徒の理解を深めます。このような質問は、言葉や表現の意味を明確にするのに役立ち、生徒が話の流れの詳細について、より深い意味を知る助けとなります。そうすることで生徒は教義と原則を見つけるように備えられます。

- パウロは、主が命じられたことを行うことに、どのような気持ちを感じたと言ったでしょうか。
- パウロの奉仕の模範からどんなことが学べるでしょうか。（生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。主の真の僕は忠実に義務を果たし、そうすることに喜びを感じる。）
- 忠実に義務を果たすとは、あなたにとってどのような意味ですか。
- この真理をどのようにわたしたち自身の生活に当てはめることができるでしょうか。

生徒や知人が全ての気力と体力を尽くして主に仕えることを選び、大きな喜びを感じたときのことを、分かち合ってもらいます。

パウロはエルサレムに出発する前に最後の機会としてエベソの教会指導者を訪れたことを生徒に思い出してもらいます。

- もし自分がパウロの立場で、再びエベソの教会指導者に会うことはないと思っていた場合、あなたなら出発前にどのような勧告を彼らに与えるでしょうか。

生徒たちに、使徒 20：28 - 31 を黙読して、これらの教会指導者に対するパウロの警告を見つけてもらいます。

- パウロはこれらの教会指導者に対してどのようなことについて警告したでしょうか。

パウロは忠実な教会員を欺くことになる不誠実な人々に対する比喩として狼を用いていることを説明します。

- 真理に背を向け、他の人々を真理から遠ざけようとする人々の状態を指すのにわたしたちはどのような言葉を使うでしょうか。（背教。パウロは教会指導者に対し、教会内での将来の背教について警告していたことを説明します。）

一人の生徒に、使徒 20：36 - 38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが出発する際、教会指導者たちがどのような反応をしたかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

使徒 21：1 - 10 の要約として、パウロはエルサレムに向かって旅を続け、道中、異なる地域に立ち寄って教会員との時間を過ごしたことを説明します。パウロがツロと呼ばれる町に立ち寄ったとき、一部の弟子たちは、明らかにパウロの身の安全を考えて、エルサレムには行かないようパウロに勧告しました（使徒 21：4 参照）。

カイザリヤのアガボという名前の預言者が、エルサレムでパウロの身に何が起こるか預言しました。一人の生徒に、使徒 21：11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アガボが預言したことを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、使徒 21：12 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロとその同僚たちがその預言にどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- パウロの同僚たちはその預言にどのような反応をしたでしょうか。
- パウロはその預言にどのような反応をしたでしょうか。パウロの答えの中で一番心に残ったのはどの部分ですか。
- 主の真の弟子となることについて、パウロの模範からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。主の真の僕は、自分にとって犠牲になることでも、神の御心を喜んで行う。）

生徒に、イエス・キリストの僕としてどのような犠牲を払うことが求められるかもしれないかを深く考えてもらいます。

- 自分にとって犠牲になることであっても、神の御心を喜んで行ったのはどのような時でしたか。なぜそれを喜んで行いましたか。

一人の生徒に、使徒 21：17 - 40 についての次の要約を声に出して読んでもらいます。

パウロはエルサレムに到着し、地元の教会指導者に自分の伝道活動の報告をしました。パウロは神殿に行きました。そこで、パウロの伝道の旅のときからパウロを知っていたユダヤ人たちの一団が彼を見て、パウロはモーセの律法に背くことを教えたにせ教師であり、不法にも異邦人を神殿に連れ込んだと宣言しました。この告発のため、暴徒が神殿からパウロを引きずり出し、彼を打ちたたき始めました。ローマの兵卒が介入し、パウロを裁くために連れて行きました。アントニヤの塔（『聖書の地図』地図 12「イエスの時代のエルサレム」参照）の階段で、パウロは、民衆に話をさせてくれるよう兵卒に頼みました。

使徒 22 : 1 - 30

パウロ、自分の改宗談を語り、イエス・キリストについて証する

「改宗」という言葉をホワイトボードに書き、「改宗する」とは変化するという意味であることを説明します。別の目的で使用できるよう、水をどのように変換または変化させることができるか生徒に尋ねます。(例えば、水は氷に変化させることができる。)福音への改宗はどのような変化をもたらすかを深く考えるよう生徒に言います。

一人の生徒に、使徒 22 : 1 - 5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エルサレムのアントニヤの塔の階段からユダヤ人に話をしたとき、パウロは自分自身をどのように説明したかを見つけてもらいます。

- 改宗してイエス・キリストの弟子になる前、パウロはどのような人物だったでしょうか。

ホワイトボードに次の質問と参照聖句を書き写すか、配付資料として印刷したものを生徒に配ります。生徒を5つのグループに分け、その質問を一つずつ割り当てます。生徒に、割り当てられた質問に対応する聖句を黙読し、その質問に対する答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

1. パウロは自分の初めの示現についてどのように説明したでしょうか。(使徒 22 : 6 - 9)
2. パウロは何をするように指示されたでしょうか。(使徒 22 : 10 - 11)
3. パウロはダマスコで誰に会い、何を取り戻したのでしょうか。(使徒 22 : 12 - 13)
4. アナニヤがパウロについて預言したことは何でしたか。(使徒 22 : 14 - 15)
5. パウロは、イエス・キリストを信じる信仰をどのように示しましたか。(使徒 9 : 18 : 22 : 16)

十分な時間を取った後、生徒に答えを発表してもらいます。何人かの生徒に、パウロの改宗のプロセスについて学んだことを要約してもらいます。(パウロの初めの示現の時から宣教師として奉仕し始めた時まで、パウロは3年間をアラビヤで過ごしました。それはおそらく霊的な準備と成長の時期であったことを説明するとよいでしょう〔ガラテヤ 1 : 11 - 18 参照〕。)その後、次の質問をします。

- 改宗の結果として、パウロはどのような点で変わったと思いますか。
- どんなことが起きて、このような変化を生じさせたのでしょうか。
- わたしたちが改宗することについて、パウロの改宗から何を学べるでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。イエス・キリストの言葉に従うとき、わたしたちは完全に改心することができます。)
- この原則は、改宗したいと思っている人にとって、どのように役立つかもしれないでしょうか。

一人の生徒に、中央若い女性会長のボニー・L・オスカーソン姉妹の次の言葉を声に出して読んでもらいます。その中で、姉妹は福音の証を持つことと、福音に真に改宗することの違いを説明しています。



「真の改心とは単に福音の原則を知っていることではありません。また、その原則について証があるだけでもありません。福音の証がありながら、それに従った生活をしていないことはあり得ます。真に改心しているとは、信じることを実践〔することです。〕……

改心は、家庭やクラスで学ぶ義にかなった原則に従うときに得られます。清く徳高い生活を送り、聖霊を伴侶とするとときに得られます。」「(あなたがたは改心しなさい)『リアホナ』2013年11月号, 76 - 78)

次の質問を声に出して読むか、ホワイトボードに書きます。どうすれば福音に真に改宗することができるでしょうか。クラスノートか聖典学習帳に、答えを記録するよう生徒に言います。

使徒 22 : 17 - 30 の要約として、パウロは、改宗後、異邦人の間で宣教師となるよう、主がエルサレムから自分を送り出されたと聴衆に語ったことを説明します。聞いていた人々はその後、パウロを死刑にすべきであると宣言しました。パウロはエルサレムのローマ軍の千卒長の前に連れて行かれ、千卒長はパウロをむち打ちにすべきだと決定しました。むち打ちの罰は、通常、犯罪者から情報を引き出したり、屈辱を与えたりするために利用されます。しかし、ローマの役人はパウロがローマ人であることを知り、むち打つのをやめました。なぜなら、「裁判にかけもしないで」(25 節) ローマの市民を縛ったりむち打ったりすることはローマの法律に反していたからです。彼らは代わりに、ユダヤの最高議会であるサンヒドリンの前にパウロを連れて行きました。

使徒 20 - 22 章で教えた原則について証を述べ、レッスンを終わります。

使徒 23 - 26 章

はじめに

ユダヤ人の指導者たちはパウロを尋問し、ユダヤ人の一団はパウロを殺そうと共謀しました。パウロはカイザリヤに連れて行かれ、ここで数人のローマ人指導者たちの前で無実の罪であ

ると弁明しました。パウロは自分の改宗談を語り、イエス・キリストについて証しました。

教えるための提案

使徒 23 - 25 章

パウロ、迫害され、裁判にかけられ、投獄される

レッスンが始まる前に、紙に次の言葉を書いておきます — *神の戒めと祝福*。次にテープやひもを使って教室を区切り、特定の区切り内の床の上にその紙を置きます。レッスンが始まったら、「神の戒めと祝福」を表している（紙が置いてある）区切りの中に立つよう生徒に言います。

- 神の戒めと教えに従うことによって神に近づくときに、わたしたちが受ける祝福にはどのようなものがあるでしょうか。

「神の戒めと祝福」を表している区切り内から外に出よう生徒に言います。

- 神の戒めと教えに背を向けさせたり、それらに従った生活をやめさせてしまうかもしれない世の中の影響にはどのようなものがあるでしょうか。
- 人が神から自分を遠ざけると、何が起こるでしょうか。

生徒に感謝し、席に戻ってもらいます。現在どちらの方向を向いているのか、天の御父を近くに感じているのか遠くに感じているのか、深く考えるよう生徒に言います。使徒 23 - 26 章を研究しながら、自分は神と神の祝福から離れてしまったと感じるときに助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

パウロはエルサレムの神殿の外で捕らえられ、ユダヤ人の指導者たちの前に連れて来られたことを生徒に思い出してもらいます（使徒 21：30 - 33；22：23 - 30 参照）。使徒 23：1 - 10 の要約として、パウロはこれらのユダヤ人の指導者たちによって尋問され、投獄されたことを説明します。

一人の生徒に、使徒 23：11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが牢獄にいる間に何が起こったかを見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 主は獄中のパウロに何をしようおっしゃいましたか。

使徒 18：9 - 10 に記録されている、パウロが主の業を行うとき主がともにいて守ってくださるという約束を生徒に思い出してもらいます。生徒に、「主がパウロに臨んで」という語句に印をつけ、11 節の隣の余白に使徒 18：9 - 10 を参照聖句として書き込んでおくことを提案するとよいでしょう。

一人の生徒に、以下の要約を声に出して読んでもらいます。

使徒 23：12 - 25：27 では、ユダヤ人の一団がパウロを殺すのを防ぐために、パウロを捕らえたローマの千卒長が彼をカイザリヤに送ったことが分かります。パウロはローマの総督ペリクスの前で自身の無実を主張しました。パウロの無罪を確信したにもかかわらず、ペリクスは 2 年間にわたりパウロを自宅軟禁にし続けました。ペリクスに代わり、フェストがユダヤのローマ総督になりました。ガリラヤ湖の北東に位置する領域を支配したヘロデ・アグリッパ王は、フェストのもとを訪れ、パウロの件について聞きたいと願いました。パウロはアグリッパ王の前に連れて来られました。

使徒 26 章

パウロ、アグリッパ王の前で自分の改宗談を語り、イエス・キリストについて証する

数人の生徒に、交代で使徒 26:4-11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自分の過去について、どのようにアグリッパ王に説明したか見つけてもらいます。

- パウロは自分の過去についてどのようにアグリッパ王に説明したでしょうか。

パウロはその際、自分が見た救い主の示現について語ったことを説明します。一人の生徒に、使徒 26:16-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がダマスコへの道でパウロに与えられた使命を見つけてもらいます。

- 主はパウロにどのような使命を与えられましたか。(主がパウロに与えられた使命を説明している箇所に印をつけるよう、生徒に勧めるとよいでしょう。)

この文脈において、「加わる」(18 節) という言葉は、神の日の栄えの王国に入ることを指していることを説明します。

- 暗闇とサタンの影響に背を向け、光と神の戒めと祝福の方に向き直るためには、何が助けとなるでしょうか。

一人の生徒に、使徒 26:19-23 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、18 節で述べられている祝福を受けるためにしなければならない事柄として、ユダヤ人と異邦人の両方に教えたこととパウロが言ったことを見つけてもらいます。20 節にある「悔改めにふさわしいわざを行う」という表現は、本当に悔い改めていることを実証するために、義にかなった生活をするという意味にもなることを説明するとよいでしょう。

- 20 節によると、パウロはユダヤ人と異邦人の両方に何をしよう教えたのでしょうか。

次の未完成の文章をホワイトボードに書きます — わたしたちが悔い改めて神に立ち返るならば、_____

- 18 節で学んだことを基にすると、あなたなら、ホワイトボードの文章をどのように完成させますか。(ホワイトボードの文章を次のように完成させて、生徒の答えを要約します。わたしたちが悔い改めて神に立ち返るならば、わたしたちの生活の中でサタンの力に打ち勝ち、罪の赦しを受け、日の栄えの王国の資格を得ることができる。)

この原則を生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます(この言葉のコピーを生徒に配ってもよいでしょう)。



「人は罪を犯すと神に背を向けますが、悔い改めるとき、向き直って神に立ち返るのです。

悔い改めへの呼びかけが厳しい非難の声であることはまれです。それはむしろ、向き直って、神に『再び立ち返りなさい』という愛ある願いなのです〔ヒラマン 7:17 参照〕。これは、愛ある御父と御父の独り子からの招きです。今以上の自分になり、さらに高い生き方を手に入れ、変わり、戒めを守ることで得られる喜びを味わうようにという招きなのです。」「(わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい)『リアホナ』2009 年 11 月号, 40)

- アンダーセン長老によると、悔い改め、向き直って天の御父とイエス・キリストに立ち返るとき、わたしたちは何を達成することができるでしょうか。

生徒に、使徒 26 章を続けて学習し、フェストとアグリッパ王が悔い改め、神に立ち返り、イエス・キリストに帰依することを妨げたものが何であったのかを見つけてもらいます。次の未完成の文章をホワイトボードに書きます — イエス・キリストに改心するには、_____

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒に、パートナーと一緒に使徒 26:24-28 を読んでもらいます。フェストとアグリッパ王はパウロの教えや救い主についての証に、それぞれどのような反応をしたかを見つけ、比較するよう生徒に言います。生徒がパートナーと読んで話し合っている間に、ホワイトボードに次の表を書き写します(それぞれの見出しの下の文は書かないでください)。

生徒が教義と原則を見つける助けとなる質問をする

生徒は聖文の背景と内容を理解するようになると、聖文に含まれている原則と教義を見つける能力が増します。分析する質問は、生徒が結論を引き出し、研究している聖文に見いだされる原則や教義を分かりやすく説明する助けとなります。

パウロの教えに対する反応	
フェスト	アグリッパ王
大声で言った パウロは気が狂っていると言った パウロは狂わされていると訴えた	少し説いただけでクリスチャンにしようとしている

時間を十分に取った後、何人かの生徒に、自分たちが見つけたことをホワイトボードに書いてもらいます（答えは上記の表の言葉のようになるべきです）。

- フェストの反応は、パウロの教えに対する彼の意見についてどのようなことを明らかにしているでしょうか。（「不信」という言葉を「フェスト」という見出しの下の生徒の答えに加えます。）
- 27 節によると、パウロはアグリッパ王について何を知っていると言いましたか。（「アグリッパ王」の見出しの下に、「預言者を信じていた」と加えます。）
- クリスチャンになるというアグリッパの決意について、パウロに対するアグリッパの意見から何を学ぶことができるでしょうか（28 節参照）。（「アグリッパ王」の見出しの下に、「完全に決意はしていない」と加えます。）

一人の生徒に、使徒 26：29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アグリッパ王の、少し説いただけでクリスチャンにしようとしているという意見に、パウロはどのように対応したかを見つけてもらいます。

- 王とパウロの教えを聞いた全ての人々に対するパウロの願いは何だったでしょうか。
- フェストがイエス・キリストに改心するのを妨げたものは何だったと思いますか。
- アグリッパ王が改宗するのを妨げたものは何だったと思いますか。
- イエス・キリストに改心するために行わなければならないことについて、フェストとアグリッパ王からどのようなことを学ぶことができるでしょうか。（生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、必ず次の真理を見つけるようにします。イエス・キリストに帰依するために、わたしたちは福音に従って生活することに信仰を持ち、完全に献身することを選択しなければならない。）

生徒たちがこの原則を理解できるように、一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ワークトドルフ管長による次の話を声に出して読んでもらいます。



「二人の若い兄弟が、真っ青に澄み切った湖を見下ろす小さな崖の上に立っていました。そこは飛び込みを楽しめる人気の場所で、人々が飛び込むのを見てきたこの兄弟たちは、自分たちもやってみようかと度々話していました。

二人とも飛び込みたいものの、先に行きたくはありません。それほど高い崖ではありませんでしたが、二人の少年にとっては体を前に倒し始めるたびに高さが増していくように思われて、すぐに勇気がなえてしまうのです。

ついに、一人が片足を崖の縁に置き、意を決して前に出ました。その瞬間にもう一人がささやくように言いました。『来年の夏まで待とうか。』

しかし、動き出した方の少年はもう勢いがついて体が前に出ていきます。少年は答えました。「やると決めたらやるんだ!」

少年はしぶきを上げて湖に飛び込むと、すぐに水面に浮かび上がり、勝ち誇って叫びました。もう一人の少年もすぐに後を追いました。後で、二人は先に飛び込んだ少年が最後に言った言葉のことを笑いました。『やると決めたらやるんだ。』

決意をもって献身することは、水に飛び込むことに少し似ています。真剣に取り組んでいるか、取り組んでいないかのどちらかです。前に進んでいるか、じっと立っているかのどちらかです。その中間はありません。……

ある程度だけ献身する人は、証、喜び、平安という祝福をある程度だけ受けるでしょう。そのような人に対して、天の窓はある程度だけ開かれるでしょう。……

何らかの形で、わたしたちはそれぞれ水面を見下ろしながら、決断を下すべき場所に立っています。わたしたちが信仰を持ち、前に進み、恐れと疑いに勇気をもって立ち向かい、心の中で『やると決めたらやるんだ!』と言うように祈ります。（「やると決めたらやるんだ」『リアホナ』2011年7月号、4-5）

- 福音に従って生活するよう決意することは、水に飛び込むことにどのように似ているのでしょうか。

- ウークトドルフ管長によれば、「ある程度だけ」献身するよりも、完全に献身して、福音に従って生活することの方が大切なのはなぜでしょうか。
- あなたにとって、戒めや福音の原則に従って生活する決意は、どのようにイエス・キリストへの改心を強める助けとなってきたでしょうか。（自分自身の例を分かち合ってもよいでしょう。）

クラスノートや聖典学習帳に、自分が完全に献身して生活していると感じる戒めや福音の原則のリストを書いてもらいます。福音の原則の中で「完全に」ではなく「ほぼ完全に」しか献身して生活できていないと感じるものについてよく考えるよう生徒に言います（使徒 26:29）。生徒に、それらの原則のうちの一つに対する理解と決意を増すために行うことができる目標を書いてもらいます。さらに完全に福音に従って生活することによってイエス・キリストに改心する努力をするときに、主の助けを祈り求めるよう生徒を励まします。

使徒 26:30 - 32 の要約として、フェストとアグリッパ王はパウロに罪がないことが分かり、釈放することもできましたが、パウロがカイザルに上訴していたので、ローマに送る必要があったことを説明します。

使徒 23 - 26 章で教えられた原則を復習し、証を述べて、レッスンを終えます。

使徒 27 - 28 章

はじめに

囚人としてローマに向かう途中、パウロはある島に漂着しました。その島で、パウロは蛇にかまれてましたが無傷でした。また、病気だった多くの人々を癒やしました。パウロは最終的に

ローマに連れて行かれ、そこで2年間、自宅軟禁下で生活し、イエス・キリストについて教え、証しました。

教えるための提案

使徒 27 章

パウロ、ローマへの道中、難破する

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の言葉を書いておきます。（これらの言葉は『若人の強さのために』4, 11, 16 - 17にあります。）

同じ相手とばかり頻繁にデートするのは避けてください。

いかなる形であれ、下品で、不道德で、暴力的な、またわいせつなことに心や目を向けたり、加わったりしないでください。

友達が間違ったことをするようあなたに強く働きかけてきたら、たとえ孤立することになっても、正しいことを擁護する人となってください。

一人の生徒に、ホワイトボードに書かれた言葉を声に出して読んでもらいます。

- 一部の青少年がこれらの警告や勧告の言葉に耳を傾けないことを選ぶのはなぜでしょうか。

使徒 27 章を研究しながら、主の僕の警告や勧告に従うよう信仰を強める助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

生徒たちに、パウロは反逆罪として無実の罪に問われ、投獄されていたことを思い出してもらいます。パウロはローマ市民としての権利をローマのカイザルに訴えました。使徒 27:1 - 8 の要約として、パウロはローマの百卒長（ローマ軍の階級の一つで 50 人から 100 までの兵卒を指揮した）の監督の下、他の囚人とともに船でローマに向かったことを説明します。何日も航海した後、彼らはクレタ島の港に停泊しました。港を出帆しようとしたとき、パウロはこの旅を続けるべきではないと船上の人々に警告しました。

一人の生徒に、使徒 27:9 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロと船上の人々がローマへの旅を続けるなら、どうなるとパウロが知っていたのか見つけてもらいます。ここでの「断食」という言葉は、自主的に食べることを控えることを意味すると説明する必要があるかもしれません。この場合の「断食期」は、おそらく贖罪の日と呼ばれたユダヤ教の聖日を指しています。その日は、ひどい嵐のために地中海を航海するのは危険だと一般的に見なされた季節の始まりを知らせるものでした。

- 10 節によれば、このまま旅を続けたら何が起こるかについて、パウロはどのような警告や預言を与えたでしょうか。

一人の生徒に、使徒 27:11 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、船上のローマの百卒長や他の人々はパウロの警告にどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- パウロの警告を聞き入れるよりも、百卒長は代わりに誰を信頼したでしょうか。
- 百卒長が、パウロよりもその船の船主を信じる方が簡単だったのはなぜだと思いますか。
- 12 節によると、船上のほとんどの人々がパウロの警告を無視したのはなぜでしょうか。

数人の生徒に、交代で使徒 27:13 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、船がローマに向かって航行を続けたとき、何が起こったかを見つけてもらいます。

- 船がローマに向かって航行を続けたとき、何が起こったでしょうか。
- 「南風が静かに吹いてきた」(13節)のを見て、船上の人々は、パウロとパウロが与えた警告についてどのように考えたでしょうか。
- 20節によれば、暴風のさなかで船上の人々の感情はどのようになっていたでしょうか。
- 21節に記録されているパウロの言葉で示されるように、主の僕の警告や勧告を無視する場合に起こる事柄についてどのような原則を学ぶことができますでしょうか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の原則を見つけるでしょう。主の僕の警告や勧告を無視するなら、わたしたちは自らを危険にさらすことになる。ホワイトボードにこの原則を書きます。危険には、従っていれば授かっていたであろう祝福を失うことも含まれるかもしれないことを説明します。)

百卒長とその他の船上の人々が、パウロの警告や勧告を無視した理由を生徒とともに確認します(使徒 27:11-12 参照)。

- 今日の人々は、主の僕の警告や勧告を無視することに対して、どのような同様の言い訳をするでしょうか。

『若人の強さのために』や最新の総大会の説教を用いることで、生徒に関連していると感じる預言者の警告や勧告について別の例を与えることもできます。

- そのような預言者の警告や勧告を無視することで、人々はどのような危険に自らをさらしているでしょうか。

一人の生徒に、使徒 27:22-26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが船上の人々に語ったことを見つけてもらいます。

- もし自分がひどい嵐の真っ只中に船に乗っていた場合、パウロのどのような言葉によって慰められるでしょうか。
- パウロは、人々と船にどのようなことが起こると預言したでしょうか。

使徒 27:27-30 の要約として、嵐の 14 日目の夜、乗組員は岩への衝突から船を守るために、海に 4 つのいかりを下ろしたことを説明します。乗組員はその後、船のへさきに行つて、さらに多くのいかりを下ろそうとしているかのように見せかけました。しかしながら、実際には、彼らは船が沈むかもしれないと恐れていたため、船を放棄し、小舟で逃げることを計画していました。

一人の生徒に、使徒 27:31-32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが百卒長や兵卒たちに与えた警告を見つけてもらいます。31 節の「あの人たち」という言葉は、逃げようとしていた乗組員を指していることを説明します。

- パウロは、百卒長や兵卒たちにどのような警告を与えたでしょうか。
- 兵卒たちはパウロの警告や勧告にどのように対応したでしょうか。(彼らは警告に従い、小舟の綱を断ち切って、流れて行くままに任せたことで、乗組員が逃げるのを防ぎました。)

翌朝、パウロは断食していた乗組員に食事をするように勧めたことを説明します(使徒 27:33-34 参照)。パウロは、誰も死なないだろうと再び断言しました。

一人の生徒に、使徒 27:35-36 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、よく聞いてもらいます。

- 乗組員はパウロの勧告にどのように対応したでしょうか。

使徒 27:37-41 の要約として、船はマルタの島に向かって航海中に座礁してしまったことを説明します。生徒たちに、使徒 27:42-44 を聞きながら、船上の人々がどうなったかを見つけてもらいます。

- 船上の人々はどうなりましたか。

使徒 27:22-26 に記録されている、船が難破しても誰も死なないというパウロの預言を生徒に思い出してもらいます。

- もし主の僕の勧告や警告に従わないなら、どのようなことが起こり得るかについて、この話からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。主の僕の警告や勧告に従うなら、主はわたしたちに対する約束を成就してください。主の僕の警告や勧告に従うなら、わたしたちを脅かす危険に耐えることができます。ホワイトボードにこれらの原則を書きます。)

使徒 27 章で見つけた原則を生徒が理解するのを助けるよう、一人の生徒に、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「人生を振り返ってみると、靈感によって与えられた勧告になかなか従わなかったり、自分は例外だと決めつけてしまったりしたときはいつも、自らを危険にさらしていたことに気づきます。預言者の勧告に耳を傾け、祈りを通してそれが御心であると確信して勧めに従ったときには、自分が安全な方向に向かっていくことが分かりました。」(「勧告の中に安全を見いだす」『リアホナ』2008年6月号, 4)

- 主の僕の警告や靈感された勧告に従うことは、どのようにあなたの霊的、肉体的な安全を脅かす危険に耐える助けとなるでしょうか。(教会機関誌や『若人の強さのために』から現代の主の預言者の勧告を研究することができることを生徒に思い出してもらいます。)

自分が主の僕からの警告や勧告を無視しているかどうかを検討するか、自分が受けた警告や勧告にさらによく従うことができる方法について考えるよう生徒に言います。生徒に、その勧告にさらによく従う方法に関した目標を書き留めてもらいます。

使徒 28 章

パウロ、ローマに連れて行かれ、そこで教え、イエス・キリストを証する

生徒に、竜巻または嵐の絵を見せます(あるいはホワイトボードに描きます)。

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、人生の困難や試練を「霊を滅ぼす嵐」と呼んでいます(「霊を滅ぼす嵐」『リアホナ』2014年5月号, 18-21)。

- 嵐にたとえることができる試練や困難の例として、どのようなものがありますか。

使徒 28 章を研究しながら、生徒たちに、直面する「霊を滅ぼす嵐」を忠実に堪え忍ぶ助けとなる原則を見つけてもらいます。

使徒 28 章では、島でのパウロの経験、ローマへの旅の続き、ローマでの投獄について記されていると説明します。

クラスの大きさに応じて、生徒たちを3つ、あるいはそれ以上のグループに分けます。各グループに以下の聖句ブロックの一つを割り当てます。使徒 28:1-6; 使徒 28:7-14; 使徒 28:16-24。必要であれば、同じブロックを複数のグループに与えます。それぞれのグループに、割り当てられた聖句ブロックを研究してから、以下のことを行ってもらいます(これらの指示をホワイトボードに書きます)。

1. 聖句ブロックに記載された出来事を要約した絵を描くか、新聞の見出しを書きます。
2. 他の生徒たちに絵を見せるか、見出しを読み、聖句ブロックに記載された出来事を要約します。

十分な時間を取った後、グループごとに発表してもらいます。(3つ以上のグループがある場合、他と同じ聖句ブロックが割り当たっているグループには、絵や見出しを見せてもらい、聖句を読んで得た別の洞察があれば発表してもらいます。)

- パウロは、ローマに向かって旅をしていたときやローマに住んでいたときにどのような試練を経験したでしょうか。

一人の生徒に、使徒 28:30-31 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自宅軟禁下に置かれているにもかかわらずローマで行うことができた事柄を見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- 試練を経験しているにもかかわらず、パウロは神に忠実であり続けたことを示す、どのようなことを行ったでしょうか。
- 海の上や、座礁したときや、ローマで投獄されているときにパウロが経験した試練から、どのようなよいことがもたらされたでしょうか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。忠実であれば、神は試練を自分や他の人々のための祝福に変えてくださる。)
- 神が試練を自分や他の人々のための祝福に変えるよう助けてくださる方法の例として、どのようなものがあるでしょうか。
- 試練をあなたや他の人々のための祝福に変えるよう、神があなたやあなたの知人を助けてくださったのはどのようなときでしたか。(自分自身の例を分かち合ってもよいでしょう。)



生徒が教義と原則を理解するのを助ける質問をする

生徒は教義と原則を有意義に応用できるようになるには、それを見つけた後、理解する必要があります。特定の教義や原則の意味をもっとよく理解する助けになる質問や、教義や原則を現代の状況に照らして考えるように生徒を促す質問、あるいは教義や原則をどのように理解しているか説明するように促す質問をします。

神が試練を自分や他の人々のための祝福に変えるよう助けくださるために、試練を経験しているとき、パウロの模範に従い、忠実であり続ける選択をするよう生徒を励まします。

ローマ人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ローマ人への手紙は、パウロの書簡の中で最も長く、多くの人々から最もすばらしい書簡であるとみなされています。この書簡には、モーセの律法を実行することによってではなく、イエス・キリストを信じる信仰による義認の教義についての最も完全な説明が含まれています。救いの教義について、また日々の生活におけるこれらの教義の実践的な応用についての教えも多く含まれています。本書の研究により、生徒たちはイエス・キリストの贖罪と、全ての人がキリストに見いだす望みと平安について、より深く理解することができます。

誰がこの書を書いたのか

ローマ人への手紙の著者は使徒パウロです（ローマ1:1参照）。この書簡を書くに当たり、パウロは書記テルテオの助けを借りました。テルテオは、この書簡の最後近くにローマ人の聖徒たちに対する自分の挨拶を書き残しました（ローマ16:22参照）。

いつ、どこで書かれたか

パウロは、三回目の伝道の旅の終わり近くに、コリントからローマ人への手紙を書きました。幾つかの手掛かりが、パウロがこの書簡をコリントに三か月間滞在したときに書いたことを示唆しており（使徒20:2-3参照；これらの節にある「ギリシヤ」という言葉はコリントを指しています）、紀元55年から56年の間であったと考えられます。（『聖句ガイド』『パウロの手紙』参照）

誰に向けて、なぜ書かれたか

ローマ人への手紙は、ローマの教会の会員に対して書かれました（ローマ1:7参照）。ローマの教会の起源は知られていませんが、ローマから訪問していたユダヤ人がペテロの説教を聞いた日から間もない頃であったと思われる（使徒2:10参照）。パウロはまだローマに行ったことはありませんでしたが、おそらく以前の知り合いや、ローマに住んでいた他の人々を通じて知っていたプリスキラやアクラなどの特定の聖徒たちに対する挨拶を書いています（使徒18:1-2, 18; ローマ16:1-16, 21参照）。

パウロがローマ人に書簡を送った理由には、少なくとも三つのおもな理由があるように見受けられます。

(1) 将来自分がローマに到着するときのための準備をする。パウロは、長年の間ローマで福音を宣べ伝えたいと考えていました（使徒19:21; ローマ1:15; 15:23参照）。また、彼がスペインに伝道に出るための拠点として、ローマの教会が機能するようになることも望んでいました（ローマ15:22-24, 28参照）。

(2) 自分の教えを明確にし、かつそれを擁護する。パウロは、モーセの律法とキリストを信じる信仰についての教えを誤解したり、歪曲させた人々から繰り返し反論を受けていました（使徒13:45; 15:1-2; 21:27-28; ローマ3:8; 2ペテロ3:15-16参照）。そのような誤解がローマの教会員にまで達していると思われる明確な根拠があったために、パウロは自分が到着する前にどんな懸念でも軽減するために手紙を書き送りました。

(3) 教会のユダヤ人会員と異邦人会員との間の一致を促す。パウロがこの書簡を書き始める少し前、かつてクラウデオ帝によってローマから追放されたユダヤ人のキリスト教徒たちが（使徒18:2参照）ローマならびに、異邦人のキリスト教徒が大半を占める教会に帰還し始めました。この状況は、ユダヤ人のキリスト教徒と異邦人のキリスト教徒との間における、緊張と問題をいくらか生じさせた可能性があります。パウロは「異邦人の使徒」（ローマ11:13）として異邦人の改宗者が教会に溶け込むようにしましたが、ユダヤ人（ローマ11:1参照）として、パウロは自分自身の民が福音を受け入れることも強く望んでいました。パウロは、どのように福音の教義が全ての聖徒に当てはまるかを教えることによって、教会の一致を促しました（ローマ3:21-4:25; 11:13-36; 14:1-15:13参照）。

この書の特徴は何か

冒頭の挨拶の後、この書簡は次のようなテーマの記述で始まります。キリストの「福音〔は〕……救を得させる神の力」であり、イエス・キリストを信じる「信仰によって生きる」全ての人のためのものである（ローマ1:16-17）。

ローマ人への手紙はキリスト教の歴史において重要な役目を果たしましたが、この書簡は、十二使徒定員会のブルース・R・マックコンキー長老によると、残念ながら「聖書にある他のどの書よりも、多くの教義的な誤解、誤った解釈、そして悪害の原因」ともなりました。（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1965-1973年〕, 第2巻, 211）初期のキリスト教徒たちの間でさえも、パウロの記述は「わかりにくい」とされ、その教えは時に歪曲されて、誤って伝えられました（2ペテロ3:15-16）。

概要

ローマ1-3章 パウロはイエス・キリストを信じる信仰による義認の教義を説明する。パウロは全人類が直面する罪深さの苦境を定義し、全ての人々に対するこの問題の神の解決法がイエス・キリストの贖罪であると教える。信仰をもってイエス・キリストの贖罪を受け入れることによって、全人類は義とされ（罪が赦され）、救いを得ることができる。

ローマ4-8章 パウロは、信仰による義認の教義を説明するためにアブラハムの模範を引用する。パウロは、救いの教義を詳しく説明し、これらの教義がキリストを信じる信仰を持つ全ての人々にどのように影響するかを教える。

ローマ9-16章 パウロは、イスラエルの民が選ばれた民であること、現在は福音を拒んでいること、そして最終的には救われることについて書き記す。パウロは、教会の中に平安と一致があるように、福音に添って生活するようユダヤ人と異邦人の教会員に勧告する。パウロは、ローマの聖徒たちにこれからも戒めを守り続けるように嘆願する。

第99課

ローマ 1 - 3 章

はじめに

パウロはローマの聖徒たちに手紙を書き、イエス・キリストの福音が救いを得させる神の力であることを宣言しました。自分の努力によって救われる人はおらず、イエス・キリストの贖罪

によってもたらされる主の恵みによって救われなければならないと、パウロは説明しました。

教えるための提案

ローマ 1:1 - 17

パウロ、イエス・キリストの福音が救いを得させる神の力であると宣言する

七十人のラリー・エコー・ホーク長老の次の言葉を声に出して読みます。エコー・ホーク長老は若いときに、合衆国海兵隊に入隊したことを説明します。



「……一人の男性が兵舎のドアをけり開け、神への冒瀆に満ちた言葉を吐き散らしながら入って来ました。それが、屈強で歴戦の戦士である訓練教官との最初の出会いです。

この恐ろしい出会いの後、訓練教官は兵舎の一方の端から順に、新兵一人一人の目の前に立って質問し始めました。新兵それぞれについて、教官は目ざとく何らかのあざけりの種を見つけては大声で口汚くのしりました。免れる者は一人もいませんでした。各新兵が命じられたとおりの大きな声で、『そうであります』あるいは『いいえ、教官殿』と答える中、教官が列を進み近づいて来ます。……しかし自分の順番が来たときにそれが分かりました。彼はわたしのダッフルバッグをわしづかみにすると、その中身を全部、後ろのマットレスの上に放り出しました。持ち物を調べ、何かを拾い上げると、教官は戻って来てわたしと向かい合いました。わたしはひどい目に遭うことを覚悟しました。彼が手に持っていたのはモルモン書だったのです。』（「おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさい」『リアホナ』2012年11月号, 32）

- あなたがエコー・ホーク長老の状況だったとしたら、どのように感じたでしょうか。
- この訓練教官は何をしようとしていたと思いますか。
- 自分の信仰を誰かがあざけるのではと心配になった経験はありますか。（何人かの生徒に、彼らの経験をクラスに分ち合ってもらおうとよいでしょう。）

ローマ1章を研究しながら、自分の信仰や標準があざけりや迫害に直面するときに助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、次の文を声に出して読んでもらい、ローマ人への手紙を簡単に紹介します。

ローマ人への手紙は、パウロが伝道の旅の終わり近くにローマの聖徒たちに対して書いた書簡です。パウロは、自身の到着への備えをしてもらい、彼の教えを明確にして擁護し、そしてユダヤ人と異邦人の教会員の間における一致を促すためにローマ人の聖徒たちに手紙を書きました。ローマ帝国の首都であったローマにはこの世的な哲学がはびこっており、イエス・キリストの福音を教えるのが難しい場所でした。

ローマ1:1 - 14の要約として、パウロはイエス・キリストについて証し、ローマの聖徒たちを訪問したいと願っていることを表明することによって、彼の書簡を始めたことを説明します。

一人の生徒に、ローマ1:15 - 17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの福音についてパウロがローマ人の聖徒に教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、イエス・キリストの福音とは何であると言いましたか。（生徒は次のような真理を見つけるでしょう。イエス・キリストの福音は、イエス・キリストを信じる信仰を働かせる全ての人に救いを得させる神の力である。ホワイトボードにこの真理を書きます。この真理を教えている聖典の言葉や語句に印をつけるように生徒に提案するとよいでしょう。）

- イエス・キリストの福音は、わたしたちが何から救われることを可能にしますか。(肉体の死と霊の死。)
- 福音を通じて救いという祝福を受けるためにイエス・キリストを信じる信仰を働かせなければならないのはなぜですか。(イエス・キリストが贖罪を行われたことで、わたしたちの救いが可能になる。)

一人の生徒に、イエス・キリストを信じ、キリストに対する信仰を働かせることの意味を説明する次の文を声に出して読んでもらいます。

パウロが使ったように、「信心」と「信仰」という言葉は、イエス・キリストが神の御子であることの精神的な合意だけではなく、わたしたちの罪のために贖罪において御自身をささげられた御方であるとしてイエス・キリストを心から受け入れ、信頼することを意味します。この深い信頼は、罪を悔い改め、バプテスマを受け、イエス・キリストが教えられたとおりに生きることによって示される、信仰深い生活につながります(使徒 16:30-33;ローマ 6:1-11;1 コリント 6:9-11 参照)。「イエス・キリストを信じる信仰……は、福音の律法と儀式に従順な生活とキリストへの奉仕の中に示される。」(『聖句ガイド』『救い』scriptures.lds.org)

- イエス・キリストの福音は信じる全ての人に対して救いを得させる神の力であることを知っていたことから、パウロはそれを教えることについてどのように感じていましたか。(パウロはそれを恥としなかった[ローマ 1:16 参照]。)
- 福音の力に対する証を持つことは、福音を他の人と分かち合いたいというあなたの望みにどのように影響しますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの福音には、わたしたちを救う力があるという証を得ると、それを周りの人に分かち合うことを恥としなくなる。)
- この原則は、あなたの信仰に対する迫害やあざけりに直面するときに、あなたをどのように助けますか。

一人の生徒に、エコー・ホーク長老の話の続きを声に出して読んでもらい、他の生徒には、長老が訓練教官にどのように答えたかを聞き取ってもらいます。



「怒鳴りつけられるものと思いました。ところが、彼はわたしに近寄ると、こうささやいたのです。『おまえはモルモンか。』」

命じられたとおりに、わたしは大声で答えました。『そうであります、教官殿。』

再び最悪の事態を予想しました。ところが、彼は黙ったまま、モルモン書を持った手を上げると、非常に小さな声でこう尋ねたのです。『おまえはこの本を信じているのか。』

またしても、わたしは大声で答えました。『そうであります、教官殿。』(「おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさい」32)

- エコー・ホーク長老の答えは、どのような点でローマ 1:16 で教えられた原則の良い模範なのでしょう。

エコー・ホーク長老をあざける代わりに、訓練教官はモルモン書をそっと置いて、残りの新兵全員の列を進んで行ったと説明します。エコー・ホーク長老の言葉の残りを声に出して読みます。

「海兵隊のあの屈強な教官は、どうしてあの日わたしのことを大目に見てくれたのだろうと考えることがよくあります。しかし、わたしは『はい、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です』『はい、わたしはモルモン書が真実であることを知っています』とためらうことなく言えたことに感謝しています。この証は……御霊を通して与えられた貴重な贈り物です。』(「おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさい」32)

- あなた(またはあなたの知人)が、イエス・キリストの福音を分かち合うことが恥ずかしいことではないと行動で示したのはどのようなときでしたか。

イエス・キリストの福音に対する自分の証がどれほど強いのか、また、それらの証を強めるには何ができるのかについて深く考えるように生徒たちに勧めます。証を強めるための目標を立てるように生徒たちを励まします。

ローマ 1:18 - 3:23

パウロ、全人類が罪を犯し、神の栄光を受けるに不十分であることを教える

パウロの時代、異邦人のキリスト教徒の中には、神の慈愛を強調して神の完全な正義を無視することによって、不道德な行いや罪を正当化しようとした人がいたことを説明します。ま

た、ユダヤ人のキリスト教徒の中には、救いのためにはモーセの律法に従うことが必要だと信じている人もいました。パウロはこれらの間違った考えを正そうとしました。

数人の生徒に、ローマ 1:18 - 32 を、順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その時代に蔓延しているとパウロが言った罪を見つけてもらいます。パウロがローマ人の聖徒に与えた警告を生徒たちが理解するのを助けるため、18 - 32 節にある言葉と語句を彼らが定義するよう助けるとよいでしょう。例えば、次のような質問をするとよいでしょう。

- 25 節にある「創造者の代りに被造物を拝み、これに仕えた」とはどのような意味だと思えますか。

ローマ 1:18 - 32 から、わたしたちは、預言者と使徒たちは神の教えに反する行為や態度について教えることが分かりますと指摘します。

26 節にある「自然の関係を不自然なものに代え」という語句と、27 節にある「女との自然の関係を捨て」という語句が同性愛の行為を指すことを説明します。聖典の初めから、また全体を通して絶えず、主は同性愛の行為を含む純潔の律法を破ることを非難しておられることを説明するとよいでしょう。

注 - 同性に引かれるというテーマには、多大な気配りが必要です。クラスでこの問題について話し合うときは、優しさ、思いやり、礼儀正しさをもって行うようにします。

同性愛行為に関する教会の見解を生徒たちが理解できるように、次の言葉を声に出して読みます。

「同性愛行為は重い罪です。同性に魅力を感じて苦しんでいるときや不適切な行為に加わるよう説得されているときには、親やビショップに相談してみてください。必ず助けてくれます。」(『若人の強さのために』[小冊子] 36)

「教会の教義的な見解は明らかです。性的な行為は、結婚している男性と女性の間でのみ行うべきものです。しかし、これは決して不親切を正当化する理由として使われるべきではありません。わたしたちが従うイエス・キリストは、性的不道徳については罪の定めを明らかにされましたが、決して無慈悲ではあられませんでした。主の関心は常に個人を高めることにあり、決して傷つけることではありませんでした。……

教会は同性に引かれる性向と行動を区別しています。同性に対する感情や性向を持っていること自体は本質的に罪ではありませんが、同性愛行為に及ぶことは、『男女の間の結婚は、神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画に不可欠なものである』[*“First Presidency Statement on Same-Gender Marriage,” mormonnewsroom.org*] という、聖典に基づく教義の原則に反しています。](*“Same-Sex Attraction,” Gospel Topics, <https://www.lds.org/topics/same-gender-attraction?lang=eng>*)

- 同性愛の行為について、主の預言者と使徒たちの教えを理解することがわたしたちにとって重要であるのはなぜですか。
- どうすれば、同性愛行為に対する教会の見解を支持しながら、同性に引かれる性質を経験している人に親切と思いを示すことができますか。

ローマ 2:1 - 3:8 の要約として、パウロは全ての人はその行いによって裁かれると教え、ユダヤ人の不義は心からではなく形式的にモーセの律法に従って生活していることによる結果であることを示したと説明します。

一人の生徒に、ローマ 3:9 - 12, 23 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、パウロは誰が罪の影響を受けていると言ったのかを見つけてもらいます。

- パウロは、誰が罪の影響を受けていると言いましたか。罪は、わたしたちにどのような影響を及ぼしますか。(生徒たちが答えた後、次の真理をホワイトボードに書きます。責任能力のある全ての人は罪を犯しており、神の赦しが必要である。)
- この真理は、わたしたちがイエス・キリストを必要とする理由をよりよく理解するためにどのように役立ちますか。

ローマ 3:24 - 31

全人類はキリストの贖罪を信仰によって受け入れることで義とされる

ローマ 3 章の残りの節では、イエス・キリストがわたしたちの直面する問題、すなわち、神は罪を受け入れることができならず、責任能力のある全ての人は罪を犯すという問題をどのように克服されるかをパウロが教えたことを説明します。これらの節を理解するため、生徒たちは次の言葉の意味を理解する必要があります。義とされる(「罪に対する罰を免れ、罪がないと認められること」[『聖句ガイド』「義認：義とされる」, [scriptures.lds.org](https://www.lds.org/scriptures/lds)])、

難しい言葉や語句の意味を明確にする

難しい言葉や語句を定義することは、聖文の内容を理解し、教義と原則を見いだすための重要なステップになります。預言者の言葉、辞書、生徒用資料、脚注、聖典研究補助資料は、生徒たちが難しい言葉や句を理解する助けとなります。

あがないの供え物（贖いの犠牲と憐れみの源）、恵み（「イエス・キリストの豊かな憐れみと愛を通じて与えられる神聖な助けまたは力」[*Bible Dictionary*, “Grace”の項]）。クラスの前にこれらの言葉の定義をホワイトボードに書いておく、またはこれらの用語が書かれた配付資料を各生徒に配るとよいでしょう。

一人の生徒に、ローマ 3:24 – 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのようにして神のみもとにいるためにふさわしくなることができるかを見つけてもらいます。

- ローマ 3:24 によると、わたしたちはどのように義とされる、または神のみもとにいるためにふさわしいと宣言されますか。

ローマ 3:24 のジョセフ・スミス訳では、「価なしに、神の恵みにより」という言葉が「神の恵みによってのみ」に変えられています。パウロが教えたように、わたしたちは皆罪を犯すため、救いを受けるに不十分なことから、この世でどれだけ善いことをしても、わたしたちは自分自身で救いを得る、またはそれに値するようになることはできないと説明します（ローマ 3:23 参照）。わたしたちは、神の恵み、すなわち神の聖なる力と人に能力を授ける力によってのみ救われます（モロナイ 10:32 – 33 も参照）。

- 26 節によると、神は恵みによって誰を義とされますか。（イエスを信じる者。）

クラスの最初に話し合った、パウロがどのように「信心」と「信仰」という言葉を使ったかについて生徒たちに思い出してもらいます。

- これらの節は、信仰をもってイエス・キリストの贖罪を受け入れる結果についてどのような原則を教えていますか。（生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。イエス・キリストの贖罪を信仰によって受け入れることで、全人類は義とされ、救いを得る。）
- わたしたちは、救い主の贖罪を信仰によって受け入れたことをどのように示すことができますか。

生徒が救い主イエス・キリストを必要としていること、また主の贖罪をより深い信仰によって受け入れるには何ができるかを生徒たちに深く考えてもらいます。クラスノートか聖典学習帳に、それぞれの気持ちを書いてもらいます。何人かの生徒に、救い主についての気持ちと証を分かち合ってもらいます。

ローマ 3:27 – 30 の要約として、パウロは、個人が義とされるのはモーセの律法を守ることによるのではなく、イエス・キリストを信じる信仰によることを再度強調したと説明します。

注釈と背景情報

ローマ 1:1 「神の福音」

イエス・キリストの福音とは、実際には、神の福音、つまり父なる神の福音です。この福音は、キリストが御父の計画における最も重要な擁護者かつ提唱者となられたため、「イエス・キリストの福音」として知られるようになりました。

ローマ 1:26 – 32 同性愛の行為は重い罪である

同性愛の行為、同性に引かれる性質についての教会の見解に関する詳細は、[lds.org/topics](https://www.lds.org/topics) の「同性に引かれる性質」の項を参照してください。

教えるためのその他のアイデア

ローマ人に対するパウロの書簡にある重要な用語を理解する

パウロが使った幾つかの言葉で、あまりなじみのないものを生徒たちが理解するのを助けるため、ローマ人への手紙の研究を始めるときに、次の定義が記載された配付資料を生徒たちに配るとよいでしょう（注記がある場合を除き、全ての定義は『聖句ガイド』〔*scriptures.lds.org*〕からのものです）。

福音—イエス・キリストの贖罪によって可能になった神の救いの計画。福音には、人が神のもとへ戻るのに必要な永遠の真理や律法、聖約、儀式が含まれる。

救い—肉体の死と霊の死から救われること。この意味では、パウロの言語における救いは永遠の命と同じである（アルマ 11:40 - 41; 教義と聖約 6:13; 14:7; ブルース・R・マッコンキー, *The Promised Messiah: The First Coming Of Christ* [1978 年], 129 - 130 参照）。

義認; 義とされる—罪に対する罰を容赦され、罪がないと認められること。人は救い主を信じる信仰を通して、救い主の恵みにより義とされる。この信仰は、悔い改めと、福音の律法と儀式に対する従順とによって示される。人はイエス・キリストの贖罪によって、悔い改めて義と認められ、罰を免れる。他に、罰を免れる道はない。

信仰—信仰とはイエス・キリストに対する確信と信頼であり、その確信と信頼があれば、人はイエス・キリストに従うようになる。人を救いへ導く信仰は、イエス・キリストを中心としたものでなければならない。

償い—「贖いの犠牲」(*Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 第 11 版 [2003 年], "propitiation") 憐れみの源、なだめること。

恵み—「恵みは、天の御父から御子イエス・キリストを通して与えられる賜物です。聖文で用いられている『恵み』という言葉は、主にわたしたちが主イエス・キリストの憐れみと愛を通じて受ける、救いを可能にする力と霊的な癒やしを指します。」（「恵み」『福音のテーマ』*lds.org/topics*）

行い—人が行うことで、善いことも悪いことも含む。人は皆、自分の行いによって裁かれる。

律法—神が定められた戒め、あるいは定め。天においても地上においても、祝福や罰は全て律法に基づいて与えられる。神の律法に従う人々は約束された祝福を受ける。……モーセの律法〔パウロは単に「律法」としている〕は、人々をキリストに導くための備えの律法であった。

ローマ4-7章

はじめに

パウロは、アブラハムがどのように恵みによって義とされたかを説明しました。パウロはその後、義とされた者に与えられ

る祝福について説明し、バプテスマは罪に対して死ぬこと、そしてキリストにあって生きることの象徴であると教えました。

教えるための提案

ローマ4-5章

パウロ、アブラハムが恵みによってどのように義とされたかを説明する
次の絵と文をホワイトボードに書き写します。

- a. 水が自分を救ってくれるというあなたの信仰
- b. 水を得て飲むための、あなたの努力
- c. 水



生徒たちに、自分が砂漠で喉が渇いて死にそうになっており、近くの丘の上には水の入ったボトルがあることを想像してもらいます。

- 次のどれがあなたを救いますか。(a) 水があなたを救ってくれると信じること、(b) 水までたどり着いてそれを飲む努力、(c) 水そのもの。(生徒の回答が正しいかどうかは言わないでください。)

この状況は、ローマ4-7章にある信仰、行い、恵みがどのように義認の教義に関連するのかについてのパウロの教えを理解するために役立つと説明します。(義認についてのパウロの教えは、ローマ1-3章で紹介されたことを生徒たちに思い出してもらいます。)

- ローマ1-3章のパウロの教えによると、義とされるとはどういう意味ですか。(罪に対する罰が容赦され、罪がない、または義にかなうと認められること。)

ローマ4章の背景として、ローマの一部のユダヤ人の聖徒たちは、義とされるためには自らの努力とモーセの律法が重要であると、ことさらに強調していたことを説明します。

- 今日、一部の人々はどのように義認について同じような誤解をしていますか。
- ホワイトボードに書かれた選択肢の中で、自分の行いによって救われるという考えを示すものはどれですか。(選択肢bの横に「行い」と書きます。)

パウロは、多くのユダヤ人が義とされたと見なしていた古代の族長アブラハムについてユダヤ人たちに思い出してもらうことによって、パウロの時代に存在したこの誤解を正そうとしたと説明します。

一人の生徒に、次のジョセフ・スミス訳ローマ4:2-5を声に出して読んでもらい、他の生徒にはアブラハムが義にかなうと判断された理由に耳を傾けるように言います。「もしアブラハムが、行いの律法により義とされたのであれば、彼は神を誇るのではなく、自身を誇ることができよう。なぜなら、聖書は何と言っているか、『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』とある。行いの律法によって義とされた人に対する報酬は、恩恵としてではなく、当然の支払いとして認められる。しかし、行いの律法によって義とさ

れることを求めなくても、不信心な者を義となさらない御方を信じる人は、その信仰が義と認められるのである。」

- アブラハムが義とされなかったのは何によってでしたか。（「行いの律法」）
- ローマ1-3章に記録されているパウロの教えによると、わたしたちが行いの律法によって義とされないのはなぜですか。（パウロは「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって〔いる〕」〔ローマ3:23〕と教えた。行いの律法によって義とされるには、決して罪を犯さないことが必要とされる。）

ローマ4:6-8に記録されているとおり、パウロは、行いだけでは義とされず、罪がないとされることもないことをさらに説明するため、ダビデ王の言葉を引用したことを説明します。

ローマ4:9-15の要約として、一人の生徒に次の文を声に出して読んでもらいます。

割礼を受けており、モーセの律法を守る者だけが信仰深さに対する祝福を受けることができるという考えを覆すため、パウロは、アブラハムが割礼を受ける前に忠実さに対する祝福を受けたこと、また割礼はアブラハムの忠実さのしるしであったことを教えました。アブラハムは、神と聖約を交わし、割礼を受けた後も信仰深くあり続けました。このようにして、アブラハムは、割礼を受けた（ユダヤ人）か受けていない（異邦人）かにかかわらず、全ての信仰深い人々の父となりました。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳ローマ4:16（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのように義とされるかについてのより完全な説明を見つけてもらいます。

- わたしたちはどのように義とされますか。（生徒は次のような教義を見つけるでしょう。わたしたちは信仰と行いにより、恵みを通して義とされる。）

生徒たちに、「恵み」はイエス・キリストの贖罪によってわたしたちに与えられる祝福、憐れみ、助け、力を指すことを思い出してもらいます。

- ホワイトボードに書かれている選択肢の中で、イエス・キリストの贖罪と恵みを示すものはどれですか。イエス・キリストを信じる信仰を示すものはどれですか。（生徒たちが答えた後、選択肢cの横に「イエス・キリストの贖罪と恵み」、選択肢aの横に「信仰」と書きます。）
- わたしたちがこのような状況にいたとして、水がなかったとしても、信念と努力だけで救われることができると思えますか。（いいえ。）この状況にある水は、どのようにイエス・キリストの贖罪と恵みにたとえることができますか。

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「救いは、従順という貨幣で買うことはできません。神の御子の血によって贖い取っていただくものなのです〔使徒20:28参照〕。……

恵みは神の賜物であり、神の戒めの一つ一つに従いたいというわたしたちの望みこそが、わたしたちが自分の不完全な手を伸ばして天の御父が授けてくださる神聖な賜物を得ようとする理由なのです。」（「恵みの賜物」『リアホナ』2015年5月号、109-110）

ホワイトボードに書かれた状況は、信仰、行い、恵みがどのように義とされることに寄与するかを理解するために役立ちますが、わたしたちが救い主の恵みを受けることができる全ての方法を表してはいないことを指摘します。イエス・キリストは、わたしたちを義とし、罪から清めるキリストの恵みを表している、命を救う水を提供してくださるだけでなく、わたしたちがその水、つまりキリストの恵みを得るために必要な信仰と強さを持つことも可能にしてください。わたしたちは、キリストを信じる信仰を働かせ、善い行いをする前に、しているときに、した後で、この恵みによる祝福を受けることができます。

一人の生徒に、十二使徒定員会会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「贖いの力は悔い改めを可能にし、罪によって生じる絶望を退けます。また、死すべき人間の限られた能力では決して認めることも成し遂げることもできない方法で、良いものに気づき、善い行いをし、善い人になれるようにわたしたちを強めてくれます。」（「そこで彼らは恐れを静め」『リアホナ』2015年5月号、47）

- 救い主の恵みは、わたしたちが主を信じる信仰を働かせ、善い行いをするためにどのような助けとなりますか。
- キリストを信じる信仰を示し、キリストの恵みを通じて義とされるようにわたしたちができる行いにはどのようなものがありますか。（悔い改めて、戒めを守り、福音の儀式を受ける。）

生徒たちに 2, 3 人ずつのグループに分かれてもらい、信仰と義にかなった行いが、どのように義とされるための救い主の恵みを受ける助けとなるかを、お互いに説明し合ってもらいます。(主イエス・キリストと、主のわたしたちを救う力を信じる信仰は、救い主の恵みによってわたしたちが義とされるのに必要な儀式を受け、また神の戒めを守る動機となることを、生徒たちが必ず理解するようにします。)

ローマ 5 章の要約として、信仰によってキリストの恵みにあずかる人には平安が訪れるとパウロが教えたことを説明します(1-2 節参照)。パウロはさらに、イエス・キリストの贖罪によってわたしたちに与えられた恵みは、墮落の影響を克服するのに十分すぎるほどであると説明しました。

ローマ 6-7 章

パウロ、わたしたちが罪から解放され、永遠の命を受けする方法を教える

次の状況でどのような対応を取るか、生徒たちに尋ねます。

あなたの友人はいつか伝道に出る計画を立てていますが、現在、主の標準に反する選択をしています。あなたが友人の行動について心配していると言うと、彼は「大したことじゃないよ。贖罪があるから、伝道に出る前にいつでも悔い改めることができるからね」と言います。

神殿に行く、伝道に出るなどの前に、後で悔い改めるつもりで故意に神の戒めを破る人がいることを説明します。ローマ 6 章を研究しながら、なぜこの態度が恵みの教義について重大な誤解を示していることになるのか、その理由を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに二人一組になってもらいます。それぞれの組で一緒に、ローマ 6:1-6, 11-12 を声に出して読んでもらい、パウロの教えがその友人の考えをどのように正すことができるかを話し合ってもらいます。十分な時間を取ってから、次の質問をします。

- パウロは、救い主の恵みが自動的にわたしたちを罪から解放してくださるという誤解にどのように応えましたか。
- 「罪に対して死んだ」(2 節) や「死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られた」(4 節) とはどのような意味だと思いますか。
- これらの節によると、水に沈めるバプテスマは何を象徴しますか。(生徒の答えを聞きながら、次の教義を見いだすように助けます。水に沈めるバプテスマは、わたしたちの罪に対する死と霊的な命の新しさを象徴している。)

わたしたちがバプテスマを受けるときに始める新しい霊的な人生には、罪の赦しを受けると、神の戒めに従う決心をすることが含まれると説明します。

生徒たちがローマ 6 章にある別の原則も見いだす備えをするため、お金を見せませす。

- 従業員の給料を払うのは誰ですか。雇用者が、他の雇い主の従業員に給料を払わないのはなぜですか。

生徒たちにローマ 6:13 を黙読してもらい、自分自身をささげ、仕える対象となり得る二人の「雇い主」または主人を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

ホワイトボードに次の表を描きます。

罪の報酬	神の報酬

生徒たちに、ローマ 6:14-23 を黙読してもらいます。クラスの半分に罪の「報酬」(23 節) または結果を見つけてもらい、残りの半分の生徒には神の報酬を見つけてもらいます。時間を十分に取った後、数人の生徒たちにホワイトボードに来てもらい、見つけた事柄を表に書いてもらいます。(生徒たちが、「罪の報酬」の下には「死」[16, 21, 23 節参照] と書き、「神の報酬」の下には「義」[16 節参照]、「聖さ」[19, 22 節参照]、「永遠の命」[22, 23 節参照] と書くようにします。) 罪の報酬としての死は、「神とその影響からの分離」を指し、「義に関する事柄について死んだ状態になること」を意味すると説明します(『聖句ガイド』「死(霊の)」scriptures.lds.org)。

• 罪に服従することの結果についてローマ6:16から学ぶことができる原則は何ですか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次の原則を見つけるでしょう。自分自身を罪に服従させると、わたしたちは罪の僕となる。)

• 罪に服従することは、どのようにわたしたちをその罪の僕としますか。

誰かが罪に服従することによって自由を失ったときの状況を生徒たちに深く考えてもらいます。

「神の報酬」の下にあるリストに注目してもらいます。

• 罪ではなくて義に仕えることの恩恵は何ですか。

• 罪から解放され、永遠の命という賜物を受ける方法についてのパウロの教えから学ぶことができる原則とは何ですか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の原則を見つけるでしょう。自分自身を神にささげるなら、わたしたちは罪から解放され、永遠の命の賜物を受けることができる。)

• わたしたちはどのように自分自身を神にささげることができますか。

• 自分自身を神にささげることによって、どのような方法で罪からの解放を経験しましたか。

自分自身を神にささげることの重要性について証します。自分自身をより一層神にささげる方法についての目標を書き留めるよう生徒たちに勧めます。

ローマ7章の要約として、教会員がモーセの律法から解放されてキリストとつながったことを教えるため、パウロは結婚の比喩を使ったことを説明します。パウロはまた、「肉」(18節)、つまり肉体的な欲求と、「内なる人」(22節)、つまり霊性との間の葛藤についても書きました。

このレッスンで教えられた真理について証して、レッスンを終わります。

気持ちと証を促す 質問をする

生徒が教義や原則を理解したら、その教義や原則に関連する霊的な経験についてよく考えさせ、福音の真理が真実であり、彼らの生活にとって重要であることをもっと深く感じるように導く質問をすることができます。多くの場合、そのように感じると、もっと忠実に福音の原則に従って生活しようという、より強い望みを心の中に持つようになりま

家庭学習クラスのレッスン

使徒 20 章 — ローマ 7 章 (単元 20)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が使徒 20 章—ローマ 7 章 (単元 20) を学習して学んだ出来事、教義、原則についての要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (使徒 20 – 22 章)

パウロの宣教師としての旅から、生徒たちは、主の真の僕は、自分の義務を忠実に果たし、それを行うことに喜びを感じることを学びました。また、主の真の僕は、個人の犠牲にかかわらず、神の御心を進んで行う意志があることも学びました。パウロの改宗についての記述から、生徒たちは、イエス・キリストの言葉に従うとき、わたしたちは完全に改心することができると学びました。

第 2 日 (使徒 23 – 28 章)

アグリッパ王の前でパウロが述べた証を研究したとき、生徒たちは、わたしたちが悔い改めて神に立ち返るならば、生活の中でのサタンを克服し、罪に対する赦しを受け、日の栄えの王国のための資格を得ることができると学びました。また、イエス・キリストに帰依するには、福音を信じ、福音に従った生活をする完全な決心をする選択をしなければならないという真理も見いだしました。パウロのローマへの旅の記述から、忠実であれば、神は試練をわたしたちや他の人に対する祝福に変えるよう助けてくださるということを、生徒たちは学びました。

第 3 日 (ローマ 1 – 3 章)

ローマ人へのパウロの書簡から、生徒たちは次の真理を学びました。イエス・キリストの福音にはわたしたちを救う力があるという証を得たら、それを他の人々と分かち合うことを恥としなくなる。責任能力のある全ての人は罪を犯し、神の赦しが必要である。イエス・キリストの贖罪を、信仰をもって受け入れることにより、全人類は義とされ、救いを授かる。

第 4 日 (ローマ 4 – 7 章)

ローマ人の聖徒に対するパウロの教えから、生徒たちは、わたしたちが信仰と行いにより、恵みを通して義とされることを学びました。また、生徒は以下の真理についても研究しました。水に沈めるバプテスマは、わたしたちの罪に対する死と豊的な命の新鮮さを象徴する。自分自身を罪に服従させると、わたしたちは罪の僕となる。自分自身を神にささげると、罪から解放され、永遠の命という賜物を受けられることができる。

はじめに

パウロは囚人として、冬の季節に船でローマに連れて行かれました。出発前、パウロはこの旅が「危害と大きな損失」(使徒 27:10) につながると警告しました。パウロは嵐の中、船は破壊されるが船に乗っている人々は助かるだろうと預言しました。パウロの預言は成就しました。

教えるための提案

使徒 27 章

パウロ、ローマへの道中、難破する

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の言葉を書いておきます。(これらの言葉は『若人の強さのために』4, 11, 16 にあります。)

「同じ相手とばかり頻繁にデートするのは避けてください。」

「いかなる形であれ、下品で、不道德で、暴力的な娯楽、またわいせつな娯楽に心や目を向けたり、加わったりしないでください。」

「友人が間違ったことをするようあなたに強く働きかけてきたら、たとえ孤立することになっても、正しいことを擁護する人になってください。」

一人の生徒に、ホワイトボードに書かれた言葉を声に出して読んでもらいます。

- 一部の青少年がこれらの警告や勧告に耳を傾けないことを選ぶのはなぜでしょうか。

使徒 27 章を研究しながら、主の僕の警告や勧告に従うために信仰を強める助けとなる真理を見つけるよう生徒に言います。

生徒たちに、パウロは反逆罪の冤罪を被り、投獄されていたことを思い出してもらいます。パウロはローマ市民としての権利をローマのカイザルに訴えました。使徒 27:1–8 の要約として、パウロはローマの衛兵の監督の下、他の囚人とともに船でローマ

に向かったことを説明します。何日も航海した後、彼らはクレテ島の港に停泊しました。港を出帆しようとしていたとき、パウロはこの旅を続けるべきではないと船上の人々に警告しました。

一人の生徒に、使徒 27：9 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロと船上の人々がローマへの旅を続けると何が起きるとパウロが警告したのか見つけてもらいます。9 節にある「断食」という言葉は、自主的に食べることを控えることを意味すると説明する必要があるかもしれません。ここでの「断食期」とは、おそらく贖罪の日と呼ばれるユダヤ教の聖日を指していたと思われる。この日は一般的に、激しい嵐のために地中海を航海するのは安全ではないと見なされる季節の始まりを知らせるものでした。贖罪の日は、通常、9 月下旬または 10 月初旬に行われました。

- ・使徒 27：10 によると、パウロは彼らの旅を続けると何が起きると警告し、預言しましたか。

一人の生徒に、使徒 27：11 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、船上のローマの百卒長と他の人たちはパウロの警告にどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- ・百卒長が、パウロよりもその船の船長を信じる方が簡単だったのはなぜだと思いますか。
- ・12 節によると、船上のほとんどの人々がパウロの警告を無視したのはなぜですか。（ここでの「港」という言葉は避難港を指し、「適【する】」とは快適または便利であるという意味であることを説明する必要があるかもしれません。）

数人の生徒に、使徒 27：13 - 21 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、船がローマに向かって進み続けるにつれて何が起こったかを見つけてもらいます。

- ・船がローマに向かって進み続けるにつれて何が起こりましたか。
- ・20 節によると、船上にいた人たちは大嵐の間、自分たちの状況についてどのように感じましたか。
- ・21 節から、わたしたちが主の僕の警告や勧告を無視する場合に起こり得る事柄についてどのような原則を学ぶことができますか。（生徒は異なる言葉を使うでしょうが、次の原則を見つけてください。**主の僕の警告や勧告を無視するなら、わたしたちは自らを危険にさらすことになる。**この原則をホワイトボードに書きます。危険には、従っていれば授かっていたであろう祝福を失うことも含まれると説明します。）

百卒長とその他の船上の人々がパウロの警告や勧告を無視した理由を生徒とともに確認します（使徒 27：11 - 12 参照）。

- ・今日、人々は主の僕の警告や勧告を無視することに対して、どのように同じような言い訳をするでしょうか。

『若人の強さのために』または最新の総大会の説教を用いることで、あなたのクラスの生徒に関連していると感じる預言者の警告や勧告について別の例を与えることもできます。

- ・預言者からのそのような警告や勧告を無視することによって、人は自分自身をどのような危険にさらしますか。

一人の生徒に、使徒 27：22 - 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが船上の人々に言ったことを見つけてもらいます。

- ・もし自分がひどい嵐の真ただ中にその船に乗っていた場合、パウロのどのような言葉によって慰められるでしょうか。
- ・パウロは、この船に何が起こると預言しましたか。

使徒 27：27 - 30 の要約として、嵐の 14 日目の夜、水夫が海に 4 つのいかりを投げ下ろし、船が岩に衝突するのを防いだと説明します。その後、水夫は船のへさきに行き、いかりをさらに投げ入れようとするふりをしました。しかし実際には、水夫たちは船が沈むのを恐れ、船を見捨てて小舟に乗って逃げようとしていました。

一人の生徒に、使徒 27：31 - 32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが百卒長と兵士たちに与えた警告を見つけてもらいます。31 節の「あの人たち」という言葉は、逃げ出そうとしていた水夫たちを指すと説明します。

- ・パウロは百卒長と兵士たちにどのような警告を与えましたか。
- ・兵士たちはパウロの警告や勧告にどのように反応しましたか。（彼らはパウロの警告に従い、小舟の綱を断ち切って、その流れで行くままに任せたことで、水夫が逃げるのを防いだ。）

使徒 27：33 - 44 の要約として、パウロが船上の人全員に食事をして力をつけるよう提案したことを説明します。その日の遅く、陸地に近づいたときに船は座礁しましたが、全員が無事に避難しました。使徒 27：22 - 26 に記録されている、船は失われるが誰も死なないというパウロの預言を生徒たちに思い出してもらいます。

- ・この話からは、主の僕の勧告や警告に従うならばどのようなことが起こり得るかについて、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒は次のような原則を見いだすでしょう。**主の僕の警告や勧告に従うなら、主はわたしたちに対する約束を成就してください。主の僕の警告や勧告に従うなら、わたしたちを脅かす危険に耐えることができる。**ホワイトボードにこれらの原則を書きます。）

生徒たちが使徒 27 章で見いだした原則を理解するのを助けるため、一人の生徒に、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「自分の人生を振り返ってみると、靈感を受けた勧告になかなか従わなかったり、自分の場合は例外だと決めつけてしまったりしたときはいつも、自分を危険にさらしていたことが分かります。逆に、預言者の勧告に耳を傾け、祈りを通してそれを確認し、その教えに従ったときには、自分が安全な方向に向かっていることが分かりました。」（『助言の中に安全を見いだす』『聖徒の道』1997 年 7 月号, 29）

- ・主の僕の警告や勧告に従うことは、どのようにあなたの霊的、また肉体的な安全を脅かす危険に耐える助けとなるでしょうか。

自分が主の僕からの警告や勧告を無視しているかどうかを検討するか、自分が受けた警告や勧告にさらによく従うことができる方法について考えるよう生徒に言います。生徒に、その勧告にさらによく従う方法に関する目標を書き留めてもらいます。

次の単元 (ローマ 8 章 - 1 コリント 6 章)

次の一週間、ローマ 8 - 16 章と 1 コリント 1 - 6 章を研究しながら、ローマとコリントの教会員たちが邪悪で問題の多い世界で神により近づくための助けとなるように、使徒パウロが彼らに

与えた賢明な勧告について学ぶと生徒たちに説明します。生徒たちに、次の質問に対する答えを見つけてもらいます。わたしたちの肉体は、なぜ神殿にたとえられるのでしょうか。教会員はお互いの違いをどのように解決するべきでしょうか。

第101課

ローマ 8 - 11 章

はじめに

パウロは、靈的に生まれ変わることや、天の御父の御心に従うことの祝福について教えました。また、イスラエルによる神

の聖約の拒絶や、異邦人の間に福音を広めることについても教えました。

教えるための提案

ローマ 8 章

パウロ、靈的に生まれ変わることの祝福について説明する

次の質問をしてレッスンを始めます。

- 受け継ぎとは何ですか。
- 誰の所有物でも受け継ぐことができるとすれば、誰の所有物を選びますか。それはなぜですか。
- 人の所有物は、一般的に誰によって受け継がれますか。

天の御父が所有されているもの全ての相続人として人が受け取ることのできる祝福について、生徒たちに考えてもらいます。ローマ 8:1-18 を研究しながら、天の御父のお持ちになっているもの全てを受け継ぐには何をしなければならないかを見つけるよう生徒たちに勧めます。

数人の生徒に、ローマ 8:1, 5-7, 13 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、「肉に従う」こと、つまり罪を犯す性質に屈すること、そして「靈に従う」ことについてパウロが何を教えたかを見つけてもらいます (5 節)。

- 「肉の思い」とはどのような意味ですか (6 節)。(肉体の激情や情欲を満たすことに集中すること)。
- 「靈の思い」とはどのような意味ですか (6 節)。

「からだの働きを殺す」(13 節)とは、死すべき体に関連する弱さ、誘惑、罪を殺す、またはそれらを抑制することを意味すると説明します (モーサヤ 3:19 参照)。

- 13 節から、罪を犯すという生まれながらの人の性質を克服するために何が役立つかについて、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒が次の原則を見つけられるように助けます。御靈の影響に従うときに、罪を犯すという生まれながらの人の性質を克服することができます。この原則をホワイトボードに書きます。)

一人の生徒に、ローマ 8:14-16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが御靈に従う人をどのように呼んでいるかを見つけてもらいます。

- パウロは御靈に従う人をどのように呼んでいますか。

「子たる身分を授ける靈」(15 節)という語句に注目してもらいます。「わたしたちの靈」(16 節)、つまりわたしたちの靈の体は、文字どおり天の御父の靈の子供として、天の御父によって創造されたという意味であると説明します。しかし、福音の聖約における御父の息子や娘として、人が靈的に生まれ変わる、またはその身分を授かるのは、儀式を通じて神と聖約を交わし、その後それらの聖約を守ることによります。聖靈がともなうにくださるということは、そのような人々が創造の結果として神の靈の子であるだけでなく、神の聖約の子であることを示しています。

一人の生徒に、ローマ 8:17-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の聖約の子たちが何になれるかを見つけてもらいます。

- 神の聖約の子たちは何になれるか。(次の原則をホワイトボードに書きますが、「忠実な」という言葉の部分は空白にしておきます。わたしたちが神の忠実な聖約の子でいるならば、天の御父がお持ちの全てのものにおいてイエス・キリストと共同の相続人となることができる。)

- 共同の相続人とは何ですか。（他の相続人と同等の受け継ぎを受け取る人。）
- 17節によると、神の聖約の子たちはキリストと共同の相続人となるために何をしなければなりませんか。

「〔イエス・キリストと〕苦難をも共に〔する〕」（17節）とは、救い主が主の贖いの犠牲の一環として苦しまれた事柄をわたしたちも苦しむという意味ではありません。そうではなく、救い主のように、全ての不信心を捨て、戒めを守り、信仰をもって逆境に耐えるということです（マタイ16:24；ジョセフ・スミス訳マタイ16:26〔『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」参照）。「忠実な」という言葉を追加して、ホワイトボードの原則を完成させます。3つの列がある表をホワイトボードに書きます。最初の列に「条件」、中央の列に「逆境」、3つ目の列に「受け継ぎ」というタイトルを書きます。次の質問に対する生徒たちの答えを、適切な列に列挙します。

- 神の忠実な聖約の子であると見なされるために、わたしたちがしなければならない事柄にはどのようなものがありますか。
- 神の忠実な聖約の子として生活しようと努力するときに経験する可能性のある逆境の例にはどのようなものがありますか。
- 神の忠実な聖約の子として生活しようと努力するなら、天の御父からどのような祝福を受け継ぐことができますか。（考えられる答えの一つとして、天の御父のようになることができるというものがあります。）

生徒たちにホワイトボードに書かれたリストについて深く考えてもらいます。

- 18節にあるパウロの教えを読んで、キリストと共同の相続人となるための要件とその祝福を比較した場合、どう思いますか。それはなぜですか。

ローマ8:19-30では、御霊はわたしたちの弱さを助け、何のために祈ればよいかを知るのを助けてくださると、パウロが教えたことが記されていると説明します。また、イエス・キリストが前世において神の子たちの救い主となるように召されたことも記されています。

注-ローマ8:29-30にある「あらかじめ定め〔る〕」という言葉は、予任された、または召されたという意味です。生徒たちは、エペソ1章のレッスンで予任についてのパウロの教えを幾つか研究します。

数人の生徒に、ローマ8:28, 31-39を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが現世における逆境、困難、苦難に関連させて神の愛について教えた真理を見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳のローマ8:31では、「敵〔する〕」という語句が「打ち勝つ」に変えられていることを説明します。

- これらの節からどのような真理を学ぶことができますか。（生徒たちは次の原則を含む、さまざまな原則を見つけるでしょう。わたしたちが神を愛するならば、万事を益となるようにして下さる。イエス・キリストによって、わたしたちは現世での困難や苦難を全て克服することができる。どんなものもイエス・キリストの贖罪に示されている神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない。）
- イエス・キリストとその教えは、わたしたちが現世における困難や苦難を乗り越えるためにどのような助けとなりますか。
- あなたが経験したことのある現世における困難や苦難を考えると、これらの節の中で印象に残る箇所はどこですか。それはなぜですか。
- 困難や苦難の渦中で神の愛を経験したことはありますか。

生徒たちに、イエス・キリストを通して、困難や苦難を乗り越えることができるように、何をしよう促しを感じたかをクラスノートや聖典学習帳に書くよう勧めます。書いたことを自分の生活に応用するよう生徒たちを励まします。

応用するよう促す 質問をして招く

結局、福音を教える目的は、生徒が聖典に見いだされる教義と原則を応用し、改心して、忠実で従順な人々に約束されている祝福を受けるように助けることです。応用を促す質問は、生徒が生活の中でこれらの原則をどのように応用できるかを知るように助けるのに重要な役割を果たします。

ローマ 9 - 11 章

パウロ、イスラエルが神の聖約を拒んだこと、福音を異邦人にもたらすことについて教える

生徒たちに、次の状況でどのような対応を取るかを深く考えてもらいます。

1. ビショップと一緒に、教会で活発な家族の中で一人だけ活発でない若い男性を訪問しました。ビショップが誠意を持って、福音に従って生活しないことによる結果を理解するようにこの若い男性を助けようとする、その若い男性は「心配は無用です。わたしはバプテスマを受けましたし、両親も活発です。神がわたしに祝福を与えてくださらないことはないですよ」と言いました。
2. あなたは最近、異なる宗教を持つ若い女性と友達になりました。彼女はあなたの生活で従っている標準について尋ねました。主の標準について幾つか説明すると、彼女は「あなたがなぜそんなことを全てやっているのか理解できないわ。救われるには、イエス・キリストを信じるだけでよいのに」と言いました。

ローマ 9 - 11 章を研究しながら、福音の祝福を受けるために必要な事柄を理解するのに助ける真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、ローマ 9 - 11 章にあるパウロの教えについての次の説明を声に出して読んでもらいます。

ローマ 9 - 11 章に記録されているとおり、パウロは多くのユダヤ人が行った選択について話すとき、「ユダヤ人」と言う代わりに「イスラエル」や「イスラエル人」という用語を使用しました。神の聖約の子たちは、時折イスラエルの家と呼ばれることがあります。旧約聖書の時代、神はヤコブ、つまりイスラエルの子孫をアブラハムとの聖約の一部となるように選ばれました（ローマ 9:4-5 参照）。これには、福音、神権の権能、永遠の命、永遠の子孫、受け継ぎの地、福音で世界を祝福する責任などの素晴らしい祝福が含まれていました。

一人の生徒に、ローマ 9:6, 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イスラエルの家の人々についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロはどういう意味で「イスラエルから出た者が全部イスラエルなのではな [い]」と言ったと思いますか（6 節）。（多くのユダヤ人は、アブラハムの血統が聖約の祝福を保証していると誤って確信していた。）

ローマ 9:25 - 30 では、教会に入った異邦人が聖約の祝福の全てを受け、イエス・キリストを信じる信仰を働かせることによって義とされるとパウロが教えたことが記されていると説明します。

数人の生徒に、ローマ 9:31 - 33; 10:1 - 4 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの時代の一部のイスラエル人が、どのように神の前で義とされようとしたかを見つけてもらいます。「義の律法」（ローマ 9:31）とはモーセの律法を指し、「つまずきの石」（ローマ 9:32, 33）とはイエス・キリスト、「神の義」（ローマ 10:3）とはイエス・キリストとキリストの福音を指すことを説明します。

- ローマ 9:31 - 33 によると、一部のイスラエル人はどのように神の前で義とされようとしたか。（モーセの律法の業を厳密に行うことによって義とされようとした。）
- ローマ 10:3 - 4 によると、これらのイスラエル人は何を拒絶しましたか。（イエス・キリストと、キリストによって可能となった義。）

ローマ 10:8 - 13 に記録されているとおり、パウロは「信仰による義」（ローマ 9:30）をどのように得ることができるかを詳しく述べたと説明します。数人の生徒に、ローマ 10:8 - 13 を、順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この義の状態を得る方法を見つけてもらいます。

- 信仰からもたらされる義を得るには、人は何をしなければなりませんか。

9 節で「告白」と訳されているギリシャ語の言葉は、受け入れたこと、つまり聖約を公に認めることを意味し、「信じる」と訳されたギリシャ語の言葉は、信じて疑わない決心を意味すると説明します。救い主に対するこの厚い信頼は、救い主が定められた方法で主を受け入れたことを人々が公に認めることにつながります。これらの聖任された方法には、神の戒めに対する従順、悔い改め、バプテスマと聖霊の賜物などの救いの儀式を受けることが含まれません。

- パウロの教えによると、救いを含む神の聖約の祝福を受けたいと望む場合、わたしたちは何をしなければなりませんか。（生徒が次の原則を見つけられるよう助けます。イエス・キリストとキリストの福音を受け入れて従うなら、わたしたちは神の聖約の祝福を受け、救われる。この原則をホワイトボードに書きます。）

一部の人がローマ 10:9, 13 を使って、救われるためにしなければならないのはイエス・キリストへの信仰を声に出して告白することだけであると主張していることを指摘します。生徒たちに、レッスンの初めに提示した状況を思い出してもらいます。

- このレッスンの真理は、どのようにこれらの状況に対応するための役に立ちますか。

ローマ 10 - 11 章の残りの部分の要約として、キリストを信じる信仰を養うには、神の言葉を聞くことが必要不可欠であるとパウロが教えたと説明します。パウロは、異邦人がイスラエルの家の養子となることを示すため、野性のオリーブの木の枝を栽培されたオリーブの木につなぐという比喩を使いました（モルモン書ヤコブ 5:3 - 14 も参照）。パウロは、福音が再度ユダヤ人に与えられることも教えました。

このレッスンで話し合われた真理について証して、レッスンを終わります。

ローマ 12 - 16 章

はじめに

パウロは、ローマの教会員に自らの体を神への生きた供え物としてささげ、神の戒めを守るように教えました。パウロはまた、個人的な好みのために不和が生じるときに平和を促す方法

も聖徒たちに教えました。この書簡を終えるに当たり、パウロは欺こうとする者について警告しました。

教えるための提案

ローマ 12 - 13 章

パウロ、聖徒たちに、自分の体を生きた供え物として神にささげ、神の戒めを守るように教える

形が違う容器二つと、水の入ったコップを一つクラスに持参します。水と容器の一つを見せます。

- 水をこの容器に入れると、水の形はどのように変わりますか。(容器と同じ形になる。)

水をその容器に注ぎます。次にその水を二つ目の容器に注ぎ、水が再度その容器の形に従って変わったことを指摘します。

この実演では、水は人々を表し、容器はさまざまなこの世的な考えと慣習を示すと説明します。

- この世的な考えと慣習に継続的に従うことから生じる危険にはどのようなものがありますか。

一人の生徒に、ローマ 12:1-2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがローマの教会員に対して何を行うよう熱心に勧めたかを見つけてもらいます。

- パウロはこれらの教会員に対して何を行うよう熱心に勧めましたか。

教会員に自らの体を「生きた……供え物」(1 節)としてささげるよう懇願する際、パウロはこれと、動物を犠牲にする旧約聖書の慣習の類似点を示したと説明します。これらの動物は神へのささげ物でした。

- パウロはどのような意味で「あなたがたのからだを、神に……生きた……供え物としてささげなさい」と言ったと思いますか(1 節)。(教会員は罪深い望みを捨てて、自らを完全に神にささげなければならない。)

- 1-2 節のパウロの勧めに基づくと、神はわたしたちに何を期待しておられますか。(生徒が次の真理を見つけられるよう助けます。神は、わたしたちが自らの人生を神にささげ、この世に従わないことを期待しておられる。この真理をホワイトボードに書きます。)

ローマ 12-13 章全体を通して、パウロは教会員に、自らの人生を神にささげ、この世に従わないようにする助けとなる多くの原則を教えたと説明します。生徒たちがこれらの原則を研究するのに助けるため、生徒たちを 3 人ずつのグループに分けます。生徒それぞれに、次の指示が上部に書かれた紙を配ります。(レッスンの前に、各用紙にある 3 つの参照聖句の一つを丸で囲んでおきます。各グループの生徒それぞれが、丸がつけられた異なる聖句の用紙を受け取るようにします。)

福音を教え学ぶときの基本を強調する

教えるときは、「福音を教え学ぶときの基本」を強調します。すなわち聖文の背景と内容を理解すること、教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、応用することです。これらの基本は、使うべき方法ではなく、達成すべき結果です。これらは、思いと心に福音を注ぎ込むために生徒が取り入れるパターンとなります。

ローマ12:9-16	ローマ12:17-21	ローマ13:8-13
------------	-------------	------------

1. 用紙上部にある丸がついた聖句を読みます。
2. 読んだ節にあるパウロの教えの一つを選び、下の余白にそれを書きます。また、この教えに従って生活することが、どのようにわたしたちの人生を神にささげ、この世に従わないようにする助けとなるかを書きます。(もしあなたが最初にこの用紙を受け取った人ではない場合、前の人が書き込んだ事柄の下にあなたの考えを書き加えるか、丸がついた聖句における別の教えについて書きます。)

用紙に書かれた指示どおりに、この活動は3分で完了するよう生徒に説明します。3分経過したら、生徒たちにそれぞれの用紙をグループ内の別の生徒に渡してもらいます。各生徒が3つの聖句全てを読み、コメントを書けるまで、この活動を繰り返します。生徒たちが最後に元々持っていた用紙を受け取るようにします。

生徒たちが用紙に書かれたコメントに目を通す時間を取ります。数人の生徒たちに、自らの人生を神にささげ、この世に従わないようにする方法について学んだ事柄を発表してもらいます。

一人の生徒に、ローマ13:14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに何を実行するように勧告したかを見つけてもらいます。

- パウロはどのような意味で「あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい」と言ったと思いますか。
- ローマ12-13章で研究した教えは、どのようにわたしたちがイエス・キリストのようになる助けとなりますか。(生徒たちが答えた後、前にホワイトボードに書いた真理を次のように修正します。わたしたちが自らの人生を神にささげ、この世に従うことをやめれば、さらにイエス・キリストのようになることができる。)
- 救い主は、どのような点で自らの人生を神にささげ、この世に従わないことの模範ですか。
- わたしたちは、どのようにこの世の標準に従わないようにすることができますか。(安息日の過ごし方、服装、福音の原則に反する文化もしくは社会問題についての見解など、具体的な例を挙げるとよいでしょう。)

生徒たちに、知人で、自らの人生を神にささげ、この世に従わないよう努力をしている人について考えてもらいます。

- 誰について考えましたか。それはなぜですか。
- その人は、どのような点でより救い主のようになったのでしょうか。

生徒たちに、自らの人生を神にささげ、この世に従わないようにすることができる方法の一つ、聖典学習帳またはクラスノートに書いてもらいます。生徒たちに、書いたことを応用するよう励まします。

ローマ14:1-15:3

パウロ、個人的な好みに関する争いを避けるよう教会員に勧告する

生徒たちに、次の質問に「はい」と答える場合に手を挙げてもらいます。あなたの住んでいる場所の文化をより一層反映させるために、これらの質問の幾つかを変えてもよいでしょう。変更する場合は、明確に定義された戒めへの従順さに関する事柄ではなく、個人の選択に関する事柄の例を選ぶようにします。これらの質問に対する答えは全て「はい」であるべきです。

- 末日聖徒として、(1) 肉食主義者であってもよいですか。(2) チョコレートを食べてもよいですか。(3) 公の場で半ズボンをはいてもよいですか。(4) 安息日に科学技術を使ってもよいですか。(5) 他の宗教や文化的習慣に根差す祭日のお祝いに参加してもよいですか。

主の戒めによって明確に必要とされている、または禁じられている行為もありますが、その他の事柄は教会員個人の好みと分別に任されていることを説明します。これらの事柄には、娯楽、衣服、食習慣、安息日の過ごし方、子供に対する親のルールなどの分野における選択が含まれます。主は、慎み深い半ズボンを履くなど、これらの事柄における選択の指針となる標準と戒めを与えてくださいましたが、判断の中には個人の分別に任されているものもあります。教会員は時折、このような分野における判断を、それぞれの特定の状況または必要に対する靈感に基づいて行うことができます。

ローマ 14:1 - 15:3 を研究しながら、教会でどのように個人の好みに関する事柄を扱うべきかについてパウロが教える真理を探そう生徒たちに勧めます。

ローマ 14:1 - 5 の要約として、パウロの時代の教会員が直面した個人の好みに関する問題の一つは、個人の食習慣であったと説明します。一部の人は、食生活をまったく制限していませんでした。他の人は、モーセの律法の下における食習慣の律法の継続として、これらの制限がもはや必要なくなったにもかかわらず、肉を食べずに野菜のみを食べました。さらに、一部の教会員は、ユダヤ人の風習、習慣、祭日を守り続けることを選びました。

- 会員がこれらの事柄において異なる判断をしたときに、教会でどのような問題が起こり得ると思いますか。

生徒たちに、ローマ 14:3 を黙読しながら、食生活における個人の好み、一部の教会員に何をさせることになったかを見つけてもらいます。

- 教会員はどのような問題を抱えていましたか。（一部の教会員が、自分とは違う選択をした他の教会員を軽んじたり裁いたりした。）
- なぜこのような事が起こったと思いますか。

ホワイトボードに次の参照聖句を書きます — *ローマ人への手紙 14:10 - 13, 15, 21*。
数人の生徒に、これらの節を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、個人の好みにおけるこの問題について、パウロがどのような行動を控えるよう教会員に教えたかを見つけてもらいます。生徒が 15 節を読んだら、この節のジョセフ・スミス訳では次のようになっていることを説明します。「もしあなたの食物のゆえに兄弟を苦しめるなら、もしあなたが食べたのであれば、あなたは、もはや愛によって歩いているのではない。それゆえ、あなたの食物によって、兄弟を減ぼしてはならない。キリストは彼のためにも、死なれたのである。」

- 13 節でパウロが教えたことに基づくと、特定の戒めによって採り上げられていない事柄において、わたしたちが行わないようにすべきことについて、どのような真理を学ぶことができますか。（生徒たちの答えには次の真理が反映されるはずですが、特定の戒めによって述べられていない事柄については、他の人々の選択を裁くことをやめるべきである。）
- 特定の行為を必要とする、または禁じる戒めがない事柄において、教会員が異なる選択をした他の教会員を見下したり非難したりすることが問題であるのはなぜですか。

13 節にある「妨げとなる物や、つまずきとなる物を……置〔く〕」という語句に注目してもらいます。これは、誰かがイエス・キリストを信じ、福音に従って生活しようと努力するときに、霊的につまずかせたり、倒れたりするような影響を与えることを指していると説明します。

- 特定の食物を食べる教会員は、他の人に対して霊的につまずかせたり、倒れたりする影響をどのように与えますか。
- パウロは教会員に対し、彼らの食習慣における個人的な選択が他の誰かに霊的な悪影響を及ぼす場合には、何をするように勧告しましたか。（パウロは、他の人に対する自分の個人的な習慣の影響について配慮し、他の人を霊的につまずかせる影響を与える可能性のある行為を慎むように勧告した。）
- 特定の戒めによって採り上げられていない事柄におけるわたしたちの行為についてのパウロの教えから、どのような真理を学ぶことができますか。（生徒が次の真理を見つけられるよう助けます。明確な戒めによって述べられていない事柄については、わたしたちは自分の選択が他人に与える影響について配慮すべきである。注-1 コリント 8 章では、同様の真理がより詳しく採り上げられています。）

一人の生徒に、ローマ 14:19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに何を追い求めるように励ましたかを見つけてもらいます。

- 個人の好みに関する事柄についてのパウロの勧告に従うことは、教会員がともに経験する平安や教化にどのように影響を与えますか。

前に列挙した個人の好みに関する事柄を生徒たちに思い出してもらいます。生徒たちに、これらのような事柄において、教会員がどのようにパウロの勧告に従うことができるかを説明してもらいます。

ローマ 15:4 – 16:27

パウロ、ローマ人への書簡を書き終える

パウロはこの書簡の終わりに近づくとつれ、ローマの教会員にさらなる勧告を与えたと説明します。一人の生徒に、ローマ15:4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖文が書かれた理由についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 聖文が書かれた理由について、4節からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちの答えには次の真理が反映されるでしょう。聖文は、わたしたちを教え、わたしたちに望みを抱かせるために書かれた。)

パウロは次に、旧約聖書の聖文を幾つか引用して、異邦人の中における伝道の業が神の計画に沿ったものであることを聖徒たちに再確認することによって、この真理を示したと説明します(ローマ15:9–12参照)。

ローマ15–16章の残りの部分の要約として、パウロは、福音を宣べ伝えるための自らの努力を述べることによってこの書簡を終えたと説明します。また、パウロは、分裂を引き起こし、誤った教義を教え、人々を欺くことを求める人たちについても警告しました(ローマ16:17–18)。

このレッスンで話し合われた真理について証して、レッスンを終わります。

コリント人への第一の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

コリントに住んでいた初期の教会員は、不一致、誤った教え、不道徳など今日この世に存在する多くの問題で苦しんでいました。コリント人への第一の手紙で、使徒パウロはこれらの聖徒たちに、教会の一致を促す方法、神の事柄を学ぶ方法、聖霊が宿る神殿としての肉体の役割、霊的な賜物の本質、ふさわしい状態で聖餐を受けることの大切さ、復活の真実性について教えたことが分かります。コリント人への第一の手紙に記録されているパウロの教えの研究を通じて、生徒たちは、彼らを取り巻く邪悪にかかわらず義になつた生活をするための助けとなる教義と原則を学びます。

誰がこの書を書いたのか

コリント人への第一の手紙の最初の節には、これが使徒パウロと、パウロの書記として働いていたと思われるソステネという名前の弟子によって送られたことが記述されています（1コリント1:1参照）。ソステネの役割の詳細は分かっていませんが、パウロがこの書簡の内容の著者であったことは明らかです（1コリント16:21-24参照）。

いつ、どこで書かれたか

パウロは、コリント人への第一の手紙として知られる書簡を、エペソでの3年間の滞在（3度目の伝道中）の終わり近くに書きました。おそらく紀元55年から56年の間に書簡を書き終えたと思われます（使徒19:10;20:31;『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照）。

誰に向けて、なぜ書かれたか

この書簡は、コリントの町の教会員に宛てて書かれたものです。パウロは、コリントで約2年間福音を宣べ伝え（使徒18:1-18参照）、そこで教会の支部を組織しました（『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照）。その後、パウロが3度目の伝道の旅の間にエペソで福音を宣べ伝えていたとき、彼はコリントの教会員から知らせを受けました。パウロはコリントの支部に返事を書きましたが（1コリント5:9参照）、その手紙は残念ながら失われたため、聖典には含まれていません。その後、パウロはコリントの教会員から、コリントの教会における問題に関する別の報告を受け取りま

した（1コリント1:11参照）。パウロは別の手紙を書いてこれに返答し、それがコリント人への第一の手紙として知られるものとなりました。つまり、コリント人への第一の手紙は、実際にはコリントの教会員に対する2番目の手紙になります。

パウロの時代、コリントはローマの属州であるアカヤの州都であり、その範囲はマケドニアの南にあった古代ギリシャの大部分まで広がっていました。豊かな貿易の中心地であったコリントには、ローマ帝国全土から多くの人々が集まっており、その地域において最も多様性のある都市の一つでした。コリントの宗教文化では偶像礼拝がほとんどを占めており、町中に数多くの神殿や祭壇がありました。パウロが教え導いていた時代、コリント人はきわめて不道徳な民として知られていました。例えば、アフロディーテの神殿では、儀式的な売春が行われていたと伝えられています。

パウロのコリント人への第一の手紙は、教会員が一致しておらず、福音の原則と儀式を守り行うことにおいて、一部の異教徒の信仰と慣習の影響が及び始めていることを明確にしています（1コリント1:11;6:1-8;10:20-22;11:18-22参照）。パウロは、コリントの教会員の疑問や問題を助け、過去の信仰や慣習をなかなか捨てることができなかつた改宗者を強めるために、彼らに手紙を書きました。

この書の特徴は何か

新約聖書には、コリントの教会員に宛てたパウロからの勧告と教えが、他のどの支部に宛てたものよりも多く記録されています。実際、パウロのコリント人への二つの書簡は、現存するパウロの記述の四分の一を占めています。

コリント人への第一の手紙では、イエス・キリストがモーセの律法を成就されたとパウロが説明したことを学びます。パウロは、福音を通じて救いの祝福を受けるために「キリストの律法の中」（1コリント9:21）で、「神の戒めを守ること」（1コリント7:19）の大切さを強調しました。

概要

1コリント1-11章 パウロは教会内における不和について警告し、教会員の一致の大切さを強調する。パウロは性的な不道徳について警告し、体が聖霊の宿る神殿であることを教え、自制を促す。パウロは聖餐の儀式と、異教徒の偶像に供えた食物を食べてよいかどうか、さらには結婚と伝道活動に関する具体的な質問に答える。

1コリント12-14章 パウロは、わたしたちが御霊の賜物を求めるべきだと教える。パウロは、使徒、預言者、教師の重要性について、また教会員が互いに気づかい合うことについてコリントの聖徒に思い起こさせる。パウロは、慈愛が他の全ての霊的な賜物に勝って大切であることを強調する。

1コリント15-16章 パウロは、復活したキリストの証人である他の多くの人々の一人であると証する。パウロは、全ての人が復活すること、死者のためのバプテスマが将来の復活の真実性を確定するものだとすることを教える。パウロは、復活した体は栄光の階級によって異なり、イエス・キリストの死への勝利が死のとげを取り除くと説明する。パウロはエルサレムの貧しい聖徒たちのための献金を募る。

1コリント1-2章

はじめに

コリントの教会員が直面している問題について知った後、パウロは彼らに手紙を書き送り、争いをやめ、一致するよう強く勧めました。また、神は福音を宣べ伝えるために謙遜で弱い者

を召されること、神に関わる事柄は聖霊によってのみ知り理解することができることを説明しました。

教えるための提案

1コリント1:1-16

パウロ、コリントの聖徒たちに手紙を書き、争いをやめ、一致するよう強く勧める

クラスの生徒に、家族、スポーツチーム、友人のグループの写真を見せます（または、ホワイトボードに「家族、スポーツチーム、友人のグループ」と書きます）。

- これらのグループの中で、分裂や争いの原因となり得るものは何ですか。
- そのような分裂と争いは、家族、チーム、友人のグループにどのような影響を与えますか。
- 教会員の間での分裂や争いが教会にどのような影響を及ぼすかを考えてください。

1コリント1章を研究しながら、パウロがコリントの聖徒たちに教えた分裂と争いについての真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、『聖句ガイド』にある『聖書の地図』の地図13「使徒パウロの伝道の旅」を開いてもらい、地図上でコリントの場所を見つけてもらいます。

一人の生徒に、次の段落を声に出して読んでもらいます。

パウロは、二度目の伝道の最中にコリントという名の町に旅して、そこで福音を宣べ伝えました。その間、多くの人々がバプテスマを受けました（使徒18:1-18参照）。後に、パウロがエペソで福音を宣べ伝えていたとき、一部の改宗者が以前の偶像礼拝の信仰と慣習に戻ったために、コリントの教会員の間で生じた問題について知りました。パウロは、コリントの教会員たちを強め、主に仕えるという決意を思い起させるために、彼らに手紙を書きました。

一人の生徒に、1コリント1:1-2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの教会員に対してどのように呼びかけたかを見つけてもらいます。

- パウロはコリントの教会員にどのように呼びかけましたか。
- 1節によると、教会でパウロはどのような職にありましたか。

1コリント1:3-9の要約として、パウロはイエス・キリストを通じてコリントの聖徒たちが受けた恵み（この恵みはあらゆる面で彼らを祝福した）について、彼らの代わりに神に感謝していると聖徒たちに述べたことを説明します。パウロが聖徒たちに話しかけたとき、パウロは天の御父とイエス・キリストが別個の存在であられることを示すように言葉を使ったことを指摘します（3節参照）。

一人の生徒に、1コリント1:10-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの聖徒たちに何を実行するよう熱心に勧めたかを見つけてもらいます。

- 1コリント1:10によると、主は、わたしたちに教会員として何をしよう期待しておられますか。（生徒たちは自分の言葉で、次のような原則を見つけてみましょう。主はわたしたちに、聖徒として一致し、分裂や争いをなくすことを望んでおられる。）
- わたしたちは教会員として、家族の中の分裂や争いをなくすために何をすることができますか。ワード内または支部内ではどうですか。（ホワイトボードに生徒の答えを書きます。）
- 一致し、争いをなくすことから、どのような祝福を受けることができますか。

- クラス、定員会、ワードまたは支部で一致した結果として祝福を受けたのはどのようなときでしたか。

生徒たちに、ホワイトボードに書かれた回答に注目してもらいます。分裂や争いをなくすことができる一つの方法を選び、それを実行するために目標を立てるよう、生徒たちを励まします。

1 コリント 1:12 - 16 の要約として、コリントの聖徒たちが誰からバプテスマを受けたかに基づいてグループに分かれていたと説明します。聖徒たちは、自分にバプテスマを施した人がどれだけ重要な人物かによって教会での自分の地位が決まると信じていたため、争いが生じました。

1 コリント 1:17 - 31

パウロ、福音を宣べ伝えるために神が弱い者を召されると教える

パウロの時代、コリントには多くのギリシヤ人が住んでいたと説明します。これらのギリシヤ人は、哲学的な考えやこの世的な知恵を非常に重んじていました。

- この世的な哲学に重きを置く人が、福音を受け入れがたいと感じる場合があるのはなぜですか。(2 ニーファイ 9:28 を読むとよいでしょう。)

1 コリント 1:17 - 31 を研究しながら、この世の知恵が誤りに陥りやすいことを理解するために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちを 4 つのグループに分けます。それぞれのグループに、次の参照聖句を一つずつ割り当てます。1 コリント 1:17 - 18; 1 コリント 1:19 - 20; 1 コリント 1:21 - 22; 1 コリント 1:23 - 24。グループでこれらの節を読みながら、パウロがこの世の知恵と神の知恵を比べて何と言ったかを見つけてもらいます。17 節にある「キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるためではなく」という表現は、パウロが達成できた改宗者の数に基づいて自分の評判を上げるために遣わされたのではないことを示していると説明します。また、19 節にある「知者の知恵」と 20 節にある「この世の知恵」という表現が、その時代における欠陥のある哲学的な言い伝えを指すと説明するとよいでしょう。

十分に時間を取った後、各グループの一人の生徒に、パウロが知恵についてコリントの聖徒たちに教えた事柄の要約を発表してもらいます。全てのグループが発表を終えたら、次の質問をします。

- 無信仰な人がイエス・キリストの贖罪のメッセージを愚かだと考えたのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、1 コリント 1:25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の知恵と比べた人の知恵についてパウロが何を教えたかを見つけてもらいます。パウロは、神の究極の知恵と力を伝えるために「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」という言い回しを使ったと説明します。神は愚かではなく、弱点も一切お持ちではありません。

- 神の知恵と比べた人の知恵について、パウロはどのような真理を教えましたか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。神の知恵は人の知恵より偉大である。)
- この真理を理解することは、誰かが自分の問題の解決策を探す方法についてどのように影響を及ぼすでしょうか。

一人の生徒に、1 コリント 1:26 - 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神は御自身の福音を宣べ伝えるためにどのような人を選ばれるかを見つけてもらいます。

- 神は御自身の福音を宣べ伝えるためにどのような人を選ばれますか。
- 神の福音を宣べ伝えるために、この世では愚かで弱いと見なされる人を神が選ばれるのはなぜだと思いますか。

1 コリント 2 章

パウロ、神に関わる事柄を学ぶ方法について説明する

一人の生徒に、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の次の話を読んでもらいます。



「飛行機に乗っていたときの事です。わたしは無神論者を自認する男性と隣り合わせた席に座りました。その人が神を信じていないということを執拗に言い張るので、わたしは証しました。『あなたは間違っています。神は実在しているのです。わたしは神が生きておられることを知っています。』

彼は反論してきました。『そんなこと分かるはずないでしょう。一体全体誰に分かるというんですか。分かるはずがありませんよ。』わたしがどうしても折れないと見て取ると、弁護士だというその無神論者は、証というテーマに関して決定的な意味を持つと思われる質問をしてきました。彼は人を見下すような態度でこう言いました。『まあいいでしょう。それでは、あなたは知っていると言うが、一体どういうふう知っているのか説明してもらいましょうか。』

わたしは学位も取得していましたが、いざ説明しようとする、何と表現してよいのか途方に暮れてしまいました。……

わたしが『御霊』『証』などの言葉を使うと、その無神論者は『何を言っているのかさっぱり分かりません』と答えてきました。『祈り』『識別の賜物』『信仰』などの言葉も彼には何の価値もないものでした。彼がこう言いました。『いいですか、あなたは本当は分かっているんですよ。もし分かっているなら、どうして知っているかを説明できるはずじゃないですか。』

わたしは……どうしたらよいのか当惑してしまいました。」「(「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号, 35-36)

- あなたなら、この無神論者に何と言いますか。

1 コリント 2 章を研究しながら、この男性がパッカー会長を理解できなかった理由と、生徒が霊的な事柄の知識について自信を持つことができる理由を知るために役立つ真理を探そう生徒たちに勧めます。

1 コリント 2 : 1 - 8 の要約として、パウロは福音についてコリントの聖徒たちを確信させるためにこの世の知恵を使わなかったと、彼らに言ったことを説明します。パウロは、聖徒たちが神を信じる信仰を持つために、御霊によって彼らを教えました。またパウロは、不信心な者が、神の奥義を理解することはできないとも言いました。

数人の生徒に、1 コリント 2 : 9 - 16 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、「神の深み」(10 節)を知り、理解できる人もいれば、できない人もいとパウロが言った理由を見つけてもらいます。

- 9 - 10 節によると、パウロと他の忠実な人々が神に関わる事柄を理解できたのはなぜですか。
- 14 節によると、神に関わる事柄を理解できない人々がいるのはなぜですか。
- これらの節から、わたしたちが神に関わる事柄について知り、理解する方法についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なる言葉を使うでしょうが、必ず次の真理を見つけるようにします。わたしたちは神の御霊を通じてのみ、神に関わる事柄について知り、理解することができます。)

パッカー会長の話を参照し、パッカー会長が靈感を受けて、飛行機の隣の席に座る男性に塩の味について尋ねたことを説明します。一人の生徒に、パッカー会長の話の残りの部分を声に出して読んでもらいます。



「彼は何回か口で説明しようとしたのですが、できるはずがありませんでした。塩の味というようにごく当たり前のことなのに、彼は言葉だけでは説明できなかったのです。わたしはもう一度彼に証し、こう言いました。『わたしは神がおられることを知っています。あなたはこの証を嘲り、もし分かっているなら、どう分かっているのかちゃんと口で言えるはずだと言いました。霊的なたとえ方をすると、わたしは塩の味を知っています。わたしはこの知識がどのように与えられたかを言葉では説明できませんでしたが、それはあなたが塩の味を説明できないのと同じことです。しかし、もう一度申し上げておきますが、神は実在の御方です。生きておられるのです。自分が知らないからという理由だけで、わたしまで知らないなどと言わないでください。わたしは知っているのですから。』

別れ際に彼はつぶやくように言いました。『わたしはあなたが信じているような宗教に頼らなくてもやっていけます。そんなものは必要ありませんよ。』

それ以後、わたしは自分が知っている霊的な事柄を言葉だけで説明できない場合でも、まごついたり、恥じ入ったりしたことは一度もありません。」(「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号, 37)

ホワイトボードに「神に関わる事柄」という言葉を書き、神の御霊を通じてのみ知り、理解することができる神に関わる事柄とは何であると思うか生徒たちに尋ねます。ホワイトボードに生徒の答えを書きます。

- 神に関わる事柄は神の御霊を通してのみ知り、理解することができると思えることがわたしたちにとって大切であるのはなぜですか。

生徒たちにホワイトボードに書かれたリストに注目してもらい、御霊を通してこれらの神に関わる事柄の一つを知り、理解するようになったという経験を分かち合ってもらいます。あなた自身の経験を分かち合うことも考慮します。

神に関わる事柄を知り、理解しようと努力するときに、御霊の助けをどのように求めることができるかについて考えるよう、生徒たちを励まします。

このレッスンで教えられた真理について証して、レッスンを終わります。

生徒に 分かち合ってもらおう

洞察や関連ある経験を分かち合うと、福音の教義と原則についての生徒の理解が明らかになります。生徒はそのような経験を分かち合うとき、自分が述べているその事柄についてより大きな理解と証が得られるように、聖霊はしばしば彼らを導いてくださいます。聖霊の力によって、生徒の言葉と経験は仲間の心と思いに大きな影響を与えることもあります。

1コリント3-4章

はじめに

パウロはコリントの聖徒たちに、神の王国を築くことにおける宣教師の役割について説明しました。パウロは、聖徒たちの集会は御霊が宿ることのできる場所であり、ある人は他の人よりも優れているなどと考えないよう彼らに熱心に勧めました。

(注-わたしたちの肉体は神殿のようなものであるという教義は、1コリント6章のレッスンで採り上げます。)

教えるための提案

1コリント3章

パウロ、神の王国の建設における宣教師と教会員の役割を説明する

生徒たちに、友人が微分積分のような上級の数学のクラスに登録したけれども、そのクラスに必要な基礎的な代数学などの科目をまだ取っていないことを想像してもらいます。

- その友人は、その数学の上級クラスでどのくらい良い成績を取れると思いますか。それはなぜですか。
- より高度な概念を習得できるようになる前に、その科目の基本的な考え方を理解しておくことが必要なのはなぜですか。

一人の生徒に、1コリント3:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、より高度な福音の真理に対する準備がまだ整っていないことをコリントの聖徒たちに示すために、パウロが使った比喩を見つけてもらいます。1節にある「肉に属する者」という語句が、生まれながらの人、つまり「聖なる御霊の促しよりも、激情、情欲、欲望、肉欲に影響された選択をする人。このような人は、物質的なことは理解できても、霊的なことは理解できない」人を指すと説明します(『聖句ガイド』「生まれながらの人」, scriptures.lds.org)。

ホワイトボードに「乳」と「堅い食物」という言葉を書きます。

- 赤ちゃんには、どちらの食べ物を与えますか。それはなぜですか。
- 1節にある「キリストにある幼な子」という語句は、コリントの聖徒たちの霊的な成熟度について何を示唆していますか。

コリントの聖徒たちはより偉大な真理を受ける準備が整っていないことを生徒たちが理解するのを助けるため、コリントの聖徒たちが一致しておらず、その中には福音に従うことに異教徒の(神に背く)信仰や慣習を取り入れていた人もいたことを思い出してもらいます。パウロは、一致することを聖徒たちに教え、誤った信仰と慣習を正し、イエス・キリストの福音における信仰を強めるために、幾つものたとえを使ったと説明します。

生徒たちを3人から成るグループに分けます。グループ内の生徒それぞれに、次の教え方の概要を一つずつ割り当てます。各生徒に、それぞれ割り当てられた教え方の概要が書かれている配付資料を渡し、それを生徒たちに読んでもらう時間を数分取ります。十分な時間を取った後、各生徒に、グループの他の二人の生徒に対してその概要を使って教えてもらいます。(三人一組のグループを作ることができない場合は、二人一組になってもらい、それぞれのペアのどちらか一方の生徒に教え方の概要を二つ割り当てることができます。)

生徒1

ある帰還宣教師が伝道について話した聖餐会に出席したと、あなたのグループに想像してもらいます。その話の中で、彼は数人の人々にバプテスマを施したと語りました。一週間後、別の帰還宣教師が彼女の伝道について聖餐会で話しました。彼女は多くの人々を教えました。最終的にその人たちがバプテスマを受けたのは彼女が他のエリアに転勤した後だったと語りました。

グループ作業を見守る

小グループ討論や割り当ての最中に、生徒は活動の目的から気をそらしたり、個人的なことを話したり、学ぶ努力をなおざりにすることがあります。各グループを回り、学習活動を見ながら積極的に関わりを持ち、生徒がその活動を続けて、その割り当てから最良のものを得るよう助けます。

- 伝道中に数人にバプテスマを施した宣教師は、エリアを離れた後になるまで求道者がバプテスマを受けなかった宣教師よりも多くの成功を収めたと言ったとしたら、どのように応じますか。

一枚の紙に「植えた」、そして「水を注いだ」という言葉を書いて、それをあなたのグループに見せます。パウロは宣教師を、種を植え作物に水をやる人々と比較したことを説明します。コリントの聖徒たちが誰からバプテスマを受けたかによってグループに分かれ始めたことを、グループメンバーに思い出してもらいます。彼らは、バプテスマを施してもらった人の重要性によって教会での自分の地位が決まると信じていました。(1 コリント 1:10 - 16 参照)

あなたのグループのメンバーと、1 コリント 3:4 - 9 を順番に声に出して読みます。グループの他のメンバーには、聞きながら、コリントの人々を教え、バプテスマを施した宣教師たちについてパウロが何と言ったかを見つけてもらいます。

- 5 節によると、パウロは自分とアポロが何であったと言いましたか。(「導いた人」は僕を意味すると説明します。)
- 6 - 7 節によると、パウロは福音の種を植える宣教師と、これらの種が育つよう助ける宣教師について何と言いましたか。

必要に応じて、7 節にある「植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない」という語句を指摘し、パウロがこれらの語句を使って、これらの役割のどちらも神の役割ほど重要ではないことを教えたと言いました。

- 「成長させて下さる神」(7 節) という語句はどういう意味ですか。(聖霊を通じて人々の心の中で改宗につながる変化を起こされるのは神であり、教えたりバプテスマを施したりする者ではない。)
- 1 コリント 3:6 - 7 から、人々がイエス・キリストの福音に改宗するようになるのを助けるときのわたしたちの役割と神の役割について、どのような真理を学ぶことができますか。(グループのメンバーが答えたら、それぞれの聖典の 1 コリント 3:6 - 7 の横に次の真理を書くよう勧めます。わたしたちは人々がイエス・キリストの福音について学ぶのを助けることはできるが、人々が改心するのは聖霊の力によるのである。)

人々が聖霊を受けて改宗するには、彼らが信仰を働かせ、神の戒めを守ることによって自分の役目を果たさなければならないことを明確にします。

- この真理を知ることは、コリントの聖徒たちがより一致するために、どのように役立つと思いますか。

二人の帰還宣教師についての状況にこたえるために、この真理がどのように役立つか、あなたのグループに尋ねます。

- 改宗するのはわたしたち自身の力ではなく、聖霊の力によることを理解することが大切であるのはなぜですか。

生徒 2

一枚の紙に「土台」という言葉を書き、それをあなたのグループに見せます。

- 土台が建物の重要な部分であるのはなぜですか。
- 土台に問題があれば、何が起こり得るでしょうか。

グループのメンバーの一人に、1 コリント 3:10 を声に出して読んでもらい、グループの他のメンバーには、コリント人の中での宣教師としての自分の働きについてパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、コリントで宣教師として働いていたときに何をしようとしましたか。
- パウロはどのような意味で「他の人がその上に家を建てる」と言ったと思いますか。

グループの別のメンバーに、1 コリント 3:11 を声に出して読んでもらい、グループの他のメンバーには、コリントの聖徒たちのためにパウロがどのような土台を築いたかを見つけてもらいます。

- コリントで教えていたとき、パウロはどのような土台を築きましたか。
- 11 節によると、わたしたちの生活の土台となる必要があるのはどなたですか。(あなたのグループが必ず次の真理を見いだすようにします。わたしたちが生活を築く土台はイエス・

キリストである。グループのメンバーに、11節のこの真理に印をつけてもらおうとよいでしょう。)

- イエス・キリストという土台の上に生活を築くことは、誘惑や試練に耐えるときにどのような助けとなりますか。(ヒラマン5:12も参照)
- どのようにして、わたしたちの生活がイエス・キリストという土台の上に築かれていることを確実にすることができますか。

あなたのグループのメンバーで、イエス・キリストという土台の上に生活を築いている人を知っている生徒に、その人について分かち合ってもらいます。この生徒に、キリストの上に生活を築くことがこの人をどのように祝福したかを説明してもらいます。

グループのメンバーそれぞれに、イエス・キリストという土台の上に生活を築くために役立つ目標を立ててもらいます。

生徒3

一枚の紙に「神殿(神の宮)」という言葉を書き、それをあなたのグループに見せます。パウロはしばしば比喩的に神殿を参照したと説明します。1コリント3:16-17に記録されているとおり、パウロは教会の集まった聖徒たちを指すために「神殿(神の宮)」という言葉を使いました。

あなたのグループのメンバーの一人に、1コリント3:16-17を声に出して読んでもらいます。グループの他のメンバーには一緒に、聞きながら、コリントの教会員たちが理解する必要があるとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。「あなたがた」(16節)は教会の聖徒たちの集まりを指し、「もし人が、神の宮を破壊するなら」(17節)という語句は、神の民を滅ぼそうとする人を指すと説明します。

- 16節によると、パウロは、聖徒たちの集まりについて教会の会員たちに何を理解してほしいかと思っていましたか。

1コリント3:16-17は、おそらく聖徒たちの集まりとしての教会全体を指していると思われるが、これらの節はわたしたちの肉体にも当てはめることができます。

- 1コリント3:16-17は、どのようにわたしたちの肉体にも当てはめることができますか。わたしたちの体を破壊すると、その結果はどうなりますか。

1コリント3:18-23の要約として、あなたのグループに、真の知恵はイエス・キリストにあり、この世の知恵は「神の前では愚かなもの」(19節)であるとパウロが聖徒たちに教えたことと説明します。

十分に時間を取ってから、グループで何を学んだか、そして学んだ事柄の結果として何を実行するかを数人の生徒に発表してもらいます。

1コリント4章

パウロ、コリントの聖徒たちに、ある人が他の人よりも優れていると考えないようにと述べる

1コリント4:1-3に記録されているパウロの勧告に基づくと、コリントの一部の教会員が宣教師や教会指導者としてのパウロの実績を批判したように見受けられることを説明します。その教会員たちは、パウロの判断に疑問を持ったか、他の誰かの方がもっと良く働けたと思ったのかもしれませんが。

一人の生徒に、1コリント4:3-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが彼らの批判にどのように対応したかを見つけてもらいます。

- パウロは彼らの批判にどのように対応しましたか。
- パウロが他の人々の批判を気にならなかったのはなぜですか。
- 5節から、主がわたしたちを裁かれる方法について、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次のような内容の真理を見つけられます。主はわたしたちの心の中の考えや意図を含む全てのことを御存じであることから、わたしたちを公平に裁かれる。)
- この真理を信じることは、不当に批判されている人をどのように助けることができますか。

一人の生徒に、1コリント4:6-7を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、教会指導者を含む他の教会員との関係について、パウロが聖徒たちに何を教えたかを見つけてもらいます。

- 6節によると、パウロは、宣教師や教会指導者たちに差があることに気づいたときに何をしないよう聖徒たちに言いましたか。(彼らは高慢に「高ぶる」べきではなく、ある人が他の人よりも優れていると考えるべきではない。)
- 7節に記録されたパウロの質問に基づくと、人に異なる才能や能力をお与えになったのはどなたですか。
- パウロの勧告は、わたしたちが教会指導者や教師について考えるときにどのような助けとなりますか。

1コリント4:8-21の要約として、パウロがコリントの聖徒たちに対し、イエス・キリストの使徒は、この世の悪事のために苦しむように召されたと言ったことを説明します。この世は、キリストに従おうとしていることで使徒や他の教会指導者たちを「愚かな者」(10節)だと批判します。

このレッスンで教えられた真理について証して、レッスンを終わります。

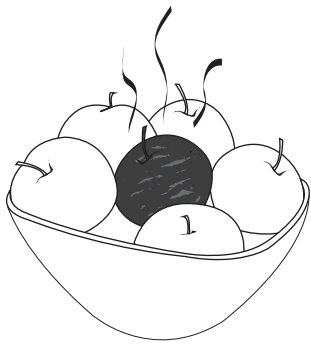
1 コリント 5 - 6 章

はじめに

使徒パウロは、邪悪な人々の影響を受けないよう聖徒たちに警告しました。パウロは、コリントに蔓延していた不道德な哲学や習慣を避けるようにも警告しました。

教えるための提案

1 コリント 5 章



パウロ、故意に罪を選ぶ人々と交際することに対して聖徒に警告する

ホワイトボードに、新鮮な果物の中に腐った果物が一つ入っている器の簡単な絵を描きます。その代わりに、腐った果物を見せることもできます。

- 新鮮な果物の中に腐った果物を入れたままにしておくとうなりますか。
- わたしたちの生活の中で、腐った果物は何を表しているでしょうか。（わたしたちに害を与え得る影響。）

1 コリント 5 章を研究しながら、生活の中で害となる影響に、より良く対応するために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、1 コリント 5 : 1 - 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちの中の邪悪な慣習を見つけてもらいます。

- コリントの聖徒たちの中にはどのような邪悪な慣習がありましたか。（不品行とは結婚した相手以外とのあらゆる性的な関係を指すと説明する。コリントの教会員の一人は、継母との性的な罪に関わっていた。）
- 2 節によると、パウロは、この人物をどのように扱うよう教会指導者たちに勧告しましたか。（2 節にある「あなたがたの中から除かれ[る]」という語句は、この罪人が教会から破門されるべきだということを意味すると説明します。）

破門、またはその他どのような形で教会宗紀が行われるときは、その前に、教会指導者たちが多くの要因を注意深く考慮することを指摘します。その罪がどれほど深刻であるかを考慮することに加え、教会指導者たちは教会宗紀のさまざまな目的を考慮します。これには、人が悔い改めるのを助ける、その人の行為によって、またはその人の考えが拡散されることによって悪い影響を受ける人を保護する、教会の教えの高潔さを守るなどがあります（「教会宗紀」mormonnewsroom.org/articles/church-discipline 参照）。

一人の生徒に、1 コリント 5 : 6 - 7 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、その人が教会から除かれる必要がある理由を説明するためにパウロが使ったたとえを見つけてもらいます。

- パウロは、悔い改めない罪人を何にたとえましたか。（パン種、またはイースト菌は、最終的にはパンが腐ったり、かびが生える原因となることを説明します。）
- パン生地のかたまり全体に影響するには、どれだけのパン種が必要ですか。
- パン生地のかたまりは何を表していますか。（イエス・キリストの教会。）
- あなたなら、このたとえにある原則をどのように要約しますか。（生徒たちは自分の言葉で次のような原則を見つけるでしょう。罪を容認する者と密接に関わる選択をすると、彼らの邪悪な影響を受ける可能性がある。この真理をホワイトボードに書きます。）

一人の生徒に、1 コリント 5 : 9 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちに与えたパウロの勧告を見つけてもらいます。

- パウロは、コリントの聖徒たちに何を避けるように指導しましたか。

不品行を行う人や罪を容認する人と交際しないようにというパウロの勧告を生徒たちがさらに理解するのを助けるため、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老が語った次の言葉のコピーを生徒たちに配ります。一人の生徒にそれを声に出して読んでもらいます。

「不貞を働く人々と交際しないでください。それは、あなたがそうした人々よりも善良だからではなく、[C.S. ルイスが記したように、] あなたがまだ十分に善良ではないからです。悪い状況は善良な人々さえも次第に損なうことがあり得ると覚えておいてください。」(“The Stern but Sweet Seventh Commandment,” *New Era*, 1979年6月号, 42)

- 罪を容認する人と密接に関わることは、義にかなった選択をするためのわたしたちの能力をどのように弱める可能性がありますか。
- 善良な人々を損なうことがあり得る悪い状況の例にはどのようなものがありますか。
- わたしたちの標準に関して妥協することなく、罪を容認した人を助けるには何をすることができますか。(彼らのために祈ること、神の子として彼らに思いやりを示し尊重すること、戒めを守るという義にかなった模範を示すことができる。)

生徒たちに、自分たちの標準に関して妥協することなく、他の人に良い影響を与えるには何ができるかをよく祈って考えるように勧めます。

1 コリント 5 : 12 - 13 の要約として、パウロは、教会には会員に悔い改めを呼びかけ、場合によっては深刻な罪を犯した人を「[教会]の中から除いてしま[う]」(13 節) 責任があると教えたと言明します。

1 コリント 6 章

パウロ、一致と純潔の律法について教える

腐った果物の中に新鮮な果物が一つ入った器の簡単な絵を、ホワイトボードにもう一つ描きます。周囲の至る所に罪があるときに、どのようにそれらを避ければよいのか知りたいと思ったことがないか生徒たちに考えてもらいます。これがコリントの聖徒たちが直面した難題であったことを指摘します。



生徒たちが、1 コリント 6 章を研究しながら、悪い影響に囲まれているにもかかわらず、義にかなった生活をするための助けとなるパウロが教えた真理を見つけてもらいます。

1 コリント 6 : 1 - 8 の要約として、パウロはコリントの聖徒たちに対し、彼らの中の争いは、すぐに民事法廷に持ち込むよりも、自分たちが義にかなった方法で解決するように勧告したと言明します。

一人の生徒に、1 コリント 6 : 9 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが教会員たちに避けるよう教えたコリントでの罪深い慣行を見つけてもらいます。

- パウロは教会員に対してどのような類いの罪深い行為を避けるように教えましたか。
- 11 節によると、パウロはこれらの聖徒たちに対し、自分たちについて何を思い起こすように言いましたか。(コリント出身の改宗者たちの多くは、教会に入る前にこれらの罪深い行為を行っていたが、彼らは悔い改め、罪から清められた。)

古代のコリントは不道徳で知られており、多くのコリント人はわたしたちの体が快樂のために造られたという考えを奨励していました。1 コリント 6 : 12 のジョセフ・スミス訳で、パウロは善も悪も存在しないという考え方に反して教えたことを説明します。

- コリントでのこの考え方と慣行は、わたしたちが今日の世界で見るとどのよう似ていますか。

一人の生徒に、1 コリント 6 : 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの体の目的についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、わたしたちの体について何と教えましたか。(多くのコリント人は体が単に快樂のために造られたと信じていたようだが、パウロは、わたしたちの体が主の目的を達成するために造られたと教えることによってこの考え方を正した。)

1 コリント 6 : 14 - 17 の要約として、教会に入った人々は、キリストの体の靈的な「肢体」としてキリストと一つになると説明します。また、パウロは性的な不道徳は、イエス・キリストとの靈的な関係と相いれないとも説明しました。

一人の生徒に、1 コリント 6 : 18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの聖徒たちに何をどのように教えたかを見つけてもらいます。(ジョセフ・スミス訳では 1 コリント 6 : 18 の「からだの外にある」という語句が、「キリストの体に対するものである」に変えられていることを説明するとよいでしょう。)

- パウロはコリントの聖徒たちに何をどのように教えましたか。

 **1 コリント 6:**

19-20 はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

- 不品行を行う人たちについて、パウロはどのような真理を教えましたか。(18 節の中で次の原則を教えている言葉に印をつけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。不品行をする者は、自分の体に対して罪を犯す。)

パウロが次に、不品行、つまり性的な不徳が「自分のからだに對〔する〕」罪である理由を教えたことを説明します。

一人の生徒に、1 コリント 6:19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがわたしたちの体を何と比較したかを見つけてもらいます。

- パウロはわたしたちの体を何と比較しましたか。
神殿の写真を見せます。
- 神殿とその他の建物の違いは何ですか。
- 19 節でパウロが教えた真理をどのように要約しますか。(生徒は他の言葉を使うかもしれませんが、次の教義を見いだすでしょう。わたしたちの体は、御霊が宿ることのできる神の神殿である。)
- わたしたちの体が神殿であると理解することは、わたしたちが自分の体や他の人々の体を扱う方法にどのように影響するでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、この真理を理解することが、わたしたちが自分の体を扱う方法にどのように影響するかについてのさらなる洞察に耳を傾けてもらいます。



「〔1 コリント 6:19-20 にある〕これらの真理……を念頭に置けば、わたしたちは、入れ墨で肉体を損なったり、薬物で痛めたり、私通や姦淫などの不徳な行為で汚したりすることは決してしないでしよう。わたしたちの肉体は自分の霊の器なので、最善を尽くして大切に扱う必要があります。肉体の力を、奉仕をし、キリストの業を進めるために奉献するのです。」(「奉献された生活についての熟考」『リアホナ』2010 年 11 月号, 17)

- パウロは、19 節の「あなたがたは、もはや自分自身のものではない」という語句によって何を意味していたと思いますか。

一人の生徒に、1 コリント 6:20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの体が自分自身のものではない理由を見つけてもらいます。

- わたしたちの体が自分自身のものではない理由を示す語句はどれですか。(「代価を払って買われた」とは、イエス・キリストの贖罪によって贖われた、または連れ戻されたという意味であることを説明します。)
- 19-20 節にある真理をどのように要約しますか。(生徒たちが答えたら、それぞれの聖典の 19-20 節の近くに次の真理を書くように勧めるとよいでしょう。わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通じて代価を払って買い取られたため、わたしたちの体は自分自身のものではない。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「どうぞ決して次のような発言をしないでください。『誰が傷つくというんだ。ほんの少し自由に振る舞ってどこが悪いんだ。今罪を犯しても後で悔い改められるさ。』どうぞそのような愚かで、慈悲のない人物にならないでください。『神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにする』〔ヘブル 6:6 参照〕者は必ずやとがめを受けることになるでしょう。パウロも声を大にして『不品行をさげなさい』〔1 コリント 6:18〕と告げています。また教義と聖約には『これに類すること』〔教義と聖約 59:6, 強調付加〕もしてはならないと付け加えられています。なぜでしょうか。第 1 の理由としては、世の救い主が耐えられた想像を絶する霊と肉体二つながらの苦しみをわたしたちが受けることのないようにするためです〔特に教義と聖約 19:15-20 参照〕。わたしたちはこの点で救い主に恩を受けています。正確に言えば、わたしたちはこの点に関してあらゆる面で救い主に恩があるのです。」(「個人の清さ」『リアホナ』1999 年 1 月号, 84)

- わたしたちの体が自分自身のものではないと覚えておくことは、自分の体について行う選択にどのように影響しますか。

ホワイトボードに描いた腐った果物に囲まれた新鮮な果物の絵に生徒たちの注意を促します。

- わたしたちの体についてこれらの真理を知ることは、邪悪に囲まれているときに純粋なままであるためにわたしたちをどのように助けることができるでしょうか。

話し合ってきた真理について証します。生徒たちに、レッスン中に受けた印象や促しについて深く考え、それらの促しに従って行動するように勧めます。

マスター聖句 - 1 コリント 6 : 19 - 20

生徒たちに、1 コリント 6 : 19 - 20 に基づいて短い話を書いてもらいます。次の事柄を含めるように勧めます。(1) この聖句に関連した背景情報(背景情報はマスター聖句カードに書かれています)、(2) この聖句が教える原則、(3) この聖句が教える真理を示す個人的な経験。数人の生徒に、それぞれが書いた話を発表してもらうこともできます。家庭や教会でその話を発表することができる機会について考えるよう、生徒たちに勧めます。

家庭学習クラスのレッスン

ローマ8章 — 1コリント6章 (単元21)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がローマ8-16章と1コリント1-6章(単元21)を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第1日(ローマ8-11章)

ローマ人の聖徒に対する霊的、世俗的な考え方についてのパウロの教えから、生徒たちは御霊の影響に従うときに、罪を犯すという生まれながらの人の性質を克服することができることを学びました。生徒は次の真理も見いだしました。わたしたちが神の忠実な聖約の子でいるならば、天の御父がお持ちの全てのものにおいてイエス・キリストと共同の相続人となることができます。わたしたちが神を愛するならば、万事を益となるようにしてください。イエス・キリストを通じて、わたしたちは現世における全ての困難や苦難を乗り越えることができます。イエス・キリストとキリストの福音を受け入れて従うなら、わたしたちは神の聖約の祝福を受け、救われる。

第2日(ローマ12-16章)

ローマ12-13章で生徒たちは、神が、わたしたちが自らの人生を神にささげ、この世に従わないことを期待しておられ、もしそうするならば、さらにイエス・キリストのようになれることを知りました。ローマ14-15章で生徒たちは、具体的な戒めによって採り上げられていない事柄については、他の人々の選択を裁くことをやめ、自らの選択が他の人々にどのように影響を与えるかについて配慮しなければならぬことを学びました。また生徒は、聖文がわたしたちを教え、わたしたちに望みを抱かせるために書かれたことも学びました。

第3日(1コリント1-2章)

コリントの聖徒たちへの手紙の中で、パウロは幾つかの懸念と疑問に返答しました。パウロが書いた事柄から、主はわたしたちが聖徒として一致し、分裂や争いをなくすことを期待しておられること、そして神に関わる事柄は神の御霊を通してのみ知り、理解することができる、生徒たちは学びました。

第4日(1コリント3-6章)

このレッスンでは、生徒たちは引き続きコリントの聖徒のためのパウロの書簡を研究しました。パウロの言葉から、生徒たちは次の真理を学びました。わたしたちはイエス・キリストの福音を学べるように他の人を助けることはできるが、人々が改宗するのは聖霊の力を通じてである。主はわたしたちの心の中の考えや意図を含む全ての事柄を御存じなので、わたしたちを公平に裁かれる。罪を容認する者と密接に関わる選択をすると、彼らの邪悪な影響を受ける可能性がある。

はじめに

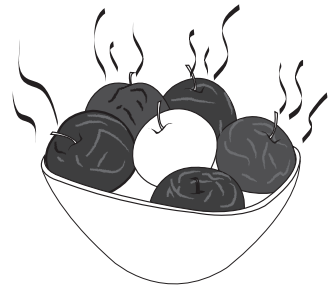
このレッスンは、周囲の至る所に罪があるときに、どのようにそれらを選べばよいのかを生徒たちが理解するために役立ちます。さらに、体を清く保つことが大切である理由も学びます。

教えるための提案

1コリント6章

パウロ、一致と純潔の律法について教える

ホワイトボードに、腐った果物の中に新鮮な果物が一つ入った器の絵を描きます。周囲の至る所に罪があるときに、どのようにそれらを選べばよいのかを知りたいと思ったことがないか生徒たちに考えてもらいます。



生徒たちが1コリント6章を研究しながら、悪い影響に囲まれているにもかかわらず、義になかった生活をするための助けとなる、使徒パウロが教えた真理を見つけてもらいます。

1コリント6:1-8の要約として、パウロはコリントの聖徒たちに対し、彼らの中の争いは、すぐに民事法廷に持ち込むよりも、自分たちが義になかった方法で解決するように勧告したと説明します。

一人の生徒に、1コリント6:9-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが教会員たちに避けるよう教えたコリントでの罪深い慣行を見つけてもらいます。

- パウロは教会員に対してどのような類いの罪深い行為を避けるように教えましたか。
- 1コリント6:11によると、パウロはこれらの聖徒たちに対し、自分たちについて何を思い起こすように言いましたか。(コリント出身の改宗者たちの多くは、教会に入る前にこれらの罪

深い行為を行っていましたが、彼らは悔い改め、罪から清められました。)

古代のコリントは不道徳で知られており、多くのコリント人はわたしたちの体が快樂のために造られたという考えを奨励していました。1コリント6:12の要約として、パウロは善も悪も存在しないという考え方に反対して教えたと説明します。

- コリントでのこの考え方と慣行は、わたしたちが今日の世界で見る傾向とどのように似ていますか。

一人の生徒に、1コリント6:13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの体の目的についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、わたしたちの体について何と教えましたか。(多くのコリント人は体が単に快樂のために造られたと信じていたようですが、パウロは、わたしたちの体が主の目的を達成するために造られたと教えることによってこの考え方を正しました。)

1コリント6:14-17の要約として、教会に入った人々は、キリストの体の霊的な「肢体」としてキリストと一つになると説明します。またパウロは、性的不道徳は、イエス・キリストとの霊的な関係と相いれないとも説明しました。

一人の生徒に、1コリント6:18を声に出して読んでもらいます。他の生徒に、聞きながら、パウロがコリントの聖徒たちに何をどのように教えたかを見つけてもらいます。(ジョセフ・スミス訳の1コリント6:18では、「からだの外にある」という語句が「キリストの体に対するものである」に変えられていることを説明するとよいでしょう。)

- パウロはコリントの聖徒たちに何をどのように教えましたか。
- 不品行を行う人々たちについて、パウロはどのような真理を教えましたか。(18節の中で次の原則を教えている言葉に印をつけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。**不品行をする者は、自分の体に対して罪を犯す。**)

次にパウロは、不品行、つまり性的不道徳が「自分のからだに對(する)」罪である理由を教えたことを説明します。

生徒たちに、1コリント6:19-20がマスター聖句であることを思い出してもらいます。一人の生徒に、1コリント6:19を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがわたしたちの体を何と比較したかを見つけてもらいます。

- パウロはわたしたちの体を何と比較しましたか。

神殿の写真を見せます。

- 神殿とその他の建物との違いは何ですか。
- 19節でパウロが教えた真理をどのように要約しますか。(生徒は他の言葉を使うかもしれませんが、次の教義を見いだすでしょう。**わたしたちの体は、御霊が宿ることのできる神の神殿である。**)
- わたしたちの体が神殿であると理解することは、わたしたちが自分の体や他の人々の体を扱う方法にどのように影響するでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、わたしたちの体が神の神殿であると理解することが、わたしたちが体を扱

う方法にどのように影響するかについてのさらなる洞察に耳を傾けてもらいます。



「[1コリント6:19-20にある]これらの真理……を念頭に置けば、わたしたちは、入れ墨で肉体を損なったり、薬物で痛めたり、私通や姦淫などの不道徳な行為で汚したりすることは決してしないでしょ。わたしたちの肉体は自分の霊の器なので、最善を尽くして大切に扱う必要があります。肉体の力を、奉仕をし、キリストの業を進めるために奉獻するのです。」「(奉獻された生活についての熟考)『リアホナ』2010年11月号, 17)

- パウロは、1コリント6:19の「あなたがたは、もはや自分自身のものではない」という語句によって何を意味していたと思いますか。

一人の生徒に、1コリント6:20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの体が自分自身のものではない理由を見つけてもらいます。

- わたしたちの体が自分自身のものではない理由を示す語句はどれですか。(「代価を払って買いとられた」とは、イエス・キリストの贖罪によって贖われた、または連れ戻されたという意味であることを説明します。)
- 19-20節にある真理をどのように要約しますか。(生徒が答えたら、次の真理を見つけるよう助けます。**わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通じて代価を払って買い取られたため、わたしたちの体は自分自身のものではない。**)

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「どうぞ決して次のような発言をしないでください。『誰が傷つくというんだ。ほんの少し自由に振る舞ってどこが悪いんだ。今罪を犯しても後で悔い改められるさ。』どうぞそのような愚かで、慈悲のない人物にならないでください。『神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにする』(ヘブル6:6参照)者は必ずやとがめを受けることになるでしょう。パウロも声を大にして『不品行をさげなさい』[1コリント6:18]と告げています。また『教義と聖約』には『これに類すること』[教義と聖約59:6, 強調付加]もしてはならないと付け加えられています。それはなぜでしょうか。第1の理由としては、世の救い主が耐えられた想像を絶する霊と肉体二つながらの苦しみをわたしたちが受けることのないようにするためです[特に教義と聖約19:15-20参照]。わたしたちはこの点で救い主に恩を受けています。正確に言えば、わたしたちはこの点に関してあらゆる面で救い主に恩があるのです。」「(個人の清さ)『リアホナ』1999年1月号, 84)

- わたしたちの体が自分自身のものではないと覚えておくことは、自分の体について行う選択にどのように影響しますか。

ホワイトボードに描いた腐った果物に囲まれた新鮮な果物の絵に生徒たちの注意を促します。

- わたしたちの体についてこれらの真理を知るとは、邪悪に囲まれているときに純粋なままでのためにわたしたちをどのように助けることができるでしょうか。

話し合ってきた真理について証します。生徒たちに、レッスン中に受けた印象や促しについて深く考え、それらの促しに従って行動するように勧めます。

次の単元（1コリント7－14章）

生徒それぞれが、天の御父から少なくとも一つの霊的な賜物を授かっていると生徒たちに説明します。生徒たちに、次の単元を

研究しながら天の御父が子供たちに与えてくださる霊的な賜物には何があるかを見つけてもらいます。使徒パウロが、貧しい人に食物を提供するために自分の財産を全て与え、また焼かれるために自身の体を差し出したとしても、一つの具体的な霊的な賜物がなければ、自分には何の価値もないと言ったことを生徒たちに伝えます。生徒たちに、自分にどのような賜物が与えられたかを考えるよう勧めます。

1 コリント 7 - 8 章

はじめに

パウロは、コリントの教会内の既婚者と独身者の両方に結婚と伝道の業について教えました。偶像に供えられた食物を食べることについての質問の答えとして、パウロは他の人に対す

る自分の個人的な慣行の影響について配慮し、それらの行為が他の人を霊的につまづかせる原因となるならば、その行為を自ら進んで慎むように教えました。

教えるための提案

1 コリント 7 章

パウロ、教会の既婚者と独身者に結婚について勧告する

以下の図をホワイトボードに写します。



生徒たちが 1 コリント 7 章の背景を理解できるように、コリントの教会員たちが、わたしたちと同様に、結婚や、身体的な親密さ、つまり性的な関係について混乱し、矛盾した考えを持つ社会で生活していたことを思い出してもらいます。

• 1 コリント 5 - 6 章の研究から思い出せる事柄に基づくと、コリントで蔓延していた性的な関係についての誤った考えにはどのようなものがありましたか。

生徒が答えた後、図の左側の「誤った考え」の下に次の文を書きます — 誰とでも身体的な親密さを持つことは容認できる。

コリントの教会員が、性的な純潔についての主の標準に関する指示を求めて既に使徒パウロに手紙を書いたことを説明します。

一人の生徒に、1 コリント 7:1 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちがパウロに尋ねたことを見つけてもらいます。

• コリントの聖徒たちはパウロに何を尋ねましたか。

1 節にある「男子は婦人にふれないがよい」という語句は、いつどのような場合に身体的な親密さが適切であるかについてコリントの聖徒たちが疑問を持っていたことを示すと説明します。中には、結婚している夫婦が身体的な親密さを持つべきかどうかについて、疑問を持つ人がいたかもしれません。図の右側の「誤った考え」の下に次の文を書きます — 身体的な親密さを持つことは、結婚していたとしても、決して容認できない。

図に書かれた誤った考えは、どちらも身体的な親密さについての神の標準とは異なる極端な見解を示していることを指摘します。

一人の生徒に、1 コリント 7:2-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、身体的な親密さについてパウロがコリント人に教えた事柄を見つけてもらいます。（「不品行」とは結婚外での性的な関係を指し、「その分を果たす」とは夫婦間で示される愛と親密さを指すことを理解できるように生徒たちを助ける必要があるかもしれません。）

一人の生徒に、『若人の強さのために』にある次の言葉を読んでもらいます。

「夫婦間の身体的な親密さは美しく神聖なものです。それは子供をもうけるため、夫婦の間で愛情を表現するために、神によって定められました。性的な親密さは結婚の中でのみ用いるよう、神は命じられました。」（『若人の強さのために』[小冊子] 35）

生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助ける

霊的な学習には、学習者の努力と選択の自由を使うことが必要です。多くの生徒にとって、聖文から学ぼうとそのような努力をすることは不慣れであり、多少困難に思われるかもしれません。しかし、教師は、彼らが福音学習における役割を理解し、受け入れ、果たすのを助けることができます。生徒が福音学習における自らの役割を積極的に果たすときに、彼らの心は開いており聖霊の影響を受けます。

- たった今読んだ事柄から、身体的な親密さについて何を学ぶことができますか。(生徒が答えた後、図の「真理」の下に次の真理を書きます。夫婦間の身体的な親密さは神によって定められたものである。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、結婚における親密さは神によって定められたものである理由に耳を傾けてもらいます。



「創造の力は、幸福の計画に後から付け加えられたものではありません。それは幸福の計画であり、幸福の鍵なのです。

配偶者を求める欲求は不変で、とても強いものです。この世の生活における幸福や喜び、そして昇栄は、人を常に駆り立てる、この肉体的欲求にどう応えるかに懸かっています。」(「幸福の計画」『リアホナ』2015年5月号、26)

- 夫婦間の身体的な親密さの目的は何ですか。
- 創造する、つまり現世の命を造り出す能力が、天の御父の計画の中で非常に重要であるのはなぜですか。

1コリント7:4-24の要約として、夫婦は通常、お互いに対する夫婦間の愛情の表現を差し控えるべきではないこと、未亡人である教会員や離婚した教会員が希望する場合は再婚できること、教会員は自分の置かれた状況にかかわらず「神のみまえにいる」べきであることをパウロが教えたことと説明します。またパウロは、離婚に反対しました。

1コリント7章にあるパウロの記述から別の真理を見いだすことができるように、生徒たちを2人または3人のグループに分け、各グループに次の配付資料を配ります。

1コリント7:12-17

コリントには、配偶者がキリスト教徒ではない教会員がいました。

- 異なる信仰を持つ夫婦は、どのような困難を経験する可能性がありますか。

1コリント7:12-17にあるパートメンバーの家族に対するパウロの勧告を声に出して読み、パウロが教えた真理で、今日そのような家族を助けることができるものを見つけてもらいます。

次の空欄に、忠実な教会の会員が自分の家族に与え得る影響についてパウロが教えた事柄を要約します。_____。

- 教会の会員が、教会員ではない、または教会に活発に集っていない家族に対して良い影響を与えているどのような模範を見たことがありますか。

十分な時間を取った後で、生徒たちに1コリント7:12-17で見つけた真理を発表してもらいます。生徒はさまざまな答えを挙げると思われますが、次のような真理を述べてでしょう。イエス・キリストに忠実に従う人々は、自分の家族を聖める効力を持つ。

数人の生徒たちに、教会員ではない、または教会に活発に集っていない家族に対して良い影響を与えた教会員の模範を分かち合ってもらってもよいでしょう。

1コリント7:25-40の要約として、パウロは「務めに召されている」(ジョセフ・スミス訳1コリント7:29〔『聖書ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕』) 独身会員について自分の意見を述べ、彼らの状況は「余念なく」(35節)、つまり家族を養うことに関連するこの世的な懸念なく主に仕えることを可能にするものだと説明したことを説明します。しかし、彼らに結婚を禁じはしませんでした。

1コリント8章

パウロ、偶像に供えられた食物を食べることについての疑問に答える

一人の生徒に十二使徒定員会のL・トム・ベリー長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「わたしはずっとデパート業界で仕事をしていました。経営陣に名を連ねていましたから、地元のさまざまな業界団体と交流するのが大切な仕事の一部でした。そのような団体の大部分は、会合の前に〔通常アルコール飲料が出される〕カクテルアワーを設けていました。カクテルアワーというのは、その団体に所属する人々が交流し、親しくなるための社交の時間です。わたしはそのような社交の場ではいつも居心地が悪いと感じていました。最初はレモ

ンライムのソーダ水を注文していました。すぐに、それが他の多くのアルコール飲料と同じように見えることに気づきました。透明のソーダを手には自分がアルコールを飲まない人間だということを印象づけられなかったのです。」(「バランスが取れて義にかなった生活の伝統」『リアホナ』2011年8月号, 32 - 33)

- ペリー長老がカクテルアワーの間、透明のソーダを飲み続けていたら何が起り得たでしょうか。
- 何も間違ったことはしていなかったとしても、わたしたちの行いが他の人々に悪影響を及ぼす可能性のあるその他の状況にはどのようなものがありますか。

コリントの教会員は、偶像、つまり異教徒の神々に供えた食物を食べてよいのかどうかを知りたいと思ったと説明します。

教会員は異教徒の神々は実際には存在しないことを知っているため、食べてもよいと考える人があるだろうとパウロが認識していたことを指摘します(1コリント8:4-6参照)。

一人の生徒に、1コリント8:1を声に出して読んでもらい、他の生徒にはパウロがコリントの聖徒たちに教えた事柄を見つけてもらいます。

- 人々は偶像が本物でないことは知っていても、彼らが知っていることよりも大切であるとパウロが言った事柄は何ですか。(慈愛、または他の人々に対する無私的愛。)
- この節によると、知識からはどのような結果が生じ得ますか。(誇る、または傲慢になる。)慈愛からはどのような結果が生じますか。(教化、または自分自身や他の人々を強める。)

一人の生徒に、1コリント8:7-10を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちが偶像に供えられた可能性のある食物を食べるべきではない場合を見つけてもらいます。(これらの節にある「弱い」が理解における弱さを指しているのかもしれないこと、また「自由」[9節]が偶像に供えられた可能性のある食物を食べる教会員の自由を指すことを理解できるように、生徒たちを助ける必要があるかもしれません。)

- 9節によると、パウロはどのような状況下で偶像に供えられた食物を食べるべきではないと言いましたか。(証が弱い人、または福音の知識を持たない人にとってつまずきとなる場合。)
- 10節で、パウロは偶像に供えられた食物を食べることがつまずきとなる一つの状況についてどのような例を挙げましたか。(信仰において弱い教会員が、地元の異教徒の神殿に接する広間で食事をする別の教会員を見たとしたら、その信仰の弱い教会員は偶像礼拝が悪いことではないとも信じてしまうかもしれない。)

一人の生徒に、1コリント8:11-13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、偶像に供えられた食物を食べることについての質問に対するパウロの答えを見つけてもらいます。

- 13節によると、パウロは、そのような状況にいたならばどのような行動を取ると言いましたか。それはなぜでしょうか。(この節にある「つまずかせる」が、霊的につまずく、罪を犯す、信仰をなくすという意味であることを生徒が理解するように助けます。)
- 他の人々を霊的につまずかせないようにできる方法について、これらの節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。他の人々を霊的につまずかせる可能性がある行いを避けることによって、わたしたちは彼らへの慈愛を示すことができます。)

一人の生徒に、ペリー長老の話の残りの部分を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、ペリー長老がこの原則をどのように応用したかに耳を傾けてもらいます。



「最終的に、自分が飲酒家ではないとはっきり分かる飲み物を選ばなければならぬと決心しました。バーテンダーのところへ行き、牛乳を注文したのです。バーテンダーはそれまでそんな注文を受けたことがありませんでしたが、キッチンへ行って、牛乳を1杯見つけてきてくれました。これで、他の人たちが飲んでるアルコール飲料とは明らかに違う飲み物を手に入れることができました。……

それ以来、カクテルアワーにはいつも牛乳を選ぶことにしました。間もなく、わたしがモルモンだということが周知の事実になりました。人々から受けた敬意と、それから始まった興味深い出来事にわたしは驚きました。他の人もわたしと同じく牛乳100パーセントのカクテルを飲み始めたのです!」(「バランスが取れて義にかなった生活の伝統」33)

生徒が原則を理解するのに役立つ物語を使う

物語は、生徒が聖句ブロックで見つけた福音の原則を理解するのに役立ちます。物語の中の福音の原則を現代の状況に照らして説明することによって、生徒に、福音の原則が自分の生活にどのように関連しているかを理解させ、また福音の原則を応用したいという望みを持たせることができます。

- 他の人々が靈的につまづいてしまうことになり得る行為を避けることによって、他の人々に慈愛を示す方法について、その他の例にはどのようなものがありますか。

今日生徒たちが見いだした真理について証し、彼らがこれらの真理に従って生活しようと努力するときには聖霊の導きを求めるよう生徒たちを励まします。

1コリント 9 - 10章

はじめに

パウロは、自分の物質的な必要を満たすために教会の財源を使用することに関するコリントの聖徒からの懸念について話しました。パウロは、自分の福音を宣べ伝える目的は神の子供たちに救いをもたらすことであると説明しました。パウロは罪

を犯さないようにすることに加え、他の人々の宗教的信条のことで彼らを不快にさせないように熱心に勧めました。

教えるための提案

1コリント 9章

パウロ、自分自身とその言葉を聞く者たちが救われるよう福音を宣べ伝える

目覚まし時計をクラスに持参し、それを生徒たちから隠しておきます。教え始めて間もなく鳴るよう時計をセットしておきます。

レッスンを始めるために、生徒たちに永遠の命がどのようなものになるかを想像してもらいます。クラスノートや聖典学習帳に、永遠の命が自分たちの望むものである理由を書いてもらいます。何人かの生徒に書いた事柄を発表してもらってもよいでしょう。

目覚まし時計は、この活動の終わり間近に鳴るようにします。時計が鳴ったら、一人の生徒に時計を見つけて止めてもらいます。

- 目覚まし時計の音を聞いたとき、どのように感じましたか。

生徒たちに、目覚まし時計でなかなか起きることができず、その結果何か大切なことを逃してしまったことがないか考えてもらいます。数人の生徒にそれを分かち合ってもらいます。

目覚まし時計でなかなか起きられないことが、何か大切なことを逃すだけでなく、大切なことを達成できないという結果につながるのと同様に、人生において「目を覚ます」ことができず、特定の態度を改めないことが、あらゆる事柄の中でも最も大切である永遠の命を得ることができない結果につながり得ると説明します。

1コリント9章を研究しながら、確実に永遠の命を得る方法を知るための助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、次の1コリント9:1-21

パウロはコリントの聖徒たちからのさまざまな疑問に答えました。パウロが教会員によって物質的な支援を受けることは十分に正当化されることでしたが、パウロは生活費について彼らに頼ってはいなかったと書いています。またパウロは、福音の標準を守りながら異なる状況に順応することで、福音において弱いユダヤ人、異邦人、その他の人々が福音を受け入れられるよう助けることができたことと説明しました。

一人の生徒に、1コリント9:17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがどのように福音を宣べ伝えたかを見つけてもらいます。「それは、わたしにゆだねられた務なのである」という言葉は、パウロが福音を宣べ伝えるという務めまたは義務を全うしていたことを指すと説明するとよいでしょう。

- パウロはどのように福音を宣べ伝えましたか。

一人の生徒に、1コリント9:22-23を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自ら進んで福音を宣べ伝えた理由を見つけてもらいます。

- パウロが自ら進んで福音を宣べ伝えたのはなぜですか。

厳しい訓練プログラムを定期的に行っている生徒（音楽家またはスポーツ選手など）の一人に、教室の前に来てもらいます。その生徒に以下の質問をします。

- あなたの訓練プログラムはどのようなものですか。
- 特定の行事や目標のために練習または訓練したことはありますか。特定の目的のために努力することは、あなたをどのようにやる気にさせましたか。

要約する

要約することによって、聖句ブロックの部分を紹介することができます。聖句ブロックのセグメントを省略せずに要約することで、生徒が話の流れと背景をはっきりと記憶にとどめ、その後にブロックの中に出てくる原則や教義を見つけて理解するのに必要な基盤を与えることができます。要約することは、靈感を受けた記録者のメッセージを漏れなく、流れに添って採り上げるのに役立ちます。

その生徒に礼を言って、席に戻ってもらいます。

一人の生徒に、1コリント9:24-25を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちを教えるためにパウロが使った競技を見つけてもらいます。

- パウロはどのような競技に言及しましたか。
- パウロは、勝利を得るためには走者にどのような資質または特質が必要であると言いましたか。「何ごとにも節制をする」とは、自制心を働かせることを意味すると説明します。
- パウロが言及した永遠に持続する朽ちない冠とは何ですか。(永遠の命。)
- 永遠の命を得るためにわたしたちが行わなければならないことについて、25節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、必ず次の原則を見つけるようにします。永遠の命を得るためには、全ての事柄において自制心を働かせることを身につけなければならない。この原則をホワイトボードに書きます。自制心が必要であっても、最終的に永遠の命は自制心だけではなく、イエス・キリストの「功德と憐れみと恵みによらなければ」[2ニーフアイ2:8]もたらされないことも、生徒たちが理解するようにします。)
- 永遠の命を得るために自制心を働かせることが必要であるのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、1コリント9:26-27を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自制心を働かせるための自分自身の努力をどのように説明したかを見つけてもらいます。

- 26節によると、パウロは永遠の命を得るための自分自身の努力をどのように説明しましたか。(自信を持ち、無駄な努力をしない。)
- 27節によると、パウロはどのような意味で「自分のからだを打ちたたいて服従させる」と書いたと思いますか。

生徒たちがパウロの意図を理解できるように、一人の生徒に、ブリガム・ヤング大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「皆さんの欲求を、皆さんの内に宿っている霊、すなわち天の御父が与えてくださった霊に従わせないかぎり、永遠の命を受け継ぐことはできません。天の御父は皆さんの霊の御父であられ、御父はこれらの幕屋にその霊を入れてくださったのです。幕屋を完全に霊に従わせなければなりません。そうでなければ、肉体がよみがえって永遠の命を受け継ぐことはできないのです。……皆さんは全てをキリストの律法に従わせるまで、熱心に求めてください。……

……霊が体に従うならば、それは墮落します。しかし、体が霊に従うならば、それは清く、聖なるものとなるのです。」(『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』224, 226)

- 体が霊に従うようにするためにできる事柄にはどのようなものがありますか。

1コリント10章

パウロは、罪を避け、人々を傷つけることのないようコリントの聖徒たちを戒める

一人の生徒に、大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長の次の言葉を読んでもらいます。

「人生における根拠のない大きな思い違いの一つは、人間が自分を不死身だと考えることです。あまりにも多くの方が、自分はどんな誘惑にも堪えられる鋼のような強い人間だと考えます。そして、『そんなこと、自分には起こり得ない』と錯覚してしまうのです。」「わたしには起こるはずがない」『リアホナ』2002年7月号, 51)

- 人々はどのような状況で、自分はどんな誘惑にも堪えられると思いついで、自分自身を誘惑にさらす場合がありますか。(生徒たちの回答をホワイトボードに書きます。)

誘惑と罪についてコリントの聖徒たちに警告するため、パウロはイスラエル人の歴史からの例を引用したと説明します。一人の生徒に、1コリント10:1-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、モーセの時代にイスラエルの子供たちを霊的に強くするはずだった経験を見つけてもらいます。

- イスラエルの子供たちを霊的に強くするはずだった経験には何がありますか。(パウロが「霊の岩」つまりエホバをキリストとして特定したことを指摘するとよいでしょう〔申命記 32:3-4 も参照〕。)

- 5 節によると、多くの古代イスラエル人の態度について神はどのようにお感じになりましたか。

数人の生徒に、1 コリント 10:6-11 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが古代イスラエル人の例からコリントの聖徒たちに学んでほしいと思った事柄を見つけてもらいます。

- 古代イスラエル人の例を伝えたパウロの目的は何でしたか。(パウロは、コリントの聖徒たちが古代イスラエル人の罪を繰り返さないよう彼らに警告したかった。)

クラス全員に立ってもらい、1 コリント 10:12 を一緒に声に出して読んでもらいます。

- あなた自身の言葉では、12 節にあるパウロのメッセージをどのように要約しますか。

クラス全員に着席してもらいます。一人の生徒に、1 コリント 10:13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが誘惑について教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは誘惑についてどのようなことを教えましたか。

- 神がわたしたちが耐えられないような試練に遭わせることをなさらないのであれば、なぜ古代のイスラエル人は誘惑に屈したのでしょうか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 神は誘惑から逃れる方法を与えてくださるが、わたしたちは _____ なければならない。

一人の生徒に、1 コリント 10:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの聖徒たちに実行するよう教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロはコリントの聖徒たちに何をどのように教えましたか。

- 14 節は、誘惑から逃れるためのわたしたちの役割について何を教えていますか。(生徒たちが答えた後、ホワイトボードの真理を次のように完成させます。神は誘惑から逃れる方法を与えてくださるが、わたしたちは誘惑から離れることを選ばなければならない。)

生徒たちに、自分の聖典の 1 コリント 10:13-14 の近くに「アルマ 13:28」と書き込むよう提案するとよいでしょう。一人の生徒に、アルマ 13:28 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誘惑から離れるために何ができるかを見つけてもらいます。

- アルマ 13:28 によると、誘惑から離れるにはどのようなことができますか。

- へりくだり、目を覚ましていて、絶えず祈ることは、誘惑から離れるためにどのように役立ちますか。

小冊子『若人の強さのために』を生徒たちに見せ、この小冊子に挙げられている標準に従って生活することが、誘惑から離れるためにどのように役立つか生徒たちに尋ねます。

常に誘惑を避けることはできないかもしれないことを生徒たちに説明します。このため、わたしたちは誘惑に直面するときどのように行動するかを、今ここで決めておく必要があります。一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長が述べた次の言葉を読んでもらいます。



「最終的な目標を念頭に置いて、事が起こるずっと前にどうするか決めておけば、いとも簡単に正しい決断をすることができます。……

同じ誘惑に遭うたびに自分が行うことを決め、何度も繰り返し決め直さなくてもよいように、自己を訓練してください。ある事柄については、一度だけ決意すればよいのです。……

悪の道から離れるべき時は、その道を歩み始める前です。正しい生活を送る秘訣は、防御と予防にあります。悪に負ける人は、たいてい攻撃にさらされやすい場所に身を置いている人なのです。』(『歴代大管長の教え — スペンサー・W・キンボール』 108 - 109)

今日生徒が見いだした原則について証を述べます。生徒たちに、自分が最も苦勞している誘惑についてよく考えるように言います。以下の質問について生徒に深く考えてもらいます。

- 誘惑に直面する前に、それらを避けるためにどのようなことを改めておくことができますか。

- それらの事柄を自ら進んで改める意志はありますか。

誘惑から逃れるために行う計画を立てるよう生徒たちに勧めます。それぞれの計画を達成しようと努力するときに、祈りを通して主からの助けを求めるよう生徒たちを励まします。

1コリント10:15 - 33の要約として、パウロは、コリントの聖徒たちが自分たちの宗教的信条を守りながら他の人たちの宗教的慣習に敬意を示すよう勧告し、自分は多くの人を救われるのを助けるために教えを説いていると再び繰り返したことを説明します。

1 コリント 11 章

はじめに

パウロは、宗教的な風習に関するコリントの聖徒たちの争いについて話しました。男性と女性には永遠かつ神聖な役割があり、主の計画において互いに欠かせない存在であることを強

調しました。また、教会員に聖餐を受けるための正しい準備について教えました。

教えるための提案

1 コリント 11:1 – 16

パウロ、当時の風習に関する争いについて話す

結婚した夫婦の写真を見せます（例えば、「神殿に参入する若い夫婦」『福音の視覚資料集』120 番など；LDS.org も参照）。結婚について一部の人が感じているかもしれない事柄を示す次の声明を声に出して読みます。

1. 「わたしにとって、職業上の成功を取めることが全てです。職業上の目標と結婚とで自分の力を分散させたくありません。」
2. 「長いお付き合いは約束したくありません。後で後悔するような決断をしてしまうことが心配なんです。」
3. 「結婚はわたしを束縛します。やりたいことが何もできなくなってしまうでしょう。」
4. 「結婚はこれまでで最も大切な決断です。その日を楽しみにしています。」

結婚についてどのように感じるか生徒たちに深く考えてもらいます。1 コリント 11:1 – 16 を研究しながら、生徒自身や他の人たちが結婚の大切さを理解するのに役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、1 コリント 11:3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、夫の責任についてパウロが何を教えたかを見つけてもらいます。この節では、「男」と訳されている言葉を「夫」、「女」と訳されている言葉を「妻」と言い換えることができると説明するとよいでしょう。

- 夫の役割は何ですか。（「女のかしらは男」という語句は、夫には家庭を管理するという神聖な責任があることを意味すると説明する必要があるかもしれません。「管理する」とは、霊的、またこの世的な事柄において、義にかなって他の人たちの先に立ち、導くことを意味します。）
- 夫が家庭を管理するときに、夫を管理し、導いてくださるのはどなたですか。

1 コリント 11:4 – 16 の要約として、パウロは、礼拝の最中に祈ったり預言したりする際の、男性と女性の風習に関する疑問について話したと説明します。

新約聖書の読者は時折、パウロの教えが、女性の役割よりも男性の役割のほうが重要である、あるいは男性は女性よりも優れている、または男性には女性以上の価値があるということの意味していると誤解してしまう場合があることを生徒が理解するように助けます。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を、声に出して読みます。

「男性と女性は、神の目から見て同等であり、教会の目から見ても同等ですが、同等というのは、男女がまったく同じであるという意味ではありません。男性と女性の責任と天与の賜物は、その本質において異なっています。しかし、重要度や影響力が異なるということではありません。教会の教義は、女性を男性と同等に置っていますが、女性は男性と異なっていることを示しています。神はどちらかの性ももう一方の性より優れているとか、大切であるとは見なしておられません。」（『主の業における男性と女性』『リアホナ』2014 年 4 月号, 48）

一人の生徒に、1 コリント 11:11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが夫と妻の関係について何を教えたかを見つけてもらいます。

- パウロは、夫と妻の関係について何を教えましたか。



生徒が靈的な真理を理解するのに 助けるため実物を使う

実体のない福音の様々な事項について教えるのは難しい場合があります。実物を用いて討論を促すことは、生徒が教義と原則を分析し、理解するのに役立ち、探求心を鼓舞することで、学ぶ雰囲気が高めることができます。

「主にあっては」という語句に注目してもらいます。この語句は、わたしたちが主のようになり、永遠の命を得る助けとなる主の計画を指していると説明します。

- この節は、主の計画における男性と女性についてどのような教義を教えていますか。（生徒の言葉を使って、次の真理をホワイトボードに書きます。主の計画において、男性と女性は互いにどちらが欠けても永遠の命を得ることはできない。〔教義と聖約 131:1-4 参照〕）

生徒が上記で見いだした真理を理解するのを助けるため、一本のはさみを生徒に見せ、紙を切り始めます。生徒たちに、このはさみの二つの刃がバラバラになったと想像してもらいます。

- 誰かがはさみの半分だけを使って紙を切ろうとしたとすると、その人はどれほどうまく紙を切れませんか。はさみは、協力し合う夫と妻とどのような点で似通っていますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「神の計画により、男女は、完成と完全な栄光に向かって一緒に歩むよう意図されて造られました。男性と女性は、明らかに異なる気質と能力を備えているので、結婚生活の中に、それぞれ独特の見方や経験を持ち込みます。男女は、異なる方法で平等に貢献し合いながら一致します。他の方法では一致できません。互いに学び合い、強め合い、祝福し合ううちに、女性は男性に補われ、男性は女性に補われて、互いに完全な者となります。」（「結婚 — 神の永遠の計画に不可欠なもの」『リアホナ』2006年6月号, 52）

- 男性と女性の異なる特質と責任は、家族の中でお互いをどのように補い合いますか。

生徒たちに、レッスンの最初に読んだ声明で表されていた結婚についての異なる態度を思い出してもらいます。数人の生徒に、主の計画における結婚の大切さについての考えと証を分かち合ってもらいます。あなたの証を分かち合ってもよいでしょう。

1コリント11:17-34

パウロ、コリントの聖徒たちに聖餐を軽んじてはならないことを教える

ホワイトボードに次の言葉を書きます — 真に靈的な経験、魂の再生、安息日で最高の出来事。

生徒たちに、ごく最近の聖餐にあずかった経験について深く考え、それらの経験を表すためにホワイトボードにある語句のどれかを使うかどうかをよく考えてもらいます。1コリント11:17-34を研究しながら、聖餐にあずかることをより靈的かつ意義深い経験にするために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

パウロの時代には、教会の会員が最後の晩餐を思い起こさせる慣習を維持していたと説明します。教会員は、ともに食事をした後で聖餐にあずかっていました。1コリント11:17-22の要約として、コリントの聖徒たちが聖餐にあずかるために集まったときに、彼らの中で意見の不一致や争いがあったというパウロが受け取った報告について、パウロは言及したと説明します。パウロは、これらの集会が聖餐の儀式の神聖さを保つものではなく、単なる食事になってしまっていることについて聖徒たちを非難しました。

一人の生徒に、1コリント11:23-26を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖餐について何を覚えておくよう教会員を励ましたかを見つけてもらいます。26節の「告げ知らせる」という言葉は、宣言する、発表する、証するという意味であると説明するとよいでしょう。

「最後の晩餐」（『福音の視覚資料集』54番；LDS.orgも参照）の絵を見せます。

- パウロが、聖餐にあずかるときに覚えておくよう救い主が御自身の子供たちにお教えになったと言ったことは何ですか。
- 聖餐にあずかるときに救い主の体と血を覚えておくことは、意見の不一致に悩むこれらの教会員たちをどのように助けることができましたでしょうか。

一人の生徒に、1コリント11:27-30を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖餐についてパウロがコリントの聖徒たちに与えた警告を見つけてもらいます。

- 27節や29節によると、パウロはコリントの聖徒たちに何について警告しましたか。
- これらの節から、ふさわしくない状態で聖餐にあずかるとき、どうなるかについてどのような真理を学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うかもしれませんが、必ず次



の真理を見つけるようにします。ふさわしくない状態で聖餐を受ける人は、自分に罪の宣告と罰の定めを招く。)

次のことを説明します。わたしたちは、「聖餐を受けるために完全である必要はありませんが、心の中にへりくだり悔い改める気持ちがなくてはなりません。」(『真理を守る — 福音の参照資料』125) 深刻な罪の内に、または悔い改めない心を持って生活しており、救い主を覚えて従おうという望みが無いのに聖餐にあずかるなら、わたしたちはふさわしくない状態で聖餐にあずかることとなります。聖餐にあずかるための自分自身のふさわしさについて疑問がある場合は、天の御父に祈り、ビショップに話すように生徒たちを励まします(3 ニューファイ 18:26 – 29 参照)。

- ふさわしくない状態で聖餐にあずかることが、わたしたちの魂に罰の定めをもたらすのはなぜだと思いますか。
- 1 コリント 11:28 によると、パウロは教会員にどのような勧告をしましたか。(生徒の言葉を使って、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちは聖餐にあずかるときに自らの生活を吟味するべきである。)

わたしたちの生活を吟味する目的は、聖餐にあずかるにふさわしいかどうかをよく考えるだけではなく、主との聖約を守るためにどれだけ努力をしているか、またどれほど悔い改め、向上しようと努めているかについてよく考えることだと指摘します。

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「[わたしはこのように] 自問してみました。『自分は何よりも神を優先し、戒めを全て守っているだろうか。』それから反省し、そして決心しました。いつも主の戒めを守りますと主に聖約することは重大な責任であり、聖餐にあずかってその聖約を新たにすることも同じように重大なことです。聖餐が配られている間に黙想する厳粛な時間を持つことには大きな意義があります。それは自省、内省、自己を認識する時間、反省と決心の時間です。」(『聖餐に思うこと』『聖徒の道』1977年10月号、453参照)

生徒たちが、1 コリント 11:28 で見いだした真理を応用する方法を考えるのを助けるため、聖餐にあずかる準備をするときに深く考えることができる質問を考えてもらいます。例えば、「どのようにイエス・キリストのより良い弟子となれるか」と尋ねることができます。生徒たちに、自問することができるその他の質問を分かち合ってもらいます。あなた独自の質問を幾つか提案することもできます。生徒たちに、自分のふさわしさを吟味しながら聖餐式の間に自問することができる質問のリストをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

聖餐にあずかる前や、その最中に生徒たちが自身のふさわしさを吟味するときに、どのように聖約をより良く果たし、主が与えたいと望んでおられる祝福を受けるにふさわしくなるかを知るために、主が助けてくださると証します。これらの祝福には、罪から清められ、それぞれの生活においてより大きな聖霊の力を受けることが含まれます。生徒たちに、次に聖餐にあずかる機会により一層備える方法について目標を立てるように勧めます。

1 コリント 11:33 – 34 の要約として、聖餐を執行することと併せて取っていた食事について、パウロはコリントの聖徒たちにさらなる指示を与えたと説明します。

1 コリント 11 章で見いだした真理について証をして、レッスンを終わります。

1 コリント 12 章

はじめに

パウロは数多くの御霊の賜物について記述しました。パウロは教会を肉体にたとえ、体は全ての部位が正しく機能することを必要としているように、それぞれの教会員も御霊の賜物を

使って教会に貢献し、教会を強めることができると説明しました。

学習の過程を踏むよう
生徒を導く

生徒は、あなたがレッスンの準備中に経験したことと同様の学習の過程を踏むように導かれるときに教化されます。理解するために聖文を調べ、自分自身で福音の真理を見つけるように生徒を導きます。自分の言葉で福音を説明し、自分が知っていることと感じていることを分かち合い、証する機会を与えます。こうすることは、彼らの思いと心で福音を自分のものにする助けとなります。

教えるための提案

1 コリント 12:1-11

パウロ、霊的な賜物について教える

次の石の写真を見せます。

その石の上部にある碑文には「あなたが何者であろうと、自らの務めを十分に果たしなさい」と書いてあることを生徒に伝えます。デビッド・O・マッケイ大管長がスコットランドで宣教師として奉仕していたとき、マッケイ大管長はスターリング城の近くの建物にはめ込まれていたこの石を見て、そのメッセージに感銘を受けました（フランシス・M・ギボンズ、*David O. McKay: Apostle to the World, Prophet of God* [1986 年], 45 参照）。

この石の 9 個の正方形にあるそれぞれのシンボルは数字を現していると説明します。生徒たちにそれぞれの図形が表す数字を特定してもらいます。（左から右へ、上の行のシンボルは 5, 10, 3；真ん中の行のシンボルは 4, 6, 8；下の行のシンボルは 9, 2, 7 を表します。）

- 上の行に表されたの 3 つの数字の合計は何ですか。真ん中の行、下の行はどうですか。

この石のどの行、列、対角線上に表された数字でも、合計は全て 18 になることを説明します。これらの図形が「あなたが何者であろうと、自らの務めを十分に果たしなさい」という語句とともに含まれている理由の一つは、これらの図形のいずれかの位置や値が変更されてしまったら、その石の列や行はどの方向に数字を足しても 18 にならなくなってしまうことだったのかもしれない。

1 コリント 12 章を研究しながら、わたしたちは教会の会員として、この石の図形とどのように似ているかを生徒たちによく考えてもらいます。

1 コリント 12:1-2 の要約として、パウロはコリントの教会員たちに、多くの聖徒が誤解していた霊的な賜物について教えることを望んでいたと説明します。パウロは彼らに、自分たちが改宗する前は偶像礼拝によって道に迷わされていたことを思い出させました。

一人の生徒に、1 コリント 12:3 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、わたしたちがどのようにイエスが主であり、救い主であられることを自分自身で知ることができるかを見つけてもらいます。ジョセフ・スミスは、3 節の「言う」という言葉は「知る」として理解されるべきだと教えたことを説明します（*History of the Church*, 第 4 巻, 602-603）。

- 1 コリント 12:3 によると、わたしたちはイエス・キリストについての個人の証をどのように得ることができますか。（生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちは、聖霊によってのみ、イエス・キリストがわたしたちの救い主であるという個人の証を得ることができます。ジョセフ・スミスやモルモン書の個人の証を得ることに同じ原則が当てはまることを説明するとよいでしょう。）

生徒たちがこの真理をより一層理解できるように、一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ワークトドルフ管長による次の言葉を声に出して読んでもらいます。





「証はこの上なく貴重な財産です。それは論理や理屈だけで得ることはできず、この世の富で買い取ることや、贈り物として受け取ること、先祖から受け継ぐこともできないのです。また人の証に依存することもできません。自分で知る必要があります。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。『全ての末日聖徒は、イエスが復活された、生ける神の生ける御子であられることを、はっきりと知る責任があります』（「善を行うことをおそるなかれ」『聖徒の道』1983年7月号, 140) ……」

聖なる御霊が内なる霊に語りかけてくださるときに、わたしたちはこの証を受けます。穏やかで揺るぎない確信は、……わたしたちに証と確信をもたらす源となります。』（「個人の証が持つ力」『リアホナ』2006年11月号, 38）

- イエス・キリストの証は聖霊によってのみもたらされることを理解するのが大切なのはなぜですか。
- 聖霊をわたしたちの生活に招くためには何をすることができますか。

1 コリント 12:4-6 に記録されているとおり、パウロは、異なる方法で働くさまざまな霊的な賜物があるものの、全ての賜物は聖霊を通して神からもたらされると教えました。御霊の賜物は聖霊を通して与えられる祝福、または能力であり、神は教会の会員それぞれに少なくとも一つの賜物をお与えになっていると説明するとよいでしょう（教義と聖約 46:11 参照）。

一人の生徒に、1 コリント 12:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御霊の賜物がわたしたちに授けられた理由を見つけてもらいます。（必要に応じて、「全体の益になるため」とは全ての聖徒に共通する利益を意味すると説明します。）

- 天の御父の子供たちに御霊の賜物が与えられた理由について、わたしたちはパウロからどのような真理を学ぶことができますか。（生徒は次のような真理を見つけてください。御霊の賜物は、天の御父の子供たち全員が利益を得るために与えられる。この真理をホワイトボードに書きます。）

生徒たちがこの真理を理解できるように、次の表をホワイトボードに書き写し、生徒たちにもその表をクラスノートか聖典学習帳に書き写してもらいます。

霊的な賜物	これらの霊的な賜物がどのように神の子供たちの利益となるか

クラスを2人か3人のグループに分けます。それぞれのグループに、1 コリント 12:8-11 を研究して、それに伴う指示に従ってもらいます。これらの指示をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒に配ってもよいでしょう。

1. 表の最初の列に、1 コリント 12:8-11 に記載されている霊的な賜物それぞれを書き出します。
2. 霊的な賜物それぞれの意味について話し合うか、例を挙げます。

各グループに、見つけ出した霊的な賜物と、それぞれの賜物の意味を発表してもらいます。必要に応じて、「知恵の言葉」（8 節）とは的確な判断力と知識の適切な応用、「知識の言」（8 節）とは神と神の律法の知識、「霊を見わける力」（10 節）とは真理と虚偽を見わけることと人の善悪を見抜くこと、そして「種々の異言」（10 節）とは外国語または未知の言語で話す能力を指すと説明します。

各グループに 8-10 節に記載されている霊的な賜物を二つ選択してもらい、表の二列目にこれらの賜物が神の子たちにどのような利益をもたらすかを書いてもらいます。十分な時間を取った後、何人かの生徒に、二列目の答えの一つをクラスに説明してもらいます。

聖文の中に具体的に記載されている霊的な賜物は、御霊を通じてわたしたちが受けることのできる数多くの賜物の中のほんの一部であることを指摘します。

- 聖霊を通じてわたしたちが受けることのできる賜物には他にどのようなものがありますか。
- あなたの家族、友人、クラスメートが持っていると感じた霊的な賜物にはどのようなものがありますか。

- 自分の霊的な賜物を見いだすためにはどのようなことができますか。(祈りをもってそれらについて天の御父に尋ね、祝福師の祝福を受けて研究する。)

生徒たちに、自分たちに授けられた霊的な賜物について、それらからどのように利益を得ることができるかについて、それらをどのように使って他の人々に利益をもたらすことができるかについて深く考えてもらいます。

1 コリント 12:12 - 31

御霊の賜物は、教会の会員全体を祝福するために授けられる

4人の生徒たちにホワイトボードの前に来てもらいます。残りの生徒たちには聞こえないように、4人の生徒それぞれに次の言葉を割り当てます 一足、手、耳、目。4人の生徒に自分の言葉の絵をホワイトボードに描いてもらい、クラスの生徒にそれぞれの生徒が何を描いているかを当ててもらいます。それぞれの絵が何かをクラスの生徒たちが正しく回答したら、4人の生徒に席に戻ってもらいます。クラスの生徒たちに、足、手、耳、目が体の機能にどのように寄与するかをよく考えてもらいます。

- 指、歯、つま先など、体のちょっとした箇所にけがをしたことはありますか。その軽いけがは、毎日の単純な仕事であっても、何らかの影響を与えましたか。

一人の生徒に、1コリント12:12-14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがわたしたちの体とその部位を何に比較したかを見つけてもらいます。

- パウロはわたしたちの体とその部位を何に比較しましたか。(イエス・キリストの教会とその会員。)

ホワイトボードに次の参照聖句と質問を書きます。

1コリント12:15-22, 25-30

パウロはどのように体と教会を比較しましたか。

生徒たちを先ほどと同じグループに分けます。各グループに、1コリント12:15-22, 25-30を、一緒に声に出して読んでもらい、パウロが教会の会員と体の部位をどのように比較したかを見つけてもらいます。パウロがどのように体の部位を教会員にたとえたかを見つける前に、パウロが体とその部位について何を教えたかを見つけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。十分な時間を取った後で、生徒たちに見つけた事柄を発表してもらいます。

- パウロが霊的な賜物について書いた直後に個々の教会員の役割について語ったのはなぜだと思いますか。
- 教会員は体の部位のようであることに関するパウロの教えによって、解決できるかもしれない現代の教会員が抱えている懸念には、どのようなものがありますか。
- パウロによる教会員と体の部位との比較から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができますか。(生徒が次の原則を確実に見つけるようにします。他の人に奉仕するために自分独自の霊的な賜物を使うとき、わたしたちは教会を強めることができる。この原則をホワイトボードに書きます。)

一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。この言葉のコピーを各生徒に配るとよいでしょう。



「わたしたちは皆、この偉大な業とともに携わっています。わたしたちは、天の御父の業と栄光である『人の不死不滅と永遠の命をもたらす』(モーセ1:39) ための働きの中で、天の御父の助け手となるために召されているのです。皆さんの受けている責任も、わたしの受けている責任も、その重要性に変わりはありません。この教会に、小さな召しとか、つまらない召しなどはありません。わたしたちは皆、責任を果たしていく中で、人々の生活に影響を及ぼすのです。」「(『主のみ業』『聖徒の道』1995年7月号, 76)

- 個々の会員の異なる霊的な賜物と召しのために、教会はどのように祝福されますか。
- あなたの家族、セミナーのクラス、ワードまたは支部が、そのメンバーの霊的な賜物によって、どのように強められたのを見ましたか。

教会を強め、他の人々の人生を祝福するためには、どのように自分の霊的な賜物を使うことができるか生徒たちに深く考えてもらいます。

生徒たちに、1コリント12:31を黙読しながら、パウロがコリントの聖徒たちに実行するよう勧告した事柄を見つけてもらいます。

- パウロはコリントの聖徒たちに何をしよう勧告しましたか。(この節の「熱心に努め[る]」とは、熱心に求めるという意味であることを説明します。)

- 御霊の「さらに大いなる賜物」を熱心に求めるには、どのようなことをすることができますか（教義と聖約 46：8 - 9 も参照）。

霊的な賜物に対するあなたの証と感謝の気持ちを述べ、霊的な賜物を熱心に求め、それらを使って他の人々に奉仕し、教会を強めるよう生徒たちを励まします。

1コリント 13 - 14章

はじめに

パウロは慈愛の大切さについて教えました。またコリントの聖徒たちに、慈愛を追い求めて得るように、そして他の霊的な賜物を求めるように勧告しました。パウロは、預言の賜物は異

言の賜物よりもすばらしいものであり、教会員が他の人々を霊的に強めることができるようこの賜物が与えられていると教えました。

生徒を念頭に置いて、各レッスンを準備する

レッスンを教える準備をするときは、生徒たちの生活に生じてほしい成果についてよく考えます。トーマス・S・モンソン大管長は次のように思い出させています。「福音を教える目標は、……クラスの会員の心の中に『情報を注ぎ込む』ことではありません。……その目的は、福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、その後、何かを行うように個人を促すことなのです」(Conference Report, 1970年10月, 107)

教えるための提案

1コリント13章

パウロ、慈愛を持つことの大切さについて教える

クラスが始まる前に、次の状況をホワイトボードに書いておくか、それらのコピーを生徒たちに配ります。一人の生徒に、それぞれの状況を声に出して読んでもらい、それらのうちで自分に当てはまるものがあるかどうかを生徒たちによく考えるように言います。

1. きょうだいの態度にイライラしたり、腹が立ったりすることがよくある。
 2. クラスメートがあなたに失礼な態度をとったので、あなたが仕返しに失礼な態度をとっても正当だと思う。
 3. 友人の才能と功績をうらやましいと思う。
 4. あなたの神権定員会や若い女性のクラスで、ときどき気軽にうわさ話をしたり陰口を言うてしまうことがある。
- これらの態度や行動から、どのような悪影響が生じ得ると思いますか。

1コリント13章を研究しながら、個人の幸せや他の人との関係を壊しかねない態度や行動を避けるために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、コリントの聖徒たちは、教会の中での争いと分裂につながるようなさまざまな態度を執っていたことを思い出してもらいます。パウロは書簡の中で、霊的な賜物は全ての人の益となるため、そして教会員がお互いに奉仕して強め合うために与えられたと教えました。パウロは聖徒たちに「さらに大なる賜物」(1コリント12:7-31参照)を熱心に求めるように勧告しました。

一人の生徒に、1コリント13:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが大いに称賛した特性と御霊の賜物を見つけてもらいます。

- パウロが大いに称賛した特性と御霊の賜物は何ですか。(慈愛。)

慈愛とは、「単なる愛慕の情ではなく、最も気高く、尊く、しかも強い愛」(『聖句ガイド』「慈愛」)であることを説明します。

- パウロは、他の霊的な賜物を持っているにもかかわらず慈愛のない人々をどのように言い表しましたか。

1節にある「やかましい鐘」や「騒がしい鍍鉢」という語句は、大きな音や装飾音を鳴らす楽器を指すと説明します。1節の背景において、これらの語句は、話す人の動機が慈愛でなければ、語る言葉はむなしく、意味のないものになってしまうという意味を表しています。

- 慈愛がなければわたしたちに何の価値もないのはなぜだと思いますか。
- ある人が貧しい人に食物を与えるために持っているものを全て手放したり、真理のために進んで死ぬ意志があったりするにもかかわらず、その人に慈愛がないということは、どのように起こり得るでしょうか。(慈愛とは、寛大な行為や、真理のために死ぬ以上のものであることを説明します。)

ホワイトボードに以下の表を書き写します。

慈愛とは何か, 何をすることか	慈愛ではないものは何か, 何をしないことか

コリントの聖徒たちがこの賜物についてより一層理解できるように、パウロは慈愛の資質と特質について述べたと説明します。生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒たちに、パートナーと1コリント13:4-8を読み、慈愛のついでのパウロの説明を見つけてもらいます。

時間を十分に取った後、生徒にホワイトボードの前に来て、表の適切な表題の下にパウロの慈愛についての説明を書いてもらいます。必要に応じて、それぞれの説明を理解できるように生徒たちを助けます。

- 慈愛についてのこれら全ての説明に当てはまる御方はどなたですか。(イエス・キリスト。)

生徒たちに、預言者モルモンは「慈愛はキリストの純粋な愛」(モロナイ7:47)であると教えたことを思い出してもらいます。慈愛は次の二つの面で言い表すことができると説明します。(1) わたしたちに対するキリストの愛, (2) 他の人々に対するわたしたちのキリストのような愛。生徒たちにホワイトボードにあるリストから慈愛の説明をいくつか選んでもらい、それらがどのような点でイエス・キリストをよく言い表しているかを説明してもらいます。

- 8節にある「愛はいつまでも絶えることがない」とはどういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「真の慈愛……キリストの尽きることのない、究極の、贖いの愛こそが、完全に純粋な形で真の慈愛を示しています。……慈愛-わたしたちに対するキリストの純粋な愛-がなければ、わたしたちは何の価値もなく、希望もなく全ての男女の中で最も惨めな存在です。……」

人生には恐れや失敗は付き物であり、思うようにいかないこともあります。人から裏切られることもあれば、経済や仕事、政府に裏切られることもあります。しかし、どんなときも永遠にわたしたちを裏切らないものがあります。それがキリストの純粋な愛なのです。」(Christ and the New Covenant [1997年], 337)

- イエス・キリストの純粋な愛がいつまでも絶えることがないのを覚えておくことはどのように役立ちますか。
- 1コリント13:4-8で学んだことによれば、慈愛の賜物を得るとわたしたちには何が起こりますか。(生徒たちはさまざまな真理を見つけるかもしれませんが、慈愛という霊的な賜物を得ようと努力するとき、わたしたちはさらに救い主、イエス・キリストのようになることが明確にされるようにします。この真理をホワイトボードに書きます。)

1コリント13:9-12の要約として、パウロは知識と預言の霊的な賜物がいつか廃れてしまう理由を教えたことを説明します。パウロは、この世で手に入れることのできる知識は不完全であり、わたしたちは永遠において完全な知識を得るということに気づきました。

一人の生徒に、1コリント13:13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが存続する、つまり持続する、または常に変わらないと教えた3つの御霊の賜物を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- パウロは何が最もすばらしい霊的な賜物であると教えましたか。(生徒は次の真理を見つけるでしょう。慈愛は最もすばらしい御霊の賜物である。この真理をホワイトボードに書きます。)
- 信仰、希望、慈愛にはどのような関係がありますか。(信仰は希望につながり、希望は慈愛につながる。)
- 1コリント13章で学んだ事柄によれば、慈愛が最もすばらしい御霊の賜物であるのはなぜだと思いますか。

「愛を追い求めなさい」という1コリント14:1のパウロの勧告を指摘します。

- 慈愛の賜物を「追い求め〔る〕」または得るために、わたしたちは何をすることができますか。

一人の生徒に、モロナイ 7:48 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、モルモンが慈愛の賜物を受けるために行うよう自分の民に教えた事柄を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- 慈愛を持つことは、どのように家族、友人、クラスメートとの関係を向上させますか。
- 誰かの、あなたや他の人に対する対応のしかたに慈愛を見いだしたときのことを説明できますか。(あなた自身の経験を分かち合ってもよいでしょう。)

生徒に、自分にとって最も難しいと感じる慈愛の説明と、難しいと思う理由を一枚の紙に書いてもらいますより一層慈愛を得る努力をし続けるために何をするかについての目標を書くよう生徒に勧めます。その紙をよく目につく場所に置き、その目標を思い出せるようにしてもらいます。

1 コリント 14 章

パウロ、預言の賜物が異言の賜物よりも偉大であると教える

塔を建てるために使うことができるもの、例えばブロック、箱、カード、または本などをクラスに持参します。一人の生徒に、あなたが持参したものを使って、一分間でできるだけ高い塔を建ててもらいます。その後、その生徒には席に着いてもらいます。生徒たちに、1 コリント 14:1-3 を黙読してもらい、これらの節の中で、塔を建てる実演に関連する言葉を見つけてもらいます。

- 3 節の言葉の中で、塔を建てることに関連するものはどれですか。(徳を高める。必要であれば、「徳を高める〔教化する〕」とは、霊的に強くなるまたは向上するように「高める」という意味であると説明します。)

1 コリント 14 章を研究しながら、他の人の徳を高めることができる方法を知る助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

パウロは、異言の賜物、つまり他の言語で話す能力を体験していたコリントの教会の会員に対して話したことを説明します。一人の生徒に、1 コリント 14:1-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、異言の賜物の代わりに探し求めるようパウロが聖徒たちに勧告した霊的な賜物とは何かを見つけてもらいます。

- パウロは、どの御霊の賜物を望み、探し求めるよう聖徒たちに勧告しましたか。

預言とは、「人が啓示によって聖霊から受ける神の靈感に満ちた言葉や記録。イエスの証は預言の霊である(黙示 19:10)。……預言をする者は、神がその人にとってほしいと望んでおられることを、自らのため、また人々のために語ったり記したりする」(『聖句ガイド』「預言」scriptures.lds.org) ものであると説明します。

ホワイトボードに次の言葉を書きます — 預言 = 靈感によって教え、証すること。

- 3 節によると、靈感によって教え、証することがどのように他の人を祝福する助けとなりますか。(自分の言葉を使って生徒は次のような原則を見つけるでしょう。靈感によって教え、証するとき、周りの人の徳を高め〔教化し〕、彼らを慰めることができる。)
- 他の人の靈感を受けた教えや証によって教化され、慰められたことはありますか。どのように教化され、慰められましたか。

1 コリント 14:4-30 の要約として、パウロが異言を語る賜物についてコリントの聖徒たちに警告したと説明します。パウロは、もし誤った使い方をされると、異言の賜物は教会を霊的に高めず、教会員がより有益な霊的な賜物を探し求める妨げとなると警告しました。

一人の生徒に、1 コリント 14:31, 33, 40 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに預言することについて与えた勧告を見つけてもらいます。

- パウロは預言することについてどのような勧告をしましたか。(男女ともに、全ての人々が預言し、教え、証することができる。これは秩序正しく、一度に一人ずつ行われるべきである。)
- これらの聖句から、イエス・キリストの教会についてどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(自分の言葉を使って生徒は次のような原則を見つけるでしょう。イエス・キリストの教会では、全てのことが秩序正しく行われなければならない。)
- 教会の全ての事柄が正しい秩序で行われることが大切なのはなぜだと思いますか。

1 コリント 14 : 34 - 35 のパウロの記述には、教会の秩序を守るためにコリントの聖徒たちをどのように導いたかについての例が書かれていると説明します。一人の生徒に、1 コリント 14 : 34 - 35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの教会員に対して教えた事柄を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

パウロは教会の集会で女性が祈ったり話したりすることをはっきりとは禁じなかったため、この勧告の意図を理解することは難しいと説明します (1 コリント 11 : 5 参照)。ジョセフ・スミス訳では、34 節と 35 節にある「語る」という言葉が「統治する」に変えられています。この言葉の変更は、コリント人の女性の中に、礼拝中に無秩序な行動をする人がいた、または神権指導者を支持して従うよりも、不適切な形で人を導く責任を奪おうとしていた、といった状況をパウロが是正しようとしていた可能性を示唆しています (*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 380 参照)。

1 コリント 13 - 14 章で教えられた真理について証をして、レッスンを終わめます。

家庭学習クラスのレッスン

1コリント7—14章(単元22)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が1コリント7—14章(単元22)を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第1日(1コリント7—8章)

コリントの教会員の既婚者と独身者へのパウロの指示から、生徒たちは夫婦間の身体的な親密さは神によって定められたものであり、イエス・キリストに忠実に従う人々は、自分の家族に対して聖めの効力を持つと学びました。また、生徒たちは、他の人々が霊的につまずいてしまうことになり得る行為を避けることによって、慈愛を示すことができることも学びました。

第2日(1コリント9—10章)

コリントの聖徒たちに対するパウロの勧告を引き続き研究した生徒たちは、永遠の命を得るためには、全ての事柄において自制心を働かせることを身につけなければならないことを学習しました。また、神は誘惑から逃れる方法を与えてくださるが、わたしたちは誘惑から離れることを選ばなければならないことも知りました。

第3日(1コリント11章)

生徒たちは、主の計画において、男性と女性は互いにどちらが欠けても永遠の命を得ることはできないと学びました。また、ふさわしくない状態で聖餐を受ける人は、自分自身に罪の宣告と罰の定めを招くことも学びました。このため、わたしたちは聖餐にあずかるときに自らの生活を吟味する必要があります。

第4日(1コリント12—14章)

御霊の賜物についてのパウロの教えから、生徒たちは次の真理を学びました。わたしたちは、聖霊を通じてのみ、イエス・キリストがわたしたちの救い主であるという個人の証を得ることができる。慈愛という霊的な賜物を得ようと努力するとき、わたしたちはさらに救い主、イエス・キリストようになる。慈愛は最も素晴らしい御霊の賜物である。靈感によって教え、証するとき、わたしたちは他の人を教化し、慰めることができる。

はじめに

パウロは数多くの御霊の賜物について記述しました。パウロは教会を肉体にたとえ、体の全ての部位が正しく機能することが必要なと同様に、それぞれの教会員も御霊の賜物を使って教会に寄与し、教会を強めることができると説明しました。

教えるための提案

1コリント12:1—11

パウロ、霊的な賜物について教える

次の石の写真を見せます。

その石の上部にある碑文には「あなたが何者であろうと、自らの務めを十分に果たさない」と書いてあることを生徒に伝えます。デビッド・O・マッケイ大管長がスコットランドで宣教師として奉仕していたとき、マッケイ大管長はスターリング城の近くの建物にはめ込まれていたこの石を見て、そのメッセージに感銘を受けました(フランシス・M・ギボンズ, *David O. McKay: Apostle to the World, Prophet of God* [1986年], 45参照)。



その石の9個の正方形にあるそれぞれのシンボルは数字を現していると説明します。生徒たちにそれぞれの図形が表す数字を特定してもらいます。(左から右へ、上の行のシンボルは5, 10, 3; 真ん中の行のシンボルは4, 6, 8; 下の行のシンボルは9, 2, 7を表します。)

- 上の行に表された3つの数字の合計は何ですか。真ん中の行、下の行はどうですか。

この石のどの行、列、対角線上に表された数字でも、3つの合計は全て18になることを説明します。「あなたが何者であろうと、自らの務めを十分に果たさない」という語句にこれらの図形が添えられていた一つの理由は、これらのいずれの図形の位置や値でも変えられしまうと、その石の列や行の数字をどの方向から足しても18にはならないことを示すからです。

1コリント12章を研究しながら、わたしたちが教会の会員として、この石の図形とどのように似ているかを生徒たちによく考えてもらいます。

一人の生徒に、1コリント12:7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御霊の賜物がわたしたちに授けられた理由を見つけてもらいます。(必要であれば、「全体の益になるため」とは全ての聖徒に共通する利益を意味すると説明します。)

- 天の御父の子供たちに御霊の賜物が与えられた理由について、わたしたちは使徒パウロからどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の真理を見つけているでしょう。御霊の賜物は、天の御父の子供

たち全員が利益を得るために与えられた。この真理をホワイトボードに書きます。)

一人の生徒に、1 コリント 12 : 8 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが語った霊的な賜物を見つけてもらいます。

生徒たちに、見つけ出した霊的な賜物と、それぞれの賜物の意味を発表してもらいます。必要に応じて、「知恵の言葉」(8 節)とは的確な判断力と知識の適切な応用、「知識の言」(8 節)とは神と神の律法の知識、「霊を見わける力」(10 節)とは真理と虚偽を見わけることと人の善悪を見抜くこと、そして「種々の異言」(10 節)とは外国語や未知の言語で話す能力を指すと説明します。

• これらの霊的な賜物はどのように神の子供たちの利益となりますか。

聖文の中に具体的に記載されている霊的な賜物は、御霊を通じてわたしたちが受けることのできる数多くの賜物の中のほんの一部であることを指摘します。

- 聖霊を通じてわたしたちが受けることのできる賜物には他にどのようなものがありますか。
- あなたの家族、友人、クラスメートが持っていると感じた霊的な賜物にはどのようなものがありますか。
- 自分の霊的な賜物を見いだすためにはどのようなことができますか。(祈りをもってそれらについて天の御父に尋ね、祝福師の祝福を受けて研究する。)

生徒たちに、自分たちに授けられた霊的な賜物について、またそれらからどのように利益を得ることができるかについて、それらをどのように使って他の人々に利益をもたらすことができるかについて深く考えてもらいます。

1 コリント 12 : 12 - 31

御霊の賜物は、教会の会員全体を祝福するために授けられる

4 人の生徒たちにホワイトボードの前に来てもらいます。残りの生徒たちには聞こえないように、4 人の生徒それぞれに次の言葉を割り当てます—足、手、耳、目。4 人の生徒に自分の言葉の絵をホワイトボードに描いてもらい、クラスの生徒にそれぞれの生徒が何を描いているかを当ててもらいます。それぞれの絵が何かをクラスの生徒たちが正しく回答したら、4 人の生徒に席に戻ってもらいます。クラスの生徒たちに、足、手、耳、目が体の機能にどのように寄与するかをよく考えてもらいます。

- 指、歯、つま先など、体のちょっとした箇所には何がをしたことはありますか。その軽いけがは、毎日の単純な仕事であっても、どのような影響を与えましたか。

一人の生徒に、1 コリント 12 : 12 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがわたしたちの体とその部位を何に比較したかを見つけてもらいます。

- パウロはわたしたちの体とその部位を何に比較しましたか。(イエス・キリストの教会とその会員。)

ホワイトボードに次の参照聖句と質問を書きます。

1 コリント 12 : 15 - 22, 25 - 30

パウロはどのように体を教会にたとえましたか。

生徒たちを 2 人か 3 人のグループに分けます。各グループに、1 コリント 12 : 15 - 22, 25 - 31 を一緒に読みながら、パウロが教会の会員をどのように体の部位にたとえたかを見つけてもらいます。パウロがどのように体の部位を教会員にたとえたかを見つける前に、パウロが体とその部位について何を教えたかを見つけるよう生徒たちに提案するとよいでしょう。十分な時間を取った後で、生徒たちに見つけた事柄を発表してもらいます。

- パウロが霊的な賜物について書いた直後に個々の教会員の役割について語ったのはなぜだと思いますか。
- 教会員は体の部位のようであることに関するパウロの教えによって解決できるかもしれない懸念で、現代の教会員が抱えているのはどのようなことでしょうか。
- パウロによる教会員と体の部位との比較から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな原則を見つけるかもしれませんが、必ず次の原則を見つけるようにします。他の人に奉仕するために自分独自の霊的な賜物を使うとき、わたしたちは教会を強めることができます。この原則をホワイトボードに書きます。)

レッスンの最初に見せた石の写真に生徒の注意を促します。

- 教会の会員としてのわたしたち自身を、どのようにこの石の異なる図形にたとえることができますか。(わたしたちは皆それぞれ独特であり、主がわたしたちを召された役割がどこであろうとも、重要な役割を担う。わたしたちが主に仕えるために自分の賜物と能力と一緒に使うとき、教会全体が祝福される。わたしたちが何をやるかが重要なのであり、それは教会の業を達成するために役立つ。)
- あなたの家族、セミナー、日曜学校、若い女性や神権会のクラス、ワードや支部が、どのようにそのメンバーの霊的な賜物によって強められたのを見ましたか。

教会を強め、他の人々の人生を祝福するためには、どのように自分の霊的な賜物を使うことができるか、生徒たちに深く考えてもらいます。1 コリント 12 : 31 に記録された、「更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい」というパウロの勧告を指摘します。(この節の「熱心に努め[る]」とは、熱心に求めるという意味であることを説明します。)

- 御霊の「さらに大いなる賜物」を熱心に求めるにはどのようなことをすることができますか(教義と聖約 46 : 8 - 9 も参照)。

霊的な賜物に対するあなたの証と感謝の気持ちを述べ、霊的な賜物を熱心に求め、それらを使って他の人々に奉仕し、教会を強めるよう生徒たちを励まします。

次の単元 (1 コリント 15 章 - 2 コリント 7 章)

次の単元を研究するときには、生徒たちに次の質問について考えてもらいます。使徒パウロが死者のためのバプテスマについて述べたのはなぜですか。誰が復活するのですか。復活した人にはどのような栄光が待っていますか。復活した全ての人に同じ栄光がありますか。悲しみ、挫折、悲劇を経験しているときは特に、望みを与えてくれるものが何かを考えるよう生徒たちに勧めます。次の単元では、パウロのコリント人の聖徒たちへの教え(彼らに平安と望みをもたらすことができる教え)から教義と原則を学びと説明します。

1コリント 15:1-29

はじめに

パウロは、コリントの人々が死者の復活はないと教えていることを知りました。パウロはコリントの教会員に、イエス・キリストが死人の中からよみがえられたことを証しました。その後、復活の教義や、天の御父の子供たち全てに対するその影響

についてさらに詳しく説明しました。パウロは、復活がなければ死者のためのバプテスマの儀式は無意味になると言いました。

教えるための提案

1コリント 15:1-10

パウロ、イエス・キリストの復活の証拠を示す

一人の生徒に、トーマス・S・モンソン大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは笑い、泣き、働き、遊び、愛し、生きます。そして、死にます。死は全ての人に訪れます。誰もがその門をくぐらなければなりません。死は年老いた者や疲れ果てた者を訪れるだけでなく、希望と期待に満ちあふれた若者をも訪れます。幼子も死の手から逃れることはできません。」（『主は生けりと知る』『リアホナ』2007年5月号、24）

生徒たちに、知人が亡くなったときに経験した思いや感情について考えてもらいます。生徒に差し支えがなければ、数人の生徒に彼らの経験を分かち合ってもらってもよいでしょう。

1コリント 15:1-29を研究しながら、知人が亡くなったときの助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

コリントの聖徒たちに宛てた書簡の最後に、パウロは一部の教会員によって教えられていた誤った考えについて語ったと説明します。一人の生徒に、1コリント 15:12を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、教えられていた誤った考えを見つけてもらいます。

- 一部のコリントの聖徒たちが教えていた事柄は何でしたか。（死者の復活はない。）

一人の生徒に、1コリント 15:3-8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会員が救い主の復活の事実を理解できるように使徒パウロが書いた事柄を見つけてもらいます。

- 教会員が救い主の使命と復活の事実を理解するのを助けるため、パウロは何について証しましたか。
- これらの節から、使徒の役割についてどのような真理を学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の真理を見つけられるでしょう。使徒は、イエス・キリストがわたしたちの罪のために亡くなられ、死者の中からよみがえられたことを証する。）
- イエス・キリストの復活についての使徒の証は、復活をなかなか信じる人ができない人をどのように助けることができますか。

生徒がこの真理は真実であり重要であると感じるのを助けるため、一人の生徒に、モンソン大管長の次の証を声に出して読んでもらいます。（最近の総大会の説教で他の使徒たちが話したイエス・キリストの復活に関する証を読んでよいでしょう。）



「わたしは特別な証人として、心を込め、熱い思いを尽くして、神が生きておられることを高らかに証し、宣言します。イエスは神の御子、肉における御父の独り子です。わたしたちの贖い主であり、御父と人との間の仲保者です。わたしたちの罪を贖うために、十字架上で亡くなり、復活の初穂とられました。主が命を捨てられたので、全ての人は再び生きることができます。『主は生けりと知

る』という歌詞の何と麗しいことでしょう。世の全ての人がこのことを知り、その知識に従って生きることができるよう……。」「(主は生けりと知る」25)

イエス・キリストの復活に関する使徒の証が、どのように生徒たちの復活に対する信仰を強める助けとなったかを、彼らに深く考えてもらいます。何人かの生徒に、考えを分かち合ってもらおうとよいでしょう。

1 コリント 15:11 - 29

パウロ、復活の教義について詳しく説明する

1 コリント 15:11 - 15 の要約として、パウロは、なぜコリントの聖徒たちは復活が事実であることを疑い始めたのかと問いかけたことを説明します。パウロは、イエス・キリストが死人の中からよみがえられなかったならば、主の復活の証人の全てが偽りの証人であり、福音を宣べ伝える目的もなくなると論じました。

ホワイトボードに次の未完成の文を書きます。

もしもイエスが死人の中からよみがえられなかったならば、…… (1 コリント 15:16 - 19 参照)。

イエスが死人の中からよみがえられたため、…… (1 コリント 15:20 - 22 参照)。

クラスの半分に、1 コリント 15:16 - 19 を黙読しながら、イエスが死人の中からよみがえられなかったならばどうなっていたかを見つけてもらいます。残りの半分に、1 コリント 15:20 - 22 を黙読しながら、イエス・キリストの復活の結果としてもたらされた祝福を見つけてもらいます。

十分に時間を取った後、1 コリント 15:20 - 22 を読んだ生徒たちに、対応するホワイトボードの文をどのように完成できるかを発表してもらいます。一人の生徒に、生徒たちの答えをホワイトボードに書いてもらいます。

20 節にある「初穂」という言葉は、農夫が収穫する作物の最初の部分を指すと説明します。初穂が収穫される多くの作物の最初のものであるのと同じく、イエス・キリストは復活する全ての人の中での最初の御方でした。

• 22 節によると、イエス・キリストが復活されたために天の御父の全ての子供たちはどうなりますか。(生徒はさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の教義を見いだすでしょう。イエス・キリストが復活されたので、全ての人々は復活する。)

1 コリント 15:16 - 19 を読んだ生徒たちに、ホワイトボードのもう一方の文をどのように完成できるかを発表してもらいます。生徒たちの答えを、一人の生徒にホワイトボードに書いてもらいます。


14 - 19 節では、パウロは聖徒たちに「キリストがよみがえられなかった場合」の結果についてよく考えるよう求めたと説明します。パウロは、もしそうであった場合、イエス・キリストは死に打ち勝つ力をお持ちであることをお示しになることができず、したがってわたしたちの罪を贖うことはおできにならないのであるから、福音を宣べ伝えることは全て無駄になると説明しました。しかし、イエス・キリストは確かに死人の中からよみがえられたため、わたしたちはキリストが神の御子であり、その力をお持ちであることを知っています。

19 節にある「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる」というパウロの言葉を参照します。

• イエス・キリストについて単にこの人生で望みを持つことができるだけだった場合、つまりわたしたちの望みが死後になくなってしまった場合に、わたしたちが惨めな状態になるのはなぜですか。(死からの復活がなければ、イエス・キリストに対するわたしたちの望みはこの現世の人生のみに当てはまるものとなり、救いの計画の目的は達成され得なかった。)

20 - 22 節によると、イエス・キリストの復活はどのようなすばらしい望みを与えますか。(わたしたち全てが死後に再び生きるという望み。生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストが復活されたので、わたしたちは希望を持つことができる。)

• 知人が亡くなる時、またはいつかは訪れる自分自身の死を恐れる時、イエス・キリストの復活はどのようにわたしたちに望みをもたらすことができますか。

 **1 コリント 15:20 - 22** はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

生徒たちがイエス・キリストの復活の重要性をさらに理解するのを助けるため、一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスによる次の言葉を声に出して読んでもらいます。（可能な場合は、この言葉を配付資料として生徒に配ります。）

「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関する他の全ての事柄は、それに付随するものにすぎません。」（『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』 49 – 50）

- ジョセフ・スミスは、わたしたちの宗教の基本原則が何であると言いましたか。
- このレッスンで学んだ事柄に基づくと、イエス・キリストの復活は、どのような点で他の福音の真理に対する基本となりますか。

復活が事実であること、また天の御父の救いの計画におけるその重要性について証するとよいでしょう。

1コリント 15：23 – 24 に記録されているとおり、パウロは、復活には順序があることと、イエス・キリストが地上における（またはこの世的な）全ての形態の「権威と権力」を終わらせた後で「国を父なる神に渡される」ことを教えました。

一人の生徒に、1コリント 15：25 – 26 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの敵に対して最終的に起こるとパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、イエス・キリストの敵には最終的に何が起こると言いましたか。（彼らは「その足元に」置かれる〔25 節〕、つまり滅ぼされる。）
- 誰、または何が、イエス・キリストの敵だと見なされますか。（例としては、罪、腐敗、邪悪、サタンが含まれます。）
- イエス・キリストが最後に滅ぼされる敵とは何ですか。
- 死は、なぜイエス・キリストや天の御父の計画に対する敵とみなされるのでしょうか。

コリントの一部の教会員は、死者は復活しないと信じていましたが、パウロは聖徒たちが死者の復活に対する彼らの信仰を示す何かをずっと行っていると言っていると指摘したことを生徒たちに思い出してもらいます。

一人の生徒に、1コリント 15：29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちが行ってきた儀式を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- 死者のためのバプテスマに対する聖徒たちの関与についてパウロが彼らに尋ねた事柄を、あなたならどのように要約するでしょうか。（「復活を信じないなら、なぜ死者のためにバプテスマを受けるのか。」）

死者のためのバプテスマの儀式は、復活に対するわたしたちの信仰の証であることを指摘します。ホワイトボードに次の真理を書きます。バプテスマを受けずに亡くなった人たちは、この必要不可欠な儀式を受けることができる。

神殿の写真を見せます。一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。

「大小、新旧を問わず全ての神殿は、この世があるのと同じように死後の生命が真実で確かなものであるというわたしたちの証を表しています。」（「平和な神の宮居」『聖徒の道』 1993 年 7 月号, 76）

生徒たちに、死者のためのバプテスマを行ったとき、または神殿に持っていく名前を準備したときのことをよく考えてもらいます。数人の生徒に以下の質問に答えてもらいます。

- 名前を準備しながら、または神殿で彼らのために儀式を行いながら、どのような気持ちを感じましたか。
- 家族歴史や神殿活動での経験は、イエス・キリストや全ての人々の復活に対するあなたの信仰をどのような方法で強めましたか。

亡くなった人たちのために家族歴史や神殿活動を行うことの大切さについて証するとよいでしょう。定期的に家族歴史や神殿活動に参加することによって、イエス・キリストの復活や、最終的な全人類の復活に対する信仰を示すよう生徒たちを励まします。

 **マスター聖句- 1 コリント 15 : 20 - 22**

1 コリント 15 : 20 - 22 の教義を知ることが他の人々を助けるために彼らをどのように備えるかということを生徒たちが理解できるように、知人で愛する人を亡くした人についてよく考えてもらいます。その人を教え慰めるためにその人宛ての短い手紙を、この節に対する見解を使ってクラスノートまたは聖典学習帳に書いてもらいます。何人かの生徒に書いた内容を発表してもらいます。

1コリント 15:30 – 16:24

はじめに

パウロは引き続きコリントの聖徒に復活について教えました。パウロはイエス・キリストが死に打ち勝たれたことを喜び

ました。また、エルサレムの貧しい教会員のために献金するようコリントの教会員に勧めました。

教えるための提案

1コリント 15:30 – 52

パウロ、復活について教える

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の質問を書いておきます — 一人は、死後に再び生きるということを信じないなら、どのように生きることを選ぶでしょうか。

クラスの初めに、ホワイトボードに書いたこの質問に答えてもらいます。

1コリント 15:30 – 34 の要約として、パウロはコリントの聖徒たち（その一部は復活がないと誤って信じていた）に、死者の復活がないとすれば、イエス・キリストを信じる者が迫害に耐え、死の危険を冒す理由をよく考えるよう求めたと説明します。

一人の生徒に、1コリント 15:32 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、もし死者の復活がないとすれば、一部の人々が持つであろうとパウロが示唆した態度はどのようなものかを見つけてもらいます。

- 32 節によると、もし死者の復活がないとすれば、一部の人々が持つであろうとパウロが示唆した態度とはどのようなものですか。
- 復活は現実であることから、この態度を受け入れることはなぜ危険となり得るのでしょうか。

1コリント 15 章の残りの部分を研究しながら、復活の知識を持つことが現世における選択にどのように影響するかを理解するために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。（注 – 真理が特定されるたびに、それらをホワイトボードに書きます。）

一人の生徒に、1コリント 15:35 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、復活について人々が持ったかもしれない疑問を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

1コリント 15:36 – 38 の要約として、パウロは、死後に地中に埋葬されて復活の際に地上に出て来る現世の肉体を表すために、種を使ってこれらの疑問に答える助けとしたことを説明します。

太陽、月、数個の星の絵を見せます（またはそれらをホワイトボードに描きます）。

- 地上から見たとき、太陽の光は月の光と比べるとどうですか。
- 月の光は星の光と比べるとどうですか。

一人の生徒に、1コリント 15:39 – 42 を声に出して読んでもらいます。その生徒にジョセフ・スミス訳 1コリント 15:40（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）を読んでもらいます。

他の生徒には、聞きながら、復活した体における違いを説明するためにパウロがどのように太陽、月、星の明るさを使ったかを見つけてもらいます。この文脈において、「栄光」という言葉は光、明るさ、輝きと行うことができると説明します。

- パウロは、日、月、星の栄光を何と比較しましたか。（復活した体の栄光。）



📖 1コリント 15:

40 – 42 はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。マスター聖句についての説明や、これらの聖句を暗記するのを助ける活動のリストは、この手引きの巻末の付録を参照してください。

- 光, つまり栄光におけるこれらの違いは, 復活した体について何を教えてくださいか。(生徒は異なる言葉を使うでしょうが, 次の教義を見つけていることを確認します。復活した体には, 異なる階級の栄光がある。)

一人の生徒に, ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が語った次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には, 復活した体のさまざまな栄光がそれぞれどのように異なるかについて耳を傾けてもらいます。生徒に読んでもらう前に, スミス大管長が「日の栄えの体」に言及したとき, スミス大管長は日の栄えの王国の最高の階級を得た人々を指していたと説明します(教義と聖約 131 : 1 – 4 参照)。

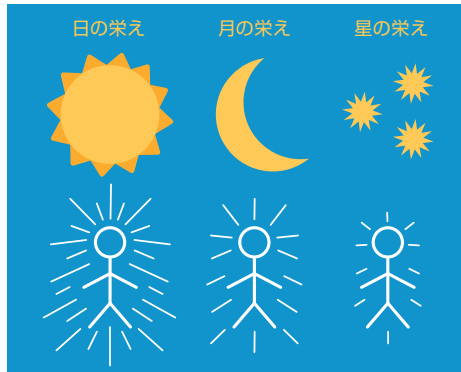


「復活のときには, 異なる種類の体があり, それらは全て同様ではありません。人が受ける体によって, その後の行き先が決まるのです。それには, 日の栄えの体, 月の栄えの体, 星の栄えの体があります。……

中には, 昇栄の力と永遠の増加という全てを備えた日の栄えの体を受ける人もいます。これらの体は, 救い主の体と同じく太陽のように輝きます。……月の栄えの王国に入る者は月の栄えの体を受け, 太陽のように輝きませんが, 星の栄えを受ける者の体よりは輝かしい体となります。」(Doctrines of Salvation, ブルース・R・マッコニー編, 全3巻 [1954 – 1956年], 第2巻, 286, 287)

- 復活した体のさまざまな栄光は, それぞれどのように異なりますか。

ホワイトボードの太陽の絵に「日の栄え」, 月に「月の栄え」, 星に「星の栄え」という言葉を書きます。描いた絵, または画像それぞれの下に, 簡単な体の絵を描きます。日の栄えの体は月の栄えの体よりも, 月の栄えの体は星の栄えの体よりも栄光があるように描きます。



- スミス大管長によると, 復活のときに人が得る体または栄光によって何が決まりますか。
- スミス大管長によると, 日の栄えの王国の最高の階級で日の栄えの体を受ける人々は, それ以外の体を受ける人が授かることのない栄光の一部として何を授かりますか。(日の栄えの体の絵の下に「昇栄の力と永遠の増加」と書きます。)

「昇栄の力」には神が送られる生活と同じような生活を送る能力が含まれ, 「永遠の増加」とは永遠において子供を創造し続ける能力であることを説明します。これらの祝福は, 日の栄えの王国の最高の階級において昇栄した人のみに与えられるものです(教義と聖約 131 : 1 – 4 ; 132 : 19 – 20 参照)。

生徒たちが復活において日の栄えの体を受けるには何をしなくてはならないかを理解できるように, 一人の生徒に, 教義と聖約 88 : 21 – 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には, 聞きながら, 日の栄えの体を受けるには何をしなくてはならないかを見つけてもらいます。

- 日の栄えの体を受けるには何をしなければならないでしょうか。(「日の栄えの王国の律法に従 [う]」 [22 節] ということが, 日の栄えの王国に入るために必要な全ての儀式を受け, 全ての聖約を交わして守ることを意味すると説明します。)
- 日の栄えの王国の最高の階級において復活する人のみに与えられる栄光と祝福について知っておくことは, 現世における人の選択にどのように影響しますか。

1 コリント 15 : 42 – 52 の要約として, 復活した体がどのようなものかをパウロがさらに明確にしたことを説明します。パウロは現世の体を「肉のからだ」(44 節), 「肉のもの」(46 節) で朽ちる者であるとし, 復活した体を「霊のからだ」(44 節), 「霊のもの」(46 節) であり「朽ちない者」(52 節), つまり不死不滅で死の影響を受けない体であると呼びました。

1 コリント 15 : 53 – 58

パウロ, イエス・キリストが死に打ち勝たれたことを喜ぶ

一人の生徒に, 1 コリント 15 : 53 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には, 聞きながら, わたしたちが復活したときのわたしたちの体の状態についてパウロが教えた教義を見つけてもらいます。

- 53 節によると、復活後、わたしたちの体はどのような状態になりますか。(生徒は次のような教義を見いだすでしょう。わたしたちは朽ちることのない、不死不滅の状態に復活する。)
- 復活した体は、どのような点で朽ちないのでしょうか。(腐敗や死の対象ではなくなる。)
- わたしたちそれぞれが自分自身の復活した体を持ち、対応する栄光の階級を永遠に経験することを知っていることは、現世で行うわたしたちの判断にどのように影響を与えますか。

生徒たちが、パウロの 1 コリントの残りを研究する備えをするため、今までに(蜂のような虫に刺されたことがある生徒に手を挙げてもらいます。

- 虫に刺された経験をどのように言い表しますか。
生徒たちに、1 コリント 15:54 - 55 を黙読しながら、とげがなくなったとパウロが言ったものが何かを見つけてもらいます。
- とげがなくなったとパウロが言ったものは何でしたか。(肉体の死。)
- 肉体の死は、どのような点で「とげ」(55 節)となる、つまりわたしたちに勝利するようなものに見受けられますか。
- 肉体の死は、どのようにイエス・キリストを通じて「勝利にのまれてしまった」(55 節)のでしょうか。
- 肉体の死からもはや恒久的なとげがなくなり、わたしたちに勝利しなくなる理由についてのパウロの教えから、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちが次のような真理を見いだすことを確認します。イエス・キリストが復活されたため、肉体の死がわたしたちに勝利することはない)

イエス・キリストの復活は肉体の死から生じるとげを取り除きましたが、死には別のとげがまだ残っていることを説明します。一人の生徒に、1 コリント 15:56 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが死ぬときにまだ残っているとげを見つけてもらいます。

- わたしたちが死ぬときにまだ残っているとげとは何ですか。
一人の生徒に、1 コリント 15:57 - 58 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、罪から生じる死のとげを取り除くことができるとパウロが教えた人物を見つけてもらいます。
- パウロは、罪から生じる死のとげを取り除くことができになるのはどなただと教えましたか。
- 58 節によると、パウロは、イエス・キリストが死に打ち勝たれたために何をしよう読者に勧めましたか。
- 56 - 58 節から、罪から生じる死のとげを避けるために何をしよう必要があるかについて、どのような原則を見いだすことができますか。(生徒が次のような内容の原則を見つけるよう助けます。わたしたちが福音に従って生活することに堅く立って動かされずにいれば、罪がもたらす死のとげは、イエス・キリストの贖いによって取り除かれる。)
- 福音に従って生活することに堅く立って動かされないとはどのような意味でしょうか。
- 堅く立って動かされないことにおいて、悔い改めにはどのような役割を果たしますか。

生徒たちが学んだ真理が重要であると感ずるのを助けるため、ホワイトボードに書かれた真理に注意を向けてもらい、次の質問に対する生徒たちの答えをそれぞれのクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます — これまでに学んだ復活についての真理で、義にかなった生活をしようと思う助けとなるものは何ですか。十分な時間を取ってから、数人の生徒に書いたことを分かち合ってもらいます。

福音に従って生活することに、より堅く立って動かされなくなるために今日できる事柄についての目標を立てるよう生徒たちに勧めます。

1 コリント 16 章

パウロ、エルサレムに住む貧しい人々のために献金を計画する

1 コリント 16:1 - 24 の要約として、パウロは、エルサレムに住む貧しい人々を世話するために助け、「信仰に立ち」(13 節)、全ての事柄を「愛を持って」(14 節) 行うようコリントの聖徒たちを指導したと説明します。

このレッスンで生徒たちが見いだした真理についての証を述べます。

 **マスター聖句－1 コリント 15 : 40 – 42**

二人の生徒に聖典を持って教室の前に出て来てもらいます。あなたが求道者であり、二人の生徒たちが救いの計画について教える宣教師の同僚であると想像してもらいます。1 コリント 15 章にある両方のマスター聖句と、その他の役立つ聖句を使って、死と復活について知っていることを二人に説明してもらいます。クラスの生徒に、求道者に対して死と復活について説明したいと思うその他の事柄を分かち合ってもらいます。

コリント人への第二の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

コリントの教会員へあてた使徒パウロのこの手紙は、苦難のただ中における慰め、弱さのただ中における強さ（パウロ自身によって例示されている）、そして偽りの教師と真の教師を区別するというテーマにおいて卓越しています。コリント人への第二の手紙に記録されたパウロの模範と教えは、いかなる状況や結果になろうとも、神である永遠の御父と交わした永遠の聖約に正直かつ忠実であるように、生徒たちに靈感を与えることができます。

誰がこの書を書いたのか

コリント人への第二の手紙の著者はパウロです（2 コリント 1：1 参照）。

いつ、どこで書かれたか

パウロがコリント人への第一の手紙を書いたすぐ後、彼の教えに反する暴動がエペソで起こり（使徒 19：23 - 41 参照）、パウロはマケドニアへと逃れました（使徒 20：1；2 コリント 2：13；7：5 参照）。紀元 55 - 57 年頃、パウロがマケドニアにいる間にコリント人への第二の手紙を書いたとみられています。（『聖句ガイド』「パウロの手紙」、scriptures.lds.org 参照）。

誰に向けて、なぜ書かれたか

コリント人への第二の手紙はコリントの教会員に宛てて書かれました。3 回目の伝道の旅で、パウロがマケドニアにいたときに、以前彼がコリントの聖徒たちに送った手紙が十分に受け入れられたという知らせをテトスが持って来ました（2 コリント 7：6 - 13 参照）。コリントの支部は発展していましたが、パウロはそこにキリストの純粋な教義を損なう偽教師がいることも知りました。パウロがコリントを初めて訪れてからしばらくして、おそらく 2 度目の訪問で（2 コリント 1：15 - 16）、パウロが一部の聖徒を非難したと思われるときに（2 コリント 2：1；12：21 参照）、エルサレムの地域からの宣教者がコリントを訪れ、パウロの教えに反してユダヤ人の慣習を取り入れる必要があると聖徒たちに教え始めました。コリント人への第二の手紙の大半は、これらの偽教師が起こした問題に対処するものです。

パウロの手紙は、パウロの言葉をより多く求める人（2 コリント 1 - 9 章参照）と、その教えを受け入れることを躊躇する人（2 コリント 10 - 13 章参照）の双方に宛てられています。概して、この手紙の幾つかの目的はコリント人への第二の手紙の記述で明らかにされています。

1. パウロの以前の手紙に好意的であった聖徒たちに感謝の意を示し、彼らを強める。
2. キリストの純粋な教義を損ねた偽教師たちに警告する。
3. イエス・キリストの使徒としての自分の人格と権能を擁護する（2 コリント 10 - 13 章参照）。
4. エルサレムの貧しい聖徒たちに対して惜しみない献金をするようにコリントの聖徒たちを励ます（2 コリント 8 - 9 章参照）。

この書の特徴は何か

パウロの手紙の多くは教義に焦点を当てていますが、そのほとんどはコリントの聖徒たちとパウロとの関係と、彼らに対するパウロの愛と気遣いを強調しています。批判者に対してパウロは毅然と反論しましたが、コリント人への第二の手紙全体を通して、彼が聖徒たちの幸せと健康を気遣う心優しい神権指導者であることがわかります。パウロはまた、その人生の自伝的な詳細について分かち合い、自身の「肉体〔の〕とげ」について書きました（2 コリント 12：7）。

2 コリント 12：2 - 4 に記された神聖な経験において、パウロは自分自身を、口に言い表せないことを見聞させた「第三の天にまで引き上げられた」「キリストにあるひとりの人」として描写しています。復活した体の栄光における違いに関するパウロの以前の教義的な声明（1 コリント 15：35 - 44 参照）とこの示現を合わせると、教義と聖約 76 章に記録されている示現の聖書における対比であると見なすことができます。

概要

2 コリント 1 - 5 章 パウロは、神が全ての試練において神の子供たちを慰めると証する。パウロはお互いに愛し合い、赦し合うよう聖徒たちを奮起させる。福音と主の御霊の働きは、モーセの律法の文字よりも素晴らしい。パウロは逆境にある読者を励まし、彼らに神の愛と栄光の永遠の本質を思い起こさせる。パウロは、イエス・キリストの贖罪を通じて神と和解する必要性を理解するように読者を助ける。

2 コリント 6 - 13 章 偽教師による批判と妨害に直面する間、パウロは主の僕としての自分の誠実さを擁護する主張をし、読者たちにこの世から自分を分離するように勧める。パウロは「神のみこころに添うた悲しみ」について教える（2 コリント 7：10 参照）。パウロは、エルサレムの貧しい人々に対する寄付金についてコリントの聖徒に感謝し、引き続き惜しみなく与えるよう彼らを励ます。パウロは、「にせ使徒」に強く反対する（2 コリント 11：13）。パウロは主を誇り、自分の試練とイエス・キリストを信じる信仰についての自伝的な詳細を分かち合う。パウロは第三の天の示現について記述する。パウロは聖徒たちに、自分自身を省みて、それぞれの忠実さを証明するように勧める。

第113課

2コリント1－3章

はじめに

パウロは、コリントの聖徒たちに書簡を書き、他の人々をどのように慰めることができるか説明しました。また、集会に集っていた罪人を赦すようにも熱心に勧めました。パウロは、

彼らが主に心を向けるなら、さらに神のようになると教えました。

教えるための提案

2コリント1章

パウロ、コリントの聖徒たちに他の人々を慰める方法を教える

生徒たちに、知人が困難な試練や苦難を経験したときのことを考えてもらいます。

- 彼または彼女を助けるために何をしましたか。
- 試練の真ただ中にいる人を慰めなかったものの、どうすればよいか分からなかったということがありますか。

2コリント1章を研究しながら、試練や苦難を経験している人をどのように慰めるかを知る助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

パウロがコリント人への第一の手紙を書いた後、彼の教えに対してエペソで暴動が起こったと説明します。(使徒19:23-41参照。注-アジアは、現代のトルコにあったローマの属州でした。)パウロはエペソを去り、マケドニアに行きました。そこへテトスが、パウロが以前に送った手紙がコリントの聖徒たちに十分に受け入れられているという知らせを持って来ました。パウロはまた、聖徒たちが患難に遭っており、コリントに住む偽教師がキリストの真の教義を損なっていることも知りました。パウロは聖徒たちを慰め、これらの望ましくない教師たちがもたらした問題に対処するためにコリント人への第二の手紙を書きました。

数人の生徒に、2コリント1:1-5を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに彼らの患難について言ったことを見つけてもらいます。

- パウロが3節で神について言ったことで、患難の中の聖徒たちに慰めとなったことは何ですか。
- 4節から、天の御父の慰めを受けるときに何ができるかについてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒が次のような真理を見いだすでしょう。患難の中で天の御父がわたしたちを慰めてくださるとき、他の人たちが御父の慰めを受けるように助けることができる。)
- あなたが試練のときに神の慰めを受けたことは、他の人が神の慰めを受けるように助けるためにどのように役立ちましたか。(生徒たちがそれぞれの経験について考える間、あなた自身の経験を分かち合ってもよいでしょう。)

2コリント1:6-8の要約として、パウロがコリントの聖徒たちに対し、エペソで福音を宣べ伝えていたときに、彼と彼の同僚が経験した命を脅かすひどい患難について話したことを説明します。

一人の生徒に、2コリント1:9-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、試練の間、何がパウロと彼の同僚を助けたかを見つけてもらいます。

- 試練の間、何がパウロと彼の同僚を助けたか。
- 11節から、わたしたちが試練に遭っている人々を助けることができる方法について、どのような真理を見つけることができますか。(生徒の言葉は違うと思われませんが、次の真理を見つけていることを確認します。わたしたちの祈りは、試練に遭っている人々を助けることができる。)
- わたしたちの祈りは、試練に遭っている人をどのように助けることができますか。
- あなたが試練に遭っているとき、他の人々の祈りはあなたをどのように助けたか。

2 コリント 1:12 - 24 の要約として、パウロが第一の手紙に書いた勧告を受け入れた人たちについて喜んだことを説明します。15 - 20 節では、パウロは、訪問予定を変更したときに彼のあら捜しをした人たちに答えました。パウロを批判した一部の人は、パウロが旅程を変更したことから、彼自身や彼の教えを信じることができなくなったと言っているように見受けられます。パウロは、彼の予定の変更にかかわらず、福音のメッセージが真実であることを宣言しました。

2 コリント 2 章

パウロ、コリントの聖徒たちに罪人を赦すよう熱心に勧める

誰かが自分自身や愛する人を傷つけたり、嫌な思いをさせたときのことを、生徒たちに考えてもらいます。

- その人を赦すのが難しいことがあるのはなぜですか。

2 コリント 2 章を研究しながら、全ての人々を赦すことが大切である理由を知るために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

コリント人への第一の手紙の中で、パウロが不従順と信仰が欠けていることについて彼らを叱責したことを生徒たちに思い出してもらいます。一人の生徒に、2 コリント 2:1 - 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがこの叱責についてコリントの聖徒たちに何を知ってもらいたかったかを見つけてもらいます。

- 4 節によると、彼らを叱責した動機についてパウロが聖徒たちに知ってもらいたかった事柄は何ですか。

- 叱責や懲らしめは、どのようにして誰かのわたしたちに対する愛の証拠となり得ますか。

2 コリント 2:5 - 6 の要約として、パウロが、他の教会員に対して罪を犯して彼らを苦しめたある教会員について書いたと説明します。その結果、教会はこの男性を罰しました。

一人の生徒に、2 コリント 2:7 - 8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちがこの男性をどのように扱うべきだとパウロが言ったかを見つけてもらいます。

- 聖徒たちは、彼らを非常に苦しめたこの男性をどのように扱うべきですか。

この男性は罪を犯しましたが、彼の価値は神の目に大いなるものであることを説明します(教義と聖約 18:10 参照)。パウロは、彼の悔い改めを助けるため、彼を赦し、慰め、愛するよう聖徒たちに熱心に勧めました。

生徒たちに、2 コリント 2:9 - 11 を黙読しながら、パウロがコリントの聖徒たちに他の人々を赦すべきだと言ったもう一つの理由を見つけてもらいます。

- 11 節でパウロが聖徒たちに教えた事柄によると、わたしたちが他の人々を赦すべきもう一つの理由は何ですか。(生徒たちは自分の言葉を使って次の真理を見いだすでしょう。わたしたちが人を赦さなければ、サタンに欺かれる。11 節のこの真理に印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。)

他の人々を赦すということは、罪を犯した人がそれぞれの行為に対して責任を問われるべきではないという意味ではないことを指摘します。さらに、その人たちがわたしたちに害を与えるままにしておくという意味でもありません。むしろ、他の人々を赦すとは、自分たちを傷つけた人たちに愛を持って接し、その人たちに対して憤りや怒りを心に抱かないことを意味します。わたしたちは全ての人を赦すように戒められています。(『聖句ガイド』『赦し』scriptures.lds.org; 教義と聖約 64:9 - 11 参照)

- わたしたちが他の人々を赦さないとき、サタンはどのようにわたしたちを欺くと思いますか。

他の人々を赦すことの大切さについて証します。生徒たちに、赦す必要がある誰かについて考えてもらいます。サタンに欺かれないように、その人を赦すための目標を立てるよう生徒たちに勧めます。

2 コリント 2:14 では、パウロが、困難なときであっても、常に「キリストの凱旋に伴い行く」ようにしてくださる神に感謝すると書いたことを説明します。

生徒が原則をより深く理解するようになるのを助ける

生徒は、教義や原則を応用できるようになるには、それを理解する必要があります。特定の原則や教義の意味をもっとよく理解する助けになる質問や、原則を現代の状況に照らして考えるように生徒を促す質問、あるいは原則をどのように理解しているか説明するように促す質問をすることで、生徒が教義と原則を理解するのを助けることができます。

コリント 3 章

パウロ、コリントの聖徒たちに、主に心を向けることによって、さらに神のようになることができることを教える

パウロがコリントにいなかったとき、数人の偽教師がパウロの教えに反対し始め、改宗者たちに引き続きモーセの律法に従う必要があると言ってパウロの信用を落とそうとしたと説明します。2 コリント 3:1 の要約として、パウロの信用を落とそうとした者たちへの対応として、パウロがコリントの聖徒たちに対し、自分の人格と、イエス・キリストの真の使徒としての正当性を証明する「推薦状」を提供する必要があるかどうかを大げさに尋ねたと説明します。（パウロの時代、地域社会への新参者は、推薦状を携えていたと説明します。これらの推薦状は、その新参者を紹介し、善い人物であることを証明しました。）

一人の生徒に、2 コリント 3:2-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの推薦状としての役割を果たしているとパウロが言ったものが何だったかを見つけてもらいます。

- 何がパウロの推薦状としての役割を果たしていましたか。（聖徒たちの変えられた人生が、キリスト御自身からの書簡のようなものである。）
- 2 節にある「すべての人に知られ、かつ読まれている」という語句はどのような意味ですか。（多くの人は、まず最初に、教会員の個人的な振る舞いと模範を通じて教会を知り、その真実性を判断する。）

3 節にある「石の板ではなく人の心の板に」という語句を指摘し、モーセの時代には、戒めが石の板に書かれていたことを説明します。パウロはコリントの聖徒たちに対し、聖霊の力を通して戒めが彼らの心の中に書き込まれていると教えました。

2 コリント 3:5-13 の要約として、パウロは、廃止されたはずの古いモーセの律法自体が栄光あるものであったならば、永遠に続く福音の聖約の栄光はさらにすばらしいと論じたと説明します。パウロはコリントの聖徒たちに、イスラエルの子たちがモーセの顔から放たれる栄光を恐れたために、モーセはシナイ山で主と話してから山を下りたときに覆いで顔を隠していたことを思い出させました。

一人の生徒に、2 コリント 3:14-15 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、モーセの顔から放たれた栄光を恐れたイスラエル人と、パウロの時代のユダヤ人とをパウロがどのように比較したかを見つけてもらいます。

- パウロは、モーセに覆いをかぶるよう要求したイスラエル人と、パウロの時代のユダヤ人とをどのように比較しましたか。
- 14 節にある「彼らの思いは鈍くなっていた」という語句と、15 節にある「おおいが彼らの心にかかっている」という語句はどのような意味ですか。

一人の生徒に、2 コリント 3:16-18 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人々の心から誤解の覆いを取り除くとパウロが約束したものは何かを見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳では、16 節の「主に向く時には」という語句が「心を主に向けるときには」に修正されていることを指摘します。

- ジョセフ・スミス訳の 2 コリント 3:16 によると、誤解の覆いを外すために人々は何をしなければなりませんでしたか。

ホワイトボードに次の文を書きます — わたしたちの心を主に向ければ……

- 18 節によると、主に心を向け、誤解の覆いを取り去られた人はどうなりますか。（「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」という語句は、わたしたちが神のようになるのを助けてくださる御霊から受ける段階的な変化を指すと説明します。）

ホワイトボードの文を次のように完成させます。わたしたちの心を主に向けるとき、わたしたちは御霊を得て、御霊はさらに神のようになるようにわたしたちを徐々に変えてくださる。

- わたしたちの心をイエス・キリストに向けるとは、どのような意味だと思いますか。

生徒たちに一分間で、人がイエス・キリストに心を向けることができる方法をクラスノートまたは聖典学習帳に書き出してもらいます。何人かの生徒にリストを分かち合ってもらいます。

生徒たちに、御霊が自分自身、または知人をどのように変えたかを深く考えてもらいます。何人かの生徒に経験を分かち合ってもらいます。

生徒たちに、より一層主に心を向けるためにできることについて考えてもらいます。生徒たちに、御霊を受け、さらに神のようになることができるように主に心を向けるための目標を立ててもらいます。

第114課

2コリント4-5章

はじめに

コリントの聖徒たちへの手紙の中で、パウロはこの人生での試練と苦難は一時的なものであり、永遠の祝福に比べると小さなものであると教えました。パウロはまた、裁きについて聖徒

たちに教え、イエス・キリストが神と和解することを可能にしてくださったと証しました。

教えるための提案

2コリント4章

パウロ、自分には苦難もあるが、恐れったり悩むことはないことを証する

画像1を見せます。

- この絵は何を描写していますか。
- 押されている人は、押している人についてどのようなことを思っているでしょうか。

画像2を見せます。

- 最初の絵をより大きな背景に照らし合わせて見ることは、その絵の描写についてのあなたの見解をどのように変えますか。

パウロは、コリントの聖徒たちがそれぞれの試練をより大きな背景に照らし合わせて見るができるようにするために、彼らに手紙を書いたと説明します。2コリント4章を研究しながら、試練についてパウロが聖徒たちに教えた真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

2コリント4:1-7の要約として、パウロが聖徒たちに対して福音を誠実に宣べ伝えたことを断言したと説明します。「この世の神」(4節)であるサタンは、人々が福音を受け入れないように働いていると、パウロは教えました。パウロは、自分自身と同僚である神の僕たちを、「輝く神の栄光の知識」という「宝」を入れた土の器にたとえました(6-7節)。

一人の生徒に、2コリント4:8-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、伝道の働きにおける困難をパウロがどのように説明したかを見つけてもらいます。

- パウロは、自分の伝道の業における困難をどのように説明しましたか。
- パウロは、これらの困難に対処した方法を説明するためにどのような表現を使用しましたか。
- パウロがこれらの困難に遭いながらも前向きな姿勢を保つことができたのはなぜだと思いますか。

2コリント4:11-14の要約として、パウロは、イエス・キリストの福音のために死ぬ人がいても、その死は一時的なものであると教えたことを説明します。

一人の生徒に、2コリント4:14-16を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが試練や迫害に耐える助けになると知っていた事柄を見つけてもらいます。

- パウロが試練や迫害に耐える助けになると知っていた事柄とは何ですか。
- 「たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく」(16節)という語句はどのようなことを意味していますか。(パウロと同僚は、肉体的に死ぬことになるとしても、霊は日々強められていた。)

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に、2コリント4:17-18を一緒に声に出して読みながら、パウロが聖徒たちに教えた試練と苦難についての真理を見つけてもらいます。それぞれの組に、協力し合って次の質問に対する答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。質問は配付資料として配る、またはホワイトボードに書いてもよいでしょう。

実物と絵

実体のない福音の様々な事項を教えるのは、多くの場合難しいです。霊的な原則を生徒が理解する助けとして実物と絵を用いるのは、一つの効果的な方法です。



2 コリント 4：17－18

1. パウロは、試練と苦難について聖徒たちにどのような真理を教えましたか。
2. わたしたちの苦難を、天の御父の計画という、より大きな背景に照らし合わせて見るのが大切なのはなぜですか。
3. 天の御父の計画という、より大きな背景に照らし合わせて自分の苦難を見たために、試練の間ずっと強くいた人を見たのはどのようなときでしたか。

十分に時間を取った後、数人の生徒に、最初の質問に対する答えをホワイトボードに書いてもらいます。生徒たちは、次の答えを含む、さまざまな真理を見つけるでしょう。この世のわたしたちの試練や苦難は、それらを忠実に堪え忍ぶことから得られる永遠の祝福や成長と比べれば取るに足りないものである。一時的な苦難は永遠の成長と栄光をもたらし得ることから、困難なときに失望する必要はない。わたしたちの苦難には、現世では分からなくとも、永遠の目的がある。

数人の生徒に、2 番目の質問に対する答えを発表してもらいます。発表してもらった後で、次のようなフォローアップ質問をするとよいでしょう。

- わたしたちの試練や苦難はどのような方法でわたしたちを成長させますか。
- これらの真理を覚えておくことは、どのようにわたしたちが忠実に試練と苦難に耐える助けとなりますか。

数人の生徒に、3 番目の質問に対する答えを発表してもらいます。教師自身の経験も分かち合うとよいでしょう。

2 コリント 5 章

パウロ、最後の裁きとイエス・キリストの贖いについて聖徒たちに教える

生徒一人一人に、紙を一枚ずつ配ります。それぞれの生徒に紙を半分に分けてもらい、半分に自分の名前を書き、もう半分に「天の御父」と書いてもらいます。この世に来たとき、わたしたちは天の御父のみもとを離れたと説明します。生徒たちに、紙を半分に切って、それぞれを離しておいてもらいます。

- 半分に切った紙は、わたしたちが現世を経験するために天の御父のもとを去り、この地上に来たことをどのように表していますか。

2 コリント 5 章を研究しながら、天の御父のもとに帰るためにしなければならない事柄を理解するために役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

2 コリント 5：1－6 の要約として、この世でわたしたちは神と離れ離れになっており、いつか死んでしまうが、復活し、ともに住む時が来ることをパウロが認めたと説明します。

生徒たちに 2 コリント 5：6－7 を黙読してもらい、現世で神と離れていることを理解したうえで行うべきだとパウロが聖徒たちに教えた事柄を見つけてもらいます。

- わたしたちが現世において神から離れていることについてパウロが教えた真理は何ですか。（生徒の言葉は違うでしょうが、次の真理を見つけていることを確認します。わたしたちは現世において神と離れているため、目で見ることによってではなく、信仰によって歩まなければならない。各生徒に、自分の名前が書かれた紙にこの真理を書いてもらいます。）
- 「見えるものによらないで、信仰によって歩いている」（7 節）とはどういう意味ですか。
- 見えるものによらないで、信仰によって歩くことが必要となる状況や判断の例にはどのようなものがありますか。（ホワイトボードに生徒の答えを書きます。生徒たちの答えには、教会の標準に従う、伝道に出ることを決める、または証を分かち合うなどが含まれるでしょう。）

生徒たちに、自分（または自分の知人）が見えるものによらないで、信仰によって歩いたときのことを考えてもらいます。数人の生徒にそのときの経験を分かち合ってもらいます。

生徒たちに、現在直面している信仰によって歩むことが難しい状況または判断についてよく考えてもらいます。その状況や全ての状況において、信仰によって歩むよう生徒たちを励まします。

一人の生徒に、2 コリント 5:8 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、現世で神から離れている間にわたしたちが行うべきだとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- 9 節によると、現世で神から離れている間にわたしたちが行うべきだとパウロが言った事柄は何ですか。
- 10 節に記録されているパウロの教えに基づく、この生涯で善いことを行うように努力すべきである理由についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の真理を見つけられるでしょう。わたしたちはそれぞれ、現世で何をしたかに従ってイエス・キリストによって裁かれる。この真理を教えている 10 節の語句に印をつけるよう生徒たちに勧めます。)

イエス・キリストによって裁かれるときの備えとして、変える必要がある事柄についてよく考えるよう生徒たちに勧めます。受けた促しの全てに従うように生徒たちを励まします。

一人の生徒に 2 コリント 5:15 - 16 を声に出して読んでもらいます。また、この生徒にジョセフ・スミス訳の 2 コリント 5:16 も読んでもらいます。(『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳 [抜粋]」他の生徒には、聞きながら、わたしたちが天の御父のもとに帰ることができるようにイエス・キリストがわたしたちのためにくださった事柄を見つけてもらいます。

- 15 節によると、イエス・キリストはわたしたちが天の御父のもとに帰る助けとして何をしてくださいましたか。
- 15 - 16 節によると、信じる者はイエス・キリストの贖罪のためにどのようなことをしますか。(信じる者はキリストを中心とした生活をし、この世的なやり方に従わず、肉に屈しない。各生徒に、自分の名前が書かれた紙の方にこの文を書いてもらいます。)

一人の生徒に、2 コリント 5:17 - 19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの贖罪は、聖徒たちが天の御父のもとに帰るためにどのような助けとなるかを見つけてもらいます。

- イエス・キリストの贖罪は、わたしたちが天の御父のもとに帰るためにどのような助けとなりますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたちは新しく造られた者となり、神と和解する。生徒たちに、「天の御父」と書いた方の紙にこの真理を書いてもらいます。)
- 「新しく造られた者」(17 節) になるとはどういう意味だと思いますか。

生徒たちにモーサヤ 27:23 - 26 を黙読しながら、新しく造られた者になるという意味についてのさらなる詳細を見つけてもらいます。十分な時間を取った後、見いだした事柄を数人の生徒に発表してもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、わたしたちがどのように新しく造られた者になれるかについてのベドナー長老の説明に耳を傾けてもらいます。



「イエス・キリストの福音の本質は、わたしたちの性質そのものを根本的かつ永遠に変えることです。それは救い主の贖罪によって可能となるのです。真の改心は、人の信条、心、生活に神の御心を受け入れて従うという変化をもたらします(使徒 3:19; 3 ニーファイ 9:20 参照)。それにはキリストの弟子になるという自発的な決意が伴います。

わたしたちは救いと昇栄の儀式と聖約を尊び(教義と聖約 20:25 参照)、『キリストを確固として信じ[て]……力強く進[み]』(2 ニーファイ 31:20)、信仰をもって最後まで堪え忍ぶとき(教義と聖約 14:7 参照)、キリストにあって新しく造られた者となります(2 コリント 5:17 参照)。(「主に帰依する」『リアホナ』2012 年 11 月号, 107)

それぞれの生徒に、二枚の紙をつなげてもらいます。和解するという事は、以前は離れていた二人の当事者を一つに集めることであると説明します。アダムの墮落に加え、わたしたち自身の罪によって、わたしたちは天の御父から霊的に離れてしまいます。イエス・キリストは、贖罪を通じて御父との和解をわたしたちに提供し、御父とわたしたちの関係を修復してくださいました。

一人の生徒に、2 コリント 5:20 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、パウロが聖徒たちに何をしよう論じたかを見つけてもらいます。

- パウロはコリントの聖徒たちに何をしよう忠告しましたか。

- 20 節に記録されていることから、パウロはイエス・キリストについて何を教えましたか。
(イエス・キリストには罪がなかったにもかかわらず、わたしたちが義とされるようにわたしたちの罪のために苦しみました。)

このレッスンで生徒たちが見いだした真理についての証を述べます。生徒たちに書き出した真理のリストを見直してもらい、神と和解する、または神と和解した状態を保つためにしなければならない事柄について考えてもらいます。受けた促しの全てに従うように生徒たちを励まします。

2コリント6-7章

はじめに

パウロは、コリントの聖徒たちに対し、神の僕としての自分の行いを引き続き擁護する主張をしました。またパウロは、聖徒たちに全ての義に反する物事から離れるよう熱心に勧めまし

た。パウロは、聖徒たちに対する自分の献身について改めて断言し、彼らが神の御心に添った悲しみを経験し、罪を悔い改めたことを喜びました。

教えるための提案

2コリント6:1-13

パウロ、神の僕の特質を説明する

生徒に次の状況について考えてもらいます。

- あなたと、ワードまたは支部の他の誰かが奉仕活動を行っている時、数人の人が通りかかって教会について失礼な発言をしました。あなたか、あなたのグループの誰かがこれに対して失礼な態度で対応したとしたらどうなる可能性がありますか。

主に仕えているときに反対に遭った、またはあざ笑われたときのことについて、生徒たちに考えてもらいます。2コリント6:1-13を研究しながら、そのようなときに彼らを導くことができる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

2コリント6:1-2の要約として、パウロが自分自身と同僚を「神と共に働く者」(1節)、すなわち、ジョセフ・スミス訳2コリント6:1によれば「キリストと共に働く者」と呼んだことを説明します。パウロは預言者イザヤの言葉(イザヤ49:8参照)を引用して、聖徒たちがそれぞれの救いについて考える時がやって来たことを強調しました。

一人の生徒に、2コリント6:3-7を声に出して読んでもらいます。クラスの半分に、パウロと同僚たちが経験した妨害を説明する言葉や表現を見つけてもらいます。残りの半分には、パウロと同僚たちがその妨害にどのように対応したかを説明する言葉や表現を見つけてもらいます。

- パウロと彼の同僚が経験した妨害にはどのようなものがありましたか。
- 彼らがどのように対応したかを説明する言葉または表現にはどのようなものがありますか。3節を見直し、「務」という言葉が教会の業を指すと説明します。
- 今日の教会員の行いは、教会に関する他の人々の意見にどのように影響しますか。
- 3-7節に書かれているパウロの教えを、原則を示すためにどのように要約することができますか。(生徒たちが次のような原則を見いだすでしょう。妨害に対して愛、思いやり、義をもって対応するとき、他の人々が教会を肯定的に考えてくれるような助けをすることができます。)

生徒たちに、クラスの始めに話した状況を思い出してもらいます。この状況に対してどのように義にかかった方法で対応できるか、そうすることによってどのような結果が生じるかについて生徒たちに説明してもらいます。

時間配分

時折、手引きにある教えるための提案の全てを使うために十分な時間がなくなってしまう。節のまとまりを短く要約したり、次の節のまとまりに移る前に生徒が原則や教義を素早く見つけるように導くことで、レッスンの部分に手を加える必要があるかもしれません。聖句ブロックのどの部分を強調すべきかを決めるときは、御霊の導きを求め、よく祈って生徒たちの必要を考慮します。

2 コリント 6 : 14 – 18

パウロ, 悪の中から出るように聖徒たち勧告する

生徒たちに二人一組になってもらい, 各生徒に付属の配付資料のコピーを配ります。

2 コリント 6 : 14 – 18

聖徒たちへの勧告	主からの約束

生徒に二人一組で, 2 コリント 6 : 14 – 18 を読んでもらいます。それぞれのペアの一人の生徒に, パウロの聖徒たちに対する勧告を見つけてもらいます。もう一人の生徒には, 聖徒たちがパウロの勧告に従った場合に成就される主からの約束を見つけてもらいます。見つけた事柄を使って表と一緒に完成してもらいます。「調和」とは一致を意味し, 「ベリアル」とは邪悪さ (*Bible Dictionary*, “Belial”の項参照), 「不信者」とは不信心者または天の御父以外の神を信じる人を指すと説明する必要があるかもしれません。さらに, パウロは以前コリントの聖徒たちを神の神殿と比較したことがあることから, 「神の宮」とはコリントの聖徒たちを指しています。

ペアがそれぞれ見つけた事柄をお互いに報告しあって, 表を完成するための時間を十分に取ります。

パウロは聖徒たちに対し, 自分自身を罪から守るために, 偶像礼拝やそれに参加する人々を含む「汚れたもの」(17 節) から自分を分離する, つまり離れるように, 特に警告していたと説明します。偶像礼拝とは, 人が作ったものを神以上に愛する, または礼拝することです。

それぞれの配付資料の「聖徒たちへの勧告」という表題の上に「もしこうするなら」と書き, 「主からの約束」という表題の上に「このようになる」と書いてもらいます。

- 2 コリント 6 : 14 – 18 からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は幾つかの真理を見いだすかもしれませんが, 次のことを強調してください。誤った習慣や汚れたものから自分を分離するとき, 主はわたしたちを受け入れてくださる。)
- 現代における誤った習慣または汚れたものの例にはどのようなものがありますか。
- これらの事柄やこれらの事柄を推奨する人々からどのように自分自身を分離することができますか。

この原則は, 異なる信仰を持つ人に失礼な態度を執ったり, 彼らとの付き合いを拒絶したりするという意味ではなく, 敬意を持ってわたしたちの信仰を再確認し, 罪につながるどのような活動にも参加しないことを意味すると説明します。

- 主がわたしたちを「受けいれ」てくださる (2 コリント 6 : 17) とはどのような意味だと思いますか。

生徒たちに, 主から自分を遠ざけてしまう可能性のあった誤った習慣から自身を分離することによって, 主がともにいてくださると感じたときのことについて深く考えてもらいます。数人の生徒にその経験を分かち合ってもらいます。

生徒たちに, 主の祝福を受けることができるように, 誤った習慣と汚れたものから自分を分離するには何をすることが必要があるかを深く考えてもらいます。

2 コリント 7 章

パウロ, 聖徒たちの真の悔い改めを喜ぶ

一人の生徒に, 次の状況を声に出して読んでもらいます。

結婚のための神殿推薦状の面接で, 若い女性がビショップに過去の罪を告白しました。さらなる話し合いの後, ビショップはこの若い女性が罪に対して心から悔い改めておらず, その罪が彼女を神殿推薦状にふさわしくないとするほど深刻であると理解するに至りました。ビショップは, 完全に悔い改めるまでは推薦状を受けるのを待たなくてはならないとその若い女性に説明しました。彼女は驚き, 長い間その罪を繰り返していないのだから悔い改めて

いると主張しました。ビショップは、単に罪を犯すことをやめることは完全な悔い改めではないことを説明し、真の悔い改めのプロセスを心から始めるよう彼女に勧めました。

- 面接のこの時点で、若い女性はどのように感じていると思いますか。

生徒にこの状況を引き続き声に出して読んでもらいます。

その若い女性は、結婚式と披露宴の招待状が既に送られてしまっていることから、非常に動揺していることをビショップに説明し、結婚式の予定を遅らせることに対する全ての質問や恥ずかしさに直面することはできないと言いました。彼女は、予定どおりに神殿で結び固められてから、その後で悔い改めのプロセスに取り組む方法はないかと尋ねました。

- この若い女性の受け答えから、彼女は何を最も心配していたように見えますか。

2 コリント 7 章を研究しながら、この状況の若い女性が、自分の罪を心から悔い改めることができるようになる前に理解する必要がある真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

2 コリント 7:1-7 の要約として、パウロが自分の信用を落とそうとする人たちに対する抗弁を続け、彼は誰も不当に扱ったことがないことをコリントの聖徒たちに断言したと説明します。

一人の生徒に、2 コリント 7:8-9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの初期の手紙の一つがコリント人の聖徒たちにどのように影響したかを見つけてもらいます。

- その手紙は聖徒たちにどのように影響しましたか。
- 彼らの悲しみにパウロが喜んだのはなぜですか。

生徒たちに、2 コリント 7:10-11 を黙読してもらいます。パウロが述べた二種類の悲しみと、それらが各々何につながるかに印をつけるよう提案するとよいでしょう。

- パウロが述べた二種類の悲しみとは何ですか。

ホワイトボードに「神の御心に添った悲しみ」と、「この世の悲しみ」という二つの表題を書きます。一人の生徒に、「この世の悲しみ」という言葉の意味を説明したエズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「自分が悪を行った事柄について自責の念に駆られている人は、男女を問わず世の中に少なくありません。時には、彼らの行いが彼ら自身や愛する人々に大きな悲しみと苦悩をもたらす原因となっていることから、この気持ちになります。自分が行ったことのために逮捕されたり、処罰されたりすることで、悲しむ人もいます。このようなこの世間的な感情は、『神のみこころに添った悲しみ』とは言えません。」(『歴代大管長の教え — エズラ・タフト・ベンソン』 76 -

77)

- この世の悲しみとはどのようなものであるか、あなたならどのように要約しますか。
- 10 節によると、この世の悲しみは何につながりますか。(10 節にある「死」という言葉は、霊的な死、つまり神から離れることを意味すると説明します。ホワイトボードの「この世の悲しみ」の下に、次の真理を書きます。この世の悲しみは霊的な死、つまり神から離れることにつながり得る。)
- この世の悲しみは、どのような方法で人を霊的な死に追いやりますか。(人が心から悔い改め、天の御父の赦しを受ける妨げとなり得る。)
- (10 節に基づくと、神の御心に添った悲しみは何につながりますか。ホワイトボードの「神の御心に添った悲しみ」の下に、次の真理を書きます。神の御心に添った悲しみは、罪を悔い改め、救いを受けることにつながる。)

神の御心に添った悲しみが悔い改めにつながる理由を生徒たちがより一層理解するのを助けるため、一人の生徒にエズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「神の御心に添った悲しみは、御霊の賜物の一つです。それは自分の行いが御父である神に不快感を与えたことを深く認識することです。わたしたちの行いのゆえに、救い主、いかなる罪も犯されなかった御方、すなわち全ての中で最も大いなる御方が苦悶し苦しまれたことを、はっきりと自覚することです。わたしたちの罪のゆえに、主はあらゆる毛穴から血を流されたのです。このまことに現実的な、精神的、また霊的な苦しみは、『打ち砕かれた心と悔いる霊』を持つことと聖文で言われているものです。このような霊が真の悔い改めに絶対に必要な条件なのです。」(『歴代大管長の教え — エズラ・タフト・ベンソン』 77 参照)

- 神の御心に添った悲しみがわたしたちを罪の真の悔い改めに導くのはなぜだと思いますか。

生徒たちに若い女性が神殿推薦状を受けようとしていたことに関する状況について深く考えてもらいます。

- その若い女性がビショップと面接していたときに、どのような点で彼女は神の御心に添った悲しみを経験していないことを示していましたか。
- この世の悲しみを神の御心に添った悲しみに変えるためには何をすることができますか。

必要に応じて、わたしたちが悔い改めるときに経験する神の御心に添った悲しみが、罪の深刻さに応じて異なる場合があることを生徒たちが理解するように助けます。

この世の悲しみではなく神の御心に添った悲しみを感ずるとき、わたしたちは心から悔い改め、罪から清められて、最終的には救いを受けられることができると証します。悔い改めようと努力するときに神の御心に添った悲しみを願うよう生徒たちに勧めます。

2 コリント 7:12 – 16 の要約として、パウロが聖徒たちを大切に思っており、信頼していると言ったことを説明します。

2 コリント 6 – 7 章の研究で生徒たちが見いだした真理を簡単に見直し、これらの真理を応用するために生徒たちが感じた全ての促しに従うよう彼らを励まします。

家庭学習クラスのレッスン

1 コリント 15 章 — 2 コリント 7 章 (単元 23)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が 1 コリント 15 章— 2 コリント 7 章 (単元 23) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (1 コリント 15 : 1 – 29)

生徒たちは、1 コリント 15 章の前半を学習し、使徒は、イエス・キリストがわたしたちの罪のためにお亡くなりになり、死人の中からよみがえられたことを証することを学びました。また、生徒たちは、バプテスマを受けずに亡くなった人たちが、この必要不可欠な儀式を受けることができるとも学びました。

第 2 日 (1 コリント 15 : 30 – 16 : 24)

このレッスンで、生徒たちは引き続き復活に関するパウロの教えについて研究しました。生徒たちは、復活した体には、異なる階級の栄光があることを学びました。さらに、わたしたちが福音に従って生活することにおいて堅く立って動かされなければ、イエス・キリストの贖罪を通じて、罪から生じる死の痛みが取り除かれることも学びました。

第 3 日 (2 コリント 1 – 3 章)

パウロのコリント人への第二の手紙から、生徒たちは、試練において天の御父がわたしたちを慰めてくださるとき、他の人たちが御父の慰めを受けるように助けることができると学びました。また、わたしたちが他の人々を赦さなければサタンに欺かれることと、わたしたちの心を主に向ければ御霊を持つようになり、御霊はわたしたちがさらに神のようになるために徐々に助けてくださることも学びました。

第 4 日 (2 コリント 4 – 7 章)

このレッスンでパウロの教え導く業の内容について学んだとき、生徒たちは次の真理を見いだしました。この人生におけるわたしたちの試練と苦難は、わたしたちが忠実にそれらに耐えるときに受ける永遠の祝福と成長に比べると小さなものである。わたしたちは現世において神と離れているため、目で見ることによってではなく、信仰によって歩まなければならない。わたしたちはそれぞれ、現世で何をしたかに従ってイエス・キリストによって裁かれる。イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたちは新しく造られた者となり、神と和解する。誤った習慣や汚れたものから自分を分離するとき、主はわたしたちを受け入れてくださる。

はじめに

コリントの聖徒たちに対する第二の書簡の中で、使徒パウロは彼らに対する自分の献身を改めて断言し、彼らがパウロの以前の勧告を受け入れたことを知って喜んでいました。パウロは、罪に対する神の御心に添った悲しみは悔い改めにつながると教えました。

教えるための提案

2 コリント 7 : 8 – 11

パウロ、聖徒たちの真の悔い改めを喜ぶ

一人の生徒に、次の状況を声に出して読んでもらいます。

結婚のための神殿推薦状の面接で、若い女性がビショップに過去の罪を告白しました。さらなる話し合いの後、ビショップはこの若い女性が罪に対して心から悔い改めておらず、その罪が彼女を神殿推薦状にふさわしくないとするほど深刻であると理解するに至りました。ビショップは、完全に悔い改めるまでは推薦状を受けるのを待たなくてはならないとその若い女性に説明しました。彼女は驚き、長い間その罪を繰り返していないのだから悔い改めていると主張しました。ビショップは、単に罪を犯すことをやめることは完全な悔い改めではないことを説明し、真の悔い改めのプロセスを心から始めるよう彼女に勧めました。

- 面接のこの時点で、若い女性はどのように感じていると思いますか。

生徒にこの状況を引き続き声に出して読んでもらいます。

その若い女性は、結婚式と披露宴の招待状が既に送られてしまっていることから、非常に動揺していることをビショップに説明し、結婚式の予定を遅らせることに対する全ての質問や恥ずかしさに直面することはできないと言いました。彼女は、予定どおりに神殿で結び固められてから、その後で悔い改めのプロセスに取り組む方法はないかと尋ねました。

- この若い女性の受け答えから、彼女は何を最も心配していたように見えますか。

2 コリント 7:8-11 を研究しながら、この状況の若い女性が自分の罪を心から悔い改めることができるようになる前に理解する必要のある真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、2 コリント 7:8-9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの初期の手紙の一つがコリント人の聖徒たちにどのように影響したかを見つけてもらいます。

- その手紙は聖徒たちにどのように影響しましたか。
- 彼らの悲しみにパウロが喜んだのはなぜですか。

生徒たちに、2 コリント 7:10-11 を黙読してもらいます。パウロが述べた二種類の悲しみと、それらが各々何につながるかに印をつけるよう提案するとよいでしょう。

- パウロが述べた二種類の悲しみとは何ですか。

ホワイトボードに、「神の御心に添った悲しみ」と、「この世の悲しみ」という二つの表題を書きます。一人の生徒に、エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、ベンソン大管長によるこの世の悲しみの説明に耳を傾けてもらいます。



「自分が悪を行った事柄について自責の念に駆られている人は、男女を問わず世の中に少なくありません。時には、彼らの行いが彼ら自身や愛する人々に大きな悲しみと苦悩をもたらす原因となっていることから、この気持ちになります。自分が行ったことのために逮捕されたり、処罰されたりすることで、悲しむ人もいます。このようなこの世的な感情は、『神のみこころに添った悲しみ』とは言えません。」(『歴代大管長の教え—エズラ・タフト・ベンソン』76-77)

- この世の悲しみとはどのようなものであるか、あなたならどのように要約しますか。
- 2 コリント 7:10 によると、この世の悲しみは何につながりますか。(10 節にある「死」という言葉は、霊的な死、つまり神から離れることを意味すると説明します。ホワイトボードの「この世の悲しみ」の下に、次の真理を書きます。この世の悲しみは霊的な死、つまり神から離れることにつながり得る。)
- この世の悲しみは、どのような方法で人を霊的な死に追いやりますか。(人が心から悔い改め、天の御父の赦しを受ける妨げとなり得る。)
- 10 節に基づくと、神の御心に添った悲しみは何につながりますか。(ホワイトボードの「神の御心に添った悲しみ」の下に、次の真理を書きます。神の御心に添った悲しみは、罪を悔い改め、救いを受けることにつながる。)

神の御心に添った悲しみが悔い改めにつながる理由を生徒たちがより一層理解するのを助けるため、一人の生徒に、エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「神の御心に添った悲しみは、御霊の賜物の一つです。それは自分の行いが御父である神に不快感を与えたことを深く認識することです。わたしたちの行いのゆえに、救い主、いかなる罪も犯されなかった御方、すなわち全ての中で最も大いなる御方が苦悶し苦しまれたことを、はっきりと自覚することです。わたしたちの罪のゆえに、主はあらゆる毛穴から血を流されたのです。このまことに現実的な、精神的、また霊的な苦しみは、『打ち砕かれた心と悔いる霊』を持つことと聖文で言われているものです。このような霊が真の悔い改めに絶対に必要な条件なのです。」(『歴代大管長の教え—エズラ・タフト・ベンソン』77 参照)

- 神の御心に添った悲しみがわたしたちを罪の真の悔い改めに導くのはなぜだと思いますか。

生徒たちに若い女性が神殿推薦状を受けようとしていたことに関する状況について深く考えてもらいます。

- その若い女性がビショップと面接していたとき、彼女は罪に対して神の御心に添った悲しみを経験していたように思えましたか。それはなぜでしょうか。(彼女は、心から悔い改めて天の御父の赦しを受けることよりも、結婚の計画が遅れることと、彼女に対する他の人々の意見を心配していた。)
- この世の悲しみを神の御心に添った悲しみに変えるためには何をすることができますか。(断食して祈り、神の御心に添った悲しみの賜物で祝福していただけるように天の御父に願うことができる。また、イエス・キリストの贖罪について研究し、わたしたちの罪がどのようにキリストの苦しみの一因となったかについてより深く理解しようと努めることもできる。)

この世の悲しみではなく神の御心に添った悲しみを感じるとき、わたしたちは心から悔い改め、罪から清められて、最終的には救いを受けるとできると証します。悔い改めようと努力するときに神の御心に添った悲しみを願い求めるよう生徒たちに勧めます。

時間が残っていれば、単元 23 の研究で生徒たちが見いだした真理を見直し、これらの真理を応用するために生徒たちが感じた全ての促しに従うよう彼らを励まします。1 コリント 15:20-22 や 1 コリント 15:40-42 にあるマスター聖句を復習してもよいでしょう。生徒たちにこれらの節にある教義と、これらの節を使って他の誰かに救いの計画を教えるときにどのように教えるかを説明してもらいます。

次の単元 (2 コリント 8 章—エペソ 1 章)

生徒に次の質問について考えるように言います。御霊を感じているということは、どのように分かりますか。御霊の実、または御霊の感覚とは何ですか。聖徒たちは何を受けるように予任されていますか。食物、衣服、住居など、物質的な生活必需品を持っていない人に対するわたしたちの責任は何ですか。わたしたち自身に同じ必要が生じたらどうしますか。次の一週間は、パウロがこれらの質問とその他の質問に対してどのように答えたかを研究すると生徒たちに説明します。

第116課

2コリント8-9章

はじめに

パウロはコリントの聖徒たちに書簡を書き、マケドニアの教会員が助けを必要としている人々に惜しみなく与えたことを説明しました。また、貧しい人に与えることによって救い主の模

範に従うようにも勧めました。パウロは、貧しい人に喜んで与える人にもたらされる祝福について教えました。

教えるための提案

2コリント8章

パウロ、聖徒たちに貧しい人々の世話をすよう勧告する

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉（「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」『リアホナ』2014年11月号、40から引用）をクラスが始まる前にホワイトボードに書いておきます。その時に、「貧困」という言葉の箇所は空白にしておきます。一人の生徒にその言葉を声に出して読んでもらい、レッスンを始めます。

「人類の歴史を通じて、貧困は、最も蔓延している最も大きな試練の一つであると見なされてきました。貧困は明らかに物質的な苦痛を与えますが、それはまた、霊的、情緒的に一層大きな苦痛を与えることがあります。」

聖徒たちに空白の言葉を考えてもらいます。その後で、「貧困」という言葉を書きます。

- 貧困とは何ですか。（金銭、物品などの生活手段が少ししかない、またはまったくない状態。）
- 貧困が非常に困難な問題となり得るのはなぜですか。

知人で、物質的、情緒的、社会的、霊的なものを含むあらゆる種類の支援、または援助を必要としているかもしれない人について考えるよう、生徒たちに勧めます。2コリント8-9章を研究しながら、助けを必要としている人を助けるという各々の役割を理解して、その役割を果たす助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

2コリント8:1-8の要約として、パウロはコリントの聖徒たちに対して、マケドニアの教会員は、物質的な必要において貧しい人を助けるために惜しみなく与えたと言ったことを説明します。（生徒たちに『聖書の地図』の地図13、「使徒パウロの伝道の旅」を開いてもらい、地図上でコリントとマケドニアを見つけてもらうとよいでしょう。）パウロは、マケドニアの教会員たちが、神の御心を行うという望みのためにそれらを行ったと説明しました。またパウロは、コリントの聖徒たちもこの模範に倣って、真の愛を持って周りの人々の必要を満たすよう勧めました。

ホワイトボードに「富んでいる者」、「貧しい者」と書きます。

生徒たちに、2コリント8:9を黙読してもらい、イエス・キリストが聖徒たちのためにしてくださったとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。十分に時間を取った後、次の質問をして、ホワイトボードの「富んでいる者」と「貧しい者」の下に生徒たちの答えを書きます。

- イエス・キリストは、前世においてどのような点で富んでおられましたか。（生徒の回答には次が含まれるでしょう。イエス・キリストは、現世にお生まれになる前も、霊において御父の長子であられた。イエス・キリストは、権能、力、栄光において天の御父の隣に立ち、御父の指示の下、多くの世界をお創りになった。）
- 現世での生涯で、イエスはどのような点で貧しいと見なされましたか。（イエスは、地上において貧しい状況に生まれ、そこで生活するために栄光の座を去られた。）
- 9節にある「〔救い主〕の貧しさによって富む者になる」とはどのような意味だと思いますか。（イエス・キリストが前世における王座から御自分を低くされ、仕え、教え、導くために地上に來られて、わたしたちのために模範を示し、贖罪を行われたことから、わたしたちは永遠の命の富を得ることができる。）

約一年前、コリントの聖徒たちがユダヤにいる貧しい聖徒たちのために物品を集める決心をしたことを生徒たちに説明します。一人の生徒に、2コリント8:10-11を声に出して読

生徒たちのために祈る

生徒が学習経験で聖霊の教化の影響を感じるには、彼らにも「御言葉を聞く用意〔が〕できている」（アルマ32:6）必要があります。教師は、生徒が「〔喜んで〕御言葉を受け入れるように彼らの心を備えさせるために」（アルマ16:16-17）、御霊が彼らに注がれるよう主に願ひ求めることができます。

んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがコリントの聖徒たちに実行するよう助言した事柄を見つけてもらいます。

- パウロはコリントの聖徒たちに何をしよう助言しましたか。

「実行〔する〕」と「やりとげ〔る〕」という言葉は、救い主が永遠の富を与えてくださったように、提供できるものを貧しい聖徒たちに与えるという以前の決心を全うするよう、パウロが聖徒たちを諭したことを意味すると説明します。

- 救い主がわたしたちに与えてくださった全ての事柄を理解することによって、わたしたちはどうなりますか。（生徒は異なった言葉を使うでしょうが、次のような内容の原則を見つけられるでしょう。救い主がわたしたちに与えてくださった全てのものを理解することによって、自分の財産を自ら喜んで他の人々に与えようという気持ちが強くなる。）
- 救い主からわたしたちへの賜物について考えることは、助けを必要としている人々に与えようとする動機をどのように起こさせてくれますか。
- 救い主があなたに与えてくださった賜物の中で、他の人々に与えることの動機となる具体的な賜物は何ですか。

数人の生徒に、2 コリント 8:12 – 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、物質的な事柄において互いに支え合うことの大切さについてパウロが人々に教えたさらなる真理を見つけてもらいます。

- 12 – 13 節から、わたしたちはどのような真理を学ぶことができますか。（生徒が次の真理を見つけるよう助けます。神は、わたしたちが与えるものを何も持っていないときでさえも、喜んで与えるという意志を持ってほしいと望んでおられる。）

生徒たちがこの真理を理解するのを助けるために、一人の生徒に、ジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「貧富の別なく、乏しい人に対して『できる限りのこと』をする必要があ〔ります。〕」（「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」41）

- 物質的に提供するものがない場合、助けを必要とする人のために何をすることができますか。
- 14 – 15 節によると、全ての聖徒たちが助けを必要としている人々に絶えず与えるなら、誰がその益を受けますか。（その時点で助けを必要としている全ての人。）
- わたしたち全員に喜んで与える意志があるなら、どのような形で全ての人が利益を受けますか。

生徒たちがこれらの真理の大切さを感じることができるよう、一人の生徒にホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、わたしたちが思いやりをもって貧しい人に応えるように、主がわたしたちをどのように助けてくださるかに耳を傾けてもらいます。



「自立しようとしな、あるいはいつも自立できるわけではない人に対する責任を皆さん一人一人がどのように果たすべきかについて、具体的な考えがあるわけではありません。しかし、神は御存じであり、もし皆さんが、神が何度も与えてこられた戒めを守るために誠実に望み、祈り、方法を探しているならば、神は皆さんを助け、弟子としての哀れみ深い行動へと導いてくださるでしょう。」（「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」41）

▶ 時間に余裕があり、可能ならば、文章を読む代わりにホランド長老の総大会の説教「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」のビデオの一部（0分00秒–7分04秒）を見せるとよいでしょう。

- ホランド長老は、貧しい人や助けを必要とする人を助ける準備をするために、わたしたちが何をすべきだと言いましたか。
- 教会が設立した方法で、わたしたちが貧しい人の必要を満たす援助をすることができるものには何がありますか。（断食献金、地域の奉仕活動、人道支援活動。）

貧しい人や助けを必要とする人に与えることについてのパウロの教えに基づいて実行しようとして計画している一つの事柄を、クラスノートや聖典学習帳に書くよう生徒たちに勧めます。

2 コリント 8:16 – 24 の要約として、エルサレムの聖徒たちのための寄付金を集めるのに派遣されたテトスと二人の兄弟について、パウロがコリントの聖徒たちに話したと説明します。パウロはコリントの聖徒たちに対する自分の信頼について話し、彼らの寛大な施しが他の人々に対する愛の証拠となると説明しました。

2 コリント 9 章

パウロ、心から分け与える者の祝福について教える

2 コリント 9:1-5 の要約として、パウロが引き続きコリントの聖徒たちを賞賛したと説明します。パウロは、喜んで惜しみなく与える意志を確認するために、テトスと他の二人を遣わしたと聖徒たちに言いました。

しぶしぶ誰かに何かをあげたこと、または嫌々奉仕したことはないか、生徒たちに深く考えてもらいます。

- 他の人々を助けるためにあなたの時間やお金、その他の所有物を提供することが難しいことがあるのはなぜですか。

一人の生徒に、2 コリント 9:6-7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが惜しみなく与えることについてコリントの教会員に教えるために使ったたとえを見つけてもらいます。

- 「まく」とはどういう意味ですか。(種をまくこと。)
 - パウロは種をまくことを何にたとえましたか。(他の人々に与えること。)
- 果物や野菜の種を生徒に見せるか、それらの絵を見せます。
- このたとえにおいて、種をまく人とは誰ですか。(聖徒たち、またはわたしたち。)
 - 7 節によると、主はわたしたちにどのように種をまく、つまり与えることを期待しておられますか。(しぶしぶではなく、喜んで行く。モロナイ 7:8 も参照。)

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 助けを必要としている人々に喜びの心を持って与えるならば_____

- 他の人々に与えることは、畑で種をまくこととどのように似ていますか。
- 少ししかまかないとどうなりますか。
- 豊かにまくとどうなりますか。

次の真理が伝わるように、ホワイトボードに書いた原則を完成させます。助けを必要としている人々に喜びの心を持って与えるならば、神はわたしたちを豊かに祝福してください。

- 喜んで他の人々に与えることは、どのようにして、わたしたちが実際に最初よりも多く受け取る結果となりますか。

一人の生徒に、2 コリント 9:8-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聖徒たちが喜んで与えるならば彼らにもたらされるとパウロが言った祝福を見つけてもらいます。

- 喜んで与える人々に主がお与えになる祝福を説明するためにパウロが使った言葉は何でしょうか。(回答には次が含まれるでしょう。「あらゆる恵みを豊かに与え〔る〕」〔8 節〕、「すべてのことに満ち足らせ〔る〕」〔8 節〕、「義は永遠に続く」〔9 節〕、「義の実を増して下さる」〔10 節〕)

これらの語句は、わたしたちが主の恵みを受けることを指しており、これにはわたしたちの必要を満たすに十分な物質的な祝福が含まれる場合もあると説明します。

- 10 節によると、「種をまく人に種……を備えて下さるかた」とはどなたですか。(主。種をもう一度見せて、わたしたちが他の人々に与えることができるのは、まず第一に主がわたしたちを養ってくださったからに他ならないことを説明します。)
- わたしたちの持っているもの全てがどこから来たかを覚えておくことは、わたしたちが喜んで与えることをどのように助けますか。

数人の生徒に、2 コリント 9:11-15 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、喜んで与え、受け取る聖徒たちについてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 11-15 節によると、お互いの財産を惜しみなく与え、受け取る聖徒たちは、神に対してどのように感じるでしょうか。

生徒たちに、これらの節にある次のような感謝の言葉の全てに印をつけてもらうとよいでしょう。「神に感謝するに至る」(11 節)、「神に対する多くの感謝」(12 節)、「神に栄光を帰〔す〕」(13 節)、「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する」(15 節)。

生徒各自の聖典の 11-15 節の横に次の真理を書くように勧めるとよいでしょう。神が惜しみなく祝福してくださると気づくことは、神への感謝を感じる助けとなる。



- 人に喜んで与え、仕えることによってもたらされた祝福に気づくことで、神への感謝の気持ちを感じたのはどのようなときですか。

2 コリント 8 - 9 章で生徒たちが見いだした原則と真理についての証を述べます。

今週、助けを必要としている人を助けるための方法を考えるよう生徒たちを励まします。その人を助ける目標を立てるように生徒たちに勧めます。

第117課

2コリント 10 - 13 章

はじめに

使徒パウロは、神の子供たちが携わっている霊的な戦いについて教えました。また、敵対する者たちから自分自身を守りました。パウロはどのように第三の天に引き上げられたかについて語り、またどのように彼の弱さが祝福であると分かったのか

を説明しました。書簡を終える前に、パウロはコリントの聖徒たちに、自分自身を省みて、それぞれの忠実さを証明するように熱心に勧めました。

教えるための提案

2コリント 10 - 11 章

パウロ、霊的な戦い、サタンの策略、自分自身の苦難について書く

ホワイトボードに「戦い」と書きます。

- どのような点でわたしたちは、サタンとの戦いに加わっていますか。
- 霊的な戦いにおいて、わたしたちが直面する最も困難な戦いにはどのようなものがありますか。

一人の生徒に、2コリント 10:3 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サタンに対するこの戦いにおいて勝利を取めるために、行わなくてはならないとパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- サタンに対する戦いにおいて勝利を取めるには何をしなくてはなりませんか。
- 「すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ[る]」とはどのような意味だと思いますか(5節)。
- 5節では、サタンに対する戦いで勝利を取める方法についてどのような原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストに従順になることによってわたしたちの思いをコントロールするとき、サタンに対する戦いにおいてさらに勝利を取めることができる。)
- わたしたちの思いをコントロールするためには何をすることができますか。(さまざまな答えの中でも、とりわけ、祈ること、聖句を暗記すること、賛美歌を歌う、または賛美歌を覚えることなどがある。)

救い主への従順によって思いをコントロールすることが、サタンの影響を克服するためにどのように役立ったかを示す経験を分かち合ってもよいでしょう。生徒たち自身の経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。救い主への従順によって思いをより一層コントロールするための目標を立てるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、次の要約を声に出して読んでもらいます。

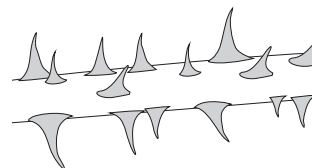
2コリント 10:7 - 18 では、パウロは主を誇り、自分の弱さを主の言葉を聞かない言い訳にするべきではないと教えたことを学びます。2コリント 11章では、パウロが、わたしたちの思いを腐敗させ、イエス・キリストから遠ざけるために、偽キリストと偽の使徒を含むサタンが使うさらなる手段について説明したことが分かります。パウロは救い主の真の使徒として堪え忍んだ苦しみについて語りました。

2コリント 12 章

パウロ、天に引き上げられたことについて語り、自分の弱さを認めることがどのようにわたしたちの利益となるかを教える

クラスにとげを持参する、または画像と似たとげの絵をホワイトボードに描きます。生徒たちに、とげが刺さったときのことをよく考えてもらいます。

- とげはどのような点でわたしたちの生活を困難にしますか。



パウロは、自分が経験した試練や弱さを象徴するために「とげ」という概念を使ったと説明します。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分自身、または愛する誰かがどのような種類の試練または弱さを経験したかについてよく考えてもらいます。

「愛する人と死別した人、体が自由にならない人を介護している人、離婚によって心に傷を負った人もいます。……また、身体的または精神的に障害を持つ人、あるいは同性愛に苦しむ人、ひどいつ症状や、自分はふさわしくないという思いに悩む人もいます。多くの人は、何らかの形で、重荷を負っているのです。」（「主は重荷を負っている人を癒される」『リアホナ』2006年11月号、6）

2コリント12章を研究しながら、試練や弱さを経験するときに役立つ真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、2コリント12:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが見た示現を見つけてもらいます。（これらの節では、パウロは三人称で言及されていると説明します。）

- パウロが「第三の天にまで引き上げられた」とはどのような意味だと思いますか（2節）。（パウロは日の栄えの王国の示現を見た。）

「からだのままであったか、……からだを離れてであったか、それも知らない」（2節）という語句は、パウロには日の栄えの王国に引き上げられたのか、示現を見たのかが分からなかったことを意味すると説明します。

一人の生徒に、2コリント12:5-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがこの示現にどのような反応をしたかを見つけてもらいます。

- パウロはこの示現にどのように反応しましたか。
- パウロは、自分自身を誇った場合に何が起るかもしれないと心配しましたか。（パウロは、自分にまだ克服すべき現世での葛藤があるときに、他の人々が彼を高く評価しすぎることを懸念していた。）

一人の生徒に、2コリント12:7-8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主は、パウロが謙遜でいることができるように彼をどのように助けられたかを見つけてもらいます。

- パウロが謙遜でいることができるように、主はどのように彼を助けられましたか。
- パウロは「肉体〔の〕とげ」が取り除かれるように何度祈りましたか。

パウロの祈りに反し、主はパウロの「肉体〔の〕とげ」を取り除かないという選択をされたように見受けられると指摘します。

- わたしたちが弱さと試練を経験することを主がお許しになる理由について、パウロから何を学ぶことができますか。（生徒は異なる言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。主は、わたしたちが謙遜になることを学ぶことができるように、わたしたちが弱さと試練を経験することをお許しになる。この真理をホワイトボードに書きます。）

生徒たちに、2コリント12:9-10を黙読して、パウロが学んだ真理で、自分の弱さを堪え忍ぶ助けとなったものを見つけてもらいます。見いだした真理をクラスノートか聖典学習帳に書くよう生徒に言います。

- パウロが学んだ真理で、自分の弱さを堪え忍ぶ助けとなったものとは何ですか。（生徒たちは次のような真理を幾つか見いだすでしょう。イエス・キリストの恵みは、わたしたちの弱さを強めるために十分である。主はわたしたちの困難を取り除かれないこともあるが、わたしたちが忠実にそれらに耐えるときに主はわたしたちを強めてくださる。）

「恵み」とは、イエス・キリストの贖罪によって授けられる「神聖な助けや力」であることを生徒たちに思い出してもらいます（『聖句ガイド』『恵み』）。

- 救い主の恵みが、わたしたちの弱さを強めるために十分であるとはどういう意味ですか。（わたしたちは、救い主から受ける力を通して、主がわたしたちに求められることを全て行うことができる。）

一人の生徒に、ダリン・H・オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「重荷が取り除かれる場合も、使徒パウロのように重荷に耐える力を授かって重荷とともに生きる場合も、主イエス・キリストの癒やしの力は、この世の全ての苦難に及ぶのです。」（「主は重荷を負っている人を癒される」8）

- 9 - 10 節で見いだした真理は、わたしたちが弱さや試練を経験するときどのような助けとなりますか。
- あなたや、あなたの知人が主によって強められたのはどのようなときでしたか。（きわめて個人的なことについては分かち合う必要はないことを生徒に思い出してもらいます。）その経験は、どのような面であなただ、あなたの知人の祝福となりましたか。

2 コリント 13 章

パウロ、聖徒たちに、自分自身を省みて、それぞれの忠実さを証明するように熱心に勤める

コリントの聖徒たちの中には、パウロと、その使徒としての権威に異議を唱えた偽教師がいたことを生徒たちに思い出してもらいます。

- 今日、人々が教会の指導者として召された人たちに挑戦する方法にはどのようなものがあるのでしょうか。

一人の生徒に、2 コリント 13:3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、コリントの聖徒たちの一部が何の証拠を求めていたかを見つけてもらいます。

- コリントの一部の教会員は何の証拠を求めていましたか。

一人の生徒に、2 コリント 13:5 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が使徒としてのパウロを通じて話しておられるかどうか疑問に思うのではなく、むしろパウロがコリントの聖徒たちに対し、何を行うよう熱心に勧めたかを見つけてもらいます。ここで言う「にせもの」とは、腐敗した、または不道德な人物であると説明します。

- 5 節によると、パウロはコリントの聖徒たちに何を行うよう熱心に勧めましたか。（生徒たちに、この節にある「反省する」、「吟味する」、「悟る」という動詞に印をつけてもらうとよいでしょう。）
- 聖徒たちが自分自身を省みるために必要であるとパウロが言ったものは何ですか。（「信仰がある」[5 節] とは、主の教会において忠実であることを意味すると説明します。）
- 教会指導者たちを批判する代わりにわたしたちが行うべきだとされる事柄について、これらの節からどのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちが次のような内容の原則を見つけるでしょう。教会員は、教会の指導者を批判するのではなく、自分自身の忠実さを省みるべきである。）

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「立ち上がって人を非難し、教会員の欠点を探し、自分は義にかなっているが彼らは道を外れていると言う人がいれば、その人は背教に至る道をまっしぐらに進んでいると言って間違いありません。そして神が生きておられるように確かに、その人は悔い改めないかぎり背教するでしょう。」（『歴代大管長の教え-ジョセフ・スミス』318）

- わたしたちが自分の忠実さを省みる代わりに指導者たちを非難したとすれば、どうなりますか。

生徒たちが自分の忠実さと、教会指導者たちに対する彼らの態度を省みる助けとするため、次の質問のコピーを生徒たちに配ります。生徒たちが静かに質問を読んで答えるために十分な時間を取ります。

1. 10 段階（10 を「完全」とする）で評価すると、あなたは教会指導者の勧告にどれほどよく従っていますか。
2. 預言者と使徒が教えた標準の中で、もっと忠実に従うことができると思うものは何ですか。

証するよう生徒を促す

経験し確信していることを分かち合うように勧め、質問をすることによって、福音の真理について証するよう生徒を促すことができます。生徒たちが福音の真理について証するとき、聖霊は、しばしば彼らの語っているまさにそのことについて、より深い証へと彼らを導いてくださいます。生徒の言葉は御霊の力を通して、仲間たちの心に大きな影響を与えることもできるのです。

3. 10 段階（10 を「機会があればいつも」とする）で評価すると、個人的に、または祈りの中で、どれほど頻繁に教会指導者に対して感謝の気持ちを表していますか。
4. 教会指導者があなたのために払う犠牲と努力についてより頻繁に感謝の気持ちを表すには何ができますか。

十分な時間を取ってから、次の質問をします。

- このような霊的な自己診断を定期的に行うことによって、どのような祝福がもたらされますか。

2 コリント 13：7－14 の要約として、パウロが聖徒たちに対し、悪を避けて、完全になる努力をするように熱心に勧めたと説明します。

このレッスンで話し合った真理について証します。これらの真理のいずれかを生活の中でどのように応用していくかについての具体的な目標を書くよう、生徒たちに勧めます。

マスター聖句の復習

聖句に対する生徒たちの理解は、これらの節に対する独自の質問を作ることによって高くなります。クラスを 2 つ（またはそれ以上）のチームに分けます。それぞれのチームに特定のマスター聖句を示すヒントを書いてもらいます。（生徒たちに学んでほしい、または復習してほしい特定の聖句のグループを選んでよいでしょう。）ヒントは難しくすぎないように生徒たちに勧めます。十分な時間を取ってから、他のチームが正しい聖句を当てることができるかどうか、チームごとに順番に声に出してヒントを読んでもらいます。

注－レッスンの一部としてこの活動を行う時間を取れないようであれば、別の日に行ってもよいでしょう。（次のレッスンはやや短いので、そのときにこの活動をする時間があるかもしれません。）その他の復習活動については、この手引き巻末の付録を参照してください。

ガラテヤ人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ガラテヤ人へのパウロの書簡は、モーセの律法の業に再び依存することにより、主の道を踏み外しているユダヤ人キリスト教徒に対して書かれました。使徒パウロは、霊的な束縛をもたらすモーセの律法という重い「くびき」と、霊的な自由をもたらすイエス・キリストの福音との違いを強調することによってこの問題を解決しようとしていました。この書簡を研究することは、生徒がイエス・キリストの福音を通して与えられる自由を正しく理解する助けとなります。

誰がこの書を書いたのか

ガラテヤ人への手紙を書いたのは使徒パウロです（ガラテヤ 1：1 参照）。

いつ、どこで書かれたか

パウロはおそらく、紀元 55 – 57 年ごろ、3 回目の伝道の旅の最中にマケドニヤを旅しているときにガラテヤ人への手紙を書いたと思われる（『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照）。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

「この手紙の対象がどの教会であったかについては、いくらか不明確な点がある。それらはアンキラを首都とする北部ガラテヤ地区、または最初の伝道の旅でパウロが訪れたフルギヤとガラテヤの境の地区のいずれかにある教会であった。いずれの場合も、パウロは間違いなく 2 回目（使徒 16：6）および 3 回目（使徒 18：23）の伝道の旅でガラテヤの教会を訪れている。」（*Bible Dictionary, "Pauline Epistles: Epistle to the Galatians"* の項）

パウロは、「福音を曲げようとしている」（ガラテヤ 1：6–7 参照）者たちの教えに従うことでガラテヤの聖徒たちが主の道を踏み外していることを深く憂慮したために、彼らにこの手紙を書き送りました。ユダヤ人キリスト教徒たちは異邦人のキリスト教徒たちに対し、救われるためには割礼を受け、モーセの律法の儀式的要件を遵守しなければならないという偽りの教義を教

えていました（ガラテヤ 6：12 参照。使徒 15：1 も参照）。一部のガラテヤの聖徒たちは、これらの人々の教えを受け入れていました（ガラテヤ 4：10 参照）。

パウロがこの書簡を書いた主な目的には次のようなものが含まれます。

1. 自分に反対する偽教師の非難に対して自分自身を擁護する。
2. ユダヤ人や異邦人にかかわらず、全ての人は、モーセの律法の業に依存する代わりに、イエス・キリストに対する信仰を持つことで、イエス・キリストの贖罪によって救われることを教える。
3. 神の計画におけるモーセの律法の役割を明確にする。
4. 神がモーセを通して交わされた古い聖約と、キリストにおける新しい聖約を区別する。
5. 御霊によって生活するよう聖徒たちに求める。

この書の特徴は何か

ガラテヤ書は、パウロの最も熱烈な手紙として際立っています。その中で、パウロは道を踏み外した教会員と、彼らを迷わせた偽教師の双方に対して厳しい叱責をしました。ガラテヤ人への手紙には、パウロによって義認の教義が初めて記述されています。すなわち、わたしたちはモーセの律法の業によって義とされるのではなく、イエス・キリストを信じる信仰によって義とされるのです。この書簡は、「肉の働き」と「御霊の実」（ガラテヤ 5：16 – 25）を対比させています。

概要

ガラテヤ 1 – 2 章 パウロは、主の道を踏み外し、偽の教えを受け入れていたガラテヤの聖徒たちに手紙を書く。パウロは、当初の教会に対する反対と改宗について話すことにより、使徒としての自分の召しを擁護する。パウロは、神から直接啓示を受けたことを強調し、異邦人への教導の業が使徒たちによって承認されていることを明確にする。パウロは、異邦人の聖徒たちに関してペテロと意見が合わなかったことがあったと述べる。パウロは、人が義とされるのはモーセの律法の業によってではなく、イエス・キリストを信じる信仰によると教える。

ガラテヤ 3 – 4 章 パウロは福音のメッセージを擁護する。パウロは、アブラハムがモーセの律法の業によってではなく、信仰によって義とされた人物の模範であったと教える。贖罪を通して、イエス・キリストは律法の呪いから人類を贖われた。モーセの律法の目的は「わたしたちをキリストに連れて行く養育掛」となることである。信仰とバプテスマを通して、聖徒たちは贖罪の祝福を受け、福音の聖約に入り、キリストを通して神の相続人となり、もはや使用人ではなく神の子となる。

ガラテヤ 5 – 6 章 パウロは、キリストが与えてくださった福音の聖約を堅く守り続けるよう聖徒たちに求める。パウロは、「肉の働き」（ガラテヤ 5：19）に関与している人の生活と、「御霊の実」（ガラテヤ 5：22）を享受している人の生活を対比させる。パウロは聖徒たちに、互いの重荷を負い合い、たゆまずに良い働きをするように教える。わたしたちは自分がまいたものを刈り取る。

ガラテヤ 1－4章

はじめに

使徒パウロは、偽りの教えに従うガラテヤの聖徒たちを叱責し、イエス・キリストを信じる信仰を持ち、イエス・キリストに従うことで神の相続人となることができると教えました。

教えるための提案

ガラテヤ 1－2章

パウロは偽教師に従う聖徒たちを叱責し、福音に立ち返るよう励ます

生徒たちに、きょうだいや友人の一人から、教会の教えが真実であるということに自信が持たなくなってしまうと言われたと想像してもらいます。結局その人は教会に来なくなってしまい、福音に従った生活をやめてしまいました。生徒たちに、そのきょうだいや友人が教会の教えは真実であると知るために何を言うかを、クラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

ガラテヤ1章を研究しながら、真の教えを認識する方法を知るための助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

ガラテヤとは、パウロが2度目および3度目の伝道の旅の間に訪れた多くの町を含む小アジア中央北部の地域であることを説明します(使徒16:6;18:23参照)。(生徒に、『聖書の地図』の地図13「使徒パウロの伝道の旅」を開き、地図上でガラテヤを見つけてもらうとよいでしょう。)一人の生徒に、ガラテヤ1:6-7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ガラテヤの聖徒たちの間にあった問題を見つけてもらいます。

• 多くのガラテヤの聖徒たちが真の福音から離れてしまったのはなぜでしたか。

ガラテヤ人を悩まし、福音の教えを腐敗させていた者たちが、救いはイエス・キリストによってのみもたらされるというパウロの教えに対する疑いを引き起こしていたことを説明します。これら偽教師たちはユダヤ人のキリスト教徒であり、ガラテヤの聖徒たちが割礼(*Bible Dictionary*, “Circumcision”の項参照)を受けなければならない、救われるにはモーセの律法の儀式を行わなければならないと主張しました。

一人の生徒に、ガラテヤ1:8-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが主の使徒として宣べ伝えた福音に反する事柄を教える人たちについて、パウロが述べたことを見つけてもらいます。見つけたことを生徒たちに発表してもらいます。

一人の生徒に、ガラテヤ1:10-12を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの教えの根源がどなたであるかを見つけてもらいます。

• 12節によると、パウロの教えの根源はどなたでしたか。

• 10-12節のパウロの言葉から、真の教義についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒の言葉は違うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。イエス・キリストは真の教義を、主の預言者に明らかにされる。)

• この真理を覚えておくことは、預言者の教えについて疑問があるときにどのような助けとなりますか。

真実の教義を預言者に明らかにされるイエス・キリストは、預言者の教えが真実であるかどうかをわたしたちにも明らかにすることがおできになると説明します。

• わたしたちは、預言者の教えが真実であることを自分自身で知ることができるよう主から啓示を受けるために何をすることができますか。

生徒たちに、クラスの始めに話した状況を思い出してもらいます。教会の教えについて疑問を持っている人に答えるために、啓示について先ほど見いだした真理をどのように使うかを、数人の生徒に説明してもらいます。

わたしたちが預言者の教えを研究し、主から啓示を求めるときに、真の教義を見いだすことができることを証してください。

生徒が内容を理解できるように助ける

聖文の内容とは、聖文を構成している話の筋、人物、出来事、説教、靈感に基づく説明のことです。聖文の内容は、その聖句ブロックに見いだされる教義と原則を生きたものとし、関連性を与えます。生徒たちが聖文を理解して、その中に見いだされる永遠の真理を見つけることができるように助けてください。しかし、そうした背景や細部を強調しすぎて、それがレッスンの中心とならないようにしてください。

ガラテヤ 1:13 の要約として、パウロは自身の改宗と最初の伝道の旅について語ったことを説明します。救いはモーセの律法にあるのではなく、イエス・キリストを信じる信仰によってわたしたちは赦され、または義とされるとパウロは説明しました。

ガラテヤ 3 - 4 章

パウロ、イエス・キリストを通じてアブラハムに約束された全ての祝福を得るようガラテヤ人に勧める

次の話を声に出して読みます。一つ読み終えるごとに、それぞれの状況にある人が、教会で小さいときから福音に忠実であった人たちに比べて、主の全ての祝福を受けることにおいて不利な立場に置かれていると感じるかもしれない理由を、生徒たちに説明してもらいます。

1. ある若い男性は、教会にあまり活発でない家族で育ち、幼い頃に福音を教えられていませんでした。彼の家族は現在、教会の活動に戻り、福音を学び、福音に従って生活し始めています。
2. ある女性は、長年にわたって教会を批判し続けていましたが、彼女は最近、心の変化を経験し、バプテスマを受けました。

ガラテヤ 3 - 4 章を研究しながら、人が置かれた状況や過去の選択にかかわらず、全ての人が享受できる祝福には何があるかを理解するのを助ける真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

ガラテヤの聖徒たちの多くは、キリスト教に改宗した異邦人だったため、神の全ての祝福が約束されたアブラハムの文字通りの子孫ではなかったことを説明します。一人の生徒に、ガラテヤ 3:7-9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがイエス・キリストへの「信仰による者」(7 節)、つまりイエス・キリストを信じる人々について教えた事柄を見つけてもらいます。

- イエス・キリストを信じる人々についてパウロは何を教えましたか。
- 8 節によると、主はアブラハムに何を約束されましたか。
- 9 節によると、イエス・キリストを信じる信仰を持つ人々には何が起こりますか。

「信仰の人アブラハムと共に、祝福を受ける」とは、神がアブラハムと交わされた聖約の祝福を受ける者となること、つまりアブラハムを通じて全ての人々が福音の祝福を享受することができること(アブラハム 2:11 参照)を意味すると説明します。

ガラテヤ 3:10-25 の要約として、モーセの律法は、イスラエルの民がイエス・キリストのみもとに来て、イエスを信じる信仰によって義とされることを助けるためのものであったとパウロが教えたことを説明します。

一人の生徒に、ガラテヤ 3:26-27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アブラハムに約束された祝福を受けるために何をしなければならないかを見つけてもらいます。

- アブラハムに約束された祝福を受けるには、何をしなければなりませんか。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、福音の聖約に入る者たちは、全て_____。

一人の生徒に、ガラテヤ 3:28-29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ホワイトボードに書かれた未完成の原則を完成させるために使うことができる言葉や表現を見つけてもらいます。

- 28 節によると、異なる人々が福音の聖約に入るとどのようになりますか。
- 29 節によると、イエス・キリストを通じてアブラハムの子孫に数えられる者はどうなりますか。

「相続人」とは、別の人の財産、つまり所有物を引き継ぐ資格が法律によって与えられている人であることを説明します。

一人の生徒に、ガラテヤ 4:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがどなたの相続人になることができるかを見つけてもらいます。

- わたしたちはどなたの相続人となることができますか。(生徒たちの言葉を使って、次の真理が伝わるようにホワイトボードにある原則の文を完成させます。イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、福音の聖約に入る者たちは、全てキリストにあって一つとなり、神の相続人となる。)

- 人が置かれた状況に関係なく、聖約に入る全ての人に神はこれらの祝福を約束されると知ることが大切なのはなぜですか。

天の御父の約束は、福音の聖約に入る全ての人のためであることを証します。交わした聖約に忠実であるように生徒たちを励ましてください。

ガラテヤ 4:8 - 31 の要約として、パウロがガラテヤの聖徒たちに対してキリストに立ち返り、モーセの律法への固執からもたらされる束縛から逃れるよう勧めたことを説明します。

第119課

ガラテヤ 5 - 6 章

はじめに

パウロは、イエス・キリストを信じる信仰を取り戻し、救いはモーセの律法を守るのではなく、イエス・キリストを通じてのみもたらされると信じるようガラテヤの聖徒たちを励まし

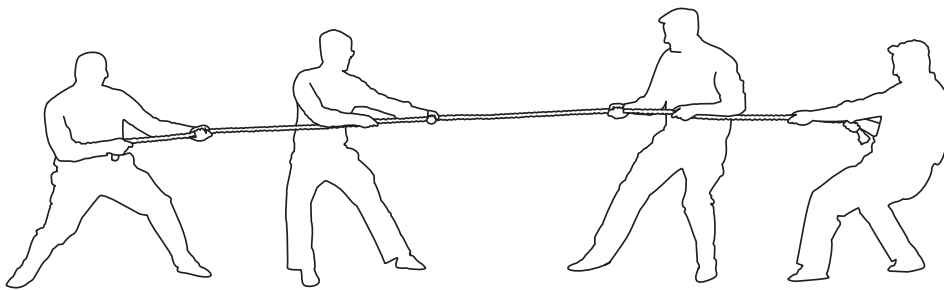
た。パウロは手紙の結びに、キリストを通じて新しく造られた者となり、同様にするように他の人を助けるよう教会の会員たちに勧めました。

教えるための提案

ガラテヤ 5 章

パウロ、ガラテヤの聖徒たちにイエス・キリストを信じる信仰を取り戻すよう励ます

ホワイトボードに綱引きの絵を描きます。



- 綱引きとは何ですか。どのように勝ち負けを決めますか。
- わたしたちの人生は綱引きとどのような共通点がありますか。

生徒がまだ答えに挙げていなければ、わたしたちの生活の中で綱引きに似ている面の一つに、誘惑との闘いがあることを指摘します。ガラテヤ 5 章を研究しながら、誘惑との闘いに打ち勝つ方法を知る助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

ユダヤ人のキリスト教徒の一部が、救われるにはモーセの律法を守り、割礼を受けなければならないという教えによってガラテヤの聖徒たちを惑わしていたことを、生徒たちに思い出してもらいます。パウロは、モーセの律法に関するこのような間違った教えを「奴隷のくびき」(ガラテヤ 5:1) と表現しました。

一人の生徒に、ガラテヤ 5:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この奴隷のくびきからの解放をもたらすのはどなたであるとパウロが言ったかを見つけてもらいます。

- この奴隷のくびきからの解放をもたらすのはどなたですか。

ガラテヤ 5:2 - 15 の要約として、イエス・キリストの福音から得られる自由から簡単に引き離され、かわりにモーセの律法のくびきに戻ってしまったことについて、パウロがガラテヤの聖徒たちを懲らしめたと説明します。その後パウロは、キリストに従う者はモーセの律法のくびきからは解放されたが、それは手放して罪にふける自由を得たという意味ではないことを明確にしました。

一人の生徒に、ガラテヤ 5:16 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが説明した二つの反対する力を見つけてもらいます。

- パウロが説明した二つの反対する力とは何ですか。

綱引きの絵の中央に縦線を引いて、ホワイトボードに表を作ります。綱引きの絵の左側に「御霊によって歩く」と書き、右側に「肉の欲を満たす」と書きます。

- 「御霊によって歩〔く〕」(16 節)とはどういう意味ですか。(聖霊を受けるにふさわしい生活を送り、聖霊に従うこと。)
- 「肉の欲」(16 節)とは何を表していますか。(罪を犯す誘惑。)
- なぜこれらは反対する力と見なされるのでしょうか。
- 肉体の誘惑をいかに克服できるかについて、16 節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うと思われませんが、次のような内容の原則を見つけましょう。わたしたちが御霊によって歩むならば、肉体の誘惑を克服するようになる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

生徒たちに、自分が綱引きの絵のどちら側にいるのか、また自分の生活ではどちらの力が勝っているのかを考えてもらいます。

クラスを二人か三人のグループに分けます。半分のグループに、ガラテヤ 5:19 - 21 を一緒に声に出して読みながら、「肉の欲(を満たす)」ことによる結果を見つけてもらいます。もう半分のグループには、ガラテヤ 5:22 - 23 を一緒に声に出して読みながら、御霊によって歩んだ結果を見つけてもらいます。生徒たちが読み終えたら、各グループから一人ずつ前に来てもらい、見つけた答えの一つをホワイトボードの該当する欄に書き込んでもらいます。パウロが教えた事柄の全てが表に書かれるまで、答えを書き込み続けてもらいます。クラスに辞書を持参して、難しい言葉を生徒に調べてもらってもよいでしょう。

- 21 節によると、パウロは「肉の働き」に負ける者には何が起ると教えましたか。
- 22 - 23 節によると、人が御霊によって歩んでいることを示す実、つまり結果とは何ですか。(生徒はさまざまな言葉を使うと思われませんが、次の真理を見つけていることを確認します。御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制である。生徒が聖典のこの部分に印をつけるように提案するとよいでしょう。)

生徒たちに、表で御霊の実がリストされている部分に注目してもらいます。

- なぜこのような祝福は受ける価値があるのですか。

肉の欲を書き出したリストの部分を目指す大きな矢印を表の下に書きます。この綱引きのたとえの中で、肉の欲に向かって引かれている状態を生徒たちに想像してもらいます。

- わたしたちが肉の欲に負けると、御霊の実はどうなりますか。(御霊の実を失い始める。)

その矢印を消して、御霊の実を目指す別の矢印を書きます。今度は、御霊の実に向かって引かれている状態を、生徒たちに想像してもらいます。

- わたしたちが御霊によって歩むとき、肉の働きには何が起こりますか。(肉の働きが生活の一部ではなくなる。)

生徒たちに、これらの御霊の実を感じたり、経験したときのことをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。御霊によって歩むために、そのとき何をしてきたのかも書いてもらいます。書き終えたら、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、ガラテヤ 5:24 - 25 を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの弟子たちが肉の欲について何をしようとするかを見つけてもらいます。

- イエス・キリストの弟子たちは、肉の欲に対して何を行いますか。(十字架につける、つまりそれぞれの生活から取り除く。)

生徒たちに、より完全に御霊によって歩むために何をするかを考えてもらいます。御霊の実を享受できるように、受ける促しに従うよう聖徒たちを励まします。

📖 ガラテヤ 5:

22 - 23 はマスター

聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにある教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

ガラテヤ 6 章

パウロ、キリストを通じて変わるようガラテヤの聖徒たちに勧める

生徒たちに、教会員であるにもかかわらず、現在福音の祝福を受けていない人について考えてもらいます。ガラテヤ 6 章を研究しながら、考えた人が福音の祝福を受けられるように助ける努力をするときの指針となる原則を生徒たちに見つけてもらいます。

一人の生徒に、ガラテヤ 6:1-2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会の会員が罪を犯した人にどのように対応すべきかについて、パウロが教えた事柄を見つけてもらいます。（「罪過に陥っている」〔1 節〕とは、罪を犯すという意味であることを説明する必要があるかもしれません。）

- パウロによると、教会の会員は罪を犯した人にどのように対応すべきですか。（その人を「正す」、つまりその人が福音の道に戻るために助ける。）
- 福音の道に戻るよう誰かを助けるときに、「柔和な心」（1 節）を持つことが大切なのはなぜですか。
- わたしたちが「互いに重荷を負い合う」（2 節）方法にはどのようなものがありますか。

ガラテヤ 6:3-5 の要約として、わたしたちが傲慢で独善的であってはならないこと、および全ての人それぞれ「自分自身の重荷を負う」（5 節）、つまり自分自身の選択に責任を負うべきであるとパウロが教えたことを説明します。

生徒たちがよく知っている果物や野菜の種を見せます。何の種であるか尋ねます。

- この種をまいたら、何を期待できますか。

一人の生徒に、ガラテヤ 6:7-8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが種をまくときに何を期待できるかについてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、種をまくときに起こる事柄について何を教えましたか。（人は自分のまいた（植えた）ものを、刈り取る（収穫する）ことになる。これは刈り入れの律法と呼ばれます。）
- 刈り入れの律法は、わたしたちが下す判断とどのように関連していますか。

生徒たちに、ガラテヤ 6:9-10 を黙読してもらいます。パウロが刈り入れの律法を教えた理由を見つけてもらいます。

- パウロが、福音の道にとどまるよう、または戻るよう互いに助け合いなさいとガラテヤ人に勧めた後で、刈り入れの律法を教えたのはなぜだと思いますか。
- 福音の祝福を享受していない人を助けることについて、これらの節からどのような原則を学ぶことができますか。（生徒は異なった言葉を使うと思われませんが、次のような内容の原則を見つけてください。わたしたちが善を行うことに熱心であり続けられれば、自分の行動による祝福を刈り入れることになる。）
- 「時が来れば」刈り取るようになるという約束は、わたしたちが「たゆまない」（9 節）ために、すなわち他の人々に奉仕し、福音に従って生活する努力をやめないために、どのような助けとなるでしょうか。
- あなたや、あなたの知人が、すぐに祝福が訪れなくても善を行うことに熱心であり続けたのはどのようなときでしたか。（自分の経験を分かち合ってもよいでしょう。）

ガラテヤ 6:11-18 の要約として、パウロはガラテヤの聖徒たちへの書簡を、イエス・キリストの平安と恵みが、主の名を信じる信仰によって新しく造られる全ての人々のうえにあることを繰り返し述べて締めくくったことを説明します。

「善を行うことに、うみ疲れ」（9 節）ことのないように、そして誰を主の道に戻るように助けることができるかについて祈りによって考えるように生徒たちを励まします。聖霊から受ける印象に従う努力をするように勧めてください。

📖 マスター聖句—ガラテヤ 5:22 – 23

ガラテヤ 5:22 – 23 を生徒たちが暗記するのを助けるため、各生徒に 1 単語ずつ順番に復唱してもらいます。例えば、最初の生徒には「しかし」、次の生徒には「御霊の実は」、3 番目の生徒には「愛」と言ってもらおうという形で、両方の節を読み終えるまでこれを続けます。時間を計り、目標の時間を達成するために何度か挑戦する機会を与えます。この活動を繰り返すときには、順番を変えて生徒たちが異なる言葉を言うようにすることを検討してください。時間を縮めることができるように、何日か続けてレッスンの始めに練習するよう生徒たちに提案するとよいでしょう。生徒たちが聖句を何度か繰り返し聞いた後で、生徒たちに近くに座っている人に向かって聖句を暗唱してもらいます。

注釈と背景情報

ガラテヤ 5:24 「自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」

「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」というパウロの教え

は、キリストに従う者は誘惑を経験しなくなるということの意味しているわけではありません。むしろ、誘惑を克服する方法を彼らが学ぶということの意味しています。

エペソ人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

「エペソ人への手紙は、ユダヤ人と異邦人、夫と妻、親と子、また主人と僕とを問わず、世の全ての人々に宛てて書かれたものです。それはパウロの時代の神の御心であり、わたしたちの時代に関する靈感の声です。そして全ての人々に訴え、適用される手紙です。

……パウロの最も優れた記述の幾つかが含まれており、基本原則と、救いの栄光に満ちた神の福音を扱った文書です。」(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻, [1965-1973年], 第2巻, 489)

エペソ人への手紙を研究することは、この世界的な事柄をわきに置く導き、霊的に成長し、教会内における一致とフェローシップをさらに完全に受け入れることを学ぶ助けとなります。

誰がこの書を書いたのか

エペソ人への手紙を書いたのは使徒パウロです(エペソ1:1参照)。

いつ、どこで書かれたか

パウロはエペソ人への手紙を書いた当時、囚人となっていたと述べています(エペソ3:1; 4:1; 6:20参照)。エペソ人への手紙は、紀元60-62年頃に、パウロのローマでの最初の獄中生活の間に書かれたと思われます(『聖句ガイド』『パウロの手紙』, *scriptures.lds.org* 参照)。この間、パウロは自宅軟禁下に置かれていましたが、訪問者を受け入れ、福音を教える自由がありました(使徒28:16-31参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

欽定訳聖書のエペソ1:1には、エペソ人への手紙は「エペソにいる、……聖徒たち」に宛てられたことが記されています。しかしながら、エペソ人への手紙の最古の写本には、「エペソにいる」という言葉が含まれていません。これは、パウロがこの書簡を

特にエペソ人に宛てて書いたのではなく、エペソの聖徒たちを含めた、幾つかの会衆に宛てて書いた可能性を示しています。エペソはパウロの3回目の伝道の旅の拠点とされており(使徒19:9-10; 20:31参照)、パウロはエペソの人々に大きな愛情を抱いていました(使徒20:17, 34-38参照)。

この手紙の中で、パウロは異邦人の教会員に語りかけています(エペソ2:11参照)。彼らはおそらく最近の改宗者でした(エペソ1:15参照)。パウロは既に会員だった人々の霊性と証を育む助けとなるようこの手紙を書きました。パウロの主な目的は、これらの改宗者たちが神と教会についての霊的な知識を身につける助けをし(エペソ1:15-18; 3:14-19参照)、特に異邦人とユダヤ人聖徒たちにおける一致を促し(エペソ2:11-22; 4:1-16; 5:19-6:9参照)、悪の力に耐えるように聖徒たちを励ますことでした(エペソ4:17-5:18; 6:10-18参照)。エペソの多くの聖徒たちは、永遠の命に結び固められるために十分義にかなった生活をしていました(エペソ1:13; ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 第2巻, 493-494参照)。

この書の特徴は何か

エペソ人への手紙には、末日聖徒になじみのある多くの教えや考えが含まれています。それには、予任、時満ちる神権時代、約束の聖なる御霊、預言者や使徒の重要性、真の統一された一つの教会という考え、教会の組織内のさまざまな職、召し、機能が含まれます。この手紙にはまた、聖典全体で見られる家族についての最も崇高な教えの幾つかが含まれています。

概要

エペソ1:1-4:16 パウロは、福音を受けるという聖徒たちの予任、時満ちる神権時代、約束の聖なる御霊による結び固め、恵みによる救い、教会内での異邦人とユダヤ人聖徒たちの一致、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」、教会の目的、イエス・キリストを隅のかしら石とする預言者と使徒たちの土台に建てられた教会組織について書き記す。パウロは、神が時満ちる神権時代にキリストによって万物を一つに集められることを教える。

エペソ4:17-6:24 パウロは、日常生活の中で真の教義を応用するよう聖徒たちを励ます。パウロは、古き人(過去の罪)を脱ぎ捨て、キリストを通して新しき人を着るように聖徒たちを励ます。パウロは、妻たち、夫たち、子供たち、親たち、使用人たち、主人たち、および会衆に対して勧告する。パウロは、「神の武具で身を固め[る]」よう聖徒たちを励ます(エペソ6:11)。

はじめに

パウロは、エペソの聖徒たちに、彼らが福音を受けるよう予任されていたことについて手紙を書き送りました。パウロは最後の神権時代、つまりわたしたちが今生きている神権時代につ

いて書きました。パウロは、啓示を通じて天の御父とイエス・キリストを知るようになることを教えました。

教えるための提案

エペソ 1:1-8

パウロ、聖徒たちが福音を受けることを予任されていたと教える

重要な責任を引き受けることに同意し、その務めを果たすことで報酬を約束されたときのことを、生徒たちに考えてもらいます。

- その務めが難しくなったとき、その責任を引き受けたのは自分であり、それを成し遂げることを信頼してくれた人がいたと認識することによって、どのように支えられたのでしょうか。
- あなたの責任を果たすことで、どのような祝福、つまり報酬が与えられましたか。

エペソ 1-6 章にある書簡の中で、使徒パウロは、エペソとその周辺の地域にいた聖徒たちに語りかけていたことを説明します。パウロの目的は、既に教会の会員になっていた人々を強め、新しい改宗者が霊的な知識を身につけ、彼らが交わした聖約に忠実であり続けるよう助けることにありました。

数人の生徒に、エペソ 1:3-8 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが交わした聖約に忠実であり続ける助けとして、パウロが教えた真理を見つけてもらいます。

- 聖徒たちが忠実であり続ける助けとして、パウロはどのような真理を教えましたか。(生徒が答えるときに、彼らが挙げた真理を理解することが、どのように聖徒たちが忠実であるための助けになったかを説明してもらおうとよいでしょう。)
- 4 節にある、神が一部の人を「天地の造られる前から」お選びになっていたとはどういう意味だと思いますか。

「天地の造られる前から」という言葉は、5 節の「イエス・キリストによって神の子たる身分を授ける」と「あらかじめ定めてくださった」という表現と併せて、福音を受けるよう前世で選ばれていた、つまり予任されていた人々を指していると説明します。ホワイトボードに次の真理を書いてください。神の子供たちは、福音の祝福を受けるよう予任されていた。これらの祝福を受けられるかどうかは、この世でのわたしたちの忠実さが条件となります。

生徒たちがこの真理を理解できるように、一人の生徒に、次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「神はある霊に現世で特別な使命を果たさせるために前世で任命されました。これを予任と呼びます。

予任は一人一人がある特定の召しや責任を受けるという保証ではありません。そのような機会は、予任が前世で義を選んだ結果与えられたのとまったく同様に、現世で選択の自由を義にかなって行使した結果与えられるものです。……

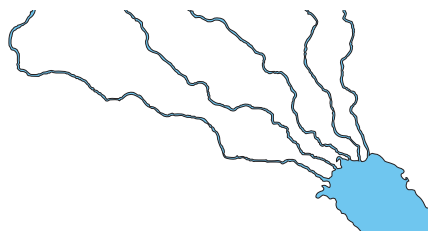
予任の教義は、救い主や預言者だけでなく、全ての教会員にも当てはまります。地球が創造される以前から、忠実な女性はある責任を与えられ、忠実な男性はある神権の義務に予任されていました。あなたはそのときのことを覚えていないかもしれませんが、確かに御父に仕えること、その中で重要な仕事を成し遂げることに同意したのです。自分自身のふさわしさを証明しようとするときに、あなたはかつて自分が受けた責任を果たす機会にあずかるのです。』(『真理を守る — 福音の参考資料』190 - 191)

- 福音とそれに伴う多くの祝福を受けるようわたしたちが予任されていたことを理解することは、わたしたちが聖約に忠実であり続けるためのどのような助けとなりますか。

エペソ 1:9-12

パウロ、時満ちる神権時代について語る

複数の川が大きな本流に流れ込む様子を簡単に絵に描きます。生徒たちに、それぞれの川が福音の神権時代を表していると想像してもらいます。



- 福音の神権時代とは何ですか。

一人の生徒に、次の言葉を声に出して読んでもらい、福音の神権時代の定義を復習するようお願いしよう。

「福音の神権時代とは、権能を与えられた、聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人、主が地上に置かれる時代を言い、この僕には、この世に住んでいる人々に福音を宣べ伝えるという神聖な使命がある。主は、一つの神権時代を起こされる時、その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように、新たに福音を啓示される。世の始めから、数多く福音の神権時代があった。聖書には、アダムに関連付けられている少なくとも一つの神権時代、エノク、ノア、アブラハム、モーセの神権時代、および時の中間におけるイエス・キリストとその使徒たちの神権時代が示唆されている。」(Bible Dictionary, "Dispensations" の項)

一人の生徒に、エペソ 1:9-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがどの神権時代について語っていたのかを見つけてもらいます。9 節の「御旨の奥義」という語句は、神の計画と目的を意味していることを説明します。

- エペソ 1:10 でパウロが語った神権時代はどの神権時代ですか。

時満ちる神権時代とは、わたしたちが今生きている神権時代のことであると説明します。

- 時満ちる神権時代は、どのように複数の川が流れ込む本流にたとえることができますか。
- パウロは、時満ちる神権時代に何が起こると預言しましたか。(天にあるもの地にあるものを、「ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめ[る]」[10 節]と書いたとき、パウロは福音の回復と世の初めから神がその子らに明らかにされた全ての鍵、力、約束だけでなく、まだ決して明らかにされたことがないその他の知識[教義と聖約 128:18]をも一つにすることを指していたと説明します。ホワイトボードに次の教義を書きます。時満ちる神権時代には、かつての神権時代の全ての事柄が回復される。)

一人の生徒に、七十人の B・H・ロバーツ長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「現代は時満ちる神権時代です。大きな流れが大洋に注ぎ込むように、過去の全ての神権時代がこの神権時代に注がれているのをわたしたちは目にします。現在の神権時代は過去の神権時代と、また過去の神権時代は現在の神権時代とつながっているのです。神は時の初めから唯一の大きな目的を定めておられます。それは神の子供たちを救うことです。今はその最後の日、最後の神権時代であり、真理と光と正義はこの地上を覆うに違いないのです。」

(Conference Report, 1904 年 10 月号, 73)

生徒たちにホワイトボードの前に出てきてもらい、それぞれの川に対して、以前の神権時代から回復された、または時満ちる神権時代にもたらされた真理、聖文、聖約、力を書いてもらいます。(書く事柄には、結び固めの力、救いの儀式、モルモン書などが含まれます。生徒は、必要に応じて追加の川を描き加えることができます。)

- 時満ちる神権時代に生きることは、あなたにとってどのような祝福になっていますか。
- ロバーツ長老の言葉によると、この神権時代にはどのようなことが起こらなければなりませんか。(真理と光と正義がこの地上を覆わなければならない。)
- わたしたちの神権時代では、どのような手段によって福音の真理と光でこの地上を覆うことができますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

基本的教義を生徒が理解できるように助ける

生徒は、聖文を研究してそれについて話し合い、重要な聖句に精通しながら、基本的教義を学んでいきます。配列順に聖文を研究することから離れて、基本的教義だけに焦点を当ててはなりません。むしろ、聖文の背景に出てくる時に、それらの教義に注意を払うようにしなければなりません。例えば、この課では、福音の神権時代の教義がエペソ 1 章で教えられている事柄に関連することから、その教義を強調することができます。



「愛する兄弟姉妹の皆さん、この神権時代にこれまで成し遂げられてきた、ソーシャルメディアを通じた福音のメッセージの伝達は有益な始まりですが、小さなしずくでしかありません。わたしは今、このしずくを洪水に変える助けをするよう皆さんに呼びかけます。……義と真理に満ちたメッセージで地を満たすように皆さんに強くお勧めします。このメッセージは真正であって、人々を教化し、称賛に値するものです。そして文字通り『洪水のごとくに世界を満たす』のです。」(「洪水のごとくに世界を満たす」[ブリガム・ヤング大学教育週間ディボーションナル、2014年8月19日], *LDS.org*)

生徒たちに、正義と真理に満ちたメッセージで地を満たすことを助けるために行っている事を分かち合ってもらいます。

エペソ1:11-12の要約として、聖徒たちはイエス・キリストを通じて神の王国における受け継ぎを得たとパウロが教えたことを説明します。

エペソ1:13-23

パウロ、約束の聖なる御霊について教える

一人の生徒に、エペソ1:13-14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、忠実さとイエス・キリストへの信頼と信仰のために聖徒たちが受けた祝福を見つけてもらいます。

- 13節によると、聖徒たちはどのような祝福を受けましたか。(彼らは「約束された聖霊の証印をおされた」[約束の聖なる御霊によって結び固められた]。)

「約束された聖霊〔によって〕証印をおされた」とは、聖霊によって「救いの儀式が適切に執行されたこと、またそれに伴う聖約が守られていることを御父に証される」ことを意味すると説明します(『聖句ガイド』「約束の聖なる御霊」, *scriptures.lds.org*)。御霊は「神の国をつぐことの保証」(14節)です。これはわたしたちの生活に聖霊がおられることが、わたしたちが忠実であり続けるならば永遠の命を受けるという神からの象徴、確認、しるしであることを意味しています。

エペソ1:15-16の要約として、パウロが聖徒たちの忠実さについて神に感謝し続けていると彼らに伝えたことを説明します。

一人の生徒に、エペソ1:17-18を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに何を与えてくださるよう神に祈ったかを見つけてもらいます。

- パウロは聖徒たちに何を与えてくださるよう神に祈りましたか。
- これらの節は、わたしたちが天の御父をどのように知ることができるかについて何を教えていますか。(生徒たちは自分の言葉で、次の真理を見つけるでしょう。わたしたちは、啓示の霊を通じて天の御父を知ることができる。)

生徒たちが啓示の霊を理解できるようにするため、一人の生徒に、デビッド・A・ベドナー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。生徒たちには、聞きながら、啓示の霊が何であるかを見つけてもらいます。



「啓示とは、神から地上の子供たちへのコミュニケーションです。それは、偉大な祝福の一つです。それは聖霊の賜物と、聖霊を常に伴侶にできることに関連しています。預言者ジョセフ・スミスは『聖霊は啓示者であられ』『誰も啓示を受けずに聖霊を授かることはできません』と教えました(『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』132)。

啓示の霊は、正しい神権の権能によって救いの儀式、すなわち罪の赦しのために水に沈めるバプテスマと聖霊の賜物を授かるための按手を受け、『聖霊を受けなさい』という神権の命令を、信仰をもって果たす全ての人に与えられます。」(「啓示の霊」『リアホナ』2011年5月号, 87)

- 啓示の霊とは何でしょうか。
- 聖霊による啓示は、天の御父を知るためのどのような助けとなるでしょうか。

生徒たちに、聖霊による啓示がどのように天の御父をより良く知るための助けとなったかについて分かち合ってもらいたいでしょう。あなた自身の経験を分かち合うことも考慮してください。これからも天の御父をより良く知ることができるように、聖霊を伴侶とするためにふさわしくなる努力をするよう生徒たちを励まします。

エペソ 1:19 - 23 の要約として、パウロが聖徒たちに約束された受け継ぎと、教会の頭であるイエス・キリストの立場について引き続き教えたことを説明します。

家庭学習クラスのレッスン

2 コリント 8 章－エペソ 1 章 (単元 24)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の要約は、生徒が 2 コリント 8 章－エペソ 1 章 (単元 24) を研究したときに学んだ出来事、教義、原則についてのもので、教師がレッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンをやるよう、聖霊の導きに従ってください。

第 1 日 (2 コリント 8－9 章)

生徒たちはこのレッスンで、救い主がわたしたちに与えてくださった全ての事柄を理解することによって、自分の財産を自ら進んで他の人々に与えようという気持ちが強くなることを学びました。また、わたしたちが与えるものを何も持っていないときでさえも、喜んで与えるという意志を持ってほしいと神が望んでおられることも学びました。さらに生徒は、助けを必要としている人々に喜びの心を持って与えるならば、神はわたしたちを豊かに祝福してくださること、またわたしたちへの祝福における神の寛大さを認識することは、神に対する感謝の気持ちを感じる助けとなることを学びました。

第 2 日 (2 コリント 10－13 章)

霊的な戦いについてのペテロの教えから、生徒たちは、イエス・キリストに従順になることによってわたしたちの思いをコントロールするときに、サタンに対する戦いにおいてさらなる勝利を収めることができると学びました。パウロ自身の肉体のとげについてのパウロの教えから、わたしたちが謙遜になることを学ぶことができるように、主はわたしたちが弱さと試練を経験することをお許しになることを、生徒たちは学びました。イエス・キリストの恵みは、弱さにおいてわたしたちを強めるために十分であり、主はわたしたちの困難を取り除かれないこともありますが、わたしたちが忠実にそれらに耐えるときに主はわたしたちを強めてくださいます。

第 3 日 (ガラテヤ)

ガラテヤ人へのパウロの教えを研究したとき、生徒たちはイエス・キリストが預言者たちに真の教義を明らかにされると学びました。生徒たちはまた、イエス・キリストを信じる信仰を働かせて、福音の聖約に入る者は、全てキリストにあって一つとなり、神の相続人となることも学びました。わたしたちが御霊によって歩くときに肉の誘惑に打ち勝つこと、また、善い行いに励むなら、自分の行動に対する祝福を刈り取ることも、生徒たちは理解するようになりました。

第 4 日 (エペソ 1 章)

生徒たちは、エペソ人へのパウロの教えの 1 章から、神の子供たちは福音の祝福を受けるように予任されていたことを学びました。また、時満ちる神権時代には、以前の神権時代からの全てのものが回復されること、また啓示の霊を通して天の御父を知るようになることも学びました。

はじめに

使徒パウロは、イエス・キリストを信じる信仰を取り戻し、救いはモーセの律法を守ることでなく、イエス・キリストを通じてのみもたらされると信じるようガラテヤの聖徒たちを励ました。

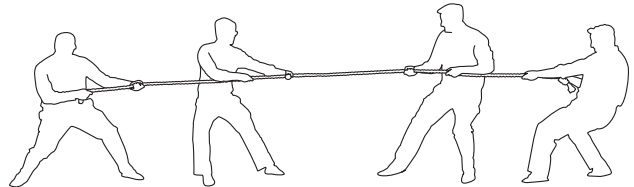
教えるための提案

ガラテヤ 5 章

パウロ、イエス・キリストを信じる信仰を取り戻すようガラテヤの聖徒たちを励ます

ホワイトボードに綱引きの絵を描きます。

- 綱引きとは何ですか。どのように勝ち負けを決めますか。



- わたしたちの人生は綱引きとどのような共通点がありますか。

生徒がまだ答えを挙げていなければ、わたしたちの生活の中で綱引きに似ている面の一つに、誘惑との闘いがあることを指摘します。ガラテヤ 5 章を研究しながら、誘惑との闘いに打ち勝つ方法を知る助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

ユダヤ人キリスト教徒が、救われるにはモーセの律法を守り、割礼を受けなければならないという教えによってガラテヤの聖徒たちを惑わしていたことを生徒たちに思い出してもらいます。使徒パウロは、モーセの律法に関するこのような間違った教えを「奴隷のくびき」(ガラテヤ 5:1) と表現しました。

一人の生徒に、ガラテヤ 5:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この奴隷のくびきからの解放をもたらすのはどなたであるとパウロが言ったかを見つけてもらいます。

- この奴隷のくびきからの解放をもたらすのはどなたですか。

ガラテヤ 5:2－15 の要約として、イエス・キリストの福音から得られる自由から簡単に引き離され、かわりにモーセの律法のくびきに戻ってしまったことについて、パウロがガラテヤの聖徒

たちを懲らしめたと説明します。その後パウロは、キリストに従う者はモーセの律法のくびきからは解放されたが、それは手放しで罪にふける自由を得たという意味ではないことを明確にしました。

一人の生徒に、ガラテヤ5：16－17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが説明した二つの競い合う力を見つけてもらいます。

- ・パウロが説明した二つの競い合う力とは何ですか。

綱引きの絵の中央に縦線を引いて、ホワイトボードに表を作ります。綱引きの絵の左側に「御霊によって歩く」と書き、右側に「肉の欲を満たす」と書きます。

- ・「御霊によって歩く」(ガラテヤ5：16)とはどういう意味ですか。(聖霊を受けるにふさわしい生活を送り、聖霊に従うこと。)
- ・「肉の欲」(ガラテヤ5：16)とは何を表していますか。(罪を犯す誘惑。)
- ・なぜこれらは競い合う力と見なされるのでしょうか。
- ・肉体の誘惑をいかに克服できるかについて、ガラテヤ5：16からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は異なる言葉を使うと思われませんが、次のような内容の原則を見つけましょう。わたしたちが御霊によって歩むならば、肉体の誘惑を克服するようになる。この原則をホワイトボードに書いてください。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のメルビン・J・バラード長老が述べた次の言葉を、声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、バラード長老がわたしたちに考えるよう求めた質問を見つけてもらいます。



「わたしたちの魂の敵がわたしたちを捕らえようとして謀る全ての攻撃は、どれも肉によります。……彼がわたしたちに接近する方法は欲情や欲望、肉の野望を通じてです。この戦いでわたしたちに差し伸べられる主からの援助は全て、肉体の内に宿る霊を通じてやって来ます。このように、これら二大勢力はこの二つの経路を通じて、わたしたちに働きかけているのです。」

あなたの戦いはいかがですか。……これは重要な質問です。男女のおののにとって最大の戦いは(敵がたとえ多くともその数は問題ではありません)自分との戦いです。』(『魂の闘い』『聖徒の道』1984年9月号, 36)

生徒たちに、自分が綱引きの絵のどちら側にいるのか、また自分の生活ではどちらの力が勝っているのかを考えてもらいます。

クラスを二人か三人のグループに分けます。半分のグループに、ガラテヤ5：19－21と一緒に声に出して読んでもらい、「肉の欲を〔満たした〕」ことによる結果を見つけてもらいます。もう半分のグループには、ガラテヤ5：22－23と一緒に声に出して読んでもらい、御霊によって歩んだ結果を見つけてもらいます。生徒たちが読み終えたら、各グループから一人ずつ前に来てもらい、見つけた答えの一つをホワイトボードの該当する欄に書き込

んでもらいます。パウロが教えた事柄全てが図に書かれるまで、答えを書き込み続けてもらいます。クラスに辞書を持参して、難しい言葉を生徒に調べてもらってもよいでしょう。

- ・ガラテヤ5：21によると、パウロは「肉の働き」(ガラテヤ5：19)に負ける者には何が起こると教えましたか。
- ・ガラテヤ5：22－23によると、人が御霊によって歩んでいることを示す実、つまり結果とは何ですか。(生徒はさまざまな言葉を使うと思われませんが、次の真理を見つけていることを確認します。御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制である。生徒が聖典のこの部分に印をつけるように提案するとよいでしょう。)

生徒たちに、図で御霊の実がリストされている部分に注目してもらいます。

- ・このような祝福を受ける価値があるのはなぜですか。

肉の欲を書き出したリストの部分に指す大きな矢印を図の下に書きます。この綱引きのたとえの中で、肉の欲に向かって引かれている状態を生徒たちに想像してもらいます。

- ・わたしたちが肉の欲に負けると、御霊の実はどうなりますか。(御霊の実を失い始める。)

その矢印を消して、御霊の実を指す別の矢印を書きます。今度は、御霊の実に向かって引かれている状態を生徒たちに想像してもらいます。

- ・わたしたちが御霊によって歩むとき、肉の働きには何が起こりますか。(肉の働きが生活の一部ではなくなる。)

生徒たちに、これらの御霊の実を感じたり、経験したときのことをクラス「ノートや聖典学習帳」に書いてもらいます。御霊によって歩むために、そのとき何をしていたのかも書いてもらいます。書き終えたら、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

一人の生徒に、ガラテヤ5：24－25を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの弟子たちが肉の欲について何をしようとするかを見つけてもらいます。

- ・イエス・キリストの弟子たちは、肉の欲に対して何を行いますか。(十字架につける、つまりそれぞれの生活から取り除く。)

生徒たちに、より完全に御霊によって歩むために何をするかを考えてもらいます。御霊の実を享受できるように、受ける促しに従うよう聖徒たちを励まします。

次の単元(エペソ2章-ピリピ4章)

この世で変わりつつある価値観、法律、考え方について生徒たちに考えてもらいます。考え方が常に変化する世の中で、わたしたちはどのように何が正しく、何が間違っているのかを知ることができますか。使徒パウロは、聖徒たちに勧告を与え、わたしたちがこの世の偽りの哲学に心を奪われることがないようにするために主が与えてくださった事柄を理解できるよう助けました。明日からの一週間、引き続きパウロの手紙の学習を続ける中で、次の質問の答えが見つかることも説明してください。子供はどのように親と接するべきですか。パウロは、何が「悪い者の放つ火の矢をことごとく消す」(エペソ6：16)と言いましたか。

エペソ 2-3章

はじめに

パウロはエペソの聖徒たちに、全ての罪人は神の恵みにより救われることと、ユダヤ人と異邦人は神の家族として一つになったことを教えました。パウロはまた、イエス・キリストの教会

は使徒と預言者の土台の上に建てられていることを説明し、聖徒たちがイエス・キリストの愛を感じるよう望んでいると述べました。

教えるための提案

エペソ 2章

パウロ、イエス・キリストの血がどのようにユダヤ人と異邦人の両者を救うかを教える

レッスンを始めるときに、一人か複数の生徒（クラスの大きさによって判断する）に、教室内の異なる場所で床の上に座ってもらいます。その生徒たちの周りにテープかひもで境界線を作り、クラスの残りの生徒たちから分離します。境界線に囲まれた生徒たちにはレッスン中（今のところは）発言してはいけないと伝えます。クラスの残りの生徒たちに次の質問をします。

- 皆さんと分離された生徒たちとの間の関係について、この状況は何を表していますか。（一つのグループは、もう一つのグループよりも優遇されている。）

- 分離された生徒はどう感じていると思いますか。それはなぜですか。

生徒たちに、生活の中での特定の状況においてこのように感じたことがあるかを尋ねます。

ホワイトボードに「異邦人」と「ユダヤ人」と書いて、二つの欄を作ります。

- パウロが教導の業を行ったときの、一部の教会支部の社会的状況について学んだ事柄に基づくと、分離された生徒たちは異邦人とユダヤ人のどちらですか。（異邦人。）残りの皆は、異邦人とユダヤ人のどちらですか。（ユダヤ人。）

- 何がこのような隔たりを引き起こしたのでしょうか。（一部のユダヤ人たちは、イスラエル人として生まれ、割礼を受けていたことから、自分たちが神に優遇されており、異邦人の改宗者よりも優れていると信じていた。）

一人の生徒に、エペソ 2:1-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主と教会に改宗する前の異邦人の聖徒たち（1-2 節の「あなたがた」）とユダヤ人の聖徒たち（3 節の「わたしたち」）の霊性についてパウロがどのように説明しているかを見つけてもらいます。2 節の「空中の権をもつ君」とは、悪魔と世界中に蔓延するその影響力を指していることを説明します。

- 1-2 節によると、改宗する前の異邦人をパウロはどのように表現しましたか。（生徒たちの答えを、ホワイトボードの「異邦人」の欄に書きます。）

- 3 節によると、改宗前のパウロ自身とユダヤ人をパウロはどのように表現しましたか。（生徒たちの答えを、ホワイトボードの「ユダヤ人」の欄に書きます。）

異邦人もユダヤ人も、彼らの罪のために霊的に死んでいた、つまり神から隔てられた状態にあったことを説明します。

一人の生徒に、エペソ 2:4-6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、改宗後における異邦人とユダヤ人の聖徒の霊的な状態を見つけてもらいます。「天上」という言葉は、人々が受け継ぐ天の領域を意味していることを説明します。

- 改宗後の聖徒たちをパウロはどのように表現しましたか。（彼らの霊的に死んだ、罪のある状態から主が生かされた。これを御霊によって生まれる〔モーサヤ 27:24-26 参照〕と呼ぶことを生徒たちに思い出してもらいます。）

一人の生徒に、エペソ 2:7-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、異邦人とユダヤ人がこのように変化することを可能にしたものが何であったかを見つけてもらいます。

- これら両方の聖徒たちの変化を可能にしたのは何でしたか。(イエス・キリストの恵み。)
- イエス・キリストの恵みが、全ての神の子供たちに対して何を可能にするかについて、これらの節からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストの恵みによって、全ての人はイエス・キリストへの信仰によって救われる。)

わたしたちがどれほど善い行いをして、自分の行いだけで救われることはないパウロが強調したことを生徒たちに伝えます(8-9 節参照)。ここで見いだした真理をより一層理解できるように、一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ワークトドルフ管長の次の言葉を読んでもらいます。



「わたしたちは皆『罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており』〔ローマ 3:23〕、『清くないものは、どのようなものでも神の王国に入ることができない』〔1 コリント 15:34〕ので、全ての人は神のみもとに帰るにふさわしくありません。……

天への道を自分で勝ち取ることはできません。正義の要求が障壁として立ちただけで、わたしたちは自力では乗り越えられないのです。

しかし何の手だてもないわけではありません。

神の恵みが、わたしたちの大いなる永遠の望みです。

イエス・キリストの犠牲によって、憐れみの計画が正義の要求を満たし〔アルマ 42:15 参照〕『人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設ける』のです〔アルマ 34:15〕。

わたしたちの罪は、たとえ緋のようであっても、雪のように白くなります〔イザヤ 1:18 参照〕。わたしたちの愛する救い主が『すべての人のあがないとしてご自身をささげられた』ので〔1 テモテ 2:6〕、主の永遠の王国への入り口がわたしたちに用意されているのです〔2 ペテロ 1:11 参照〕。

門は開かれています。……

この栄光を受け継ぐためには、門が開かれているだけでは不十分です。変わりたいという心からの望みを持ってこの門から入らなければなりません。それは劇的な変化であって、聖文では次のように表現されています。すなわち、「再び生まれ……〔、〕まことに、……神から生まれ、〔この世的で〕墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にな〔る〕」のです〔モーサヤ 27:25〕。……

恵みは神の賜物であり、神の戒めの一つ一つに従いたいというわたしたちの望みこそが、わたしたちが自分の不完全な手を伸ばして天の御父が授けてくださる神聖な賜物を得ようとする理由なのです。〔「恵みの賜物」『リアホナ』2015年5月号、108、110〕

- イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、罪を悔い改めることは、わたしたちが恵みの賜物を受けるとどのような助けとなりますか。

生徒たちが、全ての神の子供たちに福音が宣べ伝えられる前のユダヤ人と異邦人の関係について歴史的背景を理解することができるように、エルサレムの神殿周りの中庭にある「隔ての中垣」(エペソ 2:14) の絵を見せます(または、『聖句ガイド』内の聖典中の場所の『写真』9番の「ヘロデの神殿」のページを開いてもらいます)。主と聖約を交わしていなかった異邦人は、この壁の先のさらに神聖な場所に行くことを許されていませんでした。彼らが「異国人および宿り人」(エペソ 2:19) として扱われていたからです。壁という物理的な隔たりは、福音が異邦人に宣べ伝えられるというペテロの啓示の前に存在した、ユダヤ人と異邦人との間の霊的な隔たりを象徴していました。



生徒が歴史的背景を理解できるように助ける

福音を教え学ぶときの基本の一つは、聖句ブロックの歴史的背景を理解することです。背景には、特定の聖句や出来事、話に関わる状況、または背景となる状況も含まれます。生徒が聖句の背景を理解するよう助けるとき、生徒は靈感を受けた著者のメッセージを認識するよう備えられます。

クラスから分離されていた生徒たち数人に、エペソ2:12-15を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダヤ人と異邦人との隔たりについて救い主が何をされたかを見つけてもらいます。「敵意」という言葉は、「反抗、敵対、憎しみ」(『聖句ガイド』「敵意」, scriptures.lds.org)を意味することを説明します。

- 異邦人とユダヤ人を一致させたのは何でしたか。(キリストの血によって、ユダヤ人と異邦人を霊的に隔てていた比喩的な壁が取り払われ、彼らは「ひとりの新しい人」[エペソ2:15]、つまりキリストにあって一つの結束した集団となった。ホワイトボードに次の真理を書いてください。イエス・キリストのもとに来て主の恵みを受けるとき、わたしたちは神の聖徒たちと一つとなる。)

生徒たちを隔てていたテープまたはひもを取り去って、分離されていた生徒たちにクラスの他の人たちと一つになってもらいます。ユダヤ人の役を演じていた生徒たちに、分離されていた生徒たちを隣に座るよう招くように勧めます。

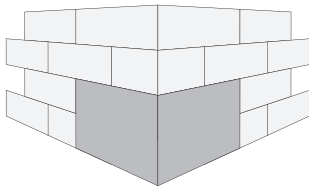
数人の生徒に、エペソ2:16-19を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがイエス・キリストのもとに来て、イエスの恵みを受けるときに、神の聖徒たちと一つになるという真理をさらに強調する語句を見つけてもらいます。

- イエス・キリストのもとに来て、イエスの恵みを受けるときに、神の聖徒たちと一つになるという真理をさらに強調する語句には、どのようなものがありましたか。
- この真理を理解し、今日の教会でそれを応用することがわたしたちにとって大切であるのはなぜだと思いますか。
- 教会内の人、異国人ではなく再び「同じ国籍の者」(19節)となる、またはそう感じることができるよう助けるには、どのようなことができますか。
- あなたが、異国人ではなく、他の聖徒たちと同じ国籍の者であると感じるよう誰かに助けてもらったのはどのようなときでしたか。そう感じられるように、あなたが誰かを助けたのはどのようなときでしたか。

一人の生徒に、エペソ2:20-22を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが教会の土台であると教えたものが何であったかを見つけてもらいます。

- 主の教会の構造について、これらの節でパウロはどのような真理を教えましたか。(生徒たちは異なる言葉を使うと思われるが、主の教会は使徒と預言者という土台の上に建てられており、イエス・キリストはその土台の隅のかしら石であるということを見いだせるように助けてください。)
- 隅の石とは何ですか。(土台の隅に置かれる大きな石で、構造全体に強度と安定感を与えるもの。)

二つの壁をつなぐ隅の石の簡単な絵を描きます。



- イエス・キリストは、どのような点で教会の隅のかしら石であられるのでしょうか。21節によると、この隅の石によって教会全体がどのようにになると書かれていますか。
- 預言者や使徒は、どのような方法で教会の土台の残りの部分を形作っていますか。
- この土台はどのように教会に安定をもたらし、悪魔の攻撃から教会を守るのでしょうか。

エペソ3章

パウロ、エペソの聖徒たちへの望みを伝える

エペソ3:1-16の要約として、パウロがイエス・キリストについて教え、キリストを通じて異邦人はイスラエルとともに「神の国をつぐ者」(6節)となり、神の約束にあずかる者となると教えたことを説明します。

数人の生徒に、エペソ3:14-19を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロは聖徒たちが他に何を知り、感じるよう望んでいたかを見つけてもらいます。

- これらの節によると、パウロは聖徒たちが何を知り、感じるよう望んでいましたか。

ホワイトボードに次の真理を書いてください。使徒と預言者は、神の子供たちがイエス・キリストの愛を知り、感じるのを助けようとしている。

最近の『リアホナ』の総大会号から、大管長会と十二使徒定員会の写真が載っているページを見せます。

- 使徒と預言者は、どのように神の子供たちがイエス・キリストの愛を知り、それを感じる助けができるよう努めていますか。
- 使徒と預言者の言葉が、さらにイエス・キリストの愛を知り、それを感じる助けになったのはどのようなときでしたか。

レッスンで話し合った真理についての証を述べ、その真理に従って行動するよう生徒たちに勧めてレッスンを終わります。

はじめに

パウロは、主が教会を設立され、聖徒たちを全き者とし、一致させるように指導者を召されたことを教えました。また、教

会の会員たちに過去のしきたりを捨てて、真実であると感じている事柄に基づいて生活するよう勧めました。

教えるための提案

エペソ4:1-16

パウロ、イエス・キリストの教会の重要性について教える

生徒たちに次の二つの状況について考えてもらいます。

1. 学校の先生が、生徒たちが物議を醸す話題について、意見を発表するよう求めました。生徒たちが自分たちの意見を述べているときに、あなたは、生徒たちのほとんどが教会の教えとは異なる立場を支持していることに気づきました。
2. あなたの国の国会議会は、教会の指導者たちが誤っていると教えている行い合法化してしまった。

• これらの状況が教会員にとって難しい状況となり得るのはなぜですか。

エペソ4:1-16を研究しながら、価値観や信念が絶えず変化する社会において、何が正しく何が誤っているかを知ることができる方法についての真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、パウロはこの書簡を、教会の新会員に向けて書いていたかもしれないということを思い出してもらいます。一人の生徒に、エペソ4:1-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会とその教義についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、教会とその教義について何を教えましたか。
- パウロが「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」(5節)と教えたときに、パウロは何を意図していたと思いますか。(わたしたちの時代と同じように、パウロの時代にもイエス・キリストの真実の教会は地上に一つしかなかった[教義と聖約1:30参照])

エペソ4:7-10の要約として、イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたち全員に主の恵みの賜物が与えられたとパウロが教えたことを説明します。パウロは、キリストが人類に他の賜物をお与えになったことも教えました。

一人の生徒に、エペソ4:11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が教会に何を与えられたかを見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

- 主は教会に何を与えられたのでしょうか。

現在の教会における神権の職の名称は、パウロの時代に使われた名称とは違う可能性があること、また、初期の教会には、現在のわたしたちの教会に見られる召しが全てあったわけではないという可能性があることを説明します。例えば、預言者ジョセフ・スミスは「伝道者とは祝福師です」と教えました(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』139)。また、牧師とは、羊飼い、つまり群れを導く者であり、これは現代のビショップ、支部会長、ステーク会長、地方部会長のことです。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます—主は、_____を助けるために、使徒、預言者、およびその他の教会指導者を召された。

一人の生徒に、エペソ4:12-13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が教会に使徒、預言者、およびその他の指導者をお与えになった理由を見つけてもらいます。

- 主は、どのような目的で教会に使徒、預言者、およびその他の指導者をお与えになりましたか。(ホワイトボードに書いた文に、「聖徒を全き者とする」と書き加えます。)

 **エペソ4:11**

11-14はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

- 使徒、預言者、およびその他の教会指導者は、どのようにわたしたちが全き者となる助けとなりますか。

一人の生徒に、エペソ 4:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が教会に使徒、預言者、およびその他の指導者をお与えになったもう一つの理由を見つけてもらいます。

- 主が教会員のために指導者をお与えになった他の理由は何ですか。（ホワイトボードの文に「そして教会員を偽りの教義から守るの」という言葉を追加して、全部で次のような文になるようにします。主は、聖徒を全き者とする、そして教会員を偽りの教義から守るのを助けるために、使徒、預言者、およびその他の教会指導者を召された。）

生徒たちが 14 節のイメージを捉えることができるように、荒波の中にあるボートの絵を見せます。または、あなたか生徒が荒波の中にあるボートの絵を描いてもよいでしょう。



- 激しい嵐の荒波にもまれるボードにはどんなことが起こり得るでしょうか。
このレッスンの始めに話した状況をもう一度見直します。
- 荒波にもまれる船は、誤った教えやこの世の考え方といった変化する風の中で「吹きまわされたり、もてあそばれたりする」(14 節) 人に、どのようにたとえることができますか。
- 使徒、預言者、およびその他の教会指導者の教えは、神に従う者がどのようにこの荒波の中を航海し、安全に天の御父のみもとへ戻る助けとなりますか。

次の教会の召しをホワイトボードに書きます — 使徒、預言者、祝福師、ビショップ、教師。生徒たちにこれらの召しから二つを選んでもらい、その召しにある指導者が、どのように霊的に向上し成長するために助けてくれたか、または誤った教義や策略からどのように守ってくれたかをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。十分な時間を取ってから、数人の生徒に書いた経験の一つを分かち合ってもらいます。

一人の生徒に、エペソ 4:15 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会の指導者がわたしたちに福音を教えるべき方法を見つけてもらいます。

- 教会の指導者たちは、どのようにしてわたしたちに福音の真理を教えるべきですか。

エペソ 4:17 - 32

パウロは、悪を脱ぎ捨て、イエス・キリストによって新しき人となるよう聖徒たちに勧める

普段着のコートまたはジャケットをクラスに持参します（できれば着込まれてほろほろになっているもの）。また、可能であれば、フォーマルな行事に適したコートまたはジャケットも持ってきます。（コートの代わりに、普段着のシャツとフォーマルなシャツを持ってきてよいでしょう。シャツは両方とも生徒たちが服の上から着るために十分な大きさのものを持ってきてください。）一人の生徒に、前に出て来てもらい、普段着のコートを着てもらいます。生徒に一回転してもらい、クラスの生徒たちにコートを見せます。次に、その生徒に普段着のコートを脱いでもらい、フォーマルなコートを着てそれをクラスの生徒たちに見せてもらいます。生徒にお礼を言って、コートを脱いでから席に戻ってもらいます。

- フォーマルな行事にふさわしいのはどちらのコートですか。

パウロが教会の新会員に向けて語っていたかもしれないことを生徒たちに思い出してもらいます。エペソ 4:17 - 32 を研究しながら、新会員にイエス・キリストの弟子として何をすべきか教えるために、何かを脱ぎ捨て、何かを着るといったたとえをパウロがどのように用いたかを見つけてもらいます。

一人の生徒に、エペソ 4:17 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会員になっていなかった異邦人の霊的な状態を表す言葉や表現を見つけてもらいます。

- パウロは教会外の異邦人の霊的な状態をどのように表しましたか。
- パウロは、教会外の異邦人がそのような霊的な状態にあった理由は何であると言いましたか。

一人の生徒に、エペソ 4:21 - 24 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、教会員が他の人々とは違う者となるための助けとなったのが何だったかを見つけてもらいます。

- 21 節によると、教会員が他の人々と異なる者となるためには何が助けとなりましたか。

2 着のコートを着た生徒について考えてもらい、その生徒がフォーマルなコート（またはジャケット）を着る前に何をしなければならなかったか生徒たちに尋ねます。

- パウロは教会員たちに何を「脱ぎ捨て〔る〕」(22 節) と言いましたか。(「生活」として訳されている言葉は、人の言動全てを表すためによく使われることを生徒たちに思い出してもらおうとよいでしょう。)
- 「新しき人を着る」(24 節) とはどのような意味ですか。(霊的に再び生まれ変わり〔モーサヤ 27:25 参照〕、日々熱心にイエス・キリストの福音に従って生活することを意味する。)
- これらの節から、イエス・キリストの弟子についてどのような真理を見いだすことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われるが、生徒が次のような内容の原則を見つけていることを確認してください。イエス・キリストの弟子は、罪深い古い習慣を捨て、義にかなった新しい習慣を取り入れる。)

生徒たちに、クラスノートか聖典学習帳に次の表を書き写してもらいます。

古い自分	新しい自分

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に、エペソ 4:25 - 32 を一緒に声に出して読んでもらいます。聖文を読みながら表に書き込み、キリストの弟子が「脱ぎ捨て〔る〕」(22 節) または「捨て去〔る〕」(31 節) 必要があるものを「古い自分」の下に、キリストの弟子が「着る」(24 節) べきものを「新しい自分」の下に書いてもらいます。ジョセフ・スミス訳のエペソ 4:26 では、「怒ることがあっても、罪を犯してはならない」が「あなたがたは怒りながら罪を犯さずにいられようか」という質問に差し替えられていると説明します(ジョセフ・スミス訳エペソ 4:26 [『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)』)。

十分に時間を取ってから、パウロが述べた分野において罪深い性質をまだ捨てていない人が取ることのある行動を表す状況について、各組に考えてもらいます。また各組に、その人がキリストのもとに来て、新しい人になればどのような行動を取るかを示す状況も考えてもらいます。生徒たちが計画する時間を取ってから、数組にクラスの前に来てもらい、考えた状況を説明してもらいます。幾つかの組に発表してもらった後、生徒たちに次の質問をします。

- 真理を知っていながらそれに基づいて生活をしていない教会員を、フォーマルな行事に招待されているがそれにふさわしい服を着ていない人に、どのようにたとえることができますか。
- わたしたちが古く罪深い性質を捨て、キリストの新しい弟子になろうとするとときにどのような試練に遭う可能性がありますか。
- 古い習慣を捨て、イエス・キリストに完全に従うことが継続的な過程であり、一度限りの出来事ではないことを教会員が覚えておくことが大切であるのはなぜですか。

多くの人にとって、義にかなった新しい人を着るとは、もう少し親切または忍耐強くなる、もう少し戒めに従順になる、生活の中の悪い習慣を捨てるなど、小さな事柄を変える簡単なことであると説明します。

罪深く古い習慣を捨てて、義にかなった新しい習慣を取り入れることの大切さを証します。生徒たちに、古い習慣を捨てて、イエス・キリストに完全に従うために今日できることを一つ書き出してもらいます。書き出した事柄を実行に移すよう生徒たちを励まします。

マスター聖句-エペソ 4:11 - 14

生徒たちがエペソ 4:11 - 14 で教えられている教義を説明するのを助けるため、生徒たちにパートナーと組んでもらい、主が教会を設立して、そこで奉仕する指導者たちを召された理由を、エペソ 4:11 - 14 のパウロの教えを用いて説明してもらいます。その後、組織された教会の必要性を感じていない友人を助けるために、エペソ 4:11 - 14 にある原則をどのように使うことができるかを生徒たちに説明してもらいます。

注釈と背景情報

エペソ 4:13 「キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」

「キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」(エペソ 4:13) とはどういう意味ですか。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は、次のように説明しています。それは「キリスト御自身が受けておられる栄光と昇栄の状態〔を指している。〕救いの計画は、全て人が神のようになることができるように設計されており、無限の完全さを得る者はキリストのようになり、キリストは天の御父のような御方である。(3 ニーフアイ 28:10)〔*Lectures on Faith* に書かれているように、〕『救いとはエホバが持つておられる栄光、権能、尊厳、力、

支配にあるのであって、他の何ものにも存在しない。エホバまたは御自身のような者以外に、それを持ち得る者はいない。』〔*Lectures on Faith* (1985 年), 76〕

……キリストは『御父の完全な栄光を受けられた。彼は天においても地においても、一切の権威を受けられた。そして、御父の栄光は彼とともにあった。御父が彼のうちにおられたからである』(教義と聖約 93:16-17)。(『*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻〔1965-1973 年〕, 第 2 巻, 511)』

エペソ5-6章

はじめに

パウロは悪の影響を退ける方法を教えました。また、家族の関係を強める方法についても教えました。パウロは、神に従う者たちに、サタンの欺きに対抗できるよう「神の武具で身を固

める」(エペソ6:11)よう強く勧めることによって、彼の手紙を締めくくりました。

レッスンの時間配分を決める

レッスンの初めの方に時間をかけすぎて、時間が足りなくなり、残りの部分を大急ぎで教えなければならぬという間違いを避けるようにしてください。準備をするときに、自分が選んだ方法を使うとレッスンの各部にどれくらいの時間がかかるかを予測する必要があります。ほとんどの場合、限られたレッスンの時間内で自分が伝えたいと思う全てを教えることはできないので、どの聖句ブロックを強調し、どれを要約するかを決めておきます。

教えるための提案

エペソ5:1-20

パウロ、聖徒たちに悪の影響を退けるように教える

可能であれば、新しく作った(または買った)ばかりであると生徒たちがすぐに気づくものを見せて、次の質問をします。

- わたしたちは新しいものを通常どのように扱いますか。
エペソ4章には、「滅び行く古き人を脱ぎ捨て」(22節)、「新しき人を着る」(24節)、つまりイエス・キリストに従う者として新しい人生を始めるようにという、パウロの新しい教会員に対する勧告が書かれていたことを生徒たちに思い出してもらいます。
- イエス・キリストに従うと決意した人の人生は、どのように新しい人生として見なすことができるのでしょうか。
エペソ人5-6章を研究しながら、イエス・キリストに従う者として「新しき人を着る」助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。
- 一人の生徒に、エペソ5:1-7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストに従う者として何をすべきか、および何をすべきでないかについて、パウロが聖徒たちに勧告した事柄を見つけてもらいます。
- パウロは、イエス・キリストに従う者に何をしよう勧告しましたか。何をすべきではないと勧告しましたか。
- これらの節から、イエス・キリストに従う者についてどのような真理を見いだすことができますか。(生徒はさまざまな真理を見いだすと思われるかもしれませんが、次の真理を強調するようにしてください。イエス・キリストに従う者は、世の悪に加わることはない。)
- 5節によると、世の悪に加わるものは何を失うことになりますか。
- 世の悪に加わることは、キリストにおける新しい人生を送る人にどのような影響を及ぼしますか。この人の模範は、他の人にどのような影響を与えるのでしょうか。

エペソ5:8-20の要約として、パウロが「光の子らしく歩き」(8節)、賢くあり、「御霊に満たされて」(18節)主の御心を知ることを求めるように聖徒たちを励ましたと説明します。

エペソ5:21-6:9

パウロ、家族の関係についてエペソ人に勧告する

生徒たちに、今から24時間前までの家族との交流について、それらが良いものであったかどうかを考えてもらいます。(例えば、その交流は愛あるものであったか、けんか腰であったか;親切であったか、傷つけるようなものであったか;気持ちを高揚させるものであったか、落胆するようなものであったかなどです。)

- 家族と良い関係を維持することが時に難しくなるのはなぜでしょうか。

エペソ5:21-6:9を研究しながら、それぞれの家族の関係を強める助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、エペソ5:21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに実行するよう励ました事柄を見つけてもらいます。

- パウロは聖徒たちに何をしよう励ましましたか。（「互いに仕え合うべきである」とは、自分自身よりも他の人々を優先するべきであるということ、および「キリストに対する恐れ」の心」〔訳注-欽定訳エペソ 5:21 では「神に対する恐れ」の心〕とは、神へのわたしたちの愛と敬意を意味していることを説明します。）
- イエス・キリストはどのような点で、仕えるという特質を体現しているでしょうか。
- 自分自身よりも他人を優先することは、わたしたちが家族との関係を強めるためのどのような助けとなりますか。

一人の生徒に、エペソ 5:22 - 29 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが夫と妻に対して、お互いの関係において何をしように勧告したかを見つけてもらいます。

- パウロは妻に対して、夫との関係において何を模範にすべきだと勧告しましたか。（パウロは、妻は夫に「仕えるように」〔22 節〕教えたことを説明します。これは妻が主に対して行うのと同様に、夫を支持し、支え、敬うことであると解釈することができます。救い主が教会を見守り、導いておられるように、神から与えられた夫の役割は、家族を管理する、つまり見守ることです。）
- パウロは夫に対して、妻との関係において何をしように勧告しましたか。
- 救い主が教会を愛するよう妻を愛する夫は、妻にどのように接するでしょうか。（妻のために「自身をささげ」〔25 節〕、つまり自分自身より妻を優先し、妻を「養う」〔29 節〕。）
- 救い主と教会の関係を指針として用いるときに、わたしたちの家族に何が起こり得るのかについて、パウロの教えからどのような真理を見いだすことができますか。（生徒たちは自分の言葉で、次のような内容の原則を見つけるでしょう。救い主と教会の関係を指針として用いれば、家族の関係を強めることができる。）

一人の生徒に、エペソ 5:30 - 33 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、夫と妻は結婚するときどのようになるかを見つけてもらいます。

- 31 節によると、夫と妻は結婚するとどのようになりますか。（二人は「一体となる」、つまり肉体的、精神的、霊的に一つとなる。）
- お互いの関係において救い主の模範に従うことは、どのように夫婦（または家族）が愛を深め、一致する助けとなりますか。

一人の生徒に、エペソ 6:1 - 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの模範を指針とすることが、どのように子供と親との関係にあてはまるかを見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

- 子供が親に従うことは、どのようにイエス・キリストの模範に従うこととなりますか。
- 子育てについて、パウロは父親にどのような勧告をしましたか。

自分自身と救い主の関係を指針として用いるとき、どのように自分の家族の関係が強められるのかについて、生徒たちに深く考えてもらいます。改善したいと思う関係を一つ選んでもらい、救い主の模範に従うことによってその関係を改善する方法を幾つか書き出してもらいます。書き出した事柄を実行に移すよう生徒たちを励まします。

エペソ 6:5 - 9 の要約として、パウロが僕と主人の関係について教えたことを説明します。新約聖書の時代、奴隷はローマ帝国全体、そして一部の教会員の間でさえも一般的なことでした。パウロの勧告は、パウロが奴隷制度を認めていたという意味ではありません。

エペソ 6:10 - 24

パウロ、「神の武具で身を固める」よう聖徒に勧告する

エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉をホワイトボードに書きます。（この言葉は、『聖徒の道』1986年7月号、79ページの「み言葉の力」に書かれています。）一人の生徒に、ホワイトボードに書いた文を声に出して読んでもらいます。

「証を持ち、戒めを守ろうとしている教会員に対して、サタンは戦いを挑んでいます。」（エズラ・タフト・ベンソン大管長）

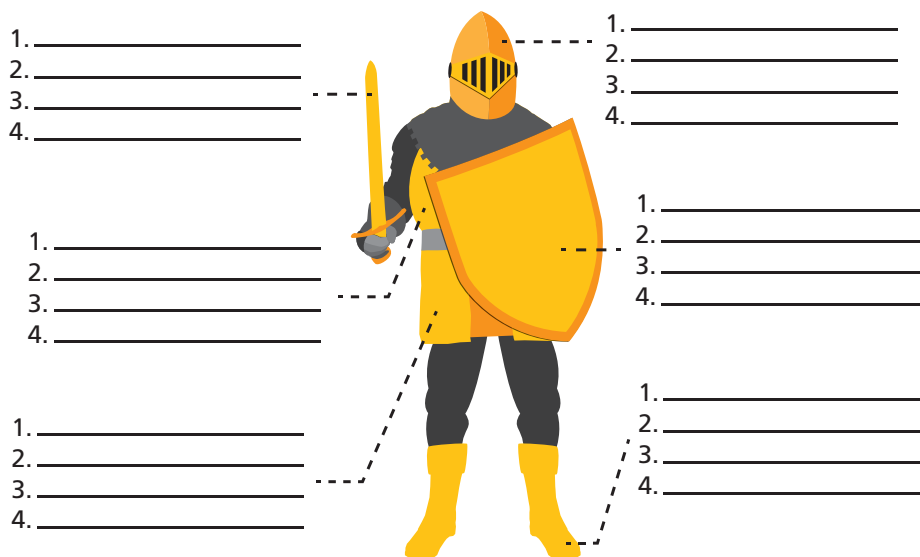
- サタンは、どのような方法で教会の若者に戦いを挑んでいますか。

一人の生徒に、エペソ 6:10 - 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、当時の聖徒たちが戦っているとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、当時の聖徒たちが何と戦っていると言いましたか。

- 12 節にパウロが書いた事柄は、現在わたしたちが戦っている事柄とどのような点で同じですか。
- パウロは当時の聖徒たちに、これらの悪に対抗するために何を身に着けるよう伝えましたか。（生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。神の武具で身を固めるならば、悪に対抗できるようになる。）

神の武具で身を固める



神の武具の配付資料を生徒たちに配ります。クラスを5つのグループに分けて、各グループにエペソ 6:14 - 17 に書かれた武具を一つずつ割り当てます。（「真理の帯」〔14 節〕は割り当てないでください。小さなクラスでは、一部のグループに複数の武具を割り当てる必要があるかもしれません。）

ホワイトボードに次の質問を書きます。

1. その武具は何のために使いますか。
2. その武具をパウロは何と呼びましたか。（武具の名称の前についている象徴の部分の指します）
3. その武具で守られている体の部位は、霊的に何を表していますか。
4. その霊的な武具を身に着けることは、悪に対抗するためにどのような助けとなりますか。

この資料を完成させる方法を説明するため、一人の生徒に、エペソ 6:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、「真理の帯」についてホワイトボードに書かれた質問の答えを見つけ、それらを配付資料に書き込んでもらいます。

腰に「しめる」武具とは、身体の中央部を覆うようにしめるベルトであることを説明します。生徒たちは次のような答えを挙げられると思います。（1）腰（生殖に関わる重要な器官）を覆うため。（2）真理。（3）わたしたちの純潔や道徳的な清さを表す。（4）救いの計画が真実であることを知ることは、わたしたちが道徳的に清くあり続けるための動機となる。

生徒たちがグループでエペソ 6:14 - 18 をグループで読むときにはこのパターンに従ってもらい、配付資料にある各グループに割り当てられた武具の部分の完成させてもらいます。

十分な時間を取った後、各グループの代表に、学んだ事柄をクラスで発表してもらいます。生徒たちには、各グループが発表する事柄を聞きながら、そのグループが見つけた内容を自分の資料に書き込んでもらいます。

- 神の武具全てで自分自身を守ることが重要なのはなぜですか。

一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を声に出して読んでもらい、神の武具を身に着け、その武具を強固にするにはどうしたらよいかを生徒たちに尋ねます。



「この霊的な武具は、体にぴったり合うように成型された固い金属の道具ではなく、鎖かたびら（訳注－細かい鎖を平らに編んでつくった防具）のような物であると考えたいのです。鎖かたびらは、ともにしっかりと結ばれた何十という小さな鋼鉄で構成されていて、保護する力を失わずにより大きな柔軟性を使用者にもたらしめます。わたしの経験から、わたしたちを霊的に武装するためにできる『偉大な一つの事柄』というものはないと申し上げます。真の霊的な力は、多くの小さな行いの中にあるのです。その一つ一つが絡み合っ、あらゆる悪を防ぐ霊的な要塞の骨組みになるのです。」（“Be Strong in the Lord,” *Ensign*, 2004 年 7 月号, 8）

- 神の武具を身に着け、それを強固なものにするために毎日何をしていますか。そうすることは、悪、誘惑、欺きに対抗するためにどのように役立ちましたか。

次の質問をホワイトボードに書き、その答えを生徒たちに書いてもらいます。

あなたの霊的な武具の中で強いと思うものはどれですか。

あなたの霊的な武具の中で最も弱いものはどれですか。

あなたの生活において、これらそれぞれの霊的な武具を強めるために何をすることができますか。

エペソ 6 : 19 - 24 の要約として、パウロが、牢に在る間も「語るべき言葉」（19 節）が与えられるように、また福音を大胆に宣べ伝えることができるように祈って欲しいと聖徒たちに依頼して手紙を終えたことを説明します。

生徒たちがエペソ 5 - 6 章で見いだした真理についての証を述べてください。今日のレッスン中に受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

注釈と背景情報

エペソ 5 : 25 - 28 ; 6 : 4 「キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように」

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、夫たちに家族を導く方法を教えられた時に、救い主の模範を用いました。

「救い主は教会を指導する際に、過酷で無慈悲な方法を取られたことは一度もありませんでした。教会に対して無礼であったり、怠慢であったりされたこともありません。また、その御心を果たすために威圧的な方法を取られたこともありません。救い主はいつも、啓発し、高め、慰めを与えるという方法を取ってこられました。」（「イスラエルの父親たちへ」『リアホナ』1988 年 1 月号, 54）

スペンサー・W・キンボール大管長は、救い主が教会を愛するよう夫がその家族を愛するときに及ぼす影響について教えました。

「キリストは教会と教会の人々を非常に愛されました。主は自発的に彼らのために迫害に耐えられ、彼らのために屈辱的な侮辱を受けられ、彼らのために苦痛や身体的虐待に平然と耐えられ、最後には彼らのためにその貴重な命を与えられたほどです。

夫がそのように自分の家族を扱う準備ができたなら、妻だけでなく家族全員が夫のリーダーシップに応じることでしょう。」（“Home: The Place to Save Society,” *Ensign*, 1975 年 1 月号, 5）

教えるためのその他のアイデア

エペソ 6:11 ビデオ・プレゼンテーション — “*The Whole Armor of God*”

神の武具で身を固めることの大切さについて生徒たちが理解できるように、ビデオ “*The Whole Armor of God*” (14

分 35 秒) を見せます。このビデオでは、パウロの勧告を現代の生活に当てはめる様子が描写されています。このビデオは *LDS.org* で視聴できます。

ピリピ人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ピリピ人への書簡の中で、パウロは、ピリピの聖徒たちに励ましを与え、心一つにして力強く立ち、信仰を守るために協力するよう強く勧めました。おそらく、パウロがピリピ人への手紙の中で教えている最も重要な原則の一つは、神に祈り、神を信頼することは「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」(ピリピ4:7)をもたらすということです。この書簡にあるパウロの励ましのメッセージを研究することは、生徒たちが忠実に最後まで堪え忍ぶ努力をする際の助けとなります。生徒たちがキリストに従うよう努力するとき、彼らも自信を得て、パウロのように「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」(ピリピ4:13)と宣言することができます。

誰がこの書を書いたのか

この書簡の挨拶で、テモテもパウロとともに言及されていますが(ピリピ1:1参照)、ピリピ人への手紙を書いたのはパウロです。これは、単数形の代名詞である「わたし」がこの手紙全体で用いられていること、ピリピ2:19でテモテのことが参照されていることから裏付けられます。テモテはパウロの筆記者を務めており、パウロの指示の下で手紙を書いていた可能性があります。

いつ、どこで書かれたか

パウロはおそらくピリピ人への手紙を、紀元60-62年の間のいずれかの時期に、ローマで投獄されている間に書きました(ピリピ1:7, 13, 17参照。使徒28:16-31; 『聖句ガイド』「ピリピ人への手紙」, scriptures.lds.orgも参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

ピリピは、パウロが正式に福音を宣べ伝え、教会の支部を設けた、ヨーロッパにおける最初の場所でした(使徒16:11-40; *Bible Dictionary*, “*Pauline Epistles*”の項参照)。この手紙を書いたパウロの目的の一つは、2回目の伝道の旅とローマでの獄中生活中に、ピリピの聖徒たちがパウロに示した愛情と経済的な支援に対する感謝の気持ちを表すことでした(ピリピ1:3-11; 4:10-19参照。 *Bible Dictionary*, “*Pauline Epistles*”の項も参照)。

パウロはまた、ピリピの会員たちのイエス・キリストを信じる信仰のゆえに彼らを称賛し、エパフロデトという名前のピリピ人の弟子から得た情報に基づいて、彼らに勧告を与えました(ピリピ4:18参照)。パウロの勧告には、謙遜になり、一致するようという勧めが含まれていました(ピリピ2:1-18; 4:2-3参照)。パウロはまた、例えば改宗するためには割礼が必要であると教えた人々など、腐敗したキリスト教徒に用心するようピリピ人に警告しました。このような人たち(しばしばユダヤ化主義者と呼ばれる)は、新しい改宗者がキリスト教徒になる前に旧約聖書にある割礼の律法に従わなければならないという誤った主張をしていました(ピリピ3:2-3参照)。

この書の特徴は何か

ピリピ人への手紙は、しばしば、エペソ、コロサイ、ピレモンとともに、獄中書簡と呼ばれています。獄中から書かれているにもかかわらず、ピリピ人への手紙は学者たちによって、パウロの手紙の中で最も幸せなものであると説明されています。パウロは教会員への感謝の気持ち、愛、そして信頼を表明し、イエス・キリストに従うために払った犠牲について説明して、義になかった生活の原則をピリピの聖徒たちに教えました。生徒たちは、ピリピ4:8に、預言者ジョセフ・スミスによって書かれた信仰箇条の13条で使用されている言葉が幾つかあることを認識するかもしれません。

パウロは、前世における神性から、「十字架の死」(ピリピ2:3-8参照)に苦しめられる現世まで、救い主が御自身を低くされたことについて詩的に描きました。その神聖な使命を果たされたことにより、イエス・キリストは今や高く引き上げられて立ち、主の前に「あらゆるものがひざをかがめ」、「あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白」する日が来るのです(ピリピ2:10-11)。パウロは、自分の内にある自信と強さの源がイエス・キリストから生じたことを明らかにしました(ピリピ4:13参照)。

概要

ピリピ1章 パウロは、ピリピの聖徒たちのフェロシップに対して感謝の意を表す。パウロは、獄中生活を含め、主に仕える際に経験した逆境は、福音の前進に役立ったと教える。パウロは信仰を守るにあたり、心一つにして力強く立つよう教会員に勧める。

ピリピ2章 パウロはさらに教会員に一致するよう勧め、愛、従順さ、謙遜さの模範として、自らを低くして現世に来られたイエス・キリストの模範を挙げる。誰もがいつの日か、イエス・キリストを主として認める。パウロは、教会員に自分の救いの達成に努めるよう教える。

ピリピ3章 パウロは、ユダヤ化主義者たちについて警告する。パウロは、パリサイ人としての以前の生活と、どのようにイエス・キリストに従うために喜んで全てを諦めたかについて説明する。パウロは、自分の模範に従い、救いに向かって推し進むよう聖徒たちに強く勧める。パウロは、イエス・キリストがわたしたちの死すべき体を御自身のような栄光ある体に変えてくださることを説明する。

ピリピ4章 パウロは主にあって常に喜ぶよう聖徒たちに勧める。パウロは、聖徒たちの不安を祈りと感謝に置き換えるよう強く勧め、彼らが人知ではとうてい計り知ることのできない神の平安を享受することを約束する。パウロは、真実なこと、尊ぶべきこと、正しいこと、純真なこと、愛すべきこと、誉れあること、徳といわれるもの、称賛に値するものを心に留めるよう教会員を諭す。パウロは、自分を強くしてくださるイエス・キリストによって、何事でもすることができるということを知らせる。

ピリピ 1 - 3 章

はじめに

パウロはピリピの聖徒たちに、福音に従った生活をする事において力を合わせるよう勧めました。また、彼らに謙遜と無私の心について救い主の模範に従うよう勧告し、神は救いをも

たらすために彼らの内で働かれていると教えました。パウロはイエス・キリストに従うために自らが払った犠牲について説明しました。

教えるための提案

ピリピ 1 章

パウロ、逆境からもたらされる祝福について説明する

授業を始める前に、ブリガム・ヤング大管長の次の言葉をホワイトボードに書いておきます。（この言葉は、『歴代大管長の教え — ブリガム・ヤング』290 - 291 にあります。）下線の引いてある言葉を空欄にしておきます。

「『モルモニズム』を蹴る人はその度に、蹴ることによって、高い所へ押し上げているのであって、蹴落としているのではないのです。全能の主はそうのように命じられました。」（ブリガム・ヤング大管長）

次の質問をしてレッスンを始めます。

- 過去の歴史や現代の生活の中で、救い主の教会とそれに従う者たちに敵対や妨害する例にはどのようなものがありますか。

ピリピ 1 章を研究しながら、敵対するものが主の御業にどのように影響するかを理解するのを助ける真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、『聖書の地図』にある地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」でピリピを見つけようといひでしょう。パウロは、2 回目の伝道の旅の間にピリピで教会の支部を設立したことを説明します（使徒 16 章参照）。パウロは後に、おそらくローマで投獄されていたときにピリピ人への書簡（手紙）を書きました。ピリピ 1:1 - 11 の要約として、パウロがピリピの聖徒たちに対して感謝と愛を示したことを説明します。

一人の生徒に、ピリピ 1:12 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが伝道活動中に経験した逆境からもたらされた事柄を見つけてもらいます。

- 12 節によると、パウロが伝道活動中に経験した逆境によって何がもたらされましたか。（「福音の前進に役立つ」しました。）
- 13 - 14 節によると、この逆境はどのように福音を前進させるための助けとなりましたか。（「兵営」〔13 節〕つまり軍司令部全体の人々は、パウロがイエス・キリストについて教えを宣べ伝えたために投獄されていたことを知っていた。パウロの投獄はまた、他の教会員たちが福音を宣べ伝えることにますます勇敢になるよう鼓舞した。）
- イエス・キリストに従うことで敵対するものに遭遇するときに何がもたらされるかについて、これらの節からどのような真理を学ぶことができますか。（生徒はさまざまな言葉を使うと思われるが、次の真理を見つけていることを確認します。わたしたちがイエス・キリストに従うときに経験する逆境は、御業を進めるために役立つ。）

ホワイトボードのヤング大管長の言葉を見てももらいます。空白を埋めるためにどの言葉を使えばよいかを生徒たちに尋ねます。正しい言葉で空白を埋めます。この文脈での「高い所へ押し上げて」とは、前進させることを意味すると説明するとよいでしょう。

- 逆境が救い主の御業を前進させるためにどのように役立つかを示す例を挙げてください。

ピリピ 1:15 - 26 の要約として、パウロが自分の身に何が起ころうとも、それらによって救い主があがめられることになると述べたと説明します。

一人の生徒に、ピリピ 1:27 - 30 を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳のピリピ 1:28 では、「かつ、何ごとについても、敵対する者どもにろうばいさせられないでいる様子を聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びをもたらすが、福音を受け入れるあな

たがたには、救いであって、それは神から来るのである。」となっていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに何をどのように促したかを見つけてもらいます。27 節の「生活しなさい」という言葉は、振る舞いを指していると説明します。

- パウロは聖徒たちに何をしよう励ましましたか。
- 29 - 30 節によると、教会員は救い主のために何を体験しますか。
生徒たちが先ほど見いだした真理を思い出してもらいます。
- ピリピの聖徒たちは、イエス・キリストに従うことで体験する逆境が主の御業を進める助けとなると覚えておくことによって、どのように祝福されたでしょうか。

ピリピ 2 章

パウロ、救い主が自らを低くされたことを教え、救いについて聖徒たちを指導する

生徒たちに、ピリピ 2:2 を黙読しながら、ピリピの聖徒たちに対するパウロの勧告を見つけてもらいます。

- パウロの勧告をどのように要約することができますか。
生徒たちに二人一組になってもらいます。各組ごとにピリピ 2:3 - 8 を一緒に声に出して読みながら、パウロが聖徒たちに対して、一致するために何をしよう教えたかを見つけてもらいます。各組の一人の生徒に、見つけた勧告の一つをホワイトボードに書いてもらいます。
- パウロの教えによると、イエス・キリストは謙遜と無私の心に関してどのような模範なのでしょう。
- パウロの教えから学ぶことができる原則で、わたしたちがさらに一致するための助けとなるものは何ですか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われませんが、次の原則を見つけてください。謙遜さや無私の心で他の人々を思いやるイエス・キリストの模範に従うなら、わたしたちはさらに一致することができます。)
- 家庭、学校、ワードや支部で、わたしたちが謙遜さと無私の心についてイエス・キリストの模範に従うことができる方法には何がありますか。
- 人が自分よりも他の人を優先したのを見たのは、どのようなときでしたか。そのような努力はどのように一致を強めるでしょうか。

ピリピ 2:9 - 11 に記録されているとおり、パウロは、最終的には全ての人がひざをかがめ、「『イエス・キリストは主である』と告白」(11 節) すると教えました。この経験が自分にとってどのようなものとなって欲しいかを生徒たちに深く考えてもらいます。

一人の生徒に、ピリピ 2:12 - 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがピリピ人に行うよう勧告した事柄で、主の前にひざをかがめる経験を喜ばしいものとしてすることができるものが何かを見つけてもらいます。「恐れおののいて」(12 節) とは、神に対しての畏敬の念を持ち、喜ぶことであると説明する必要があるかもしれません(詩篇 2:11; 『聖句ガイド』「畏れ; 恐れ」, scriptures.lds.org 参照)。

中には、ピリピ 2:12 のパウロの言葉を、わたしたちが自分自身の行いによって救われるという意味だと間違えて解釈している人がいることを指摘します。

- わたしたちのために救いを可能にくださったのはどなたですか。どのようにそれは可能になりましたか。
- ピリピ 2:13 によると、救いに必要な事柄を行おうと努力している人を助けるために神が取られる二つの方法とは何ですか。(神は、「願い」を起こさせ、「神のよしとされる場所」、つまり神の戒めに従うように助けてくださる。生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。神は、イエス・キリストの贖罪を通して可能となる救いのために必要なことをわたしたちが願い、それを行えるよう助けてくださる。)
- 神が与えられて、わたしたちが成し遂げるのを助けてくださる、救いのための必要条件とは何ですか。(生徒たちに信仰箇条の 3 条と 4 条を参照してもらおうとよいでしょう。)

聖霊の影響を通して、わたしたちが神に従う望みを持てるよう、神はわたしたちの願いを変え、清める助けをしてくださると指摘します(モーサヤ 5:2 参照)。生徒たちに、神に従いたいと思うよう心を変え、改めるために神がどのように助けてくださったか、さらに、より忠実に神の戒めを守るために神がどのように助けてくださったかを深く考えてもらいます。

ピリピ2:14-30の要約として、パウロが聖徒たちに彼らが「星のようにこの世に輝いている」(15節)ことを思い起こさせ、聖徒たちの幸せな状態を知るために使者を遣わすと彼らに伝えたことを説明します。

ピリピ3章

パウロ、イエス・キリストに従うために払った犠牲について説明する

生徒たちに、価値があると自分が思っている物で、世の中でも貴重だと考えられているもの(例えば、家族、友人、教育、食べ物、科学技術、お金など)について考えてもらいます。可能であれば、彼らが考えたことを表す物を見せてもらいます。生徒たちに、何のためにならこれらの価値あるものを喜んで犠牲にしてもよいかを考えてもらいます。

ピリピ3章を研究しながら、わたしたちも手に入れることができる賞与を得るためにパウロが何を犠牲にしたかを見つけてもらいます。

ピリピ3:1-3の要約として、教会の改宗者は割礼を含む特定のユダヤ人の慣習に従うべきだと説く腐敗した教師について、パウロがピリピ人に警告したことを説明します(*New Testament Student Manual* [教会教育システム, 2014年], 436参照)。

一人の生徒に、ピリピ3:4-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが自身のユダヤ人の伝統についてどのように言ったかを見つけてもらいます。

- ユダヤ人社会において、パウロはかつてどのような社会的および宗教的優越性を有していましたか。(イスラエルの血統、パリサイ人としての地位、ユダヤ教への熱意、律法の厳守。)

一人の生徒に、ピリピ3:7-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロは自分がかつてユダヤ人社会で有していた特権をどのように見なしていたかを見つけてもらいます。

- パウロは、イエス・キリストに従うために犠牲にしたものをどのように見なしていましたか。
- パウロが自ら進んで「全てを失った」(8節)のはなぜですか。(それは、イエス・キリストを知るため、「キリストのうちに自分を見いだすようになるため」[9節]、つまり主と忠実な聖約を交わす関係にあるため、主を信じる信仰によって義とされるため、主のために苦難にあずかるため、正しい人、つまり「義人のうちからの復活」に達するためでした。[ジョセフ・スミス訳ピリピ3:11])

一人の生徒に、ピリピ3:12-14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが彼自身の霊的な成長について気づいた事柄を見つけてもらいます。この文脈における「捕え[る]」という言葉は、手に入れるという意味であることを説明します。

- パウロは、捨ててきたものに固執するかわりに、何をしようと前進しましたか。(「上に召して下さる神の賞与」[14節]とは永遠の命であることを説明します。)
- イエス・キリストを知り、永遠の命を得るためにわたしたちが行わなければならないことに関するパウロの模範から、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな答えを挙げると思われますが、次の原則を見つけていることを確認します。もしわたしたちが、イエス・キリストに従い、信仰を持って前進するために必要となる全てのものを犠牲にするならば、主を知り、永遠の命を得ることができる。)

一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の話を声に出して読んでもらいます。これは、高度な訓練を受けるために他の国から訪米し、滞在中に教会員になった海軍士官との出会いについての話です。他の生徒には、聞きながら、この青年がイエス・キリストに従うため何を喜んで犠牲にしたかを見つけてもらいます。



「わたしが彼を知ったのは、彼が祖国に帰る直前のことです。……わたしはこう言いました。『故国の人々はキリスト教徒ではありませんね。キリスト教徒として、特にモルモン教徒として帰国されることで、何か支障はありませんか。』

彼は顔を曇らせ、こう語りました。『家族はがっかりするでしょう。家から追い出し、わたしを死んだものとみなすかもしれません。仕事の上でも将来的にあらゆる機会から見放されると思います。』

わたしはこう尋ねました。『福音のためにそれほど大きな代価を、喜んで払うおつもりですか。』

すると、黒い瞳に涙を浮かべたこの青年は、整った褐色の顔をさっと輝かせ、こう言いました。『福音は真実です。違いますか。』

わたしはこのような質問をしたことを心に恥じながら答えました。『そのとおりです。確かに真実です。』

『それなら、他のことを気にする必要はないわけですね』という言葉が返ってきました。(「福音は真実です、違いますか」『聖徒の道』1993年10月号, 4参照)

- この青年は、救い主に従うために何を喜んで犠牲にしましたか。
- あなた(またはあなたの知人)は、救い主に従うために何を犠牲にしましたか。
- イエス・キリストを知り、永遠の命に向かって進むという価値ある行動は、なぜあなたが払った犠牲に値する価値があるのでしょうか。

より完全にイエス・キリストに従うために諦める必要があることはないかどうか、生徒たちに深く考えてもらいます。それを実行するための目標を書いてもらいます。

ピリピ 3:15 - 21 の要約として、この世での快樂だけに関心を示す者たちを待つ滅びについてパウロが警告したことを説明します。パウロは、イエス・キリストがわたしたちの不完全な肉体を、キリストと同じ不死不滅の肉体に変えてくださることも教えました。

このレッスンで見いだした真理についての証を述べて、レッスンを終わります。

沈黙を恐れない

効果的な質問をしたとき、生徒がすぐ返答しない場合があります。沈黙が長く続きすぎるのでなければ、この沈黙を心配することはありません。往々にして生徒は、質問された事柄とその質問への答え方についてよく考える機会が必要です。このようによく考えることによって、聖霊による教えが促されます。

ピリピ4章

はじめに

パウロはピリピの聖徒たちに、よく祈り、何であろうと義にかなったものを求めるよう教えました。またイエス・キリストの何事でも可能にする力に対する確信を宣言しました。パウロは

書簡の結びに、助けを必要としていたときに受けた支援に対してピリピの聖徒たちに改めて感謝を伝えました。

教えるための提案

ピリピ4:1-14

パウロ、ピリピの聖徒たちに、よく祈り、何であろうと義にかなったものを求めるよう教える

レッスンの前に、次の文を個別の紙に書いて、それを異なる生徒に渡しておきます。

「次の試験で合格点が取れるか心配だ。」

「病気の家族が心配だ。」

「自分の信仰を擁護できるか心配だ。」

「良い宣教師になれるかどうか心配だ。」

ホワイトボードに「心配」と書いて、レッスンを始めます。わたしたちは、生涯を通じて不安になる難題や境遇を経験すると指摘します。紙を渡されている生徒たちに、順番に一人ずつ立って、書いてある文を読んでもらいます。生徒たちに、同じような心配を感じたときのことを考えてもらいます。

- 難題や困難な状況のために経験する心配事には、他にどのようなものがありますか。

生徒たちに、自分や知人が心配している難題についてクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。ピリピ4章を研究しながら、心配になるときの助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

パウロがピリピの教会員に書き送った書簡の中で、パウロは教会員たちの忠実さを賞賛し(ピリピ2:12)、イエス・キリストのために犠牲を払い、キリストに忠実である人に与えられる永遠の報いについて教えたことを生徒たちに思い出してもらいます。ピリピ4:1-5の要約として、パウロが聖徒たちに主への忠実さを確固として守り、主にあって喜び、寛容さを周りの人に示すように勧告したことを説明します。

一人の生徒に、ピリピ4:6の最初の文を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちに対するパウロの勧告を見つけてもらいます。「何事も思い煩ってはならない」という表現は、何についても必要以上に心配しないようにという意味であると説明します。

ホワイトボードに次の言葉を書きます — イエス・キリストに忠実に従う者として、もし_____。

一人の生徒に、ピリピ4:6の残りを声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに対して心配するかわりに何をするよう勧告したかを見つけてもらいます。ここで言う「願い」とは、謙遜で熱心な要望であると説明するとよいでしょう。

- 6節のパウロの教えはどのように要約することができますか。(生徒からの答えを、次のような「もし…」形式の文にしてホワイトボードに書きます — イエス・キリストに忠実に従う者として、もし感謝と願いをもって祈るなら、_____。)

ホワイトボードの言葉に「その結果」という言葉を付け加えます。一人の生徒に、ピリピ4:7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、感謝と願いをもって祈ることに対してパウロが約束した祝福を見つけてもらいます。

- パウロが約束した祝福は、どのように要約することができますか。(生徒からの答えを、ホワイトボードの「もし」の文の後に書きます。生徒たちは次のような内容の原則を見つける

はずです。イエス・キリストに忠実に従う者として、もし感謝と願いをもって祈るなら、その結果、神はわたしたちを神の平安で祝福してください。）

- わたしたちが心配するとき、祈りの中で感謝を表すことはどのように平安をもたらすでしょうか。
- 神の平安はわたしたちの心と思いを何から守ってくれますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の平安がわたしたちを助けるその他の方法を見つけてもらいます。



「天の御父は選択の自由を尊重しておられるので、御父に祈ることを強制されません。でも、その選択の自由を行使し、生活のあらゆる局面で御父の導きを求めるなら、あなたは心地よい平安に満たされ始めるでしょう。そのような平安があると、悩みを永遠の観点から見ようになり、その観点から困難な問題に対処できるようになるのです。」（『信仰を行使することを最優先とする』『リアホナ』2014年11月号、93）

- スコット長老によると、神の平安は、わたしたちが経験する困難な問題に対するどのような助けとなりますか。
- 心配になったときに感謝と願いをもって祈り、神の平安の祝福を受けたのはどのようなときでしたか。

生徒たちに、このレッスンの冒頭で書いてもらった心配事を見てもらいます。心配するかわりに、感謝と願いをもって祈るように生徒たちを励まします。生徒が他の誰かの心配事について書いた場合は、この原則をその人と分かち合うよう勧めます。

パウロがピリピの聖徒たちに教えたその他の原則を生徒たちが見いだす準備ができるように、クラスを3つに分けます。1つ目のグループには好きな食べ物を、2つ目のグループには面白い絵や話を、3つ目のグループには神殿の情景や神殿での経験について考えてもらいます。生徒たちに、30秒間それらのことだけを集中して考えてもらいます。

- その考えに集中したことは、どのような効果を生じましたか。

わたしたちが考える事柄は、わたしたちの願望や行動に影響を及ぼすことがあると説明します。一人の生徒に、ピリピ4:8-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがピリピの聖徒たちに何を心にとめ、実行するように諭したかを見つけてもらいます。「心にとめる」とは、慎重に継続的に考えることを意味すると説明するとよいでしょう。

パウロが心にとめるよう聖徒たちに教えた事柄それぞれに印をつけることを生徒たちに勧めます。

- これらのことを心にとめる他に、パウロは教会員たちに何をしよう勧めましたか。
- パウロは、聖徒たちが彼の教えと模範に従うならばどのような祝福が与えられると約束しましたか。
- ピリピ4:8-9でパウロが忠実な聖徒たちに教えた事柄から、どのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われるが、次の原則を見いだすでしょう。忠実な聖徒たちが自らの思いを、何であろうと義にかなう事柄に集中し、使徒たちと預言者たちに従うなら、神の平安がともにある。）
- わたしたちの思いを何であろうと義にかなった事柄に集中させることは、わたしたちの願望や行動にどのように影響しますか。

生徒たちに、高価な真珠にある信仰箇条を開いてもらいます。一人の生徒に、信仰箇条の13条を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ピリピ4:8との類似点を見つけてもらいます。

- これらの二つの節には、どのような類似点がありますか。

預言者ジョセフ・スミスが信仰箇条13条でこの「パウロの勧め」を引用したとき、「それらのものを心にとめなさい」という文を、より積極的な「これらのことを尋ね求める」に変更していると指摘します。

- 正直、真実、純潔（つまり清らかであること）、徳高いこと、好ましいこと、賞賛に値することを尋ね求めることが大切であるのはなぜだと思いますか。
- このような事柄を尋ね求めることは、わたしたちがそれらに思いを集中させるためのどのような助けとなりますか。

生徒たちを三人または四人のグループに分けます。各グループに『若人の強さのために』（小冊子）と次の配付資料を渡します。各グループに、『若人の強さのために』からの「デート」、「服装と外見」、「教育」、「娯楽とメディア」、「友達」、「言葉遣い」、「音楽とダンス」のうち二つのトピックを割り当てます。（クラスの大きさに応じてグループの人数とトピックの数を調整してください。）配付資料の指示に従うように生徒たちに伝えます。

ピリピ 4：8－9

割り当てられたトピックをここに書いてください。

それぞれのトピックに関して、次の質問を話し合います。

- このトピックに関することで決断をするとき、ピリピ 4：8－9 に記録されているパウロの教えをどのように用いることができるでしょうか。
 - パウロの教えに従う努力をするとき、このトピックに関連してどのような困難に直面する可能性がありますか。
- その後、次の質問について話し合います。
- 平和の神がわたしたちとともにおられることは、なぜ義にかなった事柄を尋ね求め、使徒と預言者に従う努力に値するのでしょうか。

時間を十分に取った後、グループごとに一人ずつ各質問について話し合ったことを発表してもらいます。

- 義にかなった事柄にあなたの思いを集中させたとき、平安の神は、神があなたとともにおられることをどのように示されましたか。

義にかなった事柄に思いを集中させ、神の使徒と預言者に従うためにより良く努力する方法の一つ、聖典学習帳やクラスノートに書くよう生徒たちに勧めます。

ピリピ 4：10 の要約として、パウロが試練の中にあつたときに、ピリピの聖徒たちが差し伸べてくれた支援と心遣いに感謝を表したと説明します。

一人の生徒に、ピリピ 4：11－12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロは何を学んだと聖徒たちに伝えたかを見つけてもらいます。

- あらゆる境遇にあつても、パウロは何をするように学びましたか。

一人の生徒に、ピリピ 4：13－14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの力の源がどなたであつたかを見つけてもらいます。

- パウロは、力の源がどなたであつたと言いましたか。

13 節にあるパウロの言葉は、イエス・キリストによって与えられた強さによって、どのような状況にあつても満足し、神に喜ばれる、あるいは神に必要とされる何事でも行うための能力を意味していると説明します。

- 13 節からどのような真理を学ぶことができますか。（生徒たちは自分の言葉で、おそらく次のような真理を見つけるはずですが、わたしたちは、強さを与えてくださるイエス・キリストによって全てのことを行うことができる〔アルマ 26：12 も参照〕。）

- イエス・キリストが与えてくださる強さを得るためにわたしたちができることは何ですか。

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この力によって何ができるようになるかを見つけてもらいます。

「神は……力と強さという祝福を注いでくださり、それがなければとうてい力の及ばないことを成し遂げる能力をわたしたちに授けてくださいます。神の驚くべき恵みによって、その子供たちは欺く者の隠れた危険を乗り越え、罪を克服し、『キリストによって完全になる』〔モロナイ 10：32〕ことができるのです。」「恵みの賜物」『リアホナ』2015 年 5 月号, 108)

- わたしたちはこの力や恵みをどのような形で経験する可能性がありますか。（回復力、決断力、勇気、忍耐、堪え忍ぶ力、および肉体的、精神的、霊的な持久力と力が強められるなどの答えが考えられます。）

- 何か善いことを行うための力をイエス・キリストから授かったのは、どのような時でしたか。（あなた個人の経験を分かち合っても良いでしょう。）

📖 ピリピ 4：13

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

ピリピ 4 : 15 – 23

パウロ、ピリピ人への感謝を表して書簡を結ぶ

ピリピ 4 : 15 – 23 の要約として、パウロが助けを必要としていたときに支えてくれたことに対し、ピリピの聖徒たちに再度感謝を示したと説明します。聖徒たちの贈り物は、神が喜んで受けてくださる供え物であり、パウロは、神が聖徒の必要も同様に満たしてくださると約束しました。

最後に、このレッスンで話し合った真理について証を述べて、レッスンをまとめます。

マスター聖句-ピリピ 4 : 13

ピリピ 4 : 13 をホワイトボードに書き、一緒に声に出して読むことで、この聖句を暗記できるよう生徒たちを助けます。言葉を一つ消して、もう一度声に出して読みます。全ての言葉を消してしまうまでこれを繰り返します。

家庭学習クラスのレッスン

エペソ2章-ピリピ4章(単元25)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の要約は、生徒がエペソ2章-ピリピ4章(単元25)を研究したときに学んだ出来事、教義、原則についてのもので、教師がレッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の導きに従ってください。

第1日(エペソ2-3章)

使徒パウロは、イエス・キリストの恵みがあるために、全人類は主を信じる信仰を通して救われること、またわたしたちがイエス・キリストのもとに来て、その恵みにあずかるならば、神の聖徒たちと一致することができることによって、エペソの教会員への説教を続けました。また、パウロは主の教会は、イエス・キリストを隅のかしら石とする使徒と預言者の土台に設立されること、使徒と預言者は、神の子供たちがイエス・キリストの愛を知り、感じる助けをするように努めていることを教えました。

第2日(エペソ4-6章)

パウロが引き続き教えた教会の組織に関する事柄から、聖徒を全き者とし、教会員を誤った教義から守る助けとするために、主が使徒、預言者、その他の教会指導者を召されたことを、生徒たちは学びました。パウロはまた、イエス・キリストの弟子は、罪深い古い習慣を捨て、義になつた新しい習慣を取り入れると教えました。

第3日(ピリピ1-3章)

ピリピの聖徒たちにあてたパウロの手紙から、生徒たちは、わたしたちがイエス・キリストに従うときに経験する逆境は、主の御業を進める助けになること、またイエス・キリストの謙遜さと人への無私の思いやりの模範に従うならば、わたしたちはさらに一致することができることを学びました。パウロは、イエス・キリストの贖罪によって可能となった救いのために必要な事柄を望み、それを行えるよう神が助けをくださること、またイエス・キリストに従い、信仰を持って前進するために必要となる全てを犠牲にするならば、主を知り、永遠の命を受けることができるとも教えました。

第4日(ピリピ4章)

ピリピの聖徒たちに対するパウロの手紙を引き続き研究することにより、生徒たちは、わたしたちがイエス・キリストに忠実に従う者として、願いと感謝を持って祈るならば、神の平安でわたしたちを祝福してくださること、また忠実な聖徒たちが自らの思いを義になつた事柄に集中させ、使徒たちと預言者たちに従うならば、平和の神がともにいてくださることを学びました。パウロは、力を与えてくださるイエス・キリストを通じて、わたしたちは全ての事柄を行うことができると教えて書簡を締めくくりました。

はじめに

エペソの聖徒たちに、古き自分を脱ぎ捨て、イエス・キリストに従う者としての新しい人を着よう教えた後、使徒パウロは、彼らに神の武具で身を固めるように教えました。

教えるための提案

エペソ6:10-24

パウロは「神の武具で身を固める」よう聖徒に勧告する

エズラ・タフト・ベンソン大管長の次の言葉をホワイトボードに書きます。(この言葉は、『聖徒の道』1986年7月号、79ページの「み言葉の力」に書かれています。)一人の生徒に、ホワイトボードに書いた文を声に出して読んでもらいます。

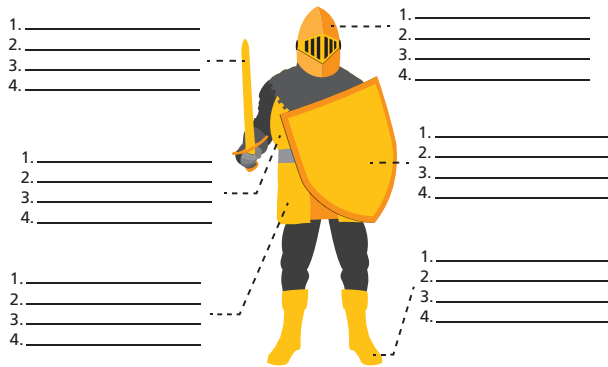
「証を持ち、戒めを守ろうとしている教会員に対して、サタンは戦いを挑んでいます。」(エズラ・タフト・ベンソン大管長)

- サタンは、どのような方法で教会の若者に戦いを挑んでいますか。

一人の生徒に、エペソ6:10-13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、当時の聖徒たちが戦っているとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、当時の聖徒たちが何と戦っていると言いましたか。
- 12節にパウロが書いた事柄は、現在わたしたちが戦っている事柄とどのような点で同じですか。
- パウロは当時の聖徒たちに、これらの悪に対抗するために何を身に着けるよう伝えましたか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。神の武具で身を固めるならば、悪に対抗できるようになる。)

神の武具で身を固める



神の武具の配付資料を生徒たちに配ります。クラスを5つのグループに分けて、各グループにエペソ6:14-17に書かれた武具の一つずつ割り当てます。「真理の帯」〔14節〕は割り当てないでください。小さなクラスでは、一部のグループに複数の武具を割り当てて必要があるかもしれません。）

ホワイトボードに次の質問を書きます。

1. その武具は何のために使いますか。
2. その武具をパウロは何と呼びましたか。（武具の名称の前についている象徴の部分を指します）
3. その武具で守られている体の部位は、霊的に何を表していますか。
4. その霊的な武具を身に着けることは、悪に対抗するためにどのような助けとなりますか。

この資料を完成させる方法を説明するため、一人の生徒に、エペソ6:14を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、「真理の帯」についてホワイトボードに書かれた質問の答えを見つけ、それらを配付資料に書き込んでもらいます。

腰に「しめる」武具とは、身体の中央部を覆うようにしめる帯であることを説明します。その後、数人の生徒にそれぞれの答えを発表してもらいます。生徒たちは次のような答えを挙げられる。(1) 腰(生殖に関わる重要な器官)を覆うために使われる。(2) パウロはそれを「真理」と呼んだ。(3) わたしたちの純潔または道徳的な清さを表す。(4) 救いの計画が真実であることを知ることは、欺きからわたしたちを守り、わたしたちが道徳的に清くあり続けるための助けとなる。

生徒たちがグループでエペソ6:18を読むときにはこのパターンに従ってもらい、配付資料にある各グループに割り当てられた武具の部分完成させてもらいます。

十分な時間を取った後、各グループの代表に学んだ事柄をクラスで発表してもらいます。生徒たちには、各グループが発表する事柄を聞きながら、そのグループが見つけた内容を自分の資料に書き込んでもらいます。

- 全ての神の武具で自分自身を守ることが重要なのはなぜですか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのように神の武具を身に着け、それを強めることができるかを見つけてもらいます。



「わたしたちは、パウロが約束しているとおり、『悪しき日にあたって、よく抵抗』できるように、どのように神の武具で身を固めるでしょうか。

この霊的な武具は、体にぴったり合うように成型された固い金属の道具ではなく、鎖かたびら（訳注一細かい鎖を平らに編んで作った防具）のような物であると考えたいのです。鎖かたびらは、ともにしっかりと結ばれた何十という小さな鋼鉄で構成されていて、保護する力を失わずにより大きな柔軟性を使用者にもたらします。わたしの経験から、わたしたちを霊的に武装するためにできる『偉大な一つの事柄』というものはないと申し上げます。真の霊的な力は、多くの小さな行いの中にあるのです。その一つ一つが絡み合って、あらゆる悪を防ぐ霊的な要塞の骨組みになるのです。』(“Be Strong in the Lord,” *Ensign*, 2004年7月号, 8)

- 神の武具を身に着け、それを強固なものにするために毎日何をしていますか。
- そうすることは、悪、誘惑、または欺きに対抗するためにどのように役立ちましたか。

ホワイトボードに次の質問を書きます。クラスノートか聖典学習帳に、これらの質問の答えを書くよう生徒に勧めます。

あなたの霊的な武具の中で強いと思うものはどれですか。

あなたの霊的な武具の中で最も弱いものはどれですか。

あなたの生活において、これらそれぞれの霊的な武具を強めるために何をすることができますか。

エペソ6:19-24の要約として、パウロが、牢にいる間も「語るべき言葉」(19節)が与えられるように、また福音を大胆に宣傳伝えることができるように祈って欲しいと聖徒たちに依頼して手紙を終えたことを説明します。

今日のレッスンで見いだした真理について証を述べ、受けた御霊の促しの全てを行動に移すよう聖徒たちを励まします。

次の単元(コロサイ1テモテ)

次の一週間、パウロの記述の研究を引き続き行うときに、次の質問の答えを見つけるよう生徒たちに勧めます。金銭を愛することについてパウロは何と言いましたか。どのように偽りの言い伝えに欺かれないようにすることができますか。パウロによると、再臨の前には何が起こらなければなりませんか。どのように再臨が起きたことが分かりますか。

コロサイ人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

パウロは、コロサイ人が重大な過ちに陥っているという報告を受けたことから、彼らに手紙を書きました（『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照）。コロサイにおける偽りの教えと慣習は、その地域の聖徒たちに影響を及ぼし、彼らの信仰を脅かしていました。今日の教会員たちにとっても、同じような文化的圧力が困難を引き起こしています。この書簡が持つ価値の一つは、それがどのようにイエス・キリストの神性と救いの業を強調しながら、偽りを特定し、それらを暴いているかにあります。コロサイ人への手紙を研究することによって、聖徒たちは救い主への改心を深め、欺きと罪からの守りを受けることができます。

誰がこの書を書いたのか

コロサイ人への手紙は、パウロとテモテが送ったものです（コロサイ 1:1, 23; 4:18 参照）。パウロは、手紙の結びに自分自身の挨拶を手書きしたようであり（コロサイ 4:18 参照）、彼の書記（テモテだったと思われる）が手紙の大部分を書く手助けをしたことを示唆しています。

いつ、どこで書かれたか

この手紙は、パウロが紀元 60 – 62 年ごろ、ローマでの最初の投獄生活を送っていたときに書きました（『聖句ガイド』「パウロの手紙」、scriptures.lds.org 参照）。パウロはおそらく、ピリピ人、エペソ人、ピレモンに手紙を書いたのと同じ頃に、コロサイ人への書簡を書いたと考えられます。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

この書簡は、コロサイ（現在のトルコの一地域）の忠実な聖徒たちに宛てて書かれたものです。パウロは、近隣のラオデキヤにいる教会員たちとこの手紙を分かち合うようにコロサイの聖徒たちに指示しました（コロサイ 4:16 参照）。

パウロはコロサイの教会の伝道者エパフラスの訪問を受けた後にこの手紙を書きました（コロサイ 1:7–8 参照）。「エパフラスはパウロに、コロサイ人が重大な過ちに陥ろうしていると述べた。彼らは、幾つかの外形的儀式に注意深く従い（コロサイ 2:16 参照）、また身体の欲求を断ち、

天使礼拝を行っているということ自分たちが他の人々よりも優れていると考えていたのである（コロサイ 2:18 参照）。コロサイ人たちは、このような行いのゆえに、自分たちは聖められていると考えていた。彼らはまた、自分たちは他の教会員よりも宇宙の奥義を深く理解していると思っていた。パウロはこの手紙の中で、贖いはキリストを通してのみ与えられること、また教会員は賢くあってキリストに仕えなければならぬことを教え、彼らの過ちを正した。」（『聖句ガイド』「コロサイ人への手紙」、scriptures.lds.org）

この書の特徴は何か

パウロは、コロサイ人への書簡で、イエス・キリストの神性、救いの使命、主権を強調することによってコロサイの偽りの教えに反論しました（コロサイ 1:15–23 参照）。パウロは、キリストは父なる神の形そのままの御方であり、創造主、教会の頭、最初に復活される御方、贖い主であると教えました。主は「すべての支配と権威とのかしら」（コロサイ 2:10）であり、天の御父の指示の下でその神聖な使命を成し遂げられます（コロサイ 1:19; 3:1 参照）。

パウロは、真の霊性が特別な儀式、祭り、食事を通じて得られると教えた人々に対して警告しました（コロサイ 2:16–18, 20, 23 参照）。その代わりに、霊的な成熟と神についての知識は、「上にあるものを思（い）」（コロサイ 3:2）、義に反する行為を排除し（コロサイ 3:5–9 参照）、キリストのような属性を養う（コロサイ 3:12–17 参照）ことを通して現れるとパウロは教えました。パウロは読者に、福音に「ゆるぐことがなく、しっかりと……ふみとどまり」（コロサイ 1:23）、「〔イエス・キリスト〕に根ざし、彼にあって建てられ、……信仰が確立され〔る〕」（コロサイ 2:7）ように勧告しました。

概要

コロサイ 1:1–23 パウロはコロサイの聖徒たちに挨拶し、イエス・キリストが贖い主、全ての造られた者の中の長子、創造主、そして完全な全ての神性を備えた主であり、キリストによって全人類は神と和解すると宣言する。パウロは聖徒たちに、イエス・キリストを信じる信仰を確立するよう熱心に勧める。

コロサイ 1:24–2:23 パウロは、天使を礼拝したり、霊的な規律の形として基本的な身体を必要を極端に否定したりすることを含む、偽りの哲学や人の言い伝えを信じることに對して警告する。

コロサイ 3:1–4:18 パウロは聖徒たちに、上にあるものに心を向け、過去の生活の罪を捨て、互いに慈悲深くあるよう熱心に勧める。パウロは、聖徒たちがどのように礼拝すべきかについて指示し、妻、夫、子供、親、僕、主人に対して勧告を与える。パウロは、称賛、挨拶、そして最後の指示と祝福を述べてコロサイ人への手紙を結ぶ。

第126課 コロサイ

はじめに

パウロはイエス・キリストの優越性（優位性、偉大さ、卓越性）について教え、偽りの教義に対して警告しました。パウロはコロサイの聖徒たちに天にあるものを思い、キリストの特質

を育むよう勧めました。パウロはまた、他の人々との交流において慈悲深く賢明であるよう教えました。

教えるための提案

コロサイ 1 - 2 章

パウロ、イエス・キリストの優越性について教え、偽りの教義に対して警告する次の絵をホワイトボードに描きます。

- ひどい竜巻がやって来たとしたら、これらの木のどちらが倒れる可能性が高いですか。それはなぜですか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老の次の声明を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、注意しなくてはならない嵐について見つけてもらいます。

「これまでに預言されてきた〔末日の〕地震や戦争よりももっと気がかりなのは、霊を滅ぼす嵐です。それらは、皆さんを霊的な土台から根こそぎ引き抜き、思いも寄らなかった場所へと連れ去ります。時には、自分がそちらの方に進んでいることに気づかないこともあるのです。」（『霊を滅ぼす嵐』『リアホナ』2014年5月号、18）

- イエス・キリストを信じる信仰からわたしたちを引き抜く、つまり引き離してしまう霊を滅ぼす嵐にはどのようなものがありますか。（生徒たちに、それぞれの答えをホワイトボードに書いた竜巻の絵の近くを書いてもらうとよいでしょう。）
- これらの霊を滅ぼす嵐が地震や戦争などの物理的な困難よりもさらに厄介であるのはなぜですか。

生徒たちに、自分自身に影響を及ぼしている霊を滅ぼす嵐が何であるかを深く考えてもらいます。

コロサイの教会員（コロサイ人と呼ばれる）を、イエス・キリストを信じる信仰から引き離す脅威となっていたコロサイにおける影響と偽の教えについて知った後、パウロは彼らに書簡を書いたと説明します。（『聖書の地図』の地図13「使徒パウロの伝道の旅」で、コロサイのすぐ西側にあるラオデキヤを生徒たちに見つけてもらうとよいでしょう。）コロサイ人への手紙を研究しながら、パウロがどのように教会員のキリストへの信仰を強めようとしたか、さらにキリストに深く根付いた信仰を持つことの祝福について調べるよう生徒たちに勧めます。

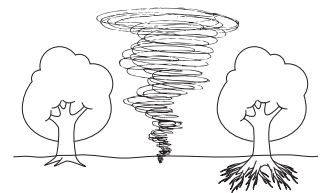
コロサイ 1:1 - 11 の要約として、コロサイの聖徒たちに挨拶をした後、パウロは彼らの忠実さに感謝し、福音を受け入れ、それに基づいて生活する人の人生に、福音は実を結ばせる、つまり祝福をもたらすと教えたことを説明します。次に、パウロは彼らにイエス・キリストについて教えました。

数人の生徒に、コロサイ 1:12 - 19 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストについてパウロが教えた真理を見つけてもらいます。（15節の「見えない」という言葉は、「まだ見たことがない」という意味にも解釈できるギリシャ語 *aoratos* から訳されていると説明するとよいでしょう。）ヘブル 11:27 では、モーセが通常見知らぬ「見えないかた」を見たことを示していることに注意してください〔教義と聖約 67:11 も参照〕。

- パウロはイエス・キリストについて何を教えましたか。（生徒たちの言葉を使って、ホワイトボードの深く根の張った木の下に次の真理を書きます。イエス・キリストは贖い主、天の御父の霊の子供たちの長子、万物の創造主、教会の頭、最初に復活される御方である。）

ホワイトボードを活用する

レッスン時に効果的に使うと、生徒は学ぶ準備ができ、特に視覚によって学ぶ傾向がある生徒に対しては有意義な参加が促されます。教師は、ホワイトボードに、レッスンの要点や原則をまとめたり、教義を図解したり、地図を描いたり、フローチャートを描いたり、聖文中の事柄を絵にしたり、また学習効果を高めるその他の多くの活動を行うことができます。



- イエス・キリストについてのこれらの真理を知り、信じるのが大切なのはなぜだと思いますか。これらの真理を知り、信じることは、主に対する信仰をどのように強めるでしょうか。

ホワイトボードに書いた文の「贖い主」という言葉に注目してもらい、パウロがコロサイの聖徒たちに贖い主が必要である理由を思い起こさせたことを説明します。

一人の生徒に、コロサイ1:20-22を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが贖い主の必要性についてコロサイの聖徒たちに教えた事柄を見つけてもらいます。

- 21節によると、人はどのように神から遠ざかってしまいますか。
- 20節の「和解させ[る]」とはどういう意味でしょうか。(合意または一致に至らせること。)
- 20節と22節によると、イエス・キリストはわたしたちをどのように神と和解させてくださいましたか。(「その十字架の血によって平和をつくり」という句は、イエス・キリストの贖罪を指していることを説明します。)

神と和解するという祝福には、条件が伴うことを説明します。ホワイトボードに次の言葉を書きます — _____ならば、イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたちは神と和解することができる。

一人の生徒に、コロサイ1:23を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神と和解するために必要な事柄を見つけてもらいます。

- 神と和解するためには、わたしたちに何が必要とされますか。
- 「ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり」とはどういう意味ですか。(イエス・キリストを信じる信仰に確固としてあり続けること。)
- 23節から学ぶことに基づくと、ホワイトボードに書いた文をどのように完成できますか。(生徒の言葉を使って、ホワイトボードに書いた原則を次のように完成させます。揺るぐことがなく、しっかりと信仰に踏みとどまり続けるならば、イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたちは神と和解することができる。)

ホワイトボードに描いた絵に注目してもらい、次の質問をします。

- 深く根の張った木のように、キリストへの信仰において揺るぐことなく、しっかりと踏みとどまっている人を誰か知っていますか。
- その人の模範はあなたにとってどのような祝福となっていますか。

生徒たちに、コロサイ2:4, 8を黙読しながら、コロサイの聖徒たちを信仰から根こそぎ引き抜く恐れがある、霊を滅ぼす嵐を見つけてもらいます。

- コロサイの聖徒たちの根こそぎ引き抜いてしまう脅威となっていた霊を滅ぼす嵐とは何でしたか。(イエス・キリストの重要性を損なおうとしていた者によって教えられていた哲学と伝統が幾つか存在していたと説明します。)
- イエス・キリストの重要性を損なうものを含む偽りの教えを信じるのが、なぜ霊的に根こそぎ引き抜かれることを容易にしてしまうのですか。

一人の生徒に、コロサイ2:5-7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この世的な哲学や伝統によって惑わされないよう聖徒たちを助けるためにパウロが与えた勧告を見つけてもらいます。

- コロサイ2:5-7にある教えて、この世的な偽りの哲学、宗教的な教え、言い伝えによって惑わされないようにする助けとなるものは何ですか。(生徒たちは自分の言葉で、次のような原則を見いだすでしょう。イエス・キリストに根ざし、強められることによって、この世的な哲学や言い伝えに惑わされるのを避けることができる。)

ホワイトボードに次の質問を書きます。

イエス・キリストに根ざし、キリストにおいて成長するためにわたしたちができる事柄で、最も大切な事柄の一つだと思うものは何ですか。それがそれほど大切だと思う理由は何ですか。

生徒たちを三、四人のグループに分けます。各生徒に、ホワイトボードに書かれている質問に対する自分の答えをグループのメンバーに説明してもらいます。十分な時間を取った後、数人の生徒に、グループのメンバーから学んだ事柄を発表してもらいます。

生徒たちに、授業の始めに深く考えた個人的な霊を減ぼす嵐をもう一度見直してもらいます。イエス・キリストに根ざし、キリストにおいて成長するため、また霊を減ぼす嵐によって根こそぎ引き抜かれないようにするために何をするかを、クラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

コロサイ 3 - 4 章

パウロはコロサイ人に天にあるものを思い、賢くあるよう勧める

コロサイ 3 - 4 章の要約として、パウロがコロサイの聖徒たちに、義に反する行いをやめ、イエス・キリストの特質を育むよう熱心に勧めたことを説明します。また、特にキリスト教徒ではない人々との関わりにおいて、常に祈り、賢くあるように勧めました。その後、ルカを含む同僚の僕たち数人からの挨拶を伝えました。

今日のレッスンで話し合った真理について証を述べます。

テサロニケ人への第一の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

テサロニケ人への第一の手紙は、現存するパウロの書簡の中で最も初期のものであると考えられており、新約聖書の最古の書物である可能性もあります。この書簡にあるパウロの教えは、主にイエス・キリストの再臨に重点を置いており、これにはイエス・キリストの再臨の前にイエス・キリストに従う者たちが直面する艱難（1テサロニケ 3：3 参照）、再臨におけるキリスト教徒の復活（1テサロニケ 4：13 - 14 参照）、およびキリストの再臨の時期（1テサロニケ 5：1 - 2）が含まれています。この書を研究することにより、生徒たちは再臨について学び、主に忠実であり続けるための励ましを受けます。

誰がこの書を書いたのか

テサロニケ人への第一の手紙を書いたのはパウロです（1テサロニケ 1：1 参照。2：18 も参照）。

いつ、どこで書かれたか

パウロは、紀元 50 - 51 年頃に「2 回目の伝道の旅で、コリントからテサロニケ人に宛ててこの手紙を書き」きました。（『聖句ガイド』「パウロの手紙」、*scriptures.lds.org*）。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

パウロは、テサロニケの教会員たちに宛ててテサロニケ人への第一の手紙を書きました。テサロニケは、この都市がエーゲ海に面した最も優れた天然の港を中心に築かれたこと、またローマとアジアを結ぶ主要幹線道路上に位置していたという 2 つの重要な特徴があったために、古代ギリシャのマケドニア王国の中でも最も人口が多く、繁栄した都市でした。

パウロが二度目の伝道の旅をしていたとき、御霊はパウロとその同僚であったシラス、テモテ、ルカに、エーゲ海を渡ってマケドニアに行くよう導きました（使徒 16：6 - 12 参照）。これにより、ヨーロッパで福音を宣べ伝える業が開始されました。ピリピで教えを宣べ伝えた後（使徒 16：12 - 40 参照）、パウロとシラスはテサロニケに向かって旅しました。

パウロはシラスとともにテサロニケで働きましたが、ユダヤ人の指導者たちによって町から追放されてしまいました（使徒 17：1 - 9 参照）。その後テモテは、テサロニケの聖徒たちが迫害にもかかわらず忠実であり続けたこと、また彼らの義になつた影響が広まっていたことをパウロに報告しました（使徒 18：5；1テサロニケ 1：7 - 8；3：6 - 8 参照）。

テサロニケの改宗者たちは、福音を受け入れた最初のヨーロッパ人に数えられ、その結果として迫害に遭いました。彼らはまた、再臨について多くの疑問を持っていました。このため、パウロはテサロニケ人への手紙の中で彼らを激励し、強める言葉を述べ、イエス・キリストの再臨についての質問に答えました。

この書の特徴は何か

テサロニケ人への第一の手紙におけるパウロの主要なテーマの一つは、再臨です。パウロは、義人、特に既に亡くなった聖徒たちによる再臨への関与に重点を置いています（1テサロニケ 2：19；3：13；4：13 - 17；5：1 - 10 参照）。パウロが書いたその他の多くの手紙とは異なり、1テサロニケには目立った叱責がなく、その代わりにテサロニケの聖徒たちへの称賛の言葉が記されています。

概要

1テサロニケ 1 - 3 章 パウロは、テサロニケの聖徒たちに深い感謝の気持ちを述べる。パウロは手紙の読者たちに、彼らの中でのパウロの愛に満ちた教導の業を思い起こさせ、彼らの忠実さに対する喜びを表す。パウロは、お互いへの愛と全ての人への愛を深めるよう聖徒たちを励ます。

1テサロニケ 4 - 5 章 パウロは聖徒たちに、聖くなり、自らを清めるように言う。パウロは、主が再臨される時、キリストについての自らの証に忠実な聖徒たちは、既に亡くなつていようとまだ生きていようと、引き上げられて主にまみえると説明する。使徒パウロは、教会員たちにキリストの再臨の日に備え、注視することを思い出させる。

第127課

1テサロニケ1-2章

はじめに

テサロニケの聖徒たちが迫害の中にあっても福音に忠実であったことを知ったパウロは、彼らに手紙を書きました。パウロは、彼らの忠実さと福音を教えようとする意欲をたたえまし

た。パウロは、テサロニケの聖徒たちに福音を宣べ伝えた理由を説明しました。

教えるための提案

1テサロニケ1章

パウロ、テサロニケの聖徒たちが苦難にあっても忠実であったことを称賛する

他の人と福音を分かち合ったときの良い経験を生徒たちに話してもらいます。

- 福音を分かち合おうとするときにわたしたちが経験する場合がある困難には何がありますか。

1テサロニケ1-2章を研究しながら、彼らが福音を分かち合おうと努力するときの助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、『聖書の地図』にある地図13「使徒パウロの伝道の旅」でテサロニケを見つけてもらいます。一人の生徒に、テサロニケの聖徒たちについての次の説明を声に出して読んでもらいます。

テサロニケの聖徒たちは、教会の初期のヨーロッパ人の改宗者でした。パウロ、シラス、テモテは、パウロの2回目の伝道の旅の間に初めてそこで福音を宣べ伝えましたが、一部のユダヤ人指導者によって追放されてしまいました(使徒17:5-15参照)。テサロニケの聖徒たちは、パウロと同僚たちが立ち去った後も迫害され続けました。その後パウロは、迫害に直面する聖徒たちを励ますために彼らに書簡を書きました。

一人の生徒に、1テサロニケ1:2-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがテサロニケの聖徒たちについて喜んだ理由を見つけてもらいます。

- パウロがテサロニケの聖徒たちについて喜んだ理由は何ですか。

一人の生徒に、1テサロニケ1:5-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが以前に訪れたとき、テサロニケ人に対してどのように福音を宣べ伝えたかを見つけてもらいます。

- 5節によると、パウロはどのようにテサロニケ人に福音を宣べ伝えましたか。(言葉と神の力によって宣べ伝えた。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福音の言葉と力が何を指しているかを見つけてもらいます。



「真実の福音は、二つのもので構成されています。言葉と力です。言葉は誰でも手にすることができます。それが書かれた書物をどこでも入手できるためです。しかし、力は神からもたらされなければなりません。力を受ける資格のある、律法を守る者に対する神の思いと御心に応じて執り行われる必要があるのです。

福音の言葉とは、人が救われるためにしなければならないことについて語られたり執筆された記述です。……

しかし実際の救いは、神の力を受けて用いる場合にのみもたらされます。そして、この力とは、神権の力であり、聖霊の力です。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻[1965-1973年], 第3巻, 42-43)

- マッコンキー長老によると、福音の言葉は何を指していますか。福音の力は何を指していますか。

- 6節によると、言葉と神の力によって福音を教えられたテサロニケ人は何をしましたか。(彼らはキリストに従う者、キリストの僕となった。)
- 5-6節のパウロの教えは、原則を示すためどのように要約することができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われませんが、次の原則を見つけましょう。わたしたちが言葉と神の力によってイエス・キリストの福音を教えるときに、他の人が主に従う者や主の僕になるのを助けることができる。)
- 言葉と神の力によって福音を教える備えをするために、わたしたちには何ができますでしょうか。

一人の生徒に、1テサロニケ1:7-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、テサロニケの聖徒たちが福音を受け入れた後で、他に何をしたかを見つけてもらいます。

- 福音を受け入れたテサロニケの聖徒たちは、他に何をしましたか。彼らの模範は周りの他の信者たちにどのような影響を与えましたか。
- 福音を分かち合うことができる方法について、これらの節からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見いだすでしょう。わたしたちは自分たちの模範を通して、福音を分かち合うことができます。)

この真理を生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の言葉を読んでもらいます。



「福音を宣べ伝える一番良い方法は模範です。信じていることに従って生活するならば、人は気づきます。イエス・キリストの面影がわたしたちの生活の中で輝きを放つならば〔アルマ5:14参照〕、わたしたちが喜びに満ちていて、平安に暮らしているならば、人はその理由を知りたくなります。伝道活動についてこれまでに語られた説教の中で最も偉大なものの中に、アッシジの聖フランシスコが言ったとされる次の言葉があります。『全ての行いを通して福音を宣べ伝えなさい。必要であれば言葉を使いなさい。』〔ウィリアム・フェイとリンダ・エバンズ・シェパード、*Share Jesus without Fear* (1999年)、22で引用〕(「ダマスコに行く途中でとどまる」『リアホナ』2011年5月号、77)

- 模範を通して教えることが、ただ福音について話すことよりも効果的な方法であるのはなぜですか。
- 福音を受け入れたら、より忠実に福音に従って生活することにおいて、他の人の模範は、どのようにあなたの助けになりましたか。

1テサロニケ2章

パウロ、彼と同僚たちがテサロニケ人をどのように教え導いたかを説明する

義にかなった模範を示すテサロニケの聖徒たちを称賛した後、パウロは、彼らに対する愛と、以前に彼らに福音を宣べ伝えたときに彼が示した模範とを聖徒たちに思い起こさせたと説明します。

次の参照聖句と質問をホワイトボードに書きます。

1テサロニケ2:1-13

- パウロと同僚たちがテサロニケ人に示した、義にかなう模範を表す語句には何がありますか。

数人の生徒に、1テサロニケ2:1-13を順番に声に出して読んでもらい、他の生徒には、よく聞いてもらいます。または、数人の生徒に声に出して読んでもらう代わりに、小さなグループ、二人一組、または個人でこれらの節を調べてもらうこともできます。生徒たちに、パウロと同僚たちがテサロニケ人に示した義にかなう模範を表す語句を見つけてもらいます。見つけた箇所に印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

十分に時間を取った後、生徒たちにホワイトボードに来てもらい、見つけた語句を一つか二つ書いてもらいます。わたしたちが他の人に義にかなった模範を示そうと努力するときに、それらの語句がどのような指針となるかを説明してもらいます。

1テサロニケ2:14-18の要約として、テサロニケの聖徒たちは福音を受け入れたために迫害に遭っているとパウロが言ったことを説明します。パウロは、彼らを再び訪れようとしたが、サタンに「妨げられた」(18節)と聖徒たちに伝えました。

質問を別の言葉で言い換える

時折、質問の意味がよく理解できないために生徒が答えに窮することがあります。そのときは、質問を別の言葉で言い換える、または質問の意味が分かったかどうかを生徒に尋ねるとよいでしょう。生徒が深く考えて適切な答えをまとめるために十分な時間を与えることなく、次々と質問し続けることは避けてください。

一人の生徒に、1 テサロニケ 2:19 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが彼の「望みと喜び」(19 節) と表現した事柄を見つけてもらいます。

- パウロは何を彼の「望みと喜び」と表現しましたか。
- パウロの望みと喜びは、わたしたちに対する天の御父の望みと喜びをどのように反映していますか。

このレッスンで見いだした真理についての証を述べて、レッスンを終わります。福音を言葉で語ること、および義にかなう模範を示すことの両方によって福音を分かち合う方法を生徒たちに深く考えてもらいます。受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

1 テサロニケ 3 - 5 章

はじめに

使徒パウロは、テサロニケの教会員たちの信仰を強めることを望みました。パウロは彼らにイエス・キリストの再臨にお

ける死者の復活について教え、再臨のために備える方法を教えました。

さまざまな教授法を用いる

説得力のある教授技術でも、使いすぎれば、効果がなくなったり退屈なものとなったりします。目先を変えるだけの方法を選んでではありませんが、日によって教え方に変化をつけることで、より効果的に教える教師になることができます。さまざまな教授法を用いることは、生徒が異なる方法で学べるようにするのに役立ちます。

教えるための提案

1 テサロニケ 3 章 - 4 : 12

使徒パウロ、テサロニケの教会員たちの信仰を強めることを望む

次のイエス・キリストの再臨に関する正誤クイズのコピーを生徒たちに配り、各質問の横にある「正」または「誤」を選んでもらいます。

1 テサロニケ 3 - 5 章

正／誤 質問 1. 再臨の前に亡くなった忠実な聖徒たちは、福千年の終わりまで復活しない。

正／誤 質問 2. 再臨のときに生き長らえている忠実な聖徒たちは、キリストが来られるときに引き上げられ、お会いすることができる。

正／誤 質問 3. 再臨は、盗人が夜来るように、全ての人を驚かす。

ここで答え合わせはしませんが、正しい答えは今日のレッスンの中で見つけることができると生徒たちに説明します。1 テサロニケ 3 - 5 章を研究しながら、イエス・キリストの再臨についての真理を見つかるよう生徒たちに勧めます。

パウロ、シラス、テモテは、テサロニケで短期間福音を宣べ伝えた後、ユダヤ人の指導者によって町から追放されたことを生徒たちに思い出してもらいます（使徒 17 : 5 - 15 参照）。その後、パウロは、新会員の様子を確認し、彼らの信仰を強めるために、テモテをテサロニケに送りました。1 テサロニケ 3 : 1 - 7 では、テモテが、迫害に遭いながらも聖徒たちが忠実であったことをパウロに報告したことが分かります。また、テモテは、おそらく聖徒たちがイエス・キリストの再臨について多くの疑問を抱えていたことも報告したと思われます。パウロは、テサロニケの聖徒たちの質問に答えるために書簡を書きました。

一人の生徒に、1 テサロニケ 3 : 9 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがテサロニケの聖徒たちから離れている間、何を求めて祈っていたと言ったかを見つけてもらいます。

- テサロニケの聖徒たちから離れている間、パウロは何を求めて祈りましたか。
- 10 節の「あなたがたの信仰の足りないところを補いたい」という語句はどういう意味ですか。（パウロはテサロニケの教会員たちの信仰を強めることを望んでいた。）

テサロニケの教会員たちの信仰を強めようとパウロが取った方法の一つは、彼らが再臨のために備える方法をよりよく理解できるように助けることであつたと説明します。一人の生徒に、1 テサロニケ 3 : 11 - 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが再臨に備えるために主が行ってくださることをパウロが望んだ事柄を見つけてもらいます。

- 聖徒たちが再臨に備えるために主が行ってくださることをパウロが望んだ事柄は何ですか。

一人の生徒に、1 テサロニケ 4 : 1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが、再臨に備えるために行うようテサロニケの聖徒たちに熱心に勧めた事柄を見つけてもらいます。

- パウロが、再臨に備えるために行うようテサロニケの聖徒たちに熱心に勧めた事柄は何ですか。

クラスの各生徒に次の参照聖句を一つ割り当てます（クラスの大きさによっては、複数の生徒に同じ参照聖句を割り当てる必要があるかもしれません）。1 テサロニケ 4:2 - 5:4:6 - 8:4:9 - 12 生徒たちに、割り当てられた参照聖句を読んでから次の質問に答えてもらいます（これらの質問をホワイトボードに書くとよいでしょう）。

- 主を喜ばせるために、パウロは何をするよう聖徒たちに強く勧めましたか。
- その教えに従って生活することは、どのように彼らが再臨に備える助けとなると思えますか。

十分な時間を取った後、数人の生徒にそれぞれの答えを発表してもらいます。

1 テサロニケ 4:13 - 18

パウロ、イエス・キリストの再臨における死者の復活について教える

「再臨」（『福音の視覚資料集』66 番:LDS.org も参照）の絵を見せます。

テサロニケの聖徒たちは再臨のある側面を誤解していたことを説明します。彼らは、既に亡くなったテサロニケの聖徒が再臨の祝福を経験することができないと心配していました。

一人の生徒に、1 テサロニケ 4:13 - 14, 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の前に亡くなった忠実な聖徒たちについてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。パウロが死者を表すために「眠っている」および「眠った」という言葉を用いたことを説明します。

- 再臨の前に亡くなった忠実な聖徒たちについてパウロが教えた真理は何ですか。（生徒が次の真理を見いだすでしょう。再臨の前に亡くなる忠実な聖徒たちは、キリストが再び来られる時に復活する。）
- 14 節の「神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さる」という語句はどういう意味ですか。（再臨のときに復活する忠実な聖徒たちは、引き上げられてキリストにまみえ、栄光のうちに主とともに降りてくる〔教義と聖約 88:97 - 98 参照〕。）

一人の生徒に、1 テサロニケ 4:15, 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、キリストの再臨のときに生きながらえている忠実な聖徒たちについてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。15 節のジョセフ・スミス訳では後半の部分が変えられて「生きながらえて主の来臨を迎える人々が、眠ったままで主の来臨の時まで残っている人々より先になることはないであろう」となっており、17 節のジョセフ・スミス訳では、「それから生きながらえる人々が、残っている人々と共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主にまみえ、こうして、いつも主と共にいるであろう」に変えられていることを説明します。ジョセフ・スミス訳では、これらの節の「わたしたち」が「人々」に差し替えられており、再臨がパウロの時代には起こらないことを示していると指摘するとよいでしょう。

- 再臨のときに生きながらえている忠実な聖徒たちについてパウロが教えた真理は何ですか。（生徒は次の真理を見つけるでしょう。再臨のときに生きながらえている忠実な聖徒たちは、イエス・キリストが来られるときに引き上げられ、キリストにまみえる。）

生徒たちに 1 テサロニケ 4:18 を黙読しながら、再臨についてのこれらの真理を耳にした聖徒たちに、パウロが何をしよう望んだかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- 再臨についてのこれらの教義からどのような慰めを得ることができますか。

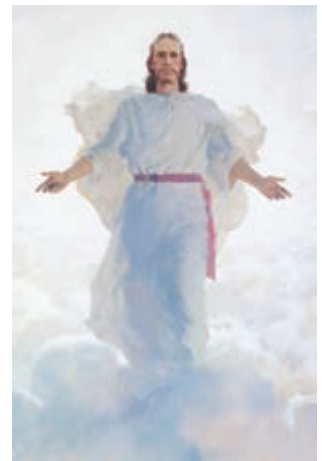
1 テサロニケ 5 章

パウロ、テサロニケの教会員たちに再臨に備える方法を教える

一人の生徒に、1 テサロニケ 5:1 - 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の時期を説明するためにパウロが用いた二つのたとえを見つけてもらいます。

- 再臨の時期を説明するためにパウロが用いた二つのたとえは何ですか。（「盗人が夜くるように」〔2 節〕と「妊婦に産みの苦しみか臨むように」〔3 節〕。）

夜に来る盗人は通常「思いがけない時に前ぶれもなく」来ることを説明します（ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻〔1965 - 1973 年〕, 第 3 巻, 54）。



- パウロの夜の盗人のたとえは、再臨についてわたしたちに何を教えていますか。
- パウロの妊婦の産みの苦しみのたとえは、再臨についてわたしたちに何を教えていますか。

生徒たちがこれらの質問に答えてから、産みの苦しみに臨む妊婦のたとえについて、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老が次の事柄を教えたことを説明するとよいでしょう。「彼女は子供が生まれる正確な時間は知りませんが、おおよその時間は知っています。」(Doctrinal New Testament Commentary, 第3巻, 54) このたとえから、再臨に先立つ試練は産みの苦しみに似ていると考えることもできます。しかし、子供の誕生が素晴らしいものであるように、義にかなう者にとっては再臨はすばらしいものになるでしょう。

一人の生徒に、1テサロニケ5:4-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、忠実な聖徒たちが再臨に驚かない理由を見つけてもらいます。

- 忠実な聖徒が再臨に驚かない理由は何ですか。
- 「光の子」になるとはどういう意味ですか。(5節の「光の子」という語句は、「やみのわざを捨てて」[ローマ13:12]、聖霊を伴侶とした結果、再臨に備えられた忠実な教会員を指しています[教義と聖約106:4-5参照]。)
- 「目をさまして慎んでいよう」(1テサロニケ5:6)とはどういう意味ですか。
- 再臨に備える方法についてパウロがテサロニケの聖徒たちに教えた事柄を、どのように要約することができますか。(生徒の言葉を使って、次の真理をホワイトボードに書きます。わたしたちが忠実であり、再臨に先立つしるしに注意を払えば、イエス・キリストの再臨に備えることができる。)

一人の生徒に、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の次の言葉を読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、どのように再臨に備えることができるかを見つけてもらいます。



「地上には災難と苦悩が満ちており、人々はそのために意気消沈している。わたしたちはいちじくの木が葉をつけているのを見るのと同じように、しるしを見ている。その時が近いのを知っているのだから、わたしもあなたがたも、地上の全ての人々もキリストの言葉に注目し、使徒に注目し、目を覚ましている義務がある。なぜならば、わたしたちはその日も時刻も知らないからである。」(Doctrines of Salvation, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻[1954-1956年], 第3巻, 52-53)

- スミス大管長によると、わたしたちはどのように再臨に備えることができますか。
- 生徒たちに、レッスンの最初に行った正誤クイズの文と、書き込んだ答えを見直してもらいます。
- このレッスンで学んだ真理と照らし合わせて、答えを変えられるところはありますか。(正解: [1] 誤, [2] 正, [3] 誤)

1テサロニケ5:7-22の要約として、パウロが再臨に備える方法について、聖徒たちにさらに勧告したことを説明します。

生徒たちに1テサロニケ5:12-22を黙読しながら、再臨のときに彼ら自身とその他の人々が救い主にまみえる準備をするために、何をすればよいかについてパウロが勧告した事柄を見つけてもらいます。生徒たちに、特に印象に残る勧告を選んでもらいます。生徒たちに、次の質問に対する答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。(これらの質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう。)

- 1テサロニケ5:12-22のどの勧告が特に印象に残りましたか。
 - この勧告に従って生活することは、どのようにあなた自身と他の人を再臨に備える助けとなりますか。
 - 他の人に対して、どのようにこの勧告を日々心に留めておくよう励ますことができますか。
- 十分な時間を取った後、生徒たちに答えを発表してもらいます。

一人の生徒に、1テサロニケ5:23-24を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、忠実な聖徒たちが再臨に備えるときに、神が聖徒たちのために行ってくださいとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- 神は、再臨に備える忠実な聖徒たちに何をしてくださいますか。

このレッスンで教えた真理について証を述べ、再臨に向けて忠実に備えるよう生徒たちに勧めてこのレッスンを終わります。

注釈と背景情報

1 テサロニケ 4 : 17 「共に……引き上げられ」

「1 テサロニケ 4 : 17 のジョセフ・スミス訳は、『それから生きながらえる人々が、残っている人々と共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう』となっています。多くのキリスト教徒は、義にかなう人々

が再臨において救い主にまみえるために引き上げられる時に言及する場合に、**有頂天** (*rapture*) (「引き上げられること」を意味するラテン語) という言葉を使います。」(*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014年], 450)

テサロニケ人への第二の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

テサロニケ人への第二の手紙の中で、パウロは、イエス・キリストの再臨に関することについて誤解していた教会員に対し、勧告の言葉とその説明を記しました。パウロの教えを研究することは、生徒たちが背教の本質と、主の再臨に向けて正しく備える方法を理解する助けとなります。

誰がこの書を書いたのか

2テサロニケを書いたのはパウロです(2テサロニケ1:1参照。2テサロニケ2:5:3:17も参照)。書簡の導入部分には、シラスとテモテからの挨拶(2テサロニケ1:1)も書かれています。

いつ、どこで書かれたか

パウロは、紀元50-51年頃に「2回目の伝道の旅で、コリントからテサロニケ人に宛ててこの手紙を書きました」(『聖句ガイド』「パウロの手紙」, *scriptures.ids.org*)。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

パウロはテサロニケ人への第二の手紙を、テサロニケの教会の会員に宛てて書きました。テサロニケ人への第一の手紙と第二の手紙のテーマはよく似ており、これはパウロが第一の手紙の内容を明確化し、さらに詳しく述べるために第二の手紙を書いたことを示唆しています。テサロニケ人はパウロが送ったとされた偽の手紙を受け取っていたようであり、一部の人はこの手紙によって再臨が既に起こったと信じるようになっていました(2テサロニケ2:2参照)。

「二つの書簡の間の短い期間中に教会は迫害に苦しんだ(2テサロニケ1:4。主はすぐに戻って来られるという見通しが、人々をいたずらに動揺させた(2:2)。」(*Bible Dictionary, "Pauline Epistles"*の項)パウロは、これらの会員の信仰を強め、教義上の誤解を正すために2テサロニケを書きました。

この書の特徴は何か

テサロニケ人への第二の手紙には、イエス・キリストの再臨に関する重要な詳細が記載されています。幾つかの例として、主は「炎の中で」再び戻って来られることや、悪人は「主の〔御前〕から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受ける」(2テサロニケ1:7-9)というものがあります。

この書簡には、パウロが大背教についても預言し、主の再臨の前に教会は福音から「背教」することを経験すると教えたことが記されています(2テサロニケ2:2-12参照)。背教についてのパウロの教えは、現代の教会員に末日における福音の回復が必要であった理由を思い起こさせてくれます。

概要

2テサロニケ1章 パウロはテサロニケの聖徒たちに挨拶し、彼らを賞賛する。パウロは、不信心な者が再臨のときに主の報復を受けることを教える。

2テサロニケ2章 パウロは、再臨が既に起こったという誤った考えを正し、主の再臨の前には背教が起こると預言する。パウロは、テサロニケの聖徒たちに、忠実であり続けるよう励まします。

2テサロニケ3章 パウロは、自らの物質的な必要を満たすために働き、たゆまずに良い働きをするよう教会員に勧告する。

第129課

2 テサロニケ

はじめに

テサロニケの聖徒たちに第一の手紙を書いて間もなく、パウロは第二の手紙を書きました。その中で、パウロは再臨についての真理を明確にしました。パウロは、背教が起こるまで救い主が再び訪れることはないと教えました。その後パウロは怠

惰な生活をやめるように教え、聖徒たちに「たゆまずに良い働き」(2 テサロニケ 3 : 13) をするよう勧告しました。

教えるための提案

2 テサロニケ 1 - 2 章

パウロ, イエス・キリストの再臨を預言することで聖徒たちを励ます

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。

「わたしは全ての人、特に教会の青少年に申し上げます。皆さんは、まだ経験していないとしても、いつの日か、自分の信仰を擁護する必要に迫られることがあるでしょう。おそらく、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるというだけのことで面と向かって罵られ、それを堪え忍ばなければならないこともあるでしょう。」(「弟子として歩むことに伴う犠牲と祝福」『リアホナ』2014年5月号, 6)

自分の信仰を擁護したり、教会員であるがための逆境を堪え忍んだことがある生徒に手を挙げてもらいます。数人の生徒に、自分の経験を話してもらいます。

パウロがテサロニケの聖徒たちに第二の手紙を書き、聖徒たちが直面していた逆境を含む幾つかの話題について述べたことを説明します。2 テサロニケ 1 章を研究しながら、教会員として直面するかもしれない逆境や艱難に堪える助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、2 テサロニケ 1 : 3 - 5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがテサロニケの聖徒たちを賞賛した理由を見つけてもらいます。

- なぜパウロはテサロニケの聖徒たちを賞賛したのですか。
- 5 節によると、「忍耐と信仰」を持って逆境や患難を堪え忍ぶことによって聖徒たちが受ける報いは何ですか。
- 忍耐と信仰を持って逆境や艱難を堪え忍ぶならば、どのように祝福を受けるかについて、これらの節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うと思われませんが、次のような内容の原則を見つけるはずです。逆境や艱難の中でも、忍耐と信仰を持って忠実に堪え忍ぶなら、わたしたちは神の王国にふさわしい者に数えられる。)

一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、忍耐強く堪え忍ぶとはどういう意味かを見つけてもらいます。



「忍耐とは、無抵抗に諦めることでも、恐れて行動しないことでもありません。忍耐とは、積極的に待って堪え忍ぶことです。持ちこたえ、できる全てを行い、働き、希望を持ち、信仰を働かせることです。望むように事が進まなくても、不屈の精神で苦難に耐えることです。忍耐は単なる我慢ではなく、よく堪え忍ぶことなのです。」(「忍耐し続ける」『リアホナ』2010年5月号, 57)

- ウークトドルフ管長によると、忍耐強く堪え忍ぶとはどういう意味ですか。
- 逆境や艱難を忍耐強く堪え忍ぶために信仰が必要となるのはなぜですか。

生徒たちに、逆境や艱難を忠実に忍耐強く堪え忍んだ知人、または聖典の中の人物について考えてもらいます。

- 逆境や艱難に忠実かつ忍耐強く堪え忍ぶことをどのように示した、誰について考えたでしょうか。

生徒たちに、現在彼らが経験している逆境や艱難について考えてもらい、どのようにそれらの苦難を忍耐と信仰を持って堪え忍ぶことができるかを判断してもらいます。助けを求め祈るように生徒たちを励ましてください。

2テサロニケ1:6-10に書かれているように、パウロはイエス・キリストの再臨を預言したことを説明します。生徒たちを二人か三人のグループに分けます。各グループで、一緒に2テサロニケ1:6-10を読んでもらい、次の質問について話し合ってもらいます。(これらの質問をホワイトボードに書くか配付資料として配ってもよいでしょう。) 生徒たちに、答えをクラスノートか聖典学習帳に記入してもらいます。

- パウロはどのような言葉や表現を使って再臨を説明しましたか。
- 再臨が起こるとき、義人には何が起こりますか。
- 再臨が起こるとき、悪人には何が起こりますか。

十分な時間を取った後、何人かの生徒にグループで見つけた事柄を発表してもらいます。ホワイトボードに次の真理を書いてください — イエス・キリストの再臨のとき、義人は休息を得るが、悪人は滅ぼされる。

- 義人は何を離れて休息を得るのだと思いますか。
- イエス・キリストに従う決意のために現在苦難に堪えている人にとって、この教義はどのような慰めになりますか。

生徒たちに、イエス・キリストの再臨はいつ起こるのだろうと疑問に思ったことがあれば手を挙げてもらいます。テサロニケの聖徒たちも同じように疑問に思っていたことや、パウロは聖徒たちが惑わされているのではないかと心配していたことを説明します。

一人の生徒に、2テサロニケ2:1-2を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の時期について、テサロニケの聖徒たちがどのような結論を下していたとパウロが考えたかを見つけてもらいます。

- 再臨の時期について、パウロがテサロニケの聖徒たちに信じて欲しくないと思っていた事柄は何ですか。(再臨はすぐに訪れるということ。)

生徒たちに、2テサロニケ2:3を黙読しながら、再臨の前に起こるとパウロが言った事柄を見つけてもらいます。

- これらの節から、再臨の前に起こる事柄についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは違った言葉を使うかもしれませんが、次のような真理を見つかるでしょう。イエス・キリストの再臨の前には、背教が起こる。)

これらの節では、パウロは彼の時代の教会員たちに対し、主の再臨の時期についてよりも、彼らの中で既に始まっていた背教について注意を払うように勧めたことを指摘します。

背教が何であったかを生徒たちがさらに理解できるように、一人の生徒に、次の説明を声に出して読んでもらいます。

「イエス・キリストの死後、悪い人々は使徒たちと教会員を迫害し、多くを殺しました。使徒たちが死んだことによって、神権の鍵と、管理する神権の権能は地上から取り去られました。それまで使徒たちは福音の教えを純粹に保ち、教会員のふさわしさの秩序と標準を維持していました。使徒たちがいなくなったことにより、時間がたつにつれて福音の教えはゆがめられ、教会の組織、また、バプテスマや聖霊の賜物の授与などの、神権の儀式が許可なしに変えられていきました。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動のガイド』35)

- 背教について理解したことに基づくと、イエス・キリストの福音と教会の回復が必要だった理由は何ですか。

2テサロニケ2:3にある「不法の者」とはサタンを指していることを説明します。モルモン書の出現を含む福音の回復により、サタンとサタンに従う者の欺きが「現れる」(3節)ことになりました。

2テサロニケ2:4-17の要約として、再臨までサタンが地上の民を欺くことを主がお許しになるとパウロが預言したことを説明します。パウロは聖徒たちに教えられたことを「しっかりと守り続け」(15節)るよう励ましました。

📖 2テサロニケ

2:1-3 はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

2 テサロニケ 3 章

パウロ、怠惰な者に警告し、自立を説く

パウロがテサロニケ人に第二の手紙を書いた当時、教会員たちは聖餐を受けることに合わせて定期的に宴を開いていたと説明します。しかし、テサロニケの会員の中には、宴に出て食事はしても、食事のための食べ物を提供したり準備をすることを拒む者がいました。

- このような状況からどのような問題が起きたと思いますか。

2 テサロニケ 3:1-9 の要約として、パウロは忠実な聖徒たちをたたえ、「怠惰な」(6 節) 者と関わることについて警告したと説明します。また、パウロと彼の同僚たちは、自らを養うために働くことによって物質的に自立することの模範を示したことも手紙に書きました。

一人の生徒に、2 テサロニケ 3:10-13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、働こうとしない者に関して行うようにとパウロが聖徒たちに指導した事柄を見つけてもらいます。

- 12 節によると、働こうとしない者についてパウロはどのような指示を与えましたか。(「働いて自分で得たパンを食べる」、つまり自身の必要を満たすことによって自立するよう指示した。)
- 13 節によると、パウロは忠実な聖徒たちに対してさらにどのような指示を与えましたか。
- 「たゆまずに良い働きをなさい」とはどういう意味ですか。
- これらの節から何を学ぶことができますか。(生徒たちは違った言葉を使うかもしれませんが、次のような真理を見つけられるでしょう。わたしたちは自立し、人々を助ける努力をするよう命じられている。)

一人の生徒に、『若人の強さのために』からの次の文を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが自立するためにどのような努力ができるかを見つけてもらいます。

「働くことによってもたらされる祝福の一つは自立することです。自立すると、あなたは神から授かった祝福と能力を使って、自分自身と自分の家族を養い、自分の問題については自分で解決策を見つけられるようになります。自立とはあらゆることを自分一人の力で処理できるという意味ではありません。真の意味で自立するには、人々とともに働くと同時に、主に頼り主の助けと力を求めることができるようにならなければなりません。

神はあなたがなすべき偉大な業を準備しておられます。このことを忘れないでください。神はその業を達成しようとするあなたの努力に対して祝福を与えてくださいます。』(『若人の強さのために』〔小冊子〕41)

- 自立するためにどのような努力ができますか。
- 自立はどのような祝福をもたらしますか。

わたしたちが自立できるよう努めるとき、主は、わたしたちが自分たちの必要を満たし、抱えている問題への解決法を見つけるために助けてくださることを証します。

現在そして将来、さらに自立するためは何ができるかを生徒たちに考えてもらいます。生徒たちに、さらに自立するための助けとなる目標を定めて、それを達成できるよう主の助けを求めるように勧めます。

2 テサロニケ 3:14-18 の要約として、パウロは手紙の終わりに、聖徒たちに怠惰な生活をやめて、怠惰で悪影響を及ぼす人々から離れるよう勧告したことを説明します。しかし、聖徒たちは彼らを敵として見なすのではなく、福音における兄弟姉妹としてたしなめるように教えられました。

このレッスンで教えられた真理について証して、レッスンを終わります。

マスター聖句－ 2 テサロニケ 2 : 1 - 3

それぞれの生徒に、聖文研究補助資料（脚注や『聖句ガイド』など）を使って、2 テサロニケ 2 : 1 - 3 以外で背教について教えている聖文を見つけてもらいます。十分時間を取ってから、数人の生徒に見つけた聖句を発表し、それらの聖句が背教について何を教えているのかを説明してもらいます。ホワイトボードに生徒が見つけた参照聖句のリストを書いてもよいでしょう。生徒たちに、2 テサロニケ 2 : 1 - 3 の参照聖句としての聖句を一つ選んでもらいます。2 テサロニケ 2 : 1 - 3 の近くの余白にこの参照聖句を書き込むよう生徒たちに勧めてもよいでしょう。このマスター聖句が最もよく使われるのは、背教と回復の必要性を教えるときであると説明します。生徒たちに、2 テサロニケ 2 : 1 - 3 とホワイトボードに書かれたリストの参照聖句の一つを使って、パートナーに背教について教えてもらいます。

テモテへの第一の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

テモテへの第一の手紙では、パウロがエペソの教会指導者であるテモテに、必ず健全な教義が教えられるようにし、一般に信じられている偽りが福音を教える妨げとならないよう勧告したことが記されています。パウロはテモテに、ビショップと執事の職について教え、またそれらの職で奉仕する者の資格について検討しました。パウロはまた、改宗したときにイエス・キリストから受けた憐れみへの深い感謝の気持ちについて詳しく語りました。1テモテを研究することは、生徒たちが教会で健全な教義を教えることの重要性に対する意識を高める助けとなります。また、生徒たちは救い主の憐れみと、ビショップやその他の教会指導者の重要な役割に対する正しい理解を深めることもできます。

誰がこの書を書いたのか

テモテへの第一の手紙を書いたのはパウロです(1テモテ1:1参照)。

いつ、どこで書かれたか

パウロのテモテへの第一の手紙は、紀元64年から65年の間、おそらくパウロがマケドニアにいたときに書かれたと思われる(『聖句ガイド』『パウロの手紙』、scriptures.lds.org; 1テモテ1:3参照)。この書簡を書く前、パウロはローマでの二年に及ぶ投獄(自宅監禁)から解放され、広く方々を旅して、彼が以前教会の支部を設立した地域を訪問していたと考えられます(*Bible Dictionary*, “*Pauline Epistles*” の項参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

パウロは、二度目の伝道の旅で彼とともに奉仕したテモテにこの書簡を書きました(使徒16:3参照)。彼らの伝道の後も、テモテは引き続き忠実な宣教師、かつ教会の指導者であり続け(使徒19:22; ペリピ2:19参照)、パウロが最も信頼する同僚の一人でした(1コリント4:17参照)。パウロはテモテを「信仰によるわたしの真実な子」と呼びました(1テモテ1:2)。テモテの父親はギリシャの異邦人でしたが、彼には義にかなったユダヤ人の母親と祖母がおり、テモテを教え、聖文の学習を助けました(使徒16:1; 2テモテ1:5; 3:15参照)。

この手紙が書かれたとき、テモテはエペソで教会指導者として奉仕していました(1テモテ1:3参照)。パウロは、テモテが年若かったために、一部の教会員が彼の

指導者としての能力に疑いを持っていたと示唆しました(1テモテ4:12参照)。パウロは直接テモテを訪問するつもりでしたが、それがかなうかどうか確信が持てませんでした(1テモテ3:14; 4:13)。パウロは、若い教会指導者のテモテがその務めについてさらによく理解できるように、この手紙を書きました。

この書の特徴は何か

1テモテ、2テモテ、テトスへの手紙として知られるパウロの手紙は、牧師、つまり教会の指導者へのパウロの勧告が書かれていることから、しばしば牧会書簡と呼ばれています(*Bible Dictionary*, “*Pauline Epistles*” の項参照)。英語の「牧師(*Pastor*)」という言葉は、「羊飼ひ」を意味するラテン語に由来しています。

パウロは、テモテがビショップや執事として奉仕するためにふさわしい候補者を見つける助けとなる指針を提案しました(1テモテ3章参照)。パウロの指針は、会員の物質的および霊的な必要を満たすための教会指導者の責任を強調する助けとなりました(1テモテ5章参照)。またパウロは、禁欲主義(厳格な禁欲によってより卓越した霊性を得ることができるという教え)という一般的な偽りの思想についても話しました。例えば、パウロは一部の教会員が背教し、結婚が禁じられるべきであるという考えを広めるであろうと警告しました(1テモテ4:1-3参照)。このことやその他の異端の影響に対処するため、パウロは健全な教義を教えるようテモテに指示しました(1テモテ1:3-4, 10:4; 1-6, 13, 16参照)。

概要

1テモテ1章 パウロは偽の教えについて警告する。パウロは、自分を救うために偉大な憐れみを示された主イエス・キリストを誇る。パウロは、改宗前におけるキリスト教徒への敵対を暗に示し、自分自身を罪人の「かしら」(1テモテ1:15)、つまり最も悪い罪人と呼ぶ。パウロは、キリストの憐れみにより他の人々も助けられると言って彼らを安心させる。

1テモテ2-3章 パウロは、祈りと正しい礼拝の必要性を教える。パウロは、イエス・キリストが全ての人々に対する代価であり、御父と人との間の仲保者であると教える。パウロは男女に対して、礼拝のときにどのように振る舞うべきかを教える。パウロは、ビショップと執事の資格について概要を説明する。信心深さの奥義とは、イエス・キリストが御自身を低くされたこと、キリストの地上での完全な生涯、そしてキリストが栄光の座に上られることであると、パウロは説明する。

1テモテ4章 パウロは、一部の人が結婚や食習慣に関する偽りの教えによって欺かれるとテモテに警告する。パウロは結婚と、神の創造物を感謝していただくことの重要性について語る。パウロは、当時と、近いうちに生じる偽りの教えに対処する方法をテモテに教える。

1テモテ5-6章 パウロは、老人、若者、未亡人、長老、奴隷の必要を満たすために仕える助けとなる指針をテモテに与える。パウロは、偽教師についてテモテに説明する。パウロは「金銭を愛することは、すべての悪の根である」(1テモテ6:10)と警告し、聖徒たちがどのように永遠の命を得る方法についてテモテに教える。

第130課

1 テモテ

はじめに

パウロはエペソの神権指導者であったテモテに手紙を書き、必ず真の教義が教えられるようにするよう勧告しました。また、ビショップと執事の資格を定め、テモテに信者の模範となるよう勧告しました。パウロは、貧しい人とやもめの世話をす

るよう聖徒たちを諭しました。彼は、「金銭を愛することは、すべての悪の根である」(1テモテ6:10)と教えることによって、手紙を終えました。

教えるための提案

1テモテ1-3章

パウロ、教会を見守る責任についてテモテを指導する

一人の生徒に、次のトーマス・S・モンソン大管長の話を声に出して読んでもらいます。



「わたしはずっと前にビショップをしていたときの経験を思い出します。ある日曜の朝の神権会の開会行事で、ある若者を祭司の職に聖任する準備をしていました。その日、神殿ワーカーを務める高等評議員がワードを訪問していました。わたしが若者を会衆の方へ向けて座らせ、聖任の儀式を行おうとすると、その高等評議員がさえぎってこう言いました。『ビショップ、わたしはいつも、聖任される人を神殿の方へ向けることにしています。』そして若者が神殿の方へ向くように椅子を動かしました。わたしはすぐに承認されていない行為だと気づきました。」「開会の言葉」〔世界指導者訓練集会、2010年11月〕、lds.org/broadcasts)

高等評議員ではなく、ビショップであったモンソン大管長が彼のワードにおける主の御業を管理する権限を受けていたと説明します。

- ビショップまたは支部会長がそのような承認されていない行為を許可することには、どのような危険がありますか。

使徒パウロがエペソの若い神権指導者であったテモテに手紙を書いたことを説明します。テモテが管理していた教会の支部で、テモテはモンソン大管長が直面したものと同様の困難に直面していました。

数人の生徒に、1テモテ1:3-7を順番に読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、テモテにパウロがどのような責任を与えたかを見つけてもらいます。「作り話」(4節)という言葉が偽りの教えを指しており、「はてしのない系図」(4節)に気をとられるとは、長々とした果てしない系図でよく知られていた、アブラハムの選ばれた子孫にのみ救いがもたらされるといふ誤った言い伝えを、また「空論」(6節)とは無意味な討論を指していることを説明します。

- 3-4節によると、パウロはテモテにどのような責任を与えましたか。
- 6-7節によると、テモテがこの責任を果たすことが大切であった理由は何ですか。
- パウロの神権指導者の責任に関するテモテへの勧告から、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われますが、次のような内容の真理を見つけていることを確認します。神権指導者には、必ず真の教義と正しい実践が教えられるようにする責任がある。ホワイトボードにこの真理を書いてください。)

生徒たちに、ビショップであったモンソン大管長が遭遇した状況を思い起こしてもらいます。一人の生徒に、その話の続きを読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、モンソン大管長が高等評議員にどう応じたかを見つけてもらいます。

「その行為がさらに広められる可能性があると分かりました。わたしは高等評議員よりも若輩でしたが、何をしなければならぬかを知っていました。椅子を元に戻し、再び会衆の方へ向くようにして、彼に言いました。『このワードでは、会衆の方へ向けます。』」（「開会の言葉」[lds.org/broadcasts](https://www.lds.org/broadcasts)）

- わたしたちは、必ず真の教義と正しい実践が教えられるようにするために働く神権指導者によって、どのように祝福されていますか。

1 テモテ 1:8 – 11 の要約として、神の律法の教師になることを望みながら、その律法を正しく理解していない者たちについてパウロが警告したことを説明します。

一人の生徒に、1 テモテ 1:12 – 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがイエス・キリストへの感謝を表した理由を見つけてもらいます。

- パウロはなぜイエス・キリストへの感謝を表したのですか。
- 15 – 16 節によると、パウロはどのような点でイエス・キリストを信じる全ての人に対する「模範」なのですか。

1 テモテ 1:17 – 3 章の要約として、パウロはテモテに自分の信仰を保つように勧告したと説明します。パウロは、イエス・キリストはわたしたちの仲保者であられることを教え、どのように振る舞うべきであるかについて聖徒たちに勧告しました。また、ビショップと執事の資格も決めました。

1 テモテ 4 – 5 章

パウロ、イエス・キリストの忠実な奉仕者の特質について説明する

クリップ、ひも、テープ、磁石を準備します。ひもの一方をクリップに結び、もう一方をテープで机またはテーブルに貼り付けます。磁石をクリップにつかない距離まで近づけます。クリップは、磁力によって磁石に引き寄せられます。磁石を動かして、それがクリップの動きにどのように影響するかを見せます。

- クリップが人を表しているとすれば、磁石は何を表しているでしょうか。

生徒たちに、自分がどのように磁石のようになって周りの人に影響を与えたかを考えてもらいます。1 テモテ 4 章を研究しながら、周りの人の人生に良い影響を与える方法について教える原則を見つけるよう、生徒たちに勧めます。

1 テモテ 4:1 – 11 の要約として、「後の時」（1 節）に一部の教会員が信仰を離れ、「結婚を禁じ〔る〕」（3 節）などの誤った教えや慣行に従うとパウロが預言したことを説明します。パウロはテモテに、聖徒たちを真理の教義で養うよう強く勧めました。

生徒たちに、1 テモテ 4:12 を黙読してもらい、パウロがテモテにどのような人になるよう勧告したのかを見つけてもらいます。この節の「行状」という言葉が、行いや振る舞いを指していることを説明します。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

- 「信者の模範」になるとはどのような意味だと思えますか。（生徒が聖典のこの語句に印をつけるように提案するとよいでしょう。）
- パウロは、どのような面で「信者の模範」となるようパウロに勧告しましたか。（生徒たちの答えをホワイトボードに書きます。）

一人の生徒に、1 テモテ 4:13 – 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがテモテに信者の模範になる助けとして与えた別の助言を見つけてもらいます。

- テモテが信者の模範になるのに役立つ、パウロがテモテに与えた別の勧告は何ですか。
- 15 節によると、パウロがテモテに対し、教えた教義を実行し、それを励むようにと言ったのはなぜですか。（全ての事に進歩が現れるため）
- 16 節のパウロの教えによると、わたしたちがイエス・キリストの信者の模範となるよう努力するときに、どのような結果がもたらされますか。（次のような原則を、生徒たちの言葉を使ってホワイトボードに書いてください。わたしたちがイエス・キリストの信者の模範であれば、自分自身と周りの人々に救いをもたらす助けができる。）
- イエス・キリストを信じ、従う者の模範になることは、どのように周りの人に救いをもたらす助けとなりますか。

個人の経験を話す

最も有意義で影響力のある学習経験の幾つかは、教師が生徒に、自分の生活から福音の原則の真実性を描写する物語を分かち合ってもらうときに実現します。聖文の背景と並べて福音の原則を現代の状況に置くことにより、生徒たちに、福音の原則が自分の生活とどのように関連しているかをより良く理解させ、その原則を応用したいという望みを持たせることができます。

生徒たちにホワイトボードのリストを見直してもらい、テモテが「信者の模範」(1テモテ4:12)となる方法を考えてもらいます。人がこのような、それぞれの特質において模範とされる方法を生徒たち説明してもらいます。

- パウロが述べた方法の一つによって、誰かがあなたのために信者の模範として行動したのはどのようなときでしたか。(あなた自身の生活から、経験を紹介するとよいでしょう。)

生徒たちがイエス・キリストの信者の模範となり、そうすることで自分自身と周りの人に救いをもたらす助けとなる方法に関する目標を、クラスノートか聖典学習帳に書くよう勧めます。

1テモテ5章の要約として、やもめなどの助けを必要とする人々を聖徒たちがどのように養うべきかについて、パウロがテモテに指導したと説明します。

1テモテ6章

パウロ、他の人々が永遠の富を求めるのを助けるようテモテに強く勧める

生徒たちにお金を見せます。

- お金は、人をさらなる悪とさらなる善のどちらに導くと思いますか。それはなぜですか。

1テモテ6章には、パウロが金銭についてテモテに勧告したことが記録されていると説明します。一人の生徒に、1テモテ6:6-10を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、富について、パウロが教え、警告した事柄を見つけてもらいます。

- パウロのどの教えまたは警告が印象に残りましたか。それはなぜですか。
- 「金銭を愛することは、すべての悪の根である」(1テモテ6:10)という語句は何を意味すると思いますか。
- 9-10節によると、金銭を愛することは何につながりますか。(生徒に答えてもらった後、次の真理をホワイトボードに書きます。金銭を愛することは、不義と背教につながる。)
- 金銭への愛が不義と背教につながるのはなぜだと思いますか。



金銭そのものではなく、金銭への「愛」が不義につながることを生徒たちが理解できるように、一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「お金そのものは悪ではありません。良いサマリア人はお金を使って同胞を助け、ユダは同じお金のために主を裏切りました。『金銭を愛することは、すべての悪の根』なのです(1テモテ6:10, 強調付加)。両者の決定的な相違は、この世のものやこの世の経験を検討し、評価し、管理する際の霊性の度合いです。」「(霊性)」「聖徒の道」1986年1月号, 60)

次の参照聖句と質問をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒たちに渡します。

1テモテ6:11-12, 17-19

パウロはテモテと富んでいる者たちにどのような勧告を与えましたか。

この勧告は、わたしたちが富を求め、それをを用いることに対して正しい姿勢を持つためのどのような助けとなりますか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒たちに、参照聖句を読んでもらい、パートナーと質問について話し合ってもらいます。十分に時間を取った後、数人の生徒に話し合った事柄を発表してもらいます。

- 19節によると、聖徒たちが神を信頼して良い業に富んでいれば、パウロは何を得ることができると言いましたか。
- 永遠の命を得るためにわたしたちができる事柄についてのパウロの教えから、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われるが、次のような内容の原則を見つけていることを確認します。わたしたちが生ける神を信頼し、良いわざに富むなら、永遠の命を得ることができます。)
- わたしたちが神を信頼し、義を追い求めることを最優先するならば、わたしたちが富について考え、求め、使う方法にどのような影響を与えるでしょうか。

永遠の命を得ることは、人を真に富める者とするという証を述べて、レッスンを終わります。永遠の命という真の富を得ることができるように、義を追い求めることを最優先とするように生徒たちを励まします。

家庭学習クラスのレッスン

コロサイー 1 テモテ (単元 26)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の要約は、生徒がコロサイー 1 テモテ (単元 26) を研究したときに学んだ出来事、教義、原則についてのもので、教師がレッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせ、レッスンを進めるよう、聖霊の導きに従ってください。

第 1 日 (コロサイ)

コロサイ人への書簡の中で、パウロは、イエス・キリストが贖い主であり、天の御父の霊の子供たちの長子、万物の創造主、教会の頭、最初に復活される御方であると教えました。生徒たちはまた、揺らぐことなく、しっかりと信仰に踏みとどまり続けるなら、イエス・キリストの贖罪を通じて、わたしたちは神と和解することができることも学びました。さらに、イエス・キリストに根ざし、キリストにおいて成長することによって、この世的な哲学や伝統に惑わされないようにすることもできます。

第 2 日 (1 テサロニケ)

テサロニケの聖徒たちに宛てたこの書簡の中で、パウロは彼らの忠実さをたたえ、主の再臨についての真理を教えました。この手紙を研究する中で、生徒たちは次の真理を学びました— 神の言葉と力によってイエス・キリストの福音を教えるとき、わたしたちは他の人々がキリストに従う者、キリストの僕となる助けをすることができる。わたしたちは模範を通して福音を分かち合うことができる。再臨の前に亡くなる忠実な聖徒たちは、キリストが再び来られる時に復活する。再臨の時に生きながらえている忠実な聖徒たちは、イエス・キリストが来られるときに引き上げられ、キリストにお会いすることができる。忠実で、イエス・キリストの再臨に先立つしるしに気をつけるなら、キリストが再び来られるときに備えることができる。

第 3 日 (2 テサロニケ)

イエス・キリストの再臨についての真理を明確にするテサロニケの聖徒たちへのパウロの手紙を研究することにより、生徒たちは、忍耐と信仰をもって忠実に逆境と艱難を堪え忍ぶなら、神の国にふさわしい者に数えられることを学びました。パウロは、イエス・キリストの再臨のとき、義人は休息を得るが、悪人は滅ぼされると教えました。また、イエス・キリストの再臨の前に背教が起こることも教えました。生徒たちは、わたしたちが自立し、人々を助けるために努力するよう命じられていることも学びました。

第 4 日 (1 テモテ)

エペソの若い神権指導者であるテモテへの、パウロのこの手紙から、神権指導者には、必ず真の教義と正しい実践が教えらるるようにする責任があることを、生徒たちは学びました。また生徒たちは、金銭への愛は不義と背教につながることも学びました。その一方、わたしたちが生ける神を信頼し、良い業に富むならば、永遠の命を手に入れることができます。

はじめに

パウロはエペソの神権指導者であったテモテに手紙を書き、信者の模範となるよう彼に勧告しました。

教えるための提案

注— この単元で、生徒たちはマスター聖句 (2 テサロニケ 2 : 1 - 3) を学びました。その聖句が教える真理を生徒たちに要約してもらうことによって、この聖句を見直してもよいでしょう。生徒たちがこの聖句の一部を暗記するのを助けるために、3 節を生徒全員で数回暗唱することもできます。

1 テモテ 4 章

パウロ、イエス・キリストの忠実な奉仕者の特質について説明する

クリップ、ひも、テープ、磁石を準備します。ひもの一方をクリップに結び、もう一方をテープで机またはテーブルに貼り付けます。磁石をクリップにつかない距離まで近づけます。クリップは、磁力によって磁石に引き寄せられます。磁石を動かして、それがクリップの動きにどのように影響するかを見せます。

• クリップが人を表しているとすれば、磁石は何を表しているでしょうか。

生徒たちに、自分がどのように磁石のようになって周りの人に影響を与えたかを考えてもらいます。1 テモテ 4 章を研究しながら、周りの人の人生に良い影響を与える方法について教える原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

1 テモテ 4 : 1 - 11 の要約として、「後の時」(1 節) に一部の教会員が信仰を離れ、「結婚を禁じ[る]」(3 節) などの誤った教えや慣行に従うとパウロが預言したと説明します。パウロは聖徒たちを真の教義で養うようテモテに強く勧めました。

生徒たちに、1 テモテ 4 : 12 を黙読しながら、パウロがテモテにどのような人になるよう勧告したのかを見つけてもらいます。この節の「行状」という言葉は、行いや振る舞いを指していることを説明します。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

• 「信者の模範」になるとはどういう意味だと思いますか。(生徒が聖典のこの語句に印をつけるように提案するとよいでしょう。)


- パウロは、どのような点で「信者の模範」になるようテモテに勧告しましたか。（生徒たちの回答をホワイトボードに書きま

す。）

一人の生徒に、1テモテ4:13–16を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、テモテが信者の模範になるのに役立つ、パウロがテモテに与えた別の勧告とは何かを見つけてもらいます。

- テモテが信者の模範になるのに役立つ、パウロがテモテに与えた別の勧告とは何ですか。
- 15節によると、パウロがテモテに教えた教義を実行し、それを励むようにと言ったのはなぜですか。（全ての事に進歩が現れるため。）
- 16節のパウロの教えによると、わたしたちがイエス・キリストの信者の模範となるよう努力するときに、どのような結果がもたらされますか。（次のような原則を、生徒たちの言葉を使ってホワイトボードに書いてください。**わたしたちがイエス・キリストの信者の模範であれば、自分自身と周りの人々に救いをもたらす助けができる。**）
- イエス・キリストを信じ、従う者の模範になることは、どのように周りの人に救いをもたらす助けとなりますか。

生徒たちにホワイトボードのリストを見直してもらい、テモテが「信者の模範」（1テモテ4:12）であった特質について考えてもらいます。人がこれらのそれぞれの特質において模範とされる方法を生徒たちに説明してもらいます。

 次のビデオ、「汚い言葉ゼロクラブ」（4分57秒）または「置き忘れられたハンドバッグ」（2分40秒）のどちらかを見せることを検討するとよいでしょう。これらのビデオは、[LDS.org](https://www.LDS.org) から入手できます。生徒たちには、このビデオの中の若い男性または女性がどのような点でイエス・キリストの信者の模範であるのかに注意してもらいます。

- 誰かが、パウロが述べた特質の一つによって、あなたのために信者の模範として行動したのは、どのようなときでしたか。（あなたの生活から、自分の経験も紹介するとよいでしょう。）

イエス・キリストの信者の模範となり、それによって自分自身と周りの人に救いをもたらす助けとなる方法についての目標を、クラスノートか聖典学習帳に書くよう生徒たちに勧めます。

次の単元（2テモテ1章–ヘブル4章）

今の時代にイエス・キリストの弟子であることの難しさを、生徒たちに幾つか考えてもらいます。明日から一週間、生徒たちがパウロの手紙の学習を続けるときに、苦難や迫害にかかわらず、忠実であり続ける助けとなる真理を学ぶと説明します。

テモテへの第二の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

テモテへのパウロの第二の手紙は、イエス・キリストについての証を持つことからもたらされる力を強調しています(2テモテ1:7-8参照)。また、パウロとテモテの時代だけでなく、末日にも訪れる「苦難の時代」についての預言も書かれています(2テモテ3:1-7参照)。困難に直面しているテモテの助けとなるよう、パウロは、聖文と教会指導者を信頼するよう(2テモテ3:14-17参照)、そして真の教義に頼るよう勧めました(2テモテ4:2参照)。この書を研究することにより、生徒たちは、末日の苦難の時代を経験するときに忠実に生活する助けとなる教義と原則を学びます。

誰がこの書を書いたのか

テモテへの第二の手紙を書いたのはパウロです(2テモテ1:1参照)。

いつ、どこで書かれたか

パウロのテモテへの第二の手紙は、おそらく紀元64-65年の間に書かれたと思われます(『聖句ガイド』「パウロの手紙」, *scriptures.lds.org* 参照)。パウロはローマでの二度目の獄中生活の間、殉教の直前にこの書簡を書きました(*Bible Dictionary, "Pauline Epistles"* の項参照)。

投獄中、パウロは鎖につながれており(2テモテ1:16; 2:9参照)、独房または地下牢で過酷な環境にさらされていたと考えられます(2テモテ4:13, 21参照)。彼の友人たちは、パウロの居場所を探し出すために非常に苦労しました(2テモテ1:17参照)。ルカはパウロを定期的に訪問していたようであり(2テモテ4:11参照)、パウロは自分の命が残り短いことを予期していました(2テモテ4:6-8参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

この手紙で、パウロはテモテを励まし、差し迫るパウロの死後も、テモテがその業を続行していく助けとなる力を与えました。パウロは自分に残された時間が少ないことを知っており、パウロが比喩的に「愛する子」(2テモテ1:2)と呼んだテモテに会うことを望んでいました。

手紙の終わりに、パウロはテモテとマルコに、自分を訪問して、残してきた物を幾つか持ってくるように頼みました(2テモテ4:9-13参照)。パウロの手紙は特にテモテに宛てられたものでしたが、パウロは当時だけでなく、わたしたちの時代にも関連する困難と解決方法を教えたことから、手紙の勧告は「終りの時」(2テモテ3:1)に生きる人々にも当てはまります。

この書の特徴は何か

この手紙は、1テモテとテトスへの手紙とともに牧会書簡の一つとされており、その中には「使徒パウロの最後の言葉が書かれ、死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と強い期待が示されています」(*Bible Dictionary, "Pauline Epistles"* の項参照) 時系列的に、2テモテは新約聖書におけるパウロの最後の手紙であると思われる(2テモテ4:6参照)。

この手紙には「宣教者、使徒、教師」(2テモテ1:11)として仕えることの祝福と難しさについてのパウロの見解が一部書かれています。パウロは次のように宣言しました。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。」(2テモテ4:7-8)これはパウロが永遠の命を受けるとい個人的な確信を持っていたことを表しています。イエス・キリストのために30年以上教え導いた者として、パウロは、他の人の信仰を強めることにおける効率的な奉仕の仕方をもテモテに指導するために非常に良い立場にありました(2テモテ2:15-17, 22-26; 4:1-2, 5参照)。

概要

2テモテ1章 パウロは神権の聖任を通して授けられる神の賜物と力について語る。パウロは、「臆する霊」(2テモテ1:7)が神から来るのではないこと、またイエス・キリストについての証を恥じてはならないことを教える。パウロは、自分が福音を宣べ伝えるようにイエス・キリストから召されたことを証する(2テモテ1:11参照)。

2テモテ2章 パウロは優れた兵士、勝利を収める競技者、勤勉な農夫のたとえを用いて、永遠の栄光を受けるために苦難を堪え忍ぶことの必要性を説明する。パウロは、真の教師と偽りの教師を、尊い器と卑しい器に対比させる。パウロは、論議を避け、悔い改めを必要とする人に忍耐強く教えるようテモテに警告する。

2テモテ3-4章 パウロは、終わりの日の邪悪な状態を説明し、神権指導者としての役割の中で聖文を使うようテモテを励ます。パウロは、差し迫る死について書き記し、「信仰を守りとおした」(2テモテ4:7)と宣言する。パウロは、主が自分を「天にある御国」(2テモテ4:18)に救い入れて下さると証する。

第131課

2テモテ1-2章

はじめに

テモテへの第二の手紙の中で、パウロは、恐れは神から来るものではないことを教え、イエス・キリストについての証を恥じることがないようにテモテに勧告しました。パウロは試練を忠

実に堪え忍ぶようテモテを励まし、聖徒たちに悔い改めを教えるよう指示しました。

教えるための提案

2テモテ1章

パウロ、テモテに福音を恥としないよう勧告する

「恐れ」という言葉をホワイトボードに書き、恐れがわたしたちにどのような影響を及ぼすかを生徒たちに考えてもらいます。一人の生徒に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読んでもらいます。



「一体、不安や恐れのない人というのはいるのでしょうか。そのような人に、わたしはいまだかつて出会ったことがありません。もちろん、人より大きな不安を抱いている人はいます。またすぐに不安を取り除いてしまうことのできる人もいれば、不安のとりこになって圧倒され、それに打ち負かされてしまう人もいます。人からばかにされるのではないかという不安、失敗するのではないかという不安、孤独や無知への不安など、わたしたちはさまざまな不安に駆られます。

現在に対して、また将来に対して大きな不安を抱いている人々もいます。また罪の重荷を背負い、その重荷から逃れるために何もかも手放し、それでいて生活を変えることを恐れている人々もいます。」(「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく……」『聖徒の道』1985年2/3月号, 21)

- ヒンクレー大管長によると、恐れはわたしたちにどのような影響を及ぼしますか。
- 恐れはわたしたちが福音に従って生活する能力にどのような影響を及ぼすでしょうか。

2テモテ1章を研究しながら、恐れを克服する助けとなる原則を見つけるよう生徒たちに勧めます。

パウロは死の直前、ローマで投獄されていたときにこの第二の手紙を書いたと説明します。2テモテ1:1-5の要約として、パウロはテモテに会いたいと願ったこと、そしてテモテの誠実な信仰を思い起こしたことを説明します。

一人の生徒に、2テモテ1:6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがテモテに何をしようと思いつきさせたかを見つけてもらいます。

- パウロはテモテに何をしようと思いつかせましたか。

按手によって受けた「神の賜物」とは、おそらく聖霊を指していることを説明します。パウロはテモテに聖霊の賜物をもう一度呼び覚ます、つまり聖霊がテモテとともにあるよう熱心に願い求めるように諭しました。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — 御霊がともにあるよう熱心に願い求めるとき、_____。

一人の生徒に、2テモテ1:7-8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖霊がともにあるときにもたらされる祝福を見つけてもらいます。

- 7節によると、御霊がわたしたちとともにあることからどのような祝福がもたらされますか。
- これらの祝福はわたしたちが何を克服する助けとなりますか。

パウロは、心配、不安、恐怖を引き起こすこの世の恐れについて述べているのであり、聖文が「主を恐れること」(箴言9:10)としているものとは異なることを説明します。主を恐れるとは、「神に対しての畏敬の念を持ち、その戒めに従うこと」です(『聖句ガイド』「畏れ；恐れ」, scriptures.lds.org)。

- 8節によると、パウロは、御霊が恐れを克服する助けとなり得るという理解のもとに、何をしようテモテに勧めましたか。

生徒たちに、ホワイトボードに書いた文を7-8節のパウロの教えを使ってどのように完成させるか尋ねます。生徒の言葉を用いて、次の原則が伝わるように文章を完成させます。御霊がわたしたちとともにあるよう熱心に願い求めるとき、わたしたちは恐れを克服し、イエス・キリストについての証を恥じることがなくなる。

- 御霊によって与えられる神聖な力、愛、優れた判断力は、わたしたちが恐れを克服するためのどのような助けとなりますか。
- わたしたちがイエス・キリストの証を恥じていないことを表す方法には、どのようなものがありますか。
- 御霊が恐れを克服する助けとなったり、イエス・キリストについての証を固く守る勇気をくださったのは、どのようなときでしたか。

この世的な恐れを克服し、イエス・キリストについての証を恥としないように御霊を招くには何ができるか、生徒たちに深く考えてもらいます。

2テモテ1:9-18の要約として、パウロは真の教義に忠実であり続けるようにテモテを諭したと説明します。また、パウロは教会に大規模な背教が広がりつつあることを認めました(2テモテ1:15参照)。

2テモテ2章

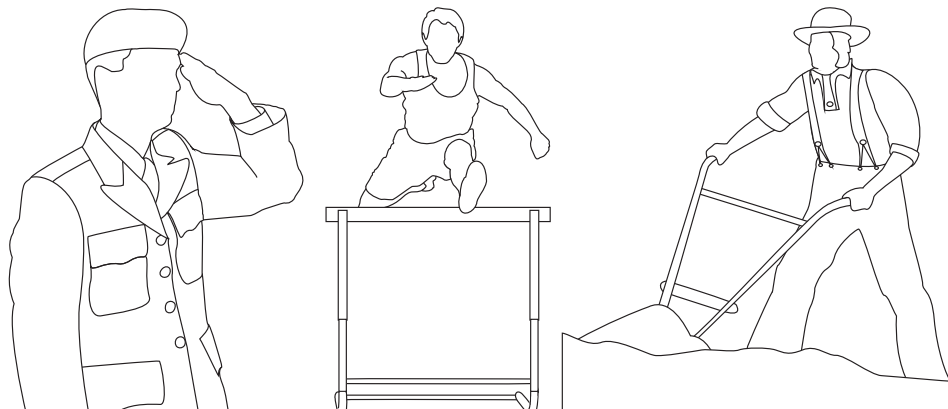
パウロ、苦難を忠実に堪え忍ぶようテモテに指示する

生徒たちに2テモテ2:1を黙読しながら、パウロのテモテに対する勧告を見つけてもらいます。

- テモテに対するパウロの勧告は何でしたか。(わたしたちは信仰によってイエス・キリストの恵みまたは聖なる助けを受けると説明します[ローマ5:2参照]。)
- イエス・キリストを信じる信仰において強くあり続けることが難しいと感じる人がいるのはなぜでしょうか。

パウロはテモテがキリストの弟子として苦難と迫害に遭うことを知っていたため、イエス・キリストの恵みを通じて強くあるようテモテに勧告したと説明します。

兵士、運動選手、農夫の絵を見せます。(または、生徒にこれらの三人の絵をホワイトボードに描いてもらうこともできます。)



パウロは兵士、運動選手、農夫のたとえを用いて、苦難の中にあっても信仰を強く持ち続ける方法をテモテに教えたと説明します。

ホワイトボードに次の表を書き写します。生徒たちに、クラスノートか聖典学習帳にこの表を書き写してもらうか、これを配付資料として配ります。

たとえ	説明	このたとえが信仰において強くあり続けることについて教えている事柄
兵士		
運動選手		
農夫		

一人の生徒に、2 テモテ 2:3 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが兵士、運動選手、農夫をどのように説明したかを見つけてもらいます。

- 3 - 4 節のパウロの教えによると、良い兵士は何をしますか。(次の文章を、表の「説明」の下にある最初の欄に書き込みます。「良い兵士は、司令官を喜ばせるために忠実に困難に堪え、日常生活の事に煩わされない。」)
- 5 節にある「規定に従って」競技をしなければ「栄冠は得られない」とはどういう意味ですか。(次の文章を「説明」の下にある 2 つ目の欄に書き込みます。「競技をする者は、規定に従う場合にのみ勝利者となることができる。」)
- 6 節によると、収穫のために懸命に働く農夫はどのような報酬を受けますか。(次の文章を「説明」の下にある 3 つ目の欄に書き込みます。「農夫は、自分の労働の成果を享受するために懸命に働かなければならない。」)

生徒たちに、信仰において強くあり続けることについてそれぞれのたとえが何を教えているかを表の 3 列目に書き込んで、表を完成させてもらいます。数人の生徒に答えを発表してもらいます。

キリストの弟子であるために多くの試練を経験したとパウロが述べたことを説明します(2 テモテ 2:9 参照)。一人の生徒に、2 テモテ 2:10 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、そのような試練に堪えた理由についてパウロが述べた事柄を見つけてもらいます。「選ばれた人たち」(10 節)とは、忠実な教会員を意味していると説明します。

- 10 節と 12 節のパウロの言葉によると、パウロが自ら進んで試練を堪え忍び、イエス・キリストに忠実であり続けた理由は何ですか。
- わたしたちが試練を堪え忍び、主に忠実であり続けるならば何が起こり得るかについて、パウロからどのような原則を学ぶことができますか。(生徒は異なった言葉を使うと思いますが、次のような内容の原則を見つけるでしょう。わたしたちが試練を堪え忍び、主に忠実であり続けるとき、自分自身や他の人たちがイエス・キリストを通じて救いを得る助けとなることができます。この原則をホワイトボードに書いてください。)
- わたしたち自身の試練を、信仰を持って堪え忍ぶことが、どのように他の人がイエス・キリストを通じて救いを得る助けとなりますか。

2 テモテ 2:13 - 19 の要約として、争いを避け、「不義から離れ[る]」(19 節)ことを生徒たちに思い起こさせるよう、パウロがテモテに勧告したと説明します。

お椀、コップ、花瓶などのさまざまな容器の絵を見せます。一人の生徒に、2 テモテ 2:20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのような器が「大きな家」にあるのかを見つけてもらいます。

- パウロによると、どのような器が「大きな家」にありますか。

生徒を信頼する

適切に導き励ませば生徒は聖文を理解し、教義と原則を見つけるようになり、他の人々に福音を説明し、福音の教えを生活に應用できるという信仰を持ちます。

パウロは、イエス・キリストの家族、つまり教会の会員のたとえとして異なる種類の器を用いたと説明します。一人の生徒に、2テモテ2:21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、何が人を「主人に役立つ〔器〕」にふさわしくするのかを見つけてもらいます。

- パウロによると、わたしたちは「主人に役立つ」者になるために何ができますか。

「人が卑しいものを取り去って自分をきよめる」(21節)という表現は、不義から完全に清められることを意味すると説明します(19節参照)。

- パウロの器のたとえから、わたしたちがより良く主に仕えるために何ができるかについて、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような原則を見つけるはずで、罪悪を取り去るなら、わたしたちはより忠実に主に仕えることができる。)
- 罪悪を取り去るにはどのようなことができますか。

生徒たちに、2テモテ2:22を黙読しながら、罪悪を取り去るには他に何ができるかを見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

- 罪悪を取り去ることは、主により良く仕えるためにどのような助けとなるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、宣教師として主に仕える人たちにこの原則がどのように当てはまるかについて見つけてもらいます。



「もしも宣教師自身が性的な背きに陥っていたり、不敬な言葉を使っていたり、ポルノグラフィーにおぼれたりしていて悔い改めていないとしたら、同じことを悔い改めるよう人に勧めることはできません。そのようなことはできないのです。そのような人は御霊を受けられません。悔い改めの言葉を語っても、その言葉は本人の首を絞めるだけです。そのような人は、リーハイが『禁じられた道』[1ニーファイ8:28]と呼んだ道をさかのぼって『細くて狭い道』[2ニーファイ31:18]へ人々を導くことなどできないのです。

……皆さんがどんな人であろうと、どんな罪を犯していようと、赦しを受けることができます。……これは『赦しの奇跡』であり、主イエス・キリストの贖罪の奇跡です。しかし、積極的に福音に従う決心をしないかぎり、また必要な場合には悔い改めをしないかぎり、罪を捨て去ることは不可能です。……教会に活発に集い、清さを保つようお願いします。教会に活発に集い、清くなる必要があるならば、そのようにしてください。」「(戦い止むまで)『リアホナ』2011年11月号、45)

- 福音を宣べ伝えるときに罪から清められていることが必要不可欠であるのはなぜですか。

この原則の真実性についての証を述べて、レッスンを終わります。生徒たちに、より良く主に仕えることができるように悔い改めるべき罪がないかどうかを深く考えるよう勧めます。

注釈と背景情報

2 テモテ 1:7-8 「だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない」

中央若い女性会長のボニー・L・オスカーソン姉妹は、新たな信仰を擁護する勇気を見せたイタリアの若い改宗者、マリー・マデリーン・カードンについて話しました。

「最近、マリー・マデリーン・カードンという女性の話を読みました。1850年にイタリアで奉仕するよう召された最初の宣教師から、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを家族とともに聞いた女性です。バプテスマを受けた当時、17歳か18歳の若い女性でした。ある日曜日、北イタリアのアルプスの自宅で家族と礼拝行事を行っていると、地元の司祭らを含む怒った暴徒らが家を取り囲み、叫び始め、宣教師に外に出て来るよう要求しました。もちろん、福音を教えてもらいたいわけではなく、危害を加えようとしていたのです。そこで、若きマリーが出て行って暴徒と対峙しました。

暴徒らは怒鳴り続け、宣教師に外に出て来るよう求めました。マリーは聖書を高く掲げて彼らに立ち去るよう命じ、宣教師は守られており髪の毛一本傷つけさせはしないと言い放ちました。彼女自身の言葉をお聞きください。『皆仰天しました。……神がともにいて、その言葉を授けてくださったのです。そうでなければあのようなことはとうてい言えなかったでしょう。その場は即座に静まり返り、屈強で凶暴な男たちは、か弱く震えてはいるものの、それでいて恐れ知らずの少女の前に力なく立ち尽くすばかりでした。』司祭らが皆に立ち去るようと言うと、暴徒らは、恥と恐れと後悔の念を抱きながらすすごと去って行きました。そして、家の中の小さな会衆は無事に集会を終えました。

皆さんの多くと同じ年齢のこの勇敢な若い女性が暴徒と対峙し、勇気と確信をもって、新たに見いだした信仰を擁護する姿を想像できますか。』（「家族の宣言の擁護者」『リアホナ』2015年5月号、14）

2テモテ3－4章

はじめに

パウロはテモテに手紙を書き、彼ら二人の時代だけではなく、末日にも背教と邪悪がはびこることを説明しました。パウロは既に学んだ真理に忠実であり続けるようテモテに指示しま

した。パウロは聖文の目的について教えました。パウロは、熱心に教導の業を成し遂げるようテモテを励まして手紙を締めくくりました。

教えるための提案

2テモテ3章

パウロ、終わりの時の苦難の時代について説明する

レッスンを始める前に、最初に教室に着いた二人か三人の生徒それぞれに危険な状況を表す絵をホワイトボードに描いてもらいます。レッスンを始めてから、生徒たちに次の質問をします。

- ホワイトボードに描かれた状況を説明するにはどのような言葉を使いますか。
 テモテへの第二の手紙の一環として、パウロが彼の時代とわたしたちの時代の状況について預言したと説明します。一人の生徒に、2テモテ3:1を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがわたしたちの時代をどのように説明したかを見つけてもらいます。
- パウロはわたしたちの時代をどのように説明しましたか。(必要に応じて、「苦難〔*perilous*〕」という言葉が、危険やリスクに満ちているという意味であることを説明します。)
- わたしたちの時代に見られる道徳的または霊的な苦難、つまり危険にはどのようなものがありますか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に次の表のコピーを配ります。各組に2テモテ3:2-7を読んでもらい、表の質問に答えてもらいます。「そしる」とは、悪く言ったり、非難すること、「融和」とは、打ち解けて仲良くすることです。

2テモテ3:2-7

パウロが説明した末日の状況の例には、どのようなものがありますか。	これらの例のうち、わたしたちの時代で見られるものはどれですか。(2つか3つの例を挙げてもらいます。)これらの状況がそれほど危険である理由は何ですか。
(空欄)	(空欄)

十分な時間を取ってから、それらの状況がそれほど危険である理由も含め、数人の生徒に話し合った事柄を発表してもらいます。

研究した節でパウロが語った危険の幾つかが自分に及ぶのではないかと不安になったことがないかどうか、生徒たちに深く考えてもらいます。

- 2テモテ3:5の終わりの部分によれば、パウロがテモテに勧めた事柄で、わたしたちの時代にも役立つものは何ですか。(わたしたちは邪悪から遠ざかるべきである。)

2 テモテ 3:8 - 11 の要約として、パウロはテモテに、真理を拒む人はその愚かさを知られるようになると言ったことを説明します。また、パウロは福音に沿った生活をしようと努力したために堪え忍ばなければならなかった多くの苦難や迫害についても書き記しました。

一人の生徒に、2 テモテ 3:12 - 13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福音に沿った生活をする人たちに起こるとパウロが預言した事柄を見つけてもらいます。

- パウロは、福音に沿った生活をする人に何が起こると預言しましたか。

これらの不穏な状況の深刻さにもかかわらず、わたしたちは助けと守りを見つけることができると説明します。一人の生徒に、2 テモテ 3:14 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロの教えた事柄で、これらの苦難を退けるために役立つものを見つけてもらいます。

- パウロが述べた苦難に負けないことについて、パウロは何を教えましたか。
- 14 節の「自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい」とはどういう意味だと思いますか。

生徒たちがこの言葉の意味を理解できるよう、一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「恐れや疑いがあるとき、困難などには、……既に得ている土台にしがみついてください。……問題が発生したときに、なかなか解決しないときに、既に知っていることに固くしがみついて、新たな知識を得るまで、強くあってください。」(『主よ、信じます』『リアホナ』2013年5月号, 93 - 94)

14 節の「それをだれから学んだか知っており」という言葉に注意を向けてもらいます。預言者、指導者、教師、親、聖霊など、信頼できる情報源から真理を学び、その確信を得ることができると説明します。

- 末日における霊的な苦難を克服する方法について、14 - 15 節からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒に答えてもらった後、次の原則をホワイトボードに書きます。信頼できる情報源と聖文から学んだ真理にとどまっていれば、末日の霊的苦難を克服することができます。)
- 聖文や学んだ真理に頼ることは、わたしたちが今日の苦難を克服するためのどのような助けとなりますか。
- 学んだ真理に頼る選択をしたのはどのようなときでしたか。そうすることでどのように祝福されましたか。(この質問への答えは、まず最初に生徒たちのクラスノートや聖典学習帳に書いてもらい、その後で数人の生徒に書き込んだ事柄を発表してもらうこともできます。)

一人の生徒に、2 テモテ 3:16 - 17 を声に出して読んでもらい、他の生徒たちには聖文についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。見つけた箇所印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

- 今日のわたしたちの助けとなり得る聖文の研究について、パウロは何を教えましたか。(生徒たちが次の原則を見いだせるように助けてください。聖文を研究するとき、わたしたちは完成に向かって成長する助けとなるように、教義を学び、正され、導きを得ることができます。この原則をホワイトボードに書いてください。)

ホワイトボードに書いた文の中の「教義」「正され」「導き」という言葉を丸で囲みます。次のような場面で聖文が役立ったときのことを生徒たちに考えてもらいます。(1) 福音の教義を理解した；(2) 間違った考え、選択、行動についてのとがめを受けた、またはそれらを正された；(3) 祈りに対する答えを受けた、または問題をどのように解決するかについての指示を受けた生徒たちの経験について考える時間を与えて、その後数人の生徒にそれらを分かち合ってもらいます。(過去の罪など、きわめて個人的な事柄は避けることを生徒に思い出させます。)

- 聖文の価値について学んできた事柄を考えると、毎日聖文を研究するように勧められているのはなぜだと思いますか。

2 テモテ 3:15 - 17

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

マスター聖句についての説明や、これらの聖句を暗記する助けとなる活動のリストは、この手引きの付録を参照してください。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老が述べた次の言葉をコピーして生徒たちに配ります。一人の生徒に、声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、聖文を研究することについてのスコット長老の勧告と約束を見つけてもらいます。



「聖文を研究する時間がないなどというサタンの欺きに屈してはなりません。聖文を研究するための時間を取ってください。神の言葉を毎日よく味わうことは、睡眠や学校、仕事、テレビ番組、コンピューターゲーム、ソーシャルメディアよりも大切です。神の言葉を研究する時間を取るために優先順位を見直す必要があるかもしれません。もしその必要があれば、見直してください！

……毎日時間を取って個人でも家族でも神の言葉を研究するなら、皆さんの生活に平安が満ちるでしょう。」(「信仰を行使することを最優先とする」『リアホナ』2014年11月号, 93)

聖文に書かれた真理にとどまる者にもたらされる安全と平安について証します。生徒たちに、これらの原則を自分の生活にどのように応用できると感じるか考えてもらいます。受けた促しに従って目標を立てるよう生徒たちを励まします。

2 テモテ 4 章

パウロ、戦いを立派に戦い抜いたことを宣言し、テモテに引き続き教えを宣べ伝えるよう命じる

難しい作業を途中でやめてしまいたいと思ったことがある生徒に、手を挙げてもらいます。

- 途中でやめてしまいたいと思ったにもかかわらず、それをやり遂げたときにどのような経験をしましたか。

テモテへの第二の手紙は、おそらく、パウロが生前に書いた最後の手紙であることを説明します。クラスの半分に、2 テモテ 4:1-5 を黙読してもらい、テモテに対するパウロの勧告を見つけてもらいます。クラスの残りの半分には、同じ聖句を読んで、古代のキリスト教会の将来についてパウロが預言した事柄を見つけてもらいます。生徒たちが読み終えてから、グループごとに数人、見つけた事柄を発表してもらいます。

3-4 節には、教会で起こり始めていた背教についてのパウロの説明が記録されていると説明します。パウロが説明したような行動が大背教へとつながり、福音の回復が必要となりました。

- パウロは、なぜ多くの人々が真理を拒むことを知っていながらも、引き続き人々に福音を宣べ伝え、教え導くようテモテを励ましたのだと思いますか。

一人の生徒に、2 テモテ 4:6-8 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、福音を広めるための自らの努力についてパウロが記した事柄を見つけてもらいます。

- パウロは宣教師としての自らの努力について何と言いましたか。(戦いを立派に戦い抜き、走るべき行程を走り尽くしたというパウロのたとえは、パウロがどのようにその使命を忠実に成し遂げたかを説明していると指摘します。)

- 8 節によると、パウロは死後何が待っていることを知っていましたか。

- 主がわたしたちに求められることを行うことに忠実であり続けるための努力について、これらの聖句からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちが次の事柄を見いだすようにしてください。主がわたしたちに求められる全てのことに忠実であり続けるならば、わたしたちは義の冠を受ける。ホワイトボードにこの原則を書いてください。)

「義の冠」を受けるといことは、天の御父のようになることも含まれると説明します。生徒たちに、教会の青少年がさらに天の御父のようになる助けをするために、主が彼らにお与えになった必要条件を幾つかホワイトボードに書き出してもらいます。

- 青少年がこれらの要件のどれかに忠実であることを諦めてしまうことがあるのはなぜでしょうか。

- パウロのように、困難であっても忠実であり続ける良い模範となる人を誰か知っていますか。その人はこの原則の良い模範となるどのようなことをしたのでしょうか。

2 テモテ 4:9-22 の要約として、パウロは伝道中に、時折、孤独を感じていたにもかかわらず、主がともにいて自分を強めてくださったことを知っていたと説明し、この手紙を終えたと説明します。

主が求められることを行うことに忠実であり続けるよう生徒たちを励まします。

マスター聖句 - 2 テモテ 3 : 15 - 17

紙を三つに折って、三つの欄を作ってもらいます。紙を広げて一つ目の欄の上に「人を教える」、二つ目の欄の上に「戒め、正しくする」、三つ目の欄の上に「義に導く」と書いてもらいます。

これから一週間、この紙を生徒たちの聖典のしおりとして使ってもらい、これらの目的の一つを達成する聖句を読むたびに、それを該当する欄に記入してもらいます。例えば「人を教える」の下には、参照聖句と、その聖句から学んだ教義や原則を書くことができます。「戒め、正しくする」の下には、参照聖句と、その聖句がどのように間違っただけの考え、選択、行動を正すかについて書きます。「義に導く」の下には、どのような善い行いをするかについてより良く理解できる聖句を記録します。

1週間後にその紙を持ってきてもらい、それぞれの経験を報告してもらいます。1週間後にこのマスター聖句を見直して簡単に話し合いをすることを忘れないように、自分の聖典または手引きにメモしておくといよいでしょう。

テトスへの手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

パウロのテトスへの手紙には、テモテへの手紙のように、使徒パウロから地元の教会指導者への、時代を超越した勧告が含まれています。パウロは、「永遠のいのちの望み」は、「永遠の昔に」地球に来る前の前世で神によって最初に約束されたものだ」と記しました(テトス1:2)。パウロは、昇栄という「祝福に満ちた望み」(テトス2:13)と再臨を心待ちにすべきだと聖徒たちに教えました。パウロはまた、テトスに「再生の洗い」と「聖霊により新たにされる」(テトス3:5-6)ことについて書き送り、どちらも「永遠のいのちを望むこと」によって、「御国をつぐ者となる」(テトス3:7)ための準備である、バプテスマの儀式と聖霊の賜物を受けることによる清めの効果について触れています。テトスに対するパウロの靈感を受けた勧告を研究することによって、生徒たちは、福音の教義と儀式が永遠の命への望みをもたらすという信仰を強めることができます。

誰がこの書を書いたのか

テトスへの手紙を書いたのはパウロです(テトス1:1参照)。

いつ、どこで書かれたか

パウロは、紀元64-65年頃、テモテへの第一の手紙と第二の手紙の間にテトスへの手紙を書いたと考えられます(『聖句ガイド』「パウロの手紙」, *scriptures.lds.org*)。パウロは、ローマでの最初の獄中生活の後にテトスへの手紙を書きました。パウロはテトスへの手紙を書いた時の居場所を明らかにしませんでした。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

この書簡は、パウロが「信仰を同じうするわたしの真実の子」(テトス1:4)と呼んだ、テトスに宛ててパウロが書いたものです。テトスはギリシャ人であり(ガラテヤ2:3)、パウロ自身によって福音に改宗しました(*Bible Dictionary*, “Titus”の項参照)。改宗後、テトスは、福音を広め、教会を組織するためにパウロとともに働きました(*Bible Dictionary*, “Titus”の項参照)。テトスはエルサレムの貧しい人々の

ための寄付を集める助けをし(2コリント8:6, 16-23参照)、エルサレムの評議会に向かうパウロに同伴もしました(ガラテヤ2:1参照)。パウロは、コリントに住む聖徒たちに宛てた第一の手紙を届けることをテトスに託しました(2コリント7:5-15参照)。パウロは、逆境にもかかわらず、クレテの教会の支部を導き、世話をする責任においてテトスを強めるために手紙を書きました(テトス1:5, 10-11; 2:15; 3:10参照)。

この書の特徴は何か

この手紙は、テモテへの第一の手紙と第二の手紙とともに(教会の牧者、つまり指導者に宛てた)牧会書簡の一つとされています(*Bible Dictionary*, “Pauline Epistles”の項参照)。テトスへの手紙は、地中海に面するギリシャのクレテ島に教会が設立されたことを示す最古の証拠となっています(テトス1:5参照)。テトスには、その島で新しいビショップたちを召す責任がありました。パウロはビショップとしての霊的な資格を幾つか挙げました(テトス1:6-9参照)。さらにパウロは、男性、女性、および奴隷たちに聖徒としての適切な振る舞いについての具体的な助言を与えました(テトス2:2-10参照)。

概要

テトス1章 パウロは、テトスに教会の指導者を聖任するよう指示し、その後、ビショップとしての資格を幾つか挙げる。パウロは、異教を正し、「神を知っていると、口では言うが、行いではそれを否定している」(テトス1:16)偽りの教師たちを叱責するようテトスに指示する。

テトス2章 パウロは、若い聖徒たちに模範を示すように、年配の教会員を指導することをテトスに勧める。パウロはまた、奴隷たちにその主人に従うことを教えるようテトスに求める。パウロは、主の再臨に備えるときに、弟子たちがどのように生活すべきかを説明する。パウロは、イエス・キリストによってもたらされた贖いについて説明する。

テトス3章 パウロは、教会員は善良な市民であり、義にかかったイエス・キリストに従う者であるべきだと教える。バプテスマを通して、わたしたちは主の恵みにより永遠の命を受けることができる。

第133課 テトス

はじめに

パウロはクレテの教会の地域指導者であるテトスへの書簡で、人を教え、正すために健全な教義を用いるよう熱心に勧めました。またパウロは、義にかなった模範となり、イエス・キリストの贖罪による贖いの希望を持ち、善い行いを続けることを

聖徒たちに教えるようテトスに勧告しました。(注—このレッスンの準備として、seektruth.lids.orgにある原則を見直す役に立つでしょう。)

教えるための提案

テトス1章

パウロは、クレテの教会員と他の人々を教え、正すために健全な教義を用いるようテトスに熱心に勧める

生徒たちに、誰かが教会や教会の教義を非難しているのを聞いたときのことを考えてもらいます。

- 誰かが教会とその教義を非難するときに、それらを擁護するための適切な方法は何ですか。

テトスへの手紙を研究しながら、誰かが教会とその教義を非難するときにそれらを適切に擁護するための方法を知る助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

生徒たちに、『聖書の地図』の地図13「使徒パウロの伝道の旅」でクレテ島を見つけてもらいます。パウロは、生涯の終わり近くになって、クレテで教会指導者として奉仕していたテトスに手紙を書いたと説明します。テトスはその数年前にパウロによって改宗しており、バプテスマを受けた後、パウロとともにさまざまな責任で奉仕しました。書簡の中で、パウロはテトスを励まし、彼の召しについて勧告しました。

テトス1:1-6の要約として、パウロは、わたしたちが前世で受けた神の約束のために、自分が持っていた永遠の命に対する望みについて証したと説明します。またパウロは、クレテ島の教会の秩序を整えるためにテトスをその島に遣わしたと説明しました。テトスが受けた責任の一つは、ビショップとして奉仕する男性たちを召すことでした。

生徒たちに、テトス1:7-8を黙読してもらい、ビショップが持つべき特質を見つけてもらいます。見つけた事柄に印をつけるよう生徒に勧めるとよいでしょう。

- これらの節によると、ビショップはどのような特質を持つべきでしょうか。(「利をむさぼる」とは不正直またはその他不義な方法で得ることを意味すると説明する必要があるかもしれません。)
- ビショップがこのような特質を持つ必要があるのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、テトス1:9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ビショップが持つべきもう一つの特質を見つけてもらいます。「健全な教え」とは、真の教義を意味していることを説明します。

- ビショップが持つべきもう一つの特質とは何ですか。
- 9節によると、ビショップが神の言葉を堅く守る人であることが大切である理由は何ですか。(福音に沿って生活するように他の人を励まし、および「反対者」の誤りを指摘するために真の教義を使うことができるようにするため。反対者とは、ある考え[ここでは、福音の真実性]を非難する、または否定する人のこと。反対者には、教会の会員または会員ではない人々のどちらでもなり得る。)
- わたしたちは、ビショップのように、神の言葉を堅く守るときに何をすることができますか。(生徒の言葉は違うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。わたしたちが神の言葉を堅く守るとき、福音に沿って生活するように他の人を励まし、それに反する人の誤りを指摘するために真の教義を使うことができるようになる。この原則をホワイトボードに書いてください。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人がイエス・キリストの福音に沿って生活するよう助けることにおいて、真の教義が持つ力を見つけてもらいます。

「真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。

福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。……だからこそ、わたしたちは福音の教えを勉強するようにと強く勧めます。」(「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号, 18-19)

• パッカー会長によると、なぜ真の教義を研究し、学ぶことがそれほど大切なのでしょう。クラスを二人か三人のグループに分けます。各グループで協力し合って次の質問に答えてもらってから、それらの答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう。

1. 福音に沿って生活するよう人を励ますことができるように、真の教義を教える備えをするには何ができますか。(アルマ17:2-4参照)
2. 教会やその教義に対する疑いや敵意を示す人に誰かが真の教義を教えた時の、聖文からの例にはどのようなものがありますか。(誰かが真の教義を教えられたために悔い改めたという例を少なくとも一つ含めてください。)
3. 真の教義を学ぶことによって、もっと完全にイエス・キリストの福音に従った生活をするよう、あなたや、あなたの知人が納得させられたのはどのようなときでしたか。

十分な時間を取った後、数人の生徒にそれぞれの答えを発表してもらいます。発表してもらった後、真の教義は、福音に沿った生活をするように他の人を励まし、教会に反対する人に反論する助けとなりますが、全ての人が真理を受け入れるわけではないことを説明します。全ての人には選択の自由があるため、彼らはイエス・キリストの真の福音を受け入れるか拒むかを自分で選ぶことができます。

生徒たちに、今年これまでに学んだマスター聖句について考えてもらいます。

- 福音に従った生活をするよう他の人を励ますために、特に役立つマスター聖句はどれですか。
- 教会に反対する人に反論するために役立つマスター聖句はどれですか。

他の人に真の教義を教える備えができるように、重要な聖句の暗記を続けるよう生徒たちを励まします。

テトス1:10-16の要約として、パウロはテトスに対し、ビショップの周りには欺く人や偽りの教師が数多くいるため、ビショップが真の教義に頼る必要があると教えたことを説明します。パウロは、偽りの教師たちが過ちを捨て、「信仰を健全なもの」(13節)にするように彼らを叱責するようテトスに勧告しました。また、汚れた者は神を知っていると口では言うが、行いで神を否定することも説明しました。

テトス2章

パウロ、クレテの聖徒たちに真の教義に従って生活することを教えるようテトスに勧告する

一人の生徒に、テトス2:1を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが真の教義について他に何をしようテトスに勧告したのかを見つけてもらいます。

- パウロは、真の教義について他に何をしようテトスに勧告しましたか。(それをクレテの聖徒たちに教えるように勧告した。)

ホワイトボードに次の言葉を書きます — 男性, 女性, 若い女性, 若い男性。

クラスの若い女性にテトス2:3-5を黙読してもらい、年老いた女性がどのように生活すべきか、また若い女性に何を教えるべきかについてのパウロの勧告を見つけてもらいます。若い男性にテトス2:2, 6-8を黙読してもらい、年老いた男性と若い男性がどのように生活すべきかについてのパウロの勧告を見つけてもらいます。

注-女性は「自分の夫に従順であるように」(5節)という部分についての質問が出たときは、エペソ5-6章のレッスンにある資料を参照することができます。

少人数グループでの話し合い

生徒が討論と一緒に参加できるように、時折、クラスを少グループに分けるとよいでしょう。少グループでの討論によって、興味と集中力を失っていると思われる生徒を効果的に参加させることができ、また生徒のコミュニケーション技術を伸ばし、適切な社会的また霊的な関係を強化することができます。

- パウロによると、年老いた男性、年老いた女性、若い女性、若い男性はそれぞれどのような生活をすべきですか。（生徒たちの答えを該当する表題の下に書くか、生徒たちにホワイトボードに来て答えを書き込んでもらいます。言葉の中には、意味を理解できるように生徒を助けなければならないものがあるかもしれません。例えば、ここで言う「自らを制する」とは落ち着いている、または真面目なことを意味し、「謹厳」とは礼儀正しくあること、「慎み深〔い〕」とは自制心があることを意味します。）
- 「あなた自身を良いわざの模範として示し」（7節）という言葉はどのような意味ですか。（福音に従った生活をする良い模範となること。）
- テトスへのパウロの勧告によれば、イエス・キリストに従う者は何をすべきですか。（生徒はさまざまな言葉を使うと思われるが、次の真理を見つけることを確認します。イエス・キリストに従う者は、他の人への良い模範となるべきである。）

福音に沿った生活を送ることや、それに全力を尽くすことに良い模範である、自分のワードや支部の年配の会員について、生徒たちに考えてもらいます。数人の生徒たちに、思いついた人のことについて、またその人の模範が彼らにとってどのような助けになったかを説明してもらいます。

生徒たちにホワイトボードに書いた行動の一つを選んでもらい、それぞれの良い模範が周りの人への祝福となるように、その行動を生活により良く取り入れるための目標を立てるように勧めます。

テトス 2:9-10 の要約として、パウロは、使用人として働いていた教会員に、主人に対して正直であり、主人に喜ばれるようになることを教えるようテトスに勧告したと説明します。これらの教会員は、正直であり、喜ばれることによって主をたたえ、彼らの主人に対して良い模範となります。

一人の生徒に、テトス 2:11-15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の恵みが全ての人に対して何を可能にするか、またキリストがわたしたち全てのために何をしてくださったのかを見つけてもらいます。

- 神の恵みは全ての人のために何を可能にしますか。
- 12節によると、聖徒たちは神の恵みを受けるために何をすべきですか。
- 14節のパウロの教えから、イエス・キリストがわたしたちのために行ってくださったことについて何を学びますか。（生徒たちは次のような真理を見いだすでしょう。イエス・キリストは、わたしたちを贖い、清めることができるように、自らをささげられた。生徒たちに、この真理を教えている14節の語句に印をつけてもらうことを検討してください。）

「選びの民」（14節）とは、主が代価を払われた、つまり贖われた（1ペテロ 1:18-19; 2:9 参照）、また主の戒めを守る聖約を交わした（出エジプト 19:5-6 参照）、主が宝とされる人々を表しています。

テトス 3 章

パウロは、クレテの聖徒たちがバプテスマを受けてから行うべき事柄をテトスに伝える

テトス 3:1-2 の要約として、クレテの聖徒たちがその土地の法律に従い、他の人々との関わりにおいて、寛容、柔和であるように教えることを、パウロがテトスに勧告したと説明します。

数人の生徒に、テトス 3:3-8 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの福音がパウロ自身とクレテの聖徒たちをどのように変えたかについてパウロが述べた事柄を見つけてもらいます。

- 3節によると、イエス・キリストの福音を学ぶ前のパウロ自身とその他の教会員を、パウロはどのように表現していますか。
- 5-6節によると、何が人々に変化をもたらしたのでしょうか。
- 7節によると、イエス・キリストの恵みによってもたらされる変化によって、人々には何が起きますか。

生徒たちに、自分がイエス・キリストの福音によってどう変わったかを考えてもらいます。

- 8 節によると、変化がもたらされ、バプテスマを受けてから、パウロは何をするよう聖徒たちに勧告しましたか。

テトス 3:9 - 15 の要約として、パウロは対立する人々との争いを避けるよう聖徒たちに助言したと説明します。またパウロは、マケドニアにいる自分を訪問するようテトスに求めました。

このレッスンで見いだした真理についての証を述べて、レッスンを終わります。

ピレモンへの手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ピレモンへの手紙には、ピレモンの奴隷オネシモとの状況について、使徒パウロからの個人的な勧告が含まれています。生徒たちはこの書簡を研究しながら、人々がイエス・キリストの教会に加わる時、彼らが福音において兄弟姉妹となることを学びます（ピレモン 1：16 参照）。イエス・キリストの弟子は、他の人々に憐れみと赦しを示さなければならないという義務の重要性を、生徒たちは感じるようにもなります（ピレモン 1：16 - 17）。

誰がこの書を書いたのか

ピレモンへの手紙を書いたのはパウロです（ピレモン 1：1 参照）。

いつ、どこで書かれたか

ピレモンへの手紙は、紀元 60 - 62 年頃、パウロのローマでの最初の獄中生活の間に書かれました（ピレモン 1：1, 9；『聖句ガイド』「パウロの手紙」、*scriptures.lds.org* 参照）。

誰に向けて、なぜ書かれたのか

「この手紙は、主人ピレモンの物を盗んでローマへ逃亡した奴隷オネシモについてのパウロの個人的な手紙である。」（『聖句ガイド』「パウロの手紙」）ピレモンは、おそらくギリシャ人の改宗者であり、コロサイの

居住者でした（コロサイ 4：9 参照）。ピレモンは自分の家で教会の集会を行わせていました（ピレモン 1：2, 5 参照）。逃亡後、オネシモは教会に加わり、「〔主にあって〕愛する兄弟」（ピレモン 1：16。ピレモン 1：10 - 12 参照）となりました。

パウロはピレモンに手紙を書き、逃亡した奴隷が通常受けるような厳しい処罰を与えることなく、福音における兄弟としてオネシモを再び迎え入れてやるよう求めました（ピレモン 1：17 参照）。パウロは、オネシモがピレモンに与えた経済的損失を補うとさえ申し出ました（ピレモン 1：18 - 19 参照）。

この書の特徴は何か

ピレモンへの手紙はパウロの書簡の中で最も短く、また、おそらく最も個人的なものです。個人に宛てて書かれた手紙であるため、教義的な内容はほとんど含まれていません。それにもかかわらず、奴隷オネシモと和解するようピレモンに促すパウロの嘆願は、福音の教義をどのように日常生活へ応用するかを示すものであり、この場合、わたしたちとイエス・キリストとの関係が、他の全てのキリストに従う者との家族関係をもたらすことを示し、憐れみと赦しの重要性を強調するものです。

概要

ピレモン 1 章 パウロは、ピレモンが聖徒たちに示した愛のゆえに彼を称賛する。パウロは、ピレモンの逃亡した奴隷であるオネシモが福音に改宗したことを説明する。パウロは、オネシモを主にあって兄弟として再び受け入れるようピレモンに求める。パウロは、オネシモがピレモンに与えた経済的損失を返済すると申し出る。

第134課 ピレモン

はじめに

パウロは、救い主と同胞の教会員に対するピレモンの信仰と愛について彼を賞賛しました。パウロは、ピレモンから逃れた

奴隷のオネシモを福音における兄弟として再び受け入れるようピレモンに勧告しました。

教えるための提案

ピレモン1章

パウロ、逃亡した奴隷であるオネシモを、福音における兄弟として再び受け入れるようピレモンに勧告する

生徒たちに、それぞれのワードや支部の青少年を思い浮かべてもらいます。教会員として、わたしたちには、自分とは異なる人々と親しく交流する機会があることを説明します。

- あなたのワードや支部の青少年は、お互いにどのように異なっていますか。（お互いについて敬意を持って話すことを生徒たちに思い出させます。）

教会員として、わたしたちには新しい人々と出会う機会も多々あることを指摘します。新しい人が、自分たちのワードや支部に新会員として入ってくることを生徒たちに思い浮かべてもらいます。

- 教会員になること、または新しくワードや支部に引っ越してくるときに、人が他の人との交流において経験するかもしれない課題には何がありますか。（生徒たちの中に近年教会員になった人、または新しいワードや支部に引っ越してきた人がいれば、その生徒が経験した、人との交流における課題を説明してもらいます。）

生徒たちに次の質問について深く考えてもらいます。

- 自分とは異なった行動を取る、異なる興味を持っている、または社会的に異なるグループに属する教会員に対してどのように接していますか。
- あなたのワードや支部の新会員にどのように接していますか。

ピレモンへの手紙を研究しながら、他の教会員と交流するときの指針となる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

教会のギリシャ人改宗者であったと思われるピレモンへ手紙を書いたとき、パウロは牢獄の中にいたことを説明します。ピレモン1:1-3の要約として、パウロはピレモンと、ピレモンの家に集う教会員たちを含むその他の人々への挨拶で書簡を書き始めたことを説明します。

一人の生徒に、ピレモン1:4-7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがピレモンを賞賛した理由を見つけてもらいます。

- パウロがピレモンを賞賛したのはなぜですか。（救い主と同胞の教会員に対するピレモンの信仰と愛のため。）

一人の生徒に、パウロがこの書簡で言及した状況についての次の情報を声に出して読んでもらいます。

ピレモンには、オネシモという名の僕、つまり奴隷がいました。彼はピレモンの所から逃げ出しましたが、何かを盗んだ可能性もあります（ピレモン1:18参照）。新約聖書のユダヤ・キリスト教文化では、奴隷制度は悪とは見なされておらず、ローマの法律でも認められていました。逃亡した奴隷への罰には、厳しいむち打ち、額への焼印などがあり、時には殺されることもありました。逃亡後、オネシモは使徒パウロに出会いました。

一人の生徒に、ピレモン 1:8 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがピレモンに何をしよう懇願したかを見つけてもらいます。

- パウロはピレモンに何をしよう懇願しましたか。
- あなたがピレモンの立場だったとしたら、パウロの要求を受け取ってどのように思い、感じたと思いますか。

「捕らわれの身で産んだわたしの子供」(10 節) という語句に注目してもらいます。ここで言う「産む」とは、誰かに命を与えるという意味があることを説明します。

- この語句でパウロは何を伝えようとしていたと思いますか。(パウロは牢獄にいながらも、オネシモがイエス・キリストに従う者としての新しい人生を始める手助けをした。)

ピレモン 1:13 - 14 の要約として、パウロはオネシモを自分の補佐としてそばに置いておきたかったが、ピレモンの同意なしにそれをすることは望んでいなかったことを説明します。

一人の生徒に、ピレモン 1:15 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが、新たに改宗したオネシモとの関係をどのように捉えるようピレモンに勧めたかを見つけてもらいます。

- 16 節によると、ピレモンはオネシモをどのように見なすべきでしたか。
- オネシモを「愛する兄弟」として見なすことがピレモンにとって難しかったかもしれないのはなぜですか。(可能な回答として、二人が異なる社会的および経済的階級に属していたこと、および当時の慣習の観点から、オネシモがピレモンに対して悪事を行った可能性があるなどが考えられます。)
- 福音を基にしたわたしたちお互いの関係について、16 節からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちが、次のような真理を見いだせるよう助けます。福音においてわたしたちは兄弟姉妹である。ホワイトボードにこの真理を書いてください。)
- 何がわたしたちを福音における兄弟姉妹とするのでしょうか。

必要に応じて、わたしたちが皆天の御父の霊の子供であり(ヘブル 12:9 参照)、そのためわたしたちが皆兄弟姉妹あるということを説明します。それに加え、わたしたちは、バプテスマと確認の儀式、継続的なイエス・キリストへの信仰の実践、従順、そして一貫した悔い改めによって霊的に生まれ変わります。このようにして、わたしたちはイエス・キリストの息子、娘となり(モーサヤ 5:7 参照)、それによって神の聖約の家族における兄弟姉妹となるのです。わたしたちは、性別、年齢、生い立ち、または社会的立場にかかわらず、神の王国において等しくなります。

一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、先ほど見いだした真理が、わたしたちのお互いの接し方、特に教会の新会員に接する方法にどのように影響するかを聞き取ってもらいます。



「パウロからピレモンにあてた短い書簡を読むと、わたしはいつも励まされます。それはわたしたちに、福音による兄弟愛の原則と精神を教えてください。……」

これと同じ精神を全教会の活動の中で目にし、また毎日主の王国に入ってくる人々を聖徒たちが両手を広げて受け入れ、助け、手伝い、その人たちのために祈る姿を見ることは、喜びであり励みです。教会員同士で、またこれから教会に入ってくる多くの人々のために、手を差し伸べることをやめてはなりません。彼らを歓迎し、愛し、親交を深めてください。

悲しいことに、時折、一部の人々がそのように行っていなかったり、主がバプテスマによって受け入れた人々を拒む人がいるという話を聞くことがあります。もし主が『彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない』(ヘブル 2:11) なら、なおさら、わたしたちは兄弟姉妹の手を取り、思いやりと愛に満ちた輪の中に入れてあげましょう。」「(改宗者の教会)『聖徒の道』1976年6月号, 250 参照)

- スペンサー・W・キンボール大管長によると、福音における兄弟姉妹はお互いどのように接するべきですか。

レッスンの初めに、自分とは異なる教会員や、ワードや支部の新しい教会員にどのように接するかについて深く考えてもらった質問を生徒たちに思い出してもらいます。

- なぜわたしたちは福音における兄弟姉妹であると理解することが大切だと思いますか。
- 誰かが福音における兄弟姉妹として他の人に接するのを見たのは、どのようなときでしたか。

ピレモンへのパウロの書簡で説明されている別の真理を見つけるよう生徒たちを備えるため、誰かに傷つけられたり、不当に扱われたときのことを考えてもらいます。一人の生徒に、ピレモン1:17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがピレモンに何をしよう勧告したかを見つけてもらいます。

- パウロはピレモンに何をしよう勧告しましたか。

パウロは、ピレモンがパウロ自身を受け入れるのと同様にオネシモを受け入れるようピレモンに頼んでいたと説明します。この指示に従うことによって、ピレモンは逃亡した奴隷が通常受ける厳しい罰を断念することになります。

- ピレモンに対するパウロの指示に書かれているように、全てのイエス・キリストの弟子には自分を傷つけたり、不当に扱う人に対してどのような責任がありますか。(生徒たちが次の真理を見つけるように助けてください。イエス・キリストの弟子は、他の人々に憐れみと赦しを示す。ホワイトボードにこの真理を書いてください。)
- 人に憐れみを示し、赦すことが時折難しいのはなぜですか。

わたしたちを不当に扱う人に対して憐れみを示し、赦すということは、その人が自分の行動から生じた結果を避けることを許したり、その人に対する信頼を直ちに回復させることを意味するのではないことを指摘します。そうではなく、わたしたちが他の人々に憐れみを示し、心に抱いている恨み、怒り、痛みを一切を捨てることを意味します。適切である場合には、自分を不当に扱った人が信頼を回復できるようにすることもできます。人を赦すことは難しいかもしれませんが、助けを求めて天の御父に祈れば、御父はわたしたちを助けてくださいます。

一人の生徒に、ピレモン1:18-21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロがオネシモのために行うと申し出た事柄を見つけてもらいます。

- パウロがオネシモのために何をすると申し出ましたか。(オネシモの行動の結果としてピレモンが被るようになった経済的損失を全て支払うと申し出た。)
- パウロがオネシモのために行った努力は、どのような点で救い主がわたしたちのために行ってくださったことと似ていますか。(パウロがオネシモのために取り成したのと同様に、イエス・キリストも天の御父の御前でわたしたちのために取り成し、弁護してくださる[教義と聖約45:3-5参照]。イエス・キリストはまた、わたしたちが自らの罪のために負う霊的な負債を支払ってくださった。)
- イエス・キリストがわたしたちのために行ってくださったことを覚えておくことは、どのようにわたしたちが他の人に憐れみを示し、赦す助けとなりますか。

クラスを三人か四人のグループに分けます(グループに分けるほど生徒がいない場合は、クラス全体でこの活動を行います)。配付資料として次の手順のコピーを各グループに配ります。

ピレモン1章

次の質問をグループで話し合ってください。質問に答えるときは、あまりにも個人的または私的な事柄を分かち合わないにしてください。

- ピレモンのように、あなたが他の誰かに対して憐れみを示し、赦さなければならなかったのは、どのようなときでしたか。どのようにその人に憐れみを示し、赦すことができましたか。そうすることでどのような祝福を受けましたか。
- オネシモのように、あなたが別の誰かからの憐れみと赦しを受けられるよう願ったのは、どのようなときでしたか。どのようにその人の憐れみと赦しを願い求めましたか。そうすることでどのような祝福を受けましたか。
- パウロのように、赦しを求める側と、赦しと憐れみを示さなければならない側との間の仲裁者になったのは、どのようなときでしたか。どのように、悪いことをした人が赦しを受け、傷つけられた人がその人を赦すのを助けることができましたか。

生徒たちがこれらの質問をグループで話し合った後、各グループの一人の生徒に、これらの状況の一つにおける自分か、グループのメンバーの経験(そのメンバーの了承を得ること)をクラスで分かち合ってもらいます。(別の方法として、各生徒に質問のコピーを配るか、ホワイトボードに質問を掲示して、質問の内の一つに対する答えを生徒たちのクラスノートや聖典学習帳に書いてもらうこともできます。十分な時間を取ってから、自分が書いたことを発表してもよいという数人の生徒に内容を発表してもらいます。)

学習活動を 注意深く選ぶ

異なる学習活動が、生徒間におけるさまざまな雰囲気と態度を促すことに注意してください。小グループでの話し合いから生じる活力が有益なクラスであれば、個人で深く考え、それらを書き留めることがより効果的なクラスもあります。生徒にどの学習活動が最も適しているかを判断する際、聖句ブロックの内容を考慮し、御霊の導きを求め、生徒の必要を正しく見極めるようにします。

他の人に憐れみを示し、赦すことができるようになるためには何ができるかを、生徒たちにクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。生徒たちに、書いたことを応用するよう励まします。

ヘブル人への手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ヘブル書は、イエス・キリストの優位性を証しています。主は天使たちよりも偉大であり、より優れた名前を持ち、より高い召しを受けておられます。天使たちは神の僕ですが、イエス・キリストは神の御子であります。またヘブル書は、イエスがモーセよりも偉大であり、イエスの務めがモーセの律法のもとにある古い聖約よりも優れた、新しい聖約をもたらしたことを教えています。メルキゼデク神権の偉大な大祭司として、主の神権はモーセの律法に基づく大祭司の神権よりも偉大です。

聖文にはイエス・キリストの贖いの犠牲、復活、昇天についての多くの記載が見られますが、ヘブル人への手紙は、従順と信仰をもって主に改宗する全ての者の生活の中で、贖い主が現在も行われている御業を強調しています。ヘブル書の研究は、生徒たちが贖罪の教義をさらに理解する助けとなり、天の御父とイエス・キリストを信じる信仰をもって生活するよう促します。

誰がこの書を書いたのか

たいていの末日聖徒は、パウロがヘブル人への手紙を書いたと認めています（『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照）。しかしながら、この手紙の表現や言葉遣いがパウロのその他の手紙とは異なるために、パウロがこの手紙を書いたかどうか疑問視する人もいます。著者がパウロでなかったにせよ、ヘブル人への手紙に見られる教義はパウロの他の手紙と一致していることから、その概念はパウロによるものであると一般的に受け入れられています。預言者ジョセフ・スミスは、ヘブル人への手紙の言葉が使徒パウロに由来するものであるとしています（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』105 参照）。この手引きの目的上、パウロがヘブル書の著者であるとしています。

いつ、どこで書かれたか

パウロによるヘブル人への手紙が書かれた場所は分かっていません。また、書かれた正確な時期も分かっていません。しかしながら、多くの人たちはこの書がピリピ、コロサイ、エペソ、ピレモンへのパウロの手紙と同じ時期に近い紀元 60 - 62 年前後に書かれたと推測しています（『聖句ガイド』「パウロの手紙」参照、*scriptures.lds.org*）。

誰に向けて、なぜ書かれたか

パウロは、ユダヤ人の教会員たちがイエス・キリストを信じる信仰を維持し、かつての慣習に戻らないよう励ますために、ヘブル人への手紙を書きました（ヘブル 10:32 - 38 参照）。

さまざまな苦難の重圧から、これらユダヤ人キリスト教徒の多くが教会から離れ、比較的安全な会堂でのユダヤ教の礼拝に戻りつつあったようです（ヘブル 10:25, 38 - 39 参照）。パウロは、これらのユダヤ人キリスト教徒たちに、モーセの律法自体が救いの真の源として、イエス・キリストとその贖罪を指していることを示したいと願っていました。

この書の特徴は何か

ヘブル人への手紙は厳密に言うと、手紙というよりは、イスラエルの聖文と慣習に繰り返し言及する説教の延長のようなものです。それは、イエス・キリストが、なぜ、どのように全てのものより優れているかについて述べている、聖典の中で最も長い説教です。

律法を与えられたのがイエス・キリストであることから、イエスは律法よりも偉大であると、ヘブル人への手紙は教えています。預言者が主を信じる信仰を通して力を与えられたこと、主が旧約の時代の犠牲を成就された偉大な大祭司であられること、主が天使に勝っておられること、そして贖いの犠牲によってわたしたちが罪の赦しを受けられることについても、ヘブル人への手紙は教えています。

ヘブル書は、預言者メルキゼデク（ヘブル 7:1 - 4 参照）と彼にちなんで名付けられた神権（ヘブル 5:5 - 6, 10:6:20; 7:11 - 17 参照）について読むことができます。聖書の中でも数少ない書の一つです。メルキゼデク神権はアロン神権より偉大であり、モーセの律法やレビの祭司によって執行される儀式に救いが見いだされるのではなく、イエス・キリストとメルキゼデク神権の儀式によって可能なることを、ヘブル人への手紙は教えています（ヘブル 7:5 - 28 参照）。ヘブル 11:1 - 12:4 には、信仰についての重要な講話が記録されており、個人がどのようにイエス・キリストを信頼することができるかを教えています。（*Bible Dictionary, "Pauline Epistles: Epistle to the Hebrews"* の項参照）

概要

ヘブル 1 - 6 章 イエス・キリストは御父の本質の真の姿であられる。イエス・キリストは、天使やモーセを始めとするイエス以前の全ての預言者よりも偉大であられる。エジプトから救い出された古代イスラエルの民は、イエス・キリストとその僕モーセに対して心をかたくなにしたために、主の安息に入ることができなかった。偉大な大祭司として、イエスは全てのモーセの律法の大祭司よりも優れておられる。自らの苦しみを通して、キリストは完全な御方になられた。わたしたちは、福音の教義と儀式を通して主の安息に入り、「完成を目指して進[む]」（ヘブル 6:1）ことができます。

ヘブル 7 - 13 章 メルキゼデク神権は福音を管理運営し、アロン神権より偉大である。幕屋とモーセの律法の儀式は、キリストの務めの予型であった。イエス・キリストは御自身の血を流すことを通してモーセの律法を成就された。これによりわたしたちは救いと罪の赦しを得ることができるようになった。信仰によって、預言者やその他の男女は義にかなった業や奇跡を行った。

ヘブル 1 - 4 章

はじめに

パウロはイエス・キリストの真の特質について聖徒たちに教えました。また、イエス・キリストの贖罪と、贖罪の結果もたらされる祝福の一部についても教えました。パウロは、聖徒たち

が主の安息に入るためになすべきことを教えるために、古代のイスラエル人が荒れ野をさまよった経験を分かち合いました。

教えるための提案

ヘブル 1 章

パウロ、イエス・キリストの特質について教える

次の状況を声に出して読みます。

1. ある若い女性は、友達との幾つかの活動に参加しないので「良い」子だと言われることにうんざりしています。自分の標準を少し下げて、友達のグループに入れてもらおうかと考えています。
2. ある若い男性は、実際に伝道に出てみると、それが予想していたよりも難しいことに気づいたため、家に帰ろうかと考えています。
 - これらの状況の共通点は何でしょうか。
 - 自分で正しいことであると分かっているが、途中でその努力をやめようかと思ってしまう理由にはどんなものが考えられますか。

次の事柄を説明して、手短かにヘブル人への手紙を紹介しします。さまざまな苦難に遭っていたユダヤ人改宗者たち（ヘブル人と呼ばれる）の一部は、教会の集会から離れ、イエス・キリストを信仰しない比較的安全な、かつてのユダヤ教の礼拝に戻りつつありました（ヘブル 10: 25, 38 - 39 参照）。パウロは、イエス・キリストに忠実であり続けるようこれらの教会員を励ますために、この手紙を書きました。

ヘブル人への手紙を研究しながら、生徒たちが諦めそうになったときでも、キリストに忠実であり続けるための助けとなる真理を見つけてもらいます。

生徒たちに、ヘブル 1: 1 - 3, 10 を黙読してもらい、イエス・キリストについてパウロがユダヤ人の聖徒たちに教えた教義を見つけてもらいます。

十分な時間を与えた後、数人の生徒に、彼らが見つけた真理をホワイトボードに書いてもらいます。生徒たちはさまざまな言葉で表現することが予想されますが、次のような真理に関する文章を彼らを書くことを確認します。

イエス・キリストは天と地を創造された（ヘブル 1: 2, 10 参照）。

天の御父は、イエス・キリストを通じてわたしたちに語られる（ヘブル 1: 2 参照）。

イエス・キリストは、天の御父の相続者であられる（ヘブル 1: 2 参照）。

イエス・キリストは、天の御父の本質の真の姿であられる（ヘブル 1: 3 参照）。

イエス・キリストは、天の御父の力ある言葉をもって万物を保っておられる（ヘブル 1: 3 参照）。

イエス・キリストは、わたしたちの罪の清めの業をなし終えられた（ヘブル 1: 3 参照）。

イエス・キリストは天の御父の右の座につかれています（ヘブル 1: 3 参照）。

『神の本質の真の姿』という言葉は、イエス・キリストが身体的にも霊的にも天の御父を体現されていることを表し、『その力ある言葉をもって万物を保っておられる』という言葉は、イエス・キリストが全ての力をお持ちであることを表していると説明するとよいでしょう。

- これらの真理を知っておくことで、イエス・キリストとその福音に忠実であり続けることに苦しんでいる人をどのように助けることができるでしょうか。

生徒が主の御心を行うことに背を向けそうになったときに、これらの真理のうちどれが自分の助けになるかを考えてもらいます。

教義と原則を見つける

聖文の主要な目的の一つは、福音の教義と原則を教えることです。聖文に書かれているままに教義と原則を見つけることは、「福音を教え学ぶときの基本」の一つです。それらを見つける方法を学ぶには、思慮深く努力し、実行する必要があります。教義と原則を見つけたとき、確実に生徒の心にそれらの真理をはっきりと刻みつけるよう、明瞭かつ簡潔に述べるのが重要です。

ヘブル人への手紙の主題は、イエス・キリストの優位性であることを説明します。例えば、ヘブル 1:4 - 14 でパウロは、イエス・キリストは天使よりも偉大であることを教えました。その後の章で、引き続きパウロはキリストの卓越性と優位性を教えました。

- イエス・キリストがあらゆるものに勝っておられることを知ることは、どのようにイエス・キリストに忠実であり続けることに苦しんでいる人への助けとなるでしょうか。

生徒たちがヘブル人への手紙の残りの部分を学びながら、このテーマを引き続き探すよう勧めます。

ヘブル 2 章

パウロ、イエス・キリストが救いの君 (英語で *captain*) であると教える

生徒たちに、彼らの所属するチームやグループ (例えば、スポーツのチーム、学校の部活動など) のキャプテンやリーダーをどのように選んでいるか考えてもらいます。

- キャプテンやリーダーを選ぶときに、どのような適性をその人に求めますか。

ヘブル 2 章では、ユダヤ人の改宗者たちがなぜ続けてイエス・キリストに従う必要があるのかを理解する助けとして、パウロがイエス・キリストの特質と身元についてさらに教えたことを説明します。一人の生徒に、ヘブル 2:10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロはイエス・キリストを何と呼んだかを見つけてもらいます。

- イエス・キリストは何の君なのでしょう。(次の真理をホワイトボードに書きます。イエス・キリストは、わたしたちの救いの君である。)
- どのような意味でイエス・キリストはわたしたちの救いの君なのでしょう。

生徒たちに二人一組になってもらい、一人の生徒にはヘブル 2:8 - 13 を、もう一人の生徒にはヘブル 2:14 - 18 を読んでもらうよう割り当てます。生徒たちに、救い主が救いの君に選ばれた理由を表す語句を見つけてもらいます。(17 節の「民の罪をあがなうために」という言葉は、キリストがわたしたちの罪を贖ってくださったために、わたしたちが天の御父と和解し、御父との穏やかな関係がもたらされたことを意味すると説明します。)

十分に時間をとった後、生徒たちにパートナーと見つけたことを話し合ってもらいます。その後、次の質問をします。

- 9 節によると、イエス・キリストは全ての人のために何をされましたか。
- 14 節によると、贖罪を通じて救い主は誰に打ち勝たれましたか。

パウロは救い主を、わたしたちの救いの君と呼んだだけでなく、「あわれみ深い忠実な大祭司」(17 節) とも呼んだことを指摘します。大祭司は神と人々の間の仲保者とみなされていたので、パウロは、イエス・キリストをユダヤ人の大祭司にたとえました。

- 17 節によると、どんなことによってイエスはそのようなあわれみ深い忠実な大祭司となりましたか。
- 18 節によると、なぜ救い主はわたしたちを助ける (慰める) ことがおできになるのでしょうか。(アルマ 7:11 - 13 も参照してください。)

ヘブル 4:14 - 16 では、救い主が憐れみ深い忠実な大祭司であられることについてパウロがさらに洞察を加えたことを説明します。一人の生徒に、これらの聖句を読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのようにイエス・キリストがそのような偉大な大祭司になられたのかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- ヘブル 2:14 - 18 と 4:14 - 16 で学んだ事柄から考えると、なぜイエス・キリストはわたしたちを完全に理解し、弱さや欠点のあるわたしたちに憐れみを示すことがおできになるのでしょうか。(イエス・キリストは全てのことに苦しまれ、誘惑を受けられたので、わたしたちのことを完全に理解しておられ、必要なときに助けることがおできになるという真理を生徒たちが見つけるように助けます。ホワイトボードにこの真理を書きます。)
- ヘブル 4:16 によると、この真理を理解することでわたしたちはどんなことができるようになりますか。
- 「はばかりことなく恵みの御座に近づく」とはどういう意味だと思いますか。

指導者としてのイエス・キリストに従う確かな決意を固めるうえで、ヘブル 2 章の真理がいかに助けとなるか生徒たちの気持ちを分かち合ってもらいます。

ヘブル 3 - 4 章

パウロ、主の安息に入る方法を教える

クラスノートや聖典学習帳に、物質的または霊的な心配事の原因となる事柄を書いてもらいます。

- それらの心配事やその他の不安を引き起こす原因から、どのように平安や安息を見つけることができるでしょうか。

ユダヤ人の聖徒たちが福音に従って生活していたために迫害に遭っていたことを、生徒たちに思い出してもらいます。ヘブル 3 章と 4 章では、この世と次の世の生活において安息を見つける方法を聖徒たちに教えるため、パウロは旧約聖書のある経験を用いたことを説明します。

古代のイスラエル人は、エジプトから脱出した後に主の怒りを招いたために主の安息に入ることを赦されなかったことを説明します（民数 14 章；モルモン書ヤコブ 1:7-8；アルマ 12:33-37；13:6, 12-13, 28-29 参照）。ヘブル 3:11 の「わたしの安息」という言葉に印をつけてもらいます。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコスキー長老は、主の安息に入るとはどういう意味かを説明したことを指摘します。一人の生徒に、マッコスキー長老の次の言葉を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、主の安息に入るとはどういう意味かを見つけてもらいます。



「まことの聖徒はこの世にいる間に主の安息に入り、真理のうちにとどまることによって、天において主とともに安息を得るまで、そのように祝福された状態を保ち続ける。……主の安息とは、死すべき者に関しては、末日の偉大な業が神の業であることを完全に理解することである。……主の安息とは、永遠の観点から言えば、永遠の命を受け継ぎ、主の完全な栄光を受けることである（教義と聖約 84:24）。」（*Mormon Doctrine*, 第 2 版 [1966 年], 633）

- この世で主の安息に入るとは、どういう意味ですか。死後、主の安息に入るとはどういう意味ですか。

教師がヘブル 4:1 を声に出して読み、生徒たちには聞きながら、一部の教会員についてパウロが心配していた事柄を見つけてもらいます。

- パウロはどんな心配をしていましたか。（主の安息に入り損なう会員がいるかもしれないということ。）

次の聖句をホワイトボードに書きます — ヘブル 3:7-8, 12-15, 18-19; 4:2-3, 6-7, 11。生徒たちに、これらの聖句を黙読しながら、わたしたちがどのように主の安息に入ることができるか、パウロが教えた事柄を見つけてもらいます。（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳 [抜粋]」のジョセフ・スミス訳ヘブル 4:3 を読むよう生徒たちに勧めます。）十分な時間を取った後、生徒たちに見つけた事柄を発表してもらいます。

- 「もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば」（ヘブル 3:14）という言葉はどんなことを意味していると思いますか。
- 「心を、かたくなに [しない]」（ヘブル 3:15; 4:7）とはどういう意味だと思いますか。（心を開き、進んで神とその戒めに従うこと。）
- 主の安息に入る方法についてパウロはどんなことを教えましたか。（生徒からの答えをもとに、次の原則をホワイトボードに書きます。救い主に忠実であり続け、心をかたくなにしなければ、わたしたちは主の安息に入る。）
- 神の目的と計画に対して心を開くことは、わたしたちが主の安息に入るための備えをするのにどのような助けとなるでしょうか。
- 主の安息に入ることを求めることで、わたしたちはこの世でどのような祝福を受けるでしょうか。

問題や心配事を抱えているときでも、救い主に忠実であり心を開くことが、どのように安息を得る助けとなったか生徒たちに深く考えてもらいます。数人の生徒に考えを発表してもらいます。

生徒が、イエス・キリストに忠実であり続け、イエスに心を開くために何ができるかを、クラスノートや聖典学習帳に書くように勧めます。

家庭学習クラスのレッスン

2 テモテ 1 章 — ヘブル 4 章 (単元 27)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が 2 テモテ 1 章—ヘブル 4 章 (単元 27) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせるように、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (2 テモテ)

パウロからテモテへのこの手紙の中で、生徒たちは次の真理を学びました—御霊がわたしたちとともにあるよう熱心に求めるときに、わたしたちは恐れを克服し、イエス・キリストの証を恥としないようになる。わたしたちが試練を堪え忍び、主に忠実であり続けるならば、自分と周りの人々がイエス・キリストによって救いを得るのを助けることができる。わたしたちが不義なるものを取り去って自分を清めるならば、主により良く仕えることができるようになる。主がわたしたちに求められること全てに忠実であり続けるなら、わたしたちは義の冠を受ける。また生徒は、わたしたちの時代の苦難と聖文の価値についても学びました。

第 2 日 (テトス)

生徒たちがクレテの教会指導者であったテトスへのパウロの手紙を研究する中で、わたしたちが神の言葉を堅く守るときに、真の教義を用いて、他の人々がイエス・キリストの福音に沿って生活するように励まし、それに反対する者に打ち勝てるようになるということを、生徒たちは学びました。パウロは、イエス・キリストに従う者は、他の人々への良い模範となるよう勧めました。またパウロは、イエス・キリストが、わたしたちを贖い、清めるために、わたしたちのために自らをささげられたことを証しました。

第 3 日 (ピレモン)

ピレモンから逃亡した奴隷で、新しく改宗した男を福音における兄弟と思うよう、パウロがピレモンに懇願したことから、生徒たちは、わたしたちが福音にあって兄弟、姉妹であることを学びました。また、イエス・キリストの弟子は、人に憐れみを示し、赦すことを学びました。

第 4 日 (ヘブル 1—4 章)

ヘブル人へのパウロの手紙の学習を通じて、生徒たちは、創造主としての役割や、天の御父との類似など、救い主についての教義を幾つか学びました。これらの教義を学ぶことで生徒たちは、イエス・キリストはわたしたちの救いの君であるという真理を見いだしました。また、イエス・キリストは全てのことにおいて苦しみ、試されたために、わたしたちを完全に理解し、必要な時には助けてくださるということも学びました。

はじめに

このレッスンでは、パウロの時代の苦難だけでなく、末日の時代の苦難についてのパウロの預言を取り上げます。パウロは、テモテと将来の読者たちに、苦難の中にあっても、それまでに学んだ真理に忠実であるように、また理解し、正され、導かれるための源として聖文を使うよう指示しました。

教えるための提案

2 テモテ 3 章

パウロ、末日の苦難について教える

レッスン前に、早く到着した 2—3 人の生徒に、危険な状況を表す絵をそれぞれホワイトボードに描いてもらいます。レッスンが始まってから、次の質問を生徒たちに尋ねます。

- どのような言葉を使ってホワイトボードに描いた状況を表すことができますか。

テモテへの第二の手紙の中で、パウロの時代とわたしたちの時代の状況についてパウロが預言したことを説明します。一人の生徒に、2 テモテ 3:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちの時代についてパウロがどのように表現したかを見つけてもらいます。

- パウロはわたしたちの時代をどのように表現しましたか。(必要に応じて、「苦難」(訳注—英文では *perilous*。「危険」の意)) という言葉は、危険に満ちていることを表していると説明します。)
- わたしたちの時代に見られる、道徳的あるいは霊的な苦難、危険にはどのようなものがありますか。

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に次の表のコピーを配ります。各組に 2 テモテ 3:2—7 を読んでもらい、表の質問に答えてもらいます。「そしる」とは、悪く言ったり、非難すること、「融和」とは、打ち解けて仲良くすることです。

2 テモテ 3 : 2 - 7

<p>パウロが説明した末日の状況には、どのようなものがありますか。</p>	<p>これらの状況のうち、わたしたちの時代にあなたが目にしたことがあるのはどれですか。(2つか3つ見つけます。)これらの状況はなぜそれほど危険なのでしょうか。</p>

十分な時間を取ってから、それらの状況がそれほど危険である理由も含めて、表の質問にどのように答えたいかを生徒たちに発表してもらいます。

生徒たちが研究した聖句の中で、パウロが語った危険の幾つかが、自分たちに降りかかるかもしれないと心配したことがあったか深く考えてもらいます。

- 2 テモテ 3 : 5 の終わりの部分によると、パウロがテモテに勧めたことで、わたしたちの時代にも役立つことは何ですか。(わたしたちは邪悪から遠ざかるべきである。)

このように深刻な憂慮すべき状況の中でも、助けと守りを見つげることができることを説明します。一人の生徒に、2 テモテ 3 : 14 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、これらの苦難を耐え忍ぶのに助けとなるパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 苦難を堪え忍ぶことについて、パウロは何を教えましたか。
- 14 節の「自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい」とは、どのような意味だと思いますか。

生徒たちに末日の霊の苦難を克服する方法について、2 テモテ 3 : 14 - 15 から原則を見つけてもらいます。(生徒が答えてから、ホワイトボードに次の原則を書きます。信頼できる情報源と聖文から学んだ真理にとどまっていれば、末日の霊の苦難を克服することができます。)

- 聖文や学んだ真理に頼ることは、わたしたちが今日の苦難を克服するためのどのような助けとなりますか。
- 学んだ真理に頼る決心をしたのは、どのようなときでしたか。そうすることでどのように祝福されましたか。(この質問への答えは、最初に生徒たちのクラスノートや聖典学習帳に書いてもらい、その後数人の生徒に書き込んだ事柄を発表してもらうとよいでしょう。)

生徒たちに、テモテ 3 : 15 - 17 はマスター聖句であることを再度伝えます。一人の生徒に、2 テモテ 3 : 15 - 17 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聖文についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。見つけた箇所を印をつけるよう生徒に提案するとよいでしょう。

- 今日のわたしたちの助けとなり得る聖文の研究について、パウロは何を教えましたか。(生徒たちが次の原則を見いだせるよう助けます。聖文を研究するとき、わたしたちは完成に向かって成長する助けとなるように、教義を学び、正され、導きを得ることができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

生徒たちに、新約聖書で学んだ聖句も含め、聖文が次のような状況で助けになったときのことを考えてもらいます。

- 福音の教義への理解を与えてくれた
- 自分の間違った考え、選び、行動についてのとがめ、正すことを提供してくれた
- 祈りへの答えを与えたり、問題の解決法についての指示を提供してくれた

生徒たちの経験を思い出す時間を与えて、その後数人の生徒に考えたことを分かち合ってもらいます。

- 聖文の価値について学んできたことを基に考えると、なぜわたしたちは毎日聖文を研究するように勧められていると思いますか。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老が述べた次の言葉をコピーして、生徒たちに配ります。一人の生徒に、声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、聖文を研究することについてのスコット長老からの勧告と約束を見つけてもらいます。



「聖文を研究する時間がないなどというサタンのお誘いに屈してはなりません。聖文を研究するための時間を取ってください。神の言葉を毎日よく味わうことは、睡眠や学校、仕事、テレビ番組、コンピューターゲーム、ソーシャルメディアよりも大切です。神の言葉を研究する時間を取るために優先順位を見直す必要があるかもしれません。もしその必要があれば、見直してください!

……毎日時間を取って個人でも家族でも神の言葉を研究するなら、皆さんの生活に平安が満ちるでしょう。」(「信仰を行使することを最優先とする」『リアホナ』2014年11月号、93)

教師は、聖文に書かれた真理にとどまる者にもたらされる安全と平安について証します。

生徒に紙を渡し、3つに折ってもらいます。紙を広げて1つ目の欄の上に「人を教える」、2つ目の欄の上に「戒め、正しくする」、3つ目の欄の上に「義に導く」と書いてもらいます。

この紙を生徒たちの聖典のしおりとして1週間使ってもらい、これらの目的に当てはまる聖句を読むたびに、該当する欄に記入してもらいます。例えば「人を教える」の下には、参照聖句とその聖句から学んだ教義や原則を書くことができます。「戒め、正しくする」の下には、参照聖句とその聖句がどのように間違った概念を正したかを書きます。「義に導く」の下には、生徒たちが行うべき善行についての理解を与える聖句を記録します。

1週間後にその紙を授業に持参して、彼らの経験を報告してもらいます。教師は、1週間後にこのマスター聖句を見直して簡単に話し合いをすることを忘れないように、自分の聖典または手引きにメモしておくといよいでしょう。

次の単元(ヘブル 5 章-ヤコブ 1 章)

次の単元を研究する中で、生徒たちに次の質問について考えてもらいます-若い男性はどのようにして神権に召されますか。ヘブル書は偉大な信仰をもっていた人として、誰のことを語っていますか。この単元で学ぶ男性と女性の誰かを知っていますか。どの聖句を読んだ結果、ジョセフ・スミスは「神に、願い求める」ことにしましたか。この求めが最初の示現をもたらしました。清く汚れない信心とは何ですか。

ヘブル5－6章

はじめに

パウロは、神権を授かる者たちは、神によって召されなければならないこと、イエス・キリストは「神によって、メルキゼデクに等しい大祭司と、となえられた」（ヘブル5：10）ことを教

えました。パウロは、神の約束を得られるよう、教会員に熱意、信仰、忍耐、望みを持つことを勧めました。

教えるための提案

ヘブル5章

パウロ、神権を授かる者たちが、神によって召されなければならないと教える

レッスンの前に、別々の紙に「医者」、「警察官」と職名を書いておきます。二人の生徒に、前に出て来てもらい、それぞれに紙を一枚ずつ渡します。その後、次の質問をします。

- 二人の生徒たちはそれぞれに職名の書かれた紙を持っていますが、あなたが事故にあったときに、もし〇〇さん〔「医者」と書かれた紙を持っている生徒の名前〕があなたに手術を施そうとしたら、どんなことを心配しますか。
- 〇〇さん〔「警察官」と書かれた紙を持っている生徒の名前〕が、あなたに違反切符を切るうとしたらどうしますか。
- 二人の生徒たちが、持っている紙の職業に付随する職務を行おうとするときに、それをさせたくないと感じてしまうのはなぜですか。（二人の生徒にはその職務を行うための権限と能力がない。）

わたしたちの社会では、ある一定の職務を遂行するには、資格が必要であり、その職権を得るための方法が確立されているように、神も同様に、その教会における責任を遂行するために必要な資格（忠実さやふさわしさなど）とその権限を得る方法を定められたことを説明します。生徒たちがヘブル5章を研究しながら、この権能を得るために神が定められたパターンを見つけてもらいます。

ヘブル4：14－16にあるように、パウロは救い主を「（英語で *great* [偉大な] が付く）大祭司」（14節）と呼んだことを思い出してもらいます。一人の生徒に、ヘブル5：1－3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イスラエルの民の間での大祭司の役割についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- イスラエルの民の間で、大祭司の役割はどんなものでしたか。

これらの節に出てくる大祭司の職は、モーセの律法のもとではアロン神権を管理する職であったことを説明します。「アロン神権の初代大祭司」はモーセの兄であるアロンでした。この職は世襲であり、アロンの時代の後、大祭司はアロンの家系の長子とその息子たちから選ばれました。大祭司は、通常、生涯にわたって奉仕したが、この職は、最終的に邪悪な男たちに奪われました。「大祭司は、ヘロデとローマ人のどちらにも、意のままに不適切に任命され、退任させられた。紀元前37年から紀元68年の間に、28人の異なった男性がこの職に召された。」（*Bible Dictionary*, “High priest” の項）

一人の生徒に、ヘブル5：4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、大祭司はどのように選ばれることになっていったかを見つけてもらいます。

- 大祭司はどのように選ばれることになっていましたか。

アロンがどのように「神の召しによって受け（た）」（4節）のかを生徒たちが理解する助けとして、一人の生徒に、出エジプト28：1を声に出して読んでもらいます。生徒がこの節を読む前に、これはシナイ山で交わされた神とモーセのやりとりであることを説明します。

- 神権に聖任されるのに、アロンはどのように神に召されましたか。
- 主はこの指示を他の誰でもなくモーセに与えたことはなぜ重要なのでしょうか。（モーセは預言者であったことから、そのような啓示を受け、地上での神権の行使を管理する権限を受けていた。）

- 神権に聖任されるには、何が行われる必要がありますか。(生徒たちは異なる言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見いだしていることを確認します。神権に聖任される者は、神が認める僕が受ける啓示を通じて、神により召されなければならない。今日の教会では、聖任する前に権能を受けた神権指導者が各候補者を面接し、神権に聖任されるための、その人の準備とふさわしさについて判断するために、聖霊の導きを求めることになっているということを説明するとよいでしょう。ヨハネ 15:16 も参照してください。)
- この真理は、教会で奉仕するために人を召すときの過程とどのような関連がありますか。
一人の生徒に、信仰箇条の 5 条を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヘブル 5:4 で見いだした真理が信仰箇条の 5 条でどのように反映されているかを見つけてもらいます。「預言」という言葉は、啓示を指していることを説明します。
- 信仰箇条によると、人が「福音を宣べ伝え、その儀式を執行する」権限が与えられるには他に何を行わなければなりませんか。



「アロンに神権を授けるモーセ」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』15 番。LDS.org も参照)。旧約聖書と新約聖書のどちらにも、預言者、神権者、福音の教師が、権能を受けた神権者による接手によってその召しを受けたことが記録されていることを指摘します(申命 27:18-23; 使徒 6:6; 13:2-3; 1 テモテ 4:14)。

- 今日の教会で人を職に召す過程は、聖典で確立されたパターンをどのように反映していますか。
- この方法によってのみ神権の権能が与えられると知ることが大切なのはなぜですか。
一人の生徒に、ヘブル 5:5-6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どなたが救い主にその権能を授けられたのかを見つけてもらいます。5 節は詩篇 2:7 を、6 節は詩篇 110:4 を引用していることを指摘します。
- 救い主にその権能を授けられたのはどなたですか。(天の御父。)
- イエス・キリストはどの神権をお持ちになっていましたか。(メルキゼデク神権。この神権は最初に救い主にちなんで名付けられたことを指摘します〔教義と聖約 107:2-4 参照〕。)

一人の生徒に、ヘブル 5:7-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストがどのような御方になられたのかを見つけてもらいます。ヘブル 5:7-8 は、アブラハムの時代に生きた預言者であり、王であったメルキゼデクを指していることを説明します(訳注-口語訳聖書で「キリストは」と記されている箇所は欽定訳聖書〔英文〕では「he(彼は)」となっている)。しかしメルキゼデクはキリストの予型であったために、これらの節は救い主にも関連があります(ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻〔1965-1973 年〕, 第 3 巻, 157 参照)。

- ヘブル 5:9 によると、救い主はどのようなお方になりましたか。
- なぜイエス・キリストは、従順である全ての人に対して「永遠の救の源」なのでしょう。

ヘブル 5:11-14 の要約として、パウロはこの内容についてさらに教えたかったものの、人々がより高度な教えを理解するための霊的な理解力と成熟度に欠けていたと述べたことを説明します。

ヘブル 6 章

聖徒たち、神の約束を得られるよう、熱意、信仰、忍耐、望みを持つことを勧められる

- 神がその子供たちに約束された祝福にはどんなものがありますか。(平安、幸福、赦し、祈りへの答え、祝福師の祝福に含まれる祝福、復活、永遠の命などの答えが考えられます。一部の祝福はわたしたちの選択にかかっていることを指摘します。)
- ある特定の約束された祝福をわたしたちが本当に受けられるかどうか、疑問に思ってしまう状況にはどんなものがありますか。

聖典学習帳や何かの紙に、生徒たちが受けたいと待ち望んでいる約束された祝福を書いてもらいます。神が約束された祝福を受けるための助けとなる真理を、ヘブル 6 章から見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヘブル 6:1-3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちは何を指すべきであるとパウロが教えたかを見つけてもらいます。『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳 (抜粋)」にある、ジョセフ・スミス訳ヘブル 6:1 には「そういうわけだから、わたしたちはキリストの教義の原則をなおざりにすることなく」(強調付加)と書かれており、ジョセフ・スミス訳ヘブル 6:3 (同様の箇所に記載)には、「神の許しを得て、完成 (*perfection*) を目指して進もう。」と書かれていることを指摘します。

- 1 節によると、パウロは聖徒たちに何を指すべきであると教えましたか。(完全 [*perfection*] とは、「完成されて欠点がなく、余すところなく成長 (すること)。……キリストに心から従う人々は、キリストの恵みと贖罪によって完全になることができる」[『聖句ガイド』「完全」, *scriptures.lds.org*] を指していることを説明します。)
- これらの節で述べられている中のどのような教義が、わたしたちが完成を目標として進むときにその土台となりますか。

ヘブル 6:4-8 の要約として、パウロは、滅びの子すなわち神の完全な知識を得てからその真理に背く者たちが救い主に反抗し、悔い改めを拒むと述べたと説明します (教義と聖約 29:44-45; 76:31-38 も参照)。パウロは、これらの者たちを、この手紙の対象となっていた忠実な聖徒たちと比較しました。

生徒たちに、ヘブル 6:9-10 を黙読して、パウロが何についてヘブルの聖徒たちをたたえたかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

数人の生徒に、ヘブル 6:11-15 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが聖徒たちに何を求めたかを見つけてもらいます。

- パウロは聖徒たちに何を求めましたか。
「最後まで望みを持ちつづけるためにも、同じ熱意を示し」(11 節) という言葉は、神の約束された祝福を受けるまで、わたしたちが熱心であることを意味していると説明します。
- 神の約束された祝福を求めることにおいて、なぜアブラハムは、熱意、信仰、忍耐の模範なのでしょう。
- 神が約束された祝福を受け継ぐためにわたしたちがしなければならないことについて、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちは異なる言葉を使うかもしれませんが、次の原則を見いだすでしょう。最後まで熱心に、イエス・キリストを信じる信仰と忍耐を持つことで、神が約束してくださった祝福を受け継ぐことができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

ホワイトボードに書いた文の中の「熱意」、「信仰」、「忍耐」の言葉の下に線を引きます。生徒には、クラスノートか聖典学習帳にこれらの言葉の定義を書いてもらいます。十分に時間を与えた後に、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

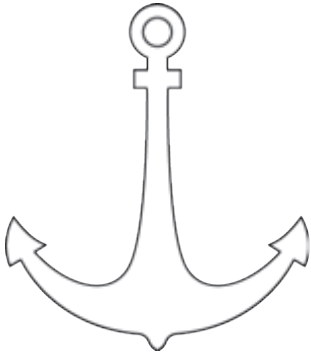
- これらの特質を示すときにどんな困難が予想されますか。
- 「完成を目指して進む」(ヘブル 6:1) ためになぜこれらの特質が必要なのだと思いますか。
- 熱意、イエス・キリストを信じる信仰、忍耐によって、あなたが約束された祝福を得たのはどのようなときでしたか。

一人の生徒に、ヘブル 6:16-20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、望みと神の約束についてパウロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 望みについてのパウロの教えから、どんな真理を学ぶことができますか。(生徒は異なる言葉で表現するでしょうが、次の真理を見いだしていることを確認します。神の約束に対する望みは、わたしたちの魂の霊的な錨である。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

聖文に書かれているように、「希望」とは「約束された義の祝福を固い確信をもって待ち望む」ことを意味すると説明します (『聖句ガイド』「希望」, *scriptures.lds.org*)。

- 17-18 節にある神についてのパウロの教えによると、なぜわたしたちは神の約束に確信を持つことができるのでしょうか。
- 神の約束にわたしたちが望みを持つことは、特にわたしたちが苦難を経験しているときに、どのように熱心で忍耐強く、信仰を持つための助けとなりますか。



一人の生徒に、ホワイトボードに錨の絵を描いてもらいます。

- 船の錨はどのような役割を果たしますか。
- 神の約束に望みを持つことは、あなたにとってどのように霊的な錨となっていますか。

もっと熱意, 信仰, 望み, 忍耐を伸ばすための目標を生徒たちに書いてもらいます。最初にこれらの特質の一つを伸ばすための目標から始めて, その後次の特質へと集中するよう勧めてもよいでしょう。生徒たちに, 書いたことを自分の生活に応用するよう勧めます。

ヘブル7－10章

はじめに

パウロはイエス・キリストが「新しい契約」(ヘブル8:8)の仲保者であると教えました。キリストの犠牲はモーセの律法の犠牲に勝るものであり、モーセの律法における儀式は、

人々を救い主とその贖罪に向かせるためのものであったことを説明しました。

教えるための提案

ヘブル7－8章

パウロ、イエス・キリストが「新しい契約」の仲保者であると教える

懐中電灯を使って、小さな物(鍵やはさみなど)の影をホワイトボードに映します。影を見るだけでそれが何であると分かるか生徒たちに尋ねます。わたしたちは多くの場合、ある物の影を見ることで、それが何であるかを判断できることを指摘します。

「ゲツセマネで祈られるイエス」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』56番。LDS.orgも参照)。旧約聖書には予型や影としての役割を果たすものや、救い主とその贖罪を象徴し、それをあらかじめ示す典礼や儀式が記録されていることを説明します。

- 旧約聖書の中で、イエス・キリストとその贖罪の予型や影となっているものにはどんなものがありますか。

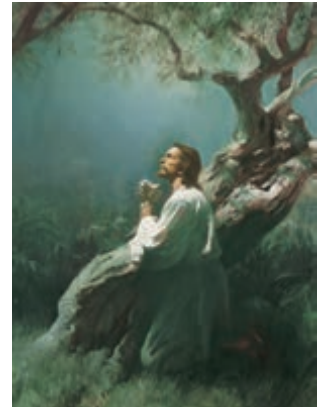
モーセの律法は全ての点において、イスラエルの民の心をイエス・キリストとその贖罪の犠牲に向ける予型または影としての役割を果たすようになっていたことを説明します(2ニーファイ11:4;ヤコブ4:4-5参照)。パウロは、律法の幾つかがどのようにその役割を果たしていたかを説明しました。ユダヤ人の聖徒たちがモーセの律法の遵守に戻るのではなく、イエス・キリストに忠実であり続けるように助けることをパウロは望んでいました。

ヘブル7:1-22の要約として、「メルキゼデクの位にしたがって」(詩篇110:4。ヘブル7:1も参照)祭司が現れることについて、パウロが旧約聖書の預言に言及したことを説明します。パウロは、イエス・キリストがこの預言を成就されたと教えました。メルキゼデクはアブラハムを管理した義の王および大祭司でした(ジョセフ・スミス訳創世14:25-40[『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」];アルマ13:14-19;『聖句ガイド』「メルキゼデク」参照)。パウロはイエス・キリストの予型と影としてメルキゼデクを用いました。レビ神権とそれによって管理されていたモーセの律法では、神の子供たちを全き者とすることができなかったために、イエス・キリストとその神権が必要であったとパウロは教えました(ヘブル7:11参照)。レビ神権は、レビの部族の者たちが持っていたアロン神権の権能を指していることを説明するとよいでしょう(『聖句ガイド』「アロン神権」参照)。

「ゲツセマネで祈られるイエス」と一緒に「アロンに神権を授けるモーセ」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』15番。LDS.orgも参照)。ヘブル7章に書かれているように、パウロはレビの祭司をイエス・キリストと比較したことを説明します。レビの祭司の役割の一つは、象徴的に人々と神の間に立ってその不和を解消する仲保者として行動することであったことを説明するとよいでしょう。

ホワイトボードに「ヘブル7:23-28」と書きます。生徒を二人一組に分け、これらの聖句を声に出して一緒に読んでもらいます。また、生徒たちにジョセフ・スミス訳ヘブル7:25-26を読んでもらいます。このジョセフ・スミス訳の聖句は、『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」の中にあります。各組の一人の生徒に、レビの祭司について説明している言葉を見つけてもらい、もう一人の生徒には、イエス・キリストについて説明している言葉を見つけてもらいます。

十分な時間を取った後、祭司について説明している言葉を見つけた生徒に見つけた事柄を発表してもらいます。ホワイトボードのモーセとアロンの絵の下に生徒たちの答えを書きます。(生徒たちは次のような答えを挙げるのが予想されます—祭司が亡くなると次の祭司を立てる必要があった[ヘブル7:23参照];祭司は自分の罪のため、民の罪のために日々犠牲をささげた[ヘブル7:27参照];祭司には弱さがあった[ヘブル7:28参照]。)



聖文にある象徴を
生徒が理解できるように
助ける

「聖文は象徴と比喩的表現に富んでいる。典礼や儀式は象徴的に執行され、全てはイエス・キリストを証するものである。……幕屋で行われた典礼は、モーセの律法全体がそうであったように、永遠の事柄を象徴しており(ヘブル8-10章)、キリストの予型と影が含まれている。」(Bible Dictionary, "Symbolism"の項)これらの予型や影を生徒たちが理解できるよう助けることで、彼らの福音への理解と愛が深まります。



イエス・キリストについて説明している言葉を見つけた生徒に見つけた事柄を発表してもらいます。ホワイトボードのイエス・キリストの絵の下に生徒たちの答えを書きます。(生徒は次のような答えを挙げるでしょう — イエス・キリストとその神権は「変わらない」つまり永遠である〔ヘブル7:24〕；「彼によって神に来る」人々を救うことができになる〔ヘブル7:25 参照〕；いつも生きていて「〔わたしたちの〕 ためにとりなしておられる」〔ヘブル7:25〕；イエスには罪がなかったので、「御自分の罪のために犠牲を捧げる必要が〔なかった〕」〔ジョセフ・スミス訳ヘブル7:26 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕)〕；「民の罪のため」だけに犠牲をささげる必要がなかった〔ジョセフ・スミス訳ヘブル7:26 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕)〕；主は「永遠に全うされ」ていた〔ヘブル7:28〕。)

「彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられる」(ヘブル7:25)という言葉は、わたしたちが神のみもとに戻るのを助けるために、神との間の仲裁に入られるという主の使命を意味していることを説明します。

- イエス・キリストとレビの祭司たちの違いをどのように説明できるでしょうか。

一人の生徒に、ヘブル8:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストを含む全ての大祭司は何をするよう聖任されていた、つまり召されていたかについて見つけてもらいます。

- 大祭司たちは何をするよう聖任されていましたか。

ジョセフ・スミス訳のヘブル8:4には「それゆえ、主は地上におられる間に、人々の罪のために犠牲として自らの命をささげられた。よってこの律法のもとにあるすべての祭司は、律法に従い、供え物、すなわち犠牲をささげなければならない。」と書かれていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストがささげた犠牲を見つけてもらいます。

- この聖句から、イエス・キリストがわたしたちのためにされたことについて、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは自分の言葉を使って、次の真理を見つけましょう。イエス・キリストは、わたしたちの罪のために御自身の命を犠牲としてささげられた。)
- わたしたちの罪のために、なぜイエス・キリストは御自身の命を犠牲としてささげることがおできになったのかを理解するために、ホワイトボードに書いたどの言葉が助けになるでしょうか。

生徒たちにとって、イエス・キリストの贖いの犠牲にはどのような意味があるかを深く考えしてもらいます。生徒たちに、次のいずれかの文章を完成させて、それを学習ノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

1. わたしは救い主に感謝しています。なぜなら、_____。
2. わたしは救い主がわたしを愛してくださることを知っています。なぜなら、_____。
3. わたしは贖罪による祝福を受けてきました。なぜなら、_____。

十分な時間を与えた後、生徒たちがあまり個人的なことでないと感じるなら、書いたことを発表してもらいます。

ヘブル8:5-13の要約として、イエス・キリストはその犠牲のために「さらにまさった契約の仲保者」(8節)とされたこと、その契約(聖約)は、人がそれを受け入れるならば、彼らが「主を知〔る〕」(11節)ようになり、彼らの弱さから聖められる助けになることを説明します。

ヘブル9-10章

パウロ、モーセの律法の儀式が贖罪へと導いていたことを示す

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次のような図を書いておきます。

ヘブル9-10章に書かれているように、パウロは「贖罪の日」に祭司が行っていた職務を語ることで、引き続きレビの大祭司をイエス・キリストと比較したことを説明します。一人の生徒に、次の段落を読んでもらいます。

年に1度の贖罪の日と呼ばれる(ヨム・キップールとも呼ばれる)ユダヤ教の聖日に、大祭司は後のエルサレム神殿である幕屋の中の至聖所(すなわち最も神聖な場所とも呼ばれる)に入ることを許されました。そこで大祭司は雄牛と雄やぎをいけにえとしてささげました。また至聖所の指定された場所に動物の血を振りまき、祭司の罪と民の罪に対するキリストの贖罪の象徴としました。大祭司はその後、民の罪を別の雄やぎ(身代わり、贖罪のやぎと呼ばれる)へと転嫁し、そのやぎを野に放すことで民の罪が取り去られたことの象徴としました。また、二頭の雄の羊を大祭司自身と民のためのいけにえの燔祭としてささげました(*Bible Dictionary*, "Fasts"の項参照。レビ16:22も参照)。

クラスの半分の生徒たちに、ヘブル9:11, 12, 24, 28を、残りの半分にはヘブル10:1, 4, 10-12を読むように割り当てます。各グループに、割り当てられた聖句を黙読して、贖罪の日の行事がどのようにイエス・キリストの犠牲の予型と影であったのかを見つけてもらいます。十分な時間を取った後、各グループの代表者に見つけたことを発表してもらいます。その後、次の質問をします。

- 贖罪の日到大祭司が幕屋の至聖所に入ったように、救い主は、その贖罪のためにどのような「聖所」(ヘブル9:12)にお入りになることができましたか。(天の御父のみもと、つまり日の栄え。)
- イエス・キリストの犠牲は、「雄牛ややぎなどの血」(ヘブル10:4)ができませんでしたか。
- それではなぜ大祭司は贖罪の日このような犠牲をささげたのでしょうか。(「きたるべき良いことの影」[ヘブル10:1]を示す、つまり救い主の贖罪へと導くため。)

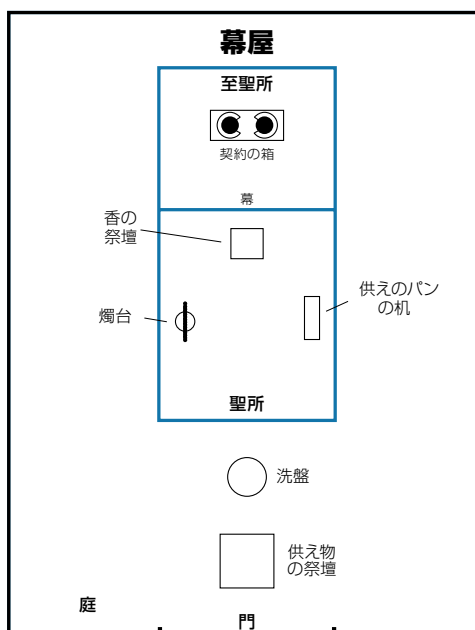
一人の生徒に、ヘブル10:17-20を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、贖罪が何を可能にするかを見つけてもらいます。

- 19節によると、イエスの犠牲のおかげでわたしたちはどのような場所に入ることができますか。(「聖所」、つまり日の栄えの王国の神のみもとに入ることができる。)
- 20節によると、どのようにして、わたしたちは主のみもとに行くことができますか。

「新しい生きた道」とはイエス・キリストの福音、つまり主の贖罪を通じてわたしたちの罪が赦され、聖められることで、神のみもとへ戻るのにふさわしくなるための計画を意味することを説明します。

ホワイトボードに次の未完成の文章を書きます — イエス・キリストの贖罪によって、わたしたちが_____ならば、日の栄えの王国に入ることができる。

一人の生徒に、ヘブル10:22-23を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、日の栄えの王国に入るためにわたしたちがしなければならない事柄を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。



ホワイトボードの文章を次のように完成させます。イエス・キリストの贖罪によって、わたしたちが主を信じる信仰をしっかりと持ち続けるならば、日の栄えの王国に入ることができ

- イエス・キリストを信じる信仰を「しっかりと持ち続ける」(23 節)とはどういう意味だと思いますか。

一人の生徒に、ヘブル 10:35 - 38 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちがイエス・キリストを信じる信仰をしっかりと持ち続ける助けとするためにパウロが与えた勧告を見つけてもらいます。

- イエス・キリストを信じる信仰をしっかりと持ち続けるために、わたしたちはどんなことができますか。
- 「自分の持っている確信を放棄してはいけない」(35 節)とはどういう意味ですか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。ホランド長老は、「[わたしたちが]持っている確信を放棄してはいけない」ということについて説明しています。



「末日聖徒であるわたしたちはこのように言うかもしれません。それは確かにつらい戦いです。教会に入る前、教会に入ろうとしている間、そして教会に入ってから問題も起きます。このような状態は常に起きています。しかし、たじろいではないとパウロは言います。ろうばいしたり、たじろいだりしてはなりません。自信をなくしてはなりません。かつてあなたがどのように感じたかを忘れてはなりません。あなたの経験した事柄に不審の念を抱いてはなりません。この不屈の態度が、敵の力に取り囲まれたときのモーセとジョセフ・スミスを救ったのであり、あなたを救うことになるのです。(「確信を放棄してはいけない」『リアホナ』2000 年 6 月号, 38)

- あなたの知人の中で、イエス・キリストを信じる信仰をしっかりと持ち続けている良い模範である、どのような人を知っていますか。

イエス・キリストを信じる信仰をしっかりと持ち続けるという自分の決意について、生徒たちに深く考えてもらいます。生徒たちが信仰をしっかりと持ち続けるための決意と、それを行う力をどのように強めることができるかを書いてもらいます。

はじめに

パウロは教会員に信仰について教えました。パウロは、旧約聖書の義にかなった男女の模範を用いました。彼らはイエス・


キリストを信じる信仰を働かせることで、奇跡を起こし、苦難を堪え忍び、偉大な祝福を受けました。

教えるための提案

ヘブル11:1-6

パウロ、教会員に信仰について教える

次のフィリピン人の若い女性の話を読みます。生徒たちには、その若い女性がどのように信仰を働かせたかについて注意して聞いてもらいます。

 この話を読む代わりにして、この話の元となっている「清く純粋な信仰」(5分30秒)のビデオを見せることもできます。このビデオは *LDS.org* にあります。若い女性が、続けて必要な物を購入しても大丈夫だという気持ちを感じたところ(タイムコード:2分36秒)でビデオを止めます。

フィリピンのある若い女性は、ある夏、父親が仕事のために遠く離れていたときのことを話しています。父は給料が入ると、いつもそれを家族に送金していました。ある土曜日、その家族は、2枚の20ペソ紙幣を除いて持っているお金を全て使ってしまっていました。若い女性が家族の必要としている物のリストを見ると、必要な物を全て買うと次の日家族で教会に行くための運賃が払えないことに気づきました。母親にどうすべきかと尋ねると、必要な物を買いなさい、運賃のお金は神様が与えて下さると答えました。

若い女性は、リストに書いた物を全部買って、次の日教会に行くための運賃を払えるだけのお金が残るよう祈りました。女性はまず最初に、料理をするための燃料となる木炭を買う必要がありましたが、木炭1袋の値段が、5ペソから10ペソへと2倍になっていることに彼女は驚きました。家族が料理をするために燃料が必要であることは分かっていたので、木炭を2袋買い、合計20ペソを支払いました。家族がそれでもなんとか教会に行けるようにと、彼女はもっと熱心に祈りました。彼女が祈ると「続けて必要なものを買いなさい。大丈夫ですよ。」と何かがささやくのが聞こえました。20ペソしか残っていませんでしたが、彼女は買い物続けることにしました。(ビデオ「清く純粋な信仰」*LDS.org* をもとに編集。)

- この若い女性はどのように信仰を働かせましたか。

一人の生徒に、ヘブル11:1を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが信仰について教えた事柄を見つけてもらいます。

- 1節によると、信仰とは何ですか。(生徒の言葉は違うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。)

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、ヘブル11:1やその他の言葉(アルマ32:21や『信仰に関する講話』(*Lectures on Faith*))を用いて、イエス・キリストを信じる信仰の3つの基本的な要素を説明しています。一人の生徒に、ベドナー長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「これらの教えは、信仰の3つの基本要素、つまり、(1) 待ち望む事柄が真実であることを確信させる、(2) まだ見ていないことを確認させる(または確証を与える)、(3) 全ての英知ある者に行動を促す力となる、ことを強調しています。ここで、救い主を信じる信仰におけるこの3つの要素を、未来に備え、過去を振り返り、現在において行動するという観点から説明します。信仰が、未来、過去、現在の事柄に同時に作用する点に注目してください。」「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号、18)

次の言葉をホワイトボードに書きます — 確信 — 未来を向く; 確認 — 過去を振り返る; 行動 — 在において行動を起こす。ベドナー長老は、確信、確認、行動の信仰のこれらの3

つの要素は、わたしたちが未来を向き、過去を振り返り、現在において行動するときと同時に作用すると教えたことを説明します。

- 「イエス・キリストを信じる信仰を働かせる」ということは、単に「イエス・キリストを信じている」ということとどのように違いますか。
- フィリピン人の若い女性のお話は、ベドナー長老が説明した信仰の3つの要素をどのように表していますか。
- わたしたちがキリストを信じる信仰を働かせるとき、どのようなことが起りますか。


一人の生徒に、ヘブル11:2-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人がイエス・キリストを信じる信仰を働かせるときにどのようなことが起こるかについて、パウロが説明するのに用いた例を見つけてもらいます。

- これらの人々が、イエス・キリストを信じる信仰を働かせたためにどのようなことが起こりましたか。

生徒たちに、ヘブル11:6を黙読してもらい、パウロが信仰について教えた事柄を見つけてもらいます。

- パウロは信仰についてどのようなことを教えましたか。
- パウロが教えたことに基づくと、わたしたちは神を喜ばせるためにどのようなことをしなければなりませんか。(生徒たちはさまざまな言葉を用いるでしょうが、次のことを必ず明確にしてください。神を喜ばせるためには、神のみもとに来て、神を信じ、熱心に神を求める者には神が報いを与えて下さるということを知り、自分の信仰を働かせなければならない。6節のこの真理に印をつけるよう、生徒たちに提案するとよいでしょう。)

一人の生徒に、フィリピン人の若い女性のお話の残りの部分を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、この若い女性がイエス・キリストを信じる信仰を働かせたために、どのようなことが起こったかに注意して聞いてもらいます。

 ビデオを見せることにした場合は、「清く純粋な信仰」の残りの部分(タイムコード2分36秒から終わりまで)を見せます。

他の物のお金を払おうと女性がポケットに手を入れると、大きな紙の塊に触れました。彼女がそれを開くと、彼女が持っていた最後の1枚の20ペソ札にくるまって20ペソ札がさらに5枚ありました。その瞬間、家族が必要としている物を全て買って、家族全員で教会に行くのに十分なお金が残ることが分かりました。この若い女性は、この経験をしたとき、神の助けと、自分に対する神の愛を感じたと説明しました。彼女は家に着くと、その奇跡を与えてくださった天の御父に感謝しました。(ビデオ「清く純粋な信仰」、LDS.orgをもとに編集)

- この若い女性がイエス・キリストを信じる信仰を働かせたことによって、どのようなことが起こりましたか。
- この経験は、将来この若い女性が信仰を働かせるときにどのような助けとなるのでしょうか。(彼女はこの経験を通じて神が助けてくださるという証を得たので、将来また神が助けてくださるという確信を持つことができる。証と確信を得ることができたので、現在においても行動を起こす信仰を持つことができる。続けて行動するならば、この信仰に基づいて行動を起こすという過程が継続することによって、彼女の信仰がますます強まる。)

自分が信仰を働かせたときのことを生徒に思い出してもらいます。数人の生徒に、経験を分かち合ってもらいます。

- その経験によって、将来またあなたを神が助けてくださるという証をどのように得ることができましたか。

ヘブル11:7-40

パウロ、旧約聖書の中から、義にかなった人々が信仰を働かせた模範を挙げる

- あなたが今、または将来イエス・キリストを信じる信仰を働かせることを求められる状況にはどのようなものがありますか。

ヘブル11:7-40を研究しながら、生徒たちが、イエス・キリストを信じる信仰を働かせるときに受けることのできる祝福を知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

ホワイトボードに、「信仰によって」という言葉を書き、パウロは旧約聖書の中から信仰を働かせた義の人々の例を用いて、手紙の読者も同様に信仰を働かせることによって祝福されるという確信を持たせたことを説明します。生徒たちに、ヘブル 11 章に簡単に目を通して、「信仰によって」、「信仰による」という言葉を見つけてもらいます。それらの言葉に印をつけるように勧めるとよいでしょう。

一人の生徒に、ヘブル 11:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ノアがどのように神への信仰を働かせたかを見つけてもらいます。（「恐れかしこみつつ」とは、ノアが神からの指示に基づいて望みと確信を持って行動したことを意味すると説明するとよいでしょう。）

- ノアはどのように神への信仰を働かせましたか。
- ベドナー長老が説明した信仰の要素（確信、確認、行動）のうち、このノアの話ではどれが明らかになっていますか。
- どのような方法でそれらは明らかになっていますか。

次の参照聖句をホワイトボードに書き出します — ヘブル 11:8 – 10, 11 – 12, 17 – 19, 20 – 22, 23 – 28, 29 – 31。クラスを 6 つのグループに分け、これらの参照聖句を一つずつ割り当てます。（クラスが小さい場合は、各生徒に聖句を一つずつ割り当てるか、生徒を二人一組にして、各組に複数の聖句を割り当てるようにします。）各グループに割り当てられた聖句を一緒に読むよう伝えて、次の質問の答えを見つけてもらいます。（これらの質問をホワイトボードに書いてもよいでしょう。）

信仰を働かせたのは誰ですか。

どのような方法で、信仰の 3 つの要素（確信、確認、行動）が示されていますか。

今日同じような信仰を必要とする状況にはどのようなものがありますか。

十分な時間を取った後、各グループの代表者一人にそれぞれ自分たちの答えを発表してもらいます。

一人の生徒に、ヘブル 11:13 – 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、アブラハム、サラ、その他の人の模範から信仰を働かせることについて学べる事柄を見つけてもらいます。「もっと良い……ふるさと」（16 節）とは、永遠の命を意味していることを説明します。

- 13 節によると、アブラハムとその妻サラとその他忠実な人々にどのようなことが起こりましたか。
- 彼らはこの世で神の全ての約束を受けたわけではないにもかかわらず、なぜ忠実であり続けたのでしょうか。（約束された祝福を「はるかに」望み見るとは、死後に、祝福を受けるという望みと確信のことである説明するとよいでしょう。）
- 彼らの模範は、わたしたちが忠実であり続けることにおいてどのように助けとなるでしょうか。

次の文章をホワイトボードに書きます — イエス・キリストへの信仰を働かせることによって、わたしたちは _____ ことができます。この文章を生徒のクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

数人の生徒に、ヘブル 11:32 – 40 を順番に声に出して読んでもらいます。35 節のジョセフ・スミス訳（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）では、「更にまさったいのち」が「第一の復活」に変更されていること、また 40 節は次のように変更されていることを説明します。「神は彼らのために、苦難を通してさらに良いものをあらかじめ備えてくださっている。苦難がなくては彼らが全うされることはないからである。」他の生徒には、聞きながら、ノートに書いた文章を完成させるための答えを見つけてもらいます。印象に残る言葉や表現に印をつけるように勧めるとよいでしょう。

32 – 40 節に基づいて、文章を完成させてもらいます。十分な時間を与えた後、発表したと思っている生徒数人に書いたことを述べてもらいます。次の原則をホワイトボードに書き、生徒からの答えを要約します。イエス・キリストへの信仰を働かせることによって、わたしたちは苦しみを堪え忍び、奇跡を起こし、神から約束を受け、神についての証を強め、完成を目指して進むことができます。

聖文に印をつけ、 注釈を施す

教師と生徒にとって、学んだことを忘れないようにするための最も有益な方法の一つは、聖文に印をつけ、注釈を施すことです。生徒たちに自分の聖典の中で大切な言葉や語句に印をつけるよう勧めるとよいでしょう。また教義や原則に印をつけるよう勧めることもできます。生徒たちが聖典に印をつける際には、ある特定の方法で印をつけるよう奨励するようなことはしないでください。生徒たちは、印をつけることを強制されるべきではないことを覚えておいてください。

- わたしたちが、イエス・キリストを信じる信仰を働かせる方法にはどのようなものがありますか。
- 人が信仰を働かせたことで、どのような祝福が訪れるのを目にしたことがありますか。
生徒たちが今、または将来イエス・キリストを信じる信仰を働かせることになる状況について、もう一度考えてもらいます。
そのような状況の中で、主を信じる信仰を働かせるための目標を立てるよう勧めます。「信仰によってわたしは_____する。」という文章を完成させる形で、生徒たちに目標を書いてもらいます。

ヘブル 12 - 13 章

はじめに

パウロは教会のユダヤ人会員たちに、イエス・キリストの模範に従うことで弟子としての競争を走り抜くよう勧告しました。また、主の訓練を受けるという祝福についても説明しました。パウロは、聖徒たちがイエス・キリストの贖罪によって全き者となるように、神の御心を行うよう彼らに勧めました。

注—第 140 課では、二人の生徒に教える機会が与えられます。前もって二人の生徒を選び、彼らが準備できるように第 140 課の所定の部分のコピーを渡してください。彼らが準備し教えるときに、祈りを込めてレッスンの内容を学習し、聖霊の導きを求めるよう勧めます。

教えるための提案

ヘブル 12 章

パウロ、信仰と忍耐を持って人生の競争を走り抜くよう聖徒たちに勧告する

ホワイトボードに簡単な走者の絵を線で描きます。長距離を走る走者は、どのような困難に遭うことがあるか生徒たちに尋ねます。(長距離走を走ったことがある生徒がいるか尋ね、走ったことがある生徒に長距離を走っていたときにどのような困難を経験したことがあるか、尋ねてもよいでしょう。)

- 走者が疲労やその他の辛さを感じていても、走り続けようとする意志はどこから来るのでしょうか。
- どのような点で、イエス・キリストの弟子としての生活を長距離走にたとえることができますか。
- イエス・キリストの弟子であるわたしたちは、どのような困難に直面することがあるでしょうか。

生徒たちに、イエス・キリストに従う者として、どのような困難に直面するか(または直面したことがあるか)を考えてもらいます。生徒たちがヘブル 12 章を研究しながら、困難なときでも、イエス・キリストに従い続ける助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヘブル 12:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、弟子として競争を走り抜くには何が必要か、パウロが聖徒たちに教えた事柄を見つけてもらいます。

- 弟子として競争を走り抜くには何が必要だとパウロは言いましたか。

一人の生徒に、前に来てもらい、バックパックを背負ってもらいます。バックパックに石を詰めて、石の詰まったバックパックを背負って走ると、どんなことになるかを説明してもらいます。

- どのような点で、わたしたちの罪は石の詰まったバックパックのようであると言えるでしょうか。

生徒にバックパックを下ろして、席に戻るよう伝えます。

- 忍耐強く弟子としての競争を走り抜くとはどういう意味ですか。

一人の生徒に、ヘブル 12:2-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、罪を捨てて忍耐強く逆境を堪え忍ぶ助けとなるよう、パウロが聖徒たちに何をしよう教えたかを見つけてもらいます。

- パウロが聖徒たちに教えた事柄に基づくと、どんなことが罪を捨てて忍耐強く逆境を堪え忍ぶ助けとなりますか。(生徒は異なる言葉を用いることが予想されますが、次のような原則を見いだしていることを確認します。イエス・キリストの模範を仰ぎ見るとき、わたしたちは罪を捨て、忍耐強く逆境を堪え忍ぶ力を見いだすことができます。)

- 2 節によると、パウロはイエス・キリストの模範に倣うよう聖徒たちに伝えました。イエス・キリストはどのようなことをされましたか。

「十字架へのはりつけ」の絵を見せ(『福音の視角資料集』57 番。LDS.org も参照)、その後、イエス・キリストは天の御父に忠実であり続けることによってもたらされる喜びを御存



じであったので、十字架での死と世の辱めを喜んで受けられたとパウロが聖徒たちに伝えたことを説明します。

- わたしたちが試練や困難に遭うときに、イエス・キリストの模範に倣うことはどのような助けになるとおもいますか。

生徒たちに、現在抱えている試練は何か、また、イエス・キリストの模範に倣うことがどのようにその試練に対処する助けとなるかを考えてもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の話を読んでもらいます。他の生徒には、わたしたちが罪を捨てて忍耐強く進み続けるのに、イエス・キリストの模範がどのように助けになるかを見つけてもらいます。



「無限にして永遠の贖罪を成し遂げるために、イエスは肉体だけでなく霊が死ぬということがどのようなものかを実感し、神の霊が退き、独り残されてこれ以上ないほどの悲惨極まる、絶望的な孤独を感じるということがどのようなことかを御自身で理解される必要がありました。

しかし、イエスは堪え忍び、使命を果たし続けられました。極限の苦悩の中にあっても、御自身に備わる至善のために、勝利への信仰を持ち続けられたのです。御子は信仰に頼っておられました。御子が味わっておられた気持ちにもかかわらず、その信仰は、神の哀れみは決して消えず、神は常に誠実であられ、わたしたちのもとを去ったり、見捨てたりなさることはないということを御子に告げていました。」(「だれも主とともにいなかった」『リアホナ』2009年5月号, 87-88)

生徒たちに毎日時間を取って(日々の聖典学習の時間でもよい)、彼らが罪を捨て、忍耐強く逆境に堪え忍ぶ力を得られるように、イエス・キリストの模範に倣うよう勧めます。

パウロがヘブル12章で教えたもう一つの原則を生徒たちが見いだすための備えとして、誰かが自分を正したときのことについて考えてもらいます。正されたことに対して、どのように反応したかを思い出してもらいます。

- 人から正されるのを受け止めることが難しいのはなぜでしょうか。
- 特に、正されたくないと思っているのを知っているながら、わたしたちを正そうとする人がいるのはなぜでしょうか。

弟子としての競争をする際に、訓練を受ける、つまり正されることが予想されることを説明します。一人の生徒に、ヘブル12:6-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誰がわたしたちを訓練するのか、またそれはなぜなのかを見つけてもらいます。この文脈において8節の「私生子」という言葉は、未婚の親に生まれた、法律的な相続権を持っていない子供を指します。

- わたしたちが弟子としての競争をするときに、わたしたちに訓練を与えるのはどなたですか。
- パウロによると、なぜ天の御父はわたしたちを訓練される、つまり正されるのですか。
- どのような意味で御父の訓練は、その子供たちへの愛の表れなのでしょう。

30秒の時間を取り、聖徒たちにクラスノートか聖典学習帳に、御父がわたしたちに訓練を与えられる方法を書いてもらいます。数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。訓練はさまざまな方法でもたらされますが、わたしたちが経験する試練または苦しみは全てが神から来るものとは限らないことを生徒たちが必ず理解していることを確認します。

- 9節でパウロは、天の御父がわたしたちを正されたり、訓練されるときに、わたしたちはどうするべきだと教えていますか。
- 天の御父に「服従」とはどういう意味ですか。(謙遜になる、教えに心を開く、御父の御心に合わせるために進んで自分の生活を変えること。)

ホワイトボードに、次の未完成の文章を書きます — 天の御父による訓練に服従するならば、わたしたちは_____。

10節で、現世の父親は時折不完全な方法でわたしたちを訓練することがありますが、天の御父による訓練は完全であり、わたしたちの益となるように計画されているということがパウロが本当であると認めたことを説明します。一人の生徒に、ヘブル12:10-11を声に出し

📖 ヘブル12:9

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

て読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが天の御父から与えられる訓練に服従するときはどうなるかについて、パウロが教えた事柄を見つけてもらいます。10節の「そのよさにあずからせる」という言葉は、さらに神のようになることを意味していることを説明します。

- 11節のパウロの言葉は、わたしたちが訓練を受けるときに、最初はどのように感じるかもしれないと説明していますか。
- 10 - 11節によると、わたしたちが御父の訓練に服従するとどうなりますか。（生徒たちが答えてから、ホワイトボードに書いた文章を次のように完成させます。天の御父による訓練に服従するならば、わたしたちはもっと神のようになり、義がもたらす平安を感じるようになる。

教師は、自分が御父からの訓練に服従し、それによって祝福を受けたときの経験を分かち合うとよいでしょう。（きわめて神聖なこと、個人的なことを分かち合うことのないようにしてください。）生徒たちに、自分が御父からの訓練を受けていたと感じたときのことについて考えてもらいます。その訓練にどのように応えたかを考えてもらいます。生徒たちが、将来受けるかもしれない天の御父の訓練に服従することを今決意するよう勧めます。

ヘブル 12:12 - 29 の要約として、他の教会員たちの信仰を強めるよう、パウロは聖徒たちを励ましたことを説明します。エサウやシナイ山でのイスラエルの子らのように神の祝福を失うことのないように、パウロは聖徒たちに罪を避けるよう強く勧めました。パウロは、神に仕え、忠実であり続ける聖徒は、無比の栄光と神の王国に一つの場所を授かると説明しました。

ヘブル 13 章

パウロ、聖徒たちにさまざまな勧告を与える

パウロはヘブル人の聖徒たちへの手紙の結びに、さまざまな事柄について勧告を与えたことを説明します。クラスを 2、3人のグループに分けます。ヘブル 13:1 - 9, 17 を一緒に読んで、パウロが聖徒たちに与えた勧告を見つけてもらいます。読み終えたら、次の質問についてグループで話し合うように指示します。これらの質問をホワイトボードに書くともよいでしょう。

- どの勧告がわたしたちの時代に最も必要だと思いますか。それはなぜですか。

十分な時間を取った後、何人かの生徒にどのような答えを書いたか発表してもらいます。生徒たちに、パウロの勧告の中で、どれを自分の生活の中にもっと取り入れることができるかを考えてもらいます。

ヘブル 13:10 - 12 の要約として、旧約聖書の時代に罪の供え物としてささげられた動物は、営所の外で焼かれたとパウロが教えたことを説明します。同様に、イエス・キリストもエルサレムの町の外で犠牲としてささげられました。イエス・キリストが贖罪の業を終えられた後、動物の犠牲はもはや必要ではなくなったことを説明します（3 ニューファイ 9:18 - 20 参照）。

一人の生徒に、ヘブル 13:13 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、動物の代わりにどのような犠牲をささげるべきであるとパウロが聖徒たちに教えた事柄を見つけてもらいます。見つけた箇所に印をつけるように生徒たちに勧めてもよいでしょう。

- どのような犠牲をささげるべきだとパウロは言いましたか。
- なぜそのようなささげ物は神を喜ばせるのだと思いますか。

ヘブル 13:17 - 25 の要約として、パウロは、聖徒たちに霊的な指導者に従い、彼らのために祈るよう勧告したことを説明します。パウロは、聖徒たちが神の御心を成し遂げるのに必要な事柄を、全て神が与えられるように祈りました。

ヘブル 12 - 13 章で生徒たちが見いだした真理について、教師は証を述べてレッスンを終わるとよいでしょう。

 **マスター聖句—ヘブル 12:9**

聖句を文節に分け、その文節の最初の文字を紙に書き出して、生徒たちがヘブル 12:9 を暗記するのを助けます。各文節の最初の文字を使って、生徒たちが聖句を暗唱できるようになるまで何度も一緒に読み返します。

- わたしたちと天の御父との関係について、この節からどのような教義を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような教義を見いだすでしょう — 天の御父はわたしたちの霊の父であられる。)
- わたしたちが神の子供であると信じることはなぜ大切なのでしょうか。
教師は、わたしたちが文字通り神の子供であることを証してください。

ヤコブの手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ヤコブの手紙は、ジョセフ・スミスが神に真理を求めるきっかけとなったヤコブ 1 章 5 節の重要性のために、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の間でよく知られている書です。この手紙全体を通して、ヤコブはわたしたちが「御言を行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけない」(ヤコブ 1:22) ことを強調しました。この書を研究することは、生徒たちが「行い」を通して自分の信仰を表すことの重要性を理解するために役立つ(ヤコブ 2:14-26 参照)、彼らの「神を愛する者たちに約束されたいのちの冠」(ヤコブ 1:12) を求める気持ちを鼓舞します。

誰がこの書を書いたのか

この手紙には、「神と主イエス・キリストとの僕ヤコブ」(ヤコブ 1:1) が著者であると書いてあります。

キリスト教の言い伝えでは、このヤコブはユダと同様にマリヤとヨセフの息子であり、したがってイエス・キリストの異父兄弟であったと考えられてきました(マタイ 13:55; マルコ 6:3; ガラテヤ 1:19 参照)。マタイ 13:55 で、ヤコブがイエスの兄弟のリストの最初に挙げられているという事実は、ヤコブが異父兄弟の中で最も年上だったことを示している可能性があります。主の他の異父兄弟のように、ヤコブは当初イエスの弟子にはなりませんでしたが(ヨハネ 7:3-5 参照)。しかしヤコブは、イエスが復活された後に、その御姿を現された人たちの一人でした(1 コリント 15:7 参照)。

後にヤコブは使徒となり、初期のキリスト教の著述家によれば、エルサレムの教会の最初のビショップとなりました(使徒 12:17; 21:18; ガラテヤ 1:18-19; 2:9 参照)。教会の指導者であったヤコブは、エルサレムで開かれた会議で卓越した役割を果たしました(使徒 15:13 参照)。教会でのヤコブの影響力がイエスとの親族関係によって強められたことは間違いありませんが、ヤコブは自分をイエスの弟としてではなく、主の僕として紹介することで謙遜さを示しました(ヤコブ 1:1 参照)。

いつ、どこで書かれたか

ヤコブがこの手紙を書いた時期は分かっていません。ヤコブはエルサレムに住んでおり、その教会の諸事を管理していたことから、おそらくその地域からこの手紙を書いたと思われます。

ヤコブが、紀元 50 年頃に開かれたエルサレムでの会議(使徒 15 章参照)に言及していない点を考慮すると、それ以前にこの手紙が書かれた可能性があります。もしエルサレムでの会議の前にこの手紙が書かれたとすれば、これは新約聖書の中で最初に書かれた手紙の一つとなります。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ヤコブはその手紙を全てのイスラエルの家を意味する「離散している十二部族」(ヤコブ 1:1) に宛てて書き、「福音を受け入れて、……キリストの群れに加わる」よう招きました。(ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 年 - 1973 年], 第 3 巻, 243) ヤコブは教会員たちに、イエス・キリストへの信仰の表明として自らの人生を生きるよう指導しました。

この書の特徴は何か

ヤコブの手紙は、旧約聖書の箴言のように知恵文学として分類されることがあります。手紙の内容は、キリスト教徒としての生活のために原則を短く述べた説明文で構成されています。さらに、マタイ 5-7 章に書かれた、救い主の山上の垂訓とヤコブの言葉には密接な類似点が見られます。類似するテーマには、おもに次のようなものがあります。迫害に堪える(ヤコブ 1:2-3, 12; マタイ 5:10-12 参照); 「完全」になる、つまり霊的に成熟する(ヤコブ 1:4; 2:22; マタイ 5:48 参照); 神に願い求める(ヤコブ 1:5; マタイ 7:7-8 参照); 神の御心を行う(ヤコブ 1:22; マタイ 7:21-25 参照); 他の人々を愛する(ヤコブ 2:8; マタイ 5:43-44; 7:12 参照); 実によって善悪を知る(ヤコブ 3:11-12; マタイ 7:15-20 参照); 平和を造り出す人になる(ヤコブ 3:18; マタイ 5:9 参照); 誓いをしなくてはならない(ヤコブ 5:12; マタイ 5:34-37 参照)

概要

ヤコブ 1-2 章 ヤコブは手紙の読者に挨拶を送り、試練に堪えること、知恵を求めること、自分が信じて公言する信仰に見合った生活をするなど、手紙の主要なテーマを紹介する。神の御言葉を聞く者は、御言葉を行う者にもなるべきである。ヤコブは、「清【い】……信心」とは、孤児や、やもめの世話をし、罪のない生活をしようと努めることであると定義する(ヤコブ 1:27 参照)。聖徒たちは隣人を愛し、自らの行いを通して信仰を示すべきである。

ヤコブ 3-4 章 ヤコブは、舌を制しないことによる破壊的な作用について示し、平和を造り出す者の義の実と対比する。ヤコブは読者に対し、世を友とするのではなく、悪魔に立ち向かい、神に近づくよう警告する。

ヤコブ 5 章 ヤコブは邪悪な、富んでいる人に警告する。ヤコブは、聖徒たちの他の教会員に対する責任について簡単な勧告を幾つか述べて、この手紙を結ぶ。ヤコブは聖徒たちに、主の再臨まで忍耐強く堪え忍び、彼らの生活の全てにおいて正直であるよう勧告する。ヤコブは病人に、長老たちを招き、油を注いでもらうよう勧め

第140課 ヤコブ1章

はじめに

ヤコブは散らされたイスラエルの家に宛てて手紙を書き送り、苦難の中でも忍耐強くあって、天の御父から知恵を求め

よう励ましました。また、誘惑に耐え、御言葉を行う人となり、人に仕え、靈的に清くあり続けるよう教えました。

教えるための提案

ヤコブ1:1-11

ヤコブ、散らされたイスラエルの家に、苦難の中でも忍耐強くあって、天の御父から知恵を求めるよう励ます

レッスンの前に、次の言葉をホワイトボードに書いておきます — もう少し自分が賢かったら良いのに。レッスが始まったら、ホワイトボードに書いた言葉について生徒たちに考えてもらいます。クラスノートや聖典学習帳に、自分が知恵を必要と感じている事柄や個人的状況を書いてもらいます。福音のトピックや、今答えを必要としている人生の疑問などを含めるよう提案するとよいでしょう。数人の生徒に、書き出したトピックや疑問を幾つか分かち合ってもらいます。(あまりに個人的なことは分かち合わないことを思い出させます。)

「聖書の中に知恵を求めるジョセフ・スミス」の絵を見せます(『福音の視覚資料集』89番。LDS.orgも参照)。

• 若きジョセフ・スミスは、どのような疑問で悩んでいましたか。(生徒が助けを必要とすれば、ジョセフ・スミス — 歴史1:9-10を参照してもらいます。)

ジョセフはヤコブの手紙を読んでいいたときに、その疑問への答えを見つける方法を見つけたことを説明します。ヤコブはイエス・キリストの使徒であり、エルサレムのビショップでした。また、キリスト教の言い伝えでは、ヤコブはマリヤとヨセフの息子であり、したがってイエスの異父兄弟であると考えられています。

一人の生徒に、ヤコブ1:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブがイスラエルの家に彼らの困難や苦難について教えた事柄を見つけてもらいます。2節のジョセフ・スミス訳では、「いろいろな試練」が「多くの苦難」に変更されていることを説明します。

- ヤコブは困難や苦難についてイスラエルの家に何を教えましたか。
- 困難や苦難の中で忍耐強くあることはなぜ大切なのですか。

一人の生徒に、ヤコブ1:5-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、疑問への答えを見いだすためのどんな助けをジョセフ・スミスが得たかを見つけてもらいます。

- 疑問への答えを見いだすために、ヤコブは手紙の読者に何をしよう提言しましたか。
- 神は「とがめもせず惜しみなく」(5節)与えられるとは、どういう意味ですか。

一人の生徒に、ホワイトボードの所に来て、ヤコブ1:5-6からわたしたちが学ぶことができる原則を書いてもらいます。(生徒は異なる言葉で表現するかもしれませんが、次のような原則を見いだすでしょう。神に信仰を持って願ひ求める者に神は惜しみなく知恵を与えられる。)

- 「疑わないうで、信仰を持って願ひ求めなさい」(6節)とはどういう意味ですか。

一人の生徒に、ヤコブ1:5-6が、答えを求めていた若きジョセフ・スミスにどのような影響を与えたかを説明してもらいます(ジョセフ・スミス—歴史1:12参照)。もう一人の生徒に、ジョセフ・スミスが、家の近くの森で信仰の祈りをささげた結果どうなったのかを要約して述べてもらいます。

- あなたが信仰を持って天の御父に祈ったときに、御父が惜しみなくあなたの祈りにこたえてくださったのはどのようなときでしたか。



📖 ヤコブ1:5-6はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

教師は、神が信仰をもって願い求める者に、惜しみなく知恵をお与えになることを証してください。生徒たちが必要なときに御父から知恵を授かることができるように、彼らの生活においてもこの原則を応用することでジョセフ・スミスの模範に従うよう勧めます。

ヤコブ 1:7 - 11 の要約として、二心の者になること、つまり主に対する忠誠と決意において揺らぐことのないようヤコブが戒めたことを説明します。また、ヤコブは、地上での富は一時的なものであり、すぐに過ぎ去ってしまうものであるから、富んでいる者は謙遜になるべきであると記しました。

注 - 二人の生徒に、次の二つの聖句ブロックを教えてもらうことを検討してください。生徒が準備できるように、1, 2 日前に教師役の生徒にこれを割り当てておくといでしょう。教師役の各生徒に生徒全員を教えてもらっても構いません。または、クラスを半分に分けて、それぞれの教師役の生徒が自分に割り当てられている聖句ブロックをクラスのそれぞれの半分に分けて、それが終わったら教師役の生徒（または半分に分けられている生徒たち）を交替させて、もう半分のクラスに教えられるようにすることもできます。

教師役の生徒 1 - ヤコブ 1:12 - 21

ヤコブ、誘惑について教える

生徒に質問します。

- 今日の青少年はどのような誘惑に遭いますか。（生徒の答えをホワイトボードに書き出してもよいでしょう。）
- 誘惑に耐えるのが難しいときがあるのはなぜですか。

一人の生徒に、ヤコブ 1:12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主を愛し誘惑に耐える者に約束された祝福を見つけてもらいます。この節のジョセフ・スミス訳では、「試練を耐え忍ぶ」が「誘惑に耐える」に変更されていることを説明します。

- 主を愛し誘惑に耐える者には、どのような祝福がもたらされますか。（生徒たちが答えてから、次の文章をホワイトボードに書きます。わたしたちは誘惑に耐えることによって主への愛を示すのであり、それは永遠の命の冠を受けるための条件の一つである。）

一人の生徒に、ヤコブ 1:13 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、誘惑はどこから来て、どこからは来ないかを見つけてもらいます。

- 13 節によると、誘惑の源でないのはどなたですか。

14 節の「欲」という言葉は、わたしたちの墮落した性質のために持っているかもしれない、清くない願望を意味していることを説明します。サタンは、このような清くない願望に屈するようわたしたちを誘います。

生徒たちに、自分が苦しんでいる誘惑について考えてもらいます。

- 誘惑に耐えるための霊的な力をどのように得ることができますか。
- どのような点で、誘惑に耐えることは主へのわたしたちの愛を示すことになるでしょうか。

教師は、生徒たちがヤコブ 1:12 で見いだした原則が真実であるという証を述べてください。生徒たちに、自分が苦しんでいる誘惑に耐えるために何ができるかを考えてもらいます。

ヤコブ 1:17 - 21 の要約として、ヤコブは、あらゆる良い贈り物は神から来ること、また聖徒たちは「すべての汚れ」を捨て去って主の御言葉を「すなおに」（21 節）受け入れるよう教えたことを説明します。

教師役の生徒 2 - ヤコブ 1:22 - 25

ヤコブは、手紙の読者に御言葉を聞く者、行う者になるよう勧める

一人の生徒に、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老による次の話を声に出して読んでもらいます。



「最近わたしはすばらしい 10 代の若い男性と知り合いました。彼の目標は、伝道に出て、教育を受け、神殿で結婚して、信仰深い幸福な家族を作ることでした。……彼が心から伝道に出たいと思っていること、そのために伝道に出られなくなるような重大な背罪は犯さないように努めていることは感じられました。しかし、彼の日々の行動は、やがて直面するであろう肉体的、情緒的、社

会的、知的、靈的な課題への備えとはなっていなかったのです。熱心に働くということが身につけていませんでした。学校やセミナーでも真面目に勉強していませんでした。教会には出席していましたが、モルモン書を読んでいませんでした。膨大な時間をテレビゲームやソーシャルメディアに使っていたのです。伝道に出るだけで十分だと考えていたようです。』(「賢明に選ぶ」『リアホナ』2014年11月号, 47)

- もしあなたがクック長老の立場にいたとしたら、伝道の準備が十分でないこの若い男性についてどのようなことを心配したと思いますか。

一人の生徒に、ヤコブ 1:22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、クック長老の話の中の若い男性の助けとなる、ヤコブが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 若い男性の助けとなるヤコブが教えた事柄とは何ですか。

ヤコブ 1:23 – 24 に記されているように、ヤコブは御言葉を聞くだけで行わない人を、鏡に映った自分を見てから、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう人に例えたことを説明します。

一人の生徒に、ヤコブ 1:25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分が聞いた真理に基づいて行動を起こす者に何が起こるかを見つけてもらいます。

- 御言葉を聞くだけではなく、それを行う人には何が起こりますか。(生徒たちが答えてから、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが神の御言葉を聞き、それを行うと、神はわたしたちの行いを祝福してください。)

次の質問について考え、生徒たちに神の御言葉を聞く者および行う者として、自分たちを自己評価してもらいます。教師がこれらの質問を読み上げるか、またはホワイトボードに書いてもよいでしょう。

1. 聖文や、家庭、教会、セミナーで学んでいる真理を、どれくらい完全に信じているでしょうか。
2. 今学んでいる真理を行動を起こすために、どのくらい頻繁に靈的な目標を立てているでしょうか。その目標をどれくらい頻繁に達成しているでしょうか。その目標をどれくらい頻繁に忘れてしまっているでしょうか。
3. 聞くだけではなく、御言葉を行う人となるためにどんなことがもっとできるでしょうか。

わたしたちが学ぶことに基づいて行動するとき、もたらされる祝福について、教師は証を述べてください。

ヤコブ 1:26 – 27

ヤコブ、聖徒たちに他の人々を思いやるよう勧告する

二人の生徒がそれぞれの聖句ブロックを教えてから、他の数人の生徒に学んだことを要約してもらいます。

一人の生徒に、ヤコブ 1:26 – 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分の信仰に沿った生活をする方法に関する、パウロの提案を見つけてもらいます。

- ヤコブによると、自分の信仰に沿った生活をする、つまりわたしたちの神への献身を示す方法にはどんなものがありますか。

人を思いやることの一例として、パウロは「孤児や、やもめを見舞う」ということを述べたことを説明します。「自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つ」(27 節)とは、邪悪が広がる世においてさえも、靈的に清くあり続けることを意味しています。

- 27 節からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なる言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。人を思いやり、自らを靈的に清く保つときに、わたしたちは清く汚れのない信心を明らかに示している。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

- 自らを靈的に清く保ち、人を思いやることは、どのような点でわたしたちの神に対する献身を示すのに重要なのですか。

- 日々の生活の中で、「清く汚れのない信心」の良い模範を示しているどのような人を知っていますか。その人のどのような行動があなたにとっての模範なのですか。

困っている人を助け、「世の汚れ」に染まらないために、今後一週間実行することを一つか二つ紙に書くよう生徒に勧めます。この原則を彼らの生活に当てはめることで、神の御言葉を行う人になるよう勧めてください。

マスター聖句—ヤコブ 1:5 - 6

生徒たちの今後の人生において、福音についての質問があるときや、決断をする際に主の助けを求めるとき、福音を他の人に教えるときに、ヤコブ 1:5 - 6 を覚えておくに役に立つことを説明します。

付録にある暗記のための活動を使ったり、独自の活動を考えたりして、生徒たちがこの聖句を暗記できるように助けます。彼らが既に学んだ事柄を忘れないように、暗記したマスター聖句を生徒とともに、頻繁に復習することを忘れないでください。聖句を復習し、生徒たちが暗唱する時間を今後のレッスンの中に計画するとよいでしょう。

家庭学習クラスのレッスン

ヘブル5章—ヤコブ1章(単元28)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヘブル5章—ヤコブ1章(単元28)を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第1日(ヘブル5—6章)

神権の権能についてのパウロの記述から、生徒たちは、神権に聖任される者は、神が認める僕が受ける啓示を通じて、神により召されなければならないことを学びました。また生徒たちは次の真理も学びました—終わるまで熱心にイエス・キリストを信じる信仰と忍耐を持つことで、わたしたちは神が約束された祝福を受け継ぐことができる。神の約束に対するわたしたちの望みは、わたしたちの魂の霊的な錨である。

第2日(ヘブル7—10章)

生徒たちはヘブル7—10章を研究する中で、イエス・キリストがわたしたちの罪の犠牲として御自身の命をささげられたこと、またイエス・キリストの贖罪により、わたしたちが主を信じる信仰をしっかりと持ち続けるならば、日の栄えの王国に入ることができることを学びました。

第3日(ヘブル11章)

信仰についてのパウロの教えから、生徒たちは、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することであることを学びました。また彼らは次のことを学びました—神に喜んでいただくためには、神のみもとに来て、神を信じ、熱心に神を求める者には報いてくださると信じることで、わたしたちの信仰を実践しなければならない。イエス・キリストへの信仰を实践する時、わたしたちは苦しみへ耐え、奇跡を行い、神聖な約束を受け、キリストについての証を強め、完全に近づくことができる。

第4日(ヘブル12章—ヤコブ1章)

ヘブル人へのパウロの手紙の結びを研究する中で、生徒たちは、イエス・キリストの模範に倣うならば、わたしたちは罪を捨て、忍耐強く逆境に耐える力を得ることができることを学びました。また、わたしたちが天の御父による訓練に服従するならば、わたしたちはもっと神のようになり、正義がもたらす平安を感じるようになることも学びました。ヤコブ1章から、生徒たちは、神は信仰をもって尋ね求める者に、惜しみなく知恵をお与えになることを学びました。

はじめに

使徒ヤコブは、散らされたイスラエルの民に、御言葉を行う人となり、人に仕え、霊的に清くあり続けるよう勧告しました。

教えるための提案

注—生徒たちは、ヘブル12:9とヤコブ1:5—6の二つのマスター聖句を学びました。これらの聖句を生徒全員と一緒に読むか暗唱して、彼らにこれらの聖句から学べる教義や原則を説明してもらうこともできます。

ヤコブ1:22—27

ヤコブ、手紙の読者に御言葉を聞く者、行う者となり、人に仕えるよう勧める

一人の生徒に、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「最近わたしはすばらしい10代の若い男性と知り合いました。彼の目標は、伝道に出て、教育を受け、神殿で結婚して、信仰深い幸福な家族を作ることでした。わたしはその目標を心からうれしく思いました。しかし、話が進むにつれ、彼が実際にしている行為や選択が目標とは矛盾していることが明らかになってきました。彼が心から伝道に出たいと思っていること、そのために伝道に出られなくなるような重大な背罪は犯さないように努めていることは感じられました。しかし、彼の日々の行動は、やがて直面するであろう肉体的、情緒的、社会的、知的、霊的な課題への備えとはなっていなかったのです。熱心に働くということが身につけていませんでした。学校やセミナーでも真面目に勉強していませんでした。教会には出席していましたが、モルモン書を読んでいませんでした。膨大な時間をテレビゲームやソーシャルメディアに使っていたのです。伝道に出るだけで十分だと考えていたようです。」(「賢明に選ぶ」『リアホナ』2014年11月号, 47)

- もしあなたがクック長老の立場にいたとしたら、伝道の準備が十分でないこの若い男性についてどのようなことを心配したと思いますか。

一人の生徒に、ヤコブ 1:22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、クック長老の話の中の若い男性の助けとなるヤコブが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 若い男性の助けとなるヤコブが教えた事柄とは何ですか。

ヤコブ 1:23 – 24 に記されているように、ヤコブは御言葉を聞くだけで行わない人を、鏡に映った自分を見てから、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう人にたとえたことを説明します。

一人の生徒に、ヤコブ 1:25 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分が聞いた真理に基づいて行動を起こす者に何が起こるかを見つけてもらいます。

- 御言葉を聞くだけではなく、それを行う人には何が起こりますか。(生徒たちが答えてから、次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが神の御言葉を聞き、それを行うと、神はわたしたちの行いを祝福してください。)

次の質問について考え、生徒たちに神の御言葉を聞く者、行う者として、自分たちを自己評価してもらいます。教師がこれらの質問を読み上げるか、またはホワイトボードに書いてもよいでしょう。

- 聖文から、また、家庭、教会、セミナーで学んでいる真理をどれくらい信じているだろうか。
- 今学んでいる真理を行動に起こすために、どのくらい頻繁に霊的な目標を立てているでしょうか。その目標をどれくらい頻繁に達成しているでしょうか。その目標をどれくらい頻繁に忘れてしまっているでしょうか。
- 聞くだけではなく、御言葉を行う人となるためにどんなことをもっとできるでしょうか。

教師は、わたしたちが学ぶことに基づいて行動するときにもたらされる祝福について証を述べてください。

一人の生徒に、ヤコブ 1:26 – 27 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自分の信仰に沿った生活をする方法に関する、パウロの提案を見つけてもらいます。

- ヤコブによると、自分の信心に沿った生活をする、つまりわたしたちの神への献身を示す方法にはどんなものがありますか。

27 節でヤコブは、人を思いやることの一例として、パウロは「孤児や、やもめを見舞う」ということを述べたこと、「自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つ」とは、邪悪が広がる世においてさえも霊的に清くあり続けることを意味していることを説明します。

- ヤコブ 1:27 からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒は異なる言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。人を思いやり、自らを霊的に清く保つときに、わたしたちは清く汚れない信心を示している。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

- 人を思いやり、自らを霊的に清く保つことは、どのような点でわたしたちの神に対する献身を示すのに重要なのですか。

- 日々の生活の中で「清く汚れない信心」の良い模範を示しているどのような人を知っていますか。その人のどのような行動があなたにとっての模範なのでしょうか。

困っている人を助け、「世の汚れ」に染まらないために、今後一週間実行することを一つか二つ紙に書くよう生徒に勧めます。この原則を彼らの生活に当てはめることで、神の御言葉を行う人になるよう勧めてください。

次の単元(ヤコブ 2 章 – 1 ペテロ 5 章)

ヤコブ 2 章 – 1 ペテロ 5 章を研究する中で、生徒たちは次の質問への答えを学ぶことを説明します – 兄弟または姉妹が「裸でいて、その日の食物にもこと欠いている」のを目にしたらどうするよう、ヤコブは聖徒たちに勧告しましたか。(ヤコブ 2:15) 助けを必要とする人のために何もしなかったらどうなるでしょうか。なぜヤコブは「行いを伴わない信仰は、死んだものである」と言ったのでしょうか。(ヤコブ 2:26) 体のどの器官が「火」であり、「全身を汚す」ことがあるとヤコブは言いましたか。(ヤコブ 3:6) 「迷いの道」にいる罪人が改心するのを助ける者には、どのような祝福が待っていますか。(ヤコブ 5:20) 死者に福音を宣べ伝えることについて、ペテロはどのような理由を述べましたか – 生徒たちが次の聖句ブロックを学ぶときに、これらの質問の答えを見つけるように勧めます。

第141課 ヤコブ2章

はじめに

ヤコブは、虐げられた者に手を差し伸べるよう聖徒たちに勧め、イエス・キリストに真に従う者は、貧しい者より富んでい

る者を優遇するようなことをしてはならないと教えました。また、信仰と行いの関係についても教えました。

教えるための提案

ヤコブ2:1-13

ヤコブ、キリストに従う者が、富んでいる者を優遇することのないよう教える

無作為に生徒を一人選んで、その生徒に小さなお菓子を渡します。自分が勝手に決めた理由（その生徒が自分の好きな色の服を着ているから、またはその生徒があるものをクラスに持ってきたから、など）で、この生徒にお菓子を渡したことをクラスの他の生徒たちに話します。

- この生徒に特別な扱いをすることで、他の皆さんはどのように感じましたか。
- 人が誰かを特別扱いすることがあるのはなぜでしょうか。

お菓子を渡したこの例以外に、誰かが他の人より特別扱いされたのを見たことがあるか、またそのとき自分がどう感じたかを考えてもらいます。

一人の生徒に、ヤコブ2:1-4を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳ヤコブ2:1（『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）も読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが聖徒たちに警告した事柄を見つけてもらいます。

- ヤコブは聖徒たちに何について警告しましたか。

「人を分け隔て（する）」（ジョセフ・スミス訳ヤコブ2:1〔『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」〕とは、人々の境遇や特徴を理由に、ある人または集団を優遇しながら、別の人々を不当に扱うことであると指摘します。

- ヤコブは特別扱いすることについてどのような例を示しましたか。
- 今日、人が置かれている状況や性格を理由に、ある人々を特別扱いしながら、別の人々を不当に扱うことについて、どのような例がありますか。

ヤコブ2:5-7の要約として、ヤコブは、富んでいる者を優遇する聖徒たちを引き続き非難したことを説明します。ヤコブは、神が貧しい人々を選んで信仰に富ませ、その王国の相続者とされたことを教えました。また、貧しい人々を虐げ、主の尊い御名を汚すのは富んでいる者たちであることを聖徒たちに思い起こさせました。

生徒たちに、ヤコブ2:8を黙読しながら、人を特別扱いするのをやめさせるために、ヤコブが聖徒たちに何をしよう教えたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは聖徒たちに何をしよう言いましたか。
- なぜこの戒めは「きわめて尊い律法」（ヤコブ2:8）と呼ばれたのだと思いますか。
- これらの聖句から、イエス・キリストに忠実な弟子が、周りの人々を扱う方法についてどのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちの表現は異なるかもしれませんが、次のような原則を見つけるはずで、イエス・キリストに忠実な弟子は、分け隔てなく全ての人を愛する。ホワイトボードにこの原則を書きます。）
- 救い主は、地上で教え導かれた時、どのように分け隔てなく人々を愛する模範を示されたでしょうか。

生徒たちに、全ての人を愛せるよう努力している人を思い浮かべてもらいます。数人の生徒に誰のことが思い浮かんだか、それはなぜかを分かち合ってもらいます。

その人が周りの人にどのように接しているかを考えてもらいます。他の人々を愛するという救い主の模範に従う機会を求めるよう、生徒たちを励まします。

生徒たちに次の状況を想像してもらいます。全ての人を愛することについてのヤコブの教えを聞いた後に、誰かが、一部の人を特別扱いして、その他の人を不当に扱うことはたいした問題ではないと言います。その人はまた、わたしたちがすることには、もっとひどいこともあるのだからと言います。

- このような考え方をしていると、どのような問題が起きますか。
一人の生徒に、ヤコブ 2:9-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、人々を分け隔てなく愛さないことは大きな問題である理由を見つけてもらいます。
- 人々を分け隔てなく愛さないことは、なぜ大きな問題なのですか。
- これらの節のヤコブの教えからどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちの表現は異なるかもしれませんが、次のような真理を見つけていることを確認します。わたしたちが一つでも罪を犯すなら、わたしたちは神の御前で罪のある者となる。)
- ヤコブ 2:10 によると、神の戒めの一つでも破ると、その結果永遠にどうなりますか。(わたしたちはまるで「全体を犯した」かのようになり、清くない者とされて神とともに住むことができなくなる〔1 ニーフアイ 10:21 も参照〕。)
- 神に背くことはわたしたちを清くない者とし、神とともに住むことができなくなるにもかかわらず、それでもなぜ希望を持つことができるのでしょうか。
一人の生徒に、大管長会のディーター・F・ウークトドルフ管長の次の話を読んでもらいます。



「しかし何の手だてもないわけではありません。

神の恵みが、わたしたちの大いなる永遠の望みです。

イエス・キリストの犠牲によって、憐れみの計画が正義の要求を満たし〔アルマ 42:15 参照〕、『人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設ける』〔アルマ 34:15〕のです。

わたしたちの罪は、たとえ緋のようであっても、雪のように白くなります〔イザヤ 1:18 参照〕。わたしたちの愛する救い主が『すべての人のあがないとしてご自身をささげられた』〔1 テモテ 2:6〕ので、主の永遠の王国への入り口がわたしたちに用意されているのです〔2 ペテロ 1:11 参照〕。」「〔恵みの賜物〕『リアホナ』2015年5月号, 108)

- イエス・キリストの贖罪を通して主の王国に入るのにふさわしくなるために、わたしたちは何をしなければなりませんか。
- 10 節で見いだした原則は、わたしたちがイエス・キリストの贖罪をさらに理解するのにどのような助けとなりますか。

ヤコブ 2:11-13 の要約として、ヤコブが 10 節で教えた原則の例を表したことを説明します。また、人と接するときに憐れみを持たない者は、憐れみなく裁かれることになるため、信仰のある者たちに憐れみを持って人に接するように勧めました。

ヤコブ 2:14-26

ヤコブ、救いにおける信仰と行いの役割を説明する

ある若い男性が、罪を犯したことを認めたとこを生徒たちに思い浮かべてもらいます。この男性はイエス・キリストの贖罪と、彼を救うことができる救い主の力を信じています。彼は主が自分を赦してくださると信じさえすればよい、それ以上他にする必要はないと言います。

救い主を信じるだけで、この若い男性の罪が赦されるかどうかを生徒たちに考えてもらいます。

一人の生徒に、ヤコブ 2:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが信仰について聖徒たちに何を尋ねたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは信仰について聖徒たちに何を尋ねましたか。
- ヤコブはどのような行いを指していたと思いますか。

ヤコブは、信仰について間違った考えを正そうとしていたことを説明します。信仰とは、自分の信条を口頭で述べさえすればよいと間違っ理解していた人たちがいました。ヤコブは、行いという言葉を用いたとき、献身的な行いまたは義の業を意味していました。

ヤコブ2:15-16に書かれているように、ヤコブは、14節の彼の質問への答えを説明するのに、たとえを用いました。二人の生徒に前に出てきてもらいます。一人の生徒に、生きるために必要な食べ物、衣服、住む場所を求めている物乞いを演じてもらいます。もう一人の生徒には、この物乞いを助けることのできる人を演じてもらいます。三人目の生徒に、ヤコブ2:15-16を声に出して読んでもらい、その間二人は聖句に書かれている内容を演じてもらいます。

• 物乞いの役を生徒に対して与えられた答えの何が問題なのでしょう。もう一人の生徒の答えだけで物乞いは救われるでしょうか。

一人の生徒に、ヤコブ2:17-18を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが信仰について教えた事柄を見つけてもらいます。

• 「信仰も、……行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである」(17節)とはどういう意味だと思いますか。

• ヤコブによる物乞いのたとえは、この言葉が何を意味しているかを理解するのに、どのような助けになりますか。

• 17節によると、イエス・キリストを信じる真の信仰について、ヤコブはどのような真理を教えましたか。(生徒たちの表現は異なるかもしれませんが、次のような原則を見つけましょう。イエス・キリストを信じる真の信仰は、わたしたちの義にかなった行いによって明らかになる。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、ヤコブ2:19-20を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳のヤコブ2:19では「あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。あなたは義とされず、自らを悪霊のようにしてしまったのである。」となっていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、神を信じることには、必ずしも神を信じる信仰が伴うわけではないことを示すのにヤコブが用いた例を見つけてもらいます。

• 神を信じることには、必ずしも神を信じる信仰が伴うわけではないことを示すのに、ヤコブはどのような例を用いましたか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の話を読んでもらいます。

「本当の信仰は主イエス・キリストを中心とし、常に義にかなった行動へ導きます。単に行動することだけが救い主を信じる信仰なのではなく、正しい原則に従って行動することこそが信仰の中心的要素です。」「(信仰をもって願ひ求めなさい)『リアホナ』2008年5月号, 95)

• ベドナー長老によると、「信仰の中心的要素」とは何ですか。

• イエス・キリストを信じる信仰とは、イエスを信じることと正しい原則に従って行動することの両方を意味すると理解することはなぜ大切ですか。

生徒たちに、レッスンの始めに話した若い男性のことを思い出してもらいます。

• 信仰には信じることと行動することの両方が含まれると理解することで、罪の赦しを求めている人にどのような助けとなるでしょうか。

ヤコブ2:21-26の要約として、ヤコブは神を信じる信仰が行いによって明らかとなった二つの例として、アブラハムとラハブについて述べたことを説明します。(勇気ある女性ラハブの話は、ヨシュア2:1-22にあります。)

生徒たちに、自らの行いによってイエス・キリストを信じる信仰を示したときのこと、またその行いによってどのように祝福されたかをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。救い主についての証と、その信仰を彼らの行動によってどのように示すつもりかも含めて書くように生徒たちに勧めます。数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

イエスに従うことで、より完全にイエス・キリストを信じる信仰をどのように示せるか、祈りをもって考えるよう生徒たちに勧めます。受けたどのような促しでも従うように生徒を励まします。

📖 ヤコブ2:17

18はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

 **マスター聖句—ヤコブ 2：17－18**

マスター聖句の中の真理を生徒たちが応用するための助けとなるよう、各生徒に小さな紙を配ります。マスター聖句の言葉をその紙に書き写してもらいます。その後その紙の裏に、次のような文章を書き、完成させるように言います。「_____をすることで、わたしは主を信じる信仰を示す。」一日中その紙をポケットに入れて持ち歩いて、主への信仰を示すためのその他の方法を付け加えて書いてもらうようにします。付け加えて書くたびに、マスター聖句の言葉を復習するようしてもらいます。目標をいつも覚えていられるように、その紙をよく目につく場所に貼るよう勧めます。

第142課 ヤコブ3章

はじめに

ヤコブは、舌を制することの重要性を聖徒たちに教えました。それからヤコブは、この世の知恵と神から来る知恵とを対比しました。

教えるための提案

ヤコブ3:1-12

ヤコブ、舌を制することの重要性を聖徒たちに教える

歯磨き粉のチューブをクラスに持っていきます。一人の生徒に、チューブから全ての歯磨き粉を押し出してもらいます（または押し出して全部出すところを想像してもらいます）。もう一人の生徒に、出ている歯磨き粉を全てチューブに戻せるかを試してもらいます。その生徒が困っているのを見てから、次の質問をします。

- この歯磨き粉を、わたしたちが語る言葉にどのようにたとえることができますか。

何かを言ってから、それを後で後悔したことがあるかを生徒たちに考えてもらいます。生徒たちが、ヤコブ3:1-12を研究しながら、賢く自分の言葉を選ぶのに助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、ヤコブ3:2-4とヤコブ3:5の最初の文を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、言葉で人を傷つけることのない人をヤコブがどのように表したかを見つけてもらいます。「わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである」(2節)という言葉は、わたしたちは皆間違いをするという意味であること、またヤコブは「舌」という言葉を使ってわたしたちが話す言葉を表したことを説明します。

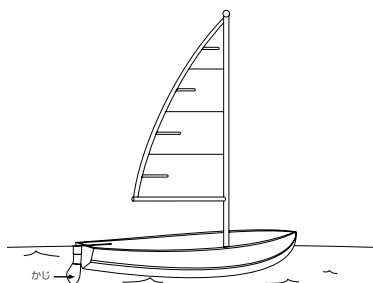
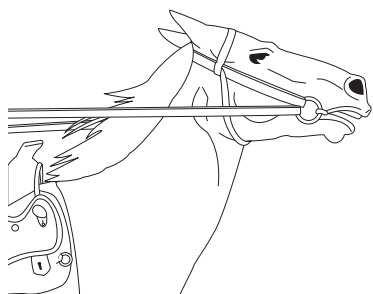
- 言葉のうえで過ちのない人をヤコブはどのように表現しましたか。

馬のくつわと船のかじの絵を見せるか、ホワイトボードに描くとよいでしょう。「くつわ」(3節)とは、馬の口と手綱をつなげる小さな金属のことで、それによって騎手は馬を制御することができることを説明するとよいかもしれません。

- ヤコブによると、馬のくつわと船のかじに共通することは何ですか。(二つともかなり小さなものだが、それが取り付けられている大きな物を制御することができる。)
- ヤコブが、これらの物を舌やわたしたちが話す言葉にたとえたことで、わたしたちの言葉にどれだけの力があるかを理解するのにどのように役立ちますか。
- わたしたちが舌を制するようになると何が起るのかということについて、これらの聖句からどのような原則を見いだすことができますか。(生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。わたしたちは舌を制することができるようになると、他の行動も制することができるようになる。)
- なぜ舌を制することは、わたしたちの他の行動を制する助けとなるのでしょうか。

一人の生徒に、ヤコブ3:5の最後の文とヤコブ3:6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが言葉を他の何と比べたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは言葉を他の何と比べましたか。
 - わたしたちの生活のどのような側面が、わたしたちの誤った言葉遣いによって「火で焼かれる」(6節)つまり、危うくなることがありますか。
- 6節の「生存の車輪」とは人生の行き先を意味することもあることを説明します。
- どのような点で、わたしたちが話す言葉が人生の行き先を左右することがありますか。
 - わたしたちが話す言葉を少し変えることは、わたしたちの人生にどのような良い影響を与えますか。周りの人の人生についてはどうですか。



数人の生徒に、ヤコブ 3:7-12 を交代で声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが言葉を他の何と比べたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは言葉を他の何と比べましたか。(人が制する必要がある動物〔7-8 節参照〕、「死の毒」〔8 節〕、塩水と甘い水を「同じ穴からふき出す」泉〔11-12 節〕、いちじくではなくオリーブの実を結ぶいちじくの木、いちじくの実を結ぶぶどうの木〔12 節参照〕)。

これらの聖句の内容を生徒たちが理解するための助けとして、一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「もちろん、ヤコブはわたしたちの舌がいつも罪深いと言っているわけではありませんし、わたしたちの口にする言葉が全て『死の毒に満ちている』と言っているわけでもありません。しかし、ヤコブは確かに、わたしたちが口にする少なくとも幾つかの言葉は、破壊的であり、有毒なことさえあると言っています。末日聖徒にとっては身も凍るような言葉です。わたしたちは心からの証を述べ、熱烈な祈りをささげ、シオンの賛美歌を歌うその同じ声で、非難し、批判し、卑しめ、辱め、苦痛を与え、いつの間にか自分自身と周囲の人々の霊を破壊することがあるということです。……」

現時点では、少なくともこの一つの方法で『完全な』男性および女性となれるように努力しようではありませんか。言葉で人を傷つけないようにしましょう。もっと前向きな言い方をすれば、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語りましょう。わたしたちの言葉は、行動と同様、今日の世界にぜひとも必要なクリスチャンの三大原則、すなわち信仰、希望、慈愛で満たされるべきです。御霊の影響の下に語られるそのような言葉により、人は涙をぬぐい、心を癒やし、生活を向上させ、希望を取り戻し、自信を増し加えることができるのです。」「(天使の言葉)『リアホナ』2007年5月号, 16, 18)

- これらの節から、神に従う者はどう語るべきかについて、どのような真理を見いだすことができますか。(自分自身の言葉を使って、生徒たちは次のような真理を見いだすはずで、神に従う者は、悪を広めるためではなく、義の目的のために言葉を使うよう努める。)
- 末日聖徒が、悪の目的や人を傷つけたりするために言葉を使うことは、なぜ深刻な問題なのですか。
- わたしたちが言葉を選ぶときにもう少し「完全」(ヤコブ 3:2) になることができるように、何ができますか。

生徒たちに、ヤコブ 3:9-10 で見いだした真理に従って生活することが、次の状況においてどのように彼らの行動の導きとなるかを説明してもらいます。

1. あなたは、携帯メールを送ったりソーシャルメディアを使っている。
2. あなたは、日曜日に聖餐を祝福する祭司である。学校であなたの友人たちが別の生徒をからかい始めた。
3. あなたは若い女性で、過去にあなたのワードまたは支部の別の女性について不親切なことを言ったことがある。
4. あなたのチームメイトが汚い言葉を使う。

一人の生徒に、『若人の強さのために』から次の言葉を読んでもらいます。

「言葉遣いには神の息子、娘であるあなたの人柄がよく現れます。清い知性ある言葉は聡明で健全な心の持ち主であることの証明です。人を高め、力づけ、称賛する品位ある言葉を使えば、主の御霊がともにいてくださるでしょう。わたしたちの言葉はわたしたちの行いと同様、信仰、希望、そして慈愛に満ちたものであるべきです。」「(『若人の強さのために』〔小冊子〕 20)

- 他の人の言葉が、あなたを高めたり励ましたりしたのはどのような時でしたか。
- あなたの語る言葉で他人を高めたり励ましたときにどんな祝福を受けましたか。

自分の言葉を制し、義にかなった目的のために使えるようになるために何をするか、目標をクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。自分が書いたことに基づいて今後 1 週間行動するように言います。

行動するように 勧めた事柄を フォローアップする

行動するよう勧めた事柄をフォローアップすることで、生徒が福音の原則を応用するのを励ますことができます。レッスンの間に立てた目標について、生徒たちにフォローアップできるようメモを書いておきます。また、目標に基づいて行動することで得られた経験について生徒たちに発表してもらうのもよいでしょう。

ヤコブ 3:13-18

ヤコブ, この世の知恵と神から来る知恵とを比較する

ヤコブ 3:13-18 のまとめとして, ヤコブがこの世の知恵と神から来る知恵とを比較したことを説明します。この世の知恵は「混乱」(16 節) や「党派心」(14 節) へとつながる一方で, 「上からの」知恵は, 「清く」「あわれみに……満ち」(17 節) ています。

教師は今日のレッスンで教えた原則の証を述べてください。

ヤコブ4-5章

はじめに

ヤコブは、聖徒たちが救い主の再臨を待つ間、悪魔に立ち向かい、神に近づき、忍耐強く苦難を堪え忍ぶよう勧めました。ヤコブは、病んでいる者が「教会の長老たちを招き」（ヤコブ

5:14）、儀式を施してもらうべきであると教えました。ヤコブはまた、罪人の悔い改めを助けることの重要性についても教えました。

教えるための提案

ヤコブ4章

ヤコブ、神に近づき、悪魔に立ち向かうよう聖徒たちに勧める

親しみを感じている友人や家族の誰かを思い浮かべてもらいます。

- 誰について考えましたか。なぜその人を親しく感じるのでしょうか。
- その人とどのようにして親しくなりましたか。

神をどれほど近くに感じているかを深く考えてもらいます。

- 神としっかりとした関係を築くことで、わたしたちの人生はどのように祝福されますか。

生徒たちがヤコブ4章を研究しながら、彼らが神との関係を強めるのに役立つ真理を見つけてもらいます。

ヤコブ4:1-3の要約として、聖徒たちがこの世的な願望に屈していることをヤコブが叱責したことを説明します。

一人の生徒に、ヤコブ4:4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのような友についてヤコブが警告したのかを見つけてもらいます。

- どのような友についてヤコブは警告しましたか。
- 「世の友となる」とはどういう意味だと思えますか。（必要に応じて、4節のヤコブの勧告は、教会員ではない人たちと交流するのを避けるべきであるという意味ではないことを説明します。そうではなく、この世の間違った教えや不義な欲、標準、慣習を取り入れるのを避けるべきであることを意味します。）
- ヤコブによると、この世と親しくする者はどうなりますか。

生徒たちに、ヤコブ4:6-8を黙読しながら、ヤコブが聖徒たちに何をしよう勧告したかを見つけてもらいます。

- ヤコブは聖徒たちに何をしよう勧告しましたか。
- 神に従うことは、わたしたちが悪に立ち向かうのにどのような助けとなりますか。
- 8節によると、わたしたちが神に近づきたいと望んでいるなら、何をしなければなりませんか。（生徒たちが答えてから、次の言葉をホワイトボードに書きます。わたしたちが神に近づくなら、神はわたしたちに近づいてくださる。）
- 神に近づくためにわたしたちには何ができますか。（生徒たちの答えをホワイトボードに書き出します。）

生徒たちが神に近づく一つの方法を理解する助けとして、「手をきよめよ」「心を清くせよ」（ヤコブ4:8）というヤコブの教えを指摘します。聖文で使われるときには、手はわたしたちの行動を意味し、心はわたしたちの願望を意味することがあることを説明します。

- 清い手と清い心を持つことは、わたしたちが神に近づくのになどどのような助けになりますか。

興味を引く、 時宜にかなった、 教化するレッスン

教師が教化するレッスンをいつも行くと、生徒は、クラスに出席するたびに何かを学べると期待するようになります。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。生徒は「何かを学ばない限り、熱い思いをもって戻ってくることはありません。戻って来たいと思う何かを学ばなければなりません。クラスで得るものがあれば……自発的に、実に熱心に来るでしょう。」(Teach Ye Diligently [1975年], 153-154)

一人の生徒に、ヤコブ4:9-12, 17を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが神に近づくのを助けるためにヤコブが与えた他の勧告を見つけてもらいます。「あなたがたの笑いを悲しみに……変えよ」(9節)という言葉は、罪に対する神の御心に添った悲しみを意味することを説明します。

- 人が神に近づく助けとして、ヤコブは他にどのような勧告を与えましたか。
- 17節によると、何が罪であるとヤコブは教えましたか。(生徒たちが答えた後、次の原則をホワイトボードに書きます。善を行うべきと知っていながら、それを行わないことを選ぶなら、わたしたちは罪を犯しているのである。)
- わたしたちが行うべき善を知っていながら、それを実行しないことを選ぶことがなぜ罪なのだと思いますか。

一人の生徒に、大管長会で奉仕されたジェームズ・E・ファウスト管長の次の話を読んでもらいます。



「わたしが恐れるのは、最大の罪の幾つかが怠惰の罪にあることです。それは、救い主が見逃してはならないと言われた、もっと重要な律法です〔マタイ23:23参照〕。また、わたしたちが行わなかった親切で思いやりのある行為であり、わたしたちを罪悪感に悩ますものです。

わたしは小さな少年のとき、夏の猛暑の間、農場で過ごしました。わたしの祖母のメアリー・フィンリンソンが熱いまきコンロでおいしい食事を作っていたことを思い出します。コンロの横のまきを入れた箱が空になると、祖母は黙ってその箱を取り上げて出て行き、外に積んである杉のまきを詰めて、重くなった箱を家の中に運び込みました。わたしはとても無神経で、台所での会話にだけ興味を持っていました。そこに座って、愛する祖母がまきの箱を運ぶのをただ見ていたのです。わたしは自分が恥ずかしく、怠惰であったことをそれ以来ずっと後悔してきました。いつの日か、祖母に赦しを求めることができると願っています。」「(「律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実」『聖徒の道』1998年1月号, 65)

- 少年時代のファウスト管長は、どのような善の行いを怠ったのですか。その結果どのように感じましたか。
- わたしたちがさらに神に近づく妨げとなりかねない怠惰の罪には、どのようなものがありますか。
- イエス・キリストの福音がわたしたちに教える善の行いを実行するのに、どのようなものが障害となり得ますか。
- あなたが教えられた善の行いを実行することで、さらに神に近づいたのはどのような時でしたか。

神に近づくために何をするつもりか、生徒たちにクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。何か促しを受けたのであれば、それに従うように勧めます。

ヤコブ5章

ヤコブ、聖徒たちに忍耐強く苦しみを堪え忍ぶことを教え、病人には長老たちの助けを求めるよう指導する

ヤコブ5:1-6の要約として、富を悪用し、義人を苦しめた裕福な人たちをヤコブがとがめたことを説明します。不幸と裁きが彼らを待ち受けていると警告しました。

数人の生徒に交代で、ヤコブ5:7-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、イエス・キリストの再臨を待っている間に苦難に遭う聖徒たちに何をするようヤコブが指導したかを見つけてもらいます。

- 7-8節によると、聖徒たちが救い主の再臨を待っている間に何をするよう、ヤコブは勧告しましたか。
- 10節によると、苦難に忍耐強く耐えた人々の模範として、聖徒たちは誰を見習うことができましたか。
- 聖典の中で見られる、忍耐強く苦難に耐えた預言者には誰がいますか。

ヤコブ 5:13 - 16 には、病んでいる人や苦しんでいる人へのヤコブの勧告が記録されていることを説明します。一人の生徒に、次の状況を声に出して読んでもらいます。

友人が言います。「最悪の気分だよ。もう 1 週間以上も病気で、医者に診てもらって薬も飲んでいるのに全然良くならないんだ。他にどうすればいいか分からないよ。」

この友人に自分ならどんなことを言うか生徒たちによく考えてもらいます。一人の生徒に、ヤコブ 5:13 - 16 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、病気の人や苦しんでいる人に何をしようヤコブが勧告を与えたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは、病気の人や苦しんでいる人に何をしよう勧告しましたか。
- ヤコブは、病人のために長老は何をしよう指導しましたか。(神権の権能によって油を注いで病人に儀式を施す。)

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、「長老たちが病人に油注ぎをし、その油注ぎを結び固めると、苦しんでいる人に主が御心のままに祝福を注がれるための天の窓が開きます」と教えたことを説明します(「病人を癒す」『リアホナ』2010年5月号, 48)。

- 神権の力に加えて、他に何が病人を救う、または癒やすとヤコブは言いましたか。(『信仰による祈り』[ヤコブ 5:15]。)
- 病人がいかに癒やされるかについて、ヤコブからどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは異なる言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。信仰の祈りと神権の力によって、病人は癒やされる。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

この真理を生徒たちが理解するのを助けるために、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老による次の言葉を配付資料にして配ります。生徒を二人一組に分け、この言葉を声に出して一緒に読んでもらいます。信仰の祈りと、神権の癒やしの力について、オークス長老が教えた事柄を見つけてもらいます。



「神の神権の確実な力を行使するとき、そして信仰の祈りを聞き、こたえてくださるという神の約束を尊ぶときに、信仰と神権の癒やしの力は、その神権を所有しておられる御方の御心に反する結果をもたらすことはできないということをいつも覚えておく必要があります。……

主の僕でさえ、癒やされるという十分な信仰がある中で神の神聖な力を行使しているとしても、もし癒やすことが主の御心でないならば、その人が癒やされるという神権の祝福を与えることはできないということです。

神は偉大な愛の御方であり、わたしたちの永遠の幸福のために何が最善であるかを最もよく御存じの御方なので、神の子であるわたしたちは神を信頼しています。福音の第一の原則はイエス・キリストに対する信仰であり、信仰とは信頼です。……[その]ような信頼を、大切な 10 代の娘をがんで亡くした父親の言葉の中にも感じます。彼はこう断言しました。『わたしたち家族の信仰は、イエス・キリストにあるのであり、結果にあるものではありません。』これらの教えは真実である、わたしの心に鳴り響いています。わたしたちは愛する人が癒やされるためにあらゆる手を尽くします。そして、結果については主を信頼するのです。」「(「病人を癒す」50)

- 神権の癒やしの力を理解するのに、オークス長老の教えはどのように役立ちますか。
- わたしたちのイエス・キリストを信じる信仰は、神権の祝福の結果に左右されるべきではないことがなぜ大切なのですか。

生徒や生徒の知人が、信仰の祈りと神権の力によって祝福を受けた経験について考えてもらいます。生徒たちに、これらの経験がいかに自分の信仰と証を強めたかを分かち合ってもらいます。(あまりにも個人的なこと、神聖なことは避けることを思い出させます。)

15 節の病人の癒やしと罪の赦しの関係を指摘します。わたしたちが肉体的に癒やされるのに必要な謙遜さと信仰は、わたしたちの罪が赦されるのに必要な謙遜さと信仰と同様のものです。(ブルース・R・マッコンキー、*Mormon Doctrine*, 第 2 版 [1996 年], 297 - 298)

ヤコブ 5:17 - 20 の要約として、ヤコブは、熱心な祈りの力を用いた人の例として預言者エリヤについて語ったことを説明します。またヤコブは、聖徒たちに罪人が悔い改めるのを助けるよう勧告しました。

今日教えた真理について教師は証を述べて、レッスンを終わります。

注釈と背景情報

ヤコブ 4:8 「手をきよめよ。……心を清くせよ。」

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、わたしたちがどのように手を清め、心を清めることができるかを説明しました。

「生まれながらの人を捨て、救い主の贖いによって生活の中の罪や邪悪な影響を克服することにより、手は清くなるのではないのでしょうか。そして善を行い、より善い人となるために主の力によって強められることで心の潔い者となるのではないのでしょうか。」(「手が清く、心のいさぎよい者」『リアホナ』2007年11月号, 82)

ペテロの第一の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ペテロの第一の手紙全体に見られるテーマは、イエス・キリストの贖いを通して、救い主の弟子たちは苦しみと迫害に忠実に耐え、それに対応できるということです。ペテロの第一の手紙では全ての章に試練や苦しみについて書かれており、ペテロは、忍耐強く試練に耐えることは「金よりも……尊いこと」であり、信者が「たましいの救」を得る助けとなると教えました（1ペテロ1:7, 9）。ペテロはまた、聖徒たちが「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民」であることを思い起こさせました（1ペテロ2:9）。この手紙でペテロが与えた勧告を研究することによって、生徒たちは彼らが直面する困難において助けとなる希望、励まし、力を得ることができます。

誰がこの書を書いたのか

この手紙の著者は「イエス・キリストの使徒ペテロ」です（1ペテロ1:1）。「ペテロは、シメオンあるいはシモンとして知られていた（2ペテロ1:1）。ベツサイダの漁師で、妻とカペナウムで暮らしていた。……ペテロは兄弟のアンデレとともに、イエス・キリストの弟子として召された（マタイ4:18-22；マルコ1:16-18；ルカ5:1-11）。……

主はペテロを選び、地上における王国の鍵を持つ者とされた（マタイ16:13-18）。……

ペテロは当時の使徒の頭であった。」（『聖句ガイド』「ペテロ」*scriptures.ids.org*）

ペテロの記述から、ペテロが単なる漁師から力強い使徒に成長したことが分かります。

いつ、どこで書かれたか

ペテロは第一の手紙を、紀元62-64年の間に書いたと考えられます。ペテロは、おそらくローマを象徴的に指していた「バビロン」（1ペテロ5:13）からこの手紙を書き送りました。

ペテロは、ローマ皇帝ネロの統治の時代に亡くなったというのが一般的な見解です。おそらく皇帝ネロがキリスト教徒への迫害を始めた紀元64年以降です（『聖句ガイド』「ペテロの第一の手紙」参照）。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ペテロはこの手紙を、現代のトルコに位置する小アジアにあった5つのローマの属州に住む教会員に宛てて書きました（1ペテロ1:1参照）。ペテロは、この手紙の読者たちが神の「選ばれた」民であると考えていました（1ペテロ1:2）。聖徒たちの「信仰はためされて」（1ペテロ1:7）いたので、彼らを強め、励ますために、そして将来降りかかって来る「火のような試練」（1ペテロ4:12）に対して彼らを備えるために、ペテロはこの手紙を書き送りました。また、ペテロのメッセージは迫害に対応する方法を教えました（1ペテロ2:19-23；3:14-15；4:13参照）。

まさに教会員への迫害が激しさを増す時期に入ろうとしていたために、ペテロの勧告は非常に時にかなったものでした。ペテロがこの手紙を書いたおおよそ紀元64年ごろまで、ローマ政府は一般的にキリスト教を容認していました。その年の7月、火事でローマの大半が焼失し、皇帝ネロ自身が火をつけるよう命じたといううわさが流れました。大火への非難をそらすために、著名なローマ人の中には、火事を起こしたのはキリスト教徒であると非難する者もいました。これがローマ帝国全体でのキリスト教徒に対する激しい迫害へとつながりました。ペテロは、聖徒たちが「クリスチャンとして苦しみを受ける」（1ペテロ4:16）ときに、彼らがイエス・キリストの足跡に従っていることを知り、喜びを感じることができると述べました（1ペテロ2:19-23；3:15-18；4:12-19参照）。

この書の特徴は何か

ペテロの時代の聖徒たちが直面した苦難と迫害の中で、ペテロは愛と優しさをもって互いを助け合うよう熱心に勧めました（1ペテロ1:22；3:8-9参照）。さらに、1ペテロ5章には、教会の指導者たちがどのように会衆を強めるべきかをペテロが説明したと記されています。

霊界とそこで行われる救いの業に関して、聖書の中でおそらく最も明確な記載はペテロのこの手紙の中に見られます。ノアの時代に生きていた不従順な霊たちに宣べ伝えるために、イエス・キリストが霊界を訪れたことをペテロは手短かに述べました（1ペテロ3:18-20参照）。さらに

また、生きている者たちと同等の条件で裁きを受ける機会を死者たちにも与えるために、福音が死者たちにも宣べ伝えられたと教えています（1ペテロ4:5-6参照）。わたしたちの神権時代では、ジョセフ・F・スミス大管長が1ペテロ3:18-20と1ペテロ4:6の意味を深く考えていたときに、霊界についての教義を明確にする啓示を受けました（教義と聖約138章参照）。

概要

1ペテロ1:1-2:10 ペテロは、聖徒たちが永遠の報いを受けるために、霊的に成長する必要があると書く。救いの約束は、イエス・キリストの尊い血によって可能となる。聖徒たちは、神の憐れみを受けた「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民」である（1ペテロ2:9）。

1ペテロ2:11-3:12 イエス・キリストの弟子は、全ての人を敬うよう努め、行政当局と法律に従う。ペテロは自由人、僕、妻、夫という聖徒の特定のグループに語りかける。

1ペテロ3:13-5:14 迫害が聖徒たちに苦しみをもたらすとき、彼らは、苦しんだ後に昇栄を得られたイエス・キリストの模範を思い出すべきである。イエス・キリストは、死者たちが公正な裁きを受けられるよう彼らに福音を宣べ伝えられた。神の羊の群れを養うことにおいて、教会の指導者はイエス・キリストの模範に従う。聖徒たちは自らを低くし、自分の思いわずらいを神にゆだねるべきである。

1 ペテロ 1 - 2 章

はじめに

ペテロは、ローマ帝国による激しい迫害に遭っていた聖徒たちの信仰を強めるために手紙を書き送りました。ペテロは、彼らがイエス・キリストの尊い血で既に贖われていることを強調し、神につける民としての神聖な受け継ぎについて思い起こさ

せました。ペテロは、聖徒たちに、人々の間で神をあがめ、イエス・キリストがされたように苦しみに耐えるよう指示しました。

注- 「事前準備」と書かれた補足の欄を参照して、149 課の準備をしてください。

事前準備

第149課の教えるための提案には、生徒が手紙を受け取るというものがあります。この教えるための提案を使う場合は、レッスンを行う数日前に準備をする必要があります。生徒の親か地元の教会指導者に連絡を取り、生徒が福音に沿った生活をしようとする努力を目にすることは、喜びであることを表した短い手紙を生徒に宛てて書いてもらいます。手紙を集めて、第149課を教える際には各生徒宛ての手紙があるようにしてください。

教えるための提案

1 ペテロ 1 章

ペテロは聖徒たちに、彼らの将来の受け継ぎと試練の必要性について教える

「るつぼ」の絵を見せるか、ホワイトボードに描いて、るつぼとは金属またはその他の物質が精錬される容器であることを説明します。不純物を取り除き、最終的な生産物を強化するために、それらの物質は熱せられ、溶かされます。

一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「各地の教会を訪れると、苦悩を伴う大きな試練を受けている会員に会います。」(「ハイラム・スミス — 『天の柱のように強固』 人」『聖徒の道』1996年1月号, 7)

• 「苦悩を伴う大きな試練」という言葉で、バラード長老は何を意味したと思いますか。(人生の苦しい試練や逆境。)

苦悩を伴う大きな試練に遭っている聖徒たちを強め、励ますためにペテロは第一の手紙を書き送ったことを説明します。ペテロがこの手紙を書いた紀元64年頃までは、ローマ政府はキリスト教を基本的に容認していたことを説明します。その年の7月の火事でローマの大部分が焼失しました。著名なローマ人の中には、火事を起こしたのはキリスト教徒であると非難する者もいました。これがローマ帝国全体でのキリスト教徒に対する激しい迫害へとつながりました。キリスト教徒が経験した不当な扱いの一部は、彼らの以前の友人や隣人からもたらされました。

生徒たちが1ペテロ1-2章を研究しながら、わたしたちが苦悩を伴う大きな試練の中で試されるときでも、忠実であり続けるための助けとなる真理を見つけてもらいます。

1ペテロ1:1-2の要約として、ペテロが小アジア(現在のトルコ)のローマ帝国の属州にいる聖徒たちに挨拶を送り、彼らは選ばれた民、つまり彼らが忠実に生きるのであれば、特別な祝福を受ける民であることを思い起こさせたと説明します。

一人の生徒に、1ペテロ1:3-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロはキリストがされたどのようなことを聖徒たちに思い起こさせたか、また聖徒たちに約束された将来の祝福を見つけてもらいます。

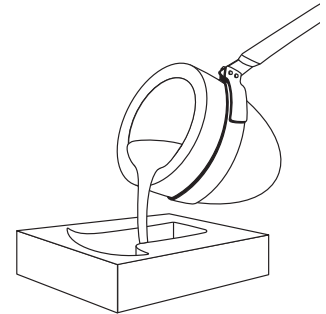
• 聖徒たちがイエス・キリストの福音に忠実であるならば、将来どのような祝福を受けることになっていましたか。

一人の生徒に、1ペテロ1:6を声に出して読んでもらい、他の生徒には、これら将来の祝福の約束に対し聖徒たちがどのような反応を示したかを見つけてもらいます。

• これら将来の祝福への約束に対し、聖徒たちはどのような反応を示しましたか。(彼らは大いに喜んだ。)

• 3-6節から、わたしたちはどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような原則を見つけるでしょう。わたしたちは試練を経験するが、イエス・キリストの贖罪と、神が与えると約束された将来の祝福を喜ぶことができる。)

• 神が与えて下さると約束された将来の祝福を覚えていることは、わたしたちが試練に遭っているときにも喜ぶことができるようどのような助けとなりますか。



一人の生徒に、1ペテロ1:7-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちの信仰の試しについてペテロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 1ペテロ1:7によると、ペテロは聖徒たちの信仰が試されることを何と比べましたか。
- どのような点で、試された信仰は金のようなものなのですか。(試された信仰は金のように尊いものである。しかし金は「朽ちる」〔7節〕が、イエス・キリストを信じる信仰は、永遠の救いへとつながるために〔9節参照〕もっと尊い。また、金は火で精錬される。同様に、イエス・キリストを信じるわたしたちの信仰も、わたしたちが忠実に試練に堪え忍ぶときに試され精錬される。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。アンダーセン長老は、どのようにすれば、信仰の試しの中にあっても確固として、動かずにいられるかを説明しました。



「信仰の試しを受けるとき、どうしたら『確固として動かずに』〔アルマ1:25〕いられるでしょうか。それには、信仰の核を築いてくれたものに浸ることです。つまり、キリストを信じる信仰を働かせ、祈り、聖文について思い巡らし、悔い改め、戒めを守り、人に奉仕するのです。」

信仰の試しに遭うとき、何をするとせよ、教会から離れてはなりません。信仰の試しの間神の王国から離れるのは、竜巻が見えたときに、安全な避難用地下室を離れるようなものです。」「(「信仰の試し」『リアホナ』2012年11月号、40)

- アンダーセン長老は、わたしたちが信仰の試しに遭うときに何をしよう勧めましたか。
- わたしたちの信仰が試されるときに、これらのことを行うことはなぜ大切だと思いますか。

ペテロが手紙を書き送った聖徒の一部は、宗教的迫害を受け信仰を捨てようと考えていたかもしれないことを指摘します。生徒たちに、1ペテロ1:13-17を黙読しながら、聖徒たちが忠実に試練に堪えられるようにペテロが与えた勧告を見つけてもらいます。見つけた箇所印をつけるように生徒たちに勧めてもよいでしょう。

- ペテロは聖徒たちに何をしよう強く勧めましたか。
- 聖徒たちが試練に堪えるのに、ペテロの勧告はどのような助けになりましたか。

一人の生徒に、1ペテロ1:18-21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが信仰を捨てるのではなく、忠実に試練に堪えるのを助けるために、ペテロが教えた別の真理を見つけてもらいます。

- これらの節でペテロはどのような真理を聖徒たちに教えましたか。(生徒たちは異なる言葉を使うかもしれませんが、次のような真理を見つけていることを確認します。わたしたちはイエス・キリストの尊い血によって贖われている。イエス・キリストは罪のない人生を送られたので、わたしたちのために自らを完全な犠牲としてささげることがおできなかつた。イエス・キリストは、わたしたちの贖い主になることを予任されていた。)
- これらの真理を覚えていることは、聖徒たちが試練に忠実に堪えるのにどのような助けになったかかもしれません。

1ペテロ1章で見いだした真理の重要性を聖徒たちが感じることができるよう、彼らや彼らの知人がイエス・キリストを信じる信仰をもって試練に堪えることを選んだときのことを考えてもらいます。数人の生徒に彼らの経験を分かち合ってもらいます。

苦悩を伴う大きな試練に遭っているときにおいても、忠実であり続けるために何をしようもるか生徒たちに考えるよう勧めます。

1ペテロ1:22-25の要約として、ペテロは聖徒たちに互いに愛し合い、永遠に朽ちることのない神の御言葉を受け入れることによって彼らが新たに生まれたことを覚えているように勧めたことを説明します。

生徒に答える時間を与える

生徒が質問にすぐに返答しないことがありますが、この沈黙を心配する必要はありません。時折、生徒は質問された事柄とその質問への答え方についてよく考える機会が必要です。このように深く考えることによって、聖霊による教えが促されます。

1 ペテロ 2 : 1 - 12

ペテロ、聖徒たちの責任を強調する

- どのような点で教会員はこの世の者とは異なっていますか。
 - わたしたちが異なっているために遭遇する困難にはどのようなものがありますか。
- 生徒たちが 1 ペテロ 2 章を研究しながら、主の教会の会員として、自分はこの世の者とは異なる者になろうという望みを強くする助けとなる原則を見つけてもらいます。

1 ペテロ 2 : 1 - 8 の要約として、聖徒たちは生ける石のようであり、イエス・キリストは隅のかしら石、つまり忠実な者にとっての土台のようであるとペテロが教えたことを説明します。しかし不従順な者にとっては、キリストは「つまずきの石、妨げの岩」(8 節)であり、キリストが彼らに対してお怒りになるという意味です。

一人の生徒に、1 ペテロ 2 : 9 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、忠実な聖徒たちをペテロがどのように表現したかを見つけてもらいます。

- 忠実な聖徒たちをペテロはどのように表現しましたか。
- 9 - 10 節で聖徒たちを表すのにペテロが用いた言葉は、どのように彼らが宗教的迫害に遭っているときに勇気を出す助けとなったかもしれないでしょうか。

一人の生徒に、1 ペテロ 2 : 11 - 12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ペテロが聖徒たちに、神につける民として何をするよう求めたかを見つけてもらいます。ペテロが聖徒たちを「旅人」および「寄留者」と呼んだのは、聖徒である彼らが文化的、宗教的に異なる民の中で暮らしていたため、または彼らが天の家から離れて、一時的に死すべき者として生活していたためかもしれないと説明します。

- 11 節によると、聖徒たちをこの世から分けるために何をしなければならないとペテロは言いましたか。
- 12 節によると、神の選ばれた民、神につける民として、聖徒たちは人にどのような影響を与えることができるとペテロは言いましたか。
- 神が聖徒たちに行うよう命じておられることについて、ペテロからどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような原則を見つけるはずで、神は、他の人々が聖徒たちの模範を見て神を賛美することができるように、御自分の聖徒たちがこの世から分けられ、世の者とはまったく異なった者となるよう命じられる。)

一人の生徒に、中央若い女性会長を務めたイレイン・S・ダルトン姉妹の次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「この世を変えたいのであれば、皆さんがこの世と違ってなければなりません。」(「今こそ立って光を放つ時です」『リアホナ』2012 年 5 月号, 124)

- あなたがこの世から分けられ、まったく異なった者になろうとすることで、どのように周囲に良い影響を与え、その人たちを神に導く助けをすることができましたか。

生徒たちが模範となれるように、この世から分けられ、まったく異なった者になるためにもっとよくできることは何かを考えるように励まします。何か促しを受けたのであれば、それに従うように勧めます。

1 ペテロ 2 : 13 - 25

ペテロ、聖徒たちに、救い主と同じように苦しみに耐えるよう勧告する

1 ペテロ 2 : 13 - 18 の要約として、ペテロは聖徒たちに法律と彼らを治める行政当局(聖徒たちへの迫害を促したローマの皇帝も含まれる〔教義と聖約 58 : 21 - 22 も参照])に従うよう教えたことを説明します。僕として苦難に苦しむ者に、忍耐をもって苦しみに堪え、神が彼らの苦しみを御存じであることを忘れないようにと、ペテロは励ましました。

一人の生徒に、1 ペテロ 2 : 19 - 20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、苦しみに耐える方法についてペテロが聖徒たちに勧告した事柄を見つけてもらいます。

- 苦しみに耐える方法について、ペテロは聖徒たちにどのような勧告を与えましたか。
- 生徒たちに、1 ペテロ 2 : 21 - 25 を黙読してもらい、イエス・キリストが迫害にどのように対応されたかについてのペテロの説明を見つけてもらいます。
- キリストは迫害にどのように対応されましたか。

- 21 節によると、救い主がわたしたちのために苦しまれた一つの理由とは何ですか。
- 試練を堪え忍ぶことについて、21 - 25 節からどのような真理を見いだすことができますか。（生徒たちは次のような真理を見いだせるでしょう。わたしたちは忍耐強く試練に耐えることによって救い主の模範に従うことができる。）

教師は救い主についての証を述べ、忍耐強く試練を堪え忍ぶことにおいて、救い主の模範にもっと従うようにするために何ができるかを生徒たちに考えてもらいます。

1 ペテロ 3 - 5 章

はじめに

ペテロは、聖徒たちにイエス・キリストについて証ができるように常に備え、また彼らに対する不当な非難を払拭するため、義にかなった生活をすることを勧めました。救い主は亡くなられた後、霊界で福音を宣べ伝えられたとペテロは教えまし

た。ペテロはまた、教会の長老たちに、大牧者イエス・キリストがされたように神の羊の群れを養うよう諭しました。

教えるための提案

1 ペテロ 3 : 1 - 17

ペテロ、聖徒たちが義において一致し、いつでもキリストについて証する準備を整えておくよう勧告する

一人の生徒に、次のトーマス・S・モンソン大管長の話を声に出して読んでもらいます。



「わたしたちは人生の中で自分の信仰を分かち合う機会に出会うでしょう。ただ、いつそのような機会に出会うかは分かりません。1957年にわたしにそのような機会が訪れました。当時は出版業界で働いており、『教会の町』と呼ばれることもある〔アメリカ合衆国〕テキサス州ダラスで開かれるビジネスセミナーで講演するように依頼を受けました。セミナーが終わってから、ダラス郊外を巡る観光バスに乗りました。さまざまな教会を通り過ぎながら、運転手が『左に見えるのがメソジスト教会です』『右はカトリックの大聖堂です』などと言っていました。

丘の上に建つ赤れんがの美しい建物を通り過ぎるとき、運転手は『あちらはモルモンの集会所です』と言いました。すると、バスの後方に座っていた女性が声を上げました。『運転手さん、モルモンについて少し教えてくださいませんか。』

運転手はバスを道路わきに停車させ、座ったまま後ろを振り返り、言いました。『モルモンがああ赤れんがの建物に集まっていること以外は、わたしは何も知りません。お客さんの中で、モルモンについてもう少し御存じの方はいらっしゃいませんか。』(「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号, 67)

- あなたがそのバスに乗っていたら、どうしたと思いますか。
- わたしたちの信仰を周りの人に伝えるのが難しいことがあるのはなぜでしょうか。

生徒たちが1ペテロ3:1-17を研究しながら、彼らが周りの人に福音を分かち合う機会が与えられたときに導きとなる原則を見つけてもらいます。

1ペテロ3:1-11の要約として、ペテロは妻たちに彼女らの義にかなった行いによって、不信仰な夫たちがキリストのもとへ来るように助けることを勧めたと説明します。夫たちには、妻を敬うよう勧告しました。また教会員に福音の標準に従って生活するよう勧告しました。

一人の生徒に、1ペテロ3:14-16を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが義にかなった生活をしているために迫害に遭うときに、何をしようペテロが勧告したかを見つけてもらいます。

- 聖徒たちが義にかなった生活をしているために迫害に遭うときに、何をしようペテロは勧告しましたか。
- 15節によると、イエス・キリストに従う者は、常に何を行う備えをするべきであるとペテロは述べましたか。
- 福音のどのような側面が人々に希望を与えるのだと思いますか。
ペテロは、聖徒たちに彼らの宗教的信条を分かち合い、弁明するように諭しました。
- わたしたちがイエス・キリストの福音を分かち合い、弁明する方法を表しているのは15-16節のどの言葉ですか。

- イエス・キリストに従う者は、何を行うために常に備えるよう努めるべきか、1 ペテロ 3:15 - 16 からどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちは次のような真理を見つけるはずですが、イエス・キリストに従うわたしたちは、優しさ〔柔和〕と慎み深さをもって、自分たちの信仰を分かち合い、守る備えを常にしているよう努めるべきである。ホワイトボードにこの真理を書きます。)
- 優しさ(柔和)と慎み深さをもって、自分たちの信仰を分かち合うことが、なぜ大切だと思いますか。

ホワイトボードに書いた真理を説明するために、モンソン大管長がバスの中で経験した話の続きを、一人の生徒に、声に出して読んでもらいます。



「わたしは誰かが答えるのを待ちました。答えてもいい、あるいは、ぜひ答えてほしいと思っている人はいないかと、一人一人の表情をじっと見詰めたのですが誰もいませんでした。そして、『あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしないさい』という使徒ペテロの勧めに従うかどうかは、わたし次第であることを悟りました。そして、次のことわざが真実であることを悟りました。『決断の時が来たら、準備の時は過ぎ去っている。』」

それから15分くらいの間、わたしはバスに乗っている人々に、教会と教会員が信じている事柄について証を述べる特権を得ました。わたしは自分の証に、そして証を分かち合う備えができていたことに感謝しました。」「(一人でも気高く立ち」67)

- 自分の信仰を分かち合うよう常に備えているために、わたしたちはどんなことができますか。

自分の信仰や証を分かち合う備えに感謝したときのことを、生徒たちに考えてもらいます。数人の生徒にその経験を分かち合ってもらいます。

福音を分かち合う備え、また、自分の信仰を守る備えがいつもできているようにするために何ができるかを生徒たちに深く考えてもらいます。何か促しを受けることがあれば、それに従うように勧めます。

1 ペテロ 3:18 - 4:19

イエス・キリスト、死後、霊界で福音を宣べ伝えられる

生徒たちが宣教師となって、次のことを言っている人に教えているところを想像してもらいます。

「わたしはあなたたちが教えていることは真実だと思いますが、真理を聞く機会がなく死んでしまう人々はどうなるのでしょうか。その人たちに神の救いの計画について学ぶ機会がなかったのなら、神がその人たちを罰したり、神とともに住むことをお許しにならないのは不公平だと思う。」

生徒たちに、どのように答えることができるかを考えてもらいます。

クラスの半分の生徒たちに、『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」にあるジョセフ・スミス訳1ペテロ3:20も含めて、1ペテロ3:18 - 20を黙読してもらいます。他の半分の生徒たちには、『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」にあるジョセフ・スミス訳1ペテロ4:6も含めて、1ペテロ4:5 - 6を黙読してもらいます。先ほどの状況に出てくる人に分かち合うことのできるパウロが教えた真理を見つけてもらいます。1ペテロ3:19の「獄に捕われている霊ども」という言葉は、霊界にいる、地上で福音を受け入れなかった者または福音を耳にする機会がなかった者のことを指していると説明します。

十分な時間を取ってから、次の質問をします。

- 霊界にいる、この世で福音を受け入れなかった者、または受け入れる機会がなかった者についてこれらの節からどんなことを学ぶことができますか



ジョセフ・F・スミス大管長の絵を見せます。(『福音の視覚資料集』127番。LDS.orgも参照)ジョセフ・F・スミス大管長は、救い主が霊界を訪れたという啓示と示現を受けたとき、1ペテロ3:18 - 20と1ペテロ4:6の意味を深く考えていたことを説明します。スミス大管長は、イエス・キリストが亡くなってから復活されるまでの間に、福音を宣べ伝え、義にかなった霊たちを自ら教え導かれたことを目にしました。その後イエス・キリストは霊の獄で霊たちに福音を教えるよう、義にかなった僕たちを組織し、権能を与えられました(教義と聖約138:1 - 11, 29 - 30参照)。

1 ペテロ 4:6

はマスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるよう提案するとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

- 1ペテロ4:6によると、なぜ死者に福音が宣べ伝えられるのですか。(天の御父の全ての子供たちが神の律法について聞き、それに基づいて生活する機会を与えることで、正しく公平な裁きをもたらすため。)
- 死者に福音が宣べ伝えられたというペテロの教えから、わたしたちはどのような真理を見いだすことができますか。(生徒たちは自分自身の言葉で表現するかもしれませんが、次のような真理を見つけていることを確認します。現世で福音を聞く人々と同じ機会にアクセスすることができるように、死んだ人々にも福音が宣べ伝えられる。)

この聖句ブロックの始めに提示した状況をもう一度見直してから、次の質問をします。

- 死者の救いの教義は、神の子供たちに対する神の思いやりと憐れみをどのように証明していますか。

1ペテロ4:7-19のまとめとして、ペテロは聖徒たちに、慈愛は数々の罪を覆い、防ぐことから、互いの慈愛を熱く保つよう勧告したことを説明します(ジョセフ・スミス訳1ペテロ4:8[『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)」]参照)。ペテロは、聖徒たちに、イエス・キリストへの自らの信仰のために、試練や非難に遭うときにはそれを喜ぶよう教えました。

1ペテロ5章

ペテロ、神の羊の群れを見守るよう長老たちに勧告し、信仰に堅く立ち続けるよう聖徒たちを励ます

将来訪れる試練に向けて聖徒たちを備えるために、ペテロは教会の長老たちに指導者としての彼らの責任について教えたことを説明します。一人の生徒に、1ペテロ5:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、パウロが教会の長老たちに与えた勧告を見つけてもらいます。

- パウロは教会の長老たちにどのような勧告を与えましたか。

「神の羊の群れを牧しなさい」(2節)という言葉は、教会員を世話し、見守ることを意味することを説明します。教会の指導者は、嫌々ながらに奉仕したり、報酬を期待するのではなく、愛をもって進んで奉仕するよう求められていました。彼らは「権力をふるう」(3節)のではなく、会員の模範となるよう求められていました。

- 教会の長老たちへのペテロの勧告から、教会の指導者の責任についてどのような真理を学ぶことができますか。(次のような真理を見いだせるよう生徒たちを助けてください。教会の指導者には、愛と模範によって神の羊の群れを世話し、見守る責任がある。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

生徒たちに1ペテロ5:4を黙読しながら、ペテロが救い主を何と呼んだかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

「迷える子羊を運ばれるイエス」の絵(『福音の視覚資料集』64番。LDS.orgも参照)を見せて次の質問をします。

- なぜ救い主はしばしば羊飼いと描かれるのでしょうか。
- 教会の指導者が教会員を世話し見守るために、どのようなキリストの特質や属性が助けとなりますか。
- 教会指導者のキリストのような愛または模範によって、どのように祝福を受けてきましたか。

1ペテロ5:7-14の要約として、ペテロは聖徒たちに自分の思い煩いを救い主にゆだね、苦難の中にあっても信仰に堅く立つよう教えたことを説明します。そうすれば神は彼らを癒やし強めてくださるといふ確信を、ペテロは聖徒たちに与えました。

生徒たちを霊的に導き養うために主が召された人たちを信頼し、彼らに従うよう生徒たちに勧めてレッスンを終わります。



 **マスター聖句- 1 ペテロ 4:6**

生徒たちが、彼らの先祖のための救いの業に携わるのを助けるために、彼らと一緒に 1 ペテロ 4:6 を復習して、次の質問をします。

- 霊界で福音を受け入れ、霊の獄から解放されるのを待っている先祖たちを助けるために、わたしたちには何ができますか。
- 先祖のために家族歴史と神殿の業を行うことで、どのように祝福されたと思いますか。

自分の先祖を調べる家族歴史の業を行う機会を求め、その先祖のための神殿の儀式に携わるよう生徒たちに勧めてください。

家庭学習クラスのレッスン

ヤコブ 2 章 — 1 ペテロ 5 章 (単元 29)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒がヤコブ 2 章—1 ペテロ 5 章 (単元 29) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものになります。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日目 (ヤコブ 2 – 3 章)

これらの章のヤコブの教えから、生徒たちは、イエス・キリストに忠実な弟子は、分け隔てなく全ての人を愛すること、わたしたちが一つでも罪を犯すなら、わたしたちは神の御前で罪人になることを学びました。また、イエス・キリストを信じる真の信仰は、わたしたちの義になかった行いによって明らかになることを学びました。自分たちの舌を制することについてのヤコブの教えから、わたしたちが話すことを制することは、わたしたちの生活に大きな影響をもたらす、また、神に従う者は、悪を広めるためではなく、義の目的のために言葉を使うよう努めるということを、生徒たちは学びました。

第 2 日目 (ヤコブ 4 – 5 章)

生徒たちはこれらの章を学ぶ中で次の真理を学びました—わたしたちが神に近づくなら、神はわたしたちに近づいてくださる。善を行うべきと知っていながら、それを行わないことを選ぶなら、わたしたちは罪を犯しているのである。信仰の祈りと神権の力によって、病人は癒やされる。

第 3 日目 (1 ペテロ 1 – 2 章)

ペテロの教えから、生徒たちは次の真理を学びました—わたしたちは試練を経験するが、イエス・キリストの贖罪や神が与えてくださると約束された将来の祝福について喜ぶことができる。イエス・キリストを信じるわたしたちの信仰は、わたしたちが忠実に試練に堪え忍ぶときに試され精錬される。わたしたちはイエス・キリストの尊い血によって贖われる。イエス・キリストは罪のない人生を送られたので、わたしたちのために自らを完全な犠牲としてささげることがおできになった。イエス・キリストはわたしたちの贖い主になることを予任されていた。周囲の人が聖徒たちの模範を目にして、神をあがめるようになるために、神は聖徒たちにこの世から分けられ、まったく異なった者となるよう命じておられる。忍耐強く試練に堪えることで、わたしたちは救い主の模範に従うことができる。

第 4 日目 (1 ペテロ 3 – 5 章)

当時の聖徒たちへのペテロの励ましから、生徒たちは、イエス・キリストに従うわたしたちは、優しさ (柔和) と慎み深さをもって、自分たちの信仰を分かち合い、弁明する備えを常にしているよう努めるべきであることを学びました。また、この世で福音のメッセージを聞いた人々と同じ機会にあずかることができるように、死者にも福音が宣べ伝えられることを学びました。教会の指導者には、愛と模範によって神の羊の群れを世話し、見守る責任があることをペテロは教えました。

はじめに

使徒ヤコブは、真の信仰について聖徒たちの間に見られた誤った解釈を明らかにしました。また、信仰と行いの関係についても教えました。

教えるための提案

ヤコブ 2 : 14 – 26

ヤコブ、わたしたちの救いにおける信仰と行いの役割を教える

ある若い男性が、罪を犯したことを認めるところを生徒たちに思い浮かべてもらいます。この男性はイエス・キリストの贖罪と、彼を救うことができる救い主の力を信じています。彼は主が自分を赦してくださいと信じさえすればよいだけで、それ以上他にする必要はないと言います。

救い主を信じるだけで、この若い男性の罪が赦されるかどうかを生徒たちに考えてもらいます。

一人の生徒に、ヤコブ 2 : 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヤコブが信仰について聖徒たちに何を尋ねたかを見つけてもらいます。

- ヤコブは信仰について聖徒たちに何を尋ねましたか。
- ヤコブはどのような行いを指していたと思いますか。

生徒たちがヤコブ 2 章のレッスンを学んだときに、使徒ヤコブは信仰についての誤った考えを正していたと学んだことを思い出してもらいます。信仰とは、自分の信条を口頭で述べさえすればよいと間違って理解していた人たちがいました。ヤコブは、「行い」という言葉を用いたとき、献身の行いや義になかった行いを意味していました。

14 節の質問への答えを説明するのに、ヤコブがたとえを用いたことを説明します。

二人の生徒に前に出てきてもらいます。一人の生徒に、生きるための食べ物、衣服、住む場所を求めている物乞いを演じてもらいます。もう一人の生徒には、この物乞いを助けることのできる人を演じてもらいます。三人目の生徒にヤコブ 2 : 15 – 16 を声に出して読んでもらい、その間二人は聖句に書かれている内容を演じてもらいます。

- ・物乞いの役の生徒に対して与えられた答えの何が問題なのでしょう。
- ・もう一人の生徒の答えだけで物乞いは助かるでしょうか。

生徒全員でヤコブ 2:17-18 を読むか、または暗唱して、ヤコブが信仰について教えた事柄を見つけてもらいます。ヤコブ 2:17-18 はマスター聖句であることを生徒たちに思い出してもらいます。

- ・「信仰も、……行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである」(17 節)とはどういう意味だと思いますか。
- ・ヤコブによる物乞いのたとえは、この言葉が何を意味しているかを理解するのにどのような助けになりますか。
- ・17 節によると、イエス・キリストを信じる真の信仰について、ヤコブはどのような真理を教えましたか。(生徒たちの表現は異なるかもしれませんが、次のような原則を見つけるでしょう。**イエス・キリストを信じる真の信仰は、わたしたちの義にかなった行いによって明らかになる。**ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、ヤコブ 2:19-20 を声に出して読んでもらいます。ジョセフ・スミス訳のヤコブ 2:19 では「あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。あなたは義とされず、自らを悪霊のようにしてしまったのである。」となっていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、神を信じることには、必ずしも神を信じる信仰が伴うわけではないことを見せるのにヤコブが用いた例を見つけてもらいます。

- ・神を信じることには、必ずしも神を信じる信仰が伴うわけではないことを見せるのに、ヤコブはどのような例を用いましたか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老の次の話を読んでもらいます。



「本当の信仰は主イエス・キリストを中心とし、常に義にかなった行動へ導きます。……単に行動することだけが救い主を信じる信仰なのではなく、正しい原則に従って行動することこそが信仰の中心的要素です。ですから、『行いを伴わない信仰 (は)』

むなしい』のです (ヤコブ 2:20)。」(「信仰をもって願い求めなさい」『リアホナ』2008 年 5 月号, 95)

- ・ベドナー長老によると、「信仰の中心的要素」とは何ですか。
- ・イエス・キリストを信じる信仰とは、イエスを信じ、正しい原則に従って行動することであると理解するのはなぜ大切ですか。
生徒たちに、レッスンの始めに話した若い男性のことを思い出してもらいます。
- ・信仰には信じることと行動の両方が含まれると理解することで、罪の赦しを求めている人をどのように助けることができるでしょうか。

ヤコブ 2:21-26 の要約として、ヤコブはイエス・キリストを信じる信仰が行いによって明らかとなった人の例として、アブラハムとラハブについて述べたことを説明します。(勇気ある女性ラハブの話は、ヨシユア 2:1-22 にあります。)

生徒たちに、自らの行いによってイエス・キリストを信じる信仰を示し、その行いによって祝福されたときのことをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。救い主についての証と、その信仰を彼らの行動によっていかに示すつもりかも含めて書くように生徒たちに勧めます。数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

イエスに従うことで、より完全にイエス・キリストを信じる信仰をどのように示せるか、祈りをもって考えるよう生徒たちに勧めます。何か促しを受けたのであれば、それに従うように勧めます。

次の単元 (2 ペテロ-ユダ)

人が、それが間違っていることだと分かっているにもかかわらず、罪を犯すことを選ぶのはなぜかを生徒たちに尋ねます。今後 1 週間生徒たちが 2 ペテロからユダを研究する中で、次の質問に答える助けとなる真理を見つけてもらいます—わたしたちが偽りの教義に欺かれないようにするにはどうすればよいでしょうか。何が恐れを取り除くとヨハネは言いましたか。わたしたちは神への愛をどのように示すべきでしょうか。永遠の命を受け継ぐために、どのような神の特質を伸ばさなければなりませんか。わたしたちが関わりをもつ人を選ぶことについて、どのような警告が与えられていますか。

ペテロの第二の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

預言者ジョセフ・スミスは、こう述べています。「ペテロは全ての使徒の中で、最も高尚な言葉の使い手であった。」(*History of the Church*, 第5巻, 392)「高尚」とは、高貴な考え、優れて価値の高いこと、称賛を博す傾向のあることを意味します。

イエス・キリストの変貌の目撃者として(2ペテロ1:16-18)、ペテロはその読者たちに救い主についての知識を増し加え、彼らが「神の性質」(2ペテロ1:4-8)にあずかることができるように、神のような属性を求めるよう強く勧めました。この霊の成長は、彼らが「召しと選びとを、確かなもの」(2ペテロ1:10)とする助けになるという確信を与えました。「ペテロは、主が大いなる栄光の中に天から訪れ、この地を裁くことを再び断言しています。」(*Bible Dictionary*, “Peter, Epistles of”の項)ペテロの第二の手紙を研究することで、生徒たちは、イエス・キリストを信じる、より大きな信仰を育み、イエスのようになるための助けとなる指導や靈感を受けられるようになります。

誰がこの書を書いたのか

ペテロの第二の手紙の著者は、イエス・キリストの使徒の頭であったシモン(シメオン)・ペテロです(2ペテロ1:1参照)。

いつ、どこで書かれたか

この手紙が書かれた正確な時期と場所は分かっていません。紀元64年頃に書かれたと考えられるペテロの第一の手紙の後に、ペテロはこの手紙をローマで書いたとされています(*Bible Dictionary*, “Peter, Epistles of”の項参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ペテロは「わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々」(2ペテロ1:1)に向けて書いていると述べました。これは、この手紙の読者がペテロの第一の手紙を受け取ったのと同じ異邦人のキリスト教徒だっ

た可能性を示しています(2ペテロ3:1参照)。2ペテロ1:12-15の内容から、この手紙はペテロから読者への別れの挨拶として書かれたことがわかります。

聖徒たちが外部からの迫害に対処する助けとなったペテロの第一の手紙とは異なり、ペテロの第二の手紙は、教会の将来を脅かす内部での背教について述べています。偽預言者と偽教師は「異端(偽りの教え)をひそかに持ち込み、自分たちを贖ってくださった主を否定して」いました。(2ペテロ2:1)ペテロは、主についての知識を育み、自分たちの受けた「召しと選びとを、確かなものに」(2ペテロ1:10)するよう聖徒たちを励ますために、手紙を書きました。

この書の特徴は何か

「第二の手紙は第一の手紙と同じ教会に宛てて書かれたと思われる(2ペテロ3:1)。この手紙はペテロの死の直前に書かれ[ました](2ペテロ1:14)。」(*Bible Dictionary*, “Peter, Epistles of”の項)また、この手紙にはペテロの最も力強い言葉と最後の証が書かれています。

ペテロの第二の手紙の主要なテーマは、イエス・キリストについての知識を得る重要性です。ペテロは読者に神のような属性を求め、神の性質を育むならば、「わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、……怠る者、実を結ばない者となることは(なく)」(2ペテロ1:8)、「召しと選びとを、確かなものに」(2ペテロ1:10)するだろうと約束しました。

ペテロは、イエス・キリストの真の知識と、背教者によって広められた偽りの知識と教えを対比させました(2ペテロ2章参照)。手紙の結びにおいて、ペテロは聖徒たちに「わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かにな[る]」(2ペテロ3:18)よう最後の招きの言葉を述べました。

概要

2ペテロ1章 ペテロは、イエス・キリストの約束によって聖徒たちが「神の性質にあずかる者」(2ペテロ1:4)となることができると説明する。ペテロは自分の「召しと選びとを、確かなもの」(2ペテロ1:10)にするよう聖徒たちを励ます。ペテロは栄光を受けたキリストを目撃し、御父の声を聞いた変貌の山での経験を振り返る。ペテロは、「預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった」(2ペテロ1:19)と述べる。

2ペテロ2章 ペテロは教会員の間にやって来て聖徒たちを迷わせようとする偽預言者と偽教師について警告する。これらの邪悪な教師たちは主を否定し、「真理の道」(2ペテロ2:2)を悪く言う。ペテロは、聖約を交わしながら、それらに従った生活をしないよりも、福音を受け入れない方がよいと教える。

2ペテロ3章 ペテロは、キリストが御自身の時においでになり、火によって地球を清め、邪悪な者を滅ぼし、勤勉で忠実な者を救われることは確実であると断言する。ペテロは聖徒たちを「イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい」と励ます(2ペテロ3:18)。

2ペテロ1章

はじめに

ペテロは、聖徒たちにイエス・キリストのようになると努めるよう勧めました。この霊的な成長は、「受けた召しと選びとを、確かなものに」する助けとなることをパウロは約束しまし

た。(2ペテロ1:10) またパウロは、変貌の山での経験について語り、聖文は神の靈感を受けて書かれたものであることを強調しました。

教えるための提案

2ペテロ1:1-11

ペテロ、イエス・キリストの神聖な特質にあずかる方法を教える

レッスンを始める前に、次の言葉をホワイトボードに書いておきます。(この言葉は「秘められた思い」『聖徒の道』1987年7月号, 74に書かれています。)

「私たちの責任は……最上の自分になることです。」(トーマス・S・モンソン大管長)

生徒に二人一組になってもらいます。ホワイトボードに書いた言葉を読み、次の質問について各組で話し合ってもらいます。

- 「最上の自分」という言葉で、モンソン大管長は何を意味したと思いますか。
- 最上の自分になることはなぜ大切だと思いますか。
- 最上の自分になるのに何が妨げとなりますか。

生徒たちが2ペテロ1章を研究しながら、彼らが最上の自分になる方法を知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

2ペテロ1:1-2の要約として、ペテロは、イエス・キリストを信じる信仰を既に得ていた教会員たちに手紙を書き送ったことを説明します。

一人の生徒に、2ペテロ1:3-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが救い主の証に忠実であり続けるのを助けるためにペテロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- これらの節によると、ペテロは聖徒たちに何を教えましたか。
- 「神の性質にあずかる者」(4節)とはどのような意味ですか。

生徒たちに、2ペテロ1:5-7を黙読しながら、ペテロが聖徒たちにどのようなイエス・キリストの特質を伸ばすよう勧めたかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけた特質をホワイトボードに書き出してもらいます。生徒たちがさらに理解を深めたいと思うこれらの特質の言葉の定義を、辞書で見つけてもらうのもよいでしょう。

救い主が、これらの神の特質のいずれかを示したときの場面について考えてもらいます。数人の生徒に自分の考えを述べてもらいます。

次の未完成の文をホワイトボードに書きます — わたしたちが神の特質を伸ばすときに、わたしたちは _____ ことができる。

一人の生徒に、2ペテロ1:8-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちが救い主の神の特質を伸ばすときにどのような祝福を受けるかについて見つけてもらいます。

- わたしたちが救い主の神の特質を伸ばすときに、どのような祝福を受けますか。(生徒たちが答えてから、次のような文章になるようにホワイトボードに書いた文章を完成させます。わたしたちが神の特質を伸ばすときに、わたしたちはイエス・キリストをもっとよく知ることができるようになる。)
- 神の特質を伸ばすことは、なぜわたしたちがイエス・キリストをもっとよく知るための助けになるのだと思いますか。

一人の生徒に、2ペテロ1:10-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の特質を伸ばすことに励む者には、他にどのような祝福がもたらされるかを見つけてもらいます。

生徒が改心する
助けができるように
努める

大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えています。「イエス・キリストの純粋な福音が、聖霊の力によって生徒の心に植えつけられなければなりません。……わたしたちの目標は、彼らがわたしたちと一緒にいる間に、イエス・キリストの回復された福音に本当に改心するようにすることです。」(『We Must Raise Our Sights』[モルモン書に関するCES大会, 2001年8月14日], 2)

- イエス・キリストの神の特質を伸ばすことに励む者には、どのような祝福がもたらされますか。（「あなたがの受けた召しと選びとを、確かなものに〔する〕」〔10 節〕とは、永遠の命を得られるであろうという神の保証をこの世で得ることを意味すると説明します。ペテロはまた、これを「預言の言葉は、……いっそう確かなものになった」〔2 ペテロ 1: 19〕とも表現しています。教義と聖約 131: 5 も参照。）
- なぜわたしたちが神の特質を伸ばすことに励むべきかについて、これらの節からどのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちは次のような原則を見いだすでしょう。この世で神の特質を伸ばすことに励んでいれば、永遠の命を受けるという確信を神が与えてくださる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）

神の特質を伸ばすことは、イエス・キリストをもっとよく知り、永遠の命を受ける備えをする助けになるという証を教師が述べてもよいでしょう。

生徒たちが伸ばしたいと思っている神の特質を一つ、クラスノートや聖典学習帳に書くように勧めます。その特質を伸ばすために行う具体的な行動を書いてもらいます。

2 ペテロ 1: 12 – 21

ペテロ、イエス・キリストの証を述べ、聖文について教える

現在の最も高齢な使徒たち何人かの年齢をホワイトボードに書くときよいでしょう。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を声に出して読みます。

「わたしたちは年を取りすぎているという人もいます。確かに使徒のうち 9 人は 80 歳以上で、わたしも 85 歳です。」（「静まって、わたしこそ神であることを知れ」〔教会教育システム デイポーショナル、2014 年 5 月 4 日〕、broadcasts.lds.org）

- 一部の預言者や使徒たちの年齢について、批判的な人があるのはなぜだと思いますか。
- 現代の預言者や使徒たちがその職務を全うするには年を取りすぎているという批判に、あなたならどう答えますか。

生徒たちが続けて 2 ペテロ 1 章を研究しながら、預言者や使徒たちについて年齢よりもさらに大切な真理を見つけてもらいます。

2 ペテロ 1: 12 – 19 で、ペテロはイエス・キリストを実際に目にしたという証を述べていることを説明します。

一人の生徒に、2 ペテロ 1: 20 – 21 を声に出して読んでもらいます。読み終えたら、ジョセフ・スミス訳 2 ペテロ 1: 20 では「聖典の預言はすべて、人間の個人的な意思から出たものではないことを、まず第一に知るべきである」となっていることを指摘します。他の生徒には、聞きながら、ここでは預言者を意味する「人々（聖書の英語訳では『神の聖なる人々』）」についてペテロが教えた事柄を見つけてもらいます

- 預言者の役割について、ペテロは何を教えましたか。（生徒たちは次の真理を見いだすはずです。預言者は聖霊を通して聖文を授かる。ホワイトボードにこの真理を書きます。）

生徒たちが聖文とは何であるかを理解する助けとして、一人の生徒に次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「〔聖文とは〕神の聖なる人々が聖霊に感じて書いたり、話したりした言葉」です。（『聖句ガイド』「聖文」、scriptures.lds.org。教義と聖約 68: 2 – 4 も参照）一部の聖文は正典となっています。正典の定義は次のようになっています。「正式に認められ、権威あるものとみなされた神聖な書物。末日聖徒イエス・キリスト教会では、正典は標準聖典と呼ばれ、この中には『旧新約聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』が含まれる。」（『聖句ガイド』「正典」、scriptures.lds.org）

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老による次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、今日も神は預言者に聖文を与え続けているというオークス長老の証に注意して聞いてもらいます。

「〔預言者〕の経路を通して、神は過去の時代に聖文を通してその子供たちに語ってくれました。またこの経路によって、神は現在、生ける預言者と使徒と、靈感を受けたその他の指導者の教えと勧告を通して語られます。」（「二つの伝達経路」『リアホナ』2010 年 11 月号, 84）

- 神がこの方法を使ってその子供たちに聖文を与えると知ることはなぜ大切だと思いますか。
- この方法を理解することによって、古代や現代の預言者双方の話す言葉、または書く言葉をさらに確信できるようになるのはなぜでしょうか。

教師は次の質問を声に出して読み、生徒たちには、その答えをクラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

- 古代の預言者や現在の預言者が与えたどの聖句が、あなたの人生に影響を与えましたか。それらの聖句によってどのように祝福を受けてきましたか。

数人の生徒に答えを発表してもらいます。教師も聖句によっていかに祝福を受けてきたかを分かち合うとよいでしょう。

先ほど読んだオクス長老の言葉にもう一度言及して、預言者と聖文の真実性について、聖霊が導くままに他の人々に証を述べるよう生徒たちに勧めます。

2ペテロ2-3章

はじめに

ペテロは偽預言者、偽教師が人々を惑わすことについて警告しました。末日には、イエス・キリストが再び訪れることを信じている義人を、邪悪な者が嘲笑うと、ペテロは預言しました。

またペテロは、救い主の再臨に向けて熱心に備えるよう聖徒たちに勧めました。

教えるための提案

2ペテロ2章

ペテロ、偽教師に欺かれることについて警告する

次の質問をホワイトボードに書きます。一人は、それが間違っていることだと分かっているが、罪を犯すことを選ぶ可能性があるのはなぜでしょうか。

生徒たちにこの質問を考えてもらい、その後数人の生徒に答えを発表してもらいます。

2ペテロ2章では、使徒パウロが聖徒たちをあざむこうとしている人々について警告したことを説明します。生徒たちが2ペテロ2章を研究しながら、罪へとつながる欺きに気づき、それらを避ける助けとなる真理を見つけてもらいます。

一人の生徒に、2ペテロ2:1-3を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちを欺こうとする人々に関するペテロの警告を見つけてもらいます。

- 誰についてペテロは聖徒たちに警告しましたか。
- これらの偽預言者や偽教師は何を教えますか。（「滅びに至らせる異端」〔1節〕とは、偽りの破壊的な教えであることを説明します。）
- 偽教師がわたしたちにどのようなことをしようとするかについて、ペテロからどのような真理を学ぶことができますか。（生徒たちが次のような真理を見いだせるよう助けます。偽教師はわたしたちを欺こうとする。ホワイトボードにこの真理を書きます。）

一人の生徒に、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、今日の偽教師がわたしたちを欺くために何を教えるかを見つけてもらいます。



「偽預言者と偽教師は、ジョセフ・スミスが相反したことを言うことによって人をだます人物であると言明し、最初の示現を立証できないことだと反論しています。また彼らは、モルモン書とその他の聖文が古代の聖文からの記録ではないと断言しています。さらに彼らは、神会の性質について改めて定義しようと試みたり、今日神に聖任され支持された預言者に、神が啓示を与え続けておられることを否定したりしています。……」

偽預言者と偽教師は、結婚の尊厳、家族の神聖さ、および道徳における基本的教義を守るという神から与えられ、聖文に基づく教義を変えようと試みています。彼らは、道徳の定義を変えようと提唱し、姦淫、姦通、同性愛的関係を正当化しようとしています。（「偽預言者と偽教師を警戒しなさい」『リアホナ』2000年1月号、74-75）

生徒たちに、偽教師の教えに遭遇したと感じたときのことを考えてもらいます。

- 偽教師のメッセージや教えがあることを認識しておくことはなぜ大切ですか。
- 2ペテロ2:4-17の要約として、過去に偽りの教えに従った人々がどうなったかについてペテロが幾つか例を挙げたことを説明します。また、偽教師の影響を受けなかった人々の例も挙げています。それからペテロは偽教師の邪悪な行いについて説明しています。

釣り竿と擬似餌またはえさを幾つか見せるか、それらの絵をホワイトボードに書きます。(魚を捕るのにもっと生徒になじみのある方法があれば、その方法に使う道具またはその絵を使います。)

漁師が魚を捕る方法の一つに、擬似餌やえさを使って魚が罠に入るよう、または釣り針にかかるようおびきよせる方法があることを説明します。漁師の技法がどのような点で偽教師に似ているかを生徒たちに考えてもらいます。

一人の生徒に、2 ペテロ 2:18 - 19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、偽教師たちが彼らの教えに従うよう、聖徒たちを誘う方法を見つけてもらいます。

- 偽教師はどのように教会員たちを誘い、だましますか。(偽教師の中には、真摯に見えながら自らを欺いている者もいることを指摘します。)
- 偽預言者や偽教師の教えは、どのような点で疑似餌に似ているでしょうか。
- 19 節によると、これら偽教師はどのようなことを約束しますか。(「自由。」つまり、戒めに従うのではなく、罪を犯すことはもっとすばらしい自由へとつながると彼らは教える。)

次のような真理をホワイトボードに書き加えます。偽教師は、罪を犯すことがもっとすばらしい自由へとつながるとわたしたちに信じさせようとする。

生徒たちに、19 節をもう一度黙読しながら、偽教師と罪に打ち負かされた人はどうなるかを見つけてもらいます。

- 偽教師と罪に打ち負かされた人はどうなりますか。(その人たちは罪の奴隷となる。)
- 自由を推進するようになって、実際は束縛へとつながる偽教師の教えにはどのようなものがありますか。

一人の生徒に、2 ペテロ 2:20 - 22 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、一度罪から逃れた後に、また戻る者についてペテロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- 「イエス・キリストを知ることにより、この世の汚れからのがれた」(20 節) 者が、かつての罪深い生活に戻るよう誘惑を受けてしまうのはなぜだと思いますか。
- 人が過去の罪に戻るのではなく、イエス・キリストとその福音に忠実であり続けるのを助けるために、あなたならどのような助言を与えますか。

2 ペテロ 3 章

ペテロ、再臨について証する

ペテロは、イエス・キリストの再臨について聖徒に思い起こさせ、再臨に備える方法を教えて、手紙を締めくくったと説明します。2 ペテロ 3:1 - 9 の要約として、末日に再臨を信じる者をあざけり笑う者がいるであろうと、ペテロが教えたことを説明します。

多くの人が信じていないのに、なぜ再臨を信じているのか数人の生徒に説明してもらいます。

一人の生徒に、2 ペテロ 3:10 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨についてペテロが教えた事柄を見つけてもらいます。

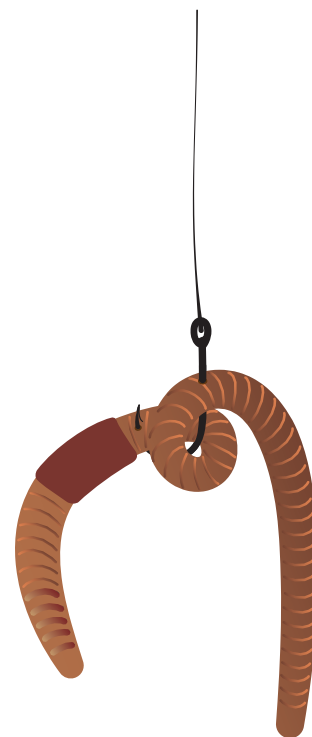
- 10 節によると、ペテロは再臨について何を教えましたか。
- 11 - 14 節によると、再臨に備えるためにペテロは聖徒たちにどのような勧告を与えましたか。(聖く神のような生活を送る、再臨を熱心に待ち望む、「しみもなくきずもなく」(14 節) 神のみまえに出られるよう励む。)

「しみもなくきずもなく」(14 節) という言葉は、罪がなく清い状態であることを意味することを説明します。罪がなく清い者は、神と和解しており、救い主が訪れるときに安らぎを感じることができます。

- 救い主の再臨に備える方法について、ペテロが教えた原則をどのように要約することができますか。(生徒たちが次のような原則を見いだせるよう助けます。信心深い生活を送り、主の来臨を熱心に待ち望むことで救い主の再臨に備えることができる。)
- 神のような生活を送り、熱心に再臨を待ち望むためにどのようなことができますか。

実物レッスン

生徒が福音の原則を理解するのを助けるように、実物を用いて教える方法を探します。実物を用いたレッスンを効果的に取り入れることで、聖句で述べられていることを生徒が具体的に思い描き、分析し、理解するのを助けることができます。また、実物を用いたレッスンを利用して話し合いを促すこともできます。



2 ペテロ 3:15 - 18 の要約として、邪悪に陥ることに対しペテロが警告したことを説明します。ペテロは「イエス・キリストの恵みと知識とにおいてますます豊かに」(18 節) なるよう聖徒たちに勧めました。

2 ペテロ 2 - 3 章で学んだ真理の証を述べてレッスンを終わりにします。偽りの教えに気づき、それを避けるように努め、また熱心に再臨に備えるように生徒たちに勧めます。

ヨハネの第一の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ヨハネは、この書簡で、教会内で危険な広まりを見せた背教の影響について述べました。ヨハネは、聖徒たちが闇との交わりを避けるよう、また福音の光という安全の中にとどまるよう警告しました。1ヨハネを研究することで、生徒は、イエス・キリストに関する偽りの教えを識別することができるようになり、ヨハネの勧告に従えば、真理を守るに当たり主との親密な交わりを維持する助けとなるでしょう。さらに、この書を研究することで、生徒は、全ての人々のための犠牲として御子イエス・キリストをささげることによって表された、天の御父がその子供たち一人一人に対してお持ちの偉大な愛を理解するようになるでしょう。

誰がこの書を書いたのか

「この3つの書簡のいずれにおいても、著者はその名前を明かしていないが、伝統的にヨハネ」（イエスの十二使徒の一人）であると考えられています（*Bible Dictionary*, “John, Epistles of”の項）。

ヨハネの手紙の著者は、復活された救い主の目撃者であり、使徒ヨハネはまさにそうでした（1ヨハネ1:1-4:4:14参照）。

いつ、どこで書かれたか

1ヨハネが書かれた正確な時期と場所は分かっていません。おそらく、紀元1世紀後半のいずれかの時期に書かれたものと思われる。

ヨハネはその生涯の前半のほとんどをパレスチナで過ごしましたが、その地域は紀元70年のエルサレムとその神殿の破壊の後、キリスト教徒とユダヤ人に敵対的な場所でした。言い伝えでは、ヨハネは後にパレスチナを去り、エペソに住んだとされています。もしそうであれば、ヨハネは紀元70年から100年の間にエペソでこの手紙を書いた可能性があります。

誰に向けて、なぜ書かれたか

1ヨハネが誰に向けて書かれたのかははっきりと分かりませんが、その記述からすると、おそらくヨハネは、歴史的資料によれば紀元1世紀後半にヨハネが居住し、教え導いたとされる小アジア（現在のトルコ）にいた信者たちに向けて書いたと思われる（1ヨハネ1:3-4:2:12-14参照）。

この時期、偽教師たちが、その地域の聖徒たちの間に対立や分離を引き起こしており（1ヨハネ2:18-19, 22, 26; 4:1参照）、教会に背教が広まっていた。仮現説という哲学が人気を得ていました。仮現説とは、さらに大きなグノーシス主義という動きの一部を成すものでした。グノーシス主義の教えの中の核心となるものは、霊は完全に善良であり、身体を含める物質は完全に悪であるという考えです。

グノーシス主義の支持者たちは、救いは罪から逃れることにより得られるものではなく、霊を物質、すなわち身体から引き離すことにより得られると信じていました。また救いは、イエス・キリストを信じる信仰を通してではなく、神の奥義に関する特別な知識（グノーシス）によって得られると信じていました。

仮現説の支持者たちは、イエスの霊的な特質を強調するあまり、主が肉体をお持ちになり地上においでになったという考えを否定するまでに至りました。彼らは、神は目には見えず、不死、全知で、実体がなく、物質的世界と肉体は卑しく邪悪であると信じていました。それゆえ、イエスは神聖な神の御子であるために、人としての限界を経験するはずがないと信じていました。この見解では、イエス・キリストは文字どおり人としては生まれず、触れることのできる肉体はお持ちでなく、血を流し、苦しみ、死を経験し、物質的な復活体とともによみがえることはないと考えられています。すなわち、主はこのように見えたというのです。「仮現説」(Docetism) という名前は、「……のように見える」という意味のギリシャ語「*dokeō*」から来ています。

ヨハネの第一の手紙はこれらの偽りの教えに反論しましたが、この偽りの教えは絶えることなく教会員の間にもはびこりました。これらやその他の偽りの教義が、大背教につながる一因となりました。

この書の特徴は何か

イエス・キリストに仕えた最初の使徒の一人であるヨハネは、復活された救い主の特別な証人でした。ヨハネは、個人的にイエス・キリストを見、聞き、触れたと宣言することでこの手紙を書き始めました。この個人的な証を広めるため、ヨハネは読者たちに、「父ならびに御子イエス・キリストとの交わり」にあずかるよう勧めました（1ヨハネ1:3）。ヨハネ第一の手紙の中心となるテーマは愛です。ヨハネは、神を愛すると言いながら、兄弟にも愛を示さない者

は偽り者であると強調しました（1ヨハネ4:20-21参照）。

概要

1ヨハネ1-3章 ヨハネはわたしたちが従順であることにより神を知り、神と交わり、神のようになることができることを教える。終わりの時には、反キリストが現れる。救い主は、贖いの犠牲を通して、わたしたちへの愛を示される。

1ヨハネ4-5章 ヨハネは、教師が神による者であることを確認するよう聖徒に勧告する。神は愛であり、わたしたちに対するその大いなる愛のゆえに、わたしたちの代わりに苦しむために御子をお遣わしになる。神を愛する者は、神の戒めを守る。イエス・キリストを信じ、神から生まれた者は、世に打ち勝つ。

1ヨハネ

はじめに

ヨハネは、御父とその御子と交わるよう教会員に勧めました。ヨハネは、神に対するわたしたちの愛を示すために、神の

戒めを守る必要性を強調しました。ヨハネはまた、教会員たちに他の人々を愛することを思い出させました。

救い主が教えられたように教える

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、福音の教師たちに、救い主が教えられたように教える努力をするよう次のように勧めました。「わたしたちは自分自身を分析し、教師である自分を向上させたいと思うとき、どのような良い模範を見つけることができるでしょうか。自分の理念と目標と方法を分析し、イエス・キリストのそれと比較すること以上に、わたしたちが行えるすばらしい学習があるでしょうか。」(*Teach Ye Diligently*, 改訂版〔1991年〕, 22)

教えるための提案

1ヨハネ1-5章

ヨハネ、戒めを守ることと互いに愛し合うことの重要性を説明する

生徒たちに二人一組になってもらいます。ホワイトボードに「背教」と書きます。生徒たちに、自分のパートナーと向き合って「背教」の意味について簡単に説明し合うように言います。一人の生徒に、ホワイトボードのところにきて、「背教」の定義を書いてもらいます。その定義として、「背教」とは、真理に背くという意味であることを表しているべきです(『聖句ガイド』「背教」, *scriptures.lds.org* 参照)。

使徒ヨハネは、背教が教会を脅かしていたときに、このヨハネの第一の手紙を書いたことを説明します。この手紙の中で、ヨハネは反キリストについて聖徒たちに警告しました(1ヨハネ2:18-26; 4:3 参照)。反キリストとは、「人や事物を問わず真実の福音の救いの計画を装うもの、また公然か否かを問わずキリスト」やキリストに選ばれた僕の権能と教えに「敵対する全てのもの」です(『聖句ガイド』「反キリスト」, *scriptures.lds.org*)。ヨハネの時代の反キリスト主義者の中には、イエス・キリストは地上におられたときに肉体をお持ちではなく、そのように見えただけであると教える者たちがいました。

一人の生徒に、1ヨハネ1:1-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがこの偽りの教えに反論するために何を証したかを見つけてもらいます。「いのちの言」(1節)という表現は、イエス・キリストを示していることを説明します。

- イエス・キリストは肉体を持っていなかったという考えが誤りであることを、ヨハネはどのような言葉を使って反論しましたか。
- 3-4節によると、ヨハネが、イエス・キリストについての自らの神聖な証を教会員と分かち合ったのはなぜでしょうか。(ヨハネは、天の御父とイエス・キリストに交わっていた教会の指導者たちと、聖徒たちが交わるよう求めました。ヨハネはまた、聖徒たちの喜びが満ちあふれることを望みました。)

交わるとは、信頼、交流、共通の目的という関係を享受することを意味すると説明します。教会の指導者たちの教えや勧告を受け入れて従うときに、それらの人々と交わりを持つことができます。

次の不完全な文をホワイトボードに書きます — わたしたちが預言者と使徒たちの教えを受け入れ、従うなら、_____。

- ヨハネ1:3のヨハネの教えを基にして、あなたはどのようにこの文から一つの原則を完成させますか。(生徒たちの言葉を使って、次の原則が伝わるようにホワイトボードの文を完成させてください。わたしたちが預言者と使徒たちの教えを受け入れ、従うなら、御父と御子に交わることができるようになる。)

現在の教会の大管長とその他の預言者や使徒たちの写真を見せます。

- 預言者や使徒たちの教えに従うことが、どのようにわたしたちが天の御父とその御子イエス・キリストに交わるための助けとなるのでしょうか。

一人の生徒に、1ヨハネ1:5-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、どのようなことが天の御父に交わることを妨げるかを見つけるように言います。

- どのようなことが天の御父に交わることを妨げるのでしょうか。

ヨハネの使用した「やみ」という言葉は、霊的な暗闇を指していることを指摘します。

- 霊的な暗闇を歩くとは、どのような意味だと思いますか。
- 生徒たちに、1ヨハネ1:7-10;2:1-6を研究して、福音の光の中を歩む方法を知る助けとなるよう、ヨハネが教えた真理を見つけてもらいます。1ヨハネ2:2の「供え物」という言葉は、神の正義を満たす贖いの犠牲を意味していることを説明します。生徒たちに、これらの聖句を個人で静かに研究するか、二人一組あるいは小グループで研究してもらいます。
- これらの聖句の中に、どのような真理を見つけたことができましたか。(ホワイトボードに生徒の答えを書くといよいでしょう。その中には、次のような真理が含まれているかもしれませんが、イエス・キリストはわたしたちの罪を贖ってくださった。わたしたちが神の戒めを守るとき、神に対するわたしたちの愛は全うされる。)
 - わたしたちが神の戒めを守るとき、なぜ神に対するわたしたちの愛がより全うされる、すなわち完全なものとなると思いますか。
 - 神の戒めを守ろうと努めて、神に対してより大きな愛を感じたのは、どのようなときでしたか。

二人の末日聖徒の青少年についての次の話を声に出して読み上げます。生徒たちには、聞きながら、その二人が守ることに苦勞していた特定の戒めを見つけてもらいます。

1. ある若い男性は、毎日聖典を読み、幾つもの神権の義務も忠実に果たしていますが、しばしば自分の弟に対して不親切です。
 2. ある若い女性は、いつも教会の集会に参加し、「若い女性表彰」も獲得しました。しかし彼女は、よくソーシャルメディアに、数人のクラスメートや学校の教師について失礼なコメントを投稿します。
- この二人の若者たちは、どの戒めを守ることに苦勞しているのでしょうか。

生徒たちに、他の人々に愛を示すのに苦勞をするような状況についてよく考えてもらいます。

数人の生徒に、順番に1ヨハネ2:9-11;4:7-11, 19-21を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、愛についてヨハネが教えた事柄を見つけてもらいます。それらの聖句にある、自分にとって重要だと思う教えに印をつけるよう生徒たちに勧めてもよいでしょう。

- あなたにとって、愛に関するヨハネのどの教えが重要ですか。それはなぜでしょうか。
- わたしたちが神を愛するときに行うことについて、それらの聖句からどのような原則を見つかることができるでしょうか。(生徒たちはさまざまな言葉を用いるでしょうが、次のような原則を見つかるでしょう。わたしたちは神を愛するなら、他の人々も愛する。)
- なぜわたしたちが真に神を愛するなら、他の人々への愛を示すことになるのだと思いますか。

1ヨハネ4:20でヨハネは、「憎む」という言葉を用いていますが、憎むこと以外にも、わたしたちが他の人々に対し愛を惜しんだり、不親切にしたりという状況は多く考えられることを指摘します。そのような場合のことをどのように思うかを、生徒たちに説明してもらいます。

一人の生徒に、1ヨハネ3:17-18を声に出して読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、わたしたちがどのように他の人々に愛を示すべきかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。生徒は「言葉で」だけでなく「行いで」愛を示すことの重要性が分かるはずで

- わたしたちが言葉を通してだけでなく、行動を通して愛を示すことが重要であるのはなぜだと思いますか。
- 人々に愛を示す良い模範となっている人を誰か知っていますか。その人は、人々への愛を示す、どのような行いをしていますか。

生徒たちに、生活の中で自分をもっと愛を示せると思う人のことを考えてもらいます。一枚の紙に生徒たちが考えた人の名前を書き、その人に愛を示したり、親切にするために具体的にできることを書いてもらいます。大げさな方法で愛を示す必要はなく、些細でシンプルな形で慈愛や親切を示すことは、しばしば最も意義ある行為となることを説明してください。その紙を家に持ち帰り、書いたことに基づいて行動するように言います。

行動によって愛を示すとき、わたしたちはイエス・キリストの模範に従っていることを指摘します（1ヨハネ 2:6:3:1-3 参照）。1ヨハネの研究で生徒たちが見つけた真理についてあなたの証を分かち合うことによって、レッスンを終わるとよいでしょう。生徒たちに、これらの真理を自分の生活に当てはめるように励まします。

教えるためのその他のアイデア

1ヨハネ 4:7-11 ビデオ・プレゼンテーション “*Two Brothers Apart*”

わたしたちが神を愛するとき、他の人々も愛することができる、という真理とその原則の大切さを生徒たちが理解できるように、ビデオ “*Two Brothers Apart*”（6分12秒）を見せるとよいでしょう。このビデオは、数年にわたって互いに理

解し合い愛し合うことを学んでゆく、二人の兄弟の関係を物語っています。このビデオは [LDS.org](https://www.LDS.org) で見ることができます。
671

ヨハネの第二の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ヨハネは、この第二の手紙で、教会での背教の影響についての懸念を示しました。それと同時に、ヨハネは、福音において力強く忠実であり続けた教会員に対する喜びも表しました（2ヨハネ1:4参照）。これらの言葉には、主に対して信仰深くあり続けた教会員に対し、教会指導者たちが感じる喜びや感謝の気持ちが表れています。ヨハネの第二の手紙を研究するに当たり、互いに愛し合い、神の戒めに従い、キリストの教義に忠実にとどまるというヨハネの助言は、生徒を強めてくれます。

誰がこの書を書いたのか

著者は自身のことを「長老」と呼んでおり（2ヨハネ1:1）、伝承により、イエスの十二使徒の一人であるヨハネが、この書簡を書いたとされています（『聖句ガイド』「ヨハネの手紙」、scriptures.lds.org参照）。

いつ、どこで書かれたか

ヨハネの第二の手紙が書かれた正確な時期と場所は分かっていません。

ヨハネがエペソに長く居住したという言葉の伝えが正しいとすれば、ヨハネは紀元70年から100年の間にエペソでこの書簡を書いた可能性があります。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ヨハネの第二の手紙は、「選ばれた婦人とその子たち」（2ヨハネ1:1）に宛てて書かれました。ヨハネが、自分の家族や他の特定の人々に呼びかけたのか、あるいは比喩的に教会全体に向けてそのように話しかけたのかは分かりません。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は、ヨハネの第二の手紙と第三の手紙は、おそらくヨハネが身近な家族に宛てて書いたものであると書いています（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1965–1973年〕, 第3巻, 409–410, 412–414参照）。

あるいは、「選ばれた婦人」という言葉は、実はキリスト教徒の会衆を意味しているのかもしれませんが（2ヨハネ1:13参照）。ギリシャ語の「教会」という言葉は女性名詞であり、教会を女性として擬人化することは普通のことでした（エペソ5:25–27, 32; ジョセフ・スミス黙示12:1–3, 7〔『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス（抜粋）」、scriptures.lds.org〕; 黙示19:7–8参照）。

ヨハネ第一の手紙と同様、どうやらヨハネは、イエス・キリストが文字どおり肉体を持って地上に来られたのではないとする偽りの教えに対抗するために、この書簡を書いたものと思われます。ヨハネは、キリストが肉体をお持ちでなかったと教えた者は、家の中にも会衆の中にも受け入れてはいけないと説明しました（2ヨハネ1:7–10参照）。

この書の特徴は何か

この書簡で、ヨハネは教会に入り込んだ偽教師について警告しました。ヨハネは、これらの偽教師たちの言うことを聞かず、関わりも持たないよう教会員に勧めました。

概要

2ヨハネ1章 ヨハネは、互いに愛し合うという戒めを教会員に思い起こさせる。ヨハネは、教会内の偽教師や惑わす者について警告し、彼らを会衆の中にとどまらせないよう教会員たちに勧告する。

ヨハネの第三の手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

この短い書簡の中で、ヨハネは、教会指導者たちへの反抗があったときにも忠実であった教会員のガイオを称賛しました。使徒ヨハネの教えは、新約聖書の時代の教会に起こった背教について、生徒がより良く理解する助けとなり、逆境にもかかわらず、教会指導者たちに対し忠実であり続けるように、生徒を鼓舞します。

誰がこの書を書いたのか

著者は自分自身のことを「長老」と呼んでおり（3ヨハネ1：1）、伝統的に使徒ヨハネであると理解されています。

いつ、どこで書かれたか

ヨハネの第三の手紙が書かれた正確な時期と場所は分かっていません。

ヨハネがエペソに長く居住したという言葉の伝えが正しいとすれば、ヨハネは紀元70年から100年の間にエペソでこの書簡を書いた可能性があります。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ヨハネの第三の手紙は、神のために旅をする僕たちに宿を提供することによって、キリストの大義のために無私の献身を示し

たとヨハネが称賛した、忠実な教会員であるガイオに宛てて書かれました（3ヨハネ1：5－8参照）。

ヨハネはまた、教会の地元の指導者の立場にあったと思われる、デオテレベスという名の男についてガイオに警告しました。デオテレベスは、ヨハネやその他の教会指導者たちに公然と反対し、これらの者たちに賛同する地元の教会員たちが、教会の集會に参加することさえ妨げました（3ヨハネ1：9－10参照）。ヨハネは、善い行いを続けるようガイオを励まし、すぐにでもガイオを訪問したいと述べました（3ヨハネ1：11－14）。

この書の特徴は何か

ヨハネの第三の手紙では、ヨハネが教会における背教の影響を心配していたことが分かります。また、ヨハネの他の者たちに対する愛と、従順に生きることを選択した者たちに対してヨハネの感じた喜びも分かります（3ヨハネ1：4参照）。

概要

3ヨハネ1章 ヨハネは、ガイオの忠実さを称賛し、ヨハネやその他の教会指導者たちに反対したある指導者について警告を述べる。

第149課

2ヨハネー3ヨハネ

はじめに

ヨハネは、人々を惑わし、イエス・キリストが肉体をまとして来られたのではなかったという教えを説く者たちについて、聖徒たちに警告しました。ヨハネはまた、その忠実さのゆえにガイオを称賛しました。

注—このレッスンには、生徒たちが両親または教会指導者から手紙を受け取るという、3ヨハネについて教えるための提案があります。この教えるための提案を用いる場合は、数日間前

もって準備する必要があるでしょう。生徒が福音に従って生活する努力をしているのを見たときに感じた喜びを表現した短い手紙を、その生徒に宛てて、各生徒の親、または必要であれば地元の教会指導者に書いてもらいます。各生徒に宛てた両親または教会指導者からの手紙を、このレッスンをする日に必ず持って来てください。

教えるための提案

2ヨハネ

ヨハネ、偽りの教義を教える者たちについて警告する

ほとんどの生徒がよく知っている、有名な運動選手の名前を挙げてください。

- 良い成績を出すために、この選手はどのようにして最高の健康状態を保つでしょうか。
- 良い健康状態になるために努力をした後に、もしこの選手がジムに行くのをやめ、体に良くない物を食べ、テレビばかり見て、ビデオゲームで遊び、体を害する薬物を取り始めたらどうなるでしょうか。

生徒たちに、身体のコンドিশョンを最高に保つため、優れた運動選手たちがしなければいけないことと、福音を通して手に入れた祝福を保つために、教会員たちがしなければならぬことを、どのように比べることができるかよく考えてもらいます。2ヨハネを研究するときに、教会員として得てきた祝福を保つ助けとなる原則を、生徒たちに見つけてもらいます。

2ヨハネ1:1-4の要約として、使徒ヨハネは、「選ばれた婦人とその子たち」に宛ててこの書簡を書き始めましたが、これは、教会の女性会員とその子供たちを指していたのかもしれませんが、あるいは教会の会衆全体を指す象徴的な言葉であったのかもしれないことを説明します。

一人の生徒に、2ヨハネ1:5-6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが聖徒たちに思い起こさせた戒めを見つけてもらいます。

- ヨハネは、聖徒たちにどのような戒めを思い起こさせましたか。

一人の生徒に、2ヨハネ1:7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、ヨハネがなぜ教会員たちに、神の戒め「どおりに歩く」(2ヨハネ1:6)、つまり、神の戒めに従うことを勧めたのかを見つけてもらいます。

- ヨハネはなぜ、教会員に戒めに従うよう勧告したのでしょうか。
- 「惑わす者」(7節)は、何を教えていましたか。

ヨハネがこの書簡を書いた頃、仮現説として知られる哲学が人気を得るようになっていたことを説明します。仮現説の提唱者たちは、神は非常に崇高であるために、苦難や死、またその他のこの世的な経験をなさることはないと思っていました。そのため、神の御子であるイエス・キリストは、実際に肉体をまとして来られたのではなく、キリストの霊が、この世の者たちが行い、経験するようなことを行っているように見えたのだと結論づけました。

- 福音の真理と相反するような、現代の偽りの教えの例には、どのようなものがあるでしょうか。
- なぜこれらの教えは、霊的に危険なのでしょう。

一人の生徒に、2ヨハネ1:8を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネはそれらの偽りの教えを踏まえて、どのように行動するよう教会員に勧告したかを見つけてもらいます。「よく注意して」とは、偽りの教えを受け入れないように警戒する、あるいは気をつけることを意味すると説明します。

- わたしたちが授かった福音の祝福を続けて享受することができる方法について、6 – 8 節のヨハネの教えからどのような原則を学ぶことができますか。（生徒たちは自分自身の言葉を使って次のような原則を見つけましょう。神の戒めを守り、よく注意することで、わたしたちは授かった福音の祝福を続けて享受することができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。）

生徒たちに、自分が既に受けている、または受けたいと望んでいる福音の祝福のリストを、クラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。生徒に書いたことを発表してもらいます。ホワイトボードに生徒の答えを書きます。

- 偽りの教えを受け入れることは、福音の祝福を受けることや、福音の祝福を続けて享受することをどのように妨げるのでしょうか。

一人の生徒に、2 ヨハネ 1:9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、キリストの教義にとどまる、すなわち福音に親しみ、福音のうちで堪え忍ぶ人々は、どのようになるかとヨハネは教えているかを見つけてもらいます。

- キリストの教義にとどまる人々は、何を持つのでしょうか。（生徒が答えを述べたら、次の原則をホワイトボードに書きます。キリストの教義にとどまるなら、わたしたちは御父と御子を持つ。）

わたしたちが御父と御子を持つための一つの方法は、聖霊を伴侶とすることであると指摘します。

生徒たちに、神の戒めを守り、用心深くあり、福音にとどまるための自分の努力について深く考えるように言います。福音を通して受けてきた祝福をなぜ保ちたいのか、またさらに信仰を深め、確固として戒めを守り続けるために今日できることを一つ書き出してもらいます。

2 ヨハネ 1:10 – 13 の要約として、ヨハネは偽りの教義を広める者たちを避けるよう、聖徒たちに勧めたことを説明します。ヨハネはまた、手紙を宛てた聖徒たちを個人的に訪問したいとの望みも表しました。

3 ヨハネ

ヨハネ、ガイオの忠実さを称賛する

小石と、水をいっぱいに入れた大きいボウルをクラスに持参します。一人の生徒に、波紋が一切できないように、小石を水に入れてもらいます。

- 小石がまったく水に影響しないようにするのが不可能なのは、なぜでしょうか。
- 福音に従って生活するというあなたの選択によって、あなた自身の他に、誰が良い影響を受けるでしょうか。

3 ヨハネに記録されているように、ヨハネはガイオという名の忠実な教会員に宛てて手紙を書いたことを説明します。

一人の生徒に、3 ヨハネ 1:1 – 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ガイオが忠実に福音に従って生活していることが、どのようにヨハネに影響を与えたかを見つけてもらいます。4 節の「子供たち」という言葉は、ヨハネが福音に改宗するのを助けた教会員たちのことを指すのかもしれないことを説明します。

- ガイオが忠実に福音に従って生活していることは、どのようにヨハネに影響を与えたのでしょうか。
- 福音に従って生活することが、どうわたしたち自身や他の人々に影響するかということについての真理を、あなたならこれらの聖句からどのように要約しますか。（生徒はさまざまな真理を見つけると思われますが、次の真理を見つけていることを確認します。福音に従って生活することは、自分自身だけでなく他の人々にも喜びをもたらす。）
- 他の誰かが福音に忠実に生活していることで、あなたが喜びを感じたのはどのようなときでしたか。

この真理をさらに説明するために、両親や教会指導者から生徒たちに宛てた手紙を書いてもらってあれば、ここでそれらの手紙を手渡します。それぞれの生徒が、両親や教会指導者からの手紙を必ず一通受け取るようにし、その手紙を読む時間を取ります。

3 ヨハネ 1:5 - 14 の要約として、ヨハネは、旅をする教会指導者や宣教師をガイオが喜んで受け入れていることを称賛し、またヨハネとその同行者を受け入れなかったデオテレペスという名の地元の指導者を批判したことを説明します。

このレッスンで見つけた真理について復習します。それらの真理について証を述べ、生徒たちがそれらを生活に応用するよう勧めます。

参加するように 生徒全員に勧める

レッスンに参加するよう生徒全員に適切に勧める方法を見つけます。各生徒の両親や教会指導者に手紙を書いてもらうことは、通常ためらったり活発に参加しようとするしない生徒さえも含めて、全員が関わるようにできます。

ユダの手紙

への導入

なぜこの書を研究するのか

ユダの手紙では、初期の教会にはびこっていた背教の勢力について説明されています。生徒たちはこの書簡を研究すると、イエス・キリストの弟子たちを信仰から背かせようとする者たちを識別する方法を学ぶことができます。また生徒たちは、信仰のために戦い、忠実であり続けることの重要性を感じるようになります。

誰がこの書を書いたのか

この書簡の著者は、自分自身を「イエス・キリストの僕またヤコブの兄弟であるユダ」(ユダ 1:1) であると明らかにしています。伝承により、著者はイエス・キリストの異父兄弟であったユダであると理解されています(マタイ 13:55; マルコ 6:3; 『聖句ガイド』「ユダ [イエスの兄弟]」参照)。ユダは、明らかに大いに尊敬を受けたエルサレムの教会員であり、宣教師として旅に出たこともあったようです(使徒 1:13-14; 1 コリント 9:5 参照)。ユダがどのような神権の職を保有していたのかは明らかではありませんが、書簡そのものが、勧告の手紙を書く資格を持つ権威ある立場にいたことを示しています。

いつ、どこで書かれたか

ユダの手紙が書かれた場所は分かっていません。もしもこの手紙が、本当にイエスの兄弟であるユダによって書かれたのであれば、おそらくこれは、紀元 40 年から 80 年の間に書かれました。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ユダの手紙は、忠実なキリスト教徒に、すなわち「父なる神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人々へ」(ユダ 1:1) 宛てて書かれました。教会に侵入し、主イエス・キリストを否定する不道徳な行動や偽りの教えを助長していた不信心な教師たちに対し、「信仰のために戦う」よう読者に勧めることが目的であると、ユダは述べています(ユダ 1:3)。

この書の特徴は何か

新約聖書の中でも最も短い書の一つですが、ユダの手紙には、聖書の中で他では見られない情報が含まれています。ユダは、「自分たちの地位を守るうとは[しなかった]……御使たち」(6 節。アブラハム 3:26 も参照)、モーセの死体についてのミカエルと悪魔の論争(9 節)、また救い主の再臨に関するエノクの預言について記しました(14-15 節。モーセ 7:65-66 も参照)。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は、ユダの手紙の幾つかの独特な特徴について、次のように語っています。

「聖書全体の中で、前世がわたしたちの第一の位であり、ある御使いたちは前世の試験に合格しなかったという概念を、唯一ユダがわたしたちのために残しています。

モーセの死体について、ミカエルと悪魔が論争したというわずかな知識を得られるのも、ユダのおかげです。

ユダのみが、人の子の再臨にまつわる、エノクの輝かしい預言について記録しているのです。」(*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965-1973 年], 第 3 巻, 415)

神と神の僕たちに反対した者たちと、不道徳で異教の礼拝を行い、純潔の律法を含めた神の戒めに従う必要がないと主張する者たちに対し、ユダの言葉は厳しいものです。ユダは、これらの腐敗した者たちの特徴を幾つか説明しました。

概要

ユダ 1 章 ユダは、「信仰のために戦う」(ユダ 1:3) よう教会員たちに勧める。ユダは、人々が、こっそりと聖徒たちの間に入り込み、偽りの教義を広め、邪悪な行いを助長していることを説明する。ユダは、神に背く者たちが受ける裁きについて警告する。ユダは、教会員たちに信仰を確立し、「神の愛の中に自らを保つ」よう勧告する(ユダ 1:21)。

第150課 ユダ

はじめに

ユダは、偽教師たちに対し信仰のために戦うよう教会員たちに強く勧めました。ユダは偽教師たちについて説明し、イエス・キリストの福音を基に生活を築くよう、聖徒たちに勧告しました。伝承では、ユダはイエス・キリストの異父兄弟であると理

解されています(マタイ 13:55 参照)。ユダは、明らかに大いに尊敬を受けたエルサレムの活発な教会員でした。

教えるための提案

ユダ 1:1-19

ユダ、偽教師たちに対して信仰のために戦うよう教会員たちに強く勧める

次の状況を声に出して読み、生徒に、自分ならどのように対応するかを考えてもらいます。

1. ソーシャルメディアのサイトで、友人が同性婚に関する教会の立場を批判するコメントを投稿しました。
2. 近所の人から、あなたが教会員であることを知りました。その人は、モルモン書を読んだことがあり、それは人を鼓舞する本ではあるが、神の言葉ではないと言いました。
3. 学校のクラスの話し合いの中で、ある生徒がポルノグラフィックを見ることは無害であり、避ける必要はないと主張しました。

- これらの状況に対応する方法には、どのようなものがありますか。

一人の生徒に、ユダ 1:3-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ユダが教会員に警告した事柄を見つけてもらいます。

- 4節によると、ユダは教会員にどのようなことを警告したでしょうか。

悪意のある「不信仰な人々」が、教会員の中に忍び込んで来たことを、生徒たちが理解できるよう助けます。これらの教会員たちは、神が寛大に赦してくださるので、恵みの教義は罪を犯すことを完全に許可していると教えることにより、腐敗した、不道德な行いを助長しました。彼らはまた、天の御父とイエス・キリストに関する明白な真理を否定していました。「彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されている」(4節)という表現は、そのような人々の罪の宣告は遠い昔に既に記されていたことを意味しています。

- これらの人々が広めた偽りの教えと腐敗した行いを踏まえて、ユダは、忠実な教会員にどのようにするよう強く勧めましたか。(「信仰のために戦う」〔3節〕)

「ひとたび伝えられた信仰」(3節)とは、イエス・キリストの福音、すなわち救い主と主の使徒たちにより教えられた真理、律法、儀式を指しています。

- 偽りの教えと腐敗した行いに対処するイエス・キリストの弟子の責任について、どのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒たちは自分自身の言葉を使って、次の真理を見つけるでしょう。イエス・キリストの弟子たちは、偽りの教えや腐敗した行いに対し、イエス・キリストの福音のために真剣に戦うべきである。)

- 福音のために真剣に戦うとはどのような意味だと思いますか。(わたしたちは堂々と福音を教え、証すべきである。しかし、そうするときに、わたしたちは不親切、尊大、けんか腰であってはならない〔アルマ 38:12; 3 ニーフアイ 11:29 参照〕。)

- どのようにして争いを起こさずに、福音のために戦うことができるでしょうか。

生徒たちに、レッスンの初めに提示した状況を思い出してもらいます。

- このような状況やそれに似たような状況で、どのようにして偽りの教えや腐敗した行いに対抗し、福音のために戦うことができるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、その若い女性が福音のためにどのように戦ったかに注意して聞いてもらいます。

「先日わたしは、アメリカ合衆国出身の、あるローレルの若い女性と話しました。彼女の電子メールから引用します。

主と御霊を信じる 信仰を持つ

青少年に福音の原則を教えるという責任は、圧倒されるような難題と感じられるでしょう。これは主の業であり、主を信じる信仰を持つ人々を主が助けてくださることを忘れないでください(モロナイ 7:33 参照)。また、聖霊は生徒の心を和らげ、彼らの必要と状況に応じて福音の真理を応用するよう促されることも信じてください(アルマ 24:8; 教義と聖約 50:14 参照)。

『この1年間、フェイスブックで友達になった人たちが結婚についての意見を投稿し始めました。多くの人同性結婚に賛成し、末日聖徒の青少年の数人がそうした意見に対して「いいね」(訳注-フェイスブックで他の人の投稿に対する好意的な気持ちや同意を示すための機能)を押していました。わたしは何も書きませんでした。

わたしは従来結婚観を信じているということに注意深く述べることにしました。

自分のプロフィール写真のキャプションとして、「わたしは男女間の結婚が正しいと信じています」と書きました。ほぼ即座にメッセージが返ってきました。「あなたは利己的よ。」「独善的ね。」奴隷所有者に例えた人もいました。活発な教会員の親友からは、こう書かれました。「時代遅れにならないようにね。世の中が変わっているのだから、あなたも変わらなくては。」

わたしは反論しませんでした、自分の意見を削除しませんでした。』

最後に彼女はこう言いました。『モンソン大管長がおっしゃったように、時には「一人でも気高く立たなくてはなりません。」わたしたち教会の青少年が一致して、神と神の生ける預言者の教えに忠実に従うよう願っています。』(「霊を滅ぼす嵐」『リアホナ』2014年5月号、19)

- この若い女性は福音のためにどのように戦ったでしょうか。
- あなたやあなたの知人が、イエス・キリストの福音のために戦ったのはどのようなときでしたか。その経験から何を学びましたか。

生徒たちに、イエス・キリストの福音のために真剣に戦うためにできることを深く考えるように言います。受けた促しの全てに従うように生徒たちを励まします。

ユダ 1:5-7 の要約として、ユダは、これらの反抗的な教会員を、神に対して反抗し、神の裁きに苦しんだ旧約時代の人々にたとえたことを説明します。これらの人々には、荒野で滅ぼされた多くのイスラエルの子らや、火によって滅ぼされたソドムとゴモラの人々が含まれています。ユダはまた、反抗的な教会員を、「自分たちの地位(英語では『第一の位』)」すなわち前世で神に対し反抗し、神の前から追い出された人々にたとえました(ユダ 1:6; アブラハム 3:22-26 も参照)。

ホワイトボードに次の見出しを書きます — 偽教師の特徴。

ユダ 1:8-16 には、ユダが、腐敗した哲学や行いを教会内で広めている者を教会員が認識する助けとなるよう、その多くの特徴を描写したことが記されていると説明します。このことを例証するために、ユダ 1:12 の「風に吹きまわされる水なき雲」や「実らない枯れ果てて、抜き捨てられた秋の木」という表現を指摘します。

- 偽教師たちは、なぜ水のない雲や果実の実らない木なのでしょう。

生徒たちを 3, 4 人のグループに分けます。生徒たちに、自分のグループのメンバーとユダ 1:8, 10, 14-19 を読み、偽教師には他にどのような特徴があるかを見つけるように指示します。見つけたものに印をつけるよう勧めます。「終わりの時」(18 節)とは、ユダの生きた時代とわたしたちが生きている末日を示すことを説明する必要があるかもしれません。

十分に時間を取った後で、生徒たちにホワイトボードの所に来てもらい、自分が見つけた偽教師の特徴を書いてもらいます。生徒たちが書く特徴には次のものが含まれるでしょう(生徒たちが読んだことを理解するのを助けるために、これらの言葉の幾つかを用いる必要があるかもしれません)。

偽教師の特徴

不道徳で肉体を汚す (8 節)

権威ある者たちを軽んじ、栄光ある者たちをそしる (8 節)

自分が知りもしないことをそしる (10 節)

自分たちの知っている快樂的な生活をするので、自らの滅亡を招く (10 節)

不信心な仕業を行う (15 節)

神に対し暴言を吐く (15 節)

不平を並べ、不満を鳴らす (16 節)

自分の欲のままに生活する (16 節)

大言を吐く (16 節)

自分の利のために人にへつらう (16 節)

主の教会とその標準をあざける (18 節)

他の信者たちから離れ、分派を作る (19 節)

肉によって思考し行動する (19 節)

御霊を持たない (19 節)

- 御霊を持たないことで、どうしてホワイトボードに挙げられた特徴を持つようになるのでしょうか。
- 偽教師の特質を知ることはなぜ重要なのでしょうか。

これらの特徴が幾つかある人、あるいは何か誤ったことを教える人が、誰でもユダが説明したような偽教師とは限らないことを生徒たちが理解できるよう助けます。そのような人は罪の意識もなく物事の理解を間違っているだけなのかもしれません。しかし、このような特徴は、他の人々を欺き、悪を助長することで、その信仰と従順さを弱めようとする偽教師たちに気づく助けとなります。

生徒たちに、ユダ 1:17 - 18 を黙読してもらいます。

- 偽教師について、過去に教会員に警告したことがあるのは誰ですか。
- 使徒や預言者たちは、わたしたちが偽教師と戦う努力をする際にどのように助けとなるかについて、これらの聖句からどのような真理を学ぶことができるでしょうか。(生徒たちは自分自身の言葉を使って、次のような真理を見つけるはずで、使徒や預言者たちはわたしたちの信仰と従順さを弱めようとする者について警告し、気づくようにわたしたちを助ける。ホワイトボードにこの真理を書きます。)

一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老が述べた次の言葉を読んでもらいます。他の生徒には、バラード長老の言葉がこの真理をどのように表しているかに耳を傾けてもらいます。

「今日、わたしたちは警告します。偽預言者と偽教師の数は増加しており、注意しないと、末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰深い会員でさえ偽りの犠牲になってしまうでしょう。」(「偽預言者と偽教師を警戒しなさい」『リアホナ』2000 年 1 月号、73 - 74)

- この真理について考えると、なぜ使徒や預言者たちの言葉を研究することが重要なのでしょうか。
- 現代の預言者や使徒たちが警告している偽りの教えにはどのようなものがあるのでしょうか。

ユダ 1:20 - 25

ユダ、イエス・キリストの福音に基づいて生活し、他の人々を助けるよう聖徒たちに勧告する

ホワイトボードに次の不完全な文を書きます — _____ ことによって、信仰を守り続けることができる。

一人の生徒に、ユダ 1:20 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、信仰に忠実であり続けるために、ユダが聖徒たちに行うよう勧告した事柄を見つけてもらいます。「聖霊によって祈〔る〕」とは、聖霊からの導きという助けを受けながら祈るという意味であることを説明する必要があるかもしれません。

- 20 - 21 節に従って、ホワイトボードに書いた言葉をどのように完成しますか。(一つの例として、生徒たちは次のように完成するでしょう。イエス・キリストの福音のうえに自分の生活を築くことによって、信仰を守り続けることができる。)
- 次に挙げる 20 - 21 節のユダのもう一つの教えは、どのようにわたしたちが福音のうえに自分の生活を築く助けとなるのでしょうか。
- 信仰に忠実であり続けることは、なぜ努力する価値があるのでしょうか。
- ユダの勧告に従って生活することは、どのようにあなたやあなたの知人たちが信仰に忠実であり続けるための助けとなりましたか。

生徒たちに、ユダの勧告に従えるよう改善する方法を一つ、聖典学習帳やクラスノートに書いてもらいます。書いたことを自分の生活に応用するよう生徒たちを励まします。

ユダ 1:22 - 25 の要約として、ユダは、おそらく偽教師たちの影響により霊的に苦勞している人々を助けるよう、忠実な教会員たちに勧告し、また神を賛美したことを説明します。

最後に、このレッスンで話し合った真理について証を述べて、レッスンを終わります。

マスター聖句の復習

生徒一人一人に、別々のマスター聖句を割り当てます。一枚の紙に、自分が割り当てられたマスター聖句に含まれている教義と原則が応用されている、実生活の状況を書くよう生徒たちに指示します。生徒たちが書き終わったら、それを集めてください。幾つかの状況を読み上げて、生徒たちに、それぞれの状況にはマスター聖句の教義と原則がどのように用いられ、当てはめられているかを発表してもらいます。次週のレッスンの初めか終わりに、幾つかの状況を発表しても構いません。

家庭学習クラスのレッスン

2ペテロ—ユダ(単元30)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が2ペテロ—ユダ(単元30)を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第1日(2ペテロ)

使徒ペテロは、迫害、試練、教会内の背教のただ中にある聖徒たちを助けるためにこの書簡を書きました。生徒たちはペテロの言葉を研究した際に、預言者が聖霊を通して聖文を受け、罪はもっとすばらしい自由をもたらすということを信じるように、偽教師がわたしたちを欺こうとすることを学びました。また生徒たちは、わたしたちが、信心深い生活を送り、主の来臨を熱心に待ち望むことによって救い主の再臨に備えることができることも学びました。

第2日(1ヨハネ)

1ヨハネから、生徒たちは、わたしたちが預言者と使徒たちの教えを受け入れ、従うなら、御父と御子に交わることができるようになることを学びました。さらに、わたしたちが神を愛するとき、他の人々も愛することを学びました。

第3日(2ヨハネ—3ヨハネ)

使徒ヨハネが聖徒たちに宛てた他の二つの手紙では、教会における背教の影響についての懸念をさらに続けて述べました。それらの手紙から、神の戒めを守り、よく注意することで、わたしたちが授かった福音の祝福を続けて享受することができ、またキリストの教義にとどまるなら、わたしたちが御父と御子を持つことを、生徒たちは学びました。また生徒たちは、福音に従って生活することは、自分自身だけでなく、周囲の人々にも喜びをもたらすこと、そして教会員たちは、主の全ての僕たちを受け入れ、支持しなければならないことを学びました。

第4日(ユダ)

生徒たちは、激しい反対に直面している聖徒たちに宛てたユダの手紙を研究する際に、イエス・キリストの弟子たちは、偽りの教えや腐敗した行いに対し、イエス・キリストの福音のために真剣に戦うべきであることを学びました。また、生徒たちは、わたしたちの信仰と従順さを弱めようとする者に気づくように、使徒や預言者たちがわたしたちに警告し、助けること、また、わたしたちがイエス・キリストの福音の上に自分の生活を築くことによって、信仰を守り続けることができることを学びました。

はじめに

使徒ペテロは、主のようになりたいとすることにより、イエス・キリストの知識を育むよう聖徒たちを励ましました。ペテロは読者に、この霊的な成長は彼らの受けた「召しと選びとを、確かなものに」(2ペテロ1:10)する助けとなると断言しました。

教えるための提案

2ペテロ1:1-11

ペテロ、イエス・キリストの神の性質にあずかる方法教える

注—次の原則と聖句を話し合う際に、神殿の儀式と教義に関連する話題について話し合わないようご注意ください。

クラスが始まる前に、次の言葉をホワイトボードに書いておきます(「秘められた思い」『リアホナ』1987年7月号、74から引用)。

「わたしたちの責任は、……最上の自分になることです。」(トーマス・S・モンソン大管長)

生徒たちに二人一組になってもらいます。生徒たちに、ホワイトボードに書かれた言葉を読んでもらい、次の質問について各組で話し合ってもらいます。

- モンソン大管長が言った「最上の自分」になるとはどのような意味だと思えますか。
- 最上の自分になることは、なぜ大切だと思えますか。
- どのようなことが、最上の自分になることを妨げるでしょうか。

2ペテロ1章を研究しながら、どうしたら最上の自分になれるかを知る助けとなる真理を見つけるように生徒たちに勧めます。

2ペテロ1:1-2の要約として、ペテロは、イエス・キリストを信じる信仰を得たけれども、世の罪の道に戻るよう誘惑されていると思われる教会員に宛てて書いたことを説明します。

一人の生徒に、2ペテロ1:3-4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、聖徒たちが救い主についての自分の証に忠実であり続ける助けとなるよう、ペテロが教えた事柄を見つけてもらいます。

- これらの聖句によると、ペテロは聖徒たちにどのようなことを教えたでしょうか。
- 「神の性質にあずかる者となる」とはどういう意味でしょうか(2ペテロ1:4)。

生徒たちに、2ペテロ1:5-7を黙読してもらい、ペテロが聖徒たちに育むように勧めたイエス・キリストの特質を見つけてもらいます。その後で、生徒たちに、見つけた特質をホワイトボードに書き出すように言います。それらのうちで、生徒がより理解を深めたいと思う特質の定義を辞書で調べてもらってもよいでしょう。

それらの神の特質の一つを示す行いを救い主がなさったときの例について考えてもらいます。数人の生徒に考えを発表してもらいます。

ホワイトボードに、次のように空欄のある原則を書きます—わたしたちの中に神の特質を育むとき、わたしたちは_____できる。

一人の生徒に、2ペテロ1:8-9を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主にある神の特質を育むときに、わたしたちが受けることのできる祝福を見つけてもらいます。

- 神の特質を育むときに、わたしたちはどのような祝福を受けられますか。(生徒たちが答えたら、次の事柄を意味するように、ホワイトボードの文を完成させます。わたしたちの中に神の特質を育むとき、わたしたちはイエス・キリストを知ることができると思いませんか。)
- 神の特質を育むことは、なぜイエス・キリストを知ることの助けになると思いませんか。

一人の生徒に、2ペテロ1:10-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神の特質を育むことに励む人々にもたらされる、別の祝福を見つけてもらいます。

- イエス・キリストの持つ神の特質を育むことに励む人々には、どのような祝福がもたらされますか。(「召しと選びとを、確かなものに」するという言葉〔10節〕は、この生涯で、永遠の命を得るという神の保証を受けることを意味しています。ペテロはこのことを、「預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった」〔2ペテロ1:19〕とも述べています。教義と聖約131:5も参照してください。)

- わたしたちに潜在する神の能力を育むことに励むべき理由について、これらの聖句からどのような原則を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の原則を見つけていることを確認してください。この生涯でわたしたちに潜在する神の能力を育むことに励むならば、神は永遠の命を保証してください。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

生徒たちの知人で、キリストのような特質を育むことに励む努力している人のことを考えてもらいます。

- あなたが思い浮かべた人は、どのようなキリストのような特質を育みましたか。
- その人たちの努力と特質は、その人自身と周囲の人々にどのような点で助けになりましたか。

神の特質を育むことが、イエス・キリストを知り、永遠の命を受ける備えをする助けとなったというあなたの証を分かち合ってもよいでしょう。

生徒たちに、自分が最も育みたいと思う神の特質の一つをクラスノートが聖典学習帳に書いてもらいます。その特質を育むためにできる具体的な行動を書くように言います。

次の単元(黙示1-11章)

今までに『黙示文書』というものを聞いたことがあるか、生徒たちに尋ねます。黙示録は、しばしば『黙示文書』として述べられ、それは「覆いを取る」という意味のギリシャ語であることを説明します。黙示録で、使徒ヨハネは、イエス・キリストの再臨と地球の終わりを含み、わたしたちの時代と将来の出来事についての多くの預言を含む示現について書きました。ヨハネの見た示現の多くは、象徴を含みます。生徒たちに、黙示録を研究する際には、善が悪に打ち勝つ最後の勝利を示す象徴に注意を払うように言います。

ヨハネの黙示録

への導入

なぜこの書を研究するのか

「イエス・キリストの黙示」(黙示 1:1)として、この書は時折『黙示文書』とも呼ばれます。これはギリシャ語で、啓示、明らかにする、隠されたものの覆いを取るという意味です(『聖句ガイド』『黙示文書』、scriptures.lds.org 参照)。この書は、主イエス・キリストについて明らかにするものであり、主の権威、力、そして御父の救いの計画における顕著な役割についての啓示です。またこの書では、再臨と福千年に至る出来事についての、非常に重要な情報も明らかにされています。

黙示録を研究することで、復活され、栄光を受けられた神の御子について、また地球の歴史を通して、特に終わりの時において、御子と神の子供たちとの関わりについて、生徒が一層深い理解を得る助けとなります。この書は、義人たちに希望のメッセージを伝え、生徒たちが迫害や試練のさなかにあっても、救い主についての証に忠実であり続けるよう励まします。

誰がこの書を書いたのか

イエス・キリストの愛された弟子である、使徒ヨハネが、この書の著者です。モルモン書は、ヨハネが、黙示録に記録されていることを書くことが予任されていたことを確認しています(1 ニーフアイ 14:18-27; エテル 4:16 参照)。

いつ、どこで書かれたか

黙示録は、キリスト教徒が、偽りの教え、無関心、そして厳しい迫害に直面していたときに書かれました(黙示 1:9; 2:4, 10, 14-15; 3:16; 6:9 参照)。おそらくこの迫害は、ヨハネが、エペソの南西約 100km にある、エーゲ海のパトモス島で書いていた、紀元 1 世紀の終わりの 20 年間に、ローマの役人たちによってもたらされたものでした(黙示 1:9 参照)。

誰に向けて、なぜ書かれたか

ヨハネは、当時の聖徒たち(黙示 1:4, 11 参照)と末日の聖徒たちに希望と励ましのメッセージを書きました。黙示録の最初の 3 章は、特に小アジアの 7 つの教会の支部に宛てられたものでした(黙示 1:4, 11; 2-3 章参照)。厳しい迫害のた

め、聖徒たちは、黙示録に見られる励ましのメッセージを非常に必要としていました。さらに、預言者ニーフアイは、世の終わりについて記すように、「神が……使徒〔ヨハネ〕を任じられた」ことと(1 ニーフアイ 14:25)、ヨハネの言葉は、末日に異邦人とイスラエルの残りの者の両方に伝えられることを証しました(1 ニーフアイ 13:20-24, 38; 14:19-27 参照)。

この書の特徴は何か

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「黙示録は、神から命じられて書かれた書物の中で最も分かりやすいものの一つです。」(*History of the Church*, 第 5 巻, 342) 現代の読者たちには、理解しにくいこともある比喩や象徴が多く使われていますが、この書のテーマは単純で靈感を与えるものです。

使徒ヨハネは、当時の教会の状態を説明し(黙示 2-3 章参照)、過去と将来の出来事について書きました(黙示 4-22 章参照)。黙示録には、前世における天での戦いについて説明がなされている、聖典の中でも数少ない聖句の一つが含まれているとともに(黙示 12:7-11 参照)、特に末日と福千年に焦点を置いた、世の歴史についての靈感された概要が提示されています。この書の主要なテーマには、神の計画を実行する際のイエス・キリストの役割、地球の歴史における神の働き、イエス・キリストの再臨と悪の滅亡、地球は最終的に日の栄えとなることの約束が含まれます。またこの書では、「善が悪に、神の王国が人間とサタンの王国に対し、永遠の勝利」(*Bible Dictionary*, “*Revelation of John*” の項)を得ることが説明されています。

概要

黙示 1-3 章 ヨハネは、イエス・キリストの示現を見る。ヨハネは、アジアの 7 つの教会に宛てて個別のメッセージを記す。これらのメッセージには、各支部における忠実な聖徒たちに対する称賛、警告、約束が含まれている。

黙示 4-11 章 ヨハネは、日の栄えの王国で御座に座られる神、神の小羊、また 7 つの封印で封じられた巻物の示現を見る。ヨハネは、7 つの封印のそれぞれが開かれることに関連して示現を見る。額に神の印を受けた人々は、終わりの時に神の守りを受ける。ヨハネは、主の再臨に先立つ、戦争、災い、その他多くの末日の出来事を見る。

黙示 12-16 章 ヨハネは、前世における天での戦いと、その戦いが地上で続くことについての示現を見る。ヨハネは、悪の力が地上の神の王国を破壊しようとするのを教える。終わりの時には、御使いの働きにより、地上に福音が完全な形で回復される。ハルマゲドンの戦いに向けた準備がなされる。

黙示 17-22 章 霊のバビロンが全地に広がる。義になかった聖徒たちが集合した後、バビロンは倒れ、バビロンを支えていた者たちは悲しむ。義人は神の小羊の婚宴に招かれる。サタンは縛られ、福千年が始まり、キリストが御自身で地を統治される。死者は裁きを受ける。地球は日の栄えの栄光を受ける。

第151課 黙示1章

はじめに

ヨハネはパトモス島にいたときに、教会の7つの会衆に宛てて、自分が受けた啓示を説明する、励ましの手紙を書きました。イエス・キリストによって伝えられたものと、天使によって伝え

られたものについてヨハネは証しました。ヨハネはまた、主イエス・キリストの示現についても詳しく記録しました。

教えるための提案

黙示1:1-11

ヨハネ、自分の受けた示現について証する

レッスンの前に、教室の前方にあるテーブルか椅子の上に何か物の一つ置きます。生徒たちが何か分からないようにそれに覆いかぶせます。レッスンが始まったら、生徒たちにその物が何かを当ててもらいます。幾つか答えが出たところで、一人の生徒に、前に来てもらい、その生徒に自分だけが中身を見ることができるようその覆いを少しだけ上げるように言います。その物について、他の生徒たちに説明してもらいます。

- その物を説明した生徒は、預言者や使徒たちの役割の一つをどのように表しているでしょうか。

生徒に着席してもらいます。生徒たちに、黙示録を開くように言います。『黙示文書』としても知られるこの書は、ギリシャ語で、啓示、明らかにする、隠されたものの覆いを取るという意味であることを説明します。主イエス・キリスト、天の御父の救いの計画における主の役割、主の再臨に至るまでの出来事、福千年の主の統治について、使徒ヨハネは自分に明かされた真理をこの書の中に記録しました。

黙示録を研究しながら、ヨハネに明らかにされた真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、『聖句ガイド』にあるジョセフ・スミス訳黙示1:1-3(『聖句ガイド』内『聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕』)を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、自らが受けた啓示についてヨハネが教えた事柄を見つけてもらいます。

- この啓示は、なぜヨハネに与えられたのでしょうか。
- この啓示によって、ヨハネは聖徒たちにどのようなことを行ってほしいと思ったのでしょうか。

ヨハネが、自分の言葉を聞く人々と読む人々の両方に向けて述べた理由を生徒たちが理解できるように、ヨハネの時代には、多くの聖徒たちは字が読めず、そのため、他の人が朗読するのを聞くことで、黙示録を理解したことを説明します。

- 黙示録に記録された教えを読み、理解しようと努力し、教えを守る(あるいは教えに従う)人々について、ヨハネはどのように言ったのでしょうか。
- 黙示1:3のヨハネの教えは、原則としてどのように要約することができますか。(生徒たちは次の原則を見つけてください。主の言葉を読み、理解しようと努め、従うときに、わたしたちは祝福される。)

一人の生徒に、黙示1:4を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネは誰に宛ててその手紙を書いたのかを見つけてもらいます。

- ヨハネは誰に宛ててその手紙を書いたのでしょうか。(「アジアにある七つの教会」とは、現在のトルコ西部に位置していた、今日のワードや支部のような7つの教会の会衆であったことを説明します。「七つの霊」とは、それらの教会の会衆の指導者を示しています。)

数人の生徒に、黙示1:5-8を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが七つの教会の会衆にイエス・キリストについてどのようなことを知ってほしかったのかを見つけてもらいます。見つけた箇所印をつけるように、生徒たちに勧めてもよいでしょう。

- ヨハネは七つの教会の会衆にイエス・キリストについてどのようなことを知ってほしかったのでしょうか。

- これらの聖句の中の救い主についての表現で、あなたにとって特に意味のあるのはどれですか。それはなぜですか。(アルパとオメガは、ギリシャ語のアルファベットの最初と最後の文字であることを指摘するとよいでしょう。この称号は、天の御父の救いの計画におけるイエス・キリストの役割が、初めから終わりまでの全ての事柄を包含することを示しています〔黙示 22:13 も参照〕。)

一人の生徒に、黙示 1:9 - 11 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この啓示を受けたとき、ヨハネはどこにいたのか、7つの教会はどこにあったのかを見つけてもらいます。

- この啓示を受けたとき、ヨハネはどこにいたのでしょうか。七つの教会の場所はどこでしたか。

生徒たちに、『聖句ガイド』にある『聖書の地図』地図 13、「使徒パウロの伝道の旅」を開いてもらい、黙示 1:11 に挙げられているパトモス島と七つの町の場所を見つけるように言うといいでしょう。

パトモス島がどのような所かを生徒たちが理解できるように、『聖句ガイド』にある聖書の『写真』32「パトモス島」を見るように勧めるとよいでしょう。

- 黙示 1:9 によると、ヨハネはなぜパトモス島にいたのでしょうか。

ヨハネは、教会員たちが困難にあっていた頃に、この啓示を受けたことを説明します。この時期、聖徒たちに対する厳しい迫害があり、教会員の間にも背教と分裂が起きていました。さらに、ヨハネを除く全ての使徒たちが殺害されました。黙示録は、ローマ帝国全体で皇帝崇拝を再開し、ローマ政府から許可された神々を礼拝しない者を追放あるいは処刑した、ローマのドミティアヌス皇帝の時代に書かれた可能性があります。そのために多くの人は、ヨハネがパトモス島へ追放されたと信じています。

- 黙示 1:10 によると、ヨハネがこの啓示を受けたときに、自分の状況はどのようなだったと述べていますか。
- 「御霊に感じた」(10 節)という言葉は、どのような意味だと思いますか。
- 11 節によると、イエス・キリストはヨハネに何をしようお命じになりましたか。

モルモン書によれば、ニーファイはヨハネの示現と同じような示現を見たことが分かることを説明します。ニーファイは、(イエス・キリストの再臨、福千年、地上での神の業の完成を含む) 終わりの時の出来事を見ましたが、ヨハネが記述するように予任されていたため、それらの出来事については記録しないよう命じられました(1 ニーファイ 14:24 - 29 参照)。

- 黙示録のヨハネの言葉を研究することは、わたしたちにとってなぜ大切なのでしょうか。

生徒たちに、黙示録を続けて研究しながら、終わりの時、再臨、福千年、地上での神の業の完成についての真理を見つけるように勧めます。

黙示 1:12 - 20

ヨハネ、示現で主イエス・キリストを見る

象徴という考えを紹介するために、言葉がなくても簡単に理解できる、自分の文化で一般的な標識の写真を数枚掲示します(あるいはホワイトボードに絵を描きます)。例えば、交通標識や警告標識を掲示するとよいでしょう。生徒たちに、それらの標識の目的を説明するように言います。

黙示録の中で、ヨハネは福音についての重要なメッセージを教えるために、象徴や独特な描写を用いたことを説明します。象徴は、異なった世代や文化にいる人々に意思伝達を可能とする強力な教材となり得ます。また幾つかの異なったメッセージを伝えることもできます。

生徒たちに二人一組になってもらいます。各組に、黙示 1:12 - 18 を一緒に声に出して読みながら、ヨハネが自分の受けた啓示を説明するために用いた象徴を見つけてもらいます。読んで気づいた象徴に印をつけるように、生徒たちに勧めるとよいでしょう。

- ヨハネは、自分の受けた啓示を説明するためにどのような象徴を用いたのでしょうか。

次の表が書かれている配付資料を生徒たちに渡します(あるいはホワイトボードに表を書き写します)。各組の生徒たちに、表の右の欄の参照聖句を読んでもらい、ヨハネが用いたそれぞれの象徴について考えられる意味をその欄に書いてもらいます。

黙示1章にある象徴

象徴	考えられる意味
黙示1:12 - 七つの金の燭台	黙示1:20; 3 ニーファイ 18:24 -
黙示1:16 - 17 - 右手	マルコ16:19 -
黙示1:16 - 七つの星	黙示1:20 七つの星は、七つの教会の僕たち(訳注-ジョセフ・スミス訳黙示1:20では、「御使」という言葉が「僕」に置き換えられている。)-
黙示1:16 - 鋭いもろ刃のつるぎ	ヘブル4:12 -
黙示1:18 - 死と黄泉とのかぎ	2 ニーファイ 9:10 - 13 -

十分な時間を取ってから、数人の生徒たちに、ヨハネが用いたそれぞれの象徴について考えられる意味を発表してもらいます。必要であれば、生徒たちが次のことを認識できるように助けます-七つの燭台は福音の光を掲げている七つの教会を表す；右手は神の力と承認を表す；七つの星は主に支えられた七つの教会を管理している僕や指導者を象徴する；剣は神の言葉を表し、邪悪な者を裁き、汚れのない者を自由にすると宣言している；死と黄泉の鍵は、霊の死と肉体の死に打ち勝つ主の力を表す。

- ヨハネを通し、主が御自分の聖徒たちに明らかにされたメッセージに基づくと、イエス・キリストについて、また主に忠実に従う者たちと主の関係について、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うと思われるが、次のような真理を見つけていることを確認します。イエス・キリストは、御自分に忠実に従う者たちを見守り、いたわってください。)

生徒たちに、ヨハネの時代の教会員が直面していた困難を思い起こしてもらいます。

- ヨハネの時代の教会員たちにとって、イエス・キリストが引き続き見守り、いたわってくださっていると知ることは、なぜ重要だったのでしょうか。
- この同じ真理を忘れずにいることは、わたしたちにとってなぜ大切なのでしょうか。

生徒たちに、イエス・キリストが自分を見守り、いたわってくださっていると感じたときについて考えてもらいます。何人かの生徒に、経験を分かち合ってもらいます。あなたの経験も分かち合うとよいでしょう。

一人の生徒に、黙示1:17-18を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主がヨハネにおっしゃった事柄を見つけてもらいます。

- イエスがヨハネにおっしゃったことに基づくと、イエス・キリストについてどのような教義を学ぶことができますでしょうか。(生徒たちはさまざまな言葉を用いるでしょうが、次の教義を見つけるはずですが、イエス・キリストは死と黄泉に打ち勝つ力をお持ちの、栄光を受けた復活された御方である。)
- この教義は、ヨハネの時代の聖徒たちにどのような希望をもたらしたのでしょうか。
- この教義は、わたしたちにどのような希望を与えますか。
- この教義は、地上のあらゆるところに存在する善と悪の戦いの最終的な結末について、わたしたちにどのようなことを教えているのでしょうか。

一人の生徒に、黙示録についての次の言葉を声に出して読んでもらいます。

「黙示録のメッセージは、全ての聖典のメッセージと同じである。すなわち、最終的に神がこの地上で悪魔に勝利を収めること、善が悪に、聖徒が迫害者に、神の王国が人間とサタンの王国に永遠に勝利することである。」(Bible Dictionary, "Revelation of John"の項)

わたしたちは最終的に善が悪を征することを知っているのです。これからなすべきことは、サタンの側か神の側か、どちらにつくかを決めることであることを指摘します。救い主の死と

黄泉への勝利、そして救い主のおかげでわたしたちは善と悪の戦いの中で神の側を選ぶことができるという事実を証してもよいでしょう。

生徒たちに、より完全に神の側につくために、どのようなことができるか考えてもらいます。受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

一人の生徒に、黙示 1:19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がヨハネに書き記すように言われた事柄を見つけてもらいます。分かったことを発表してもらいます。

黙示 1 章には、ヨハネが救い主について受けた示現について書いた事柄が記録されていることを説明します。黙示 2 - 3 章に記録されているように、ヨハネは「現在のこと」(黙示 1:19)、すなわちヨハネの時代の教会の状況について書きました。黙示 4 - 22 章には、「今後起こらうとすること」(黙示 1:19)、すなわち未来についてヨハネが書いた事柄が記録されています。

**生徒が教義と原則を
応用できるように
助ける**

生徒に、理解し感じたことについて瞑想し、深く考え、あるいは書き留める時間と、教義や原則を生活に応用するための具体的な行動について考える時間をクラスで与えるべきです。そのときに、主の導きと指示を求めるように生徒に勧めます。

黙示 2 - 3 章

はじめに

ヨハネは、小アジアにある教会の7人の御使い、すなわち僕に宛てて書き、主から聖徒たちに対する称賛、矯正、警告の言

葉を伝えました。ヨハネはまた、勝利を得る人々に対する昇栄の約束についても書きました。

生徒の行動に注意を払い、適切に対応する

レッスン中の生徒の取り組む姿勢に注意を払い、適切な方法で対応してください。生徒が退屈そうであったり落ち着かない様子であったりする場合、それは、レッスンに集中していないか、あるいは、教えられている事柄やそのレッスンが自分にどう当てはまるかを理解していないためと考えられます。生徒が集中するのを助けるために、レッスンの提示方法を何か変える必要があるかもしれません。

教えるための提案

黙示 2 - 3 章

ヨハネ、イエス・キリストの言葉を7つの教会の指導者たちに記す

一人の生徒に、中央初等教会会長会の一員であったシドニー・S・レイノルズ姉妹の次の話を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この話から主について学ぶことができる事柄を見つけてもらいます。



「中央初等協会会長会のゲール・クレグ姉妹とご主人は、長年にわたってブラジルに住んでいました。最近、姉妹は初等協会の割り当てで日本を訪問しました。日曜日に礼拝堂に入ると、日本人の聖徒に交じってブラジル人の家族がいるのに気づきました。……挨拶する時間はわずかでしたが、母親と子供たちがとても熱心であることが分かりました。しかし、父親は言葉少なでした。急いで壇上に案内され、『集会の後で彼女たちと話す機会があるでしょう』と思いました。クレグ姉妹は英語でメッセージを伝えて、通訳者が日本語に訳しました。そのとき、ポルトガル語でも証すべきであると強く感じました。でもちゅうちょしました。ポルトガル語の通訳者がいないので、出席者の98パーセントは彼女の話を理解できないからです。

集会の後、あのブラジル人の父親が来て、こう言いました。『姉妹、ここでは習慣が随分違い、わたしはずっと孤独でした。教会に来て何も理解できないのは、つらいことです。家にいて聖典を読んでいる方がいいのではないかと、ときどき思います。妻に「もう一度だけ教会に行くよ」と言って、これが最後になると思いながら今日来たのです。姉妹がポルトガル語で証されたとき、御霊を心に感じて、ここが自分の所属すべき場所であることが分かりました。神はわたしがここにいることを御存じで、わたしを助けてくださいます。』（「主はわたしたちを御存じで、愛しておられます」『リアホナ』2003年11月号、76参照）

- この経験から、主についてどのようなことを学ぶことができますか。

次の不完全な文をホワイトボードに書きます — 主はわたしたち一人一人を御存じなので、_____。黙示2-3章を研究しながら、主は生徒たち一人一人を御存じであることから、生徒たちのためにどのようなことがおできになるのかを理解するのを助ける真理を見つけてもらいます。

黙示2-3章には、小アジア（現代のトルコ）の七つの教会の会衆に宛てたイエス・キリストの言葉を、使徒ヨハネが記録したものが含まれていることを説明します。

一人の生徒に、黙示2:1-3, 6を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エペソの聖徒たちについて主が御存じだった事柄を見つけてもらいます。

- エペソの聖徒たちについて、主はどのようなことを御存じでしたか。（「ニコライ宗」〔6節〕という言葉は、神の恵みによって救われるので、性的な罪を犯しても罰せられないと主張した一団を示しています〔Bible Dictionary, “Nicolaitans”の項参照〕。）

これらの聖句は、主が聖徒たちの善い行いを称賛された、すなわち褒められたことを記録していることを指摘します。次のような意味になるように、ホワイトボードに書かれた言葉に書き加えます — 主はわたしたち一人一人を御存じなので、一人一人を褒めたり、_____してくださる。

一人の生徒に、黙示2:4-5を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エペソの聖徒たちについて主が御存じだったその他の事柄を見つけてもらいます。

- エペソの聖徒たちについて、主は他にどのようなことを御存じでしたか。

主は、その罪のために聖徒たちを正しておられたことを指摘します。次の真理が伝わるように、ホワイトボードの文を完成させます。主は、わたしたち一人一人を御存じなので、一人一人を褒めたり正したりしてください。

- 主に個人的に褒めていただいたり正していただいたりする方法には、どのようなものがあるでしょうか。
- 主が個人的に褒めてくださったり正してくださったりすることを知ることは、個人の聖典研究や祈りの方法にどのように影響するでしょうか。それは、教会指導者や両親の勧告に対するわたしたちの対応のしかたに、どのように影響するでしょうか。
- わたしたちはなぜ、主から個人的に褒めたり正したりしていただけるよう、努力するべきなのでしょう。
- 主が個人的に褒めたり正してくださったのは、どのようなときでしたか。どうしてその経験は、主が自分を個人として御存じだと知る助けになりましたか。(生徒たちが、神聖な経験や、あまりに個人的な経験を発表しないように注意します。)

生徒たちに、主はどのような行いを褒めてくださると思うか、またどのような思いや行いを正して下さるか、深く考えてもらいます。主が正してくださったならば、悔い改める目標を立てよう生徒たちを励まします。

一人の生徒に、黙示 2:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、勝利を得る、すなわち最後まで忠実に堪え忍ぶ人々に主が約束された事柄を見つけてもらいます。

- 勝利を得る者、すなわち義にとどまって最後まで堪え忍ぶ者たちに、主はどのような約束をしておられますか。
- 「いのちの木の実を食べる」とはどのような意味だと思いますか (7 節)。
- 個人的に正していただいた後で、この約束された祝福について聞いたことは、エペソの聖徒たちにどのように有益だったでしょうか。

エペソの教会の会衆に御言葉を伝えただけでなく、主は小アジアの他の教会の会衆に宛ててもお話しになったことを生徒たちに思い起こしてもらいます。

クラスを 5 つのグループに分け、次の参照聖句を一つずつ割り当てます。

1. 黙示 2:8-11

2. 黙示 2:12-17

3. 黙示 2:18-29; ジョセフ・スミス訳黙示 2:26-27 (この参照聖句を受け取るグループには、次のジョセフ・スミス訳黙示 2:26-27 のコピーを配ります。「勝利を得る者、わたしの戒めを最後まで守り続ける者には、多くの王国を支配する権威を授ける。彼は神の言葉をもって、彼らを治めるであろう。そして陶器師の手の中の器のように、彼は彼の手の中にあるであろう。そして彼は信仰により、公平と正義をもって治めるであろう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。」)

4. 黙示 3:1-6; ジョセフ・スミス訳黙示 3:1; ジョセフ・スミス訳黙示 3:2 (この参照聖句を受け取るグループには、次のジョセフ・スミス訳黙示 3:1-2 のコピーを配ります。「サルデスにある教会の僕に、こう書き送りなさい。『神の七人の僕である七つの星を持つ方が、次のように言われる。わたしはあなたの業を知っている。すなわち、あなたは、生きているというのは名だけで、実は死んでいる。それゆえ、目を覚ましていて、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたの業が、わたしの神の御前に完全であるとは見ていない。』」)

5. 黙示 3:7-13

グループごとに割り当てられた聖句を読んでもらい、主が聖徒たちに行うよう勧告された事柄と、聖徒たちがそのようにするときに授かる主の約束された祝福を、生徒たちに見つけてもらいます。

十分な時間を取った後、各グループの一人に見つけたことを発表してもらいます。一人の生徒に、各グループが見つけた約束された祝福をホワイトボード (黙示 2:7 の約束された祝福の下) に書いてもらいます (黙示 2:11, 17, 26; 3:5, 12 参照)。書き終えたら、それらの約束の一つ一つは、わたしたちが忠実に最後まで堪え忍ぶことを条件とする、昇栄の祝福を受けることを指していることを指摘します。

- 昇栄の祝福を受けるためにわたしたちが行わなければならないことについて、これらの聖句からどのような原則を見つかることができますか。(生徒たちが次のような原則を見つかけられるよう助けてください。もしわたしたちが勝利を得るならば、そのとき昇栄の祝福を受けることができます。)

• 昇栄の祝福を受けるために、どのようなことを克服する必要があると思いますか。
一人の生徒に、黙示 3:14 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、昇栄を得るために、ラオデキヤの教会員たちが克服する必要があった状況を見つけてもらいます。

- ラオデキヤの教会員たちが克服する必要があった状況とはどのようなものでしたか。
- これらの教会員たちが、生ぬるいイエス・キリストの弟子であるというのは、どのような意味だと思いますか (15 節)。(「熱い」という言葉は、福音に完全に専心している人を表すのに用いられ、「冷たい」という言葉は、福音の教えと聖約にまったく無関心な人を表すのに用いていたと思われます。生ぬるい弟子とは、福音が真実だと信じていながら、それに従って生活することに完全に専心してはいない人と考えられます。)
- あなたの意見では、生ぬるいイエス・キリストの弟子たちは、どのようなことをする、あるいははしないでしょうか。

生徒たちに、最近自分がイエス・キリストに従うために何をしたか、そして自分はイエス・キリストの弟子として熱いか、冷たいか、あるいは生ぬるいかの、どれであるかを考えてもらいます。

一人の生徒に、黙示 3:19 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ラオデキヤの聖徒たちを正したと主がおっしゃった理由を見つけてもらいます。

- 主がラオデキヤの聖徒たちに言われたことによると、なぜ主はわたしたちを正されるのでしょうか。(次のような真理を見つかるよう生徒たちを助けます。主はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちが悔い改めることができるように、わたしたちを正される。)

「戸をたたかれるイエス」(『福音の視覚資料集』65 番。LDS.org も参照) の絵を見せませう。



- この絵の中で、救い主は何をしておられるのでしょうか。
次の質問を声に出して読み、生徒たちに答えを静かに深く考えてもらいます。
- もしも自分の家の戸がたたかれるのを聞き、それが救い主であると気がついたなら、どのような気持ちになるのでしょうか。
- あなたは戸を開くでしょうか。

この絵は、主がラオデキヤの教会に述べられた言葉を描いていることを指摘します。一人の生徒に、黙示 3:20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主がラオデキヤの聖徒たちに示された祝福は何であったか、また彼らはそれを得るために何をしなければならなかったかを見つけてもらいます。

- 主は、ラオデキヤの聖徒たちにどのような祝福を与えると言われましたか。
- その祝福を受けるために、彼らはどのようなことをする必要がありましたか。
- 20 節から、どのような原則を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を見つけていることを確認します。わたしたちが救い主に対して戸を開けるなら、救い主は中に入ってわたしたちと食を共にされる。)

救い主と食を共にするとはどのような意味かを生徒たちが理解できるように、古代の近東文化では、食を共にすることは親睦のしるしだったことを説明します。これは、友情と平和の絆があること、または、少なくともそれが提案されていることを表していました。

- 20 節で述べられている、戸を開けるとはどのようなことを表していると思いますか。

救い主に向かって戸を開け、食を共にする人々は、罪を悔い改めて、救い主と天の御父との親しい交わりを始める人々であることを説明します。

生徒たちが戸を開けることの意味を理解できるように、一人の生徒に、スペンサー・W・キンボール大管長が述べた次の話を声に出して読んでもらいます。



「ある日のこと、[ホールマン・ハントという画家]は、『戸をたたいているキリスト』と題する絵を友人に見せていたが、突然友人が『君の絵は 1 か所間違っている』と言った。

『どこが』と画家が尋ねた。

『イエスがたたいている戸に取っ手がついていないよ。』

『ああ、そのことか。』ハント氏は言った。『それは間違っていない。これは人間の心に入る戸なのだよ。これは中からしか開けられない戸なのさ。』

まさにそのとおりである。イエスは戸の前に立ってたたいておられるが、開けるかどうかはわたしたちが決めることである。(『救いの奇跡』222)

- どうすれば救い主に向かって心を開くことができると思いますか。

生徒たちに、黙示 3:21-22 を黙読してもらい、ラオデキヤの聖徒たちへの主の約束と勧告を見つけてもらいます。

- 22 節によると、主は、どのような勧告をお与えになったでしょうか。

生徒たちに、今日学んだことを思い出し、「御霊が……言うことを聞く」(22 節) ようにしてもらいます。受けた印象に従って行動するように生徒を励まします。

注釈と背景情報

黙示 2:28 「彼に明けの明星を与える」

「『明けの明星』とは、イエス・キリストの象徴です(黙示 2:28:22:16)。『明けの明星』の約束は、『勝利を得る者、わ

たしのわざを最後まで持ち続ける者』に与えられます(黙示 2:26)。」(*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 535)

黙示 4 - 5 章

はじめに

使徒ヨハネは、栄光を受けた者たちが、御座に座っておられる天の御父に礼拝するのを見ました。ヨハネはまた、7つの封

印で封じられた巻物を見、巻物を開くのにふさわしい小羊、すなわちイエス・キリストを見ました。

教えるための提案

黙示 4 章

ヨハネ、栄光を受けた者たちが天の御父を礼拝するのを見る

開会の賛美歌として「神に栄え」（『賛美歌』33番）、または神を賛美し敬うその他の賛美歌を歌います。

生徒たちに、日の栄えの王国にいることを想像するように言います。数人の生徒たちに、日の栄えの王国はどのような所だと思いか説明してもらいます。

黙示 4 - 5 章に記録されているように、使徒ヨハネは、示現で日の栄えの王国の一部を見たことを説明します。一人の生徒に、ホワイトボードに絵を描いてくれるよう頼みます。数人の生徒に、黙示 4 : 1 - 8 を順番に読んでもらい、他の生徒には、聞きながら、ヨハネが見た事柄を見つけてもらいます。それらの聖句が読まれている間に、頼んでいた生徒に、ヨハネが見た事柄の絵を描くよう指示します。読む方の生徒たちは、絵を描く生徒が絵の各部分を描き終える時間を取れるように、ときどき間を空けて読む必要があるかもしれません。（「御座にいますかた」〔2 節〕すなわち天の御父は、御父への敬意を表すために描かないように言います。他の生徒たちにも参加を促して、数人の生徒たちに順番に絵を描いてもらってもよいでしょう。）

「御霊に感じた」（2 節）とは、啓示や示現で御霊に包まれるという意味であることを説明し、3 節の「碧玉」とは色のついた石やダイヤモンドを、「赤めのう」（3 節）は、通常赤か、赤みがかったオレンジ色の宝石であることを説明します。

現代の啓示は、ヨハネが見たことについてわたしたちが一層理解を深める助けとなることを説明します。例えば、預言者ジョセフ・スミスが黙示 1 - 11 章に記録された象徴や出来事の一部について主に説明を求めた後、主は教義と聖約 77 章に記録された啓示を与えられました。

クラスを二人か三人のグループに分け、各グループに次の配付資料を配ります。各グループの生徒たちに、相互参照聖句を一緒に声に出して読み、ヨハネが見たことについて見つけたその他の情報を表に書き入れてもらいます。

黙示 4 章

ヨハネが見たこと	相互参照	その他の情報
御座（黙示 4 : 2 - 3）	教義と聖約 137 : 1 - 4	
冠をかぶった 24 人の長老（黙示 4 : 4）	教義と聖約 77 : 5	
神の七つの霊（黙示 4 : 5）	ジョセフ・スミス訳黙示 4 : 5（ジョセフ・スミス訳では、この節の「七つの霊」が「七人の僕」に変更されています。）	
ガラスの海（黙示 4 : 6）	教義と聖約 77 : 1 ; 130 : 6 - 9	

ヨハネが見たこと	相互参照	その他の情報
四つの生き物 (黙示 4:6-7)	教義と聖約 77:2-3	
その生き物のたくさんの目と六つの翼 (黙示 4:8)	教義と聖約 77:4	

十分に時間を取った後で、生徒たちが見つけたその他の情報を発表してもらいます。生徒たちが明確に、あるいは、さらに理解するために、必要に応じて次の答えを用います—神は日の栄えの王国で御座につかれています；冠をかぶった 24 人の長老は、七つの教会に所属する忠実な長老である；述べられているのは神の七人の僕であり、七つの霊ではない；ガラスの海は日の栄えの状態に栄光化された地球である；四つの生き物は、実際の生き物であり、栄光を受けた者の階級（または種類）を表す；生き物の目は大いなる光と知識、そして生き物の翼は動き行動する力を表す。

数人の生徒たちに、黙示 4:8-11 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天の御父の周りに集まったそれらのものたちが、何を言い、何をしたかを見つけてもらいます。

- 天の御父の周りに集まっているものたちは、御父についてどのように言ったでしょうか。何をしましたか。
- 天の御父の御座の前に冠を投げ出した長老たちは、何を表しているでしょうか。（次のような答えが考えられます—天の御父の偉大さの認識；自分たちの昇栄は御父のおかげであるという感謝；御父に対する畏敬の念、敬愛、服従的な献身。）
- 天の御父の偉大さを知ることが、わたしたちにどう影響するかについて、この話からどのような原則を学べるでしょうか。（生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の原則を見つけていることを確認してください。天の御父の偉大さを理解するとき、わたしたちは御父を礼拝し、賛美することを望むようになる。）
- どのようなことが、天の御父の偉大さを認識する助けとなるでしょうか。

黙示 5 章

ヨハネ、7つの封印で封じられた巻物と、封印を解くのにふさわしい者である小羊を見る

数人の生徒たちに、黙示 5:1-4 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが天の御父の手の中に見たものを見つけてもらいます。

- ヨハネは、天の御父の手の中に何があるのを見ましたか。（七つの封印のある書物、すなわち巻物。）

古代では、重要な書類は粘土や、ろうで封じられていたことを説明します。書類の持ち主か、持ち主によって権限を与えられた者だけが、封印を破り内容を読むことを許されました。

- 2 節によると、その巻物を開く人物はどのような資格が必要でしたか。

生徒たちに、教義と聖約 77:6-7 を黙読してもらい、その巻物と封印の意味を見つけてもらいます。

- その巻物には何が書かれていますか。

7 千年間とは、アダムとエバの墮落からの期間を指すと説明します。それは創造の期間を含む地球の実際の年齢ではありません。

- 教義と聖約 77:7 によると、七つの封印は何を表していますか。（地球が現世で存在する 7 千年間、すなわちアダムの墮落から福千年の終わりまで。）

巻物と封印の意味を考えると、その巻物を開けるにふさわしい者が誰もいないと思えたときに、ヨハネは神の御心と業が明らかにされることも成し遂げられることもないと思ったかもしれないことを指摘します。

- 救いの計画が実行されないとすれば、天の御父の子供たちはどうなるでしょうか。

一人の生徒に、黙示 5:5-7 を声に出して読んでもらいます。6 節のジョセフ・スミス訳（『聖書ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」）では、全ての 7 という数字が 12 に改められていることを、生徒たちに説明します。クラス全員に、なぜヨハネは、泣くな、と言われたのかを見つけてもらいます。聖典の中で、角はしばしば力や権能を象徴します。目は光

や知識を象徴し、12 という数は神聖な政府や機関、あるいは神権を象徴することを説明するとよいでしょう。

- なぜヨハネは、泣くな、と言われたのですか。
- 黙示 5:6 に記録されている、イエス・キリストに用いられるどのような称号が、主のことを明らかにしているのでしょうか。(主は、神の子供たちを贖うために与えられた犠牲の供え物であった〔イザヤ 53:7; 1 コリント 5:7; 1 ペテロ 1:18 - 19 も参照〕。「ほふられたとみえる小羊」〔黙示 5:6〕とは、小羊にほふられた傷痕が見られたことを指していることを説明する必要があるかもしれません。パプテスマのヨハネは救い主を「神の小羊」〔ヨハネ 1:29, 36〕と呼んでいることを指摘します。)

一人の生徒に、黙示 5:8 - 10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天の御父の御座を囲んでいる者たちが、どのように小羊を賛美していたかを見つけてもらいます。

- それらの者たちは、どのように小羊、すなわちイエス・キリストを賛美していたのでしょうか。
- 小羊についてヨハネが見たり聞いたりした事柄に基づく、イエス・キリストについてのどのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現すると思われませんが、次の真理を見つけていることを確認します。イエス・キリストは、わたしたちを贖うふさわしさと能力を持つ唯一の御方である。)
- なぜイエス・キリストは、わたしたちを贖うふさわしさと能力を持つ唯一の御方なのでしょうか。
- 10 節によると、イエス・キリストに贖われた人々は何になりますか。(御国の民や祭司、女性であれば女祭司〔ブルース・R・マッコンキー、*Mormon Doctrine*, 第 2 版 (1966 年), 613]。)

天の御父の救いの計画とその計画における救い主の役割が、生徒たち一人一人にどのような意味があるかを深く考えてもらいます。クラスノートか聖典学習帳に、自分の考えたことや感じたことを書き出すように言います。レッスンの後半で、書いたことを分かち合ってもらうことを生徒たちに伝えます。

数人の生徒たちに交代で、黙示 5:11 - 14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、他の人々がともにイエス・キリストと天の御父をどのように礼拝し、賛美したかを見つけてもらいます。

- 小羊がその巻物を天の御父の手から取ると、栄光を得た者たちと全ての造られたものが御二方を礼拝し賛美したのはなぜですか。(そこにいる者たちは、天の御父とイエス・キリストのすばらしさを理解し、天の御父の計画における小羊の役割に感謝した。)
- ヨハネが見た者たちや造られたもののように、わたしたちが天の御父とイエス・キリストを礼拝し賛美するようになることについて、どのような真理を学ぶことができるのでしょうか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うかもしれませんが、次の真理を見つけていることを確認します。天の御父とイエス・キリストがわたしたちのためにくださったことを理解し感謝の念を抱くとき、わたしたちも御二方を礼拝し、賛美したいと願う。)

栄光を得た者たちと全ての造られたものは、天の御父とイエス・キリストを、歌を歌って礼拝したことを指摘します。同様に、わたしたちは、賛美歌を歌って御二方を礼拝し賛美します。「神は造り主」(『賛美歌』34 番)、または神を賛美し、たたえるその他の賛美歌をクラス全員で歌ってもらい、その賛美歌は黙示 5:9 - 14 とどのように関係があるかについて考えるように言います。

- 音楽を通して天の御父とイエス・キリストを礼拝する他に、わたしたちはどのように御二方を礼拝することができますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老の次の話を読んでもらいます。他の生徒には、マッコンキー長老が礼拝について教えたことに耳を傾けてもらいます。



「真実の完全な礼拝は神の子イエスの足跡をたどることにあり、神の戒めを守り、さらにキリストが神においてそうあられたようにわたしたちが恵みに次いで恵みを受け、ついにキリストにおいて栄光を受けるように神の意志に従うことにあるのです。それは単なる祈りや、説教や、賛美歌をはるかに超えたものです。それは生活することであり、行うことであり、そして従うことです。それは

また偉大な模範であるイエスに倣うことに他なりません。」(「いかに礼拝すべきか」『聖徒の道』1972年10月号, 465参照)

- マッコンキー長老の教えは、天の御父とイエス・キリストを礼拝する方法についてのあなたの理解をどのように増したでしょうか。
- 天の御父とイエス・キリストを礼拝し賛美することでどのように祝福されますか。
- なぜあなたは、天の御父とイエス・キリストを礼拝し、賛美したいという願いを持つのでしょうか。(生徒たちに、レッスンの初めに書いた、自分の考えたことや感じたことを幾つか発表してもらいます。)

天の御父とイエス・キリストをあなたが喜んで礼拝する理由を含め、御二方についてあなたが感じていることを分かち合うとよいでしょう。

生徒たちに、次の質問について深く考え、答えをクラスノートか聖典学習帳に書くように言います。

- 天の御父とイエス・キリストを礼拝するために、さらにどんなことができるでしょうか。

生徒たちが答えを書くのに十分な時間を取った後で、書いたことを実践するよう励まします。

関連質問をする

関連質問をすることは、あなたが生徒の答えをより理解する助けとなります。関連質問の例としては、「それはどういう意味かわたしが理解できるようにしてもらえますか。」「具体的には、どのような例がありますか。」などがあります。このような質問は、生徒に考えや気持ちを分かち合うように招くとともに、生徒の答えに証の霊を招きます。

黙示 6 - 11 章, 第 1 部

はじめに

ヨハネは、神の小羊が封じられた巻物の最初の 6 つの封印を解くのを示現で見ました。第 6 の封印で、ヨハネは「その衣を小羊の血で洗〔った〕」神の僕たちを見ました（黙示 7：14）。

教えるための提案

黙示 6 章

ヨハネ、神の小羊が封じられた巻物の最初の 6 つの封印を解くのを見る

末日に生きることについて抱いている何らかの心配事を、生徒たちに分かち合ってもらいます。ホワイトボードに、生徒たちの答えを書き出します。

一人の生徒に、次の預言者ジョセフ・スミスの言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、古代の預言者たちがわたしたちの時代についてどのように感じていたかについて耳を傾けてもらいます。

「預言者たち、祭司たち、王たちが、……わたしたちが生きている時代を、喜びに満ちた期待をもって待ち望み、すばらしい喜びに満ちた期待に胸を高鳴らせながら、このわたしたちの時代について歌い、書を記し、預言しました。」（『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』186）

- 古代の預言者はわたしたちの時代についてどのように感じていましたか。

啓示者ヨハネは、末日の出来事について知っていた、また、喜びに満ちた期待を持ってわたしたちの時代について預言した預言者の一人であったことを指摘します。

生徒たちに、黙示 6 - 7 章を研究しながら、古代の預言者たちが喜びを持ってわたしたちの時代を待ち望んだ理由を見つけてもらいます。

黙示 5：1 - 5 に記録されているように、ヨハネが 7 つの封じられた巻物を見、それを開くのにふさわしいのは小羊だけであったことを生徒たちに思い出してもらいます。その示現の中で、ヨハネは、7 つの封印で表現された、各千年間に関わる大きな出来事の比喩的な描写を見たことを説明します。

ホワイトボードに次のリストを書きます（クラスが始まる前に書いておくといいでしょう）。

第一の封印（黙示 6：1 - 2）

第二の封印（黙示 6：3 - 4）

第三の封印（黙示 6：5 - 6）

第四の封印（黙示 6：7 - 8）

第五の封印（黙示 6：9 - 11）

生徒一人一人に、紙を一枚ずつ配ります。それぞれの生徒に、封印の一つを割り当てます（一つの封印が二人以上の生徒に割り当てられても構いません。）生徒たちに、割り当てられた封印と一致する参照聖句を読んでもらい、ヨハネが見た封印に関する幾つかの出来事を絵に書いてもらいます。

十分に時間を取った後、生徒たちが描いたものを、第一の封印を割り当てられた生徒から順番に、みんなに見せてもらいます。各グループから一人の生徒に、自分の絵を見せながら、その封印が解かれたときにヨハネが見た事柄を説明してもらいます。生徒たちに発表してもらいながら、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老が述べた、次の考えられる解釈を分かち合います。それらの情報を、聖典やクラスノートや聖典学習帳に書くよう、生徒たちに勧めるといいでしょう。

教師の提示

生徒が、学習の過程において役割を積極的に果たそうとすることは、聖文をさらに理解し自分の生活に応用するうえで重要ですが、生徒が特定の聖文の背景や内容をもっとはつきりと理解できるようにするために、適切なときには、説明し、意味を明らかにし、例証する必要があるでしょう。

<p>第一の封印 (紀元前約 4000 年 から 3000 年)</p>	<p>白い馬=勝利 弓=戦争 冠=征服 マッコンキー長老は、1 - 2 節はエノクの時代を表し、馬の乗り手はエノクであると示唆しました (<i>Doctrinal New Testament Commentary</i>, 全 3 巻 [1966 - 1973 年], 第 3 巻, 476 - 478 参照)。</p>
<p>第二の封印 (紀元前約 3000 年 から 2000 年)</p>	<p>赤い馬=流血 つるぎ=戦争と破壊 マッコンキー長老は、3 - 4 節は邪悪が地上にはびこったノアの時代を表していると示唆しました。赤い馬の乗り手は悪魔自身あるいは、おそらく「多くの殺人的戦士を代表する者」かもしれません (<i>Doctrinal New Testament Commentary</i>, 第 3 巻, 478 - 479)。</p>
<p>第三の封印 (紀元前約 2000 年 から 1000 年)</p>	<p>黒い馬=飢饉 はかり=食物の高値 マッコンキー長老は、5 - 6 節は、多くの人々が餓死したアブラハムの時代を表していると示唆しました (<i>Doctrinal New Testament Commentary</i>, 第 3 巻, 479 - 480 参照)。一日の全収入を使っても、生きるためにやっと十分な量の食物しか購入できないというのは、厳しい飢饉による価格高値を示しています。</p>
<p>第四の封印 (約 1000 年からキ リスト生誕まで)</p>	<p>青白い馬=死 死と黄泉=邪悪な者の滅びと霊的な獄への収容 (イザヤ 5 : 14 参照) マッコンキー長老は、7 - 8 節は、「戦争や裏切りにより繰り返し [イスラエル] を苦しめ侵略した偉大な王国や国々」の時代を指していると示唆しました (<i>Doctrinal New Testament Commentary</i>, 第 3 巻, 481)。これらの国には、バビロニア、ペルシャ、エジプト、ギリシャ、ローマが含まれました。</p>
<p>第五の封印 (キリストの生誕から 紀元約 1000 年まで)</p>	<p>祭壇=犠牲 霊魂=信仰のために殺された殉教者やキリスト教徒 マッコンキー長老は、9 - 11 節は、殉教者として命を落とした最初の使徒たちのほとんどを含めた、初期のキリスト教徒を指していると示唆しました (<i>Doctrinal New Testament Commentary</i>, 第 3 巻, 482 - 483 参照)。これらの聖徒たちは、「神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために」(黙示 6 : 9) 命を失ったので、清さの象徴である(黙示 7 : 13 - 14 ; 3 ニーファイ 27 : 19 参照)「白い衣」が与えられました。</p>

各グループが発表し終わったら、第六の封印はわたしたちの時代と、イエス・キリストが御自身で地を統治される福千年につながる出来事を表していることを説明します (*Doctrinal New Testament Commentary*, 第 3 巻, 485 - 486)。

数人の生徒に、黙示 6:12-17 を順番に声に出して読んでもらい、14 節のジョセフ・スミス訳には「天は巻物が広げられるように開いていき、全ての山と島とはその場所から移されてしまった」と書かれていることを説明します。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが見た出来事を見つけてもらいます。

- 第六の封印が解かれるときに、ヨハネはどのような出来事を見ましたか。(それらの大災害が終わりの時のしるしであることを説明します。)
- 16 節によると、神の「怒り」を避けようとする人々は、どのようなことを望むでしょうか。
- 17 節にはどのような質問が記録されていますか。

ホワイトボードに次の質問を書きます — 誰が、その前に立つことができようか。

黙示 7 章は、第六の封印の大災害に誰が持ちこたえる、すなわち耐えることができるかを理解する助けとなることを説明します。

黙示 7 章

ヨハネ、衣を小羊の血で洗った神の僕たちを見る

一人の生徒に、黙示 7:1 を、別の生徒に教義と聖約 77:8 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、第六の封印でヨハネが見たその他の事柄を見つけてもらいます。

- 4 人の御使いは、何をしていましたか。(彼らが引き止めている風は、地上の命を滅ぼす力を持っていることを指摘します。教義と聖約 86:5-7 も参照。)

一人の生徒に、黙示 7:2-3 を、別の生徒に教義と聖約 77:9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、もう一人の御使いはその 4 人の御使いたちに何と言ったかを見つけてもらいます。

- 教義と聖約 77:9 によると、「日の出る方から上って来る」御使いは誰でしょうか(黙示 7:2)。

この場合の「エライアス」という言葉は、「最後の神権時代の人々に、鍵と権能を授けることが使命である人々の称号」であることを説明します (*Doctrinal New Testament Commentary*, 第 3 巻, 491-492。『聖句ガイド』『エライアス』も参照)。

- その御使いは、4 人の御使いたちに何と言ったでしょうか。

次のことを説明します。『わたしたちの神の僕らの額』に印を押したり、印をつけることは、彼らの神への献身、奉仕、帰属の象徴です(黙示 7:3。黙示 9:4;14:1 も参照)。

預言者ジョセフ・スミスは、忠実な者の額に印を押すことは、『彼らの頭に祝福を結び固めること、すなわち永遠の聖約であり、それによって彼らの召しと選びを確かなものとするを意味する』と教えています (*History of the Church*, 第 5 巻, 530 で引用。)(*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 554)

黙示 9 章に記録されているように、ヨハネはその印を持たない人々がどのようになるかを見ました。一人の生徒に、黙示 9:3-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その印を持たない人々の状態を見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらいます。

生徒たちに、黙示 7:4 を黙読してもらい、何人かの人々がこの御使いによって額に印を押されたのかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

主は預言者ジョセフ・スミスに、次のように告げられたことを説明します。「黙示 7:4-8 で述べられている十四万四千人とは、他の人々が昇栄を探求するのを助けるイスラエルの十二部族から聖任される大祭司たちである[教義と聖約 77:11 参照]。一部の人たちが信じているように、昇栄にあずかる人の総数ではない。」(*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 544)

一人の生徒に、黙示 7:9-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネはその他に誰を見たのかを見つけてもらいます。

- ヨハネは誰を見ましたか。
- その群衆が身にまとっていたものと手に持っていたものは何でしたか。(しゅろの枝は、勝利と喜びを象徴していることを説明するとよいでしょう。)

一人の生徒に、黙示 7:13 - 17 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがそれらの人々について分かったことを見つけてもらいます。

- これらの人々はどのようなことに耐えてきましたか。
- 彼らの衣はどのようにして白くなったのでしょうか。(イエス・キリストの贖罪の象徴である「小羊の血」によって。)
- 15 - 17 節によると、それらの人々は、イエス・キリストの贖罪を通して清められたことで、どのような祝福を受けましたか。(これらの聖句は、日の栄えの王国の栄光を受け継ぐ人々の喜び、平安、献身を表していることを指摘するとよいでしょう。)
- 日の栄えの栄光を受け継ぐ方法について、これらの聖句からどのような原則を見つけることができますか。(生徒はさまざまな言葉を用いるかもしれませんが、次のような原則を見つけていることを確認します。わたしたちが信仰深く患難に耐え、イエス・キリストの贖罪によって清められるなら、神とともに日の栄えの栄光を享受することができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

神の御前に清く立つというのはどのようなことか、またどのような気持ちになるのか、生徒たちに深く考えてもらいます。

- その気持ちは、黙示 6:16 に書かれている人々の気持ちと、どのように比べられるでしょうか。
- イエス・キリストの贖罪を通して救い主によって清められるために、わたしたちは何をしなければならぬでしょうか。
- 日の栄えの栄光の祝福を忘れないでいることは、患難に耐え、清くなるという努力をするうえで、どのように役に立ってきましたか。

生徒たちに、レッスンの初めにホワイトボードに書いた心配事のリストを思い起こしてもらいます。ホワイトボードに書いた原則は、末日に生きることに心配になったときに、どのような助けとなるかを考えてもらいます。発表したいと思う何人かの生徒たちに、考えを分かち合ってもらいます。

数分時間を取って、生徒たちに今日学んだ原則をどのように応用するか深く考えるように言います。受けた促しを記録するよう生徒に勧めます。

黙示 6 - 11 章, 第 2 部

はじめに

ヨハネは、第七の封印が解かれるのを見て、末日のイスラエルの集合に携わる自分の使命について知りました。

生徒たちに、毎日聖文を研究し、コースの聖典を読むように励まします。

生徒たちは、本コースの初めに、新約聖書を全て読み終えるように勧められました。その目標に生徒がどれほど取り組んでいるかを見て、必要に応じて支援や励ましを与えます。生徒がその目標を達成したときに、毎日の聖文研究から得られる祝福をさらに受け続けられるように、毎日の聖文研究を続けるよう励まします。

教えるための提案

黙示 8 - 9 章

ヨハネ、第七の封印が解かれるのを見る

生徒たちを二人一組にし、黙示 6 - 7 章の研究で学んだ、不確かで混乱のただ中であっても喜び、前向きであり続ける助けとなることを、自分のパートナーに説明するように言います。

前のレッスンで確認した次の原則をホワイトボードに書きます。わたしたちが信仰深く患難に耐え、イエス・キリストの贖罪によって清められるなら、神とともに日の栄えの栄光を享受することができる。この原則が、今日のレッスンで学ぶ出来事とどのような関連があるかを見つけてよう生徒に勧めます。

次の表を配付資料として配るか、ホワイトボードに書き写します。

- この表によると、黙示録の中で最初の六つの封印の出来事を述べている聖句は何節ありますか。(25 節)
- 第七の封印の出来事を述べている聖句は何節ありますか。(211 + 15 = 226 節)

ヨハネは、他の出来事に関するよりも、7つ目の千年間の出来事に関して、より多くのことを書いたことを指摘します。ヨハネは、第七の封印の開封からイエス・キリストの再臨までに起きる出来事について、特に詳しく書きました。

- ヨハネが第七の封印の出来事に重点をおいて書いたのは、なぜだと思いますか。

黙示 8 : 1 - 6 の要約として、それらの聖句は救い主が第七の封印を解くようすを表していることを説明します。ヨハネは、7つのラッパを与えられた7人の御使いを見ました。古代において、ラッパは「危険を知らせるとき、[兵隊に] 戦いの合図をするとき、王族の到着を知らせるとき」に用いられました (ジェラルド・N・ランド, "Seeing the Book of Revelation as a Book of Revelation," *Ensign*, 1987年12月号, 50)。この場合、ラッパが鳴ることは、福千年を通して行われるイエス・キリストの統治に備えるための、さまざまな災害と破壊の始まりを合図するものです。








黙示録の中に記された七つの封印についてのヨハネの示現

それぞれの封印は地球上の1,000年の生活を表している (教義と聖約 77 : 6 - 7 参照)。



クラスノートや聖典学習帳、または一枚の紙の一番上に「第七の封印」と書いて、紙の脇の方に七つのラッパの絵を縦に並べて描いてもらいます。

次の参照聖句をホワイトボードに書きますが、各参照聖句の後の質問は省いてください。生徒に、紙に書いたラッパの横に参照聖句を書くように言います。

-  第一 — 黙示 8:7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らしたとき、「雷と火」が地上に降った結果としてどうなったでしょうか。
-  第二 — 黙示 8:8 - 9 第二のラッパが吹き鳴らされたとき、3つの何が影響を受けたでしょうか。
-  第三 — 黙示 8:10 - 11 落ちてきた星の名は何といましたか。(苦よもぎとは苦い葉草で、「つらい災いや悲しみ」[Bible Dictionary, "Wormwood" の項]を表すために使われることを説明します。)それが落ちると、どうなりましたか。
-  第四 — 黙示 8:12 第四のラッパを吹き鳴らした後、3つの何が部分的に暗くなりましたか。
-  第五 — 黙示 9:1 - 3 第五の御使いが底知れぬ所の穴を開けたとき、そこから何が出てきましたか。
-  第六 — 黙示 9:13 - 16, 18 第六のラッパが吹き鳴らされた後、ヨハネが見た大きな戦いには、何人の騎兵隊が参加していましたか。この戦いで、人間の何分の一が殺されたのをヨハネは見ましたか。
-  第七 — 黙示 11:15

生徒たちを6つのグループに分け、各グループに、ホワイトボードに書かれたリストから最初の6つの参照聖句の一つを割り当てます(小さいクラスの場合、幾つかのグループに複数の参照聖句を割り当てる必要があるかもしれません)。各グループに割り当てられた聖句と一緒に声を出して読みながら、ラッパが吹き鳴らされた後でどうなったかを見つけてもらいます。聖句の内容が当てはまる紙に描いたラッパの横に、見つけたことを書いてもらいます。

十分な時間を取った後、各グループの一人の生徒に、見つけたことを発表してもらいます。その内容が当てはまる紙に描いたラッパの横に、各グループが見つけたことを記入してもらいます。生徒たちが発表するときに、必要であれば、そのグループに割り当てた参照聖句に関連した質問をします。

- 前のレッスンで見つけた原則は、第七の封印の出来事の間には生きていた人々をどのように助けることができるでしょうか。

一人の生徒に、黙示 9:20 - 21 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それらの災害で生き残った邪悪な人々は、どのように対応するかを見つけてもらいます。生徒たちに分かったことを発表してもらいます。

- このことは、それらの人々の邪悪さについて、どのようなことを教えていますか。

黙示 10 章

御使い、末日におけるヨハネの使命について説明する

黙示 10 章では、七つのラッパを吹き鳴らすことと、それに関連する災害について語るのを一旦中断していることを説明します。この章では、ヨハネが別の御使いから指示を受けたことが分かります。

「甘い」と「苦い」という言葉をホワイトボードに書きます。

- 甘いとも苦いとも考えられる人生における経験には、どのようなものがあるでしょうか。
- 一人の生徒に、黙示 10:1 - 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御使いが何を持っていたかを見つけてもらいます。
- 御使いは何を持っていたか。
- 二人の生徒に、黙示 10:8 - 11 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがその巻物をどうするよう言われたかを見つけてもらいます。
- ヨハネは、その巻物をどうするよう言われましたか。それはどのような味でしたか。

一人の生徒に、教義と聖約 77:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがその巻物を食べたことはどのようなことを表しているのかを見つけて言います。

- この聖句によると、ヨハネがその巻物を食べたことはどのようなことを表していますか。(末日において、「イスラエルのもろもろの部族を集め」「万事を元どおりにする」助けとなる自分の使命を、ヨハネが受け入れたこと。)

ヨハネは、人々を救い主のもとへ連れて行けるように、死を味わわないという祝福を受けていたことを指摘します(教義と聖約 7:1-4 参照)。
- 甘い味のする自分の使命を達成する際に、ヨハネはどのような経験をするのでしょうか。何が苦いのでしょうか。

黙示 11 章

ヨハネは、エルサレムで二人の預言者が殺され、第七のラッパが吹き鳴らされるのを見る

黙示 11 章は、第七のラッパが吹き鳴らされることとイエス・キリストの再臨に先立って起きる出来事に関するヨハネの記述で始まることを説明します。この期間、悪人たちが地上でさらに力と影響を増し、軍隊がエルサレムを侵略しようとします。

一人の生徒に、黙示 11:3-6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、そのときに、二人の証人がエルサレムで何をするか見つけてもらいます。

- その二人の証人は何をするのでしょうか。
- 「口から火が出[る]」とはどのような意味でしょうか(5 節)。(これは、彼らが述べる証の力の象徴かもしれません[エレミヤ 5:14; 20:9 参照]。)

一人の生徒に、教義と聖約 77:15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この二人の証人が誰であるかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

一人の生徒に、黙示 11:7-12 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、それらの二人の預言者は、ユダヤ人の中で自分たちの務めを終えた後でどうなるのかを見つけてもらいます。

- その二人の証人が殺される時、悪人はどのような反応をするのでしょうか。
- その死から三日半の後に、二人の証人はどうなるのでしょうか。
- 二人の証人が死からよみがえり、天に取り上げられたときに、人々はどのような反応をするのでしょうか。

一人の生徒に、黙示 11:13-15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、第七のラッパが吹き鳴らされる前とその時にどのようなことが起こるのかを見つけてもらいます。見つけたことを、自分の用紙の七番目のラッパの横に書いてもらいます。

- 第七のラッパが吹き鳴らされた後、「この世の国」は、どなたによって支配されるのでしょうか(15 節)。

黙示 11:16-19 の要約として、24 人の長老たちは、神が義人に報いを与え、悪人を滅ぼされたことに感謝し、賛美したことを説明します。ヨハネは示現の中で、神の臨在を表す、天にある神の聖所と契約の箱も見ました。

神のすばらしさと義に対する教師自身の感謝と賛美の思いを分かち合うことで、今日のレッスンを締めくくります。

注釈と背景情報

黙示 8 - 11 章 その他の注釈

黙示 8 - 11 章の内容についてのその他の情報に関しては、*New Testament Student Manual* (教会教育システム手引き, 2014 年), 545 - 549 ページにあるこれらの章の注釈を参照してください。

黙示 10 : 1 - 3, 8 - 11 ヨハネが食べるように与えられた小さな巻物

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は次のように教えています。

「ヨハネは自分に与えられた神の言葉が書かれた巻物を食べたが、この行為は古代イスラエルの習慣や伝統と合致してい

た。その行為は、ヨハネが命のパンを食し、麗しい神の言葉を口にし、キリストの言葉を味わっていた、という意味であった。それはヨハネの『口には蜜のように甘かった。』しかし、それを食べると『腹が苦くなった。』すなわち、主の言葉を聞いても従わない人々に下される裁きと悪疫を知って絶望し、心を悲しませたのである。」(*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1965 - 1973 年], 第 3 巻, 507)

「その巻物は、ヨハネの口には『蜜のように甘かった』が、腹が『苦くなった』(黙示 10 : 10) とは、ヨハネの使命は多くの甘く喜びに満ちた経験を含むが、拒絶と苦痛も経験することを述べているのでしよう(詩篇 119 : 103 も参照)。」(*New Testament Student Manual* [教会教育システム手引き, 2014 年], 548)

家庭学習クラスのレッスン

黙示 1 - 11 章 (単元 31)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が黙示 1 - 11 章 (単元 31) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に的を絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (黙示 1 - 3 章)

生徒たちは、使徒ヨハネの黙示録について研究した際に、主の言葉を読み、理解しようと努め、従うときに、わたしたちが祝福されることを学びました。イエス・キリストが、御自分に忠実に従う者たちを見守り、いたわってくださること、また死と黄泉に打ち勝つ力をお持ちの、栄光を受けた復活された御方であることを、ヨハネは教会員に教えました。また、生徒たちは、わたしたちが救い主に対して戸を開けるなら、救い主は中に入ってわたしたちと食を共にされることも学びました。

第 2 日 (黙示 4 - 5 章)

このレッスンでは、生徒たちは、神の小羊についてヨハネの見た示現を読み、次の真理を学びました。一天の御父の偉大さを理解するとき、わたしたちは御父を礼拝し、賛美することを望むようになる。イエス・キリストは、わたしたちを贖うふさわしさと能力を持つ唯一の御方である。天の御父とイエス・キリストがわたしたちのためにくださったことを理解し感謝の念を抱くなら、わたしたちも御二方を礼拝し、賛美したいと願う。

第 3 日 (黙示 6 - 7 章)

生徒たちは、七つの封印について学んだ際に、わたしたちが信仰深く患難に耐え、イエス・キリストの贖罪によって清められるなら、神とともに日の栄えの栄光を享受することができることを学びました。

第 4 日 (黙示 8 - 11 章)

生徒たちは、ヨハネが見た第七の封印が解かれる示現について学んだときに、第 3 日のレッスンで認識した原則を復習しました。

はじめに

このレッスンは、主がわたしたちを御存じであり愛しておられるので、わたしたちのためにどのようなことを行われるのかを、生徒たちが理解する助けとなります。さらに、生徒たちが、永遠の命を得るためにはどのようなことをする必要があるのかを知る助けとなります。

教えるための提案

黙示 2 - 3 章

ヨハネ、イエス・キリストの言葉七つの教会の指導者たちに記す

注一七つの教会への主の指示に関するさらに詳細な情報は、*New Testament Student Manual* (教会教育システム手引き, 2014 年), 531 - 532 を参照してください。

一人の生徒に、中央初等教会会長会の一員であったシドニー・S・レイノルズ姉妹の次の話を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、この話から主について学ぶことができる事柄に耳を傾けてもらいます。



「中央初等協会会長会のゲール・クレッグ姉妹とご主人は、長年にわたってブラジルに住んでいました。最近、姉妹は初等協会の割り当てで日本を訪問しました。日曜日に礼拝堂に入ると、日本人の聖徒に交じってブラジル人の家族がいるのに気づきました。……挨拶する時間はわずかでしたが、母親と子供たちがとても熱心であることが分かりました。しかし、父親は言葉少なで話した。急いで壇上に案内され、『集会の後で彼女たちと話す機会があるでしょう』と思いました。クレッグ姉妹は英語でメッセージを伝えて、通訳者が日本語に訳しました。そのとき、ポルトガル語でも証するべきであると強く感じました。でもちゅうちょしました。ポルトガル語の通訳者がいないので、出席者の 98 パーセントは彼女の話を理解できないからです。

集会の後、あのブラジル人の父親が来て、こう言いました。『姉妹、ここでは習慣が随分違い、わたしはずっと孤独でした。教会に来て何も理解できないのは、つらいことです。家にいて聖典を読んでいる方がいいのではないかと、ときどき思います。妻に「もう一度だけ教会に行くよ」と言って、これが最後になると思いながら今日来たのです。姉妹がポルトガル語で証されたとき、御霊を心に感じて、ここが自分の所属すべき場所であることが分かりました。神はわたしがここにいることを御存じで、わたしを助けてくださいます。』(「主はわたしたちを御存じで、愛しておられます」『リアホナ』2003 年 11 月号, 76)

• この経験から、主についてどのようなことを学ぶことができますか。

次の不完全な文をホワイトボードに書きます—主はわたしたち一人一人を御存じなので_____。黙示 2 - 3 章を研究しながら、主は生徒たち一人一人を御存じであることから、生徒たちのた

めにどのようなことがおできになるのかを理解するのを助ける真理を見つけてもらいます。

黙示 2-3 章には、小アジア（現代のトルコ）の七つの教会の会衆に宛てたイエス・キリストの言葉を、使徒ヨハネが記録したものが含まれていることを説明します。

一人の生徒に、黙示 2:1-3, 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エペソの聖徒たちについて主が御存じだった事柄を見つけてもらいます。

- エペソの聖徒たちについて、主はどのようなことを御存じでしたか。（6 節の「ニコライ宗」という言葉は、神の恵みによって救われるので、性的な罪を犯しても罰せられないと主張した一団を示していることを説明します〔*Bible Dictionary*, “*Nicolaitans*”の項参照〕。）

これらの聖句は、主が聖徒たちの善い行いを称賛された、すなわち褒められたことを記録していることを指摘します。次のような意味になるように、ホワイトボードに書かれた言葉に書き加えます — 主はわたしたち一人一人を御存じなので、一人一人を褒め……てください。

一人の生徒に、黙示 2:4-5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、エペソの聖徒たちについて主が御存じだったその他の事柄を見つけてもらいます。

- エペソの聖徒たちについて、主は他にどのようなことを御存じでしたか。

主は、その罪のために聖徒たちを正しておられたことを指摘します。次の真理が伝わるように、ホワイトボードの文を完成させます。主はわたしたち一人一人を御存じなので、一人一人を褒めたり正したりしてください。

- 主に個人的に褒めていただいたり正していただいたりする方法には、どのようなものがあるでしょうか。（個人的な祈り、聖文研究、教会指導者や両親からの勧告、祝福師の祝福を通して。）
- 主が個人的に褒めてくださったり正してくださったりすることをすることは、個人の聖典研究や祈りの方法にどのように影響するでしょうか。それは、わたしたちの教会指導者や両親の勧告への対応のしかたに、どのように影響するでしょうか。
- わたしたちはなぜ、主から個人的に褒めたり正したりしていただけるよう、努力するべきなのでしょう。
- 主が個人的に褒めたり正したりして下さったのは、どのようなときでしたか。どうしてその経験は、主が自分を個人として御存じだと知る助けになりましたか。（生徒たちが、神聖な経験や、あまりに個人的な経験を発表しないように注意します。あなたが自分の経験を分かち合ってもよいでしょう。）

生徒たちに、主はどのような行いを褒めてくださると思うか、またどのような思いや行いを正して下さるか、深く考えてもらいます。主が正して下さったならば、悔い改める目標を立てるよう生徒たちを励まします。

一人の生徒に、黙示 2:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、勝利を得る、すなわち最後まで忠実に堪え忍ぶ人々に主が約束された事柄を見つけてもらいます。

- 勝利を得る者、すなわち義にとどまって最後まで堪え忍ぶ者たちに、主はどのような約束をしておられますか。
- 「いのちの木の実を食べる」とはどのような意味だと思いますか（7 節）。

- 個人的に正していただいた後で、この約束された祝福について聞いたことは、エペソの聖徒たちにどのように有益だったでしょうか

エペソの教会の会衆に御言葉伝えたうえに、主は小アジアの他の教会の会衆に宛ててもお話しになったことを生徒たちに思い起こしてもらいます。

クラスを 5 つのグループに分け、次の参照聖句を一つずつ割り当てます。

1. 黙示 2:8-11
2. 黙示 2:12-17
3. 黙示 2:18-29; ジョセフ・スミス訳黙示 2:26-27 (この参照聖句を受け取るグループには、次のジョセフ・スミス訳黙示 2:26-27 ののコピーを配ります。「勝利を得る者、わたしの戒めを最後まで守り続ける者には、多くの王国を支配する権威を授ける。彼は神の言葉をもって、彼らを治めるであろう。そして陶器師の手の中の器のように、彼らは彼の手の中にあるであろう。そして彼は信仰により、公平と正義をもって治めるであろう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。』)
4. 黙示 3:1-6; ジョセフ・スミス訳黙示 3:1; ジョセフ・スミス訳黙示 3:2 (この参照聖句を受け取るグループには、次のジョセフ・スミス訳黙示 3:1-2 のコピーを配ります。「サルデスにある教会の僕に、こう書き送りなさい。『七つの星、すなわち神の七人の僕を持つ方が、次のように言われる。わたしはあなたの業を知っている。すなわち、あなたは、生きていっているのは名だけで、実は死んでいる。それゆえ、目を覚ましていて、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたの業が、わたしの神の御前に完全であるとは見ていない。』」)
5. 黙示 3:7-13

生徒たちに、グループごとに割り当てられた聖句を読んでもらい、主が聖徒たちに行うよう勧告された事柄、また聖徒たちがそのようにするときに授かる主の約束された祝福を見つけてもらいます。十二使徒定員会のブルース・R・マッコスキー長老は、黙示 2:17 の「隠されているマナ」について、次のように教えていることを説明します。「命のパン、神の善い言葉、命のパンである神の教義、これらの全てが世俗的〔この世的〕な思いから隠されています。それらを食べるものは決して餓えることがありません。永遠の命は、最終的に彼らが受け継ぐのです。」(*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻〔1965-1973 年〕, 第 3 巻, 451)

十分な時間を取った後、各グループの一人に見つけたことを発表してもらいます。一人の生徒に、各グループが見つけた約束された祝福をホワイトボード（黙示 2:7 の約束された祝福の下）に書いてもらいます（黙示 2:11, 17, 26:3:5, 12 参照）。書き終えたならば、それらの約束の一つ一つは、わたしたちが忠実に最後まで堪え忍ぶことを条件とする、昇栄の祝福を受けることを指していることを指摘します。

- 昇栄の祝福を受けるためにわたしたちが行わなければならないことについて、これらの聖句からどのような原則を見つけることができますか。（生徒たちが次のような原則を見つけられるよう助けます。もしわたしたちが勝利を得るならば、そのとき昇栄の祝福を受けることができる。）

昇栄の祝福を受ける人々は、神の恵みを通して、天の御父のもとへ戻ることを妨げるあらゆる障害に打ち勝つ人々であることを説明します。それらの障害には、この世的なこと、試練、罪、死を含みます。

生徒たちに、自分たちの生活の中で打ち勝つ必要のある事柄を考えてもらいます。天の御父のもとへ戻ることを妨げる障害に打ち勝てるよう、天の御父の助けを祈り求めるよう生徒たちに勧めます。生徒たちを全ての障害から救うための、天の御父の力について証します。

次の単元 (黙示 12 – 22 章)

最後の裁きと前世で起きた出来事について、今まで不思議に思ったことがあるか生徒たちに尋ねます。使徒ヨハネは、天での戦いについてどのように書きましたか。どのくらいの人々がサタンとともに投げ落とされましたか。最後の裁きとはどのようなものでしょうか。神の前に立つときに、わたしたちは何によって裁かれるでしょうか。日の栄えのすばらしさを、ヨハネはどのように表したでしょうか。次の一週間、黙示 12 – 22 章を研究するときに、これらの質問への答えを学ぶことを説明します。

黙示 12 - 13 章

はじめに

ヨハネは、龍が女性とその子供を脅かしている示現を見ました。それは主の教会とその忠実な教会員を滅ぼそうとするサタンの企みを象徴しています。ヨハネは、天での戦いと、神に

従う者たちに対して戦いを挑むこの世の国々について書きました。

教えるための提案

黙示 12 章

サタンとその使いたちが常に主と主の教会に対して戦いを挑んできたことがヨハネに示される

クラスが始まる前に、ホワイトボードに次の組み合わせ作業を書き写しておきます。レッスンを開始してから、数人の生徒に、左側の欄に挙げてある危険な兆候への対抗措置を、右側の欄に挙げてあるものの中から選び、線で結んでもらいます。

危険な兆候	危険な兆候への対抗措置
日焼け	黙示 12 章にある真理
敵の兵隊	葉あるいは休息
病気	日焼け止め、あるいは衣服
罪と罪悪感	悔い改めとイエス・キリストへの信頼
サタンの影響	戦争の武器

- これらの危険な兆候のうち、あなたが最近対抗しなければいけなかったものはどれですか。どれが一番危険だと思いますか。それはなぜですか。

黙示 12 章を研究しながら、サタンの影響に対抗する助けとなる真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。黙示 12 - 14 章では、第七の封印に関わる出来事についての説明が中断されており、ヨハネの示現の合間の出来事が記録されていることを説明します。「この世の国」と「われらの主……の国」(黙示 11:15) という言葉の意味をヨハネが理解できるよう、主が助けられたのかもしれない。

添付されている背後に龍のいる女性の絵を生徒たちに見せます。これらの象徴がどのようなことを表しているのか、生徒たちに考えてもらいます。

一人の生徒に、黙示 12:1-2, 5 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その女性に起こった事柄を見つけてもらいます。ジョセフ・スミス訳では、5 節が 2 節の直後に配置されていることを説明します。

- その女性はどうなりましたか。(女は「すべての国民を治めるべき」男の子を産んだ〔5 節〕。)
- 「鉄のつえをもってすべての国民を治める」とはどのような意味だと思いますか(5 節)。(その子は、福音、神権、神の言葉と力を象徴すると思われる鉄のつえを用い、義を持ってこの世のあらゆる国民を治めます〔ブルース・R・マッコンキー、*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 (1965 - 1973 年), 第 3 巻, 517 参照。])

一人の生徒に、黙示 12:3-4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、これらの聖句で説明されている象徴を見つけてもらいます。

- 1 - 5 節で説明されている象徴は、何を意味していると思いますか。

生徒に、ジョセフ・スミス訳黙示 12:7-8 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を黙読してもらいます。龍、女、子が表していることを見つけてもらいます。

- ジョセフ・スミス訳黙示 12:7-8 によると、ヨハネの示現の中の龍、女、子は何を意味していますか。(龍はサタン〔8 節参照〕を表し、女は「神の教会」を、子は「神とそのキリ

教える前に 聖文ブロックを 研究する

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、次のように教えています。「生徒を強める前に、皆さんが研究と信仰の両方によって王国の教義を調べ、福音を学ぶことが不可欠です。」(*The Gospel Teacher and His Message* [宗教教育者への説教, 1976 年 9 月 17 日], 5, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー) 各課の聖文ブロックを注意深く研究し、そこに含まれた教義と原則について深く考えます。それらの真理への信仰を増す努力をしてください。



ストの王国」〔7 節〕を表しており、それは主が全ての国民を治める福千年に主御自身が打ち立てられる民の王国である。〔これらの聖文の象徴についてのさらに詳しい説明は、*New Testament Student Manual* (教会教育システム手引き、2014 年)、550 - 552 を参照してください。〕

- 黙示 12:4 によれば、龍の意図は何でしたか。サタンは、なぜ神とキリストの王国をしつこく破壊しようとするのだと思いますか。

一人の生徒に、黙示 12:6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、龍が脅かすために、女性が何をしたかを見つけるように言います。

- その女性はどうなりましたか。これはどのようなことを象徴しているのでしょうか。(荒れ野に逃げ込む女性は、使徒たちの死後、教会が大背教に陥り、神権が地上から取り上げられることを意味します〔教義と聖約 86:3 も参照。〕)

ヨハネは、龍が女性とその子供を脅かしているのを見た後、サタンと神の聖徒たちとの間の天での戦いを見たことを説明します。数人の生徒に、ジョセフ・スミス訳黙示 12:6 - 11 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を順番に声に出して読んでもらいます。クラスの半分の生徒に、天での戦いでサタンがどうなったかを見つけてもらい、残り半分には、神の聖徒たちはどのようにしてサタンとそれに従う者たちに打ち勝ったかを見つけてもらいます。

- サタンとそれに従う者たちはどうなりましたか。(黙示 12:4 には、龍がその尾で「天の星の三分の一を掃き寄せ〔た〕」と述べていることを指摘するとよいでしょう。これは、サタンに従うことを選んだ、天の御父の霊の子供たちの数の多さを象徴しています。また、「ミカエルとその使いたち」〔ジョセフ・スミス訳黙示 12:6〕とは、アダムと他の義になかった神の霊の子供たちであることも説明するとよいでしょう。)
- 11 節によれば、義になかった天の衆群は、どのようにしてサタンに打ち勝ったのでしょうか。(『小羊の血……によって』すなわち救い主の贖罪を通して、そして福音に対する自分の証に忠実であり続けることによって。これらの答えをホワイトボードに書きます。)
- 8 - 9 節によれば、反逆の後、サタンとそれに従う者たちはどこに送られましたか。

一人の生徒に、ジョセフ・スミス訳黙示 12:12、17 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳〔抜粋〕」) を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、天から追い出された後、サタンは誰に対して戦いを挑んだかを見つけてもらいます。

- 天から追い出された後、サタンは誰に対して戦いを挑んだのですか。
- 11 節から分かることに基づくと、今日サタンの影響や攻撃に打ち勝つために、わたしたちにはどのようなことができますか。(次のような原則を見つけられるよう、生徒たちを助けます。わたしたちは、救い主の贖罪や、福音の証に忠実であることによって、サタンの影響に打ち勝つことができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)

一人の生徒に、七十人のジェームズ・J・ハムラ長老の次の話を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、サタンがどのようにして自分たちの世代を攻撃しているかを見つけてもらいます。



「この末日に生を受け、御父と御子のために働くように取っておかれたのが、御父の息子、娘の中で最も勇敢で気高い霊たちです。彼らの勇気と気高さは、前世のサタンとの戦いで証明されています。……」

神の王国が地に回復され、皆さんが地上にやって来たことから、サタンは『自分の時が短いのを』知っています〔黙示 12:12〕。だからこそ、サタンはあらゆる手段を駆使して、皆さんを背きの道に誘い込もうとしているのです。皆さんを背きの道に引きずり込めば、専任宣教師として伝道したり、神殿結婚をしたりするのを妨げることになるでしょうし、将来の子供たちを信仰によって守れなくなるのを知っているからです。これは全て、皆さん自身だけでなく教会を弱めることとなります。サタンは、神の王国が『民の背きのほかに』打ち倒されることがないのも知っています〔モーサヤ 27:13〕。間違いなく、今や、この戦いの焦点は……皆さんに当てられています。」「(悪との戦いに勝つ)『リアホナ』2008 年 11 月号、50 - 51)

- サタンとそれに従う者たちは、どのようにしてわたしたちを弱めようとするのでしょうか。

サタンは生徒たちに一人一人に対して、どのように戦いを挑もうとするかを考えてもらいます。

- イエス・キリストを信じる信仰を増し、主に対する自分の証を強めるために、どのようなことができるでしょうか。(生徒たちの回答をホワイトボードに書きます。)

次の二つの文を読み上げて、生徒たちにそのうちの一つに対する答えを、クラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

1. 救い主の贖罪に対するあなたの証と信仰が、サタンの影響に対抗する助けとなった経験について書きます。
2. イエス・キリストの贖罪についてのあなたの証を記録し、サタンとそれに従う者たちに対する戦いにおいて、贖罪がわたしたちをどのように助けるかを説明します。

十分な時間を与えた後、数人の生徒に書いたことを発表してもらいます。

ホワイトボードに書かれたアイデアのうち幾つかを選び、サタンとそれに従う者たちに対するあなた自身の戦いにおいて、それらを応用するよう励まします。

黙示 13 章

ヨハネ、サタンから力を得る地上の国々について書く

黙示 13 章の要約として、ヨハネは、サタンによって支配された邪悪なこの世の国々を表す、恐ろしい様相の獣の示現を見たことを説明します。ヨハネはまた、これらの国々を通し、サタンが地上の住人たちを欺くために大いなるしるしを行い、偽りの奇跡を起こすのを見ました。

マスター聖句の復習

セミナーの最終週の間マスター聖句の最終テストをすることを考えておきましょう。生徒が自宅で、またはテストの直前に勉強するよう励ますとよいでしょう。以下はテストとして利用できる見本です(これらの案を生徒たちの必要に合わせて調整してください)。

引用テスト—マスター聖句のヒントを幾つか挙げます。それらのヒントは、キーワード、教義や原則、聖句の要約などです。ヒントを一つ与えるごとに、紙にそのヒントが示すマスター聖句を書いてもらいます。

教義テスト—ホワイトボードに基本的教義を書きます。それぞれの教義の下に、対応するマスター聖句を挙げてもらいます。生徒がこれを行うときには、記憶に頼っても、マスター聖句のリストを用いてもよいでしょう。

暗唱テスト—マスター聖句から暗記した語彙や原則を使って、基本的教義を説明してもらいます。自分の説明を書き出して、クラスで読み上げてもらいます。

マスター聖句と基本的教義をマスターするための努力を褒めることを忘れずにしましょう。わたしたちがマスター聖句や教義をマスターすることで得られる霊的な力や証について証します。

注釈と背景情報

黙示 13 章 恐ろしい様相の獣

その獣がこの世の王国を表すという知識を除いては、その獣について主からはどのような解釈も与えられていません。黙示録の不可解な部分について語ることに限って、ジョセフ・スミスは次のように述べています。

「いかなる種類のものであれ、神がある象徴的なもの、獣、形あるものを示現として授けられる場合、神は常にその示現の意味について啓示なり解釈なりを与える責任を負っておられる。そうでなければ、わたしたちはそれをどう考えるかに関して責任を問われることはない。……

獣の示現や自分が理解していない事柄に決して手を出してはなりません。」(*History of the Church*, 第 5 巻, 343, 344 で引用)

黙示 13:8 「〔世の初めから〕ほふられた小羊」

「ほふられた小羊 (英語では『世の初めからほふられた小羊』) (黙示 13:8) という表現は、イエス・キリストと主の贖罪を指しています。「世の初めから」とは、この世が創造される前の、前世を指しています。ですから、わたしたちはこの聖句から、救い主の贖罪の効力はイエスがお生まれになる前からあったことが理解できます。例えば、キリストの時代以前に生きていた人々は、救い主がお生まれになる前でさえも、キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、主の贖罪の力を通して罪を赦されることができました (教義と聖約 20:25 - 26)。

第 157 課

黙示 14 - 16 章

はじめに

示現の中で、使徒ヨハネは、御使いが末日にイエス・キリストの福音を回復するのを見ました。ヨハネはまた、主に忠実であるまま死んだ者たちにもたらされる祝福について説明する、天

の声を聞きました。ヨハネは、末日における義人の集合と悪人の集合、さらに、神の裁きが悪人のうえに下されるのを見ました。

教えるための提案

黙示 14 章

ヨハネ、福音の回復と義人と悪人の集合を見る

ホワイトボードに次の質問を書きます — この世が邪悪、災害、暴力であふれているときでさえ、平安を感じることは可能でしょうか。

数人の生徒にこの質問に答えてもらい、その答えについて説明してもらいます。

黙示 14 - 16 章を研究しながら、生徒たちに、イエス・キリストの再臨の前の邪悪で無秩序な世界に生きるときに、平安をもたらすことのできる真理を見つけてもらいます。

黙示 14 : 1 - 13 に記録されているように、使徒ヨハネは末日についての示現を見たことを説明します。ヨハネは示現の中で、悪人にもたらされる災いを見ました。ヨハネはまた、何が義人に対し平安をもたらすかを見ました。

一人の生徒に、黙示 14 : 1 - 15 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが、末日にどのようなことが起こるのを見たかを見つけてもらいます。

- ヨハネは、末日にどのようなことが起こるのを見ましたか。

生徒たちに、十四万四千人とは、福音をつかさどり、人々を教会に導くために、あらゆる国民から聖任されるイスラエルの十二部族の大祭司であることを思い起こしてもらいます（黙示 7 : 4 - 8 ; 教義と聖約 77 : 11 参照）。

- 4 - 5 節によると、全地で福音をつかさどる十四万四千人の大祭司について、ヨハネはどのように説明しましたか。（「女にふれたことのない」〔4 節〕という表現は純潔を意味し、「彼らの口には偽りがなく」〔5 節〕とは正直で誠実であること、「傷のない」〔5 節〕とは、罪から清められていることを意味することを説明します。）
- 純潔であり、正直で、罪のないことが、十四万四千人の大祭司たちが人々に福音を伝えるのに、どうして役立つと思いますか。

ヨハネは末日についての示現の中で、三人の御使いを見たことを説明します。三人の生徒たちに、その三人の御使いの役をしてもらいます（その生徒たちは着席したままで構いません。）最初の御使い役の生徒に、黙示 14 : 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御使いが何を携えていたかを見つけてもらいます。

- 御使いは何を携えていましたか。

最初の御使いの役の子に、教義と聖約 133 : 36 - 37 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その御使いが永遠の福音を携えて何をしたかを見つけてもらいます。

- その御使いは永遠の福音を携えて何をしましたか。

「ジョセフ・スミスの部屋に訪れたモロナイ」の絵を見せます（『福音の視覚資料集』91 番。LDS.org も参照）。一人の生徒に、モロナイがジョセフ・スミスに最初に訪れたときにどのようなことがあったかを詳しく話してもらいます。（生徒たちがそれらの出来事を思い出す必要がある場合は、一人の生徒に、ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 29 - 35 を声に出して読んでもらうとよいでしょう。）

- 神の指示の下、モロナイは、地上に福音を回復する助けとなるよう、ジョセフ・スミスに何を授けたでしょうか。（モルモン書を取めた記録。）





『福音の視覚資料集』にある「ソルトレーク神殿」(119番。LDS.orgも参照)の写真など、上に天使モロナイの像が置かれている神殿の写真を見せます。

- 天使モロナイの像が、わたしたちの神殿の上に置かれているのはなぜだと思いますか。

総大会の説教で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は黙示14:6を引用して次のように宣言していることを説明します。「この御使いは既に地を訪れています。その名はモロナイです。」(「この道を歩み続け、信仰を保つ」『リアホナ』1996年1月号, 76) その御使いは、末日におけるイエス・キリストの福音の回復を助けた、モロナイを含む、多くの天の使者を総合して象徴しているのでしょうか(ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻[1965-1973年], 第3巻, 529-531参照。教義と聖約13章:110:11-16;128:20-21も参照)。

最初の御使い役の子供に、黙示14:7を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その御使いは何と言ったかを見つけてもらいます。

- その御使いは何と言いましたか。
- 「神のさばきの時がきた」という言葉はどのような意味でしょうか。(イエス・キリストが、地上の全ての人々を裁く時が来る。主の裁きは、再臨のとき[マラキ3:1-5参照]および最後の裁きのとき[2ニーファイ9:15参照]の両方にあります。)
- わたしたちが学んできたことによれば、神がイエス・キリストの福音を回復された一つの理由は何でしょうか。(生徒たちは、次の真理を見つけるはずで、神は、この世に住む人々をイエス・キリストの再臨に備えるためにイエス・キリストの福音を回復された。)
- イエス・キリストの福音は、どのような点で人々を主の再臨に備えさせるのでしょうか。

邪悪で無秩序な世界を生きる中で、回復されたイエス・キリストの福音は、どのように平安をもたらす助けとなったか、生徒に深く考えてもらいます。何人かの生徒に感じたことを発表してもらいます。

第二の御使い役の子供に、黙示14:8を声に出して読んでもらい、第三の御使い役の子供に、黙示14:9-11を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、その御使いたちが何と言ったかを見つけてもらいます。

- 8節によると、第二の御使いは何と言いましたか。(「バビロンは倒れた」という表現の意味の一つは、この世の邪悪が終わる日が来るということであると説明します。)
- この世の邪悪が終わるということを知ることは、どのようにわたしたちに平安をもたらすでしょうか。
- 9-11節によると、第三の御使いは、「獣」(9節)、すなわちサタンに従うことを選んだ者はどうなると言いましたか。

一人の生徒に、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、悪人が死んだ後で経験する苦痛を預言者がどのように説明したかに耳を傾けてもらいます。



「死後に行く霊の世界において死者の霊が受けるひどく惨めな状態とは、他の人々が享受し、自らも享受できたかもしれない栄光を自分は受けられないと知ることです。彼らは自分で自分を訴えるのです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』224)

「人は自分で自分を苦しめ、自分に罪の宣告をします。このことから、彼らは火と硫黄の燃える池の中に行くであろう、と言われているのです[黙示21:8参照]。人の思いに生じる失望という苦痛は、火と硫黄の燃える池と同じくらいに激しいものです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』224)

- 預言者ジョセフ・スミスによると、悪人が死んだ後で経験する苦痛にはどのようなものがあるでしょうか。

悪人が死後どんな目に遭うかを知った後、ヨハネは、義人が死後経験をすることを説明する天からの声を聞いたことを指摘します。

一人の生徒に、黙示14:12-13を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、義人は死んだ後でどのようなことを経験するのかを見つけてもらいます。

- 義人は、死んだ後でどのようなことを経験しますか。
- 彼らは「その労苦を解かれて休[む]」とはどのような意味だと思いますか(13節)。

- 12 - 13 節のヨハネの教えを、原則としてどのように要約することができますか。(生徒たちはさまざまな言葉を用いるかもしれませんが、次のような原則を見つけていることを確認します。義になつた生活をすれば、わたしたちは死後、わたしたちの働きのために祝福を受け、労苦を解かれて休むことができる。)
- この原則は、邪悪に取り囲まれているときでさえも、どのように平安をもたらすのでしょうか。

邪悪な世界で義になつた生活を選ぶことの大切さについて、あなたの証を述べるとよいでしょう。悪人の苦痛をこうむるのではなく、義人の平安を享受することを確かなものとするために、生徒たちに、自分の生活において何ができるかを深く考えてもらいます。受けた印象に従って行動するよう生徒に勧めます。

黙示 14 : 14 - 20 の要約として、ヨハネは二つの刈り入れについて述べたことを説明します。示現の中で、ヨハネは、最初の刈り入れで、義人が悪人から刈り集められるのを見ました(14 - 16 節参照)。そして 2 回目の刈り入れで、悪人が刈り集められ、最終的には滅ぼされるのを見ました(17 - 20 節参照)。

黙示 15 - 16 章

ヨハネ、日の栄えの王国の義人と末日の 7 つの災いを見る

一人の生徒に、黙示 15 : 1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネが、終わりの時に他にどのようなことが起こるのを見たかを見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

黙示 15 - 16 章に記録されているとおり、ヨハネは、終わりの時に悪人を苦しめる 7 つの災いについて述べたことを説明します。しかし、それらの災害を述べる前に、ヨハネは義人が受ける祝福を繰り返し述べるために間を置きました。黙示 15 : 2 - 4 の要約として、ヨハネは、サタンに打ち勝ち、日の栄えの王国で神を賛美する人々の示現を見たことを説明します。

七つの小瓶が鉢の絵をホワイトボードに描いて、1 から 7 の番号をつけます(またはただ数字だけをホワイトボードに書きます)。ヨハネは、示現の中で、災いの入っている七つの鉢を見ました。

数人の生徒たちに、黙示 16 : 2 - 4, 8 - 12, 16 - 21 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネは七つの災いについてどのように述べたかを見つけてもらいます。それぞれの災いが述べられた後に時間を取って、一人の生徒にホワイトボードの当てはまる鉢(または番号)の下にその災害を書いてもらいます。

生徒が第三の災害を読んだら、一人の生徒に、黙示 16 : 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、終わりの時に人々がその災いを被る一つの理由を見つけてもらいます。

- 人々がその災いを被る一つの理由は何ですか。

生徒たちが第六の災いの説明を読んだ後で、その災害のときに、ハルマゲドンでの戦いのために全世界の王たちの召集に備えるために、ユウフラテ川がかわってしまうことを説明します(黙示 16 : 12 - 16 参照。ゼカリヤ 12 : 11 も参照)。この戦いの終わりに、救い主はエルサレムの民に(教義と聖約 45 : 47 - 53 参照)、そして地上の全ての人々の前に御姿を現されます(マタイ 24 : 30 ; 教義と聖約 101 : 23 参照)。

一人の生徒に、黙示 16 : 15 を声に出して読んでもらい、他の生徒には、イエス・キリストの再臨に備えるために何ができるかを見つけてもらいます。「裸のままで歩かないように、……着物を身に着けている」という表現は、霊的に備えられたことを指すことを説明します。

- 15 節によると、イエス・キリストの再臨に備えるために何ができるでしょうか。(生徒たちは、次の原則を見つけているでしょう。わたしたちが注意深くあり、霊的に備えるなら、イエス・キリストの再臨に備えることができます。)
- 霊的に備えられるための方法には、どのようなものがあるでしょうか。

証する

あなたにできる最も大切なことは、福音の真理と、天の御父とその御子への愛を証することです。生徒たちが邪悪な世界に生きる難しさに直面するときに、あなたの証は生徒たちの信仰を強化し、彼らを慰めることができます。

主は御自分の民を愛しておられ、わたしたちが御自分の再臨に備えることを望んでおられることを証します。生徒たちに、主の祝福を受けられるように、注意深くあり、霊的に備えるよう励まします。

黙示 17 - 19 章

はじめに

ヨハネは、霊のバビロン、すなわち邪悪な世界が、神の小羊に戦いを挑み、小羊が悪に打ち勝つのを見ました。聖徒たちは霊のバビロンから離れ去るように指示され、清く義にかなった者

たちは、小羊の婚宴に招かれます。ヨハネは、イエス・キリストが、御自身に対し戦いを挑んだ者たちを滅ぼすための偉大な力を携えて来られるのを見ました。

教えるための提案

黙示 17 - 18 章

ヨハネ、霊のバビロンの崩壊を予見する

ホワイトボードに、七十人のリン・G・ロビンズ長老の次の言葉を書き、一人の生徒に、声に出して読んでもらいます。(この言葉は“*Avoid It*” [ブリガム・ヤング大学ディボーションナル, 2013年9月17日], 1, speeches.byu.edu [英語] にあります。)

「誘惑に逆らうことよりも、誘惑を避けるほうが簡単です。」(リン・G・ロビンズ長老)

- 誘惑に逆らうことよりも、誘惑を避けるほうが簡単なのはなぜだと思いますか。
- わたしたちが常に誘惑に逆らわなければならないような状況に自分を置くなら、どうなるでしょうか。

生徒たちに、黙示 17 - 18 章を研究しながら、世の中の罪と多くの誘惑を避ける方法を知る助けとなる真理を見つけてもらいます。

ヨハネは、示現の中で、七人の御使いが終わりの時に悪人に災いをもたらすのを見たことを生徒に思い出してもらいます(黙示 16 章参照)。一人の生徒に、黙示 17:1 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、七人の御使いの一人が、ヨハネに何を見せると言ったかを見つけてもらいます。

- その御使いは、ヨハネに何を見せると言いましたか。

生徒たちに、黙示 17:15 を黙読して、水が何を表すかを見つけてもらいます。

- 15 節によると、その女の座っている所の水は、何を表していますか。(彼女が権力と影響力を持つ民族や国民 [1 ニーファイ 14:11 も参照]。)

数人の生徒に、黙示 17:2 - 6 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、この女や、世に及ぼす彼女の影響を説明する言葉や表現を見つけてもらいます。

- どのような言葉や表現がその女を表していますか。
- 2 節によると、地の王たちや、地に住む人々に対するこの女の影響が、どのように説明されているのでしょうか。
- 6 節では、女が聖徒の血と証人の血に酔いしれているということによって、何が示されていると思いますか。(全ての時代を通じて、多くの義人が悪人に殺されており、聖文は、義人を殺害することは、虐殺を行う人々を酔いしれさせる影響があることを示唆しています。)

3 節で説明されている獣とは、ヨハネの時代のローマ、さらには、終わりの時の墮落した王国と国民を意味しているのかもしれないことを説明します(黙示 17:8 - 13 参照)。

生徒たちに、1 - 6 節に述べられている女は誰または何を表しているのかを考えるように言います。生徒たちに、黙示 17:18 を黙読して、その女が意味しているものを見つけてもらいます。

- 18 節によると、その女は何を表していますか。

「大いなる都」(18 節)とは、霊のバビロン(教義と聖約 133:14 参照)を指していることを説明します。古代のバビロンが世俗的で墮落したことから、またそこはイスラエルの子孫が捕らえられていた所であったために、しばしば聖典において、バビロンは、罪、世俗的なこと、地上での悪魔の影響、霊的な束縛、を比喩的に表すために使われます(1 ニーファイ 13:1 - 9; 14:9 - 10 も参照)。

ホワイトボードに次のことを書きます — 女=バビロンまたはこの世の邪悪

生徒たちに、黙示 17:14 を黙読して、バビロンが戦いを挑むのは誰かを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- 誰がこの戦いで勝利を得るでしょうか。(生徒たちが答えた後で、次の真理をホワイトボードに書きます。終わりに時には、イエス・キリストが、この世の邪悪に打ち勝たれる。)
- この真理を知っていることは、イエス・キリストに従う者であるあなたにとって、どのような助けになりますか。

黙示 18:1-3 の要約として、もう一人の御使いが、邪悪なバビロンが倒れたことを告げたことを説明します。

一人の生徒に、黙示 18:4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が、御自身の民に何をしよう指示されたかを見つけてもらいます。

- 主は、御自身の民に何をしよう指示されましたか。
- 主は御自身の民に、バビロンから離れ去る理由は何であると言われましたか。(この世の罪と災害、または悪人のうえにもたらされる裁きを避けるため。)
- この世の邪悪から離れるようにという、主の御自分の民への指示から、どのような真理が分かるでしょうか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うでしょうが、次のような真理を見つけていることを確認します。この世の邪悪から離れることは、終わりの時に悪人のうえにもたらされる罪や裁きを避ける助けとなる。4 節の中でこの真理を教えている言葉に印をつけるよう生徒たちに勧めてもよいでしょう。)

生徒を 2 人から 4 人のグループに分けます。各グループに生徒たちに次の質問を配付資料にして配り、その質問についてグループで話し合うよう指示します。

改心を促す原則に 重点を置く

聖文ブロックで教える事柄を決めるとき、生徒を天の御父と救い主に近づけるのに役立つ真理に重点を置いてください。大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように勧告しています。「レッスンを準備するとき、改心を促す原則を見つけてください。……改心を促す原則とは、神の御心に従うように導く原則です。」(“*Converting Principles*” [L・トム・ペリー長老とのタペ、1996 年 2 月 2 日], 1. *si.lds.org*)

自分自身を霊のバビロンから引き離す

- 回復されたイエス・キリストの福音は、どのようにして、わたしたちがこの世の邪悪から離れる助けとなるでしょうか。
- わたしたちが、自分と同じ標準を守らない人々の間で引き続き生活し、愛を示し、交流しながら、この世の邪悪から離れるために何ができるでしょうか。
- 義にかなっていない影響や行いから離れることは、あなたやあなたの知人が、この世の誘惑や罪を避けるうえで、どのように助けとなってきたでしょうか。

十分な時間の後、数人の生徒たちに、グループで話し合った内容を発表してもらいます。生徒たちに、次のことを一枚の紙に書いてもらいます。(1) 離れる必要がある義にかなっていない影響や行い、(2) どうすればそれができるか。その紙をしばしば見ることができるところに貼ってもらい、書いたことに基づいて行動するよう生徒を励まします。

黙示 18:5-24 の要約として、ヨハネは、邪悪なバビロンが倒れ、バビロンを支えていた者たちが悲しむのを見たことを説明します。

黙示 19 章

ヨハネ、イエス・キリストが、御自身に対して戦いを挑んだ者たちを滅ぼすための力を携えて来られるのを見る

生徒たちに、花嫁と花婿の写真を見せます。結婚式の日に、将来の伴侶にささげることのできる、最良の贈り物は何だと思うか、生徒に尋ねます。生徒が答えてから、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を読みます。

「結婚式の日に永遠の伴侶にささげることのできる最良の贈り物、それは最良の自分自身、すなわち清らかで、純粋な自分、そのような清さを報いとして受けられる自らのふさわしさです。」(「個人の清さ」『リアホナ』1999 年 1 月号、84 - 85 参照)

- なぜ清らかで純粋であることが、結婚式の日にあなたから伴侶にささげることのできる最良の贈り物なのでしょう。

黙示 19 章では、婚姻にたとえて、救い主の再臨が記録されていることを説明します。黙示 19:1-6 の要約として、ヨハネは、義人たちが、悪人たちに裁きを下さす神を賛美するのを見たことを説明します。

一人の生徒に、黙示 19:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、御使いがヨハネに告げたのは、誰の婚姻であったかを見つけてもらいます。

- 御使いがヨハネに告げたのは、誰の婚姻でしたか。
- 小羊の花嫁について、ヨハネは何を学びましたか。

「小羊の婚姻」(黙示 19:7) は、救い主の再臨を指していることを説明します。一人の生徒に、十二使徒定員会のブルース・R・マッコスキー長老の次の話を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、小羊の花嫁は誰なのかに耳を傾けてもらいます。

「この神権時代に、神の小羊である花婿が、その再臨を待ち望んできた忠実な聖徒たちからなる教会である花嫁を迎えに来られます。」(*Mormon Doctrine*, 第 2 版 [1966 年], 469)

- 婚姻関係はどのような点で、わたしたちとイエス・キリストとの聖約関係の象徴として適切であるのでしょうか。(婚姻とは、忠実さ、犠牲、愛、献身、信頼を必要とする関係であることを説明するとよいでしょう。)

一人の生徒に、黙示 19:8-9 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、救い主の再臨に自らを備えるために、聖徒たちができることは何かを見つけてもらいます。汚れのない麻布の衣とは、神聖さ、清さ、義を象徴していると考えられることを説明するとよいでしょう。

- 小羊の花嫁の衣によって象徴されるように、主イエス・キリストの再臨に自らを備えるために、わたしたちは何をしなければならないでしょうか。(生徒たちが答えた後、ホワイトボードに次の原則を書きます。わたしたちが清く、義にかなえば、主イエス・キリストの来臨に備えることができる。)

罪から清められ、義にかなう者となることは、神からの贈り物です。

- わたしたちが罪から清められ、義にかなう者となる道を備えるために、神は何をしてくださいましたでしょうか。
- 清く義にかなうことは、救い主が再び来られる際に、主にささげることのできる、最良の贈り物の一つであるのはなぜだと思いますか。

生徒たちに、黙示 19:10 を黙読してもらい、御使いの宣言を聞いた後、ヨハネがどのような反応をしたかを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

- 御使いは、自分と神の他の僕たちが何を持っていると、ヨハネに宣言しましたか。(イエスの証、すなわち預言の霊。)

「預言の霊」(10 節)とは、人が神の言葉を受け、話すことを可能とする、神からの啓示と靈感の賜物を指していることを説明します(『聖句ガイド』『預言』, scriptures.lds.org 参照)。

- イエスについての証を持つ人は、再臨にどのように備えるでしょうか。

数人の生徒に、黙示 19:11-16 とジョセフ・スミス訳黙示 19:15 (『聖句ガイド』内「聖書のジョセフ・スミス訳 [抜粋]」)を、順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、再臨の時の救い主について述べている言葉や表現を見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒たちに言います。

11 節で述べられている白い馬は、征服と勝利の象徴であることを説明します。救い主は、罪と邪悪を征服するために来られます。

- 13 節では、救い主の衣はどのように述べられていますか。(「血染めの衣」という表現は、救い主の衣は血の色となるという意味であることを説明します。この色は、救い主の再臨のときの悪人の滅亡を象徴し[教義と聖約 133:46-51 参照]、また、救い主が贖罪において経験された苦しみを、わたしたちに思い起こさせます。)

ジョセフ・スミス訳黙示 19:15 では、ヨハネは、救い主が王の王、主の主として来られるときに、神の言葉により諸国民を治められるのを見たことが明らかにされていることを指摘します。黙示 19:17-21 の要約として、ヨハネは、神の小羊に対し戦いを挑んだ者たちの滅亡を見たことを説明します。

イエス・キリストの来臨に自分自身を備えるために生徒たちができることを、深く考えてもらってレッスンを終わります。受けた促しに従って行動するよう生徒を励まします。

黙示 20 章

はじめに

ヨハネは示現の中で、イエス・キリストの福千年の統治の直前とその期間に起きる出来事を見ました。また、福千年の終わりの、サタンと神の軍勢との間の最後の戦いも目撃し、最後

の裁きも見ました。福千年の間に、神は書物に書かれたことに従って全ての人々を裁きます。

教えるための提案

黙示 20：1－6

ヨハネ、示現の中で、イエス・キリストの福千年の統治の直前とその期間に何が起きるかを見る

生徒たちに、自分は負けると思っていながらも参加したコンテストや競技（例えば、美術コンテストやスポーツ大会）のことを考えてもらいます。その後で、自分が勝つと思いつながりながらコンテストや競技に参加したときのことを考えてもらいます。

- コンテストや競技の結果についての自分の予想によって、その場での取り組み方はどのように変わるでしょうか。
- 負けると思っていると、なぜ人は諦めてしまうことがあるのでしょうか。負けてしまうと思っていたのに実際は勝ったのは、どのようなときですか。

黙示 20 章の研究では、善と悪の間の戦いと、その戦いの結末についてさらに学ぶことを、生徒たちに説明します。黙示 20 章を研究しながら、その戦いの間に救い主に忠実であり続けることができるように励ます真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、黙示 20：1－3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福千年の間サタンはどうなるのかを見つけてもらいます。

- 福千年の間、サタンはどうなるでしょうか。（底知れぬ所とは地獄を表していることを説明します。）
- 3 節によると、サタンは自分がつなぎおかれているために、どのようなことをすることができないでしょうか。

一人の生徒に、黙示 20：4－6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネは誰が裁かれるのを見たのかを見つけてもらいます。

- 4 節によると、ヨハネは誰が裁かれるのを見たでしょうか。
- それらの人々は、その忠実さのゆえにどのような報いを受けましたか。
- 福千年の間、それらの人々はどのようなことにあずかるでしょうか。（第一の復活。）
- イエス・キリストに忠実であるならばわたしたちはどのような祝福を受けられるかについて、黙示 20：4－6 からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。（生徒はさまざまな言葉を用いるかもしれませんが、次のような原則を見つけるはずで、イエス・キリストに忠実であるならば、第一の復活にあずかり、福千年の間キリストとともに統治することになる。）

第一の復活は、イエス・キリストの復活とともに始まり、それにはキリストが復活される前に死んだ義人を含むことを説明します（モーサヤ 15：21－25；アルマ 11：16－20 参照）。キリストの復活の後に死んだ義人の大部分は、イエス・キリストの再臨に関連して復活します（ジェームズ・E・タルメージ、*The Articles of Faith*、第 12 版〔1924 年〕、385 参照）。悪人と悔い改めない者は、福千年の終わりに起こる第二の復活まで復活しません（教義と聖約 76：85 参照）。

- 第一の復活にあずかり、福千年の間、イエス・キリストとともに統治すると知るとは、今あなたが悪との戦いにおいて忠実であるためにどのような助けになりますか。

忠実であり続ける人々は、第一の復活にあずかり、福千年の間、救い主とともに統治することについて証してください。

黙示 20:7-11

ヨハネ、福千年の終わりに、サタンと神の軍勢が最後の戦いをするのを見る

ホワイトボードに次の未完成の文を書きます — 福千年の終わりに、_____。

一人の生徒に、黙示 20:7-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福千年の終わりに起こるとヨハネが述べた出来事を見つけてもらいます。

- ヨハネは、どのような出来事を述べましたか。(8 節の「ゴグ」と「マゴグ」という名前は、主の民との最後の戦いのために、福千年の終わりにサタンが用いる軍勢を指しています〔教義と聖約 88:110-114 参照〕。)
- その戦いの後で、悪魔とそれに従う者たちはどうなるのでしょうか。(生徒たちが答えたら、次の事柄を意味するように、ホワイトボードの文を完成させます。福千年の終わりに、神の軍勢はサタンとそれに従う者たちを打ち負かす。)
- わたしたちが、神とサタンとの間の戦いの最終的な結末を理解することは、なぜ大切なのでしょうか。

黙示 20:12-15

ヨハネ、最後の裁きを見る

天の御父の救いの計画の一部として、この世に生きた全ての者は、裁きを受けるために神の前に立つことを説明します。生徒たちに、最後の裁きがどのようなものであるかを想像するように言います。

- 裁きを受けるために神の前に立つときに、何を考え何を感じたいですか。

一人の生徒に、黙示 20:12-13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちは神にどのように裁かれるかを見つけてもらいます。

- 12 節から、わたしたちが裁かれる方法について、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちはさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見つけるはずです。全ての人、その仕業に応じ、この書物に書かれていることに従って神に裁かれる。)
- ヨハネは、どのような書物を見ましたか。(聖典、救いの儀式およびおそらくはその他の行いを記録した教会の記録、命の書〔2 ニーフアイ 29:10-11; 教義と聖約 128:6-7 参照〕。)

一人の生徒に、命の書についての次の説明を読んでもらいます。


「ある意味で命の書とは、人の思いと行いを一まとめにしたもので、人生の記録である。しかし聖典は、忠実な人について記録が残されているとも教えている。その書には忠実な人々の名前と、彼らの義にかなった行いが記されている(教義と聖約 88:2; 128:7)。」(『聖句ガイド』「命の書」)

主は、わたしたちの行いに加えて、その心の望みに応じて裁かれることを預言者ジョセフ・スミスに明らかにされたことを指摘します(教義と聖約 137:9 参照。アルマ 41:3-5 も参照)。

- 黙示 20:13 によると、わたしたちが裁かれる前にどのようなことが起こるのでしょうか。(必要であれば、「海はその中にある死人を出し、死も黄泉もその中にある死人を出し」とは、全ての人々の復活を指していることを説明します。)
- 裁きを受けるために神の前に立つ前に復活する意義は何でしょうか。

わたしたち一人一人が神の前に立ち裁きを受けること、そして今の行いがそこでどのような経験をするかを決定することを証します。次の質問を声に出して読み、生徒に、質問に対する答えをクラスノートや聖典学習帳に書いてもらいます。

- 主の裁きに備えるために、自分の人生でどのようなより良い行いができますか。

 黙示 20:12

は、マスター聖句です。マスター聖句を研究することは、生徒が基本的教義をさらに理解し、それを他の人に教える準備をするのに役立ちます。見つけやすいように、特別な印をつけるとよいでしょう。レッスンの終わりにあるマスター聖句の教え方のアイデアを参照し、生徒がこの聖句をマスターできるように助けてください。

 **マスター聖句—黙示 20 : 12**

生徒たちに、聖文研究のための脚注や『聖句ガイド』(scriptures.lds.org で利用可能) などの参考資料を使い、最後の裁きについて教えている他の聖句を見つけるよう勧めるとよいでしょう。生徒たちは、自分の聖典の黙示 20 : 12 の近くに、それらの参照聖句を書くといいでしょう。生徒たちに、この活動を通して分かった最後の裁きについての他の真理を、クラスで発表してもらいます。

黙示 21 – 22 章

はじめに

ヨハネは、新しい天と新しい地があり、新エルサレムが天から下って来るのを見ました。また、神が、御自分の民とともに住まわれて慰めをお与えになり、神の日の栄えの都が地上に設けられるのを見ました。ヨハネは、命の書に名前を記された人々

が、その都に入り、栄光のうちに神とともに住むのを見ました。ヨハネは、主が地上へお戻りになるようにとの懇願により、この示現を締めくくりました。

教えるための提案

黙示 21 章

ヨハネ、新しい天と新しい地、さらに神の日の栄えの都を見る

生徒たちに、自分の人生で、大きな悲しみや苦しみを経験したときのことを考えるよう言います。

- 人生で、わたしたちに、大きな悲しみや苦しみを与えると考えられるのはどのようなことでしょうか。（ホワイトボードに生徒たちの答えを書きます。）

黙示 21 章を研究しながら、苦難のときに慰めをもたらす真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

黙示 21 – 22 章は、使徒ヨハネによる、イエス・キリストの再臨の後に起きる出来事についての示現の続きであることを生徒に説明します。

一人の生徒に、黙示 21:1 – 2 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがどのようなことが起こるのを見たかを見つけてもらいます。

- ヨハネは、どのようなことが起こるのを見たでしょうか。

二人の生徒に、次の話を声に出して読んでもらいます。

話 1

イエス・キリストが再び来られて福千年が始まるときに、地球はアダムとエバの墮落以前の状態に変えられます。墮落の前、地球は月の栄え、すなわち楽園のような状態（パラダイスの状態）でした。福千年の後、地球は神の臨在に備えて日の栄えの状態に再び変わります。それらの変化は、ヨハネが「新しい天と新しい地を見た」ときに、起こるのを見た事柄だったと考えられます（黙示 21:2）。

話 2

ヨハネが見た、天から下ってきた新エルサレムは、神の日の栄えの都です。その都は、移されて天に取り上げられたエノクの町を含むと考えられます。この「聖なる都」は、下って来て新エルサレム、すなわち聖徒たちが地上に築くシオンと一つになります（モーセ 7:62 – 64 参照）。

- イエス・キリストを信じるために追放されていたときに、これらのことを見て、ヨハネはどのように感じたと思いますか。

一人の生徒に、黙示 21:3 – 4 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、神が御自分の民のためにどのようなことをなさるかを見つけてもらいます。

- 神は御自分の民のためにどのようなことをなさいますか。（生徒たちは、次のような真理を見つけられるでしょう。神は、御自身の民を慰めて、ともに住んでくださり、民は、もはや死、悲しみ、苦しみを味わうことはない。ホワイトボードにこの真理を書きます。）

ホワイトボードに書いてある、わたしたちに悲しみや苦しみをもたらすことのリストを参照します。

- 神が御自身の民を慰め、悲しみや苦しみを取り除いてくださると知ることは、わたしたちが今日困難を経験するときに、どのような助けとなるでしょうか。

わたしたちを慰めることができになる神の力について、あなたの証を分かち合うとよいでしょう。

一人の生徒に、黙示 21:7 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主が勝利を得る者に約束してくださっていることを見つけてもらいます。

- 主は、勝利を得る者にどのようなことを約束なさいましたか。
- 今存在し、再臨に先立って存在する困難について学んだことに基づいて、それらの人々はどのようなことに勝利を得るでしょうか。

同じ生徒に、黙示 21:8 を声に出して読んでもらいます。まじないをする者とは、悪霊の影響力を招くための行為に関与する者であり、姦淫を行う者とは、不品行な行為や不貞の行為をする者であることを説明するとよいでしょう。

- 8 節に述べられている人々は、どのような経験をするようになるでしょうか。(第二の死。)
- 第二の死とは、光と真理に対し意図的に反抗する者たちが最後の裁きの後に経験する霊の死、すなわち神からの分離であることを説明します(ヒラマン 14:16-19)。

黙示 21:9-21 の要約として、ヨハネは、神の日の栄えの都について述べたことを説明します。ヨハネは、十二人の御使いによって守られる十二の門を持つ、高い城壁がある都を見ました。

数人の生徒に、黙示 21:22-27 を順番に声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネがこの日の栄えの都について分かったことを見つけてもらいます。

- ヨハネは、この都についてどのようなことが分かったでしょうか。
- 27 節によると、誰が入ることを許されましたか。(小羊の命の書に名前が記されている者だけ。)

黙示 22 章

ヨハネ、自分の受けた示現を締めくくる

黙示 22 章を研究しながら、小羊の命の書に名前を記してもらう方法と、日の栄えの都に入ることを許される方法を知る助けとなる真理を生徒たちに見つけてもらいます。

生徒たちに御座の絵を見せるか、ホワイトボードに描きます。

一人の生徒に、ホワイトボードの所に来てもらい、別の生徒が黙示 22:1-2 を声に出して読んでいる間に、御座の他にヨハネが見たものを描いてもらいます。

- 神の日の栄えの都で、ヨハネは他に何をみましたか。
- 生徒に、席に戻ってもらいます。
- 2 節によると、ヨハネは命の木をどのように述べましたか。(その木は常に豊富に実を結び、その葉は諸国民を癒やす。)

モルモン書には、リーハイとニーファイの双方が、命の木の示現を見たことと記録されていることを生徒に思い出してもらいます。ニーファイは、命の木と生ける水の源は、ともに神の愛を表すことを学びました(1 ニーファイ 11:25 参照)。生徒の絵の中の、その木と川の横に「神の愛」と書きます。

- 神の愛の最大の表れは何でしょうか。(イエス・キリストの贖罪〔ヨハネ 3:16; 1 ヨハネ 4:9 参照〕。また、命の木の実は、贖罪の祝福を表しているのかもしれませんが。)

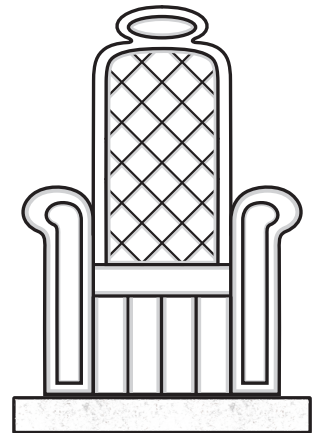
黙示 22:3-10 の要約として、ヨハネが、この日の栄えの都を見たこと他に、ヨハネに明らかにされた事柄は真実であると語る御使いから証を受けたことを説明します。

一人の生徒に、黙示 22:11-13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、主は再び来られるときに、どのようなことを行われるかを見つけてもらいます。

- 再び来られるときに、主はどのようなことを行われますか。
- 一人の生徒に、黙示 22:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、日の栄えの王国へ入ることを許されるために、わたしたちは何をしなければならないかを見つけてもらいます。

- 日の栄えの王国に入るために、わたしたちは何をしなければならないでしょうか。
- 「いのちの木にあずかる特権を与えられ〔る〕」とは、永遠の命を含む、贖罪の祝福の全てを授かるのにふさわしいことを意味すると説明します。

- 14 節からどのような原則が分かりますか。(生徒たちはさまざまな言葉を使うでしょうが、次のような原則を見つけるでしょう。主の戒めを守るなら、わたしたちは、イエス・キリストの贖罪の祝福を全てを授かり、日の栄えの王国に入ることができる。主の戒めを守ること



には、日の栄えの王国に入るために必要な全ての儀式を受けることが含まれると説明します。)

贖罪の祝福の幾つか(復活の賜物など)は、神の全ての子供たちに無条件で与えられています。他の祝福(永遠の命など)は、イエス・キリストを信じる信仰を實踐し、悔い改め、主の戒めに従うことを熱心に求める者だけに与えられるものであることを説明します。

ホワイトボードに次の質問を書きます —

新約聖書の研究で、どのような戒めや教えを学び、生活に応用しようと努めましたか。

それらの戒めを応用しようとする努力は、主の祝福を受け天の御父のもとへ戻るために備えるのにどのような助けとなりましたか。

生徒たちに、自分の聖典学習帳に書いたこと、自分の聖典にメモしたり印をつけたりしたこと、今年研究したマスター聖句を復習することで、それらの二つの質問にどのように答えるかを考えてもらいます。これらの二つの質問に対する自分の答えを、クラスノートか聖典学習帳に書いてもらいます。

時間を十分に取ってから、生徒たちが書いたことをクラス全員と分かち合ってもらいます。(きわめて個人的なことについては分かち合う必要はないことを生徒に思い出してもらいます。)

黙示 22:15 - 19 の要約として、主の戒めを守らない者たちは、日の栄えの都に入ることができないことを説明します。イエス・キリストは、御自身がこの啓示をヨハネに与えられたことを証され、ヨハネは、命の水を値なしに受けるよう、全ての者を招きました。ヨハネは、自分の書いた書のメッセージを、読者が書き換えないう警告しました。

一人の生徒に、黙示 22:20 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネは何を懇願したかを見つけてもらいます。

- ヨハネは何を懇願しましたか。
- 黙示録で学んだことに基づくと、主が来られることをヨハネが待ち望んでいたのはなぜだと思いますか。

生徒が黙示 21 - 22 章で見つけた真理について証を述べて、レッスンを終わります。

毎日の聖文研究を 奨励する

生徒が聖文を大切に
日々研究するようになる
のを助けること以上に、
教師が生徒の生活により力
強く永続的な良い影響を
及ぼせることはほとんど
ありません。セミナー
が開講されていないとき
でも、継続して聖文を読
むよう生徒を促すこと
によって、毎日の聖文研
究を励ますことができます。
生徒たちに、来年のセミ
ナリーで研究することにな
る、モルモン書の読書目
標を立ててもらいます。

注釈と背景情報

黙示 21:4 「涙を全くぬぐいにとって下さる」

十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老は、主御自身の時に、信仰の悲しみは喜びに変えられることを次のように教えています。

「主は忠実な人が受けた損失に全て報いてくださいます。主を愛する人々から奪われたものは、主の方法によって加えられます。わたしたちが望むときにもたらされないかもしれませんが、忠実な人々が今日流した1滴の涙は、後に100倍もの喜びの涙、感謝の涙となって戻って来るでしょう。」（「どんな出来事も愛しなさい」『リアホナ』2008年11月号, 28）

黙示 22:18 「もしこれに書き加える者があれば」

主はその子供たちに聖文を明らかにされることは終えられたと信じているために、モルモン書やその他の聖文を拒否する人々もいます。多くの人々は、黙示 22:18 を誤った理解で用い、主は聖書以外に他のいかなる聖典も決してお与えにならず、それ以上の聖典を受けたと主張する人は誰でも罰を受けると、ヨハネにより警告されていると断言しています。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、この誤った解釈について次のように述べています。

「現在、ほぼ全ての聖書学者が、この聖句は聖書全体ではなく、黙示録のみを指しているという見解で一致しています。彼らは、新約聖書のかかなりの数の『書』が、ヨハネがパトモス島で啓示を受けた後で書かれたことはほぼ間違いないと認めています。そうした書には、少なくとも、ユダの手紙、ヨハネの第一、第二、第三の手紙、そしておそらくは、ヨハネの福音書の全てが含まれており、そのような書は、きっと他にもあることでしょう。」

しかし、現在の新約聖書の最後の書にあるこの聖句がなぜ聖書全体を指さないのかという点については、もっと明確な答えがあります。複数の書を1冊の書物としてまとめた、わたしたちが現在知っている形の聖書は、あの聖句が書かれた当時は存在していなかったのです。ヨハネが記録を終えた後の数世紀にわたって、新約聖書の各書は、単独か、あるいは幾つかをまとめた形で広まっていて、全書のそろったものとして読まれることはほぼ皆無だったのです。現在知られているギリシャ語の新約聖書の写本の数は5,366に上りますが、そのうち今の形の新約聖書の全てを網羅しているものはわずか35しかありません。しかもそのうちの34が紀元1,000年以降に編集されたものなのです。（「わたしの言葉〔は〕……決して絶えることがない」『リアホナ』2008年5月号, 91参照）

家庭学習クラスのレッスン

黙示 12 — 22 章 (単元 32)

家庭学習を行う生徒を教えるための準備資料

毎日の家庭学習レッスンの要約

次の概要は、生徒が黙示 12 - 22 章 (単元 32) を学習して学んだ出来事、教義、原則の要約であり、レッスンの一部として教えるよう意図されたものではありません。実際に教師が教えるレッスンは、これらの教義や原則の一部に絞ったものにします。生徒の必要に合わせてレッスンを行えるよう、聖霊の促しに従うべきです。

第 1 日 (黙示 12 - 13 章)

龍と、子供を連れた女についてのヨハネの示現を研究する際に、生徒たちは、龍で表されるサタンは、天の御父とイエス・キリストの教会と王国を滅ぼそうとしていることを学びました。この戦いは、前世で始まりました。生徒たちは、わたしたちが、救い主の贖罪と、福音の証に忠実であることによって、サタンの影響に打ち勝つことができることを学びました。

第 2 日 (黙示 14 - 16 章)

末日に御使いが地上に戻るのを見たヨハネの示現から、生徒たちは、神がイエス・キリストの福音を回復された一つの理由は、この世に住む人々をイエス・キリストの再臨に備えるためであることを学びました。また生徒は、次のことも学びました—義にかなった生活をすれば、わたしたちは死後、わたしたちの働きのために祝福を受け、労苦を解かれて休むことができる。わたしたちが注意深くあり、霊的に備えるなら、イエス・キリストの再臨に備えることができる。

第 3 日 (黙示 17 - 19 章)

生徒たちは、終わりに時には、イエス・キリストが、この世の邪悪に打ち勝たれることを学びました。また、この世の邪悪から離れることは、終わりの時に悪人のうえにもたらされる罪や裁きを避ける助けとなることも学びました。結婚を再臨にたとえながら、生徒たちは、わたしたちが清く、義にかなえば、主イエス・キリストの来臨に備えることができることを学びました。

第 4 日 (黙示 20 - 22 章)

ヨハネの示現の締めくくりのこれらの章で、生徒たちは、次の真理を学びました—全ての人は、その仕業に応じ、この書物に書かれていることに従って神に裁かれる。神は、御自身の民を慰めるとともに住んでくださり、民は、もはや死、悲しみ、苦しみを味わうことはない。主の戒めを守るなら、わたしたちは、イエス・キリストの贖罪の祝福を全て授かり、日の栄えの王国に入ることができる。

はじめに

使徒ヨハネは示現の中で、イエス・キリストの福千年の統治の直前とその期間に起きる出来事を見ました。また、福千年の終わりの、サタンと神の軍勢との間の最後の戦いも目撃し、最後の裁きも見ました。福千年の間に、神は書物に書かれたことに従って全ての人々を裁きます。

教えるための提案

黙示 20 : 1 - 6

ヨハネ、示現の中で、イエス・キリストの福千年の統治の直前とその期間に何が起きるかを見る

生徒たちに、自分は負けると思っているながらも参加したコンテストや競技 (例えば、美術コンテストやスポーツ大会) のことを考えてもらいます。その後で、自分が勝つと思いがらコンテストや競技に参加したときのことを考えてもらいます。

- コンテストや競技の結果についての自分の予想によって、その場での取り組み方はどのように変わるでしょうか。
- 負けると思っていると、なぜ人は諦めてしまうことがあるのでしょうか。負けてしまうと思っていたのに実際は勝ったのは、どのようなときですか。

黙示 20 章を研究する中で、善と悪の間の戦いと、その戦いの結末についてさらに学ぶことを、生徒たちに説明します。黙示 20 章を研究しながら、その戦いの間に救い主に忠実であり続けることができるように励ます真理を見つけるよう生徒たちに勧めます。

一人の生徒に、黙示 20 : 1 - 3 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福千年の間サタンはどうなるのかを見つけてもらいます。

- 福千年の間、サタンはどうなるでしょうか。
- 3 節によると、サタンは自分がつなぎおかれているために、どのようなことをすることができないでしょうか。

一人の生徒に、黙示 20 : 4 - 6 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、ヨハネは誰が裁かれるのを見たのかを見つけてもらいます。

- 4 節によると、ヨハネは誰が裁かれるのを見たでしょうか。
- それらの人々は、その忠実さのゆえにどのような報いを受けましたか。
- 福千年の間、それらの人々はどのようなことにあずかるでしょうか。(第一の復活。)
- イエス・キリストに忠実であるならばわたしたちが受けられる祝福について、黙示 20 : 4 - 6 からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。(生徒たちはさまざまな言葉を用いるかもしれませんが、次のような原則を見つけてみましょう。イエス・キリストに忠実であるならば、福千年の間、第一の復活にあずかり、キリストとともに統治することになる。)

第一の復活は、イエス・キリストの復活とともに始まり、それにはキリストが復活される前に死んだ義人を含むことを説明します(モーサヤ 15:21-25; アルマ 40:16-20 参照)。キリストの復活の後に死んだ義人の大多数は、イエス・キリストの再臨に関連して復活します(ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2版〔1966年〕, 639; ジェームズ・E・タルメージ, *The Articles of Faith*, 第12版〔1924年〕, 385 参照)。第一の復活で出て来る人々には、「すべての預言者と、預言者たちの言葉を信じた人々」(モーサヤ 15:22), 「救いのことを告げ知らされ」なかったために無知のままに死んだ人々(モーサヤ 15:24。教義と聖約 45:54 も参照), 責任を負う年齢以前に死んだ幼い子供たち(モーサヤ 15:25; モロナイ 8:4-24 参照)が含まれます。悪人と悔い改めない者は、福千年の終わりに起こる第二の復活まで復活しません(教義と聖約 76:85 参照)。

• 第一の復活にあずかり、福千年の間、イエス・キリストとともに統治すると知ることは、今あなたが悪との戦いにおいて忠実であるためにどのような助けになりますか。

忠実であり続ける人々は、第一の復活にあずかり、福千年の間、救い主とともに統治することについて証してください。

黙示 20:7-11

ヨハネ、福千年の終わりに、サタンと神の軍勢が最後の戦いをするのを見る

ホワイトボードに次の未完成の文を書きます — 福千年の終わりに、_____。

一人の生徒に、黙示 20:7-10 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、福千年の終わりに起こるとヨハネが述べた出来事を見つけてもらいます。

数人の生徒にホワイトボードの前に来て、見つけたことを書いてもらいます。その後、次の質問をします。

- ヨハネは、どのような出来事を述べましたか。(8 節の「ゴグ」と「マゴグ」という名前は、主の民との最後の戦いのために、福千年の終わりにサタンが用いる軍勢を指していると説明します〔教義と聖約 88:110-114 参照〕。)
- その戦いの後で、悪魔とそれに従う者たちはどうなるでしょうか。(生徒たちが答えたら、次の事柄を意味するように、ホワイトボードの文を完成させます。福千年の終わりに、神の軍勢はサタンとそれに従う者たちを打ち負かす。)
- わたしたちが、神とサタンとの間の戦いの最終的な結末を理解することは、なぜ大切なのでしょう。

黙示 20:12-15

ヨハネ、最後の裁きを見る

天の御父の救いの計画の一部として、この世に生きた全ての者は、裁きを受けるために神の前に立つことを説明します。生徒たちに、最後の裁きがどのようなものであるかを想像するように言います。

- 裁きを受けるために神の前に立つときに、何を考え、何を感ずたいですか。

一人の生徒に、黙示 20:12-13 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、わたしたちは神にどのように裁かれるかを見つけてもらいます。

- 12 節から、わたしたちを裁かれる方法について、どのような真理を学ぶことができますか。(生徒はさまざまな言葉で表現するかもしれませんが、次の真理を見つけるでしょう。全ての人は、その仕業に応じ、この書物に書かれていることに従って神に裁かれる。)

- ヨハネは、どのような書物を見ましたか。(聖典、救いの儀式およびおそらくはその他の行いを記録した教会の記録、命の書〔2 ニーフアイ 29:10-11; 教義と聖約 128:6-7; 『聖句ガイド』「命の書」、*scriptures.lds.org* 参照。)

- 最後の裁きについて、他にどのようなことを学びましたか。(注-単元 32 の第 4 日の課題 3 で、生徒たちは、最後の裁きについて教えているその他の聖文を見つけました。)

主は、わたしたちの行いに加えて、心の望みに応じて裁かれることを預言者ジョセフ・スミスに明らかにされたことを指摘します(教義と聖約 137:9 参照。アルマ 41:3-5 も参照)。

- 人は自分の心の望みによって裁かれるという知識は、あなたがしたいと思うことにどのような影響を与えるでしょうか。

この教義があなたの選にどのような影響を与えているかについて証します。

一人の生徒に、黙示 22:14 を声に出して読んでもらいます。他の生徒には、聞きながら、家庭学習でこの聖句から学んだ原則を思い出してもらいます。

- あなたはこの聖句から、どのような原則を学びましたか。(主の戒めを守るなら、わたしたちは、イエス・キリストの贖罪の祝福を全て授かり、日の栄えの王国に入ることができる。ホワイトボードにこの原則を書きます。)
- これが、新約聖書の研究の終わりにふさわしい真理なのはなぜでしょうか。

今年、生徒たちが新約聖書を研究する中で、影響された幾つかの真理を分かち合ってもらおうとよいでしょう。それらの真理と主イエス・キリストの神性について、証を分かち合いたいと思う生徒がいれば発表してもらいます。

毎日聖文を研究し続けるように、生徒たちを励まします。来年セミナーを受ける、あるいは伝道に備える場合は、今日から、モルモン書を読み始めるように言います。



付録

聖文読書進度表

生徒が以下のことを行うように勧めるとき、宗教教育セミナー・インスティテュートの目的を達成する助けができます。(1) 毎日聖文を読んで、研究する。(2) 学習コースの課題として聖文を読む。(新約聖書全体の読書状況を確認するための表は、LDS.org および store.lds.org にある新約聖書マスター聖句カード〔アイテム番号 10480〕にあります。)

生徒が聖文の読書状況を確認する助けとして、以下のような表を渡すとよいでしょう。生徒の毎日の聖文読書状況を報告したい場合は、「聖文読書報告に関する指示」に従ってください。この指示は、si.lds.org で「聖文読書報告に関する指示」という言葉を使って検索してください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
マタイ	17	18	19	20	21	22	23	JS	—	マタイ	1	25	26	27	28	
マルコ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
ルカ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
ヨハネ	17	18	19	20	21											
使徒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
ローマ	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
1コリント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
2コリント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
ガラテヤ	1	2	3	4	5	6										
エペソ	1	2	3	4	5	6										
ピリピ	1	2	3	4												
コロサイ	1	2	3	4												
1テサロニケ	1	2	3	4	5											
2テサロニケ	1	2	3													
1テモテ	1	2	3	4	5	6										
2テモテ	1	2	3	4												
テトス	1	2	3													
ヒレモン	1															
ヘブル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
ヤコブ	1	2	3	4	5											
1ペテロ	1	2	3	4	5											
2ペテロ	1	2	3													
1ヨハネ	1	2	3	4	5											
2ヨハネ	1															
3ヨハネ	1															
ユダ	1															
黙示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22										

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	(29)	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31		31		31		31	31		31		31

デイリークラスを教えるための学習進度ガイド

年 36 週の提案されたスケジュール

週	レッスン	聖句ブロック
1	第1日-第1課 新約聖書の紹介 第2日-第2課 救いの計画 第3日-第3課 学習者の役割 第4日-第4課 聖文を研究する 第5日-第5課 新約聖書の背景と概要	
2	第1日-第6課 マタイ1-2章 第2日-第7課 マタイ3章 第3日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第4日-第8課 マタイ4章 第5日-第9課 マタイ5:1-16	マタイ1:1-5:16
3	第1日-第10課 マタイ5:17-48 第2日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第3日-第11課 マタイ6章 第4日-第12課 マタイ7章 第5日-第13課 マタイ8-10章	マタイ5:17-10:42
4	第1日-第14課 マタイ11-12章 第2日-第15課 マタイ13:1-23 第3日-第16課 マタイ13:24-58 第4日-第17課 マタイ14章 第5日-第18課 マタイ15章	マタイ11-15章
5	第1日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第2日-第19課 マタイ16章 第3日-第20課 マタイ17章 第4日-第21課 マタイ18章 第5日-第22課 マタイ19-20章	マタイ16-20章
6	第1日-第23課 マタイ21:1-16 第2日-第24課 マタイ21:17-22:14 第3日-第25課 マタイ22:15-46 第4日-第26課 マタイ23章 第5日-第27課 ジョセフ・スミス-マタイ、マタイ24章	マタイ21-24章
7	第1日-第28課 マタイ25:1-13 第2日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第3日-第29課 マタイ25:14-46 第4日-第30課 マタイ26:1-30 第5日-第31課 マタイ26:31-75	マタイ25-26章
8	第1日-第32課 マタイ27:1-50 第2日-第33課 マタイ27:51-28:20 第3日-第34課 マルコ1章 第4日-第35課 マルコ2-3章 第5日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照)	マタイ27章-マルコ3章

週	レッスン	聖句ブロック
9	第1日-第36課 マルコ4-5章 第2日-第37課 マルコ6章 第3日-第38課 マルコ7-8章 第4日-第39課 マルコ9:1-29 第5日-第40課 マルコ9:30-50	マルコ4-9章
10	第1日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第2日-第41課 マルコ10章 第3日-第42課 マルコ11-16章 第4日-第43課 ルカ1章 第5日-第44課 ルカ2章	マルコ10章-ルカ2章
11	第1日-第45課 ルカ3-4章 第2日-第46課 ルカ5章 第3日-第47課 ルカ6:1-7:18 第4日-第48課 ルカ7:18-50 第5日-第49課 ルカ8-9章	マルコ3-9章
12	第1日-第50課 ルカ10:1-37 第2日-第51課 ルカ10:38-12:59 第3日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第4日-第52課 ルカ13-14章 第5日-第53課 ルカ15章	ルカ10-15章
13	第1日-第54課 ルカ16章 第2日-第55課 ルカ17章 第3日-第56課 ルカ18-21章 第4日-第57課 ルカ22章 第5日-第58課 ルカ23章	ルカ16-23章
14	第1日-第59課 ルカ24章 第2日-第60課 ヨハネ1章 第3日-第61課 ヨハネ2章 第4日-第62課 ヨハネ3章 第5日-第63課 ヨハネ4章	ルカ24章-ヨハネ4章
15	第1日-第64課 ヨハネ5章 第2日-第65課 ヨハネ6章 第3日-第66課 ヨハネ7章 第4日-第67課 ヨハネ8:1-30 第5日-フレックスデー (フレックスデーのための提案参照)	ヨハネ5章-8:30
16	第1日-第68課 ヨハネ8:31-59 第2日-第69課 ヨハネ9章 第3日-第70課 ヨハネ10章 第4日-第71課 ヨハネ11章 第5日-第72課 ヨハネ12章	ヨハネ8:31-12:50
17	第1日-第73課 ヨハネ13章 第2日-第74課 ヨハネ14章 第3日-第75課 ヨハネ15章 第4日-第76課 ヨハネ16章 第5日-第77課 ヨハネ17章	ヨハネ13-17章

週	レッスン	聖句ブロック
18	第1日-第78課 ヨハネ18-19章 第2日-第79課 ヨハネ20章 第3日-第80課 ヨハネ21章 第4日-フレックスデー（「新約聖書：マタイヨハネ学習理解度調査」実施の推奨時期） 第5日-フレックスデー（「新約聖書：マタイヨハネ学習理解度調査」復習の推奨時期）	ヨハネ18-21章
19	第1日-第81課 使徒1:1-8 第2日-第82課 使徒1:9-26 第3日-第83課 使徒2章 第4日-第84課 使徒3章 第5日-第85課 使徒4-5章	使徒1-5章
20	第1日-第86課 使徒6-7章 第2日-第87課 使徒8章 第3日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第4日-第88課 使徒9章 第5日-第89課 使徒10-11章	使徒6-11章
21	第1日-第90課 使徒12章 第2日-第91課 使徒13-14章 第3日-第92課 使徒15章 第4日-第93課 使徒16章 第5日-第94課 使徒17章	使徒12-17章
22	第1日-第95課 使徒18-19章 第2日-第96課 使徒20-22章 第3日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第4日-第97課 使徒23-26章 第5日-第98課 使徒27-28章	使徒18-28章
23	第1日-第99課 ローマ1-3章 第2日-第100課 ローマ4-7章 第3日-第101課 ローマ8-11章 第4日-第102課 ローマ12-16章 第5日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照）	ローマ1-16章
24	第1日-第103課 1コリント1-2章 第2日-第104課 1コリント3-4章 第3日-第105課 1コリント5-6章 第4日-第106課 1コリント7-8章 第5日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照）	1コリント1-8章
25	第1日-第107課 1コリント9-10章 第2日-第108課 1コリント11章 第3日-第109課 1コリント12章 第4日-第110課 1コリント13-14章 第5日-第111課 1コリント15:1-29	1コリント9章-15:29
26	第1日-第112課 1コリント15:30-16:24 第2日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第3日-第113課 2コリント1-3章 第4日-第114課 2コリント4-5章 第5日-第115課 2コリント6-7章	1コリント15:30-2コリント7章

週	レッスン	聖句ブロック
27	第1日-第116課 2コリント8-9章 第2日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第3日-第117課 2コリント10-13章 第4日-第118課 ガラテヤ1-4章 第5日-第119課 ガラテヤ5-6章	2コリント8章-ガラテヤ6章
28	第1日-第120課 エペソ1章 第2日-第121課 エペソ2-3章 第3日-第122課 エペソ4章 第4日-第123課 エペソ5-6章 第5日-第124課 ビリビ1-3章	エペソ1章-ビリビ3章
29	第1日-第125課 ビリビ4章 第2日-第126課 コロサイ 第3日-第127課 1テサロニケ1-2章 第4日-第128課 1テサロニケ3-5章 第5日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照）	ビリビ4-1テサロニケ5章
30	第1日-第129課 2テサロニケ 第2日-第130課 1テモテ 第3日-第131課 2テモテ1-2章 第4日-第132課 2テモテ3-4章 第5日-第133課 テトス	2テサロニケ1章-テトス3章
31	第1日-第134課 ビレモン 第2日-第135課 ヘブル1-4章 第3日-第136課 ヘブル5-6章 第4日-第137課 ヘブル7-10章 第5日-第138課 ヘブル11章	ビレモン1章-ヘブル11章
32	第1日-第139課 ヘブル12-13章 第2日-第140課 ヤコブ1章 第3日-第141課 ヤコブ2章 第4日-第142課 ヤコブ3章 第5日-第143課 ヤコブ4-5章	ヘブル12章-ヤコブ5章
33	第1日-第144課 1ペテロ1-2章 第2日-第145課 1ペテロ3-5章 第3日-フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第4日-第146課 2ペテロ1章 第5日-第147課 2ペテロ2-3章	1ペテロ2-2ペテロ
34	第1日-第148課 1ヨハネ 第2日-第149課 2ヨハネ-3ヨハネ 第3日-第150課 ユダ 第4日-第151課 黙示1章 第5日-第152課 黙示2-3章	1ヨハネ-黙示3章
35	第1日-第153課 黙示4-5章 第2日-第154課 黙示6-11章、第1部 第3日-第155課 黙示6-11章、第2部 第4日-第156課 黙示12-13章 第5日-第157課 黙示14-16章	黙示4-16章
36	第1日-第158課 黙示17-19章 第2日-第159課 黙示20章 第3日-第160課 黙示21-22章 第4日-フレックスデー（「新約聖書：使徒行伝-黙示録学習理解度調査」実施の推奨時期） 第5日-フレックスデー（「新約聖書：使徒行伝-黙示録学習理解度調査」復習の推奨時期）	黙示17-22章

フレックスデーに関する提案

デイリークラスを教えるための学習進度ガイドは、1年度36週（180日）に基づいて作成されています。この手引きには160のデイリークラス用レッスンが用意されており、レッスン資料のない日が20日あります。この20回の「フレックスデー」は、次の事項を含む、価値ある目標と活動のために賢明に活用するようにしてください。

1. 理解度調査。宗教教育セミナリー・インスティテュートの目的は、以下のことができるよう、青少年とヤングアダルトを助けることです。イエス・キリストの教えと贖いについて理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるために自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。宗教教育セミナリー・インスティテュートは、この目的を念頭に学習理解度調査を準備しました。これらの理解度調査は、生徒たちがクラスで学んでいる事柄を理解し、説明し、信じ、それに従った生活ができるように助けることを意図しています。

2014年、卒業には各コースの学習理解度調査に合格することが必須となるようにセミナリーの卒業要件が変更されました。学習理解度調査は、学年度半期ごとに一度実施するようにしてください。理解度調査には、それぞれ（1）約40分、またはデイリークラス1回分の時間を要する理解度調査の実施、および（2）その次のクラスで生徒たちと答え合わせをし、話し合うという二つの部分があります。この復習は、

生徒たちが経験から学ぶことを助けるために必要不可欠です。クラスの時間が60分以上の場合、理解度調査の実施と見直しには1クラス分の時間のみを費やすようにしてください。

理解度調査は生徒を助けるために行われるものです。学習理解度調査がセミナリー卒業資格に追加されると発表したとき、七十人のポール・V・ジョンソン長老は次のように言いました。「教師の態度が大きな違いを生むことになるでしょう。これが生徒たちの生活をどのように祝福するかを教師が理解できれば、学習理解度調査を、生徒たちを助ける一つの方法として見なすようになるでしょう。……あえて警告するならば、新しい方法を、生徒を操る道具だと思えないようにする必要があります。生徒を脅す道具にははいけませんし、優秀な一部の生徒を選び分ける手立てにするべきでもありません。真に生徒を祝福する道具だと考えてほしいのです。」（“Elevate Learning Announcement” [セミナリーおよびインスティテュート教員に対する説話、2014年6月20日]、si.lds.org）

注—その他オプションの理解度調査を見つけるには、キーワード「理解度調査」を使用して、S&Iウェブサイト（si.lds.org）を検索してください。

2. デイリークラスのレッスンに柔軟性を持たせる。効果的に教えるには通常のレッスン時間では足りないと思うかもしれませんが、また、レッスンの最後にある、教えるためのその他のアイデア

を使ったり、聖句や福音のテーマに関する生徒の質問に答えるための時間も必要かもしれません。フレックスデーを活用することで、進度スケジュールに従い、聖典を配列順に教えるという任務を果たしながら、これらを行う機会が得られます。

3. 重要な聖句と基本的教義に精通する。手引きと付録の中にあるマスター聖句の復習活動を行うためにフレックスデーを用いてもよいでしょう。クラスの生徒の必要と関心に合わせて、独自のマスター聖句の復習活動を考案して行うことができます。また、フレックスデーの一部を使って、基本的教義を復習し、理解を深めるための活動を行うこともできます。

4. 過去の資料を復習する。生徒にとって、過去のレッスンで学んだことや、聖典の特定の書から学んだことをときどき振り返ることは有益なことです。過去のレッスンから真理を説明したり、その真理が生徒の生活にどのような影響を与えたか、生徒に発表する機会を与えるとよいでしょう。また、以前のレッスン内容を復習するクイズや学習活動を作成して実施することもできます。

5. レッスン予定の変更に対応する。学校の活動、地域の行事、天候やその他の事情でレッスンを中止にしたり、定期的にレッスンの時間を短くしたりすることが必要になるかもしれません。そのような不測の事態に対応するために、フレックスデーを活用できます。

家庭学習クラスを教えるための学習進度ガイド

この手引きには、『新約聖書 家庭学習セミナー 生徒用学習ガイド』の32単元に対応する32回の家庭学習レッスンが含まれていますが、必須の学習理解度調査の実施と復習を行うため、おそらく4つのクラスを追加して、合計36クラスになるように計画する必要がありますと思われる。あなたが実際にクラスを教える週の数に応じて、レッスンの内容と進度を柔軟に変えることができます。

単元	家庭学習クラスのレッスン	単元	家庭学習クラスのレッスン	単元	家庭学習クラスのレッスン
単元 1	第1日-救いの計画 第2日-学習者の役割 第3日-聖文を研究する 第4日-新約聖書の紹介とその背景 <i>教師のレッスン- 救いの計画- 新約聖書の紹介とその背景</i>	単元 9	第1日-マルコ10-16章 第2日-ルカ1章 第3日-ルカ2章 第4日-ルカ3-4章 <i>教師のレッスン- マルコ10章- ルカ4章</i>	[新約聖書: マタイ-ヨハネ学習理解度調査]復習の推奨時期	
単元 2	第1日-マタイ1-2章 第2日-マタイ3章 第3日-マタイ4章 第4日-マタイ5章 <i>教師のレッスン- マタイ1-5章</i>	単元 10	第1日-ルカ5章 第2日-ルカ6:1-7:18 第3日-ルカ7:18-50 第4日-ルカ8:1-10:37 <i>教師のレッスン- ルカ5:1-10:37</i>	単元 17	第1日-使徒1:1-8 第2日-使徒1:9-26 第3日-使徒2章 第4日-使徒3-5章 <i>教師のレッスン- 使徒1-5章</i>
単元 3	第1日-マタイ6-7章 第2日-マタイ8-10章 第3日-マタイ11-12章 第4日-マタイ13:1-23 <i>教師のレッスン- マタイ6:1-13:23</i>	単元 11	第1日-ルカ10:38-12:59 第2日-ルカ13-15章 第3日-ルカ16章 第4日-ルカ17章 <i>教師のレッスン- ルカ10:38-17:37</i>	単元 18	第1日-使徒6-7章 第2日-使徒8章 第3日-使徒9章 第4日-使徒10-12章 <i>教師のレッスン- 使徒6-12章</i>
単元 4	第1日-マタイ13:24-58 第2日-マタイ14章 第3日-マタイ15章 第4日-マタイ16-17章 <i>教師のレッスン- マタイ13:24-17:27</i>	単元 12	第1日-ルカ18-21章 第2日-ルカ22章 第3日-ルカ23-24章 第4日-ヨハネ1章 <i>教師のレッスン- ルカ18章- ヨハネ1章</i>	単元 19	第1日-使徒13-14章 第2日-使徒15章 第3日-使徒16-17章 第4日-使徒18-19章 <i>教師のレッスン- 使徒13-19章</i>
単元 5	第1日-マタイ18-20 第2日-マタイ21:1-16 第3日-マタイ21:17-22:14 第4日-マタイ22:15-46 <i>教師のレッスン- マタイ18:1-22:26</i>	単元 13	第1日-ヨハネ2章 第2日-ヨハネ3章 第3日-ヨハネ4章 第4日-ヨハネ5-6章 <i>教師のレッスン- ヨハネ2-6章</i>	単元 20	第1日-使徒20-22章 第2日-使徒23-28章 第3日-ローマ1-3章 第4日-ローマ4-7章 <i>教師のレッスン- 使徒20章- ローマ7章</i>
単元 6	第1日-マタイ23章 第2日-ジョセフ・スミス-マタイ、マタイ24章 第3日-マタイ25章 第4日-マタイ26:1-30 <i>教師のレッスン- マタイ23:1-26:30</i>	単元 14	第1日-ヨハネ7章 第2日-ヨハネ8章 第3日-ヨハネ9章 第4日-ヨハネ10章 <i>教師のレッスン- ヨハネ7-10章</i>	単元 21	第1日-ローマ8-11章 第2日-ローマ12-16章 第3日-1コリント1-2章 第4日-1コリント3-6章 <i>教師のレッスン- ローマ8章-1コリント6章</i>
単元 7	第1日-マタイ26:31-75 第2日-マタイ27-28章 第3日-マルコ1章 第4日-マルコ2-3章 <i>教師のレッスン- マタイ26:31-マルコ3:35</i>	単元 15	第1日-ヨハネ11章 第2日-ヨハネ12章 第3日-ヨハネ13章 第4日-ヨハネ14-15章 <i>教師のレッスン- ヨハネ11-15章</i>	単元 22	第1日-1コリント7-8章 第2日-1コリント9-10章 第3日-1コリント11章 第4日-1コリント12-14章 <i>教師のレッスン- 1コリント7-14章</i>
単元 8	第1日-マルコ4-5章 第2日-マルコ6-8章 第3日-マルコ9:1-29 第4日-マルコ9:30-50 <i>教師のレッスン- マルコ4-9章</i>	単元 16	第1日-ヨハネ16章 第2日-ヨハネ17章 第3日-ヨハネ18-19章 第4日-ヨハネ20-21章 <i>教師のレッスン- ヨハネ16-21章</i>	単元 23	第1日-1コリント15:1-29 第2日-1コリント15:30-16:24 第3日-2コリント1-3章 第4日-2コリント4-7章 <i>教師のレッスン- 1コリント15章-2コリント7章</i>
				単元 24	第1日-2コリント8-9章 第2日-2コリント10-13章 第3日-ガラテヤ 第4日-エペソ1章 <i>教師のレッスン- 2コリント8章- エペソ1章</i>
					[新約聖書: マタイ-ヨハネ学習理解度調査]実施の推奨時期

単元	家庭学習クラスのレッスン
単元 25	第 1 日-エペソ 2-3 章 第 2 日-エペソ 4-6 章 第 3 日-ピリピ 1-3 章 第 4 日-ピリピ 4 章 教師のレッスン- エペソ 2 章- ピリピ 4 章
単元 26	第 1 日-コロサイ 第 2 日-1 テサロニケ 第 3 日-2 テサロニケ 第 4 日-1 テモテ 教師のレッスン- コロサイ- 1 テモテ
単元 27	第 1 日-2 テモテ 第 2 日-テトス 第 3 日-ピレモン 第 4 日-ヘブル 1-4 章 教師のレッスン- 2 テモテ 1 章-ヘブル 4 章
単元 28	第 1 日-ヘブル 5-6 章 第 2 日-ヘブル 7-10 章 第 3 日-ヘブル 11 章 第 4 日-ヘブル 12 章-ヤコブ 1 章 教師のレッスン- ヘブル 5 章- ヤコブ 1 章
単元 29	第 1 日-ヤコブ 2-3 章 第 2 日-ヤコブ 4-5 章 第 3 日-1 ペテロ 1-2 章 第 4 日-1 ペテロ 3-5 章 教師のレッスン- ヤコブ 2 章- 1 ペテロ 5 章
単元 30	第 1 日-2 ペテロ 第 2 日-1 ヨハネ 第 3 日-2 ヨハネ-3 ヨハネ 第 4 日-ユダ 教師のレッスン- 2 ペテロ- ユダ
単元 31	第 1 日-黙示 1-3 章 第 2 日-黙示 4-5 章 第 3 日-黙示 6-7 章 第 4 日-黙示 8-11 章 教師のレッスン- 黙示 1-11 章
単元 32	第 1 日-黙示 12-13 章 第 2 日-黙示 14-16 章 第 3 日-黙示 17-19 章 第 4 日-黙示 20-22 章 教師のレッスン- 黙示 12-22 章
「新約聖書：使徒行伝－ヨハネの黙示録学習理解度調査」実施の推奨時期	
「新約聖書：使徒行伝－ヨハネの黙示録学習理解度調査」復習の推奨時期	

マスター聖句について

宗教教育セミナー・インスティテュートは、4つのセミナーコースのそれぞれに対して25のマスター聖句を選んでいません。これらの聖句は、福音を理解し、分かち合うために、また信仰を強めるために、重要な基盤となります。新約聖書コースのマスター聖句は次のとおりです。

マタイ 5:14-16
 マタイ 11:28-30
 マタイ 16:15-19
 マタイ 22:36-39
 マタイ 28:19-20
 ルカ 24:36-39
 ヨハネ 3:5
 ヨハネ 14:6
 ヨハネ 14:15
 ヨハネ 17:3
 使徒 2:36-38
 使徒 3:19-21
 1コリント 6:19-20
 1コリント 15:20-22
 1コリント 15:40-42
 ガラテヤ 5:22-23
 エペソ 4:11-14
 ピリピ 4:13
 2テサロニケ 2:1-3
 2テモテ 3:15-17
 ヘブル 12:9
 ヤコブ 1:5-6
 ヤコブ 2:17-18
 1ペテロ 4:6
 黙示 20:12

セミナーの生徒は、これらの聖句を「マスター」(精通)するように勧められています。教師も同じようにこれらの聖句をマスターするならば、生徒たちをもっとよく助けることができるでしょう。聖句をマスターすることには、以下が含まれます。

- 探す — 聖句の場所を覚えることによって、その聖句を探すことができます
- 理解する — 聖句の背景と内容を理解します
- 応用する — 聖句で教えられている福音の原則と教義を応用します
- 暗記する — 聖句を暗記します

一貫性, 期待, 方法

生徒が聖句をマスターできるように助ける計画を立てるとき、もし一貫性をもってマスター聖句を引用し、適切な期待を寄せ続け、さまざまな方法で学べるように工夫するならば、生徒をよりよく助けることができます。

マスター聖句を一貫して、繰り返し教えるならば、それらの真理は生徒の記憶に長くとどまり、生徒は将来活用することができるでしょう。その年度の学習コース全体のアウトラインを考え、生徒が聖句をマスターできるようにクラスで一貫してさまざまな機会を与える計画を立てるとよいでしょう。生徒がマスター聖句を学べるように助けるうえで、適切な頻度と時間を賢明に判断してください。マスター聖句を学ぶ活動が大きな位置を占めすぎて、毎日行う聖文研究が軽視されないようにしてください。毎日数分間と決めて、生徒とともにマスター聖句を復習できます。あるいは、毎週1回か2回、10分から15分間、簡単なマスター聖句の活動を行ってもよいでしょう。生徒がマスター聖句を学ぶのを助けるためにどのような計画を用いるにせよ、一貫して適切に行うことが大切です。

マスター聖句をどの程度マスターするかに関する期待は、生徒一人一人の能力に合わせたものとし、聖句をマスターするには、学習者側の努力が必要です。聖句によく精通できるかどうかは、本人の取り組む態度と意欲に大きくかかっていることを生徒に伝えてください。能力をより高いレベルに上げるための目標を設定するように生徒を励ましてください。暗記するのが苦手な生徒の気持ちに配慮し、生徒の必要に応じて期待と教え方を柔軟に変えるようにしてください。

さまざまな生徒の性格や学習スタイルに合わせるため、現在用いている方法に変化を持たせて、生徒が聖句をマスターできるようにしてください。生徒が聖霊の助けを受けて聖文と教義に精通できる活動を、福音を教え学ぶ時に常に行うのと同じように賢明に選んでください。この手引きのレッスンには、マスター聖句の適切な教授法が幾つも掲載されています。マスター聖句のその他の教え方については、この付録の「マスター聖句の活動」という項を参照してください。

教科課程の中のマスター聖句

マスター聖句は、さまざまな方法で教科課程の中に書かれています。📖 マスター

聖句アイコンは、レッスン資料の中でマスター聖句が取り扱われていることを示しています。マスター聖句は、その聖句がある章の文脈の中で紹介され、話し合われます。マスター聖句を教えるためのその他のアイデアは、その聖句が含まれているレッスンの最後に記載されています。これらの教えるためのその他のアイデアは、マスター聖句の4つの要素(探す、理解する、応用する、暗記する)のバランスを取るために役立ちます。例えば、生徒たちがマスター聖句を理解して応用するためにレッスンが役立つとすれば、教えるためのその他のアイデアは、生徒たちが聖句を探し、または暗記するために役立ちます。

教科課程には、マスター聖句を復習するための活動が定期的に用意され、時間が許すときや、あなたのクラスのマスター聖句の目標と調和する場合に活用できるようになっています。これらの復習は、この付録のマスター聖句の活動を補足するために使用できます。その日のレッスンが短い場合に、レッスンの始めか終わりの時間を使って、これらの復習活動を行うとよいでしょう。

マスター聖句の推奨されるアプローチ

探す技術を生徒が身につけられるように、あなたはコースの始めに25のマスター聖句を紹介し、それからコース期間の全体を通じて聖句をマスターするための活動を行うように計画することもできます。あるいは、毎月数個づつ聖句を紹介し、月ごとの聖句をマスターすることに焦点を当てることもできます。聖句を紹介する際には、生徒に自分の聖典のマスター聖句の箇所に印をつけるように勧め、キーワードと聖句の章、節を思い出す方法を思い出すことができるように生徒を助け、聖句に含まれている教義と原則を説明するとよいでしょう。また、ディボーションで聖句を使うように割り当てたり、聖句を覚え、探す方法を互いに教え合うことによって、生徒たちにマスター聖句の紹介に関わってもらうこともできます。マスター聖句を思い出せるように、定期的にクイズや探す活動を行ってください(例としてこの付録のマスター聖句の活動を参照します)。この学習コースに関する25のマスター聖句のリストは、生徒のしおりとマスター聖句カードに掲載されています。

生徒がマスター聖句を理解することができるように、マスター聖句を毎日のレッスンの中で強調するとよいでしょう。聖句

に含まれている真理を生徒が理解し、聖句の中の真理について生徒がさらによく人に説明できるようになるために、この付録のマスター聖句の活動を用いてください。ディボーションナルのときに、またレッスンの中で、マスター聖句の真理が基本的教義の理解を助けてくれることを説明する機会を生徒に与えてください。

マスター聖句の中に含まれている真理を生徒が応用するのを助けるにあたって、聖句の真理を生活に応用する方法を理解するのに聖霊の促しに従うように生徒を励ましてください。生徒が学んだ真理を生活に取り入れられるように、教師はときどきマスター聖句に関するチャレンジをクラスの掲示板に貼るとよいでしょう。あるいは、マスター聖句を使って福音の教義と原

則を教える練習をする機会を、クラスの中で生徒に与えるとよいでしょう（アイデアについては、この付録のマスター聖句の活動を参照してください）。マスター聖句が含まれているレッスンで学んだ原則を応用するように生徒に勧めてもよいでしょう。ディボーションナルやその他の時に、自分の経験を発表する機会を生徒に与えてください。そのようにすれば、生徒はマスター聖句から学んだ真理についての証を強めるでしょう。

生徒が25のマスター聖句を暗記することができるように、毎月クラスで2つか3つの聖句を暗記するように計画してもよいでしょう。また、家で特定の聖句を暗記するように生徒にチャレンジすることもできます（生徒は家族とともにこれを

行うか、親や家族に聖句を暗唱してもよいでしょう）。クラスの生徒に聖句を暗唱してもらったり、二人一組で暗記する時間を取ったりすることによって、日々のディボーションナルの一部を暗記する時間に充ててもよいでしょう。二人一組か小グループで、あるいはクラスの前で、マスター聖句を暗唱する機会を生徒に与えることは、生徒が自分の努力に対して責任を持つために助けとなります。この付録のマスター聖句の活動には、さまざまな暗記方法が掲載されています。どの程度暗記するべきかについては、生徒一人一人の能力と状況に合わせるように配慮してください。聖句を暗記できなかったときに、生徒が恥ずかしい思いをしたり、困惑したりすることのないように配慮してください。

マスター聖句の活動

はじめに

この項には、重要な聖句をマスターすることができるように生徒を助けるためのアイデアが取り上げられています。これらの技術を身につけるように生徒を助け、励ますとき、あなたは生徒が自分で聖文を研究することができるように助けていることとなります。生徒は聖典の中から聖句を探し、理解し、応用し、暗記するというマスター聖句の技術を生涯にわたって用いることができます。聖句に精通するための一つの要素を教えるためのアイデアが以下に挙げられています。これらのさまざまな活動を用いることは、生徒が聖句をさらにマスターするのに助けとなります。

生徒がマスター聖句を探ることができるように助ける活動

聖句に印をつける

マスター聖句に印をつけることは、生徒がこれらの聖句を覚え、素早く探す助けとなります。マスター聖句に印をつける際は、既に印をつけている他の聖句と区別できる方法で印をつけるように生徒に勧めるとよいでしょう。

聖典の書を知る

新約聖書にある書の名前と順序を覚えると、生徒は素早くマスター聖句を探せるようになります。以下のような活動を通して、生徒は新約聖書の書をよく知ることができるようになります。

- 目次を見つける－聖書の目次に慣れるように生徒たちを助け、マスター聖句の参照箇所がある書を見つけることができるようにします。
- 歌を歌う－よく知っている賛美歌や初等協会の歌の歌詞を新約聖書の各書の名前に置き換えて、その歌を生徒に教えます（または、「The Books in the New Testament」〔英語版『子供の歌』116－117〕を使用します）。生徒が新約聖書の各書の名前と順番を覚えることができるように、年度内にこの歌を定期的に歌ってもらいます。
- 最初の文字を使う－ホワイトボードに各書の最初の文字を書きます（マ、マル、ヨ、など）。生徒に、それらの文字に対応する書の名前を言う練習をしてもらいます。各書の名前を暗唱できるようにするまで、この活動を繰り返します。

- 聖典の書を探す－マスター聖句が書かれている書の名前を言って、生徒にその書のページをどこでもよいので開いてもらいます。クラス全員が各書を見つけるまでの時間を計ります。生徒が新約聖書の各書をよく覚え、見つけられるようになるまで、この活動を繰り返すとよいでしょう。

聖句の場所と内容を思い出す

生徒がマスター聖句の場所と内容を学び、聖霊は必要なときに生徒が聖句を思い出せるように助けてくださいます（ヨハネ 14：26 参照）。「水と霊とから生まれ[る]」（ヨハネ 3：5）、および「御霊の実」（ガラテヤ 5：22－23）などのキーワードや語句は、生徒が聖句の内容と教義的な教えを思い出すのに役立ちます。以下の方法は、マスター聖句の場所をその内容やキーワードと関連付けるのに役立ちます。（競争やタイム測定などの活動は、生徒がマスター聖句のある場所を覚えた、年度の後半に行うためにとっておくともよいでしょう。そのような活動は、生徒が学んだことを確認するのに役立つでしょう。）

- 聖句の場所とキーワード－マスター聖句カードに挙げられているそれぞれのマスター聖句の場所とキーワードを覚えるよう生徒たちに勧めます。（マスター聖句カードは宗教教育セミナー・インスティテュートを通じて教材を注文すると送られてきます。さらに配送センターから購入もできます。また、生徒自身に各自のマスター聖句カードを作ってもらってもよいでしょう。）生徒に、二人一組でカードの情報を覚え、その後、互いに確認クイズを行う時間を与えます。一緒に学び、互いに確認クイズを行う方法について独自のアイデアを出し合うよう生徒に勧めてください。生徒たちがマスター聖句のキーワードに慣れてきたら、聖句の背景や教義と原則の応用方法に関するヒントを用いるように生徒に勧めるとよいでしょう。クイズを出された人は口頭で答えるか、書いて答えます。
- マスター聖句カード－この活動は、幾つかのマスター聖句をまとめて紹介／復習するために用いることができます。マスター聖句を幾つか選び、それらを生徒に配る準備をしてください。（複数の生徒が同じマスター聖句を受け取るように、それぞれのカードを複数準備しておくようにします。どの生徒も、別の聖句のカードを2、3枚持てるように十分な枚数のカードを準備しておいてくだ

さい。）生徒にカードを配ります。生徒に、各カードのマスター聖句、聖句の場所、キーワード、背景の説明、教義または原則、聖句を応用するためのアイデアに目を通す時間を与えます。カードから幾つかヒントとなる言葉を言います（例えば、マスター聖句の言葉、キーワード、背景、教義または原則、応用するためのアイデアなど）。そのヒントが該当するカードを持っている生徒は、立って、マスター聖句の場所を声に出して言います。

- 聖句探し－手がかりとなるヒントを出して、聖典から聖句を素早く探す練習をします。ヒントには、マスター聖句カードに掲載されているキーワード、背景説明、教義と原則、応用のためのアイデアを用いるともよいでしょう。また、独自のヒントを作ることもできます。生徒たちが聖句を見つける競争をする聖句探しの活動は、生徒がマスター聖句の学習を活発に行う助けになります。聖句に精通する助けとして聖句探しを行うとき、生徒の気持ちを傷つけたり、御霊を損なったりしない方法で行うようにします。聖典が不敬に扱われないように、また、生徒が過度な競争心を持つことのないようにしてください。また、生徒同士の競争ではなく、一定の基準を設けて、それに対する競争としてもよいでしょう。例えば、教師と競争したり、指定した時間内にクラスの何パーセントが聖句を探し出せるかを競ってもよいでしょう。
- 物語探し－マスター聖句が日常生活に生かされている物語をヒントにします。例えば、マタイ 28：19－20 またはピリピ 4：13 のヒントとして、次のように言うことができます。「一郎には伝道に出る資格があり、そうすることが神権者としての彼の義務だと感じています。が、福音をうまく教えるために十分な知識がないことを心配しています。また、知らない人と話すことが難しいのではないかと不安にもなっています。彼が確信を求めて祈ったとき、イエス・キリストが復活された後、『あなたがたは行って、すべての国民……に教えよ』と使徒たちに命じられ、主が常に彼らとともにおられると言われたことを思い出しました。一郎は、『わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができるよう』というパウロの言葉についても考えました。」生徒に、物語を聞きながら、各自の聖典に関連するマスター聖句を見つけてもらいます。

- クイズとテスト—マスター聖句の記憶をテストする機会を与えます。ヒントとして、キーワード、聖句の場所、聖句の言葉の一部分、聖句の真理が含まれた物語を用いるとよいでしょう。クイズやテストの質問は、口頭で言うか、ホワイトボードか紙に書くともよいでしょう。クイズかテストの終了後、得点の高かった生徒と低かった生徒で二人一組になるようにしてもよいでしょう。得点の高かった生徒に教師役を務めてもらい、得点の低かった生徒が学び、改善を図れるように助けてもらいます。この取り組みを通して、次のテストのときに二人の合計点が今回の合計点を上回るという目標を立てることもできます。生徒たちの目標を表示して、進歩状況を確認するために、表または掲示板を作ってもよいでしょう。

生徒がマスター聖句を理解することができるようになる活動

言葉を定義する

マスター聖句の言葉を定義する（または、生徒に定義してもらう）ことは、生徒が聖句全体の意味を理解するうえで助けになります。言葉を定義することが聖句の教義と原則を理解するために重要である場合は、自分の聖典にその定義を書き込むように生徒に勧めるとよいでしょう。マスター聖句を復習するときに言葉の意味を復習してください。

背景を明確にする

聖句の背景を明確にすると、生徒は聖句の意味をもっとよく理解できます。背景には、誰が、誰に、なぜ語っているのかという情報、その聖句の状況（歴史的、文化的、地理的）、その聖句が述べられるに至った問題や状況などが含まれます。例えば、ヨハネ 3:5 にある主の教えは、イエスの教義について尋ねるために、夜に救い主のもとにやって来た、ニコデモという名前の好意的なパリサイ人とイエス・キリストとの会話の一部です。主はニコデモに、「新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」（ヨハネ 3:3）と言われました。混乱したニコデモは、年老いた者がどのように新しく生まれることができるのかと尋ねました。ヨハネ 3:5 には、ニコデモの質問に対する主の答えが書かれています。この情報を知っておくことは、主が「だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない」と述べられたときに、主がどの質問に答えておられたかを生徒たちがより明確に理解するために役立ちます。マスター聖句が含まれているレッスンを教えるとき、教師はその聖句の背景を強調します。次のような活動も、生徒がこ

れらの重要な聖句を理解する助けとなります。

- 背景を見つける—ホワイトボードの上部に次のような見出しを書きます—「話者、聴衆、目的、助けとなるその他の洞察」生徒をグループに分けて、各グループにマスター聖句の一つずつ割り当てます。生徒に、割り当てられた聖句の背景を見つけるために、ホワイトボードの見出しに対応する情報を見つけてもらいます。見つけた事柄をホワイトボードに書いてもらいます。その後、各グループに、割り当てられた聖句の背景と、その情報がその聖句の中にある真理を理解するのにどれほど大切であるかを説明してもらいます。この活動をさらに興味深くするため、各グループがホワイトボードに書いた事柄を説明する前に、それがどのマスター聖句の背景であるかをクラス全体に推測してもらってもよいでしょう。

分析する

分析を行うためには、聖句の中にある教義と原則を見つけることが必要です。また、分析を行うと、生徒は聖句の中の真理が自分にどのように当てはまるかが理解できるようになります。分析によって生徒は、自分の生活に教義と原則をさらによく応用できるようになります。以下の活動を行えば、生徒はマスター聖句を分析することができます。

- ヒントを書く—生徒がマスター聖句にある程度慣れてきたら、質問や物語、あるいは、聖句の中で教えられている教義や原則に関連するその他のヒントを生徒に考えてもらいます。これらをクラス全体へのクイズとして用いることもできます。

説明する

生徒は聖句について説明すると、その聖句を深く理解し、聖句を使って教義や原則を教える能力を伸ばすことができます。以下の二つの方法を使えば、生徒はマスター聖句を説明する方法を学ぶことができます。

- 重要な語句—一つのマスター聖句を生徒全員に各自で読んでもらい、特に重要な意味があると思う語句を見つけるように言います。その後、一人の生徒に、自分が選んだ語句を強調しながらその聖句を読んでもらいます。その生徒に、聖句を理解するうえで、なぜその語句が重要であると思うか説明してもらいます。他の何人かの生徒にも、同じことを行ってもらいます。生徒は同じ聖句の中から違う語句を選ぶかもしれませんが、生徒は、自分とは違う視点について聞くことによ

て、その聖句をさらに深く理解するでしょう。

- ディバーショナルを準備する—ディバーショナルを準備し、クラスの初めに発表することによって、マスター聖句を使う機会を生徒に提供します。聖句の背景を要約し、教義と原則を説明し、有意義な経験や実例を紹介し、聖句の中の教義と原則について証を述べられるように、準備の段階で生徒を助けてください。聖句の概念を説明するために、実物を用いたレッスンをを行うよう生徒に提案してもよいでしょう。

教義と原則の重要性を感じる

生徒がマスター聖句の中で教えられている教義や原則を理解し、それについての霊的な証を得られるように助けください。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように説明しています。「真の教師は、いったん〔福音の〕真実を教えたら、……〔生徒が〕さらに一歩踏み出して心に霊的な証と理解を得て、彼らが行動を起こし実践するようにします。」（“Teaching by Faith”〔CES 宗教教育者への講話、2002 年 2 月 1 日〕、5、si.lds.org；Teaching Seminary: Preservice Readings〔2004 年〕、92 も参照）生徒が聖霊の影響を通じて教義や原則が真実であり、重要であり、緊急を要すると感じるとき、彼らはその真理を生活に適用したいと強く望むようになります。マスター聖句の中で見つけた福音の原則に従って生活して得た経験を述べる機会を与えられるならば、生徒は聖なる御霊からもたらされるそれらの気持ちを招き、養う助けを得ることができます。それによって、生徒はマスター聖句の中で教えられている真理をよりよく理解し、その真理を心に刻むようになるでしょう。以下の活動を行えば、生徒はマスター聖句の中で教えられている教義と原則の重要性をさらに感じるでしょう。

- 聖句に耳を傾ける—教会での話やレッスン、総大会の説教、家族や友人との会話にマスター聖句が出てこないか、耳を傾けてよく聞くように生徒に勧めます。どの聖句を聞いたか、その聖句がどのように使われたか、どのような真理が教えられたか、教えられた真理について生徒や他の人々はこれまでどのような経験をしたことがあるか、定期的に生徒に報告してもらいます。機会を探して、マスター聖句が教えている真理について証を述べてください（あるいは、生徒に証を述べてもらいます）。

生徒がマスター聖句を応用することができるようになる活動

教える

マスター聖句と基本的教義は同時に検討され、生徒の役に立つように意図的に配列されています。(マスター聖句は、基本的教義の文書全体で見つけられます。)生徒はマスター聖句に含まれている教義と原則を学び述べるときに、基本的教義をも学び述べていることとなります。また、生徒は自分自身の言葉で基本的教義を学び、述べる時、自分が暗記したマスター聖句に頼ることができます。マスター聖句を使って福音の教義と原則を教える機会を生徒に与えると、生徒は自分自身について、また自分が持っている聖文の知識についての自信を増すことができます。生徒はマスター聖句の中で見つけた教義と原則を教え、それについて証を述べる時、自分の証をも強めることができます。クラスでも、友人や家族やその他の人々との会話でも、マスター聖句を用いて福音を教え、説明するように生徒を励ましてください。

- **メッセージを伝える**—マスター聖句に基づいた3分から5分の話またはレッスンを、準備する割り当てを生徒に与えます。準備はクラスで行っても、家で行ってもよいでしょう。生徒は、マスター聖句だけでなく、マスター聖句カード、『聖句ガイド』、『真理を守る—福音の参考資料』など、準備の助けとなるその他の参考資料を使うとよいでしょう。話またはレッスンには、導入、マスター聖句、その聖句が教えている原則に関する物語が実例、さらに生徒の証が含まれるべきです。生徒は『神への務め』または『成長するわたし』の一部として、セミナーのクラス、家庭のタペ、神権定員会や若い女性のクラスで、自発的に自分のメッセージを伝えることができます。生徒がクラス以外で話やレッスンをした場合、その経験を報告してもらうとよいでしょう。
- **宣教師のロールプレー**—求道者から尋ねられる可能性のある質問で、マスター聖句カードを使って答えることができる質問を書いたカードを何枚か準備します(例えば、「あなたの教会の会員はイエス・キリストについて何を信じていますか」など)。生徒に二人一組になってクラスの前に出て来てもらい、カードから選んだ質問に答えてもらいます。そのような質問に宣教師はどのように答えることができるかを生徒が理解できるように、次のような効果的な教授法をいくつか提案するとよいでしょう。(1) 聖句の背景を述べる。(2) 教義または原則に

ついて説明する。(3) 教える相手が教えられたことを理解しているか、あるいは信じているか知るための質問をする。(4) 経験と証を伝える。(5) 教える相手に教えられた真理に従って行動するように勧める。クラス全体に、各組のロールプレーを観察し、求道者の質問への答え方として良かった点をフィードバックしてもらいます。

- **証を述べる**—生徒に、マスター聖句に目を通し、証を述べるのできる教義が原則に含まれているものを一つ選んでもらいます。生徒に、選んだ真理について証を述べ、またそれについて証を得た経験を話してもらいます。生徒が証を述べる時、彼らが述べている教義や原則が真実であることを聖霊が確認してください。また、彼らの証は信仰をもって行動するように他の人々を促すでしょう。

注—生徒が証を述べる機会には自発的なものでなければなりません。生徒が証を述べるように強いられたり、自分は知らないと思っている事柄について話さなければならぬという気持ちにさせられるようなことは、決してあってはなりません。さらに、生徒の中には、「証を述べたいと思います……」という言葉で始める必要がある、または感情的な表現を使って証を述べなければならぬと誤解しているために、証を述べることをためらう生徒もいます。証を述べることは、真実であると自分で知っている教義や原則について、単に述べるだけでよいことを生徒が理解できるように助けてください。証は、「わたしはこれが真実であると信じています」、「わたしはこれが真実であると知っています」、または「わたしはこのことを心から信じています」など、簡単な言葉で述べるすることができます。

生活する

聖文の中に含まれている教義や原則を応用できる方法を生徒に提案すること(あるいは、そのような方法を考えるように生徒に勧めること)は、信仰を働かせることによって学ぶ機会を生徒に得させることとなります。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように述べています。

「正しい原則に従って行動することによって選択の自由を働かせる学習者は、聖霊に心を開きます。そして聖霊からの教え、聖霊による証の力、そして聖霊による確認の証を受けることができます。信仰によって学ぶ望みを持つには、外からの影響を受けるだけでなく、霊的、精神的、肉体的な努力が必要です。信仰に鼓舞されて行動

し、真心をこめて努力し続けるとき、わたしたちは聖霊から教えを受けて学びたいという意欲を天の御父とその御子イエス・キリストに示しているのです。」(「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号、20)

教義や原則を応用して得た経験について話し、証を述べる機会を生徒に与えてください。以下は、マスター聖句を生活に應用するよう生徒たちを励ます方法の一例です。

- **目標を設定する**—マスター聖句カードの応用の項に基づいて、マスター聖句の中にある原則にさらに従って生活する具体的な目標を設定するように、生徒に勧めます。紙に目標を書いて、目標を忘れないようにその紙を持ち歩いてもらいます。適切であれば、生徒に、よくできたことについて報告してもらいます。

生徒がマスター聖句を暗記することができるようになる活動

暗記する

聖句を暗記すると、生徒は理解を深め、福音を教える能力を高めることができます。生徒が聖句を暗記すると、必要なときに聖霊が言葉と概念を思い出させてくださいます(ヨハネ14:26; 教義と聖約11:21参照)。暗記のための活動は、生徒の能力に合わせて柔軟に変えるべきであることを覚えておいてください。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、次のような言葉で、聖文を暗記するように勧めています。

「聖文を暗記することで、大きな力が得られます。聖文を暗記することは、新しい友情を築くことです。それはまるで、必要なときに助けてくれる人、靈感と慰めを与えてくれる人、必要な変化を遂げる動機を与えてくれる新しい人に出会うのに似ています。」(「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号、6)

生徒が聖句を長く記憶にとどめることができるように、クラスの始めか終わりに、以下の一つ一つの活動を数日間続けて繰り返すとうよいでしょう。

- **一文節レース**—一人が一度に一文節(文を読む際、自然な発音によって区切られる最小の単位)ずつマスター聖句を言うように、生徒にチャレンジします。例えば、マタイ5:14-16を暗記する助けとして、最初の生徒に「あなたがたは」、次の生徒に「世の光」、3番目の生徒に「である」と言ってもらい、聖句全

体を終えるまでこれを続けてもらいます。時間を計り、目標の時間を達成するために何度か試みる機会を与えます。この活動を繰り返すときに、各々が違った言葉を言わなくてはならないように生徒の順番を変えてください。

- 最初の文字－ホワイトボードにマスター聖句の文節の最初の文字を書きます。その文字を指さしながら、生徒と一緒に聖句を何度も復唱します。必要であれば聖典を見てください。最初の文字を見るだけで聖句を暗唱できるようになるまで、この活動を繰り返します。生徒が聖句を

暗唱するたびに文字を少しずつ消していくとよいでしょう。これは次第に難しくなりますが、生徒はやがて最初の文字を使わなくても聖句を繰り返せるようになるでしょう。

- 単語カードパズル－線の入った紙にマスター聖句の言葉を書くか、生徒に書いてもらいます。その紙を、聖句の行ごとに小さく切り分けます。その際、それぞれの小片に少しずつ聖句の言葉が残るように再度切り分けます。それらの紙片をよく混ぜ合わせ、二人一組のペアか小グループに分けた生徒たちに配ります。聖

典を参考にして、その紙片を正しい順番に並べてもらいます。聖典を使う必要がなくなるまで、繰り返してもらいます。並べ終わったら、その聖句を声に出して復唱してもらいます。どのグループが最も早く正確に並べることができるか時間を計ってもよいでしょう。あるいは、全てのグループがそのパズルを完了させるまでどれくらいの時間が掛かるか、クラス全体の時間を計ることもできます（最初に終わったグループに、遅いグループを助けてもらいます）。

100 のマスター聖句

旧約聖書	新約聖書	モルモン書	教義と聖約
モーセ 1:39	マタイ 5:14 - 16	1 ニーファイ 3:7	ジョセフ・スミス—歴史 1:15 - 20
モーセ 7:18	マタイ 11:28 - 30	2 ニーファイ 2:25	教義と聖約 1:37 - 38
アブラハム 3:22 - 23	マタイ 16:15 - 19	2 ニーファイ 2:27	教義と聖約 6:36
創世 1:26 - 27	マタイ 22:36 - 39	2 ニーファイ 9:28 - 29	教義と聖約 8:2 - 3
創世 2:24	マタイ 28:19 - 20	2 ニーファイ 25:23, 26	教義と聖約 10:5
創世 39:9	ルカ 24:36 - 39	2 ニーファイ 28:7 - 9	教義と聖約 13:1
出エジプト 19:5 - 6	ヨハネ 3:5	2 ニーファイ 31:19 - 20	教義と聖約 18:10 - 11
出エジプト 20:3 - 17	ヨハネ 14:6	2 ニーファイ 32:3	教義と聖約 18:15 - 16
ヨシュア 24:15	ヨハネ 14:15	2 ニーファイ 32:8 - 9	教義と聖約 19:16 - 19
サムエル上 16:7	ヨハネ 17:3	モーサヤ 2:17	教義と聖約 19:23
詩篇 24:3 - 4	使徒 2:36 - 38	モーサヤ 3:19	教義と聖約 25:13
詩篇 119:105	使徒 3:19 - 21	モーサヤ 4:30	教義と聖約 46:33
詩篇 127:3	1 コリント 6:19 - 20	アルマ 7:11 - 13	教義と聖約 58:27
箴言 3:5 - 6	1 コリント 15:20 - 22	アルマ 32:21	教義と聖約 58:42 - 43
イザヤ 1:18	1 コリント 15:40 - 42	アルマ 37:35	教義と聖約 64:9 - 11
イザヤ 5:20	ガラテヤ 5:22 - 23	アルマ 39:9	教義と聖約 76:22 - 24
イザヤ 29:13 - 14	エペソ 4:11 - 14	アルマ 41:10	教義と聖約 76:40 - 41
イザヤ 53:3 - 5	ピリピ 4:13	ヒラマン 5:12	教義と聖約 78:19
イザヤ 58:6 - 7	2 テサロニケ 2:1 - 3	3 ニーファイ 12:48	教義と聖約 82:10
イザヤ 58:13 - 14	2 テモテ 3:15 - 17	3 ニーファイ 18:15, 20 - 21	教義と聖約 88:124
エレミヤ 1:4 - 5	ヘブル 12:9	エテル 12:6	教義と聖約 89:18 - 21
エゼキエル 37:15 - 17	ヤコブの手紙 1:5 - 6	エテル 12:27	教義と聖約 107:8
アモス 3:7	ヤコブの手紙 2:17 - 18	モロナイ 7:41	教義と聖約 121:36, 41 - 42
マラキ 3:8 - 10	1 ペテロ 4:6	モロナイ 7:45, 47 - 48	教義と聖約 130:22 - 23
マラキ 4:5 - 6	黙示 20:12	モロナイ 10:4 - 5	教義と聖約 131:1 - 4

基本的教義について

セミナーでは次の基本的教義を強調する必要があります。

- ・ 神会
- ・ 救いの計画
- ・ イエス・キリストの贖罪
- ・ 神権時代, 背教, 回復
- ・ 預言者と啓示
- ・ 神権と神権の鍵
- ・ 儀式と聖約
- ・ 結婚と家族
- ・ 戒め

教師は、生徒が聖文を研究するときに、これらの福音の基本的な教義を見つけ、理解し、信じ、説明し、応用することができるように助けるべきです。そうすることで、生徒が証を強め、イエス・キリストの回復された福音に対して正しい理解を深めるように助けることができます。これらの教義を

学ぶなら、生徒は福音に従って生活し、これらの重要な真理を他の人々に教えるために、自らをさらによく備えることができます。この手引きのレッスンを作成する際には、基本的教義が念頭に置かれました。基本的教義の中に挙げられてはいない教義の中にも大切な福音の教義があります。この手引きはそのような教義も強調していることを知っておいてください。福音の基本的教義を教える良い機会は、あなたが生徒とともに毎日聖文を研究するときや、重要な聖句に精通するように生徒を助けるときです。基本的教義を理解し、信じ、それに従って生活することは、生徒がセミナーの4年間に、またその後の生涯にわたって成長しながら継続して行うことです。基本的教義のリストを生徒に渡すとよいでしょう。

基本的教義の理解度調査

「基本的教義の理解度調査」の目的は、生徒の生活をさらに祝福するために有益

な情報を教師に提供することです。教師は年度の第1週と年度末近くにこの調査を行うように奨励されています。基本的教義の理解度調査や、その他の調査を探したいときは、S&I ウェブサイト (si.lds.org) で、「調査」というキーワードを使って検索することができます。

S&I 調査課 (S&I Office of Research) に生徒の調査結果を送った教師は報告書を受け取り、その情報を役立てて生徒の必要をさらによく満たせるようにレッスンを調整することができます。例えば、生徒は悔い改めの教義を理解していないという結果であれば、悔い改めの教義を生徒がもっとよく理解するのに役立つレッスンを年度の教科課程の中から見つけるようにします。教師が、よく祈って聖典をその配列順に教えながらこの情報を用いるときに、青少年とヤングアダルトは、宗教教育セミナー・インスティテュートの目的を果たす備えがよくなるでしょう。

基本的教義

基本的教義は、セミナーとインスティテュートの両方のクラスで強調する必要があります。教師は、生徒がこれらの福音の教義を見つけ、理解し、信じ、説明し、応用することができるように助けなければなりません。そうすることで、生徒が証を強め、イエス・キリストの回復された福音に対して正しい理解を深めるように助けることができます。これらの教義を学ぶことは、生徒がもっとよく準備をしてこれらの重要な真理を他の人々に教えるためにも役立つでしょう。

宗教教育セミナー・インスティテュートで使われている100のマスター聖句のほとんどが、基本的教義に対する生徒の理解を支援するために選ばれました。この資料で挙げられている参照聖句の大部分はマスター聖句です。これらの聖句を使ったのは、マスター聖句と基本的教義との関係を明示するためです。

1. 神会

神会は、それぞれ独立した御三方、すなわち、永遠の御父とその御子イエス・キリストと聖霊によって構成されています（ジョセフ・スミス―歴史1：15－20参照）。御父と御子は触れることのできる骨肉の体を持っておられ、聖霊は霊の御方です（教義と聖約130：22－23参照）。御三方は目的と教義において一つであり、天の御父の神聖な救いの計画の遂行において完全に一致しておられます。

父なる神

父なる神は宇宙の至高の統治者であり、わたしたちの霊の父親です（ヘブル12：9参照）。御父は完全であり、一切の権威を持ち、全てのことを御存じです。御父はまた、神として完全な憐れみと思いやりと慈愛を備えておられます。

イエス・キリスト

イエス・キリストは霊における御父の長子であり、肉における御父の独り子です。イエスは旧約聖書のエホバであり、新約聖書のメシヤです。

イエス・キリストは罪のない生涯を送り、全人類の罪のために完全な贖罪を成し遂げられました（アルマ7：11－13参照）。イエスはその生涯を通して、全人類がどのような生活を送るべきかについて完全な模範を示されました（ヨハネ14：6；3ニーファイ12：48参照）。また、この地上で最初に復活された御方でした（1コリント15：20－22参照）。イエス・キ

リストは力と栄光とをもって再び来られ、福千年の間、地球を統治されます。

全ての祈り、祝福、神権の儀式は、イエス・キリストの御名によって行われます（3ニーファイ18：15、20－21参照）。

関連参照聖句―ヒラマン5：12；教義と聖約19：23；教義と聖約76：22－24

聖霊

聖霊は神会の第三の御方です。聖霊は骨肉の体をお持ちにならない霊の御方です。聖霊はしばしば、御霊、聖なる御霊、神の御霊、主の御霊、慰め主と呼ばれます。

聖霊は、御父と御子について証し、全てのことについて真理を明らかにし、悔い改めてバプテスマを受ける人々を聖められます（モロナイ10：4－5参照）。

関連参照聖句―ガラテヤ5：22－23；教義と聖約8：2－3

2. 救いの計画

前世において、天の御父は一つの計画を発表されました。わたしたちが御父のようになり、不死不滅と永遠の命を得られるようにするための計画です（モーセ1：39参照）。聖典の中でこの計画は、救いの計画、偉大な幸福の計画、贖いの計画、憐れみの計画などと呼ばれています。

救いの計画の中には、創造、墮落、イエス・キリストの贖罪、福音の全ての律法、儀式、教義が含まれます。道徳的な選択の自由、すなわち、自分自身で選択し行動する能力も、天の御父の計画に欠かせないものです（2ニーファイ2：27参照）。この計画のおかげで、わたしたちは贖罪によって完全になり、満ちみちる喜びを受け、神のもとで永遠に住むことができます（3ニーファイ12：48参照）。家族関係は、永遠に存続させることができます。

関連参照聖句―ヨハネ17：3；教義と聖約58：27

前世

わたしたちはこの地上に生まれる前、天の御父の霊の子供として御父のもとに住んでいました（アブラハム3：22－23参照）。前世でわたしたちは、天の御父の他の霊の子供たちと一緒に、ある会議に参加しました。その会議で、天の御父は御自分の計画を示され、前世のイエス・キリストは救い主になることを聖約されました。

わたしたちは選択の自由を使って、天の御父の計画に従いました。わたしたちはさらに進歩できる地上に来る準備をしました。

天の御父とイエス・キリストに従った者は、死すべき状態を経験し、永遠の命を目指して進歩するために、地上へ来ることを許されました。神の霊の息子の一人であるルシフェルは、その計画に反対しました。ルシフェルはサタンとなり、彼と彼に従った者たちは天から追放され、肉体を得る特権と死すべき状態を経験する特権を与えられませんでした。

関連参照聖句―エレミヤ1：4－5

創造

イエス・キリストは御父の指示の下で、天と地を創造されました。地球は無から創造されたのではなく、既に存在する物質から組織されました。イエス・キリストは無数の世界を創造されました（教義と聖約76：22－24参照）。

地球の創造は神の計画にとって不可欠でした。わたしたちは肉体を得て、試され、神聖な特質を伸ばすことのできる場所が与えられたのです。

わたしたちは知恵と思慮分別と感謝をもって地球の資源を使わなければなりません（教義と聖約78：19参照）。

アダムは地上で創造された最初の人でした。神はアダムとエバを御自分の形に創造されました。男性も女性も、人は皆、神の形に創造されています（創世1：26－27参照）。

墮落

エデンの園で、神はアダムとエバに善悪を知る木の実を食べてはならないとお命じになりました。その実を食べると、霊の死と肉体の死がもたらされるからです。霊の死とは神から離れることです。肉体の死とは霊が肉体から離れることです。アダムとエバは、神の命令に背いたため、神の前から追い出され、死すべき状態となりました。アダムとエバが背き、その結果、霊の死と肉体の死を含む変化をがもたらされたことを、墮落と呼びます。

墮落の結果、アダムとエバとその子孫は喜びと悲しみを味わい、善悪を知り、子供をもうけることができるようになりました（2ニーファイ2：25参照）。アダムとエバの子孫であるわたしたちは、死すべき世にいる間、墮落の状態を受け継いでいます。わたしたちは主の前から絶たれており、肉

体の死を受けます。また、人生の苦難やサタン誘惑による試しも受けます（モーサヤ 3：19 参照）。

墮落は天の御父の救いの計画に必須の部分です。墮落には二つの面、すなわち、マイナスの面とプラスの面があります。肉体と霊の死を招くというマイナスの面と、地上に生まれ、学び、進歩するための機会を与えるというプラスの面があるのです。

死すべき生涯

死すべき生涯は学びの時期であり、永遠の命を得るための準備を行い、選択の自由を使って主から命じられたことを全て行うかどうかを証明する時です。この死すべき生涯の間に、わたしたちは他の人々を愛し、仕えなければなりません（モーサヤ 2：17；モロナイ 7：45、47 - 48 参照）。

死すべき状態で、わたしたちの霊は肉体と結合し、前世ではできなかった方法で進歩成長する機会が与えられます。わたしたちの体は救いの計画の大切な部分であり、天の御父からの賜物として尊ばなければなりません（1 コリント 6：19 - 20 参照）。

関連参照聖句 - ヨシュア 24：15；マタイ 22：36 - 39；2 ニーファイ 28：7 - 9；アルマ 41：10；教義と聖約 58：27

死後の生活

わたしたちが死ぬと、わたしたちの霊は霊界に入り、復活を待ちます。義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態に迎え入れられます。忠実な人の多くは、霊の獄にいる人々に福音を宣べ伝えます。

霊の獄は、真理を知らずに死んだ者と、死すべき状態で不従順であった者が死後一時的にとどまる場所です。ここで霊たちは福音を教えられ、悔い改めて、神殿で彼らのために行われる救いの儀式を受け入れる機会が与えられます（1 ペテロ 4：6 参照）。福音を受け入れる者は復活するまでパラダイスに住みます。

復活とは、わたしたちの霊の体が完全になった骨肉の体と再結合することです（ルカ 24：36 - 39 参照）。復活後、霊と肉体は決して再び分離することがなく、わたしたちは不死不滅の状態になります。イエス・キリストが死に打ち勝たれたので、地上に生を受けた人は全て復活します（1 コリント 15：20 - 22 参照）。義人は悪人よりも先に復活し、第一の復活の時に出て来ます。

最後の裁きは復活の後に行われます。各人が受ける永遠の栄光を決めるために、イエス・キリストがそれぞれの人を裁かれま

す。この裁きは、神の戒めに対する各人の従順さに基づいて行われます（黙示 20：12；モーサヤ 4：30 参照）。

栄光の王国は 3 つあります（1 コリント 15：40 - 42 参照）。3 つの栄光の王国の中で最高の王国は日の栄えの王国です。イエスの証に雄々しく、福音の原則に従順な人々は、父なる神と御子イエス・キリストのもとで日の栄えの王国に住みます（教義と聖約 131：1 - 4 参照）。

3 つの栄光の王国の 2 番目は、月の栄えの王国です。この王国に住む者は、世の高潔な男女でありながら、イエスの証に雄々しくなかった人々です。

星の栄えの王国は、3 つの栄光の王国の中で最も低い王国です。この王国を受け継ぐ者は、死すべき生涯において善よりも悪を選んだ人々です。これらの人々は、霊の獄から贖われた後に彼らの栄光を受けません。

関連参照聖句 - ヨハネ 17：3

3. イエス・キリストの贖罪

贖うとは、罪に対する罰を引き受けることであり、それによって悔い改めた罪人から罪の結果を取り除き、神と和解できるようにすることです。イエス・キリストは全人類のために完全な贖罪をなし得る唯一の御方でした。イエス・キリストの贖罪には、ゲツセマネの園で全人類の罪のために苦しまれたこと、御自身の血を流されたこと、十字架での苦しみと死、また墓からの復活が含まれます（ルカ 24：36 - 39；教義と聖約 19：16 - 19 参照）。救い主が贖罪を行うことができたのは、御自身が罪のない御方であり、死に打ち勝つ力を持っておられたからです。イエス・キリストは、死すべき状態の母親から死ぬ力を受け継ぎ、不死不滅の御父から再び生き返る力を受け継がれたのです。

救い主の贖いの犠牲によってもたらされた恵みにより、全ての人は復活し、不死不滅を受けます。また、イエス・キリストの贖罪によって、わたしたちは永遠の命も得ることができます（モロナイ 7：41 参照）。この賜物を得るために、わたしたちはイエス・キリストの福音に従った生活をしなければなりません。イエス・キリストの福音には、イエス・キリストを信じる信仰を持つこと、罪を悔い改めること、バプテスマを受けること、聖霊の賜物を受けること、そして最後まで忠実に堪え忍ぶことが含まれます（ヨハネ 3：5 参照）。

贖罪の一部として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しまれただけでなく、全ての人の苦痛と病氣と弱さをその身

に受けられました（アルマ 7：11 - 13 参照）。イエス・キリストは、御自身で経験されたので、わたしたちの苦しみを理解しておられます。イエス・キリストの恵み、すなわち能力を授ける力は、わたしたちに、重荷に耐える強さを得させ、自分たちの力だけでは成し遂げられない務めさえ達成できるようにさせる強さを与えます（マタイ 11：28 - 30；ピリピ 4：13；エテル 12：27 参照）。

関連参照聖句 - ヨハネ 3：5；使徒 3：19 - 21

イエス・キリストを信じる信仰

信仰とは「まだ見ていない真実のことを待ち望む」ことです（アルマ 32：21。エテル 12：6 も参照）。信仰は神から与えられる賜物です。

人を救いへ導く信仰は、イエス・キリストを中心としたものでなければなりません。イエス・キリストを信じる信仰を持つとは、イエス・キリストに完全により頼み、イエス・キリストの無限の贖罪と力と愛を信頼するということです。それには、主の教えを信じること、たとえ自分は全てを理解していなくても、イエス・キリストは全てを御存じであると信じるのが含まれます（箴言 3：5 - 6；教義と聖約 6：36 参照）。

信仰とは、言われるままにただ信じるのではなく、自分の生き方によって示すものです（ヤコブの手紙 2：17 - 18 参照）。信仰は、祈り、聖文を研究し、神の戒めに従うことで強めることができます。

末日聖徒は、父なる神、聖霊、神権の力、そして回復された福音のその他の重要な事柄に対しても信仰を持っています。信仰は、わたしたちが霊的にも肉体的にも癒やしを受け、また力強く進み、苦難に立ち向かい、誘惑に打ち勝つ強さを得るのに助けとなります（2 ニーファイ 31：19 - 20 参照）。主は、わたしたちの信仰に応じて、わたしたちの生活の中で大きな奇跡を行ってくださいます。

イエス・キリストを信じる信仰により、人は罪の赦しを受け、ついには神のもとに住むことができるようになります。

関連参照聖句 - マタイ 11：28 - 30

悔い改め

悔い改めとは思いと心の変化です。悔い改めは、神や自分自身や世界に対する新しい見方を得させてくれます。悔い改めには、罪を捨て、赦しを求めて神に立ち返ることが含まれます。悔い改めは、神に対する愛と、神の戒めに従いたいという心からの願いに動機づけられるものです。

わたしたちは罪を犯すことによって汚れます。汚れた者は、天の御父のみもとに帰って住むのにふさわしくありません。しかし、イエス・キリストの贖罪によって、天の御父はわたしたちの罪が赦される唯一の道を備えてくださいました（イザヤ 1：18 参照）。

悔い改めには、罪を犯したことを悲しみ、天の御父に、また必要な場合は他の人々に告白し、罪を捨て、罪によって損なわれた全てのものを可能な限り回復するように努め、神の戒めに従って生活することが含まれます（教義と聖約 58：42 - 43 参照）。

関連参照聖句－イザヤ 53：3 - 5；ヨハネ 14：6；2 ニーファイ 25：23, 26；教義と聖約 18：10 - 11；教義と聖約 19：23；教義と聖約 76：40 - 41

4. 神権時代、背教、回復

神権時代

神権時代とは、主の福音の教義、儀式、神権を主が啓示される時代のことで、神権時代は、主から権能を受けた僕が少なくとも一人地上に置かれます。彼は聖なる神権を保有し、福音を宣べ伝え、福音の儀式を執行する神聖な任務を果たします。現在、わたしたちは最後の神権時代、すなわち、ジョセフ・スミスに福音が啓示されたときに始まった時満ちる神権時代に生きています。

それ以前には、アダム、エノク、ノア、アブラハム、モーセ、イエス・キリストの神権時代がありました。さらに、ニーファイ人やヤレド人の間にあった神権時代など、その他にも神権時代がありました。どの神権時代にも、救いの計画とイエス・キリストの福音が啓示され、教えられました。

背教

人々が福音の原則から離れ、神権の鍵がないときの状態を背教と呼びます。

世界の歴史を通じて、社会全体が背教する時代が何度もありました。その一例は、救い主が御自分の教会を設けられた後に起きた大背教です（2 テサロニケ 2：1 - 3 参照）。救い主の使徒たちの死後、福音の原則はゆがめられ、権能のないまま教会の組織と神権の儀式が変えられました。この邪悪な行いが広まったために、主は地上から神権の権能と鍵を取り去ってしまわれました。

大背教の間、人々には生ける預言者からの神聖な導きがありませんでした。多くの教会が設立されましたが、どの教会にも権能がなく、聖霊の賜物を授けることや、その他の神権の儀式を執行することができま

せんでした。聖書の一部が改悪されたり失われたりして、人々はもはや神について正しく理解することができなくなっていました。

この背教は、天の御父と愛する御子がジョセフ・スミスに御姿を現し、完全な福音を回復されるまで続きました。

回復

回復とは、神が地上の神の子供たちの間に福音の真理と儀式を再び確立されたことを指します（使徒 3：19 - 21 参照）。

回復に備え、主は宗教改革と呼ばれる時代に、高潔な人々をお立てになりました。彼らは宗教上の教義や慣行、組織を、救い主が確立された方法に戻そうと試みました。しかし、彼らには神権も完全な福音もありませんでした。

回復は、父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現された、1820年に始まりました（ジョセフ・スミス－歴史 1：15 - 20 参照）。回復の主な出来事として、モルモン書の翻訳、アロン神権とメルキゼデク神権の回復、1830年4月6日の教会の組織などが挙げられます。

アロン神権は、1829年5月15日、バプテスマのヨハネにより、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復されました。また、メルキゼデク神権と王国の鍵も1829年に、使徒であるペテロ、ヤコブ、ヨハネによりジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復されました。

完全な福音が回復され、末日聖徒イエス・キリスト教会は「全地の面における唯一まことの生ける教会」となりました（教義と聖約 1：30）。この教会はついに全世界に満ち、永遠に続きます。

関連参照聖句－イザヤ 29：13 - 14；エゼキエル 37：15 - 17；エペソ 4：11 - 14；ヤコブの手紙 1：5 - 6

5. 預言者と啓示

預言者は、神に代わって語るために神から召された人です（アモス 3：7 参照）。預言者はイエス・キリストについて証し、イエス・キリストの福音を教えます。神の御心と神の真の属性について知らせます。罪を非難し、罪の結果を警告します。時には、将来の出来事を預言します（教義と聖約 1：37 - 38 参照）。聖典には預言者の多くの教えが記されています。わたしたちは預言者の言葉を研究するとき、真理を学び、導きを受けることができます（2 ニーファイ 32：3 参照）。

わたしたちは教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として、また教会全体を導くために啓示を受ける地上で唯一の人として支持しています。また、大管長会の顧問と十二使徒定員会会員も、預言者、聖見者、啓示者として支持しています。

啓示とは、神がその子供たちに御心を伝えられることです。主は教会に御心を啓示されるとき、主の預言者を通して語られます。聖典、すなわち聖書とモルモン書、教義と聖約、高価な真珠には、古代と末日の預言者たちを通して与えられた啓示が記されています。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は、今日の地上における神の預言者です。

人は個人的に、特別に必要な事柄、責任、また疑問について助けとなる啓示と、証を強めるのに助けとなる啓示を受けることができます。指導者と教会員に与えられる啓示のほとんどは、聖霊からの印象や思いとして与えられます。聖霊は静かな細い声でわたしたちの思いと心に語りかけられます（教義と聖約 8：2 - 3 参照）。また啓示は、示現、夢、天使の訪れによって与えられることもあります。

関連参照聖句－詩篇 119：105；エペソ 4：11 - 14；2 テモテ 3：15 - 17；ヤコブの手紙 1：5 - 6；モロナイ 10：4 - 5

6. 神権と神権の鍵

神権は、神の永遠の力と権能です。神権によって神は天地を創造し、統治しておられます。この力によって、神は「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」（モーセ 1：39）のために、神の子供たちを贖い、昇栄させられます。

神の子供たちの救いのために、神の御名によって行動できるように、神は神権の権能を教会のふさわしい男性にお与えになります。神権の鍵は長の職に伴う権利、すなわち地上における神の王国を管理し指導するために神から人に授けられる力です（マタイ 16：15 - 19 参照）。これらの鍵によって、神権者は福音を宣べ伝え、救いの儀式を執行する権限を与えられます。教会で奉仕する人は皆、神権の鍵を持っている人の指示により召されます。したがって、彼らは、奉仕し、召しに伴う責任を果たすために必要な権限を行使する資格があると認められます。

関連参照聖句－教義と聖約 121：36, 41 - 42

アロン神権

アロン神権は、しばしば備えの神権と呼ばれます。アロン神権には、執事、教師、祭司、ビショップの職があります。今日の教会では、ふさわしい男性会員は、12歳でアロン神権を受けることができます。

アロン神権は、「天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、……バプテスマの鍵を持〔ち〕ます（教義と聖約 13：1）。

メルキゼデク神権

メルキゼデク神権は、より位の高い、より偉大な神権であり、霊的な事柄をつかさどります（教義と聖約 107：8 参照）。この大神権はアダムに授けられ、主が福音を明らかにされたときにはいつでも地上にありました。

この神権は最初、「神の御子の位に従う聖なる神権」と呼ばれていました（教義と聖約 107：3）。しかし後に、預言者アブラハムの時代に生きていた偉大な大祭司の名を取って、メルキゼデク神権として知られるようになりました。

メルキゼデク神権には、長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒の職があります。メルキゼデク神権の長は教会の大管長です。

関連参照聖句—エペソ 4：11－14

7. 儀式と聖約

儀式

末日聖徒イエス・キリスト教会において、儀式は霊的な意味を持つ、神聖で正式な行為です。それぞれの儀式は、霊的な真理を教えるために神が定められたものです。救いの儀式は、神権の鍵を持つ者の指示の下で、神権の権能によって執行されます。幾つかの儀式は昇栄に不可欠であるため、救いの儀式と呼ばれています。

福音における最初の救いの儀式は、権能を持つ者によって水に沈められるバプテスマです。バプテスマは、人が教会の会員となり、また日の栄えの王国に入るために必要です（ヨハネ 3：5 参照）。

「バプテスマ」という言葉は、浸す、または沈めるという意味のギリシャ語に由来します。水に沈めることは、人が罪のある生活に終止符を打ち、霊的に生まれ変わって神と神の子供たちへの奉仕に献身しながら生活することを象徴しています。また、それは死と復活の象徴でもあります。

人がバプテスマを受けると、一人または複数のメルキゼデク神権者がその人の頭の上に手を置き、教会の会員として確認します。確認の儀式と呼ばれるこの儀式の中で、その人に聖霊の賜物が授けられます。

聖霊の賜物は聖霊の影響力とは異なり、人はバプテスマを受ける前に、時折聖霊の影響力を感じることがあります。そして、その影響力を通して真理についての証を得ることができます（モロナイ 10：4－5 参照）。聖霊の賜物を受けた人には、戒めを守るかぎり聖霊を常に伴侶とすることができる権利が与えられます。

その他の救いの儀式として、メルキゼデク神権への聖任（男性の場合）、神殿のエンダウメント、結婚の結び固めなどがあります（教義と聖約 131：1－4 参照）。全ての神権の救いの儀式には聖約が伴います。神殿では、これらの救いの儀式を死者のためにも代理で執行することができます。代理の儀式は、その死者が霊界でその儀式を受け入れ、関連した聖約を尊ぶときにのみ有効となります。

その他に、病人への癒やしの祝福、子供の命名と祝福など、わたしたちの霊的な進歩にとって重要な儀式があります。

関連参照聖句—使徒 2：36－38

聖約

聖約とは、神と人との間で交わされる神聖な合意です。神は聖約に伴う条件を定め、わたしたちは神から求められることを行うと同意します。その後には神は、わたしたちの従順さに応じて祝福を与えると約束されます（教義と聖約 82：10 参照）。

全ての神権の救いの儀式には聖約が伴います。わたしたちはバプテスマのときに主と聖約を交わし、聖餐を受けるときにその聖約を更新します。メルキゼデク神権を受ける兄弟たちは、神権の誓詞と聖約を交わします。わたしたちは神殿でさらなる聖約を交わします。

関連参照聖句—出エジプト 19：5－6；詩篇 24：3－4；2 ニーフアイ 31：19－20；教義と聖約 25：13

8. 結婚と家族

男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の救いの計画とわたしたちの幸福の中心を成すものです。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されることでしょ。

生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。両親は、子供をもうけ、地を満たし、愛と義をもって子供たちを育て、子供たちの物質的にも霊的にも必要なものを与えなければなりません。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うという厳粛な責任を負っています。父親は愛と

義をもって自分の家族を管理し、生活必需品を提供しなければなりません。母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。

神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしています。地球が創造され、福音が啓示されたのは、家族が組織され、結び固められ、永遠に昇栄できるようにするためです。（出典—「家族—世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129；LDS.org/topics/family-proclamationも参照）

関連参照聖句—創世 2：24；詩篇 127：3；マラキ 4：5－6；教義と聖約 131：1－4

9. 戒め

戒めとは、神が人類に与えられる律法と要求です。わたしたちは神の戒めを守ることにより、神を愛していることを証明します（ヨハネ 14：15 参照）。戒めを守れば、主から祝福がもたらされます（教義と聖約 82：10 参照）。

最も基本的な二つの戒めは、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」と「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」です（マタイ 22：36－39）。

十戒は、福音においてきわめて重要であり、昇栄するために必要な永遠の原則です（出エジプト 20：3－17 参照）。主は古代においてモーセに十戒を啓示され、末日の啓示の中で再び十戒について述べておられます。

他にも、毎日祈ること（2 ニーフアイ 32：8－9 参照）、他の人々に福音を教えること（マタイ 28：19－20 参照）、純潔の律法を守ること（教義と聖約 46：33 参照）、什分の一を完全に納めること（マラキ 3：8－10 参照）、断食すること（イザヤ 58：6－7 参照）、他の人々を赦すこと（教義と聖約 64：9－11 参照）、感謝の念を持つこと（教義と聖約 78：19 参照）、知恵の言葉を守ること（教義と聖約 89：18－21 参照）などの戒めがあります。

関連参照聖句—創世 39：9；イザヤ 58：13－14；1 ニーフアイ 3：7；モーサヤ 4：30；アルマ 37：35；アルマ 39：9；教義と聖約 18：15－16；教義と聖約 88：124

以上のテーマの詳細については、LDS.orgの「教え」の部の「福音のテーマ」の項、または『真理を守る—福音の参考資料』を参照してください。

対観させて福音書を教える

この手引きを、構成されているとおりに使用して、配列順に四福音書を教えることが推奨されていますが、新約聖書の福音書は「対観」させて教えることもできます。これは、救い主の生涯における出来事を、各福音書からの題材と組み合わせて、時系列で教えることを意味します。対観させて福音書を教えることに関する情報および参考資料については、LDS.org（モバイルデバイスの場合は福音ライブラリー）にある、この手引きのデジタル版の付録を参照してください。



イエス・キリストの教導の業 早見表

ガリラヤ

カペナウム・

・ナザレ

サマリヤ

・サマリヤ

ペレヤ

ユダヤ

・エルサレム

・ベツレヘム



弟子を召される



王国のたとえを
教えらる



水をぶどう酒に変えられる



十二使徒を聖任される



海を静められる



ガリラヤ全土で教え、
癒される



山上の垂訓



長血を患っていた女性
を癒やされる



ナザレで拒絶される



百卒長の僕を癒やされる



ヤイロの娘を
よみがえらせられる



いどのそばで
女を教えらる



悪魔に誘惑される



エルサレムで
過越を祝われる



ベテスダの池で
男を癒やされる



最初の宮清め



バプテスマ



4,000人以上に
食べさせられる



七十人を召して
送り出される



命のパンの教え



ベテロに王国の
麗を約束される



水の上を歩かれる



変貌の山



5,000人以上に
食べさせられる



サマリア人によって
拒絶される



蕞渚で捕まえられた女性を
非難することを断られる



重い皮膚病にかかった
10人の人を癒やされる



ザアカイに会われる



良いサマリア人のたとえを
教えられる



王国のたとえを
教えられる



金持ちの若い
役人を招かれる



マルタとマリヤの家を
訪られる



ラザロをよみがえ
らせる



勝利の入城と
最後の1週間

新約聖書にまつわる厳選された画像



いちじくの木 (マタイ 21 : 18 - 22 参照)
© Jose Ramiro Laguna/Shutterstock.com



マリヤとエリサベツ（ルカ 1 章参照）



ピラトはイエスが無罪であることを認める（ヨハネ 18 - 19 章参照）



イエス・キリストは、忠実に従う者を見守り、養ってくださる（黙示1：12 - 16 参照）



女と龍についてのヨハネの示現（黙示 12 章参照）



宗教教育
セミナー・インスティテュート

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE



4 02123 39300 5

12339 300